独立行政法人国立文化財機構年報

令和３年度

独立行政法人
国立文化財機構

令和３年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入

金剛力士立像

泰西騎士像

女神像

千仏図

寄　　贈

重要美術品
道済集巻十九断簡

鳥獣戯画模本

有職雛飾り

鞆形埴輪残欠

桃李園図軸

山水蒔絵硯箱

令和３年度

新収品図版 〔京都国立博物館〕

購　　入

太刀　銘（菊紋）和泉守来金道
／遥奉　鈞命享保庚戌年於京師二柄ヲ打一柄ハ献シ一柄ハ則是也

重要美術品　住吉真景図巻　岡田半江筆

重要美術品　北野本地絵巻断簡

褐釉四方茶入　野々村仁清作

白平絹地銀胴箔に草花描絵団扇形散らし文様摺箔

寄　　贈

吹上香合　永樂保全作

古染付写水辺人物図向付　永樂保全作

銅造薬師如来坐像

令和３年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

編　　入

東大寺大仏蓮弁線刻図模本　宮原柳僊筆　　一幅

令和３年度

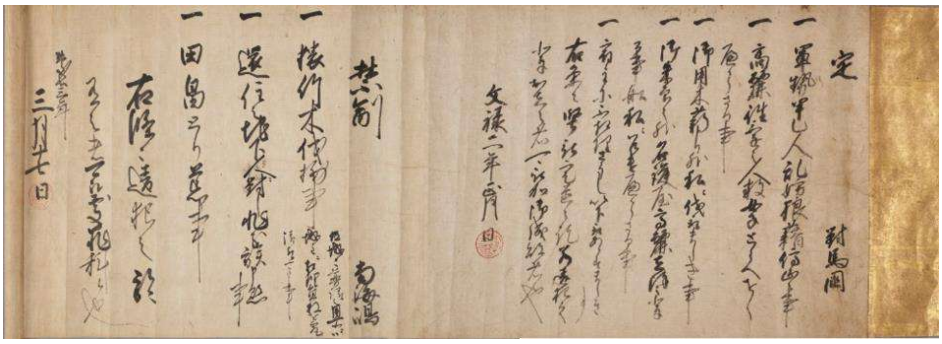
新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　　入

紫陽花文鳥図

装飾法華経薬王品断簡

土偶



豊臣秀吉定書　対馬国宛及び禁制　南海嶋宛

獅噛環頭柄頭・柄頭筒金具

紫紋縮緬地松藤笹に流水文様繍小袖

重要美術品　六器

寄　　贈

青瓷彫文壺

長頸壺

提梁壺

クリス

令和３年度　年報　目次

令和３年度新収品図版

Ⅰ　令和３年度自己点検評価報告書　評定状況・・・ 1
　令和３年度中止した事業一覧・・・ 11
Ⅱ　令和３年度自己点検評価報告書　個別表・・・ 13
　ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
　　１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
　　（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承
　　　①有形文化財の収集等
　　　　1)有形文化財の収集2)寄贈・寄託品の受入れ等・・ 18
　　　②有形文化財の管理・保存・修理等
　　　　1)有形文化財の管理・・ 22
　　　　2)有形文化財の保存・・ 26
　　　　3)有形文化財の修理・・ 30
　　　　4)文化財修理施設等の運営・・ 34
　　（２）展覧事業
　　　①平常展
　　　　1)平常展(満足度調査)・・・ 37
　　　　2)平常展(来館者数等)・・・ 38
　　　②特別展等
　　　　1)特別展・・ 42
　　　③観覧環境の向上等
　　　　1)快適な観覧環境の提供・・ 68
　　　　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等・・ 72
　　（３）教育・普及活動
　　　①教育活動の充実等
　　　　1)学習機会の提供・・ 76
　　　　2)ボランティア活動の支援・・・ 82
　　　　3)大学との連携事業等の実施・・・ 86
　　　　4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
　　　　5)博物館支援者増加への取組・・ 94
　　　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
　　　　1)有形文化財に関する情報の発信2)資料の収集と公開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
　　　　3)広報活動の充実・・ 102
　　（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
　　　外部資金を活用した調査研究・・ 110
　　　①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
　　　②その他有形文化財に関連する調査研究・・ 166
　　　③国内外の博物館等との学術交流等・・・ 180
　　　④調査研究成果の公表・・・ 184
　　（５）国内外の博物館活動への寄与
　　　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与・・・ 188
　　　②国内外の博物館等への援助・助言等・・ 192
　　（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組
　　　①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 196
　　　②国立博物館の収蔵品の貸与の促進・・・ 197
　　　③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
　　　④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 199
　　２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

調査研究の評価軸及び評価指標等・・・ 200
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究・・・ 211
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究・・ 212
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究
1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・ 213
2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等・・・ 215
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究
1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究・・・ 216
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究・・ 218
3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究・・・ 229
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究・・・ 230
5)水中文化遺産に関する調査研究・・ 233
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発・・ 234
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発・・ 235
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発・・・ 237
5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発・・・・・・・・ 238
6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究・・・ 241
3)文化財の材質・構造・保存状態に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 242
4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究・・・ 243
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究・・・ 244
6)文化財の修復技術に関する調査研究・・・ 245
7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究・・・ 246
8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 248
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
（３）文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信・・・ 253
2)文化遺産保護協力事業の推進・・ 256
3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等・・・ 259
4)海外に所在する日本古美術等の保存に関する協力・・・ 261
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 262
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
①文化財情報基盤の整備・充実・・・ 263
②調査研究成果の発信・・・ 268
③展示公開施設の充実・・・ 271
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
①文化財に関する研修の実施・・・ 273
②文化財に関する協力・助言等・・・ 275
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 288
④連携大学院教育の推進・・・ 293
（６）文化財防災に関する取組
①地域防災体制の構築・・・ 295
②災害時ガイドライン等の整備・・・ 296
③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発・・・ 297
④文化財防災を促進するための普及啓発・・・ 298
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用・・・ 299
【受託研究】・・ 300

ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．業務改善の取組
（1）組織体制の見直し（2）人件費管理等の適正化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 351
（3）契約・調達方法の適正化（4）共同調達等の取組の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 352
（5）一般管理費等の削減
① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 353
② 計画的なアウトソーシング③使用資源の減少・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 354
2．業務の電子化・・ 355
3．予算執行の効率化・・・ 356

ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．自己収入拡大への取組
（1）「新しい生活様式」を踏まえた展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保・・・・・・・・・・・・・・ 357
（2）自己収入拡大への取組・・ 358
（3）外部資金の獲得・・・ 359
（4）保有資産の有効利用の推進・・・ 360
2．固定的経費の節減 ・・・ (p. 353～354と同じ)
3．決算情報・セグメント情報の充実等・・ 366

ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
1．予算（中期計画の予算） 2．収支計画 3．資金計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 367

ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．内部統制・・・ 368
2．その他
（1）自己評価・・・ 369
（2）情報セキュリティ対策・・・ 370
3．施設設備に関する計画・・・ 371
4．人事に関する計画
（1）中長期的な人事計画の策定・・ 372
（2）評価制度の導入・・ 372
（3）能力や適性に応じた採用・人事の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 373
（4）女性の活躍の推進・・ 373
（5）職員のキャリアパス形成のための研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 373
（6）働き方改革関連法に応じた取組の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 373

Ⅲ　施設概要・・ 374

Ⅳ　財務諸表
1．令和3年度財務諸表・・・ 378
2．令和3年度決算報告書・・・ 404
3．令和3年度事業報告書・・・ 406

Ⅴ　評価
1．独立行政法人国立文化財機構の令和3年度における業務の実績に関する評価・・・・・・・・・・・・・・・ 442
2．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価
外部評価委員会報告書・・ 496

Ⅵ　日誌
1．法人全体及び7施設共通事項・・ 518
2．文化財活用センター・・・ 519
3．文化財防災センター/文化財防災センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 521
4．東京国立博物館・・・ 522
5．京都国立博物館・・・ 524
6．奈良国立博物館・・・ 526

７.九州国立博物館・・ 529
８.東京文化財研究所・・・ 532
９.奈良文化財研究所・・・ 533
10.アジア太平洋無形文化遺産研究センター・・・ 535

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿
運営委員･評議員･外部評価委員名簿・・ 536
独立行政法人国立文化財機構組織図・・ 543
独立行政法人国立文化財機構役職員名簿・・・ 550

附属資料 ：３年度自己点検評価報告書 統計表

Ⅰ　令和３年度　自己点検評価報告書　評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

令和3年度自己点検評価報告書　評定状況

	3年度	3年中期	2年度	2年中期
S評定	2	0	0	1
A評定	47	34	49	46
B評定	247	233	271	264
C評定	0	0	0	0
D評定	0	0	0	0

全事業件数　296

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　年度:B評定　中期:B評定 S評定 0 0 / A評定 1 0 / B評定 18 19 / C評定 0 0 事業件数　19						
①有形文化財の収集等			B	B		
1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等	1111A	東博	B	B	18	
	1111B	京博	B	B	19	
	1111C	奈良博	B	B	20	
	1111D	九博	B	B	21	
②有形文化財の管理・保存・修理等			B	B		
1)有形文化財の管理	1121A	東博	B	B	22	
	1121B	京博	B	B	23	
	1121C	奈良博	B	B	24	
	1121D	九博	A	B	25	
2)有形文化財の保存	1122A	東博	B	B	26	
	1122B	京博	B	B	27	
	1122C	奈良博	B	B	28	
	1122D	九博	B	B	29	
3)有形文化財の修理	1123A	東博	B	B	30	
	1123B	京博	B	B	31	
	1123C	奈良博	B	B	32	
	1123D	九博	B	B	33	
4)文化財修理施設等の運営	1124B	京博	B	B	34	
	1124C	奈良博	B	B	35	
	1124D	九博	B	B	36	
(2)展覧事業　年度:B評定　中期:B評定 S評定 2 0 / A評定 10 0 / B評定 27 17 / C評定 0 0 事業件数　39						
① 平常展			B	B		
1)平常展（満足度調査）	1211ABCD	4館	B	B	37	
2)平常展（来館者数等）	1212A	東博	B	B	38	
	1212B	京博	B	B	39	
	1212C	奈良博	B	B	40	
	1212D	九博	B	B	41	
② 特別展等			A	B		
1)特別展（満足度調査）	1220A	東博	A	B	42	
	1220B	京博	B	B	43	
	1220C	奈良博	B	B	44	
	1220D	九博	B	B	45	
ア　特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	1221Aア	東博	S	ー	46	
イ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	1221Aイ	東博	B	ー	47	
ウ　マレーシア・イスラーム美術館精選　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」	1221Aウ	東博	A	ー	48	
エ　聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」	1221Aエ	東博	A	ー	49	
カ　東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念　特別企画「スポーツ NIPPON」	1221Aカ	東博	B	ー	50	
キ　春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46	1221Aキ	東博	A	ー	51	
ク　伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」	1221Aク	東博	A	ー	52	
ケ　特別企画「手わざ―琉球王国の文化」	1221Aケ	東博	B	ー	53	
コ　特別展「ポンペイ」	1221Aコ	東博	S	ー	54	
サ　ユネスコ無形文化遺産特別展「体感！日本の芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」	1221Aサ	東博	B	ー	55	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
ア 凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	1221Bｱ	京博	B	ー	56	
イ 特別展「京（みやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」	1221Bｲ	京博	A	ー	57	
ウ 特別展「畠山記念館の名品ー能楽から茶の湯、そして琳派ー」	1221Bｳ	京博	B	ー	58	
ア 聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	1221Cｱ	奈良博	A	ー	59	
イ 特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」	1221Cｲ	奈良博	A	ー	60	
ウ 特別展「第73回 正倉院展」	1221Cｳ	奈良博	A	ー	61	
エ 特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	1221Cｴ	奈良博	A	ー	62	
オ 「名画の殿堂　藤田美術館展ー傳三郎のまなざしー」	1221Cｵ	奈良博	B	ー	63	
ア 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物ー再現模造にみる天平の技ー」	1221Dｱ	九博	B	ー	64	
イ 特別展「皇室の名宝ー皇室と九州をむすぶ美ー」	1221Dｲ	九博	B	ー	65	
ウ 特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー」	1221Dｳ	九博	B	ー	66	
エ 伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」	1221Dｴ	九博	B	ー	67	
③観覧環境の向上等			B	B		
1)快適な観覧環境の提供	1231A	東博	B	B	68	
	1231B	京博	B	B	69	
	1231C	奈良博	B	B	70	
	1231D	九博	B	B	71	
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	1232A	東博	B	B	72	
	1232B	京博	B	B	73	
	1232C	奈良博	B	B	74	
	1232D	九博	B	B	75	
(3) 教育・普及活動　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	0	0		
事業件数 32		B評定	32	32		
①教育活動の充実等			B	B		
1)学習機会の提供	1311A1	東博	B	B	76	
	1311A2	東博	B	B	77	
	1311B	京博	B	B	78	
	1311C	奈良博	B	B	79	
	1311D1	九博	B	B	80	
	1311D2	九博	B	B	81	
2)ボランティア活動の支援	1312A	東博	B	B	82	
	1312B	京博	B	B	83	
	1312C	奈良博	B	B	84	
	1312D	九博	B	B	85	
3)大学との連携事業等の実施	1313A	東博	B	B	86	
	1313B	京博	B	B	87	
	1313C	奈良博	B	B	88	
	1313D	九博	B	B	89	
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	1314A	東博	B	B	90	
	1314B	京博	B	B	91	
	1314C	奈良博	B	B	92	
	1314D	九博	B	B	93	
5)博物館支援者増加への取組	1315A	東博	B	B	94	
	1315B	京博	B	B	95	
	1315C	奈良博	B	B	96	
	1315D	九博	B	B	97	
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実			B	B		
1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開	1321A	東博	B	B	98	
	1321B	京博	B	B	99	
	1321C	奈良博	B	B	100	
	1321D	九博	B	B	101	
3)広報活動の充実	1323H	本部	B	B	102	
	1323A	東博	B	B	103	
	1323B	京博	B	B	105	
	1323C	奈良博	B	B	106	
	1323D1	九博	B	B	108	
	1323D2	九博	B	B	109	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁	備考
			年度	中期		
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	4	4		
		B評定	74	74		
事業件数	78	C評定	0	0		
外部資金を活用した調査研究	1400ABCD	4館	B	B	110	
①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究			B	B		
1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究						
ア a.特別調査(「法隆寺献納宝物」(第42次))	1411Aｱ-1	東博	B	B	111	
ア e.特別調査(「絵画」第6回)	1411Aｱ-5	東博	B	B	112	
ウ 収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	1411Aｳ	東博	B	B	113	
エ 仏教美術等の光学的手法による共同研究	1411Aｴ	東博	B	B	114	
オ 美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	1411Aｵ	東博	B	B	115	
カ 東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	1411Aｶ	東博	B	B	116	
キ 特集「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」に関連する調査研究	1411Aｷ-1	東博	B	B	117	
キ 特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究	1411Aｷ-2	東博	B	B	118	
キ 特集「平安時代の名筆―高木聖鶴氏旧蔵品より―」に関連する調査研究	1411Aｷ-3	東博	B	B	119	
キ 特集「瓦が語る東大寺の歴史」に関連する調査研究	1411Aｷ-4	東博	B	B	120	
キ 特集「浅草寺のみほとけ」に関連する調査研究	1411Aｷ-5	東博	B	B	121	
キ 特集「江戸時代にもたらされた中国書画」に関連する調査研究	1411Aｷ-6	東博	B	B	122	
キ 特集「没後700年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―」に関連する調査研究	1411Aｷ-7	東博	B	B	123	
キ 特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」に関連する調査研究	1411Aｷ-8	東博	B	B	124	
ク 館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	1411Aｸ	東博	B	B	125	
ア 近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	1411Bｱ	京博	B	B	126	
イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究	1411Bｲ	京博	B	B	127	
ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究	1411Bｳ	京博	B	B	128	
エ 京都周辺の考古遺物に関する調査研究	1411Bｴ	京博	B	B	129	
オ 特集展示・特別企画に関する調査研究	1411Bｵ	京博	B	B	130	
ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	1411Cｱ	奈良博	B	B	131	
イ 古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	1411Cｲ	奈良博	B	B	132	
ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査	1411Cｳ	奈良博	B	B	133	
エ 墳墓出土品の調査研究	1411Cｴ	奈良博	B	B	134	
オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	1411Cｵ	奈良博	B	B	135	
カ 東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	1411Cｶ	奈良博	B	B	136	
キ 特集陳列「お水取り」に関する調査研究	1411Cｷ	奈良博	B	B	137	
ア X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	1411Dｱ	九博	B	B	138	
イ 近世キリスト教に関する研究	1411Dｲ	九博	B	B	139	
ウ 特集展示「きゅーはく女子考古部的　かわいい考古学のススメ」に関連する調査研究	1411Dｳ	九博	B	B	140	
エ 水中遺跡の保存活用に関する調査研究	1411Dｴ	九博	A	A	141	
2)特別展等の開催に伴う調査研究						
ア 聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究	1412Aｱ-1	東博	B	B	142	
ア 特別企画「東アジアのうるしの世界」に関連する調査研究	1412Aｱ-2	東博	B	B	143	
ア 特別展「国宝　聖林寺十一面観音　－三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究	1412Aｱ-3	東博	B	B	144	
ア マレーシア・イスラーム美術館精選　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究	1412Aｱ-4	東博	B	B	145	
ア 特別展「京の国宝－守り伝える日本のたから－」に関する調査研究	1412Bｱ	京博	A	A	146	
イ 特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」に関する調査研究	1412Bｲ	京博	B	B	147	
ウ 特別展「伝教大師 1200 年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて」に関する調査研究	1412Bｳ	京博	B	B	148	
ア 特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」に関する調査研究	1412Cｱ	奈良博	B	B	149	
イ 第73回「正倉院展」に関する調査研究	1412Cｲ	奈良博	B	B	150	
ウ 特別展「名画の殿堂　藤田美術館」に関する調査研究	1412Cｳ	奈良博	B	B	151	
エ 特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究	1412Cｴ	奈良博	B	B	152	
ア 開館15周年記念特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景」に関連する調査研究	1412Dｱ	九博	B	B	153	
イ 特別展「北斎」に関連する調査研究	1412Dｲ	九博	B	B	154	
3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究						
ア レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Hｱ	活用ｾﾝﾀｰ	B	B	155	
ア 博物館環境デザインに関する調査研究	1413Aｱ	東博	B	B	156	
イ 博物館教育に関する調査研究	1413Aｲ	東博	B	B	157	
ウ 凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	1413Aｳ	東博	B	B	158	
エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	1413Aｴ	東博	B	B	159	
オ レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Aｵ	東博	B	B	160	
カ 博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	1413Aｶ	東博	B	B	161	
ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究	1413Bｱ	京博	B	B	162	
ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	1413Cｱ	奈良博	B	B	163	

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
ア 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413Dア	九博	B	B	164	
イ 文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究	1413Dイ	九博	B	B	165	
②その他有形文化財に関連する調査研究			B	B		
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究						
ア 博物館の環境保存に関する調査研究	1421Aア	東博	B	B	166	
ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	1421Bア	京博	B	B	167	
イ 文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	1421Bイ	京博	B	B	168	
ウ 社寺等における保存環境に関する調査研究	1421Bウ	京博	B	B	169	
ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究	1421Cア	奈良博	B	B	170	
イ 文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cイ	奈良博	B	B	171	
ウ 保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cウ	奈良博	B	B	172	
ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究	1421Dア	九博	B	B	173	
イ 博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	1421Dイ	九博	B	B	174	
ウ 博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	1421Dウ	九博	B	B	175	
エ 展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	1421Dエ	九博	B	B	176	
2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究						
ア 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	1422Aア	東博	B	B	177	
イ 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	1422Aイ	東博	B	B	178	
ア データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	1422Bア	京博	B	B	179	
③国内外の博物館等との学術交流等			B	B		
	1430A	東博	B	B	180	
	1430B	京博	A	A	181	
	1430C	奈良博	B	B	182	
	1430D	九博	B	B	183	
④調査研究成果の公表			B	B		
	1440A	東博	B	B	184	
	1440B	京博	A	A	185	
	1440C	奈良博	B	B	186	
	1440D	九博	B	B	187	
(5) 国内外の博物館活動への寄与　年度:A評定　中期:A評定		**S評定**	**0**	**0**		
		A評定	**2**	**2**		
事業件数 8		**B評定**	**6**	**6**		
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与			A	A		
	1510A	東博	B	B	188	
	1510B	京博	B	B	189	
	1510C	奈良博	A	A	190	
	1510D	九博	A	A	191	
②国内外の博物館等への援助・助言等			B	B		
	1520A	東博	B	B	192	
	1520B	京博	B	B	193	
	1520C	奈良博	B	B	194	
	1520D	九博	B	B	195	
(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組　年度:B評定　中期:B評定		**S評定**	**0**	**0**		
		A評定	**0**	**0**		
事業件数 4		**B評定**	**4**	**4**		
①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進	1610H	活用センター	B	B	196	
②国立博物館の収蔵品の貸与の促進	1620H	活用センター	B	B	197	
③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信	1630H	活用センター	B	B	198	
④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成	1640H	活用センター	B	B	199	
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施						
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　年度:B評定　中期:B評定		**A評定**	**11**	**11**		
事業件数 27		**B評定**	**16**	**16**		
① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究			B	B		
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究						
文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	2111Eア	東文研	B	B	207	
日本東洋美術史の資料学的研究	2111Eイ	東文研	B	B	208	
近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2111Eウ	東文研	A	A	209	
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2111Eエ	東文研	B	B	210	
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究						

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	2112F	奈文研	B	B	211	
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究						
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	2113F	奈文研	B	B	212	
② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究			A	A		
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	2121E	東文研	A	A	213	
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2122E	東文研	A	A	214	
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等						
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2123E	東文研	B	B	215	
③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究			B	B		
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究						
我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	2131Fｱ	奈文研	A	A	216	
我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	2131Fｲ	奈文研	A	A	217	
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究						
平城宮跡東院地区の発掘調査(第633次)	2132Fｱ-1	奈文研	A	A	218	
平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査(第638・639次)	2132Fｱ-2	奈文研	A	A	219	
平城宮・京の発掘調査	2132Fｱ-3	奈文研	B	B	220	
藤原宮大極殿院地区の発掘調査	2132Fｱ-4	奈文研	B	B	221	
日高山瓦窯の地下探査	2132Fｱ-5	奈文研	A	A	222	
飛鳥地域等の発掘調査	2132Fｱ-6	奈文研	B	B	223	
平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	2132Fｲ-1	奈文研	B	B	224	
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	2132Fｲ-2	奈文研	B	B	225	
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	2132Fｳ	奈文研	B	B	226	
中国との共同研究	2132Fｴ-1	奈文研	B	B	227	
韓国との共同研究	2132Fｴ-2	奈文研	B	B	228	
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究						
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	2133F	奈文研	B	B	229	
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究						
全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	2134Fｱ	奈文研	B	B	230	
古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134Fｲ-1	奈文研	A	A	231	
古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134Fｲ-2	奈文研	A	A	232	
5)水中文化遺産に関する調査研究						
水中文化遺産に関する調査研究	2135F	奈文研	A	A	233	
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　年度:A評定　中期:A評定		**A評定**	8	8		
事業件数　19		**B評定**	11	11		
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進			A	A		
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発						
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2211E	東文研	A	A	234	
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発						
埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	2212F	奈文研	B	B	235	
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発						
年輪年代学研究	2213F	奈文研	B	B	236	
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発						
動植物遺存体の分析方法の研究開発	2214F	奈文研	B	B	237	
5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発						
文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	2215F	奈文研	A	A	238	
6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究						
物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	2216F	奈文研	A	A	239	
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究			B	B		
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究						
文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	2221E	東文研	A	A	240	
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究						
文化財の保存環境にかかる調査研究	2222E	東文研	B	B	241	
3)文化財の材質・構造・保存状態に関する研究						
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2223E	東文研	A	A	242	
4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究						
屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	2224E	東文研	B	B	243	
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究						
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2225E	東文研	A	A	244	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
6)文化財の修復技術に関する調査研究						
多様な文化財の保存修復技術に関する研究	2226E	東文研	B	B	245	
7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究						
考古遺物の保存処理法に関する調査研究	2227F	奈文研	B	B	246	
8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究						
遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	2228F	奈文研	B	B	247	
9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究						
考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	2229F	奈文研	B	B	248	
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究						
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230Eア	東文研	B	B	249	
高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	2230Fア	奈文研	A	A	250	
キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	2230Fイ	奈文研	A	A	251	
遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	2230Fウ	奈文研	B	B	252	
(3) 文化遺産保護に関する国際協働　年度:A評定　中期:B評定		**A評定**	2	1		
事業件数　10		**B評定**	8	9		
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進			B	B		
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信						
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311Eア	東文研	A	A	253	
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	2311Fア	奈文研	B	B	254	
文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	2311Fイ	奈文研	B	B	255	
2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進						
アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2312Eアイ	東文研	B	B	256	
文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	2312Eウ	東文研	B	B	257	
アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	2312Fア-ア	奈文研	B	B	258	
3)文化遺産保護に関する人材育成等						
国際研修	2313E	東文研	B	B	259	
ユネスコアジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力	2313Fイ	奈文研	B	B	260	
4)海外に所在する日本美術品等の保存に関する協力						
在外日本古美術品保存修復協力事業	2314E	東文研	B	B	261	
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究			A	B		
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	2320G	IRCI	A	B	262	
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　年度:A評定　中期:A評定		**A評定**	4	4		
事業件数　10		**B評定**	6	6		
① 文化財情報基盤の整備・充実 **1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースの構築** **2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究** **3)調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張** **4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供の充実**			A	A		
文化財情報基盤の整備・充実	2411E	東文研	B	B	263	
文化財に関するデータベースの充実	2411F	奈文研	A	A	264	
文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	2412F	奈文研	A	A	265	
専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2413E	東文研	A	A	266	
図書の収集・整理・公開・提供	2414F	奈文研	B	B	267	
② 調査研究成果の発信 **1)定期刊行物の刊行** **2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等** **3)ウェブサイトの充実**			B	B		
定期刊行物の刊行	2421E	東文研	B	B	268	
定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	2421F	奈文研	B	B	269	
オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	2422E	東文研	B	B	270	
③ 展示公開施設の充実			A	A		
1)特別展・企画展						
平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	2431F	奈文研	A	A	271	
2)平城宮跡解説ボランティア研修						
平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	2432F	奈文研	B	B	272	
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　年度:B評定　中期:B評定		**A評定**	2	2		
事業件数　22		**B評定**	20	20		
①文化財に関する研修の実施 **1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施** **2)研修体系の整理及び研修受講生及び派遣元自治体へのアンケート調査**			B	B		
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2511E	東文研	B	B	273	
文化財担当者研修	2512F	奈文研	B	B	274	
②文化財に関する協力・助言等			B	B		
1)地方公共団体等への文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等						

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
文化財の収集、保管に関する指導助言	2521E-1	東文研	B	B	275	
無形文化遺産に関する助言	2521E-2	東文研	B	B	276	
文化財の虫菌害に関する調査・助言	2521E-3	東文研	B	B	277	
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2521E-4	東文研	B	B	278	
文化財の材質・構造に関する調査・助言	2521E-5	東文研	B	B	279	
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2521E-6	東文研	B	B	280	
文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	2521H-7	活用ｾﾝﾀｰ	B	B	281	
地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	2521F-1	奈文研	B	B	282	
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	2521F-2	奈文研	B	B	283	
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	2521F-3	奈文研	B	B	284	
2)他機関等との共同研究及び受託研究						
他機関等との共同研究及び受託研究	2522E	東文研	B	B	285	
他機関等との共同研究及び受託研究	2522F	奈文研	A	A	286	
3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴う、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力						
地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	2523F	奈文研	B	B	287	
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力			B	B		
1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力						
文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	2531F-1	奈文研	B	B	288	
国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	2531F-2	奈文研	B	B	289	
国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	2531F-3	奈文研	B	B	290	
文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	2531F-4	奈文研	A	A	291	
2)NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力						
NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	2532F	奈文研	B	B	292	
④連携大学院教育の推進			B	B		
1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進						
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2541E	東文研	B	B	293	
京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	2541F	奈文研	B	B	294	
(6) 文化財防災に関する取組　年度:B評定　中期:B評定		**S評定**	**0**	**0**		
		A評定	**2**	**2**		
事業件数	**5**	**B評定**	**3**	**3**		
①地域防災体制の構築	2610	防災	B	B	295	
②災害時ガイドライン等の整備	2620	防災	A	A	296	
③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発	2630	防災	A	A	297	
④文化財防災を促進するための普及啓発	2640	防災	B	B	298	
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用	2650	防災	B	B	299	
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		**A評定**	**1**	**0**		
事業件数	**6**	**B評定**	**5**	**6**		
1.業務改善の取組　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 組織体制の見直し	6110	本部	B	B	351	
(2) 人件費管理の適正化						
(3) 契約・調達方法の適正化	6120	法人全体	B	B	352	
(4) 共同調達等の取組の推進						
(5) 一般管理費等の削減						
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化	6151	本部	A	B	353	
②計画的なアウトソーシング	6152	法人全体	B	B	354	
③使用資源の減少						
2.業務の電子化　年度:B評定　中期:B評定						
業務の電子化	6200	本部	B	B	355	
3.予算執行の効率化　年度:B評定　中期:B評定						
予算執行の効率化	6300	本部	B	B	356	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		**A評定**	**0**	**0**		
事業件数	**17**	**B評定**	**17**	**17**		
1.自己収入拡大への取組　年度:B評定　中期:B評定						
(1)「新しい生活様式」を踏まえた展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保	7110	法人全体	B	B	357	
(2)自己収入拡大への取組	7120	法人全体	B	B	358	
(3)外部資金の獲得	7130	法人全体	B	B	359	
(4) 保有資産の有効利用の促進	7140A	東博	B	B	360	
	7140B	京博	B	B	361	
	7140C	奈良博	B	B	362	
	7140D	九博	B	B	363	
	7140E	東文研	B	B	364	
	7140F	奈文研	B	B	365	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁	備考
			年度	中期		
2.固定的経費の節減　　年度:B評定　中期:B評定						
（Ⅱ　1.（5） と同じ）						
3.決算情報・セグメント情報の充実等　　年度:B評定　中期:B評定						
決算情報・セグメント情報の充実等	7300	本部	B	B	366	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画						
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画　　年度:B評定　中期:B評定						
予算、収支計画、資金計画	8000	本部	B	B	367	
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.内部統制　　年度:B評定　中期:B評定						
内部統制	9100	本部	B	B	368	
2.その他　　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 自己評価	9210	本部	B	B	369	
(2) 情報セキュリティ対策	9220	本部	B	B	370	
3.施設設備に関する計画　　年度:B評定　中期:B評定						
施設設備に関する計画	9300	本部	B	B	371	
4.人事に関する計画　　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 中長期的な人事計画の策定	9410	本部	B	B	372	
(2) 評価制度の導入						
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施	9420	本部	B	B	373	
(4) 女性の活躍の推進						
(5) 職員のキャリアパス形成のための研修						
(6) 働き方改革関連法に応じた取組の実施						

令和３年度　中止した事業一覧

処理番号	施設名	年度計画の記号	事業の名称	今後の予定
1221Aｵ	東博	1-(2)-②-1)	特別企画「東アジアのうるしの世界」	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
1411Aｱ-2	東博	1-(4)-①-1)	ア　b.特別調査「書跡」（第18回）	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
1411Aｱ-3	東博	1-(4)-①-1)	ア　c.特別調査「工芸」第13回	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
1411Aｱ-4	東博	1-(4)-①-1)	ア　d.特別調査「彫刻」第11回	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
1411Aｱ-6	東博	1-(4)-①-1)	ア　f.特別調査「考古」（第1回）	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
1411Aｲ	東博	1-(4)-①-1)	イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした
2111Eｲ	東文研	2-(1)-①-1)-ｲ	タイにおける日本螺鈿漆器の現地調査	4年度以降に延期
2411E-1	東文研	2-(4)-①-1)	文化財の記録作成に関するセミナー「動画像の圧縮」	4年6月に延期
2411Eｲ-2	東文研	2-(2)-①-1)	「ものの記憶」第2冊目の出版	5年3月に延期

Ⅱ　令和３年度　自己点検評価報告書　個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ（事業系)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ａ（特別展）」　様式補足説明

○【定量的評価】、【年度計画に対する総合評価】、【判定根拠、課題と対応】
「書式Ａ（事業系）」と同様

○【成果】
各項目については次のような観点・論点を踏まえて記載している。

企画構成・展示作品
・企画構成（コンセプト、展示配列・組合せ等）の意図について
・展示品の概要（質、分野、初出品、規模等）について
・企画構成や展示方法の独創性や新規性、工夫について
・地域連携（巡回・地方の文化財や文化の紹介）や国際交流等の側面について
・時機、社会的関心、話題性等の観点について

学術的意義
・学問的重要度の高さについて
・新知見や新たな観点の提供、新発見の紹介等について
・図録での論文・解説等について（内容が充実している、本数が多い等）
・今後の研究への発展性や新規寄託の獲得等について
※研究の詳しい内容は「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」で記載

教育普及
・来館者の興味を喚起する取組や理解を助ける取組（解説の工夫・パネル設置・リーフレット作成・ハンズオン等）の実施について
・講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等の開催について
・教育的イベント（子供向け等）の実施について

その他（運営・広報・サービス等）
・動線の工夫や待ち列対応等の混雑対策について
・関連する平常展示の実施について
・音声ガイドについて
・広報活動の展開（交通広告・ネット・SNS）について
・特別内覧会等の関連事業の実施について
・関連映像上映について

自己点検評価報告書「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｃ」　様式補足説明

１　「年度計画評価」＞「定性評価」について

下記の５つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を４つ以上選択の上記載し、それぞれ評定（Ｓ～Ｄ）を付している。

【観点の考え方】

・適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
・独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
・発展性：応用性・汎用性、影響性、多様性
・効率性：時間、人員、設備等
・継続性：期間、質・内容、量、基礎性

【観点の判定基準】

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している（標準）
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

２　「年度計画評価」＞「定量評価」について

当該事業の実績データのうち、中期目標・計画上の評価指標となっているものは、「実績値」として以下の基準で定量評価を行っている。なお、その他の実績データについては、「参考値」として掲載している（定量評価対象とはしていない）。

（評価指標の対象となるもの：文化財に関するデータベースの公開件数、定期刊行物等の刊行件数、公開施設における特別展・企画展の開催件数　等）

Ｓ：達成率 120％以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120％以上
Ｂ：達成率 100％以上 120％未満（標準）
Ｃ：達成率 80％以上 100％未満
Ｄ：達成率 80％未満

３　「年度計画評価」＞「評定理由」について

定性評価の判定理由を記述している。また、定量評価がある場合は、その判定状況を併せて記述している。

４　「年度計画評価」について

２の定性評価及び３の定量評価の各観点の評定（Ｓ～Ｄ）を下記にて数値化（５～１点）し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

Ｓ＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点（標準）、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点
（例１）Ａが３つ、Ｂが２つの場合
（４点×３＋３点×２）÷５＝　３．６　≒　４　→評価　Ａ
（例２）Ａが２つ、Ｂが３つの場合
（４点×２＋３点×３）÷５＝　３．４≒　３　→評価　Ｂ

５　「中期計画評価」について

１の【観点の判定基準】と同様の基準で評価している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（東京国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（４館共通）ア

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・購入件数 8件　内訳：絵画 1件、彫刻 1件、東洋絵画 5件、東洋彫刻 1件
・決算額　570,000,000円
3年度は、絵画1件 「泰西騎士像」、彫刻 1件「金剛力士立像」、東洋絵画 5件「千仏図」4件、「如来坐像」、東洋彫刻 1件「女神像」の計8件を購入した。
（4館共通）
新規寄贈品件数　81件
内訳：絵画 4件、書跡 7件、漆工 5件、染織 1件、考古 3件、東洋絵画 4件、東洋陶磁 30件、東洋考古 27件
新規寄託品件数　30件　内訳：絵画 2件、彫刻 13件、刀剣 13件、東洋彫刻 1件、東洋陶磁 1件
・寄託品は新規に30件を受け入れた。返却30件のうち、16件は寄贈品として受理した。

【補足事項】
・彫刻購入品の「金剛力士立像」は、等身を超える大きさであり、天井が高く、広い当館の展示室での展示効果はきわめて大きい。修理記録映像も撮影しており、当館を代表する仏像として、展示、教育普及など様々な活用が期待できる。
・寄贈品である染織分野の「有職雛飾り」は皇室や宮家・財閥などに多くの雛飾りを納めた近現代を代表する人形の老舗の技術が最も優秀であった時期の作品であり、由来の明らかな点、保存状態も良好な点など当館での活用が大いに期待できる優品である。
・浅草寺からの寄託品である彫刻作品群は、平安時代から江戸、明治時代に至る様々な時代、様々な像種の作品で、これまで公開されることが少なかった仏像であることから展示効果が大きく、活用が大いに期待できる。

［購入品］金剛力士立像　2躯

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
所蔵品件数	120,073件	－	－		117,460	119,064	119,871	119,942
うち国宝	89件	－	－		89	89	89	89
うち重要文化財	648件	－	－		643	644	646	648
収集件数	131件	－	－		268	1,606	807	71
うち購入件数	8件	－	－		12	31	11	1
うち寄贈件数	81件	－	－		84	72	28	52
うち編入件数	42件	－	－		172	1,503	768	18
寄託品数	2,651件	－	－		3,109	3,130	2,591	2,651
うち新規寄託品件数	30件	－	－		71	45	29	69
文化財購入費	570,000千円	－	－		252,720	146,840	279,200	200,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
購入作品はいずれも市場に出ることが稀なものであり、かつ展示効果の高い作品を購入できた。
寄託、寄贈は、浅草寺からの彫刻の寄託、個人からの近代雛飾りの優品の寄贈など、展示での活用が大いに期待できる 111 件を受け入れることができた。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。
また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
購入は、数こそ多くはないが、「金剛力士像」のように将来的に当館の仏像を代表できるような展示効果の高い重要な作品を購入できた。それにより中期計画の初年度として順調に計画を遂行できている。今後も各分野で情報を常に広く収集し、館で活用できる作品の購入を計画的に進めていく。
寄贈については、3年度は、ご所蔵者のご都合による寄託品からの切り替えも多かったが、従来も活用していた作品も多く、所蔵品となったことは意義が大きい。
寄託は研究員と所蔵者との縁から話が出た案件が多く、それらの中には浅草寺の仏像のように、今まで公開の機会が少なかった作品もあり、展示、研究に有益な活用が期待される。今後も縁を大事にして寄託の機会を増やせるように取り組んでいく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1111B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
・Ⅰ-(1)-①-2)（4館共通）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
・購入件数 12件　内訳：絵画3件、金工1件、陶磁1件、漆工1件、染織6件　　決算額　299,953,000円
・3年度は、「重要美術品　住吉真景図巻　岡田半江筆」、「吉野・龍田図屏風　英一蝶筆」、「重要美術品　北野本地絵巻断簡」、「太刀　銘（菊紋）和泉守来金道／遥奉 鈞命享保庚戌年於京師二柄ヲ打一柄ハ献シ一柄ハ則是也」、「褐釉撫四方茶入　野々村仁清作」、「木彫交椅」、「白平絹地銀胴箔に草花描絵団扇形散らし文様摺箔」、「紅絹縮地伊達紋繍小袖」、「白繻子地文字入花折枝文様繍帯」、「紺縮緬地海老文様友禅染掛袱紗」、「淡黄綸子地文字入松竹梅文箱文様繍掛袱紗」、「紫絽地花鳥虫籠文様繍振袖」を購入した。
Ⅰ-(1)-①-2)（4館共通）ア
・寄贈 新規寄贈品件数117件　内訳：絵画100件、彫刻3件、金工2件、陶磁11件、漆工1件
・寄託 新規寄託品件数95件　内訳：絵画30件、書跡8件、彫刻1件、金工21件、陶磁1件、漆工26件、染織7件、考古1件

【補足事項】
Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
　中期計画に則り、時代や分野のバランスに配慮しつつ、真に国民の共有財産たり得る文化財を購入した。特に、「吉野・龍田図屏風　英一蝶筆」は、長らく所在不明であったが、研究員による調査過程で見出されたもので、壮年期の数少ない作品を代表する大作である。

吉野・龍田図屏風　英一蝶筆　6曲1双

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
所蔵品件数	8,279件	－	－	経年変化	7,977	8,075	8,130	8,150
うち国宝	29件	－	－		29	29	29	29
うち重要文化財	200件	－	－		202	196	200	200
収集件数	129件	－	－		184	98	55	20
うち購入件数	12件	－	－		12	12	24	9
うち寄贈件数	117件	－	－		172	86	31	11
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
寄託品件数	6,562件	－	－		6,235	6,434	6,520	6,547
うち新規寄託品件数	95件	－	－		79	232	149	43
文化財購入費	299,953千円	－	－		291,808	106,340	383,800	41,716

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　京都文化のみならず、海外との深い関わりを示す作品も購入することができた。
　また、後世において京都文化を伝えるのに重要な作品群を寄贈していただいた。
　購入・寄贈については、各分野に担当研究員が尽力し、重要美術品を含む貴重な作品を収集する事ができた。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　3年度は中期計画の初年度として、京都文化を中心とした美術作品について、収集方針に基づき、順調に購入することができた。
　今後も文化財の情報収集に努め、調査、研究を進める事により、展示・研究に寄与する作品の購入等を順次行っていく予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1111C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（奈良国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（4館共通）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　購入0件。理事長裁量文化財購入費は2年ごとの配分であり、3年度は当館の配分は無かったためである。
（4館共通）
ア　寄託を受け入れたのは以下の7件である。
・彫刻　3件：重要美術品「木造普賢菩薩坐像」　1軀（個人）、重要美術品「木造不動明王二童子像」　3軀（個人）、重要文化財「木造不動明王立像」　1軀（妙法院）
・書跡　4件：「大恵度経宗要」　1帖（本證寺）、「十誦律　巻第四十六（神護寺経）」　1巻（慈眼寺）、「大毘盧遮那成仏神変加持経　巻第六」　1巻（個人）、「若宮祭礼田楽頭屋助報日記（元和四年）」　1冊（個人）
編入した作品は以下の1件である。
・絵画　1件：「東大寺大仏蓮弁線刻図模本　宮原柳僊筆」　1幅

【補足事項】
・彫刻部門で寄託品として受け入れた「木像普賢菩薩坐像」、「木造不動明王二童子像」の2件は、古写真類の調査により、かつて吉野山櫻本坊に伝来し、明治時代の神仏分離により吉野を離れたものであることが判明した。奈良ゆかりの作品であり、また文化財保護の歴史の観点からも高い展示効果が期待される。
　また妙法院所蔵「木像不動明王立像」も、なら仏像館での高い展示効果が期待される
・書跡部門で寄託品として受け入れた「大恵度経宗要」は、鎌倉時代の著名な東大寺学僧、宗性の書写した仏教典籍として貴重である。宗性の自筆写本・関連資料は「東大寺少将筆聖教並抄六本」として東大寺に所蔵され、重要文化財に指定されているが、巷間に出たものも少なからず存在し、本品もその一例である。
・絵画部門で編入した「東大寺大仏蓮弁線刻図模本　宮原柳僊筆」は、かつて模写として作成されたのち、長らく登録等がなされていなかったものであったが、館内外の展覧会等における活用が期待されるため、館蔵品への編入を行った。

木像普賢菩薩坐像

大恵度経宗要

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
収蔵品件数	1,930件	－	－	経年変化	1,893	1,908	1,911	1,929
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	－	－		113	113	114	114
収集件数	1件	－	－		7	15	3	18
うち購入件数	0件	－	－		6	6	3	10
うち寄贈件数	0件	－	－		1	9	0	8
うち編入件数	1件	－	－		0	0	0	0
寄託品件数	1,956件	－	－		1,962	1,974	1,974	1,988
うち新規寄託品件数	7件	－	－		12	18	8	26
文化財購入費（千円）	0円	－	－		550,000	101,564	100,440	284,500

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　彫刻の新規寄託品2件は重要美術品であり、また書跡の新規寄託品2件もすでに重要文化財に指定されているものの一具であるなど、質の高い作品の受け入れを進めることができている。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画の初年度として、3年度は、当館の柱である仏教美術作品の受け入れを行い、また、初めて編入を行った。時代も、平安時代、鎌倉時代、江戸時代、そして奈良時代作品の模写と幅広く、また、奈良にゆかりの深いものが含まれるなど、バランスの取れた収集であり、既に収蔵されている作品と関連付けることで、研究・展示において積極的な活用が期待される。以上のことから、中期計画を十分に遂行できていると判断した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1111D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（4館共通）ア

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア　21件の文化財を購入した。
・内訳：絵画2件、書跡2件、金工2件、染織2件、考古11件、歴史資料2件
　絵画分野では、江戸時代の洋風画の展開を考える上で欠かすことのできない安田雷洲の作品を収集したほか、書跡分野では鎌倉時代の施入銘のある宋版大蔵経を購入した。いずれも、当館がテーマとして掲げる文化交流を視覚的に示すことのできる作品である。染織分野において、これまで当館が所蔵していなかった江戸時代の小袖を購入した。稀少であるとともに展示効果も高い作品である。

（寄贈）色絵花盆図大皿

（4館共通）
ア　56件の寄贈、40件の新規寄託があった。
・寄贈の内訳：書跡4件、金工7件、陶磁2件、染織1件、考古38件、民族資料4件
　書跡3件は、現代の書壇を代表する仮名書家の一人で、書の分野で女性初の文化功労者となった小山やす子（1924-2019）の作品である。陶磁分野でも、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された中島宏（1941-2018）の「青瓷彫文壺」を受贈するなど、将来的に当館を代表する作品となりうるものを収蔵することができた。
　同じく陶磁分野では、江戸時代・18世紀前半に有田で作られた古伊万里の大皿「色絵花盆図大皿」を受贈した。欧州輸出向けの古伊万里の中でも作行・状態ともに優れた作品である。考古分野では、日本の出土品ばかりでなく、オホーツク文化（北海道北東部）や朝鮮半島など、幅広い地域のバラエティ豊かな作品を受贈した。
・寄託の内訳：絵画1件、彫刻20件、金工1件、染織14件、考古2件、民族資料1件、歴史資料1件
　彫刻分野では、個人所蔵のパキスタン・ガンダーラ地方の石彫19件を受託した。古代アジアの仏教美術の展開を示す上で好適な作品であり、館蔵品の不足を補うものとして重要である。

【補足事項】
3年度に収蔵、受託した作品については、その一部を4年度内に当館での特別展のほか、文化交流展における寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
収蔵品件数	1,489件	－	－		878	1,164	1,279	1,412
うち国宝	4件	－	－		3	4	4	4
うち重要文化財	44件	－	－		39	41	42	44
収集件数	77件	－	－		295	286	115	133
うち購入件数	21件	－	－		34	105	49	49
うち寄贈件数	56件	－	－		261	181	66	84
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
寄託品件数	1,344件	－	－		934	931	1,300	1,309
うち新規寄託品件数	40件	－	－		45	7	432	50
文化財購入費	231,117千円	－	－		640,636	907,943	461,396	584,156

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化交流を基軸に据えた館蔵品、寄贈品、寄託品の受け入れをバランスよく行うことができた。いずれも質量ともに充実しており、当館のコレクションの充実に寄与するものである。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、日本とアジア諸地域等との文化交流を視覚的に示すことのできる作品を収集の基軸ととらえ、収集活動を継続的に行った。 寄贈・寄託については、収蔵品の不足を補うものを中心に、所蔵者へ働きかけるとともに、慎重な事前調査・検討を行った上で受贈をした。3年度に収蔵・受託した作品は当館で積極的に活用できるものばかりで、その中にはコレクションの核となるものも含まれる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（4館共通）ア、イ、ウ（東京国立博物館）ア～キ

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　今井敦 課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、収蔵庫運用ルールを定めたうえで運用を開始した。また、新規収蔵庫の空調及び扉の初期不良と、本館収蔵庫の収納棚、資料館収蔵庫並びに法隆寺宝物館の扉の劣化に対し、改善、補修を行った。
イ　3年度は748件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。
ウ　収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。あわせて、文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（東京国立博物館）
ア　未整理・未登録であった刀剣2件、漆工5件、染織22件、考古1件、陶磁4件、東洋陶磁2件、東洋染織2件、東洋民族4件を収蔵庫の移転作業等により、列品として編入を行った。
　「石製小玉」（J-35010）1件につき、台帳上の員数修正を行った。
　九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、43件の収蔵品について情報調査を行った。
　松方浮世絵コレクションのうち2,155点の作品情報を更新し、文化財情報システムに登録した。
イ　古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を継続して行った。また、2年度に一部編入した「万国写真帖（全21巻）」の残り12件1,374点を編入した。
ウ　「protoDB：列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）で更新されたデータを「ColBase：国立文化財機構所蔵品統合検索システム」に自動的に反映する機能を継続して運用した。また、protoDBへ新たに「作品種別」の入力を追加すると共に、全ての機能についてユーザーログインを必須として、情報セキュリティの向上を図った。
エ　本館で保管している収蔵品等の文化財管理棟への移転業務に伴い、「収蔵品データ管理システム」に新たにデータ項目を追加することで、列品にかかる統計業務のさらなる効率化と情報の利活用向上を進めた。
オ　収蔵する和古書・洋古書について、10,215件のデジタル撮影を行った。
カ　デジタル化済みのガラス原板撮影画像701件を「画像管理システム」に登録した。
キ　2年度から引き続き収蔵品等（陶磁、金工、刀剣、漆工、考古、民族）の移転作業を継続し、3年度分として計10,119件の移転が完了した。また、移転に伴い変更となった収蔵品等の所在情報について継続して確認し、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。

［編入］武人埴輪模型　吉田白嶺作
大正元年（1912）　3個

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫の設備の充実のための作業、収蔵品等の確認作業を実施した。古写真資料等も継続して編入を行い、約15,000点のうち7,629点まで編入作業が進んだ。 新型コロナウイルスの影響により、撮影費の削減と時間を短縮しての業務を余儀なくされたため、資料等のデジタル化件数は目標を下回った。本館で保管している収蔵品等の文化財管理棟への移動作業については、順調に進めることができた。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善をし、収蔵品等・未登録品の確認・整理を行った。 画像データを継続的に蓄積するとともに、文字データの整備を推進し、業務や調査研究に役立てた。和古書・漢籍・洋古書のデジタル撮影も、前中期目標の期間の実績以上とすることができ、中期計画の初年度として、計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（4館共通）ア、イ、ウ、(京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
ア　金工の適切な保管を目的として、刀袋等を購入した。
イ　6月と12月に実施する寄託品の継続手続きにあわせ、寄託品の所在確認作業を行った。
ウ　収蔵品及び展覧会展示作品等の新規撮影は、デジタル撮影を7,025件（カット）行った。収蔵品のデジタルデータを作成し、収蔵品管理システムへ登録を行い、画像資料の充実を図った。(3年度画像資料登録件数：17,146件)
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等、既存フィルムを6,338件、デジタル化した。
イ
・中期計画の初年度として、収蔵品管理システムにおける課題及び改善点をまとめ、他施設のシステムを参考とするため情報収集をした。収集した情報をもとに、仕様書を策定し、システムリニューアルに取り掛かった。
・CMS（ウェブサイト更新に使用するシステム）へ活用可能な、HTMLを自動作成する機能実装について業者と打合せを行った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ
・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展「特別展　京の国宝―守り伝える日本のたから―」（7月24日～9月12日）、特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」（10月9日～12月5日）を対象として進めた。
・特別企画「オリュンピア × ニッポン・ビジュツ」（6月5日～7月4日）、特集展示「後期古墳の実像 ―播磨の首長墓・西宮山古墳―」（1月2日～2月13日）など特集展示・特別企画のため、作品の撮影を行った。
・龍光院を調査し、作品の撮影を行った。（処理番号1411Bｱ参照）
・東福寺・知恩院等社寺を調査し、作品の撮影を行った。
・収蔵品等の撮影を行い、資料の充実を図った。
（京都国立博物館）
ア
・当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。また、デジタル化の外部委託を積極的に行い、館蔵品データベースの充実を図った。
・原板フィルムの劣化を防ぐため、中性紙を使用した収納箱への移し替えを継続して行った。

縹糸威胴丸　兜・大袖付

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 作品に応じた適切な保管に資するため、保管用資材を充実させ、保存環境の整備を進めるとともに、寄託品の所在確認を実施した。寄託者に安心して寄託していただける関係継続に尽力した。 また、作品画像の充実化に努め、蓄積の基盤となるシステムのリニューアルに取りかかることができたため、B評定とした。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、デジタルデータの蓄積等、業務の基盤となるシステムのリニューアルに取り掛かることが出来たため、中期計画を順調に遂行できているといえる。4年度以降、新しいシステムを導入し、運用することで、更なる取り組みの充実化を図る。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1121C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（４館共通）ア、イ、ウ、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫を拡充する検討を行った。
イ　寄託者情報の更新や預証書の更新に伴い、寄託品の所在確認を行った。
ウ　収蔵品等の新規デジタル撮影を実施した。新規にデジタル撮影した画像は、3,059件である。

（奈良国立博物館）
ア　収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを追加更新した。画像データベースに追加登録したデータは、3,778 件である。
ウ
・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。既存フィルムをデジタル化した件数は、3,059件である。
・既存フィルムをデジタル化したデータは、これまでDVDでの納品としていたが、3年度よりBlu-rayディスクへの書き込みに変更し、省スペース化を図った。

【補足事項】
・過去にフィルム写真しか撮られていない館蔵品については、最新の保存状態を記録するため、またウェブ公開にも供するため、積極的に新規のデジタル撮影を実施している。

新規デジタル撮影の一例（4 月 16 日撮影）
収蔵品番号 1165 法華経巻第七
（平成 7 年に館蔵品登録されて 25 年以上経つが、カラー写真撮影は今回が初めてとなった）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品情報の整備を継続して実施することができた。 画像データの蓄積と登録は、定量的には例年並みであり、年度計画に沿って着実に実施できた。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、収蔵品情報の更新に積極的に取り組んでおり、収蔵品のデジタル写真撮影、既存フィルムのデジタル化とも着実に実施し、収蔵品の管理に必要なデータ整備という中期計画に向けて順調に推移している。上記の通り画像データは日々更新しているが、新規撮影やデジタル化によって増加する件数はそれを上回り、整理が追いつかない現状があるため、今後は作業体制の強化と効率化の必要がある。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1121D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（４館共通）ア、イ、ウ、（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ア 収蔵施設設備の充実、改善に向けた検討
・施設設備に関して、収蔵庫内の扉の点検を実施した。開閉時に電気鍵にエラーが出る頻度の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。また、収蔵庫内空調機器についても点検を実施した。照明器具の一部についてLEDに変更した。
・収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの位置調整及び機器の点検を実施した。
・収蔵庫内の保管スペースを確保するため、文化財保管用の棚を増設した。
イ 寄託品等の所在確認作業
・当館は所蔵品以外にも借用品（約1,400件）、寄託品（約1,300件）など数多くの作品を管理している。元年度からの3年間計画となる収蔵品の実査（棚卸し）を継続し、全工程を完了した。
・収蔵品実査の一環として、合計約14,000点からなる対馬宗家文書の目録情報及び画像データとの対応関係を精査し、確認を完了した。
・寄託品を含む約7,500件の収蔵品等の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。
・実査を行った収蔵品の状態や付属品等を記録・撮影し、文化財情報システム上での共有を進めた。
・収蔵庫内のスペースを有効に活用するため、一部文化財の保管場所を変更し、新たに収蔵された文化財の保管スペースを確保した。
ウ　専任撮影技師による2,146件（カット）の収蔵品・出品作品等の新規撮影、及び関連データを整備した。
（九州国立博物館）
ア　文化財情報システムの運用を継続し、605件の文化財データを新規登録した。
イ　列品・寄託品・借用品などの有形文化財情報と、陳列・画像・修復などの情報を一元管理するシステムを継続的に運用し、また、同システムの改修・整備を進めた。

【補足事項】

棚卸し作業の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、収蔵庫内の扉や照明などに対し、必要に応じた整備や修理及び調整を行った。また、収蔵品の棚卸しを継続して実施した。 3年度は、来館者による展示品の撮影可否情報を収蔵品データベースに明示し、確認できるようにした。これにより、撮影可否を確認する事務作業から展示室での表記まで、情報の共有をシームレスに行うことができた。特に、件数が多く入れ替えの頻度が高い借用品において、ヒューマンエラーの防止に大きく寄与したことからＡ評定とする。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新たに受入を予定している資料について、保管スペースの確保に努めた。また、2年度に引き続き、収蔵庫内の棚卸しを実施し、資料登録情報の更新を行うとともに、保管方法の現状確認と適切な保管方法について検討し、中期計画を順調に遂行している。今後も収蔵品の適切な管理を行う。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（4館共通）ア、イ、ウ（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（4館共通）
ア　収蔵庫等44か所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した収蔵庫1か所、修理室5か所に対して除塵防黴清掃を実施した。
イ　収蔵品を中心に、保存カルテを247件作成した。
ウ　収蔵庫及び展示室274か所の温湿度を計測し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。収蔵庫及び展示室の温湿度、空気汚染物質に関する年次報告を整備した。感染症拡大防止対策に関連し、修理施設の換気と収容人数の最適化について検証した。

修理室の除塵防黴清掃

（東京国立博物館）
ア　シミュレーション技術を用いて、屏風の地震動に対する応答挙動を観測する手法について検証した。
イ　5か所の収蔵庫、修理室に対して各7種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。
ウ　法隆寺金堂壁画を奈良国立博物館から輸送するにあたり、経路選定、振動計測、作業工程の最適化について総合的に検証した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境に関する調査と、脆弱な文化財の輸送に関する調査研究を実施した。また、感染症拡大防止対策について修理施設の換気と環境維持の両立に関するデータをとりまとめた。 以上の実績から、年度計画を遂行できたと評価した。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 従来から課題としていた、より高度な地震対策の実現については、3年度にその検証手法を開発し、その効果を検証することができた。文化財輸送環境の保全については、壁画という脆弱な文化財の輸送に際して、走行経路の選定、輸送機関上の振動計測から輸送作業工程の評価に至るまで一貫した調査研究を実施した。温湿度計測及び生物生息調査の結果から館内各所の環境的評価に基づく対策を講じることができた。 以上の観点から、中期計画の初年度として順調に事業を開始できたと評価した。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ（京都国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを191件作成した。
ウ　平成知新館及び明治古都館、収蔵庫等の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行った。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の地震対策として、建物基礎部と床免震部に振動計9台を設置し、建物と床免震装置の振動調査を実施した。床免震装置が作動する震度4以上の揺れは無いが、得られたデータの解析から、一部の床免震部で展示替えに伴う可能性のある微動が検出されたため、より詳細な解析のためのデータ収集を継続している。
イ　明治古都館（本館）の北エリアは、発掘調査・空調工事が実施されていたため、3年度は南エリアについて、通年で温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を実施し、データの蓄積を行った。明治古都館北エリア工事による汚損等の影響を減らすIPMの一環として清掃作業を実施し、今後の清掃方法について検討した。
ウ　東収蔵庫は、新館モニタリングシステムとの一体的な運用を実施した。即時的に温度・湿度が分かる環境モニタリングシステムを有効活用し保管環境データの解析・蓄積を図った。一方、専用LANが使用できない北倉・資料棟・文化財保存修理所エリアでは、定期的に温湿度に関するデータ収集を行い、速やかに修理者協議会や現地施設管理者との打ち合わせ時に周知することにより、保管環境等の意識向上と連携強化を図った。また、通年で展示室及び各収蔵庫の歩行性昆虫類の生息調査、定期的な空気質調査を実施し、データの蓄積を図った。

【補足事項】

床免震部に設置した振動計

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 主として文化財貸与に伴う点検時に、保存状態の確認と共有のため行っている収蔵品の保存カルテ蓄積を継続して行い、191件作成した。 適切な展示・保管環境の保持の取り組みとともに、地震等への対策として、平成知新館の振動調査を開始し、床免震部と建物基礎部に分けてデータ収集を図ることができた。建造物が震度2以上の揺れを観測した場合、振動を記録する条件設定をしたが、3年度での計測は幸いにもなかった。開館時における振動頻度や、来館者由来と考えられる振動等についても検討するため、設定条件の変更も検討していきたい。展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリング・空気質調査・昆虫類生息調査等の継続的な実施とデータ蓄積を行い、データ解析を基にして、他部署との連携を図りながら適切な展示・保管環境維持に迅速な対応ができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 展示・収蔵施設の温湿度管理は、敷地内の建物6棟についてモニタリング及び歩行性昆虫類の生息調査を通年で実施し、データの蓄積を図るとともに、それらの解析結果を受けて、より適切な展示・保存環境の保持に向けて建物毎の対応策を検討することができた。今後も継続してモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを実施し、より適切な環境保持に対する調査研究に繋げていきたい。収蔵施設は、空調システムが各々異なる等、複数条件で運用されているため、継続的なモニタリングの実施とデータの蓄積、データ収集の迅速化を図るためのシステム再構築について検討を始めている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1122C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ、(奈良国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
(4 館共通)
ア　例年通り、文化財害虫の生息状況を把握するため、展示室、収蔵庫、調査室、トラックヤードなどに昆虫調査用トラップを設置し、2 か月に 1 回の頻度で学芸部研究員がローテーションを組んで交換を行った。調査会社からの調査結果を蓄積し分析することで IPM(総合的有害生物管理)を推進し、清掃することで被害の低減に努めた。また、こまめな清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室、収蔵庫、調査室、トラックヤードといった文化財周辺の衛生環境保持に努めた。
イ　国内の博物館、寺社から貸し出しの依頼があった作品について、梱包前、開梱後に調査を行い、調書の拡充を行った。
ウ　無線式温湿度センサーで展示室や展示ケースについては 24 時間のモニタリングを実施した。取得蓄積した温湿度データから、展覧会ごとに情報を整理し、展示室内の環境管理、改善に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーでデータを収集し、環境の把握を行った。月に１度、デジタル温湿度計を用いてモニタリングと温湿度データの回収を行い、館内環境ワーキンググループでデータを共有して空調の調整に役立てた。
(奈良国立博物館)
ア　宮内庁正倉院事務所と協力して正倉院展終了後に、展示ケース内の敷板、卦算などから塵埃を採取し、電子顕微鏡にて観察した。電子顕微鏡の画像からケースの気密性に対する評価を行い、適切な気密性を整えるために修理や部材交換などのメンテナンスの計画を作成した。

【補足事項】
（４館共通）
ウ
・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を月に 1 回程度開催し、実施しデータを共有することで展示保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねた。
(1)展示室内温湿度調査：97 か所
(2)展示ケース内ほか粉塵調査：25 か所
(3)文化財虫害生息状況調査：100 か所
・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：8回開催

写真1. 仏像館に設置した新しい形式のデータロガー（中央）の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また、調査で得られた結果を蓄積するだけでなく、分かり易いデータ解析結果の表現を模索しつつ円滑な監視体制の整備を行い、保存環境の維持や向上を進めた。なら仏像館についてもデータロガーの形式を新しくして、館全体での展示保存環境の保持と改善を図った。 館内環境維持のため今後も継続して調査と解析を進めデータの蓄積を図りたい。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 学芸部研究員が東新館、西新館の展示室や収蔵庫で温湿度並びに文化財害虫に関するモニタリングや調査を年間通じて行っている。なら仏像館も東西新館同様にデータの蓄積と解析を着実に実施しており、これを継続することで目標に近づいている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1122D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ、（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア 3年度は、IPMの考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理20件を実施した。
イ 所蔵品の保存カルテ83件を作成した。
ウ 2年度に引き続き、文化財の展示・保存空間における揮発性有機化合物濃度を測定し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。
（九州国立博物館）
ア 展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを展示・収蔵環境の保全に活用できるようにした。また、粘着トラップを館内全域に設置し、毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握した。これにより、文化財害虫被害に早期に対応することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。

【補足事項】
・展示・収蔵空間等にデータロガーを設置し、測定結果をモニタリングすることで、作品の材質に合わせた温湿度環境を維持した。
・館内全域において、粘着トラップの定期的な観察・交換による捕獲虫モニタリングと、各エリアにつき年2回程度の徹底清掃の実施により、害虫の発生要因を低減させた。また、館内職員・事業者向けにIPM研修を開催し、対策の重要性を周知させた。
・2年度に引き続き、文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材に対し、低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の化学薬剤を使用しない生物処理を実施した。
・展示ケースの効率的な換気方法の検討や、展示台の新規作製時に活用するための、揮発性物質が放散しにくい材料の選定などを行うことで、より良い展示環境作りに資した。

自動ドアの害虫侵入防止対策の様子

二酸化炭素による生物処理の様子

館内（機械スペース）の徹底清掃の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 IPMの徹底を図るため、館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータを連続的・継続的に蓄積した。また、取得したデータに基づいて環境の改善に取り組むことができ、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品・展示品等の保存環境に関わるデータ収集を継続し、そのデータを関係者で定期的に細やかに確認し、適宜必要な対応を実施した。初年度として、文化財の適切な保存環境を保持することができており、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1123A

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、(東京国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、(東京国立博物館）ア

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
・保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために219件の応急修理に着手し、53件の本格修理を実施した。
・データベース構築のために、2年度に修理が完了した16件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書22』を刊行した。
・修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む627件の作品に関して修理の検討を行い、中長期的修理計画策定を進め、4件の国宝・重要文化財の本格修理を実施した。
・ハンドヘルド蛍光X線分析装置を用いて、国宝「普賢菩薩像」の彩色材料や「灰陶竈」(後漢時代・2世紀）の材質を調査し、適切な修理に役立てた。

【補足事項】
・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12世紀）は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施・完了した。重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・縔絲、元～明時代・14世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施・完了した。重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄附金により修理を実施した（2年1月着工、工期24か月）。重要文化財「月次風俗図屏風」（紙本着色、室町時代・16世紀）は当課本格修理費により修理を実施・完了した。

ハンドヘルド蛍光 X 線装置による調査

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
修理件数（本格修理）	53件	－	－		69	26	24	44
修理のデータベース化件数	16件	－	－		47	98	19	13

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
緊急性の高い応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、3年度は新型コロナウイルスの感染拡大による自己収入減の影響により新規の本格修理を外注することができなかった。一方で、機構内（館内）で実施することができる正倉院裂186点の修理計画を立て、そのうち25点の本格修理に着手することができた。
以上の実績から、所期の計画を遂行できたと評価した。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の初年度として、事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。引き続き常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1123B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】

（京都国立博物館）

・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、（京都国立博物館）ア

・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】

Ⅰ-1-(1)-②-3)-1

（4館共通）

ア　・館蔵品中、緊急性の高い、絵画4件、彫刻1件、書跡1件、金工3件の本格修理及び応急修理を行った。特に懸案であった「重要文化財　紙本墨画雪裡三友図」の本格修理に着手することができた。

・「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の4か年計画の2年目の修理を継続して行った。

イ　3年度は124件の新規修理文化財搬入があり、データベース化を行うとともに、過去のデータに関して1,073回追加、更新を行った。

（京都国立博物館）

ア　・長期修理計画に基づき、館蔵品の修理を予定通り実施する事ができた。

Ⅰ-1-(1)-②-3)-2

（4館共通）

ア　3年度、所蔵者の協力を得て文化財保存修理所内工房で実施した科学分析調査は、作品の構造調査として、I.Pを用いたX線透過撮影2件、X線CT撮像2件、SfMによる3次元形状調査2件である。作品の材質調査としては蛍光X線分析調査10件、分光分析調査2件、ポリライト観察1件、オルソ撮影1件を実施した。

（京都国立博物館）

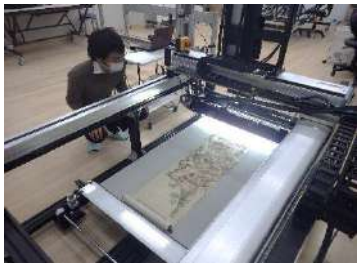
ア　構造調査の一例としては、X線CTを使用し、表面の塗装により修理前の観察では内部構造が不明であった彫刻作品に対して、ほぞ位置の確認や釘等の使用状況を明らかにし、解体時の適切な作業に関する情報を提供することができた。またSfMを使用し、歪みを有する板絵について、修理前後の歪みの変化量についてモニタリングを実施し、変位が無いことを客観的に示したことで、修理方法や修理指針に関して貢献することができた。

イ　非破壊的な材料調査では、各工房の調査依頼を受け入れ、絵画資料の材料調査を主に実施した。X線を使用した顔料調査では、絹本の作品において、表・裏彩色ともに調査する事例が増加するとともに、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。また、これらのデータは修理及び復元事業に活用することができた。継続的に絵画資料の染料・顔料材料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を図った。

・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、3年度は164件の修理記録のPDF化を行った。

【補足事項】

蛍光X線分析調査風景



オルソ画像撮影

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
修理件数（本格修理）	9件	-	-		11	17	12	12
修理のデータベース化件数	124件	-	-		180	149	171	137

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度は、文化財保存修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、内部構造や使用材料等の調査を行った。年度計画にある彩色材料等の分析事例の集積とともに、文化財の技術の解明にも有効なデータを得ることができた。今後も調査の継続を図るとともに成果の発信へも取り組んでいきたい。

【中期計画記載事項】

修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度は中期計画の初年度として、X線CT撮影、X線透過撮影、蛍光X線分析、分光分析等の非破壊的な手法を用いた調査を実施し、修理方針の策定に役立てることができた。またSfMを用いた調査や、ポリライトを用いた観察、赤外線オルソ撮影等、分析手法の多様化も図ることができ、作品の材質に応じた科学調査を実施できた。以上から、中期計画を順調に遂行できているといえる。 今後も、修理方針の検討に有用な情報を提供できる、高い安全性や精度を有する測定装置の導入や修理技術者とのデータ・知識の共有が必要であると考える。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2 科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
Ⅰ-1-(1)-②-3)-1
（４館共通）
ア
・館蔵品本格修理3件のうち、新規1件、元年度からの継続事業1件、2年度からの継続事業1件を実施した。
　内訳　絵画2件、彫刻1件
・年度内に2件の修理が完了した。2年度からの継続事業1件は4年度も引き続き実施する計画である。
イ　『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第4号を年度内に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　『絹本著色十二天像』修理について、3年度は表補絹、表打ちを行うことで画面を保護した後に、旧肌裏紙の除去、旧補紙、旧補絹の除去を行い、一部については電子線劣化絹を用いて欠失分を補った。
イ　22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。
ウ　寄託者と協議を行い、寄託品3件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。
Ⅰ-1-(1)-②-3)-2
（奈良国立博物館）
ア　京都大学生存圏研究所に依頼して3件の樹種同定を行い修理に寄与した。
イ　木彫像のX線CT調査で構造を確認して修理作業を進めた。絵画作品、彩色彫刻部分においては蛍光X線分析を行って技法の解明を進め、修理方針決定に寄与することができた。

【補足事項】
ア　収蔵品等の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に設置した。
イ　2年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第4号を刊行した。彫刻の材質調査や銘文集成などを掲載して、修理実績や内容を広く伝えることができた。
（奈良国立博物館）
ウ　寄託品修理として、当館関係費により本格2件及び応急1件の修理を行った。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
修理件数（本格修理）	3件	-	-		6	6	8	7
修理のデータベース化件数	55件	-	-		69	63	74	70

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、予定通り進行した。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修理技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備を更新し充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存修理指導室員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施し、結果を共に検討することで得た情報を適切な修理の基礎資料とできたことから、中期計画を着実に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1123D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、(九州国立博物館)ア
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1
（４館共通）
ア　館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、優先順位の高い文化財17件について本格修理を実施した。また、損傷が軽微な文化財6件について応急修理を実施した。
イ　将来のデータベース化を視野に入れ、未整理であった23～24年度分の修理報告書をとり纏めた。
（九州国立博物館）
ア 毎年修理を行っている重要文化財「対馬宗家関係資料」については、1件（3巻)の本格修理を実施した。
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2
（４館共通）
ア　重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財10件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用して紙質調査を行い、補修紙作成に役立てるとともに、作品の新たな学術情報として記録した。
（九州国立博物館）
ア　釈迦三尊図の顔料分析など5件の科学調査を行い、修理方針の策定等に役立てた。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・館費による修理件数は23件（本格17件、応急6件）
・内訳：絵画4件（本格2件、応急2件)、書跡4件（本格4件)、金工1件（本格1件)、刀剣2件（本格2件)、考古6件（本格3件、応急3件)、民族資料2件（本格2件)、歴史資料4件（本格3件、応急1件)。
（九州国立博物館）
ア　釈迦三尊図の顔料分析については、修理中にしか実見することができない裏彩色について、実体顕微鏡観察と蛍光Ｘ線分析による科学分析を行った。結果は、白色は鉛白、赤色は辰砂、緑色は緑青、青色は群青の使用が想定され、絵画製作当初の典型的な顔料の使用状況であることが判明した。

釈迦三尊図の調査風景

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
修理件数（本格修理）	17件	－	－		19	40	31	20
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 本格修理は以前より、大型化する傾向にあり、2年度以前に比べると件数は減少傾向にある。年度計画を念頭に、作品の状態に合わせて本格修理や応急修理を適切に行うことができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術に科学調査の成果を取り入れながら、計画的かつ正確に修理を実施し、中期計画を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1124B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-4)(京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
(京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)
ア
・文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年７回）し、意見交換を行った。
イ
・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。
・老朽化した各所の設備（修理所３階エレベーター、旧管理棟１階の北西部と別棟を結ぶ渡り廊下）の修繕を行った。
・豪雨時の地下階への雨水流入を防ぐため、地下階の電気室扉、修理準備室１入口及びドライエリアに面する外部扉に止水板を設置した。
・防災体制の充実を図るために実施している文化財保存修理所での防災訓練を、新型コロナウイルスの影響により延期した。

設置した止水板

【補足事項】
(京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)
イ　新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催とした。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ２年度に続き新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催という形になったが予定通り開催し、委員から意見を運営の参考とした。 修理者協議会は感染症対策を実施の上、予定通り開催し、特に新型コロナウイルスの影響下における環境について意見交換を行うことができた。 また老朽設備の改善を適時適切に行うことができた。 以上から、年度計画に掲げる「文化財保存修理所の整備・充実」を実施できたといえる。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 豪雨時の雨漏り、3階エレベーターの故障等、設備面での老朽化は目立つものの、豪雨時の地下階への雨水の侵入を防ぐ止水板を設置する等の整備・修繕を実施し、指定品を中心とした修理事業を安全に行う施設としての役割を果たすことができた。中期計画の初年度として、防災訓練や減災に向けた方策を講じ、工房と協力しながら文化財保存修理所の整備を進めることができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1124C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-4)（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所の大型ブラインドについては改修を文化財保存修理所協議会で検討を行った。また、修理所外側の雨水対策、ドレインの清掃を行った。
イ
・例年５月に行っていた文化財保存修理所運営委員会を新型コロナウイルス感染防止の観点から８月に書面審議にて開催し、４年３月 11 日にも対面とリモートを併用したハイブリット形式にて実施した。また、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などについて、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の３工房代表者と当館学芸部で討議する文化財保存修理所協議会を２回開催した（９月 24 日、４年３月３日）。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を４回実施した。

【補足事項】
・4年3月1日から4年3月27日まで、当館西新館第1室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。これまでに文化財保存修理所各工房などで修理が完了した10件の当館収蔵品・寄託品と修理解説パネルを使ってマスコミ媒体と広く連携して、文化財修理活動を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを修理所公開などの機会に配布した。
・12月16日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、参加者を3回に分けて実施し、報道機関を含む78名の参加があった。

写真1. 特集展示「新たに修理された文化財」

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所運営委員会を4年3月11日に対面とリモートを併用したハイブリット形式で行い、所内3工房代表者とは9月22日と4年3月3日に協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び作業環境、保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財防災センターと連携して文化財被災時への助言について、修理技術者と意見交換を行った。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度として、文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、蛍光X線分析やX線CTによる科学技術の修理への積極的な活用を行い、保存修理を実施することができた。コロナ禍のため、2年度と同様に一般への公開などに制限を設けざるをえなかったが、事業を着実に実行しており、中期計画を遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1124D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-4)（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・修理文化財を保管する修復収蔵庫について、照明のLED化の工事を行った。
・絵図等の大型装潢文化財の修理に用いる乗り板について、さらなる大型品に対応できるよう、安全に脱着可能な延長部材を製作した。
イ
・当館文化財保存修復施設にて館経費による本格修理14件及び所有者等負担による修理37件、合計51件の修理事業を実施した。その他、館外で館経費による3件の修理事業を実施した。
・修復施設4(彫刻)については、彫刻及び装潢分野の修理で使用した。

【補足事項】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　蛍光灯の生産終了を受け、紫外線カット仕様の照明のLED化を実施した。
イ
・文化財保存修復施設4は彫刻等の大型文化財の修理のためのものであるが、九州では彫刻の指定品が少なく、修理技術者は常駐していない。3年度は、装潢分野の修理で活用した。
・文化財の修理は在宅勤務が不可能であるため、時差出勤、時差休憩、分散勤務など、新型コロナウイルス対策の指針を遵守しながら効率的、計画的に修理を実施した。
・文化財保存修復施設で本格修理した文化財51件中48点、9割強が九州山口地区所在文化財となっており、九州山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積している。修理文化財の中には、熊本県の球磨川水害による被災文化財が含まれている。

修復収蔵庫の LED 化工事

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス対策の指針を順守しながら、文化財保存修復施設を積極的に活用した。これにより、文化財の保存修理を適切に行うことができ、九州山口地区における文化財修理の拠点として、着実に成果を上げることができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 修復収蔵庫において、必要な施設・環境の整備を実施したことにより、現時点では中期計画を順調に遂行できている。 しかし、開館より16年がたち、集塵機・ミュージアムクリーナー等の部品の生産終了や経年劣化により、抜本的な修理やメンテナンスが必要な状況に近づきつつある。今後も、必要な整備を行いつつ、メンテナンスも継続的に行うことで、文化財を安全かつ適切に修理できる設備を維持していくことで、中期計画の円滑な遂行に努める。

【博物館】　施設名 ４館　処理番号 1211ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-(2)-①（４館共通）1)、2)

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課	事業責任者	課長　沖松健次郎 課長　阿部　勝 課長　大西真一 課長　執行正一

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・2年度に引き続き、アンケート集計方法は来館者に記入を依頼する形とした。アンケート結果については館内で共有し改善に努めた。また、ウェブサイトに寄せられる意見についても可能な限り速やかに関係部署に周知し、必要に応じて回答や改善を図った。
（京都国立博物館）
・平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置しただけでなく、ウェブサイトや口頭により寄せられた意見・問合せを担当部署・担当者に共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。
（奈良国立博物館）
・館内の2か所に記述式アンケートの記入場所を設け、通年でアンケートを実施した。また、3年11月16日～12月9日及び4年1月24日～2月4日にはウェブサイト上でのアンケートを試行的に実施し、従来よりも幅広い層からより多くの回答を集められるよう工夫した。アンケート結果及びウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望については、速やかに関係部署と情報を共有し、改善に努めた。
（九州国立博物館）
・2年度から中止していた文化交流展(平常展)に対するアンケート調査を4年1月より再開した。寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて改善を図った。

【補足事項】
（東京国立博物館）
・アンケート集計方法は来館者に記入を依頼することで、会場内にアンケート用紙を設置する集計方法に比べ、よりフラットな意見を聴取することができた。また、展示の満足度についても非常に高い結果となった。
（京都国立博物館）
・来館者の意見や要望を踏まえて、展示室内の案内表示の追加や調整を行い、観覧環境の改善に取り組んだ。
（奈良国立博物館）
来館者や館内職員から寄せられた意見や要望を踏まえて、速やかに館内の掲示物を追加・修正するなど、よりよい観覧環境を実現するため努力した。
（九州国立博物館）
・来館者の意見やニーズを考慮し、4月6日より文化交流展示室内の写真撮影を可能とした。

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	87.9%	85%	B		87.3	89.2	90.2	85.8
京都国立博物館	82.1%	81%	B		84.4	89.7	79.1	78.5
奈良国立博物館	92.1%	92%	B		90.1	92.5	93.2	94.2
九州国立博物館	81.0%	76%	B		77.8	73.6	77.1	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4館とも平常展来館者アンケート満足度において目標値を達成することができた。平常展については、4館にて多くの特集を組み、アンケート結果からは、何度来ても楽しめるなど好意的な意見が多く寄せられた。今後も魅力ある特集を組み、いつ来ても新たな感動を与えられるような展示を企画したい。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、3年度も来館者数自体は伸び悩んだが、2年度よりも回復傾向にある。来館者アンケート満足度は4館とも目標値を達成することができており、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。4年度以降も来館者の意見に耳を傾けながら、コロナ禍での展示の在り方を常に模索し続けていきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1212A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　①平常展		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(2)-①（東京国立博物館）1)、2)、3)、4)			
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】

ほぼ計画通りの平常展を展開し、来館者からは概ね好評であった。東京都の要請による臨時休館（4月25日～5月31日）の影響を受けた特集展示は会期を延長するなど、臨機応変に対応することができた。

1）展示計画に基づき、395回（総件数5,837件）の展示替えを実施した。

2）26件（2年度からの継続特集1件を含む）の特集展示をすべて実施することができた。

3）新型コロナウイルスの影響を受け、文化庁から中止の申し出があったため、「令和3年新指定 国宝・重要文化財」（11月30日～12月12日）は中止となった。

4）日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。

また、文化財活用センターと共同で、本館特別3室に日本美術に親しむための体験型展示「日本美術のとびら」を6月より開室した。

【補足事項】

本館14室にデジタルサイネージを設置し、特集展示のタイトルや内容を掲示できるようにした。また、新デザインの題箋を試験的に導入し、作品解説のありかたを再検討するなど、見やすく分かりやすい展示になるよう改善を重ねている。

	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	211,052人	－	－		1,030,180	989,508	1,030,652	166,639

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ２年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、来館者数は211,052人であった。その中で、計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができたこと、これまでにないテーマの特別企画を実施して若い世代の集客につなげることができたことは大きな成果であった。 またトーハク新時代プランに基づく映像コンテンツの設置も引き続き実行できており、来館者の日本文化と展示への理解促進に努めた。

【中期計画記載事項】

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスへの対応で臨時休館や日時指定入館など制約があったものの、予定されていた展示替え及び特集展示をすべて実施することができた（文化庁から中止の申し出があったものを除く）。 また、文化財活用センターと共同での体験型展示「日本美術のとびら」の開室や、デジタルサイネージの設置、並びにユニバーサルデザイン対応の新デザインの題箋を試験的に導入するなど、より親しみやすく、見やすくわかりやすい展示環境の実現に向けた一歩を踏み出せたことは、中期計画の初年度として意義が大きい。 ４年度以降も、新題箋への来館者の反応をリサーチして随時改定するなど、来館者の満足度向上に向けた継続的な努力と、より魅力ある展示のための新しいアイディア出しを行っていく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（4館共通）2)（京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
2）平常展来館者数は、35,440人であった。また、展示替件数は749件であった。
（京都国立博物館）
1）特別展前後の準備・撤収期間を考慮し名品ギャラリー（平常展示）期間を設定した。展示替作業に応じて、平成知新館内の一部の展示室のみ開室する部分開館も実施し、柔軟に対応した。
2）年度計画に基づき、1件の特別企画、4件の特集展示を開催した。

【補足事項】
・特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」は、多神教を奉じた古代ギリシア世界と、日本の信仰風習とを対比させながら、当館収蔵の名品を展示した。新型コロナウイルスの影響を受け2年度から延期していたが、3年度は実施することができた。
・新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では、新春恒例の干支にちなんだ展示として、日本や東アジアの様々な虎をモチーフとした作品を展示した。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。
・特集展示「新収品展」では、元年度から2年度にかけて当館が新たに収集した絵画・書跡・染織・漆工・金工・陶磁など様々な分野の作品約40件を展示した。
・特集展示「後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―」では、当館とたつの市立龍野歴史文化資料館等の所蔵資料と共同研究の成果をあわせて展示し、従来知られていなかった地方有力首長墓の実像を紹介した。
・特集展示「雛まつりと人形」では、華やかな御殿飾り雛を中心に、各種の雛人形とさまざまな京人形を展示した。

「オリュンピア」展　展示風景

「寅づくし」展　展示風景

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	35,440人	－	－		136,862	146,314	158,664	18,941

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響を受け、来館者数は伸びなかったが、庭園の無料開放実施など、状況に柔軟に対応できた。新春特集展示「寅づくし」では、当館公式キャラクターのトラりんの元となった「竹虎図」を展示し、積極的な広報につなげた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度から実施延期となった特別企画をはじめとして、3年度は当初予定通りの展覧会を実施することができた。新型コロナウイルスの影響により、来館者数自体は伸びなかったものの、当館収蔵の名品を、多言語での題箋や音声ガイド（ジュニア版含む）、ワークシート等を活用して展示することで、幅広く来館者の新規開拓を図ることができ、中期計画の初年度として十分な成果を上げたといえるため、B評価とした。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1212C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（奈良国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり名品展を実施し、特集展示を１件開催した。（展示総件数：260 件、展示替件数：44 件）
・名品展「珠玉の仏たち」　　なら仏像館　４月１日～4 年３月 31 日
・名品展「中国古代青銅器」　青銅器館　　４月１日～4 年３月 31 日
・特集展示「新たに修理された文化財」　西新館　４年３月１日～3 月 27 日
2)下記のとおり特別陳列を開催した。
・特別陳列「お水取り」　西新館　４年２月５日～3 月 27 日

【補足事項】
・なら仏像館における名品展では、常時90件以上の仏像を公開した。特別公開として、当館の文化財保存修理所における修理が完了した奈良県野迫川村の高福寺所蔵の薬師如来坐像と、石川県白山市尾添区所蔵の阿弥陀如来立像を公開した。また、新たに個人から寄託を受けた吉野山伝来の仏像を調査の成果と共に公開した。また、主要な作品に子供向けの解説パネルを設置した。
・例年12月から開催している名品展「珠玉の仏教美術」は、同会場で特別展「絵画の殿堂　藤田美術館展」を開催することとなったため、開催しなかった。
・例年12月に開催している特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は、展示室の一部補修と4年度に計画している春日信仰関連の展覧会準備のため、開催しなかった。

特別陳列「お水取り」

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	52,178人	－	－		135,776	140,829	160,869	43,262

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	2年度と比較して、新型コロナウイルス感染拡大の影響による奈良県への来訪者の減少は若干改善してはいるものの、上半期の感染拡大が大きく影響して来館者数は伸びなかった。しかし、なら仏像館では例年とほぼ同じ件数の展示替を行ったほか、新知見の積極的な公表に努めるなど、来館を促す取組みに努めた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	仏教美術の専門館として他所にみられない高い質と量を備えた展示が開催できた。また、名品展や特集展示など随所において最新の研究成果を発信することができた。特に仏像館では、中期計画の初年度として、若年層の来館者の満足度を向上させる取組みを実施することができた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1212D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（九州国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1）計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。
2）実物展示に加えてレプリカや再現文化財も有効に活用しながら、従来の展示とは違った切り口から文化財への関心を喚起し、鑑賞の幅を広げる取り組みを行った。

【補足事項】
・特集展示「古代ガラスの世界－岡山市立オリエント美術館蔵品展－」は岡山市立オリエント美術館の優品によって、西アジアにおけるガラス誕生以前から中世にかけてのガラスの歴史を紹介した。ガラス製品がもつ多様な色彩や造形美は、多くのお客様に喜んでいただけた。
・特集展示「没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」では、江戸時代前期に6年ほど日本に滞在し、黄檗宗の仏像の造像などで活躍した中国人仏師・范道生（1635～1670）の足跡に光を当てた。作品の魅力を最大限に引き出した会場入り口の造作など、演出にも力を入れた。図録も刊行した。
・特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展 手わざ―琉球王国の文化―」は、近代化の波や戦災などによって失われた琉球王国の貴重な文化財とその手わざを現代によみがえらせた取り組みの成果を公開した。修復に携わった職人の貴重な声をパネルや講演会などで広く紹介することで、作品の美しさだけでなく、修復事業の意義にも関心をもっていただく契機となった。

特集展示「范道生」の展示会場入り口

・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点（「刀掛」、「寄掛」、「掛硯箱」）を展示した。あわせて、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も合わせて紹介した。
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」は2年度に引き続き、実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示することで、ガラスケース越しの観察やキャプション解説からだけでは分からない作品の魅力を発信した。このほか、4月6日より文化交流展示室で写真を撮影できるようにするとともにSNSでも使用できるようにして、お客様へのサービス向上を実現した。

	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	104,898人	－	－		350,848	349,114	348,563	81,230

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画に従って多彩な特集展示を行ったほか、年齢層の違いや障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる展示の取り組みを行い、年度計画を達成できた。来館者数は2年度に比べ約23,600人増加した。 4年度以降も新型コロナウイルス感染対策など講じながら、特集展示を通して研究成果を公開していく。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、中期計画の初年度として計画に沿った特集展示・特別公開などを開催した。4年度は日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に一層資するべく、種子島の代表的な文化財や皇室ゆかりの伊万里陶磁器を紹介する特集展示を計画している。3年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組む。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　丸山士郎

【実績・成果】
２年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、オンライン等による日時指定制を導入した。またオンライン予約が難しい来館者向けに当日日時指定券を準備するなど、日時指定予約のハードルを下げる運用を実施した。

【補足事項】
日時指定制により、快適な観覧環境とすることができた一方、人気のある展覧会では予約受付開始直後に日時指定枠が埋まり、観覧できない方が多く出る状況にもなった。今後は新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、より多くの方が来館できるよう運用について検討していく。

【評価指数】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	91%	86%	A		86.4	84.2	86.6	85.5
国宝　鳥獣戯画のすべて	94.1%	－	－	経年変化	－	－	－	－
聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ	85.3%	－	－		－	－	－	－
聖徳太子と法隆寺	90.6%	－	－		－	－	－	－
春夏秋冬	95.3%	－	－		－	－	－	－
最澄と天台宗のすべて	90.7%	－	－		－	－	－	－
ポンペイ	90.3%	－	－		－	－	－	－
体感！日本の伝統芸能	90.9%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
各展覧会とも非常に高い満足度を得ることができた。2年度に引き続き導入した日時指定制により、来館の手続きの煩雑さはあったが、快適な観覧環境の中で観覧できたことなど、好意的な意見が多く寄せられた。特に動く歩道を導入した特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」では、混雑が緩和されストレスなく観覧できたこと、また絵巻本来の鑑賞方法である手元で巻物を動かしながら見る感覚を体験できたことなどが評価され、非常に高い満足度となった。以上のことなどから、所期の目標を大きく上回る成果をあげたと判断し、A評価とした。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年３～４回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新たな中期目標期間となり、満足度の目標値が大幅に高くなったが、初年度となる3年度ではそれを大きく上回ることができた。今後も質の高い企画を維持しつつ、入館方法、会場構成を含め来館者が快適に観覧できる展覧会となるよう検討を続ける。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　来館者へのアンケート調査を実施した。
イ　新型コロナウイルス感染予防のため、2年度に引き続き、来館時の注意事項を多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用して周知し、安心して観覧できる環境を設定した。
○凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
・緊急事態宣言の発令を受け一時臨時休館したが、早朝開館を実施し、来館者の獲得に努めた。
・鑑真和上坐像の展示にあたって、坐像周辺を除き展示ケースを黒色シートで囲むことにより、寺院内で鑑賞しているかのような没入感を与える工夫を施した。
○特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」
・早朝開館に加え事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を図った。
・展覧会のテーマである文化財保護について紹介するためのコラムを、柱型造作で設置し、多言語（日・英・中・韓）によって、我が国における文化財保護を広く伝えることができた。
○特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」
・早朝開館に加え事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を図った。
・能楽関連作品の展示にあたり、展示ケース内壁面に能舞台を想起させる意匠を施し、本展覧会独自の展示空間を提供した。作品と芸能空間のつながりが強く印象に残ったとの意見が来館者アンケートに多く見られた。

【補足事項】

左：「京の国宝」での
文化財保護関連コラムの柱型造作

右：「畠山記念館の名品」での
能舞台を想起させる展示

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	80.5%	82%	B		81.9	94.6	80.6	73.9
鑑真和上と戒律のあゆみ	73.4%	－	－		－	－	－	－
京の国宝	88.5%	－	－		－	－	－	－
畠山記念館の名品	76.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大抑制のため、一時期臨時休館のやむなきに至ったが、早朝開館や事前予約制度を導入するなどの対策により、全ての展覧会を一定期間開催し、一定数の来館者を得ることができた。アンケートの定量的評価では8割方の来館者が満足していることに加え、観覧者の理解促進のために展示空間に凝らした工夫が目立って高く評価されていることは、来館者数の少なさを補うに足る成果と自負している。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（京都国立博物館）年１～２回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
各展覧会において、より没入感をもって作品を鑑賞できる環境を提供することに努めた。来館者アンケートでは、目標値と同程度の水準の満足度を得ることができ、他館で2年度に予定されていた展覧会の中止を受け、新たに仕立て直した「京の国宝」展を急遽開催し、中期計画では「年1～2回程度」を目標値として設定している特別展を3回開催したことは特筆すべき成果と自負している。よってBと自己評価する。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1220C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（4館共通）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア
・館内に設置した記述式アンケート及びウェブサイト上でのアンケートの集計結果、並びにウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。
・定期的に接遇スタッフの打ち合わせを実施して来館者からの意見・要望などを共有し、よりよい展覧会運営のために努力した。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・従前ボランティアの協力のもと実施していた対面アンケートについては、新型コロナウイルスの影響が続いている現状に鑑み、2年度に引き続き実施を見送った。ただし、記述式アンケートを館内の複数箇所に常時設置するとともに、来館者の目に留まりやすいよう掲示物を工夫し、より多くの回答を集められるよう努力した。
・第73回正倉院展では、入館待ち列での来館者同士のソーシャルディスタンス確保のため新館ピロティ床面に足元シールを貼り、来館者に見える形の感染症対策に取り組み、安心した観覧環境の提供に努めたことより、来館者の満足度向上に繋がった。

特別展「奈良博三昧」
アンケートコーナーの様子

「第 73 回正倉院展」
新館ピロティの様子

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	93.3%	89%	B	経年変化	88.1	89.8	91.4	91.1
聖徳太子と法隆寺	95.0%	－	－		－	－	－	－
奈良博三昧	96.8%	－	－		－	－	－	－
第73回正倉院展	92.0%	－	－		－	－	－	－
藤田美術館展	87.5%	－	－		－	－	－	－
聖林寺十一面観音	95.3%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 記述式アンケート及びウェブサイト上でのアンケートを実施し、幅広い層から回答を集められるよう工夫した。寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を共有した上で適宜改善に努めた。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（奈良国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に開催した特別展における来館者満足度は、目標値及び前中期目標の期間の実績を上回っており、中期計画を遂行できている。4年度以降もアンケートの結果などを活用し、引き続き特別展における満足度の向上を目指す。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1220D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展の開催にあたって、来館者アンケートを実施した。
・特別展「よみがえる正倉院宝物」においては、88.7%の満足度を得た。同展は宝物の模造事業を紹介する巡回展であるが、模造に従事した技術者に光を当てた、当館独自の教育普及展示などにより、高評価を得られた。
・特別展「皇室の名宝」においては、91.7%の満足度を得た。本展は、宮内庁三の丸尚蔵館の所蔵する名品をまとまった形で紹介する希少な機会であったが、同館のご協力のもと、九州にゆかりの宝物を多数ご出品いただいたことなども、高評価につながった。
・特別展「海幸山幸」においては、83.9%の満足度を得た。日本人と自然のかかわりを、日本神話を導入として、国宝・重要文化財を含む名品の数々で紹介することができた。
・特別展「最澄と天台宗のすべて」においては、92.6%の満足度を得た。国立3館を巡回する展覧会であるが、各館の立地などを考慮して展示作品が少しずつ異なっており、普段なかなか見られない作品を展示することができた。

【補足事項】

特別展「最澄と天台宗のすべて」会場風景

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	89.2%	86%	B	経	87.2	86.7	84.0	89.2
よみがえる正倉院宝物	88.7%	－	－	年	－	－	－	－
皇室の名宝	91.7%	－	－	変	－	－	－	－
海幸山幸	83.9%	－	－	化	－	－	－	－
最澄と天台宗のすべて	92.6%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の対策と両立しながらではあるが、目標を超える満足度を得ている。ただし、個別の展覧会に関しては、課題が残る。展覧会のテーマ性や特徴を的確に普及広報する努力を継続し、目標の維持や発展に努めたい。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（九州国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度通算では目標を超える満足度を得ており、中期計画に対し、着実に事業を進めている。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「鳥獣戯画のすべて」（4月13日～5月30日） （目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画彫刻室長　土屋貴裕

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」
会　　期	4月13日(火)～6月20日(日)※4月25日(日)～5月31日(月)は臨時休館
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、高山寺、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
作品件数	41件（うち、国宝7件、重要文化財14件）
来館者数	129,349人(達成率162%)
入場料金	一般 2,000円、大学生 1,200円、高校生 900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度94.1%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	国宝「鳥獣戯画」の全貌を紹介する展覧会。国宝4巻の全場面を一挙公開するとともに、かつて国宝4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結した。また、「鳥獣戯画」が伝わった高山寺中興の祖・明恵上人を紹介すべく重要文化財「明恵上人坐像」なども展示した。
学術的意義	本展は国宝「鳥獣戯画」の全四巻全場面を会期中場面替えなしで公開するとともに、断簡、模本も交え、今日確認される「鳥獣戯画のすべて」を一堂に会した史上初の画期的な展観となった。あわせて「明恵上人坐像」は28年ぶりの寺外公開となり、借用に際してはCTによる調査などを実施することができた。 絵巻作品の画期的な鑑賞方法として「鳥獣戯画」甲巻の前に「動く歩道」を設置した。
教育普及	・連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」を4月23日、24日に開催し、参加者数のべ276人であった。 ・小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・人気作品である「鳥獣戯画」甲巻の鑑賞にあたっては、新型コロナウイルスの感染対策と混雑緩和のために「動く歩道」を設置した。 ・報道内覧会：4月12日（月）281人出席。ポスター、チラシについては会期変更及び事前予約の導入等情報を更新して再制作。交通広告：JR-NSW27駅28面、私鉄5社フレコミボード43駅、東急線・みなとみらい線 横浜駅「メガセット」など出稿。雑誌：美術の窓、別冊太陽、時空旅人別冊などに掲載。テレビ：日曜美術館「生中継！”鳥獣戯画展“スペシャル内覧会」。開幕前に生放送にて最新の会場の様子を紹介したとことは展覧会広報として極めて意義があった。
補　足	 会場画像（動く歩道）　 会場の様子

	3年度実績	目標値
来館者数	129,349人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期途中で展覧会の一時中止などもあったが、来館者数は目標値を超えた。新型コロナウイルス感染拡大防止及び混雑対策として鳥獣戯画甲巻を鑑賞するために「動く歩道」という画期的な鑑賞方法を導入した。それにより混雑が緩和され、ストレスなく観覧できたと来館者の満足度も非常に高かった。また手元で巻物を動かしながら見るという絵巻本来の見方に近い鑑賞方法を提供できたことも特筆すべき点である。 日本美術の中でも最も魅力的な作品の一つである国宝「鳥獣戯画」及び、この類まれなる絵巻を伝えてきた高山寺と明恵上人に対する理解を深める企画となった。 以上のとおり、年度計画を大きく上回る成果をあげられたため、Ｓ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 イ　特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（6月22日～9月12日） （目標来館者数6万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	企画課長　丸山士郎

【実績】

展覧会名	特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
会　　期	6月22日(火)～9月12日(日)(72日間)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	29件（うち、国宝2件、重要文化財1件）
来館者数	59,125人(達成率99%)
入場料金	一般1,500円(1,400円)、大学生800円(700円)、高校生500円(400円)、 中学生以下無料　※(　)内は前売日時指定券の料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	奈良県桜井市に所在する聖林寺の十一面観音菩薩像（国宝）は天平彫刻の名品で、日本を代表する仏像の一つである。法隆寺の地蔵菩薩像、正暦寺の日光菩薩像、月光菩薩像とともに、江戸時代までは同市の大神神社にあった。大神神社は本殿を持たず、三輪山を拝む自然信仰をいまに伝えるが、奈良時代には仏教の影響を受けて神社に付属する寺（大神寺、後に大御輪寺に改称）や仏像が作られた。本展では、大御輪寺にあった仏像や、大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展覧した。
学術的意義	大神寺安置の仏像が一堂に会するのは明治元年以来、約150年ぶりである。聖林寺十一面観音菩薩像は平成10年に奈良国立博物館の特別展「天平」に出品されたのが最初の寺外公開で、その後は寺外に出ていない。本展を機に多くの方々に「天平の美」を鑑賞してもらうため、十一面観音菩薩像を展示する最新の展示ケースには高透過のガラスに低反射の処置を施し、ガラスの存在に気付かないほど露出展示に近い効果を演出するなど、観覧者に像の美しさを間近で体感してもらえる展示手法を採用した。
教育普及	・展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。 ・小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：6月21日（月）1,781人出席。ポスター、チラシについては会期変更及等情報更新して再制作。 交通広告：東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、東京メトロ（プラチナボード）15駅20面など出稿。雑誌：和楽など。テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。ほか当館ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNS等で情報発信を行った。展覧会公式ウェブサイトでは本展の関連動画を5本公開し、広報に努めた。
補　足	 会場画像　 会場画像

	3年度実績	目標値
来館者数	59,125人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本展は、平成10年に奈良国立博物館に出品されたのが最初の寺外公開で、その後は寺外に出ていないという聖林寺の十一面観音菩薩像について、広く鑑賞してもらう機会とする特別展であった。当初は2年度に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、3年度に延期して開催した。3年度にも新型コロナウイルスの感染予防に伴う国内外の移動制限が継続したため、目標としていた来館者数に届かなかったが、来館した方々からはアンケートでの満足度では85.3%という評価を得ることができた。 また、オンラインギャラリートークを配信するなどの工夫を重ねた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」（7月6日～令和4年2月20日）
（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員　勝木言一郎

【実績】

展覧会名	マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画 「イスラーム王朝とムスリムの世界」
会　　期	7月6日(火)～4年2月20日(日)(192日間)
会　　場	東京国立博物館　東洋館12・13室
主　　催	東京国立博物館、マレーシア・イスラーム美術館
作品件数	204件
来館者数	125,463人(達成率125.5%)
入場料金	一般：1,000円、大学生：500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会を、マレーシア・イスラーム美術館の全面的な協力を得て開催した。構成は、総論としてのムスリム世界の歴史と文化、各論としての 14 のイスラーム王朝のほか、「モスクの美術」「イスラーム書道芸術」「現代絵画」をテーマとする展示からなる。 主な展示作品としてはアカンサス文柱頭、エナメル彩騎馬鷹狩人物文鉢、ミフラーブ・パネル、宝飾ネックレスなどが挙げられる。
学術的意義	特定の国家や地域に偏ることなく、世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させるための展覧会は、従来、当館のみならず、日本においても開催されてこなかった。したがって、本展の開催意義は日本における展覧会史上きわめて大きいといえる。
教育普及	新型コロナウイルス感染拡大のため、イベントの内容をワークショップから講演会へと改め、12 月 8 日、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演会（於平成館大講堂）を開催した。また講師の来日もかなわなかったことから、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演の動画（日英 2 言語）を製作、発信するとともに、展覧会会場でも上映した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	鑑賞者の理解を促すため、日英2言語併記の図録を編集、刊行した。また会場ではイスラーム教に関する映像（日英2言語）の上映、章解説や年表（日英中韓4言語）の掲示、作品目録、作品解説（日英中韓4言語）の配布を実施した。 新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物はごく少部数の制作とし、館内及び上野近隣施設等での掲出・配布を実施した。印刷物による広報の代わりに当館ウェブサイトや当館公式SNS、及びSNS広告の出稿など、若年層向けにインターネット媒体による広報に注力した。また、会期も長いため、ポスター(展覧会ビジュアル)について2種類制作した。
補　足	 ムスリム世界の歴史と文化　展示 モスクの美術　展示

	3年度実績	目標値
来館者数	125,463人	100,000人

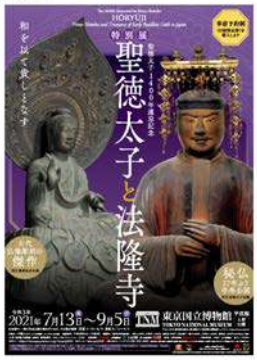
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大のため、来場を制限することとなったが、展覧会を通じて、日本におけるイスラーム文化の理解を促進できた。また、会期を長期間にわたって設定したことで、会場での密集をさけ、感染防止に努めた。世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させた本企画は、日本において前例がなかったことや目標を大幅に上回る数の来館者に鑑賞してもらえた実績を踏まえ、A評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 エ　特別展「聖徳太子と法隆寺」（7月13日～9月5日） （目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　浅見龍介

【実績】

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」
会　　期	7月13日(火)～9月5日(日)(49日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁
作品件数	178件（うち、国宝24件、重要文化財82件）
来館者数	69,640人(達成率87%)
入場料金	【前売日時指定券】 一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円 【当日券】 一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.6%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	聖徳太子の1400年遠忌を記念した特別展。企画構成としては歴史的な聖徳太子の実像にはじまり、その後日本仏教の根幹として発達した聖徳太子信仰の広がりを法隆寺所蔵の作品を中心とした207件により展観した。特に法隆寺の歴史や場、儀式といった文脈のなかで作品がどのように伝わり、使用されてきたのか展示を通じて表現することに留意した。主な展示作品としては、御物「法華義疏」、法隆寺金堂東の間本尊「国宝　薬師如来坐像」、法隆寺聖霊院本尊「国宝　聖徳太子および侍者像」が挙げられる。
学術的意義	100年に一度の大遠忌に相応しい特別展として法隆寺の全面的協力により、普段は非公開である貴重な文化財の多くを公開した。特に「国宝　薬師如来坐像」は明治9年の奈良博覧会出品以降、出品の記録がなく、学術的にも本像を間近で拝観し得たことは、広く日本の歴史学・美術史学においても特筆すべきことであったと言える。また借用期間中にはCT撮影調査を行うなど、さらなる文化財理解に努めた。
教育普及	漫画形式の冊子として『NHKジュニアガイド　聖徳太子と法隆寺』（非売品）を刊行したほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、YouTubeでギャラリートークの配信を行った。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：7月12日（月）127人出席。ポスター、チラシを制作、DMを実施。交通広告： JR駅貼り44駅 、東武－日比谷線・半蔵門線ドア横など出稿。雑誌：サライ、和楽などに掲載。テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」。新しい試みとして、会期中に展覧会公式Twitterにて、展覧会場の様子を紹介する生中継を実施した。ほか、当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSでも情報発信を実施。
補　足	 会場風景（第4展示室）

	3年度実績	目標値
来館者数	69,640人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であり、来館者数は目標を下回った。 しかしながら、アンケートでは満足度 90%を超える評価を得ており、100 年に一度の展覧会として聖徳太子と法隆寺にまつわる大変質の高い展示を行うことができ、学術的にも非常に意義の深いものとなったため、Ａ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aカ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 カ　特別企画「スポーツ NIPPON」（7月13日～9月20日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介

【実績】

展覧会名	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」
会　　期	7月13日(火)～9月20日(月)(62日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館企画展示室
主　　催	東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
作品件数	50件（うち、重要文化財3件）
来館者数	22,735人(達成率45%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を記念して、日本スポーツの歴史と文化を紹介する展覧会である。内容は2章構成で、計50件を展示した。第1章では東京国立博物館が所蔵する美術工芸品から江戸時代以前の日本スポーツの源流を紹介し、第2章では秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵する近現代スポーツ資料から明治時代以降の日本スポーツの発展を紹介した。
学術的意義	日本スポーツの歴史は古く、武士の武芸や神事、遊戯にルーツがあり、伝統文化として現代まで受け継がれている。そして、明治時代以降、西洋スポーツが広く普及し、オリンピックへの参加を通して国際的なアスリートたちが誕生・活躍した成果が1964年東京大会に結実した。こうした日本スポーツの歩みと魅力を、実物を通して多くの方々に知っていただくことができた。
教育普及	展示に対する理解を深めるためのオンラインギャラリートークを配信した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	当館ウェブサイトでの1089ブログでの紹介やSNS広告などを中心に広報を展開。雑誌:「美術の窓」、「相撲」ほか。インターネットメディア:「美術手帖」、「インターネットミュージアム」ほか。また、チラシは館内の特別展会場等を中心に配架し、来館者を誘導することに努めた。
補　足	 平成館企画展示室（第1章） 平成館企画展示室（第2章）

	3年度実績	目標値
来館者数	22,735人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本企画は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、国内外から東京を訪れる人々に向けて日本スポーツの歴史と文化を紹介するという時勢に応じた企画であった。そのため当初は 2 年度に開催予定であったが、3 年度に延期して開催した。3 年度にも新型コロナウイルス感染予防に伴う国内外の移動制限が引き続いたため、目標の来館者数には届かなかったが、オンラインギャラリートークを配信するなど、自宅からでも展示を楽しんでもらえるような工夫を重ねた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aキ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 キ　特別展「春夏秋冬」（仮称）（9月4日～11月28日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課長　松嶋雅人

【実績】

展覧会名	春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46
会　　期	9月4日(土)～11月28日(日)(75日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	14件(複製7点、映像インスタレーション7点)
来館者数	58,461人(達成率117%)
入場料金	一般・大学生　1,800円、高校生　1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度95.3%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	本展では、春夏秋冬の花が表された7点の日本美術（複製）とともに現代のポップカルチャーをあわせて紹介した。7つの作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46である。メンバー1人1人が花に見立てられ、彼女たちのパフォーマンスが、映像インスタレーションによって、日本の人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら示されていく展示とした。
学術的意義	乃木坂46が日々、表現している歌詞や世界観が文化財に重ねられていくことで、乃木坂46と日本の文化と、そして私たちが生きる日常／自然とが、地続きの存在であることを実感してもらえる展示を試みた。 本展を通じて、これまで古美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となった。
教育普及	―
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	本展のメインターゲットである若年層が学校、仕事帰りに来館できるよう、金・土は開館時間を20時までとするなど、開館時間を柔軟に設定することで、より多くの方に観覧の機会を提供することができた。 広報活動として、展覧会公式サイト、Instagram、Twitterでの展覧会情報発信や生配信、TBS「CDTVライブ！ライブ！」での本展会場及び本館大階段での乃木坂46によるパフォーマンス生中継などにより、若年層への周知を図ることができた。また、文化財活用センターの「ぶんかつブログ」内での展覧会紹介や総合文化展における実作品展示へと誘導するSNS広告(有料）により、従来の美術愛好者向けの広報も行った。
補　足	 会場写真　 会場写真

	3年度実績	目標値	
来館者数	58,461人	50,000人	

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であったが、アンケートでの満足度は90%を超えた。 また、本展を通じて、これまで古美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となったことは、大きな意義を持つと評価できる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aク

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ク　特別展「最澄と天台宗のすべて」（10月12日～11月21日） （目標来館者数6万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞

【実績】

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	10月12日(火)～11月21日(日)(36日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、文化庁
作品件数	82件（うち、国宝17件、重要文化財46件）、復元展示2件
来館者数	63,977人(達成率107%)
入場料金	【前売日時指定券】 一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円 【当日券】 一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.7%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展は、「最澄と天台宗の始まり―祖師ゆかりの名宝」、「教えのつらなり―最澄の弟子たち」、「信仰の高まり―天台美術の精華」、「教学の深まり―天台思想が生んだ多様な文化」、「現代へのつながり―江戸時代の天台宗」、「全国への広まり―各地に伝わる天台の至宝」という構成で、天台宗の開宗から江戸時代に至るまでの日本天台宗の歴史を時系列に追った辿ったのち、各地に伝わる天台美術を展示して天台宗の広がりを紹介した。
学術的意義	本展では、延暦寺における日本天台宗の開宗から、東叡山寛永寺を創建して太平の世を支えた江戸時代に至るまでの天台宗の歴史を紹介した。日本各地で守り伝えられてきた貴重な宝物や、『法華経』の説く万民救済の精神を表す文化財を、地域的な特色を示しながら展覧した。秘仏をはじめ、天台の名宝が集う貴重な機会となった。
教育普及	実施なし
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：10月11日（月）182人出席。ポスター、チラシ制作、DMを実施。交通広告：東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、JR東日本窓上チャンネルなど出稿。雑誌：芸術新潮、サライほか。テレビ：NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」ほか。10月26日、ニコニコ美術館による生中継を実施。ほか、当館ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNS等にて情報発信を実施した。また、展覧会場内で天台宗の僧侶らによる声明の無料ライブ配信コンサートを実施や、「月刊スピリッツ」（小学館）で連載したおかざき真里さん原作の歴史漫画『阿・吽』とコラボレーションによるイベント等を実施した。
補　足	 会場画像　 会場画像

	3年度実績	目標値
来館者数	63,977人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であったが、そのなかにあっても目標の来館者数を超えることができ、アンケートでの満足度においても90%を超える高い評価を得ることができた。また、秘仏をはじめ、天台の名宝が集う大変高品質な展示を行うことができ、学術的にも意義の深いものとなった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aケ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ケ　特別企画「手わざ―琉球王国の文化」（令和4年1月15日～3月6日） （目標来館者数3万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	企画課特別展室主任研究員　三笠景子

【実績】

展覧会名	特別企画「手わざ―琉球王国の文化」
会　　期	4年1月15日(土)～3月6日(日)(44日間)
会　　場	東京国立博物館
主　　催	沖縄県立博物館・美術館、東京国立博物館
作品件数	50件
来館者数	27,440人(達成率91.5%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	「手わざ」とは、作品を製作する手仕事の高度な技術を意味する。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた、琉球王国文化遺産集積・再興事業では、明治以降の近代化や先の戦争で失われた文化財とその製作技術の復元に努めてきた。この事業で完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野と多岐にわたり、携わった専門家、技術者は県内外100人以上にものぼる。本展では、琉球王国に伝わる卓越した技術でつくられた模造復元品を紹介した。
学術的意義	模造復元は、途絶えた製作技法の復元を行うため、学術的な意義がある。模造復元品は、可能な限り製作当時と同じ材料と技術を使って製作される。そのため、模造復元をする際には、手本となるオリジナルの作品、原資料について調査・研究を重ね、製作された当時の姿を忠実に復元し、新たに製作する。
教育普及	―
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター、チラシを制作、少部数のためDMは実施せず、館内での配架を中心に行った。交通広告：上野駅デジタルサイネージ。インターネットメディア：インターネットミュージアム、スフマート、和楽WEBなど。また、当館公式ウェブサイト、SNSにて情報発信を実施した。
補　足	 会場画像（模造復元品　玉御冠） 会場風景

	3年度実績	目標値
来館者数	27,440人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本展の主催者である沖縄県立博物館・美術館では、27 年度から 3 年度までの 7 年計画で、王国時代の手わざを現代に甦らせ、発信する琉球王国文化遺産集積・再興事業を起した。この事業は、明治以降の近代化や沖縄戦で消失した有形・無形の文化遺産に関して、絵画、彫刻（木彫、石彫）、工芸品（漆芸、陶芸、染織、金工、三線）の 8 分野 65 件のその製作技術を復元するもので、沖縄県の内外で巡回展を行うことを通じて、その成果品や新知見を発信する計画であった。本展において、失われた文化財の模造復元品を公開し、また模造復元を通して得られた最新の知見を紹介できた実績を踏まえ、Ｂ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aコ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 コ　特別展「ポンペイ」（仮称）（令和4年1月18日～3月13日） （目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造

【実績】

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会　　期	4年1月18日(火)～4月3日(日)(70日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	155件
来館者数	197,700人(達成率247.1%)
入場料金	一般　2,100円、大学生1,300円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展覧会は、ポンペイ遺跡の膨大な遺物を収蔵するナポリ国立考古学博物館が、その名品をかつてない規模で出品する「ポンペイ展の決定版」であり、床モザイク、壁画、彫像、工芸品の傑作から、豪華な食器、調理具といった日用品にいたる様々な発掘品を展示した。2000年前に繁栄した都市と市民の豊かな生活を体感できる、発掘資料の実物ならではの魅力がつまった展覧会となった。
学術的意義	古代ギリシャ・ローマ美術へのアプローチは、この20年間に変化している。すなわち、「作品」の技法や様式の変遷から文化史を論じる従来の研究に対し、モノと人／モノと社会との関係性を読み解く物質文化研究のアプローチが重視されるようになった。本展覧会は「名品」を中心に構成しつつも、こうした近年の研究動向を踏まえて形にしたポンペイ展であり、その面白さの一端を紹介できた点で重要である。
教育普及	小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成したほか、考古学や壁画の保存修復の現場を小学生向けに紹介するレクチャーを3回実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：1月13日(木)139媒体189出席。ポスター、チラシ制作、DM実施。交通広告： JRボード17駅20面、上野駅1面など出稿。雑誌：芸術新潮、美術展ぴあ、美術の窓など。テレビ： NHKBSプレミアム「古代ローマ・ポンペイ遺跡が日本にやってきた！」など。また、割引クーポン付きのステッカー、コースターなど上野商業施設や都内を中心に配布。ほか、当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSにて情報発信。さらにはTwitter生中継による展覧会紹介を計3回実施した。
補　足	 会場風景　　 会場風景

	3年度実績	目標値
来館者数	197,700人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う渡航制限により、イタリア側からのクーリエが来日できない状況ではあったが、お互いの信頼に基づき、事前の入念な打ち合わせやリモートによる連絡を取りながら、作品の輸送や展示を無事に完成することができた。ナポリ国立考古学博物館をはじめとする名品の数々を展示して、遺跡の再現空間を造作するなど、歴史的なポンペイ展となった。

密集を避けるため、展示作品を厳選し、会場の空間を広くとらなければならなかったが、その空間を遺跡の再現展示に用いるなど、来館者の満足度を高められるよう努めたことは、コロナ禍における展覧会の在り方として、大変意義のある試みであった。

展覧会は好評を博し、目標値を超える高い満足度を得ることができ、かつ、目標を大きく上回る来館者を迎えることができた実績を踏まえ、Ｓ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aサ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 サ　特別展「体感！日本の芸能」（令和4年1月7日（金）～3月13日（日）・表慶館） （目標来館者数3万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	ユネスコ無形文化遺産特別展「体感！日本の芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」
会　　期	4年1月7日（金）～3月13日（日）（48日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
作品件数	141件
来館者数	15,405人(達成率51.4%)
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.9%

告知ポスター

【成果】

企画構成展示作品	本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介する。各展示室では、来館者が実際に舞台に上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を展示する。
学術的意義	ユネスコ無形文化遺産に登録された5つの芸能を一度に「体感」できる史上初の企画である。本展では、来館者は伝統芸能の舞台・衣裳・小道具・楽器などを鑑賞するだけでなく、臨場感をもって体験できるという展示を試みた。また、プロの実演家や舞台を支える技術者による解説動画や、VR技術を活用したバーチャルミュージアムのインターネット公開を行った。
教育普及	―
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：1月6日(木)78人出席。ポスター、チラシ製作。交通広告：東京メトロ駅構内B1ポスター貼りなど出稿。雑誌：Discover Japan、美術の窓など。テレビ： TOKYO MX「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」など。当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSにて情報発信。また、展覧会公式ウェブサイトでは、本展の予告となるオリジナル映像コンテンツの動画を公開した。
補　足	 会場（歌舞伎）　 会場（雅楽）

	3年度実績	目標値
来館者数	15,405人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
本企画は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに合わせて開催する予定であったが、コロナ禍のために中止し、3 年度に改めて開催した。当初、本展の見どころとして、舞台小道具を直接手に取ったり、インタラクティブ機能を使って舞台化粧をメーキャップできるコーナーを用意する予定であったが、このような接触を伴う展示は感染防止のために取りやめた。想定していた展示を十分に実施できなかった点もあるが、歌舞伎舞台を再現して登れるようにするなど、来館者が体感しながら観覧するための工夫を重ねた。また満足度アンケートでは、満足度 90.9%という評価を得ることができ、目標を達成できた。
今後は、本展における体感展示の反省と検討を生かし、時代に応じた体感展示を構築してゆく。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3月27日～5月16日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績】

展覧会名	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会　　期	3月27日(土)～5月16日(日)(44日間)　※4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
作品件数	160件（うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件）
来館者数	18,797人（達成率：37.5%）
入場料金	一般 1,800円(1,600円)、大学生 1,200円(1,000円)、高校生 700円(500円)
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度73.4%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	古代から近代に至るまでの日本戒律史を通観する企画趣旨から、第1章「戒律のふるさと―南山大師道宣に至るみちすじ―」、第2章「鑑真和上来日―鑑真の生涯と唐招提寺の創建―」、第3章「日本における戒律思想の転換点―最澄と空海―」、第4章「日本における戒律運動の最盛期―鎌倉新仏教と社会運動―」、第5章「近世における律の復興」という構成にした。国宝「鑑真和上坐像」（奈良・唐招提寺蔵）を中心に、唐招提寺・東大寺・西大寺・泉涌寺といった戒律主要寺院の特別協力を得て、関連主要遺品をある程度網羅する内容となった。
学術的意義	戒律は僧侶・僧団のあり方を反映するため、インド・中国との受容方法の相異は仏教と日本社会の関係性を浮かび上がらせる。これは、日本の独自性を一程度明らかにする役割を果たす。本展では、古代から近代に至るまでの日本戒律史を通観することで、戒律運動の社会史的側面を明らかにすることを目指した。特に、仏教史学の近年の研究成果を反映させ、近世に視野を広げた点では画期的といえ、今日の研究段階を紹介し、主要視覚的遺品を網羅することで、今後の戒律研究の一里程標となったと自負している。
教育普及	・記念講演会（5回） 3月27日「鑑真和上の教え」西山 明彦 師（律宗管長、唐招提寺八十八世長老） 4月 3日「律とは何か」上杉 智英（当館 研究員） 4月10日「日本の戒律運動と日本人」大原 嘉豊（当館 保存修理指導室長） 4月17日「俊芿と宋代戒律の日本への影響」西谷 功 氏（泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員） 5月15日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」淺湫 毅（当館 上席研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。虎ブログを2回掲載した。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	18,797人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
緊急事態宣言発出に伴う政府の要請による臨時休館措置等の事由により、来館者目標値を下回る結果となり、それに伴いアンケートの回答数が他の展覧会と比較しても半分以下となった影響を受けて、アンケート満足度でも目標値を下回る結果となってしまった。しかし、メディアには好感をもって多くの媒体で採り上げられ、社会的には一定の評価を得ることができ、コロナ禍の中、記念講演会を５回開催することもでき、参加者からは非常に好評であったことから教育普及の面からも大きな成果をあげることができたといえる。
とりわけ、学術的価値については、前例のないテーマでの大規模企画展ということで評価が高く、文化財保護と日本文化に対する国民の意識向上に大きく貢献できた。
以上の成果を踏まえると、来館者数の少なさ等を補う成果を挙げたと考えるため、Ｂと評価する。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bイ

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「京の国宝－守り伝える日本のたからー」（7月24日～9月12日）
（目標来館者数8万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室研究員　森道彦

【実績】

展覧会名	特別展「京（みやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」
会　　期	7月24日(土)～9月12日(日)(44日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社
作品件数	120件（うち国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件）
来館者数	37,065人（達成率：46.3%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度88.5%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	2年度夏に文化庁主催のもと、京都市京セラ美術館において計画されていながら新型コロナウイルス蔓延のため中止となった同名の展覧会を、急遽当館で大幅に再構成し実施した展覧会。京都ゆかりの多数の国宝指定品及び文化財保護に関する様々な歴史資料を併せて展示し、文化財の持つ不滅の魅力とその保護のために欠かせない様々な営みについて紹介した。第1章「京都―文化財の都市」、第2章「京の国宝」、第3章「皇室の至宝」、第4章「今日の文化財保護」の4章に分け、多数の文化財を擁し、その保護が喫緊の課題であった京都という土地柄と我が国の文化財指定のあゆみにおける京都の働き、京都文化を今に伝える国宝指定品の数々、京都にゆかり深い皇室所蔵の文化財の名品及び皇室と文化財保護の関わり、今日の文化財保護において必要な調査研究、災害や防犯対策、保存修理や模造事業、について総合的に紹介した。展示品は「平家納経」（厳島神社蔵）や「三十帖冊子」（仁和寺蔵）をはじめとする国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件、総計120件。
学術的意義	京都ゆかりの国宝指定品を、分野ごとにある程度の通史性を確保しながら展観することで、日本の文化財の粋を実感できる展覧会となった。同時に、文化財に関する明治以来の研究や保護のあゆみを多くの新資料を紹介しながらひも解くことで、美術史研究の制度や科学技術の進展、修理や調査方法に関する様々な議論といった、文化財を取り巻く制度設計に関する総合的な問題意識を打ち出し、文化財史や近代史にとって意義深い展示となったと思われる。これらは文化庁と協働で実施するという展示スキームゆえに成し得たもので、従来知られていなかった文化庁所蔵資料の展観など、日本の文化財史にとって無二の展示とすることができた。総じて国宝の魅力を十二分に伝える優れた鑑賞体験を提供すると同時に、その背後にある様々な課題を提示すること、国宝とは何かという問いかけを行ったことで、来館者に通例のいわゆる「国宝展」とは異なる視座を提供できたと言える。ガラス乾板の展観など当館では従来にない展示を試み、初めて目にするが歴史のリアリティがよく伝わり面白かったという声が多く寄せられた。
教育普及	・記念講演会（6回） 7月24日「彫刻修理の歴史と現状」奥 健夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 7月31日「国宝・重要文化財の指定―書跡・典籍、古文書を中心に―」藤田 励夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 8月 7日「京の国宝―日本の文化財保護のあゆみと京都―」森 道彦（京都国立博物館 研究員） 8月21日「京の国宝―流転する工芸―」末兼 俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 8月28日「京の国宝―絵画の美と評価の歴史―」井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 9月 4日「今日の文化財保存技術―装潢修理、特に紙を中心に―」地主 智彦（文化庁文化財第一課 文化財調査官） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・毎週金曜日、講堂で文化財修理に関する映像「伝統の技」、「伝統の紙」（日本語のみ）を終日上映した。 ・当館の館史などを紹介するウェブサイト「きょうはく物語」（日・英・中・韓）を作成し公開した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。虎ブログを3回掲載した。 備考：会期が新型コロナウイルス第5波の影響に伴う緊急事態宣言発令の期間にほぼ重なったため、実施にあたって関係者と綿密に協議を重ねた。感染防止対策を徹底するほか、2年度に引き続き観覧時間指定券の導入、Twitterによる館内状況の定期的な情報発信を実施した。またニコニコ動画を利用し、同サイト「ニコニコ美術館」において展覧会内容を会期中配信し、展示内容の紹介や、時勢柄来館できない方々への展覧会の魅力発信に努めた。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	37,065人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
1 年未満の準備期間で急遽実施が決まった展覧会ながら、従来のいわゆる国宝展とは一線を画した内容で、国宝に象徴される我が国の文化財の指定や保護制度そのものの歴史や意義を考えていくという、独自色の強い内容として仕上がった。来館者からの評価も高く、また図録は再び参照した際に出来る限り有用な資料となるよう、充実したものを作るよう努めたため、学術的成果は非常に大きい。新型コロナウイルス第５波とそれに伴う緊急事態宣言の影響により、来館者数は目標値を下回る結果となったが、アンケート満足度では88.5%と目標値を達成することができ、「通例の国宝展より意義がありよかった」とのコメントも寄せられた。この他、学術的意義と、国内外の研究者からの評価を勘案するとＡ評価が妥当であると考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」（10月9日～12月5日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

【実績】

展覧会名	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」
会　　期	10月9日(土)～12月5日(日)(50日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、公益財団法人荏原畠山記念文化財団 畠山記念館、 日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	228件（うち国宝6件、重要文化財31件、重要美術品7件）
来館者数	39,782人（達成率：79.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度76.1%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	荏原製作所の創業者である畠山一清によって設立された畠山記念館のコレクションを公開する展覧会である。畠山記念館は茶道具を中心とする日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝 6 件、重要文化財 33 件、重要美術品 7 件を含む約 1,300 件にも及ぶコレクションがあり、次のようなテーマ構成を企画した。 第1章「蒐集の始まりと金沢」、第2章「能楽－美意識の支柱」、第3章「名品との出会い」、第4章「琳派」、第5章「興衆愛玩の想い」、第6章「畠山即翁と茶の湯」の6章で構成した。能楽、茶の湯を楽しんだ設立者・畠山一清の審美眼と美意識に触れられるように、茶事や演能の場面を追体験できるような造作等を行い、作品の紹介を行った。
学術的意義	これまで畠山記念館を含め、200件をこえる同館の所蔵品が一堂に展示されたことはなく、また関西の地で展示が行われたのも初めてであり、茶の湯や能楽をはじめとした諸分野の質の高い作品を数多く展示公開できたことはそのコレクションの意義や重要性を考える上でも極めて貴重な機会となった。 能楽や茶の湯、琳派作品など、各分野において作品調査を行い、その成果を図録に反映し、畠山記念館の学芸員と共業で作業することにより、それぞれの分野での新知見を得ることができた。
教育普及	・記念講演会（4回） 下記の通り実施を行い、各回100名ほどが参加した。 10月9日「共に楽しむ茶の美術館―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―」水田 至摩子（畠山記念館学芸課長） 10月23日「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束―加賀藩前田家伝来品をめぐって―」山川 曉（当館 工芸室長／企画室長） 11月6日「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」福士 雄也（当館 主任研究員） 11月20日「興衆愛玩―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―」降矢 哲男（当館 主任研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める必要もあり、展覧会共催者ともその運営や広報などについて協議を重ねた。その結果として、予約優先制の入場券を導入し、一部当日券を販売する形式をとることとなった。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては4回の掲載を行った。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	39,782人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
アンケート満足度は目標値に達することができなかったが、新型コロナウイルスによる影響が大きいなか、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができた。事前に作品調査を行い、新知見を含む内容をそれぞれの作品担当研究員によって図録に反映できたことは学術的にも大変意義深く、成果としても大きなものであった。
広報についても積極的に展開していき、各種新聞・雑誌で展覧会の紹介記事が掲載され、教育普及の面においても記念講演会 4 回いずれも 100 名ほどが参加され好評を博した。
以上の理由から、Ｂ評価が妥当であると考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」（4月27日～6月20日）
（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室主任研究員　山口隆介

【実績】

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」
会　　期	4月27日(火)～6月20日(日)(49日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿、文化庁
作品件数	174件（うち国宝36件、重要文化財75件）
来館者数	44,233人（達成率：44%）
入場料金	一般2,000円(1,800円)、高校・大学生1,400円(1,200円)、 小・中学生500円(300円)　※( )は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 95.0%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、また飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて、太子その人と太子信仰の世界を広く紹介した。展示の構成をジャンル別とせずに、仏教伝来から聖徳太子の活躍、没後の信仰の広がりを全5章に落とし込むことで、歴史の流れを体感できるように工夫した。 金堂東の間の本尊薬師如来像や四天王像（2軀）、聖霊院秘仏本尊聖徳太子及び侍者像、五重塔塔本塑像など法隆寺を代表する仏像を中心に展示を構成し、また明治11年（1878）に法隆寺から皇室へと献納され、現在東京国立博物館が所蔵する法隆寺献納宝物が、まとまって奈良へ里帰りする貴重な機会ともなった。
学術的意義	質、量ともに100年に一度の遠忌にふさわしい内容が実現し、金堂東の間の本尊薬師如来像をはじめ寺外での公開がほとんどなかった作品の出陳が叶うなど、かつてない規模の充実した法隆寺展となった。 また、金堂の諸像や夢殿本尊救世観音像、五重塔塔本塑像など、展覧会の事前調査で詳しい観察や高精細デジタルカメラによる写真撮影、X線CTスキャン調査を実施することができた。調査で得られた知見は展覧会図録に盛り込むとともに、展示会場のパネルや題箋にも反映させ、最新の成果を広く内外に発信することができた。
教育普及	展覧会図録（日英）、題箋（日英中韓）、パネル（日英中韓）、音声ガイド（日）を作成した。 記念講演会を1回（東野治之氏「聖徳太子－史実から信仰へ」[5月1日]）、公開講座を2回（三本周作「法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る」[5月22日]、山口隆介「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」[6月19日]）実施し、各回約80名が参加した。 法隆寺の歴史と聖徳太子の生涯を平易な解説と親しみやすいイラストで紹介したジュニアガイドを作成した（構成・イラスト:当館教育室アソシエイトフェロー翁みほり）。 関連イベントとして、「聖徳太子ジャンボすごろく」を2回、「なら仏像けんきゅー部と学ぶおもしろ歴史講座」を1回開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、交通広告をはじめ、新聞、テレビ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど幅広い媒体で展覧会情報を発信した。また、巡回先である東京国立博物館と合同で報道発表を行った。運営面では新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、事前予約優先制を導入した。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	44,233人	100,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 聖徳太子の 100 年に一度の遠忌という特別な機会にふさわしい内容の法隆寺展を開催することができた。コロナ禍で様々な制約があり、来館者数は目標値に達しなかったが、来館者アンケート満足度では 95%という非常に高い数値となった。また、徹底した感染対策を講じることで安心して観覧することのできる環境を整えることもできた。東京国立博物館との連携のもと多角的な調査研究を実施することで、最新の成果を広く内外に提示できた点も大変有益であった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 イ　特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」（7月17日～9月12日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績】

展覧会名	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」
会　　期	7月17日(火)～9月12日(日)(51日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	246件（うち国宝13件、重要文化財100件）
来館者数	34,659人（達成率：69%）
入場料金	一般1,500円(1,300円)、高校・大学生1,000円(800円)、 小・中学生500円(300円)　※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度96.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	奈良国立博物館の館蔵品の中から選りすぐった彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の優品 246 件によって、日本仏教美術 1,400 年の歴史をたどる展覧会。全 10 章で構成され、第 1 章から第 9 章までは、日本仏教黎明期の古代寺院の遺宝、密教や浄土教が生み出した仏像・仏画・仏教工芸、神とほとけが織りなす神仏習合の造形、高僧の肖像や書などのテーマに基づいて、古代から近世に至る日本仏教美術の流れを概観。第 10 章では時代やジャンルも広範囲に及ぶ奈良博コレクションの魅力を紹介した。展示を部門別に分けるのではなく、仏教美術の歴史の流れに沿うようにジャンルの垣根を取り払って各作品を配置した。更に各章のテーマの中で作品相互の有機的な関係が観覧者に対して視覚的に分かりやすく伝わるよう、展示台・壁紙・題箋・パネル・バナー等の配色を各章ごとに統一する工夫を凝らした。
学術的意義	東大寺戒壇院扉絵図等の新収蔵品について調査研究に基づく基礎データを収集、厨子入り両界曼荼羅など館蔵品を代表する重要作品について事前にX線CTスキャン調査を実施し、新知見を展示パネルや図録上で公表した。また全作品の基礎情報、作品解説を英語、中国語、韓国語に翻訳し、展示パネル、題箋、図録に反映した。さらに彫刻、絵画、書跡、工芸、考古各部門の館蔵品収蔵過程について館内に保管される文書資料の調査を実施し、その成果を図録の各論に反映した。
教育普及	会期中に実施した合計6回の公開講座について、感染症対策として聴講人数を90名以下に制限する中、全ての動画及び配付資料を館公式YouTubeチャンネル上に公開し、広く聴講の機会を設けた。 平易な言葉とイラストを活用したジュニアガイドを会場入り口で配付、親子向けの題箋及びパネルを会場内に設置するなど、仏教美術を初めて鑑賞する広い客層に親しんでもらえるよう工夫した。 奈良教育大学との連携事業として、出陳品のイメージを活用した親子ワークショップ「奈良博ざんまい わいわい紙ずもう」の動画を公式YouTubeチャンネル上に公開した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	アメコミ風を斬新なデザインのメインイメージをポスター、チラシ、デジタルサイネージ等の広報への展開、オンライン生中継動画「ニコニコ美術館」への当館研究員6名の出演、吉本興業所属若手芸人によるイベント「仏像けんきゅー部 奈良博三昧編」の開催等を通じて、若い客層への宣伝波及に努めた。 本展の開幕に合わせてデビューを公表した奈良博公式キャラクター「ざんまいず」のイラストをポスターやチラシ等の広報、ジュニアガイド、親子向け題箋パネル、LINEスタンプ、グッズなどに展開した。 公式キャラクター「ざんまいず」を音声ガイドにも登場させ、その声を担当する有名声優にSNS上で展覧会を紹介してもらうことで、かつてないほど若い客層が多く会場に足を運ぶ結果につながった。 全展示作品の会場内での写真撮影を可能とした結果、作品に深く親しむことができたという好評の声が多く寄せられ、展示品の写真がSNS上で紹介されることで大きな宣伝効果を得ることができた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	34,659人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 館蔵品のみで日本仏教美術の歴史を概観するという重厚な内容だったが、公式キャラクターを活用したジュニアガイド・題箋パネル・音声ガイドの展開、全作品撮影可とする等の取り組みを通じて広い客層から非常に高い満足度を得た。会期中にコロナ禍が全国的に深刻となる中、来館者数は目標値に達しなかったものの、徹底した感染対策とオンラインを活用したサービス提供により、安全な形で広く展覧会に親しんでもらう環境を整えることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ウ　特別展「第73回 正倉院展」（予定）（10月～11月） （目標来館者数6万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室研究員　三本周作

【実績】

展覧会名	特別展「第73回 正倉院展」
会　　期	10月30日(土)～11月15日(月)(17日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	55件
来館者数	73,968人（達成率：123%）
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度92.0%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件の中から55件が出陳された。3年度も、楽器・調度品・仏具・染織品・文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる構成となったが、二十数年ぶりの出陳となる正倉院の代表的な楽器や、まとまった点数の筆など、展示の目玉となる宝物も多数出陳された。 正倉院宝物の内容をわかりやすくたどれるようテーマ別に宝物を展示し、作品解説のみならず、研究成果を紹介するパネルも充実させて、見て楽しい、学ぶ場としての会場づくりを意識した。
学術的意義	近年、宮内庁正倉院事務所で実施された宝物調査の成果（①正倉院の筆の素材・構造に関する研究、②従来知られていなかった染色技法に関する研究）が発表され、これに関わる宝物が出陳された。会場ではこれらの成果について要点をまとめたパネルを掲示し、広く来館者の方に触れていただく機会となった。 特に、筆に関する成果は、筆の素材・構造と筆跡との関係にまで及んだもので、会場でも筆と書跡・文書を対照させて鑑賞するという新しい視点が開かれた。 また、上記の内容は展覧会図録にも作品解説及び宝物寸描（論考）として掲載した。
教育普及	新型コロナウイルスの影響下で来館者数の制限を行ったため、インターネットで動画配信を実施した。動画は宝物の魅力を工芸作家や研究員のコメントとともに紹介したテレビ局製作のもの、及び研究員による宝物解説を主とした館独自製作のものを配信した。 また、講座は予約制とし、会期中に3回実施した。 例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドでは正倉院展としては初めて研究員自身による解説を導入し、宝物の詳しい解説に触れていただくことができた。音声ガイドの貸出率は25.7%であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	正倉院展は、平常時であれば会期17日間で20万人以上が来館するため、新型コロナウイルスの蔓延防止の観点から入場制限を実施した。前売り日時指定制とし、2年度よりも来場者数を増やして1時間あたりの人数を500人と定めた。予約はインターネットと電話で受け付けた。ポスター、チラシ、主要駅でのデジタルサイネージなどで入念な広報を行ったため、運営上大きなトラブルは生じなかった。 入場時には来館者の行列ができたものの、入場を開始するとスムーズに流れ、大きな混乱は起きなかった。2年度より入場者数を増やしたが、作品を鑑賞しやすい環境は維持でき、概ね好評であった。入場料金については、平常時と比べ、高額であったが、鑑賞のしやすさから適切との評価が大勢であった。 また、特別協力の読売新聞社が3年に立ち上げた正倉院展特設ホームページにおいて図録やグッズを購入できるようにするなど、より広範な広報の展開とともに、サービスの充実が図られた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	73,968人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
感染拡大防止が大きな課題となる中、入館方法、広報、展示などについて関係者間で入念に検討し、適切な形で開催することができた。来場者数に関しては、2 年度の実績や昨今の感染状況などを踏まえて設定した結果、安全も確保しつつ所期の目標値を大幅に上回る数値を達成することができた。来館者には作品とゆっくり触れ合っていただく場を提供でき、アンケートでも高い評価をいただいた。ただ、車椅子を使用される方には展示位置が少し高かったと考えられ、是正が必要であることを痛感した。誰にでも見やすい展示を工夫することが今後の課題である。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（4年2月5日～3月27日）
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長　岩井共二

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
会　　期	令和4年2月5日(土)～3月27日(日)(47日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	31件(うち国宝4件、重要文化財1件)
来館者数	34,385人（達成率：85.9%）
入場料金	一般1,400円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度95.3%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	奈良時代彫刻の名作で日本を代表する仏像のひとつである国宝 十一面観音菩薩立像（奈良・聖林寺）は、かつて、国宝・地蔵菩薩立像（奈良・法隆寺）などとともに奈良・大神神社の神宮寺である大御輪寺に伝わったことが知られる。本展では、大御輪寺にあった仏像や大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品なども展示し、仏教と、日本古来の自然信仰が融合した三輪山信仰の有様も紹介した。
学術的意義	本展では、24年ぶりに寺外での公開となる聖林寺十一面観音菩薩立像を中心に、かつて大神神社の神宮寺であった大御輪寺の仏像が、明治初年の神仏分離以来150年一堂に会したことは近代以前の宗教観を再現するという点において意義のあるものであった。さらに、国宝の仏像を普段、寺院内では不可能な360度から鑑賞可能な展示で公開することは、鑑賞者の仏像の理解を深めることとなり、また多方向からの観察ができるということは日本の奈良時代彫刻史研究においても進展に大いに寄与するものであった。
教育普及	公開講座を開催し、64名が参加した。(4年3月5日（土)「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」岩井共二) 2月11日夜間特別鑑賞会は研究員レクチャー付きとし、特別感を演出するイベントとして実施。(参加者66名)。また、3月12日にはよしもとエリアアクションとコラボした奈良仏像けんきゅー部を実施（参加者73名)、3月13日「ニコニコ美術館「特別展『国宝　十一面観音菩薩』を巡ろう」を放送し、22,311名の視聴者を得た。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスターやチラシ、交通広告を始め新聞やテレビ、SNSなど幅広い広報媒体にて情報発信を展開した。プレスリリースは東京国立博物館と合同で実施した。展覧会会期中は聖林寺と当館の２カ所のスタンプラリーや住職も出演いただいた奈良仏像けんきゅー部のワークショップなど寺院と連携した関連イベントも充実させた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	34,385人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年度の開催が延期となったが、出陳者の理解を得て、3年度に開催することができた。会期中、大都市圏で蔓延防止措置が出されたこともあり、来館者数は伸びなかったが、展示件数が少ないにも関わらず、来館者からは高い満足度を得られ、所期の計画以上の結果となった。聖林寺十一面観音をはじめ、仏像の多くをケースなしで 360 度から鑑賞できる展示を実現し、照明や展示台の高さ、レイアウトにも配慮した展示が大きく評価された結果と考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1221Cオ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」（3年12月10日～4年1月23日）
（目標来館者数1.8万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績】

展覧会名	「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」
会　　期	令和3年12月10日(金)～令和4年1月23日(日)(35日間)
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	74件(うち国宝2件、重要文化財5件)
来館者数	13,773人（達成率：76.5%）
入場料金	一般1,200円、高校・大学生1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度87.5%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	31年度春に開催した特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」の続編として、藤田美術館の所蔵品の中から、コレクションの礎を築いた藤田傳三郎の美意識によって選び抜かれた絵画作品を中心に構成。藤田美術館と奈良国立博物館が共同で近年行った同館所蔵絵画作品の悉皆調査で見出された作品を多く展示するもので、全74件の展示作品中、初公開作品は23件（24点）、藤田美術館外での公開が初めてとなる作品も19件を数える。国宝・重要文化財に指定されるコレクションを代表する作品も併せて展示し、平安時代から近代に至る日本絵画史の流れを全7章によって概観する。
学術的意義	藤田美術館と奈良国立博物館の共同研究として31年度春より2年半にわたって実施した藤田美術館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づき、合計23件の未公開作品を初紹介し、調査で得られた基礎データ及び所見を図版とともに図録上で公表した。本調査には当初より当館客員研究員板倉聖哲氏（東京大学教授）、当館調査員中野慎之氏（文化庁調査官）の参加を要請し、図録・題箋の執筆についても中国絵画・日本中世水墨画分野を板倉氏、近代絵画を中野氏が担当することで、成果の学術的価値を高めることができた。また東京文化財研究所の協力により最新機器による高精細デジタル画像撮影を実施し、高解像度の図版を図録に多数掲載することで、初公開となる重要作品の細部を詳細に観察できる学術的価値の高い内容とすることができた。
教育普及	12月11日（土）午後1時30分～3時に公開講座「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」（講師：板倉聖哲氏［東京大学東洋文化研究所教授］）を開催。藤田美術館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づきながら、中国絵画及び日本中世水墨画の魅力をわかりやすく解説した。聴講無料、募集定員90名（事前申込先着順）、当日参加者59名。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど多くの媒体で展覧会情報を発信した。またオンライン生中継動画「ニコニコ美術館」（12月10日放映）で本展覧会を紹介し、広い客層への周知に努めた。更に新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、観覧者の入館時における検温、マスク着用及び手指のアルコール消毒の徹底、展示室内でのソーシャルディスタンス確保等の要請を行った。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	13,773人	18,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
日本を代表するコレクションを誇る藤田美術館の絵画作品を中心に取り上げ、藤田美術館と奈良国立博物館の共同による悉皆調査で発見された作品を中心に構成された、極めて学術的価値の高い展覧会を開催することができた。更にこれまでに当館で展示する機会の少なかった中国絵画、水墨画、近世・近代絵画を広く紹介することで、新しい客層に当館を認知してもらう貴重な機会になった。なおコロナ禍の制約により来館者数の目標値は達成しなかったものの、徹底した感染対策を講じることで安心して観覧できる環境を提供した結果、87.5%の満足度を得ることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1221D ア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（4月20日～6月13日）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室長　川畑憲子

【実績】

展覧会名	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」
会　　期	4月20日(火)～6月13日(日)（49日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	宮内庁正倉院事務所、九州国立博物館・福岡県、朝日新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局
作品件数	86件（うち国宝0件、重要文化財0件）
来館者数	18,157人（達成率：60.5%）
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　88.7%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	これまでに製作された数百点に及ぶ再現模造作品のなかから、選りすぐりの逸品を、陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、公開した。 作品の分野別に模造品を展示しただけでなく、模造の過程や、製作途中の部品なども追加して模造資料として展示した。また、当館では作品を追加して展示することで、模造の背景を掘り下げた。
学術的意義	正倉院宝物の模造事業では、重要無形文化財保持者らによる伝統技術の熟練の技と最新の科学的調査・研究成果の融合により、見た目だけでなく、内部まで忠実に再現されたものである。本展ではこうした模造の歴史やその意義を展示を通じて紹介した。
教育普及	模造事業に従事した技術者に光を当て、技術者たちのインタビュー映像や、模造に用いた道具を展示するコーナーを設けた。来館者からは、「インタビューが印象に残った」「もっと製作者の声が聞きたくなった」と好評をいただいた。 また、担当研究員によるリレー講座（2回、うち1回は動画配信に切り替え）を実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	多言語による音声ガイドを提供した。実機によるサービス提供に加えて、スマートフォン用のアプリによる音声ガイドも提供した。 展覧会を紹介する動画をウェブサイトで公開したほか、リレー講座の模様を動画で公開した。
補　足	 展示会場

	年度実績	目標値
来館者数	18,157人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
正倉院を代表する再現模造作品を展示し、文化財の模造事業の重要性について一定の周知を図ることができた。しかし、新型コロナウイルスの流行が続く状況の中、広報やイベントなどの制約が大きく、目標の来館者数には及ばなかった。ただし、本展の満足度調査では来館者から高い満足度を得ており、Ｂ評定とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」（7月20日～8月29日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部文化財課長　原田あゆみ

【実績】

展覧会名	特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」
会　　期	7月20日(火)～8月29日(日)（35日間） ※8月14日～15日は大雨の影響により、臨時休館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宮内庁、西日本新聞社、TVQ九州放送 日本経済新聞社
作品件数	68件（うち国宝4件、重要文化財0件）
来館者数	43,197人（達成率：86.4%）
入場料金	一般2,000円（1,800円）、高校・大学生1,200円（1,000円）、 小・中学生800円（600円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　91.7%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	宮内庁三の丸尚蔵館が収蔵する名宝を展覧した。本展では、元寇襲来の事績を描いた「蒙古襲来絵詞」をはじめ、近代国家としての日本の歩みを支えた、九州出身の偉人ゆかりの書画、天皇御即位や御成婚をはじめとする御慶事に際して九州各地から献上された品々をとおして、皇室と九州の深いつながりを紹介した。
学術的意義	九州の地で皇室コレクションを本格的に紹介する初めての展覧会となった。展覧会を構成するにあたって、皇室と九州のつながりに焦点を当て、これまでにない内容とすることができた。また、宮内庁三の丸尚蔵館の協力を得て、対馬伝来の仏像についての科学調査を行い、作品研究を深めた。
教育普及	館内において、以下の講演会を実施した。記念対談「やきもの王国・九州と近代の皇室」（沈壽官氏・岡本隆志氏、7月24日）、記念講演会「美を伝えゆく―「春日権現験記絵」と「動植綵絵」の修理を通して―」（太田彩氏、8月8日）、館員によるリレー講座（8月1日）①「九州と帝室技芸員」（望月規史）、②「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」（原田あゆみ）、そのほか、近隣地域に出向いて展覧会を紹介する講演会を行った。また、夏休みの子供向けイベントとして、さかなクンの特別講演会（7月25日）を設け、関係する展示作品に幅広く関心をもってもらう工夫を行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	九州で皇室コレクションをまとまった形で紹介する初めての展覧会であり、動植綵絵や蒙古襲来絵詞など、宮内庁三の丸尚蔵館の名だたる名品が揃う貴重な機会となった。ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビCMでは、明快なタイトルとともに、九州に関係する作品と宮内庁三の丸尚蔵館の名品の魅力をわかりやすく紹介するよう努めた。 展示レイアウトは来館者混雑を避けるため導線を単純にし、特に混雑が予想される作品の周辺は空間にゆとりを設けた。また、動植綵絵をはじめとする名画鑑賞のために開発された照明器具を採用するなど、質の高い展示を目指した。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	43,197人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たに指定された国宝 4 件を紹介すると共に、九州初公開の名品も多く、御物・聖徳太子二王子像、御物・法華義疏、を特別に公開する機会を得て、展覧会への関心は高かったといえる。 新型コロナウイルス禍にある中での展覧会のため、展示室全体が密にならないよう展示レイアウトを検討し、展示室内での会話や滞留する来館者に注意を促した。その際、鑑賞者のストレスにならないよう、注意喚起はパネル掲示にて行うなど工夫した。これらは、来館者から概ね好評であり、高い満足度につながった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ウ　特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景」（10月9日～12月5日） （目標来館者数4万人）			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子

【実績】

展覧会名	特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景」
会　　期	10月9日(土)～12月5日(日)（50日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送
作品件数	96件（うち国宝11件、重要文化財24件）
来館者数	17,383人（達成率：43.4%）
入場料金	一般1,600円（1,400円）、高校・大学生1,000円（800円）、 小・中学生600円（400円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　83.9%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	日本人と自然との関わりをテーマとする展覧会。展覧会冒頭では、海幸彦・山幸彦の兄弟にまつわる神話を読み解きながら古来育まれてきた日本人の自然観を紹介した。続いて「海幸」「山幸」の2部構成として、海と山にまつわるそれぞれ4つのテーマを設けて絵画、彫刻、書跡、考古など多岐にわたる全96件を展示した。教科書でもよく知られた国宝「銅鐸（桜ヶ丘町出土）」（兵庫・神戸市立博物館）や国宝「平家納経」（広島・嚴島神社）、近年国宝となった大阪・金剛寺「日月山水図屏風」、九州では初めての公開となる山元春挙筆「昭和度主基地方風俗歌屏風」（東京・宮内庁三の丸尚蔵館）、木喰上人の最大作品「阿弥陀如来坐像（五智如来のうち）」（宮崎・西都市）など、多彩な作品を紹介した。
学術的意義	日本人と自然という壮大なテーマを様々な切り口によって捉える展覧会。古来、日本人がいかに深く自然と関わりその恩恵を受けてきたのか、日本人独特の感性が生み出した豊かな造形によって、その在り方を視覚的に示した。展覧会初出陳の作品も含む多くの優品を展示した。
教育普及	館内ホールにおいて、特別講演会（1回）及びリレー講座（2回）を実施した。詳細は次のとおり。「海山への祈り―九州の祭りの風景―」（10月9日、森弘子氏）、きゅーはくオータムスクール（第1回〈10月30日〉：森實久美子、今井涼子、大澤信、第2回〈11月13日〉：松浦晃祐、樋笠逸人、望月規史） そのほか、近隣地域に出向いて展覧会を紹介する講演会を行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	会期中には上記講演会を行ったほか、ウェブサイト上での動画公開やテレビ（NHK「日曜美術館アートシーン」など）やラジオでの紹介によって展覧会の普及に努めた。広報の一環として、JR九州とタイアップして観光列車「海幸山幸号」の特別運行を行い、併せて乗客への講演会を実施した。
補　足	会期について、当初は2年7月21日～9月13日で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によっておよそ15か月延期となった。

展示風景
阿弥陀如来坐像（宮崎・西都市）

	年度実績	目標値
来館者数	17,383人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、感染防止対策に努めたものの来館者数は目標には及ばなかった。しかし、「日本人と自然」というテーマは、「SDGs」の趣旨とも合致し、近年関心の高まりつつある日本の自然をテーマとした初めてとなる大規模な展覧会を開催することができた。近隣地域に出向いて講演会を行うなど、展覧会の普及に努め、より理解を深めるための様々な取り組みを実施したことで、来館者の満足度を高めることができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 エ　特別展「最澄と天台宗のすべて」（4年2月8日～3月21日） （目標来館者数4万人）			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室研究員　大澤信

【実績】

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4年2月8日(火)～3月21日(日)（37日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、西日本新聞社、文化庁
作品件数	114件（うち国宝23件、重要文化財69件）
来館者数	29,518人（達成率：74.8%）
入場料金	一般1,900円（1,700円）、高校・大学生1,200円（1,000円）、 小・中学生800円（600円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 92.6%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	平安時代初期に天台宗を開き、その教えを全国に広めた伝教大師最澄の没後1200年を記念して、最澄と天台宗の歩みを、比叡山延暦寺や九州はじめ西日本を中心とした天台ゆかりの寺社に伝わる宝物によって紹介した。現存最古の最澄の肖像彫刻と伝わる「伝教大師（最澄）坐像」（滋賀・観音寺）、入唐求法の旅から帰国して天台教学を発展させた円仁ゆかりの「聖観音菩薩立像」（滋賀・延暦寺）、さらに天台密教と山岳信仰が融合して生み出された九州独自の尊像「太郎天及び二童子立像」（大分・長安寺）などを展示した。また、特設コーナーを設け、織田信長による比叡山焼き討ちを経て見事に復興を遂げた延暦寺根本中堂の再現展示を行った。
学術的意義	天台宗の展覧会が九州で開催されるのは36年ぶりで、この間、「菩薩遊戯坐像（伝如意輪観音）」（愛媛・等妙寺）や「性空上人坐像」（兵庫・圓教寺）など全国各地の天台宗寺院で新たな文化財が発見、報告されている。本展ではその研究成果を発表するとともにいくつかの作品ではX線CTスキャンなど最先端の機器を用いた像内納入品などの調査を行い、そのデータをもとに3Dプリンタでレプリカを製作、展示した。
教育普及	天台宗の歴史や文化に対する理解を促進するため、写真や図を多用した解説パネルを掲出した。また、比叡山とその荒行である千日回峰行について、イラストを交えながら親しみやすく紹介する教育普及コーナーを設けた。さらに、最澄が乗った遣唐使船の模型（約20分の1）も復元、展示した。 作品キャプションは、障がい者が認識しやすい字体を用い、バリアフリー対応にも力を入れた。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、テレビCMはもちろんのこと、若い世代を対象としたSNSによる広報にも力を入れた。SNSでは、出展作品に親しみやすいキャッチフレーズを添えて紹介するなど、理解を深めるための工夫を凝らした。インターネット配信による展示解説も行った。
補　足	 展示会場

	年度実績	目標値
来館者数	29,518人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 日本の仏教のみならず、美術や社会・文化に大きな影響を与えた天台宗を通史的に紹介するのみならず、西日本に伝わる宝物や山岳信仰に焦点を合わせ、また、千日回峰行に関する詳しい解説を教育普及コーナーとして独自に展開するなど、新たな試みにも意欲的に取り組んだ。その結果、来館者からの高い満足度にも繋がり、Ｂ評価が妥当と考えられる。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1231A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)(4館共通)ア、イ(東京国立博物館)ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　猪熊兼樹 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 教育普及室長　藤田千織 室長　鬼頭智美 平常展調整室長　皿井舞

【実績・成果】
(4館共通)
ア　平常展の題箋及び解説等について、4言語(日、英、中、韓)にて情報提供を行った。
イ　すべての来館者にとって快適な展示環境となるよう、題箋や解説パネルにユニバーサルデザインのフォントを導入した。また、バリアフリー化の一環として、平成館2階男子トイレ小便器更新工事を行った。
(東京国立博物館)
ア　日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室と9室にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を引き続き上映した。
　また、本館13室の誘導サイン、本館14室コーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入し、鑑賞環境の向上を図った。なお、誘導サインとデジタルサイネージでは、4言語にて展示の見どころなどの情報を発信した。
イ　本館特別1・2室改修工事の工事発注に向け設計及び積算を行った。また、展示ケース、照明、グラフィックデザインを立案した。
ウ、キ　日英中韓の4言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新されている。インタラクティヴコンテンツの提供及び展示室内に設置したビーコンとシステムの連動などにより、解説をスムースに提供し、作品への理解促進を図った。Google Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積も継続した。総合文化展関連の季節のイベントに合わせアプリ内のデジタルスタンプラリーを活用する、展示室で配布するワークシートにQRコードを掲載しアプリダウンロードへ誘導するなど、活用促進を図った。
エ　大講堂の月例講演会において、ヒアリングループの設置・管理と、聴覚補助を目的とする音声認識サービス「UDトーク」アプリを導入した。
オ　3年度「案内と地図」の配布を行った。また、4年度「案内と地図」(総合案内パンフレット)(7言語(8種))を制作した。なお、開館時間等流動的になっても配布できるよう、途中変更の多い部分は割愛、基本情報のみとするよう調整した。
カ　本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作し、配布した。
キ　引き続き、より基礎的な解説を盛り込んだ4言語のグループ解説パネルを設置したほか、個々の作品解説の各言語の内容を検討し、新デザインの題箋とともに一部の展示室で試験的に導入するなど、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組んだ。
ク　文化財活用センターと共同で、本館特別3室に日本美術に親しむための高精細複製品や非接触体験展示を楽しめる「日本美術のとびら」を6月より開室した。また、親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」として、レプリカやデジタルコンテンツを活用した体験型展示を行った。恒常的に同コンテンツを含む日本文化体験が行える参加型展示室を整備し、「日本文化のひろば」として、4年1月に開室した。

【補足事項】
ウ　アプリの3年度のダウンロード数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」1,517件(累計3,392件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計23,483件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)
・iOS版「トーハクなび」31,519件（累計35,451件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計56,980件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、館内のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、4言語での情報提供を行うなど、快適な観覧環境を提供できた。 トーハク新時代プランに基づく、館内のデジタルサイネージや誘導サイン、展示解説の整備や新たな展示室の開室など、計画どおりに事業を実施できた。 また、公開中のアプリ「トーハクなび」は計33,036件のダウンロード実績をあげた。自宅でも使用できるほか、総合文化展利用者へのダウンロード誘導施策により、より広い範囲の来館者への活用を促進した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、4言語による解説等の掲出の継続と、館内施設のバリアフリー化の充実、トーハク新時代プランに掲げる展示室リニューアル工事の推進等計画を推進できた。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の手法を変更せざるを得なかった部分もあるが、鑑賞ガイドアプリの活用、体験型展示の運営の工夫などにより一定の成果を上げられた。今後も高齢者・障がい者・外国人・乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行うための整備を推進していく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川暁

【実績・成果】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説文、並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。題箋や解説文、平常展音声ガイドは4言語（日・英・中・韓）対応、特別展音声ガイドは新型コロナウイルスの影響により、2年度に引き続き2言語（日・英）対応を行った。
イ
・特別展の題箋にユニバーサルデザインのフォントを使用し、より多くの来館者にとって読みやすい表示ができた。
・来館者の通行する位置にあるグレーチング（雨水側溝蓋）の目が粗く（隙間3cm程度)、杖利用者が躓く恐れがある事から、目の細かいもの（隙間１cm以下）に交換した。
・屋外便所の洗浄スイッチが非接触式のため、視覚障がい者がスイッチの存在に気がつかない恐れがある事から、押しボタン式に交換した。
・新型コロナウイルス対策として、機械換気設備の設定を調整して展示室における必要換気量の確保を行った。

（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語（8種)：日・英・中（簡体字・繁体字)・韓・仏・独・西）を継続配布した。
イ　デジタルサイネージを活用して、カフェ・レストランを含めた館内各施設を紹介できた。また、Ｌアラート対応可能となる設備を整えた。
ウ　スマートフォンアプリを活用した体験学習型コンテンツ開発の一環として、Wi-Fi環境についての情報発信を行うため、「Wi-Fiマーク」を付与した屋外展示物の解説パネルへのリニューアルを実施した。
エ　2年度作成した名品ギャラリーのジュニア版音声ガイドについて、3年度も継続して使用し、若年層の音声ガイド利用増加を促すことができた。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」の題箋にユニバーサルデザインフォントを採用し、特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」でも引き続きユニバーサルデザインフォントを使用した。

グレーチング交換工事状況

屋外便所の洗浄スイッチ交換状況

「京の国宝」展時の題箋

音声ガイド利用台数
・凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(2言語　日・英）2,495台
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」(2言語　日・英）4,662台
・特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」(2言語　日・英）4,691台
・名品ギャラリー（4言語　日・英・中・韓）1,808台
　うちジュニア版音声ガイド（4言語　日・英・中・韓）84台

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化等を行い、特別展の題箋フォントのユニバーサルデザイン化を実施したことで、より多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 特別展の題箋フォントのユニバーサルデザイン化や、多言語化についての機構内他館との意見交換会を実施することで、観覧環境の向上を図ることができた。また、中期計画の初年度として館内施設のバリアフリー化等も行い、中期計画を遂行できている。今後も継続して実施することで、良好な観覧環境の提供を行いたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1231C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展及び各特別展において題箋・解説パネルを4言語対応した。また、特別展「奈良博三昧」においては低年齢層向けの平易なパネルを作成した。
イ　特別展「聖徳太子と法隆寺」、特別展「奈良博三昧」、「第73回正倉院展」、及び特別展「国宝 聖林寺十一面観音」では、有料の音声ガイドスクリプトを準備し、耳の不自由な来館者にも音声ガイドと同じ内容を楽しんでもらえるよう工夫した。なお、すべての展覧会でスクリプトの貸出実績があった。
（奈良国立博物館）
ア　環境整備のためのクラウドファンディングを初めて導入した。
イ　公式キャラクター及びイラスト、ピクトグラム、日英中韓の4言語を用いた館内看板を新たに作成、更新等を行い、外国人来館者や障害者にもわかりやすい内容で、より快適な観覧環境を確保するよう努めた。
ウ　3年度は、来館者数を制限している状況などを踏まえ、例年正倉院展の際に実施していた看護師派遣の依頼は取り止めた。ただし、救護室及び授乳スペースを設置し、来館者が安心して観覧できるよう努めた。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中：簡体字・繁体字、韓、仏、独、西）を制作する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、入館者が減少し残部があったため3年度は制作しなかった。公式Twitterにて、展覧会の開館状況などを情報発信することで周知に努めた。
オ　総合案内カウンターに外国語（英語、中国語）対応ができるスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実に努めた。

【補足事項】
・新型コロナウイルスの感染拡大予防対策として、2年度に引き続き、手指用アルコールの設置や入館時の検温などの対策を行い、来館者が少しでも安全な環境で観覧できるよう努めた。
・展示室の適正な温湿度管理のため、空調機メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。
・3年度の特別展のうち、特に混雑が予想された「第73回正倉院展」では、快適な観覧環境を実現するため、入館方法についての案内看板やコインロッカーの利用案内看板を作成した。
・館内の茶室「八窓庵」及び日本庭園について、バリアフリー化を含めた改修のための資金を募るため、クラウドファンディングを行い、554名から10,625,380円の寄附を得た。それにより、庭園を快適な環境で公開するための改修準備を進めることができた。

「第 73 回正倉院展」案内看板の様子

茶室・庭園改修のための
クラウドファンディング

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 混雑が予想された展覧会では新規の看板を作成するなど、より快適な観覧環境を提供に努めた。新型コロナウイルスの影響を踏まえ、紙媒体の印刷及び配付が積極的には行えなかったものの、公式TwitterやYouTubeを利用したデジタル配信による周知及び情報提供ができた。 また、茶室及び日本庭園の改修を実施するため、当館として初めてクラウドファンディングを導入し、外部資金を獲得したことは、高く評価できる点である。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 音声ガイドスクリプトの提供及び題箋、看板等の多言語化や、SNSを活用したPRを実施することで、あらゆる立場の来館者に博物館を楽しんでもらえるよう努め、中期計画を遂行できている。 また、環境整備のための資金獲得策としてクラウドファンディングを初めて導入するなど、新たな手法を取り入れたことは評価に値することであり、中期計画を順調に遂行していると判断した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1231D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　文化交流展（平常展)、特別展（「よみがえる正倉院宝物」「皇室の名宝」「海幸山幸」「最澄と天台宗のすべて」）において、題箋及び作品解説について４言語（日、英、中、韓）にて情報提供を行った。
イ
・特集展示「古代ガラスの世界」におけるパネル類及び題箋、特集展示「手わざ」における題箋についてユニバーサルデザイン（以下 UD）フォントを使用し視認性を高めた。また、小企画「ならべてわかる本物のひみつ」においてもパネル類及び題箋に UD フォントを用いたほか、点字解説及びチラシを作製した。
・新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。
・非接触サーモグラフィーでの検温の実施。
・来館者へマスク着用必須を喚起。
・来館者同士の適切な距離の確保の呼びかけを実施。
・スタッフはフェイスシールドやマスクを着用。
・足踏式消毒液を増設。
・密を避けるため展示室毎の滞在可能者数を制限（文化交流展示室：400人、特別展示室：650人)。
・10人以上の団体はお断り（11月2日から受け入れを再開)。
（九州国立博物館）
ア　特集展示「范道生」及び特集展示「古代ガラスの世界」において、ボックス状の解説台を設置し、解説や年表など、副次的な情報の掲出につとめた。また、特集展示「手わざ」において、映像やプロジェクションマッピングを使用して情報を提供し、理解の促進に努めた。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新した。
ウ　館内案内リーフレット（7 言語：日、英、中（簡体字)、韓、仏、独、西）を制作し配布していたが、3 年度より中国語(繁体字)でのリーフレットも新たに制作し、配布した。
エ　文化交流展（平常展）において４言語（日、英、中、韓）の音声ガイドによる情報提供を行った。文化交流展では、4年4月より既存音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含めて誰でも利用できる新ガイドシステムを導入する計画である。3年度はこの新ガイドシステム実用化に向け、新システムの構築と解説原稿の作製を進めた。

新ガイドシステム館内職員向け体験会

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、来館者が安心・安全に観覧できる環境づくりを行った。また、題箋にUDフォントを用いたり、点字つきチラシを配布したりする等の館内におけるUD化の取り組みを継続できている。さらには、音声ガイドに代わる新ガイドシステム実用化に向けた具体的な検討も進んでおり、年度計画を順調に遂行できた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、館内のUD化や、文化交流展の音声ガイドに代わる新システムの導入準備などを行った。また、文化交流展及び特別展において、題箋及び作品解説について4言語（日、英、中、韓）にて情報提供する等、多くの来館者が快適に過ごせる観覧環境づくりを継続し、中期計画を円滑に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1232A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】・Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ、エ（東京国立博物館）ア

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】

（４館共通）

ア　来館者アンケートの集計方法を、2年度に引き続き会場内に設置する形から、直接来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。

イ　創立150周年を記念して、貴重な写真資料をふんだんに使用したカレンダーを監修し、ミュージアムショップにて販売した。

ウ

・特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」では、日時指定枠確保のため、通常より開館時間を延長し（当初は9時～19時、臨時休館を挟んで再開後は8時30分～20時）、また、臨時休館による会期日数減を補うため会期を延長した。さらに、休館予定であった6月14日（月）は午後から臨時開館し、より多くの方が予約できるようにした。また「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」では、来館者層が学生、仕事をしている方が多いことが想定されたため、金曜・土曜は20時まで閉館時間を延長するとともに、会期後半の11月21日（月）は臨時開館し、閉幕日の11月28日（日）は20時まで閉館時間を延長した。特別展「ポンペイ」では、会期途中から週末の日時指定枠が埋まる状況になったことから、3月からの金・土・日曜は、18時閉館と開館時間を1時間延長した（最終週の3月28日(月)からは全日18時まで、4月1日（金)、2日（土）は20時まで延長)。

・今まで春と秋の期間限定開放であった庭園について、大規模リニューアルを実施し、3年度より庭園全体の通年開放を始めた。

（東京国立博物館）ア

・特別展「最澄と天台宗のすべて」の会期中に、平成館ラウンジで特設カフェ「梵字カフェ」をオープンし、展覧会と関連したラテ等を販売した。

・3年度も敷地内にキッチンカーを2台設置し、飲食物の販売を行った。「博物館でアジアの旅」期間中は、アジア系の飲食店、特別展「ポンペイ」期間中はイタリア料理にそれぞれ特化した店舗を重点的に出店するなどし、特別展等の一層の盛り上げを図った。また、「博物館でお花見を」期間中は、リニューアルした庭園内にキッチンカーを1台追加し、テーブルと椅子も増やして来館者が庭園内でゆっくりくつろげるようにした。

【補足事項】（４館共通）

ウ　特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館により、開催日数が当初予定より少なくなることとなったが、作品保護に十分配慮し、文化庁及び所蔵者、共催者とも調整しながら、会期及び開館時間を柔軟に変更・延長し、少しでも多くの方が予約できるよう努めた。また「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」では、乃木坂46の東京ドーム公演日に展覧会の予約も増えることが想定されたため、共催者と協議し、休館日の臨時開館を決定し、より多くの方に観覧の機会を提供することができた。

エ　3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総合文化展の夜間開館は実施を見送ったため、夜間開館時のアンケートは実施できなかった。

（その他）庭園通年開放により、春・秋だけに限らず1年を通じて庭園を散策することができ、来館者からも大変好評であった。

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	66%	69%	B		68.1	71.3	71.7	65.4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	３年度も新型コロナウイルス感染拡大による入館者数の大幅減のため、法隆寺宝物館ガーデンテラスのレストランが２年度に引き続き閉店となったことが影響し、満足度が２年度同様低い結果となった。 しかしながら、２月中旬からは、東洋館のレストランのメニューをコロナ禍前と同等の品数に増やし、３月中旬以降の週末を中心にレストラン前のスペースでカフェの営業を開始するなど改善を行った。 なお、ミュージアムショップについては新商品の積極的な開発などもあり、高い満足度となった。また、館内スタッフの対応についても２年度を超える満足度とすることができた。 以上、総合的には十分に目標を達成していると考える。引き続き、レストラン及びキッチンカーの一層の充実など、来館者の食事の選択肢を増やすことに努め、レストランの満足度を上げられる方策を検討する。

【中期計画記載事項】来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外国人来館者がしばらく見込めない状況ではあるが、混雑する特別展では早朝開館、夜間開館など柔軟に開館時間を延長できるように共催者とも事前に検討するとともに、総合文化展についても状況を見て夜間開館が再開できるよう準備をする。 キッチンカーの店舗を展覧会に関連した内容にするなど、キッチンカー業者とも連携できたことにより、展示の盛り上げも図ることができた。今後も引き続き飲食店と展示との連携を図っていく。 来館者の接触がある券売機のタッチパネル、ロッカー、エレベーター等には、光や風によって除菌ができる処置を行い、またその処置をしていることをシールで周知し、来館者が安心して利用できるようにした。今後も来館者が安心・安全に利用できるような感染防止対策をしていく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、（京都国立博物館・奈良国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケートを4言語（日・英・中・韓）で実施し、幅広い意見の把握に努めた。
イ
・ミュージアムショップでは、利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。カフェでは、展覧会に応じたオリジナルメニューを提供した。
・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、ミュージアムショップ運営業者との連絡会議を開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。
ウ
・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、2年度に引き続き開館時間を30分前倒しする早朝開館を実施した。また新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では金・土曜日の開館時間を20時までとする夜間開館を実施。
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」と特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」では新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を避けることができ、良好な観覧環境を提供することができた。
エ　特別展時に早朝開館、新春特集展示に夜間開館を実施したことにより、それぞれ来館者アンケート調査を行うことができた。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　『博物館だより212号』に龍谷ミュージアム岩田朋子氏による凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」の展覧会評を掲載した。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・公式キャラクター「トラりん」が研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの4巻（全4巻）を監修した。
・収蔵品及び「トラりん」をモチーフに、京都の伝統工芸や、SDGsの観点から地産地消・脱プラ・福祉・フェアトレード系素材を使うことなどを考慮しつつ、オリジナルグッズ開発に向け検討を行った。

新規オリジナルグッズ
（館蔵品をモチーフとしたマグネット）

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	67.9%	64%	B		63.4	73.1	67.4	74.5

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、海外からの来館者数は2年度に引き続き減少したが、感染防止対策の多言語案内を継続することにより、多様な来館者が安心して観覧できる環境を整えることができた。 また、観覧環境に関するアンケート満足度は、目標値を達成できた。 満足度調査及び運営業者との情報交換により、利用者等の意見を把握し、サービス向上に努めることができた。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	早朝開館や夜間開館の実施、事前予約優先制の導入により、柔軟な開館時間の設定や混雑時対応を実施することができた。 また、満足度調査や利用者等の意見の把握、サービス向上に向けた各種取り組みにより、中期計画を順調に遂行できているといえる。引き続き、来館者の満足度調査を行い、来館者のニーズに応えられるような運営を行っていくよう努力していく。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、（京都国立博物館・奈良国立博物館）ア、（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　通年で記述式アンケートを実施するとともに、一部期間には試行的にウェブサイト上でのアンケートを実施した。外国人来館者を含め、寄せられた意見・要望は速やかに館内の関係部署と共有し、適宜改善に努めた。
イ　アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望をもとに、展覧会に合わせた特別なメニューを提供するなど、サービス向上に努めた。
ウ　新型コロナウイルスの影響が続いている現状に鑑み、従前実施していた毎週金曜日・土曜日の夜間開館は3年度も実施しなかった。ただし、特別展会期中には平常展を含めて夜間開館を実施した。
エ　夜間開館についての意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケートを実施した。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　ニコニコ美術館の映像配信において、展覧会開催に御協力いただいた専門家に出演いただき展覧会評を講評いただいた。。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努めた。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズ及び奈良博オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ）の開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ア　来館者や職員から、なら仏像館の入口がわかりづらいという声が多く寄せられたため、入口の場所を案内する掲示物の作成やウェブサイト上での表記の見直し等を行った。
（奈良国立博物館）
ア　特別展にちなんだ限定メニューを提供し、利用者へのサービス向上に努めた。
イ　オリジナルキャラクターをあしらった新たなグッズや、第73回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。

特別展「聖徳太子と法隆寺」
お粥セット

特別展「国宝 聖林寺十一面観音」
にゅう麺セット

元気が出る仏像シリーズ

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	68.9%	74%	C		70.5	75.8	81.9	71.4

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度に引き続き新型コロナウイルスの影響もあり、アンケート回収数が少なく観覧環境に対するアンケート満足度が、目標値を下回る結果となった。一方で試行的にウェブサイト上でのアンケートを実施しアンケート回収数の増加に努めるなど、意欲的な取り組みを行った。また、アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望をもとに、レストランでの展覧会に合わせた特別なメニューの提供や、ショップでのオリジナルグッズの開発など、サービス向上に努めることができた。なお、ミュージアムショップやレストランについては利用していないという声も多いため、館内各所に案内看板を設置するなど、利用率向上のため周知に努めた。これらの実績をふまえ、アンケート満足度は目標値には達しなかったものの、それ以外に一定の成果が認められるため、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、特に地下にあるレストランとミュージアムショップの利用者数が激減したことも影響し、3年度のアンケート満足度は目標値に達しなかったが、ショップではECウェブサイトを立ち上げ、オリジナルグッズを開発するなど、サービスの低下になることなく運営したため、中期計画の初年度として十分な成果をあげているといえる。
通年で記述式アンケートを実施し、得られたアンケート結果は館内で共有した上で改善に取り組んだ。4年度以降も引き続き満足度向上のために努力し、中期計画を遂行していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・文化交流展において、来館者からのご意見に対し、検討及び対応を行った。キャプションやパネルの記載内容に関する指摘事項については、展示担当者と迅速に協議し、修正すべきと判断した場合は早急に改善に取り組んだ。
・留学生の日に合わせて留学生に対するアンケート調査を実施し、得られた意見を館で共有した。
イ　福岡県の特産品有明のりを使用した、記念品を製作し、文化交流展での新春特別公開の展示開始に合わせて、来館者へ配布した。
ウ　夜間開館について、4年2月の再開に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により中止した。
（九州国立博物館）
ア　2年度に引き続き、レストランとカフェの休店が続いている。3年度はレストランの営業再開に向け、設備の改修に必要な予算措置をした。また、レストランの営業再開までの間、来館者サービスの向上を目的とし、キッチンカーの導入準備を行った。キッチンカーは4年度より導入予定である。
イ　新型コロナウイルスの影響により、来館者が大幅に減少する中において、ミュージアムショップの新たなオリジナルグッズを製作することは難しい状況であるが、芦屋釜関連の商品など地域の特産品を販売する等の工夫を行った。

【補足事項】

新春特別公開に合わせて配布した記念品

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	81.1%	68%	B		63.7	61.6	70.2	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新春特別公開に合わせ、記念品を製作及び配布する等、サービス向上に寄与することができた。また、キッチンカーの導入手続きは来館者のサービス向上へつながるものであり、年度計画を達成できている。 夜間開館は新型コロナウイルスの影響によりかなわなかったが、今後も再開時期の検討を継続する。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度として、来館者アンケートを実施し、来館者の意見収集に努めた。レストランの営業再開に向け、耐用年数が経過している設備等の改修に必要な予算措置をするとともに、休店中の来館者へのサービス向上のため、4年度からのキッチンカー導入手続きを行っており、中期計画を遂行している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（4館共通）ア、（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
ア　新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートーク等、YouTubeを利用したオンラインによる動画配信を実施した。また、4月には大講堂での連続講演会の実施、7月以降は大講堂にて対面での月例講演会を再開した。東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートークは、Microsoft Teamsを利用したオンラインによるスライドトークの形式で実施した。
　いずれもオンラインによる応募方法、座席数や座席間の距離、換気や除菌対策等、新型コロナウイルスの感染予防と拡大を十分に考慮して実施した。「ウィズコロナ」に即した開催となるよう、従来の運営を適宜チェックし、より安心・安全な方式を模索している。
イ　新型コロナウイルスの影響を考慮し、本館19室のみどりのライオン、東洋館6室のオアシスを引き続き閉室とした。また、東洋館2室等の体験も引き続き中止した。ウェブページ「みどりのライオン オンライン」では動画やダウンロードできる素材を継続して増やし、遠隔地の利用者にも学習機会を広げることができた。
（ア）　体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」はデジタルコンテンツやスタンプなどを通し、多様な文化体験を提供した。会場の運営について感染予防対策を万全にし、一部プログラムを動画配信に置き換え実施した。
（イ）　新型コロナウイルス感染拡大により中止となるプログラムがあった一方、ガイドアプリ「トーハクなび」を活用したデジタルスタンプラリーや、干支のカレンダー/ワークシートのPDF版公開など、代替プログラムを実施し、学習機会を拡大した。
（ウ）　本館地下みどりのライオンでは配信用の動画撮影、zoomワークショップ実施等オンライン発信事業を行った。また、恒常的に日本文化体験が行える参加型展示を本館特別4室に整備し、「日本文化のひろば」として4年1月に通年開室を開始した。

オンラインスクールプログラム実施風景

ウ　対面によるスクールプログラムは引き続き休止し、事前視聴動画の提供、ガイドアプリ「学校版トーハクなび」タブレット端末の貸出、zoomによるオンラインプログラムを行った。また、教員を対象とした対面での研修は引き続き中止とした。盲学校対象のスクールプログラムはMicrosoft Teamsによるオンラインで実施をした。

【補足事項】
ア 講演会14回、参加者10,199名（参加者は通常参加者数とYouTube再生回数の合計）
　オンラインギャラリートーク12回　参加者23,567名（参加者はYouTube再生回数）
　東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク11回134人
イ(ア)親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」(体験型展示)43回(43日間)参加者15,737人
ウ スクールプログラム38校1,491人(小学校10校370人、中学校16校899人、高校9校201人、一貫校3校21人)

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	84.85%	88%	B		87.8	88.0	84.5	-
講演会等の開催回数（関連指標）	39回	-	-		125	93	97	19

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大のため対面プログラムが中止となったが、オンラインプログラムや動画配信など新たな試みを行った。体験型展示も感染対策を万全にする、あるいは関連企画をオンライン配信にするなどして順調に開催されたため、年度計画を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した実施方法を取りながらも、各種プログラムの内容や幅広さは保ちながら、今後につながる事業実施が遂行できている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（東京国立博物館）エ、オ、カ

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
エ　外国人来館者を対象としたガイドツアーを計画したが、新型コロナウイルスの影響により、実施は延期となった。
オ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」として実施した。外国人来館者などに人気の高い4つのジャンルをテーマに設定し、「浮世絵」では版画の摺り工程の展示やスタンプによる重ね摺りの体験、「よろい」では模古的に作った甲冑の展示や、それを利用した着付け体験・着付けデモ・ハンズオン、「きもの」では着物の様々な模様をモチーフとして制作したオリジナルぬり絵の体験、「漆工芸」では国宝八橋蒔絵硯箱を主題とし、デジタル技術を駆使したコンテンツ構築により、オリジナルの文様をデジタル空間でデザインし画面上にアーカイブして鑑賞したり、ペーパークラフトにダウンロードするなどインタラクティブな体験の機会を提供した。会場では点字によるリーフレットの配布、触察ボードの設置、多言語での解説などを実施し、多様な来館者への配慮を行った。
カ　新型コロナウイルスの影響により、広く一般に向けたバックヤードツアーの導入は延期となったが、美術館・博物館関連団体等の希望に対し、個別に案内を行った。

【補足事項】
オ　日本文化体験
親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」（体験型展示）　43回（43日間）参加者15,737人

親と子のギャラリー「まるごと体験！
日本の文化　リターンズ」会場の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 日本文化体験プログラム（親と子のギャラリー）は、会場での感染対策を万全にする、あるいはプログラムをオンライン配信動画に置き換えるなどして順調に開催された。 新型コロナウイルス感染拡大により、延期とせざるを得ない事業もあったが、「新しい生活様式」に配慮しながら、状況に応じた教育普及事業を実施できた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期初年度となる3年度は新型コロナウイルス感染拡大が継続していたため、日本文化体験展示の会場運営方法を工夫するなどして事業を実施した。また実施予定であったプログラムをオンライン配信動画に変更することで、コンテンツ内容や実施方法などを研究する機会ともなり、より広い範囲の利用者に届けることができた。 以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、B評価とした。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1311B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（４館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　京都国立博物館においては、31回の講演会等を開催し、満足度は86％であった。

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」(14回・1,106人)、「土曜講座」(12回・583人)、「夏期講座(日本人と自然Ⅲ)」(1回・73人)、「社会科教員のための向上講座」(1回・34人）を実施した。

動画「今日から君も狛犬博士」

イ
・特別展関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」(日本語105,500部・英語5,000部・中国語700部・韓国語700部)、「即翁さんの宝物」(日本語22,600部・英語1,700部・中国語500部・韓国語300部）を発行した。
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1回・5,000部）を増刷した。
・「博物館Dictionary」(6回・12,000部)を発行した。
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日英中韓　各38本）を作成した。
・「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開の一環として、「今日から君も狛犬博士」「おひなさまのヒミツ」（YouTube京博チャンネル）の動画（日英中韓計8本）をウェブサイトにて公開した。
・同じく「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開の一環として、ウェブサイト「京博ものがたり」（日英中韓）を公開した。
・「文化財に親しむ授業」(7回・425人)、複製を活用した授業への助言・補助（4回・321人）を行った。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（4回・53人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」(京都市教育委員会主催)（1回・57人）に協力した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
ア　・新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を講堂座席数の半分（100名）に減らして実施した。
イ　・新型コロナウイルスの影響により、ワークショップ、ミュージアム・カートは2年度より中止している。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	86%	82%	B		83.5	80.0	83.4	83.4
講演会等の開催回数（関連指標）	31回	-	-		32	37	28	23

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、2年度から引き続き講演会等は定員を例年の半数に減らして実施しており、参加者は減少している。対話や接触を伴うワークショップやミュージアム・カートも中止しているが、それらに代わり、印刷物を充実させ、動画の作成・公開を行うことで、来館者だけでなく、オンラインでの利用者にも学習機会を提供することができたことや、アンケート満足度も86%となり目標値を達成することができたことからＢと評価する。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、定員の削減、ワークショップの中止など一部活動を縮小したが、訪問授業など、実施できる部分については、感染症対策を取ったうえで、活動を継続することできた。また、2年度は中止した教員向けの講座の再開、印刷物やオンラインコンテンツの充実など、中期計画の初年度として、感染症対策と両立して可能な限りの活動を行うことができたため、Ｂと評価する。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（4館共通）ア、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（4館共通）
ア 3年度は講演会等を27回実施した。アンケート結果は92%であり、目標水準を上回った。
（奈良国立博物館）
ア 講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計805人の参加があり、アンケート結果で平均満足度90%を得た。
・公開講座は5つの特別展及び1つの特別陳列の会期中に15回実施。計1,060人の参加があり、平均満足度93%を得た。
・夏季講座及び正倉院学術シンポジウムはコロナ禍のため開催を見合わせたが、公開講座の回数を増やす対応を行った。
・YouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の模様を公開し、計9,421回の視聴があった。
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして、親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、756回の再生回数があった。
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして親子ワークショップ「切り絵でアート　ならはくの仏像」を7月23日に実施し、47名の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を12月16日に3回実施し、計78人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「現地解説」の会』を4年3月26日に実施し、38人の参加があった。
イ　小中学校との連携
・4年1月～2月にかけて、大分県商工観光労働部先端技術挑戦課と連携し、大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、遠隔操作ロボットを活用した学校オンライン中継授業を実施した。小学校を対象に1回、中学校を対象に12回の計13回の授業を実施し、計446人の児童・生徒を案内した。
・特別展「聖徳太子と法隆寺」では関連イベントとして奈良県の協力のもと「聖徳太子ジャンボすごろく」5月4日・5日に実施し、合計43名の参加があった。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学との連携
・奈良市教育委員会と連携して実施している世界遺産学習について、2年度は新型コロナウイルスの影響により、全面的に休止となったが、3年度は再開することができた。3年度は、計17校840人の奈良市立小学校5年生の受け入れを行った。通常、世界遺産学習はボランティアが児童を案内する形で実施しているが、3年度は対面形式での案内が困難であったため、代わりに事前学習キットを実施校に提供した上で来館してもらい、来館時にはこども向けワークシート「ならはく仏像クイズ&ミッション」を各児童に利用しながら展示を見学してもらう形式でプログラムを実施した。さらに3年度は、奈良市立済美南小学校と奈良市立大安寺小学校の2校計82人に対し、オンライン中継形式で世界遺産学習を実施する試みも行った。オンライン中継形式による世界遺産学習はクラス別に計3回実施した。
・ ESD（持続発展教育）プログラムの開発の一環として、特別展「奈良博三昧」の関連イベントでは、奈良教育大学の学生が作成した動画を使って親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、491回の再生回数があった。
エ
・地下回廊での仏像模型及びパネル展示にて文化財の情報を引き続き公開した。

【補足事項】

［サンデートークの様子］

［YouTubeで公開した公開講座映像］

聖徳太子ジャンボすごろく

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	92%	89%	B		89.0	88.0	91.7	90.4
講演会等の開催回数（関連指数）	27回	－	－		26	27	25	12

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス対策として定員を半分以下とする措置の継続により、参加者数は平均70名という水準で推移した。しかし、検温・消毒等の徹底や、講座の事前ウェブ申込システムの運用により、各回とも大きなトラブルもなく安全に実施することができ、アンケートにみる満足度は極めて高かった。さらに YouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の動画を公開し、計9,421回という多く聴講の機会を提供できたことを勘案し、左記の評定とした。なお上記の動画配信は一方通行であるため、聴講者の意見を聴取できないという難点があり、今後の課題とすべきである。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展等に関連した公開講座、当館研究員によるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供した。新型コロナウイルス対策として対面での参加人数を制限するなど、安全対策を講じながら各回計画どおり実施した。さらに特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の動画配信、奈良教育大学との共催による親子ワークショップの動画配信を行うなど、他機関とも連携協力しながらオンラインを活用した新しい学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（4館共通）ア（九州国立博物館）ア、イ、ウ、カ、キ、ク、ケ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
ア　新型コロナウイルスの影響により、4月から実施予定であった講演会等のアンケート調査を4年2月より開始した。特別展記念講演「最澄と九州天台」では136人の参加があり、満足度アンケート結果は92.9%であった。また、記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」では130人の参加があり、満足度アンケート結果は90.4%であった。3年度に実施した講演会等アンケートの平均満足度は92.2%であり、好評であった。
（九州国立博物館）
ア　「皇室の名宝」展では、（第1回）記念対談「やきもの王国　九州と近代の皇室」（7月24日、講師：沈壽官窯　十五代沈壽官氏・宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官　岡本隆志氏）と（第2回）記念講演会「美を伝えゆく－《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理を通して」（8月8日、講師：宮内庁三の丸尚蔵館首席研究官　太田彩氏）をミュージアムホールで実施し、皇室と九州の関わりや三の丸尚蔵館が取り組んできた保存・修理事業についてひろく紹介し、理解を深めることができた。（第1回：聴講人数124人、第2回：聴講人数140人）
　「最澄と天台宗のすべて」展では、（第1回）記念講演会「最澄と九州天台」（4年2月26日、講師：天台宗宗務総長　阿部昌宏氏）と（第2回）記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」（4年3月6日、講師：宮司　髙千穂秀敏氏・禰宜　髙千穂有昭氏）をミュージアムホールで実施し、天台宗と九州のかかわりや神仏習合についてわかりやすく紹介した。（第1回：聴講人数136人、第2回：聴講人数130人）
イ　大宰府学シンポジウム「アジアを変えた鉄―大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代―」（4年3月5日）を開催し、館内外の10人の研究者による鉄のアジア交易についての発表後、文化交流展室で展示解説を実施した（聴講人数120人）。
ウ　展示への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的とし、研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室内のシアターにて着席形式で開催している。（実施回数27回、参加人数449人）
　さらに、8月よりミュージアムホールの大画面を使って特集展示の作品の紹介をする「きゅーはく☆とっておき講座」を開始した。（実施回数5回、参加人数280人）また、2年度に引き続きウェブサイトからの作品解説の動画配信も行った。（実施回数2回）
カ　絹の文化財に親しんでもらうためのワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK」の糸紡ぎ編2回、糸取り編を2回行った。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで開催。募集人数をそれぞれ8人とした。糸紡ぎ編は、繭を煮て真綿を作り、紡錘車を使った真綿から糸にするまでの工程を体験する。糸取りは、繭を煮て糸を取るまでの体験。関東地方、沖縄など、遠方からの参加者が多かったこと、また小さな子供がいる方も自宅で子守をしながら参加できたことはオンライン開催ならではの成果である。（糸紡ぎ：参加人数14人、糸取り：参加人数19人）
　文化交流展の「アジアに広がる仮面の世界～A Menagerie of Asian Masks～」及び特集展示「手わざ―琉球王国の文化―」にあわせて、体験型展示室「あじっぱ」では、それぞれ「仮面の世界」や「沖縄」の展示を行った。
キ　「最澄と天台宗のすべて」展では、延暦寺で最も過酷な行の一つ、千日回峰行をクローズアップし、その全貌についてイラストを交えてわかりやすく紹介した。また、太宰府ゆかりの場所である宝満山と最澄との関係について解説も作成した。
ク　筑紫野市歴史博物館等に講師を派遣した。
ケ　視覚障がい者向け文化交流展示室案内の配布を福祉団体や特別支援学級、個人来館者に行った。また、2年度に実施した手話通訳付きオンラインバックヤードツアーの参加者の紹介で、静岡県聴覚障害者協会青年部と共催で手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを行った。青年部事務局も参加者もともに当事者であったため、当事者の意見を直接取り入れることができ、当館にとっても大変有意義な経験となった。4年度も手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを実施する予定である。

【補足事項】

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	92.2%	86%			－	－	80.2	92.3
講演会等の開催回数（関連指標）	50回	－	－		125	93	97	19

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度は新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、講演会、シンポジウム及びミュージアムトークを開催し、年度計画を達成した。講座・講演会のアンケート調査は4年2月からの実施となった。アンケートが実施できた講演会の平均満足度は92.2%と好評であった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度は中期計画の初年度として、講演会やミュージアムトーク及びワークショップ等を開催することで、学習機会を提供した。 3年度より、ミュージアムトークの拡大版である「きゅーはく☆とっておき講座」を開催した。講師は当館研究員だけでなく、岡山市立オリエント美術館の主管学芸員 四角隆二氏にも講演いただくなど、他館との連携協力により文化財の魅力等をさらに詳しく来館者に伝えることができ、中期計画を順調に遂行している。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（九州国立博物館）エ、オ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・体験用甕棺キットを制作した。文化交流展室で展示しているレプリカと同様、福岡県・三雲南小路遺跡出土の伊都国王墓の甕棺をモデルにし、実寸大で制作した。甕棺埋葬のプロセスを伝えるワークショップで活用する。
・当館の建築模型を製作した。視覚障がい者向けにも使えるように展示室のフロアマップや、バックヤードで紹介する場所、免震層など、地下から4階までの階層が触ってわかるようにした。
・新型コロナウイルスの影響で外出を控える人が多いことから、自宅にいながら博物館体験できるウェブコンテンツ「おうちdeきゅーはく」を2コンテンツ新規制作し、総計17コンテンツを公開した。
・自宅で楽しめるコンテンツ第2弾として、映像や画像などの視覚情報ではなく、声や音で当館の魅力を伝えるラジオ形式のウェブコンテンツ「ラジオdeきゅーはく」をウェブサイトに掲載。普段あまり紹介されることがない博物館の様々な仕事や人、博物館周りの環境などを紹介した。在宅時間が増える中、「ながら聴き」する人をターゲットとした。リスナーからお便りを募集し、番組内で質問に答えるなど、双方向のコンテンツとした。（掲載数：12コンテンツ）
・2年度に引き続き、持ち帰りキット「おうちdeあじっぱ」を追加制作した。（追加：5種類、合計20種類）また、「きゅーはくの絵本」読み聞かせ動画を3本制作しインターネットで視聴できるようにした。
・焼物づくりワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代目中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦！～」をオンラインにて2回、対面式にて1回の計3回開催した。焼物づくりの体験を通して、従来とは異なる陶磁器の見所や面白さを伝え、作品への理解を深める機会を提供した。（オンライン開催（1回目）：8人、オンライン開催（2回目）：8人、対面式：12人）
・織技法に着目した鑑賞方法を提案するためのワークショップ「カード織り」を2回行った。カード織りが施されている当館所蔵の文化財を見ながら研究員の解説を聞き、実際にカード織りを体験する。感染拡大防止策として、募集人数を各回10人とした。年配者から子どもまで幅広い年齢層が参加した。（1回目:9人、2回目：5人）
・体験型展示室「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化を展示紹介し、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。また、コロナ禍であっても展示鑑賞を楽しみながら学びにつなげる取り組みとして、「あじっぱdeどーこだ」を制作し、教育効果の向上を図った。

ぬりぬりグレイズ広告

オ
・「全国高等学校歴史学フォーラム2021」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、参加校を10校とし、参加生徒を各校2人までとした。全国から応募があり、福岡県3校、他県7校が参加した。
・練馬区立大泉北小学校からの依頼により6年生社会科「大陸に学んだ国づくり」の単元から遣唐使による大陸との交流について研究員が生徒の質問に答える形でリモート授業を行った。（9月27日実施）
・まん延防止等重点措置発令のため来館できなくなった久留米市立櫛原中学校からの依頼により、文化交流展示室及びバックヤードの紹介をリモート形式で行った。文化交流展示室においては生徒（1年生）の関心が高かった文化財について、担当研究員が解説を行った。（4年3月7日実施）
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は49件・55パックを貸し出し、4,036人の児童生徒が体験した。
・小中学生を対象に様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業については11月から再開し、20校を受け入れた。

（補足事項）
エ　「おうちdeきゅーはく」取材件数（新聞1、ラジオ1）
・体験型展示室「あじっぱ」では10回の展示替えを実施した。入口横ディスプレイとあじ庵では特集展示を行った。
オ　3年度の学校教育活動支援事業のプログラムは、新型コロナウイルスの影響で入室制限やガイドツアーを中止したため、映像資料の視聴（DVD「クイズで学ぶ展示の極意」）や当館周辺の散策ツアーを行った。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度の経験を生かして持ち帰りキットや学校貸出キットを提供した。また、移動博物館車「きゅーはく号」を活用することにより、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。リモート授業や11月から再開した学校教育活動支援事業では、児童生徒に博物館の魅力を紹介することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度である3年度は、各事業で新型コロナウイルス感染防止策を策定し、職員間の周知を図ったことで、スクールプログラム（学校教育活動支援事業）、ワークショップを再開することができた。新型コロナウイルスの影響により一部未再開の事業もあるが、中期計画を遂行できているといえる。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（東京国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言発令下は館内での活動を中止した。発令解除後は、活動内容を限定したうえで館内案内などを実施し、新たに本館特別4室「日本文化のひろば」での活動も開始した。また、2年度より延期していた新規ボランティアを採用し、研修を行った。オンライン機器利用のための研修を引き続き実施し、ボランティア間のコミュニケーション及びモチベーションの継続を図った。
　ワークショップなどのオンラインプログラムのトライアルへの参加や、講演会のサポートなど、コロナ禍において可能な形での各種事業の補助活動の内容や方法を探り、実施した。
イ　点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、通年でバリアフリー対応班への情報発信等による研修を行い、バリアフリーへの意識や関心の継続を図った。
ウ　外で行うガイドツアーのグループは、再開の準備を段階的に実施した。2グループが来館者向けツアーを再開、2グループがボランティア対象の練習を重ね、4年度の再開を予定している。
　また、展示室内のガイドツアーがコロナ禍のために休止中のグループは、トーハクウェブサイト上「みどりのライオン　オンライン」でダウンロードできるウェブ新聞の作成と公開のほか、対面やオンラインを使用した勉強会を実施した。
エ　対面でのスクールプログラムが中止された代わりに、学校向けオンラインプログラムのトライアルに参加し、改善のための意見を述べた。
オ　ボランティアデーをボランティア研修の一環として2日間実施した。
　ボランティアを対象とした屋外のガイドツアー等のほか、「オンラインボランティアデー」として自主企画グループ説明会と、研究員によるオンラインギャラリートークの開催、ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」の冊子を発行した。

樹木ツアー実施風景

【補足事項】
新型コロナウイルスの影響を勘案し、2年度採用予定だった新規ボランティアの採用及び研修を3年度に行った。
東京藝術大学大学院インターンは、すべてオンラインによる活動に変更した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応を実施した。 新型コロナウイルスの影響により休止しているガイドツアー再開に向け、段階的に準備し、野外でのガイドツアーの一部は来館者向けツアーの再開、一部は練習を重ね、再開が見込まれるところまで到達できた。一方でガイド休止中のグループは、ウェブ新聞などの新たな試みを実施した。また、オンラインによる機器利用等の研修を、2年度に引き続き実施した。 新型コロナウイルスの影響を受けながらも、オンラインを活用するなど新たな試みを実施できたことを評価し、B評価とした。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、コロナ禍におけるボランティア活動を安全に実施する体制をとり、現状で可能な範囲の来館者サービスの実施や、現在休止中の活動の再開にむけて準備を行った。 また、ボランティアにオンライン機器の研修を行い、活用機会が増えたことで、ボランティアの新たな活動方法が広がった。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響により活動を中止している「京博ナビゲーター」について、他館の動向を調査し、活動を再開する場合の内容や、再開できる状況の目安について検討した。
イ　収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。(14人)
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回)
・文化財ソムリエ（20人）が以下の活動を行った
　①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」(7回・425人)
　②記者体験in京都国立博物館（1回・57人）
エ
・「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用した。(6人)

文化財ソムリエを対象としたスクーリング

【補足事項】
ウ
・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（20名）に対して、当館研究員がスクーリング18回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業の際には、学校と連携し感染症対策を取りながら行った。
・「文化財に親しむ授業」の実施回数に限度があることから、授業を希望する学校に複製品を貸出、教員が授業を行うための支援も行った。(4回・321人)

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、「京博ナビゲーター」は2年度に引き続き中止し、他館の状況を調査しながら、再開の目安について検討した。文化財ソムリエについては、学校からの要望に基づき、感染症対策を徹底したうえで活動を行った。年度計画に基づき、感染症対策と両立しながら、可能な範囲で活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により活動が制限されているが、感染症対策を実施し、中期計画の初年度として、可能な範囲で活動を行うことができた。「京博ナビゲーター」の募集・選考・育成には時間を要するため、活動再開に向けては、内容、時期について慎重に検討を行った上で、4年度以降、再開の機会をうかがう。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	教育室	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】

ア　2年度に動画配信やウェブ会議アプリを利用するオンライン形式にて、3年度より活動を開始するボランティアの募集及び選考を行った。3年度は、「ならはくボランティア」として計147人のボランティアを登録し、春より活動を開始した。2年度までは、活動内容別に3つのグループに分かれる形で活動を実施していたが、ボランティア活動の内容や種類を充実化させるため、グループ制を解体し、新たな体制で活動を開始した。

イ　4年1月～2月にかけて、大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、学校オンライン中継授業を実施した。なら仏像館と各小学校をオンラインで繋ぎ、ボランティアや教育室職員がなら仏像館の展示作品を案内した。大分県の小中学校については、小学校を対象に1回、中学校を対象に12回の計13回の授業を実施し、計446人の児童・生徒を案内した。奈良市立の小学校には、計3回の授業を実施し、計82人の児童を案内した。学校オンライン中継授業をボランティア活動として実施するにあたり、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきた11月より活動者を募集し、計16回の練習を実施した。本活動に参加したボランティアは計81名で、9つの班に分かれる形で活動を行った。(※ただし新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、1月24日、2月7日、2月21日、2月28日の授業については、ボランティアの代わりに教育室職員が授業の実施を担当した。)

ウ　ウェブ会議アプリを利用する、あるいは動画を配信する形式にて、ボランティア全員を対象に研修を定期的に実施し、ボランティアの資質向上を図った。活動に関する研修は計19回、特別展に関する研修は計8回それぞれ実施した。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、いずれ展示案内などの活動を再開することを見据え、各種案内活動に使用するテキストを新たに作成し、ボランティア全員に送付した。作成したテキストは、「なら仏像館案内テキスト」と「庭園・茶室案内テキスト」の2種類である。新型コロナウイルスの感染が拡大していた春～秋の時期に、テキストをもとにボランティアが各自学習を行った。

【補足事項】

ア

学校オンライン中継授業の実施対象校と実施回数は下記のとおり。

1月17日　別府市立東山小学校6年生　1クラス8人（1回実施）
1月24日　大分市立判田中学校2年生　4クラス134人（4回実施）
2月7日　大分大学教育学部附属中学校2年生　4クラス160人（4回実施）
2月21日　大分市立大分西中学校2年生　4クラス144人（4回実施）
2月28日　奈良市立大安寺小学校5年生　2クラス49人（2回実施）
2月28日　奈良市立済美南小学校5年生　1クラス33人（1回実施）

大分県内の小中学校を対象とする際は、遠隔操作ロボットを活用する形で授業を実施した。奈良市立の小学校を対象とする際は、4Kビデオカメラやパソコン・タブレットなどの各種端末を用い、ウェブ会議アプリを利用する形で授業を実施した。

1 月 17 日の学校オンライン中継授業実施の様子

イ、ウ

3年度より、ボランティア全員がオンライン上で連絡交換できる体制を整えた。ウェブ会議アプリを利用する、あるいは動画配信形式にて研修を実施するほか、クラウドシステムを活用して連絡をとるなど、円滑的なコミュニケーション手段を構築することができた。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度より147人のボランティアを登録し、活動を開始することができた。また、オンライン形式による連絡・学習方法を構築し、各種連絡や研修を円滑に実施できたことから、ボランティアの資質向上を図るという目的は達成できたといえる。更に、大分県内の小中学校や、奈良市立小学校などの学校を対象としたオンライン中継授業をボランティアの活動として計16回実施するなど、ボランティア活動をより充実させることができた。上記の内容から、所期の計画を遂行できたといえる。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新しい生活様式に対応した取組を取り入れ、1月～2月の短期間に計528人の児童や生徒を対象に、計16回の学校オンライン中継授業を実施できたことから、オンライン形式によるプログラムを単発形式ではなく、継続的に提供できる仕組みを作ることができたといえる。ついては、教育活動の充実化を図るという中期計画を遂行できている。加えて、ボランティアに対し、オンライン形式にて研修を計27回実施できた点や、案内活動のテキストをボランティア全員に配布し、各自の学習を促進できた点などから、生涯学習活動に寄与する、さらにボランティアの活動を支援する事業も積極的に実施できているといえる。

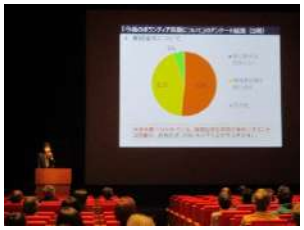
【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課	事業責任者	課長　田中篤

【実績・成果】
（九州国立博物館）
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月までボランティア活動を休止としていたが、感染状況が落ち着き、活動再開へ向けた準備も整ったことで4年1月より段階的に活動を再開した。また再開するにあたり、「ボランティア活動説明会」を開催し、今後の運営方針や活動方法について説明した。


ボランティア活動説明会

ア　2年度に引き続き、「ボランティア通信」で活動再開後に役立つ情報をボランティア全員に発信した。また、展示解説部会には「展示替えスケジュール・フロアマップ」の提供、手話部会には「手話通訳付きリモートバックヤードツアー」のプログラム案など、各部会の再開後を見越した情報も提供した。
イ　第6期ボランティア(141人)に対し、活動前の事前研修を動画で配信した。「博物館の概要」「展示のコンセプト」「教育普及について」等、8人の研究員がそれぞれの職務について講義した。
ウ　活動の休止が長期化したことに伴い、ボランティアの企画立案によるワークショップは開催できなかったが、各部会がコロナ禍における新しい活動内容を協議しやすいように、他館の活動モデルも参考にし、活動案を提示した。
エ　学校教育活動支援事業は11月より再開したが、3年度はボランティアに学校対応を依頼しない方針となったため、ガイドツアー等は中止した。4年度からガイドツアーを再開予定であり、スクールプログラム班に博物館紹介の資料を送付した。

ボランティア事前研修配信動画

【補足事項】
・3年度末時点でのボランティア数は251人。（第5期ボランティア：110人、第6期ボランティア141人）
・活動休止中は、今後のボランティア活動の在り方について全員にアンケートを取り、その結果も参考にしてコロナ禍の活動方針を検討した。
・活動再開にあたり、ボランティアカウンターでのアクリル板の設置、消毒液の配置といったハード面の他、週の活動回数や館（ボランティア室を含む）滞在時間の制限、活動の事前予約制といったソフト面も含め、ボランティアが安心して活動できる環境を整えた。
・活動はまず第5期ボランティアから再開し、これまでの活動を踏まえ、今後の活動の検討から始めた。特に来館者案内を担当する部会は、ボランティア同士で案内のシミュレーションを行うなど研修を重ねた。本格的な来館者案内は4年度からの再開を予定している。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、大半の期間が活動休止を余儀なくされた。しかし、4年度からのボランティア活動再開を目指し、動画配信による事前研修及び活動説明会を開催した。ボランティア活動が、来館者やボランティアにとって安心できるものとなるよう、今後も活動内容及びその環境を整備していく。

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　約1年半に及んだ活動休止を経て再開したボランティア活動であったが、まずは活動内容の確認や新しい活動様式の周知から始まった。コロナ禍におけるボランティア活動について職員間で情報共有し、ボランティアに提案できたことで、中期計画は順調に遂行できている。 　教育活動の充実、さらには来館者サービスの向上のため、今後もコロナ禍のボランティア活動についてさらに研究していく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（4館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（4館共通）
ア　加入校数 59 校（内訳 法人：2、大学：49、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、8,532 人の学生、328 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、展覧会ごとに設定し実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、2 年度に引き続き 3 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
（東京国立博物館）
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について講義する「博物館セミナー」、及びキャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について講義・実習する「博物館学講座」の開催を予定していたが、3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面、接触を伴う「博物館学講座」は実施を見送った。参加を希望するキャンパスメンバーズの学生に対し、大講堂・平成館エントランスホールを利用してのリアルとオンラインを活用したハイブリッド方式の講演会である「博物館セミナー」を実施した。
イ 東京藝術大学大学院インターンシップを 3 人受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常対面で行うガイダンス・検討会・リハーサル及びギャラリートークを、すべてオンラインで実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に続き新型コロナウイルス感染拡大のため、当初予定していた活動が制限されたが、博物館セミナーやインターンシップの受入れなどは、オンラインを活用するなど新たな方法を模索し、感染予防対策を講じて実施できた。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を行う予定であったが、2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、活動が大幅に制限された。しかし、その中でもオンラインやリアルとオンラインを併用するなど、「新しい生活様式」に対応した連携事業のあり方を模索して実施できた。こうした新しい手法も加味しつつ、感染収束後を見据えた事業展開を図り、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

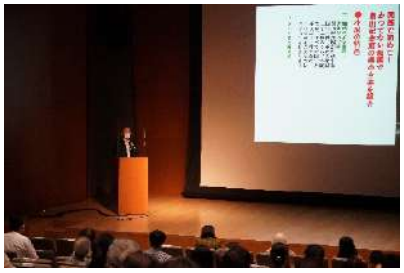
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3）（４館共通）ア、（京都国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 上席研究員　淺湫毅

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・キャンパスメンバーズ制度を継続し、加入校 32 校との連携を継続して実施した。
・加入校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。
・加入校増加を目指し営業活動を行った。
（京都国立博物館）
ア　京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古学・陶磁）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の 5 人が大学院生（修士・博士課程在学者）に対して、京都国立博物館で実際の作品を取り扱いながら、原則対面方式（一部リモート）で文化財に関する講義を行った。受講学生は 14 人（延べ 16 人）である。また、所属する修士課程 2 人・博士後期課程 3 人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。

【補足事項】
ア
・名品ギャラリー無料観覧（学生2,889人、教職員248人）、特別展観覧料金割引（学生3,565人、教職員472人）
・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月21日　講師：保存修理指導室長　大原嘉豊）（1回・52人）
・特別展「畠山記念館の名品」キャンパスメンバーズ向け講演会（10月14日　講師：主任研究員　降矢哲男）（１回・66人）
・施設利用・撮影利用の割引（加入校の学生による部活動のファッションショーの撮影利用、加入校の教職員によるコンサートの施設利用）
・チラシを作成し、未加入校への営業活動を実施した。


キャンパスメンバーズ講演会

加入校の学生によるファッションショーの撮影利用

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、加入校の学生・教職員に対する特典の提供等を行い、大学等との連携を継続して実施した。 また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、新型コロナウイルスの影響により一部リモート授業となる部分もあったが、原則、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことができ、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズの加入校数は安定しており、大学等との連携もできているため、中期計画を順調に遂行しているといえる。 京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材の育成に貢献していくこととする。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア、（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　コロナ禍の影響もあり、3年度まででキャンパスメンバーズへの入会校数は26校となり、2年度に比べて減少したものの、加入大学とは連携を継続し、キャンパスメンバーズへの入会の勧誘を積極的に進めるよう努めた。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップ受入については継続しているものの、学校側がコロナ禍で実施を見合わせており、3年度の受入は無かった。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（比較文化学専攻）に学芸部研究員1人を派遣し、講義を行った。受講生は前期2人、後期2人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣した。
イ　正倉院展に関する特別授業については新型コロナウイルス対策のため実施していないが、会期中に当館において公開講座を3回実施、また研究員による解説動画を公開して、学生のみならず一般の方へも理解を深める機会の提供を行った。

【補足事項】
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして、キャンパスメンバーズの奈良教育大学の学生が作成した動画を使って親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、756回の再生回数があった。
・各展覧会（聖徳太子と法隆寺、奈良博三昧、藤田美術館展、聖林寺展）において、キャンパスメンバーズ校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を実施し、それぞれ53名、51名、28名、59名の参加があった。

わいわい紙ずもう

キャンパスメンバーズ特別鑑賞会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、キャンパスメンバーズ校の学生及び教職員を対象にした特別な鑑賞会を実施し、参加者の高い満足度が伺えた。 大学との連携協定における講義及び講座の実施など、教育機関との地域連携を引き続き進めることができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズである大学との連携事業は、中期計画の初年度として、大学の教育プログラムにおいて歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができた。 また、キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実及び機会の提供を図っていく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップは中止した。
（九州国立博物館）
ア
・博物館実習生を14大学から17人、計5日間受け入れた。
（うちキャンパスメンバーズ校は5大学･学生8人）
・京都大学農学系研究科において文化財の生物劣化に関わる講義、また、西南学院大学、九州産業大学などの文化財の保存修復にかかわる講義を当館研究員が一部担当しており、若い世代に文化財の継承の大切さを伝える取り組みを行っている。
イ 放送大学の面接授業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年の半数（20人）で実施した。

文化財の撮影実習

博物館実習
付箋で意見を交流

【補足事項】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、3年度も募集・実施し、新たに1校が加入した。また、各教育機関が継続して加入した。（3年度における加入校内訳：大学12校、短期大学3校、高等専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を予定していたが、2年度に続き3年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習
・実施期間：8月18日～20日、8月22日～23日（5日間）（合計14大学17人）
・実習内容：各課より博物館の機能を総合的に理解する講義、文化財の撮影実習、多様な来館者に向けてのワークショップの企画などを行った。3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため期間を5日間とし、意見交換などは対話ではなく、付箋等を活用しながら実施した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き3年度においても新型コロナウイルスの影響により､短期インターンシップを中止した。しかし、博物館実習では、14大学から17人を受け入れ、計5日間実習を行った。さらに、放送大学の面接授業は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、例年の半数（20人）で実施したことから、年度計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中止した事業はあったものの、新型コロナウイルスの影響を考慮し、適切な人数及び日数において博物館実習を実施できた。さらに、2年度中止した放送大学の面接授業も人数を制限しつつ、再開することができ、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（4館共通）

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
大学院で文化財保存や修復を学んでいる学生を対象にしたインターンの受け入れ予定であったが、3年度も2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を中止した。しかし、NPO-JCPとの共催である「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信による講義形態で開催し115名の受講者があった。
なお、例年受け入れている大学院等の学生を対象にした保存修復施設の見学も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わなかった。

【補足事項】「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信について

■講義形態：　オンデマンド
■配信媒体：　クラストリーム【申し込者にログインIDとパスワードと講義視聴URLを配布】
■受講時間数：　全21コマ（1コマ60分程度）
■配信期間：　11月1日(月)～2月15日(火)

講義の配信画像

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急事態宣言の発令、延長が引き続き行われたため、インターンの受け入れなど対人、対面による事業の実施は中止を余儀なくされた。他方、オンラインによる講義・討論、オンデマンドによる配信は社会的基盤も整備されてきたため、「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を遅滞なく実施、継続できたことは評価できる。したがって、評価をBとした。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 過去のインターン修了者は、文化財修理工房や文化財研究所など文化財とかかわりのある事業所に就職するなど、経験を活かして幅広く活動している。そのため、インターンの受け入れは、社会情勢が落ち着けば再開したいと考えている。 一方、オンラインを駆使した事業展開も発展の可能性を有していることも確認できたため、今後は来館による実施とリモートや配信を組み合わせて研修効果を高める方法を検討する。 中期計画の初年度として、今後の事業の在り方を検討できたことを評価し、B評価とした。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・例年は文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により5月、7月、9月は中止とし、保存修理指導室員のみによる監督指導にとどめた。また、2か月に一回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。場所は新型コロナウイルス感染予防のため、文化財保存修理所応接室から事務棟4F大会議室に変更した。（巡回4回、会議7回）
・当館開催の特別展と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計2回・146人）
　特別展「京の国宝」（8月30日・87人）
　特別展「畠山記念館の名品」（10月25日・59人）
・新型コロナウイルスの影響により、保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は中止となった。
・文化財修復に係わる大学院生（2人）のインターンシップ実習が10月11日～21日の間に実施された。
・12月18日にインターンシップ報告会を新型コロナウイルス感染予防のためオンラインにて開催し、報告書を作成した。（出席者35人）。
・博物館における、保存科学、修復の専門家等による文化財存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。
（計 38 回・142 人）
宮内庁　京都事務所、保存工事事業委員会　（7 月 9 日・6 人）
文化庁　都倉俊一長官他 5 人（11 月 1 日・6 人）
東京藝術大学（12 月 7 日・4 人）他 126 人

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。11月の巡回は、新型コロナウイルス感染状況に鑑み、保存修理指導室員、係長・室長以上の管理職員、研究員、2年度及び3年度の新任常勤職員に絞り実施し、1月及び3月の巡回は保存修理指導室員、課長補佐・専門員・上席研究員以上の管理職員に絞り実施した。
・文化財修復にかかわる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。

インターンシップ報告会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は中止を余儀なくされたが、インターンシップ実習は実施することができた。インターンシップ報告会をオンラインで開催するなど、規模の変更等で対応し、所定の事業を実施することができたため、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会の開催は中止となったが、保存科学・修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら実施できたことは、中期計画の初年度として一定の成果をあげたといえる。特にインターンシップ報告会をオンラインで開催したことはコロナ禍における新たな試みとして特筆すべき点であり、評価されるべきものと考えられる。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から3年度は実施しなかった。
・新型コロナウイルス感染防止の観点並びに海外修理技術者の来日中止のため、3年度は視察の受け入れはなかった。
・NPO法人文化財保存支援機構と「文化財保存修復をめざす人のための実践コース」をオンライン配信で行った。

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
　4年1月末に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により、4年度に延期することとなった。

「文化財保存修復をめざす人のための
実践コース」をオンライン配信の画面

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、2年度以降は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の文化財保存修理所見学を行っていない。海外から修理技術者が以前のように往来できるようになった際には、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えるため見学を再開して取り組みたい。 コロナ禍における、新たな育成方法の試みとして配信による技術者養成プログラムを始めた。問い合わせへの対応や修正報告書による成果公表、データベース化などにより、外部の保存修理従事者が情報を取得できる環境は例年通り整えており、コロナ禍においても目標に向かった人材育成に寄与できたと考えられる。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 これまでは海外修理技術者の視察受け入れや修理所修理技術者の研修会を行ってきたが、3年度も昨年同様に新型コロナウイルス感染防止の観点から技術者と海外の専門家との交流を行うことができなかった。 3年度も感染防止のため従来のような対面型人材育成プログラムは実施ができなかったが、修理中の作品の科学分析を技術者と保存科学者が同じテーブルについて解析するといった作業や、リモートやウェブ配信といった新たな手法を用いて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できたことから、中期計画を着実に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
文化財保存普及のための講座・研修を開催予定であったが、2年度に続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したものが多い。一部の講座は、感染症対策を徹底した上で実施することができた。

【補足事項】
・博物館実習
当館で実施した博物館実習のうち、「博物館の環境保全と文化財の調査・文化財の修復」の講義において、保存修復エリアの見学を実施し、各室の役割について紹介した。
・放送大学授業
当館の研究員が担当している放送大学の面接授業「博物館をまなぶ」のうち、第５回「文化財の保存と修復」において、参加者へ向けた保存修復エリアの見学を実施し、各室の役割について紹介した。
・寒糊炊き
２年度に引き続き、参加者を館内職員に限定した寒糊炊きを３年度においても実施予定であった。屋外テントにおける実施、作業中のマスクの着用及び手袋の徹底など、新型コロナウイルス感染対策を施した上で実施する予定としており、取材はメディア６社からの申し込みがあった。しかし、１月中旬より福岡県下での感染者数が１週間で６倍超と急激に増加したことを受け、感染拡大防止の観点から急遽中止した。
寒糊炊きは、装潢文化財の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊(新糊)を涼暗所で約 10 年間寝かせ、接着力を弱めた糊）のもとになる新糊を炊く作業で、文化財修理の意義を広める貴重な機会であり、感染状況に鑑みながら次年度以降も実施してゆく予定である。

博物館実習の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度と同様に、3年度においても実技を伴う体験や実習を中止した。しかし、新型コロナウイルスの感染防止対策を施した上で、館内の博物館実習参加者や放送大学の講義受講者に向けて、保存修復に関する講義や保存修復施設の見学を実施することができたことから、年度計画を達成できた。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度においても、新型コロナウイルス拡大防止の観点から実技を主とする研修事業は実施を中止した。しかし、新型コロナウイルス感染対策を施した上で保存修復に関する講義や保存修復施設の見学を実施し、文化財修理事業を一般の方々に周知することができたことから、中期計画を順調に遂行している。 保存・修理に関わる人材育成は継続して行う必要があり、中期計画に従って修理技術者、IPM従事者、地元の教育委員会等と連携しながら、対応可能な内容での研修を検討したうえで実施の方向性を探っていく。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、オ ・Ⅰ-1-(3)-①-5)（東京国立博物館）ア、イ			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典
【実績・成果】 （4館共通） ア　3年度より新会員制度へ移行し、会員総数は9,881件、2年度（12,418件）の2割減となった。 イ　賛助会会員を対象として、12月6日（月）に、総合文化展の貸切観覧と事業報告会、特別講演からなる賛助会感謝デーを実施した。 ウ　みずほプレミアムクラブ会員やJTBステージ会員向けにオンラインイベントを企画・生配信し、認知度向上に努めた。 エ　三菱商事株式会社の協力で障がい者内覧会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。 オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。 （東京国立博物館） ア　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を行った。 イ　上野文化の杜新構想実行委員会において、地域と連携して当館の認知度向上につながるウェブサイト、映像の制作に協力した。			
【補足事項】 （4館共通） ア　賛助会会員件数546件の内訳は個人486人（プレミアム/プラチナ7人、特別/ゴールド40人、維持/シルバー439人）、団体60団体（特別20団体、維持40団体）である。 オ　3年度に実施した事業のうち、beyond2020への登録件数は8件、「日本博」事業への参画件数は主催・共催型が3件、参画型が4件であった。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員制度は、特別展の内容が大きく左右し、特別展鑑賞をメインの特典としたメンバーズプレミアムパスを廃止したことや、新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし、企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めることができた。また、改正を行った会員制度について新たにリーフレット等を作成し、新制度の普及に努めた。 以上の実績により、所期の計画は達成できた。		
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、全体としての会員数は減少となったものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。本中期においては、4年度の創立150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、引き続き支援者の増加に努める。		

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ、（京都国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 部長　尾野善裕

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少傾向にあるが、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、2年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　2年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
エ　企業（岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産）等より、展覧会事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　beyond2020や日本博に、凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」をはじめとした展覧会やイベントを登録した。
（京都国立博物館）
ア
・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（5回）・見学会（3回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。鑑賞会のうち1回は、特別・賛助会員向けのプレミアム鑑賞会として実施。
・清風会の新しい加入者を増やす取り組みとしてキャンパスメンバーズ向けにチラシを作成し、加入の呼びかけを行った。
・凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムを予定していたが、新型コロナウイルスの影響を受け中止とした。ただし、登壇予定者により報告書を発行した。
イ
・ミュージアムパートナー制度では、新型コロナウイルスの影響による厳しい経済状況下においても全てのパートナーから継続して支援を得られた。
・文化財保護基金では、企業等からの寄付金を引き続き受け入れ、連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ
・近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。

タクシーのリアステッカー

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携では、タクシー会社との連携によりリアステッカーの掲示をお願いする等、主に当館の広報面での連携が取れており、今後も継続的に取り組む予定である。ミュージアムパートナー制度と「国立博物館メンバーズパス」については、コロナ禍の影響で顕著な成果が上がりにくい状況にあるが、新規加入に向けて営業活動等を積極的に行っている。 また、清風会との間では緊密な連携をとりつつ新規会員を募集するための新しい広報の取り組みも行っており、コロナ禍にもかかわらず総会員数が増加した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍の影響で企業等からの協力が得にくい状況の中で、タクシーのリアステッカー掲出、ミュージアムパートナーとの連携によるコンサートの開催など連携・協力体制を維持することができている。また、清風会の総会員数の上昇は、新規会員獲得に向けての努力の結晶である。コロナ禍という尋常ならざる状況下にあることを勘案するならば、中期計画の初年度として十分な成果ということができ、Ｂ評価が妥当であるといえる。 今後は、ミュージアムパートナーを含む企業等と博物館の双方にとってメリットがある取り組みを模索し、協力体制のさらなる拡大を図るとともに、清風会の新規会員獲得に向け、取り組みの充実を目指したい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　入会案内チラシの配布等の広報をイベントごとに行い、賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として実施される「日本博」の趣旨に合わせた特別展「国宝　聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」を実施し、日本文化の発し方について広報連携を図った。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員121件（特別支援会員：1団体、特別会員5団体、一般会員（団体）：18団体、一般会員（個人）:97名）
エ
・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
・企業と連携し、不用品の査定換金額が奈良国立博物館に寄付される取り組みを行った。

【補足事項】
・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
・地元企業と連携し、第73回正倉院展のチケット持参での割引制度を実施した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。

三越伊勢丹とのコラボレーションギフト

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響により会員数が減少したが、3年度より奈良博プレミアムカードの優待内容を変更し、会費の値下げ及び入会時に付録を付けたキャンペーンを実施したことで、会員数の増加へと繋がった。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げており、中期計画を確実に遂行できている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　田中篤 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」及び「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」制度の会費及び特典内容を見直し、会員制度の拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。
　「九州国立博物館賛助会」団体会員を対象とした特別展特別鑑賞会について、感染防止対策のため開催せず、代わりに日時指定のない招待券を送付した。
ウ
・大手百貨店と連携してコラボレーション商品を作成し、博物館の認知度向上に努めた。
・JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特別展や特集展示を告知した。
・西日本新聞社及び公益財団法人九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財でユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を1年ぶりにエントランスに展示した。
・3年度は特別展「海幸山幸」の広報の一環としてJR九州と協力し、列車を特別運行した。チケットは早い時点で完売する等、当館の認知度向上につながるものとなった。

特急「海幸山幸」出発式

エ　企業より展覧事業について協賛・協力を得た。
オ　特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。3年度の新規加入は4人であった。
イ　太宰府天満宮や天満宮近隣にある梅ヶ枝餅店舗と連携し、周遊イベントの一環として太宰府デジタルスタンプラリーを実施した。(4月29日～5月30日)
エ
・福岡女子短期大学と連携して、音楽科学生によるコンサートをカフェエリアにて実施した。
・太宰府市、大野城市、春日市、那珂川市、筑紫野市内の中学校25校の生徒による美術作品をエントランスに展示した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　各種会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
オ　beyond2020プログラム事業認証　5件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）1人、特別会員（個人）6人、維持会員（個人）23人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）1団体、維持会員（団体）18団体）
（うち新規加入　特別会員（個人）2人、維持会員（個人）2人）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力した。また、制度の会費及び特典内容の見直しを行い、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域との連携した広報活動やイベントを実施した。今後も、広報の充実を図り、支援者の増加へつなげたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各種会員制度を継続及び一部見直しを行った。また、博物館支援者増加を図る取り組みを実施した。 さらに、3年度は特別展「海幸山幸」の広報の一環としてJR九州と協力し、ツアーを開催した。チケットは早い時点で完売する等、当館の認知度向上につながるものとなった。 以上から、3年度は中期計画の初年度として十分な成果を上げることができたことから、B評価とする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)(4館共通)
・Ⅰ-1-(3)-②-2)(東京国立博物館)ア、イ、ウ

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
1)(4館共通)
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った（約 56,000 枚追加)。
・「e 国宝」においてデータ整備中であった 12 件について公開した。併せて、既存多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。
・画像利用条件等について、国立国会図書館等の機関と検討を行った。
2)(東京国立博物館)
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,695 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 14,881 件を登録し、既存データ 2,218 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・洋古書 1 冊（62 カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 1,103 人)
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。(新規分 81 冊、遡及分 101 冊)
　また貴重書用保存箱を 58 箱作成し、8 冊の補修を実施した。
・元年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード添付を 2,055 件実施した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・protoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 1,218 件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができた。(一般公開 208 件、新規登録 86 件、被参照数 83,358 件)
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。また新型コロナウイルス対策下において図書館の閉館や移動の自粛を求められる中、 NACSIS-ILL 非参加館からの依頼も増加し、対応を行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。
・新型コロナウイルス対策のため、各種の対策をとり、安心して利用できるよう努めた。

【補足事項】
2)(東京国立博物館)

ア	新規受入図書	4,334 冊	既存図書の遡及入力	44 冊
	逐次刊行物の新規受入	2,658 冊	逐次刊行物の遡及入力	2,659 冊
イ	当館開催展覧会カタログ	407 件	他館開催展覧会カタログ	531 件
	当館刊行図書	261 件	当館刊行雑誌	19 件

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、大幅な予算削減と開館日減少、並びに職員が在宅勤務を余儀なくされる中、新型コロナウイルス対策に万全を期して来館利用者の安全に配慮するとともに、対非来館サービスの一つとして図書館間の文献複写サービスは従来の外部大学図書館以外にも広く対応し、館内外における利便性の維持・向上ができた。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。さらに収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画に沿って適切に資料の収集整理と公開を継続するとともに、時宜に応じたサービスの改善を行い、中期目標を遂行することができている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）ア

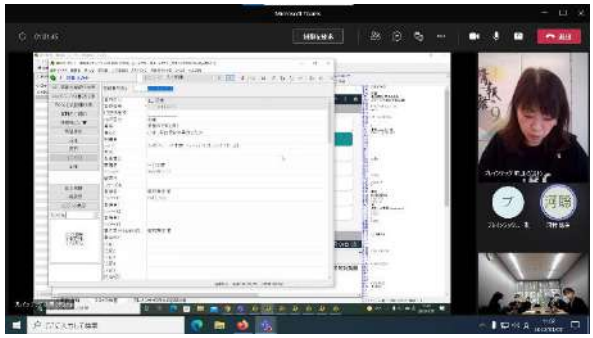
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）
ア　館蔵品データベースで非公開の館蔵品及び当該作品の画像を確認の上、その多くを公開した。これにより、館蔵品データベースと連携している「国立博物館収蔵品統合検索システム　ColBase」においても、公開している作品、画像数を増加させた。

（京都国立博物館）
ア
・館蔵品データベースの情報量充実に資するため、公開中のデジタル画像を4,961枚増加させた。
・当館公式ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、改善点と課題をまとめ、仕様書を策定、リニューアルに取り掛かった。
イ　オンラインによる画像利用申請を実施するうえで、必要なシステムの検討と導入に向けた課題を整理した。

Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）
ア
・各業務の効率化を図るため、収蔵品管理システムのリニューアルに向けた打合せを行った。
・調査、研究、教育等に資するため、新たに図書を982冊、逐次刊行物を1,287冊収集し、蔵書管理システムに登録した。
・蔵書管理システムを導入している機器が耐用年数を超過していたため、機器をリプレイスした。
・図書や逐次刊行物の整理、管理に関する業務効率の向上に資するため、蔵書管理システムのリニューアルに向けた情報収集、仕様書の策定を行った。

【補足事項】



図書システムに向けたオンラインでの打合せ

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像を館蔵品データベースへ4,961枚追加することができ、情報量充実に資することができた。また、スマートフォンやタブレット等、PC以外の閲覧環境対応や、多言語対応等を目的として、館蔵品データベースのリニューアルに取り掛かることができた。 更に、館蔵品データベースと同様に、導入から10年以上経過している蔵書管理システムに関しても、館内外から情報収集を行い、リニューアルに向けて取りかかることができたため、B評定とした。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、デジタルデータの蓄積は順調に進んでおり、公開の基盤となる各システムのリニューアルにも取り掛かることができた。4年度以降も引き続き、耐用年数が超過しているシステムのリニューアルを進めるとともに、リニューアル後のシステムに対しても、必要に応じた改修を行い、更なる取り組みの充実化を図る。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(奈良国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（奈良国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
ウェブサイト上のデータベースにおいて、収蔵品等の情報を積極的に公開した。
（奈良国立博物館）
ア・仏教美術情報の公開・普及を図るため、撮影やデジタル化などで収集した画像データを、データベース等で積極的に公開した。収蔵品データベースで新たに公開した収蔵品件数は、20件である。
・2年前から試験運用と改修を続けていた中国語版、韓国語版の収蔵品データベースを12月に公開した。
・画像データベースでの新規公開件数は、3,778件である。

イ　ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には、引き続き無償ダウンロードで対応した。
Ⅰ-1-(3)-②-2)
（奈良国立博物館）
ア・図書館情報システムと写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、その資料と情報については仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。
・図書館情報システムへの新規登録件数は、1,540冊（和書1,500冊、漢籍22冊、洋書18冊）である。
・写真情報システムへの新規登録件数は、4,269件である。

【補足事項】
・仏教美術資料研究センターでの資料の一般閲覧について、2年度は新型コロナウイルスの流行のためやむを得ず一時停止したが、3年度は利用人数を絞った上で、年間を通じて実施できた。
・仏教美術資料研究センター内の書庫の天井が、老朽化のため10月に破損したが、改修工事を経て復旧し、4年2月から利用が再開された。この機会に、書棚の整理と配架の組み替えを実施し、利用者の利便性向上を図った。

仏教美術資料研究センター書庫
整理の済んだ書棚
（上の天井が今回の破損・補修箇所）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 定量的にみると、画像データベース、図書館情報システム、写真情報システム等の新規登録件数は例年並みであるが、収蔵品データベースの新規登録や、中国語版・韓国語版の公開など、積極的に仏教美術情報の公開・普及に努めることができた。4年度以降は、コロナ禍の影響で、新規の図書収集等は苦戦が予想されるが、可能な範囲で情報の蓄積と公開を図っていく。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財の関連情報は、ウェブサイト上にて継続的に公開件数を増加できている。図書の架蔵冊数も今のところは順調に増加できており、中期計画に沿った事業を推進できている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(九州国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ141件を追加した。また、2年度までColBaseへの長辺3,000ピクセルの画像掲載は手動で行っていたが、3年度より自動化したことで作業負担の軽減並びにサービス向上に努めた。
・e国宝掲載の指定品データについて、新撮した高精細画像への差し替えを行った。また、掲載済みの多言語データの見直しを実施した。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、新収品を含む141件のデータ並びに290件の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報を発信した。
イ　対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。また、同テータベースのリニューアルの要件を検討した。
（九州国立博物館）
ア
○蔵書管理
・新規に図書523点、雑誌855点、図録・報告書2,743点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。
・利便性並びに管理効率向上のため、図書資料の再分類と装備修正、配架区分を見直した。
○画像管理
・文化財情報システムの一部として運用する画像管理システムに2,689点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。
・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約1,700点の画像を新規に追加した。申請により利用できる画像の一覧をウェブサイトに公開することで、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて収蔵品データ並びに画像等のコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。また、対馬宗家文書データベースを引き続き公開しつつ、リニューアルについて検討した。 新規に図書523点、雑誌855点、図録・報告書2,743点を購入または受贈した。蔵書管理システムに登録している蔵書データ整備を進めた。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度としてColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開した。また、新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。 4年度も、継続して公開データの追加していく。また、図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 1323H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1（機構本部）ア、イ

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和3年度』（日本語版・英語版）を発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト(https://www.nich.go.jp/)に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和2年度』を12月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
・機構本部ウェブサイト内に機構内各施設の展覧会情報を一覧できるページを作成し、利用者の利便性向上を図った。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和3年度』: 日本語版1,700部、英語版300部発行
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和2年度』: 169部発行

機構本部ウェブサイトの展覧会情報ページ

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	409,102件	298,703件	A		272,228	336,016	362,356	302,279

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、機構の概要及び年報を作成した。また、機構本部ウェブサイトの運用を継続し、機構に関する情報の提供を行うことができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期目標期間の初年度として、広報印刷物やウェブサイトを活用した積極的な広報活動を行うことができた。また、現ウェブサイトについては、時宜的なニーズに応えるべく、大幅な改修を見込んでおり、引き続き検討を進めていく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部広報室 総務部総務課	事業責任者	室長　鬼頭智美 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（4館共通）
ア　3年度年間スケジュールのリーフレット（「東京国立博物館 展示・催し物のご案内」4月-4年3月）は制作せず、当館ウェブサイトに年間スケジュールのページを作成し、年間の主な作品や展覧会を紹介した。4年度の年間スケジュールについても同様にウェブページを作成した。
(東京国立博物館)
ア　東京国立博物館ニュース(年4回発行)を制作し、総合文化展広報に努めた。また、主な事業についてはプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。なお、周知に当たってはウェブサイト、公式SNSを重点的に活用し、最新の情報を速やかに周知した。
イ　公式キャラクター「トーハクくん」、「ユリノキちゃん」をモチーフとしたLINEスタンプを4月1日から販売した。また、1089ブログでも公式キャラクターによる展覧会紹介ブログを掲載し、親しみやすい博物館を訴求した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(4館共通)
ア　JR上野駅、羽田空港等に広告出稿を継続するなど、連携した広報活動を実施した。
(東京国立博物館)
ア　特別展等の報道発表会を5回、報道内覧会を9回実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載や、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベントの広報を積極的に実施した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。
(東京国立博物館)
ア　『東京国立博物館ニュース』を季刊（年4回）で各75,000部の制作、配布を実施した。
イ　オンラインギャラリートーク等、動画コンテンツの発信を行った。
ウ　SNSによる適時性のある情報発信を行った。メールマガジンを24回配信した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
(東京国立博物館)
イ　LINEスタンプについては1セット(40種類)、120円(税込)にて販売した。(3年度販売実績:1,080セット)
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(東京国立博物館)
ア　4年度には創立150年を迎えることから、11月15日に周年事業を紹介する報道発表会を行い、周知に努めた。
(4館共通)
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第1ターミナルに当館収蔵品画像を使っての壁面・天井装飾を3年度も引き続き実施。羽田空港の京急国際線ターミナル及びモノレール羽田空港駅への広告出稿を継続した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
(4館共通)
ア　11月15日から創立150年記念特設サイトを公開した。
イ　東京国立博物館創立150年記念のイメージ動画を作成し、公開した。
ウ　Twitterについては、11月フォロワー数が10万人を突破した。記念に所蔵品をモチーフとしたスマートフォン用の壁紙をTwitterにて配布した。
Twitter：フォロワー111,014件(2年度85,462件)。Facebook：いいね！34,900件(2年度33,618件。Instagram:フォロワー40,008件(2年度31,190件)。YouTubeチャンネル：登録者数14,651件

LINE スタンプ

創立 150 年記念特設サイトバナー

創立 150 年記念イメージ動画サムネイル

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	11,382,143件	7,277,091件	A		7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、広報用印刷物の作成、配布は控えたものの、ウェブサイト、SNS等デジタル媒体の活用等により充分な情報発信を行うことができた。 また、上野文化の杜新構想実行委員会の事業として、各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、台東区等の地域と連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。 創立150年に向けた機運醸成のための情報発信を行ったことなど、目標を充分達成したと考える。

【中期計画記載事項】

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	ウェブサイト、SNSを中心に自主媒体を十分に活用し、マスメディアや来館者等へ積極的な情報発信を行った。また、ウェブサイトについては創立150年記念特設サイトの開設や、アクセスシビリティ対応を行うなど、時宜的なニーズに対応しアクセス件数の向上を図った。 以上、中期計画初年度として、順調に計画を進めることができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
3)-1
（4館共通）
ア　年間スケジュールの配布（3年度分）及び製作準備（4年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア　特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」や「京博のお正月2022」、各種イベント（落語会24,000部、留学生の日13,500部等）のポスター、チラシを製作・配布した。
イ　2年度で文化大使の任期が満了したため、新たな大使の任命に向け候補者を検討した。
ウ　公式キャラクター「トラりん」を活用した広報活動を行った。
3)-2
（4館共通）
ア・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」では、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局と連携し紙面広告等による広報を実施した。
・特別展「京の国宝」では、読売新聞社と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。
・特別展「畠山記念館の名品」では、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。
（京都国立博物館）
ア・京都市が発行する広報紙への協力、東山区役所が主催する謎解きラリーへの協力、地元の七条鴨東商店街等が主催するスタンプラリーへの協力等、地域の各種団体と連携し、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。
・京都市内博物館施設連絡協議会主催の京都ミュージアムロードに参加し、近隣博物館と連携して広報に努めた。
イ　「京都市内4館連携協力協議会」で連携し、共通の展覧会パンフレットの制作、スタンプラリー等を実施した。
3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス数は外出自粛緩和の影響を受けて3,514,043件となり、目標値を下回った。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(210～213号)、『Newsletter』(149～152号)の発行を行った。
イ　メールマガジンを12回配信した（181～192号）。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」に70件公開した。
エ　当館公式ツイッター・YouTubeチャンネル、公式キャラクター「トラりん」ツイッター・フェイスブックを利用して継続した情報発信を行った。
オ　4年度の公開に向け、ウェブサイトリニューアル準備を継続。

公式 YouTube チャンネルにて公開した動画（英語）

【補足事項】
3)-1
（京都国立博物館）
ア　「京博のお正月2022」ポスター・チラシでは、新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。
ウ　京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2021に公式キャラクター「トラりん」を出張させて、展覧会や当館のPR活動を行った。また、ソーシャルディスタンスを確保した安全な距離で、公式キャラクター「トラりん」を最大週3回、1日3回館内に登場させて親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。
3)-3
（京都国立博物館）
エ　当館公式YouTubeチャンネルに4言語（日・英・中・韓）の動画を公開した。

京まふ 2021 に登場するトラりん

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	3,514,043件	4,386,804件	C		5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトのアクセス件数は、外出自粛緩和の影響を受けて目標値に届かなかったが、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を効果的に行うことができた。特別展においては主催者メディアと協力して多様な広報を実施した。
また、公式キャラクターを活用した発信力の高い広報活動、日頃から協力関係を築いている各種団体との連携による多方面にわたる広報活動を展開することができ、以上からＢ評価が妥当であると考えた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトのアクセス数については目標値に届かなかったが、2年度と比べて回復傾向にあることや、それぞれの展覧会に応じて多様な広報活動を展開するとともに、ウェブサイトのリニューアルも順調に進めることができており、中期計画を順調に遂行できているといえるため、Ｂ評価が妥当である。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　大西真一 情報サービス室長　宮崎幹子

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（4館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（奈良国立博物館）
ア　・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を7回実施した。
　　・特別展の割引券を近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　・笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使として引き続き任命し、出演するテレビやラジオ等で当館のPRをしていただいた。任命式ではその様子をYouTubeにて配信した。
　　・浅井企画の仏像大好き芸人である、みほとけ氏と交流を持ち、氏が配信している週刊ほとけNEWSで当館のPRを行っていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、ブライダルの前撮り撮影場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
（4館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。
（奈良国立博物館）
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、相互割引を実施した。
イ　なら仏像館で年4回実施している仏像供養、保存修理所公開、各種イベント等には、マスコミへの情報提供を行い、取材を積極的に受け入れた。
ウ　奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（4館共通）
ア　広報活動拡充の一環として、4月1日付けでウェブサイトの全面的なリニューアルを行った。併せてウェブサイトの英語・中国語・韓国語版を公開し、多言語による情報発信を充実させた。
（奈良国立博物館）
ア 特別展、特別陳列の案内、名品展の展示品の紹介に加えて、文化財にかかわるエッセイやイベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ 名品展や特別展の紹介に加えて、イベント情報等をウェブサイトに掲載した。SNS（Twitter）でも迅速かつ効率的な情報発信を行い、フォロワー数の増加に努めた。マスコミ向けのメール配信システムを導入してプレスリリースの配信が可能となり、広報体制が強化された。
ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ 新型コロナウイルス感染拡大による外国人観光客の減少に鑑み、展覧会チラシの外国語版作成は見送ったが、収蔵品情報の多言語化を促進させて、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開が実現した（12月）。

【補足事項】
・リニューアルしたウェブサイトはレスポンシブルデザイン（スマートフォン対応）とし、閲覧者の利便性を向上させた。また、CMS を導入したことにより各部署での更新作業が容易になった。新型コロナウイルス感染症拡大による開館時間変更や臨時的な来館者対応が多いなか、各部署において迅速な情報発信が可能な体制を構築することができた。
・収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開により、多言語による収蔵品情報の発信が充実した。
・YouTube で「ならはくチャンネル」と登録し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。
・奈良 蔦屋書店で当館の過去図録の販売を開始し、広い世代に向けた当館の知名度向上に努めた。

ウェブサイト

収蔵品データベース（中国語版）

・近隣の観光案内所、書店、ホテル等で当館のカレンダー販売を開始し、奈良博の知名度向上に繋げた。
・「ざんまいず」を奈良博公式キャラクターとして正式に採用し、広報物で使用することで奈良博の知名度向上に繋げた。また「ざんまいず」のLINEスタンプを販売し、自己収入の拡大に繋げた。
・タカラッシュが運営する『ハンターズヴィレッジトレーニングクエスト』を実施し、敷地内でリアルなぞときゲームが体験できるコンテンツを通年で提供した。
・なら仏像館西側敷地内に撮影スポットタイルを地面に設置し、来館者が撮影したなら仏像館をSNSで発信してもらえるように工夫し、撮影の楽しさと知名度向上に繋げた。
・月額制チケットサービス「Sonoligo」と契約し、定額でなら仏像館に入館できるシステムを構築した。
・クラウドファンディングを使用し当館の庭園及び茶室の改修のための寄附を募り、10,625,380円の寄附を得た。

蔦屋書店での図録特設コーナー

ざんまいずのLINEスタンプ

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ウェブサイトのアクセス件数	1,236,917件	1,331550件	C		1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度は、新型コロナウイルスの外出自粛等の影響を受けウェブサイトのアクセス数が目標値へ達することはできなかったが、2年度よりは回復傾向にある。そして情報発信の基盤となるウェブサイトのリニューアルと新しい体制での運用を滞りなく行うことができ、リニューアル後も改修を重ね、ウェブアクセシビリティ配慮などの視認性の向上に努めた。当館登録側も発生源入力等ソフトを導入しウェブサイトが発信しやすく、また見やすい体制となったことにより、より的確な情報提供ができるようになったため当館の広報力が飛躍的向上したことは評価に値する。
また、文化大使である笑い飯・哲夫氏、十手リンジン・エナジー西手氏、みほとけ氏によりテレビ・ラジオ番組やSNSでPRいただき、当館のPRに繋げることができた。
民間企業、地方公共団体及び公共交通機関とタイアップして幅広く広報活動を行うことができた。
以上を勘案すると、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS 等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
展覧会においては、館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことができた。
また、アクセスログ解析に基づき、スマートフォン利用者を念頭に置いてウェブサイトのリニューアルを行い、時宜に適ったデザインにすることができた。併せて、CMSの導入により、全館的に広報や情報発信が可能となる環境を整備することができ、情報提供の即時性などが急速に向上できたことは評価に値する。
3年度は新型コロナウイルスの影響もあり、ウェブサイトのアクセス数は目標値に達することができなかったが、上記の他、民間企業や地方公共団体、公共交通機関との新規のタイアップ等も県内大手企業と共同して行ったことなど、積極的な広報活動を目指す中期計画に基づき、予定を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（４館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットを製作し、配布した。
（九州国立博物館）
ア　特別展ごとに、ポスター等を製作した。特別展「よみがえる正倉院宝物」、「最澄と天台宗のすべて」では、巡回館が共同で利用するプレスリリース冊子を、併せて利用した。また、それぞれの特別展において、展覧会担当者のナレーションで展示を紹介する動画を作成し、ウェブサイトで公開した。さらに展覧会担当者によるテレビ番組への出演や、地元新聞や美術誌、フリーマガジン等へ展覧会情報を掲載したほか、公式Twitterにおいて展示会の見所や展示品を紹介した。
イ　応援大使サラ・オレイン氏がナレーションを務める広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」を制作した。
ウ　展示リストのウェブデータベースの整備を継続して進めた。
エ　福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続するとともに、公式Twitterにおいて展示品の写真や動画を紹介し、文化交流展示室の魅力を発信した。
オ
・お正月イベントにおいて、県内特産品を取り扱う民間企業と連携した記念品を制作し、文化交流展来場者へ配布することで誘客促進を図った。
・映画「北斎」「あなたの番です　劇場版」とのコラボにより、Twitterでのクイズキャンペーンを実施し、若年層など新規顧客層獲得への広報を展開した。
・大手百貨店と連携し、コラボレーション商品を作成した。

伊勢丹とのコラボレーション商品

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　太宰府観光協会と連携して参道フラッグを設置し、参道に訪れる方々への広報活動を実施した。
エ
・「九博だより」を毎月、「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設等に送付するとともに、ウェブサイトへの掲載や電子配信による情報発信を行った。
・Twitter、メルマガ、ウェブリリースサービスを活用し、多様な情報を発信した。（メルマガ開封率 40%）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 チラシや情報誌等の紙媒体による広報を継続するとともに、映画とのタイアップやSNSの活用など若年層に当館を知ってもらうための情報発信に取り組んでおり、Twitterフォロワー数は順調に増加している。メルマガ開封率も高い状態が維持されている。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 マスコミや交通機関など関係機関と連携してPRするほか、来館できない方にも当館の魅力を伝えられるようSNS等を活用した広報を実施しており、中期計画は順調に遂行できている。今後も効果的な広報手段を検討し、一層の改善を図りたい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、(九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　主要駅でのデジタルサイネージ掲出など、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア　マスコミ各社を対象とした記者発表会、内覧会を実施した。特別展「皇室の名宝」では在京メディア向けにYoutubeライブ配信を行った。
イ　太宰府観光協会と連携して告知フラッグを設置したほか、デジタルスタンプラリーを実施し、天満宮周辺の周遊を促した。また、当館プロモーションムービーを作成し、各種公共交通機関へ掲出した。
ウ　新型コロナウイルスの影響により、九州観光推進機構等を通じた海外に向けた広報や営業は中止している。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語(日・英・中・韓)での情報発信を継続して行った。
エ　博多祇園山笠振興会等と連携し「飾り山笠」の展示企画を実施した。

太宰府駅でのプロモーション
ムービー放映

（４館共通）
ア 展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitter にて駐車場空き情報を継続して提供した。
（九州国立博物館）
ア　当館ウェブサイトをスマートフォンでの閲覧に適したレイアウトに変更するなど、利用者の利便性に配慮して改修した。
イ　4言語（日、英、中、韓）によるウェブサイトでの情報提供を継続して行った。
ウ　「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光関係機関に送付するとともに、より多くの方に見ていただけるよう電子配信サービスを活用した。
エ　月2回発行するメールマガジンでは、展示やイベント情報のほか館内外の魅力ある光景を配信した。また、Twitterでは教育普及活動や九博トリビアなど、普段の来館では見ることのできない様々な内容を発信した。
オ　展示されている文化財やイベントを紹介する動画を、YouTubeチャンネルやTwitterにて紹介した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
エ　Twitterのフォロワーは3年度で約3,800人増加し、20,851人(R4.3.31)となっている。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ウェブサイトのアクセス件数	977,605件	1,670,014件	D		1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度においても新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期等により、ウェブサイトのアクセス件数は目標値に達せられなかったものの、2年度よりは増加しており回復傾向にある。更にマスコミや企業及び地域近隣団体と連携し、広報活動に努めた結果、メルマガ登録数の増加及び開封率は高い状態を保っており、Twitterのフォロワー数も順調に増加している。以上の点を勘案し、Ｂ評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度は新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期等により、ウェブサイトのアクセス数は目標値に達することができなかったが、2年度よりは回復傾向にある上、広報誌等の発行やSNSを活用した広報活動を実施したほか、関係機関と連携した周遊イベント等で館のPRに取り組むことができており、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。4年度以降も、より魅力的な広報について、地域とも連携しながら改善を図っていきたい。

【書式Ａ】　　施設名 ４館共通　　処理番号 1400ABCD

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(4)-(4館共通)ア			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　救仁郷秀明 部長　尾野善裕 部長　吉澤悟 部長　河野一隆
【実績・成果】 外部資金を活用した調査研究を下記件数実施した。 （東京国立博物館） ・科学研究費補助金：14件 ・学術研究助成基金：31件 （京都国立博物館） ・科学研究費補助金：3件 ・学術研究助成基金：5件 （奈良国立博物館） ・科学研究費補助金：1件 ・学術研究助成基金：4件 （九州国立博物館） ・科学研究費補助金：5件 ・学術研究助成基金：6件			
【補足事項】 本項詳細は統計表c-⑦参照			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部資金を活用した文化財に関する調査研究を行った。調査研究の実施においては、各博物館での文化財の収集・保管・展示、教育普及活動等事業と一体的に取り組み、2年度同様順調に成果を挙げている。		
【中期計画記載事項】 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に関する調査研究実施に際し、外部資金を獲得し活用することで、文化財の保存と活用の推進の一助とした。4年度以降も外部資金活用による調査研究の活性化を図る。		

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　a.特別調査「法隆寺献納宝物」（第 42 次）（(4)-①-1)）

【事業概要】当館では、昭和 54 年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　松嶋雅人 博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】

(1)調査概要

・法隆寺献納宝物の国宝「竜首水瓶」について調査を実施した（12 月 6 日、12 月 20 日）。

(2)調査の成果

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実物調査は 2 日のみとなったが、館内・館外の研究者を交えた調査メンバーを結成し、蛍光 X 線解析、CT 画像解析、目視や内視鏡による観察を行い、材質・構造・技法・表現等に関する新たな知見を得ることができた。また追加調査として作品の蛍光 X 線解析、近赤外線撮影、内視鏡調査を行い、基礎情報の充実化を図ることができた。

国宝「竜首水瓶」の調査風景（蛍光 X 線解析）

【備考】

(1)「竜首水瓶」調査日数　2 日（うち、1 日は外部調査員参加のうえで蛍光 X 線解析、CT 画像解析、目視と内視鏡による観察を行い、もう 1 日は追加調査として蛍光 X 線解析、近赤外線撮影、内視鏡調査を行った。）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の国宝「竜首水瓶」の調査については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により再三延期を余儀なくされたものの、無事に行うことができ、これまでの研究蓄積に加え新しい知見を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、最新の機器を用いた調査を行い、国宝「竜首水瓶」の基礎情報を充実させることができた。また、4年4月に『法隆寺献納宝物特別調査概報43 竜首水瓶』を刊行し、調査研究の成果を広く一般に公開する。 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、調査日程に再三の変更があり、また調査回数もかなり限られたものとなったが、基礎情報の充実や新しい知見を得られたことなど、中期計画の初年度として、一定の成果をあげられたと評価した。 今後は、外部有識者についてはこれまでのメンバーに加え、より若い世代の参加も積極的に進めていきたい。また、法隆寺献納宝物にはまだ特別調査の対象となっていない作品も多く、これからも継続してその全容が明らかになるよう計画的に調査を進める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A 7-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　e.特別調査「絵画」第6回((4)-①-1))

【事業概要】

当館は仏教絵画を多数所蔵し、寄託も受けている。しかし、展示や調査研究の中心は古代・中世の作例であり、総合文化展の展示体系と異なる近世の仏画については、積極的な調査研究の機会がなかった。4年度の当館創立150周年に向けて、仏教絵画コレクションの幅広い活用を検討するため、当館所蔵の近世仏画の基礎的な調査を、機構内外の専門家とともに実施し、4年度以降の特集展示、研究に活かす。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	平常展調整室研究員　古川攝一

【主な成果】

(1)調査の概要

・プロジェクトメンバーである沖松、土屋、古川で「当麻曼荼羅図（神田宗庭隆信筆)」(天保7年[1836])(A-12440)をはじめとした作品調査を行った（7月30日及び12月27日)。調査では図像及び表現技法を熟覧し、古代・中世の仏画作例との比較検討を行った。

・特別展「最澄と天台宗のすべて」会期中に、沖松、土屋、古川で出陳作品である輪王寺所蔵「熾盛光曼荼羅図」（寛永9年[1632])、「摩多羅神二童子像」(元和3年[1617]) の調査及び撮影を行った（11月8日)。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部の専門家を招聘することは見送り、調査の日程及び時間についても限定して実施した。

(2)調査の成果

・近世仏画は多くが制作当初の状態をとどめており、表現技法や表装について、古代・中世の仏画では失われてしまった情報を補う知見を得ることができた。

・調査対象とした作例は、制作年代が判明する基準作であり、近世仏画の様式観を構築するうえで参考となった。

・特別展に出陳された近世仏画を調査・撮影することで、上述の成果を所蔵者と共有し、さらにはデジタルによる撮影データは、ポジフィルムに代わる作品画像として所蔵者に活用されることが期待される。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品のみならず特別展出陳作例について、基準作例を中心に基礎的な調査を行えたことは、当館の近世仏画の美術史上の位置づけを行う上で有意義であった。今後の展示、研究への展開が期待できる。 古代・中世の仏画と比較すると、図像や表現技法には共通する点も見られるものの、特に図像については注文者や鑑賞者の意向を反映した改編も認められた。今後は、この違いに注目して調査研究を進めることで、近世仏画の特色を見出すことができるものと思われる。また、4年度以降は基準作以外の作例の調査も進めることで、近世仏画の様式観をより精度の高いものにしていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の近世仏画の基礎的な調査・研究を実施することができ、中期計画の初年度の計画を着実に実施できた。本特別調査においては、外部の専門家を招いての調査を行うことができなかったが、より多角的な視野で調査研究を進めるためにも、機構内外の専門家を交えての調査は不可欠と考える。新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、今後の課題としたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　収蔵品等の有形文化財に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
館蔵の中国遼東地方由来の考古遺物について、当館客員研究員とともに調査と研究を行い、出土遺構の同定や個々の遺物の年代・製作地等を明らかにし、修理・展示等に向けた基礎データを整備する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東洋室長　市元塁

【主な成果】
館蔵の現中国遼寧省営口市蘆家屯出土の遺物群は、東洋考古列品の中でも数少ない出土地が明らかな一括資料でありながら、帰属年代や製作地について明らかでない点も多かった。そこで本業務においてこれらを明らかにすべく、2年度からの継続業務として石川岳彦客員研究員とともに①蘆家屯出土資料の調査を行ってきた。また、3年度からは②旅順考古会関連資料の調査も開始した。

① 昭和 6 年に東京帝室博物館鑑査官の後藤守一らが調査した蘆家屯 3 号貝墓の出土品について悉皆調査を実施し、写真撮影を行った。また、当時の発掘現場の記録写真との照合作業を行い、出土遺構を特定し、副葬品の配列状況を明らかにした。これらを総合して、同墓の年代が 1 世紀代であると結論した。これにより修理や展示等へ向けたデータが整備され、また日中韓の考古学界に寄与し得る基礎データを作成することができた。4 月には 2 年度に調査した蘆家屯 3 号磚墓に関する論文を『MUSEUM』691 号にて公開した。3 年度調査分については 4 年度に同じく『MUSEUM』誌上にて成果を公開する予定である。

② 戦前に旅順考古学会及び同会関係者から寄贈を受けた考古遺物について、出土地の検証を行うべく調査に着手した。これに関連して 12 月 15 日には國學院大學博物館所蔵資料の調査を実施し、蘆家屯一帯の漢代における器種構成について知見を深めることができた。

蘆家屯 3 号貝墓出土土器及び鉄刀
（左から TJ-3013,3014, 3015, 3017）

【備考】
調査完了列品件数：14 件 276 点（TJ-3012～3024, 2952）
撮影列品件数：14 件 276 点
論文：石川岳彦・市元塁「蘆家屯 3 号磚墓―館蔵遼東出土資料の研究（1）―」『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』第 691 号、東京国立博物館、4 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が所蔵する東洋考古の列品に対し、出土遺構を同定し、遺物の帰属年代や製作地について、最新の学術成果を踏まえて明らかにした。また、その成果を研究論文により公開した。漢代における当該地域は、古代東アジア交流の結節点のひとつであることから、日中韓の考古学界がかねて注視をしてきた。今回、当該地域の一括出土資料である館蔵の蘆家屯3号磚墓についてその位相を明らかにしえたことで、日中韓の考古学界の発展に寄与することができた。また、本研究が対象とした蘆家屯の古墓群はこれまでまとまった報告事例が少なかったことから、本業務の成果は研究上の空白域を埋めるものとして意義がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	現在、調査進行中である蘆家屯 3 号貝墓については、3 年度中に基礎調査を終えて、4 年度には論文として成果を公開する予定であるなど、中期計画を遂行できている。また、4 年度からは調査成果の公開の一環として、蘆家屯 3 号磚墓出土品を東洋館で展示する計画である。さらに 3 年度から新たに旅順地域由来の考古資料について調査を開始したが、これにより漢代遼東半島の文化について多面的な理解が得られると期待される。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aエ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究((4)-①-1))

【事業概要】
非常に高度な技術と優れた美的感覚によって製作された平安時代を中心とした仏教絵画の美しさの構造をより深く理解するため、光の当て方も工夫した高精細撮影と、近赤外線、蛍光撮影などによる各種光学調査を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　沖松健次郎

【主な成果】
年度前半には元年度より実施してきた「重要文化財　准胝観音像」、「同　准胝仏母像」の各種光源による調査結果を『東京国立博物館所蔵　平安仏画　―光学調査報告書―』にまとめ、刊行した。(9 月)
年度後半は、「重要文化財　一字金輪像」及び「重要文化財　玄奘三蔵像」について、カラー、近赤外線、蛍光写真の撮影を実施した。

調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで詳細な調査が行われていなかった「重要文化財　准胝観音像」、「同　准胝仏母像」について、以前に行った当館所蔵の国宝平安仏画4作品の調査と同じ手法で、各種光学的調査を行った。その際に得られた調査結果を報告書にまとめ、刊行することで、同条件のもとで平安仏画6作品を客観的に比較検討する環境が整い、今後の仏画研究において重要な情報を提供することができた。 また、平安仏画と鎌倉仏画の両方の特徴をもつ一字金輪像にも同様の手法で調査を行うことで、今後の鎌倉時代の仏画調査への足掛かりとすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、平安時代と鎌倉時代の両方の特徴を持つ作品の調査に着手したことで、これまでの平安仏画調査の成果を踏まえながら、4年度以降に鎌倉時代仏画の調査を実施する準備を整えることができ、順調に計画を遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究((4)-①-1))

【事業概要】
制作年代がわかる基準作となる作例が比較的多い絵画作品に用いられた絹製品である画絹を中心にして、経・緯の糸の太さや本数の比率、断面形状などを計測し、時代や国、地域による傾向の有無、特徴を抽出する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　沖松健次郎

【主な成果】
3 年度は、TA-138　洞山渡水図軸　伝馬遠筆　南宋時代・13 世紀、TA-140　寒江独釣図軸　伝馬遠筆　南宋時代・13 世紀、TA-141　雪景山水図軸　梁楷筆　南宋時代・13 世紀、TA-617　出山釈迦図軸　梁楷筆　南宋時代・13 世紀、TA-642　雪景山水図軸　梁楷筆　南宋～元時代・13～14 世紀の 5 作品について調査を実施。宋代絵画の重要作例について集中的にデータを取得した。

調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国絵画史を考えるうえで一つの基準となる宋代絵画の重要作例について集中的にデータを取得できたことで、今後の中国絵画の調査における基礎資料を整備することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、2年度までの日本絵画、唐代絵画とは対象を変え、宋代絵画の重要作品を調査した。これにより、中国絵画史研究において一つの基準となる宋代絵画について、重要作例のデータをまず取得したことで4年度以降の調査の基礎を作ることができた。 したがって、中期計画に沿って順調に進んでいると評価できる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aカ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
当館の所蔵する東洋民族列品及び東洋考古列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】
(1) 調査概要
3 年度は、台湾において台湾先住民族資料の調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のための渡航制限を受けて同調査を見送り、当館で開催された特別企画に関連した調査に努めた。
(2) 調査の結果得られた知見
当館が所蔵する東洋民族・東洋考古列品のうち、特にイスラーム関係資料の分類・展示活用に資する知見を得た。
(3) 調査研究の成果
これまで館蔵資料については、イスラーム関係資料という観点での分類を積極的に行ってこなかった。3 年度は東洋館の東洋民族コーナーにおいて特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」を開催したため、同企画の出陳資料を調査しながら、館蔵のイスラーム関係資料の確認を行った。その成果として、当館の収蔵品には少なからずイスラーム文化の文脈のなかで捉えうる資料があることが確認できた。これらを体系的に分類することで、将来的には、当館で紹介するアジア文化の内容の幅を広げ、質を高めることが期待できる。

細密画
インド製

ラッカー彩筆入
イラン製

ラスター彩水差
イラン製

ワヤン・ゴレ
インドネシア製

※いずれも東京国立博物館の東洋関係資料

【備考】
マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」
7 月 6 日(火)～4 年 2 月 20 日(日)　東洋館 12･13 室

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・3年度は、予定していた海外調査を中止したが、特別企画の機会を活かして、東洋民族・東洋考古資料をはじめとする東洋関係の収蔵品についてイスラーム関係資料という観点での調査を行った。 ・イスラーム文化はアジア文化の多様性を示すうえで不可欠の分野である。収蔵資料について、従来はイスラーム関係資料という観点による体系的な分類を行っていなかったが、これを分類して展示活用することは社会的かつ学術的な意義がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・従来、ほとんど展示活用されていなかった東洋民族・東洋考古資料については、平成25年の東洋館リニューアル以降、東洋館の平常展示「アジアの民族文化」や特集陳列などで展示活用されており、展示内容が着実に充実してきている。 ・当館が所蔵する東洋民族列品については、中国資料・韓国資料・東南アジア資料・南アジア資料・南洋資料・台湾先住民族資料などから構成されている。これらの資料は、東洋館の平常展示及び特集陳列などにおいて展示活用が期待されるため、中期計画の初年度としてその分類整理を進めることができた。 ・4年度以降は平常展示「アジアの民族文化」における中国少数民族資料、韓国民族資料、台湾先住民族資料などの調査に取り組みたい。 ・平成28年度以降、当館の東洋民族資料にちなんだアジア各地の調査を継続しており、着実に資料の分類整理と展示活用が進んでいるので、引き続き、この調査を行っていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-1

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

3 年度に行った特集「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」の展示を行うに際し調査を実施した。那智を含む紀伊山地は仏教伝来以降、真言密教や山岳信仰、修験道の霊場として栄えた。大正 7（1918）年以降、数多くの仏教関連遺物が出土し、当館には主として大正 7（1918）年の出土品である仏教関連遺物が約 250 件収蔵されている。これらの遺物についてはすでに調査が実施され詳細な報告書が出ているが、その中から代表的な 65 点を選び、個々の品質形状様式時代伝来などを調査し、特集展示として展示した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課長 伊藤信二

【主な成果】

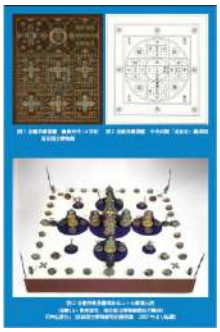
(1) 実施概要

・4 月～5 月の間に代表的な 65 点を選び、品質形状・様式・時代・伝来などを調査した。
・開催期間及び開催場所：6 月 8 日～7 月 18 日　本館 14 室
・担当者：伊藤信二（同上）、井出浩正（学芸企画部博物館教育課教育講座室長）、皿井舞（学芸研究部列品管理課平常展調整室長）

(2) 主な内容

・彫刻・工芸・考古の各分野を専門とする計 3 名のワーキンググループを編成し、調査研究に基づいた作品選定を行い、調査を実施し、展示構成や陳列順序等について協議した。
・熊野那智における古代の仏教信仰、平安時代以降の密教と習合した信仰、末法思想に伴う経塚造形、熊野三所権現や修験道信仰の様態を特徴的に示す作品 65 件を選定し、展示ケースごとに小テーマを設定し展示した。
・各ケースのテーマをわかりやすく示すために、画像や解説を加えたパネルを作成し、各ケースに設置した。
・同時期に開催された特別展「国宝　聖林寺十一面観音　―三輪山信仰のみほとけ」(6 月 22 日～9 月 12 日　本館特別 5 室）とは、古代以来の霊地信仰という点で共通することから、相互の回遊を促す目的で、日本の霊地信仰に関する動画を作成し会場で上映した。

展示風景



解説パネル

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	熊野三山における信仰形態は、大きく古代の仏教信仰、平安時代以降の密教と習合した信仰や末法思想に伴う経塚造形、熊野三所権現や修験道信仰に分かれるが、那智山出土の仏教遺物はおよそこの範疇にジャンル分けできるものであり、各信仰の特徴的な作品を選定し展示することができた。解説パネルや映像も併用することで、より分かりやすい展示を心掛けた。 またその成果について、ツイッターなどで情報発信を行うことにより、国内外に広く周知・公開し、作品の理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	彫刻・工芸・考古の各専門分野を基軸とした調査研究の成果により、熊野那智信仰の特徴を豊かに示す多数の作品をピックアップし展示するなど、研究の中期計画に沿った取組みを遂行できている。またツイッター等 SNS を活用するなど、新たな情報発信の取組みを実施し、有形文化財に関する受容層の拡張と作品への理解を促進できた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-2

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】3 年度に行った特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」を充実した内容にするための調査研究。刀鍛冶の守護神として信仰を集めた岐阜県関市の春日神社に伝来する能狂言面と古楽面計 61 面（重要文化財）は、その多くが室町から安土桃山時代の作と見られる貴重な作品群であるが、科学的調査は行われていなかった。美術史的手法に加え、X 線 CT 撮影、蛍光 X 線による顔料成分調査、デジタルマイクロスコープ等による非破壊の樹種調査等を実施した。その成果を広く、わかりやすく発信するため、展示手法・展示構成の検討を行った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　浅見龍介

【主な成果】

(1) 実施概要

・開催期間及び開催場所：7 月 20 日～9 月 26 日　本館 14 室

・担当者：浅見龍介（学芸企画部長）、川岸瀬里（学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員）

(2) 主な内容

・61 面を展示するために会期を 3 期に分けた。3 期とも多様な造形を楽しめるよう展示を計画した。

・61 面全ての撮影、X 線 CT 撮影、蛍光 X 線の調査及び樹種の調査を実施し構造、顔料、材に関する客観的なデータの蓄積と分析を行った。

・会場内では、展示作品の特徴をまとめたスライドショーを流し、無料のリーフレットも配布した。

・オンラインギャラリートークとして動画を作成し、YouTube の当館公式チャンネル上で公開した。

調査の様子
(右)デジタルマイクロスコープによる樹種調査
(左)蛍光 X 線による顔料等の成分調査

リーフレット
展示室内での配布の他、ウェブサイトで PDF を公開。8 頁

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	近世以降、型を写すようになった能狂言面の、定型化前の様相を示す作品群としてその重要性が認知されていた春日神社の能狂言面、古楽面であったが、X線CT撮影などを用いた調査は行われていなかった。 本研究では、美術史的な調査方法に加え、科学的調査を実施するというこれまでにない手法で行い、能楽及び彫刻の歴史を紐解くうえで有用なデータを収集することができた。こうしたデータの蓄積を今後も重ねていくことで、日本の代表的な芸能とそれにまつわる造形を総合的に考えることにつながる。今後も館蔵品を中心に調査を重ね、得られたデータを多角的に分析検討していきたい。 また、特集展示においては、オンライン配信動画やリーフレット、会場で上映したスライドショーなど、広く一般にわかりやすく伝える工夫も行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	能狂言面という、研究の進んでいない分野を継続的に調査し、展示という形でその成果を広く発信することができ、中期計画を遂行できている。今後も継続していく予定である。 動画配信など時代に合わせた方法で、わかりやすく、親しみやすい展示を心掛け、観覧者の興味関心の喚起、理解の促進を行うことができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-3

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「平安時代の名筆―髙木聖鶴氏旧蔵品より―」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
3 年度に行った特集「平安時代の名筆―髙木聖鶴氏旧蔵品より―」（本館特別 1 室、7 月 20 日 ～ 9 月 26 日）を充実した展示にするための調査研究。平安時代に生み出された数々の名筆を、何回かに分けて 2 年度までにご寄贈いただいた髙木聖鶴氏旧蔵コレクションから紹介する。その見方・美しさをできるだけわかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の調査によって、展示手法、展示構成の検討を行う。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子

【主な成果】
(1) 作品調査（5 月 13 日ほか）
出品作品の調査を実施し、展示においてどのように提示するのかを検討した。
(2)関連資料の収集（5 月 6 日ほか）
出品作品や関連作品の画像や関連する資料のデータを収集した。
(3)成果とその公開
展示の際には、見どころをわかりやすく提示するために拡大画像を題箋横に設置した。また、雑誌『新美術新聞』（7 月刊行）、『書 21』（8 月刊行）等で本展示について解説を行った。

展示室に設置した拡大画像の例

【備考】
(1) 作品、関連資料調査　調査件数：23 件、画像撮影点数：55 点
(2) 関連資料の収集　収集資料の件数：15 件
(3) 成果とその公開　雑誌広報件数：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	書跡については、その鑑賞方法が難しいと敬遠されることが多いため、展示においてなるべく多方面から魅力を紹介することは重要である。そのための準備となる調査研究は、着実に進めることができた。出品作品のみならず、関連する作品や資料まで幅広く調査できたといえる。また、本特集を紹介する雑誌において解説をすることで広く内容を知らしめることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本特集のための調査により、以前より継続してきた調査研究についても大いに進展することができ、中期計画を遂行できている。着実に調査を行うことで、関連資料の発掘もでき、研究をより深化させられた。その成果により拡大画像を設置したことでわかりやすい展示であったとの感想も寄せられた。今後もこの同じ問題関心により研究活動を続けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411キ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「瓦が語る東大寺の歴史」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
当館が所蔵する東大寺に関わる瓦の調査並びに整理を行い、その成果と併せて宮内庁正倉院事務所より寄託されている瓦を紹介する特集展示として「瓦が語る東大寺の歴史」を企画、開催した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室研究員　山本亮

【主な成果】
当館所蔵の東大寺に関わる奈良時代以降の各時代の瓦について整理を行い、最新の研究に基づいて適切な名称、評価を行い、データベース上に登録した。その結果、東大寺の創建や度重なる再建に伴う各時代の典型例となる瓦を所蔵していることを改めて確認した。
加えて宮内庁正倉院事務所より寄託されている瓦を併せて紹介することで、東大寺の歴史を不足なく紹介できることがわかった。そのため、特集展示として「瓦が語る東大寺の歴史」を企画、開催した。展示に伴い、解説リーフレットを 2,000 部作成し配布した。

展示風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	戦前期など研究の初期段階にあって、当館のコレクションは基準となる位置づけを与えられることも多くあった。しかし、新しい発掘資料や研究成果が蓄積されるなかで、情報を更新するべき作品が多く存在するようになっている。この度の特集展示では、これまでに実際の作品調査に基づく地道な調査研究から改めて所蔵作品について情報を整理し、広く公開する機会を得ることができた。 この度の研究、特集展示で取り扱ったのは膨大な所蔵瓦のうち東大寺という単体の寺院を網羅したものに過ぎないが、当事業で蓄積した内容は東大寺に限らず、今後他の遺跡や寺院の瓦についても同様に研究・公開するうえでのモデルケースを構築することができたと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度である3年度に、瓦という特定の分野についてではあるが、今後の調査研究から展示企画までを見据えたモデルケースを構築できた点が評価できる。ただし4年度以降も継続して成果を公開するためには更なる調査研究と情報の蓄積が不可欠である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「浅草寺のみほとけ」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
3 年度に行った特集「浅草寺のみほとけ」を充実した展示にするための調査研究。近年実施された総合的な文化財調査の報告書を精査し、展示案を構想したうえで、各作品の新規撮影の実施、展示手法を考える必要がある。これまで公開の機会が少なかった浅草寺の仏像を広く紹介するため、出品作品の検討及び実地調査を行う。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課研究員 西木政統

【主な成果】
（1）実施概要
・事前調査及び撮影：4 月 7 日、23 日、5 月 11 日、18 日、19 日、25 日、31 日、6 月 10 日、23 日、30 日、7 月 5 日
・開催期間及び開催場所：9 月 28 日～12 月 19 日　本館 1 室
・担当者：西木政統（同上）、浅見龍介（学芸企画部長）、皿井舞（学芸研究部列品管理課平常展調整室長）、増田政史（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員）
（2）主な内容
・平成 24～29 年にかけて実施された寺内の総合調査時の調書及び報告書（『浅草寺什宝目録』1、彫刻編、平成 30 年）を参照し、出品作品を検討した。実地調査の上で、浅草寺の歴史を表わす作品、並びに近代の寄進においては美術史上重要な作品を中心に 13 件 17 体を選定した。
・全作品を新規撮影したうえ、あらためて調査に及び、図像学的背景や製作年代等、美術史上に位置づけを行った。
・全作品が掲載されたリーフレット（8 頁）を発行し、無料配布するとともに、ウェブサイト上で PDF を公開した。
・オンラインギャラリートーク（【オンラインギャラリートーク】11 月「浅草寺のみほとけの魅力」）を製作し、YouTube の公式チャンネル上で公開した。
・浅草寺は天台宗の古刹でもあることから、伝教大師最澄の 1200 年遠忌を記念する特別展「最澄と天台宗のすべて」（会期 10 月 12 日～11 月 21 日、於平成館）と会期をあわせて開催した。また、特別展に出品された縁起絵巻を用いて、浅草寺の歴史をわかりやすく伝える動画を作成し、展示への導入として上映した。

展示風景

リーフレット

オンラインギャラリートーク

【備考】
・西木政統（執筆）東京国立博物館編集『特集　浅草寺のみほとけ』東京国立博物館、9 月 28 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内有数の観光地でありながら、通常仏像を公開していないこともあり、浅草寺と仏像のイメージはあまり結びついていない。ところが、平安時代から江戸時代に至るまで、あるいは近代以降に蒐集された仏像には注目すべきものが多く含まれる。そうした優品を調査研究の結果を踏まえて選定し、展示できた。また、展示パネルはもとより、リーフレットの配布、ギャラリートークの配信など、多角的な情報発信を心がけ、浅草寺及び伝来する文化財への理解を深めることもできた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映できたことにより、中期計画を遂行できている。寄託品の調査研究を継続しつつ、今後も多角的な情報発信を心掛けたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-6

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「江戸時代にもたらされた中国書画」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
3 年度に行なった特集「江戸時代にもたらされた中国書画」を充実した展示にするための調査研究。当館の所蔵品・寄託品から、江戸時代の日中交流史を考える上で重要な作品（黄檗禅林で鑑賞・制作された書画、沈銓及びその弟子の花鳥画、日中文人の合作、市河米庵の書及びコレクション）を選んで調査し研究した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課出版企画室研究員 植松瑞希

【主な成果】
(1)実施概要
・調査実施期間：2 年 9 月～3 年 5 月
・特集展示開催期間及び開催場所：9 月 7 日～10 月 17 日　東洋館 8 室
・担当者：植松瑞希（同上）、六人部克典（学芸研究部調査研究科東洋室研究員）、猪熊兼樹（学芸企画部企画課特別展室長）
(2)主な内容
・日本書跡担当・丸山猶計（前学芸研究部列品管理課登録室長）、日本絵画担当・鷲頭桂（前学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員）と、本展担当者で、分野を越え、本事業に関わる作品の調査を実施した。
・日本絵画、日本書跡、歴史資料、東洋書跡、東洋絵画から 66 件を選定し、来館者にわかりやすい解説等をつけ、展示した。
・主要作品について研究を進め、その成果を掲載した小冊子（24 頁）を発行した。
・1089 ブログにて本展の概要・意義を紹介した。

展示風景

小冊子

1089 ブログ

【備考】
・植松瑞希、六人部克典、高橋真作、鷲頭桂執筆『特集　江戸時代にもたらされた中国書画』東京国立博物館、9 月 7 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前の調査研究によって、通常は中国絵画・書跡分野の作品のみ展示している東洋館8室に、展示テーマに沿った管理分野の異なる作品を、多角的に展示することができた。小冊子、ブログ等により、一般の来館者に、わかりやすく調査研究成果を提供することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、文化財に関する多角的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映することができた。所蔵品・寄託品の管理分野を越えた調査研究を継続し、今後も魅力的な展示活動を展開したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ 特集「没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

4 年に没後 700 年を迎える元時代屈指の文人、趙孟頫（1254～1322）に焦点をあて、当館の所蔵品・寄託品から、趙孟頫と元時代の書画及び後世の関連作品を調査研究し、特集展示を開催して、趙孟頫の中国書画史における功績を紹介する。本事業における特集展示は、当館と台東区立書道博物館の連携事業の一環として実施する連携企画展示とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 六人部克典

【主な成果】

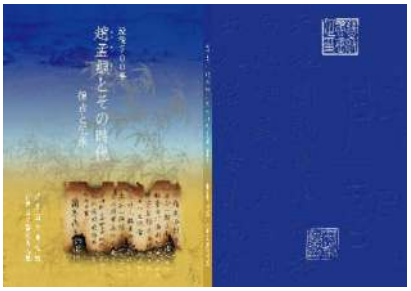
（1）実施概要

・開催期間及び開催場所：4 年 1 月 2 日～2 月 27 日　東洋館 8 室
・担当者：六人部克典（同上）、植松瑞希（学芸企画部企画課出版企画室研究員）、富田淳（副館長）、猪熊兼樹（学芸企画部企画課特別展室長）

（2）主な内容

・当館担当者と台東区立書道博物館担当者（鍋島稲子氏、中村信宏氏、西勝子氏）が連携を図り、本事業の関係作品について調査研究を実施して、画像及び資料情報を収集、整理した。
・当館では、関連する東洋書跡、東洋絵画等 102 件を選定し、「趙孟頫前夜」「趙孟頫と元時代の書」「元時代の絵画」「明清時代における受容」の 4 章構成により展示した。
・両館の展示作品のうち、主要作品 94 件を掲載した関連図録（128 頁）において、当館担当者が執筆、編集協力を行った。
・月例講演会／連携講演会（2 月 5 日、平成館大講堂）及び 1089 ブログにおいて本事業の成果を発信した。

展示風景



関連図録

1089 **ブログ**

【備考】

・台東区立書道博物館編集・東京国立博物館編集協力『没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―』公益財団法人台東区芸術文化財団、4 年 1 月 2 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	趙孟頫をはじめとする元時代の書画は、日本国内における中国書画の研究及び展示では、従来、テーマとして設定されることが僅少であった。本事業における調査研究により、当館の所蔵品及び寄託品における関連作品について情報を整理することができた。また、特集展示を通して主要な作品を公開し、関連図録、講演会、ブログ等により、調査研究の成果を広く発信することができた。台東区立書道博物館との連携事業という点では、両館が同時期に同一テーマで開催する連携企画展示の第19回として継続的に実施し、中国書画に関する研究成果を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国書画分野の文化財に関する基礎的な調査研究の成果を蓄積し、展覧事業・教育普及活動等を通して広く発信し、中期計画を遂行できている。今後も所蔵品・寄託品を主として調査研究を継続し、その成果を一般にわかりやすい形で発信したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」に関連する調査研究

【事業概要】

3年度に行った特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」（本館特別1室・2室、4年2月8日～3月21日）を充実した展示にするための調査研究。27年から2年にかけて行われた本格修理で得られた知見も交え、国宝「医心方」の全巻及び附属文書、関連資料を紹介した。わかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の内容や形態を詳細に調査することによって、展示手法、展示構成の検討を行った。また、特集にあわせて図録を発行するため、その調査研究も同時に進めた。なお、本事業は、文化財保存活用基金の配分を得て実施された「医心方」修理事業の完成を記念して行われたものである。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	書跡・歴史室長　冨坂 賢

【主な成果】

(1)作品調査

・本格修理期間中、文化庁、修理技術者と協議をしたうえで、作品を安全に取り扱うことを最優先事項とし、個々の出品作品の調査及び保存方法について検討、調査を重ねた。
・取り扱いと保存に影響のないことを検証したうえで、裏打紙をすべて外すことにより、制作された当初の姿を再現した。これにより紙背文書を含む背記が容易に確認できることとなった。

(2)特集展示

・かつて実現したことのなかった「医心方」30巻1冊を一堂に紹介する展示を行った。
・作品に負荷をかけず、かつ表紙と本文を展示できる手法を保存修復室と協議し、展示具を作成した。
・平易な作品解説を作成すると共に、年表や巻子装構造図などを掲出し、平安時代の医学書である「医心方」を分かりやすく伝える工夫を行った。
・主要な修理工程をカラーパネルで掲出し、装こう分野の修理について紹介した。

(3)図録の制作

・「医心方」30巻1冊の巻頭部分、巻第25の1及び巻第29の紙背文書を含む背記の全場面、江戸時代及び明治時代の「医心方」の動向がわかる附属文書すべてを図版で紹介した。
・従来、「医心方」の紙背文書は、裏打紙を透かして微かに見える程度だった。本格修理により裏打紙を除去したことで、文字を明確に判読できるようになり、そのすべてを図録に掲載した。
・本格修理にあたった修理技術者(半田九清堂)による論稿を収録し、文化財修理及び保存の側面から、「医心方」を多角的に考証した。

1 展示風景

2 作成した図録(表紙)

【備考】

・特集展示に先立ち、当館が所蔵している医心方版本(QB-98473 安政版30冊、QA-3584 多紀家本20冊、QA-3583 坂家本20冊)全点をデジタルライブラリーで公開した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業の実施により、公開が待ち望まれていた「医心方」の全容を紹介することができた。年度計画に沿って文化財の保存と活用を両立させながら、調査研究を実施し、展示や図録においてその成果を広く一般に公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業の実施により、前期中期計画において実施された修理事業(文化財保存活用基金による)の成果を、今期中期計画の初年度に公開することができた。このことにより、展示、研究、借用など、当館所蔵品の将来的な活用に大いに益することが期待されると同時に、中期計画に沿った事業として順調に推進することができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ク　館蔵の埴輪等資料に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
神奈川県の協力のもと、当館が昭和 18(1943)年及び昭和 25 年に発掘調査を行った神奈川県横浜市瀬戸ヶ谷古墳発掘調査資料の調査研究。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室長　品川欣也

【主な成果】
(1) 調査概要
3 年度は 4 か年にわたる調査研究の初年度ということで調査記録などの収集・整理及び出土資料の水洗や接合などの基礎作業を進める予定であったが、コロナ禍もあって中断をはさみつつ作業規模を縮小して行った。
(2) 調査の結果得られた知見
作業は水洗作業が完了し、過去の調査記録と合わせて出土資料の全体像が把握できるようになった。数量はコンテナ約 100 箱。
(3) 調査研究の成果
これまで瀬戸ヶ谷古墳出土資料は神奈川県を通じて地権者より購入した人物埴輪に加え、家、大刀・盾・靫など器材埴輪などの館蔵品(J-36619)6 件のみが知られていた。未報告の発掘調査資料には大量の円筒埴輪とともに、既知の資料にはない馬や鹿など動物埴輪なども確認され、その内容は神奈川県下では質量ともに最大規模を誇るものであることが判明した。あわせて戦中・戦後間もない時期の調査ではあるが、調査記録から埴輪の配列の復元が可能であることが判明した。これまで埴輪は群馬県下の資料を中心として展示してきたが、本調査研究が進展することで南関東における埴輪の生産と流通が明らかになり、また復元と修復作業が進むことによって展示内容の充実を貸出などの活用を図ることができる。

瀬戸ヶ谷古墳出土埴輪(J-36619 のうち)

瀬戸ヶ谷古墳発掘調査資料(未報告)

【備考】
予算は賛助会寄附金よる。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	戦中・戦後間もない発掘調査資料ではあるが、出土埴輪は神奈川県下では質量ともに最大規模を誇ることが判明し、調査研究を進めて報告書を刊行することは学術的に極めて意義があることが判明した。 また、当館の収蔵品には神奈川県下出土埴輪は少なく、整理を進めることで収蔵品の充実を図るとともに展示及び貸出などでも十分に活用できる見通しが得られた。 以上の実績により、年度計画を遂行できたと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	コロナ禍もあって中断をはさみつつ作業規模を縮小して進めざるをえなかったが、中期計画の初年度として出土資料の水洗作業が無事に完了し、現在接合作業を進めている。引き続き接合作業や個体同定を行うことで4年度の計画を進める。 また、国宝武人埴輪を代表に当館の所蔵品の埴輪は群馬県内出土品を中心に研究や展示が進められてきたが、瀬戸ヶ谷古墳発掘調査埴輪は新たな収蔵品の核となるめどが立った。今後は機構内の研究員や客員研究員、また神奈川県や横浜市教育委員会など地元の協力を得ながら、調査研究の内容の充実を図る。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
京都国立博物館では長年に渡って京都を中心とした近畿地区の社寺に伝存する文化財の悉皆調査を行ってきている。3 年度は、2 年度に引き続き、大徳寺塔頭の龍光院 （京都市北区）に伝来する文化財調査を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室長　尾野善裕 調査・国際連携室主任研究員　　降矢哲男

【主な成果】
(1) 龍光院の調査は所蔵文化財の悉皆調査として計画されており、8 月と 4 年 1～2 月に合計 2 回実施した。
・8 月 2 日～6 日（絵画・書跡）：調査点数 105 件
・4 年 1 月 31 日～2 月 4 日（絵画・書跡）：調査点数 100 件
(2) 過去に実施した社寺調査の整理を継続して行い、調書データの電子化を進めた。

【備考】
(1)龍光院の社寺調査
・龍光院は大徳寺第一五六世の江月宗玩（1574-1643）が実質的な開祖となり、近世以降の日本の禅宗史の展開においても重要な役割を果たてきた寺院である。所蔵文化財には江月ゆかりのものが多く、同院での調査は禅宗史や大徳寺の歴史研究のみならず、茶道史や美術工芸史研究の観点からも意義深いものといえる。
・龍光院の調査では、2 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、従来の全研究員参加型ではなく、分野ごとの調査として少人数で実施した。
・龍光院での調査成果の一部は、アメリカのサンフランシスコ・アジア美術館が主催し、当館が特別協力を行う展覧会「Heart of Zen」（5 年 11～12 月）にて紹介される予定である。
(2)過去の社寺調査におけるデータの整理
・新型コロナウイルス感染拡大により作業が滞るなかで、『科学研究費補助金報告書 観心寺編』 （2 年 3 月刊行）の内容を加筆修正に注力した。整理作業等の関係で未掲載であった考古資料や歴史資料の調査報告を加え、『社寺調査報告 31』（観心寺編）刊行に向けた編集作業を行った。
・過去に実施した社寺調査の未刊行分の調書や写真資料等について整理を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	龍光院の社寺調査は、2年度同様に新型コロナウイルスの感染拡大により調査を実施すること自体も危ぶまれたが、龍光院の全面的な協力もあり、流行状況が比較的落ち着いた時期に2回にわけて5日間ずつ、計10日間の日程で進めることができた。調書は順次、データ入力を行い、悉皆調査終了後には速やかに報告書を刊行できるように整理を進めた。 報告書については、2年度、新型コロナウイルスの流行拡大により刊行を延期していた『社寺調査報告30』（金剛寺編）を7月に刊行した。また、『社寺調査報告 31』（観心寺編）については順調に準備を進め、4年3月に刊行した。 新型コロナウイルスの流行により、例年に比べると社寺調査の実施は大きく制約を受けることとなったが、分野ごとの調査をコンスタントに進め、一定の成果を得ることができた。また、2年度の新型コロナウイルスの流行は印刷物の刊行にも影響を及ぼすものであったが、3年度は入念に準備を進め、2年度分とともに2冊の社寺調査報告を刊行することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にある有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一環として、3 年度は龍光院の社寺調査を実施した。こうした継続的な調査研究が礎となり、当館が立地する京都市内の寺院をはじめ、近畿地方の社寺に関する知識や調査技術などが着実に蓄積できている。4 年度以降も同様に調査を進め、調査データ等の確実な蓄積となるよう継続していきたい。 また、4 年度はこれまでに行った社寺の調査研究をもとにした展覧会の実施を計画している。これは調査成果を広く公開する機会であると同時に、中期計画にある、文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進するものであり、次世代への継承及び我が国の文化の向上への寄与となった。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

漢文を訓読するために施された、「訓点」と呼ばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は経典・漢籍・和書などの典籍にみられる。これらに付された訓点により、とくに古代・中世の日本人がどのように本文を読み下していたか、という日本語の有り様が判明する。当館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とする調査研究を通して得られた成果を展示や講演、及び刊行など、博物館における関連事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　上杉智英

【主な成果】

(1) 訓点の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、調査スタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、新型コロナウイルス対策に十分配慮したうえで、計 2 回の調査を実施した。

(2) 調査作品は重要文化財「南海寄帰内法伝巻第四残巻」や重要文化財「梵網経巻下」（以上、館蔵品）など 12 件に及び、今後の研究にも資するよう撮影を行った。

(3) 成果の公開としては館蔵の『起信論義記』巻下を韓国の東国大学校と共同研究し『刊経都監本 法蔵《大乗起信論疏》校勘研究』（京北大学校出版部）として刊行した。

『刊経都監本 法蔵《大乗起信論疏》校勘研究』

【備考】

・調査回数及び件数 2 回・12 件
・撮影コマ数 約 80 カット
・成果の公開（展示） 平成知新館特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3 年 3 月 27 日～5 月 16 日）
・成果の公開（特別展記念講演会）「律とは何か」（3 年 4 月 3 日）
・成果の公開（刊行論文） 上杉智英「写経所文書にみる奈良時代の律蔵」（特別展図録『鑑真和上と戒律のあゆみ』、3 年 3 月刊行）（2 年度実績）
・成果の公開（刊行）上杉智英「写経所文書にみる奈良時代の律蔵」（特別展図録『鑑真和上と戒律のあゆみ』、3 年 3 月刊行）（2 年度実績）
・成果の公開（刊行）上杉智英「日本における法蔵『起信論疏』の流伝」（『刊経都監本 法蔵《大乗起信論疏》校勘研究』、5 月刊行）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、調査の実施を必要最小限に留めたため、調査回数・撮影件数等は減じているが、一点一点堅実に成果を蓄積している。併せて、調査成果の公開も着実に展示・講演・図録の刊行へと反映でき、所期の目標は達成していると判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。初年度である3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ調査回数自体は減じたが、従来の蓄積により新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究の成果を海外へも発信することができた（前掲主な成果（3））。文献学的調査により着実に成果は積み上がって来ており、4年度以降も継続して成果を蓄積し、収蔵品の収集活動、保存修理、展覧事業の企画等に反映させていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　旧家伝来の工芸品に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
関西圏を中心に、旧家伝来工芸品の調査を実施することにより、地域の暮らしの在り様を物質的に探るとともに、調査を通して作品の管理・保存への助言を行うのみならず、寄贈・寄託・貸与に結び付け、博物館の収蔵と展示の充実を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長兼工芸室長　山川曉

【主な成果】

1)

・新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、京都の旧家の工芸品の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。
４月２回、５月１回、７月１回、８月４回、４年１月２回、京都市内の旧家にて漆器の作品調査、写真撮影を行い、保存管理についての助言を行った。
４年３月　京都市内の旧家二ヶ所にて人形の作品調査を行い、保存管理についての助言を行った。

(2) 成果内容

・旧家伝来品の調査を行い暮らしの中での工芸品受容について知見を深めるとともに、今後の保存管理についての助言を行った。

漆器の調査風景

人形の調査風景

【備考】
漆工調査　回数 10 回（調書 108 件、画像撮影 1417 カット）。
人形調査　回数 2 回（調書 30 件、画像撮影 109 カット）。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	関西圏とりわけ京都には、四季の暮らしの中で用いた高級工芸品を持ち伝える旧家が多いが、近年の生活様式や社会環境の急激な変化により、多くの邸宅や蔵が建て替えを余儀なくされ、博物館に調査依頼が寄せられている。本プロジェクトの目的は、この要請に応え、旧家の暮らしの物質的な基礎データを蓄積し、失われゆく生活文化を記録し研究につなげることである。あわせて、旧家のかつての生業の聞き取り調査等を行い、歴史学・民俗学的な観点からも、美術品をめぐる文化の全体像の把握に努めている。 3年度は、新型コロナウイルス感染防止への配慮しながら、可能な限り調査の要望に応じ作品調書や画像を蓄積することができた。4年度以降も、引き続き要請に応え基礎データを蓄積していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	京都文化を中心とした文化財を対象とする当館において、基礎的な研究の一翼を担う事業であり、新型コロナウイルスの状況に留意しながら、調査を継続し、写真や調書等の基礎データの拡充に努めることができた。以上より、中期計画の初年度として、順調に計画を遂行できている。4年度以降も調査を継続し、借用及び寄託や寄贈へと結びつけ、展示や収蔵の充実をはかっていく。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

1.「平常展示(名品ギャラリー)」:[平成知新館・1F-2]で、当館考古分野列品を中心に通史展示を展示・公開した。
2.「列品整備(修理・保存環境等)」:修理品の修理後撮影で列品の資料化を進め、修理成果を展示・刊行物に活用した。
3.「兵庫県たつの市西宮山古墳出土遺物の調査・研究」:遺物調査報告書(昭和 57 年刊行)で有名な当館考古分野列品の代表的一括資料について、未報告資料の整理・調査(実測作成と撮影等)の資料化と主要資料の科学的分析を進めた。
4.「延暦寺所蔵考古遺物の調査・研究」:5 年度開催予定の天台展にかかる特別展の準備を進めた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷　毅

【主な成果】

1)列品等の公開として、当館列品と寄託品を中心に旧石器時代～平安・鎌倉時代の考古資料約 80 件を夏期・冬期 2 回展示した。また、近年保存処理・安定台作製を進めてきた鉄製帯金式甲冑と文化庁所蔵品・新規寄託品などを展示した。
2)列品等の活用準備として、修理後撮影(個別・集合)の成果は「平常展示」及び 4 年度「特別公開刊行物(リーフレット)」に活用し公開した。一方、列品整理・修理の成果を安全に維持・管理し、また収蔵庫内における列品等の収納スペースの確保を図るために文化財用保存用木箱の作製と燻蒸を行い、列品等収納の安全性とスペースの改善を図った。
3)列品等の調査・研究として、西宮山墳出土品について、未報告資料(金属器・埴輪)の整理と実測図作成を行った。また、その成果を踏まえ個別及び一括品集合写真等の撮影を行い、資料化を進めた。成果の一部は、4 年度「特集展示」に反映。金・銀製品等の重要資料について、科学的分析を加えることで、列品の調査・研究を推進した。
4)「天台展」(4年4月～5月) の追加調査を実施し、延暦寺(比叡山山内)出土資料の調査と撮影等の資料化を行った。

平常展示(展示風景)

修理成果公開(鉄製甲冑)

調査研究成果(集合写真)

特別展準備
(延暦寺出土資料)

【備考】

1-1)［展示公開(名品ギャラリー)］:考古展示(夏期 6 月 5 日～7 月 4 日[25 日間]、冬期 1 月 2 日～3 月 13 日[65 日間])
1-2)［関連事業(研究成果公開)］:日本文化研修「博物館見学」講座(京都大学国際高等教育院日本語・日本文化研修プログラム)「日本の原始古代の考古学 -日本列島における先史・原史・古代文化の展開-」4 年 1 月 19 日
2-1)［列品整備(修理後撮影)］:4 件(2 年度：弥生土器(6 件・7 点)：大阪府柏原市船橋遺跡出土)［26 カット］、1 件(平成 30～2 年度継続：鉄製甲冑(衝角付冑・頸甲・短甲)：京都府和束町原山古墳出土)［6 カット］
2-2)［列品整備］保管関係：文化財保存用木箱製作：25 ケース
2-3)［展示公開］特別公開「四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産 -辰砂と鉄-」(4 年 1 月 2 日～3 月 13 日[65 日間])
3-1)［調査研究］実測調査：列品(6 件・約 80 点) /借用品(5 件・8 点)、分析調査：列品(金・銀・金銅製品[6 件])、資料撮影：列品(須恵器[50 件一括：8 カット]/埴輪・安定台[5 カット]/金属製品［一括 11 カット]/銅剣(5 件一括[集合 1 カット])
3-2)［展示公開］特集展示「後期古墳の実像 -播磨の首長墓-」(4 年 1 月 2 日～2 月 13 日[45 日間])
4［調査研究］:比叡山山内出土遺物の調査撮影：(天台展予定品：5 点［10 カット]]

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	考古展示室での展示公開(名品ギャラリー)は、7 月～9 月の特別展『京の国宝』のために短縮展示であったが、修理成果品をはじめ、新出の装飾須恵器や文化庁蔵徳島県出土流水文銅鐸を加え、ほぼ計画どおりに実施できた。調査研究を進めてきた西宮山古墳の出土品については、特集展示で調査成果を展示公開できたことは評価でき、年度計画を達成したと判断した。比叡山延暦寺国宝殿での考古遺物の追加調査は 4 年 4 月から特別展「最澄と天台宗のすべて」展示予定で、年度計画を達成できたと評価できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、3 年度は館蔵考古遺物の整理調査を進め、4 年度以降の展示計画を立てることができた。また考古遺物の交換展示に関する計画準備を着実に進め、4 年度以降の平常展示計画を策定し、名品ギャラリーの充実に関する準備を行うこともできた。以上の実績により中期計画を順調に遂行できているといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　特集展示・特別企画に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】3 年度名品ギャラリーの一環として開催した以下の特集展示・特別企画のために調査研究を実施し、その成果を展示及び関連事業を通じて公開した。
(1)「特別企画　オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」（会期：6 月 5 日～7 月 4 日）
・東京 2020 オリンピック競技大会の開催を記念し、古代オリンピックの故事に託して日本や東洋の美術を楽しむ収蔵品による展覧会。
(2)「特集展示　新収品展」（会期：4 年 1 月 2 日～2 月 6 日）
・元年度～2 年度に新たに収集した文化財から名品約 30 件を展示。
(3)「新春特集展示　寅づくし―干支を愛でる―」（会期：4 年 1 月 2 日～2 月 13 日）
・4 年の干支、寅（虎）をテーマとした収蔵品による展示。
(4)「特集展示　後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳」（会期：4 年 1 月 2 日～2 月 13 日）
・当館とたつの市立龍野歴史文化資料館の共同研究に基づく展示。
(5)「特集展示　雛まつりと人形」（会期：4 年 2 月 19 日～3 月 21 日）
・伝統的な年中行事である雛まつりを、人形を通して紹介する恒例の展示。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　尾野善裕

【主な成果】
(1)オリュンピア×ニッポン・ビジュツ：コロナ禍の中にありながら多くの来館者がいつもと違う視点で収蔵品に親しみ古代オリンピックを知る機会を提供できた。
(2)新収品展：当館のコレクションの深さと広がりを新たな新収品を通じて来館者に理解してもらえるよう努めた。
(3)寅づくし―干支を愛でる―：分かりやすい解説文の設置、低年齢層に向けたビンゴカード式のワークシートの配付等を行い、子供から大人まで幅広い層が楽しめる入門的な展示とした。
(4)後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳：これまでも一部の作品の展示に留まっていた西宮山古墳の出土遺物を一堂に展示して兵庫県西部の古墳時代後期の様相を来館者に知ってもらう機会とした。
(5)雛まつりと人形：現代では目にすることが少ない大規模な雛飾りを通し、雛まつりの変遷と意味を伝えた。3 年度は関西の雛まつりに用いる雛食器をまとめて紹介し、行事食の観点も盛り込む展示をした。

【備考】
(1)オリュンピア×ニッポン・ビジュツ：国宝 17 件・重文 26 件・重美 1 件を含む収蔵品 113 件を新たな切り口で紹介し、このうち 52 件を収録する日英 2 言語による展覧会図録を用意した。
(2)新収品展：元年～2 年にかけて新たに当館の収蔵品となった作品のうち絵画・書跡・染織・漆工・金工・陶磁・考古の各分野の 43 件を展示した。
(3)寅づくし―干支を愛でる―：重文 5 件、重美 1 件を含む収蔵品 36 件を通して、日本と東アジアの人々が、どんな思いを込めて虎を表現してきたのかを紹介した。
(4) 特集展示　後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳：西宮山古墳出土品のうち鉄器や須恵器、埴輪など 67 件を展示した。併せて図録『西宮山古墳-播磨の首長墓-』を刊行して展示への理解促進を図った。
(5)雛まつりと人形：収蔵品 63 件を通し、現代にも続く日本文化における人形の愛好を多言語題箋により紹介。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	(1)は2年度開催を予定していたが、東京オリンピック2020の開催が新型コロナウイルスの影響で延期されたことにより、3年度に先送りにした企画で、オリンピック発祥のギリシアにおける精神性をアジアの文化財にみるという内容は、企画としてかつてないものだったといえる。その他の特集展示も、新型コロナウイルスの影響により来館者数が伸び悩むなどの事態はあったものの、例年にも増してバラエティーに富む内容の展示を行うことができた。また、図録の作成や関連の講演会等を通じて、来館者の文化財に対する、理解促進を図ることができたと考えられるためＢと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特集展示・特別企画は、雛まつりと人形のように恒例の展示と、オリュンピア×ニッポン・ビジュツのように、時宜に適った内容の展示を年度ごとに計画し、実施している。3年度はバラエティーに富む内容の特集展示・特別企画とすることができ、中期計画を順調に遂行しているといえる。 4年度以降も、3年度同様に魅力ある展示を企画するとともに、計画的な調査研究を進め、展示に反映していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

新型コロナウイルス感染防止のため、調査日程の変更や調査人数の制限、マスク着用・手指消毒の徹底を行うなどの対策を講じ、計画どおり下記の成果を挙げることができた。

(1) 愛知県立芸術大学が進める当館蔵十一面観音像及び当館蔵如意輪観音像の模写制作のため、同作品の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を 2 度実施した（4 月 7 日、9 月 27 日）。
(2) 愛知県立芸術大学が進める吉備大臣入唐絵巻復元模写制作の基礎資料を提供するために、同時代作品である信貴山縁起絵巻（山崎長者巻）、当館蔵地獄草紙、当館蔵辟邪絵（神虫）、当館蔵沙門地獄草紙の料紙表面をデジタルマイクロスープによって詳細に観察・記録する調査を実施し、辟邪絵（神虫）等の料紙表面に雲母を塗布した痕跡を発見した（7 月 2 日）。
(3) 東京藝術大学が進める信貴山縁起絵巻模写制作のため、同絵巻（延喜加持巻）の原本熟覧及び手板色合わせ調査を 1 度実施した（7 月 26 日）。同模写制作にあたっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵　国宝　信貴山縁起絵巻　調査研究報告書－光学調査編－』『同報告書－研究・資料編－』の成果に基づき使用する顔料の検討を重ねた。
(4) 広島市立大学が進める当館蔵地獄草紙及び当館蔵両頭愛染曼陀羅の模写制作のため、同作品の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を実施した（9 月 22 日）。

愛知県立芸術大学によるデジタルマイクロスコープを用いた辟邪絵（神虫）の料紙調査（7 月 2 日）

【備考】

調査回数：5 回（4 月 7 日・7 月 2 日・9 月 27 日：愛知県立芸術大学調査、7 月 26 日：東京藝術大学調査、9 月 22 日：広島市立大学調査）
調査作品数：9 件（当館蔵十一面観音像 1 幅、当館蔵如意輪観音像 1 幅、信貴山縁起絵巻（山崎長者巻）1 巻、信貴山縁起絵巻（延喜加持巻）1 巻、当館蔵地獄草紙 1 巻、当館蔵辟邪絵（神虫）1 幅、当館蔵沙門地獄草紙 1 幅、当館蔵両頭愛染曼荼羅 1 幅

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査日程が変更になるなどの計画変更はあったものの、愛知県立芸術大学・東京藝術大学・広島市立大学による復元模写制作のため、当館の収蔵品の熟覧・色合わせ等の作品調査を実施するとともに、当館が撮影した高精細カラー画像・近赤外線画像を提供した。その結果、絵巻・仏画の復元模写制作の精度を飛躍的に向上することが可能となり、模写制作を通じて得られた当該文化財の顔料・基底材等の知見を蓄積することができたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、精度の高い光学的調査・熟覧の成果に基づいて彩色・料紙等の復元的考察を加え、芸術系大学が進める復元模写制作に反映するという目標を達成することができた。 以上のような成果を蓄積していくことは、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究((4)-①-1))

【事業概要】

我が国には、寺院を中心に古代の写経や聖教が数多く伝来している。それは、人文科学全般にとって重要な研究資料であるが、仏教学以外の分野での利活用は低調である。本研究は、当館の主要な蔵品である古代の写経と聖教を基軸に、文化財学的な立場から資料を調査し、多分野での利用に堪える基本情報の蓄積と提示を目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　野尻忠

【主な成果】

(1) 写経等の調査

・個人蔵の大般若経 2 巻（16 世紀）を調査し、薬師寺伝来の経巻であることを確認した（4 月 30 日）。
・慈眼寺所蔵の十誦律巻第四十六を調査し、神護寺伝来の平安時代写経であることを確認した（6 月 23 日）。本品はその後、当館に寄託となった。
・個人蔵の大毘盧遮那成仏神変加持経巻第六を調査し、施された白点（訓点）のうちヲコト点は円堂点であることが判明した（6 月 25 日）。本品はその後、当館に寄託となった。
・某所蔵の古写経断簡集と中論巻第一を、外部の識者とともに調査した（8 月 24 日）。中論巻第一については、明治期の古美術収集家である田中光顕の著書に記された同名書そのものであることが判明した。
・薬師寺寄託の大般若経（魚養経）について、外部の歴史学者とともに調査した（11 月 2 日）。
・壱岐市立一支国博物館へ赴き、同館に展示中の高麗版大般若経を調査した（11 月 5 日）。
・個人寄託の注大般涅槃経巻第十三について、国際仏教学大学院大学所属の仏教学専門の識者 3 人を迎えて調査した（12 月 6 日）。

(2) 聖教の調査

・法隆寺伽藍縁起幷流記資財帳の伝来に関わる資料を調査した（5 月 14 日、6 月 3 日）。
・寄託品の六祖恵能伝、慈覚大師伝、円珍関係文書典籍など、天台密教にまつわる聖教類を、外部の仏教学や歴史学の専門家とともに、集中的に調査した（6 月 11 日）。
・本證寺所蔵の大恵度経宗要を調査し、これが東大寺の滝石丸という人物によって書写されたことを確認した(7 月 14 日)。滝石丸は、館蔵の法華経（宗性願経）巻第七の後半を筆写した人物でもある。大恵度経宗要は後に当館に寄託となった。
・仁和寺聖教調査（文化庁主宰）に、職員 2 名を派遣した（8 月 2 日～6 日、4 年 3 月 21 日～26 日）。
・園城寺寄託の智証大師関係文書典籍（約 40 点）について、保存修理に向けた準備のため、美術史学や中世史学の外部識者を交えて、全点調査した（9 月 8 日、4 年 2 月 16 日～17 日）。

(3) 研究成果の開示

以上の調査に基づく知見は、展覧会図録をはじめとする当館の刊行物や、展示会場のパネル類、職員による講演会などの内容に反映されている。

【備考】

・野尻忠「古写経と古代文字史料」(『奈良博三昧』、当館特別展図録、7 月）等の論文 2 件、講演 1 件で、研究成果を発表。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度も、通常業務の合間に、機会を得て古代及び中世の写経、聖教並びに版経等を調査し、文化財情報を蓄積できた。新型コロナウイルスの流行の影響で難しい環境ながらも、外部の識者を交えた調査を実施できており、当館職員では専門性が弱い分野（仏教学など）の研究者の助言も得られている。館蔵品の別の写経と同一筆者の聖教を検出したことや、明治期の文献に記された文化財の現品が特定できたことも成果として挙げられる。一方で、元年度からの課題である金字写経の研究については、コロナ禍により専門家との協議ができず、3年度もほとんど進展がなかった。4年度は、行動制限が一定程度緩めば、積極的に専門家を招き、金字写経の材料分析を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査と研究は、順調に実施できている。様々な場面で調査し、それによって得られた知見は、出版物や展示会場の解説等に反映できており、中期計画にある調査・研究成果の展覧事業への反映については、順調に実施できている。写経や聖教は、従来、書道史や仏教学の分野以外からの注目度は低かったが、近年は歴史学等の資料としても利用され始めている。こうした傾向を推し進め、資料の保全と保管環境の改善への理解を浸透せるためにも、本研究は継続性が求められるものと考える。今後は、さらに調査機会を増やしていく努力が必要である。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査((4)-①-1))

【事業概要】

仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関、社寺等が所蔵する作品にも及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館のある奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室研究員　三本周作

【主な成果】

(1) 館蔵品の調査
・7～9 月の特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」の開催にあたり、出陳候補となった館蔵品をまとまった件数調査した。(4 月 28 日)
・この成果については、同展の展覧会図録や公開講座(7 月 31 日)に反映した。
(2) 展覧会に際して借用した作品の調査
・4～6 月の特別展『聖徳太子と法隆寺』の開催にあたり、出陳された玉虫厨子（国宝　奈良・法隆寺蔵）の撮影を含めた詳細調査を実施した。(6 月 9 日)
(3) 他の機関、社寺が所蔵する作品の調査
・春日大社が主体となって進める金鶴及び銀樹枝（国宝　奈良・春日大社蔵）の複製制作に関連して、同社と共同で実見調査及び X 線 CT 調査を実施した。(9 月 17 日、10 月 30 日)
・東京国立博物館の法隆寺献納宝物特別調査の一環として、竜首水瓶（国宝　東京国立博物館蔵〔法隆寺献納宝物〕）の蛍光 X 線調査・X 線 CT 調査を同館などと共同で実施した。(12 月 6 日)
(4) 展覧会の出陳候補となる作品の調査
・4 年度開催予定の特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」への出陳候補となっている金銅龍唐草文舎利容器屋蓋（京都国立博物館蔵）の撮影を含めた詳細調査を実施した。(12 月 17 日)
(5) 共同研究
・共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鋳銅三具足の制作技法に関する研究」（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共同研究）に関わる調査において、2 年度までの調査を踏まえて試作した複製品と原品を対象とし、制作技法の検証を行った。(5 月 18 日、11 月 1 日)

【備考】

・調査員による調査を 1 回実施した。(11 月 8 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響下で、館外調査や外部調査員を受け入れた調査はほとんど実施できなかったが、館蔵品や寄託品、借用作品等の館内調査は一定の成果をあげることができた。 館蔵品については、近年新たに購入したものを含め、これまで基礎情報が十分公表されてこなかった作品を多数調査・展示し、図録掲載や公開講座を通じて広く発信することができた。 借用作品の調査では、日本古代の仏教美術を代表する玉虫厨子を詳細に実見調査する機会を得、これまで様々に議論されてきた制作時期などの問題を検証する有用なデータを得ることができ、今後他作例との比較研究を充実させることで一層の進展が期待される。 また、複製制作にかかる調査においては、光学機器を併用することで作品の品質構造・技法などの詳しい分析を実施し、データの蓄積を図るとともに、試作による検証を通じて、実制作の観点から作品へのアプローチを促進させることができた。こうした成果は、複製を用いた展示の方向性を考える上でも有意義であると考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、収蔵品をはじめとした文化財の基礎的・総合的な調査研究とその発信に重点が据えられている。その初年度である 3 年度は収蔵品を対象とした調査をまとまった件数実施し、その成果を発信することができた。また、光学機器を使用した分析データや実見調査のデータも着実に積み上げることができた。さらに、複製制作に関わる調査では、複製品を使用した博物館活動のあり方を考える上で有益な知見を得ることができた。向こう 5 年間の計画遂行に必要な基礎固めに取り組み、初年度の計画を達成し得たものと考える。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　墳墓出土品の調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
当館蔵の墳墓出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　吉澤悟

【主な成果】

(1)盛装男子埴輪の調査

30 年度に購入した盛装男子埴輪は、両足立ちの大形全身像として重要文化財クラスの優品であるが、伝群馬県出土という以上の情報がなかった。元年度に実施した群馬県立博物館への「里帰り」に伴い、地元研究者と連携しながら調査を進め、2 年度末に有力候補地を絞る成果を発表している。3 年度はそれらを踏まえ、さらに赤城山南麓の古墳群の情報を収集し、当埴輪の出土古墳の同定（蓋然性）を高めている。

(2)五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の調査

元興寺文化財研究所との連携により、五條猫塚古墳出土の帯金具の金属素材分析と、裏面に付着していた毛織物の分析を行い、文化財科学会で発表を行った。古墳時代の毛織物は下池山古墳の鏡袋（ウサギ）の他、韓国・皇吾洞 100 番地 1 号墳の織物（ヒツジ）など、ごく少数の事例が知られるのみである。本品の動物種までは同定ができなかったが、日本の毛織物の歴史において貴重な発見報告となった。

(3)火葬骨蔵器（須恵器短頸壺・灰釉短頸壺）の調査

元年度に新規購入した奈良時代の火葬骨蔵器に関して、胎土や釉調の観察、法量計測、写真撮影などを行い、産地の同定を行うと共に、出土地の伝があるものに関しては現地における類例や関連情報の収集を図った。同品は特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション」に出陳されたため、成果の一部は特別展の図録の解説や公開講座、サンデートーク等において発表した。

火葬骨蔵器

(4)古代・中世の墓誌の調査

館蔵品の行基墓誌断片や寄託品の忍性骨蔵器に関して、30 年度～2 年度までに行った材質分析や観察などの成果をベースに、過去の研究史との整合性や問題点の検討を行い、新たな知見の口頭発表を行った。

【備考】
- 飯田浩光・南雲芳昭・吉澤悟「奈良国立博物館所蔵の盛装男子埴輪について」『群馬県立歴史博物館紀要』第 42 号、3 年 3 月 31 日（2 年度実績）
- 山口繁生・小村眞理・吉澤悟・鳥越俊行「五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析」文化財科学会・口頭発表、9 月 18 日
- 吉澤悟「行基墓誌断片を考える」奈良芸術短期大学歴史公開講座、於：奈良芸術短期大学、10 月 16 日
- 吉澤悟「ちょっと良いかも、奈良博の考古」特別展「奈良博三昧」公開講座　於：奈良国立博物館　9 月 4 日
- 吉澤悟「奈良博の壺」サンデートーク　於：奈良国立博物館、11 月 21 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵の墳墓出土品に関して、館外の研究者とも連携しながら、積極的な調査・研究・発信を行うことができた。コロナ禍にあって、2年度に始めた「珠城山古墳出土品の再検討」のような、館外の研究者を集めて再実測・再整理を行う事業は休止せざるを得なかったが、その一方、各個で資料と向き合い、それぞれの研究成果を持ち寄るかたちでの報告・発表を進めることができた。調査対象を広げ、規模を拡充させることが今後の課題となろう。また、成果を蓄積するのみならず、展覧会等に反映させて行けたことも評価されよう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品の調査を通して研究成果を展覧会や学会発表に発信することを目標とする中、3 年度は積極的な活動を行うことができ、目標を着実に実行している。こうした積み重ねにより、中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

展覧会開催に際して借用した作品、館蔵品、寄託作品、近郊の寺社等の作品の中から、南都地域（奈良市及びその周辺地域）伝来もしくは南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品を選び、詳細な調書の作成とデジタル高精細画像の写真撮影やX線CTスキャン調査を通じ、データの収集・蓄積を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長　岩井共二

【主な成果】

(1)館内外において下記の作品の調査・撮影を行った。

［作品名］

法隆寺聖徳太子二歳像（4月7日）／法隆寺地蔵菩薩立像、観音菩薩立像（5月7日）／法隆寺聖徳太子及び侍者坐像（5月10日、17日）／法隆寺行道面（5月13日）／釈迦如来立像（館蔵887）（5月18日）／高福寺薬師如来坐像、石川尾添区阿弥陀如来立像（5月19日）／藤田美術館菩薩坐像（5月20日）／法隆寺菩薩立像(5月26日)／藤田美術館伎楽面（5月20日）／法隆寺六観音像（5月24日）／藤田美術館小野小町像、太閤秀吉像、菩薩坐像、菩薩半跏像、菩薩立像(5月27日)／法隆寺金堂薬師如来坐像、法隆寺六観音像（5月31日）／法隆寺伝法堂阿弥陀三尊像（6月7日）／法隆寺伝観勒僧上坐像、法隆寺行信僧都坐像（6月14日）／朱智神社牛頭天王立像（6月18日）／個人蔵不動明王及二童子像（7月1日）／京田辺大徳寺地蔵菩薩立像（7月17日）／藤田美術館四天王像、十二神将像(8月3,4日)、藤田美術館四天王像、菩薩立像（興福寺千体仏）(8月11日）／現光寺四天王像(8月12日)／泉屋博古館阿弥陀如来坐像（8月20日）／隔夜寺空也上人立像（9月8日）／慶田寺観音菩薩立像、阿弥陀如来立像（11月4日）／一休寺一休宗純倚像（11月10日）／一休寺釈迦三尊像、大応国師倚像（11月11日）／大安寺十一面観音立像（12月14日）

(2)調査を通じて重要な学術的知見を得ることができた。

(3)特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また、論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については、4年度の刊行物において発表する。

【備考】

法隆寺所蔵の彫刻作品は、3年度開催の特別展「聖徳太子と法隆寺」での借用品であり、調査成果及び撮影写真は、本展覧会で報告した。

新規撮影された写真や調査成果は、4年4月に開催予定の特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」の他、今後開催される展覧会や、写真の借用依頼への対応に寄与するものである。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査の成果は、今後4、5年度中に開催予定の特別展の展示構成や解説に反映させるための貴重な資料の集積となった。調査方法は、実測、撮影、3D計測、X線CTスキャンなど多岐にわたる。大安寺十一面観音立像は、4年度開催の「大安寺展」、京田辺大徳寺や一休寺における調査の成果は、5年度計画中の木津川流域の文化財を中心とした文化財を紹介する特別展開催のための基礎的な資料の集積に寄与した。 また、特別展「聖徳太子と法隆寺」の借用品や、藤田美術館所蔵文化財についても新たに撮影、X線CTスキャンを行い、今後の展覧会や、彫刻史研究に活用できる資料を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度までの中期計画に引き続き、南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、X線CT等の光学的修法による調査を行い、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげることができた。 特に特別展「聖徳太子と法隆寺」の出陳作品については、法隆寺の国宝・金堂薬師如来坐像や国宝・聖徳太子坐像及び侍者坐像のように、通常調査や撮影ができないものが多く含まれる。この機会に得られた写真等は展覧会終了後も次代の研究資料として大いに活用が期待される。また、藤田美術館所蔵品や関連作品（隔夜寺空也上人立像）の調査成果は、3年度開催の特別展「絵画の殿堂　藤田美術館展」の図録解説や展示パネルにも反映し、研究成果の発表も行うことができた。 調査によって得られた知見についても、積極的に公表しており、中期計画の1年目として、着実に事業を行っている。コロナ禍ではあるものの、例年同様のペースで事業を進められるよう努めていく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cヵ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 東京文化財研究所の協力により藤田美術館所蔵絵画作品の高精細デジタル画像撮影及び法量・銘文・所見等の基礎情報を収集する調査を合計 7 日間実施し、その成果を特別展「名画の殿堂藤田美術館展」(12 月 10 日～1 月 23 日開催）の展覧会図録に反映した。

(2) 奈良文化財研究所との共同研究として 2 年度に実施した藤田美術館所蔵仏像彩画円柱光学調査について、その分析結果を検討、今後の成果公表の方法を協議した（12 月 3 日)。

(3) 東京文化財研究所との共同研究に基づいて、平安絵巻の代表作である国宝辟邪絵及び重要文化財沙門地獄草紙の光学的調査（高精細デジタルカメラによるカラー画像撮影、近赤外線撮影、ポリライトを用いた可視光域内蛍光撮影）を新規に実施した。

国宝辟邪絵の可視光域内蛍光撮影（12 月 24 日）

【備考】

調査回数：
藤田美術館絵画作品調査 7 日間（7 月 27 日～29 日、8 月 3 日、9 月 1 日～3 日)、館蔵辟邪絵・沙門地獄草紙調査 3 日間（12 月 22～24 日）
調査作品数　合計 56 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京文化財研究所との共同研究に基づいて、新規に当館蔵辟邪絵及び当館蔵沙門地獄草紙の光学的調査を実施し、文化財の顔料や基底材に関する基礎情報を収集した。また同共同研究の一環として藤田美術館所蔵絵画作品の全件について光学調査を着実に進め、その成果を特別展「名画の殿堂藤田美術館展」の図録等に公表した。さらに奈良文化財研究所との共同研究として2年度に実施した仏像彩画円柱の3D計測・蛍光X線による顔料分析等の調査結果に関する検討会を開催し、4年度以降の成果報告書作成に向けて協議を行うなど、年度計画に沿って、事業を遂行できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、東京文化財研究所・奈良文化財研究所との共同研究に基づき、精度の高い光学的調査によって高精細デジタル画像及び顔料・基底材等の基礎データを着実に蓄積し、その成果の一部を展覧会に活用することができた。以上の成果は、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cキ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集陳列「お水取り」に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】東大寺修二会（お水取り）の歴史や伝統について、東大寺と連携を図り、広く一般に知ってもらう方途を模索し、展覧会やイベント等に取り入れて実施することで歴史や伝統文化の理解促進を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　吉澤悟

【主な成果】

(1)東大寺と綿密な連携を図り、お水取りの行法に関わる江戸時代の記録や実際に使われた法具類、二月堂十一面観音に関する絵画作品などの中から重要なものを選定し、保存状態の確認を行った上で特別陳列「お水取り」の展示構成を整えた。さらに実際の行法で着用された袈裟や紙衣を塔頭より借用して、展示にリアリティをもたせた。

(2)お水取りの伝統について、東大寺長老より解説をしてもらう公開講座を開催した（4年2月19日）。

(3)修二会の行法が行われた場所、練行衆が参籠した場所、道具類のしつらえなど、お水取りに関わる現場を見学し、長い伝統をもつ行事への理解を深めてもらうためのツアーイベントを、東大寺の協力を得ながら企画し、研究成果や展覧会内容を現地で学習する機会として実施した（4年3月26日実施）。

【備考】

・特別陳列「お水取り」（4年2月5日～3月27日、奈良国立博物館西新館）
・公開講座「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」北河原公敬師（東大寺長老）
　4年2月19日、奈良国立博物館講堂にて
・お水取り講話と現地解説の会、野尻忠（奈良国立博物館）、佐保山暁祥師（東大寺録事）
　4年3月26日、奈良国立博物館講堂及び東大寺山内にて

特別陳列「お水取り」会場

お水取り講話と現地解説の会

お水取りチラシ

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、東大寺において1,260年以上にわたり続けられている修二会（お水取り）について、いかに多くの人々に伝えられるか、その課題に向けて魅力ある展覧会を作り、関連行事を充実させる試みである。作品の選定からイベントの構成、実施にいたるまで、東大寺の長老をはじめ多くの方々に協力を仰ぎ、単に「見せる」展覧会でなく、「体感する」展覧会へと中身を充実させることができた。古寺古社の間に位置する当館の強みを生かし、理想的な活動形態を示すことができ、年度計画を遂行できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	お水取りの展示は、東大寺との連携を図りながら今後も継続実施して行く方針である。特に2月、3月という観光の閑散期において、全国的に有名な二月堂の「お松明」見学と併存する名物企画となり得るものと期待される。展覧事業や教育普及の拡充を目標とする中、その一里塚を築くことができたと言え、中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　X 線 CT スキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究 ((4)-①-1))

【事業概要】
本研究では、X 線 CT スキャナ及び 3D デジタイザ等を使用した調査によって各種有形文化財の構造及び製作技法を明らかにすること、並びに得られた成果を展覧事業及び教育普及活動に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1) 展示関連作品の調査

徳川美術館所蔵の国宝「初音の調度」の X 線 CT 調査では、作品が虫損等のない健全な状態にあることが確認でき、内部構造の詳細が明らかになった。特に「貝桶」については、側板や角の複雑な木地構造が明らかになり、これらを可視化した三次元モデルを作成し、学会発表用のポスターに活用した。また、当館所蔵の青銅三鈴杏葉については、X 線 CT スキャンによって鈴内部の小球である丸（がん）の形状や数が明らかになった。その他、他館と協力し、借用した考古資料や木彫像など多数の文化財の調査を実施した。

(2) 三次元データの活用

X 線 CT スキャナ及び 3D デジタイザによって得られた三次元データを使用し、土偶、埴輪馬及び青銅三鈴杏葉のレプリカを 3D プリンタで製作した。青銅三鈴杏葉については、内部の丸も再現し、振ることで実際に音が鳴るものとした。これらのレプリカは、文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」におけるハンズ・オンの一環として展示した。

レプリカを用いたハンズ・オン展示風景

【備考】
・X 線 CT 調査件数 90 件、調査回数 271 回
・3D デジタイザ調査件数 8 件、調査回数 12 回
＜論文等＞
・大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱の X 線 CT 調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告」『文化財保存修復学会第 43 回大会研究発表集』82-85（7 月）
・渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造及び製作技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集』130-131（9 月）
・川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（2）香道具」『東風西声』17 号（4 年 3 月）
・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告と X 線 CT 調査報告」『浦添市美術館紀要』17 号（4 年 3 月）
＜関連展覧会＞
・文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」（7 月 13 日～9 月 5 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は98件の文化財等の調査を実施し、保存状態及び製作技法に関する情報を得ることができた。所有者との検討会等においてデータを分析し、得られた知見は学会発表や論文、展覧会における解説パネル及びハンズ・オン資料製作等を通じて広く公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、X線CTスキャナ等により各種文化財の三次元データを蓄積し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に還元し、一般に発信することを目標としている。3年度は中期計画の初年度として、多数の文化財の調査を実施し、順調に推進することができた。 4年度以降も調査を継続的に実施するとともに、多様な成果の積極的な公表を推し進める。さらに、レプリカ製作等により、様々な人が楽しむことのできる展示手法の検討も行う予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　近世キリスト教に関する研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
日本の近世（安土桃山時代から江戸時代まで）の時代性を特徴付けるキリスト教の日本伝来と禁教に関する作品の展示等を通じて、近世日本におけるキリスト教の歴史や信仰に関する研究成果を発信する。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	研究員　松浦晃佑

【主な成果】
２年度に引き続き、「キリスト教の伝来と禁教」というテーマで、キリスト教の日本伝来から明治時代にキリシタン高札が撤去されるまでの歴史を、来館者がたどれるように作品展示を行った(4 月 1 日～4 年 3 月 31 日)。
江戸時代の禁教のために、キリシタン遺物はほとんど残っておらず、従来の絵画資料や東京国立博物館所蔵の重要文化財「長崎奉行所キリシタン関係資料」等の展示に加え、3 年度は、教会であった建物の瓦などの考古資料も追加し、キリシタンの文化をより多角的かつ詳しく来館者に示すことができた。また、作品を展示するだけでなく、補助解説パネルを充実化させ、より深い理解を促す展示が達成できた。さらに、2 年度に新たに収蔵したカルディム著『日本殉教精華』などの収蔵品も展示公開した。

新収品と補助解説パネルの展示の様子

補助解説パネル

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、資料調査を十分に行うことができなかったが、文化交流展における展示の充実化（補助解説パネル、収蔵品）を図ることができた。 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産に登録され、日本のキリスト教の歴史への関心が高まり、当館においても重要なテーマとなっているが、来館者に近世日本のキリスト教の歴史や文化を、作品展示を通じて紹介することができた。 これからも日本におけるキリスト教の展開について研究発信を行っていく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館近隣の所蔵機関の協力も得て、展示内容が充実できただけでなく、各地域の文化財の活用・公開に資することができ、中期計画を順調に遂行できている。 日本のキリスト教の歴史や信仰の在り方は、当館の重要なテーマであり、また世界的な関心が高まっており、引き続き、展覧事業や研究成果の公開を行う。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

27 年度から元年度まで 5 年間実施した「きゅーはく女子考古部」の成果を発信する特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」（4 年 4 月 19 日～7 月 24 日）に向けて、女子考古部員、考古担当研究員と共同で展覧構成、作品選考、解説執筆など行う。

「きゅーはく女子考古部」は、考古好きの女性が 1 年間体験を通して考古学を楽しむプログラムである。「考古学の世界は男性ばかりで入りにくい」という女性の声を受けて発足した活動で、博物館での展示を含む考古学に対して女性という新たなファン層の開拓と定着に一定の成果をあげることができた。活動後のアンケートでは、「かわいい」を共感できることが女子考古部のメリットだという声が多くあり、これまでの知識偏重の考古学だけではなく、「かわいい」などの感覚で考古学を楽しみたい、という思いが強く表れている。これを受けて、「かわいい」をテーマにした展覧会やイベントを開催することとなった。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　西島亜木子

【主な成果】

(1) 展覧事業

・作品選考

これまで活動に参加した女子考古部員約 100 人に、企画趣旨の説明後、作品選定の依頼をした。作品選考はオンラインで行った。その後、選ばれた作品について実際に館内で見てもらい、最終選考を行った。

・タイトル決定

当館が提案した仮タイトルに対して女子考古部員に意見聴取を行った。部員の意見をもとに当館で最終決定した。

・ポスター、チラシ制作

考古学に興味がない人にも目に付くようなデザインとなるよう、デザイナーと相談しながら制作した。

女子考古部員による作品選考の様子

・作品解説、パネル執筆

部員が作品を見た後、「かわいい」視点で作品解説の執筆をした。考古担当研究員には通常の解説を書いてもらった。パネルは、プロジェクト責任者、考古担当研究員、女子考古部員それぞれが執筆した。

・冊子制作

「かわいい」視点で書かれた解説、通常の解説を写真とともに掲載した冊子を制作した。考古学に興味がない人にも手に取ってもらえるよう、堅苦しくないデザインとした。

(2) 関連イベント

・女子考古部員とともに、展示関連イベント「古代の宴」の企画及び準備を行った。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	女子考古部員と連絡を密にしながら本展の準備を行っており、順調に進んでいる。作品選考や展示解説執筆などを研究員ではない女子考古部員に担当してもらうなど、これまでに例のない展覧会である。また、「かわいい」という感覚から考古学の世界に入ることを目指した本展は、分かりにくいと思われがちな考古学の世界への敷居を下げるものであるとともに、新たな考古学へのアプローチの仕方を提案するものである。幅広い層に展示を見てもらえるよう、広報に努めながら準備を進めている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、順調に中期計画を遂行している。きゅーはく女子考古部とのコラボレーション展示は、当館が目指す「市民と共生する博物館」を象徴する展覧会である。展示を通してさらに多くの市民に楽しんでもらえるよう準備を進めている。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
本事業は、国内の水中遺跡保護体制の整備とその充実を図ることを目的とし、30 年度より奈良文化財研究所と共同で実施している。4 年目にあたる 3 年度は、文化庁が刊行を予定している『水中遺跡ハンドブック』の作成業務を中心に実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　河野一隆

【主な成果】

(1)『水中遺跡ハンドブック』の作成業務

『水中遺跡ハンドブック』の内容検討のため、文化庁が設置する「水中遺跡調査検討委員会」の下部に協力者による作業部会（協力者会議）を 30 年度に設置し、3 年度は当該会議を 4 回開催した。(3 回奈良文化財研究所開催、1 回当館開催）また、原稿作成作業のため、作業部会委員、事務局等による編集会議を、主に奈良文化財研究所が事務局を担当し、4 回開催した。いずれの会議も、新型コロナウイルスの状況を鑑み、オンラインを併用し実施した。当館は、読み手にとってわかりやすい『水中遺跡ハンドブック』となるように、使用する資料・写真等の収集や、イラスト制作に係る調整、文章校正補助等を実施した。委員・協力者のご尽力もあって、今後の水中遺跡調査のてびきとなる充実した内容の図書を予定通り刊行できた。

当館で開催された協力者会議の様子

(2) 国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究

新型コロナウイルスの感染拡大により、2 年度中に実施が困難であった一部事業を 3 年度に繰越し、『水中遺跡ハンドブック』の内容充実のため、7 月に編集会議メンバーによる計 4 回（和歌山県串本町、神奈川県三浦半島、千葉県館山市、広島県福山市）の現地調査を実施した。各地の水中遺跡に関連する施設や遺跡等を調査し、保存・活用に関する地元自治体等の取り組み等の情報収集や『水中遺跡ハンドブック』に使用する写真の撮影等を行い、『水中遺跡ハンドブック』原稿の編集を継続的に支援した。

いろは丸記念館（広島県）の視察風景

【備考】
・水中遺跡調査検討委員会協力者会議　4 回（6 月、8 月、12 月、4 年 3 月）
・同編集会議　4 回（4 月※、10 月、11 月、4 年 1 月）※は 2 年度繰越し事業

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	3年度は水中遺跡の現地調査を実施し、関連情報の収集を行うことができた。また『水中遺跡ハンドブック』作成を継続的に支援するため、関係者・機関との会議開催や情報共有を行い、原稿素材の調達にも協力した。当該ハンドブックは、水中遺跡の保存及び活用を推進する上で、今後欠くことのできない指針となるものであり、その刊行が果たす学術的意義は非常に大きい。前述したような諸業務を計画的かつ円滑に推進していった結果、当該ハンドブックを3年度中に刊行することができたことは特筆すべき点である。以上からA評価が妥当であると考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『水中遺跡ハンドブック』刊行に向けて、オンライン会議を活用するなどして関係者・機関との調整をはかり、原稿作成への継続的な支援を行った結果、3年度中に学術的意義の非常に高い当該ハンドブックを刊行することができ、その刊行に大きく寄与することができたといえる。それに加えて新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期での水中遺跡の現地調査なども行うことができ、水中文化遺産に関する調査研究をより大きく進展させることができた点は、所期の計画を大きく上回っている。以上からA評価が妥当であると考えられる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」に出展されていた作品のうち、法隆寺金堂の金銅薬師如来坐像、四天王立像（広目天・多聞天)、橘夫人念持仏厨子などの熟覧・調査を、当館客員研究員で中国彫刻史を専門とする石松日奈子氏とともに行った。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理平常展調整室長 皿井舞

【主な成果】
(1)実施概要
期間及び場所：9 月 6 日～7 日　平成館 2 階 4 室
(2)実施内容及び成果
・法隆寺金堂四天王立像について、これまであまり詳細には報告がなされることの少なかった、表面の彩色の調査を行った。とりわけ着衣には鮮やかな色彩が残っており、飛鳥時代の彩色表現についてより深く知るための手がかりを得ることができた。
・橘夫人念持仏厨子の台座腰部に描かれている羅漢像等の詳細について熟覧すると同時に、ほとんど見えなくなってしまっている厨子扉に描かれた尊像についても詳細を確認することができた。
・金銅薬師如来坐像の梱包時に、像内に塗られた赤色顔料について詳細を確認することができた。

調査を行った展覧会場

【備考】
これらの成果は展示や論文にすぐさまに反映できるものではないが、当館の東洋彫刻の調査・研究を継続するなかで、『MUSEUM』等に論文や研究ノートとして報告をし、成果を公開していく予定である。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内屈指の文化財の宝庫である法隆寺の作品を調査することにより、得られた知見を国民に還元することができた。それだけでなく、当館所蔵作品を継続的に調査する一環として特別展出品作品もあわせて調査をすることによって各作品の理解をより深めることができた。今後、こうした成果を展示等に反映することができるよう、研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として今後の展示、論文等の情報発信につなげることのできる文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究を行うことができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別企画「東アジアのうるしの世界」に関連する調査研究((4)-①-2))

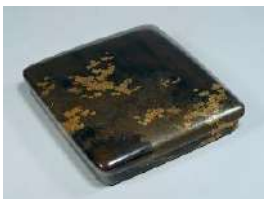
【事業概要】

3年度に開催予定であった特別企画「東アジアのうるしの世界」を充実した展示にするための調査研究。東アジアの日本、中国、韓国では、漆という共通の材料を用いながらも、それぞれの国において独自的な漆工技法を発達させて、異なる美意識や造形感覚を生み出した。そのような東アジア文化の多様性について調査研究を行い、その成果を特別企画において紹介する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　猪熊兼樹

【主な成果】

本調査の担当研究員は、猪熊兼樹（企画課特別展室）と福島修（調査研究課工芸室）である。日本の漆工の調査研究には、当館の館蔵品を中心に行った。中国の漆工については国家博物館、韓国の漆工については国立中央博物館の研究員を通じて各館の館蔵品について、渡航制限のなか、当館の国際交流室の協力を得ながら取材調査を行った。その調査研究を通じて、東アジアでは同じく漆という共通の材料を使いながらも、日本は漆器の表面に金粉を蒔いて文様を表現する蒔絵、中国は漆を何回も塗り重ねた厚い層に文様を彫刻する彫漆、韓国は漆器の表面に貝殻を切って作った貝片を組み合わせながら文様を表わす螺鈿という技法が発達したこと、各国では異なった装飾技法を駆使して、異なる美意識や造形感覚を生み出したことを認識した。そして、東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館が所蔵する漆工作品のなかから、漆工技法が華やかに展開した17世紀から19世紀にかけての優品を各国10件ずつ、合わせて30件を展示して、東アジアの漆工を紹介することとした。



柴垣蔦蒔絵硯箱
日本・東京国立博物館

山水人物堆朱提箱
中国・国家博物館

双鶴花鳥螺鈿櫛箱
韓国・国立中央博物館蔵

【備考】

展覧会：日中韓国立博物館合同特別企画「東アジアのうるしの世界」
会期・会場： 7月13日（火）～9月20日（月・祝）本館特別1室（予定）
主催：東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館
※本展は、新型コロナウイルス感染予防に伴う海外移動制限のために中止となった。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本、中国、韓国では共通して高度な漆工文化が発達したが、各国ではそれぞれが異なった装飾技法を駆使して、異なる美意識や造形感覚を生み出した。従来、それぞれの漆工は個別に調査研究されてきたが、本調査ではそれらを相対的に捉えることで、東アジア文化の多様性を認識することができた。 ただし、新型コロナウイルスの感染拡大予防に伴う渡航制限により、研究員が作品を実見することができず、また作品自体の輸送なども行うことができなかったため、それらを一堂に会して相対的に比較する調査研究や展示をすることができなかった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査研究は、日本、中国、韓国の3か国の国立博物館による合同企画に伴う調査研究である。日中韓国立博物館館長会議に基づく活動の一環として、平成26年から巡回して、各館の文化財を一堂に集めた展覧会を開催してきた。4回目となる今回は当館を会場とし、アジア特有の工芸技法である「漆芸」に焦点を当てた展示を企画し、その調査研究を行う予定であった。 本調査研究は、新型コロナウイルス感染予防に伴う海外移動制限のために不十分な点があったが、当館の国際交流室の協力を得ながら、中国及び韓国の博物館の担当研究員たちに取材調査や意見交換をする工夫をした。その成果として展示作品の選定まで行うことができ、中期計画の初年度として、計画を遂行できている。残念ながら、本特別企画は中止となったが、その成果は当館の平常展や将来の日中韓国立博物館合同特別企画に生かす。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】

3 年度に行った特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」を充実した展示にするための調査研究。本展では、現在奈良県桜井市所在の聖林寺所蔵の十一面観音菩薩像（国宝）、法隆寺所蔵の地蔵菩薩像（国宝）など、江戸時代まで近隣の大神神社に伝わった仏像などを展示した。そのための事前調査として、出品作品の写真撮影、十一面観音菩薩像の CT 撮影を行った。また、展覧会を紹介する動画を作成し、オンライン配信をした。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　丸山士郎

【主な成果】

聖林寺十一面観音菩薩像、法隆寺地蔵菩薩像について、今後の研究資料となる詳細な写真を整備することができた。十一面観音菩薩像については CT 撮影によって、木心や乾漆の形状、技法など多くの知見を得ることができた。

聖林寺十一面観音像、自然信仰、技法、三輪山などに関する動画 6 本を製作してウェブサイト上で公開し、展覧会に関する調査研究の成果を公開した。

展示の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	通常は間近で観察することのできない日本彫刻史上の名品を、足場に乗るなどして詳しく観察することができた。また、来館者にも360度から見ることができる展示環境が提供でき、好評を得た。 図録には作品解説のほか、自然祭祀、神仏習合、技法、関連する歴史などの小論を6本掲載した。聖林寺十一面観音菩薩像について、CT撮影を実施し、技法上の新知見を得るとともに、今後の研究資料とすることができた。 特別展に関連する講演会等の動画を6本製作のうえ、ウェブサイト上で公開し、展覧会の理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」を開催し、これまでに調査した成果を会場解説、図録、動画などで広く一般に発信した。 中期計画の初年度として、順調に中期計画を遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】

時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会は、これまで当館のみならず、日本において開催されてこなかった。そこで、特定の国家や地域に偏ることなく、世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させるための展示や教育普及に関する調査研究を行い、イスラーム文化が、時代、地域、ジャンルなどにおいて受容され、展開されていったかを考察した。その成果の一環として、イスラーム文化の多様性がわかるような展示や教育普及活動を行った。

【担当部課】	学芸研企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部上席研究員 勝木言一郎

【主な成果】

(1) 調査概要

当館及びマレーシア・イスラーム美術館が所蔵するイスラーム美術の作品を調査した。

(2) 展示事業

7 月 6 日～4 年 2 月 20 日の期間に、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」（於東洋館 12 室・13 室）を開催した。来場者数は 12.5 万人に達した。

日英 2 言語併記の図録を編集し、刊行した。

鑑賞者の理解を促すため、日英 2 言語併記のイスラーム教に関する映像を投影したほか、日英中韓 4 言語による章解説や年表を掲示し、作品目録、主な作品解説（いずれも日英中韓 4 言語）を配布した。

(3) 教育普及

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ワークショップから講演会へとイベントの内容を改め、12 月 8 日、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演会（於平成館大講堂）を開催した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、講師が来日できなかったため、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演の動画（日英 2 言語）を製作し、発信した。

展覧会場

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	イスラーム文化に対する従来の日本の理解は必ずしも欧米に比べ進んでいると言い難かった。しかし、この展覧会を機に、イスラーム文化に対する理解を促進できた。また展示の内容も、時代や地域、ジャンルにとらわれることなく、イスラーム文化の受容と展開を相対的に見せることができた。 以上の実績を踏まえ、年度計画を遂行できたと判断し、Ｂ評価とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの蔓延により、海外からの渡航者の禁止あるいは制限、来場者の制限など、事業を達成するには極めて厳しい状況にありながら、中期計画の初年度として必要な調査研究を遂行できた。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「京の国宝－守り伝える日本のたから－」に関する調査研究　((4)-①-2))

【事業概要】特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから」の実施に向けて調査研究を行い、その成果を展示、図録、会期中の講座、ホームページなどを通して公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室研究員　森道彦

【主な成果】

国宝指定を受けた京都ゆかりの文化財を多数展示しつつ、日本の文化財指定のあゆみと文化財に関する各種事業の意義、文化財と社会との関わりを広く紹介するという展覧会内容をふまえ、日本の文化財史に関する資料や文献調査を実施し、それらの成果を展覧会図録や講座などで発表した。調査先は文化庁、東京国立博物館、奈良国立博物館、公益財団法人美術院や京都府下の社寺などで、所蔵者と連携しながら新資料の捜索や研究を実施した。特に主催者の一員である文化庁と連携し、博物館とは異なる文化財保護行政の視点や知見を出来る限り汲み取り、展示内容に生かすよう努めた。

文化財保護のあゆみは、当館を含む我が国の国立博物館の成り立ちや意義に深く関わる極めて重要なテーマであり、館史などをよりよく知る上でもその研究は欠かすことができない。本調査研究を通じて、日本の近代史や博物館史において重要な多くの知見が得られたほか、いわゆる「国宝展」にあって、ものの鑑賞と表裏一体にある保存、保護の営みを提示するこれまでにない機会ともなり、展示の方法論や手法等についても従来にない多くの知見が得られた。

鹿苑寺内　調査風景

【備考】

展覧会会期　7 月 24 日～9 月 12 日
展覧会図録の作成　多言語による展覧会鑑賞ガイドの作成　記念講演会 6 回　文化財修理に関する映像上映
ホームページ「京博ものがたり」の作成

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	2年度夏に文化庁主催のもと、別施設（京都市京セラ美術館）で予定されていた同名の展覧会を急遽、当館で大幅に再構成し実施することとなったもの。準備期間は1年未満であったが、従来の国宝展観とは一線を画す、独自色が強く完成度も高い内容に仕上がり、長年にわたる当館の着実な研究蓄積によって成し得た事業であったと評価できる。会期を通じて新型コロナウイルス第5波と緊急事態宣言発令の影響を受け、来館者数は伸び悩んだが、読売新聞社による紡ぐプロジェクトや、NHKによる8K文化財プロジェクトをはじめ、社会的に文化財やその修理への関心が高まっている時期であり、文化庁と協働して文化財の指定や研究、修理、模造といった文化財保護に必要な様々の事柄を総合的に示すことができたのは時宜にかなうもので、重要な社会貢献をすることができた。文化財指定のあり方をはじめ、古い品々を取り巻く社会情勢が極めて大きく変化している今日、我が国の文化財保護の背景となった様々の歴史事象や変遷をたどり、再確認していくことは文化財保護の将来設計をする上で欠くべからざることである。 文化庁と博物館が協働して文化財保護に不可欠な各種事業を幅広く、通史的に考察することで得られた成果や知見は多く、展示を通じて文化財保護史にとって新たな観点を提示することができた。 以上を踏まえて、A評価が妥当であると考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	京都を中心に古社寺の文化財を保護し活用する場とすべく、明治 30 年に開館した当館は、その成り立ちからして文化財保護に関する調査研究を一大課題と位置付けている。既に 2 年度も特別企画「文化財修理の最先端」を実施し、日本の文化財修理の基地と言うべき修理所を抱える当館の意義を紹介する展示を実施したところであった。改めて中期計画の初年度にあたる 3 年度に実施した「京の国宝」展は、こうした問題意識に沿いつつ改めて文化財保護制度そのものを取り上げる企画であり、大きな成果を上げることができた。3 年度からは科学研究費等を活用しながら館史史料のアーカイブや研究にも努めており、本展を嚆矢とするこれらの継続的な研究を通じて、当館の重要なアイデンティティである文化財保護の意義をよりよく社会に発信できるようにする。4 年度以降も引き続き研究を継続し、各所と連携しながら成果公開に努めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 イ　特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」に関する調査研究 ((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「畠山記念館の名品」実施に向けて調査研究を実施し、その成果を展示、図録、教育普及や会期中の講演会などを通じて広く一般に公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

【主な成果】

畠山記念館は、茶道具を中心に、書画、陶磁、漆芸、能装束など、日本、中国、朝鮮の古美術品を収集し、国宝 6 件、重要文化財 33 件、重要美術品 7 件を含む約 1,300 件にも及ぶコレクションを有する美術館である。改修工事に伴い、その期間中に当館においてその所蔵品を保管することとなり、作品の調査研究を進めている。展示作品としては 200 件を越える各分野の作品を畠山記念館と連携し、調査、写真撮影を実施した。また、畠山記念館の創設者である畠山一清の数寄者としての視点でも検討を行い、一清と関係のあった人物との交流や事象などについても調査、写真撮影などを実施した。それらの成果をもとに展示を構成し、図録や講演会などにも反映した。

畠山一清をはじめとした近代数寄者と呼ばれる人物についての研究は、当館においても元年度に特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」を開催するなど近年盛んに進めてきており、今回も個々の作品研究とともに、数寄者間の交流や茶の湯や能楽などとの深い関係や流行などについても研究を広め、新知見を得ることができた。

展覧会図録

【備考】
調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男、企画室長 山川暁、保存修理指導室主任研究員 福士雄也を中心に、各分野研究員と畠山記念館学芸員とも共同で調査研究を行った。
・出品件数　228 件(うち国宝 6 件、重要文化財 31 件、重要美術品 7 件)
・展示会期　10 月 9 日～12 月 5 日
・展示図録の作成、多言語による解説、学芸生向けのリーフレットの作成、記念講演会 4 回を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスにより、調査研究を進めることが難しい面もあったが、各分野研究員によって200件をこえる作品の調査研究を進めたことにより、展覧会の準備を円滑に進めることができた。その成果を展覧会や図録、講演会などにおいて広く一般に公開することもできた。 また、個人コレクションをもとにした美術館所蔵品の特徴や傾向などについて、研究蓄積を行えたことや近代数寄者の動向などについて研究を深め、新たな知見を見出し、それらを図録、講演会などにおいて提示できたため、Ｂと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前に作品調査を行い、新知見を含む内容をそれぞれの作品担当研究員によって図録反映できたことは学術的にも意義深く、成果としても大きなものとなった。また、新型コロナウイルスによる影響が大きいなか、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができたことは学術研究だけでなく、社会的還元の観点からも意義があり、中期計画を順調に遂行したといえる。 今後も引き続き畠山記念館の所蔵品や個人コレクション、近代数寄者などのいった個別の課題について研究を継続し、その成果を展覧会、講演会などを通じて社会に還元していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｳ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ウ　特別展「伝教大師 1200 年大遠忌記念　特別展　最澄と天台宗のすべて」に関する調査研究　((4)-①-2))

【事業概要】
標記特別展実施に向けて、巡回 3 国立博物館（東京・九州・京都）が協力して、天台宗に関わる文化財の調査研究を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

・延暦寺に所蔵される勅封唐櫃の納入品について、はじめてとなる総合的学術調査を 2 年秋に実施した。同唐櫃は、5 年に一度の法華大会のみに開封されるもので、勅封唐櫃が近代になって新調されるに至る歴史的経緯を明らかにした。この成果は展覧会図録に反映させた。

・3 年秋、東京国立博物館において重要文化財「薬師如来立像」（京都・法界寺蔵）、及び 3 年冬に九州国立博物館で「菩薩遊戯坐像」（愛媛・等妙寺蔵）の CT 撮影調査を実施した。いずれも秘仏であり、借用に伴う移動で各館の施設を活用して実現できたもので、「薬師如来立像」の中に納められており、現在は実見することができない胎内納入像の 3D 画像化などに成功した。この成果は京都会場で公開する予定である。

勅封唐櫃　延暦寺所蔵

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	天台宗の歴史全般に及ぶ幅広い分野での調査を行った。とりわけ、開催3館の積極的な協力により、平素は調査が極めて難しい勅封唐櫃や秘仏の調査を実施した。調査成果は各会場で適宜公開され、最終会場である京都では調査成果を集大成する予定である。社会に還元するという点で、今後の巡回展における機構各館の共同調査研究の一つのモデルとなりうるものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展という予定会期の制約がある中で、調査研究の上で一定の成果をあげることができ、特別展という性格を活かして図録や会場解説にその成果を公表できたため、中期計画の初年度を順調に遂行することができたといえる。よって、Ｂと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」に関する調査研究

【事業概要】

本展覧会は、奈良国立博物館の館蔵品の中から選定した彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門にわたる合計 246 件の文化財を通じて、日本仏教美術 1,400 年の歴史を全 10 章のテーマに沿いながら概観するものである。館蔵品のみで展示を構成することにより、長年にわたって蓄積された当館研究員による調査研究の成果を公開するとともに、教育普及の見地から、ジュニアガイドや親子向け・外国人向けのパネルや題箋を活用し、仏教美術がもつ魅力や学術的価値を平易な日本語や多言語によって紹介するために検討を重ねた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 調査の概要

・彫刻、絵画、書跡、工芸、考古の各部門主任を中心に調査成果を踏まえながら出陳作品について協議を重ね、各部門 50 件前後、合計 246 件を選定した。展示レイアウトは部門別に分けるのではなく、10 章のテーマに沿いながら部門を横断する形で仏教美術の歴史をたどる構成とした。とりわけ当館は仏教美術で名高いが、第 10 章においては、横山大観の近代絵画や埴輪などの考古資料のほか、時代やジャンルが広範囲に及ぶ作品を展示し、当館のコレクションの諸相を広く紹介できた。

・過去の図録で未紹介の作品や新収蔵品、構造が未解明の重要作品を中心に最新の光学機器を用いた調査を実施し、そこで得られた銘文、納入品、材質などに関する新知見を展示パネルや図録上で公表した。

・館蔵品収集に関する文書・古写真資料の調査を実施し、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門別にその経緯や特色について分析を行った。その成果は展覧会図録の各論及び会期中に実施した合計 6 回の公開講座で公表した。

(2) 図録・題箋原稿の執筆及び多言語への翻訳

・出陳全作品全点に関する基礎情報及び作品解説の日本語原稿を作成し、記述の正確さと読みやすさを担保するため、各部門の研究員による原稿の読み合わせを行いながら修正を重ねたうえで、図録・題箋・パネルに反映した。このうち題箋原稿全点を英語・中国語・韓国語に翻訳し、図録・題箋パネルに反映した。

(3) ジュニアガイド・親子向けパネルを活用した教育普及

・仏教美術をより幅広い客層に親しんでもらうため、イラストと平易な解説文によるジュニアガイド・親子向け題箋パネルを作成し、展示会場内で配付・設置した。その作成に際し、解説で取り上げるべき内容について展覧会担当者と教育普及担当研究員が何度も協議を重ね、記述の正確性を担保するために各部門研究員が監修を行った。

展示風景

展覧会図録

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展覧会は、館蔵の優品を通じて日本仏教美術1,400年の歴史並びに仏教美術以外の他分野にわたるコレクションを概観するものである。仏教美術に対する社会一般の関心が高まるなか、日本仏教美術の歴史の流れを平易に紹介するという国立博物館で初の試みであり、部門の垣根を越えて10章のテーマに即しながら作品を展示したことで、作品相互の重要な関係性を立体的に示すことができた。さらに光学調査や文献・古写真調査によって、作品の構造や伝来過程が明らかとなるなど、学会に裨益する重要な成果を公表できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、館蔵品に関する調査研究の成果を展覧会の展示・図録・講座・動画・教育普及等に反映するという目標を達成することができた。以上の成果は、今後の展示活動、調査研究、作品貸与、ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースの更新など、将来における館蔵品の活用・公開に大いに有益であり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 イ　第 73 回「正倉院展」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「第 73 回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に出陳される宝物を含む宝物全般についての調査・研究、展示環境についての調査・研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の輸送方法など、多角的に研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室研究員　三本周作

【主な成果】
(1) 宝物についての調査・研究
・宮内庁正倉院事務所の協力を得て、出陳宝物に関する調書を閲覧し、一部の宝物については実見調査を実施した。
・上記で得た知見は、展覧会図録の作品解説や論考（宝物寸描）、会場での解説パネル、公開講座などに反映した。
(2) 展示環境についての調査・研究
・学芸部保存修理指導室を中心に、これまでの展覧会開催時の展示室・展示ケースの温湿度データを精査し、適切な環境下での宝物の展示を検討した。
・会期中も展示室や展示ケースの温湿度を常時監視し、必要に応じて設定変更を行うなど対処し、適切な保存環境を維持した。
・上記については宮内庁正倉院事務所との事前協議や逐次の情報共有を行った。
・会期終了後には塵埃の検査を実施し、正倉院事務所へ結果報告を行った。
(3) 観覧環境についての調査・研究
・2 年度の入館実績や昨今の感染状況を踏まえて適切な入場制限のあり方を検討し、大きな混乱なく 2 年度より多くの方に鑑賞いただくことができた。
(4) その他
・宝物の安全な輸送方法について、正倉院事務所職員と検討した。
・出陳宝物の魅力的な展示方法について、造作・照明業者と検討した。

【備考】
・宝物に関する内部検討会を 2 回実施した。
・新たに執筆された解説文について、学芸部職員全員が参加する研究会で検討した。
・公開講座　3 回
片岡　真純 氏（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）「正倉院の染織品にみる文様染め技法」
杉本　一樹 氏（宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長））「正倉院の筆」
吉澤　悟（当館学芸部長）「正倉院のガラス器について－白瑠璃高坏を中心として－」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・新型コロナウイルスの影響下で感染予防の対策が強く求められる中、3年度も事前に周到な検討を重ねたことにより開催を実現できた。特に2年度よりも来場者数の制限を緩和し、かつインターネットを通じた展覧内容の動画配信を行うなど、成果の広範な普及が実現できた。 ・正倉院宝物に対する国民の関心は高く、正倉院展は宝物の魅力を広く発信するほぼ唯一の場として重要な意義がある。3年度も出陳宝物を中心に関連資料の収集や実見調査などを重ね、最新の研究成果も含めた精度の高い情報を、会場の題箋やパネル、図録、公開講座を通じて発信することができた。 ・正倉院展の開催の前提として、宝物の安全の確保がある。3年度もこれまでの実績を踏まえつつ、会場の温湿度環境などの現状を正確に把握し、また宮内庁正倉院事務所との密な連絡をとりながら、着実に安全性を確保することができた。これまでに前例のない作業を行ったことも含め、今回の取り組みが将来の正倉院展、さらには他の展覧会事業にも大きく貢献するものと確信している。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画においては宝物に関する調査研究とその成果の発信が重点項目となっている。中期計画の初年度となる 3 年度は、昨今のコロナ禍の影響で来場者数制限やイベントの縮小などの制約が伴ったが、展覧会を安全な形で開催することができた。 宮内庁正倉院事務所の協力を得て、調書の閲覧や実見調査を実施し、出陳宝物を中心とした宝物に関する情報を収集・蓄積することができた。また、この調査研究の成果については、会場での解説パネルや図録、公開講座、動画配信などを通じて広く発信することができた。 上記のような観点から、当該項目の中期計画を着実に遂行できていると考える。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 ウ　特別展「名画の殿堂　藤田美術館」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
本展覧会は、藤田美術館の所蔵品から選定された絵画作品 74 件を出陳し、全 7 章を通じて平安時代から近代に至る日本絵画史の流れを概観するものである。事前に藤田美術館と共同で実施した同館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づいて数多くの初公開作品を紹介し、作品の基礎情報を図録や公開講座で公表した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】
（1）調査の概要
・藤田美術館との共同研究として 31 年度春より 2 年半にわたって、藤田美術館所蔵絵画作品の悉皆調査を実施。調査には当初より当館絵画担当研究員、藤田美術館学芸員に加え、当館客員研究員・板倉聖哲氏（東京大学教授）、当館調査員・中野慎之氏（文化庁調査官）が参加し、板倉氏が中国絵画及び日本中世水墨画、中野氏が日本近世及び近代絵画を中心に作品の所見を提示した。
・3 年度は 7 日間（7 月 27 日～7 月 29 日、8 月 3 日、9 月 1 日～9 月 3 日）にわたり、合計 54 件の作品調査を実施。作品ごとに法量、品質形状、附属品、所見等の基礎情報を調書に記述するとともに、全作品について東京文化財研究所の協力により最新機器による高精細デジタル画像撮影を行った。
・当館絵画担当研究員・藤田美術館学芸員・板倉聖哲氏・中野慎之氏を交えた協議を合計 4 日間（6 月 10 日、6 月 11 日、8 月 4 日、8 月 18 日）実施し、調書及び高精細デジタルカラー画像の検証を重ねて、展覧会に向けた作品選定を行った。

藤田美術館展展示室内風景

（2）調査成果の公表
・上記の調査の成果に基づき、出陳作品全 74 件の 3 分の 1 近くに相当する 23 件の未公開重要作品を本展覧会で初めて紹介し、調査で得られた基礎データ及び所見を図版とともに図録上で公表した。
・図録及び題箋の執筆は、調査参加者の専門性に基づき、やまと絵を当館研究員、中国絵画及び日本中世水墨画を板倉氏、近世絵画を藤田美術館学芸員、近代絵画を中野氏が主に担当し、記述の正確性を担保した。
・展覧会図録に高解像度の図版を多数掲載することで、初公開となる重要作品の細部を詳細に観察できる学術的価値の高い内容とすることができた。
・オンライン生中継動画「ニコニコ美術館」（12 月 10 日放映）及び公開講座「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」（講師：板倉聖哲氏、12 月 11 日開催）を通じて、調査成果に基づきながら藤田美術館絵画コレクションの魅力を広く一般に紹介した。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	藤田美術館の絵画作品を中心に取り上げ、藤田美術館と当館の共同による悉皆調査で発見された作品を中心に構成された、極めて学術的価値の高い展覧会を開催することができた。また調査に当館客員研究員・調査員の参加を要請し、その所見を展覧会図録及び題箋・パネルに反映することで、学会に裨益する重要な学術的成果を公表できた。さらにその成果に基づきつつ、オンライン生中継動画や公開講座を通じて藤田美術館コレクションの魅力を広く一般紹介するなど、教育普及活動を積極的に推進できたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の初年度として、文化財の調査研究成果を展覧会の展示・図録・講座・動画・教育普及等に反映するという目標を達成することができた。特にこれまでに当館で展示する機会の少なかった中国絵画、水墨画、近世・近代絵画を広く紹介する過程で、新しい展示の方針や手法を試みることができ、また新しい客層に当館を認知してもらう貴重な機会ともなった。 以上の成果は、今後の展示活動、調査研究、収蔵品の収集や活用・公開に大いに有益であり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 エ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」の開催にあたり、本展覧会出陳作品のうち、彫刻作品を中心に調査撮影を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長　岩井共二

【主な成果】
写真撮影
これまで十分に調査を行っていなかった国宝の聖林寺・十一面観音菩薩立像、法隆寺・地蔵菩薩立像について、正面・側面・背面や、細部の高精細デジタルカメラによる撮影を行った。また、赤外線撮影をあわせて行い、両像に関する詳細な資料を形成した。

【備考】

調査を進めた聖林寺十一面観音像

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館では、展覧会での出陳品の写真撮影を行うことにより、継続的に写真資料の蓄積を行い、専門書など研究資料や一般書・絵はがき等の鑑賞活用可能な写真を提供することを行ってきた。本展覧会に出陳される国宝の聖林寺・十一面観音菩薩立像、法隆寺・地蔵菩薩立像については、それぞれ、奈良時代、平安時代初期を代表する名品であるが、普段収蔵庫や宝物館の陳列ケースに置かれ、背面などの細部を調査、撮影する機会に恵まれてはいなかった。本展覧会では、両像が露出展示される千載一遇の機会であるため、これにあわせて高精細デジタルカメラによる撮影を行うことにより、これまで、白黒写真しか存在しなかった像の頭上面の写真など、奈良時代・平安時代の仏教彫刻の貴重な資料写真を取得することができた。 聖林寺・十一面観音菩薩立像は、奈良時代後期の仏教彫刻を代表する名品であることは知られているが、この像自体の研究は進んでいるとはいえない。写真が限られたカットしかなかったこともその一因であり、本像写真資料の集積は、今後の奈良時代彫刻史研究の発展に大いに寄与するものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」は 2 年度に、東京国立博物館と当館の 2 館で開催の予定であったが、コロナ禍のため、1 年延期となった。調査の一部分は元年度中から行われ、聖林寺だけでなく、本展覧会に関連する大神神社、正暦寺、玄賓庵での調査を行っており、その成果はすでに展覧会図録に反映されている。 3 年度は、展覧会開催時に可能な調査を中心に行い、東京国立博物館においては聖林寺十一面観音の X 線 CT スキャン調査が行われるなどの成果を出しているが、当館では写真撮影を中心とした調査を行った。休館日など撮影が限られるなか、十分な成果を得ることができた。 以上から、中期計画の初年度として着実に計画を遂行しているといえる。 こうした借用時における調査撮影及び展覧会出陳品の事前調査研究は、今回の展覧会のみならず、4 年度以降の展覧会等の当館の活動に資するものであるから、展覧会開催の前年度から活動を継続して行い、その成果を来館者に還元出来るよう努めていく必要がある。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 ア　開館 15 周年記念特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】

特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」（会期：10 月 9 日～12 月 5 日）開催に向けて、作品の調査研究を行うとともに、図録に使用するため新規撮影も実施する。

会期について、当初は 2 年 7 月 21 日～9 月 13 日で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によっておよそ 15 か月延期となった。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室長　森實久美子

【主な成果】

(1) 出陳交渉及び調査

当初 2 年度夏季に開催予定であったため、基本的には 2 年度までに出陳交渉及び調査は終えていたが、未調査であった龍谷大学図書館や大阪歴史博物館での調査などを実施した。

(2) 新規撮影

京都・東福寺、京都・泉屋博古館、大阪・今宮戎神社（大阪歴史博物館寄託）等の所蔵品について現地での撮影を行ったほか、先行して借用し、当館において撮影をした。

(3) 成果の公開

調査の成果は、展覧会図録、会場パネルに反映した。図録では詳細な作品解説のほか、森弘子氏の特別寄稿やコラムや各論も数多く収載し、展覧会では紹介しきれなかったテーマを深く掘り下げた。

大阪歴史博物館での撮影風景
（撮影対象は今宮戎神社の男神坐像）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、当初の計画どおりに進めることができた。出陳作品について調査を行い、研究を深めるとともに、輸送のための状態確認及び計画立案を行い、リスクを事前に排除することができた。 近年の「持続可能な開発目標（SDGs)」の世界的な広がりとともに、自然環境に対する人々の関心が高まっている。本展の日本人と自然という趣旨は時宜を得たものであり、現代社会への問いかけとなる有意義な展覧会となった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、展覧会の準備を進めることができた。作品の調査研究と並行して、展示や図録、イベントについても検討を重ねることができたため、中期計画を順調に遂行することができている。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dｲ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 イ　特別展「北斎」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「北斎」（4 年 4 月 16 日～6 月 12 日）の開催に向けて、各所蔵者への出陳交渉を進めるとともに、作品調査・研究を進める。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　畑靖紀

【主な成果】

(1) 調査研究及び借用交渉

本展監修者の大久保純一氏（国立歴史民俗博物館副館長）の監修をうけ、出陳予定作品の調査研究を行うとともに、借用交渉を行った。

調査に際しては、研究のうえで必要なデータを収集するとともに、安全な輸送と展示のために保存状態の確認を行った。

(2) 研究資料の収集

数多くの研究成果が公表されている北斎の作品について知見を深めるために、図書や雑誌、報告書などを継続的に収集した。

(3) 新規撮影

先行借用した一部の所蔵者の出陳作品及び所蔵品の出陳作品について、新規の写真撮影を行った。

写真撮影風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大により作品調査などを実施できない時期はあったものの、結果的には当初の計画を順調に遂行することができた。出陳予定作品の調査研究を行うとともに、新知見などの有用なデータを収集することができた。 注目度の高い北斎作品を多数出陳する本展は、調査研究の成果を社会に公開する絶好の機会であり、監修者・大久保純一氏の指導助言を得てその成果を充実させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づいて有形文化財の展覧事業などに関連する調査研究を実施することができ、順調に中期計画を遂行できている。 北斎は中国や西洋の絵画を学習し、ジャポニスムにも影響を与えているため、文化交流をテーマとする当館にとって重要な画家である。本展において、全場面を公開する初の機会となる重要文化財「日新除魔図」を含めて、最新の研究成果を紹介するとともに、内容を理解しやすく説明する工夫を重ねるなど展覧会の準備を円滑に推進している。

【書式Ｂ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1413Hア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究((4)-①-3))

【事業概要】
多くの人に文化財に親しむ機会を提供することを目的として、先端技術による文化財のレプリカやデジタルコンテンツの開発に係る調査研究、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとにコンテンツの開発と体験型展示等を実施し、それらの実施事業を通して、効果の測定並びに人々のニーズの調査を行った。

【担当部課】	本部文化財活用センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　小林牧

【主な成果】
(1)キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との連携による共同研究プロジェクトを継続して実施し、コンテンツを開発した。また2年度に制作した複数のコンテンツが、国際コンクールで受賞するなど、国内外で高い評価を得た。
(2)レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ、企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている国内の博物館・美術館の視察・インタビューを行った。
(3)機構内各施設や地域のミュージアムと連携し、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発と体験型展示、教育プログラムの実施を行い、アンケートによる体験者への調査を行った。
(4)「2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行した。
※3年度は新型コロナウイルスの影響により国外調査ができなかった。

8K で文化財「みほとけ調査」実施風景

アウトリーチプログラムの様子

【備考】
(1)シャープ株式会社との共同研究により制作した、8K で文化財「ふれる・まわせる名茶碗」が「2021Design Inteligence Award」（主催：中国美術学院等）を、KDDI との共同研究プロジェクトの成果として実施した 5G で文化財「国宝　聖徳太子絵伝」がモバイルシステムの導入により IoT/AI 分野での社会貢献の推進や先進的なモバイル活用等の成果を上げた事例を顕彰する「MCPC Award2021 サービス＆ソリューション部門優秀賞」（主催：モバイルコンピューティング推進コンソーシアム)を、NHK との「8K 文化財プロジェクト」による「遮光器土偶」が世界の科学・歴史・ドキュメンタリー放送番組の制作に対する国際コンクール「The Buzzies（第 2 回)」で「マルチプラットフォーム・ファクチュアルプロジェクト部門最優秀賞」を受賞。
(2)主な調査先／DNP（小林、髙橋美、高橋真、西木、松沼、荻堂)、シャープ株式会社（小林、髙橋美、西木、松沼)、NHK（小林、髙橋美、高橋真、小島、松沼)、NHK 放送技術研究所（髙橋美、高橋真）
(3)アンケート調査実施事業／8K で文化財「国宝　聖徳太子絵伝」（東京国立博物館 7 月 13 日～9 月 5 日)、「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」（東京国立博物館 9 月 4 日～11 日 28 日)、8K で文化財「みほとけ調査」（東京国立博物館 11 月 16 日～12 月 5 日)、「形をうつす」レプリカを活用したハンズオン体験(十日町市博物館、6 月 1 日～7 月 4 日)、8K で文化財「ふれる・まわせる名茶碗」（愛知県陶磁美術館 10 月 9 日～12 月 12 日)、「日本美術の源流―雪舟・狩野派から近代美術―」床の間で鑑賞する国宝掛け軸の高精細複製（都城市立美術館 10 月 30 日～12 月 5 日)、「大雅と蕪村」高精細複製による鑑賞体験（名古屋市博物館 12 月 4 日～1 月 30 日)、ぶんかつアウトリーチプログラム（3 年度全 12 回実施）
(4)第 2 回「文化＋科学技術国際フォーラム」(12 月 15 日　主催：中国・故宮博物院、テンセントテクノロジー有限公司）にて、「デジタル技術による文化財の活用」について発表（小林）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	企業等との共同研究プロジェクトにより開発したコンテンツが、デザイン・映像・技術部門で国内の各種賞を受賞するなど、文化財活用の新しい可能性を拓く活動として高い評価を得ることができた。 また、文化財に親しむ機会を拡大することを目指して、先進事例の調査、各施設や企業等と連携した調査・研究を行った。そこで得た知見をもとに、コロナ禍でも可能な文化財体験、地域の活性化の核となる文化財体験を開発・提供することによって、研究成果を一般にも発信することができた。 地域の博物館との連携をより深め、先進事例の調査、コンテンツ開発、一般への公開・検証を合わせて行うことにより、文化財活用の新たな道を拓くための有意義なPDCAサイクルを構築していく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、文化財の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を新たな展覧事業・教育普及活動等に反映、一般にも発信することができ、中期計画を順調に遂行できている。今後は、地域の博物館との連携をより深めて、地域の活性化にも貢献しうる文化財活用について調査・研究を深めることが課題となる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　博物館環境デザインに関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
当館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	デザイン室長　矢野賀一

【主な成果】
(1)「聖林寺展展示ケース製作設置」「日本美術のとびら」「みほとけ調査」「博物館でアジアの旅」「スポーツ NIPPON」「親と子のギャラリー『動物のうごき』」「まるごと体験！日本の文化リターンズ」「イスラーム王朝とムスリムの世界」「博物館で初もうで」「手わざ」の展示デザインを行った。
(2)「動物めぐり」のポスター、150 周年記念「ロゴ」「ポスター」のデザインを行った。
(3)本館 14 室解説、13 室案内サインのサイネージ化をおこなった。

イスラーム王朝とムスリムの世界

みほとけ調査

150 周年記念「ロゴ」

150 周年記念「ポスター」

聖林寺展展示ケース製作設置

スポーツ NIPPON

動物のうごき

【備考】
・他館 の デザイン調査：国内の博物館・美術館でのデザインを調査し、特に 3 年度においては総合文化展の展示デザインのための参考とした。
調査先／国立アイヌ民族博物館、長野県立美術館、岡山県立博物館、大阪市美術館、大分県立美術館

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度当初の目標を達成している。国内外の美術博物館デザインの最新事例を調査した成果を、総合文化展示及び特別展への展開することが達成されている。4年度は引き続き国内外の美術博物館デザインの調査を行う。また最新の情報技術など、本館の総合文化展示や展示室のスマート化などへ展開できるよう調査研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、本館特別1・2室で特集展示するため、高透過低反射合せガラスや小型LED照明器具を用いた展示ケースをデザインし、観覧環境の向上につながる実施案を策定した。 4年度以降は本館特別1・2室の展示室改修工事、展示室のスマート化、3Dプリンターを使った支具の調査研究及び本館展示改修のデザインを進める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 イ　博物館教育に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】来館者の鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論と実践に関する調査研究を、教育普及事業の実践、参加者に対するアンケートを通して行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】

(1)各種ワークショップ、スクールプログラム等は対面プログラムを避け、zoom を使用したオンラインワークショップや自由見学と組み合わせる事前視聴動画など、新規プログラムの開発とその運営に関する研究と実践を行った。

(2)日本文化体験プログラムを継続して実施した。3 年度は、さまざまなタイプの日本文化体験ができる参加型展示として、親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」(7 月 20 日～9 月 5 日）を本館特別 4 室で実施し、デジタルコンテンツや手でさわるハンズオン展示など、多様な角度から日本文化体験のあり方について検討、研究を行った。この本館特別 4 室は「トーハク新時代プラン」に基づき、恒常的に日本文化体験が行える参加型展示室として整備し、「日本文化のひろば」として 4 年 1 月にオープンした。デジタルコンテンツやハンズオンを駆使した展示など、多様かつ新しい日本文化体験へのアプローチを検討、研究し実践する場として出発した。

(3)障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、アクセシビリティの観点から、オンライン月例講演会、オンラインギャラリートークにおいて字幕やテロップなどの表記を実施した。また「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」では、浮世絵版画の摺り工程を点字で説明した触察ボードを開発し設置した。

(4)コロナ禍における上野動物園、国立科学博物館との連携事業の在り方を調査研究し、オンラインでの実施を模索した結果、5 月 16 日に＜上野の山で動物めぐり ～動物の「うごき」と「しせい」～＞として、オンラインでのツアーを実施した。

(5)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業について、特に新型コロナウイルス感染予防の観点から活動の方向性や内容に関する調査・研究を行った。これに基づき、ボランティアスタッフに向けて、オンラインを利用したミーティングやグループ活動を展開した。

(6)2021 年日韓交際交流事業の一環として、「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」と題するセミナーを、9 月 9 日に韓国国立中央博物館との間でオンライン形式にて実施した。

オンラインワークショップ「なりきり光琳」

【備考】調査

(1)ワークショップ等における参加者アンケート調査：3 回

(2)令和 3 年度ミュージアム・エデュケーション研修（文化庁主催）参加：阿部楓子（3 年 9 月 15 日～17 日、4 年 2 月 7 日～8 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	オンラインワークショップでは、今までプログラムを提供することができなかった遠方の参加者にもプログラムを体験してもらえたため、新たな来館者層の開拓につながった。オンラインでの月例講演会、連続講座、ギャラリートークでは、対面式を大きく超える広範囲かつ多数の視聴者に多彩かつ専門的な講義内容を届けることができた。ボランティアの活動においてもオンラインを積極的に活用することで、各種活動やプログラムの研修及び実施はもとより、活動のモチベーションを維持することができた。 韓国国立中央博物館とのセミナーでは、両国の国立博物館研究員の自由参加を可能としたこともあり、コロナ禍における博物館教育の実情や可能性について活発な議論を交す有意義な機会となった。 以上の実績により、年度計画を達成できたと評価した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3 年度は新型コロナウイルスの流行により、従来の手法からの変更を余儀なくされたが、そうした中においても、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援プログラムや生涯学習ボランティアの活動・運営を持続可能とする調査・研究と実践を目指し、中期計画の初年度として一定の成果を得た。如上の取り組みは、4 年の東京国立博物館創立 150 周年以後の博物館教育活動に継承・発展していくことが期待される。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aウ

業務実績書

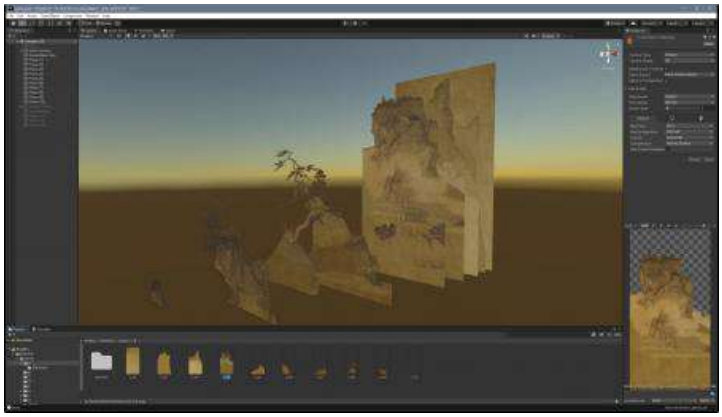
中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ウ　凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
文化財のデジタルアーカイブを活用した、文化財の新たな公開・鑑賞手法を、凸版印刷株式会社と共同で研究する。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　今井敦

【主な成果】
・「洛中洛外図屏風 舟木本」を 3 年 1 月 20 日～4 月 11 日に公開した。
・土屋貴裕学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長が監修した新作コンテンツ「鳥獣戯画 超入門！」を制作し、同作品が出品された特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」の会期を含む、4 月 14 日～7 月 11 日に公開した。（途中、4 月 25 日～5 月 30 日は緊急事態宣言のため休演した。）
・瀬谷愛学芸研究部保存修復課保存修復室長及び三田覚之調査研究課工芸室主任研究員が監修した新作コンテンツ「法隆寺 国宝 金堂―聖徳太子のこころ」を制作し、関連作品が出品された特別展「聖徳太子と法隆寺」の会期を含む 7 月 14 日～10 月 10 日に公開した。
・「空海 祈りの形」を 10 月 13 日～12 月 25 日に公開した。
・「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」を、同作品の公開期間を含む 4 年 1 月 2 日より公開した。
・新作コンテンツ「雪舟」のために、「四季山水図」「破墨山水図」の解説動画の制作を進めている（公開は 4 年度を予定）。

【備考】



雪舟筆「四季山水図」解説動画制作の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	既存のコンテンツの再演とともに、特別展と連動した新作コンテンツ2作品を公開することができ、文化財のデジタルアーカイブ蓄積の有用性を再確認できた。 「洛中洛外図屏風 舟木本」は、3,905人（定員充足率26.3%、新型コロナウイルス対策のため、上演期間を通じて90席から48席に削減、以下同じ）の来場者があった。「鳥獣戯画 超入門！」は、6,317人（定員充足率62%）の来場者があった。「法隆寺 国宝 金堂―聖徳太子のこころ」は、7,246人（定員充足率41%）の来場者があった。「空海 祈りの形」は、6,296人（定員充足率23.5%）の来場者があった（ニコニコチャンネル購入数86件）。「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」は、4,129人（定員充足率13.1%）の来場者があり、デジタルデータを活用した新たな鑑賞手法の有用性が立証された。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、新たなデータ取得手法の確立を含め、デジタルアーカイブのデータ取得に関する調査研究を行った。 新規データの取得による新作コンテンツを開発し、集客力のあるコンテンツの継続的な公開を行い、中期計画を遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aｴ

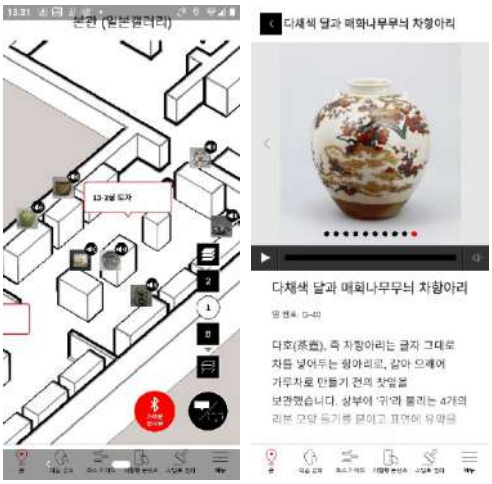
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 エ　ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英中韓４言語による鑑賞支援アプリ「トーハクなび」を運用し、ユーザー動向解析によりより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、あわせて児童生徒のための鑑賞支援アプリ「学校版　トーハクなび」のリニューアル版を運用した。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】
(1)2年度より運用を始めた鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」（日英中韓４言語対応）を継続し運用した。
(2) 当館公式ウェブサイト（https://www.tnm.jp/）と国立博物館所蔵品統合検索システムColBase(https://colbase.nich.go.jp/)と連携し最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みについて、システムや表現など細部の調整を行った。
(3)来館者の操作が最小限にかつスムーズに行えるよう展示室内に設置したビーコンの位置の見直しや増設を行い、展示室内で特に注目すべき作品への理解の促進を図った。
(4) 毎年春の桜の季節に行っている「博物館にお花見を」に際し、「トーハクなび」デジタルスタンプラリー機能に対応させるべく、桜に関連した美術工芸作品（5件）の解説テキスト作成、音声データ収録（ともに日英中韓）を行い「トーハクなび」ガイド提供作品として新規登録、運用した。また、既存の解説についてもネイティブスタッフや担当研究員と議論しながら精査を行い、質の向上に努めた。
(5)27年4月より継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積し、観覧者動向を分析した。
(6)学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として開発したタブレット端末によるアプリ「学校版トーハクなび」の端末貸出しと運用を行った。また、「トーハクキッズデー」では個人来館者にも貸出しを行い、活用の機会を広めた。
(7)ICTを利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。
(8)「トーハクキッズデー」（7月20日～8月1日）に際し、特定の作品にQRコードを設置し、オンラインで提供する「おうちでギャラリートーク」にアクセスする取り組みを行った。



トーハクなび作品ガイド（韓国語）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新しいシステムの開発により、長年課題であった、言語による解説数やデバイスの不均衡が改善され、頻繁な展示替えに対応しうる作品解説の提供が実現できている。また折に触れてシステムの改善点を検討することにより、ユーザーがより使いやすいアプリとなるようアップデートできた。 さらにアプリ「トーハクなび」ユーザーの動向についてのデータを集積することができ、アプリの特性を活かし、インタラクティブコンテンツや、ビーコンによる作品検索など新たな鑑賞体験を提供することができた。 今後は、3年度開発したアプリとシステムをプラットフォームとし、より利便性の高い機能の搭載や、作品解説の充実を検討したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、これまでの蓄積してきたデータとノウハウを生かし、主に訪日外国人を対象とした鑑賞支援プログラムの開発を実現することができた。また、これまでのユーザー動向解析の方法に加え、展示室内のビーコンやアプリそのものからログデータを集積する仕組みを整えた。コロナ禍で外国人を含めた来館者が大きく減少している中ではあるが、引き続きアプリの改善点の検討や要求に応じたアップデートを心掛け、快適な観覧機会の提供に資するよう努めたい。 また、学校団体での来館者に対する「学校版トーハクなび」の本格運用を実施したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aオ

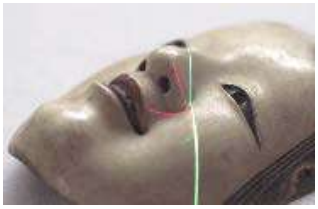
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 オ　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
収蔵品に関して、先端技術を用いた文化財のレプリカや高精細画像、映像を使用したデジタルコンテンツを開発し、その文化財の活用手法についての調査・研究を行った。本調査・研究を通じて得られた成果を、今後の展示活動に活かす。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　松嶋雅人

【主な成果】
(1)NHK との共同研究「みんなの 8K 文化財」において、8K 技術を用いて、これまでにない文化財の鑑賞方法を開発する調査・研究を行った。
(2)関連する所蔵品の調査研究や作品の選定を通じて、文化財活用センターが実施した以下の事業において、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発への協力を行った。「日本美術のとびら」、「8K で文化財　国宝「聖徳太子絵伝」」、「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」、「8K で文化財「みほとけ調査」」、「びじゅチューン！× OPAM　なりきり美術館」、「びじゅチューン！×山口ゆめ回廊博覧会　なりきり美術館」



能面 3D スキャンと甲冑撮影風景
みんなの 8K 文化財

高精細画像を用いたレプリカの展示
春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46

【備考】
(1)　共同研究の成果として、以下の番組が放送された。
・「見たことのない文化財『能面：小面・伝山姥』」（4年2月26日・BS8K放送）
・「見たことのない文化財『樫鳥糸肩赤威胴丸』」（4年3月27日・BS8K放送）
・「東博150年 知られざるモノがたり　～日本の至宝 大公開SP～」（4年3月28日・BS8K放送）
(2)　各事業の開催期間と会場は以下の通り。
・「日本美術のとびら」（6月22日～4年3月31日、本館特別3室）
・「8Kで文化財　国宝「聖徳太子絵伝」」（7月13日～9月5日、法隆寺宝物館資料館）
・「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」（9月4日～11月28日、表慶館）
・「8Kで文化財「みほとけ調査」（11月16日～12月5日、法隆寺宝物館資料室）
・「びじゅチューン！× OPAM　なりきり美術館」（3年2月19日～5月9日、大分県立美術館）
・「びじゅチューン！×山口ゆめ回廊博覧会　なりきり美術館」（7月16日～8月22日、NHK山口放送局・YCAM）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査・研究は文化財の活用の新たな地平を拓き、今後の文化財の展示並びに普及活動を考える上で、ますます重要な意味を持つこととなり、館内外において、さらなる活用が求められるものである。そのような意味において、3年度は放送番組や、新たな手法によるさまざまな展示機会を得たことで、今後の調査研究の多様性とともに、発展性を期待できるものとなった。 3年度の成果をもとに、4年度以降も、新たな文化財の活用方法を考究していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として、教育普及活動等に関する調査研究を実施し、文化財の理解促進に資する展示活動や番組の放送等により、広く一般への研究成果の発信に努めた。したがって、中期計画を順調に遂行できていると評価した。今後は、さらに先進技術を用いた展示手法、方法論の検討を深めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aヵ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 カ　博物館広報・国際交流活動に関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
当館の広報活動の充実と効果的な実施及び国際交流活動を推進するため、博物館における広報及び国際交流活動について調査・研究する。特に3年度は、4年度が創立150年記念事業期間であるため、周年広報の準備、実施のため若年層向けの広報の調査研究を行う。また、外国人向け広報として、海外の博物館・美術館における外国人向け施策についても調査研究を行う。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美 国際交流室長　楊鋭

【主な成果】
・150周年事業の計画・実施にあたり、国内外の周年を迎えた企業等の広報事業の事例を調査、特に若年層に向けての施策を調査し、効果的な周年事業広報計画を策定、150周年記念動画を制作した。特に記念動画については、若年層は短めでスピード感のある動画を好む傾向が調査から判明したため、それも加味して制作した。
・ウェブサイトの多言語化版公開にあたり、海外からのアクセス数を調査分析し、コロナ禍で外国人来館者が減っている中での海外へ向けての広報活動の参考とした。
・外国語でのSNS発信の開始に向けて、日本の在留外国人数・訪日外客数や外国人来館者数、海外からのウェブアクセス数やSNSフォロワー数、広報アカウントでの多言語SNSの試験運用の分析と課題の抽出、他アカウントの多言語SNS運用法事例、多言語SNSコンテンツの事例研究を行った。その結果を活用し、日本在住の外国人及び海外の日本美術愛好者向けに､3年9月からSNS(Twitter、Instagram、Facebook)による英語、中国語、韓国語の情報発信を開始した。
・ウィズコロナ時代における博物館国際交流活動のあり方について、国立文化財機構各博物館国際交流担当者及び韓国国立中央博物館が統括する各地方の国立博物館とのオンライン研究セミナーを行った。
・調査結果に基づき、館内展示作品の題箋デザインや多言語解説の内容を見やすく、分かりやすくするよう、継続的に改良を進めている。

創立150年記念動画

英語版Twitter

【備考】
オンライン研究セミナー：3年11月25日実施

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	広報活動については、150周年事業開始前という必要性が高い時期に国内外の事例を効率よく集め、150周年事業計画策定・実施に活用できた。 ウェブサイトの多言語版公開及びSNSによる外国人向けの情報発信により、2年度に比べ中国からのウェブサイトへのアクセスが30%、台湾からは30%、韓国からは6%増加した。新型コロナウイルスの影響で外国人来館者はほとんどいない状態が続いている中、SNSによる多言語の情報発信は、博物館の展示活動や作品解説の提供など、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、これからの発展性が期待される。 オンラインセミナーやオンライン会議の開催により、海外渡航が難しい現状において国際交流活動を維持することができた。 作品題箋の多言語情報表記のデザインと解説内容の翻訳の改良により来館者の利便性が高まった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染拡大状況が落ち着き次第、訪日外国人も増加すると予想される。その時のために、海外へ向けての発信力を高めるべく、中期計画初年度として外国人向け広報についての調査を充分に行うことができた。引き続き重点的に実施し、中計計画を推進する 同時に、現在発信力の弱い若年層へのアプローチについて、150周年事業に合わせて、3年度はキックオフとなる調査研究を実施できたが、引き続き調査研究を進めていきたい。 一方、発信するためのプラットフォームも増えており発信内容も多様化しているため、4年度以降は広報・国際交流におけるマルチメディアの応用について調査研究を実施する予定である。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1413Bア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関連する調査研究 ア　博物館教育及びボランティアに関する調査研究　((4)-①-3))

【事業概要】
本研究は、「京博ナビゲーターの活動再開に向けての調査」、「学校教育との連携に関する実践と研究」、「入門的な特集展示の実施」、「感染症対策と博物館教育の両立に関する実践と研究」の4つをテーマに行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室主任研究員　水谷亜希

【主な成果】
1)京博ナビゲーターの活動再開に向けての調査
・新型コロナウイルスの影響により活動を中止している「京博ナビゲーター」について、他館の動向を調査し、活動を再開する場合の内容や、再開できる状況の目安について検討した。

2)学校教育との連携に関する実践と研究
・文化財ソムリエ20人の育成にかかる調査研究（スクーリング・18回）
・「文化財に親しむ授業」(7回・425人)の実践と研究
・「記者体験 in 京都国立博物館」(京都市教育委員会主催)（1回・57人）の実践と研究
・教員による複製を活用した授業の支援と分析（4回・321人）
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（3回・53人）を行った。

3)入門的な特集展示の実施
・入門的な特集展示「新春特集展示　寅づくし―干支を愛でる―」(4年1月2日～2月13日）の企画
・展示に関連するワークシート「さがしてみよう！こんなトラ」(日英版5,000部・中韓版200部）の発行

4)感染症対策と博物館教育の両立に関する実践と研究
・感染症対策に関する他館の活動調査（オンラインや電話による情報収集、近隣館の視察）
・特別展関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」(日本語105,500部・英語5,000部・中国語700部・韓国語700部)、「即翁さんの宝物」(日本語22,600部・英語1,700部・中国語500部・韓国語300部）の発行
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1回・5,000部）の増刷
・「博物館 Dictionary」(6回・12,000部)の発行
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語　各38本）の作成
・「今日から君も狛犬博士」「おひなさまのヒミツ」(YouTube 京博チャンネル）の動画公開（日英中韓計8本）

【備考】
本研究を踏まえた事業の実績については、処理番号1311B、1312Bも参照。
1)科学研究費助成事業「対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究」6年計画（研究代表者の育児休業のため2年延長）の最終年度

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け、京博ナビゲーターの活動が中止したままになるなど、実践については縮小せざるを得ない部分があった。しかし、感染症対策と博物館教育の両立のための実践として、印刷物の充実や、新たにYouTube動画の作成・公開を行うことができた。また、毎年恒例の干支の展示を、ファミリー層に向けた入門的な企画にすることで、子供に向けた館内プログラムを増やすことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画全体の初年度として、感染症対策と博物館教育の両立を念頭に置いた、今後の教育普及の在り方を検討し、実践に移すことができた。館内でのボランティア活動（京博ナビゲーター）の再開については、新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるため慎重に検討する必要があるが、国内外の他館の情報を収集し、4年度以降に備えることができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統文化に関連する教育普及コンテンツやプログラムをつくり、学習の機会を提供するとともに、オンライン形式でボランティア活動を推進し、新たな形で地域学習の展開を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

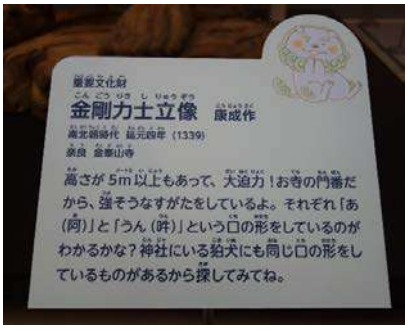
ア　世界遺産学習の実施

通常は当館のボランティアがガイドを行う形で世界遺産学習を実施しているが、3 年度は新型コロナウイルスの影響により、ボランティアが対面形式でのガイド活動を実施できない状況であったため、代わりとなるプログラムを考案し、奈良市立小学校 5 年生を対象に実施した。実施校に対して事前学習キットを提供し、事前学習を各学校で行った上で来館してもらうプログラム内容に変更した。また来館時には、こども向けのワークシート「ならはく仏像クイズ＆ミッション」を各児童に 1 部ずつ配布し、それをもとに地下回廊とbetter仏像館の展示を各自見学してもらう内容に変更し、世界遺産学習を実施した。来館形式による世界遺産学習の受け入れ校数は計 17 校 840 人であった。

世界遺産学習の実施の様子

イ　学校団体を対象としたオンラインプログラムの実施

大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、学校オンライン中継授業を実施した。大分県内の小中学校に対する授業は、大分県と連携し、遠隔操作ロボットを活用する形で計 13 回実施し、参加した児童・生徒数は計 446 人となった。奈良市立小学校に対する授業は、奈良市教育委員会と連携し、ウェブ会議アプリを利用する形で計 3 回実施し、参加した児童数は計 82 人であった。有志のボランティアと教育室職員が展示案内を担当した。



なら仏像館のこども向け題箋

ウ　こどもを対象とした展示パネルや題箋等の設置

3 年 7 月 17 日～9 月 12 日に開催した特別展「奈良博三昧−至高の仏教美術コレクション−」において、主に小学校高学年を対象としたこども向けの解説パネル 10 点とこども向け題箋 28 点を設置した。加えて、地下回廊の仏像模型コーナーや、名品展を通年開催しているなら仏像館にも、こども向け題箋計 12 点を設置し、奈良市世界遺産学習等で来館する児童たちの展示理解の促進を図った。

エ　こどもの展示理解を促進するジュニアガイド等のツールの開発

特別展「奈良博三昧−至高の仏教美術コレクション−」において、こどもの展示理解を促進するために、ジュニアガイド「なぞとき！ざんまいずの探検！−あおじしの主を探して−」を 20,000 部作成し、会場内で配布した。

【備考】

イ　学習効果を高めるために、学校オンライン中継授業の実施対象である大分県内の小中学校や奈良市立小学校に対しても事前学習キットを提供し、各学校とも事前学習を行った上で、オンライン中継授業に参加する形式とした。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	17校を対象に、世界遺産学習を新たな形式で実施したことで、こどもたちの自主的な学びを促す方法を見出すことができた。4年度以降、プログラムの実施方法を見直し、学習効果をより高めることができるようにしたい。またオンラインプログラムを定期的に実施できる体制を整備し、学習機会の提供を拡充することができた。今後、更なる拡充を図り、教育普及事業の質を向上させる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展や名品展の会場にこども向けの展示パネルや題箋を設置するという試みを実践したことにより、新たな教育普及の形を展開することができた。またボランティアとともにオンラインプログラムを実施するという新たな形をつくりあげたことで、今後様々なプログラムを展開できる基盤を築けたことにより、中期計画初年度として着実に遂行できている。ジュニアガイドやワークシートなどのツールも含めて、4年度以降も、教育普及コンテンツやプログラムの充実化を図り、地域学習を発展させていく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
特別展をよりわかりやすくするための教育普及プログラムを実施する。3 年度は「最澄と天台宗のすべて」展において実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　西島亜木子

【主な成果】
天台宗特有の修業「千日回峰行」に焦点を当て、その全貌を明らかにする教育普及コーナーを設置した。千日回峰行の動画とともに、千日回峰行の解説や、満行までのスケジュール、比叡山中を廻る時のルートを示す地図及び京都市内を巡礼する京都大廻りのルートを示す地図をイラストを交えながらわかりやすく紹介した。
解説執筆にあたり、事前に回峰行者が廻る比叡山のルート 30 キロ、及び京都市内の 25 キロのルートを実際に歩き、その体験記を展示室内や当館のブログ「九博界隈」にて公開した。また、回峰行者が着る装束一式を借用し、展示した。
さらに、最澄が遣唐使船に乗る前に実際に登ったとされる宝満山（当館近くに位置する山）や、最澄が構想した宝塔があったとされる場所など、最澄ゆかりの場所を紹介するパネルを掲示した。パネル製作にあたり、実際に宝満山に登ったり、六所宝塔跡に出向いたりするなど現地調査を行った。

千日回峰行の巡礼路を調査

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示の理解を深めるための教育普及プログラムは来館者から毎回高い評価を受けており、3年度も実施した。「最澄と天台宗のすべて」展は巡回展であるが、千日回峰行や宝満山のわかりやすい解説は当館のみの企画である。また、これまでの展覧会ではあまり焦点が当たらなかったテーマを取り上げ、実際に回峰行者の巡礼ルートを歩いたレポートを掲示したのは、当館ならではの独創的な着眼点である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展での教育普及プログラムは、来館者アンケートでも高い評価を得ており、来館者のニーズに合ったプログラムを実施できた。新型コロナウイルスの影響で体験コーナーやワークショップなど実施できなかったものの、担当者が体験したことを展示室や当館ブログなどで公開することで、来館者も追体験できるような仕組みとした。以上のことから、中期計画における「教育普及に関する調査研究」のうち、特別展の教育普及について、中期計画を順調に達成できている。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や教育活動等に関する調査研究 イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究　((4)-①-3))

【事業概要】
当館では、多様な方が博物館の楽しさを享受できるよう、元年度から特別展の視覚障がい者向け観覧ツアーや手話通訳付きリモートバックヤードツアー、レプリカ等を活用した体験型の特別対応など多岐にわたる取組みを行っている。3 年度は文化交流展示室でのユニバーサルミュージアムに向けた企画や、点字・触知図付きの展示室案内の配布・建物や館内の模型の製作を通して、博物館での合理的配慮をどのように行うべきか、当事者のヒアリングを重視した研究を行った。

【担当部課】	展示課 学芸部企画課 交流課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子 主任研究員　今井涼子

【主な成果】

作品配置の触知図

(1) 文化交流展示室第 7 室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～」
・2 年度の同企画での要望から、作品配置の触知図を作製して、設置した。点字図書館職員、視力障害センター職員、福岡市視覚障害者福祉協会会長、同常務理事(センター職員以外は視覚障がい者)にヒアリングを行い、インクルーシブデザインの手法を取り入れた。
・当館ボランティアによる手話動画での作品解説を行った。事前に時代の表し方、専門用語の共通理解や互いに練習を行う場を設けた。
・実物の仏像とともに展示した玉眼模型の組み立てを通して、仏像の目の仕組みが知ることができたと好評を得た。

建築模型ヒアリングの様子

(2) 手話通訳付きオンラインバックヤードツアー
・静岡県聴覚障碍者協会青年部と共同で、手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを実施した（9 月 5 日)。参加者 15 人中 8 人が聴覚に障がいがある方であった。アンケートによれば概ね好評だったが、手話が見えにくかった、分かりにくかったという意見があり、更なる工夫及び改善が必要である。
・3 年度手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを 2 回に分け実施し、計 21 組の参加を得た（4 年 3 月 5 日)。

(3) ユニバーサルミュージアムに向けて先進的な取り組みを行っている博物館への視察
・三重県立美術館：小さな子どもがいる家族向けのプログラムや自閉症の来館者向け館内案内等(11 月 10 日)
・国立民族学博物館：視覚や聴覚に頼らずに楽しめる「ユニバーサルミュージアム」企画展(11 月 11 日)
など各館に聞き取り調査を行い、当館での来館者案内作成や4年度のハンズ・オン企画案に活かすことができた。

(4) 音声だけで楽しめるウェブコンテンツ「ラジオ de きゅーはく」
視覚に頼らず、声や音だけで博物館の魅力を発信するラジオ番組をウェブサイト内 YouTube で公開した。また、動画には字幕をつけ、聴覚障がい者や、音が聞き取りにくい人にも楽しめるようにした。

(5) 当館の建築模型
視覚障がい者も触ってわかる当館の建築模型を製作した。制作の段階で何度も視覚障がい者にヒアリングを行うなど、当事者も製作に関わることで、インクルーシブミュージアムとしての取り組みができた。

【備考】
取材：(1) 読売新聞(8 月 10 日掲載)　毎日新聞（8 月 19 日掲載）　ケーブルステーション福岡（9 月 17 日放送）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響による様々な制限の中でヒアリングが難しい状況ではあったが、可能な範囲で当事者の意見等を聞くことができた。(1) について、触知図は作品を記号化し、シンプルにすることや、手話動画を流す際は、始めに動画の再生時間を入れるとわかりやすいなどの貴重な意見をいただいた。 オリンピック・パラリンピックの開催やSDGsへの取り組みの中で多様性が尊重されている。多様性を大切にし、様々な意見を取り入れていくことで、誰もが楽しめる博物館を今後も目指していく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度からの取り組みによりヒアリングの協力団体も少しずつ増え、多様な方へ歴史・伝統文化に資する展覧事業を行うことができ、中期計画を順調に遂行しているといえる。 4年度も文化交流展示室の5つのテーマエリアの触知図の設置、視覚障がい者にも使いやすい新ガイドシステム導入が計画されており、引き続き様々な意見を取り入れていくとともに、視覚・聴覚以外の障がいについてもヒアリングを計画的に進め、ユニバーサルミュージアムを目指していく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421Aア

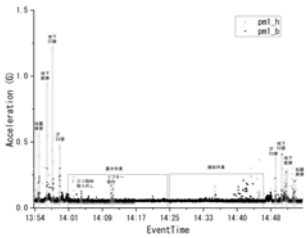
業務実績書

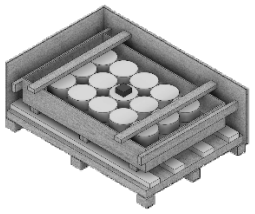
中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　博物館の環境保存に関する調査研究((4)-②-1))

【事業概要】
当館による文化財の活用に伴い保全の必要性が生じる、収蔵環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上を目的として実施する事業。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　冨坂賢

【主な成果】
(1)館内修理施設の換気環境に関する調査研究
2 年 6 月から 10 月にかけて実施した当館内の修理室施設内の換気状況調査について、運用中のデータを詳細に解析し、検証を行った。
(2)脆弱な文化財の輸送環境に関する調査研究
法隆寺金堂壁画を奈良国立博物館から輸送するにあたり、経路選定、振動計測、作業工程の最適化について総合的に検証した。
(3)文化財の振動応答特性に関する調査研究
屏風構造を持つ文化財に着目し、木製骨組み下地が加振された際に示す応答特性についての実験結果を検証した。




法隆寺金堂壁画の館内輸送前に実施した輸送実験で計測した加速度変化(左)と、設計した実験用梱包箱(右)

(4)展示中の文化財の耐震対策に関する調査研究
文化財の形状の 3 次元データを活用して、展示中に生じた地震による挙動のシミュレーションを実施した。また、支持具による耐震効果を数値的に評価する手法について検証した。

【備考】研究成果の学会発表・論文
・相川悠、和田浩「新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告」『文化財保存修復学会第 43 回大会発表集』、7 月 3 日
・和田浩「地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション」日本文化財科学会第 38 回大会、6 月 14 日
・和田浩「屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究」日本包装学会第 30 回年次大会研究発表会、7 月 1 日
・和田浩「3D モデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究」文化財保存修復学会第 43 回大会、7 月 3 日
・相川悠、和田浩「新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告」文化財保存修復学会第 43 回大会、7 月 3 日
・和田浩「屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究」日本機械学会 2021 年度年次大会、9 月 7 日
・和田浩「屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究」第 59 回全日本包装技術研究大会、12 月 2 日
・和田浩「3 次元データを利用した文化財の地震対策」『教職課程センター紀要』第 6 号、12 月 1 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵環境に関する調査研究では、換気と環境維持の両立という困難な課題に対して、館内で蓄積したデータを精緻に解析し、一定の解を得た。輸送環境に関する調査研究では、脆弱な文化財を輸送する際の走行経路選定手法及び振動の評価手法について新たな観点からの調査研究を進めた。また、文化財の加振実験とモデル化によるシミュレーションとのコリレーションについての検証をした。その結果、振動応答特性が未知の文化財に対する梱包設計手法を確立する可能性を見出せた。展示環境に関する調査研究では、防災に関する研究を実施し、3次元データとシミュレーションを駆使した新たな技術開発に着手した。その結果、展示物の耐震対策について、現状と改善後の予測を簡易に比較するための手法を構築するための基礎ができた。以上の各研究成果については各種学会等で研究発表した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵環境、展示環境、輸送環境の3つの環境に対する調査研究をバランス良くかつ効果的に実施することができた。毎年度の研究成果は学会等の適切な場で発表公開し、様々な分野の研究者と協議しながら、研究内容をより高次元へ発展させることができた。特に、輸送環境に関する研究は従来から継続していた研究の成果を実際の文化財輸送に応用することができたという点で、理想的に中期計画を遂行できていると評価できる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究　((4)-②-1))
【事業概要】文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行う。	
【担当部課】学芸部	【プロジェクト責任者】保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

(1)修復文化財情報の収集と調査

・3 年度、文化財保存修理所の工房に搬入した新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、124 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。

・当館研究員により 4 回行った修理工房の巡回のほか、修理技術者とともに実施した科学調査を含む調査を適宜実施し、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。

(2)修復文化財情報の整理

・2 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書（報告書)」に基づき、1,073 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。

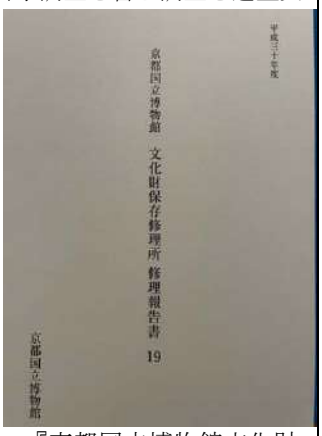
(3)模写作成のための文化財の調査

・当館と模写修理事業者（六法美術）による当館蔵「若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写（5 か年計画）の 5 か年目として、上げ写しによる模写（下絵）に基づき、調整した本紙料紙に骨描き及び彩色を施した。なお、彩色に先立ち、顔料の化学分析を行い、その結果を参考に絵具の選定を行っている。その後、裏打ちを行い、表紙・見返し・軸付等をつけて成巻して、復元模写事業を完了した。

(4)情報の公開と共有

・30 年度に修理が完成した文化財 170 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 19 号(4 年 3 月 31 日発行)に掲載した。

・修理時の調査により発見された銘文 24 件を「銘文集成」として同書に報告した。



『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 19 号

【備考】

(1)データ収集件数 124 件、巡回回数 4 回

(2)データベースの追加更新件数 1,073 件

(4)報告書　1 冊（修理報告 170 件、銘文報告 24 件を含む）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所で行われる文化財修理に係る情報については、紙ベースでの収集・整理を行うとともに、過去の情報から順次遡及的にデジタル化を進めており、3年度も継続して事業を行った。文化財保存修理所で実施している修理・模写文化財の写真など大量のデジタルデータを、2年度に増設したサーバにより、安全に保管するように努めている。また、紙ベースでの報告書をデジタル化したものを写真などのデジタルデータと統合していく作業を進めている。4年度は報告書自体も紙ベースでの収集からデジタルデータでの収集へ変更を進めて行く予定である。 「若狭国鎮守神人絵系図」(当館蔵)の復元模写事業は、2年度からの検討課題であった欠失箇所の処置について、本来存在していたと考えられる1紙分白紙を入れることとした。さらに、科学分析に基づいた顔料選定により彩色を行い、5か年計画の5年目に予定通り復元模写事業を完了することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究活動の一環として、文化財保存修理所で実施している修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行った。新型コロナウイルスの影響がある中、文化財保存修理所に搬入する修復文化財の多寡は、2 年度同様に安定した件数で推移しており、科学調査を含む調査に関しても修復・模写文化財の情報の収集が順調に進んでいる。サーバを活用し、デジタル化を進めていくことができ、中期計画の初年度として計画を遂行できているといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bｲ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ　文化財の製作技法・材料等に関わる調査・研究　((4)-②-1))

【事業概要】
博物館の展示・教育普及活動に関連する調査研究として、有形文化財の製作技術に関わる調査や、使用材料等に関する調査を実施し、データの蓄積を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長　降幡順子

【主な成果】
(1)作品の調査研究
3年度の構造調査としては、X線CT撮像4件14点、SfMによる3次元形状調査1件3点、透過X線撮影による内部構造調査3件36点を実施した。作品の材質調査としては、蛍光X線分析調査16件298点、分光分析調査3件151点、オルソ撮影2件2点を実施した。
(2)展示に関連する調査研究の一例
展示のために借用した文化財資料に対して、X線CT及び透過X線を用いた内部構造調査、蛍光X線分析調査による材質調査を実施し、製作・技法等を確認した。特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」では「天球儀（久修園院蔵）」のX線CT調査を実施し、地球儀内部の芯部構造を視覚化した。特別展「京の国宝」では「金銀鍍宝相華唐草文透彫華籠（神照寺）」の透過X線画像と材質調査を実施し、特別展「畠山記念館の名品」では「薄鹿蒔絵螺鈿硯箱」を調査し、其々に用いられた材料の多様性、類似作品との共通性等を示すことができた。
(3)館蔵品等の作品を対象にした鎌倉時代の密教法具について、技術の解明にも有用なデータを得ることができ、その成果は学会等にて情報発信を行った。また絵画資料の染料・顔料材料調査を継続的に実施しており、さらに3年度から、新たに平面的な非破壊的調査として、絵巻や板絵のオルソ画像を赤外線でも取得できるようになり、彩色材料データの蓄積を図った。
(4)地方公共団体や美術館からの依頼を受入れた展示・修理事業に関わる調査を実施し、使用材料や復元材料に関するデータ提供を行った（京都府、京都市、長浜市、敦賀市、京都市美、林原美術館）。

【備考】
(1)学会発表等
・降幡順子・末兼俊彦・古川史隆・田澤梓・久保智康「密教法具の科学的調査-金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に-」『日本文化財科学会』、9月
(2)論文等
・降幡順子・森川稔・柳成煜・神野恵・辻成希「放射光高エネルギー蛍光X線分析法を用いた平安時代前期の緑釉陶器の胎土分析」『SPring-8/SACLA 利用研究成果集9巻第3号』、5月
・降幡順子・石田由紀子・岩戸晶子・神野恵・清野陽一・丹羽崇史・伊奈稔哲・宇留賀朋也「埋蔵環境中の鉄イオンによる奈良三彩胎土への影響に関する研究」『SPring-8/SACLA利用研究成果集9巻第4号』、6月

分光分析調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は、29件504点の有形文化財について分析調査を実施し、製作技法等に関わる情報を得ることができた。新型コロナウイルスの影響はあったものの、外部組織からの調査依頼は積極的に受け入れ、調査成果の活用、社会への貢献に努めた。分析事例の集積とともに、得られた調査成果の一部は学会で発表するなど情報発信を行った。4年度以降も継続して実施する予定となっている調査は、データの蓄積を図るとともに、成果は図録、学会発表等による情報公開に努める予定である。 継続的に実施している彩色材料調査では、3年度は京都市美術館の協力を得て、顔料・染料のデータ蓄積を図った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、博物館の展示・教育普及活動に関連する科学調査を、広く有形文化財を対象に行うとともに、分析手法の多様化を図り、研究成果は随時、図録や学会等を通じて公開し、データ蓄積を図ることを計画している。3年度は、X線・赤外線等による材質・構造調査、光学調査を多様な材質の美術工芸品を対象に実施し、使用材料の傾向や特徴を明らかにし、データの蓄積を図ることができた。このことから、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。また、3年度より赤外線のオルソ画像取得が新たに可能となり調査運用を開始したことから、4年度以降の今中期計画期間を通して新たな分析手法の幅広い活用に尽力したい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　社寺等における保存環境に関する調査研究　((4)-②-1))

【事業概要】

文化財を有する社寺においては、例えば彫刻は須弥壇等に置かれ、障壁画等は建物内に配置されている。このように建造物内に常設されている有形文化財に対して、温度・湿度、照度等を博物館環境と同等に調整することは難しい。また歴史的な建造物の大がかりな改修工事なども困難である。文化財の劣化に大きく影響する要因として、温湿度の変動や、照度・紫外線の強度、空気質に着目し、まず現状の環境調査を実施し、その結果を生かして簡便な手法で保管環境の改善に関する協力を行い、文化財のより適切な保管環境を目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長　降幡順子

【主な成果】

社寺等を対象とする文化財の保管環境に関して基礎データの収集に努め、改善に関する協力を行った。

(1)知恩院・京都府・京都市との打合せ３回、月次報告 12 回実施

(2)知恩院境内の 12 箇所で温湿度モニタリングの実施、宝物庫の空気室調査（アンモニア、有機酸類、ホルムアルデヒド類）４回実施（春季、夏季、秋季、冬季)、照度・紫外線モニタリング２箇所で実施。

(3)鳥取県・三仏寺収蔵庫内外２箇所で温湿度モニタリングの実施

(4)文化財資料の適切な保管環境に関する検討

【備考】

データロガー設置状況例

紫外線・照度測定センサー設置状況例

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度の社寺等における有形文化財の保管環境に関する調査は、主に知恩院境内にて実施した。温湿度及び照度・紫外線強度のモニタリングを実施し、府・市とも情報共有を図った。調査結果から、照度に関しては、簡便な手法での改善が期待できたことから、秋季から対策を実施し、保管環境の改善に繋げることができた。4年度以降は、室内の温度分布変化を捉えて、湿度上昇の原因解明に努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間に環境調査を実施する社寺を順次変更しながら、広く公開・保管環境と改善に関する取り組みを実施する。初年度である３年度では、知恩院境内についてモニタリングを行い、簡便な手法での改善策を実施し、照度についてはその効果が確認できた。日常的に行われている法会や参拝者へも配慮をした効果的な改善策については、社寺の協力が必須であるため、4 年度以降も社寺との連携を十分に取りつつ、継続してモニタリングを実施していく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究 ((4)-②-1))

【事業概要】

館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の 4 点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を行う。

(1)温湿度データロガーを用いた館内施設の温湿度調査。
(2)展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察)。
(3)文化財害虫トラップの設置及び回収と解析。
(4)ガス検知管を用いた展示室内、ケース内の空気環境の調査。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

(1)展示室と展示ケースに設置した無線式温湿度データロガーで 15 分間隔の温湿度計測を実施した。取得蓄積した温湿度データから、ケースの特性、展示室別の特性を捉え、空調機器運転方法を展覧会ごとに情報を整理し展示室内の環境管理に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いてのモニタリングを毎月行い、館内環境ワーキンググループでデータ共有して空調の調整に役立てた。
(2)正倉院展終了後に、展示ケース内の敷板、卦算などから塵埃を採取、電子顕微鏡にて観察し、塵埃の状況からケースの気密性に対する評価を行った。調査結果を踏まえ、適切な気密性を整えるために修理や部材交換などのメンテナンスを実施予定。
(3)2 年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2 か月に 1 回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することで IPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所を重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。
(4)展示室内、ケース内の有機酸、アルデヒド類の濃度は文化庁の定める公開承認施設の基準を満たす濃度であった。

【備考】

・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に 1 回程度開催し、展示保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねている。

(1)展示室内温湿度調査：97 か所
(2)展示ケース内ほか粉塵調査：25 か所
(3)文化財虫害生息状況調査：100 か所
(4)空気環境調査：展示ケース、展示室内 1 各か所

・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：8 回開催

空気環境調査の様子

ガス検知管と吸引ポンプ

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また、調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有だけでなく、議論や検証が行い易い解析方法を模索し、館全体での展示保存環境の保持と改善を図った。分かり易いデータ解析を進め円滑な監視体制を整え保存環境の維持や向上を進めた。なら仏像館についても温湿度無線データロガーを新たに設置し、館内環境維持のため継続して調査を行うことができた。4年度以降もデータの蓄積を進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東新館、西新館の展示室や収蔵庫では温湿度並びに文化財害虫に関するモニタリングや空気環境の調査を年間通じて行っている。なら仏像館においても同様の調査とデータの蓄積を着実に実施しており中期計画の初年度として十分な成果を上げることができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ　文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究((4)-②-1))

【事業概要】

本事業では、以下の 2 点の内容について実施した。

(1) 館蔵品や寄託品の修理前や修理中等に併せ、X 線 CT 撮影、X 線透過撮影・蛍光 X 線分析を実施し、所得した画像やデータを修理方針の策定に反映させた。

(2) 文化財保存修理所での修理中の文化財については、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、得られた結果を修理へ反映した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

(1) 館蔵・寄託の文化財（彫刻や漆工品など）の修理や展示作業に併せ、X 線 CT スキャナや X 線透過撮影を実施し内部構造や納入品の把握を行った。これらの光学調査は研究や修理に活用すると共に、データの蓄積も進めた。

(2) 当館研究員と工房の技術者が共同で X 線 CT スキャナ、X 線透過撮影や蛍光 X 線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、修理へ成果を随時反映させることが可能となり、彫刻作品・漆工作品や絵画作品のより安全な修理に役立てることができた。一例として、絹本著色十二天像の修理においては、白色部分の材質を蛍光 X 線分析で特定して表現技法と汚れの区別を行うための情報を整えた。

写真 1. 修理に伴う蛍光 X 線分析調査

【備考】

・調査件数

X 線 CT スキャナ調査：34 件　蛍光 X 線分析調査：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修理等の際に内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。X線CTスキャナやX線透過撮影は適切な修理に欠かすことのできないものとなっており、装置の未更新により活動は制限されるが計画を遂行している。また蛍光X線分析は彩色材料の同定に重要な役割を果たしており、より成果を出すための装置の支持具の改良が待たれる。光学調査の結果は、修理調書に反映させるとともに修理方針の策定にも役立てている。今後も継続した調査並びにデータの蓄積を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	X線CTスキャナは順調に稼働し、彫刻や漆工品などの修理に大いに役立っているので、4年度以降も安定して稼働させるために装置の更新を行う予定である。文化財保存修理所での修理内容をふまえ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの調査も行うことで、広い分野の修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できた。4年度には装置の支持具の改良を進め活用範囲を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究((4)-②-1))

【事業概要】

美術史的な観点からの作品情報を裏付けるための科学的な調査を行うことで、作品評価の適正化を試みる。また、個別での調査に加え、博物館の特性を活かした横断的な作品調査を行うことで得られる情報を調査研究、展示、教育の分野で活用する。さらに、科学技術の進歩に伴って博物館資料への応用が可能になった新たな調査方法や従来からある調査方法の中から精度の向上した調査方法を博物館活動の中に取り入れる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

・「聖徳太子と法隆寺」展における木彫作品の X 線 CT 調査を横断的に行い、木取りや構造の調査を行った。
・寄贈予定の彫刻作品の X 線 CT 調査を順次行い、作品評価の適正化に寄与した。
・「奈良博三昧」展で展示され、これまで技法が解らなかった「両界曼荼羅（厨子入り）」の X 線 CT 調査を行ったことで麻布が木枠に固定されている事が判明した。同展覧会出品作品では、その他にも「釈迦如来立像」頭部に納入されている舎利容器の取り付け位置、形状が判明した。それらの成果は展覧会図録、講演会等で公開された。

【備考】

写真 1. 調査を行った両界曼荼羅

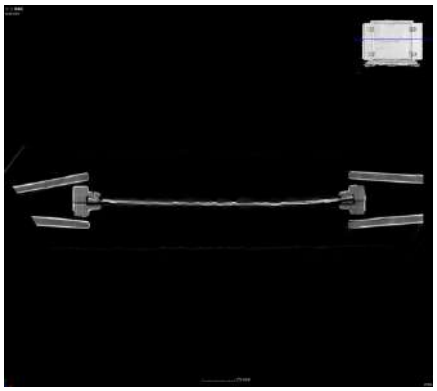


写真 2. 両界曼荼羅の CT 画像（上から）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今回、X線CT調査により、調査研究分野における進展に寄与でき、立体分野で重点的に成果を得られた。4年度以降は調査の有効性を広くアナウンスし、幅広い分野での調査研究を行う。また、今後は得られた成果を講演会以外での教育分野での活用を検討することで、データの活用方法をアウトリーチする方法を模索する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度はX線CTによる文化財の立体構造の解明等において調査を行い、中期計画の初年度として計画を遂行している。また、今後は色を測定する調査、可視光線以外の波長を用いた調査を行える体制を整えることで、幅広い文化財の調査が進むことが予想される。引き続き、立体文化財3Dデータと3次元プリンターを用いた教育効果を得られるように体制作りを進める。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究　((4)-② -1))

【事業概要】
本研究では、X 線 CT スキャナ及び 3D デジタイザ等の非破壊的な調査手法を使用し、各種文化財の材質・構造等に関する知見を得ることを目的とする。また、本研究は、館内及び外部の多様な専門分野の研究者との学際的協力によって遂行することを目指す。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　渡辺祐基

【主な成果】
(1) 漆工品の構造調査
修復技術者と協力し、琉球漆器（料紙箱及び中央卓）の X 線 CT 調査を実施し、木地構造や布着せについての知見が得られた。また、料紙箱の調査では、後補下地の下に当初の螺鈿が残っていることが判明し、これに基づいて修復の際には後補下地が除去された。中央卓の調査では、過去に調査された別作品との比較を行い、両作品間で造形だけでなく木地構造も極めて類似していることが明らかになった。
また、文化庁所有の「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」のうち、香道具類一式の X 線 CT 調査を実施した。箱型の作品については、角における部材の接合方法が作品によって異なることが明らかになった。

婚礼調度の X 線 CT 調査風景

(2) 複製品製作のための基礎調査
当館所蔵の蘆屋楓流水鶏図真形釜の複製品を製作するため、X 線 CT スキャン及び 3D デジタイザによる調査を実施した。得られたデータを鋳物師とともに解析することで、作品の正確な寸法が把握できただけでなく、目視では確認が困難であった表面の図様や制作時の痕跡を抽出することができた。これらのデータに基づいて作られた鋳型によって複製品の鋳造が行われた。本調査によって、制作当初の姿に可能な限り近い複製品を製作することができた。

【備考】
・X 線 CT 調査件数 90 件、調査回数 271 回
・3D デジタイザ調査件数 8 件、調査回数 12 回
＜論文等＞
・大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱の X 線 CT 調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告」『文化財保存修復学会第 43 回大会研究発表集』82-85（7 月）
・渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造及び製作技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集』130-131（9 月）
・川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（2）香道具」紀要『東風西声』17 号（4 年 3 月）
・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告と X 線 CT 調査報告」『浦添市美術館紀要』17 号（4 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は98件の文化財等の調査を実施し、漆工品や金工品について、高精細な三次元データを収集できた。これらのデータを所蔵者やその他専門家と共同で解析することで、文化財の内部構造や製作技法に関する新たな知見を得ることができた。さらに、本研究の成果を論文として公表したり、複製品の製作に活用することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、外部研究者とも協力し、各種文化財の材質・構造等に関する調査に取り組むことを目標とする。3 年度は、中期計画の初年度として、漆工品や金工品をはじめとする各種文化財の調査を実施できた。特に、「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」に関しては、中期計画完了までに全作品の X 線 CT スキャンを行う予定である。4 年度以降も調査を継続するとともに、データの分析、並びに結果の公表及び展示等への活用を推し進める計画である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究　((4)-②-1))

【事業概要】
ベトナム国立歴史博物館が所蔵する作品の保存修理事業を行い、ベトナムでの修理理念の検討と人材育成を目指す。また、文化財修理に係る様々な事柄を、作品の展示を通して公開し、博物館における文化財の保護と継承への取り組みとその意義について理解を深める機会を提供する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　志賀智史

【主な成果】

・シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター（HCC）との意見交換会
科研費「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」の事業も兼ねて行った。コロナ禍によりリモートで開催した。それぞれの立場で意見交換を行ったが、国の歴史や博物館の性格により、保存修理の理念や方法が異なることが認識できた。例えば日本では、日本文化の中から生み出された様々な美術工芸品が伝統技術と伝統材料を用いた修理により今日まで伝えられてきているが、シンガポールは比較的新しい国で、多民族国家であり、生産地ではなく交易地である性格が強い。このため、美術工芸品の製作技術だけでなく、それを修理する伝統技術や伝統材料などもほとんど認められないことは大変興味深かった。

・文化交流展示「賛助会費による修理成果展」
実施予定日：4年3月23日～5月8日の7週間
展示場所：文化交流展示室　第7室
元年度～2年度の賛助会費で修理した作品4件について、作品に加えて修理工程パネルや修理道具も展示した。会員へ感謝の気持ちを伝えるとともに、一般の方々に「文化財をまもり伝える」という博物館の役割について知って頂く機会となった。

・ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業（中止）
当館との協定館であるベトナム国立歴史博物館が所蔵する神勅について、修理工房　宰匠（株）の協力を得て、現地で修理を行う予定であった。しかし、コロナ禍により現地へ渡航することができず、2年度に続きやむなく実施を中止した（住友財団助成事業）。

HCC とのオンライン会議

賛助会費による修理成果展

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	保存修理事業を広く周知するため、例年バックヤードツアーを行っていたが、3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。しかし、修理した作品等を展示したことにより、それに代わる普及事業としての役割も担うことができた。 3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限措置により、ベトナムへの渡航が叶わなかったため、現地での修理を諦めざるを得なかった。今後も感染の世界的動向を注視しながら、事業再開に向けた準備を継続したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は中期計画初年度として、修理に関連する作品及び修理工程パネルを展示室にて展示することで、保存修理事業を周知することができた。 元年度に開始したベトナムでの紙を素材とする文化財の修理事業は、日本の修理技術を用いたベトナム初の修理であり、今後の展開が期待されるものである。引き続き、事業再開を目指す。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究　((4)-②-1))

【事業概要】

本研究の目的は、我が国の博物館における IPM（総合的有害生物管理）普及のための持続的なシステムづくりである。館内のさまざまな部署との連携はもちろんのこと、地元 NPO 法人やボランティア等とも協力し、持続的に IPM を実践するためのシステムづくりを行う。また、研修会の開催等を通じて IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】

(1) 「IPM オンライン相談会」の開催

新型コロナウイルスの状況に鑑み、オンラインによる 1 施設あたり 1 時間の IPM 相談会を 10 施設を対象に実施した（10 月 20 日～22 日の 3 日間）。また、9 月にも 1 施設に向けて実施したため、年度の合計としては 11 施設を対象とした。アンケート結果では「施設の状況に合わせて、知りたい部分についての相談ができたので、大変参考になった」、「なかなか研修までは出られないが、オンライン開催であれば相談ができて有難かった」などの意見があり、高い満足度がうかがえた。

環境ワーキング会議の様子

(2) 館内環境ワーキング会議・ 館内職員向け IPM 研修の開催

IPM などの館内環境に関わる情報の共有のため、館内の各部署から 1 人以上出席して、月 1 回 環境ワーキング会議を実施している。議事録は学芸会議、運営会議で共有されるため、館内での情報共有や問題解決の方法として大切な役割を担っている。

また、3 年度も主に新任職員を対象として、館内関係者 24 人に IPM 研修を実施した（6 月 23 日、7 月 13 日）。館内の各部署の関係者と館の IPM ポリシーを共有、IPM 活動に対する理解を深める点で、館内研修も大きな役割を果たしている。

(3) 海外のオンラインコンファレンスでの取り組みの発表

ICON（The Institute of Conservation）の主催する Pest Odyssey 2021- The Next Generation（9 月 20 日～22 日）にて、当館における IPM の取り組みや文化財害虫の生態に関する研究成果を口頭及びポスターで発表した。

オンラインコンファレンス

【備考】

・IPM オンライン相談会（3 日間）1 回　参加施設数：10 施設、9 月 1 施設　合計 11 施設
・館内職員向け IPM 研修（1 日間）　2 回　参加人数：24 人
・学会研究会等発表：オンラインコンファレンス Pest Odyssey 2021- The Next Generation　口頭発表、ポスター発表 1 件ずつ（9 月 20 日～22 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館の危機管理として館内のIPM活動を進めるとともに、その経験をもとに IPMオンライン相談会を開催し、全国各地の文化財関連施設への普及に資することができた。また、取り組みの成果や研究内容を国際学会で報告し、当館の取り組みを発信するとともに、世界的な状況についても調査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館内の事業や活動を通してIPMの活動についてのノウハウが蓄積されてきている。その成果を生かして、博物館等のIPM活動に関連し、全国の博物館等から総務系と学芸系など職種の異なる担当者に向けて継続的に普及事業を実施し、中期計画を遂行できている。また、全国の博物館等施設からの個別の相談なども寄せられ、助言等により協力している。オンラインによる相談会ならではメリットも生かし、今後もよりよい普及に努めたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 エ　展示収蔵環境の空気質に関する調査研究　((4)-②-1))

【事業概要】
展示収蔵環境における空気質を調査し、揮発性有機化合物濃度を低減させる実用的な対策の確立に向けた調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1) 展示ケースの換気システムに関する検証
展示ケース内の空気環境を清浄に保つため、換気ファンを取りつけた展示ケースを試作し、その効果を検証した。通常の展示スケジュールの中で効率的に換気するため、条件を変えて経時的に酢酸やホルムアルデヒドの濃度等を調査し、実用的な換気システムの運用方法を検討した。

展示ケースの空気質測定の様子

(2) 展示空間で発生する揮発性化学物質（VOC）の調査
展示空間における汚染物質の発生源を制御するため、揮発性化学物質が発生しにくい材料や製作法を検討した。展示ケースや展示台等に使用され得る材料について調査を進めた。

(3) 桐箱から放散する有機酸放散量低減に関する研究
文化財の保存箱である桐箱からは有機酸が放散されることが指摘されている。新しく製作された桐箱をより効果的に枯らすため、加熱処理実験を実施し、有機酸放散量の低減効果がみられるかどうかを検証した。実験の結果、桐箱内の酢酸濃度は低下する傾向が見られており、今後は加熱処理の有効性について検証を進める。

(4) 文化交流展室展示ケースの環境改善
ケース内の空気環境が改善されにくい状況であった壁付ケースに、試験的にタイマー付きの換気装置を導入して運用した結果、良好な空気環境へ改善できた。

展示材料から発生する VOC の調査

桐箱の加熱処理実験の様子

【備考】
・学会発表：和泉田絢子、渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、木川りか「湿度制御した加熱処理による桐箱からの有機酸放散量低減化に関する検討」文化財保存修復学会第 43 回大会（7 月 15 日、紙上開催）
・解説：木川りか「文化財の保存・活用と木質系材質にかかわる諸問題」『木材保存』48 巻 1 号（4 年 1 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示収蔵環境における空気質について詳細な調査を行い、データを蓄積することができた。得られたデータを、展示空間に用いる適切な材料及び製作法の検討や選定に生かしている。また、館内で情報共有を行い、揮発性有機化合物濃度を低減させるための方策を協議し、より良い保存環境の維持に努めた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3 年度は中期計画の初年度として、空気質について各種条件で調査を実施し、詳細なデータの収集に努めた。4 年度以降も継続的に調査を進め、博物館等で運用可能な空気環境改善の実用的な方策について検討を進めていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究

【事業概要】
当館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究を行い、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課　村田良二

【主な成果】
1)収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、作品管理、修理予定・履歴管理、文献情報管理の各能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。
2)従来の「分類」とは別に、作品をより適切に表現する「作品種別」を追加できる機能を新たに設計、実装した。「作品種別」は「絵画」「彫刻」などの分野ごとに、主題や地域を表す用語を階層的に構成し、容易に検索できるようにするもので、ColBase にも公開データとして反映する。
3)セキュリティ対策を強化するため、すべての機能について利用前にログインを必須とするようにした。
4)検索機能を強化し、フリーワードによる検索、作品種別による検索、現在の所在による検索を可能とした。

検索条件入力画面

【備考】
収集データ件数　239,698 件
（内訳）
作品データ件数　225,550 件
平常展データ件数　6,205 件
鑑査会議データ件数　106 件
貸与データ件数　2,213 件
修理データ件数　2,737 件
文献データ件数　2,887 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発し、館内からの要望に応えながら着実に発展させることができた。「ColBase」での公開にあたって、収蔵品の「分類」データが必ずしも個々の作品の実態を反映していないという課題に対し、新たに「作品種別」として階層的でわかりやすいデータを利用できる環境を整えることができた。またフリーワード検索や所在による検索を実装し、より効率的に学芸業務を行えるようにした。さらに、情報セキュリティ対策の向上のため、すべての機能についてログインを必須とし、ログに残される操作を行ったユーザを特定できるようにした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間では、より業務の実態に即した継続的な改善と、収蔵品に関する様々なデータ資源を集約的に扱える統合環境の構築を目指す。初年度となる 3 年度は、要望の多かったフリーワードによる検索をはじめ検索機能を強化するとともに、セキュリティ対策の強化、作品種別の実装を行った。4 年度以降は、全体的なユーザインターフェースの統合や、不要な機能の整理、さらなるデータ統合を検討する。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究

【事業概要】
4 年度の当館創立 150 年へ向けて『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料を作成する。また、原稿の整理や入稿など編集作業を行う。3 年度は関係文書類の整理とデータ化、保存措置を続けた。また、寄稿された原稿の整理と入稿、校正を推進した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子

【主な成果】
(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（4 月 1 日～4 年 3 月 25 日：週に 1 日程度）
資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について、27 年度に完成した目録(仮)と対応させながら、資料の保存や出納のために、中性紙箱への入れ替えを行った。また、館内外より新たに収集した資料について目録を作り、活用できるように整理をした。以上は、東京国立博物館百五十年史編纂室アソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名がともに作業を行った。
(2)『150 年史』原稿についての整理と入稿、校正作業（適宜）
提出された原稿について、内容を確認し文体の統一を行いながら、編集出版業者に入稿した。まだ原稿を提出していない執筆者に対して連絡を入れながら、原稿提出を促した。編集出版業者より出来てきた校正用紙を執筆者に校正してもらい、編纂室でさらに確認をして業者へ戻した。
(3)館史の内容に即した文書類の整理・デジタル化
a)『百年史』資料のデジタル化（4 月 2 日～4 年 3 月 25 日の間、週に 1 日）
『150 年史』編纂の基礎資料とするために、『百年史』編纂時の資料のデジタル化を行った。アソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名がこれを進めた。
b)『百五十年史』資料編のための年表作成（適宜）
「出版物年表」「教育普及年表」など、150 年史資料の中から関係するデータを抜き出して年表を作成した。
(4)『百五十年史　普及版』制作の資料収集（10 月 13 日～4 年 3 月 25 日の間、適宜）
『百五十年史　普及版』に掲載する館の歴史に関わる古写真を収集しデジタル化した。
(5)問い合わせへの対応と関係資料の提供（4 月 21 日ほか）
『150 年史』執筆者などへの資料提供と、館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。

【備考】
(1)収集した文書類の整理：41 日間実施
(3) a)『百年史』資料のデジタル化：32 日間実施（725 点）
(4)『百五十年史　普及版』の古写真デジタル化：1,050 点
(5)資料提供・問い合わせ対応：14 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度より継続的に行ってきた文書類の整理・保存措置について3年度も進めた。また収集・整理した文書類のデータを活用し、『150年史』執筆者や問い合わせに対して資料提供を行うことができた。そして、寄稿された原稿と資料編用データを整理・入稿し、校正作業も行い、編集出版業務を進めることができた。引き続き、館内各所に所在する文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにするとともに、4年度の『150年史』刊行に向けて編集出版作業を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『150 年史』執筆者への資料提供や館史に関わる問い合わせ、調査研究などの要望に 2 年度に引き続き迅速に対応できた。また、原稿の整理や入稿、校正を進められたことから、中期計画に対する進捗状況は順調である。4 年度も引き続き文書類のデータ化を行い、利用しやすい文書整理を心掛け、さらなる活用を図るとともに、『150 年史』刊行のために編集出版作業を進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1422Bア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究　((4)-②-2))

【事業概要】
当館で運用している収蔵品管理システムや図書管理システムなどの業務用システムをはじめ、公式ウェブサイトや館蔵品データベースなどの外部公開システムなど、各種システムの課題を整理するとともに、博物館情報に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長兼列品管理室長　羽田聡

【主な成果】
(1) 収蔵品管理システムや図書管理システムなど、当館が持つ情報を蓄積、管理するためのシステムや公式ウェブサイト・館蔵品データベースなど、情報発信の方法等について検討する「情報システム検討委員会」を開催し、博物館情報に関する研究を推進した。
(2) 画像利用申請や貸与許可書等、帳票類の押印廃止に対応するため、収蔵品管理システムの改修を行った。
(3) 収蔵品管理システム及び公式ウェブサイトのリニューアルに向け、現システムの課題と新システムに必要な機能について検討を重ねた。システム開発の委託先を決定し、リニューアルに伴う作業を進めた。
(4) 蔵書管理システムのリニューアルに向け、館内で検討を進め、仕様書を策定した。
(5) 館内で運用中のシステムについて、リプレイスすべきタイミングを整理した。

【備考】

館内で運用中のシステムについて、リプレイスサイクルをまとめた表
（黄色⇒4 年度、要リプレイス時期。赤⇒リプレイス時期）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館内で運用しているシステムについて、稼働年数や運用状況、保守の状況を確認及び整理した。整理した内容を基に、各システムの運用計画を見直し、急ぎ対応が必要なシステムのリニューアルに取り掛かることができた。4年度以降も、収蔵品情報の整理・活用に資する情報収集を引き続き行い、必要とされるシステムのリプレイスに向けて努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の初年度として収蔵品管理システム、公式ウェブサイト、館蔵品データベースのリニューアルを開始するとともに、図書システムのリプレイスに向けた仕様書の策定を行った。4年度以降、3年度に取り掛かることのできなかったデータベースのリニューアルに取り掛かるとともに、リニューアル後のシステムを運用しながら課題を抽出し、関係施設と情報交換を行いながら、システムの改善を図る。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1430A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・(4館共通) Ⅰ-1-(4)-③-1)、2)、3)、4)
・(東京国立博物館) Ⅰ-1-(4)-③-2)、3)

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長　楊鋭

【実績・成果】
(4館共通)
・当館と韓国国立中央博物館共同主催の「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」を テーマとしたオンラインセミナーを開催した（9 月 9 日）
・韓国国立中央博物館と共同で日韓博物館の国際交流事業の現状共有、協力事業のアイディア交換、担当者同士のネットワーキングを目的とした「ウィズコロナ時代、日韓の博物館における国際交流の挑戦」オンラインセミナーを主催した（11 月 25 日）。
・日中韓国立博物館長の合意事項に基づき、博物館の文化マーケティング戦略について情報共有のオンラインフォーラムを主催した（12 月 8 日）。
・館内展示作品の題箋デザインや多言語解説の内容を継続的に改良している。
・日本在住の外国人及び海外の日本美術愛好者向けに、3 年 9 月から SNS（ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）による英語、中国語、韓国語の博物館情報発信を開始した。
(東京国立博物館)
2) 当館主催の日中韓国立博物館長会議はオンラインにて開催し、ウィズ/ポスト・コロナ時代における 3 館の協力と情報共有について確認した（7 月 14 日）。
3) 26 年から継続して実施しているミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン実践と展望」及び日本美術専門家会議は、新型コロナウイルスの影響により開催方法を変更し、それぞれ 4 年 1 月 29 日と 2 月 10 日に、オンラインにより開催した。

【補足事項】
・オンラインで行った国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン実践と展望」の国内外参加・視聴者数は 613 人。
・2 年度に開催予定であった日中韓国立博物館長会議は、新型コロナウイルスの影響により 3 年度に延期し、オンラインにて開催した。
・韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館等と定期的に行ってきた学術交流は、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、オンラインにて両館と緊密な連携を取り、交流を継続している。

日中韓国立博物館長会議

中国語版インスタグラム

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2 年度と同様、新型コロナウイルスの影響が続いているため、海外の博物館の定期的に行ってきた学術交流や、研究者の招聘及び当館研究員の海外派遣はすべて中止した。代替となる取組みとして、オンラインにて様々な交流を積極的に推進し、博物館同士のネットワークを維持した。 3 年度で 8 度目となるミュージアム日本美術専門家連携・交流事業もオンラインにて開催し、12ヵ国 47 人の参加があった。 また、外国人来館者はほとんどいない状態が続いている中、SNS による多言語の情報発信は、博物館の展示活動や作品解説の提供など、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、これからの発展性が期待される。 4 年度は、ウィズコロナ時代における海外の博物館・美術館との交流・連携のあり方について研究を進めるとともに、デジタルメディアを活用して、持続的に発展可能な博物館国際交流及び効果的な情報発信に努めたい。 以上の実績より、年度計画を遂行できたと判断し、Ｂ評価とした。

【中期計画記載事項】
2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響が続いている中、海外の博物館との学術交流や人的交流はオンラインにて積極的に行った。同時に、日本の伝統文化・美術を海外向けに広く紹介するために、SNSによる英語、中国語、韓国語の情報発信を開始した。 また、新型コロナウイルスの収束後、訪日外国人も増加すると予測されるため、館内における多言語対応は継続的に改良するなど、中期計画の初年度として、国際交流活動を積極的に取り込んだ。引き続き重点的に国際交流活動を実施し、中期計画を推進する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1430B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】・Ⅰ-1-(4)-③（４館共通）1)2)3)4)

担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

【実績・成果】

新型コロナウイルスの感染拡大により、国際的な人的往来が厳しく制限される状況が継続するなか、多くの事業をオンラインで行い、ウェブ会議などを活用することで以下の成果をあげることができた。

1)2)3)2年度に学術交流基本協定を締結したアメリカのサンフランシスコ・アジア美術館と、当館蔵品を活用し、海外展を企画している。新型コロナウイルスの影響により、9月開催の予定が5年秋以降に延期されたが、協議を継続して着実に準備を進めている。

1)2)3)サンフランシスコ・アジア美術館において、上記の展覧会と同時期に開催が計画されている、当館寄託の京都の禅宗寺院の名宝を紹介する展覧会について協議し、開催に向け準備を継続した。

5月サンフランシスコ・アジア美術館及び京都の寺院と海外展に関するオンライン会議

2)4)国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」をセインズベリー日本藝術研究所と協力して4年3月19日にオンラインにて開催し、欧州・北米・中国・日本の研究者が事例報告及び研究発表を行った。日英中の同時通訳を通して、1,013名の参加を得た（事後の視聴も含む）。

2)3)3年度海外ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業において、複数の職員がオンラインで国際シンポジウム及び専門家会議に参加して国内外の日本美術専門学芸員と意見交換を行った。

3)4)日韓の国際交流オンラインセミナー「ウィズコロナ時代、日韓の博物館における国際交流の挑戦」（東京国立博物館国際交流室・国立中央博物館文化交流広報課主催）に4名の当館職員が参加し、2名が発表した。また日韓学術交流事業「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」9月9日（国立中央博物館（韓国）・東京国立博物館主催）に2名が参加した。

2)4)ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次会議「文化財防災ネットワークの構築:連携に関する事例研究」11月4日～7日（東京及び岩手　ハイブリッド開催）を主催した。会議に5名の当館職員が参加し、1名が発表した。11月4日（東京開催）では145人、11月6日（岩手開催）では180人の参加があった。

【補足事項】

4)ICOM-ICMS（国際博物館会議セキュリティ国際委員会）　Webinar「Creating a Crisis Plan」（6月28日オンライン）当館職員1名が参加し、講演した。

4)16回ヨーロッパ日本研究協会「Power, Praxis, and People」（8月26日オンライン）で当館職員1名がパネリストを務めた。

4)ICOM-ICDAD(国際博物館会議工芸とデザイン博物館・コレクション国際委員会)の年次会議「Revivals」（10月21日～23日オンライン）で当館職員1名が座長を務めた。

4)立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（9月13日）に当館職員1名が講師参加し、パネリストを務めた。

4)ジョージ・ワシントン大学(アメリカ)テキスタイルミュージアムの国際シンポジウム「Cotsen Textile Traces Global Roundtable: From India to the World」（11月17日～18日）で当館職員1名が英語通訳を担当するなど研究発表に協力した。

4)公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター　文化遺産に関わる国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題―災害時応急対応事例と課題―」（12月14日～15日オンライン）に当館職員1名が参加した。

4)上智大学アジア人材養成研究センター主催「ASEAN Cultural Properties and Museum International Workshop」（4年1月9日オンライン）に当館職員1名が参加し、講演した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 2年度と同様に新型コロナウイルスの流行による制約が大きく、国を越えての研究員の招聘・派遣が困難な状況ではあったものの、ウェブ会議などオンラインツールの効果的な活用により、活発な意見交換の場を設けることができた。特に国際シンポジウム開催に向けたセインズベリー日本藝術研究所との連携は、今後の両館の持続的かつ発展的な交流を見据えた有意義な取り組みであった。また国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」は、コロナ禍が理由でのオンラインによる国際シンポジウムの開催であったが、当初の計画を大きく上回る1,000人を超える参加者があり、敦煌写本研究の現状を広く国内外に示すことができた。このことは敦煌写本研究の今後の進展に大きく寄与するものである。以上から、A評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】

2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 3年度は国際シンポジウムの企画開催を行い、海外の研究機関との連携が深めることができたため、国際交流の着実な一歩を進めることができている。特に今回の国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」は当館としても初めての試みであるオンラインのみによる開催であったが、1,000人を超える参加者があった。また参加者の半数以上がアジア、欧米を中心とした海外からの参加であり、活発な討議があるなど、予想以上の研究成果と効果的な取り組みの周知ができたことは当初の予想以上の成果を得られたといえ、今後の当館開催の国際シンポジウムの在り方を考える上でも非常に重要な成果であったといえる。以上から中期計画の初年度として所期の計画を大きく上回ることができていると考えられ、A評価とした。4年度以降も、3年度の成果を踏まえたさらなる取り組みを継続していきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1430C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-③（4館共通）1)、2)、3)、4)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（4館共通）
1)新型コロナウイルスの影響により、研究者の招へい・派遣は実施できなかった。
2)イギリス・セインズベリー日本藝術研究所が6年に開催する予定の展覧会「Nara to Norwich」展への助言をはじめ、国際的な展示協力、ネットワーク構築を図った。
3)東京国立博物館・国立中央博物館（韓国）主催の博物館教育オンラインセミナーに当館3名が参加し、事例報告と情報交換を行った。
4)東京国立博物館主催の「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」による国際シンポジウムに、当館職員2名が参加した。東京国立博物館・国立中央博物館（韓国）主催2021年日韓学術交流事業による国際シンポジウムに、当館1名が参加した。
5)駐日ドイツ連邦共和国大使、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事、ヨルダン・ハシェミット王国大使館大使をはじめ、各国大使との意見交換を行った。
6)渋谷区立松濤美術館の展覧会「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」（学術協力：奈良国立博物館）の英文図録につき、翻訳、編集を行った。

【補足事項】

東京国立博物館・国立中央博物館（韓国）
主催博物館教育オンラインセミナー
発表スライドより

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事との意見交換

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により海外との往来が制限されており、招へい・派遣事業の実施は困難であった。その中でも、海外の機関に対して可能な限りの助言・支援を行い、オンラインの国際シンポジウム等にも可能な限り参加し、情報収集や意見交換を行った。オンラインを活用するなど時宜に適った学術交流を実施できたため、Ｂ評価と判断した。

【中期計画記載事項】
2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 海外の優れた研究者の招へい、職員の海外への派遣は実施できていないものの、新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、海外の機関の要請に支援を行い、オンラインの国際シンポジウム等へ参加をするなど、現状において可能な限りの活動を実施した。これらはアフターコロナにおける活発な学術交流に向けての素地の構築であり、中期計画は遂行できていると評価できる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1430D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-③（４館共通）1）、2）、3）、4)
・Ⅰ-1-(4)-③（九州国立博物館）2)

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
1）2年度に学術文化交流に関する協定を締結した上海博物館で、旧正月に開催される企画展示にコロナ禍でありながら2件の文化財を貸与し、交流を強化した。
2）、3)
・「アジアの文化財の製作技法・修理技法に関わる調査」の一環として、大英博物館の修復施設（平山スタジオ）で実施されているアジアの絵画の修理についてオンラインによる聴き取り調査を実施した（6月4日)。
・同様に、シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター（HCC）で行われているアジアの文化財の保存修復に関する取り組みについて、オンラインセミナーを実施した（7月2日)。また当館で実施している文化財の管理、保存、修復事業について、先方に紹介するオンラインセミナーを行った（11月1日)。
4）9月20日～22日にロンドンで開催されたオンラインの国際会議（Pest Odyssey 2021 Next Generation）にて、当館でのIPMの取り組み及び文化財害虫の生態に関する発表を口頭、ポスター発表にて行った。
（九州国立博物館）
2）新型コロナウイルスの影響により、海外の研究者及び修理技術者の招へいはできなかったが、オンラインを活用して上記の活動のほか、アメリカのNational Museum of Asian Artの主催する“Virtual Symposium- East Asian Painting Conservation: Perspectives on Education, Research, and Practice”(6月29～30日)、ICOM-CCのオンラインセッションである”Global Climate Network: challenges and experiences in managing the museum environment”(2月25日)に当館研究員が参加し、海外における日本美術品の修復の状況や最近の研究成果、博物館や文書館等のサステイナブルな環境保全に関する状況について情報収集を行った。

大英博物館とのオンラインセミナー

HCC とのオンラインセミナー

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に学術文化交流を締結した上海博物館に、コロナ禍でありながら文化財を貸与し海外交流を強化した。また、海外の修理事業に関わる方々とオンラインによる意見交換や、セミナーを実施した。海外の研究者や修理事業者の方の招へいは新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、今後も検討していく。

【中期計画記載事項】
2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度における海外の研究者及び修理技術者の招へい並びに当館職員の海外への派遣は新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。しかしながら、オンラインを活用し、国際会議（Pest Odyssey 2021 Next Generation）にて、当館でのIPMの取り組みを積極的に発表するなど、中期計画を順調に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1440A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館、京都国立博物館）1)
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館）1）、2)、3)、4)

担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課 学芸研究部調査研究課	事業責任者	課長　丸山士郎 課長　今井敦 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
1)『東京国立博物館文化財修理報告 22』を刊行した。
（東京国立博物館）
1)・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。
・特集印刷物リーフレット等6件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。
2)『東京国立博物館紀要 57 号』を刊行した。
『博物館でアジアの旅　空想動物園』を刊行した。
特別展図録 8 件、特集印刷物 9 件（リーフレット 6 件、冊子 3 件）を編集した。
3) 研究誌『MUSEUM』691 号～696 号（6 冊）を刊行した。
4) 刊行物リポジトリの準備作業を行った。

【補足事項】

【評価指標】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	27件	－	－		32	31	36	25

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 刊行物については、定期刊行物、報告書、図録とも予定していたものを全て刊行することができた。 「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開し、特集印刷物リーフレットのPDFファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた。 刊行物リポジトリを導入するためには、必要な経費を予算化する必要がある。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	（判定根拠、課題と対応） 刊行物については、計画していた出版物を順調に刊行し中期計画を遂行できている。ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を増やし、中期計画を遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1440B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館、京都国立博物館）1）、（京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉 調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)『文化財修理報告書』19を刊行した。
（京都国立博物館）
1)『学叢』43を刊行した。
2)『社寺調査報告』30（金剛寺)、『社寺調査報告』31（観心寺）を刊行した。

『社寺調査報告』30（金剛寺）

【補足事項】
（京都国立博物館）
・定期刊行物の実績値には含まないが、特別展にて3件、特別企画にて1件の図録を刊行。特集展示にて1件の小冊子を刊行した。
・特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」図録は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に合わせた企画で、日英2言語併記とし、諸外国からの来館者にもオリンピック競技会に通じる日本の文化を伝えようとする意欲的な図書である。古代オリンピックと日本の風習の対比という同展のテーマに沿って当館収蔵品で構成されており、日本美術の初心者から上級者まで、幅広く楽しめる内容になっている。
・『社寺調査報告』31（観心寺）は、檜尾山観心寺（大阪府河内長野市）の文化財悉皆調査の報告書である。元年度に刊行した科学研究費補助金［基盤研究(A)］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究＜観心寺編＞』に収録した合計437件のうち彫刻15件を除き増補・校正を行い、 併せて追加調査を行った考古資料や歴史資料を中心に新規に掲載した。 彫刻については4年度に補足調査を行い、観心寺・彫刻編として刊行予定である。また、2年度末、新型コロナウイルスの影響により刊行ができなかった『社寺調査報告』30も合わせて刊行を行った。

特集展示小冊子「後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―」

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	13件	－	－		11	17	11	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 社寺調査報告、図録等を当初の計画以上に刊行することができた。特に特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」図録は作品解説や用語を多言語化し、国外の利用にも供する内容とした。学叢についても最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。 また、2年度末に新型コロナウイルスの蔓延を受け、刊行できなかった金剛寺の社寺調査報告と、追加調査を行い刊行した観心寺の社寺調査報告は非常に充実した内容を掲載することができた。以上の理由からＡ評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度にあたり、学叢、社寺調査報告、展覧会関係刊行物を中心に、調査・研究結果を当初の計画以上に発信することができた。特に3年度中に、金剛寺の社寺調査報告と観心寺の社寺調査報告を刊行できたことは学術的に大きく貢献できたといえる。以上からＡ評価が妥当であると考えられる。 学叢については、刊行後10年以内は論文要旨を、刊行後10年を経過した時点で全文をウェブサイトにて公開する作業を継続し、インターネットを活用した調査研究成果を発信していく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1440C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（奈良国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
1)奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』第 24 号を刊行した。掲載内容は、論文 2 本、作品研究 1 本、研究ノート 2 本、調査報告 2 本、修理報告 1 本、事業報告 2 本の計 10 本であった。奈良国立博物館リポジトリに掲載した。
2)『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第 4 号を刊行した。

【補足事項】
奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』掲載の論文等が10本となり、例年と比較してもより活発な研究状況を反映させることができた。

研究紀要『鹿園雑集』第 24 号

『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第 4 号

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	15件	－	－		16	17	18	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要については、想定より掲載希望が多く、一部掲載できないものがあったが、当館研究員のみならず外部研究者の寄稿も掲載され、年度計画の通り刊行できたといえる。 また、修理報告書も修理を担当した各修理工房、京都大学生存圏による樹種同定調査の協力を得て、例年通りに刊行することができ、年度計画を遂行できている。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェ ブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要及び修理報告書の他、展覧会の開催にあたり実施した調査の成果を展覧会図録に掲載し、また、公開講座やサンデートーク等において講演を行った。 名品展（平常展）に出陳する作品についても、調査成果を定期刊行物の「奈良博だより」に掲載した。ウェブ上も含め、調査研究の成果を広く発信しており、中期計画を着実に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1440D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④ 調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（九州国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部企画課 学芸部博物館科学課 学芸部展示課	事業責任者	課長　白井克也 課長　木川りか 課長　楠井隆志

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』第17号を刊行した（部数900部）。
2)『23-24年度　九州国立博物館 文化財修理報告』(発行部数750部）を編集、刊行した。23年度から24年度までの当館文化財保存修復施設で行った修理と、当館経費による修理の報告書をまとめた。

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)『東風西声』第17号では11本の論文を掲載した。(うち当館職員執筆8本、外部研究者からの寄稿3本)
2)『23-24年度　九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館文化財保存修復施設で行った修理、及び当館経費による館外での修理の記録をまとめたものである。第4号では、23年度から24年度までを対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。報告書は、現状では紙媒体での公開にとどまっているが、将来的にはインターネット上での公開も検討している。4年度以降も、順次刊行する計画である。

東風西声第 17 号表紙

23-24 年度
文化財修理報告表紙

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	12件	－	－		21	16	18	18

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第4号も予定通り刊行し、当館での文化財修理に関する記録を公開することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、予定どおりに印刷物を刊行することができた。また、調査研究の結果を広く公表することができた。 引き続き、当館の調査研究等の取り組みを広く公開するために、印刷物を刊行できるよう努めていく。さらに、研究成果のウェブサイトでの公表について、館内での検討を継続する。

【書式A】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1510A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（4館共通）1)、2)
・Ⅰ-1-(5)-①（東京国立博物館）1)、2)、3)

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（４館共通）
1)国外内の博物館等113機関に990件の作品を貸与した。
2)文化財活用センターと当館は共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等5機関に85件の作品を貸与した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館等の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の博物館等5機関に21件の作品を貸与した。
3)文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、5機関に85件の作品を貸与した。

【補足事項】
（４館共通）
2)
日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生及び観光振興に寄与することを目指し、各開催館までの往復輸送費・保険料・職員出張費を負担する「東京国立博物館収蔵品貸与促進事業」を実施した。大規模貸与として、佐賀県立美術館に22件、奈良県立美術館に23件の当館収蔵品を貸出すとともに、広報費の一部も負担した。小規模貸与として、やないづ町立斎藤清美術館ほか2機関に当館収蔵品を貸与した。
（東京国立博物館）
2)
大韓民国国立中央博物館の特別展「朝鮮時代の僧侶職人」に1件、大韓民国国立中央博物館の特別展「漆：アジアを塗る」に5件、大韓民国国立中央博物館の常設展示「日本 仏教彫刻の世界」に5件を貸与した。
3)
当館収蔵品貸与促進事業のうち大規模貸与事業として、佐賀県立美術館 特別展「白馬、翔びたつ―黒田清輝と岡田三郎助―」（会期: 9月7日～10月17日）に22件、奈良県立美術館 特別展「生誕200周年記念　森川杜園展」（会期：10月10日～12月13日）に23件を貸与したことをはじめ、小規模貸与事業として、やないづ町立斎藤清美術館 2021年度（3年度）春季特別企画展「斎藤清とハニワ！」（会期：4月24日～6月6日）に6件、那覇市立壺屋焼物博物館 令和3年度那覇市立壺屋焼物博物館 特別展・がんばれ首里城！「うちなー“赤瓦”ものがたり」（会期：11月2日～12月26日）に18件、桑名市博物館「やまと絵のしらべ　－帆山花乃舎と復古大和絵－」（会期：4年1月4日～3月18日）に16件を貸与した。

【評価指数】項目	3年度実績	目標値	評定	経	29	30	元	2
貸与件数	990件	－	－	年	914	1,355	954	806
うち国内の貸与件数	969件	－	－	変	783	1,225	864	794
うち国外の貸与件数	21件	－	－	化	131	130	90	12

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
国内外の博物館等113機関に990件の作品を貸与した。新型コロナウイルスの影響により2年度は機関数、貸与件数はともに減少したが、3年度は例年通りの件数に回復した。また、海外の博物館への貸与も実施することができ、国内外の展覧会の開催に貢献した。
貸与促進事業は、5機関に85件の収蔵品貸与を行った。また、来館者、メディアからは多くの反響があり、収蔵品の貸与と公開が各地域の創生・振興に寄与した。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、中期計画に基づき、国外内の博物館等の出品要請に応じて、貸与を実施した。
4 年度以降も文化財活用センターとの連携を深めるとともに、有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に寄与できるよう、協力依頼に積極的に応じる予定である。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1510B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（４館共通）1)、2)、(京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
1)国内の81機関（機関は延べ件数）に対し、計314件の収蔵品を貸与した。(館蔵品の貸与件数：191件、寄託品の貸与件数：123件)
2)3年度に国立博物館収蔵品貸与促進事業で貸与した収蔵品は2件だった。
(京都国立博物館)
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
(館蔵品の貸与件数：182件　寄託品の貸与件数：87件)
2)3年度は新たに愛媛県歴史文化博物館、徳島県立博物館、柏原市立歴史資料館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（４館共通）
1)収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら、先方の要望に応じた。

愛媛県西条市丹原町
古田遺跡出土品 銅剣

徳島県小松島田浦町
字前山 77 出土品 埴輪

大阪府柏原市船橋遺跡
出土 弥生土器

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
貸与件数	314件	－	－		349	289	348	286
うち国内の貸与件数	314件	－	－		336	274	347	286
うち国外の貸与件数	0件	－	－		13	15	1	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。
また、3年度は3博物館との間で考古資料の相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品をその地域にある博物館で展示することができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
内外の博物館等の要請に応じて、作品貸与を実施することができている。
また、収蔵品の保管・展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら貸与先の博物館等に対しての展示・保管環境等を十分に考慮したうえで可能な範囲で要請に応じることもできている。
以上から、中期計画を順調に遂行しているといえ、Ｂ評価が妥当であると考えられる。
更に、海外の貸与先についても十分に審議を重ねた上で収蔵品の貸与を行う計画を進めており、今後はさらに当館の持つ日本の文化の粋を海外にも発信できるよう努める。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1510C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】。
・Ⅰ-1-(5)-①（4館共通）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
1）館蔵品と寄託品を合わせて 22 の機関に計 252 件の貸出を行った。
2）収蔵品貸与促進事業を行い、奈良県立美術館へ文化財を貸与した。

【補足事項】
（4館共通）
1）館蔵品・寄託品の貸与
・貸与先22件の内訳
　国立3件、公立14件、私立5件、海外0件
・貸与作品252件の内訳
　国宝31件（所蔵品4件、寄託品27件）
　重要文化財52件（館蔵品28件、寄託品24件）
　その他169件（館蔵品149件、寄託品20件）
　貸与した館蔵品181件の内訳
　（絵画45件、彫刻14件、書跡22件、工芸82件、
　　考古13件、建築5件）
　貸与した寄託品71件の内訳
　（絵画36件、彫刻10件、書跡14件、工芸8件、
　　考古1件、歴史資料2件）
2）収蔵品貸与促進事業における貸与・借用品数
・奈良県立美術館
　　収蔵品：1件（如意輪寺塔扉　模造　一隻）が特別展「生誕200周年記念　森川杜園展」で展示された。

岐阜市歴史博物館　特別展「波濤を超えて」出品
国宝　金光明最勝王経　巻第五（当館所蔵）

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
貸与件数	252件	－	－		210	134	136	107
うち国内の貸与件数	252件	－	－		205	109	133	107
うち国外の貸与件数	0件	－	－		5	25	3	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
　貸与件数は、過去4年の実績と比較すると最も多くなった。中でも国宝・重要文化財が合計84件貸し出されるなど、各地の展覧会の開催に大きく寄与した。
　また、収蔵品貸与促進事業により、奈良の地にゆかりある館蔵品を貸し出し、地域の展覧会事業へ貢献することができた。以上からA評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
　収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
　作品のコンディション・相手機関の要望や展示収蔵環境を考慮して、柔軟な対応を行い、各地の展示施設の展覧会の実施に大きく貢献することができた。貸出実績については、過去4年の件数と比べ最大となっており、中期計画初年度として十二分な実績を残すことができた。以上からA評価が妥当であると考えられる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1510D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（４館共通）1)、 2)
・Ⅰ-1-(5)-①（九州国立博物館）1)、 2)

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）1)
（九州国立博物館）1)、2)
国内19機関、海外1機関に計132件の収蔵品を貸与した（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）。
館蔵品の貸与件数：109件（うち国宝1件、重要文化財3件）
寄託品の貸与件数：23件（東京国立博物館からの長期管理換品を含む）

【補足事項】
（九州国立博物館）
貸与先機関と貸与件数は下記のとおりである。（※印は2年度から3年度にかけて貸与）
1)　国内の貸与先機関
・国立機関
※京都国立博物館1件、東京国立博物館16件
・地方公共団体及び公立博物館・美術館
（福岡県内）
甘木市歴史資料館3件（長期貸与）、伊都国歴史資料館4件（長期貸与3件、通常貸与1件）、小郡市埋蔵文化財センター5件（長期貸与）、求菩提資料館2件（長期貸与）、大野城心のふるさと館18件（2展覧会合計）
（福岡県外）
※下関市立歴史博物館1件、※京都文化博物館3件、秋田市千秋美術館51件、やないづ町立斎藤清美術館1件、神戸市立博物館1件、北海道近代美術館3件、宮崎県立西都原考古博物館8件、米沢市上杉博物館2件、大分県立歴史博物館3件、愛知県美術館5件
・私立博物館・美術館及び私立団体
公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館1件、中之島香雪美術館2件
2)　海外の貸与先機関
・上海博物館2件

米沢市立上杉博物館
特別展「狩野派」出品
国宝　周茂叔愛蓮図

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
貸与件数	132件	－	－		71	80	50	36
うち国内の貸与件数	130件	－	－		67	80	44	35
うち国外の貸与件数	2件	－	－		4	0	6	1

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
2年度に展覧会を中止した出品要請機関から出品依頼があったことに加え、当館の染織コレクションを大々的に紹介・展示する展覧会が開催されたこと、さらに、文化財活用センターが実施する貸与促進事業での貸与も行ったことを受け、収蔵品の貸与件数は2年度と比較して大幅に増加した。また、福岡県内の博物館・資料館への長期貸与を行い、福岡や九州の文化財の魅力の地域発信に寄与することができた。新型コロナウイルスの影響もあったが、海外の博物館への貸与も実施することができ、当館の収蔵品が世界に紹介されることにつながったことから、年度計画を大きく上回る成果となった。
以上、国宝1件、重要文化財3件を含む132件の文化財を適切に貸与し、各博物館・美術館の展覧会の充実化に十二分に貢献できたため、A評定とした。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の初年度として出品要請機関の状況等を総合的に勘案して適切に貸与し、国内外の博物館・美術館の展覧会の展示の充実に大きく寄与することができた。
当館の収蔵品を大規模に紹介する展覧会や貸与促進事業での貸与、海外の博物館への貸与、地域の博物館・資料館への長期貸与等、さらに国内外の博物館・美術館の展覧事業に協力することができたことから、A評定とした。
4年度も引き続き、当館の収蔵品の魅力を広く発信していく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）
・Ⅰ-1-(5)-②（東京国立博物館）

担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、98件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力　37件
　文化庁、尾道市教育委員会、東京都江戸東京博物館、公益財団法人遠山記念館、薬師寺他
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　13件
　国立歴史民俗博物館、長崎歴史文化博物館、永青文庫他
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　19件
　山東博物館・徳州学院、遠野市立博物館、筑波大学他
・講演・セミナー・審査等での協力　14件
　韓国国立中央博物館、大和文華館、一般社団法人国宝修理装潢師連盟、東京藝術大学大学院他
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　15件
　京都国立近代美術館、国立国会図書館、京都市京セラ美術館、ミツカンミュージアム他
　また、3年度より新たに保管文化財に対する特殊な機材を用いた計測、非破壊による材質・成分等の調査、その他、特別観覧に該当しない撮影による調査等の外部からの調査協力依頼に対し、調査協力をする事業を開始した。
・東京国立博物館保管文化財の調査協力　　8件（件数については参考値とし、援助・助言件数には含めない。）
　大阪大学、奈良県立橿原考古学研究所、出光美術館、元興寺文化財研究所、京都大学人文科学研究所他
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。
　環境調査を実施した新規貸与館は、14館。（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　3件）

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年	29	30	元	2
援助・助言等の件数	98件	－	－	変化	138	131	139	78

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度は緊急事態宣言発出に伴う移動自粛や借用辞退が頻発したため、2年度に比べると件数は減少した。しかし、そのような中でも例年同様に、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等についての援助や助言、新規貸与館への環境調査を行うことができた。 新たに、従来の枠組みでは対応することができなかった博物館・美術館、大学、その他研究機関の要請に応じて、保管文化財の調査協力を行った。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、全国の美術館・博物館から問い合わせがあり、当館の対策について説明するとともに助言を行った。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等に図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期初年度となる 3 年度は、国内館はもとより、海外渡航制限を受けて、国外館はわずかであったが、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施することができた。 また、従来の枠組みでは対応ができなかった、近年の調査・分析技術の進歩による専門性の高い特殊な機器を用いての調査要請に応じる体制を整えることができた意義は大きい。 4年度以降も、感染拡大防止に配慮しつつ、可能な限り積極的に対応し、文化財の保存活用に寄与していきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1)、(京都国立博物館）1)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　尾野善裕

【実績・成果】
（４館共通）
1)行政、公私立博物館等の各種委員等への就任などを含め、博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を129件実施した。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）
　文化庁文化審議会（文化財分科会）など官公庁の各種委員会への助言・協力
　京都府、滋賀県、三重県、静岡市、鳥取市などの地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言など
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言
　兵庫県立考古博物館、姫路市立美術館などの国内の博物館・美術館などへの展示指導など
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導
　南九州市世界の記憶推進会議アドバイザーとして協力など
・講演・セミナー・審査等での協力
　京都大学、神戸大学、京都工芸繊維大学、立命館大学、同志社女子大学、國學院大學など、大学の非常勤講師として協力など
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言
　京都国立近代美術館への協力など
・博物館等への特別協力
　サントリー美術館開館60周年記念展、福井市愛宕坂茶道美術館特別展

　ウェブ会議システムを活用し、国際研修としてUNESCOチェアITC-DRMCHに協力し、京都国立博物館の展示・収蔵環境、減災対策などの安全対策への取り組みについて情報発信を行った。また知恩院と展示・保管環境に関する調査・研究について連携研究を開始した。文化財資料の保管環境に関する助言として、3年度は立像3躰について転倒防止対策に関する研究を実施し、社寺等への助言を行った。

（京都国立博物館）
1)調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男、企画室長 山川暁、保存修理指導室主任研究員 福士雄也を中心に、各分野研究員と畠山記念館学芸員とも共同で調査研究を行った。

【補足事項】
（４館共通）
1)
・文化財の展示・保管環境に関する指導・助言：知恩院、三仏寺、法蔵禅寺、浄土寺
・文化財の展示・保管環境・安全対策に関する講演・研修などでの協力： UNESCOチェアITC-DRMCH
・文化財の調査・修理に関する指導・助言：林原美術館、琵琶湖博物館、京都府、丸亀市、鳥取県、染技連

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
援助・助言等の件数	129件	－	－		168	140	152	137

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 国内の様々な機関の要請に対し、職員が各々の専門性に応じて、129件の援助・助言・指導及び協力を行った。 文化財防災に関してウェブ会議システムを用いたリモート形式による、多国籍の研究者へ向けた発信ができた。研究者からは財政負担が大きくない軽微なシステムや機器について積極的な意見が多かった。各国の状況によるが、多様な防災システムに関する情報発信が必要といえる。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 3年度も2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で制約が多く、国外機関への指導等はなかったが、援助・助言等の件数としては例年と比較しても遜色なく、多くの要請に応じることができた。この点から、中期計画初年度として計画遂行ができているといえる。 引き続き、文化財防災センターとの連携協力を図るとともに、当館の防災対策の取り組みについても、国内外研究者との情報交換・人的交流を通じて広く発信していく。さらにシミュレーション等で得られたデータから、減災対策に関する基礎的研究を継続し、簡便に実施できる対策について検討していく。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1520C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1）

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（4館共通）
・援助・助言を68件実施した。
・以下の展覧会に特別協力もしくは学術協力として援助・助言を行った。
　九州国立博物館　　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」4月20日～6月13日
　新潟県立近代美術館　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」7月3日～8月29日
　北海道立近代美術館　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」9月15日～11月7日
　信貴山朝護孫子寺等主催　「信貴山秘宝展」　10月7日～10月12日
　岐阜市歴史博物館　　特別展「波濤を越えて―鑑真和尚と美濃の僧・栄叡」10月8日～11月23日
　サントリー美術館　　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」4年1月26日～3月27日
　松濤美術館　「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」4年4月9日～5月29日

【補足事項】
以下のとおり、援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に対する助言・協力　23件
　宮内庁、文化庁、文部科学省、奈良県、天理市教育委員会、大津市教育委員会、神戸市教育委員会ほか
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　6件
　新潟県立近代美術館、岐阜市歴史博物館、松濤美術館ほか
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　9件
　法隆寺金堂壁画保存活用委員会、国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会ほか
・講演・セミナー・審査等での協力　18件
　奈良女子大学、高野山大学、神戸大学ほか
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　12件
　松伯美術館、大和文華館、日本工芸会ほか

岐阜市歴史博物館
特別展「波濤を越えて―鑑真和尚と美濃の僧・栄叡」

サントリー美術館
御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
援助・助言等の件数	68件	－	－		72	71	66	50

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	国内の様々な館の要請に対して、新型コロナウイルス感染拡大以前の水準に近い件数応じることができた。特に3年度は、当館の専門性を充分に生かし、各地の展覧会への援助・助言を活発に行った。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画の初年度として、コロナ禍にもかかわらず、国内の博物館からの要請に応じ、専門的・技術的な援助・助言を多数実施しており、中期計画を遂行できていると判断した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1520D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1)
・Ⅰ-1-(5)-②（九州国立博物館）1)、 2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　河野一隆

【実績・成果】
（４館共通）
1)以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）(31件)
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（2件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（10件）
・講演・セミナー・審査等での協力（9件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（25件）
（九州国立博物館）
1)古文書保存基礎講座については、実習を主とするため、新型コロナウイルスの影響を考慮し3年度も中止とした。
2)2年度に続き、オンラインIPM相談会を、3年度についても実施した。また、館内職員向けIPM研修は、新型コロナウイルス予防対策を講じつつ人数を減らして2度に分け、実施した。

オンライン IPM 相談会

館内職員 IPM 研修

【補足事項】
・6月23日及び7月13日に館内職員向けのIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：計20人）。
・10月20日～22日にオンラインIPM相談会を開催した（対応施設10施設、各施設1時間ずつの枠で実施）。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
援助・助言等の件数	77件	－	－		105	72	86	81

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	実習を主とする古文書保存基礎講座については、新型コロナウイルスの影響により中止したが、文化財関係事業に関する助言・協力や、博物館運営への援助は引き続き協力できた。IPM相談会についてはオンライン開催した。また、館内IPM研修は、人数に制限を設けることで実施できた。 2年度に引き続き日本全国の要請に対応し、77件の援助・助言を行い、年度計画を達成できた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等に図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新型コロナウイルスの影響により中止した講座があったものの、3年度も全国の博物館、美術館、文書館等からの要請に応じて指導、助言を行ったことで、中期計画を遂行できている。 今後もオンライン等を活用したセミナーや研修等を実施し、博物館関係者との情報交換を適切に行う。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1610H

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-①-1)、2)、3)

担当部課	文化財活用センター企画担当	事業責任者	企画担当課長　小林牧、室長　髙橋美奈子

【実績・成果】
1)ア　各施設、企業等と連携して高精細複製品を制作した。VR、8Kなど先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進め、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出した。
イ　トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別3室に、体験型展示「日本美術のとびら」を開設した。
2)体験型展示コンテンツ「なりきり美術館」を大分及び山口の美術館に展開したほか、文化庁「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」の委託を受けて新潟、愛知、宮崎県内の美術館・博物館にコンテンツを制作し、公開した。
3)新型コロナウイルスの影響により一部中止があったが、「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、高精細複製品の貸与を行ったほか、首都圏を中心に、全国の小中高等学校、博物館12件に教育プログラムを提供し、1,366人の児童生徒・来館者が参加した。また、青森県学校教育センターとの連携で、鑑賞教育にかかる教員研修を行った。

【補足事項】
1)・30 年度～2 年度に締結した、キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との共同研究プロジェクトを継続。
・キヤノン株式会社との共同研究で、東京国立博物館所蔵の「国宝 檜図屏風」「国宝 洛中洛外図屏風（舟木本）」の高精細複製 2 件を制作したほか、展示やハンズオンなどでの活用目的で、九州国立博物館所蔵「重要文化財 蘆屋楓流水鶏図真形釜」、奈良国立博物館所蔵「阿弥陀如来立像」の複製、「神奈川沖浪裏」の摺り工程見本など計 3 件を制作した。
・文化庁「令和３年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」を受託し、東京国立博物館所蔵の「重要文化財　遮光器土偶」（樹脂製：凸版印刷株式会社)、「重要文化財　みみずく土偶」（土製：大塚オーミ陶業株式会社)、「国宝　秋冬山水図」、「国宝　楼閣山水図屏風」、「重要文化財 山野行楽図」（キヤノン株式会社）等の計 8 件（16 点）の複製を制作し、十日町市博物館で「ハンズオンレプリカの製作と館内プログラムにおける活用」、都城市立美術館で「床の間における掛軸の鑑賞体験」、名古屋市博物館で「畳と照明の演出による屏風の鑑賞体験」のコンテンツとして公開した。8K で文化財「ふれる・まわせる名茶碗」（2 年度制作）をベースに東京国立博物館、九州国立博物館、愛知県陶磁美術館所蔵の 3 作品を加えた新規コンテンツを制作し、愛知県陶磁美術館で公開した。（本事業の成果物は文化庁所蔵となる）
・トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別 3 室に高精細複製品や非接触体験展示「日本美術のデジタル年表」による日本美術に親しむための常設体験展示室「日本美術のとびら」を開設した。
・8K で文化財 国宝「聖徳太子絵伝」（30～元年度開発）を特別展「聖徳太子と法隆寺」に合わせて再公開し、49 日間で 6,187 人が体験した。（7 月 13 日～9 月 5 日）91.7%から「とてもよい/よい」の評価を得た。また、同コンテンツを英国のセインズベリー日本藝術研究所の企画展に貸与した。
・シャープ株式会社との共同研究で、8K で文化財「みほとけ調査」の実証実験公開を東京国立博物館法隆寺宝物館中 2 階資料室で実施し、18 日間で延べ 1,218 人が体験した。（11 月 16 日～12 月 5 日）93.2%から「とても楽しかった/楽しかった」の評価を得た。
・東京国立博物館・NHK の共同研究「みんなの 8K 文化財」プロジェクトのマネージメントを行い、超高精細な 3DCG＝「8K 文化財」を新たに 3 件（①法隆寺・救世観音、②樫鳥糸肩赤威胴丸、③能面）制作した。「救世観音」については、デジタル調査会を実施・放映、特別展「聖徳太子と法隆寺」期間中に平成館ガイダンスルームにおいて過去に制作した「百済観音」と合わせて公開した。
・文化庁「令和３年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」に採択され、映像と高精細複製で構成される体験展示「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」を実施し、若年層を中心に 58,461 人が体験した（9 月 4 日～11 月 28 日）。来館者アンケートでは 95.3%（展示）、97.1%（映像）が「とてもよい/よい」と評価し、70.8%が東京国立博物館への初来館という結果となった。
2)・「びじゅチューン！×OPAM なりきり美術館」を 2 年度から引き続き大分県立美術館（OPAM）で公開。会期 77 日間で 18,368 人が体験した。（2 月 19 日～5 月 9 日)。「びじゅチューン！×　山口ゆめ回廊博覧会　なりきり美術館」を、NHK 山口放送局・山口情報芸術センター（YCAM）へ巡回。会期 38 日間で 6,658 人が体験した。（7 月 16 日～8 月 22 日）

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
コンテンツ開発・展開数	24件	－	－		－	－	－	－
うちコンテンツ開発件数	18件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携した高精細複製の制作や、先端技術を使った企画コンテンツ事業の開発により文化財の新たな活用方法を提案することができた。さらに、地域の美術館・博物館への企画コンテンツの提供により、文化財に触れる機会を拡大することができた。アンケートによる評価等もおおむね好調であることから、年度計画は達成したと言える。

【中期計画記載事項】
高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも 、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者及び使用者の目的・ニーズに対応した文化財の高精細複製や、VR、AR、8K 映像などの先端技術を使った企画コンテンツの開発を企業と連携して行った。また、コンテンツの貸し出しや企画展示の巡回などを通じて学習機会の拡大や文化財に親しむ機会を創出することができ、中期計画を順調に遂行できている。4 年度以降も、地域の博物館、学校などと連携協力し、各地域での活用を推進したい。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1620H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-②-1)

担当部課	文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
1)文化財活用センターは国立博物館と共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生、観光振興並びに次世代への文化財継承に寄与することを目指して国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国立博物館は、国内の博物館等5機関に89件（大規模貸与：2機関46件、小規模貸与：3機関43件）の文化財を貸与し、文化財活用センターは、開催館までの往復作品輸送費、保険料、出張旅費、及び大規模貸与の対象の展覧会のうち佐賀県立美術館の広報費の一部を支出した。

大規模貸与

佐賀県立美術館「白馬、翔びたつ　－黒田清輝と岡田三郎助－」貸与件数：22件（全て東京国立博物館蔵）

奈良県立美術館「生誕200周年記念　森川杜園展」貸与件数：24件（うち、東京国立博物館23件、奈良国立博物館1件）

小規模貸与

やないづ町立斎藤清美術館「斎藤清とハニワ！」貸与件数：7件（うち、東京国立博物館6件、九州国立博物館1件）

那覇市立壺屋焼物博物館「うちなー赤瓦ものがたり」貸与件数：18件（全て東京国立博物館蔵）

桑名市博物館「やまと絵のしらべ　－帆山花乃舎と復古大和絵－」貸与件数：18件（うち、東京国立博物館16件、京都国立博物館2件）

2)本事業申請要項に掲出する「貸与可能作品リスト」の充実を図るため、文化財活用センターの保存修理費により、東京国立博物館収蔵品5件の本格修理を行い、うち4件についての修理が完了した（残り1件は4年度に完了予定）。

【補足事項】
1)文化財活用センターが佐賀県立美術館「白馬、翔びたつ」展に対し、広報費を支出した広報媒体は以下の通り。
①『美術手帖』10月号、②『ぶらぶら美術館・博物館プレミアムアートブック』2021-22、③『るるぶFREE福岡』vol.52夏秋号、④西鉄高速バスターミナル内デジタルサイネージ、⑤『美術の窓』10月号
（※すべての広告に貸与促進事業の特別協力を受けている旨が明記されている。）
2)文化財活用センターの保存修理費により修理が完了し、5年度国立博物館収蔵品貸与促進事業の申請要項にある、「貸与可能作品リスト」へ掲載された作品は次の通り。
①J-22780「深鉢形土器」、②J-23174「壺形土器」、③J-38859-16「S字状口縁甕」、④J-21576「埴輪 帽子を被る男子」

西鉄高速バスターミナル
デジタルサイネージ
広告風景

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
事業実施件数	5件	－	－	経年変化	－	－	5	5
貸与件数	89件	－	－		－	－	71	116
うち国内の貸与件数	89件	－	－		－	－	71	116
うち国外の貸与件数	0件	－	－		－	－	0	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
これまで国立博物館から作品を借りた実績がない、いわゆる「新規貸与館」2館（やないづ町立斎藤清美術館並びに那覇市立壺屋焼物博物館）に対し、本事業を通じて収蔵品を貸し出すことがかなった。
また、佐賀県立美術館、奈良県立美術館、桑名市博物館においても、国立博物館収蔵品を核として、各地域出身の画家や彫工に焦点をあてた展覧会が開催された。
貸与先をこれまで以上に拡充し、各地域ゆかりの国立博物館収蔵品を展示する、本事業の趣旨にかなった展覧会が実施された。

【中期計画記載事項】
国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度から東京国立博物館のみならず国立博物館4館の収蔵品が対象となり、事業の広がりと充実が期待されるようになった。中期計画初年度において順調に実施できており、4年度以降も各国立博物館との連携を深めつつ、事業の周知に力を入れていく予定である。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1630H

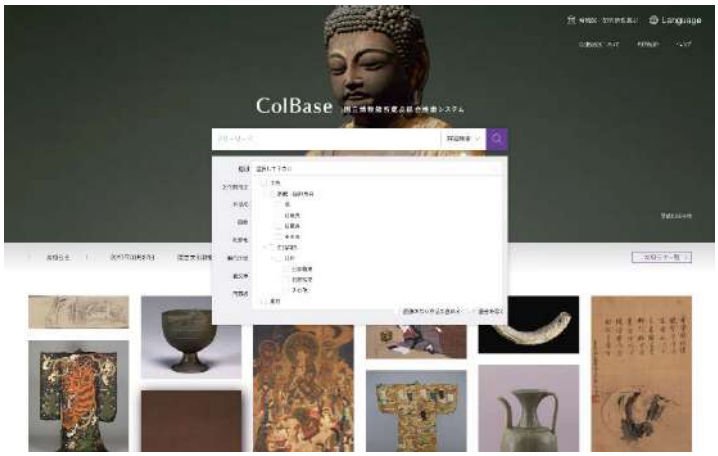
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-③-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センターデジタル資源担当 文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　村田良二 副センター長兼企画担当課長　小林牧

【実績・成果】
1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した（追加画像数27,620枚）。データの自動収集機能を運用し、継続的にデータのアップデートを進めた。
2)各施設と連携して、4館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「e国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新（追加作品14件）、解説文の見直しを継続して行った（解説文更新12件）。
3)国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」に継続的にデータを提供した。
4)文化財活用センターのウェブサイト、SNS等を活用し、文化財活用センターの活動の周知並びに、文化財全般にかかる情報の発信を行った。

【補足事項】
1)「ColBase」各施設の管理区分である従来の「分類」とは別に、個々の作品をより適切に表現するための「作品種別」を導入し、一般のユーザにとってわかりやすい種別用語を各施設の研究員と協議して整備した。また東京国立博物館の所蔵品について作品種別データの作成、公開を開始した。
2)e国宝の高精細画像について、国際標準である IIIF（International Image Interoperability Framework)を用いた表示ができる機能を追加した。



「ColBase」作品種別を用いた検索画面

【評価指標】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
e国宝のアクセス件数 ※1	650,197件	516,808件	A		－	－	－	215,337 ※2
ColBaseのアクセス件数	142,970件	61,026件	A		26,914	54,338	76,875	140,553

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
アクセス件数について、e国宝・ColBaseとも目標値を上回っており、特にColBaseは目標値を大きく上回っている。またe国宝、ColBaseのいずれもデータ、システムともに継続的に改善、充実を図ることができている。

【中期計画記載事項】
ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、 e 国宝（文化財高精細画像公開システム）の内容の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ColBase、e国宝ともに継続的にデータを追加、更新するとともに、ColBaseにおける作品種別の追加、e 国宝における IIIF の導入等、よりわかりやすく幅広い活用のためのシステム改修を行い、中期計画を遂行できている。

※1：e国宝のアクセス件数については、2年度のリニューアルにより件数集計方法が変更されたため、元年度までのアクセス件数を参考値とした。リニューアル後の2年11月1日～3年3月31日のアクセス件数より、1年間分のアクセス件数を算出し、目標値とした。
※2：2年11月1日～3年3月31日のアクセス件数。（ユーザーセッション件数）

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1640H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-④-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センター　保存担当	事業責任者	課長　吉田直人

【実績・成果】
イ　文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している42施設を対象として、保存環境調査（53条調査）を行った。うち、33施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、1施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。その他は継続中である。
ロ　公開承認施設の申請を予定している10施設に対して保存環境調査を行った。現在までに2施設の調査を完了し、環境調査報告書を提出した。その他の施設については、提出された環境データなどから、現状と今後の管理体制に関する所見を示した。
ハ　4年度貸与促進事業に応募した13施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。また、貸与が内定した施設のうち、東京国立博物館からの貸与実績がない、または過去の貸与実績以降に改修工事を行っている2施設の保存環境調査に着手した。
ニ　文化庁及び東京文化財研究所と共同で開設している新型コロナウイルス感染対策に関する相談窓口に寄せられた9件の相談のうち、3件について、文化財活用センターより助言を行った。
ホ　3年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」を1月17日～21日まで開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（受講者21名)。
ヘ　「第3回保存環境調査・管理に関する講習会―空気清浄化のための化学物質吸着剤―」を1月31日に、東京文化財研究所との共催により実施した（受講者 対面8名、リモート20名）
ト　新型コロナウイルスに適用される消毒薬剤の文化財材質への影響に関する、基礎的な調査研究を行った。

【補足事項】
イ、ロ　これらの調査は、文化庁文化財第一課長発の協力依頼（3年4月9日付け 3文財-第7号）に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼を受けて行ったものである。
ニ　2年4月23日付で、文化庁より発出された事務連絡「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業に係る対応について」に基づいて、相談窓口を設置したものである。
ホ　本研修は、3年度は8月2日～6日にも同内容で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による、政府による緊急事態宣言発出により中止となった。
ヘ　本講習会は、Microsoft Teamsを利用した、リアルタイムでのネット配信も行った。
ト　間渕創、吉田直人「代替消毒法に用いられる製品からの揮発性物質が文化財へ与える影響についての調査事例」『保存科学』第61号（東京文化財研究所）掲載

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
文化財保存等の相談・助言・支援の取組状況	81件	－	－		－	20	107	60

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染防止対策の充実に伴い、全国の博物館活動が再び活発化したことから、53 条調査等の対応件数も、コロナ禍以前の水準に戻りつつあり、多数の案件対応を行った。また、保存環境管理に関する研修会や講習会も実施が叶い、人材育成に資することができた。以上の理由により、本評価とした。

【中期計画記載事項】
「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3 年度は、中期計画の初年度として、全国の博物館等における文化財の保存と公開の両立を図るための調査や改善協力を行い、また、今回が初回となる、当センター単独主催での「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」を含む、人材育成活動も実現したため、本評価とした。 いまだ新型コロナウイルスは予断を許さず、事業にも制約が生じているが、研修会や講習会については、参加者の受け入れを増やす方策を講じていきたい。

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

【調査研究の評価軸及び評価指標等】

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について3年度は対象となる6件の調査研究の年度評価は「A」1件、「B」5件であり、美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与したことから、全体としてBと評価した。

評価軸：我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。	
成果	美術工芸品については、英国のセインズベリー日本藝術研究所との共同研究の一環として、『日本美術年鑑』に毎年掲載している美術界年史（彙報）の英訳に着手し、Art News Articles としてウェブ公開した。また、東京文化財研究所が所蔵する美術評論家三木多聞（1929－2018）の資料のうち、1960年代の展覧会資料を貼付したスクラップブックを整理・デジタル化し、ウェブサイトで公開した。 歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究として実施した法隆寺古材調査については、成果を報告書にまとめるべく、2年度に引き続き図面の作成及び執筆・編集作業を進めている。奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査についても、41回の調査協力を行い、9市町村で社寺の台帳を作成した。 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究として、仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第98函～第109函聖教の調書原本校正・写真撮影を行った。また、現在研究が盛んな中世仏教聖教の目録として、御経蔵第90函～第105函の聖教について、書誌事項を検討し、目録を公刊した。また、唐招提寺をはじめとする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するなど、いずれの事業も歴史・文化の源流の究明に寄与したと言える。
評価軸：有形文化財の保存修復等に寄与しているか。	
成果	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究を実施することで得られる成果は、文化財保護施策や文化財活用に資するものであり、今後の地域の文化財保存の基礎となる調査に位置付けられる。特に松江市、生駒市など自治体等の求めに応じて実施した受託調査研究は、いずれも文化財保護法の下、我が国の文化財建造物保護行政上必要な調査研究であり、文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究の事業として、明治時代の平城宮跡保存運動関係資料の調査を行い、その成果を平城宮跡資料館の展示・配付資料に反映させることによって、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。

②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究　　【自己点検評価：A】

本項について3年度は対象となる3件の調査研究の年度評価は「A」2件、「B」1件で、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に大きく寄与したことから、全体としてAと評価した。

評価軸：無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。	
成果	無形文化財については、コロナ禍の影響で現地調査が大きく制限される中にあって、東文研において宮薗節及び平家の実演記録を実施した。 また、フォーラム「伝統芸能と新型コロナウイルスーGood Practice とは何か」を開催し、伝統芸能の現状と今後を見据える機会を創出した。また、文化財の継承に欠かせない伝統技術の調査研究として、伝統楽器製作修理技術と能装束製作技術の調査を行い、映像とパンフレットによ

	り成果公開した。無形民俗文化財については、コロナ禍による影響を受けながらも開催された民俗芸能の調査研究を静岡県・長野県等で実施するとともに、無形民俗文化財研究協議会「映像記録の力」を開催した。さらに、東日本大震災被災地での調査も継続し、宮城県女川町・福島県浪江町等での現地調査と資料のアーカイブ化を継続して行った。

③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について 3 年度は対象となる 18 件の調査研究の年度評価は「A」8 件、「B」10 件であり、平城宮跡・藤原宮跡の継続的な発掘調査において、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与する成果をあげていることや、水中文化遺産の調査法の確立に寄与する発展性のある成果をあげたことなどから、全体としてBと評価した。

評価軸：記念物の保存・活用に寄与しているか。	
成果	遺跡等整備における我が国の記念物に関する調査研究として、令和 3 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会をオンラインで開催した。テーマを「移築された遺跡由来の遺構及び石造物の現状と課題」とし、史跡等の保存活用計画策定で課題となる、移築された本質的価値の構成要素について議論することで、各自治体が進めている史跡等の保存活用計画策定事業に関わりを持たせた。 庭園に関する我が国の記念物に関する調査研究として、28 年度より実施していた「庭園の歴史に関する研究（近世)」について、所内外の庭園史、建築史、美術史、歴史の各分野の研究者が執筆した 22 本の論文を所収した研究論集、『近世庭園の研究』を刊行した。文化財庭園の保存活用計画の策定や整備工事等が各地で実施される中で、近世庭園史の発展に資する学報の刊行を通じて、記念物の保存・活用に寄与することができた。更に、京都産業大学との共催で、同大学ギャラリー企画展「京都の庭を守ったひとたち―森蘊と法金剛院―」及び平城宮跡資料館企画展「奈良を測る―森蘊の庭園研究と作庭―展」を開催、共同の図録『森蘊の世界―奈良・平安の庭を求めて―』を出版した。京都の名勝庭園法金剛院の修復整備 50 周年を迎え、文化財庭園修復の草分け的存在、森蘊の業績を通じて記念物の保存・活用を取り上げることができた。
評価軸：古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。	
成果	平城宮跡東院地区の発掘調査（第 633 次）として、平城宮東院地区の様相を明らかにするための学術調査を実施した。調査において検出した大型掘立柱建物は天皇や皇太子の宮殿の中心建物とみられ、東院地区北部に東院地区の中枢施設が存在したことが明らかになった。また、併せて検出された地上式竈関連遺構群は、大型掘立柱建物やその関連遺構群に先行するもので、奈良時代中頃以前に東院地区北方に厨が所在した可能性を改めて認識した。東院地区の中枢施設の一端を明らかにした。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査(第 208 次)として、藤原宮大極殿北方の学術調査を実施した。その結果、大極殿後方回廊から大極殿院北面回廊までの範囲には前期難波宮内裏後殿に相当する建物の痕跡はなく、その造営にも着手していない可能性が高まった。一方、大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上した。さらに、大極殿院の造営に伴う排水溝を検出し、造営手順に関する手がかりを得た。藤原宮大極殿院の構造及び造営過程を考える上で、重要な所見を得ることができ、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。 東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究として、檜前寺等で出土している呉とヘラ書きされた瓦について調査し、その成果を奈文研ニュース記事で発信するとともに、ミニ展示「新収蔵品紹介－「呉」と書かれた瓦」を開催し、調査結果を公開した。また、瓦の文様のルーツを調査し、その成果を特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」の展示解説、図録等で活用し、研究の成果を広く市民に還元

	することで、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。
評価軸：文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	
成果	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究における基礎的・体系的研究として、スギ林業に関する文化的景観の比較研究を行うため、林業地域の資料等整理、情報収集を進めた。併せて、日本各地の文化的景観の調査、保存活用、整備に関する報告書等の収集を継続して行った。今後増加すると予想される文化的景観の保存計画の改定について、それぞれの調査研究を通じて事例を検討することで、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与することができた。
評価軸：埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。	
成果	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究として、遺跡データベースシステムについて、更新を計画し、空間情報を追加して地理情報システム上で検索成果を公開し、他の空間情報データと連携可能な統合の作業を実際に進めた。既存の公開・非公開データに位置情報などを付加するとともにデータの確認、更新を進めた。 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行を実施することで、研究集会報告・討論により古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得ると同時に、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の質的向上に資した。集落遺跡という列島各地に普遍的な遺跡についての新たな研究の視点を提示したことにより、今後各地域・各遺跡で多くの成果が得られると期待される。また、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し国民共有の財産となった。 古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行として、全国で初めて古代の鬼瓦を対象としたシンポジウムを開催し、その製作技法や全国での分布及び編年、系譜関係について多くの新知見を得ることができた。 いずれの調査研究も埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与している。
評価軸：水中文化遺産に関する調査研究に寄与しているか。	
成果	水中文化遺産に関する調査研究として、鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船の保存状態のモニタリングを実施した結果、溶存酸素が枯渇した環境が維持されていることを確認し、埋戻しから 3 年以上が経過した状態においても、充分に埋め戻しの効果が得られていることが示された。 文化庁が刊行を進めている『水中遺跡ハンドブック』（令和 4 年 3 月 31 日発行）において、「第５章　水中遺跡と出土遺物の保存と管理」の分担執筆を行った。そのほか、水中遺跡の調査法、現地保存法並びに出土遺物の問題点を明らかにするとともに、出土遺物の保存処理法の開発にも継続的に取り組むことを通じて、水中文化遺産に関する調査研究に寄与することができた。

モニタリング指標

		第 4 期中期期間平均	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
論文等数	東文研	13.2	10				
	奈文研	57.8	68				
	計	71.0	78				
報告書等の刊行数	東文研	6.8	5				
	奈文研	13.6	12				
	計	20.4	17				

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発　【自己点検評価：A】

本項について3年度は対象となる6件の調査研究の年度評価は「A」3件、「B」3件であり、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に高く寄与することができたことから、全体としてAと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	
成果	デジタル画像の形成方法の研究開発において、奈良国立博物館所蔵 国宝 辟邪絵、東京国立博物館所蔵 重要文化財 玄奘三蔵像、黒田記念館所蔵黒田清輝作品のうち油彩画など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、正確な色情報を有するカラー写真、蛍光写真及び近赤外写真を取得した。このことにより、各作品の制作技法や材料に関する調査研究に寄与することができた。 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発を実施することのうち、三次元計測についてはSfM・MVS技術による三次元計測手法を洗練させ、より効率的に文化財記録としての点群を取得する手法に注力した。科学研究費助成事業や他機関との連携研究による実践により、遺跡・遺構・土器・瓦・重要文化財・正倉院宝物などの資料を計測し、分析を進めた。その他探査・計測方法の研究開発を通じて、慢性的な人材不足等の課題や情報通信技術の進展に対応した研究に取り組んでいる。 年輪年代学研究を実施することで、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代に関する調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。また、各種木造文化財の年輪年代学に関する調査・研究として、従来、主に年代測定の手段として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から木簡へ応用し、その成果を展示として広く紹介した。 動植物遺存体の分析方法の研究開発を実施することで、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行った。特に群馬県の金井下新田遺跡から出土した動物遺存体の分析では、6 世紀初頭の榛名山噴火による火砕流堆積物に覆われた馬や集積した鹿角などの分析を実施し、ほとんど類例がない火山灰下で被災した古墳時代の馬の研究を進めることができた。また、正倉院宝物の特別調査に参加し、動物由来素材に関する新知見を得ることができた。 文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発として、5G高速通信やXR及びゲーミフィケーションなど新たな技術や枠組の導入を進めており、研究成果の一層の発信を支える研究を進めている。省力化や自動化の研究など、効率的な仕組みを支援する技術を確立しつつあり、科学技術を的確に応用することで、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与している。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　【自己点検評価：B】

本項について3年度は対象となる13件の調査研究の年度評価は「A」5件、「B」8件であり、計画通り、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与できたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	
成果	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究においては、木造の文化財建造物で竹材の加害痕跡にある虫糞を用いて、PCR 法を用いた分子生物学的手法によって加害種を特定する技術を確立し、その成果を論文として発表した。また、DNAを識別子とした文化財害虫の検出システム（DNAバーコーディング）構築に向

	けて、新たに文化財害虫の収集を進め、形態学的、分子生物学的解析を経て、国際機関へのデータ登録を進めた。 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究においては、従来文化財への適応例がきわめて少なかったハイパースペクトルカメラを用いた色料等の材料調査の実用化に向けて、標準データの取得等を実施した。これにより当該分析法が近日には実用化される見込みが立った。 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究においては、途絶の危機にある伝統材料や用具について調査・記録化を進めた。そのうえで伝統材料の物性等を調査し、その特徴に関する分析を実施する等、国内では類例のない研究を一層進めた。 考古遺物の保存処理法に関する調査研究として、鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定するという、予防的な視点を重視する新たな保管管理システムの構築のための研究を進めるとともに、従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発を進めた。金属製品、木製品、木胎漆器の保存処理・管理を抜本的に革新する研究を進めており、研究がさらに進展することでその成果が国内外に波及すると期待される。 考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究として、全資料型非破壊元素マッピング分析システム、新たに導入した可搬型蛍光 X 線分析装置を用いた分析を実施した。遺埋蔵文化財分野に蛍光 X 線分析をはじめとした分析装置の導入が進み、多くの分析結果が報告される一方で、出土遺物の劣化特性や分析手法の特性についての理解不足に起因する問題も散見される。本研究から得られる成果は、出土遺物の適切な分析方法の選択や、より確度の高い分析法の確立に寄与する。 高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力を通じて、高松塚古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。このうち奈良県立橿原考古学研究所と共同で高松塚古墳の昭和 47 年調査出土の棺飾金具を再検討した結果、銅製座金具及び金銅製円形金具において、木棺本体表面から転写されたとみられる鉛化合物と水銀朱を確認するなど、終末期古墳の棺の構造や外観、使用方法を解明する上でも重要な成果といえる新知見を複数見出した。

モニタリング指標

		第 4 期中期期間平均	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
論文等数	東文研	17.4	24				
	奈文研	40.2	65				
	計	57.6	89				
報告書等の刊行数	東文研	6.4	3				
	奈文研	1.0	0				
	計	7.4	3				

（3）文化遺産保護に関する国際協働

①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　【自己点検評価：B】

本項について3年度は対象となる10件の年度評価は「A」2件、「B」8件であり、計画通り、文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担うことができたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担っているか。	
成果	コロナ禍においてもカウンターパート機関の要請に応えてカンボジアでの現地調査等を実施したほか、JICAに協力してネパールでの発掘調査を行う等、文化遺産国際協力を推進することができた。また、動画配信やオンライン討議により世界遺産研究議会を実施するなどの成果を得て、国際協力推進体制について中核的な役割を担うことができた。 アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業として、カンボジア・アンコール遺跡群・西トップ遺跡の調査修復事業を2年度から引き続き実施した。コロナ禍のため日本から現地へ渡航することが困難であったが、現地のカンボジア人スタッフが修復事業を着実に進捗させ、中央祠堂の再構築が最終段階に入ったことが成果として挙げられる。日本・カンボジア間でオンラインでの技術的・事務的なミーティングを経れば、カンボジア人自身の手で文化財の修復を進めることが可能となるなど、文化遺産国際協力を推進することができた。 また、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力として、オンライン講義による諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修を実施した。奈良文化財研究所が有する文化遺産に関する専門知識を活かしながら、ACCU事業を通してアジア太平洋地域の文化遺産専門家の人材養成へと多方面で協力するなど、国際協力推進体制について中核的な役割を担うことができた。 このほか、アメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校、スイス・チューリヒ大学、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所、ノルウェー・トロムソ大学の各機関に所属する研究者とコロナ禍の終息を見据えた今後の共同研究・共同事業展開について、オンライン、対面での協議を行い、国際協力推進体制の基盤をつくることができた。

②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　【自己点検評価：A】

本項について3年度は対象となる1件の年度評価は「A」であり、アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を大きく推進することができたことから、Aと評価した。

評価軸：アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進しているか。	
成果	以下の5件の調査研究事業を通じて、国際協力を推進することができた。 IRCI研究者フォーラム((1)①)では、オンライン開催としたことで域内各地の研究者等約100名が参加し、アジア太平洋地域における無形文化遺産研究の進展と今後の課題についての議論を広く共有できた。またプロシーディングスをアジア太平洋地域に限らず世界の関係機関に配布するなど、無形文化遺産研究の中核的機関として国際協力を推進した。無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集((1)②)では、東南アジア5か国(インドネシア・タイ・フィリピン・ベトナム・マレーシア)、中央アジア1か国(キルギス)の研究機関等と連携して情報収集を継続し、3年間の協力活動をまとめる議論を行うことができた。 無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する研究((1)③)、新型コロナ感染症の無形文化遺産の影響についての調査研究((3))はいずれも各国の専門家・ユネスコ等からの関心が高く、前者は域内8か国(インドネシア・バヌアツ・バングラデシュ・フィジー・フィリピン・ベトナム・モンゴル・日本)の研究機関・研究

	者と連携、後者では9か国(イラン・インド・インドネシア・韓国・キルギス・パプアニューギニア・バングラデシュ・フィジー・モンゴル)を対象とし、いずれも4年度以降の本格的調査研究へと繋がる調査成果を得た。 無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究((2))では、インドネシア・バングラデシュ・キルギスの NGO を協力し、各国での共同調査を行い、2 年間の成果を国際シンポジウム(オンライン)を通じて公開した。現在、連携事業を実施していない国からも今後の協力要請を受けるなど、国際協力事業の成果を広く国際的に発信することで、更なる国際協働の推進にも繋がっている。

モニタリング指標

		第4期中期期間平均	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数	東文研	0.4	2				
	奈文研	2.2	1				
	計	2.6	3				
国際協力事業の実施件数	IRCI	4.6	5				

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-ア

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ア	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所等と共同研究を行う。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。
プロジェクト名称	文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（主任研究員）、安永拓世（主任研究員）、米沢玲（研究員）、阿部朋絵（研究補佐員）、田村彩子（研究補佐員）、大前美由希（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

ARLIS/NA(北米美術図書館協会)オンラインでの発表

○調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開
・当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ(IRDB)で公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書を 148 件新たに追加し合計 14 タイトル 3,845 件の論文・報告書のフルテキストを公開した。
・OCLC のセントラル・インデックスに、30 年の展覧会カタログ所載記事・論文のデータ 5,712 件を「東京文化財研究所美術文献目録」として搭載した。(12 月 17 日)
○国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開
・アメリカのゲッティ研究所と研究協議を行い、共同研究の成果について国際学会(ARLIS/NA)での発表を英語で行った。
・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と共同研究を継続的に行い、日本美術の国際情報発信を推進し、協議をオンライン会議システムで行った。(12 月 2 日)
・京都府との共同研究：京都府所蔵昭和初期文化財調書の 20,000 点のデジタル画像のうち約 14,300 件のメタデータを追加し、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。(1 月 26 日)

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、オンライン公開コンテンツの拡充を予定通りに推進し、特に海外の日本美術の研究者に対して有用な資料を提供した。②独創性においては、当研究所がアジア諸国から初めて参加したゲッティ・リサーチ・ポータルへ、国立国会図書館の参加を促進し、国際的な日本研究に資するコンテンツを通じて情報発信し、効果をあげた。③発展性においては、ゲッティ研究所及びセインズベリー日本藝術研究所ともに、これまでの共同研究の成果を活かして新たな研究テーマを創出したほか、初めて『日本美術年鑑』に毎年掲載している美術界年史（彙報）を英訳し、Art News Articles としてウェブ公開した。④効率性においては、オンラインでできる作業を効率よく行い、当研究所として初めて北米美術図書館協会での口頭発表を行った。⑤継続性においては、海外の研究機関と連携して日本美術の国際情報発信を行い、その発信を安定・継続的に行う環境整備を実施した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 調査・研究成果の公表環境の整備　1 件（ア） 美術に関する情報公開　2 件（イ） 学会・研究会等発表　1 件（ウ）	—

ア　IRDB への論文・刊行物の追加（148 件）(4,5,6,7,11,1 月)
イ　OCLC への「東京文化財研究所美術文献目録」情報提供（5,712 件）(12 月), Art News Articles のウェブ公開（12 月）
ウ　Anne Rana, Emura Tomoko “Building Bridges: Working Together to Disseminate Japanese Art Literature” 49th Annual Conference of Art Libraries Society of North America（北米美術図書館協会第 49 回年次大会）(5 月 13 日)

中期計画評価	B
中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	当研究所の所蔵資料及び文化財に関する調査・研究の成果・データを国際標準に適合させ、専門性の高い研究資料を国内外に向けて広く提供し、日本美術の国際情報発信に努めた。また国内外の関係機関との連携を強化し、広く文化財情報の公開と活用を推進し、国内外から多くの反響と高い評価を得た。またオンラインによる国際学会での発表を行うことができた。以上の理由から、所期の目標を達成できている。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-イ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-イ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 イ　近世以前の日本をはじめとする東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進める。また年紀資料をはじめとする基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外との研究交流を推進する。
プロジェクト名称	日本東洋美術史の資料学的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長)、安永拓世（主任研究員）小野真由美（主任研究員)、津田徹英（客員研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○研究基盤となる資料整備

・美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年紀資料集成）作成として、平成 11 年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集して入力した。入力された資料は 569 件に達した。

○研究交流の推進

・日本の美術工芸に関する研究会を 3 回行った。また平安～鎌倉期にかけての仏画に関する調査研究の成果をオープンレクチャーで発表した。

○報告書の刊行

・2 年度に刊行した報告書『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究』の英語版を刊行した。

日本美術史年紀資料集成データベース

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、最新の研究成果を研究会にて発表、特に新出の在外絵巻について紹介することができた。②独創性においては、平安～鎌倉期にかけての仏画の表象の転換を時代思潮との関係で考察した。③発展性においては、2 年度に刊行した報告書『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究』の英語版を刊行することができた。④効率性及び⑤継続性においては、年紀資料集成について引き続き新たに 569 件を追加入力することにより、研究効率の増加に資することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・年紀資料集成追加件数 569 件 ・報告書 1 件 ・研究発表 3 件 ・論文 1 件	定量評価 —

【報告書】

・『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究』（英語版、3 月）

【研究発表】

・江村知子「新出の住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」（ライプツィヒ民族学博物館蔵）について」（文化財情報資料部研究会、5 月 25 日）

・小林達朗「皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味―転換期の時代思潮の表象」（第 55 回オープンレクチャー）

・米沢玲「カナダ・モントリオール美術館所蔵の熊野曼荼羅図について」（文化財情報資料部研究会、4 年 1 月 25 日）

【論文】

・安永拓世「与謝蕪村筆『十宜図』（川端康成記念会蔵）の史的位置（『美術研究』434、8 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	中期計画初年度にあたり、年紀資料集成の作成、研究会の開催を順調に実施することができた。当初予定していたタイ・バンコクでの漆工品に関する現地調査は新型コロナウイルスの影響で行えなかったが、2 年度刊行した報告書の英語版を刊行し、感染症拡大以前の調査を踏まえた研究成果を広く伝えることができた。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-ウ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ウ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ウ　日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。
プロジェクト名称	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、橘川英規、吉田暁子（研究員）、城野誠治（専門職員）、黒﨑夏央（アソシエイトフェロー）、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也（以上、客員研究員）	

【年度実績と成果】

三木多聞資料のスクラップブック

○黒田記念館に収蔵される黒田清輝油彩画作品 149 件の撮影（カラー写真、近赤外写真、蛍光写真）を行った。
○既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を完了しウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡のうち 12 通の翻刻・解題を『美術研究』434・435 号に研究資料として掲載した。
○戦後の日本美術教育に大きな影響を及ぼした創造美育協会に関する研究会を開催、本部事務局長を務めた島﨑清海の資料について中村茉貴氏による発表と討議を行った（9 月 24 日）。
○岸田劉生の画業について文化財情報資料部研究会で口頭発表（2 月 24 日）、同時代のドイツ思想を先駆的に受容していた美学者渡邊吉治による批評が影響を与えた可能性を指摘した。
○30 年に寄贈を受けた美術評論家三木多聞資料のうち、1960 年代の展覧会資料を貼付したスクラップブックを整理・デジタル化し、当研究所ウェブサイトで公開した。
○黒川公二氏（佐倉市立美術館）の協力を得て調査を実施している美術評論家鷹見明彦の資料のうち、1980 年代後半から鷹見が没する 2011 年までの間に画廊で撮影された展覧会会場写真を納めたアルバムを整理し、そのリストを当研究所ウェブサイトで公開した。

年度計画評価	A

【評定理由】
下記観点から評価を行った。①適時性においては、元～2 年度に大規模な回顧展が開催され、また 2 年度に京都国立近代美術館に作品が一括収蔵されて注目度の高い岸田劉生について調査研究を行った点が高く評価された。②独創性においては、これまで顧みる機会の少なかった戦後の日本美術教育史に着目し、そのアーカイブ化について議論の場を設けた点が高く評価された。③発展性においては、黒田清輝の油彩画について代表作のみならず網羅的に光学調査を行い、基礎的なデータを整備した点が高く評価された。④効率性においては、三木多聞や鷹見明彦といった美術評論家の遺した資料を整理し、初めてウェブ上で利用の便を計った点が高く評価された。⑤継続性においては、前中期計画に引き続き黒田清輝に関する資料をウェブや『美術研究』で公開した点が評価された。よって当初の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が遂行されたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） ・論文等 2 件（アイ）、学会・研究発表 1 件（ウ）	定量評価 －

ア塩谷純・伊藤史湖・田中潤・齋藤達也「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流　二・三」（『美術研究』434・435 号、8 月・4 年 1 月）、イ塩谷純「近代日本画の“新古典主義”再考」（『近代画説』30 号、12 月）、ウ吉田暁子「岸田劉生による「手」という図像　静物画を中心に」（文化財情報資料部研究会、4 年 2 月 24 日）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	3 年度は、黒田清輝や美術評論家に関する資料の集成という、前中期計画から引き続き行っている研究に加え、岸田劉生や美術教育といった新たなテーマにも取り組むことができた。特に創造美育協会に関する研究会では、美術史研究者だけでなく美術教育の専門家も交えて議論が交わされ、そのアーカイブ構築に向けて高い関心と期待が寄せられた。三木多聞資料のような展覧会に関わるエフェメラのウェブ上での公開も、所外の研究者の便に供するとともに、資料の紛失を防ぎ、活用・保存の両面において大きく利するものである。以上の点から、高く評価した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-エ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-エ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 エ 美術作品を中心とする有形文化財についての歴史的位置づけ及びそれに基づくより深い理解を得ることを目的として、種々の美術工芸品を主な対象として、その表現・技術・材料等について、自然科学や人文学における様々な隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施し、その成果公開を行う。さらに、新たな独創的研究視点や手法の検討・開発にも取り組む。
プロジェクト名称	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林公治(広領域研究室長)、塩谷純(部長兼近･現代視覚芸術研究室長)、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子(文化財アーカイブズ研究室長)、小林達朗(日本東洋美術史研究室長)ほか	

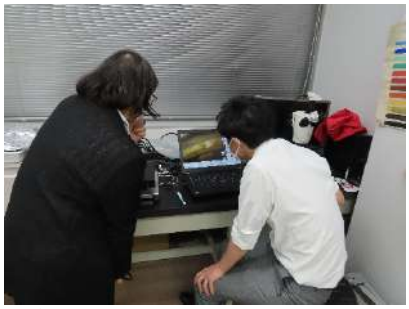
【年度実績と成果】

○螺鈿及び漆器類ほかに関わる調査研究、研究協議等

・5 月 13 日、6 月 16 日に都内個人蔵螺鈿漆器類について調査を実施した。7 月 30 日に MIHO Museum にて春日社に伝わる螺鈿漆器に関する聞き取り調査を行い、31 日に京都角屋もてなしの文化美術館にて同館所蔵螺鈿の調査を実施した。11 月 1 日に東京国立博物館にて中国・朝鮮螺鈿漆器の調査を東博研究員の立会いで行ったほか、11 月 11 日、12 月 3 日、2 月 28 日には同館にて南蛮漆器ほかの CT スキャニング調査に参加した。11 月 27 日に東京国立博物館内にて「水口レイピア製作技術検討会」を開催し共同研究者と検討を行った。また茨木市千提寺・南音羽地区に伝わるキリシタン関係遺物に認められる推定黒檀材実証研究のため、11 月 12 日に都内材木店にて世界各地の黒檀材予備調査を実施し入手した上で、12 月 6 日に明治大学にて木材学者へのサンプル提供と研究協議を行った。

・5 月 13 日に個人蔵の伝平等院須弥壇剥落螺鈿貝片を借用し、これについて 9 月 6 日、保存科学研究センター及び外部研究者と研究協議並びに調査を開始ししたほか、個人蔵の長崎螺鈿（青貝細工）箱についても同様の体制で調査を進めた。

・上記のほか、4 年 1 月 25 日に慶應義塾大学ミュージアム所蔵品調査、4 年 2 月 21 日に東京大学総合図書館所蔵品の調査、また 4 年 2 月 13 日には九州大学主催の国際シンポジウムでパネリストとして参加し発表を行った。


伝平等院須弥壇剥落螺鈿貝片調査の様子

○研究成果公開

・7 月 16 日に開催した第 4 回文化財情報資料部研究会にて小林公治室長が「近現代日本における「南蛮漆器」の出現と変容―その言説をめぐって―」という題名で南蛮漆器の近現代研究史に関する発表を行った。

・9 月 18・19 日にオンライン開催された日本文化財科学会第 38 回大会にて「多変角測色計による貝類切片の分光分析」を倉島研究員がポスター発表した（ポスター賞受賞）。

○研究データの整備と公開

・2 年度から継続している刊行済美術研究からのキーワード抽出作業および英語・中国語での整備を進めて両言語での文献検索と発見向上便宜を提供するための作業を進めた。

年度計画評価	B

【評定理由】 下記各観点から評価を行った。①適時性においては外部依頼に対応して随時発表等を実施した。②独創性についてはこれまでほぼ調査されてこなかった螺鈿貝片の切削方法について所内外研究者と共にデジタル顕微鏡による平断面両面観察から探る研究を開始できた。③発展性については保存科学研究センターとこれまでに行ってきた琉球漆器研究に加え、新たに伝平等院螺鈿貝片を対象とした調査に着手したほか、国内伝世聖龕（キリシタン聖画収納箱）の研究について、聖画の推定黒檀材額縁にも初めて注目し木材学者との共同調査や他の黒檀材キリシタン遺物調査へと発展させた。④効率性についてはコロナ禍での国内外出張等の規制の中で効率的に対応した。⑤継続性についてはこれまで実施してきた内容について継続して研究を進め成果を発表した。以上の評価を総合して年度計画評価についてＢと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・学会・研究発表等　3 件（ア・イ・ウ）	定量評価 ―

ア小林公治「近現代日本における「南蛮漆器」の出現と変容－その言説をめぐって－」（第 4 回文化財情報資料部研究会 7 月 16 日）イ倉島玲央・早川典子・小林公治「多変角測色計による貝類切片の分光分析」（日本文化財科学会第 38 回大会 9 月 18・19 日）ウ小林公治「秋草と螺鈿―岬町理智院蔵秀吉像厨子から見る輸出器物としての南蛮漆器―」（九州大学国際シンポジウム「越境する文化：モノ、ひと、思想の軌跡と交流」2 月 13 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	3 年度も 10 月までのほぼ半年間は新型コロナ感染状況の広がりにより所外での調査や活動がほぼ実施できないといった大きな制約を受けてきたが、そうした中でも新たな中期計画に従い、継続的研究のみならず新規な調査研究活動を加えて着実に計画を推進できた。また、調査成果についても研究会や論文等で幅広く公表することができた。以上により、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Ｂ評定とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2112F

中期計画の項目	(1)-①-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-2)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 古材調査等を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存活用を行っている各自治体等への協力を行う。
プロジェクト名称	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○大林潤（建造物研究室長）、島田敏男（同室特任研究員）、箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）ほか6名	

【年度実績と成果】

○法隆寺古材調査　古材に関して調査を行い、調査成果を報告書にまとめるべく図面の作成と執筆・編集作業を行った。

○奈良県社寺建築悉皆調査　奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、41回の現地調査を行い、9市町村について社寺の台帳を作成した。

○受託調査　以下5件の調査研究業務を受託した。
- ・高野山地区建造物調査業務（高野町）
- ・佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（佐渡市）
- ・松江市社寺建築悉皆調査業務（松江市）※松江市刊行物として報告書を編集した。
- ・松江市内社寺建築詳細調査（松江市）
- ・生駒市内歴史的建造物悉皆調査業務（生駒市）

○2年度受託した以下の調査について、報告書を刊行した。
- ・綿業会館家具調査（大阪市）

松江市内社寺建築詳細調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、建造物調査業務は、2年6月施行の改正文化財保護法に基づいた地方公共団体の要望に則した事業で、適時性が高い。②独創性においては、建築悉皆調査は、ある一定の地域単位における悉皆調査の手法を確立し、独創性がある。③発展性においては、いずれの調査とも、その成果は文化財保護施策や文化財活用に資するものであり、今後の地域の文化財保存の基礎となる調査に位置付けられ発展性がある。④効率性においては、3年度より建造物研究室所属研究が2名となり、加えて研究所内のスタッフとも連携して、数多くの調査研究を行っており、効率的である。⑤継続性においては、各年度、調査対象・調査方法の異なる調査を行うことにより、調査資料を担保するとともに、各研究員の調査能力の向上・維持も保持されていることから、組織調査として継続性があると判断する。以上より、年度計画評価については、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・調査研究刊行物　1件（①）・報告書編集　1件（②）・論文等数：4件（③～⑥）・調査日数　約70日	－

①『綿業会館家具調度品調査報告書』（4年3月）②『松江市内建造物悉皆調査報告書』（4年3月）③「地方大名造営の東照宮建築－松江神社建造物調査より－」紀要2021（7月）、④「斑鳩地域の慶長期神社建築－斑鳩神社・菅神社を事例に－」紀要2021（7月）⑤「19世紀の高野山における工匠組織」紀要2021（9月）、⑥「犬伏家住宅にみる近代性」紀要2021（7月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の研究に資するため、古材調査を中心とする古代建築調査を行う。また、近世・近代の建造物等の調査研究及び保存活用計画の策定への協力を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。
評定理由	古代建築の技法に関する研究は、これまで継続して行ってきた調査成果をもとに中期計画に対し順調に進捗している。受託各事業は自治体の求めに応じて行っているが、いずれも文化財保護法の下、我が国の文化財建造物保護行政上必要な調査研究を行っており、文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2113F

中期計画の項目	(1)-①-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-3)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、当麻寺・仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○吉川聡（歴史研究室長）、橘悠太（歴史研究室アソシエイトフェロー）、山田徹（同志社大学准教授・客員研究員）、綾村宏（客員研究員）	

【年度実績と成果】

○仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 98 函～第 109 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、御経蔵第 90 函～105 函の聖教について、書誌事項を検討し、目録を公刊した(①)。
○唐招提寺所蔵の書跡資料を調査し、第 1 函の調書原本校正や、聖教第 9 函～10 函の写真撮影等を行った。
○興福寺所蔵の歴史資料を調査し、井坊家記録第 4 函の調書作成、二条家記録第 10 函～第 11 函の写真撮影を行った。
○薬師寺所蔵の歴史資料について、第 60 函・63 函の調書作成を行い、第 26 函～27 函の写真撮影を行った。
○当麻寺所蔵の経典の調査を実施し、東 29 函～西 16 函の調書作成を行った。また、当麻寺の堂舎に記された中世～近世の銘文について、赤外線撮影・ひかり拓本測量等の技術を用いて釈読調査を行い、その成果の一部を公表した(③④)。
○法華寺所蔵歴史資料を調査し、掛軸・第 7 函の調書作成・写真撮影を行った。
○奈良市教育委員会と連携研究の協定を結び、氷室神社宮司の大宮家所蔵文書の函文書の調書作成を行った。
○吉野山関係の個人蔵歴史資料につき第 5 函～第 7 函の調書作成・写真撮影を行った。
○興福寺関係の当研究所に寄贈された歴史資料につき、科学研究費補助金も充当して調査を行い、調査データ入力作業等を行った。
○明治時代の平城宮跡保存運動関係資料の調査を行い、その成果を平城宮跡資料館の展示・配付資料に反映させた(②)。
○調査協力の依頼を受け文化庁の仁和寺聖教調査に協力した。

当麻寺の堂舎銘文調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性は、仁和寺調査では、現在研究が盛んな中世仏教聖教の目録を公表しており、適時性が高い。②独創性は、当麻寺の銘文調査では、通常見落としがちな参詣者の落書きに注目しており、独創性がある。③発展性は、目録の公表は更なる研究を喚起するものであり、発展性がある。④効率性は、調査対象に応じて、紙の調書を取らずに直接パソコンに入力するなど、効率を工夫している。⑤継続性は、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性がある。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**(参考値)・刊行物数：2 件（①～②）　・論文等数：1 件（③） ・学会･研究発表等数：1 件(④) ・調査資料点数：仁和寺：写真撮影 500 点　唐招提寺：写真撮影 53 点　興福寺：調書作成 52 点・写真撮影 28 点　薬師寺：写真撮影 88 点　当麻寺経典：調書作成 374 点　　法華寺：写真撮影 20 点	定量評価 －

①奈良文化財研究所編『仁和寺史料　目録編〔稿〕5』(4 年 3 月)　②『平城宮跡資料館　令和三年度　春期特別企画展『平城宮跡保存運動のさきがけ』配付資料』(4 月)　③吉川聡・橘悠太等「当麻寺巻柱とその銘文の調査」『奈文研論叢 3』(4 年 3 月)　④吉川聡・橘悠太等「当麻寺の中近世銘文の調査―曼荼羅堂・金堂につき―」第 43 回木簡学会報告

中期計画評価	B
中期計画記載事項	有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究　我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
評定理由	中期計画の初年度に、仁和寺の聖教目録を公刊し、当麻寺巻柱の調査を公表したので、順調に計画を遂行できていると言える。新型コロナウイルスの影響により実施できなかった調査もある一方、当麻寺の銘文調査は、通常ならば実施困難と思われるが、参詣客が少ないために調査ができ、江戸時代以前の参詣者が記した落書きを詳細に釈読できた。今後疫病が落ち着けば、通常の調査を着実に積み上げたいと考えている。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2121E

中期計画の項目	2-(1)-②-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-1)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 無形文化財等の伝承実態及びそれらに関わる文化財保存技術に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、伝承が困難なため現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。 調査研究等に際しては関連する他分野の研究者、伝承者・保存団体、技術保持者・保持団体等との連携を図り、当該調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
プロジェクト名称	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、鎌田紗弓（研究員） ほか	

【年度実績と成果】

公開学術講座での実演の様子

○無形文化財に関する調査研究
・芸能分野：古典芸能、関連文化財保存技術（三味線、笙、大鼓の革製作技術等）、原材料生産技術（ヨシ）の調査研究
　伝統芸能におけるコロナ禍の影響調査
・工芸分野：文化財保存技術（伊勢型紙製作技術）に関する調査研究
○現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
・実演記録：宮薗節（宮薗千碌氏ほかによる古典1曲、新曲1曲） 、平家（菊央雄司氏ほかによる復元曲1曲）の映像記録作成
・文化財保存技術映像記録：琵琶製作技術記録（短編・長編）、大鼓の革製作技術記録（短編・長編）の映像作成と公開（短編・公開用）
○研究調査に基づく成果の公表
・無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」を開催（泉屋博古館 講堂、3年7月4、5日）
・第15回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「樹木利用の文化―桜をつかう、桜で奏でる―」を開催（東京文化財研究所、映像収録・後日配信）
・及川尊雄旧蔵紙媒体資料DB作成、公開（4年3月より）及び同資料目録刊行（4年3月）
○無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化
・音声資料：オープンリールテープに関して、民謡音源等（約80時間）のデジタル化を実施

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性：コロナ禍と伝統芸能、関連文化財保存技術、原材料生産技術など、緊急性が高く社会的関心を集めるテーマでフォーラムや公開講座を開催し、即時性に鑑みて当該報告書刊行に先んじた記録映像公開を行った点を高く評価した。②独創性：森林学、民俗技術、原材料生産等、新たな関連分野との連携による調査・研究を実施した点を、独自性の獲得として高く評価した。③発展性：公開した関連文化財保存技術の映像記録が博物館展示において活用されたことに加え、及川尊雄旧蔵紙媒体資料データベースについて検索可能なオンライン公開を新たに行い、より多くの人の閲覧を可能にしたことなど、新たな活用に繋がる発展性を明確に示した。④効率性：コロナ禍の制約下で、公開講座、フォーラム、一部の調査をオンライン（収録含む）で行い、少人数ながら専門知識を活かした調査研究アシスタント、研究補佐員との協力体制により、効率的に調査研究・成果公開を行った点を評価した。⑤継続性：コロナの制約下、対策を講じて実演記録、文化財保存技術の記録映像の作成を引き続き行っている点を評価した。総じて年度計画を上回る成果を上げたと評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）論文等発表4件（アイウエ）／刊行物3件（オカキ）	定量評価 ―

ア「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告5」　イ「明治前期東京の歌舞伎囃子方：出演動向および共演関係の解明に向けて」（以上『無形文化遺産研究報告』第16号、東京文化財研究所、4年3月発行）　ウ「常磐津節《将門》の音楽分析―〈オトシ〉と〈ナガシ〉の機能をめぐって―」（『桐朋学園大学研究紀要』2021年第47集桐朋学園大学、3年10月発行）
エ「新型コロナウイルス禍と伝統芸能と保存技術」（共著『ロスト・イン・パンデミック　失われた演劇と新たな表現の地平』春陽堂書店、3年6月）　オ「日本の芸能を支える技Ⅷ　能装束　佐々木能衣装」　カ「第14回公開学術講座『日本の伝統的な管楽器と竹材』報告書」　キ 前掲フォーラム3報告書（以上東京文化財研究所、4年3月発行）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。
評定理由	2年度に続きコロナ禍のため調査に制限のある中、様々な対策を講じて調査研究を進め、公開学術講座やオンラインで発信できたことは高く評価できる。さらに伝統芸能や関連保存技術におけるコロナ禍の影響の問題は喫緊性が高く、社会的なニーズに応えたことは、著しく評価できよう。以上により、中期計画を大きく上回ることができていると判断し、Aと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2122E

中期計画の項目	2-(1)-②-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-2)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。
プロジェクト名称	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、今石みぎわ（主任研究員）、後藤知美（研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○無形民俗文化財に関する調査研究
・風俗慣習調査：年中行事の調査研究（静岡県静岡市等）
・民俗芸能調査：民俗芸能の公開に拘わる調査研究（長野県飯田市・宮城県女川町等）
・民俗技術調査：民具製作、食文化に拘わる技術等の調査研究
○選定保存技術に関する調査研究
・金属煮色着色の技術に関する映像記録の編集作業を実施（令和 2 年度国宝重要文化財等保存・活用事業「金属煮色着色文化財保存技術伝承事業」における記録）

南信州獅子舞フェスティバル（飯田市）

○無形文化遺産アーカイブスの開発と公開
・被災地における無形文化遺産調査：東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査（宮城県女川町・福島県浪江町等）
・記録保存・活用に拘わる研究：斎藤たま民俗調査カード集成の情報整理。福島県浪江町苅宿地区記録文書アーカイブ構築。
・アーカイブスの構築：「無形文化遺産総合データベース」における情報収集・整理。映像・画像等の収集とデジタル化
○研究集会の開催
・無形民俗文化財研究協議会：第 16 回協議会を「映像記録の力 ―危機を乗り越えるために―」をテーマに 12 月 17 日に開催し、後日その記録映像をオンラインで配信した（1 月 15 日～2 月 15 日公開）。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：従来の過疎化・少子高齢化による継承危機や東日本大震災をはじめとする自然災害に拘わる無形文化遺産の調査・研究に加え、2 年度より続くコロナ禍における影響についても情報収集を継続し、社会的ニーズに応えている点でも極めて適時性が高い。②独創性：コロナ禍における対策の一つとして映像記録を用いた実践事例を集め、関係者間で共有する試みをいち早く行ったことが挙げられる。ポストコロナにおける保護体制強化に向けた情報収集を独自に進めている点は、極めて独創的であるといえる。③発展性：対面調査を基本とする民俗調査においてオンライン調査を試み、コロナ禍での可能性を検証した点が評価できる。④効率性：他分野にまたがる無形民俗文化財及び選定保存技術に関して、様々な専門家を客員研究員も含めたスタッフに擁し、少人数ながらも効率的な調査研究を実施できた。⑤継続性：無形文化遺産のデータベース・アーカイブスの開発と公開、映像・画像等の収集を継続的に実施している。以上のことから、当初の年度計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）論文等発表 2 件（ア）／研究発表 1 件（イウ）／ウェブサイト 1 件（エ）	―

ア「無形文化遺産としての生活文化」『無形文化遺産研究報告 16』（東文研、3 月）イ「民俗芸能の体系的把握を目的とした芸態研究の可能性」（民俗芸能学会、11 月）ウ「映像による記録作成とアーカイブ化にかかる実践的課題」（国立歴史民俗博物館共同研究、6 月）エ「第 16 回無形民俗文化財研究協議会」（東文研ウェブサイト）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。
評定理由	新たな中期計画の初年度として、前中期計画から継続する形で無形民俗文化財の調査・研究を行っている。ただしコロナ禍での無形民俗文化財に対するダメージは大きく、危機的な状況にある。そうした中で保護・継承を求める社会的ニーズは高く、そのための情報収集と対策の検討、情報発信を行ってきたことは、高く評価できる。またコロナ禍による調査等の制限下において、オンライン発信はもとより、リモートによる調査など新しい方法論を模索している。さらに映像記録やアーカイブ化の課題については 2 年度の経験も踏まえて新たな方向性を見出しつつある。こうした取り組みから、当初の予定以上に中期目標を順調に遂行できていると判断し、Ａと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2123E

中期計画の項目	2-(1)-②-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-3)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石村智（音声映像記録研究室長）、宮田繁幸（客員研究員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、研究員の派遣（1回）と研究員の受け入れ（1回）を予定していたが、コロナ禍のため中止した。

○無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

ユネスコ無形文化遺産条約第16回政府間委員会（12月13日～18日）は、コロナ禍のためオンラインでの開催となったが、2人のスタッフ（石村・二神）がリアルタイムで傍聴し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第16号において報告した。

○アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力

IRCIへの協力として、研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題―持続可能な未来に向けて―」（10月29日）、第10回IRCI運営理事会（11月17日）、国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献―より良い学びと持続可能なまちづくりに向けて―」（12月21日～22日）、に1人のスタッフ（石村）が出席した。

○その他

ユネスコ・イコモス共催国際会議「Culture, Heritage and Climate Change（ICSM CHC)」（12月6日～10日）に1人のスタッフ（石村）がオンラインで出席しポスター発表を行った。また当研究所がこれまで実施してきた大洋州島嶼国の無形文化遺産保護への協力事業の成果に関連して、ミクロネシア連邦が提案した案件「カロリン諸島の伝統的航海術とカヌー作り」がユネスコ無形文化遺産の緊急保護一覧表に記載された。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、コロナ禍が及ぼす無形文化遺産への影響について海外の情報を収集し国内に発信することができた。また日本の状況についても韓国国立無形遺産院等、海外への発信を行ったことは大きな成果である。②独創性においては、我が国における無形文化遺産研究の唯一の機関として、国際会議への出席や大洋州島嶼国への国際協力事業の実施など、国際的な存在感を示すことができた。③発展性においては、IRCIへの協力や、大洋州島嶼国への国際協力事業において、国際的な情報発信と協力を発展的に進めることができた。④効率性においては、コロナ禍による制限下、オンライン会議などによって効率的な事業を実施することができた。⑤継続性においては、韓国国立無形遺産院との研究交流を継続しており、研究員の相互派遣は実施できていないものの、情報交流を継続している。またユネスコの政府間委員会については毎年その動向を調査していることから、一定の継続性を達成している。よって順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 研究論文発表1件（ア）、学会・研究発表1件（イ）	定量評価 ―

ア 二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第16回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」(『無形文化遺産研究報告』第16号、4年3月)イ T. Ishimura, Geoarchaeological information and cultural heritage disaster risk management: Cases in Japan（国際会議Culture, Heritage and Climate Change（ICSM CHC）ポスター発表、12月7日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形文化財、無形民俗文化財等に関する課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
評定理由	コロナ禍によって韓国国立無形遺産院との研究交流が中断を余儀なくされているが、4年度以降も事業継続する予定である。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については、3年度もオンラインによって傍聴してその動向を把握し、その分析結果を毎年『無形文化遺産研究報告』にて公開している。またIRCI事業への協力や、国際的な成果発信も順調に行っている。さらに前中期計画から継続している大洋州島嶼国への国際協力も、3年度に案件記載という成果を達成できた。以上の理由から、中期計画の1年目は順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fｱ

中期計画の項目	(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。さらに平城宮跡等で活用に関する実践的研究を行う。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（遺跡整備研究室主任研究員)、中島義晴（景観研究室長)	

【年度実績と成果】

○4 年 3 月 15 日に令和 3 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会をオンラインで開催した。テーマは「移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題」とし、史跡等の保存活用計画策定で課題となる、移築された本質的価値の構成要素について議論した。古代寺院跡から近代庭園へ移築された伽藍石や、近世城跡から社寺等へ移築された城郭建築のほか、朝鮮時代の陵墓から近代庭園に移築された燈籠などの石造物等について遺跡と現在地（近代庭園や社寺、公園等）の現状と整備上の課題、インタープリテーションの必要性などの認識を深めることができた。

○特別史跡山田寺跡の史跡指定 100 年を記念するシンポジウムでは文化財保護法の前身の一つである史蹟名勝天然紀念物保存法の成立と、藤田伝三郎ら近代数寄者による寺跡からの伽藍石の蒐集など当時の遺跡を巡る社会状況等を報告できた。

○平城宮跡の活用に関する実践的研究では、平城宮跡出土遺物に因む地域間交流として、兵庫県養父市立八鹿小学校の赤米献上隊を受け入れ、宮内省復元建物を利用した体験学習を実施し、「なぶんけんチャンネル」でも動画を発信した。また、韓国人を対象とした平城宮跡についての講演及び案内で新羅使を取り上げ、古代の日韓交流の足跡を紹介する試みをした。さらに、遺跡の活用を促進するため、出土遺物等から復元した古代遊戯「かりうち」を、現代でも楽しめるゲームとして普及させるため普及版かりうちキットを文化財活用センターの支援を受けて試作し、11 月 11 日に朱雀門前において、平城宮跡管理センターと「かりうち体験試合」を共催し好評を得た。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性については、各自治体が進めている史跡等の保存活用計画策定事業の内容と関わる適切なタイミングであった。②独創性については、史跡等の活用特にインタープリテーションを取り上げたことは適切であった。③遺跡の構成要素である建築遺構や遺物が庭園等へ移築されており、移築前の遺跡と移築後の庭園等とで関連性をテーマとした地域間交流への発展性が見込める。また、近代日本の記念物保護だけでなく、日本統治下の朝鮮の文化財保護制度についても研究の範囲を拡大でき、更に発展性が期待できる。④効率性については、オンライン研究会開催した。⑤継続性については、毎年研究テーマを選んでいるが、遺跡の保存活用という点では継続性をもっている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等件数　3 件（ア、イ、ウ）　・講演　1 件（エ）	－

ア　高橋知奈津「遺跡現地の活用の推進 2―平城宮跡の活用に関する実践的研究」『奈良文化財研究所紀要』2021 奈良文化財研究所 pp. 52-53 7 月

イ　内田和伸「史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺の史蹟指定」『特別史跡山田寺　史跡指定 100 年』奈良文化財研究所第 13 回東京講演会 2021 奈良文化財研究所 pp. 4-7 10 月

ウ　内田和伸「日本統治下の朝鮮における史跡の保存と整備」『第 4 回日韓文化財研究フォーラム 日帝植民統治期の文化財の整備と復元』国外所在文化財財団 2021 pp. 147-156 8 月

エ　内田和伸「平城宮を訪れた新羅使について」奈良韓国教育院＜古代の韓日関係を学ぶ奈良古代遺跡踏査プログラム＞ 4 月 7 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	国が史跡等の保存活用計画の策定を推進しているが、研究集会ではその中で特定する本質的価値の構成要素の内、特に移築されている遺構遺物を取り上げてその取り扱いを考える上で重要な知見を得た。今後も文化庁の行う事業を意識した文化財保護行政に資する研究集会を開催する予定である。また、平城宮跡をフィールドにその活用に関する実践的研究を他部局・他機関と連携して複数実施できた。以上より、所期の目標以上の成果を果たすことができたため、A評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fイ

中期計画の項目	(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 イ　庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長）、高橋知奈津（主任研究員）	

【年度実績と成果】

○28 年度より実施の「庭園の歴史に関する研究（近世）」では所内外の庭園史、建築史、美術史、歴史の各分野の研究者が執筆した 22 本の論文が所収した研究論集、『近世庭園の研究』を刊行した。

○25 年度より継続の奈良市教育委員会との連携研究「奈良市における庭園の悉皆的調査」について、調査報告書を刊行した。

○京都産業大学との共催で、同大学ギャラリー企画展「京都の庭を守ったひとたち―森蘊と法金剛院―」及び平城宮跡資料館企画展「奈良を測る―森蘊の庭園研究と作庭―展」を開催、共同の図録『森蘊の世界―奈良・平安の庭を求めて―』を出版した。

『森蘊の世界―奈良・平安の庭を求めて』ほか 2 冊

○森蘊旧蔵資料の整理では、30 年度に作成しウェブサイトで公開した目録をもとに、資料等の利用価値を高めるため、資料内容や来歴を確認する整理作業を進めた。また、これらについて各団体等からの資料提供依頼に対して、優先してデジタル化を進めた。

○そのほか、鳥取県文化財庭園技術者講習会、東近江市庭園調査をはじめ、地方公共団体等実施の文化財保存活用の取り組みに対する協力において、研究成果を多く活かすことができた。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性について。文化財庭園の保存活用計画の策定や整備工事等が各地で実施される中で、近世庭園史の発展に資する学報を刊行できた。また、京都の名勝法金剛院庭園の修復整備 50 周年を迎え、文化財庭園修復の草分け的存在、森蘊の業績を紹介することができた。②独創性について。初公開となる森蘊旧蔵資料を利用し企画展を開催、図録を出版することができた。③発展性について。研究論集『近世庭園の研究』を刊行することができ、近世庭園の特徴等を明らかにし、今後の研究の発展に寄与するものと考えられる。また、奈良市における庭園の悉皆的調査でも報告書を刊行することができ、名勝指定等保存活用に資する情報をまとめることができた。④効率性について、近世の庭園に関する諸成果を相互に活かすことで効率よく調査研究に取り組むことができた。⑤継続性については、5 年間の研究成果の公表を行うことができた。以上から本事業は全体としては良好な成果を上げている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・刊行物　3 件（ア、イ、ウ） ・論文等　　7 本　　・研究報告　1 本	－

ア　『近世庭園の研究―安土桃山・江戸時代―』奈良文化財研究所学報 101　4 年 3 月
イ　『奈良市の庭園総合調査報告書』4 年 3 月
ウ　『森蘊の世界―奈良・平安の庭を求めて―』（奈良文化財研究所・京都産業大学ギャラリー企画展　図録）奈良文化財研究所　6 月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	研究論集『近世庭園の研究』及び『奈良市の庭園総合調査報告書』を刊行することができた。また、森蘊旧蔵資料の整理作業に基づき発展させた成果として、森蘊旧蔵資料等を公開する展示を企画し、研究内容を図録として刊行することができた。いずれも大きな成果をあげ、今後の発展に繋がり得るものである。以上により、中期計画初年度として目標以上の成果をあげることができたため、Ａと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-1

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡東院地区の発掘調査（第 633 次）	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、国武貞克（同部平城地区考古第一研究室長）、丹羽崇史・森先一貴（同地区主任研究員）、山崎有生（同地区遺構研究室研究員）、山本祥隆（同地区史料研究室研究員）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室室長）、村田泰輔（同センター主任研究員）、山口欧志（同センター遺跡・調査技術研究室研究員）、上中央子（同センター環境考古学研究室客員研究員）中村一郎（企画調整部写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同室主任）	

【年度実績と成果】

○調査目的：平城宮東院地区北部の様相解明のための学術調査。
○調査面積：924 ㎡
○調査期間：3 月 29 日～7 月 19 日
○基本層序：表土、整備盛土、耕土、床土の下が奈良時代の遺構面である。
○主な検出遺構：掘立柱建物 5 棟、掘立柱塀 5 条、溝 7 条、土坑 9 基、石組 1 条、方形区画遺構、足場等。
○主な出土遺物：土師器、須恵器、瓦、磚、柱根、石器、鉄釘等。
○調査所見：大型掘立柱建物や、それに伴う東西塀、南北棟建物、礫敷、石列のほか、方形区画遺構や土坑といった地上式竈関連遺構群等を検出した。大型掘立柱建物は桁行 9 間、梁行 4 間の総柱建物であることから、天皇や皇太子の宮殿の中心建物とみられ、東院地区北部に東院地区の中枢施設が存在したことが判明した。また、地上式竈関連遺構群は、大型掘立柱建物やその関連遺構群に先行するもので、奈良時代中頃以前に東院地区北方に厨が所在した可能性を改めて確認した。東院地区の中枢施設の一端が明らかになるなど、重要な調査成果を得た。

大型掘立柱建物（北東から）

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性：30 年度の第 595 次調査による課題を解決する調査を適時に実施することができた。②独創性：大型掘立柱建物の上部構造を明らかにするため柱穴の断面調査に尽力した。③発展性：東院地区北方の土地利用の実態についてその一端を把握し、新たな課題を得た。④効率性：迅速な調査を心がけ調査期間及び費用の削減に努めた。⑤継続性：16 年度より継続的に実施してきた平城宮東院地区調査の一環である。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)論文等数：1 件（ア） 出土遺物件数等：土器 31 箱・軒丸瓦 39 点・軒平瓦 42 点・瓦類 73 箱・緑釉塼 1 点・柱根 1 点・石器 2 点・鉄釘数点 記録等数：撮影写真枚数：計 1550 枚　作成図面枚数：計 37 枚 記者発表数：1 回 6 月 30 日（参加社：12 社）	定量評価
		－

ア　山崎有生ほか「東院地区の調査－第 633 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』4 年 6 月刊行予定

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	30 年度の第 595 次東院地区の調査成果を踏まえて、その課題を解明するために 595 次調査区の東方に今回の調査区を設定した。平城宮の実態解明という中期計画に従い調査を実施し、東院地区の中軸線上において予想を上回る大型掘立柱建物の存在を明らかにすることができた。これまでの調査成果を整理・研究することにより、平城宮東院地区の理解を大きく進展させることが見込まれる。以上によりＡと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-2

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査（第 638・639 次）	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、国武貞克（同部平城地区考古第一研究室長）、丹羽崇史・森先一貴（同地区主任研究員）、山本祥隆（同地区史料研究室研究員）、山崎有生（同地区遺構研究室研究員）、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、山口欧志（同センター遺跡・調査技術研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同室主任）、鎌倉綾（同室技能補佐員）	

【年度実績と成果】

○調査目的：個人住宅新築に伴う発掘調査。
○調査面積：91.8 ㎡（638 次：42 ㎡、639 次：49.8 ㎡）
○調査期間：638 次：4 月 2 日～30 日、639 次：5 月 24 日～6 月 18 日
○主な検出遺構：
　木製基壇外装や玉石敷を伴う礎石建物 1 棟、掘立柱建物 1 棟等
○主な出土遺物：
　土師器・土器類、瓦塼類、杭状木材（礎石建物の木製基壇外装の材）
○調査所見：638 次では平城宮・京跡では初となり全国的にも検出例が少ない木製基壇外装を伴う礎石建物を検出した。その西隣接地の 639 次では礎石据付穴を検出したものの、基壇外装は連続しないことを確認した。また、礎石建物に先行する掘立柱建物を両調査区で検出した。これにより、当該地点における一般の平城京の宅地とはやや異にする土地利用の様相や、その変遷の一端を明らかにするなど重要な調査成果を得た。

調査区全景（南東から）

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性：個人住宅建設に伴う事前調査で、施主の異なる 2 区画を連続して調査できるよう調整し迅速に対応した。②独創性：限られた面積と時間の中で遺構の性格を明らかにし得る調査区を設定した。③発展性：平城京の当該地区において新たな地下遺構の情報を取得し今後の研究に資することができた。④効率性：限られた時間と予算のなかで最大限、遺構状況の把握に努めた。⑤継続性：これまで周辺地域で蓄積してきた地下遺構の研究資料に新たな情報を追加することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)論文等数：1 件（ア） 出土遺物件数等：638 次：土器 1 箱・瓦類 10 箱・木材 2 点、639 次：土器 1 箱・瓦類 5 箱 記録等数：638 次：撮影写真枚数：計 717 枚　作成図面枚数：計 6 枚、639 次：撮影写真枚数：計 351 枚　作成図面枚数：計 9 枚	定量評価 －

ア　山本祥隆・丹羽崇史ほか「平城京左京一条二坊十五坪の調査－第 638・639 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』4 年 6 月刊行予定

中期計画評価	A

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を進めるため、平城京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環であり、これまで調査事例の少なかった左京一条二坊の遺構の状況を知ることができ、当該地における平城京の土地利用を検討するうえで重要な成果となった。同時に、適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に資する重要な情報を入手することができたのでＡと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-3

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮・京の発掘調査（第 642・646 次）	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）ほか同部平城地区部員 16 名、企画調整部写真室職員 3 名、埋蔵文化財センター職員 3 名ほか	

【年度実績と成果】

○特記した第 638･639 次調査とは別に以下の発掘調査を行い、平城宮及び平城京の考古学的成果を蓄積させることができた。なお、このほか受託による発掘調査を 5 件行っており、その成果の概要については、別途掲げた。

次 数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物
第 642 次	平城宮西北部	75 ㎡	11 月 11 日～12 月 8 日	奈良時代の沼状遺構、荷札木簡 1 点
第 646 次	平城宮西北部	90 ㎡	4 年 2 月 14 日～3 月 4 日	奈良時代～近世の土坑 5 基　土器・瓦等

第 642 次調査区全景（北から）

第 646 次調査区全景（南西から）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：平城宮跡周辺など学術的に重要な地点の開発に対して、迅速に対応することで文化財保護行政及び平城宮京の研究に資することができた。②発展性：遺構面の標高や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の遺跡保存対策に資する情報を得ることができた。③効率性：発掘調査・立会調査などの作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を進めることができた。④継続性：平城宮京内に位置する遺跡の分布状況や各遺跡の性格についての情報を継続的に蓄積することができた。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）発掘調査：2 件 642 次：出土遺物件数等：土器 3 箱・瓦類 6 点・木質遺物 1 箱・種子等自然遺物 1 箱・木簡 2 点　記録等数：撮影写真枚数：計 300 枚　作成図面枚数：計 7 枚 646 次：出土遺物件数等：土器 2 箱・軒瓦 5 点・丸平瓦 2 袋・木器 2 点 記録等数：撮影写真枚数：計 318 枚　作成図面枚数：計 5 枚	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	地方公共団体（奈良県・奈良市）からの要請に応じて適宜に対応して文化財保護に資する活動を行い、平城京域における学術的情報の蓄積及び調査研究にも貢献した。以上から計画通り順調に進捗していると判断した。4 年度以降も地方公共団体の要請に対しては当調査部のほかの事業との関係を調整しながら戦略的に対応する計画を立て、平城宮京における遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-4

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、廣瀬覚・森川実（以上、室長）、鈴木智大（主任研究員）、福嶋啓人・岩永玲（以上、研究員）、道上祥武（アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）ほか	

【年度実績と成果】

○藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 208 次調査)を実施した。

・調査地：橿原市醍醐町　・調査期間：4 月 12 日～10 月 7 日　・調査面積：1,904 ㎡

○調査成果

・藤原宮大極殿北方を調査した。その結果、大極殿後方回廊から大極殿院北面回廊までの範囲には前期難波宮内裏後殿に相当する建物の痕跡はなく、その造営にも着手していない可能性が高まった。一方で、大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上した。さらに、大極殿院の造営にともなう排水溝を検出し、造営手順に関する手がかりを得た。藤原宮大極殿院の構造及び造営過程を考える上で、重要な所見を得ることができた。

飛鳥藤原第208次調査区全景（北西から）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性では、近年の調査成果を受け大極殿北方の調査を行い、藤原宮大極殿院の構造及び造営過程に関する必要なデータを取得できたため、Ｂとした。②独創性では、近年の調査成果を踏まえ、現在の調査水準で再発掘を行い、藤原宮中枢部の構造に関する新知見を得たため、Ｂとした。③発展性では、新たに大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上し、藤原宮と他の古代宮都の今後の研究に資する成果を提示できたため、Ａとした。④効率性では、過去の調査成果を踏まえ、適切な場所に調査区を設け、効率的に調査を進めることができたため、Ｂとした。⑤継続性では、藤原宮の様相解明のため、長期的な継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の初年度に大極殿北方の様相に関するデータを取得できたため、Ａとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・報道発表資料：1 件（ア）　・現地見学会資料：1 件（イ） ・現地見学会来場者数：619 人　・論文等数：2 件（ウ・エ） ・出土遺物：軒瓦等 64 点、丸・平瓦 81 箱、土器 12 箱、木製品・石製品等 4 箱ほか ・記録作成数：遺構実測図 51 枚、写真 667 枚	－

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次調査）記者発表資料」(9 月)
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次調査）現地見学会資料」(10 月)
ウ道上祥武「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次)」『奈文研ニュース』No.82（9 月）
エ岩永玲「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次)」『奈文研ニュース』No.83（12 月）

中期計画評価	B
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	中期計画の初年度に、大極殿北方の調査を実施した。その結果、大極殿後方回廊から大極殿院北面回廊までの範囲には前期難波宮内裏後殿に相当する建物の痕跡はなく、その造営にも着手していない可能性を指摘した。また、大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上したことにより、4 年度以降の調査を効果的に計画できるようになったことも重要である。以上のように藤原宮大極殿院の構造等に関する成果を得たため、Ｂとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-5

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	日高山瓦窯の地下探査	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之(副部長)、林正憲（考古第三研究室長)、若杉智宏(主任研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)ほか	

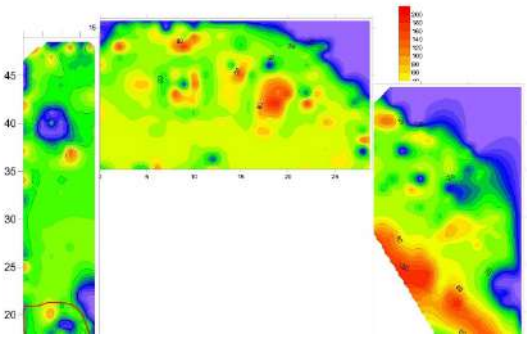
【年度実績と成果】

藤原宮所用瓦を生産していた橿原市日高山瓦窯について、測量調査を行うとともに、磁気探査及び地中レーダー探査を実施した。

・調査期間：10 月 25 日～11 月 10 日
・調査面積：約 1,350 ㎡
・調査成果

日高山瓦窯が所在する丘陵斜面の北から東にかけて、5 箇所の磁気異常を確認した。これを地中レーダー探査の結果と照らし合わせると、探査範囲の北側 2 箇所と東側 1 箇所に構造体らしきものが存在することが判明した。

これらの探査成果を参考に、4 年度以降の発掘調査計画を策定する予定である。



磁気探査の結果

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性では、中期計画の初年度において、日高山瓦窯における発掘調査の計画を立案するうえで必要なデータを取得できたことからＡとした。②独創性では、磁気探査及び地中レーダー探査を実施し、遺構と思われる構造体の存在を確認できたため、Ｂとした。③発展性では、今回の磁気探査において、これまで未確認であった窯と思われる磁気異常を認めたため、Ａとした。④効率性では、過去の調査成果を考慮しつつ、適切な場所において短期間で効率的に探査を行ったため、Ｂとした。⑤継続性では、藤原宮所用瓦の生産体制を解明するため、長期的な継続調査の一環として探査を実施し、中期計画の初年度に調査計画に不可欠なデータを取得できたため、Ａとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）記録等作成数：測量図 1 枚、探査結果の図 2 枚	－

中期計画評価	A

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	中期計画の初年度に、藤原宮に瓦を供給した日高山瓦窯の測量調査・地中探査を実施した。その結果、探査範囲において 5 箇所の磁気異常を検出し、レーダー探査の成果も加味すると 3 箇所に構造体が存在することが判明した。この成果は、日高山瓦窯における学術調査の計画を立案するうえで重要な知見となる。この探査が本瓦窯における継続的調査の足掛かりになることに加え、藤原宮所用瓦の生産体制を解明するうえでも不可欠と考えられることからＡとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-6

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	飛鳥地域等の発掘調査	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之(副部長)、山本崇（史料研究室長)、山藤正敏・松永悦枝・田中龍一(以上、研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)ほか	

【年度実績と成果】

○石神遺跡東方の発掘調査(飛鳥藤原第 209 次調査)を実施した。

・調査地：明日香村飛鳥　・調査期間：1 月 7 日～3 月 17 日　・調査面積：297 ㎡

○調査成果

調査地は、石神遺跡第 1 次調査区から農道を挟んで東に位置し、飛鳥寺寺域の北限と接する。主な検出遺構は、東西塀、東西溝、竪穴建物、溝などである。特に、調査区中央を東西方向に延びる東西塀は、石神遺跡第 1 次、第 3 次調査区で検出していた東西塀の東延長に当たる。この東西塀の今調査区までの総延長は 85mを測り、石神遺跡南辺は東西方向に長大な塀を設けて区画していたことが明らかとなった。また、東西塀の南を並走する東西溝は、これまで様相が不明確であった石神遺跡の溝の経路や埋没状況、東西塀との関係を考える手がかりとなった。このほかにも、弥生時代の土坑や古墳時代中期とみられる竪穴建物、東西塀よりも古い掘立柱建物などの検出から、当地の継続的な土地利用の様相を知ることができた。

調査区全景（東から）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性では、西側隣接地における 40 年前の発掘調査（石神遺跡第 1 次）において、その一部を検出していた東西溝が、さらに東へと延びていることを明らかにしたことからＡとした。②独創性では、隣接地における過去の調査成果を十分に踏まえ、今日の問題意識に基づき、必要な発掘調査を遂行したことからＢとした。③発展性では、飛鳥浄御原宮期の東西溝及び東西塀の確認により、石神遺跡の構造に関する重要な知見を得たうえ、その成果が今後の報告書作成に役立つことが予測できるため、Ａとした。④効率性では、過去の調査成果を踏まえ、適切な場所に調査区を設け、効率的に調査を進めることができたため、Ｂとした。⑤継続性では、石神遺跡とその周辺における長期的な継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の初年度に基本層序や遺構分布に関するデータを取得できたため、Ｂとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・出土遺物：丸・平瓦 7 箱、土器 19 箱、冶金関連資料等 14 箱 ・記録作成数：遺構実測図 13 枚、写真 225 枚	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	中期計画の初年度に、石神遺跡東方の調査を実施した。当該地は 1981 年に調査を行った石神遺跡第 1 次調査地のすぐ東側に当たる。今回の調査では飛鳥浄御原宮期の東西溝や東西塀を 50mにわたり検出し、第 1 次調査の知見を大きく補う成果を得た。そしてこの成果は、現在進行している石神遺跡の整理作業と、その発掘調査報告書の内容に直接フィードバックできるものであり、その意義が大きい。以上のように、石神遺跡の構造等に関する成果を得たため、Ｂとした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F イ-1

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査研究	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、金田明大（埋蔵文化財センター長）、加藤真二（企画調整部長）、都城発掘調査部平城地区部員計16名ほか	

【年度実績と成果】

(1)2・3年度の発掘調査及び既往の調査における出土遺物の整理及び検出遺構の調査と研究

・2年度平城宮東方官衙地区の調査（第621次）、3年度平城宮・京の調査（第633・638～646次）等で出土した各種遺物の洗浄・整理・実測・分析・保存処理等及び検出した遺構の検討を実施。

・報告書の刊行に向け、薬師寺東塔（ア）、平城宮東区朝堂院地区、平城京左京三条一坊一・八坪、右京一条二坊四坪・二条二坊一坪等で出土した遺構・遺物の整理・分析及び報告書の執筆・編集作業等を実施。

(2)調査・研究成果の公表

・2・3年度に実施した発掘調査について『紀要2022』（イ）にて報告すべくその研究及び報文の執筆。

・2年度以前に実施した発掘調査出土遺物の研究成果について『紀要2021』（ウ）にて報告した。

・特別展『地下の正倉院展 －木簡を科学するⅡ－』(10月10日～ 11月23日・於平城宮跡資料館)を開催し、図録(エ)を刊行するとともに、記者発表を実施した。

・昭和9年に出土した薬師寺西塔出土の遺物について、2年度に調査研究を実施し、3年度にその成果を公表した（オ)。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：2・3年度の発掘調査で出土した遺物・遺構の整理作業を継続的に進め、調査成果を公表すべく調査研究を実施した（イ)。②独創性：遺跡の発掘調査、出土遺物の整理研究の成果をより効果的に公表するために、多様な形態での刊行を模索した。③発展性：これまでに未発表であった資料を公表するほか、既発表の資料についても新たな観点から再検討しその成果を公表し、平城宮京の遺跡・遺構・遺物に関する研究を促進した（ウ～オ)。④効率性：出土遺物の3D計測だけではなく、発掘調査時の遺構の3D計測導入を図り、調査期間及び費用の効率化に取り組んだ。⑤継続性：これまで蓄積してきた平城宮京の調査成果に新しいデータを追加した。同時に新出遺物の整理研究を進めることで既出の遺物の理解を深めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）刊行物：2件（ア、エ)、論文等数：17件（イ、ウ、オ）	－

ア：『薬師寺東塔発掘調査報告』4年3月、イ：「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要2022』4年6月刊行予定、ウ：「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要2021』7月、エ：『地下の正倉院展 －木簡を科学するⅡ－』10月、オ：和田一之輔ほか「薬師寺西塔跡出土品の再整理－昭和9年の日本古文化研究所による発掘調査を中心に」『奈文研論叢3』4年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城解明等を図るため、遺構・遺物研究の蓄積を継続している。中期計画初年度として、当初の計画通り、継続的な調査・研究の蓄積を行うことができた。研究成果も、発掘調査報告書、奈文研紀要、展覧会のパンフレット、『奈文研論叢』において公表することができた。また、これまでに未発表であった過去の資料を整理するほか、既発表の資料についても新たな観点から再検討し、その成果を公表した。3年度から開始した中期計画の新たな方向性を示したと考え、Bと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｲ-2

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、山本崇、廣瀬覚、森川実、林正憲（以上、室長）、若杉智宏、鈴木智大（以上主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）ほか	

【年度実績と成果】

○3 年度の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の作成・整理・分析研究を行い、出土遺物の整理・分析研究を進めた。中期計画の 1 年目にあたる 3 年度は、藤原宮大極殿の北側において発掘調査を実施した（第 208 次調査）。この調査では大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上し、一方で前期難波宮内裏後殿に相当する建物がなく、その造営にも着手していなかったと考えられるなど、藤原宮の構造を明らかにする上で極めて重要な成果が上がった。この調査成果は、新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで、一般向けの現地見学会で公表した（写真）。また、日高山瓦窯において地中探査等を実施し、今後の調査計画に資する情報を得た。

飛鳥藤原第 208 次現地見学会風景

○2 年度までに実施した発掘調査の遺構図面・写真資料の再整理・再検討・分析研究を実施するとともに、出土遺物の再調査・再整理・分析研究を進めた。

○飛鳥地域関係では、石神遺跡の遺構及び出土品の整理・分析作業と報告書作成業務を重点的かつ継続的に行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

評定の理由は次のとおり。①適時性は新型コロナウイルス対策を講じつつ、最新の調査研究成果の普及・公開に努めたためＢとした。②独創性は藤原宮大極殿の北側で再調査を行い、藤原宮中枢部の構造に関する新知見を得たことからＢとした。③発展性は日高山瓦窯で地中探査等を実施し、今後の調査計画に資する必要な情報を得たことからＡとした。④効率性は日常業務の中で着実にデータの蓄積を進めたことからＢとした。⑤継続性は藤原宮大極殿院における継続調査を通じて、大極殿後方に基壇建物が存在する可能性が浮上し、他の古代宮都との比較研究に資する重要な成果を得たためＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・記者発表件数：1 件（ア） ・刊行物：1 件（イ） ・学会・研究発表件数：5 件 ・論文等数：25 件（ウ・エ等）	－

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次調査）記者発表資料」(9 月)
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次調査）現地見学会資料」(10 月)
ウ鈴木智大ほか「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次)」『奈良文化財研究所紀要』2021（7 月）
エ山本崇ほか「大官大寺南方の調査－第 203・206 次」『奈良文化財研究所紀要』2021（7 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の調査研究を進め、古代日本の都城の解明を図るという中期計画の目標に従い、その初年度として藤原宮大極殿北側の調査と、日高山瓦窯の地下探査等を実施し、それぞれで成果が上がった。また一連の整理・分析研究においても、これまでの調査研究が次第に結実しつつあることからＢとした。今後も、逐次整理・検討作業を進め、成果を公表してゆく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132Fｳ

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｳ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築に関する研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、石田由紀子（学芸室主任研究員）、清野陽一（学芸室研究員）ほか３名	

【年度実績と成果】

○飛鳥資料館収蔵品のうち未整理の瓦類の整理と調査を原則週１日で継続して行った。
○檜前寺等で出土している呉とヘラ書きされた瓦について調査し、その成果を奈文研ニュース記事（ア）で発信するとともに、ミニ展示「新収蔵品紹介－「呉」と書かれた瓦」を開催し、調査結果を公開した。
○瓦の文様のルーツを調査し、成果を特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」の展示解説、図録等で活用した。
○山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。計測機器の不具合があったので保守を行った。
○古墳壁画の四神と十二支について類例を収集、検討した。成果は展示解説や講演会などで活用した。

奈文研ニュース「呉」と書かれた瓦

年度計画評価	B

【評定理由】

飛鳥時代の考古学的研究で欠かせない基礎的な遺物である瓦を中心として、継続的に調査研究活動を実施している。未整理の収蔵品の調査は着々と進行しており、近い将来にまとまった成果として活用が期待される（⑤継続性、③発展性）。また、そのような作業のなかで見つかった「呉」ヘラ書き瓦や、瓦文様のルーツについて調査し、その成果を遅滞なく展示解説や記事に効率よく活用できており、そのことによって研究の成果を広く市民に還元していることも評価できる（①適時性、④効率性）。

古墳壁画についても継続的な情報収集と研究を続けており、展示解説の水準向上に貢献している。日本の壁画古墳は明日香村の高松塚古墳とキトラ古墳しかなく、飛鳥資料館にふさわしい個性的な調査研究活動といえる（②独創性）。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値） 記事１本（ア）	－

（ア）清野陽一「「呉」と書かれた瓦」『奈文研ニュース』82、９月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	中期計画初年度として、前中期計画期間の成果を引き継ぐ形で継続的に瓦や壁画の資料調査を実施した。今後も継続的に知見を集積できるよう、引き続き調査を実施する。現状では順調に研究が進行していると言える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｴ-1

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	中国との共同研究	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同副部長）、神野恵（同部平城地区考古第二研究室長）、今井晃樹（同地区考古第三研究室長）、丹羽崇史（同地区主任研究員）、廣瀬覚（同部飛鳥藤原地区考古第一研究室長）、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)	

【年度実績と成果】

○中国社会科学院考古研究所との共同研究
新型コロナウイルスの影響により、3 年度に予定していた両研究所の研究員を相互に派遣する学術交流、及び当研究所の研究員が中国の研究所に赴き実施する予定であった出土遺物の共同研究は、4 年度に延期した。

○遼寧省文物考古研究院との共同研究
新型コロナウイルスの影響により、2 年 6 月以来、双方の安全な往来が可能となるまで共同研究を中断しているが、2 年度に実施した蜘嘛洞遺跡出土のガラス製耳当の鉛同位体分析の比較データを得るために、宮崎県持田古墳群出土ガラス製品に対する同分析を実施した。あわせてこれまでの蓄積データの整理作業を遂行した。

○河南省文物考古研究院との共同研究
新型コロナウイルスの影響により双方の往来が中断している。3 年度は『鞏義黄冶窯発掘調査報告』日本語版のうち、付論：付表編（ア）を印刷・製本し、2 年度に出版した本文編及び図版編と合わせ、当該報告書の刊行を完了した。1970～80 年代に日本人研究者など撮影した河南省等の遺跡写真についてデジタル化作業等を進めた。なお 3 年度に中国鄭州市で開催予定であった「唐三彩学術研討会」は中国側の事情で延期となった。

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：新型コロナウイルスの影響により、研究員を中国に派遣する事業は実施できなかったが、報告書刊行等その他の事業は計画どおり実施することができた。②独創性：遼寧省出土のガラス製品との比較を行うため、日本古代のガラス製品の分析を実施し新たな成果を得た。③発展性：『鞏義黄冶窯発掘調査報告書』の日本語版を刊行することで国内の研究者に対して研究成果の公表を促進した。④効率性：計画通り報告書の付論・付表編を印刷し、『鞏義黄冶窯発掘調査報告書』を刊行した。⑤継続性：これまでの調査研究成果を総括するとともに今後の研究に資する情報を公開した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）報告書刊行：1 件（ア）	定量評価
		－

ア『鞏義黄冶窯発掘調査報告』付論・付表編（奈良文化財研究所学報第 99 冊）　6 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに学術交流などの事業について中国社会科学院考古研究所、遼寧省文物考古研究院、河南省文物考古研究院の研究者との共同研究を事業の主目的に据えているが、2 年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により、研究者を相互に派遣しての研究はやむを得ず延期した。しかし、そのほかの遺物の自然科学的分析、報告書の出版等については計画通り実施することができたのでＢと判定した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｴ-2

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	韓国との共同研究	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（都城発掘調査部副部長）、林正憲（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）、小田裕樹（同平城地区主任研究員）、松永悦枝（同飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員）、庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）	

【年度実績と成果】

○研究交流協約書等の締結

平成 11 年度より韓国国立文化財研究所と文化財に関する共同研究事業を実施しており、3 年度より新たな 5 か年計画に則って事業を遂行するために、改めて研究交流協約書及び発掘調査交流合意書の締結を行った。

○発掘調査交流

合意書に基づく発掘調査交流は、新型コロナウイルスの影響により双方で派遣を中止した。

○日韓共同研究

合意書に基づく共同研究事業を実施するため、日韓双方で 5 チームを編成した。

韓国側：計 15 人。①古代騎馬文化、②伝統紙、③装飾瓦、④王宮・宮城、⑤伝統造景意匠の 5 チーム。

日本側：計 24 人。①古墳・寺院・都城、②古代の食料加工技術、③道具瓦、④都城・官衙・寺院、⑤名勝の保存活用の 5 チーム。

なお、発掘調査交流と同じく、新型コロナウイルスの影響により双方で研究チームの派遣を中止した。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：5 年間の年度計画に沿った計画的・効率的な共同研究を開始した。②独創性：考古学、文献史学、名勝などの広範な分野にわたる両研究所の特性を活かした共同研究を開始した。③発展性：日韓で学術的課題を共有し、研究することで今後の学術的発展に寄与することができる。④継続性：本事業が平成 18 年度から継続しており、今後も共同研究を持続していくことを確認した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）共同研究の参画人数：韓国側 15 人、日本側 24 人	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明を図るため、韓国国立文化財研究所との合意のもと共同で調査研究を進めている。3 年度は発掘調査及び共同研究を介した人的交流を行うことはできなかったが、新たに研究交流協約書等を締結することによって、互いの信頼関係を蓄積しつつ、学術成果を挙げるという目的を日韓双方で改めて確認した。3 年度から 5 か年の計画で研究事業を継続的に実施し、最終年度には 5 年間の研究成果を論集という形で公刊する予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2133F

中期計画の項目	(1)-③-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-3)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用、及び文化的景観における生活・生業に関する情報収集、調査研究を行う。また、得られた成果を公表し、全国の文化財保護行政担当者、研究者と共有する。
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○中島義晴（景観研究室長）、惠谷浩子（景観研究室主任研究員）	

【年度実績と成果】

○基礎的・体系的研究

・スギ林業に関する文化的景観の比較研究を行うため、林業地域の資料等整理、情報収集を進めた。成果の一部を学会等で報告した。

○文化的景観保護に関する現地調査・研究

・日本各地の文化的景観の調査、保存活用、整備に関する報告書等の収集を継続して行った。

・京都府相楽郡和束町、高知県四万十市等をフィールドに、市町の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。

文化的景観に関する水系の調査（四万十市）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、今後増加すると予想される文化的景観の保存計画の改定について、事例を検討することができた。②独創性においては、地域の歴史文化に関する多分野における調査研究の現状や課題を把握することができた。③発展性においては、生業が共通する文化的景観の比較研究に取り組み、事例を収集し、検討を深めたことにより、今後のさらなる発展を期待できる。④継続性においては、文化的景観に関する調査等の報告書を収集した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・論文等数　4 件（①）　・研究発表等数　2 件（②）	－

① 惠谷浩子「智頭町芦津地区における水系と水利施設の特徴」『奈良文化財研究所紀要 2021』7 月 26 日 ほか 3 件
② 惠谷浩子「京都中川の北山林業景観における民家の庭の地域性」2021 年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム 5 月 23 日 ほか 1 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。
評定理由	中期計画初年度である 3 年度は、現地調査の実施等により、また、継続的な情報公開を行い、当初の計画通り研究を遂行できた上、学術研究の深化を図った。現地調査・研究では、特に生業が共通する文化的景観の特性の把握について検討を深められたことは評価できる。中期計画に掲げた調査手法の体系化、情報収集・整理、公開を遂行できている。 4 年度以降は、個別事例の調査、比較研究、成果の公表等を行うことで調査手法の体系化を進め、また、継続的に文化的景観の保存計画や整備活用事例の情報収集を進める。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134Fア

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
プロジェクト名称	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、馬場基（都城発掘調査部平城地区史料研究室長）、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）ほか9名	

【年度実績と成果】

○遺跡データベースシステムについては、システムが公開方法、セキュリティなどの観点から維持することが困難であり、現在停止している。このため、更新を計画し、空間情報を追加して地理情報システム上で検索成果を公開し、他の空間情報データと連携可能な統合の作業を実際に進め、技術的にはほぼ公開可能な状態となった。当研究所のセキュリティに対応した形での新しいデータベースの公開を進めるべく現在作業を進めている。これにあわせて、3年度は既存の公開・非公開データに位置情報などを付加するとともにデータの確認、更新を進めた。

○全国の古代集落に関する調査および資料の収集・整理を行い、そのデータを基として第25回古代官衙・集落研究集会をオンラインで実施した。その研究報告資料を作成した。
第24回古代官衙・集落研究集会の報告書を編集・刊行した。

第24回古代官衙・集落研究集会報告書

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、官衙遺跡の基礎情報を分析し、その保護や活用の方策を検討する上で有効に機能している。②独創性において、本システムが全国を網羅している点、多彩なデータベース項目を備えており様々な分析に役立つ点など、他に類を見ない。③発展性において、地理情報システムを基盤とする新システムへの移行準備が進み、従来の蓄積した情報を効果的に活用した研究基盤として展開が期待できる。④効率性において、官衙・集落遺跡の研究においては、蓄積されてきた膨大な量のデータを比較検討する必要があり、これを効率よく検索・集計することに寄与している。⑤継続性においては、新規の情報追加のみならず、既存のデータについても新知見に基づく更新を加えており、長期にわたり継続してデータベースを構築することで成果をあげている。以上の観点からみて、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）データ数　合計8,011件	－

1. 小田裕樹ほか『古代集落の構造と変遷2（古代集落を考える2）第25回古代官衙・集落研究会報告資料』 12月
2. 小田裕樹ほか『研究報告第30冊　第24回古代官衙・集落研究会報告書『古代集落の構造と変遷1』 12月

中期計画評価	B
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	中期計画の初年度となる3年度は、前中期計画期間に引き続き、データベース公開に向けた準備作業を進めることができた。技術的には公開に向けた目処が立つなど、着実に公開に向けた準備を進めることができている。4年度以降は3年度に引き続き、公開に向けた準備作業を進める予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F ｲ-1

中期計画の項目	(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同副部長）、馬場基（同部平城地区史料研究室長）、林正憲（同飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）・小田裕樹（同平城地区主任研究員）、大澤正吾（同平城地区考古第二研究室研究員）、垣中健志（同平城地区史料研究室研究員）、清野陽一（飛鳥資料館研究員）	

【年度実績と成果】

・研究集会の開催

第 25 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷 2」（12 月 17・18 日 於平城宮跡資料館講堂、対面・オンライン併用）を開催。研究報告は計 5 本。垣中健志「文献史料からみた古代集落」のほか、4 名の報告者が全国の集落遺跡の構造とその変遷等について報告を行った。報告後、報告者全員を交えての総合討論を行った。研究集会に際しては、報告資料集（イ）を編集・刊行し参加者等に配布した。

・研究報告書の刊行

『第 24 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷１』（奈良文化財研究所研究報告 30 冊）（ア）の刊行。2 年度に開催した第 24 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

研究集会の様子

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性：研究集会を計画どおり開催し第 24 回研究集会の成果を研究報告書として刊行した。②独創性：古代集落遺跡の構造研究を目的とする新たな分析視点を設定し、研究の方向性と課題を学界に提示した。③発展性：集落遺跡という列島各地に普遍的な遺跡についての新たな研究の視点を提示したことにより、今後各地域・各遺跡で多くの成果が得られると期待される。④効率性：研究会の開催方法・報告書編集に改良を加えて作業の軽減を図り、オンライン開催に際して効率化に努めた。⑤継続性：研究集会を継続的に実施し成果を刊行することで、研究者相互の連携を深めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）論文等数：1 件、研究発表等数：5 件、報告書等刊行数：2 件　研究集会参加者 125 人（うちオンライン参加者 42 人）。アンケート・回収 101 人(回収率 81%)　大変有意義 64 人、有意義 34 人、普通 2 人、あまり有意義ではなかった 1 人、有意義ではなかった 0 人	定量評価
		－

ア『第 24 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 1』（奈良文化財研究所研究報告 30 冊）12 月
イ『第 25 回古代官衙・集落研究集会 古代集落の構造と変遷 2 研究報告資料』12 月

中期計画評価	A
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	当初の計画通り研究集会を実施し報告書を刊行することができた。従来あまり注目されて来なかった集落遺跡を、全国規模で取り上げ議論することで、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する優れた研究成果を得ると同時に、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の質的向上及び研究成果の普及に貢献した。また、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し国民共有の財産となった。当研究集会及び報告書は、古代国家形成・古代都城研究に資するところが大きく、全国の研究者及び埋蔵文化財担当職員等からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進する必要があり、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。以上よりＡと判定した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F イ-2

中期計画の項目	(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長）、林正憲（同飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）・森先一貴（同平城地区主任研究員）、岩永玲・田中龍一（同飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員）、道上祥武（同飛鳥・藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー）・岩戸晶子（企画調整部企画調整室長）	

【年度実績と成果】

○シンポジウムの開催

第21回シンポジウム「鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ　－鬼瓦－」（4年2月5・6日　於平城宮跡資料館講堂）を開催。直前に新型コロナウイルス感染状況が悪化したため、WEBを利用したオンライン配信のみのシンポジウムとした。

研究発表は岩戸晶子「奈良の鬼瓦」ほか、口頭発表9本・誌上発表5本の計14本である。多くの発表により、全国の鬼瓦の出土状況、時代による変遷、地域間の系譜関係等が明らかとなった。また、発表と合わせて全国各地から出土した鬼瓦資料の集成を行った。シンポジウムに際しては、発表要旨集および鬼瓦集成表（ア）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

オンライン配信した研究報告

○報告書の刊行

第20回シンポジウム報告書『古代瓦研究XI　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ　鴟尾』（イ）を刊行し、研究成果の公開を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性：計画通り第21回シンポジウムを開催した。あわせて元年度に開催した第20回シンポジウムの成果を報告書として刊行した。②独創性：全国で初めて古代の鬼瓦を対象としたシンポジウムを開催し、その製作技法や全国での分布および編年、系譜関係について多くの新知見を得ることができた。③発展性：今後、全国での新資料の認識を深めるとともに、東アジアにおける鬼瓦の起源や朝鮮半島、日本への伝播に関する研究にも大いに寄与することができた。④効率性：発表要旨集は印刷製本すると同時にPDFデータ作成、鬼瓦集成表については予算削減のためPDFデータのみ作成し参加者に配布することで、成果物の迅速な配布と経費節約に努めた。⑤継続性：2年度に開催した鴟尾のシンポジウムと連続して議題とすることにより、棟の端に据える特殊な屋根瓦を一体的に捉え、その機能と構造に関してより深い理解を得ることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）論文等数：1件、研究発表等数：2件、報告書等の刊行数：2件（ア・イ） 研究集会参加者：のべ168人（オンライン参加者）。 アンケート回収：77人(回収率46%)	定量評価
		－

ア『第21回古代瓦研究会シンポジウム 鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ－鬼瓦－』発表要旨集2月

イ『古代瓦研究XI　鴟尾の展開』3月

中期計画評価	A
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	計画通りシンポジウムを開催し、報告書も刊行することができた。全国で初めての試みである鬼瓦の総合的な検討を実施することで、鬼瓦の年代観と機能、各地域間での系譜関係など新しい知見が学界で共有されたことは非常に有意義である。議論を通じて共通認識を高めることができたことは、今後の鬼瓦の研究に大きく貢献をすることは間違いないであろう。今後も、全国の瓦研究者及び埋蔵文化財行政に関わる方々が関心を寄せる課題を設定し、日本における瓦研究の向上に寄与していく予定である。以上より、中期計画初年度として、目標を上回る成果を出すことができたため、Aと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2135F

中期計画の項目	(1)-③-5)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-5)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究 我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の保存並びに活用に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	水中文化遺産に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

- 「第３期海洋基本計画」（内閣府）及び「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第４次方針）に位置づけられた、水中遺跡の保存や活用等に関する検討において、文化庁が 30 年度から重点的施策として実施した「水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業」（第２期）を受託し、水中遺跡保護の具体的手法を全国に周知するためのてびき書である「水中遺跡ハンドブック」の作成に向けた検討を進めてきた。４年３月 31 日刊行の本書において、これまでの調査・研究成果を活かし、「第５章　水中遺跡と出土遺物の保存と管理」を執筆することにより、水中遺跡保護の推進に大きく寄与した。
- 鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船の保存状態モニタリングの一環として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度の計測、及び同環境に設置した木材と炭素鋼供試体を回収し、それらの劣化量から腐食速度を評価した。検討の結果、引き続き溶存酸素が枯渇した環境が形成され、供試体の劣化も極めて緩慢であったことから、元軍船の劣化進行を抑制する環境が形成されていることを確認した。

博物館の展示環境下において、腐食の進行が確認された海揚がりの銅製遺物について、２年度に引き続き腐食生成物の同定を試みるとともに、腐食が進行した遺物の再処理方法について検討した。

『水中遺跡ハンドブック』の執筆

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：文化庁が重点的に取り組む「水中遺跡ハンドブック」の分担執筆を行った。②独創性：海底遺跡出土遺物の劣化メカニズムを明らかにするための課題に取り組んだ。③発展性：「水中遺跡ハンドブック」により、文化財保護行政の推進に資することができる。水中遺跡の現地保存法を確立することにより、海洋国である我が国の沿岸部分に多数存在する水中遺跡の保護に資することができる。④効率性：これまでの調査・研究成果を受託事業にも活かすことにより、水中遺跡保護の推進に効率的に寄与することができた。松浦市及び國學院大学と連携することにより、鷹島海底遺跡の元軍船の保存に効率よく取り組むことができた。⑤継続性：研究員が自ら定期的に潜水し、海底における埋蔵環境の計測と試験片を用いた海底暴露試験を実施することにより、元軍船の状態を継続的にモニタリングすることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・研究発表等１件（ア）　・刊行物編集：１件（イ）	定量評価 －

ア　柳田明進他「海底遺跡における沈没船の現地保存に関する研究 ―鷹島海底遺跡における元軍船の埋め戻し法の検討とその評価」日本文化財科学会第 38 回大会　９月 19 日
イ　脇谷草一郎他　『水中遺跡ハンドブック』「第５章　水中遺跡と出土遺物の保存と管理」　４年３月 31 日

中期計画評価	A
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 国内の水中文化遺産保護等に関する調査を行う。
評定理由	前中期計画からの継続事業となる３年度は、水中遺跡の調査法、現地保存の方法の問題点の解明と、出土遺物の保存処理法の開発に継続して取り組んだ。３年度は、海揚がり遺物の材質構造に関する診断調査により新知見を得るとともに、これまでの取り組んできた海底での現地保存と海揚がり遺物の保存処理に関する調査・研究成果を「水中遺跡ハンドブック」に盛り込むことにより、水中遺跡の適切な保存と活用に向けた標準的な指針を全国に示し、今後の水中遺跡保護の推進に大きく寄与することができたことから、Ａと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2211E

中期計画の項目	2-(2)-①-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-1)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて 正確・詳細に視覚化する 調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原板からの画像の取得手法及び色彩復元に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、城野誠治（専門職員）、谷口毎子（アソシエイトフェロー）、酒井かれん（研究補佐員）、横尾千穂（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○デジタル画像の形成方法の研究開発

・藤基神社所蔵村上藩主肖像画、奈良国立博物館所蔵 国宝 辟邪絵、東京国立博物館所蔵 重要文化財 玄奘三蔵像など、また他のプロジェクトと連携、あるいは外部からの依頼により、黒田記念館所蔵黒田清輝作品のうち油彩画、首里城火災による被災文化財など多数の文化財の光学的調査、記録作成を実施した。調査にあたっては、近赤外や蛍光を含む可視光全域を記録可能なカメラとレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。

・ガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査を継続して実施、沖縄県立博物館・美術館の共同研究の一環として、仲座久雄氏旧蔵ガラス乾板の関連調査、伊藤延男氏旧蔵ガラス乾板の調査とデジタル化を行うとともに、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。

○研究成果の公開

・報告書『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』を 6 月 30 日付で刊行した。また、『宮内庁三の丸尚蔵館 所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記巻十一・巻十二　光学調査報告書』を 4 年 3 月 16 日付で刊行した。

・プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し、光学調査の成果発信として東京国立博物館所蔵平安仏画ウェブコンテンツを公開した。また、上記プロジェクトと連携し、9 月 21 日に「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」を東京文化財研究所で開催し、59 人が参加した。さらに、4 年度上半期開催予定の同セミナーでの講演予定者である博物館・資料館職員との事前協議を 4 年 2 月 16 日にオンライン開催した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、実物以上に詳細を観察可能な高精細画像の取得と公開を行い、コロナ禍においても文化財鑑賞や調査研究の機会の確保が可能となった。実施したセミナーは、文化財保護法改正により未指定を含む文化財の把握や記録作成を求められる文化財担当職員の要請に応えた内容で、いずれも極めて時宜にかなっている。②独創性においては、独自に開発・選択した技術・機材を活用した可視光の全域、蛍光、近赤外光による記録を伴う光学調査を実施できた。③発展性においては、スキャナではなくカメラを用いたガラス乾板のデジタル化により一層鮮明で情報量の多い画像が取得可能で、乾板に記録された色のより正確な再現が期待され、高く評価できる。④効率性は、刊行物やウェブコンテンツを所内で編集、内製し、効率よく活動を所内外に伝達できた。⑤継続性においては、《春日権現験記絵》光学調査報告書を継続して刊行し、また所外からの依頼及び他プロジェクトとの連携も行い光学的調査を継続的に実施した。コロナ禍の影響により一部計画変更も生じているものの、当初の計画を上回る成果が得られた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・（参考値）刊行物 2 件（①、②） ・（参考値）論文 2 件（③） ・（参考値）発表 1 件（④）	定量評価 ―

①『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』（東京文化財研究所、6 月 30 日）

②『宮内庁三の丸尚蔵館 所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記巻十一・巻十二 光学調査報告書』（東京文化財研究所、4 年 3 月 16 日）

③城野誠治「ものの記憶　―記録を遺し伝える―」『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』pp. 108-133、東京文化財研究所、6 月　他 5 件

④二神葉子「文化財の記録作成の意義」「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」、東京文化財研究所、9 月 21 日

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財の現状及び劣化状態、材料、制作技法等の情報の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や 3D 記録製作等の手法について研究開発を進める。
評定理由	3 年度は中期計画初年度であるが、デジタル画像形成手法の研究開発、刊行物やウェブでの成果発信、研修による成果還元などをコロナ禍の中、工夫しながら実施しており、高く評価できる。以上のことから、所期の目標以上を達成できており、A評価とした。4 年度も研究開発を継続し、地域の文化財関係者とも連携して現場のニーズに応じた研修事業を展開する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2212F

中期計画の項目	(2)-①-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-2)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構･遺物の計測や記録内容情報抽出についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけてのＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。
プロジェクト名称	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、山口欧志・上椙英之（以上、同遺跡・調査技術研究室研究員）、中村亜希子・岸田徹・平川ひろみ（以上、同客員研究員）	

【年度実績と成果】

【三次元計測】SfM・MVS 技術による三次元計測手法を洗練させ、より効率的に文化財記録としての点群を取得する手法に注力した。遺構については自動認識技術に対応した計測基準点プレートの製作と画像取得手法の改善、遺物については高精度三次元レーザースキャナーを用いた SfM・MVS による土器や人骨の計測データの定量評価、撮影自動化等による情報取得の効率化と質の向上を進めた。科学研究費助成事業や他機関との連携研究による実践により、遺跡・遺構・土器・瓦・重要文化財・正倉院宝物などの資料を計測し、分析を進めている。また、廉価化しつつあるレーザースキャナーも本格稼働させた。

【遺跡探査】GNSS や LiDAR と連動した地中レーダー探査手法の検討を行い、各地でテストを行った。また新規導入した地中レーダーの運用を開始して取得情報の高解像度化と効率化を進めた。

【ひかり拓本】簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術の確立と実践を行った。技術の特許取得および公開用アプリ開発を行った。

【地質からみた遺跡調査】都城発掘調査部及び各地自治体等と連携し発掘調査における地質情報調査の実践と洗練を進めている。また、発掘調査や物理探査などによる被災痕跡や断層などの調査について研究を進めている。

新規導入したレーダーによる探査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、慢性的な人材不足等の課題や情報通信技術の進展に対応した研究に取り組み、文化財の保護に寄与する研究を進めている。②独自性においては、ロボティクスや画像解析、物理探査などの技術の導入を継続して進め、省力化や高精度化を進めている。③発展性においては、自治体など調査機関や個人で活用可能な技術の検討を行うことで、我が国の文化財保護技術の発展と普及に大きく寄与できる。④効率性においては、省力化や自動化の研究など、効率的な調査を支援する技術を確立しつつある。⑤継続性においては、蓄積してきた研究資産を継承した研究を推進している。よって、所期の目標を達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 三次元計測点数　139 点、CT データ取得 30 点、地質の検討　8 件、探査　8 件、ひかり拓本　127 件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 2)埋蔵文化財の調査手法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測・分析等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由	電子技術の発展による ICT 社会の進行と、文化財保護職員の担い手不足、文化財保護・研究において要求される情報取得の多様化という現状を打開し再編成を行うには、本研究のような新たな手法を試み、確立・普及をはかる研究が解決策の 1 つとなる。これらの研究は当研究所が常に求められてきたものであり、その伝統を継承しつつ新たな研究を進めたい。新しい三次元計測技術の市販化や CT の活用など、より強化すべき点もあるが予定通りの進行であり、Ｂとする。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2213F

中期計画の項目	(2)-①-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-3)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代調査や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。
プロジェクト名称	年輪年代学研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○星野安治（年代学研究室長）ほか客員研究員3名	

【年度実績と成果】

○出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代に関する調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。

○平城宮・京出土の曲物に対象を絞った年輪年代調査により、同遺構出土の木簡年紀との対応関係を明らかにする研究や、仁和寺所蔵の文書櫃について年輪年代調査を実施し、中世に作られたと考えられる文書櫃を多数、見出すなど、各種木造文化財の年輪年代学に関する調査・研究を実施した。

○現生木調査では、東北地方における地域標準年輪曲線構築の成果を公表するとともに、兵庫県妙見スギについて試料収集を実施し、年輪変動の地域性を検討するデータの蓄積を行った。

○また、竹中大工道具館特別展や平城宮跡資料館特別展等について、木材標本の貸し出しや解説書刊行の協力を行い、年輪年代学研究の普及を行った。

仁和寺文書櫃の年輪年代調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、発掘調査や解体修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。②独創性及び③発展性においては、従来、年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を、木簡の同一材推定に活用し、その成果を博物館施設において紹介した。④効率性においては、デジタル画像技術の活用により、多数の解体修理部材を調査対象として供するなど、効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。⑤継続性においては、各地域の現生木年輪データの蓄積を継続的に実施し、標準年輪曲線の拡充を図っている。以上のように、順調に事業が推移していると判断し、評価を行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 論文等発表実績：6件（ア） 学会、研究会等発表実績：5件（イ）	定量評価 －

（ア）甲斐善光寺木造源頼朝・実朝坐像の解体修理に伴う年代測定、奈文研論叢3号、4年3月18日、他5件
（イ）年輪年代学の歴史・考古学分野への応用－平城京跡における事例を中心に－、2021年度樹木年輪研究会、12月18日、他4件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定を推進するとともに、分析に必要不可欠となる各地の年輪データを収集・整理し、その地域性に関する研究等を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代の調査に関する研究開発を進める。
評定理由	年輪年代学に関する調査・研究を通して、各種文化財に資する情報を提供することができた。平城宮・京出土曲物について、同遺構出土の木簡年紀との対応を示した成果等は、考古学をはじめとした歴史科学研究に大きく寄与すると考えられる。また、従来、主に年代測定の手段として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から木簡へ応用し、その成果を展示として広く紹介した点も、3年度の大きな特徴である。今後、古代史学への貢献が期待されるなど、4年度以降も年輪年代学による調査・研究が発展的に進展するものと判断し、評価を行った。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2214F

中期計画の項目	(2)-①-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-4)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。
プロジェクト名称	動植物遺存体の分析方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○山崎健（環境考古学研究室長）、上中央子（環境考古学研究室客員研究員）、松崎哲也（環境考古学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

○波怒棄館遺跡（宮城県）、金井下新田遺跡（群馬県）、保美貝塚（愛知県）、公家町遺跡・相国寺旧境内（京都府）、西大寺食堂院（奈良県）、西橘遺跡（奈良県）などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。

○群馬県の金井下新田遺跡では、6 世紀初頭の榛名山噴火による火砕流堆積物に覆われた馬や集積した鹿角などの分析を実施した。その結果、馬は子馬や雌馬で、噴火時期や馬の蹄跡もあわせて検討すると、遺跡西側に限定放牧のような施設や場所が存在した可能性があることを指摘した。また、特別な区画と推定される囲い状遺構の内部から、集積した鹿角とともに生産残滓と考えられる鹿角片が出土しており、単なる鹿角製品の生産工房というよりも、祭祀など特殊な製作行為が想定された。

ACCU 集団研修（オンライン）

○現生標本の収集と公開では、エイ・サメ類やネズミの標本を作製し、三次元計測による立体的な骨格図譜を拡充した。

○研究成果の発信として、日本第四紀学会や日本動物考古学会などで研究発表を行った。

○人材育成として、文化財担当者研修や ACCU 集団研修で国内外の埋蔵文化財担当職員や研究者に対して環境考古学の研修を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性や④効率性において、地方公共団体等から要請を受けて、環境考古学に関する協力や助言を行った。特にコロナ禍で当初予定を変更せざるを得ない状況でも、分析対象の選定や分析工程の効率化により、膨大な出土資料の分析に対応することができた。②独創性においては、ほとんど類例がない火山灰下で被災した古墳時代の馬の研究を進めることができた。③発展性においては、正倉院宝物の特別調査に参加し、動物由来素材に関する新知見を得た。⑤継続性においては、研究の基礎となる現生標本を継続的に収集・作製している。よって、所期の目標を達成していると認められ、B と評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 論文等発表：6 件（ア、イほか 4 件） 学会、研究会等発表：5 件	定量評価 －

ア．山崎健「都城と馬」『馬と古代社会』八木書店、5 月 25 日
イ．山崎健「古代の蠅害考」『古代の食を再現する』吉川弘文館、6 月 10 日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、基礎研究として、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由	中期計画初年度である 3 年度は、宮城県の波怒棄館遺跡（縄文時代）や群馬県の金井下新田遺跡（古墳時代）といった貴重な遺跡を含め、地方公共団体等からの要請に対応しながら、研究を着実に進めることができた。また、正倉院宝物の特別調査に参加したことも 3 年度の大きな特徴である。4 年度以降も引き続き、現生標本を収集しながら、出土した動植物遺体の調査研究を実施する予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2215F

中期計画の項目	(2)-①-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-5)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 5) 文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発 文化財の調査・研究成果の公開を主眼としてＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含め、一般に向けた成果の活用について検討を行う。特に、小中学校のプログラミング教育必修化や新型コロナウイルスによる新しい生活様式に対応した形での文化財情報の活用を検討する。
プロジェクト名称	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）・村田泰輔（同主任研究員）・山口欧志・上椙英之（以上、同遺跡・調査技術研究室研究員）・中村亜希子・岸田徹・平川ひろみ（以上、同遺跡・調査技術研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

【XR】XR（Cross Reality）：AR（Augmented Reality）、VR（Virtual Reality）、MR（Mixed Reality）の総称を利用した発掘調査支援や成果公開などへの実装を目的として、5G ネットワークと VR ゴーグルなどを導入した遺跡の発掘調査現場と遠隔地を双方向に結ぶリアルタイム共有を試行し、調査手法の向上と知見の拡大そして成果公開に資する可能性があることを確認した。

【ゲーミフィケーション】発掘調査等の成果を主に小中学生向けに分かりやすく伝えるため、近年プログラミング教育や SDGs 教育に導入されているサンドボックスゲーム「Minecraft」の応用を試行した。具体的には遺跡の発掘調査時に三次元計測によって取得した実物の三次元データなどをボクセルデータ化し、Minecraft の世界に取り入れ、想像ではなく科学的調査・知見に裏付けられた、実在する文化財を体験できる仕組みの構築を進めている。

VR を利用した現場のリモート共有

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、ICT の応用によるプログラミング教育・地域学習・ポストコロナ社会のリモート参画に対応した研究に取り組み、文化財の調査成果の公開に寄与する研究を進めている。②独自性においては、5G 高速通信や XR 及びゲーミフィケーションなど新たな技術や枠組の導入を進めており、研究成果の一層の発信を支える研究を進めている。③発展性においては、今後全国の自治体など調査機関や学校で活用できる技術の基礎研究を行うことで、我が国の文化財普及・啓発手法の発展に大きく寄与できる。④効率性においては、省力化や自動化の研究など、効率的な仕組みを支援する技術を確立しつつある。⑤継続性においては、従来からの研究資産を継承し発展させる研究を推進している。よって、所期の目標を上回る成果をあげることができたと判断し、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）論文等：1 件（ア）　・研究発表等数：1 件（ア）	―

ア　金田明大ほか、MR を利用した発掘調査支援システムの試行、日本文化財科学会第 38 回大会、9 月 19 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発 AR・VR 技術やゲーム、データベース等の手段を用いた文化財の調査・研究成果の公開・普及を促進するための基礎研究を進める。
評定理由	XR や Society5.0 など、社会の変化に対応した文化財の活用方法についての研究は、我が国の共有資産である文化財を「財」たらしめるために不可欠であり、本中期計画から重点的に進めたい目標である。現在、その基礎的な研究を進めているが、今後 ICT 関連の研究者を軸により積極的な研究が必要であろう。現状では想定より早く現地試験などを開始することができ、Ａとする。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2216F

中期計画の項目	(2)-①-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-6)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 6) 物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 都城発掘調査部や地方公共団体等が実施する発掘調査によって得られる地層データについて、その取得、分析、公開などの手法を研究し、災害史の基礎資料として発掘調査データを活用することを検討する。また、これらの記録手法として三次元計測や画像解析の研究を進める。
プロジェクト名称	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、上椙英之（本部文化財防災センター 研究員）	

【年度実績と成果】

3年度は、1）調査試料の取得方法の開発、2）分析・解析法の開発、さらに3）それらのデータベース化を進めた。

1）当研究所都城発掘調査部、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市埋蔵文化財センターの発掘調査現場で検出された地震と火山噴火の災害痕跡を調査するため、様々な粒径構成堆積物に対応した試料採取方法の開発に取り組んだ。その中でアクリルケースを用いた地質切取試料法と、トマックNS-10を用いた地層転写法について採取方法を工夫し、粒度組成や堆積構造調査の精度を上げる実験を試みている。また堆積物の粒度組成、色相解析を現場で効率よくデータ化する手法の開発に向け、MR技術の導入を進め、光学技術によるデータ取得システムの開発を進めている。さらに「ひかり拓本」技術を用いた災害碑データの集成作業を、十八年洪水酉歳紀念碑（深江郷土資料館・大阪市東成区）、外所大地震供養碑（宮崎市熊野）、嘉永の津波留の碑（熊野市新鹿町）などで進めている。

2）高出力X線CTや低出力X線撮像システムによるX線透過率解析技術や、「ひかり拓本」技術の開発を進め、調査対象物の形質や物質組成データの抽出方法の開発を進めた。特に「ひかり拓本」については、3年度に特許を取得した。

3）GIS型の横断検索データベースの構築を進め、埋蔵文化財から取得される被災履歴地域の視覚化、史料に記載される災害情報の実体化を進め、防災・減災研究の基盤構築を進めた。

「ひかり拓本」技術による十八年洪水酉歳紀念碑（深江郷土資料館・大阪市東成区）の解析事例

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点より評価を行った。①適時性においては、災害発生頻度の増加と防災・減災への取り組みが社会全体で提唱されるなか、地質学的構造検証と歴史学的情報検証の両面から過去の被災履歴の解明に取り組み、災害発生や被災メカニズム解明に向けた研究基盤構築を進めている。②独創性については、これまでに考古学、地質学、歴史学が連動して災害履歴の解明や、防災・減災研究の基盤構築のための手法開発を行ったことはなく、独創性としては極めて高い。③発展性については、データの取得方法、データの客観性の担保など、今後の技術的な発展性が高く、さらにそれらの技術を通して抽出される防災・減災研究推進に向けた情報提供の重要性は言を俟たない。④効率性としては、史・試料調査法や解析法技術の蓄積が始まっており、今後それらの醸成が大きく期待される。⑤継続性としては、各調査の長期・短期にわたる目標と計画を策定し、地方公共団体の担当者を含めて事業を遂行している。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・論文等発表数　1件	－

[1]村田泰輔 2021、「歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性」『考古学研究』、68-3、考古学研究会、pp. 16-19、12月30日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 遺構、遺物、石造物、地質などの遺跡調査において確認される情報を統合した災害史の基礎研究を行い、防災・減災に資する情報活用、普及啓発に向けた調査研究を行う。
評定理由	過去の災害の痕跡について、発掘調査資料と史資料から情報を抽出し、過去の災害発生や被災メカニズムを解明するための調査研究とその蓄積は、防災・減災にむけた社会的な取り組みとして重要であるだけでなく、今後、文化財活用の大きな柱となることは明らかである。それらの調査研究に向けた科学技術の導入や開発、さらにそれらを視覚化し活用できる統合的なシステムの開発にも意欲的である。中期計画の初年度である3年度は、「ひかり拓本」技術の特許申請、「多孔質成分の分析方法、多孔質成分の分析装置及びX線CT装置」の国際特許出願準備が進み、またGIS型の横断検索データベースによる被災履歴の可視化に関わる研究成果を論文化する[1]など、継続的かつ適切にこれらの情報収集や対応を進め、中期計画初年度として、所期の計画を上回る成果を上げることができたため、上記の評価とする。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2221E

中期計画の項目	2-(2)-②-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-1)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究 文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた生物劣化の機構解明を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について研究を行う。
プロジェクト名称	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	
保存科学 研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）ほか	

【年度実績と成果】

○木造の文化財建造物で竹材の加害痕跡にある虫糞を用いて、PCR 法を応用した分子生物学的手法によって加害種を特定する技術を確立し、その成果を論文として発表した。

○DNA を識別子とした文化財害虫の検出システム（DNA バーコーディング）構築に向けて、新たに文化財害虫の収集を進め、形態学的、分子生物学的解析を経て国際機関へのデータ登録を進めた。

○湿度制御温風処理の技術開発に関して、専門家研究集会に参加し（12 月）、国内 3 例目の実証実験に向けた準備を進めた。また、これまでに開発した殺虫処理効果判定法の供試虫の変更に向けて人工飼育法確立の検討を進めた。

○博物館・美術館等での環境カビ測定法の標準化と基準値策定に向けた基礎研究として、アデノシン三リン酸（ATP）測定法を活用した調査を行い、収集したデータの統計学的解析を進めた。

木造文化財建造物から虫糞を採集する様子

○国内の鍾乳洞や古墳環境において行った微生物叢解析のデータ解析を進め、微生物劣化に関わる群集の特定や生態学的な役割や物質循環に関する基礎研究を進めた。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、環境低負荷型の殺虫処理が求められる社会情勢の中で、今後需要の拡大が期待される文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理法の社会実装に向けた応用研究を進めている点を高く評価した。②独創性においては、分子生物学的手法を応用して文化財保存の分野で重要な課題であった文化財建造物の害虫を虫糞から特定する技術を確立した研究成果は独創的であり、この点を高く評価した。③発展性においては、竹材害虫の虫糞から分子生物学的手法によって加害種を推定する手法の確立に成功し、今後の展開が期待される点を高く評価した。④効率性と⑤継続性においては、博物館・美術館等での環境カビ測定法の標準化と基準値策定に向けた基礎研究において、他機関と連携協力体制を作り効率よく継続した研究を遂行することができた点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）　学術論文・報告：合計 4 件（ア、イ、ウほか 1 件） 学会発表：合計 7 件（エ、オ、カほか 4 件）	定量評価 －

ア　博物館・美術館収蔵物のカビ対策システム化の現状と課題（『博物館研究』56(12)，11 月

イ　微生物による文化財の劣化と対策～古墳・洞窟壁画の微生物劣化～(『日本防菌防黴学会誌』50(1)，4 年 3 月)

ウ　竹材から得たフラスを用いて加害種を特定する分子生物学的手法の確立（『保存科学』61，4 年 3 月)

エ　文化財を加害したシバンムシ科甲虫の DNA バーコーディングによる同定法の検討（篠崎聡子　他，文化財保存修復学会第 43 回大会，7 月 15 日）

オ　虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢（松野美由樹，佐藤嘉則　他，日本文化財科学会第 38 回大会，9 月 19 日）

カ　歴史的建築物における甲虫類駆除のための湿度制御温風処理（北原博幸　他，日本建築学会第 50 回熱シンポジウム，10 月 31 日）

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた生物劣化の機構解明を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について研究を行う。
評定理由	生物被害の機序解明を通して、虫菌害対策のシステム化を行う。文化財建造物や古墳など生物制御が困難な場所では、環境と調和した新しい対策法の検討を進める。博物館等施設内の生物被害モニタリングの改良と標準化によって予防保存をより向上させる。また、被災文化財の生物被害を低減するための初期対応方法を研究する。

中期計画の項目	2-(2)-②-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-2)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 博物館美術館等の文化財保管施設における環境変動要因、特に空気質等に関する調査を実施し、最適な環境条件を設定するための検討を行う。また、被災文化財の一時保管場所を念頭において、文化財防災センターと協力して様々な施設における環境調査を実施し、安定した保存環境を設定するための方策について検討する。
プロジェクト名称	文化財の保存環境にかかる調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○秋山純子（保存環境研究室長）、相馬静乃（研究補佐員）、水谷悦子（文化財防災センター、(併)東文研）、伊庭千恵美（客員研究員）、吉田直人（文化財活用センター、(併)東文研）	

【年度実績と成果】

○空調や建物の改修を実施した博物館・美術館等において、改修による効果を実証するため環境調査を実施し、改修をする際の検討材料となるデータを収集した。
○空調のない展示室及び収蔵庫における温湿度データを収集し、高湿度の環境改善を検討した。
○展示ケース内の空気質改善のため、空気清浄機の効果を確認した。
○空気質の現状と改善に向けた研究会を博物館等の保存科学担当者向けに実施した（4年1月31日（月）「第3回保存環境調査・管理に関する講習会―空気清浄化のための化学物質吸着剤―」）。
○博物館・美術館等の展示照明について、D65照明での文化財への影響を検証した。（日本文化財科学会ポスター発表）
○一時保管として使用されている場所の空気質と温度の関係を確認するため、温湿度調査を行った。また、空気質改善のため発生源を調査し、改善策を検討した（保存科学61号）。
○小学校として使用されなくなった一時保管場所の環境調査を実施し、今後の環境保全対策に役立てられるデータを収集した。

一時保管場所での調査の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、博物館・美術館等の改修後のタイミングで調査を始められたこと、文化財防災センターが始動したタイミングで空調の無い施設の調査を行い、一時保管の環境改善の情報を得られたことを評価した。②独創性においては、一時保管施設や美術館と覚書を交わし、きちんと環境調査を研究として位置づけたことを評価した。③発展性においては、今後博物館等において改修工事が増えることを見越して、改修工事を実施した館に対して省エネを念頭に置いた環境調査を始め、ノウハウが大いに蓄積できた点を評価した。④効率性においては、空気清浄化に関する研究会を文化財活用センターと共催で開催したことを評価した。⑤継続性においては、展示照明に関する基礎実験において、これまで行ってきた波長ごとの黄色系染料の堅牢度の総合的な研究をすることができた点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）　・学会誌　2件（アほか1件） ・学会発表　1件　（イ） ・研究会　1件（ウ）	―

ア「プレハブ式高気密高断熱収蔵庫におけるアセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気量による低減」（水谷悦子他4名　保存科学61号、4年3月17日）
イ「特定波長域を遮光した光照射下における黄色系染料の変退色挙動」（秋山純子他3名　日本文化財科学会第38回大会　9月18日
ウ「第3回保存環境調査・管理に関する講習会―空気清浄化のための化学物質吸着剤―」（4年1月31日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	様々な条件下における建物の特徴と環境との関係を明らかにしつつ、文化財保存に最適な環境を作り出し、維持管理する方法を検討する。被災文化財の一時保管場所を想定した保存環境について、環境整備に必要な温湿度・空気質等の状況を把握し、より良い環境づくりのための調査研究を行う。
評定理由	中期計画5年目のうちの1年目にあたり、持続可能なエネルギー資源の有効活用を検討するため、博物館・美術館において、省エネを検討するための環境調査を実施し、次に繋がるデータを収集することができた。 文化財防災センターが発足し、一時保管環境の整備についての検討も平時にしておく必要性が明確化された。1年目にあたり、文化財防災センターと協力して、一時保管場所の環境調査を実施することができた。以上から、中期計画を順当に遂行できているため、Bと判定した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2223E

中期計画の項目	2-(2)-②-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-3)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 3)文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 各種の可搬型機器及び据置型分析装置を用いた文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている鉛や青銅の腐食に関する調査研究及び対策に関する検討を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、建石徹（センター長）、早川泰弘（副所長）、城野誠治（文化財情報資料部専門職員）、岡田健、古田嶋智子（以上、客員研究員）、高橋佳久、紀芝蓮（以上、研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○可搬型分析装置を用いたその場分析
- 可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、平等院鳳凰堂の鉄製金具に施された装飾について新知見を見出すとともに、平安期から江戸期の絵画や経典に使われている顔料についてデータの蓄積を図った。
- 可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた分析方法・分析条件の最適化を行い、既知の試料を用いた標準データの取得を行った。

○現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析、及び化学物質の発生源の調査を実施した。また、真鍮製品表面の腐食生成物の分析、及び保存対策に関する考察を行った。

○研究成果発表
- 論文2件、学会発表2件の研究成果発表を行うとともに、東京国立博物館所蔵の平安仏画二点（重要文化財）に関する光学調査報告書を刊行した。

ハイパースペクトルカメラを用いた基礎実験

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、鉛の腐食と同様に相談を受けることの多い真鍮の腐食に関する分析調査に、中期計画の初年度に着手することができ、科学的に新たな知見が得られた。②独創性においては、現代アート作品に用いられている鉛が腐食する化学物質の発生源を特定するための手法を独自に創出し、類例の少ない調査を実施した点を高く評価した。③発展性においては、従来文化財への適用例が非常に少ない可搬型ハイパースペクトルカメラを既知の試料を用いた標準データの取得を行い、同装置の実用化に向けて大きく進めることができた。④効率性においては、分析調査の効率を上げるために、蛍光X線分析及びハイパースペクトルカメラを固定する治具の改良を行い、現地調査に適用した。⑤継続性においては、日本絵画等に関する材料調査結果を蓄積し、報告書の刊行を行った。2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により実施できない作品調査があった中で、当初の計画を上回る成果が得られていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） 論文等2件（ア、イ）、学会発表等2件（ウ、エ）、報告書等1件（オ）	定量評価 ―

ア 「琉球の美術工芸品」（早川泰弘、『ぶんせき』7、7月）
イ 「文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価」（紀芝蓮、犬塚将英、『保存科学』61号、4年3月）
ウ 「日本絵画における白色顔料の変遷」（早川泰弘、中国伝統色彩学術年会、11月12日-13日）
エ 「鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例」（犬塚将英、古田嶋智子、高橋佳久、紀芝蓮、文化財保存修復学会第43回大会、8月11日）
オ 『東京国立博物館所蔵平安仏画　光学調査報告書』、東京文化財研究所、9月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている金属の腐食に関する調査研究及び対策の検討を行う。
評定理由	中期計画の初年度として、鉛以外の金属製品にも着目し、腐食生成物と空気環境との関係に関する調査を開始した。また、金属の腐食の原因と考えられる化学物質の発生源を調べるための新しい手法を独自に開発し、その手法を美術館の収蔵庫にて適用することができた。さらに可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、既知の試料を用いた標準データの取得を行い、これまでに日本絵画の材料調査で得た成果を報告書として刊行した。新型コロナウイルスの影響により実施できない作品調査があったものの、基礎研究等を進めることにより、総合的には当初の予定よりも研究が進捗していると判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2224E

中期計画の項目	2-(2)-②-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-4)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 屋外に存在する人文資料や自然史資料を対象に、その劣化状況を適切に評価し、価値を回復して人々に有効に伝えるための適切な保存修復方法を検討する。
プロジェクト名称	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、白石明香（研究補佐員）、前川佳文（文化遺産国際協力センター研究員）	

【年度実績と成果】

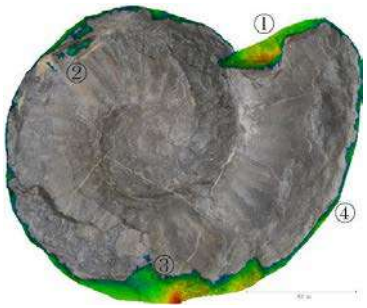
屋外に所在する各種文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の成果を得た。

○史跡である南相馬市の薬師堂石仏において、過去に撮影されていた写真に基づいて撮影時の形状を復元し、現状と比較することで劣化の進行について検証した。

○市指定天然記念物である天草市アンモナイト館で化石面の三次元計測を行い、覆屋建設前に取られていたレプリカの形状と比較することで、覆屋の保存効果について検証した。

○県指定有形文化財である茨城県の直縄洞において、表面を覆って沈着する緑色生物の繁茂と光環境との関係を調査し、繁茂を軽減する環境条件について解明した。

○名勝である田代の七ツ釜において、滝の修復以前に撮影されていた写真から形状を復元し、現状を計測して比較することで、名勝の修復について検証した。



アンモナイト化石の比較検証データ
色の付いた箇所が変異（劣化）箇所

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①薬師堂石仏は4年3月の福島県沖地震で被災しており、その被災状況を精査する際に3年度の研究成果が利用されたため、適時性が高い成果を挙げたと判断した。②独創性においては、これまでは保存科学の視点から調査されることがなかった名勝や天然記念物を対象とした保存科学的な調査を初めて行ったことで、独創性のある成果が挙げられた。③発展性においては、研究成果が博物館展示に直接反映されることが期待される。④効率性においては、移動が制限される中、オンラインシステムを利用することで研究の効率化を図った。⑤継続性においては、これまでに対策を行ってきた現場について、継続的に経過観察を進めて長期的な評価を試みている。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値） 論文等発表1件（ア） 学会・研究発表4件（イ、ウ、エ、オ）	B

ア「文化財としての自然史資料の現地保存」（朽津信明　『保存科学』61号、4年3月）
イ「常陸太田市・直縄洞の光環境と緑色生物」（朽津信明、犬塚将英　文化財保存修復学会第43回大会　8月11日）
ウ「過去の写真・三次元データを用いた薬師堂石仏の崩落の検証」（白石明香、 朽津信明　文化財保存修復学会第43回大会　8月11日）
エ「新宮市・九重の土砂災害慰霊碑の三次元印刷」（朽津信明、白石明香、藤隆宏、後誠介、栁沼由可子、西山賢一）　日本文化財科学会第38回大会　9月19日）
オ「天草市・アンモナイト館における化石の現地保存とその評価」（朽津信明、白石明香、廣瀬浩司　日本応用地質学会2021年度研究発表会　10月14-15日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	屋外に存在する多様な文化財について、その価値を有効に人々に伝えるための適切な保存修復計画の構築に資する研究を行う。
評定理由	中期計画の初年度として、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、史跡、天然記念物、有形文化財、名勝という、カテゴリの異なる屋外文化財の保存について成果を挙げることができ、当初の計画通りと判断した。中期計画の中で謳っている、有形民俗文化財、伝統的建造物群保存地区、文化的景観などについても4年度以降取り上げていく予定であり、順調な研究の発展が期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2225E

中期計画の項目	2-(2)-②-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-5)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復にこれまで使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法に関する科学的調査を実施し、その物性評価を行う。関連する伝統材料・製作技法についても科学的調査と情報集積を開始する。また、修理技術者に必要な科学に関して、今までの成果を元にアウトリーチ活動の検討を進める。
プロジェクト名称	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	
保存科学研究センター	○早川典子(修復材料研究室長)、倉島玲央（研究員)、前原恵美（無形遺産部)、江村知子、安永拓世（以上、文化財情報資料部）ほか	

【年度実績と成果】

3年度は「文化財修復のための技術と材料に関する調査研究」と「伝統材料・技法に関する複合的調査研究」の二項目に分けて事業を推進した。

文化財修理技術者のための科学知識基礎研修

○文化財修復のための技術と材料に関する調査研究の研修事業としては、「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」を9月29日より3日間で開催した。これは文化財修復に関する科学の研修としては、国内初めての試みであり、大学の教授職や修復技術分野での責任者等の応募も多く、開催後のアンケートも好評で継続を期待するものであった。また、実際の研究としては酵素を使用して過去に使用したデンプンの除去の検討やフノリ精製方法の検討と評価、補絹に用いる劣化絹の新規作成方法の実験開始、臼杵磨崖仏の石材表面再接着材料の現地試験の開始、螺鈿に使用される貝の非破壊分析の検討など、様々な研究のスタートアップを行った。

○伝統材料・技法に関する複合的調査研究としては、文化庁の行う美術工芸品修理に用いる用具・材料の調査に協力し、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、科学的な評価と安全な保存方法の検討を行っている。3年度は、掛軸・巻子の修理に必須な宇陀紙の原材料であるノリウツギについて、その保存に用いられる薬剤が環境被害が懸念されるものであるため、代替手法の検討実験を開始した。また、生産が途絶えた刃物などについて形状記録を取るため3Dスキャナーを購入し、現場との調査方法の検討を行い、4年度以降のデータベース作成の基礎資料とした。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、途絶の危機にある伝統材料や用具についての記録や調査は喫緊の課題であるためAとした。②独創性においては、伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点が他組織では行われていない上に、文化財修復に関する科学的な技術の開発という独自の視点を持つことからAと評価した。③発展性においては、得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や伝統材料・技法の記録保全や提言が見込まれるためAとした。④効率性においては、複数のテーマを効率的に遂行しつつ、新型コロナウイルスの影響下でも一定の成果を得られたことからBとした。⑤継続性においては、2年度までの研究成果を元に本計画を遂行し、今後、これらの成果を文化財修復の現場や美術史研究へ還元できる見通しを立てることが可能であるためBと判断した。以上のことから総合評価をAとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・研修会開催　1件（ア） ・論文　7本（イほか6件） ・学会発表　11件（ウ、エほか9件）	－

ア　文化財修理技術者のための科学知識基礎研修（9月29日―10月1日）受講者15名（応募者44名）
イ　「文化財修復に使用されるフノリの精製効果に関する評価」（早川ほか、『保存科学』61、4年3月）
ウ　「植物由来染織文化財の種同定における非破壊赤外分光分析利用の可能性」―葛・芭蕉を中心に―（早川ほか、文化財保存修復学会第43回大会、8月11日）
エ　「Characteristics of lacquer coating films extracted from Gluta usitata before and after UV irradiation」（倉島ほか）ICOM-CC 19th Triennial Conference, 5月17日-21日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
評定理由	中期計画として、今までの研究成果を踏まえて研究を計画し、スタートアップの年度として様々な事業・調査を開始した。コロナ禍にも関わらず一連の研究を今後も順調に遂行させることができた。本研究は、日本独自の伝統材料・用具を対象としつつ、それらを踏まえて新規技法の開発を行い、さらにその成果を研修としてアウトリーチするという3段階を経るものである。中期計画初年度として予想を上回る成果が得られ、今後の発展も期待されるため、Aと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2226E

中期計画の項目	2-(2)-②-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-6)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 6)文化財の修復技術に関する調査研究 災害によって被災した文化財資料の応急処置または保存修復処置に係る技術や方法に関する調査研究を行う。近代以降に使われるようになった新しい保存修復技術や方法に関する調査研究を行う。様々な技術や方法を、保存修復処置を行う現場に効果的に適用するための研究を行う。
プロジェクト名称	多様な文化財の保存修復技術に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○建石徹（センター長兼修復技術研究室長）、芳賀文絵（研究員）、中山俊介（特任研究員）、中村舞（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○近代文化遺産・被災文化財等の所有者である地方自治体等が組織する保存や修理に関する調査・検討等の委員等として、近代文化遺産・被災文化財等の保存・活用に関する調査・助言等を行った。
○近代文化遺産については、これまでの現地における調査研究のフォローアップを実施予定であったが、コロナ禍の影響により現地調査が実施できなかった部分がある。
○近代文化遺産については、行政や実務担当者らへの活用に係るアンケート調査結果をとりまとめた。
○近代文化遺産については、先の中期計画のうちコンクリート構造物に係る研究成果をまとめた『Conservation and Restoration of Concrete Structures』を刊行した。
○文化財防災センター等と連携し、被災文化財の一時保管施設等に係る調査研究を行った。
○文化財防災センターと連携し、ICCROM が立ち上げた文化財防火研究グループに参画した（4 年度以降も継続）。
○文化財防災に係る機器類の設置及び稼働準備（4 年度からの本格稼働を目指す）。

年度計画評価	B

【評定理由】

3 年度（特に上半期）はコロナ禍の影響で、主に当研究所内で処理可能な業務に専念せざるを得なかった。これは下半期には多少改善されたが、いまだ海外での必要な調査研究はできていない。この中で以下の各観点から評価を行った。①適時性においては、2 年 10 月に文化財防災センターが立ち上がり、これと連携して被災文化財に係る調査研究を推進しており、国内の当該分野を主導することは無論、海外主要機関との連携も推進できた。②独創性においては、近代文化遺産の報告書をまとめ、被災文化財の保存処置に係る機器類設置・稼働準備した。③発展性においては、行政や実務担当者らへのアンケート調査を踏まえ、その解決に向けた活動を展開できた。④効率性においては、コロナ禍の影響で現地調査ができぬ事業が複数あったが、それ以外は計画的に推進した。⑤継続性においては、近代文化遺産は 2 年度までの活動を継続・発展させ、新たに加わった被災文化財事業については文化財防災センターと連携した事業等を推進した。

コロナ禍の影響を受け、また新規に被災文化財事業が加わったが、3 年度は順調かつ効率的に事業を遂行できたため年度評価をＢとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** 学会発表　5 件（ア、イ、ウ、エ、オ） 報告書　1 件（カ）	定量評価 －

ア「産業遺産における活用―文化財の活用に関するアンケート調査結果―」（中村舞ほか　産業遺産学会 2021 年度全国大会 11 月 27 日）
イ「空調機が稼働していない収蔵庫における木質材料の吸放湿挙動」（芳賀文絵ほか　文化財保存修復学会第 43 回大会　8 月 11 日）
ウ「宮城県における被災資料の保管環境管理について」（芳賀文絵ほか　文化財保存修復学会第 43 回大会 8 月 11 日）
エ「宮城県における被災資料の保全活動について」（芳賀文絵ほか　文化財保存修復学会第 43 回大会 8 月 11 日）
オ The History of Japan’s System for the Protection of Cultural Properties and Fire, Disaster and Crime Prevention Measures for Museums, Temples and Shrines」（建石徹ほか PREVENT:Building Capacities for Mitigating Fire Risk at Heritage Places, ICCROM　11 月 16 日）
カ『Conservation and Restoration of Concrete Structures』東京文化財研究所

中期計画評価	B

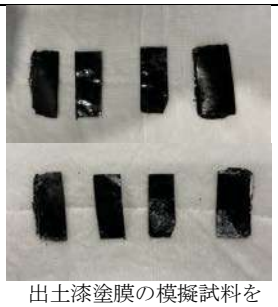
中期計画記載事項	被災文化財の保存修復技術、及び近代以降に使われるようになった新しい材料や技法に関する保存修復技術の調査研究を行う。様々な保存修復技術を現場に効果的に適用するための研究を行う。
評定理由	コロナ禍の影響を受け、また新規に被災文化財事業が加わったが、3 年度は順調かつ効率的に事業を遂行できた。被災文化財に係る事業については文化財防災センター等との密接な連携体制を構築し、進めることができた。これらにより、中期計画評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2227F

中期計画の項目	(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-7)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究 鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化する新たな手法の確立と実用化に向け、実践的な基礎研究を行う。
プロジェクト名称	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員、保存修復科学研究室（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）、楊曼寧（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化させる新手法について、含浸後の乾燥・固化を良好に実施する条件の検討に着手した。
○漆塗の施された出土遺物に対するより安定的な保存処理法の開発のため、遺物を模擬した試料の作製法を検討するとともに、保存処理の各工程における塗膜の変形メカニズムを検討するための基礎実験に着手した。
○鉄製遺物の新規脱塩法の効果を定量的に評価する方法を検討するため、鉄製遺物のＸ線ＣＴデータを収集し、画像解析技術により鉄製遺物内部の塩化物塩の分布状態の評価を検討した。
○鉄製遺物の発掘後の腐食挙動を埋蔵環境から予測する保管・管理技術を構築するため、平城宮出土鉄製遺物の出土位置と腐食挙動を検討するため悉皆調査を開始するとともに、腐食状態を非破壊にて調査した。
○飛鳥池工房遺跡出土の大型木製遺物や平城宮京及び藤原宮京出土遺物の保存処理を良好に実施した。



出土漆塗膜の模擬試料を用いた保存処理実験の様子
（上:処理前 下:処理後）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：低コストで持続可能な金属製遺物や木製遺物の保存・管理技術の開発に取り組んだ。平城宮京跡・藤原宮京跡出土遺物の保存処理を着実に進めた。②独創性：鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定するという、予防的な視点を重視する新たな保管管理システムの構築のための研究を進めた。従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発を進めた。③発展性：金属製品、木製品、木胎漆器の保存処理・管理を抜本的に革新する研究を進めており、研究がさらに進展することでその成果が国内外に波及すると期待される。④効率性：各種の材質構造を総合的に分析することで、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できた。⑤継続性：当研究所に大量に保管されている平城宮及び飛鳥・藤原宮跡出土遺物を対象にすることで、遺物の保存処理に関する膨大なデータを継続して蓄積することができた。また、過年度に構築された保管環境のモニタリング体制の下で基礎データの蓄積が進んだ結果、遺物の劣化抑制の具体策を提示することができた。総合評価：所期の目標を達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等発表数：4 件（ア他 3 件）　・学会、研究会等発表数：3 件（イほか 2 件）	定量評価 －

ア　柳田明進ほか、大久保間歩で発見されたドッグスパイクへのトレハロース法の適応とその評価　―その 1　ドッグスパイクの状態調査、石見銀山遺跡科学調査報告書 5、4 年 3 月
イ　松田和貴ほか、溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その 2)、日本文化財科学会第 38 会大会　9 月 19 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
評定理由	中期計画初年度にあたる 3 年度は、木製遺物に関しては、保存処理における薬剤含浸を効率化させる新手法の含浸後の乾燥・固化過程の条件を検討することに加えて、漆が施された資料の保存処理中の塗膜の変形メカニズムの検討にも着手した。鉄製遺物では、発掘後の腐食挙動を埋蔵環境から推定する新たな保存管理システムの構築のため、平城宮出土遺物の埋蔵環境と腐食状態の関係に関する情報を収集し、検討を進めた。4 年度以降も引き続き調査研究が推進される見込みであることから、所期の目標を達成していると考えられることから、評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2228F

中期計画の項目	(2)-②-8)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-8)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構の劣化要因として塩害及び乾湿繰り返しに着目し、これらの劣化因子が遺構を破壊するメカニズムに関する基礎研究を実施する。また遺構の周辺環境がこれらの劣化の進行におよぼす影響を検討することで、それらの進行を抑制する環境制御法、及び脱塩などの処置法などについても検討する。
プロジェクト名称	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

○高松市に所在の石船塚古墳、三谷古墳、石船天満宮で保存されている同質石材石棺は現在異なる劣化状態にあることから、これらを対象に周辺環境と劣化状態の比較調査を継続して実施し、2か年にわたる調査成果を総括し報告書を執筆した。
○福井県に所在の一乗谷朝倉氏遺跡において、庭園に据えられた景石の劣化原因調査及び新設される県立博物館の屋内で露出展示保存される予定の遺構における周辺環境調査を福井県と共同で実施した。
○橿原市に所在の菖蒲池古墳において、石棺内側表面に残る漆塗膜片の現地保存の可否を検討するために、石室内部の温熱環境調査を実施した。また、漆塗膜に対する修理方法を策定するため、漆塗膜の構造調査などに着手した。
○本巣市に所在の船来山古墳群の保存活用計画を策定するため、石室に用いられた石材の分類及び種類ごとの劣化状態について整理するとともに、周辺地盤の水分環境調査を指導した。
○塩害が進行する大分市所在の元町石仏などで行う脱塩処理での実装を念頭に、石材や土壌などの材料中の電気伝導率計測からそれらの塩濃度を推定する手法の開発を試みた。

一乗谷朝倉氏遺跡の県立博物館屋内展示予定遺構における環境調査現場

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、露出展示以降を行う新施設の建築に合わせた調査検討や世界遺産登録を目指す構成要素の遺跡を対象として、遺跡の安定した保存を担保しつつ、公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。②独創性については、既往の手法が材料の強化に主眼を置くものであったのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて将来生じ得る遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としており、独創的な研究と言える。③発展性については、乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。石材の乾湿繰り返しに関する定量的な評価や塩移動のモニタリング手法の開発など本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が期待される一方で、3年度は新型コロナウイルスの影響により室内実験から得た基礎理論を調査フィールドにおいて検証することができなかったことから下記の評価とした。④効率性については、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性については、3年度上半期も引きつづき新型コロナウイルスの影響により現地調査の実施が困難であったため、自動取得されているデータの収集が中心となった。しかし、各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、年度ごとの短期的な目標を設定し、各地方公共団体の担当者と目標及び成果を共有しつつ、事業を継続した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数：4件（アほか3件）　・研究発表等数：3件（イほか2件）	定量評価 －

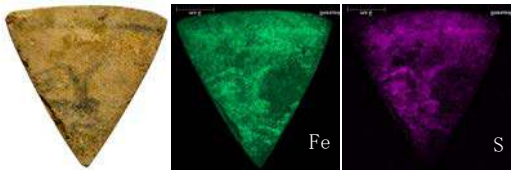
ア　脇谷草一郎・柳田明進ほか「高松市内所在刳抜式石棺調査報告書Ⅱ」高松市埋蔵文化財調査報告、第２１９集
イ　脇谷草一郎ほか「地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―」、日本建築学会大会学術講演（東海）、9月7日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
評定理由	前中期計画にて得られた成果に基づき、多くの地方公共団体から寄せられた遺跡保存に関わる案件に対して指導、助言を行ったことは適時性、発展性という点で大いに貢献し得た。また多くの遺跡において保存上問題となっている塩害並びに乾湿繰り返し劣化に着目して、3年度は中期計画の初年度として引き続きその劣化メカニズムに関する基礎研究を実施したこと、また遺跡における脱塩手法での実装を目指して、簡易電気伝導率計による遺跡材料中の塩分濃度の推定を可能とする応用研究も実施したことは独創性、発展性、継続性という点で評価され得ると考える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2229F

中期計画の項目	(2)-②-9)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-9)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 イメージング技術を活用した考古遺物等の非破壊調査を進め、古代の材料・技法に関する調査研究を行う。光学的手法を用いて各種色料（顔料、染料、ガラス着色剤など）の基礎データを収集するとともに、劣化による変化を明らかにするための実験を行う。また、蛍光Ｘ線分析等の機器分析の標準化にむけての実験及び基礎データの収集を行う。
プロジェクト名称	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員、保存修復科学研究室（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）、柳成煜、金旻貞（以上、保存修復科学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】



幸連５遺跡出土石製品（左）の元素マッピング（中・右）

○全資料型非破壊元素マッピング分析システムを用いて、幸連５遺跡出土石製品に用いられた黒色色料の推定を行った。その結果、黒色色料部分で鉄（Fe）と硫黄（S）の強度が高いことを明らかにした。
○新たに導入した可搬型蛍光Ｘ線分析装置を用いて、伝持田古墳群出土石製玉類の分析を行った。さらに、基準資料となる原石の分析データを収集し従来装置との間の分析値の補正を行うことで、既存の分析データとの比較研究を進めた。
○ガラス製遺物について、蛍光Ｘ線分析による材質分類に基づき、各分類単位における代表的個体の Pb 及び Sr 同位体比分析を行うことで、具体的な生産地研究に資するデータの収集を進めた。
○日鉄テクノロジー株式会社と共同で TIMS 及び MC-ICPMS による鉛同位体比分析の比較研究、LA-ICPMS の文化財分析への応用可能性に関する研究、出土遺物の分析手法についてのガイドライン作成のための基礎実験を進めた。
○日本文化財科学会第 38 回大会において、出土遺物の特性と化学分析の諸問題についてのワーキンググループを開催した。

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性については、遺埋蔵文化財分野に蛍光Ｘ線分析をはじめとした分析装置の導入が進み、多くの分析結果が報告される一方で、出土遺物の劣化特性や分析手法の特性についての理解不足に起因する問題も散見される。本研究から得られる成果は、出土遺物の適切な分析方法の選択や、より確度の高い分析法の確立に寄与する。②独創性については、ガラス製遺物について、非破壊材質調査に加えて、日本ではほとんど実績のない Sr 同位体比分析を進めることで、ガラス製遺物の具体的な産地推定につながるデータを収集した。③発展性については、新たな分析手法として LA-ICP-MS の文化財への応用を検討することで、日本の文化財分析技術の発展と国際競争力の向上に寄与する研究を進めた。④効率性については、全資料型非破壊元素マッピング分析システムを利用することで広範囲の元素分布情報が迅速に得られるため、資料の全面分析が可能となり、任意の点分析では見落とされがちな材質・構造に関する情報を確実に把握できた。⑤継続性については、これまでに収集した材質分析データや同位体比分析データを継続的に利用できるように、新旧の分析機器や分析手法による結果の整合性について検討した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・論文等：17 件（ア他 16 件）　・研究発表等数：9 件（イ他 8 件）	定量評価 －

ア　田村朋美ほか、COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN、Book of Abstracts of the 22nd Congress of the Association International pour l'Histoire du Verre & ICOM Glass Meeting、9 月 14 日
イ　田村朋美、元素分析および同位体比分析から見た古代ガラスの産地と交易、プラズマ分光分析研究会第 112 回講演会、6 月 25 日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 金属製遺物やガラス製遺物などの無機質遺物を中心に、材質に関する定量分析法の問題点を抽出するとともに、確度の高い分析法の確立を目指した調査研究を行う。
評定理由	中期計画初年度にあたる３年度は、金属製品やガラス製品の非破壊材質調査を進め、定量分析に与える腐食の影響や複数の装置間における定量分析結果の比較検討を行った。それらの結果をもとに、日本文化財科学会第 38 回大会において、出土遺物の特性と化学分析の諸問題についてのワーキンググループを開催し、問題点の共有を図った。さらに、新たな分析手法として、LA-ICPMS の文化財分野への応用研究として、青銅やガラス標準試料について実験的に測定を実施し、分析精度などの問題点を抽出した。３年度に明らかとなった問題点に対しては、４年度以降も継続して取り組む予定であり、所定の目標を達成していると考えられることから、評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2230E

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-アイ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
保存科学 研究センター	○建石徹（センター長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳壁画に関しては、修理施設内での歩行性害虫調査、浮遊菌・付着菌・落下菌調査に加え、浮遊粒子数測定、ATP 測定と空気質調査を行った。温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存環境の維持に努めた。また高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データをもとにして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究を行い学会発表と学術誌への成果報告を行った。
修復後のメンテナンス作業に関連する調査研究としては、漆喰部分・補填箇所について、状態変化の有無に関する確認を定期的に行った。

「午」の保存雰囲気状態

○キトラ古墳壁画に関しては、3 年度は修理報告書を刊行した。「四神の館」における保存及び公開の際の環境管理について調査協力を行った。集中メンテナンスや壁画の蓋の検討など、保存状況の改善について協議や検討を行った。また、「辰」「巳」「申」が存在すると推定される泥に覆われている漆喰片のうち「巳」について、これまでの X 線透過撮影結果を踏まえ、蛍光 X 線分析による調査を実施した。また、泥に転写された「午」の状態について、今後の修復のための状態調査を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、修理終了後の高松塚古墳壁画の保存方法の検討、キトラ古墳壁画の保存環境管理への協力、さらには両古墳壁画の一般公開時の新型コロナウイルスへの対応などを行ったことからＢと判定した。②独創性においては、日本では他に行われていない古墳漆喰壁画の修復方法を検討し、得られた成果を修復現場に還元したためＢと判定した。③発展性においては、キトラ古墳壁画の泥に覆われた漆喰の画像調査に取り組んだことからＢと判定した。④効率性においては、限られた人員の中で複数のテーマを遂行しており、Ｂと判定した。⑤継続性においては、古墳解体以降 10 年以上にわたり現場での検討を続けており、今後の活用に向けた継続性もあること、また、平成 16 年度から 28 年度まで行われた修理事業についての報告書を刊行したからＢと評価した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・学会発表 4 件（ア～ウほか） ・論文 2 件（エ、オ）	―

ア　Application of Cell Lytic Enzymes to Remove Biofilm from the Surface of East Asian Paintings（Hayakawa, Sato, eta.al,　ICOM-CC 19th Triennial Conference, 5 月 17 日-21 日, オンライン
イ「国宝高松塚古墳壁画仮設修理作業室におけるカビ環境管理指針の検討」（岡部迪子、高鳥浩介、佐藤嘉則、日本防菌防黴学会第 48 回年次大会、WEB 開催、9 月）
ウ「壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定」（水谷悦子、犬塚将英、脇谷草一郎、前川佳文、日本文化財科学会第 38 会大会、9 月 18 日－19 日）
エ「蛍光 X 線分析によるキトラ古墳壁画の泥に覆われた部分の調査」（犬塚将英、早川典子、紀芝蓮、ほか 7 名『保存科学』61 号 4 年 3 月）
オ「国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設における微生物環境管理指針の検討」（岡部迪子、高鳥浩介、佐藤嘉則『保存科学』61 号、4 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	中期計画に沿った成果が得られている。3 年度は高松塚古墳、キトラ古墳ともに新型コロナウイルスの影響により予定していた事業を計画通り実施することが難しい部分もあったが、今後の事業発展につながる具体的成果が得られたため、順調に推移していると評価することができる。これまでの成果は両古墳壁画のみならず、他の様々な文化財の保存修復に寄与することができるものである。以上の理由から、中期計画の 5 か年の開始年度として評価できる成果を得られたと考える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230F ｱ-1

中期計画の項目	(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ｱ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）ほか	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（保存活用班・修復班・材料調査班・生物環境班）：東文研と当研究所で構成

○これまで X 線回折分析装置の開発と実装に向けた検討を行ってきており、3 年度は装置を固定する治具の開発と安全確認を行った。

○高松塚古墳壁画に用いられた色材について検討するため、西壁石 2 及び北壁石にて可視分光分析を行った。

○壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用について検討を進めた。

○高松塚古墳の目地漆喰を対象に平衡含水率測定、X 線 CT 撮像を行い水分移動性状の推定を行った。

○2 年度に引き続き石材輸送実験を行い、南壁石を除く 15 石について輸送時の振動、加速度測定を終えた。

治具に X 線回折分析装置を取り付けた様子

○類似古墳調査として熊本県、大分県に所在の装飾古墳において保存環境調査を実施した。

○高松塚古墳出土遺物の材質分析、及び保存処理を実施した。

○古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：古墳壁画の保存活用に関する検討会において委員から求められた検討課題について答申するよう、適切に各調査を進めた。②独創性：新たに開発した X 線回折分析装置を用いて壁画を安全に分析するため、調査の際に装置を固定する治具を開発し、壁画へ適用可能なものとした。また、空調による壁画の保存環境におけるリスク評価を行い、将来建設される新施設の保存環境について検討した。③発展性：将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討を行うために、石室石材及び漆喰についての水分移動物性に関する基礎データを収集することができた。④効率性：材料調査に関するマニュアルを更新し、安全性の向上と作業の効率化を図った。⑤継続性：高松塚古墳壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても継続した環境調査を実施するとともに、新たに浮かび上がった課題についても検討を実施した。以上のことから、量的にも質的にも所期の事業目標を上回る成果を上げたと言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・研究発表等数：1 件（ア）	定量評価 -

（ア）水谷悦子・犬塚将英・脇谷草一郎・前川佳文「壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定」日本文化財科学会第 38 回大会、9 月 19 日

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	3 年度は、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、X 線回折分析装置を取り付ける治具の開発、高松塚古墳壁画を公開する新施設への壁画輸送を想定した輸送実験など、高松塚古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。高松塚古墳の古墳壁画は勿論、全国の装飾古墳の保存に資する研究成果をあげていることから、当初の計画を上回る成果をあげることができたためＡ評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230F ｱ-2

中期計画の項目	(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ｱ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）ほか	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（保存活用班・修復班・材料調査班・生物環境班）：東文研と当研究所で構成

○キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管理を行った。
○キトラ古墳壁画を安定に保存する温熱環境を検討するため、東文研材料調査班が作成した模擬漆喰について水分移動性状及び機械特性の評価を行った。
○キトラ古墳壁画に使用された色料を推定するため、南壁及び北壁について壁画の分光分析を実施した。
○壁画の現状を把握するための三次元解析技術の応用について検討を進めた。
○キトラ古墳壁画に対する防塵を目的とした蓋の設置の可否について検討するため、蓋のモックアップを用いた蓋内外の温湿度計測を実施した。
○類似古墳調査として福岡県、熊本県に所在の装飾古墳に対して保存環境調査の協力及び実測調査を実施した。
○古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。

南壁（朱雀）の分光分析作業風景

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：古墳壁画の保存活用に関する検討会において委員から求められた検討課題について答申するよう、適切に各調査を進めた。②独創性：漆喰の水分移動性状や機械特性などの基礎物性値を求め、空調に依存した展示、収蔵環境下でのリスク評価及び過度に空調に依存しない収蔵環境の可能性について検討した。③発展性：漆喰の水分移動性状に関する基礎データを収集しており、これらの結果から壁画を一層安定した状態で保存する環境条件を構築することが期待される。これは上記の通り、過度に空調に依存しない展示、収蔵環境の可能性を検討するもので、省エネ、持続性の観点からも発展性が期待される。④効率性：材料調査に関するマニュアルを更新し、安全性の向上と作業の効率化を図った。⑤継続性：キトラ古墳壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。以上のことから、所期の事業目標を量的にも質的にも上回る成果をあげたと考えられA評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・研究発表等数：1 件（ア）	定量評価 －

ア　犬塚将英・早川典子・紀芝蓮・中田愛乃・亀井亮子・辻本与志一・早川泰弘・高妻洋成・宇田川滋正・森井順之「蛍光 X 線分析による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査」日本文化財科学会第 38 回大会、9 月 19 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	3 年度は、キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用に向けての基礎実験や、分光分析等を用いた色料についての材料調査など、キトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。また、現状の展示、保存環境下における古墳壁画の劣化リスクへの定量評価を可能とする基礎物性の収集も進めており、この成果はキトラ古墳壁画のみならず、全国の装飾古墳の保存環境の検討に資する成果をあげた。以上のことから、当初の想定を上回る成果をあげていることからA評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230Fウ

中期計画の項目	(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ウ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ウ　遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うため、大分県や熊本県に所在の装飾古墳及び宮崎県に所在の横穴墓において温熱環境調査及び石材などの劣化状態調査を行い、適切な石室内の熱水分環境について検討を行う。
プロジェクト名称	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

○京大桂キャンパスに所在の模擬古墳を用いて、石室内部の熱水分環境の実測調査、金属試料の暴露試験を行い、温熱環境、水分環境の形成プロセス、腐食メカニズムについて検討した。得られた成果の一部を『考古学研究』に投稿した。

○装飾古墳である日田市ガランドヤ古墳1、2号墳において環境調査を継続して実施した。4年度から公開の予定である1号墳では、石室内部に設置したサーキュレーターなどの運用方法を変えた場合にどのような環境変化が生じるか実測調査を実施し、公開時の運用方法を検討した。

○熊本地震で被災した永安寺東、西古墳の石室温熱環境データの解析を行った。

○墳丘上に繁茂する樹木が伐採された熊本市の千金甲古墳において、樹木の伐採が墳丘封土および石室内部の水分環境、温熱環境におよぼす影響について検討するため、墳丘現地に気象観測装置を設置しデータ収集を行った。

千金甲古墳に設置の簡易気象観測装置

○高松塚古墳の目地漆喰を対象に、漆喰の平衡含水率測定や細孔径分布計測から水分移動特性の検討を行った。また東京文化財研究所が作成した漆喰資料に対して、同様の測定を行い、高松塚古墳の漆喰を模した試料としての妥当性について評価した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、熊本地震で被災した装飾古墳を中心に応急的な対応が求められた遺跡において適宜対応した。②独創性においては、装飾古墳における熱水分移動モデルとこれらを構成する材料の劣化モデルの練成を進めており、環境制御による遺跡保存において一層の定量性を担保しうると期待される。③発展性においては、古墳の立地や構造は様々ではあるものの、古墳を構成する石材や土壌といった多孔質材料の劣化現象に関する基礎研究を行った。この成果から装飾古墳を現地で安定に保存する環境条件が構築されると期待される。④効率性においては、実験条件を同一に整えることができる模擬古墳において、様々な環境計測機器を設置したことで、自由度が高く、継続的かつ効率的に環境および遺物の劣化状態に関するデータを収集することができた。⑤継続性においては、装飾古墳、模擬古墳における調査ともに、新型コロナウイルスの影響により、定期的な現地調査の継続にやや困難があったものの、データ収集は継続している。以上のように、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）　・論文等数：5件（ア他4件）　・研究発表等数：4件（イ他3件）	定量評価 －

ア　脇谷草一郎ほか「【連載】模擬古墳④座談会ー現状・課題・展望ー」考古学研究、68、6月30日
イ　脇谷草一郎ほか「壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定」日本文化財科学会第38回大会、9月19日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	3年度は、これまで整備事業に参画してきた装飾古墳や、模擬古墳での温熱環境調査について、新型コロナウイルスの影響により現地調査の実施が困難であったため、実測データの蓄積に苦慮した。そこで、実測データを現地地公体職員と共有することで、熊本地震で被災した装飾古墳の環境調査についてデータの解析を行いつつ、下半期は現地調査を可能な限り再開した。一方で、装飾古墳の現地保存を可能とする環境制御法について検討するため、これらの遺跡を構成する石材や漆喰を対象に、水分移動性状の実測調査を実施した。また、3年度は中期計画の初年度として、新たに装飾古墳の生物劣化に関する調査にも着手しており、材料の劣化と生物劣化いずれも抑制する環境条件について検討する。さらに模擬古墳を中心にこれまでの調査成果を学術雑誌に投稿するとともに講演会等で発表するなどして可能な限り研究成果の公表に努めており、当初設定した中期計画に基づく研究目標を達成することができている。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2311E-ｱ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア 文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○西和彦（国際情報研究室長）、松浦一之介（アソシエイトフェロー）、境野飛鳥（前アソシエイトフェロー）、藤澤綾乃（研究補佐員）、石田智香子（事務補佐員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）、石村智（無形文化遺産部音声映像記録研究室長）	

【年度実績と成果】

○コロナ禍を考慮しつつ、文化遺産保護に関する情報収集のため以下の国際会議等にオンラインで参加した。
・7 月 16～31 日　第 44 回世界遺産委員会
・10 月 25～26 日　国際文化財保存修復研究センター第 95 回理事会、27-28 日　同第 32 回総会、29 日　同第 96 回理事会
○カナダの主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その概要に関する説明（カナダ政府の元担当者に依頼）と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［26］カナダ』として刊行した。
○各種情報収集の成果を国内に還元するために毎年行っている世界遺産研究協議会については、2 年度からの 2 か年連続テーマとして設定した「文化財の『整備』を対外的にどのように説明するか」という内容につき、セッション 1（事例報告）、セッション 2（討論）に分けてオンラインで配信を行うとともに、報告書を刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、我が国の世界遺産保全・推薦に際して常に課題となっている「整備」をどう説明するかというテーマを取り上げ、これについて議論することを通じて文化遺産の保存・活用の最新の国際動向を把握し、詳細かつ時宜に適う提供ができた。②独創性においては、スタッフの専門知識とネットワークを活用しつつ、国以外の組織として独自に情報を収集するとともに、継続的なトレンドに関する知見を基に分析と発信を行った。③発展性においては、文化財保護法令シリーズにおいては法令の翻訳のみならずその背景に関する詳細な説明を付し、また世界遺産の保全について議論を展開するなど、国際情報の国内外への発信に発展を得た。④効率性においては、限られた人員において、スタッフが関わる他の関連業務、自治体等からの要請に基づく委員会参画などで得られた周辺情報も統合するなど、国内外のネットワークを通じ最小限の規模で着実に事業を進めることができた。⑤継続性においては、単に最新の情報のみならず、長期的トレンドを踏まえた分析に基づいて有用な情報を提供した。また、文化財保護法令シリーズについては、多様性を重視していることや連邦制に基づくシステムなどに特徴を有するカナダを取り上げ、26 冊目を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。以上により、国際的な活動が極めて困難な状況下においてなお、当初の計画を上回る成果をあげたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）国際会議（オンライン）出席 4 回、刊行物発行 2 冊（ア、イ）	定量評価 ―

ア『各国の文化財保護法令シリーズ［26］カナダ』(4 年 3 月 31 日)
イ『令和 3 年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（第二部)』(4 年 3 月 31 日)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	中期計画の初年度として、文化遺産保護に関する国際情報の収集・分析を行い、情報発信と成果公表を行い、国内外の研究ネットワーク強化に努めている。3 年度は最新かつ国内での要望が高い情報を積極的に収集したほか、その分析と併せて成果の周知を図るための会議を開催するなど、計画以上の成果をあげることができた。よって当初の予定を上回る中期計画を遂行できていると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fｱ

中期計画の項目	(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ｱ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○5 月 17 日、7 月 30 日、9 月 17 日、11 月 1 日、4 年 1 月 14 日、3 月 9 日にオンライン講演会シリーズリレートーク「海外から見た日本考古学の魅力」を開催し、イギリス、ドイツ、アメリカ合衆国、オランダ、ポルトガルの各国の研究者による国内向け講演会を実施した。

○カザフスタン共和国国立博物館、カザフスタン・マルグラン記念考古学研究所、ウズベキスタン・国際中央アジア研究所、ウズベキスタン考古学研究所など中央アジアの主要研究機関と、国際的協業の実施に関するオンラインミーティングや電子メールでの協議を行った。

○12 月 2 日、スウェーデン・ウプサラ大学において日本の考古学研究を紹介するオンライン講義を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、海外渡航が難しい中で、オンラインツールの活用による適切な国際事業運営協力を行った。②独創性においては、当研究所のネットワークを生かした独自性のある成果発表を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、オンラインツールを用いた効率的な事業展開を進めた。⑤継続性においては、2 年度の成果を 3 年度に刊行物として出版する準備を進めている。全体として、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値） リレートーク参加申込者数：6 回のべ 818 名	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	2 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大のために、海外渡航による情報の収集や学術交流は難しくなったが、それにかえて、国内での研究やオンラインツールを用いた発信・情報交換に力を入れることで、当初の計画を十分に達成できたとともに、寧ろ国内向けには対面方式よりもより多くの波及効果を得ることができた。4 年度以降も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、効果的な手法で中期計画を達成する予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fイ

中期計画の項目	(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○6月30日、アメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校の羽生淳子氏と当研究所にて双方の現状確認と今後の協業方針についての打ち合わせを行った。
○8月11日、スイス・チューリヒ大学の研究者と当研究所にて植物考古学的研究の現状と今後の協業方針についての打ち合わせを行った。
○9月16日、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所の研究者と現行プロジェクトと今後の共同事業についての打ち合わせを行った。
○12月3日、ノルウェー・トロムソ大学の研究者と当研究所にて、両国の文化財研究をめぐる状況についての意見交換を行った。
○9月15日、イギリス・ヨーク大学のオリヴァー・クレイグ氏、ヘレン・タルボット氏との共著論文を『文化財科学』83号に掲載した。
○10月31日、イギリス・ヨーク大学及び大英博物館のエドワード・スタンダール氏との共著論文を『雑穀研究』36号に掲載した。

羽生淳子教授訪問の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、渡航が難しい状況の中で適切にオンラインツールを用いたり、日本に一時帰国中の海外機関所属研究者らとの打ち合わせをするなど、コロナ禍に対応した事業を展開した。②独創性においては、イギリスを中心とする諸外国の研究機関との独自性のある共同研究を行った。③発展性においては、それぞれの機関との今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、オンラインツールを効率的に用いたり、一時帰国中の海外機関所属研究者との連携を強めた。⑤継続性においては、元年度からの引き続きの事業を4年度以降も継続できるよう、各研究機関との協力関係を強化した。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 論文等発表実績　2件	定量評価 –

庄田慎矢ほか「土器残存脂質分析による貝塚文化北限地域における動植物資源利用の復元」『文化財科学』83 9月
庄田慎矢ほか「キビの起源と拡散をめぐる考古生化学的探究」『雑穀研究』36 10月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	2年度から継続しているセインズベリー日本藝術研究所、ヨーク大学考古学科考古生化学研究所など国際的に著名な研究機関との共同事業を展開するとともに、3年度は中期計画初年度として、適時適切な形でアメリカ合衆国、スイス、ノルウェーなど欧米圏の他の国の機関とも交流を行った。渡航が制限される中、情勢に即した形で当初計画を達成する事ができている。以上から、本事業は当初の予定通り順調に推移しているものと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E ｱｲ-1

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産の保護に関する研究及び協力事業及を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア) アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマー、カザフスタン等について研究及び協力事業を実施する。 (イ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** 友田正彦（文化遺産国際協力センター長）、○金井健（保存計画研究室長）、安倍雅史（主任研究員）、間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）、岡崎未来（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○カンボジアのアンコール・タ・ネイ遺跡の保存整備に関してアンコール地域保存管理機構（APSARA）との協力事業を継続した。引き続きコロナ禍により渡航が困難な中、年度前半はICTやオンライン会議等による状況確認を密に行うことで情報共有に務めた。4年1月9日～24日、現地派遣を行い、2年度における東門修復の実施状況や工事資料等の確認、遺跡内の整備に向けた発掘調査等を行った。

○ネパールのカトマンズ王宮・シヴァ寺の震災復旧に関してネパール考古局（DOA）及びJICAネパール事務所との協力事業を継続した。上部構造の復旧に向けた検討を進めるとともに、12月3日～19日、現地にプロジェクトスタッフを派遣して基壇の発掘調査を行った。

○4年2月20日、イスラエル専門家2人及び国内の専門家3人を講演者として「考古学と国際貢献」をテーマとしたオンライン研究会を開催した。聴講者76人。

○4年3月15日、協力相手国機関の職員を対象としたオンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」を開催した。参加者23人。

○10月14日、ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所（ACCU奈良）が主催する国別研修（インドネシア）に協力し、教育文化研究技術省文化財保護局職員等に対して「建築遺産における写真の役割」をテーマに講義及び討論を行った。受講者10人。このほか、協力事業においても導入を進めているデジタル計測技術の技能向上に資するため、職員対象のドローン研修のほか、東京藝術大学の日比野克彦アトリエ保存プロジェクトに協力し、同アトリエの三次元写真測量及び図化を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、カンボジア・ネパール双方の協力事業において、コロナ禍で渡航困難が続く中でもICTの積極的な活用と現地派遣を組み合わせることで、協力相手先機関の要請に応じて今後の計画推進に必要な調査及び技術協力を進めることができた。②独創性においては、スタッフの専門性と人的ネットワークを活かし、近年国際協力の積極的な展開がみられる西アジアの考古学分野に注目した連続研究会を開始した。③発展性においては、SfM研修等の成果が各国で即時に応用されて現地での保護体制強化に大きく貢献している。④効率性においては、リモート技術を併用しながら着実に技術支援等を進捗させることができた。また、⑤継続性においては、相手国やJICA等関係機関との綿密な連携により、渡航困難が続く中にありながら現地派遣も含めた技術協力を中断なく実現している。よって、当初計画通り、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値)報告書作成5冊（アイウエオ)、発表2回、オンライン会議・研究会2回、専門家招待（オンライン）1回（4人）	―

ア　令和3年度成果報告書『アジア諸国等文化遺産保存修復協力』4年3月
イ　研究会記録『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産』4年3月
ウ　『大陸部東南アジアの木造建築を考える』4年3月
エ　『Exploring the Ancient Wooden Architecture in Mainland Southeast Asia』4年3月
オ　『伊藤延男資料目録』4年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の多様な文化遺産の保存や活動等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	カンボジア・タ・ネイ寺院遺跡の保存整備協力事業では東門修復から先の進展に向けてAPSARAとの連絡体制を強化しつつ、具体的な整備の実行に不可欠となる修復状況の検査や整備計画の確認、発掘調査等、現地での技術協力を進めることができた。ネパール・シヴァ寺の震災復旧では、DOAの協力を得て発掘調査を行うことができ、復旧工事の実施に向けた足掛かりを得ることができた。このほか、オンラインや国内で可能なものに絞って研修や演習等を実施することにより、現地渡航による協力が大きく制限された中にあっても中期計画に掲げた目標を満たす成果をあげることができている。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E ｱｲ-2

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア) アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマー、カザフスタン等における文化遺産について研究及び協力事業を実施する。 (イ)上記事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、前川佳文（主任研究員）、安倍雅史（主任研究員）、朽津信明（保存科学研究センター修復研究計画室長）、犬塚将英（同分析科学研究室長）	

【年度実績と成果】

○ミャンマーのバガン遺跡における 煉瓦造建造物外壁及び壁画保存修復技術に関して、3 年度はミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局（DoA Bagan）の職員を対象とした現地での技術指導を 2 回計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。この代わりとして、維持管理に係る助言をリモートで 6 回行った。また、これまでの活動成果の一部をまとめた書籍を出版した。

○スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査を実施した。3 年度は地中海沿岸地域での調査を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期し、欧州専門家とのリモートによる意見交換会を 3 回開催した。また、緊急事態宣言が解除された 10 月より、国内のスタッコ装飾を対象にした実地調査を行った。

○現行の壁画や石造文化財の保存修復方法にみられる問題点を見直し、新たな技法の開発を目的とした研究を行った。

スタッコ装飾に係る国内調査（山形県文翔館）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、コロナ禍等により現地での活動ができなかったミャンマーでの協力事業についても、リモートにより相手国機関の要望に応じた支援を的確に行うことができた。②独創性においては、現時点において保存修復手法が確立されていないスタッコ装飾及び塑像に関する研究調査を実施している。③発展性においては、今後さらに国内外の関連情報を専門家間で共有、検討することを通じて、知見の増大と保存水準の向上に資することが期待される。④効率性においては、国外の研究者とのネットワークを構築し、それぞれの国や地域における調査を分担しながら進められている。さらに、⑤継続性においては、コロナ禍においても調査研究の進展を図り、成果の発信も行うことができている。従って、当初計画に準ずる成果を挙げたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・(参考値) 学会発表 1 件（ア）、出版物 1 冊（イ）、論文発表 1 件（ウ）、報告書作成 1 冊（エ）	―

ア　学会発表『ミャンマー・バガン遺跡における複合文化財として捉えた煉瓦造寺院の保存修復』9月
イ　出版物『世界遺産ミャンマー・バガン遺跡　華麗なる壁画の世界』11月
ウ　論文発表『Organic Matter and Pigments in the Wall Paintings of Me-Taw-Ya Temple in Bagan Valley, Myanmar』12月
エ　報告書『スタッコ装飾及び塑像に関する研究』4年3月

中期計画評価	B
中期計画記載事項	諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN 諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	3 年度は、計画していた国外での活動を中止・延期するなど、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により大幅な計画変更を余儀なくされたが、リモートを活用した専門家との意見交換や国内における研究調査活動及び研究成果の出版や論文の発表を通じて一定の成果を示すことができた。これにより、文化遺産保存理念と技術の両面における研究推進と国際協力基盤の強化という中期計画の目標を遂行できている。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fｱ(ｱ)

中期計画の項目	(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ(ｱ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 （ア）アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマー、カザフスタン等における文化遺産について研究及び協力事業を実施する。
プロジェクト名称	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、杉山　洋（同客員研究員）	

【年度実績と成果】

○3年度は、2年度から引き続きカンボジア・アンコール遺跡群・西トップ遺跡の調査修復事業において中央祠堂の再構築作業を行った。3年度は中央祠堂躯体部の再構築を進めている。10月以降は遺跡周辺の再調査により新たな装飾石材が発見され、破風飾りの再構築を行った。

○成果としては、3年度もコロナ禍のため日本から現地へ渡航することが困難であったが、現地のカンボジア人スタッフが修復事業を着実に進捗させ、中央祠堂の再構築が最終段階に入ったことが挙げられる。日本・カンボジア間でオンラインでの技術的・事務的なミーティングを経れば、カンボジア人自身の手で文化財の修復を進めることが可能となっている。

○例年、年2回開催される国際調整委員会のうち、6月はキャンセルされ、4年3月には現地カンボジア調査員による発表を実施した。また例年、若手研究者を招聘していたが、今後コロナ禍が収まり次第、再開する予定である。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、必要な箇所の修復を適切な内容とタイミングで遂行できている。②独創性においては、アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復として国際的な評価を受けている。③発展性においては、新たな学術的な成果を得ていると同時に、カンボジア人研究者や修復に携わる作業員の人材養成の面においても今後の更なる発展が見込まれる。④効率性においては、作業内容・作業員の配置に関し、効率的な調査修復を行っている。⑤継続性に関しては、当研究所は平成5年度からカンボジアと共同研究を進めているが、西トップ遺跡における調査修復に関しても前中期計画からの修復を継続できている。今中期計画においてはテラス遺構と周辺の整備を行う予定であり、全体の継続性が保たれている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 国際技術調整委員会　4年3月実施 論文等発表実績　1件（ア）　学会、研究回答発表実績　1件（イ） 刊行物実績　2件（ウ、エ）	定量評価 －

（ア）佐藤由似、田村朋美 Research and Restoration Project of Western Prasat Top 『奈良文化財研究所研究紀要 2021』(7月)
（イ）佐藤由似、田村朋美 A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top, SPAFACON21 (12月)
（ウ）奈良文化財研究所『西トップ遺跡調査修復中間報告 11』(4年3月)
（エ）Nara National Research Institute for Cultural Properties 『Survey and Restoration of Western Prasat Top Interim Report 11』(4年3月)

中期計画評価	B
中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	中期計画期間の初年度として、事業は全体的に順調に推移している。カンボジアにおけるカウンターパートであるAPSARAとの協同によって、ユネスコ専門家委員からも高評価を得ていると言える。今中期計画では、引き続き西トップ遺跡の修復と整備事業を進めると同時に、報告書作成に向けた遺跡の調査を進展させるなどを予定している。以上より、当初の目標を十分に達成できていると判断し、B評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E7

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-7	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。 ア　政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）ほか国内外の諸機関等と連携し、紙文化遺産等に関する国際研修や国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産担当者と共有するとともに、協力ネットワークを構築する。
プロジェクト名称	国際研修	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人(技術支援研究室長)、五木田まきは、大川柚佳（以上、アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○「国際研修における IT 技術導入のための実証実験」の実施
- 日時及び場所：9 月 9 日～15 日、11 月 24 日～25 日、東京文化財研究所
- 主催：東京文化財研究所
- 内容：講義（伝統的接着剤、紙）、装潢修理技術実習（巻子修復）、ディスカッション

○上記実証実験に係る報告書の作成
- 内容：装潢修理技術実習（巻子修復）、ディスカッション

○国際研修「紙の保存と修復」評価アンケートの実施準備

○過去の研修運営資料のデジタル化

オンライン会議ツールを用いた実証実験の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、3 年度は新型コロナウイルスの影響により国際研修を開催できなかったが、IT 技術を導入した新たな研修方法を検討するため実証実験を実施した。②独創性においては、研修内容自体が当研究所の基礎研究及び調査成果に基づいており、他では企画できない独自のものである。③発展性においては、ライブオンラインでの実技実習の可能性と課題を明らかにし、今後に向けた知見を得、これを報告書を通じて共有した。④効率性においては、IT 技術を利用することで、今後の研修効果の向上につながる知見が得られた。⑤継続性においては、今後の継続あるいは関連研修の開催に向けて有意義な知見が得られた。以上のことから、3 年度も順調に事業を遂行できたものと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）実証実験参加者数：15 人、報告書：1 件	－

『国際研修における IT 技術導入のための実証実験』4 年 3 月（デジタル版のみ）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。
評定理由	ICCROM と共催の国際研修「紙の保存と修復」は、25 年以上にわたり内容及び運営方法を改善しつつ開催してきたが、3 年度は新型コロナウイルス対策のために開催できなかった。一方、コロナ禍の終息の目途が立たない中、オンライン化についての実証実験を実施し IT を活用した研修方法の検討を行った。ここで得た知見をもとに、4 年度以降の本事業の方向性検討を行えており、全体としては中期計画を遂行できていると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2313Fイ

中期計画の項目	(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。 イ　ユネスコ･アジア文化センター(ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** 加藤真二（企画調整部長）、○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、中村一郎（同写真室専門職員）	

【年度実績と成果】

3年度は、2年度に引き続きコロナ禍の影響のためACCUによる招聘・派遣研修事業がすべてオンラインへと変更となっている。

○9月 ACCU実施の「文化遺産の保護に資する研修2021（集団研修）考古遺跡の調査記録と保存活用」に対し、研究員10人がオンライン講義及びその資料を作成する協力を行った。

○10月 ACCU実施の「文化遺産の保護に資する研修2021（個別テーマ研修・インドネシア共和国)」に対し、専門職員1人がオンライン講義及びその資料を作成する協力を行った。

○11月 ACCU実施の「文化遺産の保護に資する研修2021「文化遺産ワークショップ」ミャンマー連邦共和国における研修」に対し、専門職員1人がオンライン講義及びその資料を作成する協力を行った。

オンライン講義

○12月 ACCU実施の国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」に対し、後援を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、ACCUが実施する研修事業等に対し、内容に応じて適切に協力を行った。②独創性においては、写真技術や考古学など当研究所の得意とする分野について講義動画の制作など独自性のある協力を行った。③発展性においては、アジア太平洋地域で求められている内容に対し、今後もACCUと連携して協力していくことを確認した。④効率性においては、研修や事業の性格に応じて異なるメンバーを派遣するなど効率的な協力を行った。⑤継続性においては、4年度以降も継続して協力を行う予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数　4件 ・諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度 集団研修　100% 個別テーマ研修　87% 文化遺産ワークショップ研修　100%	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。
評定理由	中期計画初年度として、事業の進行状況は全体的に良好であった。コロナ禍によりACCU研修事業がすべてオンラインになるなど、前中期計画からは変化が生じたが、適宜対応することができた。当研究所が有する文化遺産に関する専門知識を活かしながら、ユネスコ・アジア文化センター事業を通して、アジア太平洋地域の文化遺産専門家の人材養成へと多方面で協力することができた。今中期計画において、4年度以降も諸外国の文化遺産に対する活発な協力・支援を続けて行く予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2314E

中期計画の項目	2-(3)-①-4)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-4)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力 在外日本古美術品の保存修復に協力し、さらに成果を報告書等で公開することにより、日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業	
文化遺産国際協力センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○加藤雅人（技術支援研究室長）、清水綾子、片渕奈美香（以上、アソシエイトフェロー）、江村知子（文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長）、米沢玲（文化財情報資料部研究員）	

【年度実績と成果】

○作品修復事業を以下の通り実施した。
- モントリオール美術館（カナダ）所蔵　女房三十六歌仙貼交屏風　紙本金地着色　屏風6曲1双　修復中
- モントリオール美術館（カナダ）所蔵　熊野曼荼羅　絹本着色　掛軸1幅　修復中

○報告書を作成、刊行した。
- ナショナルギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　親鸞聖人絵伝　絹本着色　掛軸4幅　1件

○日本古美術品等を所蔵している諸外国の博物館等を対象にしたアンケート調査に着手した。

修復のための彩色材料調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス対策のために海外渡航が制約される中でも、着実に新規作品の修復に着手することができた。②独創性においては、日本美術品についての専門的な修復技術に関する知見と科学的手法を要し、かつ海外の保存修復の実情に関する知見をも必要とする本事業は、当研究所の特色を活かした事業であり、他では行われていない。③発展性においては、海外の博物館から引き続き本事業への参加意思表明及び日本古美術品の保存修復に関する照会があり、また各国で修復完了作品の活用も進んでいる。さらに成果を日英併記の報告書で発信したことで、日本の伝統的修復技術を広く国内外に伝えることができた。④効率性においては、限られた人員で修復及び修復経過報告を実施することができた。また、コロナ禍に対応し、オンラインを活用した所蔵館との打ち合わせ等を行った。⑤継続性においては、作品修復の要望のみならず、保存修復に関する助言要請など、海外の博物館美術館から常に需要があり、引き続きこれに応えることができている。

以上のことから、新型コロナウイルスの影響はあったものの、全体としては順調に事業を遂行できたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）報告書1件	－

『在外日本古美術品保存修復協力事業　親鸞聖人絵伝　No.2015-4』、4年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国が所蔵している日本古美術品等の保存修復に協力し、さらにその成果を英文報告書等で公開することにより日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
評定理由	前期中期計画期間中に修復を完了した作品の日文英文報告書による成果公開を行い、新規作品の受入、修復を、コロナ禍で海外との往来が困難な中でオンライン等も活用しながら行うことで、概ね予定通りに実施できている。協力ニーズやその具体的内容に関するアンケート調査では、修復候補作品を選定するための現地調査を視野に入れてコロナ禍の影響や各国の経済状況等の把握に努めるなど、今後の円滑な事業実施に留意している。これにより、中期計画を順調に遂行できている。

【書式Ｃ】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 2320G

中期計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
年度計画の項目	2-(3)-②	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究 ・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
プロジェクト名称	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	
研究担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○野嶋洋子（研究担当室長）、井上愛奈・佐々木一恵・山本倫未・大倉美恵子（以上アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

以下の事業を通じて、無形文化遺産保護及びそのための研究促進に貢献した。

(1) 無形文化遺産保護パートナーシップ事業(文化庁受託)(※詳細は処理番号 3320G-1 を参照)
　①アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する第 3 回 IRCI 研究者フォーラム
　②アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集
　③無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントについての研究

(2) 無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育とまちづくり（ユネスコ未来共創プラットフォーム事業)(※詳細は処理番号 3320G-2 を参照)

(3) 新型コロナ感染症の無形文化遺産への影響についての調査研究（文化財保存活用基金）
　・ 現地機関・研究者と連携した質問票調査の実施(対象国：フィジー、イラン、インド、韓国、キルギス、パプアニューギニア、モンゴル、インドネシア、バングラデシュ)(回答数 140 件(3 月 31 日時点))
　・ オンラインによる無形文化遺産実践者・コミュニティに向けた質問票調査の実施(4 年 1 月～2 月)(回答数 35 件)

(4) 情報公開等
　①『IRCI 概要 2021』日・英版作成
　② IRCI 10 周年アンケート調査

年度計画評価	A

【評定理由】

研究者フォーラム((1)①)、アンケート調査((4)②)では、IRCI 開設 10 周年を捉え研究の進展・課題を整理し次期中長期計画にも反映できたこと、また災害リスクマネジメント((1)③)、新型コロナウイルス((3))に関する事業は、緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できること、無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究((2))は国際的枠組である SDGs への貢献を目指すものであることから、①適時性及び②独創性をＡ評価とした。またこれらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きいこと、持続的研究情報収集((1)②)でも課題を整理できたことから③発展性についてもＡ評価とした。人員が限られているなか、国内外専門家や現地機関等との連携により効率的に活動を実施できたが、⑤継続性においては、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてあり、年度半ば頃まで採択の可否がわからない競争的資金に依存している状況もあることから、Ｃ評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	C

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）国際協力事業実施件数：5 件((1)-①②③、(2)、(3))、国際会議等開催件数：5 件、国際会議出席件数 8 件、刊行物 5 冊	-

中期計画評価	B

中期計画記載事項	アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。
評定理由	無形文化遺産の持続的可能な開発への貢献に関する研究においては、2 年度に引き続きバングラデシュ、インドネシア、キルギスの研究機関との連携のもと事例調査を継続し、事業のまとめとなる専門家会合・国際シンポジウムを開催し、SDGs の文脈における無形文化遺産に関する研究促進に大きく貢献した。また本シンポジウム及び研究者フォーラムともにコロナ禍の中、オンライン開催となったが、アジア太平洋地域内外から多数の研究者の参加を得ることができ、オンライン活用の可能性が広がった。 新型コロナウイルス及び災害リスクマネジメントに関する研究においては、アジア太平洋地域の研究者や研究機関からの積極的な関与が得られ、順調に調査研究事業を進めることができた。 以上の点から、中期計画の初年度として十分に計画を達成していると判断し、Ｂ評価とした。

中期計画の項目	2－(4)－①	文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1) 2-(4)-②-3)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。 ②調査研究成果の発信 3)ウェブサイトの充実
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備・充実	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（研究員）、安岡みのり（研究補佐員）、藤井糸子（研究補佐員）、横尾千穂（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

3年度はこれまでに構築してきた文化財情報基盤を利用しつつ、文化財情報の文化財保護への活用という視点からの調査研究及びデータベースの構築、文化財情報の利用及び発信のための一層の環境整備を実施した。

○調査研究及び成果公開

・文化財情報の収集、データベース構築やその活用に関連する調査研究を実施、論文や学会発表を通じて成果を公表した。併せて、プロジェクト「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」と連携し、光学調査の成果発信として東京国立博物館所蔵平安仏画ウェブコンテンツを4年3月31日に公開した。

・同上のプロジェクトと連携し9月21日には「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」を東京文化財研究所で開催、59人が参加した。また、4年度上半期開催予定の同セミナーでの講演を予定する博物館・資料館職員との事前協議を4年2月16日にオンライン開催した。

○情報蓄積・発信機能の強化

・「総合検索」として横断検索が可能なウェブデータベースを中心に、既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システムOracleによる所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。さらに、ソーシャルメディアによる情報発信を適宜実施した。

○ネットワーク環境の整備・充実

・これまで個別の物理サーバで運用されていたウェブサーバ等を仮想化基盤上に集約し、バックアップサーバの導入を行うなどネットワークの安定運用に努めた。また、テレワーク環境整備の一環としてウイルス対策ソフトをクラウド化した。

・各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換しセキュリティ水準の維持向上に努めた。また、個別認証の強化を目的にActiveDirectoryサーバを構築した。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、データベース構築・運用、高精細画像を主とした文化財のウェブコンテンツ公開は、我が国の文化財に関するオンラインでの情報発信として時宜に適ったものである。②独創性においては、ウェブデータベースはWordPressにより職員が開発した多様なデータベースの速やかな公開が可能なもので、ウェブコンテンツは最大で長辺96000ピクセルの超高精細画像を自由に拡大表示可能で、蛍光X線分析データの特徴と分析箇所のマクロ画像を連携して表示し、また全分析データの画面上でのソート、検索を可能とするなど独創性が高い。③発展性においては、横断検索可能で、データベースの相互連携も図られ、一層の発展が期待できる。④効率性においては、データベースやウェブコンテンツ構築を主に職員が実施することで業務を効率的に遂行できた。⑤継続性においては、ウェブサイトよる情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に実施した。よって、新型コロナウイルスの影響により一部計画変更も生じているものの、所期の計画のとおり、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
文化財に関するデータベースのアクセス件数：2,679,886件	①（実績値）データベースのアクセス件数　2,929,768件 ②（参考値）データベースのデータ件数 1,718,006件 ③（参考値）論文　1件 ④（参考値）発表　3件	B

③小山田智寛「『日本美術年鑑』所載物故者記事データベースの活用について　人名による検索と関連データの表示について」『デジタルアーカイブ学会誌』2021年5巻2号、pp.168-171、12月

④二神葉子「世界遺産条約の履行に関する最近の国内外の動向」令和3年度第6回文化財情報資料部研究会、11月30日　他2件

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成できている。引き続き、文化財情報の文化財保護への活用に関する研究を行うとともに、横断検索が可能な文化財情報に関するデータベースを構築、運用し、研究の実施・成果発信のための情報システムの整備を実施する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2411F

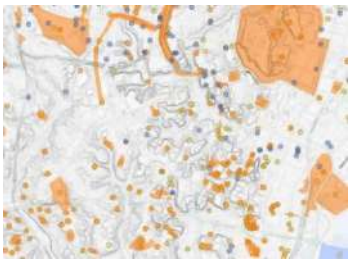
中期計画の項目	(4)-①-1)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）、Yanase, Peter（文化財情報研究室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、呉 修喆（文化財情報研究室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、扈 素妍（文化財情報研究室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

○文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データを入力・更新した。公開データベースを更新した。

○全国遺跡報告総覧の登録データ件数（括弧内は前年度件数）
PDF 数　31,089 件(27,761)、書誌登録数　113,050 件(88,067)、
遺跡抄録件数　139,393 件(135,663)

○全国の博物館等の文化財関係機関が作成している紀要論文等の情報を集約した「文化財論文ナビ」・「文化財総覧 WebGIS」を公開した。それぞれの既存の文化財報告書・文化財イベント・文化財動画・文化財論文と類似度を自動算出しており、関連コンテンツを自動提示できるようになった。文化財総覧 WebGIS は、全国 61 万件の文化財データを検索できる。



文化財総覧 WebGIS

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、最新のデータを提供して充実を図っている。国民から活発に利用され、文化財情報のインフラとして機能している。7 月に文化財総覧 WebGIS を公開した。全国の文化財に関するデータ 約 61 万件 をインターネット地図で閲覧できる。公開時は多数のメディアで取り上げられた。②独創性においては、全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、独自のデータ解析も提供している。③発展性においては、既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。全国の自治体や博物館など既に 1,335 機関が本事業に参加している。④効率性においては、自動入力チェック機能を実装し効率性を常に改善している。データ基盤の統合によって経済性・保守性を向上させた。⑤継続性においては、大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年に渡って実現している。定量的評価の観点においては、目標値を下回ってしまったものの、上記のとおり、内容豊かなデータベースとして著しく発展していることから、計画を上回る成果を出していると判断し、全体の評定をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・文化財に関するデータベースのアクセス件数 11,612,614 件	（実績値）（括弧内は前年度件数） 文化財に関するデータベースのアクセス件数 9,419,564 件（14,183,774 件） （参考値）（括弧内は前年度件数） 公開データベースの件数 32（30） 「文化財総覧 WebGIS」を新たに公開した。 全国遺跡報告総覧　登録データ件数：284,928 件(252, 410 件) 年間ダウンロード件数 1,971,911 件（2,320,607 件） 年間ページ閲覧数 99,974,779 件（78,707,144 件） 論文発表 20 件（ア）　口頭発表 8 件（イ）	C

ア論文 高田祐一「The Production, Preservation and Dissemination of Archaeological Data in Japan 」他 19 件
イ研究発表 高田祐一「60 万を超える地物の属性検索・描画に対応した文化財総覧 WebGIS の開発 」他 7 件

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	中期計画期間の初年度である 3 年度は、データベースを拡充するだけでなく、データ基盤の統合によって経済面及びセキュリティ面からもデータベースの質を向上させることができ、計画的な文化財情報基盤の整備を行うことができた。アクセス件数については目標値を下回ってしまったものの、「文化財総覧 WebGIS」を公開し、多数メディアでも紹介されたことから、今後広く公開データベースが活用されることが見込まれる。以上より、当初想定以上に中期計画を達成することができていると言える。4 年度以降も引き続き、多方面から整備を行い、ユーザーの利便性向上を進める。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2412F

中期計画の項目	(4)-①-2)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-2)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管及び公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。
プロジェクト名称	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）、絹川桂（文化財情報係主任）	

【年度実績と成果】

○データ長期保管

・災害が多発する日本において、データの安定的な長期保管は課題である。特に津波等においては、サーバなどの機器が消失する場合があり、バックアップが重要である。また災害時でも可用性を高めるためには、ストレージのクラウド化が有効である。当研究所では、3 年度にクラウドストレージを導入し、文化財データの長期保管の実践に向けた基盤構築に着手した。

○公開活用に関する法律研究

・研究報告第 34 冊『文化財と著作権』他を刊行した。文化財の利活用において、特にデジタル化の際には著作権について、課題整理が難しい場合が多い。原因は現場担当者では著作権への対応がわからないためである。そのため。問題となりうる著作権について専門家と課題整理を行い、整理した結果を取りまとめたものとなっている。当研究所研究員、弁護士、大学の法学部教授と作成し、リーガルチェックを経ているため、今後の実践的なガイドとして有用である。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、災害が多発する昨今の状況を鑑みて至急必要な実践研究である。②独創性においては、全国的な課題に取り組む当研究所ならではの研究であり、代表的な研究成果は全国に適用できる。③発展性においては、文化財データの長期保管や法律面の課題は、日本全国あるいは世界共通の課題となっており、実践を深めていくことで、国内外に大きな影響を与えることができる。④効率性においては、本研究成果は、文化財防災センターにも適用できるものであり、スケールメリットによって効率化できている。⑤継続性においては、文化財情報係図書担当と連携し、4 年度以降も継続して事業を継続するための基礎を確立できた。以上のように、当初計画以上の成果を上げていることからA評価とする。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 報告書刊行数：2 件（ア、イ）	定量評価 —

（ア）奈良文化財研究所研究報告第 34 冊『文化財と著作権』(3 月)

（イ）研究報告第 31 冊『考古学・文化財デジタルデータの Guides to Good Practice』

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	中期計画の初年度である 3 年度は、データ長期保管、公開活用に関する法律研究それぞれが持つ課題を整理し、解決するための基礎を構築することができた。特に公開活用に関する法律研究については、実践的なガイドとして研究報告を刊行するなど、中期計画初年度としては想定した以上の成果を上げることができており、4 年度以降も継続して成果を上げることが期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2413E

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①3)・4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。3)調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。
プロジェクト名称	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	
文化財情報資料部	○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（主任研究員）、安永拓世（主任研究員）、米沢玲（研究員）、小山田智寛（研究員）、寺﨑直子（研究補佐員）、尾野田純衣（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○全所的な文化財情報の発信：副所長を委員長とするアーカイブ WG を例年通り 4 回（4 月 21 日、9 月 27 日、12 月 23 日、3 月 23 日）開催し、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議を行った。

○当研究所が所蔵する昭和 30 年代の文化財調査写真を利用し、現代の画像技術を応用して、現在損傷を受けてしまっている、与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」の復原を、所蔵者の妙法寺（香川県丸亀市）と共同研究として開始した。調査撮影を行い、その成果の一部を口頭にて発表した。(11 月 5 日)

○文化財防災への活用も見据えて、文化財の情報収集、データベース入力、売立目録デジタルアーカイブの改良を行い、文化財アーカイブ機能を更新したほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」を作成、公開した。

○当研究所が所蔵する田中一松資料の調査ノートについて、オンラインによるシンポジウムを開催し、成果公開を行った。(1 月 8 日)

丸亀・妙法寺での調査の様子

○資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：感染症防止対策のため 2 年度に引き続き事前予約制により、週 1 回（11 月からは週 2 回）開室した。図書等の受け入れ和漢書 947 件、洋書 138 件、展覧会図録・報告書等 849 件、雑誌 2,465 件（合計 4,399 件）・閲覧室利用状況：公開日総数 69 日・年間利用者合計 570 人

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、オープンアクセス資料をさらに増加したほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」(1,400 件) を作成、ウェブ公開した点を高く評価した。②独創性においては、当研究所が所蔵する蕪村筆「寒山拾得図」の調査写真を活用し、最先端の画像形成技術を応用して独創的な共同研究を進めた点を高く評価した。③発展性においては、国内外の関係機関と連携して、予定を上回る成果公開を行い、発展的な取り組みを推進できた。④効率性においては、元年度より導入した図書館システムを活用し、図書等の入力作業と情報発信を効率よく行った。⑤継続性においては、当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業をコロナ禍の中、継続でき、質的な向上を達成できた。アーカイブ WG とも連動して、専門性・独自性の高い研究アーカイブの構築と活用を戦略的に推進した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・学会・研究会等発表　2 件（ア・ウ）　・報告　1 件（イ）	定量評価 —

ア　安永拓世「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」―画像資料を活用した復原的研究―」第 55 回オープンレクチャー、東京文化財研究所、11 月 5 日
イ　安永拓世「東京文化財研究所の写真資料から浮かび上がる与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」」『Tobunken News』 76、12 月
ウ　江村知子「田中一松資料にみるコレクション形成の足跡―個人コレクターとの親交」オンライン・シンポジウム「日本美術の記録と評価―美術史家の調査ノート」4 年 1 月 8 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	オンラインを活用して 公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた。中期計画初年度として、当研究所が行う文化財の調査研究とその成果を集約しつつ、データベースの継続的拡充を行い、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進したことにより、当初の目標を上回る成果をあげることができている。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2414F

中期計画の項目	2-(4)-①-4)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○井関信雄（連携推進課長）、渡 勝弥（文化財情報係員）、伊藤久美（事務補佐員）、山内章子（事務補佐員）、中西晶子（事務補佐員）、堀内千嘉（事務補佐員）、永岡美和（事務補佐員）、高原洋子（事務補佐員）志賀明美（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○資料の収集・整理・保管・提供

・収集・整理・保管については、例年どおり滞りなく実施した。提供については、2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した。資料室の予約フォームの利便性の向上について検討を行った。

購入図書	407 冊
寄贈図書	7,052 冊
雑誌	3,381 冊
一般利用者	217 人
利用冊数	2,536 冊
来館者複写件数	233 件
遠隔利用：複写受付件数	559 件
貸借貸出冊数	167 冊

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を継続して実施しつつ、閲覧可能な体制の維持に努めた。②発展性においては、利用状況カレンダーをより見やすく、修正・変更の利便性が高いGoogleカレンダーを採用することにより、利便性の向上を図った。③効率性においては、2年度導入した資料室の予約フォームのマニュアル作成に着手する等、より一層の利便性向上に取り組んだ。④継続性においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の緩和などにより、2年度と比較して利用者へのサービス提供が向上しており、予約無しで来室した利用者にも対応することができた。以上の観点から本事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値） ・資料閲覧室・図書資料室の開室日数　209 日 ・資料閲覧室・図書資料室の利用者数　217 人 ・文化財に関する資料・図書等の総件数　501,888 件	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	中期計画に掲げた目標の一つである資料の収集において、調査・研究のための二次資料の収集は予算削減等の理由により困難をきたしているものの、各自治体が発行する調査報告書は従来どおりに収集・整理・保管・提供を行うことができた。その他の目標については、本中期計画通りの安定した滑り出しを見せており、3年度は中期計画の初年度として十分な成果を得たといえる。4年度以降も文化財に関するアーカイブの拡充を継続的に行っていく。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2421E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』(年3冊) ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

・『東京文化財研究所年報』2020年度版
・『東京文化財研究所概要』2021年度版
・『東文研ニュース』年3回（74～76号）
・『美術研究』（434号）（8月）
・『美術研究』（435号）（12月）
・『美術研究』（436号）（4年3月）
・『令和元年版　日本美術年鑑』（5月）
・『無形文化遺産部研究報告』15号（4年3月）
・『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』（4年3月）
・『保存科学』61号（4年3月）

保存科学第61号の表紙

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、『美術研究』で論文翻訳により海外での最新研究動向を紹介できたこと、『日本美術年鑑』において近年の動向をきちんとまとめて報告した点が評価される。②独創性においては、『美術研究』434号の田中潤論文で大礼と儀式に必要となる装束の歴史関係について報告した点、435号江村知子論文で新出資料を報告できたことなどが上げられる。③発展性においては、『保存科学』が冊子体とあわせて機関レポジトリから公開されており、国内外から盛んに利活用されている点が評価できる。④効率性においては、『保存科学』が年内論文を受け付けているが投稿から査読を経て発刊までを約3か月の短期間で行い、一般的な学術雑誌と比べても迅速に成果公開がなされている点が評価できる。⑤継続性については、『美術研究』は昭和7年以来、『日本美術年鑑』は昭和11年以来続けてきた刊行を、元年度版も継続実施した点が評価される。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・日本美術年鑑　1点（①） ・美術研究　3点（②）	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由及び今後の見通し	中期計画初年目となる3年度も所期の計画通り、各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。4年度以降も、学術誌としての一定の水準を保ちながら、また当研究所の事業内容を一般に広報する上でも有益な内容の報告書となるよう今後とも努める予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2421F

中期計画の項目	(4)-②-1)2)3)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)2)3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行　2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 3)ウェブサイトの充実
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○井関信雄（連携推進課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、 渡　勝弥（連携推進課）ほか	

【年度実績と成果】

1) 定期刊行物の刊行
・奈良文化財研究所概要 2021　11 月刊行、2,000 部　・奈良文化財研究所紀要 2021　7 月刊行、2,600 部
・奈文研ニュース「No.81」6 月,「No.82」9 月,「No.83」12 月,「No.84」3 月,各 2,200 部
・埋蔵文化財ニュース「No.186」11 月 1,900 部
2) 現地説明会等
・10 月 2 日藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 208 次)現地見学会　於　橿原市醍醐町（参加者 619 人）
・10 月 9 日興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第 640 次）現地見学会 於　奈良市登大路町(参加者 949 人)
3) 講演会
・第 126 回公開講演会　演題：「古代の人形を読み解く」「都市ヨークにおける初期中世装飾石彫の製作」　講演者：浦、岩永
新型コロナウイルス感染拡大防止のため平城宮跡資料館講堂での定期講演をとりやめ、なぶんけんチャンネルで 6 月 25 日～6 月 28 日の間配信した。(視聴数：976 件)
・第 13 回東京講演会　開催日：10 月 23 日　於　有楽町朝日ホール
タイトル「特別史跡山田寺跡－史跡指定 100 年－」　講演者：内田、清野、箱崎、林、西田、本中
実地での開催に加え、ライブ配信用の特設サイトを設け講演会をリアルタイムで配信した。(来場者数 135 人,オンライン参加者数 358 人)
・第 127 回公開講演会　開催日：11 月 13 日　於　平城宮跡資料館講堂
演題：「神々の住まいの内装－石清水八幡宮本殿の室礼（しつらい）について」、「どうして古墳の副葬品は現代まで残るのか？－模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討」　講演者：山崎、柳田（来場者数 84 人）
実地での開催に加え、なぶんけんチャンネルにて講演会を配信した。(視聴数：1,310 件)
4) シンポジウム
・12 月 17 日～18 日　第 25 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷 2」(古代集落を考える 2)（参加者 125 人）
・4 年 2 月 5 日～6 日　第 21 回古代瓦研究会シンポジウム（参加者 165 人）
5) ウェブサイトの充実
・なぶんけんチャンネルを開設以来、年に十数本の動画を公開し、すでに 91 本の動画を公開するに至った。巡訪研究室、コラム作寶樓も引き続き公開した。(視聴数（オンライン）：101,353 件)

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、調査研究成果を適時に刊行し、現地説明会開催、講演会開催の情報についてウェブサイト上に公開し情報発信を行った。②独創性については、調査研究内容の新規性及び卓越性を持たせ発信することができた。③発展性については、個々のデータベース登録数も増え、多様なブログ、コラム等を更新することによりウェブサイトの内容を充実させた。また、当平城宮跡資料館の展示物を多元的に発信するために、ウェブサイト上に奈良文化財研究所収蔵品データベースを開設した。④継続性については、定期刊行物、講演会、ウェブサイト公開など従来から継続的に実施し、恒久的な提供が認められる。講演会等は、第 126 回公開講演会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催方法をなぶんけんチャンネルによる配信に変更し、コロナ禍における新たな研究成果の発信に取り組むことができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・定期刊行物等の刊行件数　7 件　・講演会等の開催回数　7 回 ・講演会等の来場者数　2,145 人 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数　7,454 件	定量評価 －

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由	定期刊行物及びウェブサイトにおいては調査研究の成果等を公表するものとして、計画通り順調に刊行や更新ができた。また第 126 回公開講演会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催方法をなぶんけんチャンネルによる配信に変更し、コロナ禍における新たな研究成果の発信に取り組むことができた。以上を含めて、今中期計画期間の初年度として、2 年度目以降の今中期計画遂行における基盤となる事業を実施できたと判断し、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2422E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-2)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー）
プロジェクト名称	オープンレクチャー（調査･研究成果の公開）	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、小野真由美（主任研究員）、吉田暁子（研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○11 月 5 日、一般から聴講者を募集し、オープンレクチャーを開催した。中期計画初年度にあたり、大テーマを新たに「かたちを見る、 かたちを読む」とし、新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、内部講師 2 名による 1 日の開催としたほか、聴講者定員を抽選制として絞って行った。

○当研究所・文化財情報資料部より 2 名の講演を行った。講演テーマは次の通りである。

・文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長・小林達朗「皆金色阿弥陀絵 像の出現とその意味―転換期の時代思潮の表象」

・主任研究員・安永拓世「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」―画像資料を活用した復原的研究―」

○外部からの聴講者 34 人を得た。

オープンレクチャーの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性、④効率性においては、感染防止の観点から、定員を絞って抽選制とし、検温や消毒などの防止策を徹底した。結果、定員の 4 倍近くの応募があったが、34 人の参加をみた。参加者からのアンケート結果では、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて 85%の回答を得ることができ、時宜に適った講演テーマにて実施できた。②独自性においては、未発表の最新の研究成果を、新知見を織り交ぜて公開することができた。③発展性においては、いずれの講演も今後の調査研究による進展が期待されるものであり、そうした発展的成果を公開することができた。⑤継続性においては、研究所において長年継続して開催しているものであり、継続性を有しているといえる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・講演会の開催回数　1 回	定量評価 ―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由	今中期計画初年度にあたるプロジェクト事業を達成できた。3 年度はオープンレクチャーの新たなテーマとして「かたちを見る、かたちを読む」とし、所員 2 人による発表は、造形美術にまつわる様々な要素をひもときながらその真の姿に迫るというテーマに則した内容で、参加者からも好評を得た。2 年度同様、コロナ対策も十全に行い、無事に終えることができた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2431F

中期計画の項目	(4)-③-1)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-1)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展
プロジェクト名称	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○加藤真二（企画調整部展示企画室長～6 月 30 日）○岩戸 晶子（同　7 月 1 日～）、○石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）ほか	

【年度実績と成果】

(1)平城宮跡資料館

・春特別企画展第一部「平城宮跡保存運動のさきがけ－大極殿標木建設式 120 周年－」
　（4 月 29 日～6 月 27 日）（9 日間（※）、688 人）。関連動画 1 本配信。
・春特別企画展第二部「大地鳴動－大地の知らせる危機と私たちの生活－」
　（4 月 29 日～6 月 27 日）（9 日間（※）、688 人）。
・夏企画展「奈良を測る－森蘊の庭園研究と作庭－」
　（8 月 7 日～9 月 12 日）32 日間・1,157 人）関連動画 2 本配信。
・秋特別展「地下の正倉院展－木簡を科学するⅡ－」
　（10 月 9 日～11 月 7 日）（26 日間・6,310 人）。関連動画 1 本配信。
・冬企画展「発掘された平城 2020・2021」（4 年 2 月 11 日～3 月 27 日）（45 日間・　4,167 人）

(2) 飛鳥資料館

・ミニ展示「新収蔵品紹介－「呉」と書かれた瓦」（4 月 23 日～5 月 1 日）（8 日間（※）・535 人）。
・夏企画展「第 12 回写真コンテスト作品展　「飛鳥の木」」
　（7 月 16 日～9 月 12 日）（51 日間・2,112 人）応募 160 点。
・秋特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」
　（10 月 15 日～12 月 19 日）（57 日間・7,353 人）。
・冬企画展「飛鳥の考古学 2021」（4 年 1 月 21 日～3 月 13 日）（45 日間・2,588 人）

（※）両資料館とも新型コロナウイルス対策のため 5 月 2 日～6 月 20 日を臨時休館とした。

(3) 藤原宮跡資料室

・常設展示に加え、ロビーにて「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）」、「石神遺跡 SD1347・1476 出土土器（石神遺跡第 8・9 次）」（10 月 1 日～3 月 31 日）を実施。
　※新型コロナウイルス対策のため、5 月 1 日～6 月 20 日を臨時休館とした。

平城「奈良を測る」展

飛鳥「屋根を彩る草花」展

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性では、平城宮跡資料館にて平城宮跡の保存のきっかけともなった大極殿標木建設式 120 周年にあわせ、初期の平城宮跡の保存運動を紹介した。これは 4 年度の平城宮跡史跡指定 100 周年関連企画のプロローグでもある。②独創性では、飛鳥資料館の「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」は、飛鳥時代を特徴づける瓦のさまざまな文様とそのルーツ・変遷に迫る内容であり、飛鳥資料館ならではの企画であった。会場の造作も好評であった。③発展性では、平城宮跡資料館の展示に関する動画を 4 本作成し、動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて配信し、今後の展示活動への動画の活用について礎を構築することができた。④継続性においては、各館の特別展・企画展は、ほぼ定期で継続的に実施するが、毎回新たな内容で行っている。平城宮跡資料館の「地下の正倉院展」は 15 回、『発掘された平城』は平成 13 年から継続的に開催している。飛鳥資料館の「写真コンテスト」は 12 回を数え、「飛鳥の考古学」は平成 18 年度以来継続して開催している。定量評価は、平城宮跡資料館では、特別展・企画展満足度アンケート 90%、飛鳥資料館では、83.7%であった。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	A	B	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1) 平城宮跡資料館　特別展・企画展満足度アンケート 85% (2) 飛鳥資料館　特別展・企画展満足度アンケート 85%	(実績値)　(1)平城宮跡資料館特別展・企画展満足度アンケート　90% (2)飛鳥資料館特別展・企画展満足度アンケート　83.7% (参考値)　(1)平城宮跡資料館　入館者数 25,264 人、開催日数 265 日 刊行物等発行実績　3 件（ア～ウ）、特別展・企画展など 5 回 (2)飛鳥資料館　入館者数 17,363 人、開館日数 263 日、 刊行物等発行実績　2 件（エ、オ）、特別展・企画展など 4 回 (3)藤原宮跡資料室　入館者数 5,226 人、開館日数 308 日	B

ア『森蘊の世界－奈良・平安の庭を求めて－』（『奈良を測る－森蘊の庭園研究と作庭－』展図録　変形サイズ 198×220 フルカラー 60 ページ 6 月 30 日発行）
イ『地下の正倉院展－木簡を科学するⅡ－』（A4 判フルカラー 16 ページ 10 月 9 日発行）
ウ『発掘された平城－2020･2021－』（A4 判フルカラー 8 ページ　2 月 11 日発行）
エ飛鳥資料館図録第 74 冊『屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様』（A4 判フルカラー76 ページ　10 月 15 日発行）
オ飛鳥資料館カタログ第 38 冊『飛鳥の考古学 2021』（A4 判フルカラー28 ページ　1 月 21 日発行）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、「新しい生活様式」を踏まえつつ、解説ボランティアを育成し、その活動を支援する。
評定理由	新型コロナウイルス対策のための臨時休館、入館者数の減少などがあるが、年度内に 4～5 回の特別展、企画展を実施するなど、中期計画初年度の 3 年度においても研究成果の公開施設の役割を果たした。また、ウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進し、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が 88%であった。このため、事業は順調に推移していると判断し、A評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2432F

中期計画の項目	(4)-③-2)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-2)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 2)定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○井関信雄（連携推進課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、岩井靖子（連携推進課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

1) 解説ボランティアに関する会議
- 平城宮跡解説ボランティア懇談会の開催（研究部と事務部が一体となったボランティア活動を検討する会議、毎月 1 回、計 11 回開催）
- 平城宮跡解説ボランティア連絡会議の開催（解説ボランティア班長と当研究所職員によるボランティア活動の確認、活性化、改善等を検討するための会議、毎月 1 回、計 11 回開催）
- 平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク、奈良県（平城京 再生プロジェクト）、国交省（平城宮跡管理センター）、当研究所の 4 者で行う国営飛鳥歴史公園内のボランティア活動等の情報共有、意見交換を行う会議：2 か月に 1 回、計 6 回開催）

2) 平城宮跡解説ボランティア活動再開に向けての準備
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため平城宮跡解説ボランティア活動を中止していたが、9 月 14 日開催の平城宮跡解説ボランティア懇談会において自治体の方針・要請を踏まえた活動再開の目安を具体的に定めた。その定めた再開目安の各条件を満たしたことにより、4 年 4 月活動再開に向けて、ボランティア各自の活動継続の意向調査を行い、結果 129 人のボランティア活動継続希望者があり、継続希望者に対して活動再開に向けて研修の準備を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、解説ボランティアへの当研究所からの最新の情報提供、解説ボランティアからの改善等の意見を随時取り入れるための研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催し、ボランティア活動再開に向けて「平城宮跡解説ボランティア活動再開目安」を策定した。②独創性については、2 年度の当研究所の研究成果を記載している「奈良文化財研究所紀要 2021」を全ボランティアに送付し、解説ボランティアの資質向上を図った。③発展性については、ボランティア懇談会において解説ボランティアからの意見を随時取り入れるようにすることにより、活動の活性化や運用改善が進められた。④継続性については、ボランティア連絡会議を定期的に開催し、ボランティアとの意思疎通を引続き行った。また、平城宮跡解説ボランティア懇談会において定めた再開目安の各条件を満たしたことにより、4 年 4 月活動再開に向けて、ボランティア各自の活動継続の意向調査を行い、129 人のボランティア活動の継続希望者があり、継続希望者に対して活動再開に向けた研修を行い活動が順調に進んでいると判断した。なお、3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から解説ボランティアが実際に解説活動を行うことは叶わなかったが、新型コロナウイルス収束後の活動再開を見据え、必要と考えられる対応策は全て実施したところであり、所期の目標を達成したと考える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・解説ボランティア登録人数：129 人 ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：0 人 ・解説活動日数：0 日	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、「新しい生活様式」を踏まえつつ、解説ボランティアを育成し、その活動を支援する。
評定理由	3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために解説ボランティアの活動自体を休止し、併せて対面での研修や会議の開催は見送ったが、活動再開に向けての目安を定め、ボランティア連絡会議を開催し、継続的にボランティアの育成と意思疎通を図るなど、中期計画の初年度として、必要な対応を講じることができた。以上を含めて、事業を順調に進められていると判断し、B評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2511E

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○秋山純子（保存環境研究室長）、建石徹（保存科学研究センター長）、相馬静乃（研究補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○第1回博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）を実施した（7月5～9日、受講者16人）。

これまでは文化財活用センターと東京文化財研究所とで共同で開催してきたが、3年度から基礎的な内容は文化財活用センターが博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）として実施し、上級コースはより実践的な内容の研修として保存科学研究センター等が行った。研修内容は次のとおりである。文化財の科学調査（分析科学研究室）、生物被害対策（生物科学研究室）、屋外資料の劣化と保存（修復計画研究室）、保存環境に関する講義と実践（保存環境研究室）、修復材料の種類と特性（修復材料研究室）、多様な文化財の保存と修復（修復技術研究室）、文化財修理の実務（文化庁）、博物館の防災（文化財防災センター）。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、参加者から有益と評価された。
・2年度に実施した第37回博物館・美術館等保存担当学芸員研修の研修効果について、受講生の所属長宛にアンケートを実施した。

研修の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス対策のため、講義、実習方法を検討したうえで開催した。②独創性において、これまで実施してきた研修から上級コースの必要性を明らかにした上で、当研究所の特徴を生かした保存・活用についての多様な講義を実施し、研修の効果を確認することができた。③発展性においては、上級コースとして新たな研修を当研究所における最新の調査研究に基づく講義や博物館の防災といった時勢を踏まえた講義も実施した点を評価した。④効率性においては、上級コースとして2週間から1週間へと凝縮したことで効率よく開催でき、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができた。⑤継続性について、地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存の意識を高めることができた。よって、所期の計画通り、効率的に事業が進められたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
(1) アンケートによる研修成果の活用実績80%以上	(実績値) (1) 研修成果の活用実績100% (参考値) (1) 実施件数　1件 (2) 受講者数　16人	A

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	5か年計画の1年目にあたり、新たに上級コースとして実施することができた。受講者向けのアンケートでは概ね有益であるという評価を得た。中期計画では文化財活用センターは基礎的内容、当研究所は応用的内容の研修を独自に主催することになっており、3年度の研修によって4年度以降の課題も見えてきた。4年度以降は3年度の研修を踏まえて、募集方法、講義・実習内容を検討し、実施する予定である。以上の理由から、中期計画の5か年の1年目を有益に遂行できたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2512F

中期計画の項目	(5)-①-2)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-2)	①文化財に関する研修の実施 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部長兼企画調整室長）、林洋平（総務係長）　ほか	

【年度実績と成果】

○新型コロナウイルス対策として規模を縮小（定員 10 名）した上で研修を実施した。

①古文書歴史資料調査基礎課程	5 月 31 日～6 月 4 日	10 名
②土器・陶磁器調査課程	6 月 14 日～6 月 18 日	10 名
③建築遺構調査課程	6 月 21 日～6 月 25 日	8 名
④近現代建築保存活用課程	7 月 5 日～7 月 9 日	10 名
⑤木質文化財の科学的調査課程	7 月 13 日～7 月 16 日	4 名
⑥遺跡調査技術課程	9 月 27 日～10 月 1 日	10 名
⑦保存科学木製遺物課程	10 月 11 日～10 月 19 日	10 名
⑧遺跡 GIS 課程	11 月 15 日～11 月 19 日	30 名（うちオンライン参加 21 名）
⑨文化財写真課程	11 月 22 日～12 月 3 日	8 名
⑩報告書編集基礎課程	12 月 13 日～12 月 17 日	10 名
⑪報告書デジタル作成課程	12 月 20 日～12 月 24 日	10 名
⑫史跡等保存活用計画策定課程	4 年 1 月 18 日～1 月 24 日	9 名
⑬文化財三次元計測課程	4 年 1 月 27 日～1 月 28 日	10 名

○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 13 課程の研修を実施し、延べ 139 人が受講した。

○⑧遺跡 GIS 課程においては、新たな試みとして実地と併せオンラインでも研修を実施し、30 名の受講者があった。

○研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており充実した研修が実施できた。

○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を 2 月～3 月に実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、史跡等保存活用計画策定課程、遺跡 GIS 課程など、公共性、緊急性が高い研修を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。③発展性においては、最新の知見・技術の紹介を講義に盛り込み、全国的な水準向上に対応した。④効率性においては、基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を達成して実施した。また、遺跡 GIS 課程などにおいては、オンラインによる講義を積極的に実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 10,939 人となった。⑥定量的評価の観点においては、講義・実験室の密をさけるため、対面での講義の定員数を 10 名以下に限定したが、逆にかなり深く掘り下げた講義が実施でき、研修成果の活用状況も 100%となり目標を達成し、Ｂ評価となった。以上のとおり、所期の目標を達成したため、年度計画評価をＢとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】		定量評価
・研修成果の活用状況 80%	（実績値）・研修成果の活用状況	100%	B
	（参考値）・研修の実施件数	13 課程	
	・研修の受講者数	139 人	

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	定性評価については、いずれの観点もＢ以上で、特に、独創性、発展性ではＡと評価できた。また、定量評価については、研修に対する満足度 100%で目標を達成し、件数も予定の 13 課程を全て実施し、新型コロナウイルスの影響により実施できない課程があった 2 年度から大幅に増えた。以上のことから、本中期計画期間初年度として十分に計画を達成していると判断し、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（部長）、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、二神葉子（文化財情報研究室長）、橘川英規、安永拓世（主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

1.文化庁アートプラットフォーム事業によるデータベース「日本の画廊調査　1945年以降（仮称）」の公開に向けた効率的な画廊情報の収集支援
2.文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言
3.熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言
4.国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、及び同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言
5.国際交流基金・欧米ミュージアム基盤整備支援事業評価委員として欧米の美術館の活動に関する検討での助言
6.八尾市史の編纂に関する助言
7.田辺市立美術館での講演
8.和泉市立久保惣記念美術館での講演
9.九州大学主催国際シンポジウムでのパネリスト
10～28.以下、文化財調査に関する協力・助言
犬山城白帝文庫、茨木市立文化財資料館、春日大社、岐阜市歴史博物館、慶應義塾大学ミュージアム、角屋もてなしの文化美術館、甲賀市教育委員会、東京大学総合図書館、徳川美術館、南蛮文化館、白鶴美術館、兵庫県立考古博物館加西分館、広島県立美術館、大和文華館、和歌山県立博物館、田辺市立美術館、逸翁美術館、馬事文化財団、和泉市立久保惣記念美術館

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、適時及び適切な指導・助言を行うことができた。②独創性及び③発展性においては、スタッフの有するスキル・専門性を存分に活用し、他機関ではできない当研究所独自の指導・助言を実施できた。④効率性においては、担当を分けることによって、専門性の高い指導・助言を実施した。⑤継続性においては、八尾市史の編纂に関する助言をはじめ継続的に実施しているケースにおいて、指導・助言を通して高い信頼関係を築くことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・指導・助言28件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	文化財情報資料部に要請された様々な文化財に関する事項を、適時、継続的に、スタッフの有するスキル・専門性に基づいて協力し、適切な指導・助言を行ったので、Bと判断した。4年度も引き続き、外部からの要請に対して協力・適切な指導・助言を行っていきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○早川泰弘（部長）、石村智（音声映像記録研究室長）、久保田裕道（民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第６部会音楽小委員会に関する助言１件
・文化庁への文化審議会に関する助言４件
・文化庁への各種委員会への助言３件
・文化庁への審査に関する助言６件
・文化庁への調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言１件
・山形県への文化財保護審議会・文化財保存活用大綱策定作業部会に関する助言２件
・千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言１件
・東京都、東京邦楽器商工業協同組合及び東京都民俗芸能大会実行委員会への助言２件
・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言１件
・山梨県への文化財保護審議会に関する助言１件
・島根県への古代文化センターに関する助言１件
・沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言１件
・静岡市への文化財保護審議会・民俗文化財調査に関する助言３件
・武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言１件
・草津市への青花紙保存継承懇話会専門家委員としての助言１件
・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議に関する助言１件
・西条市への石鎚黒茶委員会に関する助言１件
・国立歴史民俗博物館への共同研究への助言２件
・日本芸術文化振興会への審査、公演事業及び普及事業に関する助言３件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言３件
・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞に関する助言１件
・一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画に関する助言１件

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化庁や地方自治体と協力してコロナ禍における実態調査などを行い、その成果が無形文化遺産保護の施策に反映された点で評価できる。②独創性においては、無形の文化財を扱う国内唯一の研究機関として、様々な調査研究に基づく独自の視点から文化財行政等に対する指導・助言ができている点が評価できる。③発展性においては、コロナ禍における問題点の把握や、新たな文化財保護政策に基づく助言など、常に新しい情報収集とそれに基づく指導・助言を実施できている点が評価できる。④効率性においては、各分野に適した研究員が少人数で対応できている。⑤継続性においては、無形文化遺産に関わる省庁、地方行政、関連法人等からの依頼に対して、継続的に指導・助言を行うことができている。以上の点から、定性評価として十二分な評価ができると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）助言 41 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	２年度から対面の会議や調査は減少しているが、数的にはほぼ例年通り、多様な助言依頼に対応できている。助言による先方への協力のみならず、無形文化遺産をめぐる現状と課題のための情報収集にも大変貢献できている。以上より、中期計画を順当に遂行できていると判断し、Ｂ評定とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）	

【年度実績と成果】

○これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

○主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。

○対応件数は合計で 36 件あり、電話、電子メール、WEB 会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い現地の問題解決に努めた。

○相談内容は、虫菌害の同定相談から殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、屋外の木造建造物の甲虫害、遺構や古墳などでのカビ発生、藻類の発生など生物種を問わず多岐にわたる相談があった。特に木造建造物の甲虫害については相談件数が多く、一年を通して対応が必要な案件もあった。

木造建造物の甲虫被害

○現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を 5 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価行った。①適時性においては、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、35 件以上の要請に対して迅速かつ適切に対応することができた点を高く評価した。②独創性については、文化財の虫害・カビ被害について経験を有するそれぞれの専門がいる点で他機関にはない独自性があると判断した。③発展性については、虫菌害の現状を把握することで基礎研究課題を発掘できる点に発展性があると判断した。④効率性については、限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、短期間で現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。⑤継続性については、毎年度多くの相談案件に対し、継続して対応することができており、問題解決までは年度を超えて対応している点が評価できる。よって、当初の計画の通り、継続的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・協力・助言実施件数 36 件 ・研修等講師対応件数 5 件	―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画に沿い、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。生物被害は緊急性を要することが多く相談案件への対応と通常業務との調整が困難である場合が多いが、優先して取り組むことができた。本業務の重要性からも、今後はより効率化を試みる必要がある。同時に、生物被害に関する相談案件の絶対数を減らしていくために、啓発普及活動を継続して取り組んでいく必要がある。以上の理由から、中期計画の初年度として順調に業務が遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-4

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、建石徹（センター長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、芳賀文絵（研究員）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○3 年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、国宝東照宮東西廻廊、国宝キトラ古墳壁画、国宝教王護国寺五重塔、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、史跡吉見百穴、史跡築瀬二子塚古墳、史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡、重要文化財通潤橋、重要文化財旧志免鉱業所竪坑櫓、重要文化財氷川丸、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財頼賢碑、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財松浦武四郎関係資料、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財祇園橋、重要文化財輪王寺相輪樘、重要文化財那谷寺本堂、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財金剛峰寺奥院経蔵、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、熊本県内被災古墳。

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、川崎市民ミュージアム、東京都第５福竜丸、航空協会航空関連紙資料、長崎県史跡日本二十六聖人殉教地、富山市大山恐竜足跡化石群、栃木市星野遺跡、航空協会航空関連紙資料、東京都公文書館所蔵資料、智積院建造物建具彩色修理。

図．臼杵磨崖仏での接着剤選定試験

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、自然災害などによって被災した文化財に適切に対処しており、社会の要請に的確かつ速やかに応えることができた。②独創性においては、これまではあまり協力対象とされていなかった天然記念物などの様々なカテゴリの文化財に対して適切に協力や助言を行うことができた点を高く評価した。③発展性においては、現在修復事業が行われている現場への協力を行っており、発展性が期待される。④効率性においては、オンラインで指導助言や会議出席を試みることで効率化が図られた。⑤継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に 3 年度も継続して寄与してきた。よって、総合的に順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）指導・助言件数　49 件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	新型コロナウイルス感染症の影響下でもオンラインシステムを用いるなどして、様々な対象に対して協力を行った。また、従来のように美術工芸品と建造物に偏ることなく、天然記念物など、様々な範疇の文化財に関わる機会が増えてきている。以上の理由から、中期計画の初年度として順調に進行しているといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-5

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（副所長）	

【年度実績と成果】

3年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラによる材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査
・板絵（法明寺、4月）、・画材（秋田県立近代美術館、4月）、・建造物（伊豆の国市、6月）、・日本画（絵金蔵保存会、5-6月）、・歴史資料（高萩市、7月）、・漆工品（東慶寺、7月）、・日本画（筑波大学、8月）、・能装束（関市（東京国立博物館寄託品）、8月）、・日本画（法華寺、9月）、・漆工品（東京国立博物館、9月）、・能装束（関市、10月）、・青銅製資料（多治見市、10月）、・工芸品（札幌大学、10月）、・山車の装飾部材（那須烏山市、11月）、・目地材（目黒区、3月）
○構造調査
・甲冑（刈谷市、4月）、・骨壺（佐倉市、9月）、・考古資料（明治大学、11月）、・漆工品（東慶寺、11月）、・甲冑（日本甲冑武具研究保存会、3月）

日本画の材質調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先からの要請に迅速に応じて、材質調査・構造調査を実施した。調査後は調査報告書を作成し、文化財の材質・構造に関する助言を行った。②独創性においては、顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析、可視分光分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査内容の検討を行った。③発展性においては、ハイパースペクトルカメラを用いた調査も本格的に開始し、有機化合物を主成分とする彩色材料等の分析を従来よりも詳細に行えるようになった点を高く評価した。④効率性においては、設置方法の改良を重ね、材質・構造調査の効率が向上した。⑤継続性においては、20年以上にわたる調査実績を有し、他所を凌駕する精度の調査結果を継続的に報告している点を高く評価した。よって、所期の計画通り、効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）調査・助言件数　20件	定量評価
		―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の初年度である3年度は、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。3年度からは、ハイパースペクトルカメラを用いた反射分光分析及びその2次元マッピングによる調査を本格的に開始し、従来と比較して新たな切り口から分析データの蓄積を進めている。以上の理由から、中期計画の初年度として、順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-6

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○秋山純子（保存環境研究室長）、建石徹（保存科学研究センター長）、水谷悦子（文化財防災センター、(併）東文研）	

【年度実績と成果】

○国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査の相談窓口は文化財活用センターに一本化されたが、引き続き文化財活用センターと協力しながら、当研究所では公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、相談内容に応じて環境測定等を実施した。

○2 年度から引き続き、新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒用薬剤等による文化財への影響と消毒薬剤の選択について、文化庁・文化財活用センター・当研究所保存科学研究センターの三者で協力し、その対応に当った。文化庁からの依頼により、公開承認施設会議で「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業に係る対応について」と題して報告し、博物館等における消毒について質問に回答した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、現場のニーズがきわめて高い新型コロナウイルス対策における消毒に対し、様々な状況に応じた援助・助言を行うことができたため、A評価とした。②独創性においては、一時保管場所における空気質の発生源を調査し、空気清浄化に向けた環境改善のための援助・助言を行うことができた。③発展性においては、空気質改善のための換気について確認し、次につながる換気方法を検討することができた。④効率性においては、多岐にわたる相談に対して、文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターとで協力して対応できた。⑤継続性においては、今後改修予定のある館からの相談に対し、改修前後の環境の検討を要する案件を継続して対応した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・保存環境に関する相談対応　23 件 ・新型コロナウイルスに関する相談対応　17 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	新型コロナウイルス対応の消毒に関する報告を公開承認施設会議で行うことで、全国の文化財保存施設等からの問い合わせに援助・助言することができた。当研究所に問い合わせのあった環境調査の依頼についても援助・助言することができた。4 年度においても、保存環境研究の一環として、様々な環境事例への対応・調査を進め、調査研究成果の発信を積極的に行う予定である。以上の理由から、中期計画の 1 年目を順調に遂行できたといえる。

【書式C】　施設名 文化財活用センター　処理番号 2521E-7

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	
文化財活用センター保存担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○吉田直人（保存担当課長）、間渕創（研究員）、木下美緒（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

・国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（163 件）。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った(21 件)。
・新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と直接協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った（9 施設）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。適時性においては、3 年度は、近年顕在化している空気環境の問題と改善に関する相談件数が多く、個別事情に応じた対応に努めた。発展性においては、環境改善への協力において、複数の手段を講じ、比較することにより、より良い方法の探求を行った。効率性においては、必要に応じて、電話やメールでのやり取りと、現地調査を使い分け、個々の事情や緊急性に勘案した対応に努めた。継続性については、提示した改善方法での経過追跡やアフターケアに努め、必要に応じて、機材や資材の貸与も行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） 保存環境に関する相談件数：163 件 新築・増改築施設の設計・設備に関する協議件数：9 施設	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の初年度として、博物館等における文化財保存環境に関する相談対応や改善協力について、多くの件数に対応し、改善に資することができたため、本評価とした。 4 年度も、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けながらの博物館活動となると考えられるため、感染防止対策との両立も視野に入れた相談対応等に努めたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-1

中期計画の項目	(5)-②-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	
都城発掘調査部 （平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）ほか、同部平城地区部員 16 名ほか	

【年度実績と成果】

・奈良県・奈良市等の要請に対して遺跡の現状変更、あるいは建設工事にともない遺跡の現状確認のために発掘調査及び工事に伴い、遺跡の保護のための立会調査を実施した。

受託研究による発掘調査の概要は次のとおりである。

次 数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物
第 640 次	興福寺境内	272 ㎡	7 月 13 日～11 月 4 日	東金堂院回廊・門、南面築地塀
第 641 次	平城京左京三条四坊八坪	220 ㎡	8 月 23 日～10 月 19 日	掘立柱建物 1 棟、柱穴列 5 条
第 643 次	平城京右京三条一坊十坪	18 ㎡	12 月 8 日～12 月 10 日	古代の遺構なし
第 644 次	法華寺旧境内（庭園）	17 ㎡	4 年 1 月 24 日～2 月 14 日	遺構なし、瓦と土器が出土
第 645 次	法華寺旧境内（防災）	14.4 ㎡	4 年 1 月 17 日～2 月 9 日	古代～近世の土坑 6 基

・奈良県・奈良市等の要請に対して実施した工事等への立会調査
　計 35 件、延べ 84 日
・国土交通省平城宮歴史公園事務所に対して実施した工事等への立会調査
　計 4 件、延べ 8 日、その他打ち合わせ等対応：10 件
・文化庁に対して実施した工事等への立会調査
　計 4 件、延べ 8 日、その他打ち合わせ等対応：7 件

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：地方公共団体（奈良県・奈良市）等からの要請に対して迅速に対応することで文化財保護行政及び平城宮京の研究に資することができた。②発展性：遺構面の標高や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の遺跡保存対策に資する情報を得ることができた。③効率性：発掘調査・立会調査などの作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を進めることができた。④継続性：平城宮京内に位置する遺跡の分布状況や各遺跡の性格についての情報を継続的に蓄積することができた。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）発掘調査（受託）：5 件　立会調査：43 件（延べ日数 100 日）	定量評価 －

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地方公共団体（奈良県・奈良市）からの要請に応じて適宜に対応して文化財保護に資する活動を行い、平城京域における学術的情報の蓄積及び調査研究にも貢献した。以上から計画通り順調に進捗していると判断した。4 年度以降も地方公共団体の要請に対しては当調査部の他の事業との関係を調整しながら戦略的に対応する計画を立て、平城宮京における遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-2

中期計画の項目	(5)-②-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○清野孝之（副部長）、山本崇、廣瀬覚、森川実、林正憲（以上、室長）、若杉智宏、鈴木智大（以上、主任研究員）、山藤正敏・福嶋啓人・岩永玲・谷澤亜里（以上、研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）ほか	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体等が行う発掘調査等への協力は6件で、土木工事に伴う立会調査5件と、発掘調査1件である。うち2件は国営飛鳥歴史公園の公園整備にともなうものである。例年より件数は少ないが、これらを効率よく実施し、藤原宮及び飛鳥地域の開発等に対して適切に対応した。また3年度から、文化庁が行っている特別史跡　藤原宮跡の整備基本計画の策定に協力して、これまでに実施した発掘調査の成果や知見をふまえた専門的な協力・助言を行うようになった。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
第207-1次	橿原市下八釣町	個人住宅	2.4㎡	5月21日	顕著な遺構を認めず
第207-2次	明日香村飛鳥	防犯設置	4.7㎡	7月5日～7月9日	顕著な遺構を認めず
第207-4次	明日香村川原	公園整備	43.0㎡	11月29日～12月1日	顕著な遺構を認めず（受託事業）
第207-5次	明日香村川原	公園整備	34.8㎡	12月16日～1月20日	顕著な遺構を認めず
第207-6次	橿原市高殿町	溜池補修	1.0㎡	2月14日～2月16日	顕著な遺構を認めず
第207-7次	橿原市高殿町	工事道路	246.8㎡	3月23日～3月25日	顕著な遺構を認めず

年度計画評価	B

【評定理由】

評定理由は次のとおり。①適時性は地方公共団体からの要請に基づき、必要とされる立会調査・発掘調査を適時適切に実施したことからＡとした。②独創性は当研究所による調査研究成果の蓄積を活かし、地方公共団体が行う発掘調査等に協力したためＢとした。③発展性は現在文化庁が行っている藤原宮跡の整備基本計画の策定に協力して、発掘調査の成果を踏まえた助言を行い、計画立案に関与していることからＡとした。④効率性はそれぞれの立会調査・発掘調査を短期間で完了したことからＢとした。⑤継続性は飛鳥・藤原地域における発掘調査等の援助事業を50年以上にわたり続けていることからＢとした。以上から、事業の進捗状況は所期の計画通りであると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言　6件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	我が国の古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めてゆく予定である。中期計画の初年度にあたる3年度は、新型コロナウイルスの影響もあって件数が少なかったが、その都度、地方公共団体からの要請に応えて、立会調査等を実施した。また3年度から、文化庁の藤原宮跡整備基本計画の策定に協力し、発掘調査成果を踏まえた助言等を行うようになった。以上の評定理由により、Ｂと評価する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-3

中期計画の項目	(5)-②-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中　眞（所長）	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

現在就任している専門委員会委員（一部）

・塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会（山梨県塩尻市）
・名勝慶雲館庭園保存整備委員会（滋賀県長浜市）
・特別史跡百済寺跡再整備検討委員（大阪府枚方市）
・難波宮跡整備計画検討委員会議委員（大阪府大阪市）
・山陽道野磨駅家跡調査・整備委員会（兵庫県上郡町）
・吉岡銅山関連遺跡調査委員会（岡山県高梁市）
・丸亀市史跡丸亀城跡調査整備委員会（香川県丸亀市）
・四万十市重要文化的景観保護審議会（高知県四万十市）
・長者屋敷官衙遺跡整備指導委員会（大分県中津市）
・今城大塚古墳修復検討委員（熊本県御船町）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。

①適時性については、地方公共団体等の要請に対し、適時・適切に対応した。

②独創性については、当研究所職員が持つ独自の専門知識を生かし、各委員会等において助言を行った。

③発展性については、多様な要請に対応し今後の地方公共団体等における事業発展に貢献した。

④継続性については、継続的に検討が必要な委員会等に対して、再任・任期の延長によって継続的に協力している。

また、新型コロナウイルスの影響により、現地における協力・助言に制限が生じているが、出張だけでなくリモートでの参加により、要請に応じた的確な対応をとることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言 213 件 （委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等））	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画初年度として、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、国・地方公共団体等からの専門的な協力・助言の要請に応じ、適時・適切に対応している。 新型コロナウイルスの影響で現地での協力・助言は制限されているが、委員会等へリモート参加することにより、国・地方公共団体等との連携・協力体制を維持することができたと判断し、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2522E

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」
・美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業
・エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響

このほか、一般財団法人日本航空協会ほか3機関と共同研究を行った（計3件）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行することができた。②独創性においては、我が国の文化財研究の拠点としてこれまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組むことができた。③効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。④継続性においては、国宝高松塚古墳壁画、及び国宝キトラ古墳壁画等、これまで当研究所が受託してきた研究課題を発展して実施することができた。

観点	①適時性	②独創性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）受託研究　6件 共同研究　3件	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画初年度として、国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。よってＢと判定した。 4年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2522F

中期計画の項目	(5)-②-2)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中眞（所長）	

【年度実績と成果】

○地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。3年度は39件（271,113,769円）の受託調査研究を受入れた。

うち　地方公共団体等　19件（20,258,888円）　　文化庁　6件（175,065,665円）
　　国土交通省　3件（41,764,037円）　　その他　11件（34,025,179円）

以下、主な実績となる。

・「第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託」（委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所）においては、4年3月に予定されている大極殿院南門の竣工をはじめとする、委託者が行う国営平城宮跡歴史公園の整備に対して、適時適切かつ専門性に富んだ助言等を実施した。
・「特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務」、「国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務」（委託者：文化庁）においては、先進的な技術も導入しながら、古墳、石材及び壁画の保存・活用に係る研究等の業務を着実に遂行した。
・「特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務」（委託者：文化庁）においては、職員が保持する卓越した経験を基に、平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において委託者が実施する事業を補助し、遺構の保存、公開・活用への環境整備の円滑な進捗を図った。
・「令和3年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業」（委託者：文化庁）においては、水中遺跡の発掘調査に係る具体的な調査の手法や技術をまとめた調査マニュアル『水中遺跡ハンドブック』を作成し、全国の地方公共団体等に配布することで、水中遺跡の発掘調査技術の普及啓発に大きく寄与することができた。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性については、地方公共団体等から随時寄せられる要請に応じて、適時・的確に調査研究を実施した。また、調査研究により新たに得られた知見を随時公開するなど、調査研究成果の発信にも積極的に努めた。②独創性については、当研究所が保有する卓越した技術力、及び蓄積された調査研究の成果に基づく唯一無二の専門性を生かして、業務を遂行した。③発展性については、実施業務は多種多様であり、調査研究によって得られた成果は今後の地方公共団体等が実施する保存・活用に寄与することが期待される。また、国宝高松塚古墳壁画及び特別史跡キトラ古墳に代表されるように、当研究所が調査研究の対象としている文化財に対する社会的な関心は非常に高いことから、発信される調査研究の成果がもたらす影響も大きい。④効率性については、本来業務に支障なく調査研究を実施することができるよう、受託調査研究にかける時間と人力等を効率よく配置した。

上記観点から、年度計画を大きく上回る水準で順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）受託調査研究受入・実施件数　39件　271,113,769円 （2年度:34件　274,599千円）	定量評価 －

中期計画評価	A

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の初年度として、随時寄せられる国・地方公共団体等からの要請に対して、受託研究を通じて協力・助言を行っている。新型コロナウイルスの影響により実地での調査・研究には引き続き制約があるものの、受託調査研究受入件数は例年並の件数を維持しており、要請に対しては十分に応えることができている。 また、調査委託の申込は全国の地方公共団体等から寄せられているが、受託調査研究を通じてこれらの地方公共団体との連携・協力体制を構築することで、4年度以降も更に発展的な調査研究を実施するための体制を整えることができた。 よって、中期計画を上回る水準で計画を達成していると判断し、A評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2523F

中期計画の項目	(5)-②-3)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（副所長）、金田明大（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）	

【年度実績と成果】

○28 年熊本地震による熊本県下の被災装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に委員として職員を派遣した。

○江田船山古墳、塚坊主古墳など熊本県内の被災古墳について石室内部にセンサーを設置し、温湿度データを収集し、データの解析を行った。

○塚坊主古墳の地形及び物理探査を行い、墳丘内部の状況と地震の影響を把握した。

塚坊主古墳探査風景

千金甲古墳に設置の簡易気象観測装置

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点より評価を行った。①適時性においては、熊本地震により被災した装飾古墳の復旧支援を実施しており、現在危機的な状況にある被災古墳についての対応を適時的確に実施している。②独創性については被災装飾古墳への復旧支援として、地形計測・物理探査手法による地表及び地中の状況の把握、石室内部の環境モニタリングといった調査を実践しており、これを複合的に行うことで被災古墳全体の情報を把握している。③発展性については、地震や水害等の災害に対しての対応の先行事例を蓄積することにより、今後の文化財の防災・減災に資する情報を収集できている。④効率性としては、新たな手法の活用や、継続的なモニタリングを遠隔地より集約できる試みを通じて、より多数のデータを低コストで利用可能になっている。⑤継続性としては、各調査の長期・短期にわたる目標と計画を策定し、地方公共団体の担当者を含めて事業を遂行している。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） ・地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究　5 件	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	自然災害における文化財の保全について、既に起きてしまった被災遺跡の復旧とそれに伴う情報や経験の蓄積は重要なものと考えられる。中期計画の初年度である 3 年度は、継続的かつ適切にこれらの情報収集や対応を進めることができていることから、順調に進捗しているものとし、上記の評価とする。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-1

中期計画の項目	(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡 等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○不藤 忠義（研究支援課長）、岡本 保彦（研究支援課長補佐）、今西 康益（研究支援課係員）、亀岡 妙子（研究支援課係員）	

【年度実績と成果】

(1)特別史跡平城宮跡内及び藤原宮跡内の現状等について、情報提供及び助言
- ・消防訓練実施への協力
- ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院施設復原整備工事への協力
- ・第一次大極殿院復原整備工事関係資料提供等
- ・発生事案の報告及び対応

(2)平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施
- ・平城宮跡等草刈り管理業務
- ・平城宮跡維持整備・施設管理への情報提供・助言
- ・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応提案
- ・宮跡内植栽管理への助言
- ・国有地管理への助言
- ・発生事案への報告及び対応

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を適時的確に行い、2年度同様に継続的な実績を上げた。また、事件事故等の事案に迅速に対応した。②独創性においては平城宮跡維持整備について既定概念に囚われず柔軟な考えで助言した。③発展性においては、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な協力による情報共有を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。④効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事業毎に整理された情報を迅速に提供した。⑤継続性においては、整備内容、発生事案等事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう事業進捗に協力した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値） ・各種会議への参加件数（公園整備関係 第一次大極殿院復元工事定例会議12件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁46件、国土交通省47件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁0件、国土交通省0件）	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等の相談に対応している。そして、文化庁施設及び国土交通省施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っており、南門復元整備は予定通り4年3月に整備完了であることから、中期計画期間初年度として、順調に成果を上げることができている。4年度以降も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-2

中期計画の項目	(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。 また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長）、加藤真二（企画調整部長）、岩戸晶子（同部展示企画室長）、今井晃樹（都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長）、丹羽崇史・西田紀子・前川歩（以上同部平城地区主任研究員）、鈴木智大（同飛鳥・藤原地区主任研究員）、山崎有生・目黒新悟（以上同平城地区遺構研究室研究員）、福嶋啓人（同飛鳥藤原地区遺構研究室研究員）、大林潤（文化遺産部建造物研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、村田泰輔（同センター主任研究員）、柳田明進（同保存修復科学研究室研究員）、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同部主任）、鎌倉綾(同技術補佐員)	

【年度実績と成果】

○南門復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。また、会議に先立つ勉強会で講師を務めた。山崎有生「第一次大極殿院廃絶後の中央区の変遷　―西宮の遺構と機能について―」(4 年 1 月 6 日)

○平城宮跡管理センター主催の平城宮跡歴史公園ガイド研修会の講師を務めた。箱崎和久「第一次大極殿院南門及び東西楼・回廊の整備構想」(4 年 1 月 15 日)

○南門の扁額と金具などの製作に関する専門的観点からの助言を行った。

○国土交通省からの受託研究を推進するとともに、東楼の鴟尾の納まりに関する復原検討会の開催（10 月 25 日、4 年 1 月 28 日）と、木口金具の製作技法の復原検討会の開催（9 月 24 日、12 月 11 日）に協力した。

○定期的に工事進捗状況等を写真撮影（計 17 回)、写真データの整理に協力した。また、第一次大極殿院南門の復元工事に伴い、各機関で記録撮影された写真データの一括整理作業に協力した。

○第一次大極殿院南門の解説資料の作成に協力した。

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性については国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応してきた。②発展性については、2 年度に引き続き第一次大極殿院南門復原建物工事に対して学術的根拠をもった資料提示と研究成果を提供した。③効率性については重要な助言が正しく伝わるように伝達方法の工夫に努めた。④継続性については 29 年度から開始した南門復原工事に対して、一貫して多方面からの研究協力を継続して実施してきた。また、工事の過程を継続的に撮影し、工事記録の作成を行った。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）勉強会・研修会の講師協力：2 回、復原研究会：4 回　写真撮影：17 回　写真データ整理（約 10TB)、助言：1 回　資料作成：2 部	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	29 年度より継続して行ってきた平城宮第一次大極殿院南門の復原建物が 3 年度に竣工した。南門復原に関する調査研究は一段落し、その成果が実際の復原建物として結実した。同時に、研究成果が勉強会及び研修会という形で復原工事に生かされるよう、その伝達方法についても工夫してきた。完成後は平城宮の保存活用の一助となるよう、今後とも継続して復原工事に協力、助言を行う予定である。以上から、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-3

中期計画の項目	(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○岩戸晶子（展示企画室長）、廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○平城宮いざない館第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について国土交通省国営飛鳥歴史公園並びに管理センターに協力した。
・展示物の状態確認と日報の作成。井戸部材（廊下）と斎串（展示室 4）の状態確認・展示環境を重点モニタリング。
・当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧。(20 件)
・奈良市教育委員会、奈良県教育委員会の協力のもと、学習ワークシート(2 年度発行)の教員用手引きの作成。
・感染症拡大予防策として、接触を伴う展示の対応策を講じるとともに、平城宮跡資料館とサイン等を共有・作成。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者からの質問、マスコミ・テレビ取材対応など。(31 件)
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った。(18 件)
・展示評価調査として、来館者行動調査を展示室４にて実施した。(6 回)
・古代の盤上遊戯であるかりうちをテーマにした体験イベントを、平城宮跡管理センターと共催（11 月 3 日）

展示品の貸出対応作業

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、新型コロナウイルスの拡大状況に応じ接触を伴う展示への対応等を行った。
②発展性においては、展示評価調査として行った来館者行動調査を継続的に行うことで、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業に対するデータを得ることができ、今後の事業の発展の基礎を築くことが期待される。
③効率性においては、新型コロナウイルス対策として、平城宮いざない館と平城宮跡資料館間の情報共有、サインの共有を行い、効率的に対応策をとることができた。
④継続性においては、2 年度に引き続き、今後継続的に行う平城宮跡に関わる体験イベントの第 2 弾を実施することができた。
以上から、新型コロナウイルスの拡大状況に柔軟に対応しつつ順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・日報の作成 ・当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧：20 件 ・来館者等案内、質問対応、マスコミ・テレビ取材対応など：31 件 ・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正：18 件 ・体験イベントの企画　1 件 ・旅行会社企画の体験イベント、産学連携事業への専門的助言・協力　4 件 ・来館者行動調査による展示評価調査　6 回	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	2 年度に引き続き来館者行動調査や平城宮跡に関わる体験イベントなどを実施することができた。これらの協力事業は継続的に実施することにより初めて成果が出るものであり、新型コロナウイルスの感染拡大による平城宮いざない館の臨時休館や、感染症対策による展示の制限など、多くの制約がある中でも実施する事ができた点は評価できる。4 年度以降も引き続き事業を実施することで、中期計画通りの成果を上げることが期待される。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-4

中期計画の項目	(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、黒澤ひかり（学芸室アソシエイトフェロー）ほか5名	

【年度実績と成果】

・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営に協力した。
・キトラ古墳壁画の第19回公開（5月22日～6月20日）、第20回公開（7月24日～8月22日）、第21回公開（10月16日～11月14日）、第22回公開（4年1月22日～ 2月20日）の実施に際し、広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応）、解説映像、解説音声の作成に協力した。
・史跡パンフレットのスペイン語版を新規作成し多言語対応を充実させた。
・キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント（11月5日～11月14日、4年2月4日～2月13日）の運営とそれに関わる広報物作成等に協力した。
・四神の館の開館5周年イベントに協力し講演等4回を実施した。

5周年イベント講演会

・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画の十二支」（12月16日～4年1月18日）を企画し、展示と解説シートを作成に協力した。
・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと月1回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い広報等についても協力した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、国営公園の5周年イベントへの協力は当初予定されていなかったが公園側との協議により柔軟に対応し活性化に協力できた。②独創性においては年末年始に東アジアの古代十二支について展示するなど、古墳壁画の展示らしい独自性を出した。③発展性については、今回の講演が好評だったことから、今後も国営公園と協力して開催していくことが考えられる。④効率性については毎回通例の作業を効率よく実施して講演や新しい取り組み等の作業時間を確保できており、効率的な業務遂行ができた。⑤継続性においては壁画公開やプラネタリウムイベント等への協力を継続できており、コロナ禍でも客数の減少が抑えられるなど、固定客層の形成と安定的な集客が実現できている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値)・壁画公開実施　4回　　・リーフレット　4枚（ア～エ） ・解説シート　1枚 ・協議等回数　計12回　・移動プラネタリウム　2回　・講演等　4回（オ～ク）	－

ア　リーフレット『令和3年度　キトラ古墳壁画　第19回公開』5月22日発行
イ　リーフレット『令和3年度　キトラ古墳壁画　第20回公開』7月24日発行
ウ　リーフレット『令和3年度　キトラ古墳壁画　第21回公開』10月16日発行
エ　リーフレット『令和3年度　キトラ古墳壁画　第22回公開』4年1月22日発行
オ　講演　黒澤ひかり「十二支のはなし」(10月26日・31人)
カ　講演　石橋茂登　「四神のはなし」(10月29日・34人)
キ　講演　若杉智宏　「天文図のはなし　－古代飛鳥の天文学－」(11月2日・34人)
ク　講演・イベント　内田和伸「キトラ古墳整備と乾拓のはなし」と乾拓体験（10月8日・4人）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	中期計画初年度としては順調に事業を遂行できたとともに、年度当初になかった開館 5 周年記念事業へ柔軟に対応して 4 回の講演会等を実施し、キトラ古墳壁画の公開活用と活性化に資した点は高く評価できる。他施設では真似できないオリジナリティの高い展示企画で安定的な集客を実現している点も評価できる。新型コロナウイルス感染症のため接触を伴う企画や大人数でのイベントは難しい状況が続いているが、4 年度以降も工夫をこらして古墳壁画公開事業への協力を実施していくことが期待される。以上より、目標を上回る成果をあげることができたため、A評価とする。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2532F

中期計画の項目	(5)-③-2)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡 等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 2)NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○井関信雄（連携推進課長）、不藤忠義（研究支援課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、岡本保彦（研究支援課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、亀岡妙子（研究支援課係員）	

【年度実績と成果】

1）NPO 法人平城宮跡サポートネットワークへの協力

○NPO 法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における、会場提供等及び情報共有のための会議開催の協力を行った。

・NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク創立 20 周年に伴う感謝状の贈呈、会場提供

・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月 1 回開催、年計 12 回開催）

・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省の委託業者との 4 者での会議：2 ヶ月に 1 回開催、年計 6 回開催）

・NPO 法人サポートネットワークが行う美化運動・防災・防犯パトロール活動に参加協力を行った。

2）周辺自治会等への協力

自治会主催の歴史教室への講師派遣の協力を行った。

・「都跡公民館まつり　歴史講演会」（都跡公民館）への講師派遣

吉川室長（歴史研究室）「平城宮跡保存運動のさきがけ」10 月 30 日　参加者数　30 人

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月 1 回実施した。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため、NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との 4 者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持している。②発展性については、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、当研究所の研究成果を広く情報発信を行うことができた。③効率性については、NPO 法人等との定期会議等開催において、当研究所の施設を利用し効率性を維持した。④継続性については、NPO 法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）	定量評価
		－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	3 年度は計画通り、各種ボランティア活動への協力体制を維持し事業計画を達成した。培ってきた連携協力関係を基礎として、4 年度以降も継続して協力を行えると判断し、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2541E

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】 ○朽津信明（修復計画研究室長)、犬塚将英（分析科学研究室長)、早川典子（修復材料研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、安倍雅史（文化遺産国際協力センター)、前川佳文（文化遺産国際協力センター)	

【年度実績と成果】

緊急事態宣言中はオンライン講義を中心に行い、解除後には対面講義を中心に教育を進めた。
また、副査という形で博士論文の審査にも積極的に加わった。

○3 年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜 1 限）　2 単位　朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則　16 人（聴講 1 人）
修復計画論　（前期、木曜 1 限）　2 単位　朽津信明・安倍雅史・前川佳文 5 人
修復材料学特論（前期、木曜 2 限）　2 単位　早川典子・前川佳文　6 人
保存環境学特論（後期、火曜 1 限）　2 単位　犬塚将英・佐藤嘉則　10 人
文化財保存学演習
講師：前川佳文　「古代より現代に伝わる　壁画技法の魅力」
日時：5 月 11 日(火)13～17 時、18 人

文化財保存学演習

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力
教室会議（11 回)、入試合同判定会議（2 回)、博士・修士学位審査会への協力

○博士審査副査　朽津信明、前川佳文

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①コロナ禍での感染状況に応じて、対面授業とオンライン授業とを有効に組み合わせてハイブリッドで講義を行うことで、社会情勢に応じて最適な教育を行うことができたため、適時性の高い成果を挙げられた。②独創性においては、オンライン講義の特性を活かし、また社会情勢を踏まえた 3 年度ならではの独自の講義を行えた。③3 年度は初めて、他専攻の博士審査に複数の併任教員が同時に副査として加わっており、これまで以上に教育効果の発展性が期待される。④効率性においては、対面とオンラインを効率的に使い分け、教育効果を挙げることに寄与した。⑤継続性においては、藝大との協力関係を維持することによって、最新の研究成果を若手人材育成に有効活用できている。コロナ禍でも、その時々の社会情勢に応じて柔軟な対応で教育の水準を維持し、計画通りの成果を挙げることができたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】(参考値)	定量評価
	・開講時間：　前期　火曜 1 限、木曜 1 限、木曜 2 限　/　後期　火曜 1 限 ・開講回数：90 分×15 回、受講者数：延べ 56 人 ・開講時間　1 限 9：00～10：30　2 限 10：40～12：10　3 限 13：00～14：30 ・開講回数　計 4 コマ　各 2 単位	―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	文化財保存学専攻他教室に在籍している修士・博士学生の教育にも協力し、大学側からの評価も高く、計画を遂行できた。コロナ禍でも、早期からオンラインと対面との使い分けで教育レベルを保つことができた。以上の理由から、中期計画の初年度として、順調に遂行されたと言える。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2541F

中期計画の項目	(5)-④-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・奈良大学：「文化財修景学」
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中眞（所長）	

【年度実績と成果】

○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を開設し、大学院生の研究指導を実施。

京都大学大学院人間・環境学研究科

・高妻 洋成「保存科学論 1・2」「文化遺産学演習 5A・5B」
・馬場　基「史料学論 1・2」「文化遺産学演習 4A・3B」
・山﨑　健「環境考古学論 1・2」「文化遺産学演習 4A・4B」
・清野 孝之「埋蔵文化財調査・研究・保護論」「文化遺産学演習 1A・1B」
・玉田 芳英「原始・古代精神文化論 1・2」「文化遺産学演習 2A・2B」

奈良女子大学大学院人間文化研究科

・今井 晃樹「東アジア考古学特論」「東アジア考古学演習」
・神野　恵「歴史考古学特論」「歴史考古学演習」
・桑田 訓也「木簡学特論」「木簡学演習」

○奈良大学との教育協力協定に基づき、職員を奈良大学に派遣し、講義、演習、実習を通して大学生への研究指導を実施。

奈良大学文学部文化財学科（コロナ対策で、3 年度はオンデマンドで実施した）

・内田 和伸、中島 義晴、前川 歩、高橋 知奈津「文化財修景学」

年度計画評価	B

【評定理由】

各観点から評価を行った。①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。③発展性においては、連携大学院及び大学における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画通り寄与することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・受入学生数 京都大学大学院 20 人　奈良女子大学大学院 4 人　奈良大学 81 人	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	連携大学院協定及び教育協力協定に基づき、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成に貢献できた。よって、中期計画初年度として順調に成果を挙げているものと判断した。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2610

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（６）文化財防災に関する取組　①地域防災体制の構築

【年度計画】
・Ⅰ-2-(6)-①-1)、2)

担当部課	文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】

1)

ア　各施設が取り組む地域ブロックでのヒアリング及び検討内容の標準化（調整）

・地域防災体制（都道府県内の連携体制、都道府県間の広域連携による相互支援体制、都道府県文化財保護行政所管部局と文化財防災センターの連携体制）の構築を推進するため、機構内の各施設で地域を分担して実施する地域ブロックでのヒアリングについて、地域連携に関わる基本的な事項を整理し、ヒアリング項目の標準化を進めた。これをもとに各施設は都道府県ヒアリングを行い、文化財防災や体制構築といった都道府県の状況や課題のセンター内での共有を行った。

イ　東海・北陸・近畿ブロックにおける地域防災体制の構築の推進

・7月12日、11月25日（書面）、4年3月4日（書面）開催の京都文化財防災対策連絡会に出席
・大阪府（8/2 オンライン）、石川県（11/9）、愛知県（11/12）、岐阜県（11/18）、和歌山県（11/19）、福井県（1/18）、静岡県（2/7）、奈良県（5/13）にヒアリング
・4年2月23日開催の京都市文化財保護課主催 京都市文化財保存活用地域計画策定記念講演会「京都文化遺産の保存と活用を考える」への協力

ウ　東日本ブロックにおける地域防災体制の構築の推進

・5月21日、10月15日に山形県文化財防災WGに参加
・神奈川県（4/26）、埼玉県（6/11）、栃木県（6/22）、群馬県（7/2 オンライン）、山梨県（7/6）、東京都（7/13）、千葉県（7/15）、新潟県（7/26 オンライン）、長野県（7/28）、山形県（10/29）、我孫子市（11/17）、銚子市（11/19）、青森県（12/2）にヒアリング
・埼玉県県立館施設資料防災マニュアル策定における検証作業への協力
・「群馬県文化財防災マニュアル（素案）」意見照会への対応
・12月19日開催の「地域文化遺産フォーラム2021 群馬の文化財防災を考える」での講演
・12月21日開催の神奈川県立歴史博物館の防災訓練への協力

福井県生涯学習・文化財課との協議の様子

エ　中国・四国ブロックにおける地域防災体制の構築の推進

・愛媛県（12/1）、岡山県（12/10）にヒアリング
・4年1月19日開催の「岡山県文化財等救済ネットワーク研修会」での講演
・「島根県文化財防災・防犯マニュアル（案）」意見照会への対応
・「広島県文化財防災マニュアル（仮称）」意見照会への対応
・「鳥取県地域防災計画」意見照会への対応

オ　九州・山口ブロックにおける地域防災体制の構築の推進

・11月17日開催の九州・山口ミュージアム連携事業ワーキング会議出席
・7月3日、9月4日、11月27日開催の福岡県建築士会ヘリテージマネージャー講習会に参加
・6月5日開催の福岡県建築士会ヘリテージマネージャー講習会、10月2日開催の鹿児島県建築士会ヘリテージマネージャー講習会での講演
・宮崎県、鹿児島県へ文化財保存活用大綱に関する指導助言、福岡市文化財保存活用地域計画の作成に関する助言

2)

ア　文化財保存活用大綱、文化財保存活用地域計画及び都道府県・市町村が策定する地域防災計画の情報集約

・都道府県が策定する文化財保存活用大綱（4年3月現在42道府県が策定済み※ウェブサイトでの公開状況に拠る）について、北海道・東北地方、中国・四国地方、九州地方で策定済みの大綱から、地域防災計画に必要な項目との関連性も踏まえて、要点に関する記述を抽出した。抽出した内容を元に大綱の「防災・災害発生時の対応」に必要と考える項目を検討し、この項目に沿って各道府県大綱の「防災・災害発生時の対応」の記述を整理することとした。

○被災文化財に関する対応

・2年7月球磨川豪雨による被災図面資料・民俗資料のレスキュー及び対応協議（4月21日～22日、5月18日～21日、9月21日～22日、熊本県、八代市）
・28年熊本地震により被災した今城大塚古墳に係る復旧対策協議（4月22日、熊本県、御船町）
・3年7月梅雨前線に伴う大雨に係る山陰地域の状況調査（7月16日～17日、鳥取県、島根県）
・静岡県熱海市の土石流被災地のレスキューの可能性について協議（8月5日、静岡県、熱海市、東海史料ネット）
・2年7月球磨川豪雨による被災資料についての協議と現地調査（9月21日～22日、熊本県、八代市、文化財保存修復学会）
・奈良県崇道天皇社の焼損についての現地調査（10月21日、奈良県、文化庁、奈良文化財研究所、奈良市消防局）
・広島県三次市「よりみちぼっこ」の水損に伴う情報収集（11月2日現地調査、広島県立歴史民俗資料館、所有者）
・三重県鳥羽市「江戸川乱歩館」全焼の情報収集活動（11月3日、12月9日現地調査・協議、三重県、鳥羽市、鳥羽市商工会議所、所有者）
・3年2月福島県沖地震に伴う被災有形民俗文化財の修理方針についての協議（11月12日、宮城県、富谷市、文化財保存修復学会）
・3年8月豪雨に伴う被災有形文化財の修理方針についての協議（12月24日、長野県、大桑村、文化財保存修復学会）

【補足事項】

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
連携・協力体制構築への取組状況(都道府県内各種会合等への会議等参加数)	68件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化財防災センター発足後の新体制の下、文化財等関係団体との面談・情報収集に努め、従来の関係の継続を図った。また、2年度に多くの都道府県において文化財保存活用大綱が策定されたことから、その整理を行い、防災に関する記述の傾向を見出した。さらに、3年度は被害の大きな自然災害は少ない年ではあったが、地方自治体と密に連携を図り、9県の文化財被害に係る協力を行った。 以上から、年度計画に沿って十分に文化財防災センターの役割を果たすことができた。

【中期計画記載事項】
都道府県文化財所管部局を中心とした地域内連携体制、及び近隣都道府県の災害時相互支援体制の構築・促進等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	元年度までの文化庁補助金事業時代の蓄積を基に、都道府県を主な単位に構築を促す、地域防災体制構築事業について、コロナ禍ではあるが、関係の構築、深化を図ることができた。防災計画へのコメント依頼なども順調に増えてきており、地域防災体制構築の一助を担う文化財防災センターの意義を示すことができた。以上から中期目標達成に向けて順調に事業が進められていることからBと判定した。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2620

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（６）文化財防災に関する取組　②災害時ガイドライン等の整備

【年度計画】
・Ⅰ-2-(6)-②-1)、2)

担当部課	文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】

1)

ア　文化庁・文化財防災センター協議会

・毎月第3月曜日を原則に、文化庁と文化財防災に係る情報交換と対策に関する協議を行った。定例の報告のほか、建造物、記念物等個々の文化財類型に対する対処法などについても協議を行った。3年度は12回開催

イ　文化遺産防災ネットワーク推進会議及び幹事会の開催

・文化遺産防災ネットワーク推進会議（文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体25団体のうち24団体出席）を年2回（7月14日、12月3日）開催

・文化遺産防災ネットワーク推進会議幹事会（文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体25団体のうち幹事4団体による協議会）を年2回（6月28日、11月29日）開催

ウ　事業報告会

・文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体、文化遺産の防災に関する有識者会議委員及び文化庁、並びに機構内関係者に向けて、2年度実施事業の報告（7月14日）及び3年度実施事業の中間報告（12月8日）を行った。

日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会との協定書締結

エ　文化財ドクター事業の推進

・日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会と連携に関する協定書締結：4年3月11日

・日本建築学会と建築学会歴史的建築総目録データベース共同利用に関する協議の実施

・歴史的建造物の保存活用や、被災建築物の調査・復旧の技術的指導助言を担うヘリテージマネージャー（地域歴史文化遺産保全活用推進員）を育成する各県建築士会主催の講習会を通して、社寺や伝統的建造物などの文化財の安全対策について情報収集及び連携体制強化に努めた。

a）東日本大震災や熊本地震等で国立文化財機構が実施してきたレスキュー活動を紹介する講座を担当

・福岡県建築士会HM・スキルアップ講習会（6月5日、文化財防災プロジェクトチーム（九州国立博物館博物館科学課長）木川りか）

・鹿児島建築士会HM・スキルアップ講習会（10月2日、同上）

b）文化財（建造物）保存活用計画等の策定等に関する情報収集

・阿蘇神社（重要文化財楼門含む社殿群）の熊本地震被害状況と修理方針（7月3日）

・宗像大社辺津宮（重要文化財本殿ほか）の防災対策、設備計画の策定（9月4日）

・改正文化財保護法、文化財（建造物）等保存活用計画に関する情報収集（11月27日）

c）災害発生時の被災建築物0次調査協働の可能性に関する協議（7月～8月）

『文化財の放射線対策ガイドブック』

オ　無形文化遺産の防災事業の検討

・5人の外部有識者を招き、年3回（7月27日、10月8日、3月25日）の有識者会議を実施した。会議では、無形文化遺産の防災に関する検討課題を抽出し、各課題の解決策について議論を深めながら、今後の課題に関する具体的内容について議論した。

2)

ア　レスキュー活動における安全対策ガイドラインの策定

・「浮遊カビガイドライン・マニュアル」の策定について計5回の検討会（第1回6月25日、第2回7月30日、第3回8月26日、第4回10月6日、第5回4年1月17日）を実施

・4年3月31日に文化財防災センターウェブサイトにて「浮遊カビからの人体の防護に関するマニュアル」、「室内労働環境の浮遊カビの測定･評価と浮遊カビ等からの防護に関する管理基準（ガイドライン）」を公開

・『文化財の放射線対策ガイドブック』刊行：12月1日

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画していた建造物・無形の文化財について、一定の方向性を明らかにした。特に文化財ドクター事業では、日本建築学会ほか3団体と協力協定書を締結し、災害発生時における文化財防災体制の一層の強化を図った。さらには、無形文化遺産、史跡名勝に関する課題についても新たに検討を行い、一定の知見と今後の方向性を定めることができ、予定以上の成果を収めることができた。

【中期計画記載事項】
多様な文化財に関する分野別の防災ガイドライン等の整備を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 史跡・名勝の防災について計画を早めて方向性を定め、検討を重ねることができた。また、浮遊カビに関するガイドライン・マニュアル策定のための検討会を実施し、ウェブサイトで公表した。以上より、中期目標達成に十分な成果を上げられたことからAとした。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2630

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（６）文化財防災に関する取組　③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

【年度計画】
・Ⅰ-2-(6)-③-1)、2)

担当部課	文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】

1)

ア　博物館及び美術館における文化財の収蔵・展示の安全対策

・国立研究開発法人防災科学技術研究所が主催する「室内空間を中心とした機能維持のための研究会」へ4回参加した。(5月14日、8月27日、12月3日、4年3月4日)
・振動台実験に関する関係者全体協議を4回開催した。(5月12日、9月16日、11月24日、4年3月28日)
・国立研究開発法人防災科学技術研究所などと連携し、博物館・美術館の展示空間を再現した振動台実験を実施した。(12月15日～20日)

イ　社寺等における文化財の安全対策に関する研究

・立体作品に関する転倒防止対策等の減災対策に関する調査研究を目的とし、社寺等が所有する仏像・神像の三次元データを取得し、転倒シミュレーション解析を実施した。また、解析結果から立体作品の転倒防止対策に関する検討をおこなった（3件)。
　a) 立体作品の三次元計測および調査の実施（5月6日：仏像1躯（法蔵禅寺)、7月13日：神像1躯（花咲神社・修理作品))
　b) 転倒シミュレーション解析に関する打ち合わせ(8月25日、10月21日：㈱構造計画研究所（WEB会議))
　c) 仏像（浄土寺蔵）のシミュレーションを用いた転倒防止対策の検討（4年1月14日、2月22日、3月7日：㈱構造計画研究所)
　d) 転倒シミュレーション解析結果の検討（12月2日：法蔵禅寺、12月10日：美術院、4年3月18日：浄土寺)

ウ　文化財のリスクに関する研究

・全文化財類型を対象に、どのような文化財のリスクがあるのか把握し課題を抽出するために、プロジェクトチームも含めた研究会（通称「文化財リスク研究会」）を立ち上げ、3回（7月4日、9月29日、4年1月17日）開催した。

2)

ア　文化財建造物及び展示収蔵環境の防火対策に関する研究

・文化財展示収蔵施設における適切な消火設備の提案を目的として、消火薬剤が文化財に与える影響の評価を行う。初年度は共同研究機関である千葉科学大学との協議と予備実験を重ね、実験及び評価方法に関する協議会を関係者で開催した（1月17日)。
・災害時の特殊な環境から文化財を守るための管理方法の提案に資する調査研究として、首里城火災時の特殊な湿熱環境が美術工芸品に与えた影響の解明を目的とした調査研究を開始した。3年度は美ら島財団に対する聞き取り調査（12月24日）及び発災時の環境データ、建築図面等から発災時の状況の整理を行った。
・近隣火災の飛び火により檜皮葺き屋根が一部焼損した崇道天皇社本殿において発災時の対応の聞き取り調査（10月21日）と焼損状態の記録（1月17日)、模擬燃焼実験（2月24日、3月15日）を奈良市消防局、奈良県と共同で行い、燃焼性の高い材料を対する初期対応に関する知見を得た。

イ　被災資料の応急処置等の技術開発

・被災資料の応急処置に関する基礎研究を開始するにあたり東京文化財研究所に真空凍結乾燥機、冷凍庫、ドラフトチャンバー等を導入し、実験室環境の整備を行った。東日本大震災被災地における水損紙資料処置について、実務担当者を対象に意見交換会を開催し(4年3月14日)、協力体制を構築した。

ウ　けいはんなオープンイノベーションセンターにおける一時保管体制の構築

・収蔵庫内の定期的な清掃、温湿度調査、文化財害虫調査を実施した。(5月14日、6月24日、7月21日、8月17日、9月15日、10月19日、11月17日、12月16日、4年1月19日、2月16日、3月16日)
・浮遊菌調査を4年2月16日に実施した。
・知恩院塔頭良正院本堂の保存修理工事に伴う襖絵の緊急避難に関する調査研究及び襖絵の一時保管を、2年7月から継続して実施した。

エ　災害時の一時保管施設の確保と環境整備に関する調査研究

・旧警戒区域から搬出した文化財を一時保管している福島県文化財センター白河館のプレハブ式収蔵庫でのアセトアルデヒド発生の改善方法の提案のため、環境調査を実施し、アセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気による低減効果を検証した。得られた成果を『保存科学61号』（東京文化財研究所、4年3月）にまとめ、調査研究結果に基づき安全な施設運用方法を福島県と協議した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
文化財防災に関する技術開発への取組状況(論文等数，報告書等の刊行数)	11件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 博物館等の安全対策については、当初計画を全て予定通り実施することができた。特に防火研究について、奈良市消防局と連携し、檜皮葺きの実験を実施し、具体的な燃焼の様子に関する観察と分析から、植物性屋根の燃焼に新知見を得られるとともに、消火作業の段取りに関する新たな知見が得られるなど、これまでの取り組みではでき得なかった共同研究の体制を構築することができた。

【中期計画記載事項】
各種の文化財収蔵施設や設備の安全対策に関する調査研究、被災文化財の応急処置・修復処置に関する事例の収集と技術開発、被災文化財の保管環境や災害時対応の手順等に関する研究を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 文化財防災センターに関わる全施設職員が参加するリスク研究会を発足させ、文化財のリスク所在について網羅的に情報を収集し、これに基づき収蔵施設に関する研究テーマについて機構全施設が関わる体制を構築した。これにより、中期計画実現の質を一層高めることができるようになった。以上から中期目標達成に向けてAと評定した。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2640

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（６）文化財防災に関する取組　④文化財防災を促進するための普及啓発

【年度計画】
・Ⅰ-2-(6)-④-1)、2)

担当部課	文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
1)
ア　文化財防災に関する研修及びワークショップの開催
・文化財防災センターが実施する研修の枠組を策定し、eラーニング導入に関する検討を行った。
・都道府県及び市町村の文化財担当者、博物館・美術館等の学芸員を対象に、10月26日に奈良文化財研究所にて「水損紙資料の応急処置ワークショップ」を開催し、6人が受講した（申込者は41人）。
・研修会「なぜ災害発生後に文化財を救うのか―文化財レスキューと心理社会的支援―」を山形県の文化財担当職員、学芸員等を対象に対面形式とオンラインで開催した（11月13日：東北芸術工科大学）。対面で12人、オンラインで18人参加した。
・ICCROM（文化財保存及び修復の研究のための国際センター）主催の文化財の防火対策に関するワークショップ（Prevent：11月15日～19日）にて日本の文化財の被災事例に関する講義を行った。

水損紙資料の応急処置ワークショップ

国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題－災害時応急対応事例と課題－」

イ　講演会及びシンポジウムの開催
・ICOM日本委員会等の団体とともに主催者として、ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次大会を開催した。11月4日の東京での年次大会には145人、11月6日の岩手県陸前高田市での「東日本大震災10 周年シンポジウム」には180人の参加があった。
・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所、文化庁との共催で、12月14日～15日に国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題－災害時応急対応事例と課題－」を開催した。参加者7か国10人のほか、オブザーバーは2日間で10か国114人が参加した。
・4年1月26日に文化財防火デートークイベントを、文化財防災センターYouTubeチャンネルにて公開した。公開から4年3月31日までに4講演総計で580回視聴された。
・4年3月9日に令和3年度文化財防災センター講演会「文化財防災体制の構築とその未来～文化財防災センター設置から1年を経て」と題した動画を、文化財防災センターYouTubeチャンネルにて公開した。公開から4年3月31日までに144回視聴された。

2)
ア　ホームページの充実
・文化財防災ネットワーク推進事業ウェブサイトの内容を引き継ぎ、新たに文化財防災センターウェブサイトを公開した。
イ　文化財防災センターパンフレット作成
・関係機関に対して、文化財防災センターの事業内容を紹介するパンフレットを更新した。
ウ　文化財防災に関する普及啓発書刊行の企画
・文化財防災に関する出版事業の位置付けについて検討を行った。
・書籍『大災害時代の文化財防災（仮題）』を計画、準備した。（編集：髙妻洋成、小谷竜介、建石徹、執筆：文化財防災センター職員/刊行予定：5年3月11日/刊行部数：1,900部）
・リーフレット『災害対応ハンドブック（仮題）』の構成とスケジュールの検討を行った。（編集：中島志保、黄川田翔、鷲頭桂）
エ　年次報告書の作成
・2年度の文化財防災センターの取組みをまとめた『令和2年度文化財防災センター年次報告書』を6月に発行し、関係機関に配布した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
文化財防災に関する普及啓発への取組状況(シンポジウム等の開催件数)	6件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化財防災センターとして、事業実施の年度計画を立案し今後の体制づくりを行った。実施事業は、コロナ禍の状況ということもあり、対面式の事業が規模の縮小を余儀なくされたが、オンライン方式を併用し、実績を上げられた。 文化財防災センターのwebサイトの立ち上げや、各所講演会、研修会で事業説明等を行い、センターの活動を周知することができた。

【中期計画記載事項】
ＨＰ等の活用による各種の広報活動を行う。シンポジウム・講演会を開催するとともに、地方公共団体職員や博物館・美術館学芸員等を対象とする研修を行って、文化財防災に関する普及啓発を行う。また、国際機関・外国機関等との連携を通じ文化財防災に関する国際貢献に資する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	研修への応募状況などを鑑みると、文化財防災センターに対する認知の向上が伺える。特に海外機関との連携については、先方からの申し入れを受けるなど、当センターの普及という点で一定程度以上の成果を上げることができた。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2650

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（６）文化財防災に関する取組　⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用

【年度計画】
・Ⅰ-2-(6)-⑤-1)、2)、3)、4)、5)

担当部課	文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】

1)

ア　文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報の収集、整理及び共有化

・文化財のリスクの所在に関して情報収集を行い、今後の文化財防災に必要な事項を見いだす作業を行った。その成果については、文化財防災プロジェクトチームを中心とした研究会（通称リスク研究会）にて報告をした。

イ　文化遺産防災に関する有識者会議の開催

・文化遺産防災に関する有識者会議を年2回（3年7月14日、12月8日）開催

2)

ア　文化財総合データベースシステムの構築

・文化財防災に資する国内文化財情報を集積したデータベースの構築に向けて、東京文化財研究所が構築及び管理を行う「全国文化財等データベース」のバックデータ整理作業を実施した。
・全国文化財等データベース及び無形文化遺産データベースのバックデータの整理、並びに文化財防災センター全体のデータベースの役割・機能を踏まえ既存データベースの役割とデータベースを支える体制を検討した。
・文化財建造物修理資料データベースの構築に向け、調査・検討を行い、3年度は和歌山県文化財センター所蔵の図面等及び滋賀県所蔵ガラス乾板のデジタル化を実施した。また、同デジタル化データについてのメタ情報の入力及びプロパティへの埋め込み作業を実施した。

イ　地方公共団体及び博物館参画型の文化財情報共有及び統合監理システムの整備

・市町村による公開型データベース登録に関するインターフェースの構築を行った。

ウ　文化財デジタルデータの防災対策バックアップ体制及びデータバンクの検討

・30年6月、政府発表の「政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針」のクラウド・バイ・デフォルト原則を踏まえた、適切なクラウド化を推進する、組織の壁を越え、文化財レスキューの現場や日々の業務で円滑にデータ共有できるようクラウドストレージの導入の方針、運用方法を検討した。
・奈文研が運用するSONY ODAのドライブ・媒体・オペレーターを利用し、文化財防災センターデータ用の媒体を準備、文化財防災センターのコールドデータの長期保管体制を整備した。

3)

ア　歴史災害痕跡に関するデータ収集並びにデータベース等の運用及び活用の推進

・47都道府県の46万か所の埋蔵文化財包蔵地から、5万件のデータの入力を完了した。また、それらのデータを用いて、埋蔵文化財が示す潜在的な地質脆弱地域を明示化するため災害痕跡GISにて検出可能にした。

4)

ア　地域文化遺産リストのセキュリティ構築に関する検討

・2年度回収データを、文化財総合データベースへの統合を目的に、レコード内容表示のための準備と内容の確認を行った。4年度は総合データベースの様式が定まり次第、データ整理を行う。

5)

ア　諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の収集

イ　日本の文化財防災知見の諸外国への発信

・ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次大会（11月4日）に参加し、対面及びオンライン形式にて、「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」のテーマのもと、国内外の取り組みに関して研究発表が行われ、意見交換及び情報共有を行った。
・IRCIによるアジア太平洋州における無形文化遺産の防災事業「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究」に参画し、同地域の無形文化遺産に関するリスクについて知見を深めた。

【補足事項】

2)

ア　文化財総合データベースシステムの構築

・文化庁提供データ整理は4年度実施を予定

3)

ア　歴史災害痕跡に関するデータ収集並びにデータベース等の運用及び活用の推進

・クローズド・αテストでの運用を開始し、4年度に一部公開予定

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	情報収集については、リスク研究会を立ち上げたことにより収集情報の共有化を図ることができた。また、文化財防災センターが持つ災害時に活用するためのデータベースに関する全体像を定めるとともに、データの入手・成形に関して統一的な方針を定めることができた。これまでの取り組みでは、歴史災害痕跡に関するデータベースの限定公開を行った。全体に順調に事業を進められていることから、Bと判定した。

【中期計画記載事項】
各種文化財データベースの構築を行い、防災に活用するためのシステムの整備・開発を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	データベースについては、前期までに各施設単位で構築していた、文化財類型ごとのものを統合する作業に取りかかった。技術的な課題を抽出し把握するとともに、今後のロードマップを作成することができたことから、中期計画を着実に遂行できていると判断し、Bと判定した。

（受託事業）

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F	2-(1)-①-2)	高野山地区建造物調査業務	奈文研	文化遺産部	302
3132F7-1	2-(1)-③-2)-ｱ	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	奈文研	都城発掘調査部（平城）	303
3132F7-2	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部	304
3132F7-3	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡左京三条四坊十坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部	305
3132F7-4	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡右京三条一坊十坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部	306
3132F7-5	2-(1)-③-2)-ｱ	史跡法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部	307
3132F7-6	2-(1)-③-2)-ｱ	史跡　法華寺旧境内の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部	308
3135F-1	2-(1)-③-5)	令和２年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	309
3135F-2	2-(1)-③-5)	令和３年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	310
3213F-1	2-(2)-①-3)	木造金剛力士立像2躯の製作年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	311
3213F-2	2-(2)-①-3)	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	312
3227F	2-(2)-②-7)	松帆銅鐸・舌の調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	313
3230E-1	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	314
3230E-2	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	315
3230E-3	2-(2)-②-10)-ｱ	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	東文研	保存科学研究センター	316
3230E-4	2-(2)-②-10)-ｱ	エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響	東文研	保存科学研究センター	317
3230F7-1	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	318
3230F7-2	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	319
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	320
3312E	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	東文研	文化遺産国際協力センター	321
3312F7-1	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	奈文研	企画調整部 都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター	322
3312F7-2	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究　物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	323
3320G-1	2-(3)-②	令和3年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		324
3320G-2	2-(3)-②	令和3(2021)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「海外展開を行う草の根のユネスコ活動」事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		325
3521F-1	2-(5)-②-1)	松江市内社寺建築詳細調査	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（平城）	326
3521F-2	2-(5)-②-1)	松江市社寺建築悉皆調査業務	奈文研	文化遺産部	327
3521F-3	2-(5)-②-1)	生駒市内歴史的建造物悉皆調査業務	奈文研	文化遺産部	328
3521F-4	2-(5)-②-1)	和束の茶業景観における文化的景観全覧図作成業務	奈文研	文化遺産部	329
3521F-5	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城） 企画調整部	330
3521F-6	2-(5)-②-1)	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	331
3521F-7	2-(5)-②-1)	山口市周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	332

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3521F-8	2-(5)-②-1)	甘樫丘地区発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター 企画調整部	333
3521F-9	2-(5)-②-1)	宝塚１号墳出土埴輪再整理に係る遺物写真撮影・保存科学研究	奈文研	企画調整部	334
3521F-10	2-(5)-②-1)	「中世・近世石づくりのまち」調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	335
3521F-11	2-(5)-②-1)	令和３年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	奈文研	埋蔵文化財センター	336
3521F-12	2-(5)-②-1)	岡山県浅口市城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査	奈文研	埋蔵文化財センター	337
3521F-13	2-(5)-②-1)	須玖岡本遺跡地中レーダー探査	奈文研	埋蔵文化財センター	338
3521F-14	2-(5)-②-1)	令和3年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	奈文研	埋蔵文化財センター	339
3521F-15	2-(5)-②-1)	自然災害伝承碑に係る試料写真撮影・表面光学処理	奈文研	埋蔵文化財センター	340
3521F-16	2-(5)-②-1)	塚坊主古墳地中レーダー探査及び電気探査	奈文研	埋蔵文化財センター	341
3521F-17	2-(5)-②-1)	櫨岡古墳群から出土したガラス玉の分析業務	奈文研	埋蔵文化財センター	342
3521F-18	2-(5)-②-1)	ベンショ塚古墳出土眉庇付冑のＸ線ＣＴ撮影委託	奈文研	埋蔵文化財センター	343
3521F-19	2-(5)-②-1)	河内寺廃寺跡出土遺物整理業務に伴う瓦に付着した白色物質の材質調査	奈文研	埋蔵文化財センター	344
3521F-20	2-(5)-②-1)	X線CTを用いた陵東遺跡出土埴輪中の堆積物の撮像と立体構造データ作成	奈文研	埋蔵文化財センター	345
3523F	2-(5)-②-3)	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	奈文研	埋蔵文化財センター	346
3531F-1	2-(5)-③-1)	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	奈文研	企画調整部	347
3531F-2	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	348
3630	2-(6)-③	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター		349
3650	2-(6)-⑤	令和3年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター		350

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高野山地区建造物調査業務(①-2))		
【委託者】	和歌山県高野町	【受託経費】	966 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）
【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員）、鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室主任研究員）、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）、山崎有生（同）、前川歩（防災センター主任研究員）			

【年度実績概要】

和歌山県高野町では、元年度より継続して、受託業務として、町内の歴史的建造物の悉皆調査を行っている。

3 年度は、2 年度に引き続き悉皆調査の調査成果に基づき、高野山山上の塔頭寺院の建築を中心に現地での詳細調査を行った。調査を行った建物は、35 件である。それぞれの建物について、調書作成、平面図野帳作成、写真撮影を行った。

なお、3 か年の調査成果については、4 年度に成果報告書として刊行する予定である。

高野山宝城院（和歌山県）本堂外観

高野山蓮華定院（和歌山県）本坊内部

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 12 日）
調査棟数：36 棟
野帳枚数：100 枚
写真カット数：約 5,000 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務(③-2)-ｱ)		
【委託者】	東大寺	【受託経費】	9,907 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）遺構研究室	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】

大林潤（文化遺産部建造物研究室長）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室長）、馬場基（都城発掘調査部平城地区史料研究室長）、西田紀子（同部平城地区主任研究員）・鈴木智大（同飛鳥・藤原地区主任研究員）、山本祥隆（同平城地区史料研究室研究員）、山崎有生・目黒新悟（以上同平城地区遺構研究室研究員）・福嶋啓人（同飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員）、山本光良（同平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

30 年度より東大寺から委託を受けている研究の 4 年目である。奈良時代創建の東大寺東塔（以下、天平塔）の復元原案の作成を行う。

3 年度は、2 年度に引き続き天平塔の構造や初重内部の検討を行った。所内の研究職員を中心とする「東大寺東塔復元検討会」(以下､所内検討会)での意見や外部機関との協議を踏まえ、天平塔の構造的な検討及び初重内部の検討を行った。天平塔の構造的な評価を行うための参考として、現存する興福寺五重塔の調査・研究を行い、随時外部機関と協議して検討を進めた。また、発掘遺構や出土遺物のほか、文献・絵画等の各種資料、現存する類例建物を参考に、仏壇や天井などの検討を進めた。

第 19 回東大寺東塔復元検討会
（9 月 1 日）

そのほか、今後刊行する予定の、これまでの東大寺東塔の復元研究の内容についてとりまとめた報告書の目次案を作成し、執筆を開始した。

以上の検討内容に基づき、公益財団法人文化財建造物保存技術協会に復元図の作成を指示し、復元図を作成した。これらは、所内検討会を計 2 回開催し、検討を深めた。また、東大寺が主催する有識者による委員会（以下、親委員会）が 2 回開催され、それまでの検討成果を発表し、討論を行った。3 年度の所内検討会及び親委員会の概要は以下の通り。

・初重内部の検討 3、構造解析の中間報告（第 19 回所内検討会、9 月 1 日）
・外部荘厳の検討、初重内部の検討、構造解析の中間報告（第 6 回親委員会、9 月 16 日）
・天平塔の構造解析 4、初重内部の検討 4（第 20 回所内検討会、11 月 30 日）
・構造解析による検討、初重内部の検討、東大寺東塔の検討成果、報告書の目次案（第 7 回親委員会、12 月 23 日）

以上の検討を経て、3 年度に復元原案をとりまとめた。また、これまでの検討会の内容を『東大寺東塔復元検討会記録 10』、『東大寺東塔復元検討会記録 11』（いずれも内部資料）として刊行した。

【実績値】

・東大寺東塔復元検討会（所内検討会）：2 回（第 19 回～第 20 回）
・東大寺東塔建築復元検討委員会（親委員会）：2 回（第 6 回～第 7 回）

論文等数：2 件（①、②）

① 目黒新悟「組物と軒の検討（仮）東大寺東塔の復元研究 5」『奈良文化財研究所紀要 2022』(4 年 6 月刊行予定)

② 山本光良「仏壇の検討（仮）東大寺東塔の復元研究 6」『奈良文化財研究所紀要 2022』(4 年 6 月刊行予定)

報告書等数：2 件（③、④）

③ 『東大寺東塔復元検討会記録 10』(内部資料)

④ 『東大寺東塔復元検討会記録 11』(内部資料)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F 7-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺東金堂院伽藍整備にともなう発掘調査（640 次）（③-2)-7)		
【委託者】	興福寺	【受託経費】	8,685 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、神野恵（同部平城地区考古第二研究室長)、西田紀子・和田一之輔・小田裕樹(同平城地区主任研究員)、浦蓉子(同平城地区考古第一研究室研究員)、垣中健志(同平城地区史料研究室研究員)、目黒新悟(同平城地区遺構研究室研究員)、谷澤亜里(同飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員)、田中龍一(同飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、脇谷草一郎(埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、村田泰輔(同主任研究員)、山口欧志(同遺跡・調査技術研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同写真室主任)、鎌倉綾(同写真室技能補佐員)

【年度実績概要】
・調査経緯
　興福寺第 1 期境内整備事業にともなう東金堂院の発掘調査
・調査区の位置と面積
　北区：東金堂西正面　南北 20m×東西 13m　計 260 ㎡
　南区：五重塔南東　　南北 4m×東西 3m　　計 12 ㎡
・調査期間
　7 月 13 日～11 月 4 日。
・調査概要
　東金堂院の正門及び回廊、興福寺境内の南面築地塀の状況を把握するために２つの調査区を設置した。地表下約 30 ㎝で遺構を検出した。

北区全景（北西から）

・基本層序
　北区：基壇上　小砂利混じり灰黄色土(現代舗装)、明褐色砂質土(近代以降の整備盛土)、礫混じり褐色砂質土(近代以前の舗装)、明黄褐色粘質土（基壇土)。
　基壇周囲　小砂利混じり灰黄色土(現代舗装)、明褐色砂質土(近代以降の整備盛土)、灰褐色砂質土(近代以前の整備盛土)、褐色砂質土(遺物包含層)、礫混じり明褐色砂質土（基盤整地土)。
　南区：築地基壇上　表土、褐色土(近代以降の遺物包含層)、黄褐色砂質土（築地積土)。
　築地積土北半　明黄褐砂質土・灰黄褐砂質土（築地積足土)。
　築地北側　表土、黄褐砂質土(近世以降の遺物包含層)、黄橙砂質土(遺物包含層)、灰黄褐砂質土(古代・中世の遺物包含層)、黒褐砂質土(古代・中世の遺物包含層)、 黄橙砂質土(創建当初の整地土)。
・検出遺構
　北区：基壇建物(門)1 棟、回廊 1 条、雨落溝 2 条。南区：南面築地塀 1 条、東西溝 1 条。
・出土遺物
　古代～近世の土器・陶磁器類、瓦塼類および金属製品等。
・調査所見
　① 東金堂西正面の門とそれに取り付く西面回廊の存在を確認し、それらの変遷を明らかにした(北区)。
　門と回廊の基壇・雨落溝にはそれぞれ上層下層の 2 時期があり、上層遺構は下層遺構の位置と規模を踏襲していた。回廊西辺の上層基壇地覆石抜取溝の下では、南都焼討（1180 年）に伴う炭混じり焼土を検出した。
　② 東金堂西正面の門とそれに取り付く西面回廊の基壇と建物の規模・構造を明らかにした(北区)。
　門の基壇規模は、南北約 10.8m(36.5 尺)であることが判明し、東西は約 8.0m(27.0 尺)に復元できる。門は、礎石の据付・抜取穴から、桁行 3 間(約 8.8m（30 尺))、梁行 2 間(約 4.7m（16 尺))の八脚門とみられる。
　回廊の基壇規模は、幅（東西）約 6.2m（21.0 尺)であることが判明した。回廊は、礎石の据付・抜取穴から、梁行 1 間(約 3.5m（12.0 尺）)の単廊であることを確認した。
　③ 南面築地塀の存在が確定し、それらの変遷が判明した(南区)。
　創建期の築地に伴う寄柱の柱穴と、古代築地の積土を確認した。また、古代から近世にかけて築地基壇を改修した際の柱穴や、地覆石の抜取と思われる溝も検出した。

【実績値】
論文等数 1 件：「興福寺東金堂院の調査―第 640 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』4 年 6 月刊行予定
(参考値)
出土遺物　：土器片 12 箱、瓦片 332 箱、軒丸瓦 165 点、軒平瓦 78 点、その他道具瓦等 45 点、金属製品等 54 点ほか
記録作成数：実測図 23 枚(A2 判)、撮影写真 4250 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F 7-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡左京三条四坊十坪の発掘調査（641 次）（③-2)-7)		
【委託者】	株式会社日本中央住販	【受託経費】	5,128 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、神野恵（同部平城地区考古第二研究室長）、西田紀子・和田一之輔・小田裕樹(同平城地区主任研究員)、浦蓉子(同平城地区考古第一研究室研究員)、垣中健志(同平城地区史料研究室研究員)、目黒新悟(同平城地区遺構研究室研究員)、谷澤亜里(同飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員)、田中龍一(同飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同部写真室主任)、鎌倉綾(同写真室技能補佐員)

【年度実績概要】
・調査経緯
　共同住宅建設に伴う事前の発掘調査
・調査区の位置と面積
　平城京跡左京三条四坊十坪　220 ㎡
・調査期間
　8 月 16 日～10 月 15 日
・調査概要
　敷地面積が狭小のため、調査区を南北に 2 回に分けて調査を実施した。地表下約 60 ㎝で遺構を検出した。
・基本層序
　地表面から、造成土、旧耕土、床土、床土、明褐色粘質土、茶褐色砂質土、粗砂～礫層を確認した。遺構検出は明褐色粘質土上面（標高 65.10m前後）で行った。調査区の東西で茶褐色砂質土、粗砂層が切り替わる。東半は粗砂～礫層であり、西半の茶褐色砂質土より前に堆積したと考えられる。粗砂層は木片や縄文土器を含む。
・検出遺構
　東西棟掘立柱建物 1 棟、柱穴列 5 条、土坑 1。
・出土遺物
　古代の土器、瓦塼類及び大型木製品等。
・調査所見
　調査区南半で桁行 3 間分、梁行 1 間分、柱間寸法が 10 尺等間の東西棟掘立柱建物を検出した。調査区北半で検出した東西柱穴列 1 は、東西棟掘立柱建物と柱筋を揃えており、同時期の遺構と考えられる。東西棟掘立柱建物、東西柱穴列 1 ともに西隣の奈良市による昭和 59 年度調査区へは続かない。南北柱穴列 2 は南端で、東西柱穴列 1 に接続し、柱間は南から約 1.8m（6 尺）、約 2.4m（8 尺）である。東西柱穴列 1 が東西棟掘立柱建物となる可能性もある。このほか、調査区北半で柱穴列を 3 条確認し、奈良時代より下層では北東から南西に蛇行する自然流路を確認した。流路内には流木が含まれる。

調査区南半全景（北西から）

【実績値】
論文等数 1 件：「平城京左京三条四坊十坪の調査―第 641 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』(4 年 6 月予定)
(参考値)
出土遺物　：土器片 3 箱、瓦片 1 箱、大型木製品（部材　2 点、柱破片　15 点)、木炭 1 点、石器 1 点
記録作成数：実測図 18 枚(A2 判)、撮影写真 1264 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F 7-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡右京三条一坊十坪の発掘調査（643 次）（③-2)-7)		
【委託者】	一建設株式会社	【受託経費】	540 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
神野恵(都城発掘調査部平城地区考古第二研究室長)、和田一之輔、西田紀子(以上同部平城地区主任研究員)、垣中健志（同平城地区史料研究室研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
　分譲住宅新築に伴う事前の発掘調査

・調査区の位置と面積
　平城京跡右京三条一坊十坪　12 ㎡

・調査期間
　12 月 8 日～10 日

・調査概要
　調査地は、平城京右京三条一坊十坪の西南部に位置する。東西に長い旗竿型の敷地の西寄りに東西 2m×南北 6m の調査区を設定した。現代の造成土は、脆弱な土だったため、法面に勾配をつけて掘削し、地表下 90 ㎝で犬走を設けて、最終的には東西約 0.6m×南北 3.5mの範囲で遺構検出を行った。地表下約 1.3mで遺構を検出した。

・基本層序
　基本層序は地表から、①造成土、②耕作土、③灰色砂質土（湿地状の堆積土)、④灰色砂（遺物包含層)、⑤灰白シルト（地山、H＝64.00～64.10m）となる。⑤灰色シルト層の上面には凸凹があり、砂層の落ち込みがみられる。⑤の上面で遺構検出を行った。

・検出遺構
　調査区内の平面で小穴 2 基、調査区の西壁面で杭列を確認した。小穴は灰色の粗砂で埋まっており、土器片等が出土した。杭列は 50～60 ㎝間隔で並ぶ。

・出土遺物
　調査区内からは奈良時代の須恵器、土師器、瓦の小片が出土した。

・調査所見
　調査区内全体は湿地状の堆積土及び水の流れに伴う堆積を確認した。奈良時代の明確な遺構は確認できなかった。

調査区全景（北東から）

【実績値】
論文等数 1 件：「平城京左京三条四坊十坪の調査―第 643 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』(4 年 6 月予定)
出土遺物　：土器片 1 箱、瓦片 1 袋、不明鉄製品 1 点
記録作成数：実測図 2 枚(A2 判)、撮影写真 45 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F 7-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	史跡法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査（第 644 次）(③-2)-7)		
【委託者】	宗教法人光明宗法華寺	【受託経費】	147 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
今井晃樹（都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長)、桑田訓也、和田一之輔、西田紀子(以上同部平城地区主任研究員)、大澤正吾（同平城地区考古第二研究室研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
名勝法華寺庭園の池の石組護岸改修工事に伴う事前の発掘調査

・調査面積
17 ㎡

・調査期間
4 年 1 月 24 日～2 月 14 日

・調査概要
調査地は、史跡法華寺境内の西北部に位置する。改修する石組護岸を撤去後に遺構の有無を確認する調査を実施した。改修工事にともなう掘削は基本的に石組護岸の裏込土及び庭園造成時の盛土内に収まり、古代から近世に至る明確な遺構は確認できなかった。一部の調査区で凝灰岩切石を確認した。原位置を留めていないとみられるが、掘削面積が狭小のため全体は未検出で詳細は不明である。古代の建物の礎石に使用されていた可能性がある。

・基本層序
基本層序は地表、①石垣護岸裏込造成土上層（砂質土/粘質土)、②石組護岸裏込土下層（粗砂)、③庭園造成土、④地山（細砂層)

・検出遺構
なし

・出土遺物
調査区内からは主に石組護岸裏込土下層（粗砂）から中世～近世の瓦及び土器類が出土した。

・調査所見
今回の調査区内全体では古代から近世に至る明確な遺構は確認されなかった。

石組護岸取り外し後に見えた凝灰岩切石
（切石は矢印部分、西北から）

【実績値】
出土遺物　：土器片 1 箱、軒瓦 21 点、瓦片 57 袋、石材 5 点、鉄滓 2 点、種実等 3 点
記録作成数：実測図 5 枚(A2 判)、撮影写真 45 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F 7-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	史跡　法華寺旧境内の発掘調査（645 次）（③-2)-7)		
【委託者】	宗教法人光明宗法華寺	【受託経費】	771 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
今井晃樹(都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長)、桑田訓也(同部平城地区主任研究員)、大澤正吾（同平城地区考古第二研究室研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室主任)、鎌倉綾（同部同室技能補佐員）

【年度実績概要】

・調査経緯
　消火設備改修工事に伴う事前の発掘調査

・調査区の位置と面積
　本堂の北側（北区）と南側（南区）　14.4 ㎡（北区：2.4 ㎡、南区 12 ㎡）

・調査期間
　4 年 1 月 17 日～2 月 9 日

・調査概要
　調査区は、本堂の北側（北区：東西 1.7m×南北 1.4m）と南側（南区：東西 6m×南北 2m）に分かれる。南区東北隅は、15 年度の第 363 次調査区と重複する。また、南区東端は、古代の二面廂東西棟建物 SB8601 の西側柱筋推定地にあたり、関連遺構の検出が期待された。地表下 30～40 ㎝で遺構を検出した。

・基本層序
　北区：地表から、①表土、②近世以降の遺物包含層、③黄褐色シルト（遺構面　整地土　標高 67.2m)、④黄褐色粘質土（地山）
　南区：地表から、①表土・造成土、②褐色砂質土（遺物包含層)、③黄褐色粘土（遺構面、地山、標高 66.6～66.3 m)、④にぶい黄橙色粗砂（地山）

・検出遺構
　北区：調査区東部で落ち込みを確認、時期不明。
　南区：土坑 5 基を検出。うち 3 基は中近世、1 基は古代、1 基は時期不明。

・出土遺物
　北区・南区とも、古代～近世の土器及び瓦が出土した。

・調査所見
　北区では、調査区東部で時期不明の落ち込みを確認したほか、顕著な遺構は認められなかった。
　南区では、土坑 5 基（古代 1、中近世 3、時期不明 1）を検出した。このうち、東南隅で検出した中近世の土坑は、埋土の様相から第 363 次調査で検出した池 SG8605 の延長部に当たると推定される。池 SG8605 は、『大和名所図会』に描かれている鐘楼を取り巻く池に比定される。
　南区東南隅は、過去の調査で検出した古代の東西棟建物 SB8601 の身舎西妻柱の想定位置に当たるが、関連する遺構は検出できなかった。そのほか、南区中央部で古代の瓦が多量に廃棄された土坑 1 基を検出した。出土した土器の年代観から、平安時代前半の遺構とみられる。

南区全景（北西から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　：土器片 4 箱、軒瓦 36 点・瓦片 45 袋、鉄釘 2 点、石材 3 点、焼土 1 点、種実 1 点、木炭 1 箱
記録作成数：実測図 3 枚(A2 判)、撮影写真約 500 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3135F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	令和２年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業(③-5))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	3,413 千円（総事業費：15,713 千円）
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長 金田明大

【スタッフ】

高妻洋成（奈良文化財研究所副所長）、清野孝之（同都城発掘調査部副部長）、森先一貴（同都城発掘調査部主任研究員）、小泉惠英（九州国立博物館副館長）、河野一隆（同博物館学芸部長）、木川りか（同博物館科学課長）、白井克也（同博物館企画課長）

【年度実績概要】

以下は、2年度に実施できなかった事業を繰越予算により3年度に実施したものである。

（1）「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成業務

水中遺跡の発掘調査に係る具体的な調査の手法や技術をまとめた調査マニュアル「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成に向けて、以下の事業に取り組んだ。

・編集会議を1回開催した。

第5回　4月15～16 日　（奈良文化財研究所）

第 5 回編集会議の様子

（2）国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究

・国内の水中遺跡の保存・活用手法に関する現地調査及び関係者ヒアリングによる情報収集を実施した。

7月15～16日　和歌山県串本町役場他（和歌山県串本町）

7月19～20日　雨崎洞穴他（神奈川県三浦市・横須賀市・葉山町・逗子市）

7月27～28日　渚の博物館他（千葉県館山市・勝山市）

7月29～30日　広島県立歴史博物館他（広島県福山市）

【実績値】

・編集会議の開催：1回

・調査研究事業及び関係者ヒアリングの開催：4回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3135F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	令和3年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業(③-5))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	2,803千円（総事業費：11,080千円）
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長 金田明大

【スタッフ】

高妻洋成（奈良文化財研究所副所長）、清野孝之（同都城発掘調査部副部長）、森先一貴（同都城発掘調査部主任研究員）、小泉惠英（九州国立博物館副館長）、河野一隆（同博物館学芸部長）、木川りか（同博物館科学課長）、白井克也（同博物館企画課長）

【年度実績概要】

(1) 「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成業務

水中遺跡の発掘調査に係る具体的な調査の手法や技術をまとめた調査マニュアル「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成に向けて、以下の事業に取り組んだ。調査マニュアルについては名称を『水中遺跡ハンドブック』としてとりまとめた。本書は4年3月31日に刊行され、全国の関係諸機関に配布された。

・水中遺跡調査検討委員会協力者会議を4回開催した。

第1回（通算第13回） 6月16日 オンライン開催（文化庁会場、奈文研会場、九博会場）

第2回（通算第14回） 8月4日～5日 オンライン併用開催（九州国立博物館）

第3回（通算第15回） 12月15日（文部科学省）

第4回（通算第16回） 3月9日（文部科学省）

・編集会議を3回開催した。

第6回 10月7日～8日（奈良文化財研究所）

第7回 11月10日～11日 オンライン併用開催（奈文研会場、文化庁会場）

第8回 1月20日～21日（奈良文化財研究所）

第14回協力者会議の様子

【実績値】

・水中遺跡調査検討委員会協力者会議の開催：4回

・編集会議の開催：3回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	木造金剛力士立像 2 躯の製作年代調査(①-3))		
【委託者】	公益財団法人　美術院	【受託経費】	420 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　年代学研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

○公益財団法人美術院が所蔵する阿吽一対の金剛力士立像について、年輪年代測定を実施した。

○解体修理の進捗状況にあわせ部材が解体された状態で実見し、構成する部材のうち横断面（木口）もしくは放射断面（柾目）が露出し、年輪数がより多く含まれていると判断された部材を調査対象とした。調査対象部材の数は、吽形 30 点、阿形 13 点、合計 43 点である。

○年輪年代が明らかとなった一連の部材について原木の伐採年代は、最も新しい年代が明らかとなった吽形像背面部材の 1173 年に集約されると考えられ、また、この部材には辺材が残存していることから 1173 年以降それほど経たない年代と考えられる。

解体された金剛力士立像の年輪年代調査風景

【実績値】
・調査対象点数：43 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査(①-3))		
【委託者】	甲斐善光寺	【受託経費】	251 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　年代学研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

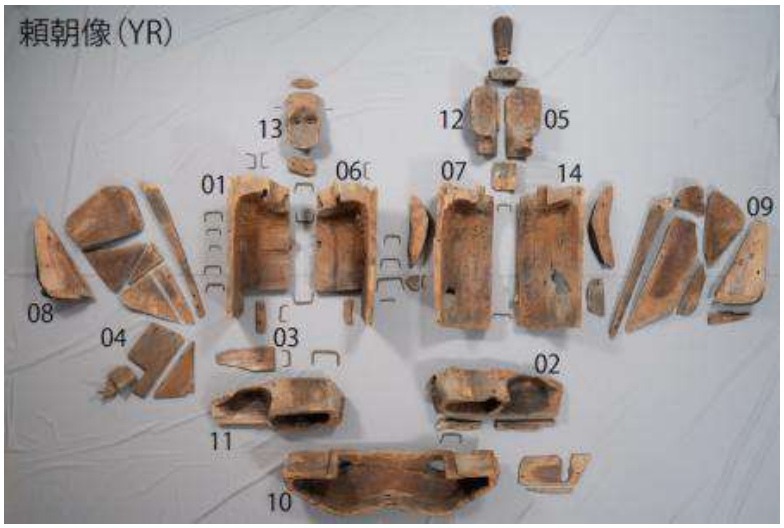
【年度実績概要】

○甲斐善光寺に伝わる木造源頼朝坐像の解体修理に伴い、年輪年代調査を実施した。

○解体された部材 14 点を対象とし、木口面、もしくは柾目面について接写撮影を行った。撮影した画像からコンピュータ上で年輪幅を計測した。

○クロスデーティングにより、樹皮が残存する体幹部材について、文保三年（1319）の像内年紀と非常に良く整合する 1318 年秋頃～1319 年春頃という伐採年が明らかとなった。

○今回の年代測定は、解体修理時ではないと検討が難しいものであり、同じく甲斐善光寺に伝わる実朝像の解体修理所見ともあわせて、両像の歴史的な理解の進展に資するものとなることが期待される。



解体された木造源頼朝坐像の年輪年代調査対象

【実績値】
・調査対象点数：14 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3227F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	松帆銅鐸・舌の調査研究(②-7))		
【委託者】	兵庫県南あわじ市	【受託経費】	2,028 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】
田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）、柳田明進（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】
○本事業の対象は、平成 27 年に南あわじ市で発見された銅鐸及び舌である。本資料は、舌を伴う点やこれらを吊り下げる紐が残存する点など、銅鐸の具体的な使用方法や埋納年代を知る上で非常に重要である。3 年度は、松帆銅鐸 2 号、5 号及び 6 号銅鐸について、一連の保存処理を実施した。

1) 保存処理の一環として、松帆銅鐸 2 号、5 号及び 6 号銅鐸について、クリーニング作業を実施した。筆、竹串、超音波研磨器等を用いて表面に付着している土粒子及び土粒子と一体化している腐食生成物を除去した。
2) 表面状態の記録のため、クリーニング完了時点で写真撮影を実施した。
3) 保存処理の一環として、クリーニングの完了した松帆銅鐸 2 号、5 号及び 6 号銅鐸について、ベンゾトリアゾール（BTA）を含むエタノールに 24 時間以上浸漬し、防錆処理（安定化処置）を実施した。
4) 保存処理の一環として、防錆処置完了後、充分に乾燥させた上記銅鐸について、アクリル樹脂（パラロイド B72）5%アセトン・トルエン溶液に減圧含浸し、強化処置を実施した。本処置では、上記溶液に遺物を数時間浸し、乾燥させるという工程を複数回繰り返し実施した。
5) 分析試料の採取に伴う欠損箇所をエポキシ樹脂で充填するとともに、アクリル絵具で補彩を施した。ただし、5 号銅鐸については、2 箇所サンプリングを行っているが、金属部分の色調を観察できるように、1 箇所は充填せず少量の BTA を加えたアクリル樹脂（パラロイド B72）アセトン・トルエン溶液を塗布した。
6) 5 号銅鐸に帰属する 10 点の破片（①～⑩）のうち、7 片（①②③⑥⑦⑨⑩）については接合・充填を行った。破片①②③については、A 面に接合した。接合にはアクリル樹脂を使用し、接合面が少ない箇所は物理的な強度を付与するため、エポキシ樹脂で充填した後、アクリル絵の具を用いて補彩した。破片⑥⑦⑨⑩については、B 面の破片であるが、破損時の歪みのため、本体には接合せず、破片どうしの接合にとどめた。接合にはアクリル樹脂を使用し、強度を付与するため、隙間をエポキシ樹脂で充填した。充填部分はアクリル絵の具で補彩した。
6) 保存処理終了時の状態を写真に記録した。

5 号銅鐸 A 面破片①②③接合・充填後（上）
5 号銅鐸 A 面破片接合・充填・補彩後（下）

【実績値】
『令和 3 年度　松帆銅鐸の保存処理に関する報告書』4 年 3 月

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（②－10）-ｱ)		
【委託者・受託経費】 受託者：文化庁 受託経費：33,313 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）
【スタッフ】 犬塚将英（分析科学研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、秋山純子（保存環境研究室長)、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

○壁画の制作技法に関する事項

・可搬式のハイパースペクトルカメラを用いて壁画を安全に分析するための基礎実験等を実施した。また、テラヘルツ波イメージング装置を用いて、天井石 2 を対象に壁画の保存状態調査を実施した。
・高松塚古墳壁画の保存活用に資するため、壁画の模擬試料を複数種作成し、構成部材の耐久性等を検討した。

・壁画の維持管理方針やその具体的内容について、科学的・学術的な助言を文化庁へ行った。また、維持管理の作業内容を検討するため、月に１回程度、修理施設等で文化庁及び関係者との協議を行った。
修復処置を施した代表的な箇所 4 点につき、目視状態観察と測色を含めた経過観察を継続的に行った。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成準備を行った。
修復作業及び修理材料の記録等に関するデジタルデータを整理し、検索可能な状態とした。

○壁画の保存環境の維持管理に関する事項

・高松塚古墳壁画を良好な環境で保存活用するため、修理施設の温湿度、並びに空気質、浮遊粒子、浮遊微生物、付着微生物、並びに落下微生物（年2回）、生息生物のモニタリング調査（年4回）を実施し、適切な保存環境の維持管理を行った。
・高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データをもとにして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究を行い学会発表と学術誌への成果報告を行った。

環境班による浮遊菌調査

○その他

・3 年度行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ 11 名を派遣し、立会い説明等を行った。また、一般公開にあたり新型コロナウィルス対応について助言を行った。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を二回開催した。
・文化庁主催の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 28、29 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

【実績値】

（参考値）論文・報告 1 件（ア)、学会発表 1 件（イ）

ア　「国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設における微生物環境管理指針の検討」(岡部迪子 他　『保存科学』61 号，4 年 3 月)

イ　「国宝高松塚古墳壁画仮設修理作業室におけるカビ環境管理指針の検討」(佐藤嘉則　日本防菌防黴学会第 48 回年次大会，3 年 9 月 9 日)

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（②－10）-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：17,480 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）
【スタッフ】 犬塚将英（分析科学研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○キトラ古墳壁画の制作技法に関する事項

これまでに可搬型蛍光X線分析装置を用いて実施した元素分析調査結果について、データ解析及び調査報告書刊行のための準備を行った。

・キトラ古墳壁画の保存活用に資するため、壁画構成部材の物性評価(細孔径分布・水蒸気吸脱着等温線)を行った。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成を行った。
平成16年度の発掘調査直後からの修復に関する報告書原稿を作成し刊行した。併せて、保管している関連資料全てをリスト化し、アーカイブとしてイントラネットでの検索可能な状態とした。

国宝キトラ古墳壁画修理報告書

○キトラ古墳壁画の保存環境の維持管理に関する事項

・再構成されなかった漆喰片を含むキトラ古墳壁画（5面）の最適な保存管理方法について、キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館四神の館内）等で、関係者の協議を行い、必要な指示を行った。
・年間4回行われるメンテナンス作業と、毎週の点検作業において報告の多かった埃対策として、蓋を作成する可能性を検討し、試作品内部の環境調査を奈文研と連携して行った。
・キトラ古墳壁画の保存管理に最適な設備環境に関し、保存科学・生物学等の観点から、必要な検討を行い、壁画の適切な保存・活用のための知見を提供した。

【実績値】

『国宝キトラ古墳壁画修理報告書』4 年 3 月刊行

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	735 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子

【スタッフ】
江村知子（文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長）、倉島玲央（保存科学研究センター研究員）

【年度実績概要】

本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。3 年度は、美術工芸品の修理に使用する原材料・用具のうち、ノリウツギ・名塩和紙・本美濃紙・彫刻修理用具について調査を行った。また、本事業の委員として本事業スタッフ 3 名と建石センター長の 4 名が 5 月 10 日及び 2 月 17 日の委員会に出席した。

標津町でのノリウツギの試験採取の様子

○ノリウツギ（北海道）

・ノリウツギの生産確保に関する調査

掛軸や巻子の修復に必要不可欠な宇陀紙には原料にノリウツギが必要だが、現在、その採取を行う唯一の採取者が 3 年度以降の採取を行わない予定である。そのため、今後の材料確保のための調査を行った。

調査日：7 月 11 日～13 日
調査地：豊岬木材工業株式会社、北海道大学演習林、北海道・浜頓別
調査日：7 月 27 日～28 日
調査地：標津町

・ノリウツギ保存方法に関する実験と調査

新規生産地において、従来使用してきたホルマリン同封による保存が難色を示されているため、代替薬品の検討を開始した。実際にノリウツギを使用する宇陀紙製作者の協力を得て、現地にて実験をスタートさせた。

○名塩和紙　（兵庫県）

ノリウツギを使用する紙として、名塩和紙について調査した。
調査日　：11 月 19 日
調査地　：谷徳製紙所、馬場和比古氏

○本美濃紙　（岐阜県）

楮・トロロアオイなどの材料確保にも積極的な産地として本美濃紙についての調査を行った。
調査日　：12 月 1 日
調査地　：美濃和紙の里会館、美濃竹和紙工房

○彫刻修理用具　（京都府・兵庫県）

木彫の修理には彫刻刀や鑿などの刃物が必要不可欠であるが、この刃物を製作する会社が後継者不足や原料の鋼が入手できなくなるなどの問題によって廃業の危機にある。実際にこうした刃物を使って彫刻の修理をしている美術院と、道具のデータベースを構築している竹中大工道具館で調査を行なった。
調査日　：12 月 21 日～22 日
調査地　：美術院、竹中大工道具館

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響		
【委託者・受託経費】 委託者：千葉科学大学 受託経費：500 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	早川泰弘（副所長）
【スタッフ】犬塚将英、水谷悦子（文化財防災センター）			

【年度実績概要】

消化薬剤が文化財に与える影響について評価を行った。

元年度に発生した首里城火災では、収蔵庫内に保管されていた多くの文化財にも甚大な被害が発生した。文化財収蔵施設では、不活性ガス系の消火薬剤が利用されることが多いが、設備の誤作動により死傷者を出す事例も発生している。このような背景に鑑みると、文化財の展示・収蔵施設において消化能力が高くかつ人体への影響は軽微な消火薬剤・設備の提案が急務である。加えて、消火薬剤が文化財を構成する材料に及ぼす影響を評価することは非常に重要である。

○本研究では、5 種類の金属試料（銀、銅、鉄、鉛、錫）と 3 種類の木材試料（ヒノキ、スギ、キリ）に新規エアロゾル消火薬剤を作用させ、当研究所と千葉科学大学にて分析調査を実施した。当研究所では、試料の顕微鏡観察、測色、光沢測定、蛍光 X 線分析、X 線回折分析による分析調査を実施した。

○以上の調査結果について報告及び協議を行うために、オンライン会議を 5 回開催し、さらに 1 月 17 日に当研究所のスタッフ、千葉科学大学、消火薬剤メーカーの関係者による研究会を当研究所にて開催した。

消火薬剤を塗布した金属試料と木材試料

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F 7-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務(②-10)-7)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	84,617 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）主任研究員）、清野陽一（飛鳥資料館研究員）

【年度実績概要】

四神の館、展示ケース内のガス濃度測定

○石室内より出土した漆塗棺材片を保存処理する方法を検討した結果、付着した泥を水及びアルコール等を用いて慎重に除去した後、高級アルコール含浸後に真空凍結する方法が妥当であることを確認した。今後、基本的にはこの方法で保存処理を進める予定である。
○仮設保護覆屋存在時及び墳丘整備後の状況を再現した VR コンテンツに利用するため、キトラ古墳の現状の周辺地形の 3 次元モデルの作成を進めた。
○キトラ古墳壁画に用いられている色料に関する情報を得るため、可視分光分析を行った。
○泥に覆われたキトラ古墳壁画の十二支像の有無を調査するため、蛍光 X 線分析を行った。
○壁画の変化を三次元的にモニタリングする手法として、フォトグラメトリーの一つである SfM-MVS 技術について検討を進めた。
○キトラ古墳壁画の経年変化を追跡調査するために、高精度カメラによる撮影を行った。
○キトラ古墳壁画の保存と活用に関する取り組みとして、保存管理施設における歩行性昆虫のトラップ調査、環境カビ調査、展示室展示ケースのガス濃度測定、温湿度調査、並びに粉塵量測定を実施した。
○秋と冬の壁画公開期間にあわせて、移動式のプラネタリウムを設置し、「キトラ古墳からみる古代中国の天文学」の投影イベントを実施した。
○整備後墳丘の維持管理のため、キトラ古墳墳丘法面植栽の経過観察を行った。
○保存管理施設に基本 2 名以上の人員が常駐する体制を整え、施設の出入りと作業に関するマニュアルに則り、空調の設定及び運転状況の確認、施設内の清掃、壁画の目視による状態観察や修理技術者による壁画点検への協力、生物対策、各種業者点検の立ち合いなどの作業を行った。
○地震、台風、豪雨等の後は収蔵品・施設・墳丘等を目視点検し関係者に情報共有した。また、飛鳥管理センター及び飛鳥歴史公園事務所との日常的な連絡調整、月 1 回の五者協議参加等の連絡調整作業を行った。
○キトラ古墳壁画の公開を 4 回実施した。また、壁画非公開期間においては、看視員 1 名を配置して、展示室の公開を実施し、出土品レプリカや石室模型などを展示した。
○保存管理施設のホームページを運営し、施設の紹介、公開等に関する情報を掲載した。

【実績値】
- 可視分光分析：2 件
- 蛍光 X 線分析：1 件
- 古墳壁画の経年変化記録撮影：43 カット
- 壁画公開参加者数：第 19 回 2,286 名。第 20 回 4,536 名。第 21 回 5,899 名。第 22 回 3,616 名
- プラネタリウム参加者数：秋 1,250 名。冬 930 名。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F 7-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(②-10)-7)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	47,126 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長)、内田和伸（文化遺産部長)、廣瀬覚（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室長)、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、田村朋美（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）主任研究員）

【年度実績概要】

○高松塚古墳の昭和 47 年出土品再整理作業の一環として、鏡・棺金具・釘・玉類について三次元計測を実施し、刀具類を含むそれらの資料について、高精細写真撮影、及び材質分析と保存処置を行った。さらに、関連資料として、石のカラト古墳、マルコ山古墳、牽牛子塚古墳、御嶺山古墳の出土品に対する三次元計測を実施した。
○昭和 47 年出土の棺金具の新所見について、奈良県立橿原考古学研究所と合同で記者発表した。
○高松塚古墳壁画の修理完了後の画像データを石室の三次元モデルに統合し、壁画修理前・修理後の石室閲覧コンテンツを作成した。
○高松塚古墳から採取した水準杭切り取り資料の台座を作成するとともに、版築資料について収蔵環境の再整理とデータベース化を進めた。
○高松塚古墳の発掘遺構面三次元モデルと仮整備墳丘三次元モデルを統合し、古墳現況の三次元モデルを作成した。
○壁画の色料調査に使用する X 線回折分析装置の実装を目的として、3 年度は装置を治具に取り付けた状態での動作確認及び安全確認を行った。また、テストピースを用いた測定データの収集を行った。
○高松塚古墳壁画に使用された材料について科学的に検討するため、可視分光分析を行い、得られた測定データを解析した。
○新たに建設される保存管理施設へ安全に石室石材を搬送するための基礎データを得るため、2 年度に引き続き施設内で石室石材を移動させた際の振動計測を実施し、その結果を解析した。
○各石室石材に対して、クラックの分布位置などを記録した損傷マップの作成を進めた。
○高松塚古墳壁画仮設修理施設において、壁画保管室等の保管環境の管理、壁画の状態観察を行った。
○壁画の経年変化を把握するため、記録撮影を行った。
○文化庁と連携し、年間 4 回の仮設修理施設の一般公開において、研究員を派遣し、高松塚古墳壁画に関する解説を行った。
○仮設修理施設の一般公開時に壁画の図柄の乾拓体験のイベントを春に 1 回行った。

北壁石(玄武)の可視分光分析の調査風景

【実績値】
・古墳壁画の経年変化記録撮影：18 件
・可視分光分析：2 件
・高松塚古墳壁画修理施設一般公開派遣研究員数：延べ 18 名

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（①－1）－ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：44,436 千円			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　友田正彦（事務局長）

【スタッフ】
西和彦（国際情報研究室長）、藤井郁乃、邱君妮、前田康記（以上、アソシエイトフェロー）、五嶋千雪、牧野真理子（以上、前アソシエイトフェロー）、廣野都未（事務補佐員）、七五三葉子（前事務補佐員）

【年度実績概要】
○文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するとともに、各分野の研究者間や関係機関との連携を図るために各種会議を開催した。コロナ禍の中で会議等は全てオンラインで行い、必要な連携を図ることができた。また、文化遺産保護に関する国際協力の活動を広く周知するため、研究会（2 回）、シンポジウム（1 回）をオンラインで開催するとともに、録画動画の作成と公開を行ったほか、コンソーシアム公式ウェブサイトを通して文化遺産に関する情報を発信した。また、2 年度から同じテーマで継続して行っている国際協力調査の報告書を刊行した。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催
・運営委員会を 2 回開催し、コンソーシアム全体としての活動方針等を協議した。
・企画分科会を 6 回、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を各 2 回ずつ、計 18 回オンラインにて開催した。さらに、アフガニスタン情勢に関する臨時会合を 2 回開催し、「アフガニスタンの文化遺産保護に関する緊急声明」を発表した。
・国際協力調査の一環として、WG 会議をオンラインにて 2 回開催した。ほか、研究会の内容検討会議を 17 回、シンポジウムの内容検討会議を 3 回、主にオンラインで行った。

Ⅱ．情報収集と情報発信
・コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動の周知広報を図った。
・研究会「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」「文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性」、シンポジウム「海と文化遺産－海が繋ぐヒトとモノ－」を開催し、動画の公開、報告書の刊行を行った。
・会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。

シンポジウムの様子

Ⅲ．文化遺産国際協力の推進に資する調査
・「海域交流ネットワークと文化遺産」をテーマとした調査を継続し、3 年度は 6 機関への聞き取り調査等を行った。2 か年度プロジェクトの最終年として報告書を刊行した。

【実績値】
運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：(企画分科会 6 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 2 回、アフリカ分科会 2 回、中南米分科会 2 回、アフガニスタン情勢についての臨時会合 2 回）合計 20 回、研究会の開催：2 回、シンポジウムの開催：1 回
（成果物）
①報告書『 JCIC-Heritage's 28th Seminar Cultural Heritage and the SDGs III: Role of Cultural Heritage in Local Communities』(英語版：200 部、4 年 3 月刊行)
②報告書『第 29 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～　報告書』(日本語版：200 部　英語版：200 部、4 年 3 月刊行)
③報告書『第 30 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性　報告書』(日本語版：200 部、4 年 3 月刊行)
④報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム国際協力調査　海域交流ネットワークと文化遺産　令和 3 年度　調査報告書』(日本語版：200 部、4 年 3 月刊行)
⑤報告書『令和 3 年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　海と文化遺産－海が繋ぐヒトとモノ－』(日本語版：200 部、4 年 3 月刊行)
⑥動画『人類の宝を未来につなぐ　日本の文化遺産国際協力（英語版)』、『第 29 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～（日本語版・英語版)』、『第 30 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性（日本語版)』、『令和 3 年度　文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム　海と文化遺産－海が繋ぐヒトとモノ－（日本語版・英語版)』(全てオンラインにて配信)

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」（2-(3)-①-2）-ア-（ア))

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：10,577 千円

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	金井健（保存計画研究室長）

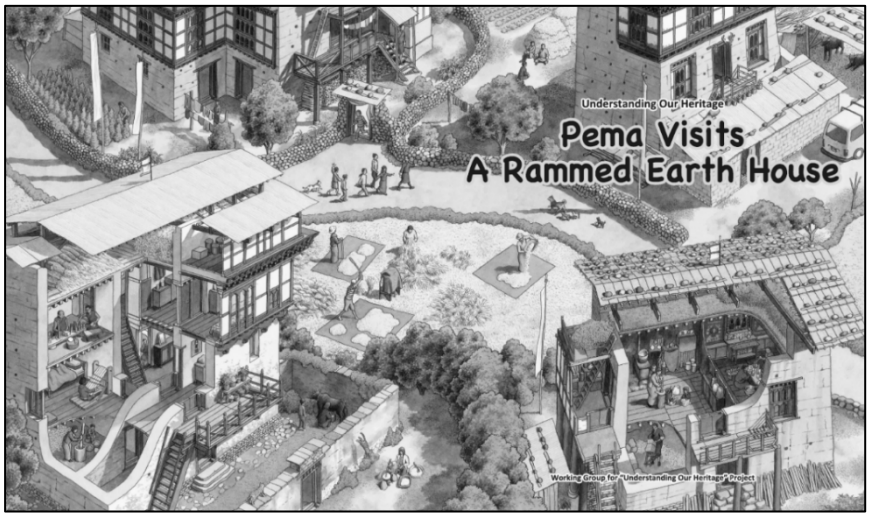
【スタッフ】友田正彦（文化遺産国際協力センター長)、西和彦（国際情報研究室長)、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

○本事業は、ブータン政府が法的整備の検討を進めている民家を含む歴史的建造物全般の文化財としての保護に関して、カウンターパートである同国内務文化省文化局（DoC）遺産保存課（DCHS）と協力し、同国の文化的伝統や遺産保護に対する考え方に即した実効的な制度や体制の構築に資することを目的とした。

○2 年度から新型コロナウイルス感染対策による現地渡航の困難が続く中、まず(1) 民家建築参考書及び社会教育教材の頒布並びに多言語化を進め、2 年度に刊行した文化財保護行政担当職員等を対象とした民家建築参考書のブータン国内での頒布を行うとともに、協力事業の実務を担う日本国内の専門家等に還元することを目的に同書の日本語版を制作、刊行した。また、2 年度から引き続き DCHS との共同で同国の中学生を対象とした社会教育教材の制作を進め、刊行した。社会教育教材は同国の教育言語である英語としたが、公用語であるゾンカ語版もあわせて制作、刊行した。新型コロナウイルス感染症が収束することを期待し、当初は(2)ブータンの伝統的民家建築等の価値評価に関する支援として、同国中部及び東部地域での民家建築の悉皆的調査と(3)ブータン人専門家の招へいによる民家建築の保存活用をテーマとした実習を予定していたが、収束が見通せないことからこれらを中止し、代替措置としてブータン中部及び東部地域の民家建築をテーマとした DCHS とのオンライン合同調査会を開催した。実施日程は以下の通りである。

6 月 10 日：MOU の取り交わし（郵送による)。
6 月 11 日：事業協力者会議の開催（オンライン)。
10 月 12 日：事業計画の変更に関する文化庁協議（12 月 17 日変更承認）
3 月 7 日：合同調査会「ブータン中部及び東部地域の伝統的民家建築の成立背景とその特徴」の開催。
参加者：22 人（当研究所 5 人、日本人協力専門家 8 人、DoC 職員 6 人、ほか 3 人）



社会教育教材『Understanding Our Heritage / Pema Visits a Rammed Earth House』表紙

【実績値】
○事業報告書『令和 3 年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業』4 年 3 月
○伝統的民家建築参考図書『ブータンの伝統的民家　西部中央編―ティンプー、プナカ、パロ、ハー―』4 年 3 月
○社会教育教材『Understanding Our Heritage / Pema Visits a Rammed Earth House』4 年 3 月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312F ｱ(ｱ)-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	令和３年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）（①-2)-ｱ-(ｱ)）		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	12,246 千円
【担当部課】	企画調整部 都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター	【事業責任者】	加藤真二（企画調整部長）

【スタッフ】
庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】

4 月 30 日、第 1 回オンライン研修「発掘調査の種類、発掘調査の準備と計画」「発掘調査の実施」「発掘調査における記録方法、自然科学的分析」に関する意見交換を開催した。この研修では、行政的な手続きや発掘報告書の管理などを中心に議論が進んだ。カザフスタンでは開発対応の大規模な発掘調査が毎年活発に実施されており、その資料の蓄積量に比して社会への成果還元の少なさというギャップについて、カザフスタン専門家も危惧しているようであった。研修は考古学の実技面を重視しているが、日本の行政システムを紹介する機会を設けることも検討する必要性が提起された。

5 月 27 日、第 2 回オンライン研修「カザフスタンにおけるガラス遺物の科学的分析研究」「発掘現場における遺物の応急処置」に関する意見交換を開催した。今回はガラスの科学的手法について研修を行ったが、これに先立って実際に日本にカザフスタンのガラスを持ち込み、日本で分析した結果を研究手法とともに報告した。分析結果を共有することで、カザフスタン専門家は分析手法とその手法によって得られる成果について、より理解を深めることができた。また、ガラスをテーマとした今後の研究課題については多くの意見や要望が提示され、カザフスタン専門家側の興味関心の高さや、本研修の今後の発展性を感じることができた。脆弱資料の取り上げについては、日本とカザフスタンの気候風土の違いが改めて浮き彫りになった。日本の技術をベースにしながらカザフスタンの実情に合わせた脆弱資料の取り扱い方法を検討する必要がある。そのためには、日本から専門家を派遣し、現地を詳しく調査することが必要であることが改めて認識された。

12 月 22 日、第 3 回オンライン研修「日本の考古遺跡保護の現状と課題」を開催した。これは、25 年にカザフスタンで文化財保護に関する新たな法律が制定されたことを背景に、埋蔵文化財行政の先進国である日本の事例から学びたいというカザフスタン側からの要望に対応したものである。研修では、日本における埋蔵文化財行政の歴史や背景、運用上の問題点など多岐にわたる論点の講義を提供した後、質疑応答を活発に行った。カザフスタン側からは、発掘調査の資格について、報告書の扱いについて、発掘調査の届け出について、データベースについて、盗掘の問題について、遺跡復元における真正性の問題について、被覆植生の遺構に与える影響について、遺跡地図の内容と公開の方法についてなど、実務上のさまざまなトピックについて質問があり、活発な議論が展開された。

今後、4 年 1 月に第 4 回、3 月に第 5 回のオンライン研修を実施した。また、これらと並行して、カザフスタン出土の土器、ガラス、骨などの遺物についての考古科学分析を日本国内で進めており、成果の一部を日本文化財学会および日本植生史学会で発表している。前者については朝日新聞に記事が掲載された。

第 3 回オンライン研修の様子

【実績値】
朝日新聞記事（9 月 21 日）「シルクロード旅してきた？」
日本文化財科学会（9 月 18－19 日）田村朋美ほか「福岡県平原 1 号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討」
日本植生史学会（10 月 31 日）庄田慎矢ほか「カザフスタン先史時代のキビ利用に関する新たな考古植物学的証拠」

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312Fｱ(ｱ)-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究　物質文化に見る前期青銅器時代1期南西カナンにおけるエジプト人居留地(①-2)-ｱ-(ｱ))		
【委託者】	独立行政法人日本学術振興会	【受託経費】	1,672千円
【担当部課】	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】
山藤正敏（飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員）、黒沼太一（総合研究大学院大学先導科学研究科特別研究員）

【年度実績概要】

○共同研究の概要
・本共同研究は、イスラエル国ネゲヴ・ベン＝グリオン大学（代表：ユーヴァル・イェクティエリ上級専任講師）と共同で、同大学による古代都市テル・エラニ遺跡の発掘調査で出土した土器を調査研究することにより、前4千年紀末にイスラエル南西沿岸部（南西カナン）に渡来したエジプト人の居留地の形成過程、及び同居留地を介したエジプト人と在地社会の接触の様相と変遷について精確な知見を得ることを目的としている。（独）日本学術振興会の受託事業として、3年度は以下の事業を実施したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、相手国への渡航及び相手国からの招聘は実施できなかった。

○本研究に関する打ち合わせ（電子メール）
・新型コロナウイルスの感染拡大により、相手国への渡航が不可能となっているため、電子メールにより不定期の打ち合わせを頻繁に行ってきた。元年度の2度のイスラエル渡航で得られた研究データの取り扱いや、今後の研究方針などについて議論を重ねた。

○研究成果の整理・公表
・元年度に得られた研究データの整理とこれまでの研究における位置づけを行った。本研究費で購入した多数の専門書籍を用いながら、広く周辺地域の中に研究成果を位置づけた。この過程で、加工などにより増大した研究データに対処するために、専用の大容量ハードディスク等を購入し、厳重に保管した。
・研究の暫定的な成果やこれと密接に関連する研究成果について、国内外の学会（いずれもweb上での開催）において口頭で発表し、国内外の複数の学会誌（査読付）に日本語・英語で投稿した。

【実績値】
・研究発表：2件（ア・イ）、研究論文：1件（ウ）（査読あり、掲載決定済）
ア　Yamafuji, M. “Creation of the Social Boundary: A Test Case of Early Bronze Age in the Southern Dead Sea Valley”, 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, University of Bologna (web), April 7th.
イ　山藤正敏・ユーヴァル イェクティエリ・サミュエル アトキンス・黒沼太一「南レヴァントにおけるエジプト系居留地の形成―テル・エラニ出土土器の試験的定量分析から―」日本西アジア考古学会第26回大会、国士舘大学（web）、7月4日。
ウ　山藤正敏・黒沼太一・ユーヴァル イェクティエリ・サミュエル アトキンス「南レヴァントにおけるエジプト系物質文化の浸透過程―テル・エラニ遺跡出土土器の試験的分析―」『西アジア考古学』第23号、4年3月。

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 3320G-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和3年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	48,939千円
【担当部課】	―	【事業責任者】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長　岩本　渉

【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、外間尹隆（総務担当室長)、天野千代子（係長)、井上愛奈、梅田恭代、大倉美恵子、佐々木一恵、山本倫未（以上アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

①海外研究機関との連携による持続的な研究情報の収集

- 2年度に引き続きインドネシア、ベトナム、フィリピン、タイ、マレーシアの機関と連携し、情報収集を実施した。新規協力機関としてキルギスのNGOが加わった。
- キルギス(11月25日)、マレーシア(11月29日)、ベトナム(11月30日)について、それぞれの国内でワークショップをオンライン開催した。
- 3年間の情報収集を総括する地域ワークショップを開催した。(4年1月21日)
- 各協力機関から提出された研究情報合計320件をIRCIデータベースに投入した。(4年3月)

②研究データベースの活用促進に向けた仕組みづくり

- 元年度に構築したパイロットデータベースをIRCIデータベースに統合した。
- 既存データベース機能の追加・修正を行った。

③無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントについての研究

- 無形文化遺産の潜在的災害リスクと防災に有効な側面について整理するためのワークシート及びガイドラインを作成した上で、8か国(インドネシア、フィリピン、ベトナム、バングラデシュ、バヌアツ、フィジー、モンゴル、日本)を対象として、現地研究機関・研究者と連携し、調査を実施した(コロナ禍のためデスクトップで対応可能な手段を構築した)。

(2)無形文化遺産保護及びその研究の活性化に資する国際会議等の開催

①第3回IRCI研究者フォーラム

- IRCI創設10周年の機会をとらえ国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題－持続可能な未来に向けて－」をオンラインで開催し、無形文化遺産保護に関する課題や国際的な研究動向について、2つのセッションとパネルディスカッションが行われた。100人を超える参加者の申し込みがあり、その6割は海外からであった。(10月29日、オンライン)
- 研究者フォーラムの成果はプロシーディングスとして出版した。(4年3月)

②「第10回IRCI運営理事会」(11月17日、オンライン)を開催し、次期長期及び中期計画、4年度事業計画について承認を得た。

(3)無形文化遺産の保護に係るネットワークの構築

- 第10回中国C2センター運営理事会（4月26日、オンライン)
- ICHCAP Launching Ceremony for ichLinks（5月27日、オンライン)
- UNESCO Webinar on the 2005 Convention（8月31日、オンライン)
- Introductory Meeting with UNESCO Beijing Office（9月8日、オンライン)
- Indira Gandhi National Centre of the Arts Webinar“Mapping Culture, Safeguarding Heritage”（10月25日、オンライン)
- 「堺の無形文化遺産を考える」（10月30日、堺市)
- 2021年韓国C2センター運営理事会（11月5日、オンライン)
- 第9回C2センター会合（11月29日、オンライン)
- 第16回無形文化遺産条約政府間委員会（12月13日～18日、オンライン)
- UNESCO Regional Consultation on Cultural Policies for the Asia-Pacific region（1月11日～12日、オンライン)

IRCI研究者フォーラムの模様((2)-①)

(4)情報公開等

IRCIウェブサイトの定期的更新、「IRCI概要2021」日・英版作成を行った。

また、過去10年のIRCIの活動についてアンケート調査を行った。(世界50か国から150件回答、79%がIRCIの活動を高く評価)

【実績値】

国際会議等開催件数：3件、国際会議等出席件数：8件、ウェブサイトアクセス件数：15,472件（3年4月1日-4年3月31日)、データベース登録件数：2,821件（3月31日時点)、検索件数：1,246件（3年4月1日-4年3月31日)

刊行物：①「IRCI研究者フォーラムプロシーディングス」(4年3月)②「持続的研究情報収集プロジェクトレポート」(4年3月)

【受託】　施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号　3320G-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和3(2021)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「海外展開を行う草の根のユネスコ活動」事業		
【委託者】	一般社団法人SDGsプラットフォーム	【受託経費】	3,995千円
【担当部課】	―	【事業責任者】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長　岩本　渉
【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、外間尹隆（総務担当室長)、天野千代子（係長)、梅田恭代、佐々木一恵（以上アソシエイトフェロー)			

【年度実績概要】

7月中旬に採択が決定した上記受託により、2年度から引き続きバングラデシュ、インドネシア、キルギスを対象地域として「無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究－教育とまちづくり」事業を実施した。

(1)各国事例調査の実施

・バングラデシュのDhaka Ahsania Mission、インドネシアのDewi Fortuna Community Learning Center、キルギスのTaalim-Forum Public Foundationと連携し、各国において、卓上調査、コミュニティ・学校・博物館等へのインタビューやワークショップ、対象無形文化遺産の実践などの事例調査を行った。

・各国の事例調査の結果はレポートとしてまとめられ、各国の連携機関よりIRCIに提出された。

・事例調査の一環として、各国において無形文化遺産、人類学分野などの専門家、大学の教授及び学生、無形文化遺産の実践者、コミュニティメンバー、地域政府関係者などを招きワークショップを開催した(インドネシア　11月4日、バングラデシュ　11月9日、キルギス　11月26日)。

＊コロナ禍により渡航が困難であったことから、IRCIはオンラインワークショップを通じて、調査プロセスに参加した。

インドネシアでのワークショップの模様（1)

(2)専門家会合・国際シンポジウムの開催（オンライン)

・各国の事業協力者、リソースパーソン、本事業の前身となる事業の協力者(フィリピン、ベトナム)を招き、2年間の事業のまとめとなる専門家会合を開催した。(12月21日)

・翌22日に開催した国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献～より良い学びと持続的可能なまちづくりに向けて～」(12月22日)には、上記の事業関係者に加え、日本の若者、教育関係者らを発表者として招き、日本国内と海外との情報共有・意見交換の機会とした。

・国際シンポジウムは事前登録による一般公開を行い、国内外より44名の参加が得られた(約6割は海外)。

専門家会合・国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献～より良い学びと持続的なまちづくりに向けて～」での模様（2)

(3)本事業の成果をまとめた事業報告書を作成した。(4年3月)

【実績値】

現地ワークショップ：3件
国際シンポジウム・専門家会合：各1件
刊行物：事業報告書　1件(4年3月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	松江市内社寺建築詳細調査(②-1))		
【委託者】	島根県松江市	【受託経費】	499 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員）、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員）、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）

【年度実績概要】

3 年度に行った松江市内社寺建築悉皆調査の成果に基づき、悉皆調査で確認された年代的、技法的、地域的等の特色が認められる建造物約 40 棟について、詳細調査を行った。

調査では、それぞれの建物について、調書作成、平面図野帳作成、写真撮影を行った。また、棟札を保管している社寺については、同時に棟札調査を行った。これらの調査により、各建物の年代の特定、建築的特色、造営に関わる大工等について明らかにした。

なお、本調査の成果については 4 年度に報告書として取りまとめ刊行する予定である。

瑞光寺（松江市）本堂・庫裡外観

金刀比羅神社（松江市）拝殿外観

【実績値】

調査回数　2 回
調査野帳　101 枚
調査写真　約 7300 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	松江市社寺建築悉皆調査業務(②-1))		
【委託者】	島根県松江市	【受託経費】	1,050 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）
【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員）			

【年度実績概要】

・松江市からの受託事業として、市内の社寺建築について悉皆調査を行った。
・調査では、事前に宗教法人一覧及び、住宅地図上より確認される社寺の位置を、地図上で確認した上で、各物件について、境内に位置する建造物すべてについて、番号を付し、調書作成および写真撮影を行った。
・また、調査内容をデータ化し、物件の位置については PC 上でプロット図を作成した。
・最終的な調査物件数は 695 件、建物棟数は 2,495 棟である。
・調査成果は、松江市の刊行物として 4 年 3 月に刊行した。

華蔵寺（松江市）鐘楼門外観

推恵神社（松江市）本殿外観

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 14 日）
調査物件数：695 件（2,495 棟）
調査写真：13,621 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	生駒市内歴史的建造物悉皆調査業務(②-1))		
【委託者】	奈良県生駒市	【受託経費】	127 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員）、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員）、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）、山崎有生（同）、前川歩（文化財防災センター主任研究員）

【年度実績概要】

生駒市史編纂のための事前調査として、生駒市内の社寺以外の歴史的建造物の悉皆調査を行った。

調査では、昭和 30 年代までに建てられた建造物の所在と種類および規模を明らかとするため、事前に住宅地図上で、昭和 40 年代以降に開発された地区以外の場所をあらかじめ確認した上で、現地にて各物件について外観からの目視調査により、各物件の調書作成、写真撮影、地図上へのプロットを行った。

調査によって確認された建物種別は、住宅主屋、付属屋、納屋、土蔵等で、特に主屋については、大正期頃に建てられたと思われる茅葺住宅が、市内北部を中心に、多数残存していることを明らかにした。

本調査によって確認された物件のうち、技法的、年代的、地域的に特色のある物件については、4 年度以降に詳細調査を行う予定である。

茅葺民家事例（生駒市）全景

土蔵事例（生駒市）全景

【実績値】

調査回数　18 回
調査棟数　1,419 棟
調査写真　2,837 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-4

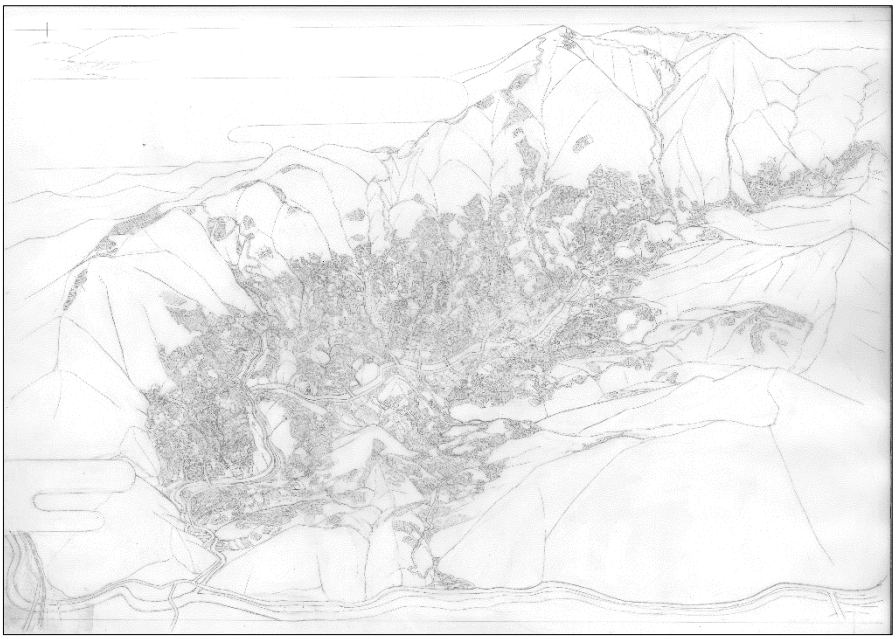
業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	和束の茶業景観における文化的景観全覧図作成業務(②-1))		
【委託者】	京都府和束町	【受託経費】	150 千円
【担当部課】	文化遺産部　景観研究室	【事業責任者】	景観研究室長　中島義晴

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室主任研究員）

【年度実績概要】
・和束町の茶業景観を説明する全覧図の下図を作成した。

・茶業景観に関する土地の地籍図・土地台帳のデータ化を行った。



全覧図の下図

【実績値】
下図作成：1 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託(②-1))		
【委託者】	国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所	【受託経費】	34,928 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】

加藤真二（企画調整部長)、岩戸晶子（同部展示企画室長)、難波美緒（同展示企画室アソシエイトフェロー)、箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長)、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長)、丹羽崇史・西田紀子・鈴木智大・前川歩（以上同主任研究員)、福嶋啓人・山崎有生・目黒新悟（以上同遺構研究室研究員)、李暉・大和祐也（以上同遺構研究室アソシエイトフェロー)、大林潤（文化遺産部建造物研究室長)、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、村田泰輔（同センター主任研究員)、柳田明進（同保存修復科学研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同部主任)、鎌倉綾(同技能補佐員)

【年度実績概要】

本事業は、第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討及び公開・活用を行う国土交通省からの受託研究である。

復原検討部分は、奈良時代前期（Ⅰ-2 期）の第一次大極殿院を構成する各建物のほか、地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。3 年度は、①これまでの第一次大極殿院復原研究の成果を示す報告書の編集、②東楼における木口金具の経年変化検証のための金具製作実験、③東楼における寄棟屋根と鴟尾の納まりの検討を行った。

①は、2 年度に執筆した本文編と図版編の原稿校正と編集作業を進めた。②は、30 年度の検討成果を踏まえ、垂木木口金具の大量生産の視点から、純銅を用いた古代の鋳造工程と鍍金工程を再確認する製作実験を行った。鋳造工程では、発掘出土遺物の情報に基づき、鋳型の製作と、鋳込後の製品の品質について、実験の結果を検証した。鍍金工程では、正倉院文書に記述される金アマルガムの配合比と単位面積の金重量に基づき、鍍金を実施するとともに、仕上がりの状態を確認した。また、鍍金時の工程を再検討し、追加彫金や下磨きなどを工夫して製品の品質を向上させる効果があることを提示した。③は、寄棟屋根で鴟尾をのせた現存事例が限られているため、3 分の 1 の屋根模型を製作して、鴟尾の支持方法と隅棟と鴟尾の取り合い位置について検討を行った。

第 9 回大極殿院復原建築金具検討会
（12 月 11 日）

以上の②と③について、有識者を招聘した②に関する検討会（建築金具検討会）と、所内で行う③に関する復原検討会をそれぞれ 2 回、計 4 回開催した。これらの検討内容を収録した記録として、『第一次大極殿院復原検討会記録 18』（内部資料）を刊行した。

公開・活用については、3 月に完成した南門について、工事の進捗に伴い写真撮影を行い、撮影した写真のデータ整理や展示公開に向けての解説資料等について取りまとめを行った。

【実績値】

検討会：4 件
・第一次大極殿院復原建築金具検討会：2 回（9 月 24 日、12 月 11 日)、鋳型の製作と、鋳込後の製品の品質について、実験の結果を検証した。
・第一次大極殿院復原鴟尾検討会：2 回（10 月 25 日、4 年 1 月 28 日）
論文等数：2 件
・李暉「量産視点での古代垂木木口金具の製作－第一次大極殿院の復原研究 32－」(仮)『奈良文化財研究所紀要 2022』（4 年 6 月刊行予定）
・大和祐也「模型製作を通した寄棟屋根における鴟尾納まりの検討－第一次大極殿院の復原研究 33－」（仮）『奈良文化財研究所紀要 2022』(4 年 6 月刊行予定)
報告書等数：1 件
・『第一次大極殿院復原検討会記録 18』(4 年 3 月）(内部資料)
国土交通省等からの問合せ等への対応：18 件
復原工程記録の写真撮影：17 回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究(②-1))		
【委託者】	奈良県明日香村	【受託経費】	290 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 埋蔵文化財センター	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】山本崇（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室長）、田村朋美（同部主任研究員）、松永悦枝（同飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）、西光慎二（明日香村文化財課課長補佐）

【年度実績概要】

○西橘遺跡は、奈良県明日香村に所在する、橘寺旧境内の西に隣接する遺跡である。この遺跡から 7 世紀後半頃と推定される木簡約 270 点が出土し、類例の少ない当該期の木簡の中で、まとまった内容を示すものとして注目されている。この事業は、西橘遺跡出土木簡について科学的な保存処理を行った上で有識者を招いて釈文を確定し、その歴史的、地域史的な意義を明らかにすることを目的とするもので、明日香村からの受託事業として 4 年度までの 4 か年を予定している。3 年度は、木簡 1 点の表面処理および保管形態の検討、木簡および木製品を対象とした樹種同定を中心に研究を進めた。

○事業の概要は次の通りである。

・地中で複雑に折損した状態で出土した木簡 1 点について、慎重に表面処理を行うとともに、保存処理後の保管方法を検討した。
・樹種同定が可能な状態にある木簡 33 点、木製品 30 点の樹種同定を行った。
・木簡釈文の確定、報告書掲載解説原稿作成のため、調査研究を進めた。
・3 年度に予定された業務について、委託主体である明日香村に研究成果報告書を作成して報告した。なお釈文の最終確定は、5 年度に予定されている明日香村刊行の発掘調査報告書において行う。

樹種同定した木簡 33 点の切片プレパラート

【実績値】

保存処理（表面処理）1 点
樹種同定　63 点
奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）『明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和 3 年度）』（4 年 3 月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	山口市周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究(②-1))		
【委託者】	山口県山口市	【受託経費】	499 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）史料研究室	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】
山本崇（史料研究室長)、田村朋美（主任研究員)、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室長)、栗山雅夫（企画調整部写真室主任)、竹内亮・藤間温子（客員研究員)、黒羽亮太（山口大学人文学部講師）

【年度実績概要】
○周防鋳銭司跡は、山口市に所在する、古代の銭貨鋳造にかかわる遺跡である。この遺跡の第 3 次・第 4 次調査において 9 世紀頃と推定される木簡約 200 点が出土した。この事業は、周防鋳銭司跡木簡について科学的な保存処理を行った上で有識者を招いて釈文を確定し、その歴史的、地域史的な意義を明らかにすることを目的とするもので、山口市からの受託事業として 3 年度に実施した。

○事業の概要は次の通りである。
・水漬け状態における肉眼による釈読、材の形状や加工痕跡の観察などを行い、木簡の状態を記録した記帳ノート、赤外線テレビカメラ装置取込画像を新たに作成した。
・実体顕微鏡観察により、木簡の樹種を判別した（4 月 13 日)。
・外部有識者の参加をえて、水漬け状態における釈文の検討会を 1 回開催した（4 月 21 日)。検討会では、赤外線テレビカメラ装置による現状の観察とともに、出土当時の写真と記帳ノート、水漬け状態で撮影したカラー・赤外の 2 種類のデジタル画像を参照し、仮釈文を作成した。
・藤原地区保存科学実験室において科学的な保存処理を実施した。保存処理の方法は、第 3 ブチルアルコールを用いて木簡内部の水を置換してから高級アルコールを含浸させた上で真空凍結乾燥を行う方法によった。
・保存処理後の状況を、カラー・赤外の 2 種類のデジタル画像で記録し、釈読を補完するため保存処理後の赤外線テレビカメラ装置取込画像を作成した。
・外部有識者の参加をえて、保存処理後に釈文を再検討する検討会を 2 回開催し（12 月 16 日、4 年 1 月 20 日)、また発掘・整理作業にかかわる現地有識者の助言を踏まえ、釈文案を作成した。
・当該業務について、委託主体である山口市に研究成果報告書を作成して報告した。

保存処理済の削屑が収納された保管箱

【実績値】
保存処理　203 点（木簡 23 点、削屑 180 点)
記録作成　203 点（赤外線テレビカメラ取込画像 406 点、デジタル写真カラー406 点、デジタル写真赤外線 406 点、記帳 203 点)
奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)『山口市周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和 3 年度）』（4 年 3 月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	甘樫丘地区発掘調査(②-1))		
【委託者】	国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所	【受託経費】	383 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　清野孝之
【スタッフ】林 正憲(飛鳥・藤原地区考古第三研究室長)、若杉智宏(同部主任研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室主任)			

【年度実績概要】

○国営飛鳥歴史公園（甘樫丘地区）のトイレ改築にともなう発掘調査を実施した（飛鳥藤原第 207-4 次)。
・調査地：　明日香村川原
・調査期間：　11 月 29 日～12 月 2 日
・調査面積：　42 ㎡

○調査成果
・調査地における基本層序が判明した。表土の下層にある国営公園整備土の直下に、遺構面である地山面（花崗岩の岩盤層）が存在することを確認した。地表面から地山面までの深さは、25～60 ㎝である。
・調査区の大部分で、既存トイレの浄化槽設置の際に地山が 2mほどの深さまで掘り下げられていたため、その範囲における遺構面等は完全に失われていることを確認した。調査区の西部と北辺東半沿いの一部では、公園整備土の直下で地山を検出したが、地山面上で顕著な遺構は検出できなかった。
・甘樫丘の地山は、細かな単位で岩相が切り替わる特徴的な様相を呈することを確認した。
・今回の調査では遺物は出土しなかった。

完掘状況(北西から)

地山の岩相の切り替わり状況(南西から)

【実績値】
出土遺物：なし
記録作成数：遺構実測図 2 枚、土層断面図 1 枚、デジタル写真 4 枚、デジタルメモ写真 69 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	宝塚1号墳出土埴輪再整理に係る遺物写真撮影・保存科学研究(②-1))		
【委託者】	三重県松阪市	【受託経費】	316千円
【担当部課】	企画調整部　写真室	【事業責任者】	写真室主任　栗山雅夫

【スタッフ】田村朋美、和田一之輔（以上、都城発掘調査部主任研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室主任)、柳 成煜（前埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

平成11年に行われた宝塚1号墳の発掘調査で出土した埴輪のうち、船形埴輪・家形埴輪・囲形埴輪等について30年から実施されている再整理調査の一環として、高精細写真による記録撮影と胎土・赤色顔料の科学分析を実施した。

現地調査のうち、写真撮影は6月21日から25日、科学分析は22日から23日に実施した。

写真撮影は船形埴輪1点、家形埴輪1点、囲形埴輪3点を対象とし立面・俯瞰を合わせて332枚108カット撮影した。とりわけ船形埴輪についてはその重要性に鑑みて平面8方向に加えてこれまで撮影できなかった俯瞰撮影を行い、これに円筒台や立ち飾りの有無等を加えて撮り分けた。加えて、高精細マルチショット撮影2種類（4ショット5千万画素、6ショット2億画素）での記録撮影を行ない等倍での打ち出しと細部観察を可能にする精度も確保した。また全体の集合写真についても縦横カットやアオリを使用した撮影とともにマルチショット撮影も組み合わせて、できる限りの高精細撮影により記録した。

その後、同時に写しこんだgretagmacbeth “ColorChecker™Color Rendition Chart”を利用して 現像時にカラーチャートに基づいた色調補正等を施した上でファイルネームや撮影データ等の写真整理を行った。成果写真は8bitTIFFと16bitTIFFに加えてハンドリングしやすいようにjpegファイルの3種類とした。船形埴輪の主要カットや俯瞰カット、全体集合写真については実大スケールや大判でのプリントを行い成果物のファイルや画像データを収めたHDDとともに納品した。なお、撮影データは委託者の松阪市と当研究所のマルチファイルデータベースにも格納し、双方で分散保管を実施している。

科学分析は、赤色顔料の材質に関する情報を得ることを目的として、ハンドヘルド型の蛍光X線分析装置（Olympus社製DELTA Professional）及び可視光分光分析装置（Ocean Optics社製）を用いて非破壊的手法により測定を実施した。分析対象としたのは、船形埴輪、家形埴輪、壺形埴輪、円筒埴輪、盾形埴輪など合計15点である。それぞれの個体について赤色顔料と思われる物質が付着している箇所および胎土についてそれぞれ1箇所以上測定を実施した。合計の測定箇所は、蛍光X線分析および分光分析いずれも約80ポイントである。

測定の結果、船形埴輪を含む多くの個体において、赤色顔料部分は胎土部分と比較して鉄（Fe）が強く検出された。さらに、同時に実施した可視分光分析でもベンガラ（酸化鉄）と類似の分光スペクトルが得られた。以上の結果から、古代の赤色顔料には、水銀朱（HgS)、いわゆるベンガラなどの酸化鉄系赤色顔料（Fe_2O_3)、及び鉛丹（Pb_3O_4）が知られるが、宝塚1号墳の発掘調査で出土した埴輪に付着した赤色顔料は、このうち酸化鉄系の赤色顔料である可能性が高いと言える。

写真1 船形埴輪の撮影風景

写真2 家形埴輪の分析風景

写真3 調査対象埴輪立面集合写真

【実績値】

撮影対象：船形埴輪1点、家形埴輪1点、囲形埴輪3点（以上、撮影対象)、332枚108カット撮影
撮影総データ量212.06GB、うち108カットデータ量94.67GB
分析対象：船形埴輪1点、家形埴輪2点、蓋形埴輪2点、壺形埴輪3点、盾形埴輪1点、円筒埴輪6点
蛍光X線分析箇所80ポイント、分光分析測定箇所80ポイント

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-10

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	「中世・近世石づくりのまち」調査研究(②-1))		
【委託者】	福井・勝山日本遺産活用推進協議会	【受託経費】	2,474 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	研究員　山口欧志

【スタッフ】
岸田徹（客員研究員）

【年度実績概要】

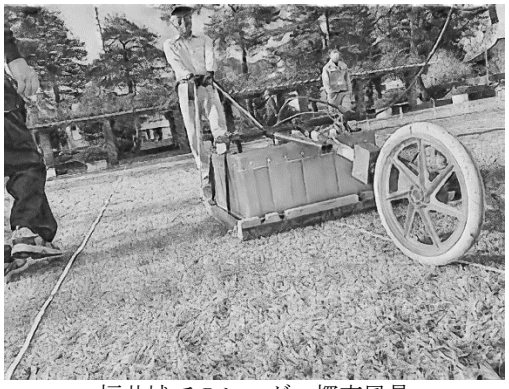
本事業は、日本遺産に認定された「400 年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり越前・福井」のストーリーに基づき、歴史遺産の保護と観光活用の基礎となる構成文化財の調査研究を、福井・勝山日本遺産活用推進協議会の依頼により実施するものである。

この事業を実施するため、下記の内容を行った。

（1）日本遺産構成文化財の基礎調査研究
・2 年度の勝山城跡に続き、3 年度は福井城の遺構を確認するための地中レーダー探査を実施した。
・福井城を踏査し実見と既往の計測データの収集を進めた。
・1940 年代の空中写真を用いて往時の土地利用に関する三次元データと地図を作成した。
・以上の成果と現況地形や歴史的な背景を踏まえた分析を進めた。

（2）「中世・近世石づくりのまち」調査研究会議
・ストーリーの掘り下げに適した研究者を調査研究会議として組織し、福井県福井市内で開催した。

（3）「中世・近世石づくりのまち」土木史研究会の組織と情報共有会議の開催準備
・中世から近世前半（1700 年頃）までの石を用いた土木の歴史の把握を図った。
・全国の石を用いた土木の痕跡を集成するため全国の研究者によるワーキンググループを組織した。
・ワーキンググループによる会議の準備と成果の取りまとめを行った。
・3 年度に収集した集成データの更新を行った。



福井城でのレーダー探査風景

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-11

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	令和 3 年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査(②-1))		
【委託者】	大阪府高槻市	【受託経費】	1,400 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】

高妻洋成（副所長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）、山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）、三村衛（京都大学教授）、小椋大輔（京都大学教授）

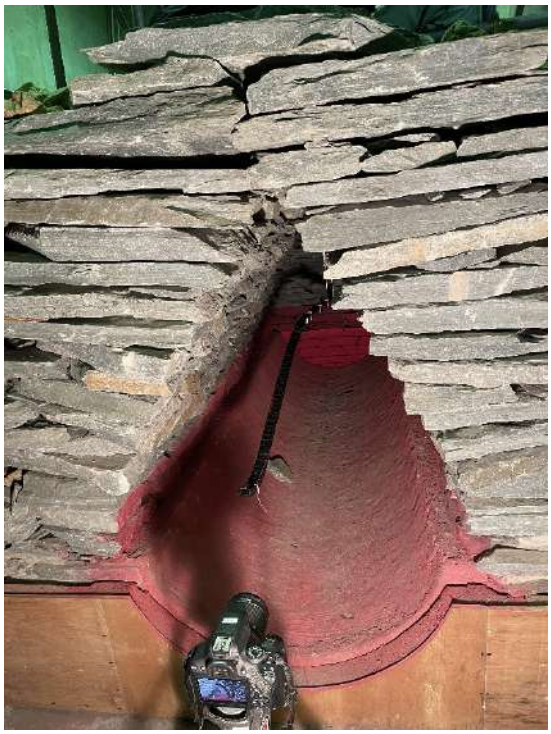
【年度実績概要】

2 年度より進めている三次元計測手法の開発については、課題であった横方向の進展時の剛性不足を補う方法について検討を行った。現状として、補助的なワイヤーの利用や伸縮ポールの活用、ギアとモーターによる補強などを検討したが、資材の調達が困難な状況もあり、開発が遅延している。このため、3 年度内で完了する基礎的な試験と機器の開発を延期することとした。

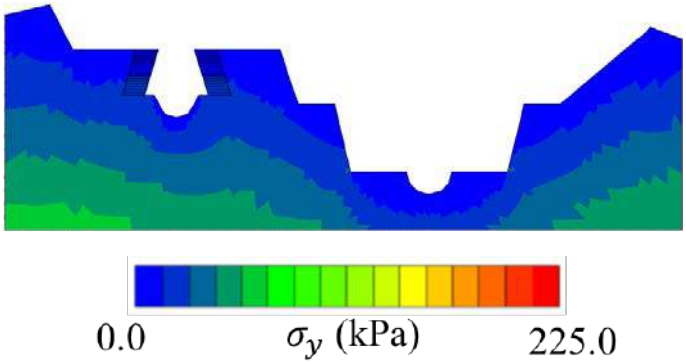
機材については現状での試作機を高槻市埋蔵文化財センターにて実験を行い、改良の必要のある要素を抽出した。

これとあわせて検討していた UAV による撮影については、狭小空間での運用が市販の製品では困難であるという課題があったが、工業プラントなど狭小部分で運用が可能な UAV を開発している企業があり、担当者と検討の結果、高槻市埋蔵文化財センターにおいて試験を実施すべく検討を進めている。

また、石室の発掘調査を実施する場合の 2 つの主体部にかかる土圧の変化と石槨の安定度のシミュレーションを行い、その変化を検討した。



模擬石室での三次元計測機の試験



(aa) 掘削段階㉕

図　石槨の解体時の安定性シミュレーション（一例）

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-12

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	岡山県浅口市城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査(②-1))		
【委託者】	岡山県古代吉備文化財センター	【受託経費】	98 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】
田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）

【年度実績概要】

○本事業の対象は、岡山県浅口市城殿山遺跡から出土したガラス小玉 9 点である。これらのガラス玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類及び着色材の特徴を把握することを目的として自然科学的調査を実施した。主な調査項目及び成果は下記の通りである。

1　顕微鏡観察

ガラス小玉の製作技法の解明を目的として、実体顕微鏡観察を行った。観察の結果、小玉の製作技法については、気泡が孔と並行に並ぶことや孔内が平滑であることなどの特徴から、全て引き伸ばし法であると判断される。端面は研磨されている。

2　コンピューテッドラジオグラフィ（CR）

鉛ケイ酸塩ガラスの識別を目的として、X 線透過撮影法の一種であるコンピューテッドラジオグラフィ（Computed Radiography：CR 法）を実施した。アルカリケイ酸塩ガラスと鉛ケイ酸塩ガラスの密度を比較すると、後者の密度がはるかに高く、X 線の吸収が大きいため、X 線透過画像から両者を容易に識別できる。調査の結果、X 線の吸収の大きい個体は認められず、すべてアルカリケイ酸塩ガラスであると推定された。

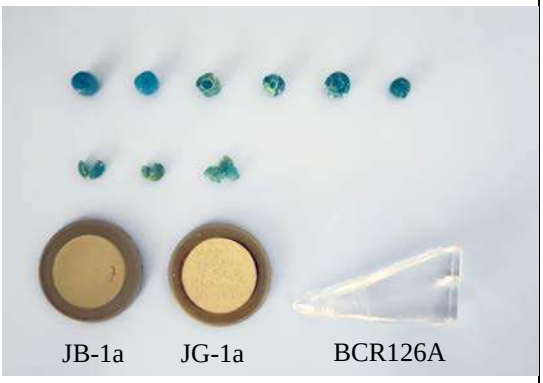
3　オートラジオグラフィ（AR）

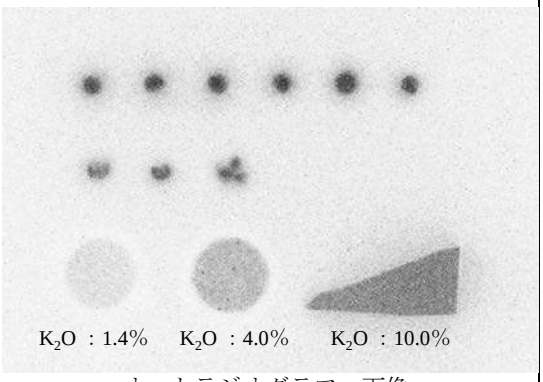
酸化カリウム（K_2O）を多く含むガラスの判別を目的としてオートラジオグラフィ法（Auto Radiography method：AR 法）を実施した。AR 法は、物質から放射される放射線をフィルムや IP に記録して画像を得る方法であり、放射線の蓄積線量により画像の濃淡が異なる。K_2O を多く含むガラスは、^{40}K に由来する放射線を放射している。したがって、ガラスを IP 上に同じ時間だけ暴露した場合、K_2O の含有量が多いほど濃い画像が得られることになる。本調査の結果、いずれの資料も同時暴露した BCR126A（K_2O ：10.0%）よりも濃い画像が得られたことから、K_2O 濃度が 10%よりも高いことが示唆された。

4　蛍光 X 線分析（EDX）

ガラスの主要な構成成分とその含有量を知るために蛍光 X 線分析を実施した。蛍光 X 線分析の結果、いずれもカリガラスであると判断された。着色成分については、いずれも CuO の含有量が多く（0.99-1.47wt%）、銅イオンが主要な着色要因である。いずれも微量の PbO と SnO_2 を含有しており、着色剤として青銅が利用された可能性が示唆される。

既往研究において、日本列島で出土するカリガラスは、CaO と Al_2O_3 の含有量から二種類（Group PI、Group PII）に大別され、さらに Group PI はコバルト着色の紺色カリガラスに、Group PII は銅着色の淡青色カリガラスに対応することが明らかとなっている。本調査の結果、城殿山遺跡出土のガラス小玉については、基礎ガラスの種類と着色剤の関係から、Al_2O_3 含有量が多く、CaO 含有量が少ないタイプ（Group PII）に相当することがわかった。





オートラジオグラフィ画像

【実績値】
『岡山県城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査完了報告書』9 月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-13

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	須玖岡本遺跡地中レーダー探査(②-1))		
【委託者】	福岡県春日市	【受託経費】	2,966 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）			

【年度実績概要】

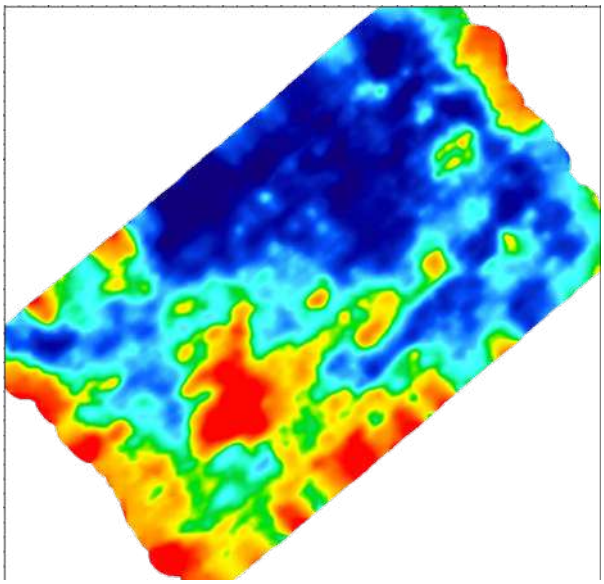
2 年に引き続き地中レーダー探査を須玖岡本遺跡内で 2 回実施した。

1 回目は遺跡中心部に近い部分及び新たに買収した住宅敷地跡の三地点について探査を行った。

前者は広域であり、遺跡公園の隣接地であるが、現状は林になっており、マルチチャンネル GPR では走査に困難がある部分が多々あった。今後、機材を改良し、安定した探査を行うようにしたい。

後者は比較的探査は容易であったが、土地の履歴として地中が大きく改変されている可能性が高く、また河川沿いの立地のため遺構自体の存在の可能性がそれほど高くないことから、可能性のある部分を 1 か所示すに留まった。

2 回目は春日北小学校構内及びその隣接地を対象に探査を行った。いずれも工房関連資料が周辺の調査で出土しており、遺跡の中枢部の可能性が目されているところである。構内は校庭であり、計測状況としては最良の状況であった。また委託者より、文化財の調査を小学生の体験学習ともあわせて実施したいという希望があり、小学校及び春日市教育委員会の関係者の尽力により、小学校 6 年生に須玖岡本遺跡の重要性や地中レーダーの原理について解説を行った後、体験として地中レーダーを実際に子供達に操作してもらい、探査を実施した。分析した成果は、4 年 1 月に授業の一環として子供達と共有し、文化財を通じた遺跡や文化財、それを支える科学技術の意義を伝えることができた。



探査成果の一例（須玖岡本遺跡）

【実績値】

探査地区：5 地点（6 か所）

総探査測線距離 192,987m

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-14

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	令和3年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務(②-1))		
【委託者】	大分県日田市	【受託経費】	412千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

○ガランドヤ1号墳については、これまで実施してきた保存環境のモニタリングを継続して実施するとともに、4年度から一般公開が開始されることを念頭に、現在石室内部に設置しているサーキュレーターなどの環境調整に要する機材の運用方法を変更した場合に、石室内部の温熱環境にどのような影響が生じるか実測調査を行い、それらの運用方法について検討した。
○ガランドヤ2号墳についても、これまで実施してきた仮設保護施設内部の温熱環境調査を継続して実施するとともに、石室直上に残る封土への対処について協議した。封土は長期にわたって防水シートで覆われていたため、既にきわめて低含水状態となっており土の塑性を失った状態にある。これに対して、水をきわめて緩慢に供給することで土の塑性を回復し、原位置保存を図る手法について今後検討することとし、3年度は給水に要する機器類を現地に設置した。

仮設保護施設内部のガランドヤ2号墳
(図左側が石室上部に残存する墳丘封土)

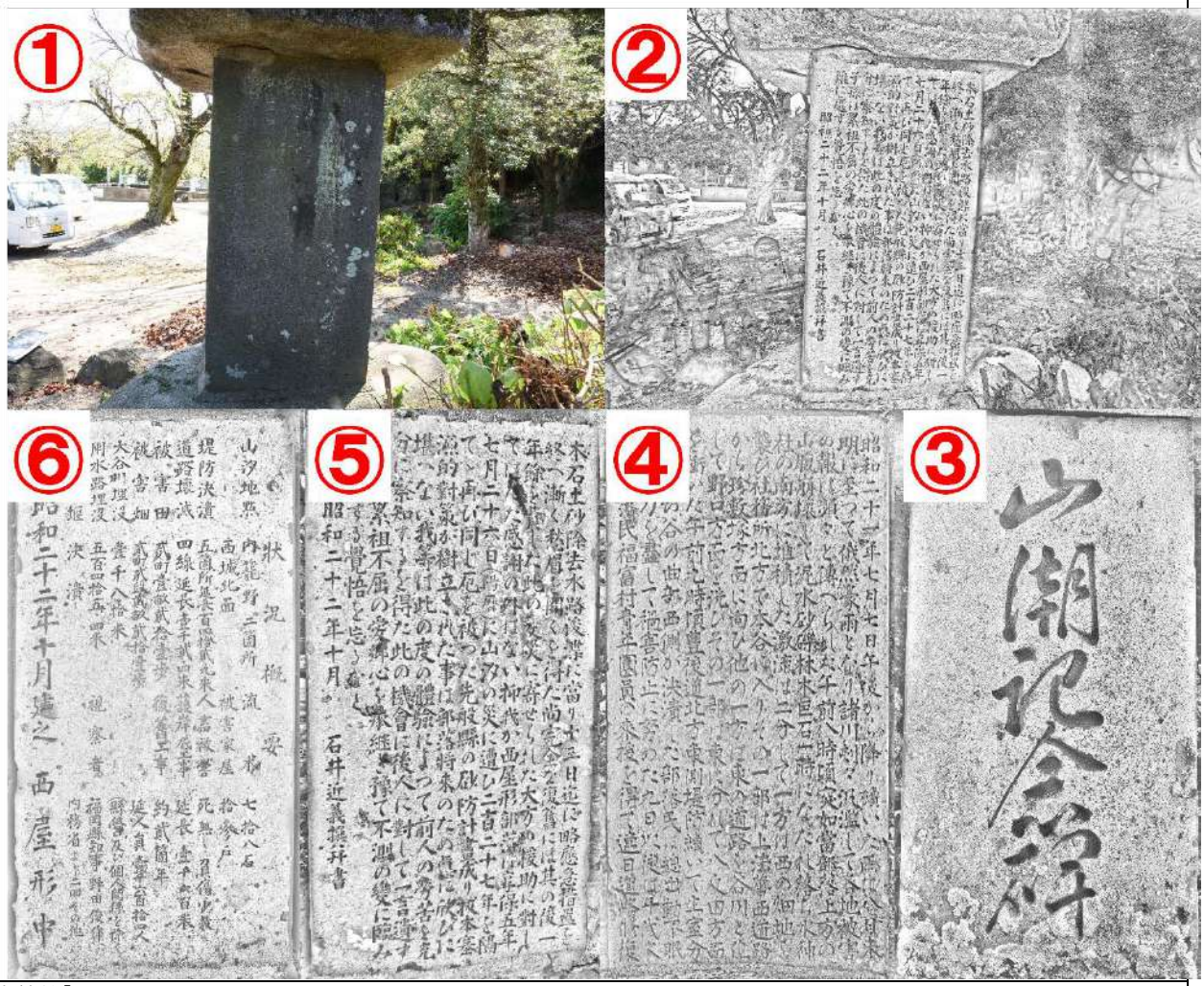
【実績値】
事業報告書：1点
現地調査：2回（8月、4年2月）
研究報告：中国東南大学主催国際シンポジウム“International Symposium on Architectural Heritage Conservation Technology”にて招待講演予定（12月10日-12日開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で開催延期、開催時期未定）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-15

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	自然災害伝承碑に係る試料写真撮影・表面光学処理(②-1))		
【委託者】	福富地区自治協議会	【受託経費】	300 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室研究員　上椙英之
【スタッフ】			

【年度実績概要】　受託「自然災害伝承碑に係る試料写真撮影・表面光学処理」による災害碑撮影調査
・調査日時：10 月 18 日（月）～20 日（水）
・調査場所：うきは市（吉井町福益・清瀬・信治・八和田・富永、浮羽町高見・朝田・耶馬日田英彦山国定公園）
本受託研究は、福岡県うきは市内の災害碑の碑文判読のための撮影調査と、表面光学処理を目的とする。
表面光学処理には、特許技術「ひかり拓本」を用い、画像で判読可能なレベルまで碑文を抽出した。調査点数は、10 月 18 日　8 基 21 カット、19 日　6 基 15 カット、20 日　1 基 2 カットの合計 15 基 38 カットを撮影した。
例）うきは市吉井町「山潮記念碑」（①：通常撮影画像、②：①の処理後画像、③～⑥：各碑文面カット）



【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-16

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	塚坊主古墳地中レーダー探査及び電気探査(②-1))		
【委託者】	熊本県和水町	【受託経費】	2,013 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）			

【年度実績概要】

塚坊主古墳は主体部を保護施設によって守り、墳丘を復元する形で整備が行われている。しかし、熊本地震以降、天井部からの落水などの状況が起きており、内部の状況をまず非破壊的手法で把握することが必要と指摘された。

実際には地中レーダーを使用し、必要があれば電気探査を併用して墳丘及び保護施設についての情報の取得を行うこととした。

地中レーダーは高密度高解像度のマルチチャンネル機を中心に考えていたが、復元の墳丘がかなり急斜面かつ比高差があり、安定した探査や作業の安全面から断念し、マルチチャンネル機を後円部中央の平坦面に行い、従来型の小型のアンテナで墳丘全体を探査することとした。

この結果、漏水地点付近に空洞あるいは異質な物体が詰まった箇所が存在すること、従来詳細不明であった墳丘の構築に関する情報の把握ができた。

電気探査については試行を行ったが、機材のトラブルにより十分な情報が得られておらず、追って追加調査を行いたい。

レーダー探査風景

【実績値】

地中レーダー探査　測線長　13436.3m
電気探査　測線長　32m

【受託】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　3521F-17

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	櫨岡古墳群から出土したガラス玉の分析業務(②-1))		
【委託者】	公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団	【受託経費】	200 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】
田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）

【年度実績概要】

○本事業の対象は、島根県松江市に所在する櫨岡古墳群から出土したガラス小玉 80 点である。これらのガラス玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類及び着色材の特徴を把握することを目的として自然科学的調査を実施した。主な調査項目及び成果は下記の通りである。

1　顕微鏡観察

ガラス小玉の製作技法の解明を目的として、実体顕微鏡観察を行った。観察の結果、気泡が孔と並行に並ぶことや孔内が平滑である特徴を持つガラス玉が最も多く（74 点）、引き伸ばし法で製作されたと考えられる。一方、孔周辺に凹凸が多く、ガラス片を鋳型に詰めて再加熱することによって再生した鋳型法によると推定できる小玉が 4 点含まれていることが分かった。さらに、やや特殊な製作技法として、ガラス片を加熱し、芯棒を挿し込むことで孔を作出したと推定される技法（加熱貫入法）で製作されたガラス小玉も 2 点含まれていた。

2　蛍光 X 線分析（EDX）

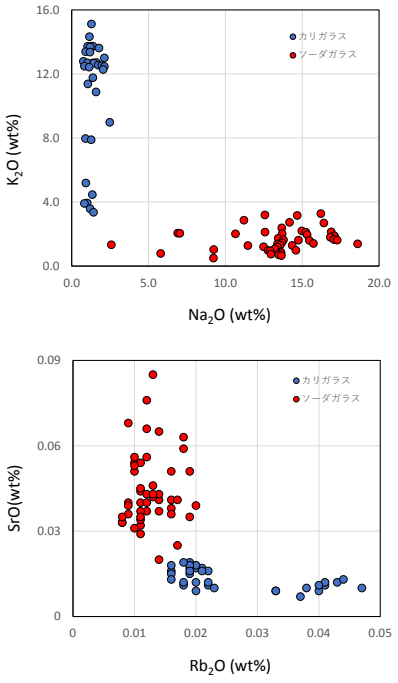
ガラス小玉の主要な構成成分とその含有量を知るために蛍光 X 線分析を実施した。蛍光 X 線分析の結果、33 点がカリガラス、残りの 47 点がソーダガラスであった。

さらに、既往研究におけるカリガラス及びソーダガラスの細分との対応関係については、カリガラスには Group PI 及び Group PII の二種類が含まれていた。さらに、Group PI は MnO 含有量の多いコバルト着色の紺色透明の小玉に、Group PII は銅着色の淡青色透明の小玉に対応する。ただし、Group PI には鉄で着色されたアクアマリン青色の小玉が 2 点含まれている。このような色調のカリガラスは類例が少なく、注目される。

ソーダガラスについては、高アルミナタイプ（Group SIIA,SIIB）、植物灰タイプ（SIII）、ナトロン主体タイプ（Group SIV）及びプロト高アルミナタイプ（Group SVA、SVC）が含まれていることが明らかとなった。Group SIIA はコバルト着色の淡紺色半透明の小玉に概ね対応する。Group SIIB は銅着色の淡青色の個体がほとんどである。同色のカリガラス（Group PII）との肉眼判別は極めて困難である。Gropu SIII は銅着色の淡青色不透明の 1 点のみであった。Group SIV はコバルト着色の紺色透明の小玉に対応し、カリガラス製の Group PI との肉眼判別は極めて困難である。Group SVA は鉄着色の淡緑色透明を呈する。Group SVC は 1 点のみで、加熱貫入法で製作された銅着色の青色透明の小玉であった。

鋳型法によるガラス小玉は異なる素材のガラスが混合されている可能性があるため、材質分類は行わないが、4 点のうち、2 点がカリガラスを主要な素材として再生され、残り 2 点はソーダガラスを主要な素材として再生されている可能性が高い。

以上のガラス玉の構成から時期的な検討を行うと、典型的な Group SIIIB タイプのソーダガラス小玉が含まれていないことから、古墳時代中期後半には降らないセットであると言える。



蛍光 X 線分析結果に基づく主成分と微量成分によるカリガラスとソーダガラスの判別

【実績値】
『櫨岡古墳群出土ガラス小玉の分析完了報告書』1 月

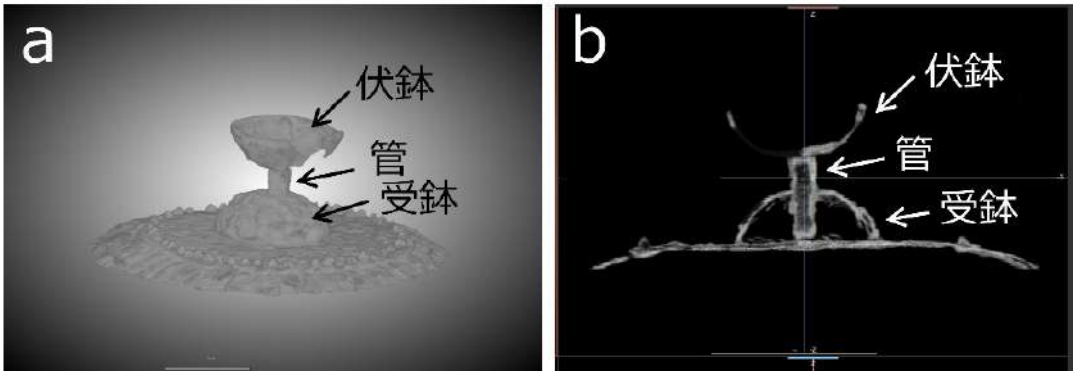
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-18

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	ベンショ塚古墳出土眉庇付冑のＸ線ＣＴ撮影委託(②-1))		
【委託者】	奈良県奈良市	【受託経費】	75 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】
○奈良県奈良市ベンショ塚古墳から発掘された冑の構造を調査するため、高エネルギーX 線 CT 撮影を実施した。
○その結果、冑の頂部の管は中空であることが認められた。また、頂部の伏鉢は管が貫通している状況が確認できない一方で、その受鉢は管が貫通した状態であることが観察された。



冑の頂部の三次元再構成像とその断面像
a：三次元再構成像、b：断面像

【実績値】
調査資料点数：1 点

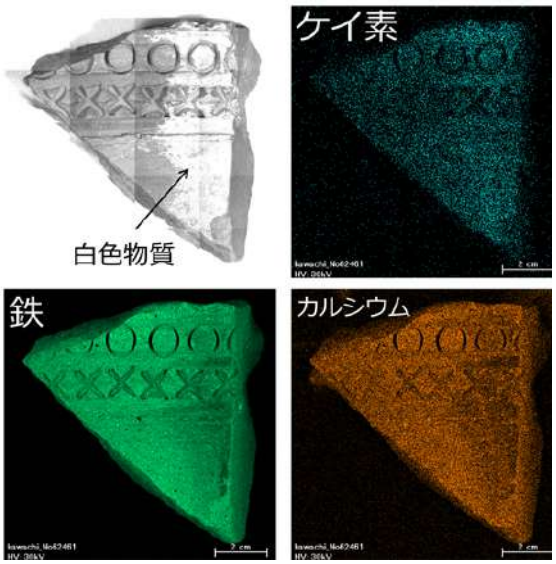
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-19

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	河内寺廃寺跡出土遺物整理業務に伴う瓦に付着した白色物質の材質調査(②-1))		
【委託者】	大阪府東大阪市	【受託経費】	207 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】
○大阪府東大阪市河内寺廃寺出土の瓦に付着した白色物質の材質調査のため、瓦 5 点を対象として蛍光 X 線による元素マップの取得及び X 線回折分析による化合物の同定を実施した。
○蛍光 X 線分析では、瓦の胎土部では鉄、カルシウムなどが顕著に検出される一方で、白色部分ではケイ素の検出強度のみが上昇する傾向が認められた。
○X 線回折分析では、少量の白色物質を採取し、粉末法による測定を実施したところ、ブロードなピークのみが検出されたことから、白色物質は主に非晶質な物質で構成されていると推察された。
○蛍光 X 線分析、及び X 線回折分析の結果を考慮すると、瓦に付着した白色物質は非晶質なケイ素化合物であると推察された。



対象資料の元素マップ

【実績値】
調査資料点数：5 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-20

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	X 線 CT を用いた陵東遺跡出土埴輪中の堆積物の撮像と立体構造データ作成(②-1))		
【委託者】	大阪府	【受託経費】	2,197 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　金田明大
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室　主任研究員）			

【年度実績概要】

陵東遺跡（大阪府羽曳野市島泉八丁目・藤井寺市恵美坂二丁目羽曳野市島泉八丁目・藤井寺市恵美坂二丁目）から出土した埴輪 4 点（力士像、人物像頭部、人物像体部、盾持人頭部）の内部を充填する泥質堆積物について、その堆積構造を明らかにし、埴輪の埋没時期や埋没環境について検討する。

埴輪内部堆積物の構造の検討には、非破壊による堆積構造情報の取得が必要であり、当研究所の所有する高出力 X 線 CT（HiXXT-1M-SP）によるデータ取得を行うこととなった。そこで HiBrid 方式による撮像を行い、そのデータから後再構成構造データを作成した（図 1 左）。さらにそれを 3 次元構造化し（図 1 右）、適宜関心領域（ROI）を透過（図 2）あるいは裁断（図 3）し、内部堆積物の検討を行った。

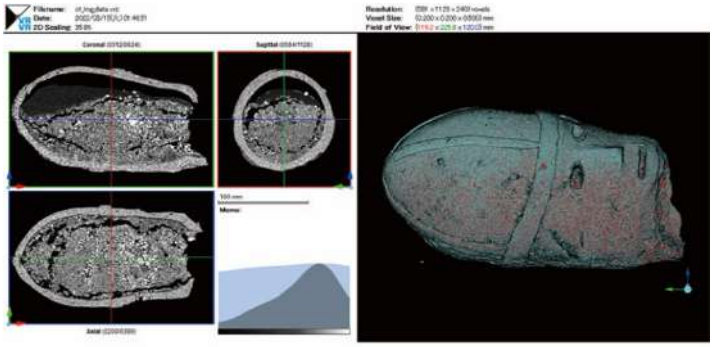


図 1 高出力 X 線 CT 撮像データの後再構成構造データ（図左）と 3 次元構造化モデル（図右）

その結果、人形埴輪（頭部）（図 3）、人形埴輪（体部）（図 4）、盾持埴輪（図 5）の 3 点から検出された内部充填堆積物は、ほぼ出土状況を反映した平衡から前置傾斜を示す板状ラミナ構造を示す流水成堆積物であった。しかし力士埴輪（図 6）のみ頭頂部に作られた穴に向かって形成された流水性堆積物の傾斜角度が約 53 度となり、他の 3 点と大きく異なった。これは出土状況と埴輪内部に堆積物が充填した際の据わり位置が異なっていることを反映していると推定された。

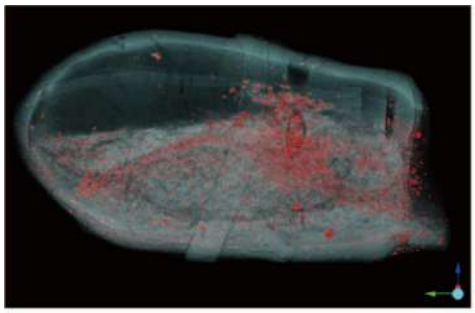


図 2 人形埴輪頭部の透過 3 次元構造化画像

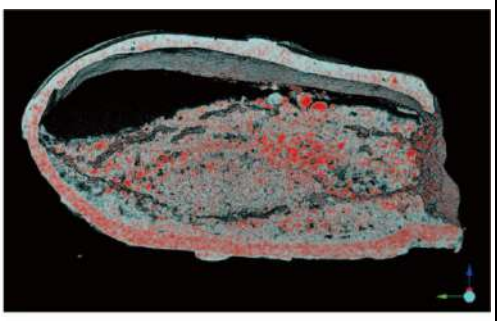


図 3 人形埴輪頭部の半裁断画像

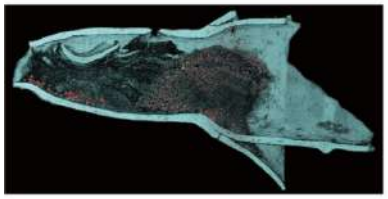


図 4 人形埴輪体部の裁断画像

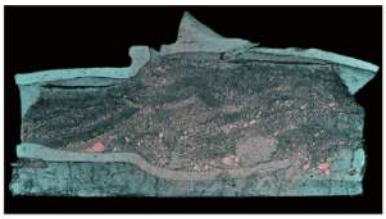


図 5 盾持埴輪頭部の裁断画像

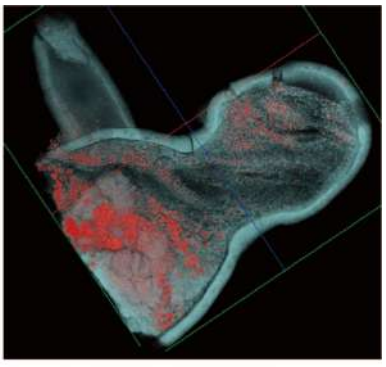


図 6 力士埴輪の裁断画像

【実績値】

村田泰輔（4 年）受託完了報告書「 X 線 CT を用いた陵東遺跡出土埴輪中の堆積物の撮像と立体構造データ作成」

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3523F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析(②-3))		
【委託者】	国立大学法人　東京大学地震研究所	【受託経費】	6,205 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	センター長　金田明大

【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター　主任研究員）・上椙英之（本部文化財防災センター 研究員）

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次)」に基づき、地震火山噴火予知研究協議会（以後、予知協議会）からの委託を受け、元年度から 5 か年計画として取り組んでいる。内容は主として災害痕跡の考古・地質学的データを収集・調査・分析・活用し、地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の災害履歴データを集成し、データベースの構築と公開を進めるものである。3 年度の実績は以下の通りである。

1)発掘調査報告書のデータ抽出、分析、整理作業

3 年度も、2 年度まで進めてきた発掘調査データから災害痕跡データを抽出する作業を継続し、出土地点、時期、災害類別について精査・整理し、データベースの構築を進めた。3 年度は、遺跡資料及び史資料が古代より継続的に蓄積する近畿圏のうち、京都府と奈良県の発掘調査成果を中心に約 2 万調査地点についてのデータ集成を進め、海溝型（南海トラフ）起因の地震や、奈良県東縁断層、生駒断層を中心とした内陸（活断層）型起因の地震、あるいはそれらの複合型のものなど、地震発生による被災シナリオの検討に向けたデータ解析に取り組んだ。加えて火山噴火災害への対応を開始した。特に予知協議会で連携する桜島大規模火山噴火対策チームと共同し、地震災害同様、発掘調査報告書から災害情報を集成しデータベースのα版の作成を行った。また古代地名の地図上検索を可能とするための地名地点情報データベースの作成も進めている。

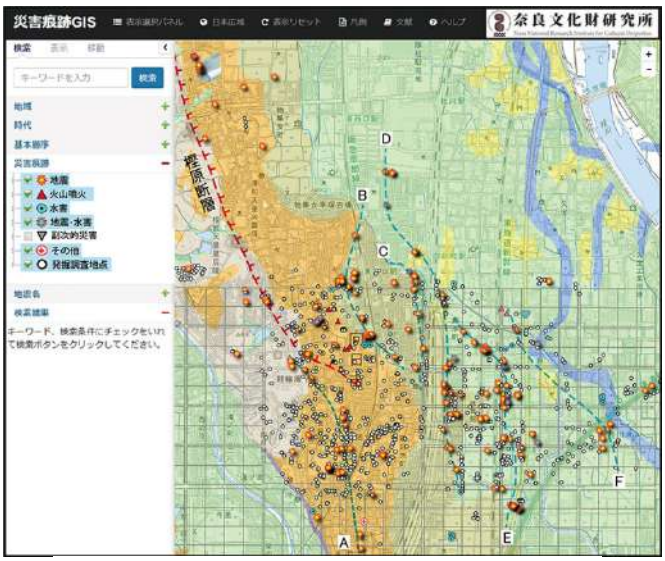


図 1　長岡宮・京周辺から検出された災害痕跡

2)データベース構築・開発作業

3 年度は、特に長岡宮・京跡での発掘調査成果の集成データから、歴史災害痕跡データベース（以後、災害痕跡 DB）を用いた歴史災害痕跡の視覚化とその有効性について検討を進めた（図 1)。その結果、まず地形構造の境界部、すなわち地形傾斜変換点付近に液状化の発生地域が集中していることが明らかとなった。これは地質学的に傾斜変換点付近で地表面と地下水面との深度距離が縮まり、地質的に脆弱である可能性を示唆しているといえる。また沖積低地においても同様の液状化が集中して検出される地域が存在し、地形境界構造が平野の泥質堆積物に被覆されている可能性を示し、軟弱地盤地域におけるより脆弱な地域の視覚化への有効性を指摘した。また同地域には、京都盆地の西縁を区切る樫原断層が南北に走る。その分布推定値の南端部について、地震痕跡データからより南に分布域が伸びる可能性を指摘した。これは京都府全体の防災計画にも重要な視点である。

3)発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

平城宮・京、藤原宮（以上、奈良県）を中心に現地調査を行い、検出された地震痕跡等について調査を進め、被災時期の特定方法の改善を進めた。また元年度に調査した遺跡群については報告書執筆を行った。

【実績値】

村田泰輔 3 年、「歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性」『考古学研究』、68-3、考古学研究会、pp. 16-19。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務(③-1))		
【委託者】	一般財団法人　公園財団飛鳥管理センター	【受託経費】	6,452 千円
【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【事業責任者】	岩戸晶子（企画調整部展示企画室長）

【スタッフ】
廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
・展示物の継続的な状態確認と日報の作成を行った。
特に、井戸部材（廊下）と斎串（展示室 4）については、埋蔵文化財センター、都城発掘調査部と協議しつつ、状態確認・展示環境のモニタリングを重点的に行った。
・当研究所へあった所蔵物の貸出依頼、もしくは都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰を行った。(20 件)
・平城宮跡歴史公園の教育旅行誘致に向けて、平城宮跡管理センターと共に、奈良市教育委員会、奈良県教育委員会の協力のもと、企画・監修した学習ワークシート(2 年度末発行)の教員用手引きを作成した。
・平城宮跡歴史公園企画展「イラストでつなぐ奈良時代のみやこ」展(10 月 9 日～12 月 5 日)の企画、パネル校正、展示作業に従事した。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問に対応した。(30 件)
・展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ・新聞社等の取材に対応した。(1 件)
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った。(18 件)
・平城宮跡管理センターで使用する奈文研所蔵画像の申請に対応した。(8 件)
・展示評価調査として、来館者行動調査を展示室 4 にて実施した。(6 件)
・奈文研での「平城宮跡の活用の実践的研究」の一環として、文化遺産部、都城調査部と共に出土遺物にちなんだ体験プログラムの企画・監修を行った。3 年度は、古代の盤上遊戯であるかりうちをテーマにしたイベントを、平城宮跡管理センターと共催で実施した。(11 月 3 日)
・平城宮跡いざない館各展示室の美術清掃・展示品修理に立会った。(11 月 8 日)
・平城宮跡いざない館展示室 4 の展示環境の管理の一環として、展示ケース内の調湿剤の交換と管理センター施設係と情報共有しつつ実施した。(11 月 8 日)
・平城宮跡いざない館で実施する体験プログラムとして、「奈良時代を体験！」シリーズを企画し、体験ツールの復原を都城発掘調査部とともに監修した。今年度夏期に予定していた「人面墨書土器を描こう！」は新型コロナウイルスによる臨時休館で開催されなかった。(4 年度、開催予定)
・平城宮跡いざない館で実施する旅行会社提案型の体験イベントへの助言・校正・監修を行なった。「親子で学ぶ奈良時代ツアー」(11 月 7 日実施)、「平城宮跡フィールドビンゴツアー」(4 年 3 月予定)
・平城宮跡管理センターと京産大との官学連携事業等への専門的助言を行うとともに天平衣装の貸出に対応した。

貸出した展示品の原状復帰作業

【実績値】
・日報の作成
・当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧：20 件
・来館者等案内、質問対応、マスコミ・テレビ取材対応など：31 件
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正：18 件
・古代の盤上遊戯であるかりうちをテーマにしたイベントを、平城宮跡管理センターと共催　1 回
・体験プログラムの企画　1 件（コロナウイルス感染拡大のため実施延期）
・旅行会社企画の体験イベント、産学連携事業への専門的助言・協力　4 件
・来館者行動調査による展示評価調査　6 回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務(③-1))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	21,570 千円
【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【事業責任者】	研究支援課長　不藤 忠義

【スタッフ】
今西 康益（研究支援課係員）、亀岡 妙子（研究支援課係員）、ほか２名

【年度実績概要】
特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施
平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁が実施する事業を補助し、遺構の保存、公開・活用への環境整備の円滑な進捗を図るもの。実施期間　４月１日～4年３月 31 日（休日を除く）
1 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施
－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案
○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合へ対応策提案、対応手配等協力
① 平城・藤原宮跡国有地排水改善対応への助言
② 平城宮跡第一次大極殿免震装置点検への助言
③ 平城宮跡木製橋修理対応への助言
④ 平城・藤原宮跡内工作物（柵・車止め等）維持への助言
⑤ 平城宮跡内外灯・防犯設備等維持への助言
⑥ 平城・藤原宮跡内植栽管理への助言
⑦ 平城・藤原宮跡国有地管理への助言　ほか

平城・藤原宮跡国有地排水改善対応状況

－2　緊急事案発生への対応提案
○事件、事故等緊急事案対応への対応策提案、対応手配等協力
① 平城宮跡内危険箇所表示対応
② 平城宮跡内水路増水対応
③ 平城・藤原宮跡内倒木対応
④ 平城宮跡公開施設設備故障対応　ほか

2 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における整備管理業務の実施
－1　平城宮跡及び藤原宮跡における草刈り業務（別途業務外注）管理の実施
○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達

平城宮跡草刈り業務施工箇所の点検・確認状況

－2　平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を実施
○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認
① 平城宮跡第一次大極殿・朱雀門ほか復原施設便益施設修繕及び設備更新等
② 平城宮跡東院庭園平橋・露台改修工事
③ 平城宮跡仮設水路流末改修整備
④ 平城宮跡遺構表示更新整備
⑤ 平城・藤原宮跡案内サイン更新整備
⑥ 藤原宮跡仮設水路改修整備
⑦ 藤原宮跡醍醐池角田池フェンス等更新整備
⑧ 平城宮跡（植栽剪定）
⑨ 藤原宮跡（植栽剪定）ほか

平城宮跡東院庭園平橋・露台改修工事

【実績値】
1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　1,434 件）
1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　6 件）
2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡　草刈り対象面積 722,823.50 ㎡・藤原宮跡　草刈り対象面積 489,353.98 ㎡（地元要望調整等対応件数 60 件）
2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　387 件）

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3630

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務		
【委託者】	陸前高田市	【受託経費】	9,207 千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成

【スタッフ】
小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究担当研究員）

【年度実績概要】

東日本大震災により被災した美術工芸資料の安定化処理及び修理、また、それらに伴う事前調査や資料の保存状態を適切に維持管理するための環境保全を実施し、当該資料の活用と恒久的保存に資することを目的とし、以下の 2 つを実施し、報告書を作成した。

(1) 修理対象資料の環境履歴を正確に把握し、修理中及び修理後の資料の保存状態を適切に維持管理するため、陸前高田市立博物館内における環境保全業務を行った。
・収蔵施設の温湿度計測及び温湿度履歴の確認
・文化財害虫等生息調査、微生物生息状況調査、室内汚染物質濃度調査

(2) 試料による安定化処理及び処理後の被災資料の経過観察、保存と展示活用に向けた対象の選定及び、未処理資料のクリーニング、修理仕様の作成を行った。
・対象資料は、漆工品資料、鞍、横田膏関連資料、マタギ関連資料
・実施作業は、安定化処理、クリーニング処置、修理仕様書の作成

収蔵庫内環境調査

横田膏関連資料調査

【実績値】
修理資料　漆器 19 点（膳 5 点、椀 12 点、片口 2 点）
修理仕様作成資料　横田膏関係資料 22 点

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3650

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	令和3年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	7,887千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成

【スタッフ】
小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、前川歩（研究担当主任研究員）、上椙英之（研究担当研究員）、鶴岡典慶（客員研究員/京都女子大学家政学部教授）、大林潤（奈良文化財研究所文化遺産部建造物研究室）、島田敏男（同文化遺産部特任研究員）、高田祐一（同企画調整部文化財情報研究室研究員）、中村一郎（同企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】
・調査の経緯
文化財が消失等した場合に修復や復元する際の資料として、国指定等文化財の設計図や写真等の詳細記録を活用するため、これら資料を整理及び保存し、アーカイブ化するための調査研究を行った。

・調査期間
9月28日～4年3月31日

・調査内容
(1) 各組織に所在する文化財建造物保存修理に関する詳細資料の所蔵調査の実施
奈良県所蔵資料調査：10月8日
公益財団法人文化財建造物保存技術協会所蔵資料調査：10月13日
滋賀県文化財センター所蔵資料調査：10月29日
和歌山県文化財センター所蔵資料調査：12月9日

所蔵資料調査

(2) 詳細資料の内容調査・分類・整理の方法の検討
詳細資料の内容調査・分類・整理の方法に関する検討会：11月1日
（参加機関：京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県文化財センター、公益財団法人文化財建造物保存技術協会、文化庁）
「詳細資料デジタル化に関する仕様書」作成

(3) 詳細資料を分類、整理し、保存のためのデジタル化の実施
和歌山県文化財センター所蔵の図面、野帳、写真・フィルム、書類等のデジタル化を実施。デジタル化点数は、以下実績値を参照。
滋賀県所蔵ガラス乾板のデジタル化を180点実施

詳細資料の内容調査・分類・整理の方法に関する検討会

(4) メタ情報項目の調査及びプロパティへの埋め込み作業の実施
上記デジタル化データについてのメタ情報の入力及びプロパティへの埋め込み作業を実施

【実績値】
（参考値）
デジタル化図面289点、デジタル化野帳4,728点、デジタル化写真・フィルム378点、デジタル化書類資料4,237点

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中項目	１．業務改善の取組		
事業名	（１）組織体制の見直し，（２）人件費管理の適正化		
【年度計画】 ・Ⅱ-1-(1)、(2)			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】

（１）組織体制の見直し

・国際業務の推進体制の整備の一環として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会と関連した日本博の事業等を円滑に進めるため、機構職員2名を派遣しており、日本博関連の企画等を博物館と連携して実施を行った。
・情報セキュリティの確保・維持のため、4月に本部情報担当部門への職員の配置及び4年1月以降、各施設の情報分野で採用配置することで、情報担当部門の拡充を行った。
・文化財防災センターの設置に伴い、4月に職員を採用、配置換等で職員を配置し、組織体制の整備を行った。

（２）人件費管理の適正化

・人事給与統合システムを利用して、機構全体で統一的な処理を行っている。そのシステム内で人件費のシミュレーション等も行うことで、人件費に関する計画や円滑な企画・立案等をすることができ、適正な人件費管理を行った。
・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、法人ウェブサイト上にも掲載している。

【補足事項】

・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠し、国と異なる諸手当はない。ラスパイレス指数は、2年度において事務・技術職員が97.6、研究職員が98.7となっており、その水準維持に努めた。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国際業務の推進体制の整備の一環として、日本博の事業等を円滑に進めるため、機構職員2名を派遣し、日本博関連の企画等を博物館と連携して事業の推進を図った。またコロナ禍の影響によりICT整備等の促進が急務な中、本部及び各施設情報担当の人員体制等を図ることで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。文化財防災センターの職員を採用等することで、文化財防災体制を整えた。 今後も引き続き進めていく。 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分に考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表した。

【中期計画記載事項】

組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。機構の事業全体を通じて、体制の整備を図る。
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新たな中期計画の初年度として、組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行った。特に新型コロナウイルスの流行に伴いICT環境の整備等が急務となるなか、本部及び各施設の情報担当の採用配置等を行うことで体制整備を図った。 今後もICT環境の整備や情報セキュリティ等への対応は求められるため、それに対応できる体制整備の充実化が課題となる。引き続き、組織の機能向上のための体制整備を進めていく。 人事給与統合システムを利用して、人件費の試算等を行うことで人件費管理の適正化に努めた。また適正水準の維持にも取り組み、検証結果や取組状況も公表した。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6120

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（３）契約・調達方法の適正化　（４）共同調達等の取組の推進

【年度計画】
・Ⅱ-1-(3)-①、②
・Ⅱ-1-(4)

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ）	事業責任者	本部事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
(3)
①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 3 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第 1 回契約監視委員会（11 月 29 日開催）
第 2 回契約監視委員会（4 年 6 月 13 日開催）
②東京国立博物館（レストラン 2 か所、移動式野外飲食店、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（カフェ、レストラン、ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ、レストラン）については企画競争を実施済み。3 年度においては、契約期間終了に伴い東京国立博物館にてレストラン 2 か所、移動式野外飲食店、自動販売機の企画競争、奈良国立博物館にて自動販売機の企画競争を実施した。今後も、契約期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
・11 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（47 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。
一般競争入札件数

年度	2 年度	3 年度	増減
件数	164 件	133 件	△31 件

(4)
・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。(再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館、国立西洋美術館)。
・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー)。
・奈良国立博物館及び奈良文化財研究所では、 トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。
・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙、トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施することができた。

【中期計画記載事項】
（３）契約・調達方法の適正化
「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。
（４）共同調達等の取組の推進
各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について近隣の関係機関等との共同調達等の取組を推進する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり取組を実施できている。

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　6151

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
・Ⅱ-1-(5)-①

担当部課	本部事務局 本部事務局財務課 本部事務局総務企画課	事業責任者	事務局長　柏田昭生 課長　數馬厚人 課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・機構共通の業務システムである、グループウェア、メールシステム、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。
・Microsoft365を機構として導入し（九博を除く）、Officeアプリ・端末認証・メールシステム・オンライン会議等のサービスを展開した（4年3月）。これにより、各施設で購入しているOfficeアプリの費用圧縮、ライセンス管理の軽減に向け前進した。
・展覧受付・警備業務の人員の見直しにより、業務経費の支出の節減を行った。

【補足事項】
・Microsoft365は6施設（東博・京博・奈良博・東文研・奈文研・IRCI）にて導入した（東博は2年度から継続）。
・次期グループウェアについて、Microsoft365を候補として検討を継続した。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
一般管理費	711百万円	中期目標期間中5%以上効率化	－		754	1,277	974	889
業務経費	4,846百万円	中期目標期間中5%以上効率化	－		6,159	5,956	5,965	5,422

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
一般管理費及び業務経費について、ともに5%以上の効率化を達成できた。
情報システムについては、機構共通事務システム・機構広域ネットワークの運用を継続し、事務の効率化に寄与した。Microsoft365については、テレワークやオンライン会議等を考慮した環境構築とともに、各施設で導入しているOfficeアプリの共通化について、年度計画では検討としていたところ、年度内の導入に至ったことから、A評定とした。

【中期計画記載事項】
運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５％以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ＩＣＴの活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
一般管理費及び業務経費について、ともに 5%以上の効率化を達成でき、中期計画の初年度として、計画を順調に実施できている。
情報システムについては、中期計画の初年度にあたり、機構共通事務システムの基盤である機構広域ネットワークの本運用を開始するとともに、Microsoft365 の基本的なサービスを展開することができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6152

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　②計画的なアウトソーシング　③使用資源の減少

【年度計画】
・Ⅱ-1-(5)-②、③

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ）	事業責任者	本部事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
②
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している（東京国立博物館では新型コロナウイルスの影響により託児サービス休止中のため、3年度は託児業務の民間委託は未実施）。
・東京国立博物館では、引き続き茶室・大講堂等の施設貸出業務について民間委託を実施している。
③
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
・使用資源の推移等

光熱水使用量

事項	2年度	3年度	増減	増減率
電気（kwh）	25,588,377	26,034,541	446,164	1.74%
ガス（㎥）	1,955,844	1,984,325	28,481	1.46%
水道（㎥）	103,577	116,305	12,728	12.29%

日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、水道使用量は以下の外的要因により増加した。
東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館において、 2年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館を行い、入館者数が減少したことに伴い使用量が例年と比べ大幅に減少となっている。したがって、開館日数及び来館者数が2年度より増加した3年度は、水道使用量等が増加した。(東京国立博物館2年度比13.20%増、京都国立博物館2年度比12.92%増、奈良国立博物館2年度比19.18%増、九州国立博物館2年度比7.34%増)

廃棄物排出量

事項	2年度	3年度	増減	増減率
一般廃棄物（kg）	149,133	146,677	△2,456	△1.65%

両面印刷の励行、ペーパーレス化等により排出量が減少した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	各施設において計画どおり外部委託を実施している。また、使用資源の節減に努めており、廃棄物排出量を削減できた。水道使用量の増加は外的要因によるところが大きい。

【中期計画記載事項】
事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ＩＣＴの活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり外部委託、使用資源の節減を行うことができている。

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　6200

中項目	２．業務の電子化		
事業名	業務の電子化		
【年度計画】 ・Ⅱ-2			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。
・1月より、機構本部ウェブサイト内に機構内各施設の展覧会情報を一覧できるページを公開し、来館者の利便性向上を図った。
・機構本部ウェブサイトのリニューアルに向け、準備を進めた。
・新たなコミュニケーションツールとしてMicrosoft365のサービスであるTeamsを機構として導入した。在宅勤務者を含めたオンライン会議の安全な実施が可能となる等、生産性向上に寄与した。(4年2月～3月)
・機構統合メールシステムをMicrosoft365上のサービスへ移行（4年3月）するとともに、オンライン会議サービスやオンラインストレージサービスについてもMicrosoft365上のサービスで展開し、各サービス間の連携を図った。
・本部及び東博職員向けの在宅勤務用の貸出端末について、クラウド対応の強化によって在宅勤務で可能な業務や対応システムの拡充、操作性向上による業務の効率化を図った。
・予算配分を行い、各施設の貸出端末の整備、拡充を図った。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 機構ウェブサイトによる一般への情報提供を継続した。 各サービス間で連携可能なコミュニケーションツールであるMicrosoft365の導入により、オンライン会議やテレワークを実施することができ、業務の効率化を図ることができた。

【中期計画記載事項】
機構に関する情報の提供、業務・システムの統合・融合化を含む最適化等を図ることとし、ＩＣＴを活用した業務の合理化・効率化を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 機構ウェブサイトによる一般への情報提供を継続するとともに、 Microsoft365の導入により、オンライン会議やテレワークを実施することができ、業務の効率化を図ることができた。4年度以降も引き続き、ICTを活用した業務の合理化・効率化として、Microsoft365を活用したサービスを中心に検討継続する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6300

中項目	３．予算執行の効率化		
事業名	予算執行の効率化		
【年度計画】 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。			
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人
【実績・成果】 「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。			
【補足事項】 業務経費のうち、文化財活用事業費及び文化財防災事業費を収益化単位の業務として新設した。			

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できている。
【中期計画記載事項】 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（１）「新しい生活様式」を踏まえた魅力的な展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保

【年度計画】
・Ⅲ-1-(1)

担当部課	本部事務局総務企画課、財務課	事業責任者	本部事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
・東京国立博物館及び文化財活用センターでは、トーハク新時代プランに基づき、本館特別 3 室に非接触の先端技術によるデジタルコンテンツと高精細複製品を組み合わせた体験型展示「日本美術のとびら」を 6 月 22 日から公開した。
・東京国立博物館表慶館において、先端技術による日本美術の高精細複製と乃木坂 46 のパフォーマンス映像を重ね合わせたインスタレーション展示「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」を開催した。本展は、若年層をメインターゲットとし、これまで日本美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となり、新たな来館者の誘客につながった。
・各施設において、YouTube 等の SNS を活用して講演会や展覧会の紹介動画を配信するなど、「新しい生活様式」のなかでも博物館を楽しめるような取組みを引き続き行った。
・東京国立博物館では、英語・中国語・韓国語による Twitter、Instagram 等の SNS のアカウントを開設し、来館が特に困難な海外在住者へ向けて情報を発信することで、来館意欲の維持拡大に努めた。
・文化財活用センターが東京国立博物館と共同で元年度から行ってきたファンドレイジング事業「＜冬木小袖＞修理プロジェクト」は、目標金額の 1,500 万円を上回る 16,451,470 円の寄附を獲得した。文化財活用センターと東京国立博物館では、さらに同館創立 150 周年事業の一環で同館を代表する名品「見返り美人図（菱川師宣筆）」及び「埴輪　踊る人々」の修理費を募るファンドレイジング事業を立ち上げ、実施内容の企画・検討を行った。
・新たに奈良国立博物館では、茶室八窓庵及び庭園改修にかかるクラウドファンディング事業を 10 月～12 月に実施し、10,625,830 円の寄附を得た。
・文化財活用センターでは、2 月に「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」と題したオンライン・シンポジウムを開催し、好事例の横展開を図った。（参加者 478 人）

【補足事項】

茶室八窓庵及び庭園改修にかかる
クラウドファンディング（奈良国立博物館）

「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」
オンライン・シンポジウム（文化財活用センター）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に沿って、デジタル技術を活用したコンテンツ開発や情報発信など、「新しい生活様式」に対応しながら博物館を楽しめる工夫や、若年層を中心とした幅広い年代に向けた展覧事業の実施など、魅力的な展覧環境の構築に努めた。 また、ファンドレイジング事業を積極的に推進するなど多角的な収入の確保に努めた。

【中期計画記載事項】
コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、ファンドレイジング事業を立ち上げるなど、新たな自己収入の確保のための取組みを実施できた。 引き続き、「新しい生活様式」に対応した事業を行い、自己収入の確保に努める。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7120

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（２）展示事業等収入額

【年度計画】
・Ⅲ-1-(2)

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ）	事業責任者	本部事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
3年度の展示事業等収入については、1,042,086千円となり、年度計画予算額を上回った。

	年度計画予算額	3 年度
展示事業等収入	1,032,072 千円	1,042,086 千円

※受託研究・受託事業を除く。

【補足事項】

【関連指標】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
自己収入額（展示事業等収入）	1,042,086千円	－	－		2,260,173	1,917,262	2,016,303	828,947

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施しており、年度計画予算額を上回ることができた。

【中期計画記載事項】
コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の初年度として、計画どおり取組を実施できている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7130

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（3）外部資金の獲得

【年度計画】
・Ⅲ-1-(3)-(機構共通)、(文化財活用センター)

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 文化財活用センター総務担当	事業責任者	本部事務局長　柏田昭生

【実績・成果】

	目標値	3年度
寄附金	787,529千円	749,596千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。

(機構共通)
・各博物館において、賛助会等への加入者増加のための広報等を積極的に実施した。(詳細は1315A～1315Dを参照)
・奈良国立博物館において、茶室八窓庵及び庭園改修にかかるクラウドファンディング事業を10月～12月に実施し、10,625,830円の寄附を得た。
・ウェブ決済による寄附等を可能とする国立文化財機構寄附ポータルサイトを文化財活用センターが中心となって引き続き運用し、機構全体で3年度計3,999,000円の寄附を得た。

(文化財活用センター)
・東京国立博物館と共同で、2年1月に開始した「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様」の修理費等を募る「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」は、7月頭までに目標金額の1,500 万円を上回る寄附を集め、プロジェクト開始当初は4年6月までとしていた寄附募集期間を繰り上げて、12月末をもって終了した。(3年度計3,759,040円、プロジェクト累計16,451,470円)

【補足事項】

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
寄附金等額 (その他寄附金等)	749,596千円	787,529千円	C		732,210	827,718	884,196	730,711

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響を受け企業からの寄附が伸び悩んでおり、前中期目標期間の実績の年度平均である目標値は下回ったものの、2年度実績を上回る寄附を得ることができた。
また、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を継続して行い、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動では目標金額を上回る寄附を得るなどの成果をあげた。
以上を勘案し、目標を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
(略)賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。
これらの取組により、寄附金等収入については、第５期中期目標期間の累積額が前中期目標期間の累積実績額以上を目指す。(略)競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の初年度として、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供や、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動を行った。また、奈良国立博物館では、新たにクラウドファンディング事業を立ち上げるなど、多様な財源の獲得に努めた。
その結果、2年度比で約19,885千円、寄附金の獲得額を増やすことができ、中期計画を順調に遂行できているといえる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 7140A

中項目	１．自己収入拡大への取組		
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】 ・Ⅲ-1-(4)(博物館 4 施設)①、②、③			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典
【実績・成果】 ①新型コロナウイルスの感染予防及び拡大に十分配慮しつつ、4月に連続講座を大講堂で実施した。また、これまでオンライン配信としていた月例講演会についても、7月より大講堂で再開した。 ②3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参集型のユニークベニュー利用、講堂・茶室利用が大幅に減少したが、ロケ地利用に関しては話題となった大型のTVドラマの案件を多く受け入れることができた。また婚礼の前撮り撮影についてはコロナ禍により大幅に増えた2年度よりも更に件数を増やすことができた。また、館内休憩スペースにも当館がロケ地として利用されたTVドラマ等のポスターを貼り、来館者に向けて当館の多様な活動について周知を行った。 ③入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、新型コロナウイルスの流行下のため実施しなかった。			
【補足事項】 ②当館での婚礼の前撮り撮影については、SNS上で話題になったことも影響し、マスコミからも注目を集めた。 新聞紙面でも大きく紹介され、当館の施設の有効利用について一般の方にも周知することができた。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 3年度も2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響は受けたが、ロケ地利用に関しては婚礼前撮り件数の増加の効果もあり、2年度の最高件数をさらに更新した。収入の面だけでなく、当館がロケ地利用で使われることによる広報効果もあるため、引き続き利用促進を図るよう取り組んでいく。 施設の有効利用については、SNS等で大きく注目を集めたことも影響し、多くの方々に利用してもらうことができたため、Ｂ評価とした。		
【中期計画記載事項】 (略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)			
【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ロケ地利用、ユニークベニュー利用については、自己収入の確保だけでなく、広報効果も高いため、積極的に受け入れを推進していく。その他講堂や茶室等の利用については、博物館本来の使用に支障のない範囲で有効利用を図っていく。 引き続き、4 年度以降もユニークベニュー利用の促進について積極的に取り組んでいく。		

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　7140B

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（博物館４施設）①、②、③

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部勝

【実績・成果】
①展覧会に関する講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を様々な年齢層に向けて開催した。
②施設の貸出についてウェブサイトでの周知を行うとともに、外部サイトにてロケーション撮影案内を行った。また、会場下見の対応や当日利用時の丁寧なサービスを心掛けることにより利用者の満足度向上に努めた。
③国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、名品ギャラリーの無料観覧を行った。また、多言語（英、中、韓、やさしい日本語）によるギャラリーツアーを実施し、留学生へのより深い日本文化への理解と満足度の向上に努めた。

【補足事項】
①
・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については（処理番号 1311B）参照
・「キャンパスメンバーズ講演会」計2回　平成知新館講堂　参加人数：118人（処理番号 1313B）参照
②
・映像（ドラマ、CM等）・商品カタログ・雑誌取材等の撮影（平成知新館、庭園、茶室）、茶会の開催（茶室）、コンサートの開催（講堂）にて各施設の貸出を実施した。
・ロケーション撮影については、「ロケなび！」等の外部サイトに誘致するための特設ページを掲載した。
③
・「京都・らくご博物館」計2回　場所：平成知新館講堂　参加者数：232人
・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：45 人
・「特別展「畠山記念館の名品」に合わせた寄贈品を活用した「秋の茶室展示」　場所：茶室　参加者数：1,621 人
・「芸舞妓　春の舞」　場所：平成知新館講堂　参加人数：195 人
・「雅楽演奏会」　場所：平成知新館講堂　参加人数：197 人
・「春の人形劇公演」　場所：平成知新館講堂　参加人数：190 人

秋の茶室展示

雅楽演奏会

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ロケーション撮影について外部サイトに施設案内を紹介できるページを用意し新しい利用者に向けて情報発信を行った。また、ドラマや雑誌の撮影利用に対して下見の段階から関係者に対して丁寧な施設案内等を行うことによって実際の撮影利用につなげることができた。そして、特別展「畠山記念館の名品」の関連イベントとして「秋の茶室展示」を行い、実際の茶会の様子を茶室空間に展示することによって来館者に展覧会に関する知識を深めてもらうこともできた。茶室内における展示に関しては、寄贈品を活用し、保有資産の有効活用ができたといえる。

【中期計画記載事項】
(略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 コンサート会場として施設を有効活用したことに加えて、各種団体等と連携したイベントを実施することで博物館の社会における認知度の向上に貢献することができている。また、施設だけでなく、寄贈品等の備品の活用を行うことにより施設面以外の保有資産の有効活用を実施することもできている。入館者拡大につながるような新規イベントを企画することができていることから、中期計画通りの順調な成果を上げることができているといえる。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　7140C

中項目	１．　自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（博物館４施設）①、②、③

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
・賛助会員の会議、奈良シニア大学の講座及び法華寺の講演等を実施した。
・地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、留学生の関連イベントとして「英語落語in奈良博」を11月23日に実施し、141人の参加があった。

【補足事項】
○講座・講演会
特別鑑賞会(16回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等
○イベントの実施
・講堂：「奈良仏像けんきゅー部」、「英語落語in奈良博」、「お水取り講話と現地解説の会」
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」
・展示室：「仏像供養（年4回)」、「ニコニコ美術館」
・庭園・茶室：「珠光茶会」、「音楽コンサート」
・敷地内：「スタンプラリー」、「リアル謎解きクエスト」
○会場提供
・講堂：「奈良シニア大学講義」、「文化財防火ゼミナール」、「奈良県講演会」、「奈良県調停協会奈良支部文化研修」
・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、アパレル撮影、バーチャル視察動画撮影等
・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、テレビ番組撮影、ブライダル撮影、着物レンタル等
・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「春日若宮おん祭」、「日本クラシックカー&エキサイティングカーラリー2021奈良開催地」、テレビ番組撮影、雑誌撮影、ブライダル撮影等

英語落語in奈良博

日本クラシックカーラリー

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、留学生の日に「英語落語 in 奈良博」を開催し、全内容英語のみで実施した。奈良住みます芸人が展覧会の解説を行う「奈良仏像けんきゅー部」を展覧会毎に開催し、仏教とお笑いの融合を可能とした。

【中期計画記載事項】
(略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 クラシックカーラリーの会場や大学の講義会場として施設を利用したり、地方自治体と連携したイベントを実施することで、博物館の認知度の向上及び自己収入を拡大に努めることができた。 中期計画初年度として、上記のとおり順調に施設活用を推進できている。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　7140D

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（博物館４施設）①、②、③

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（博物館４施設）
①特別展及び特集展等に関する講演会・講座等を開催した。
②茶室を外部団体へ貸し出した。
③エントランスやミュージアムホールにおいて、著名人を招聘した講演会や演奏家によるコンサートを実施し、入館者の拡大及び施設の有効利用を図った。

【補足事項】
①展示関連講演会等の開催
1）特別展及び文化交流展関連イベント
・特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」記念講演会「美を伝えゆく-《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理を通して」(8月8日開催　参加者：140人)
※上記を含む特別展関連講演会　計13回開催
・特集展示「没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」きゅーはく☆とっておき講座　「范道生の作品とその生涯-日中交流史の視点から」(9月19日開催　参加者：61人)
※上記を含む特集展示関連講演会　計8回
②外部団体への貸し出し
・茶室　8回
・研修室AB　1回(放送大学授業のため)
・和室　1回(休憩場所として利用のため)
③入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等の実施
・さかなクンと一緒に昔の海を探検だ(7月25日　参加者数：288人)
・九州国立博物館に集まる怪しいやつら展（8月11日～17日※8月14・15日は大雨の影響により臨時休館)
・日本のからくり人形展（9月28日～10月6日）
・グラスハープ☆ファンタジーコンサート（11月28日　参加者数:235人/2回)
・旅するデニム展-世界の子供服をデニムで表現-（4年1月18日～2月6日）
・きゅーはくニューイヤーコンサート（4年1月3日　参加者数：334人/2回)
・九州次世代展2022　九州のユネスコ無形文化遺産を受け継ぐ者たち」(4年3月8日～21日)

グラスハープ☆ファンタジーコンサート

ユネスコ無形文化遺産展広告

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、特別展及び文化交流展の関連講演会やイベントを開催した。さらに入館者の拡大を目的とした講演会やコンサートも実施した。また、外部団体へ茶室を貸し出し、施設の有効利用を推進した。

【中期計画記載事項】
（略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、茶室の貸し出しを行った。また、書道や絵画、からくり人形、ユネスコ無形文化遺産に登録された5つの祭りの祭具等をエントランスに展示した。また、数々の講演会や「九州国立博物館に集まる怪しい奴ら展」等のイベントをミュージアムホール等で実施するなど、施設の有効利用を推進し、中期計画を順調に遂行している。 今後、茶室以外の貸し出しについて、新型コロナウイルスの感染状況等を見極めながら検討していく。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7140E

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
　セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　川島美奈子

【実績・成果】
・新型コロナウイルス感染症対策のため、セミナー室、会議室等を外部に貸し出すことができなかった。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを3年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施した。
・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の無償貸付を実施した。

【補足事項】
・第55回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」

オープンレクチャーの様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　施設の有効利用の促進を図ろうとしたが、3年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは制限することとなったが、内部での利用頻度が高かったので、利用件数は増加した。なお、外部機関への有償貸付は新型コロナウイルスの対応により、実施できなかった。

【中期計画記載事項】
　（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。さらに、競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　今中期計画期間初年度である3年度は、例年に続き、第53回オープンレクチャーを実施することができた。4年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。

【書式Ａ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7140F

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（文化財研究所２施設）

担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長　不藤　忠義

【実績・成果】

施　設　名	3年度
平城宮跡資料館　講堂	30 件　（内　有償貸与　2件）
平城宮跡資料館　小講堂	34 件　（内　有償貸与　6件）
飛鳥資料館　講堂	0 件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	9 件　（内　有償貸与　5件）
合　　計	73 件　（内　有償貸与 13件）

【補足事項】
２年度実績

施　設　名	2年度
平城宮跡資料館　講堂※	11件　（内　有償貸与　0件）
平城宮跡資料館　小講堂※	19件　（内　有償貸与　2件）
飛鳥資料館　講堂	1件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	12件　（内　有償貸与　9件）
合　　計	43件　（内　有償貸与　11件）

※　改修工事のため、約４ヶ月は閉館

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍により多人数を集めるイベント等が中止となったため利用件数は新型コロナウイルス感染拡大以前（224件、内有償貸与19件）に比べ減少したが、2年度と同水準の利用件数を確保することができた。新型コロナウイルスを理由にした中止がなければ、感染拡大以前と同程度のイベントや集会、学会は行われていたと考えられる。利用者数の上限設定や利用者へのコロナウイルス感染症対策の徹底など、感染症拡大予防に努めることができたため、Ｂ評価とした。

【中期計画記載事項】
（略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場利用の申し出があっても参加人数によっては断らざるを得ず、利用状況は新型コロナウイルス感染拡大前に比べ悪化した。しかしながら、利用者数の上限設定や利用者へのコロナウイルス感染症対策の徹底など、貸出にあたってのルール化を図り、4年度以降につながる取組ができた。以上より、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Ｂ評価とした。コロナ禍が収まったうえは、今中期計画においても、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用を実施しながら、貸出件数を増やしていきたい。

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 7300

中項目	３．決算情報・セグメント情報の充実等		
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等		
【年度計画】 ・Ⅲ-3			
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人
【実績・成果】 2年度に引き続き、2年度決算（3年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（令和2年3月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できた。		
【中期計画記載事項】 財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。		

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 8000

大項目	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
中項目	１．予算　２．収支計画　３．資金計画		
事業名	予算、収支計画、資金計画		
【年度計画】 ・Ⅳ-1、2、3			
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人
【実績・成果】 ・3年度当初予算について、2年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。 ・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用が図られた。 ・不測の事態に備え、物件費の一部を本部留保とし、流動する社会情勢等を見極めつつ、状況に応じて追加配分を行った。 ・四半期ごとに入金される運営費交付金について、国に対し各期の必要額をあらかじめ伝えておくことにより、計画的な資金管理を実施した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応した。		
【中期計画記載事項】 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、管理業務の効率化並びに自己収入の確保に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。		

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9100

大項目	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．内部統制
事業名	内部統制

【年度計画】
・Ⅴ-1

担当部課	本部事務局総務企画課 監査室	事業責任者	課長　渋沢志穂 監査室長　清水功

【実績・成果】
（内部統制委員会、リスク管理委員会の開催）
・内部統制委員会を2回開催した。（7月27日、4年3月14日）
・リスク管理委員会を2回開催した。（7月27日、4年3月14日）
・2年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。
（内部監査及び監事監査等のモニタリング）
・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
会計監査　　10月11日～12月3日（全施設）
※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、監査室で確認。
給与簿監査　　10月18日～11月12日（本部事務局・東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター）
※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、本部人事担当で確認。
法人文書管理監査　　4年1月～（全施設・書面監査）
4年2月～3月（京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター）※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。

情報システム監査・情報セキュリティ監査
12月16日～24日（1）ペネトレーション監査（2年度監査の再診断として実施：九州国立博物館）
4年1月6日～3月31日（2）マネジメント監査（本部事務局）
・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。
2月　全施設（書面監査）
2～3月　本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所　※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。
・ソフトウェア等監査　　各施設で定期的に実施し、会計監査の際確認を行った。
・監事監査を以下の日程で行った。
定期監査（業務・会計）　6月24日
臨時監査（業務・会計）　2月3日～25日　全施設（実地監査）
（研修の実施）
・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。（処理番号9420参照）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 内部統制委員会及びリスク管理委員会を各2回開催した。内部統制委員会においては、内部統制状況の報告・モニタリングを実施し、業務の見直しを図った。リスク管理委員会においては、リスク管理計画に基づいたリスク評価を行った。また、監事監査においてコンプライアンス違反事案に関して全施設で調査研究刊行物の実地監査を行うとともに役職員を対象に調査を実施した。内部監査等及び各種研修においても開催方法を工夫し、積極的に実施した。

【中期計画記載事項】
理事長のリーダーシップの下で、法人の使命等の周知、コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、規程に基づき内部統制状況のモニタリング、リスク管理・評価を行うことができた。 内部監査については、新型コロナウイルス感染拡大により実地・対面での実施が制限されたものの、書面監査やウェブ会議システムも利用しつつ監査を実施することができた。 以上より、中期計画を順調に遂行できていると判断し、B評定とした。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	２．その他
事業名	（１）自己評価

【年度計画】
運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・2年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。
・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会／博物館部会／総会：新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、全て書面審議にて開催）に提出し、外部有識者による評価が行われた。
・外部有識者の意見等を踏まえ「令和2年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
・運営委員会(10月5日)は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、東京及び京都会場への参集とウェブ会議を併用したハイブリット形式で開催した。当機構の管理運営の重要事項について、理事長へ助言がなされた。

【補足事項】
・外部評価委員会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、委員へ自己点検評価報告書を送付し、以下の期間にて書面審議を実施した。
・外部評価委員会の書面審議期間は以下のとおり。
研究所・センター部会（4月21日～5月12日）
博物館部会　（4月30日～5月18日）
総会　（5月25日～6月7日）

運営委員会（10 月 5 日）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、外部評価委員会は書面審議としたが、運営委員会においては、新しい生活様式に則り、対面とウェブ会議のハイブリット形式にて開催した。外部有識者からの意見を踏まえた客観的な自己評価を実施することができ、その結果を事業等の改善に反映させることができた。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 第5期中期目標期間の初年度においても、前中期目標期間から継続して外部有識者の意見を踏まえた自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9220

中項目	２．その他		
事業名	（２）情報セキュリティ対策		
【年度計画】 ・Ⅴ-2-(2)			
担当部課	情報システム・セキュリティ委員会	事業責任者	最高情報セキュリティ責任者(CISO)

【実績・成果】
・「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群（令和３年度版)」を踏まえて情報セキュリティ関係規程等を改正（9月30日改正、10月1日施行）するとともに、「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備を進めた。
・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検をe-learningにて実施した。（12月17日～4年1月31日）
・情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。
・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12月10日)
・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。
・セキュリティレベルの向上・平準化、管理の効率化を目的として2年度末に構築した機構広域ネットワークについて、本運用を開始した。(4月)
・NICH-CERTメンバー向け訓練を実施した。(4年1月26日)

【補足事項】
・情報システム・セキュリティ委員会を2回開催した。(4月28日、9月1日～15日)
・情報セキュリティ監査は、ペネトレーションテスト（Webアプリケーション診断）として機構内の12サイトを対象に実施（12月17日～24日）するとともに、規定等改正箇所について政府統一基準への準拠性監査を実施した。(4年1月～3月)
・NICH-CERT連絡会を3回開催した。(4月14日、4月20日、7月30日)
・2年度に脆弱性診断を実施した九博のシステムを対象にフォローアップ診断を実施した。(12月9日)

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり、政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき、必要な情報セキュリティ対策を実施した。また、出口対策としてのセキュリティレベル向上及び平準化として、機構広域ネットワークの本運用を開始できた。

【中期計画記載事項】
多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。
計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、政府統一基準を踏まえた規定の整備及び見直しを行い、研修・教育・点検・監査等を計画的に実施できた。機構広域ネットワークや機構共通メールシステム等の運用を含め、情報セキュリティ対策を適切に実施することができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9300

中項目	３．施設設備に関する計画
事業名	施設設備に関する計画

【年度計画】
・V-3

担当部課	本部事務局環境整備課	事業責任者	課長　城山美香

【実績・成果】
（京都国立博物館）
・本館機械室解体他建築工事等3件の工事と埋蔵文化財発掘調査を行った。
（４館共通）
・国立文化財機構防火対策5か年計画（博物館編）を策定した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
・京都国立博物館本館（重要文化財）耐震改修に向け、本館中庭機械室を解体し、跡地の埋蔵文化財発掘調査を実施するため下記3件の工事と2件の調査等業務を行った。
1)本館機械室解体他建築工事
2)本館機械室解体及び空調等改修電気設備工事
3)本館機械室解体及び空調等改修機械設備工事
4)埋蔵文化財発掘調査
5)本館免震改修他基本計画（改訂版）策定並びに設計・工事監理業者選定支援等業務
（４館共通）
・総合的・計画的な防火対策を重点的に進める計画を策定するため、各施設の防災設備等について現地調査の実施、整備・取組内容の検討を進め、国立文化財機構防火対策5か年計画（博物館編）を策定した。

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に掲げる事業（防火対策5か年計画・京都国立博物館本館中庭機械室解体及び埋蔵文化財発掘調査）について、計画どおりに実施できた。今後は、防火対策5か年計画に沿って消防設備等の整備を推進することと京都国立博物館本館耐震改修工事に向け、基本計画の策定を進める。

【中期計画記載事項】
施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。
国立博物館の施設設備の整備においては、令和２年度策定のメンテナンスサイクル（個別施設計画）に基づき、既存施設の維持管理及び長寿命化改修を進める。重要文化財（建造物）や国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する建物の防火設備の整備や防火対策について検討し、具体的な防火対策プランを作成し計画的に進める。

（別紙４）　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・京都国立博物館 本館(明治古都館)耐震改修等工事 (令和３年度～7 年度)	320 320	施設整備費補助金

(脚注)金額については見込みである。
また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修（更新）等が追加されることがあり得る。
※令和３年度実施予定事業のみ抜粋。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の初年度として、施設設備に関する計画を推進できている。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9410

中項目	４．人事に関する計画		
事業名	（１）中長期的な人事計画の策定 （２）評価制度の導入		
【年度計画】 ・Ⅴ-4-(1)、(2)			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】

（１）中長期的な人事計画の策定

・事務系職員の人事については、10月から11月にかけて各施設の副館長等にヒアリングを行い、他の交流機関とも順次、4年度以降の人事交流等について、打合せを行った。

・研究職の採用については、理事長、理事、施設の長、研究調整役で構成される研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用分野（専門性)、時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。

・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。

（２）評価制度の導入

・評価制度の導入については、引き続き検討を行う。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 事務系職員の人事については、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を検討した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通じて採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織として包括的な人事計画に向けて取り組みを検討した。 評価制度については、引き続き検討する。

【中期計画記載事項】

適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。

国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。

職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たな中期計画の初年度として、直面する ICT 環境整備や情報セキュリティ対策等のデジタル化に対応できる情報分野の採用等を行い、人材の確保を図った。また今後の組織的な整備や育成に向けても促進を図った。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9420

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施 （４）女性の活躍の推進、就業環境の整備及び教育・研修の実施 （５）人事交流等の実施 （６）働き方改革関連法に応じた取組の実施

【年度計画】
・Ⅴ-4-(3)、(4)、(5)、(6)

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（３）常勤の研究職員に準じたアソシエイトフェロー制度、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材の確保のための専門職制度、60歳を超える優秀な人材を採用できる任期付職員、再雇用制度を整えて、能力や適性に応じた人事を引き続き行った。
（４）女性活躍の推進も含めたワークライフバランスのため、育児や介護とも両立した就業環境とするために、国の育児・介護休業法改正に伴う休暇等の整備を行った。3年度より始まる5か年計画の一般事業主行動計画を策定し、機構のウェブサイトで公表した。
また、研修の実施状況については下記のとおりである。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新任職員研修（オンライン研修）	7月19日～8月31日	2,3年度の新任職員等	142名
＜分野別・能力開発＞			
研究倫理教育研修 (e-ラーニング等)	4月12日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	319名
施設系職員研修	6月9日	機構内の施設系職員	17名
会計職員研修	11月18日、29日	各施設の会計担当者、その他希望者も参加可	47名
コンプライアンス教育研修 （科研費説明会と併せて実施）	7月13日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	490名
情報セキュリティ研修 (e-ラーニング等)	12月17日～4年1月31日	常勤職員、ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ、有期雇用職員他	785名
ハラスメント防止に関する研修 (e-ラーニング等)	12月17日～4年1月31日	常勤職員、ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ、有期雇用職員他	776名

（５）職員のキャリアパスの形成のため、文化庁をはじめとした関係機関との人事交流を行った。
（６）労基法改正（平成31年4月施行）に伴う年5日間の年次有給休暇の取得義務付けについて、確実な取得を図るべく、役員会等で周知のうえ、各施設へ取得促進に向けた取組みを実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。女性の活躍を推進ということも含めたワークライフバランスのため、育児や介護とも両立した就業環境とするために、国の育児・介護休業法改正に伴う休暇等の整備を行った。 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、これまで集合型の対面で実施していた研修も、リモートやオンライン等の研修に切り替えた形で実施でき、コロナ禍において職員間のコミュニケーション等も図れた。働き方改革関連では、年5日間の確実な年休取得を達成するために取得促進等の取組を実施した。

【中期計画記載事項】
適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新たな中期計画の初年度となる3年度においては、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行うことができた。また、オンラインや動画等を用いて、「新しい生活様式」へ対応した研修を行った。今後は、リモートやオンライン等で対面でのコミュニケーション等がなかなか取りづらい状況がある中で、いかに就業環境等を高めていけるかが課題である。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２３，６５１
	延面積		７８，４７１
展示館	展示面積	計	１８，５６７
	収蔵庫面積	計	１１，６５４
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，９４１
		収蔵庫面積	３，８２９
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７９
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，４４６
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
		延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	４，８２６
		延	１６，０１４
		収蔵庫面積	３，６８４

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，０７７
	延面積		３０，８７２
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	４，０８６
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	２，８９６
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	０
	旧管理棟	建	６０６
		延	１，９８８
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	８２１
		延	２，７８６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	８１１
		延	１，４７１
		収蔵庫面積	８８０
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，５５０
		延	１，５０４

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７８６
	延面積		１９，１３３
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，８０６
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，６４２
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７３５
		延	７３５
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１５９，８４４		
			（法人　１０，７９８ 県　１４９，０４６）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物	
本庁舎地区	８，８７９	建築面積 延面積	２，８１２ １１，３８７
平城宮跡地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面積 延面積	１１，０６０ １６，３０３
藤原地区	２０，５１５	建築面積 延面積	６，２６０ ９，４１６
飛鳥地区	１７，０８２	建築面積 延面積	２，６６０ ４，４０３

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　（㎡）

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

令和３年度

（第 15 期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．行政コスト計算書

３．損益計算書

４．純資産変動計算書

５．キャッシュ・フロー計算書

６．利益の処分に関する書類

７．注記事項（重要な会計方針等）

８．附属明細書

貸 借 対 照 表

令和4年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		3,326,664,805	運営費交付金債務（注）		405,985,512
棚卸資産		93,737,274	預り寄附金（注）		1,324,297,668
立替金		20,364,880	未払金		1,431,611,512
前払費用		642,426	未払費用		87,753,215
未収金		618,893,319	前受金		47,734,811
その他の流動資産		36,000	預り金		244,770,461
賞与引当金見返（注）		257,442,973	賞与引当金		257,442,973
流動資産合計		4,317,781,677	その他の流動負債		1,706,490
			流動負債合計		3,801,302,642
Ⅱ 固定資産			Ⅱ 固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	96,140,820,987		資産見返運営費交付金（注）	2,135,161,317	
減価償却累計額	−49,197,981,727	46,942,839,260	資産見返寄附金（注）	722,103,670	
構築物	4,775,167,577		資産見返物品受贈額（注）	17,504,791	
減価償却累計額	−3,237,599,039	1,537,568,538	資産見返その他補助金（注）	83,435,376	
機械・装置	736,578,492		建設仮勘定見返運営費交付金（注）	5,395,500	
減価償却累計額	−717,583,811	18,994,681	資産見返負債合計	2,963,600,654	
車両運搬具	73,997,467		引当金		
減価償却累計額	−64,944,718	9,052,749	退職給付引当金	2,279,515,445	
工具器具備品	10,632,028,160		引当金合計	2,279,515,445	
減価償却累計額	−8,138,411,545	2,493,616,615	その他の固定負債		
収蔵品		126,479,418,613	長期未払金	19,410,716	
土地		44,410,675,104	固定負債合計		5,262,526,815
建設仮勘定		5,395,500	負債合計		9,063,829,457
有形固定資産合計		221,897,561,060			
			（純資産の部）		
2無形固定資産			Ⅰ 資本金		
ソフトウエア		78,483,047	政府出資金		104,713,813,740
電話加入権		3,477,600	資本金合計		104,713,813,740
その他の無形固定資産		1,172,905			
無形固定資産合計		83,133,552	Ⅱ 資本剰余金		
			資本剰余金	170,963,725,086	
3投資その他の資産			その他行政コスト累計額		
退職給付引当金見返（注）		2,279,515,445	減価償却相当累計額（−）（注）	−53,773,531,714	
投資その他の資産合計		2,279,515,445	減損損失相当累計額（−）（注）	−3,376,800	
固定資産合計		224,260,210,057	除売却差額相当累計額（−）（注）	−3,311,938,356	
			その他行政コスト累計額合計	−57,088,846,870	
			資本剰余金合計		113,874,878,216
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金（注）		621,926,844
			当期未処分利益		303,543,477
			（うち当期総利益）		(303,543,477)
			利益剰余金合計		925,470,321
			純資産合計		219,514,162,277
資産合計		228,577,991,734	負債純資産合計		228,577,991,734

（注記） 1. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額は33,727,637,157円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

行政コスト計算書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　損益計算書上の費用		
業務費	8,557,264,416	
一般管理費	1,864,899,753	
財務費用	620,331	
雑損	45,518	
臨時損失	2,502,865	
損益計算書上の費用合計		10,425,332,883
Ⅱ　その他行政コスト		
減価償却相当額（注）	3,057,082,889	
減損損失相当額（注）	0	
除売却差額相当額（注）	39	
その他行政コスト合計		3,057,082,928
Ⅲ　行政コスト		13,482,415,811

（行政コスト計算書に係る注記）

1．独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	13,482,415,811
自己収入等	−2,155,351,246
法人税等及び国庫納付額	0
機会費用	628,368,208
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	11,955,432,773

2．機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法
国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

(2) 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
10年利付国債の令和4年3月末利回りを参考に0.210%で計算しております。

(3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

3．（注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

損 益 計 算 書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,923,397,740	
業務経費			
収集保管業務費	499,229,266		
展覧業務費	1,810,292,798		
教育普及業務費	67,534,071		
博物館研究業務費	221,800,564		
博物館支援業務費	13,193,284		
文化財活用業務費	93,195,661		
基礎研究業務費	285,587,245		
応用研究業務費	107,687,343		
国際遺産保護業務費	52,280,693		
情報公開業務費	250,948,894		
研修協力業務費	22,875,519		
文化財防災業務費	48,573,675		
受託業務費	669,505,233	4,142,704,246	
減価償却費		491,162,430	8,557,264,416
一般管理費			
人件費		1,092,902,938	
一般管理経費		664,239,613	
減価償却費		107,757,202	1,864,899,753
財務費用			620,331
雑損			45,518
経常費用合計			10,422,830,018
経常収益			
運営費交付金収益(注)		7,245,079,279	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入(注)	635,842,426		
その他受託収入(注)	44,099,088	679,941,514	
入場料収入		526,618,664	
展示事業等附帯収入		291,403,814	
財産利用収入		216,960,150	
寄附金収益(注)		386,089,503	
施設費収益(注)		83,443,399	
その他補助金収益(注)		12,574,636	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入(注)	453,181,137		
資産見返寄附金戻入(注)	120,209,186		
資産見返物品受贈額戻入(注)	1,326,975		
資産見返その他補助金戻入(注)	10,974,671		
建設仮勘定見返施設費戻入(注)	11,256,300	596,948,269	
財務収益			
受取利息		211	
その他財務収益		6	
雑益		9,289,726	
賞与引当金見返に係る収益(注)		256,986,049	
退職給付引当金見返に係る収益(注)		363,344,049	
環境対策引当金見返に係る収益(注)		−3,685,000	
環境対策引当金戻入額		3,685,000	
経常収益合計			10,668,679,269
経常利益			245,849,251
臨時損失			
固定資産除却損		2,502,865	2,502,865
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入(注)		4,152,099	
資産見返寄附金戻入(注)		1,233,607	
資産見返その他補助金戻入(注)		21	5,385,727
当期純利益			248,732,113
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)			54,811,364
当期総利益			303,543,477

（注記）1. ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は−1,200,814円であり、当該損益を除いた当期総利益は304,744,291円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

純資産変動計算書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）　　（単位：円）

	Ⅰ　資本金		Ⅱ資本剰余金					Ⅲ　利益剰余金						純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額			資本剰余金合計	前中期目標期間繰越積立金	目的積立金	積立金	当期未処分利益	うち当期総利益	利益剰余金合計	
				減価償却相当累計額（－）	減損損失相当累計額（－）	除売却差額相当累計額（－）								
当期首残高	104,713,813,740	104,713,813,740	169,411,458,122	−50,721,158,107	−3,376,800	−3,307,229,035	115,379,694,180	624,042,124	5,092,192	227,650,130	12,270,948	—	869,055,394	220,962,563,314
当期変動額														
Ⅰ　資本金の当期変動額														0
Ⅱ　資本剰余金の当期変動額														
固定資産の取得			1,552,266,964				1,552,266,964							1,552,266,964
固定資産の除売却				4,709,282		−4,709,321	−39							−39
減価償却				−3,057,082,889			−3,057,082,889							−3,057,082,889
Ⅲ　利益剰余金の当期変動額														
（1）利益の処分又は損失の処理														
前中期目標期間からの繰越し								676,738,208		−676,738,208			0	0
利益処分による積立								−624,042,124	−5,092,192	641,405,264	−12,270,948		0	0
国庫納付金の納付										−192,317,186			−192,317,186	−192,317,186
（2）その他														
当期純利益											248,732,113	248,732,113	248,732,113	248,732,113
前中期目標期間繰越積立金取崩額								−54,811,364			54,811,364	54,811,364	0	0
当期変動額合計	0	0	1,552,266,964	−3,052,373,607	0	−4,709,321	−1,504,815,964	−2,115,280	−5,092,192	−227,650,130	291,272,529	303,543,477	56,414,927	−1,448,401,037
当期末残高	104,713,813,740	104,713,813,740	170,963,725,086	−53,773,531,714	−3,376,800	−3,311,938,356	113,874,878,216	621,926,844	0	0	303,543,477	303,543,477	925,470,321	219,514,162,277

キャッシュ・フロー計算書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,855,800,194
業務支出	−5,140,959,685
科学研究費支出	−200,490,282
運営費交付金収入	9,051,943,000
科学研究費収入	250,453,153
展示事業等収入	814,143,710
財産利用収入	223,726,366
受託収入	689,802,475
寄附金収入	756,790,750
消費税等還付額	2,718,246
その他補助金による収入	107,212,850
その他の業務収入	7,804,127
小計	1,707,344,516
利息の受取額	211
利息の支払額	−629,265
国庫納付金の支払額	−192,317,186
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,514,398,276
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	−1,908,382,471
無形固定資産の取得による支出	−17,340,324
施設費による収入	342,833,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	−1,582,889,295
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−11,839,672
財務活動によるキャッシュ・フロー	−11,839,672
Ⅳ　資金減少額	−80,330,691
Ⅴ　資金期首残高	3,406,995,496
Ⅵ　資金期末残高	3,326,664,805

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	3,326,664,805 円
資金期末残高	3,326,664,805 円

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	372,556,303 円
工具器具備品、ソフトウェア	10,163,904 円
合計	382,720,207 円

②ファイナンス・リースによる資産取得　　14,551,439 円

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		303,543,477
当期総利益	303,543,477	
Ⅱ　利益処分額		
積立金	167,255,953	
独立行政法人通則法		
第４４条第３項により		
主務大臣の承認を受けようとする額		
業務拡充積立金	136,287,524	303,543,477

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和 3 年 9 月 21 日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関する Q&A」（令和 4 年 3 月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

なお、独立行政法人会計基準等のうち、時価の算定に係る改訂内容は令和４事業年度から、収益認識に係る改訂内容は令和５事業年度から、それぞれ適用します。

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、管理部門の職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）、減価償却費及び財務費用については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の職員給与、法定福利費並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７第１項）の減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与引当金の計上基準

役職員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。なお、役職員の賞与については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上して

おります。

４．退職給付に係る引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

退職一時金については、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。このうち、運営費交付金により財源措置がなされる見込みである退職一時金については、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

５．環境対策引当金の計上基準

ＰＣＢ廃棄物（安定器）の処理費用について、今後発生すると見込まれる額を計上しております。なお、処理費用については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、環境対策引当金と同額を環境対策引当金見返として計上しております。

６．棚卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

７．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

８．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

該当なし

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	3,326,664,805	3,326,664,805	―
(2)未収金	618,893,319	618,893,319	―
(3)未払金	(1,431,611,512)	(1,431,611,512)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫１棟の天井材及び資料館１棟の煙突断熱材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが、当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ．退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、役職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度及び国家公務員共済組合法の退職等年金給付制度を採用しています。非積立型の退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	令和3年4月1日～令和4年3月31日
期首における退職給付引当金	2,056,900,768
退職給付費用	389,382,371
退職給付の支払額	△166,767,694
期末における退職給付引当金	2,279,515,445

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	令和3年4月1日～令和4年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	389,382,371

（３）退職等年金給付制度

当法人の退職等年金給付制度への要拠出額は、22,459,905円です。

附　属　明　細　書

第15期

自：令和3年 4月 1日
至：令和4年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第15期　附属明細書

自：令和3年 4月 1日
至：令和4年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　棚卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本剰余金の明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期減損額		
有形固定資産(減価償却費)	建物	2,990,291,476	21,772,982	10,709,844	3,001,354,614	1,993,116,800	118,346,225	0	0	1,008,237,814	
	構築物	350,032,214	1,100,000	799,050	350,333,164	150,448,393	17,845,094	0	0	199,884,771	
	機械・装置	115,732,071	0	0	115,732,071	96,737,548	17,022,497	0	0	18,994,523	
	車両運搬具	66,181,877	1,408,000	0	67,589,877	58,537,137	2,791,740	0	0	9,052,740	
	工具器具備品	6,654,417,539	436,290,975	119,509,651	6,971,198,863	5,290,635,170	407,093,333	0	0	1,680,563,693	
	計	10,176,655,177	460,571,957	131,018,545	10,506,208,589	7,589,475,048	563,098,889	0	0	2,916,733,541	
有形固定資産(減価償却相当額)	建物	93,070,759,812	68,706,561	0	93,139,466,373	47,204,864,927	2,676,198,352	0	0	45,934,601,446	(注)
	構築物	4,424,834,413	0	0	4,424,834,413	3,087,150,646	123,359,962	0	0	1,337,683,767	
	機械・装置	623,804,503	0	2,958,082	620,846,421	620,846,263	62,445,880	0	0	158	
	車両運搬具	6,782,125	0	374,535	6,407,590	6,407,581	0	0	0	9	
	工具器具備品	3,522,599,065	0	1,376,669	3,521,222,396	2,847,776,375	193,136,385	0	0	673,446,021	
	計	101,648,779,918	68,706,561	4,709,286	101,712,777,193	53,767,045,792	3,055,140,579	0	0	47,945,731,401	
非償却資産	工具器具備品	139,606,901	0	0	139,606,901	0	0	0	0	139,606,901	
	収蔵品	124,995,858,245	1,483,560,403	35	126,479,418,613	0	0	0	0	126,479,418,613	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	16,464,162	5,395,500	16,464,162	5,395,500	0	0	0	0	5,395,500	
	計	169,562,604,412	1,488,955,903	16,464,197	171,035,096,118	0	0	0	0	171,035,096,118	
有形固定資産合計	建物	96,061,051,288	90,479,543	10,709,844	96,140,820,987	49,197,981,727	2,794,544,577	0	0	46,942,839,260	
	構築物	4,774,866,627	1,100,000	799,050	4,775,167,577	3,237,599,039	141,205,056	0	0	1,537,568,538	
	機械・装置	739,536,574	0	2,958,082	736,578,492	717,583,811	79,468,377	0	0	18,994,681	
	車両運搬具	72,964,002	1,408,000	374,535	73,997,467	64,944,718	2,791,740	0	0	9,052,749	
	工具器具備品	10,316,623,505	436,290,975	120,886,320	10,632,028,160	8,138,411,545	600,229,718	0	0	2,493,616,615	
	収蔵品	124,995,858,245	1,483,560,403	35	126,479,418,613	0	0	0	0	126,479,418,613	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	16,464,162	5,395,500	16,464,162	5,395,500	0	0	0	0	5,395,500	
	計	281,388,039,507	2,018,234,421	152,192,028	283,254,081,900	61,356,520,840	3,618,239,468	0	0	221,897,561,060	
無形固定資産(減価償却費)	ソフトウエア	492,865,915	10,690,900	27,240,302	476,316,513	403,659,873	35,708,466	0	0	72,656,640	
	その他無形固定資産	0	1,285,181	0	1,285,181	112,276	112,276	0	0	1,172,905	
	計	492,865,915	11,976,081	27,240,302	477,601,694	403,772,149	35,820,742	0	0	73,829,545	
無形固定資産(減価償却相当額)	ソフトウエア	12,312,329	0	0	12,312,329	6,485,922	1,942,310	0	0	5,826,407	
	計	12,312,329	0	0	12,312,329	6,485,922	1,942,310	0	0	5,826,407	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	3,393,804	0	3,393,804	0	0	0	0	0	0	
	計	10,248,204	0	3,393,804	6,854,400	0	0	3,376,800	0	3,477,600	
無形固定資産合計	ソフトウエア	505,178,244	10,690,900	27,240,302	488,628,842	410,145,795	37,650,776	0	0	78,483,047	
	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	3,393,804	1,285,181	3,393,804	1,285,181	112,276	112,276	0	0	1,172,905	
	計	515,426,448	11,976,081	30,634,106	496,768,423	410,258,071	37,763,052	3,376,800	0	83,133,552	
投資その他の資産	退職給付引当金見返	2,056,900,768	364,721,029	142,106,352	2,279,515,445	0	0	0	0	2,279,515,445	
	計	2,056,900,768	364,721,029	142,106,352	2,279,515,445	0	0	0	0	2,279,515,445	

(注) 当期増加額のうち68,706,561円は京都国立博物館本館耐震改修等工事(埋蔵文化財発掘調査)によるものであります。

2. 棚卸資産の明細

（単位:円）

種　類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	48,949,843	9,582,097	0	12,002,701	0	46,529,239	
未成受託研究支出金	10,625,661	47,208,035	0	10,625,661	0	47,208,035	
計	59,575,504	56,790,132	0	22,628,362	0	93,737,274	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期 末 残 高	摘　　要
			目 的 使 用	そ の 他		
賞与引当金	285,511,675	257,442,973	285,511,675	0	257,442,973	
環境対策引当金	157,525,368	0	157,525,368	0	0	
計	443,037,043	257,442,973	443,037,043	0	257,442,973	

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額	期 末 残 高	摘　　要
退職給付債務合計額	2,056,900,768	363,344,049	140,729,372	2,279,515,445	
退職一時金に係る債務	2,056,900,768	363,344,049	140,729,372	2,279,515,445	
退職給付引当金	2,056,900,768	363,344,049	140,729,372	2,279,515,445	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本剰余金の明細

（単位:円）

区　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
施設費補助金	47,100,234,158	68,706,561	0	47,168,940,719	施設費による特定資産の取得
目的積立金	700,022,095	0	0	700,022,095	
運営費交付金	23,340,154,941	621,070,000	0	23,961,224,941	運営費交付金による収蔵品の取得
寄附金等	1,344,344,370	489,934,100	0	1,834,278,470	寄附金による収蔵品の取得
贈与	96,914,642,274	372,556,248	0	97,287,198,522	寄贈品の受け入れ
収蔵品編入	12,060,284	55	0	12,060,339	
計	169,411,458,122	1,552,266,964	0	170,963,725,086	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

期首残高	当期交付額	当期振替額						引当金見返との相殺額	期末残高
		運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金戻入	資本剰余金	小計		
0	9,051,943,000	7,245,079,279	195,191,898	5,395,500	0	621,070,000	8,066,736,677	579,220,811	405,985,512

(2)運営費交付金債務の当期振替額及び主な使途の明細

①運営費交付金収益への振替額及び主な使途の明細　　(単位:円)

区分		運営費交付金収益	運営費交付金の主な使途	
			費用	主な使途
業務達成基準による振替額				
	国立博物館等の事業	3,966,797,412	3,859,851,528	人件費:1,902,274,283円、 一般管理費:59,131,105円、 業務費:1,898,446,140円、その他:0円
	文化財研究所等の事業	1,912,802,978	1,916,199,757	人件費:1,272,581,146円、 一般管理費:12,244,573円、 業務費:631,374,038円、その他:0円
	共通	49,608,760	52,380,890	人件費:3,062,542円、 一般管理費:49,318,348円、 業務費:0円、その他:0円
期間進行基準による振替額		1,315,870,129	1,236,664,784	人件費:867,059,496円、 一般管理費:369,421,464円、 その他:183,824円
合計		7,245,079,279	7,065,096,959	

②資産見返運営費交付金及び建設仮勘定見返運営費交付金、資本剰余金への振替額並びに主な使途の明細　　(単位:円)

セグメント	資産見返運営費交付金への振替		建設仮勘定見返運営費交付金への振替		資本剰余金への振替	
	振替額	主な使途	振替額	主な使途	振替額	主な使途
国立博物館等の事業	123,247,585	本部文化財活用センター高精細複製品「洛中洛外図屏風(舟木本)」製作:20,457,098円 本部文化財活用センター高精細複製品「檜図屏風」製作:17,391,559円 東京国立博物館公式ｳｪﾌﾞｻｲﾄ高齢者・障害者ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ機能改修:6,490,000円 その他:78,908,928円	5,395,500	本部文化財活用センター車争図高精細複製品:4,400,000円 東京国立博物館東洋館外壁改修(西側)基本設計:995,500円	621,070,000	陳列品購入 東京国立博物館:215,000,000円 京都国立博物館:189,953,000円 九州国立博物館:216,117,000円
文化財研究所等の事業	71,244,713	奈良文化財研究所BRUKER社製超軽元素対応ﾏｲｸﾛXRFｼｽﾃﾑ M4TORNADO PLUS 36S AMICS:42,983,600円 奈良文化財研究所APPLE TREE 小型3次元測定ｼｽﾃﾑ 一式:,2,971,100円 奈良文化財研究所メルク社製 純水・超純水製造システムMilli-Q IQ7003:2,679,710円 その他:22,610,303円	0		0	
共通	699,600	名刺作成機器(名刺プリンター) 山櫻 minute Rev.2:699,600円	0		0	
合計	195,191,898		5,395,500		621,070,000	

(3)引当金見返との相殺額の明細　　(単位:円)

セグメント	引当金見返との相殺	
	相殺額	主な相殺額の内訳
国立博物館等の事業	348,783,644	賞与引当金見返:167,662,422円 退職給付引当金見返:27,280,854円 環境対策引当金見返:153,840,368円
文化財研究所等の事業	175,547,056	賞与引当金見返:101,474,536円 退職給付引当金見返:74,072,520円 環境対策引当金見返:0円
共通	54,890,111	賞与引当金見返:15,514,113円 退職給付引当金見返:39,375,998円 環境対策引当金見返:0円
合計	579,220,811	

(4)運営費交付金債務残高の明細　　(単位:円)

運営費交付金債務残高		使用見込み
業務達成基準を採用した業務に係る分	405,985,512	○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細は別表1のとおりです。
期間進行基準を採用した業務に係る分	―	○翌事業年度への繰越額はない。
計	405,985,512	

別表1　翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細

セグメント	業務名称	施設名	繰越事由、債務残高及び使用見込み
国立博物館等の事業	収集保管業務	東京国立博物館	文化財購入について、手続きに必要な日数を確保することが困難であったことから、翌期に5,000千円使用予定。
		京都国立博物館	文化財情報システムのリニューアルについて、新型コロナウイルスの影響で予定より作業が大幅に遅れたことにより、翌期に6,689千円使用予定。
		九州国立博物館	文化財購入について、令和3年度の買取会議上程までに売渡申出額と予算が折り合わなかったことから、翌期に148,940千円使用予定。
			新規ワークステーションについて、仕様の策定や入札手続きに想定以上の期間を要し、納品が間に合わなかったため、翌期に2,178千円使用予定。
	展覧業務	東京国立博物館	壁の増設等の工事について、仕様の再検討に時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に1,357千円使用予定。
		京都国立博物館	中央監視装置の経年部品交換について、世界的な半導体部品不足の影響により、年度内の納品が困難であったことから、翌期に2,688千円使用予定。
			ウェブリニューアル多言語拡充、題箋業務自動化プログラムについて、新型コロナウイルスの影響により、年度内の納品が困難であったことから、翌期に3,345千円使用予定。
			講堂映像・音響システムの更新について、今後の講堂の活用方針に関わるため、仕様策定に想定外の時間を要したことから、翌期に20,493千円使用予定。
		九州国立博物館	館内サインについて、仕様の策定に時間を要し、納品が間に合わなかったため、翌期に1,274千円使用予定。
	博物館研究業務	東京国立博物館	X線装置用の高電圧発生器交換について、交換後の点検により部品の初期不良が判明し、令和4年度に再度の部品手配及び交換・動作確認作業が必要となったため、翌期に12,133千円使用予定。
		京都国立博物館	図書システムリニューアルについて、国立文化財機構の外部サービス利用手順、業務委託手順の策定に伴う仕様書作成に時間を要したため、翌期に6,854千円使用予定。
			絵画・彫刻作品の顔料調査や金属の分析調査に使用する機器について、世界的な半導体不足により製造ラインが遅れており、年度内の納品が困難であったため、翌期に19,800千円使用予定。
		九州国立博物館	新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、外国への派遣、招聘を要する業務を行うことができなかったため、翌期に2,900千円使用予定。
	文化財活用業務	京都国立博物館	文化財情報システムのリニューアルについて、請負者内で新型コロナウイルスの感染者が発生したことにより、業務が完了ができず、翌期に929千円使用予定。
		奈良国立博物館	複製模造品の制作事業について、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に924千円使用予定。
		本部文化財活用センター	東洋館5階の文化財活用センターオフィスの一部拡張について、その前提となる工事が完了していないことにより、実施できず、翌期に3,931千円使用予定。
			ファンドレイジング活動を効果的に行うためには緊急事態宣言の解除および人流の回復を待つ必要があり、業務を実施することができなかった。翌期に4,992千円使用予定。
			シンポジウムについて、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催時期が遅れ、年度末での開催となったため、報告書の作成を完了できなかった。翌期に519千円使用予定。
			文化財修理（埴輪 馬）について、工期が2ケ年度にわたり、令和4年12月に完了を予定している。翌期に1,200千円使用予定。
			高精細複製品は原本の状態が悪く、取り扱いに特に注意を要する必要があり、令和3年度中には完成に至らなかった。翌期に7,817千円使用予定。
			法隆寺宝物館資料室の体験型展示は当初令和4年1月開室予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、令和4年度の開室に変更された。翌期に18,581千円使用予定。
			高精細文化財画像サイト「e国宝」について、令和3年11月から令和4年10月までの1年間の保守契約を締結しているため、翌期に578千円使用予定。
	一般管理費	東京国立博物館	令和3年11月1日からの新500円硬貨発行に伴う自動券売機の改修作業について、機器の部品供給不足から作業に遅れが生じ、年度内に完了できなかったことから、翌期に300千円使用予定。
		九州国立博物館	防犯用設備のバックアップ電源について、半導体不足により修繕部品が年度内に納品されず、年度内修繕完了が困難となったため、翌期に760千円使用予定。

文化財研究所等の事業	基礎研究業務	奈良文化財研究所	耐震診断及び施設のバリアフリー化について、新型コロナウイルスの影響による事前調査の遅れや仕様の検討に時間を要し、年度内の完了ができなかったことにより、翌期に11,770千円使用予定。
			遺跡等の保存管理・整備等に関する研究について、新型コロナウイルスの影響により出張や人を集めて行う作業などを控えたため、予定していた調査が実施できず、翌期に154千円使用予定。
			出土遺物を安全に保管するために地震対策のベルトについて、新型コロナウイルスの影響による部品不足及び物流の不安定化により年度内に取り付けができなくなったため、翌期に670千円使用予定。
			学報第71冊について、3月に印刷を完了し、送付を行う予定であったが、ロシアによるウクライナ侵攻により海外発送分の契約手続きが進められなかったことから、翌期に433千円使用予定。
	応用研究業務	奈良文化財研究所	高エネルギーX線CT装置の部品について、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う部品不足及び物流の不安定化により、年度内の交換部品の調達が困難となったため、翌期に15,675千円使用予定。
			遺構の安定化方法の調査研究のために必要な機材について、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う部品不足及び物流の不安定化により、納期が遅れることとなったため、翌期に882千円使用予定。
	国際遺産保護業務	東京文化財研究所	ヨーロッパ地域における文化遺産保護制度についての現地ヒアリングが、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったことにより、翌期に1,183千円使用予定。
			ネパールの建造物修復に対する技術支援等について、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航を要する業務を実施することができなかったため、翌期に5,033千円使用予定。
			ミャンマーにて遺跡保存に従事する専門家への技術支援活動について、新型コロナウィルス感染症の影響により海外渡航を要する業務を実施することができなかったため、翌期に2,045千円使用予定。
			令和3年度に実施を予定していた打合せ、各種調査や研修会について、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったため、翌期に5,117千円使用予定。
		奈良文化財研究所	カンボジアの若手研究員を対象にした日本国内の遺産保護に関する実地研修について、新型コロナウイルスの影響により招聘を要する業務を実施できなかったため、翌期に407千円使用予定。
	情報公開業務	東京文化財研究所	北方民族博物館（北海道網走市）における研修会「文化財写真入門」について、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったため、、翌期に2,888千円使用予定。
		奈良文化財研究所	博物館等施設での展示公開の調査及び実践の成果公開のためのチラシについて、デザインを依頼していた会社の作業が遅れ、年度内の印刷が困難となったため、翌期に300千円使用予定。
			SINET6アクセス回線の開通について、SINET側事情（機器、部材調達が年度内に困難）により、令和3年度内に事業が実施できなかったため、翌期に1,188千円使用予定。
			「寄附したくなる募金箱」事業の一環で、情報発信機能強化のため、募金箱へのサイネージの組込みを予定していたが、新型コロナウイルスの影響により予定していた作業が延期となり、翌期に550千円使用予定。
	文化財防災	奈良文化財研究所	文化財防災についての情報交換とネットワークの強化のため、各県訪問を行う予定であったが、新型コロナウィルスの影響により大部分の訪問を行うことができなかったため、翌期に478千円使用予定。
	一般管理費	東京文化財研究所	テレワーク用専用端末への設定作業について、Microsoft365を利用した新メールシステムの導入開始日が令和4年3月2日以降に行う必要となったため、4月に作業予定。翌期は986千円使用予定。
			3階サーバー室内空調機の更新工事について、サーバーの安全確保を鑑みた仕様書の作成に時間を要し、年度内の納品が困難であったため、翌期に3,245千円使用予定。
共通	一般管理費	本部事務局	勤怠管理システム等の導入について、複数年かけて導入を予定しているものである。令和3年度は、仕様の策定、調達手続きを行った。翌期は23,300千円使用予定。
			サイボウズシステムについてサーバー機1台を予備機としてセットアップする予定であったが、部品供給不足により年度内の納品が見込めなかったことから、翌期に996千円使用予定。
			機構全体で導入したMicrosoft365ライセンスについて、令和5年度まで保守を予定しており、翌期に46,765千円使用予定。
			サーバ室等区域のセキュリティ強化について、仕様の検討に時間を要し、年度内の完了が困難となったため、、翌期に7,740千円使用予定。

13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

13－1 施設費の明細 （単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
京都国立博物館本館耐震改修等工事	34,338,700	0	0	34,338,700	
京都国立博物館本館耐震改修等工事（埋蔵文化財発掘調査）	117,811,260	0	68,706,561	49,104,699	
計	152,149,960	0	68,706,561	83,443,399	

(注)その他の内訳は、施設費収益:83,443,399円です。

13－2 補助金等の明細 （単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返補助金等	資産見返補助金等	収益計上	
東京国立博物館文化芸術振興費補助金	1,915,507	0	0	1,915,507	
京都国立博物館文化芸術振興費補助金	3,132,916	0	0	3,132,916	
奈良国立博物館文化芸術振興費補助金	1,526,213	0	0	1,526,213	
九州国立博物館文化芸術振興費補助金	6,000,000	0	0	6,000,000	
計	12,574,636	0	0	12,574,636	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:12,574,636円です。

14. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 38,297	（ 4 ） 2	（ 0 ） 9,545	（ 0 ） 1
職員	（ 912,240 ） 3,054,914	（ 423 ） 392	（ 99 ） 167,952	（ 2 ） 13
合計	（ 916,080 ） 3,093,211	（ 427 ） 394	（ 99 ） 177,496	（ 2 ） 14

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については令和3年4月～令和4年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　理事長　965,000円（報酬月額）
理事2名　818,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15. セグメント情報　（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	国立博物館等	文化財研究所等	計	共通	合　計
Ⅰ行政コスト					
損益計算書上の費用合計	6,759,107,886	3,256,343,476	10,015,451,362	409,881,521	10,425,332,883
その他行政コスト					
減価償却相当額	2,560,078,604	493,790,997	3,053,869,601	3,213,288	3,057,082,889
減損損失相当額	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	1	38	39	0	39
その他行政コスト合計	2,560,078,605	493,791,035	3,053,869,640	3,213,288	3,057,082,928
行政コスト	9,319,186,491	3,750,134,511	13,069,321,002	413,094,809	13,482,415,811
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	8,235,113,861	3,295,242,906	11,530,356,767	425,076,006	11,955,432,773
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益					
事業費用					
業務費	5,774,295,693	2,779,966,369	8,554,262,062	3,002,354	8,557,264,416
人件費	2,461,160,927	1,462,236,813	3,923,397,740	0	3,923,397,740
業務経費	2,987,271,338	1,155,432,908	4,142,704,246	0	4,142,704,246
収集保管業務費	499,229,266	0	499,229,266	0	499,229,266
展覧業務費	1,810,292,798	0	1,810,292,798	0	1,810,292,798
教育普及業務費	67,534,071	0	67,534,071	0	67,534,071
博物館研究業務費	221,800,564	0	221,800,564	0	221,800,564
博物館支援業務費	13,193,284	0	13,193,284	0	13,193,284
文化財活用業務費	91,268,097	1,927,564	93,195,661	0	93,195,661
基礎研究業務費	0	285,587,245	285,587,245	0	285,587,245
応用研究業務費	0	107,687,343	107,687,343	0	107,687,343
国際遺産保護業務費	0	52,280,693	52,280,693	0	52,280,693
情報公開業務費	0	250,948,894	250,948,894	0	250,948,894
研修協力業務費	0	22,875,519	22,875,519	0	22,875,519
文化財防災業務費	6,361,187	42,212,488	48,573,675	0	48,573,675
受託業務費	277,592,071	391,913,162	669,505,233	0	669,505,233
減価償却費	325,863,428	162,296,648	488,160,076	3,002,354	491,162,430
一般管理費	982,429,332	475,591,258	1,458,020,590	406,879,163	1,864,899,753
人件費	470,635,512	362,113,883	832,749,395	260,153,543	1,092,902,938
一般管理経費	437,751,219	94,323,584	532,074,803	132,164,810	664,239,613
減価償却費	74,042,601	19,153,791	93,196,392	14,560,810	107,757,202
財務費用	0	620,331	620,331	0	620,331
雑損	203	45,315	45,518	0	45,518
事業費用計	6,756,725,228	3,256,223,273	10,012,948,501	409,881,517	10,422,830,018
事業収益					
運営費交付金収益	4,601,903,894	2,291,031,338	6,892,935,232	352,144,047	7,245,079,279
受託収入	277,835,376	402,106,138	679,941,514	0	679,941,514
入場料収入	524,617,314	2,001,350	526,618,664	0	526,618,664
展示事業等附帯収入	231,646,163	56,320,311	287,966,474	3,437,340	291,403,814
財産利用収入	206,100,135	10,860,015	216,960,150	0	216,960,150
寄附金収益	213,878,433	164,237,970	378,116,403	7,973,100	386,089,503
施設費収益	83,443,399	0	83,443,399	0	83,443,399
その他補助金収益	12,574,636	0	12,574,636	0	12,574,636
資産見返負債戻入	409,978,109	169,406,996	579,385,105	17,563,164	596,948,269
財務収益	182	35	217	0	217
雑益	6,739,146	2,548,580	9,287,726	2,000	9,289,726
賞与引当金見返に係る収益	149,867,454	91,936,308	241,803,762	15,182,287	256,986,049
退職給付引当金見返に係る収益	244,078,189	90,389,804	334,467,993	28,876,056	363,344,049
環境対策引当金見返に係る収益	−3,685,000	0	−3,685,000	0	−3,685,000
環境対策引当金戻入額	3,685,000	0	3,685,000	0	3,685,000
事業収益計	6,962,662,430	3,280,838,845	10,243,501,275	425,177,994	10,668,679,269
事業損益	205,937,202	24,615,572	230,552,774	15,296,477	245,849,251
Ⅳ臨時損益等					
臨時損失	2,382,658	120,203	2,502,861	4	2,502,865
臨時損失計	2,382,658	120,203	2,502,861	4	2,502,865
臨時利益	5,038,721	347,002	5,385,723	4	5,385,727
臨時利益計	5,038,721	347,002	5,385,723	4	5,385,727
当期純利益	208,593,265	24,842,371	233,435,636	15,296,477	248,732,113
前中期目標期間繰越積立金取崩額	46,906,377	7,904,987	54,811,364	0	54,811,364
当期総利益	255,499,642	32,747,358	288,247,000	15,296,477	303,543,477
Ⅴ総資産					
流動資産	2,061,552,528	821,570,980	2,883,123,508	1,434,658,169	4,317,781,677
固定資産	208,500,979,556	15,572,941,580	224,073,921,136	186,288,921	224,260,210,057
建物	37,987,769,664	8,944,221,181	46,931,990,845	10,848,415	46,942,839,260
収蔵品	126,274,085,682	205,332,931	126,479,418,613	0	126,479,418,613
土地	40,238,675,104	4,172,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	4,000,449,106	2,251,387,468	6,251,836,574	175,440,506	6,427,277,080
総資産計	210,562,532,084	16,394,512,560	226,957,044,644	1,620,947,090	228,577,991,734

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容
事業のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。
（1）国立博物館等の事業
有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業を行っております。
東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館を設置し、事業を行っております。
（2）文化財研究所等の事業
文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業を行っております。
東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、事業を行っております。

2．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は409,881,517円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

3．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は425,177,994円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は1,620,947,090円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

５．施設別の事業費用，事業収益及び事業損益等の情報は以下のとおりであります。

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	本部文化財活用センター	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財防災センター	計	本部事務局	合　計
Ⅰ行政コスト												
損益計算書上の費用合計	2,729,247,058	1,252,233,244	1,085,544,440	1,206,670,572	485,412,572	1,155,518,752	1,916,497,097	98,598,304	85,729,323	10,015,451,362	409,881,521	10,425,332,883
その他行政コスト												
減価償却相当額	976,355,775	1,001,939,343	327,580,536	254,202,950	0	74,985,898	418,805,099	0	0	3,053,869,601	3,213,288	3,057,082,889
減損損失相当額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	1	0	0	0	0	1	37	0	0	39	0	39
その他行政コスト合計	976,355,776	1,001,939,343	327,580,536	254,202,950	0	74,985,899	418,805,136	0	0	3,053,869,640	3,213,288	3,057,082,928
行政コスト	3,705,602,834	2,254,172,587	1,413,124,976	1,460,873,522	485,412,572	1,230,504,651	2,335,302,233	98,598,304	85,729,323	13,069,321,002	413,094,809	13,482,415,811
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	3,212,705,178	2,128,141,798	1,167,368,709	1,385,683,767	341,214,409	1,032,188,121	2,147,142,582	49,475,305	66,436,898	11,530,356,767	425,076,006	11,955,432,773
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益												
事業費用												
業務費	2,308,556,239	980,411,971	911,093,154	1,090,297,574	483,936,755	941,592,031	1,686,722,701	66,046,980	85,604,657	8,554,262,062	3,002,354	8,557,264,416
人件費	1,129,467,097	416,493,304	304,952,133	368,409,403	241,838,990	536,300,833	863,418,703	20,752,352	41,764,925	3,923,397,740	0	3,923,397,740
業務経費	1,046,074,539	501,816,413	562,768,959	650,935,714	225,675,713	347,607,568	720,422,251	45,110,165	42,292,924	4,142,704,246	0	4,142,704,246
収集保管業務費	234,032,409	122,527,195	25,047,241	117,622,421	0	0	0	0	0	499,229,266	0	499,229,266
展覧業務費	619,919,794	237,200,598	468,162,372	485,010,034	0	0	0	0	0	1,810,292,798	0	1,810,292,798
教育普及業務費	39,485,348	5,101,134	20,248,522	2,699,067	0	0	0	0	0	67,534,071	0	67,534,071
博物館研究業務費	113,532,432	53,957,690	34,942,054	19,368,388	0	0	0	0	0	221,800,564	0	221,800,564
博物館支援業務費	4,805,034	6,751,650	1,636,600	0	0	0	0	0	0	13,193,284	0	13,193,284
文化財活用業務費	4,550,918	3,137,750	816,492	1,418,809	81,344,128	1,777,564	150,000	0	0	93,195,661	0	93,195,661
基礎研究業務費	0	0	0	0	0	69,257,779	216,329,466	0	0	285,587,245	0	285,587,245
応用研究業務費	0	0	0	0	0	70,308,760	37,378,583	0	0	107,687,343	0	107,687,343
国際遺産保護業務費	0	0	0	0	0	26,984,083	16,352,096	8,944,514	0	52,280,693	0	52,280,693
情報公開業務費	0	0	0	0	0	68,888,768	182,060,126	0	0	250,948,894	0	250,948,894
研修協力業務費	0	0	0	0	0	3,858,065	19,017,454	0	0	22,875,519	0	22,875,519
文化財防災業務費	2,888,014	2,039,366	549,564	884,243	0	5,308,152	7,122,028	0	29,782,308	48,573,675	0	48,573,675
受託業務費	26,860,590	71,101,030	11,366,114	23,932,752	144,331,585	101,224,397	242,012,498	36,165,651	12,510,616	669,505,233	0	669,505,233
減価償却費	133,014,603	62,102,254	43,372,062	70,952,457	16,422,052	57,683,630	102,881,747	184,463	1,546,808	488,160,076	3,002,354	491,162,430
一般管理費	420,573,280	271,292,192	172,715,052	116,372,991	1,475,817	213,698,880	229,216,388	32,551,324	124,666	1,458,020,590	406,879,163	1,864,899,753
人件費	217,824,120	92,046,645	99,695,437	61,069,310	0	156,429,133	177,426,015	28,258,735	0	832,749,395	260,153,543	1,092,902,938
一般管理経費	166,146,390	170,608,730	57,495,275	43,326,295	174,529	55,037,401	34,993,594	4,292,589	0	532,074,803	132,164,810	664,239,613
減価償却費	36,602,770	8,636,817	15,524,340	11,977,386	1,301,288	2,232,346	16,796,779	0	124,666	93,196,392	14,560,810	107,757,202
財務費用	0	0	0	0	0	62,326	558,005	0	0	620,331	0	620,331
雑損	0	0	203	0	0	45,315	0	0	0	45,518	0	45,518
事業費用計	2,729,129,519	1,251,704,163	1,083,808,409	1,206,670,565	485,412,572	1,155,398,552	1,916,497,094	98,598,304	85,729,323	10,012,948,501	409,881,517	10,422,830,018
事業収益												
運営費交付金収益	1,820,131,922	766,583,498	744,076,703	991,014,102	280,097,669	780,187,243	1,376,144,595	50,560,034	84,139,466	6,892,935,232	352,144,047	7,245,079,279
受託収入	26,860,590	71,101,030	11,366,114	24,176,057	144,331,585	101,224,397	247,384,015	37,092,341	16,405,385	679,941,514	0	679,941,514
入場料収入	289,351,928	40,208,667	157,410,753	37,645,966	0	0	2,001,350	0	0	526,618,664	0	526,618,664
展示事業等附帯収入	139,351,557	22,750,110	52,568,058	16,046,438	930,000	10,972,823	44,852,488	495,000	0	287,966,474	3,437,340	291,403,814
財産利用収入	128,298,823	48,089,187	25,039,348	4,672,777	0	3,642,493	7,217,522	0	0	216,960,150	0	216,960,150
寄附金収益	62,708,119	53,165,852	48,846,366	48,071,796	1,086,300	95,001,418	56,415,912	12,820,640	0	378,116,403	7,973,100	386,089,503
施設費収益	0	83,443,399	0	0	0	0	0	0	0	83,443,399	0	83,443,399
その他補助金収益	1,915,507	3,132,916	1,526,213	6,000,000	0	0	0	0	0	12,574,636	0	12,574,636
資産見返負債戻入	168,433,153	81,995,371	58,896,402	82,929,843	17,723,340	56,321,525	111,229,534	184,463	1,671,474	579,385,105	17,563,164	596,948,269
財務収益	14	118	50	0	0	0	17	18	0	217	0	217
雑益	2,502,799	3,456,942	128,137	431,268	220,000	750,840	1,797,740	0	0	9,287,726	2,000	9,289,726
賃与引当金見返に係る収益	71,476,102	26,480,396	20,629,564	20,236,830	11,044,562	32,874,539	56,193,258	902,546	1,965,965	241,803,762	15,182,287	256,986,049
退職給付引当金見返に係る収益	127,884,063	48,387,605	26,879,357	16,400,385	24,526,779	66,681,584	16,434,339	1,376,980	5,896,901	334,467,993	28,876,056	363,344,049
環境対策引当金見返に係る収益	−3,685,000	0	0	0	0	0	0	0	0	−3,685,000	0	−3,685,000
環境対策引当金戻入額	3,685,000	0	0	0	0	0	0	0	0	3,685,000	0	3,685,000
事業収益計	2,838,914,577	1,248,795,091	1,147,367,065	1,247,625,462	479,960,235	1,147,656,862	1,919,670,770	103,432,022	110,079,191	10,243,501,275	425,177,994	10,668,679,269
事業損益	109,785,058	−2,909,072	63,558,656	40,954,897	−5,452,337	−7,741,690	3,173,676	4,833,718	24,349,868	230,552,774	15,296,477	245,849,251
Ⅳ臨時損益等												
臨時損失	117,539	529,081	1,736,031	7	0	120,200	3	0	0	2,502,861	4	2,502,865
臨時損失計	117,539	529,081	1,736,031	7	0	120,200	3	0	0	2,502,861	4	2,502,865
臨時利益	2,773,602	529,081	1,736,031	7	0	347,000	2	0	0	5,385,723	4	5,385,727
臨時利益計	2,773,602	529,081	1,736,031	7	0	347,000	2	0	0	5,385,723	4	5,385,727
当期純利益	112,441,121	−2,909,072	63,558,656	40,954,897	−5,452,337	−7,514,890	3,173,675	4,833,718	24,349,868	233,435,636	15,296,477	248,732,113
前中期目標期間繰越積立金取崩額	25,540,259	12,717,250	5,764,780	2,884,088	0	−28,555	7,933,542	0	0	54,811,364	0	54,811,364
当期総利益	137,981,380	9,808,178	69,323,436	43,838,985	−5,452,337	−7,543,445	11,107,217	4,833,718	24,349,868	288,247,000	15,296,477	303,543,477
Ⅴ純資産												
流動資産	534,027,575	301,435,786	499,052,612	479,189,197	247,847,358	277,936,406	466,803,332	48,468,122	28,363,120	2,883,123,508	1,434,658,169	4,317,781,677
固定資産	97,007,503,744	49,836,355,375	30,464,379,626	31,033,555,154	159,185,657	5,513,905,349	10,019,631,353	2,819,637	36,585,241	224,073,921,136	186,288,921	224,260,210,057
建物	14,222,131,123	12,577,362,775	4,520,769,376	6,663,808,976	3,697,414	2,341,504,506	6,577,939,978	0	24,776,697	46,931,990,845	10,848,415	46,942,839,260
収蔵品	53,885,267,329	27,423,969,700	21,565,444,285	23,399,404,368	0	0	205,332,931	0	0	126,479,418,613	0	126,479,418,613
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	0	2,650,000,000	1,522,000,000	0	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	2,067,317,292	763,126,000	503,155,761	511,361,810	155,488,243	522,400,843	1,714,358,444	2,819,637	11,808,544	6,251,836,574	175,440,506	6,427,277,080
純資産計	97,541,531,319	50,137,791,161	30,963,432,238	31,512,744,351	407,033,015	5,791,841,755	10,486,434,685	51,287,759	64,948,361	226,957,044,644	1,620,947,090	228,577,991,734

16. 科学研究費補助金の明細

（単位:円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科　学　研　究　費 新　学　術　領　域　研　究	(　5,950,000) 1,785,000	5	
科　学　研　究　費 学　術　変　革　領　域　研　究（A)	9,300,000) 2,790,000	3	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　S　）	(　18,250,000) 5,475,000	5	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　A　）	(　42,307,431) 12,782,229	66	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　B　）	(　88,674,200) 27,219,981	97	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　C　）	(　32,201,000) 9,660,300	54	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　研　究　（開　拓　）	(　5,420,000) 1,626,000	2	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　研　究　（萌　芽　）	(　6,650,000) 1,995,000	7	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　B　）	(　650,000) 195,000	2	
科　学　研　究　費 若　　手　　研　　究	(　25,700,000) 7,710,000	35	
科　学　研　究　費 研　究　活　動　ス　タ　ー　ト　支　援	(　7,300,000) 2,190,000	8	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 研　究　成　果　公　開　発　表	(　2,000,000) 0	1	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 デ　ー　タ　ベ　ー　ス	(　1,800,000) 0	1	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 ひらめき☆ときめきサイエンス	(　490,000) 0	1	
特　別　研　究　員　奨　励　費	(　1,595,600) 180,000	2	
国　際　共　同　研　究　加　速　基　金 国　際　共　同　研　究　強　化（Ｂ）	(　3,450,000) 888,000	6	
計	(　251,738,231) 74,496,510	295	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は外数として(　　)書きで記載しております。

17. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

17－1 未収金の明細 （単位:円）

取引先	未収金の内訳	金額
文化庁	施設整備費補助金 他	379,403,842
独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博受託事業「京の国宝-守り伝える日本のたから-」委託料 他	88,487,144
官署支出官近畿地方整備局総務部長	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託料	34,928,476
三井住友カード株式会社	入場料等収入(クレジットカード分)	15,902,678
陸前高田市長	陸前高田市受託事業「被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務」委託料	9,207,452
その他		90,963,727
合計		618,893,319

17－2 未払金の明細 （単位:円）

取引先	未払金の内訳	金額
コクヨマーケティング株式会社	九州国立博物館独立展示ケースおよび附属品の設計製作業務	105,600,000
キヤノン株式会社	高精細複製品「楼閣山水図屏風」の制作 他	52,796,668
アズビル・三冷・太平 東京国立博物館共同企業体	東京国立博物館等の施設管理・運営業務	52,336,383
日本ビジネスシステムズ株式会社	Micrsoft365 環境構築及び運用支援業務 他	26,236,100
文化庁	無形遺産保護パートナーシッププログラム受託未執行分未払金計上 他	24,302,728
株式会社ソナ	東京文化財研究所実演記録室(スタジオ)改修工事	22,980,870
東京電力エナジーパートナー株式会社	東京国立博物館電気料 他	21,793,149
株式会社フクシ・エンタープライズ	東京国立博物館等の展示場における来館者対応等業務	21,601,333
株式会社読売新聞大阪本社	特別展「聖林寺十一面観音」観覧券収入 共催者への配分額送金 他	21,489,159
アズビル株式会社	東京文化財研究所施設管理・運営業務 他	19,296,046
その他		1,063,179,076
合計		1,431,611,512

17－3 資産見返運営費交付金の明細 （単位:円）

区分	金額
建物	931,989,738
構築物	106,972,375
機械・装置	18,183,270
車両運搬具	9,052,731
工具器具備品	1,004,934,336
ソフトウエア	62,855,962
その他の無形固定資産	1,172,905
合計	2,135,161,317

令和３年度

（第 15 期事業年度）

決 算 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

令和3年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	国立博物館等				文化財研究所等				合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入												
運営費交付金	6,491,069,000	6,479,185,000	−11,884,000		2,560,874,000	2,572,758,000	11,884,000		9,051,943,000	9,051,943,000	−	
施設整備費補助金	−	152,149,960	152,149,960	（注記）1	−	−	−		−	152,149,960	152,149,960	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	13,692,000	13,692,000	（注記）2	−	−	−		−	13,692,000	13,692,000	（注記）2
展示事業等収入	968,621,000	967,468,205	−1,152,795		63,451,000	74,617,331	11,166,331	（注記）3	1,032,072,000	1,042,085,536	10,013,536	
受託収入	279,711,000	277,835,376	−1,875,624		516,418,000	402,106,138	−114,311,862	（注記）4	796,129,000	679,941,514	−116,187,486	（注記）4
その他寄附金等	669,905,000	528,077,331	−141,827,669	（注記）5	128,831,000	223,218,586	94,387,586	（注記）6	798,736,000	751,295,917	−47,440,083	
計	8,409,306,000	8,418,407,872	9,101,872		3,269,574,000	3,272,700,055	3,126,055		11,678,880,000	11,691,107,927	12,227,927	
支　出												
運営事業費	7,459,690,000	6,709,642,696	−750,047,304		2,624,325,000	2,589,983,949	−34,341,051		10,084,015,000	9,299,626,645	−784,388,355	
管理費	1,449,461,000	1,149,989,866	−299,471,134		507,635,000	447,384,980	−60,250,020		1,957,096,000	1,597,374,846	−359,721,154	
人件費	620,297,000	606,873,268	−13,423,732		296,602,000	279,844,567	−16,757,433		916,899,000	886,717,835	−30,181,165	
一般管理費	829,164,000	543,116,598	−286,047,402	（注記）7	211,033,000	167,540,413	−43,492,587	（注記）7	1,040,197,000	710,657,011	−329,539,989	（注記）7
業務費	6,010,229,000	5,559,652,830	−450,576,170		2,116,690,000	2,142,598,969	25,908,969		8,126,919,000	7,702,251,799	−424,667,201	
人件費	1,824,713,000	1,782,346,085	−42,366,915		1,067,388,000	1,073,940,405	6,552,405		2,892,101,000	2,856,286,490	−35,814,510	
収集保管事業費	1,101,804,000	1,117,653,940	15,849,940		−	−	−		1,101,804,000	1,117,653,940	15,849,940	
展覧事業費	2,243,033,000	1,994,960,318	−248,072,682	（注記）8	−	−	−		2,243,033,000	1,994,960,318	−248,072,682	（注記）8
教育普及事業費	162,237,000	114,232,298	−48,004,702	（注記）9	−	−	−		162,237,000	114,232,298	−48,004,702	（注記）9
博物館研究事業費	299,346,000	275,296,884	−24,049,116		−	−	−		299,346,000	275,296,884	−24,049,116	
博物館支援事業費	56,794,000	32,719,702	−24,074,298	（注記）10	−	−	−		56,794,000	32,719,702	−24,074,298	（注記）10
文化財活用事業費	322,302,000	227,858,839	−94,443,161	（注記）11	−	13,027,928	13,027,928	（注記）11	322,302,000	240,886,767	−81,415,233	（注記）11
基礎研究事業費	−	−	−		424,661,000	386,747,369	−37,913,631		424,661,000	386,747,369	−37,913,631	
応用研究事業費	−	−	−		157,319,000	194,565,018	37,246,018	（注記）12	157,319,000	194,565,018	37,246,018	（注記）12
国際遺産保護事業費	−	−	−		120,657,000	96,920,881	−23,736,119	（注記）12	120,657,000	96,920,881	−23,736,119	（注記）12
情報公開事業費	−	−	−		264,441,000	303,830,294	39,389,294	（注記）12	264,441,000	303,830,294	39,389,294	（注記）12
研修協力事業費	−	−	−		19,978,000	23,359,075	3,381,075	（注記）12	19,978,000	23,359,075	3,381,075	（注記）12
文化財防災事業費	−	14,584,764	14,584,764	（注記）13	62,246,000	50,207,999	−12,038,001	（注記）13	62,246,000	64,792,763	2,546,763	
施設整備費	−	152,149,960	152,149,960	（注記）1	−	−	−		−	152,149,960	152,149,960	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	12,574,636	12,574,636	（注記）2	−	−	−		−	12,574,636	12,574,636	（注記）2
受託事業費	279,711,000	316,935,522	37,224,522	（注記）14	516,418,000	403,177,436	−113,240,564	（注記）4	796,129,000	720,112,958	−76,016,042	
その他寄附金等	669,905,000	797,050,402	127,145,402	（注記）15	128,831,000	302,099,432	173,268,432	（注記）15	798,736,000	1,099,149,834	300,413,834	（注記）15
計	8,409,306,000	7,988,353,216	−420,952,784		3,269,574,000	3,295,260,817	25,686,817		11,678,880,000	11,283,614,033	−395,265,967	

（注記）

1. 過年度予算の令和3年度への繰越によるものであります。

2. 文化庁による「ARTS for the future!（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」、「地域と共働した博物館創造活動支援事業」等によるものであります。

3. 展示事業等収入（研究所）の差額は、財産利用収入が増えたためであります。

4. 受託収入及び受託事業費（研究所）の差額は、当初見込に対して実際の契約が少なかったためであります。

5. その他寄附金等（博物館）の差額は、受入実績が見込みより少なかったためであります。

6. その他寄附金等（研究所）の差額は、文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。

7. 一般管理費の差額は、施設整備等に係る経費が見込より減少したこと等によるものであります。

8. 展覧事業費の差額は、新型コロナウイルス感染症防止対策やPCB廃棄物処理に係る経費が減少したこと等によるものであります。

9. 教育普及事業費の差額は、多言語音声ガイド制作業務等の減少によるものであります。

10. 博物館支援事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組み替えによるものであります。

11. 文化財活用事業費の差額は、新型コロナウイルス感染症の影響及び契約内容の見直し等によるものであります。

12. 応用研究事業費、国際遺産保護事業費、情報公開事業費及び研修協力事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組替によるものであります。

13. 文化財防災事業費の差額は、事業実施場所が研究所から博物館に一部変更になったことによるものであります。

14. 受託事業費（博物館）の差額は、未成受託研究支出金の計上によるものであります。

15. その他寄附金等の差額は、寄附金等財源での事業拡充によるものであります。

16. 損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出621,070,000円は決算報告書上、収集保管事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、下記の各事業経費に表示されております。
一般管理費131,585,391円、収集保管業務費91,540,512円、展覧業務費207,647,830円、教育普及業務費42,252,284円、博物館研究業務費74,355,784円、博物館支援業務費21,076,729円、文化財活用業務費99,597,224円、基礎研究業務費175,052,258円、応用研究業務費48,804,676円、国際遺産保護業務費54,559,028円、情報公開業務費85,240,890円、研修協力業務費11,216円、文化財防災業務費16,219,088円。

（3）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち83,443,399円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている展覧業務費のうち12,574,636円は決算報告書上、文化芸術振興費補助金等に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている一般人件費のうち4,614,808円、一般管理経費のうち8,428,830円、業務人件費のうち16,017,197円、収集保管業務費のうち103,135,251円、展覧業務費のうち61,422,793円、教育普及業務費のうち4,604,611円、博物館研究業務費のうち18,855,570円、博物館支援業務費のうち1,550,311円、基礎研究業務費のうち69,036,235円、応用研究業務費のうち14,501,874円、国際遺産保護業務費のうち12,820,640円、情報公開業務費のうち47,317,307円は決算報告書上、その他寄附金等に計上されております。

（6）損益計算書に計上されている財務費用のうち436,502円は決算報告書上、受託事業費に計上されております。

令和３年度

（第15期事業年度）

事 業 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．法人の長によるメッセージ
２．法人の目的、業務内容
３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）
４．中期目標
５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等
６．中期計画及び年度計画
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉
(1) ガバナンスの状況
(2) 役員等の状況
(3) 職員の状況
(4) 重要な施設等の整備等の状況
(5) 純資産の状況
(6) 財源の状況
(7) 社会及び環境への配慮等の状況
８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策
(1) リスク管理の状況
(2) 業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応
９．内部統制の運用に関する情報
１０．業績の適正な評価の前提情報
１１．業務の成果と使用した資源との対比
(1) 自己評価
(2) 当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況
１２．予算と決算との対比
要約した決算報告書
１３．財務諸表
(1) 要約した財務諸表
(2) 要約した財務諸表の科目の説明
１４．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報
各財務諸表の概要
１５．法人の基本情報
(1) 沿革
(2) 設立に係る根拠法
(3) 主務大臣
(4) 組織図
(5) 事務所の所在地
(6) 主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況
(7) 主要な財務データの経年比較
(8) 翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画
１６．参考情報
その他公表資料等との関係の説明

独立行政法人国立文化財機構　令和３年度事業報告書

１．法人の長によるメッセージ

独立行政法人国立文化財機構
理事長　島谷　弘幸

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」という。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所の統合により設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

3 年度から第 5 期中期計画がスタートいたしました。文化財の次世代への確実な継承のみならず、文化財が持つ新たな魅力や価値を引き出し、文化財を通じた豊かな体験と学びを提供することで、保存と活用の好循環を創出し持続可能な文化の継承に取り組んでおります。

博物館においては、来館される方の安全と安心のため適切な感染防止対策を講じ、3 年度は延べ 143 万人（常設展示 41 万人、特別展示 102 万人）のお客様をお迎えすることができました。また、国からの交付金や皆様からのご寄附により、文化財を 41 件購入したほか、254 件のご寄贈をいただき、収蔵品を充実させることができました。

研究所においては、東京文化財研究所では基礎的・探求的な調査研究や文化遺産保護に関する国際協働事業等を実施しました。奈良文化財研究所では国や地方公共団体が行う文化財関連事業を継続的に支援したことに加え、平城宮跡・藤原宮跡や飛鳥地域の寺院遺跡における発掘調査で今後の調査研究につながる大きな成果が得られました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究を推進しました。

文化財活用センターにおいては、文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進や、収蔵品貸与促進事業を実施しています。また、文化財防災センターにおいては、文化財等関連組織の幅広いネットワークを活かし、各種災害に対する多様な文化財の防災・救援のため、連携・協力体制を構築するとともに、救援及び収蔵・展示に関する技術開発や普及啓発事業等を推進しました。

新型コロナウイルス感染症への対応のため、未だ様々な制約を受ける状態が続いておりますが、国の文化財保護行政の土台を支えるという大きな使命の下、「新しい生活様式」を踏まえた事業のあり方も模索しつつ、文化財の収集保管、展示公開、調査研究、そして国際協力という四つの大きな柱を機能させ、着実に事業を推進して参ります。

私どもの事業実施に対し、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

２．法人の目的、業務内容

(1)法人の目的

機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 2 条第 1 項第 1 号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第 3 条）

(2)業務内容

機構は、独立行政法人国立文化財機構法第 3 条の目的を達成するため、以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第 1 号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第 2 号、第 3 号及び前 3 号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第 2 号、第 3 号及び第 5 号から第 7 号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

さらに、機構は上記業務のほか、上記業務の遂行に支障のない範囲内で、国際文化交流の振興を目的とする展覧会その他の催しを主催し、又は「1)」の博物館をこれらの利用に供することができます。（独立行政法人国立文化財機構法第 12 条）

国立文化財機構についての詳細は、年度別概要や年報をご参照ください。
年度別概要・年報
https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/

３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）

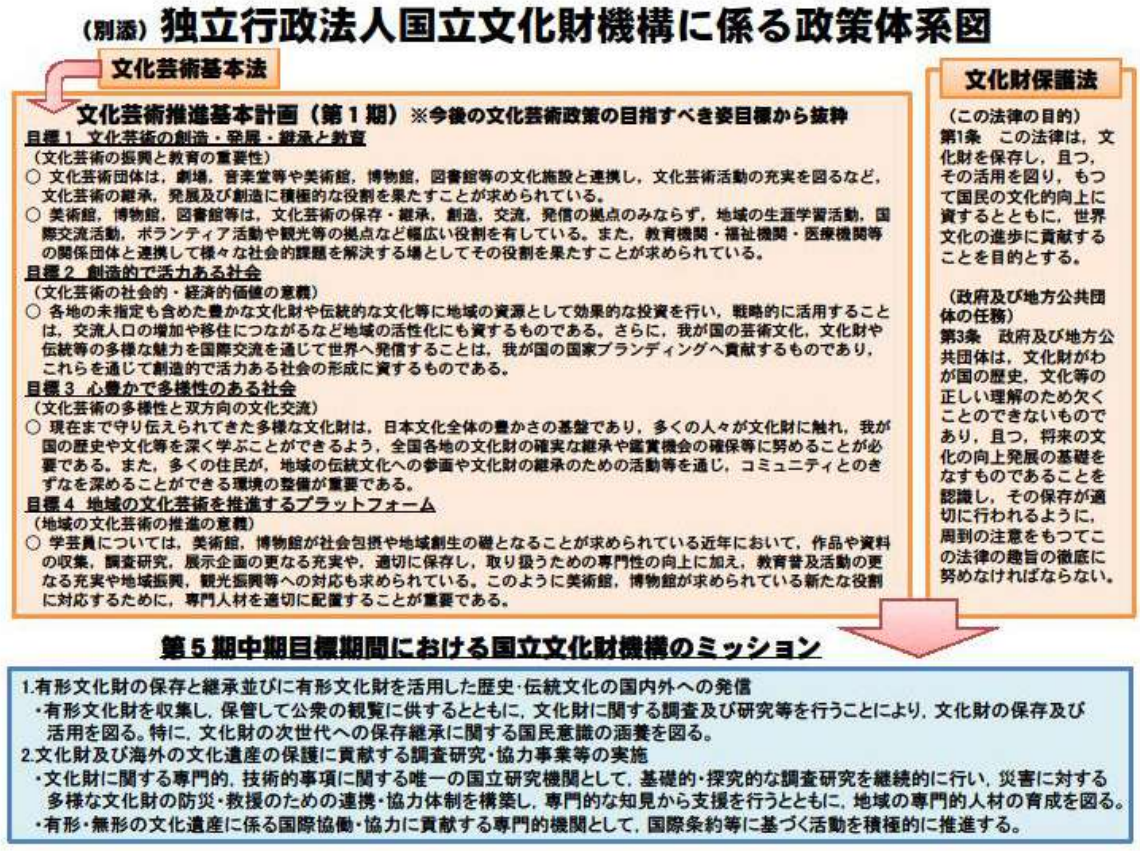
（概要）

我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有しているとともに、多くの人が地域に根付いた伝統行事に参加するなど、世界に誇るべき文化・伝統があり、これを維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外へ更に発信していくことが求められています。

他方、人口減少社会に突入し、地域の文化財や地域文化を継承する担い手が不足する中、自然災害から国民共有の財産である文化財を守り、次世代に確実に継承することや、脆弱な文化財を適切に保存しつつ、最新技術を活用した多様な手法により、我が国の歴史、伝統、文化にふれ、学び、楽しむことができる環境を提供することが必要とされています。

機構は、我が国における文化財施策の一翼を担い、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図り、次代へ継承するとともに、国内外に我が国の歴史・伝統文化を発信するため、我が国の博物館及び文化財研究に関する中核的拠点として、有形文化財の収集・保存・管理・展示等に取り組みます。また、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究、文化財の保存と活用のための研究、並びにそれらに関する調査手法の研究開発を総合的に実施するとともに、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究の促進、並びに文化財等の防災・救援に寄与いたします。さらに、これら機構の取組の成果についての積極的な公開・活用に取り組みます。

（政策体系図）

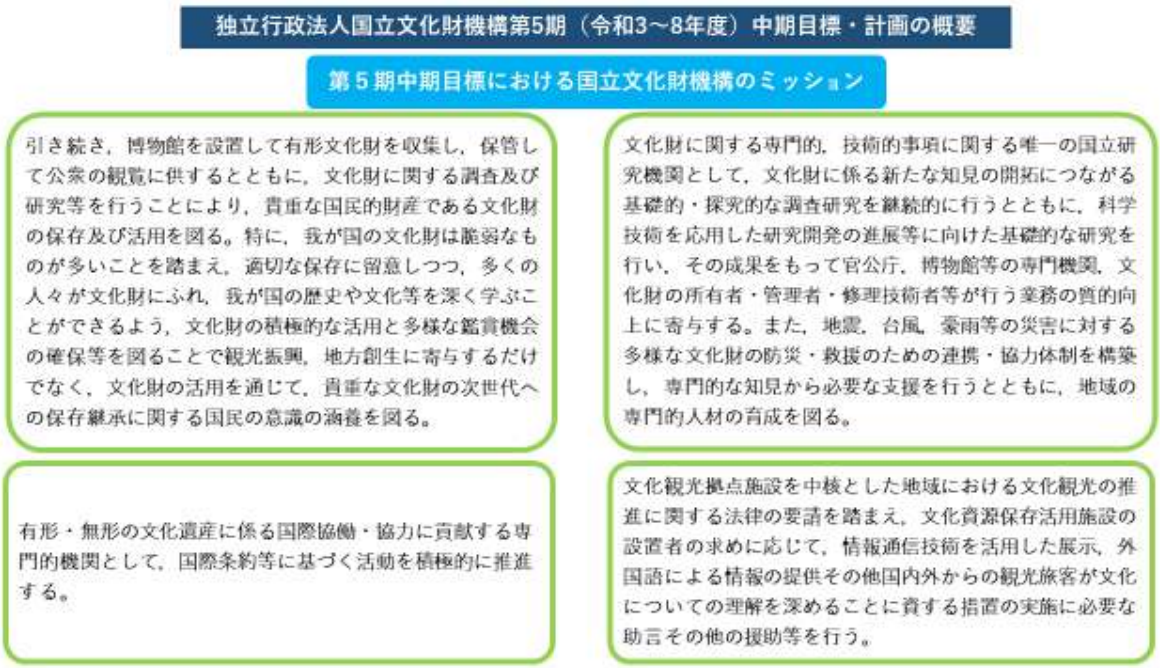


４．中期目標

(1)概要

我が国の国立博物館として、有形文化財の収集、保管、観覧を通じ、貴重な国民的財産である文化財を次世代に継承するとともに、文化財研究に関するナショナルセンターとして、文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、中核的な役割を担っております。

この役割に応えるため、令和３年度からの第５期中期目標期間において、以下の４つのミッションを遂行いたします。



中期目標の期間は、令和３年（2021 年）４月１日から令和８年（2026 年）３月 31 日までの５年間となります。詳細につきましては、第５期中期目標をご参照ください。

第５期中期目標

https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/02chukimokuhyo_2021-2025.pdf

(2)一定の事業等のまとまりごとの目標

機構は、中期目標における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しています。具体的な区分は、以下の２区分です。

① 国立博物館等（有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信）
② 文化財研究所等（文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施）

５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等

「文化財の保存と活用を目指して」

独立行政法人は、国が提供していた行政サービスをより柔軟に実施するために国から独立した組織です。「独立行政法人国立文化財機構」は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の 4 博物館を設置し、有形文化財を収集し、保管して国民の皆様の観覧に供するとともに、4 博物館と東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの計 7 施設にて文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存と活用を図ることを目的としています。

機構は、施設等の全体を把握し、施設設備の老朽化に対応したメンテナンスサイクルを継続的に実行して参ります。

依然として世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により、人々の価値観が変化している中、博物館の運営については、国内外の感染状況を十分見極めた上で適切な対策を講じつつ、文化財を実際に見て楽しむ体験ができる機会を提供しうる新たな情報発信や教育普及等のあり方を模索し「新しい生活様式」に対応した博物館を確立していくことが必要とされています。

機構の使命である文化財の保存と活用については、法人全体で考えるべき課題であり、文化を等しく一般の方々に提供する一方で、次の世代に繋いでいくという大きな役割を果たしていけるよう活動を進めてまいります。

また、産業・観光業等他分野と連携し、展示事業や研究開発等により文化財の新たな価値を創出することで、我が国の文化が持続的に発展する好循環を目指します。そのために、ファンドレイジング等による機構に対する支援の拡大や、外部資金の獲得、保有資産の外部貸出等多様な財源の確保を図ってまいります。

６．中期計画及び年度計画

中期目標を達成するための中期計画と当該計画に基づく年度計画を作成しています。中期計画と当事業年度に係る年度計画との関係は以下のとおりです。

第５期中期計画	令和３年度年度計画
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	
①有形文化財の収集等	①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等
②有形文化財の管理・保存・修理等	②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2)有形文化財の保存 3)有形文化財の修理 4)文化財修理施設等の運営
（２）展覧事業	
①平常展	①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。
②特別展等	②特別展等 1)特別展 （４館共通） ア　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 イ　特別展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響など、これらの事情を考慮し、モニタリングする。
③観覧環境の向上等	③観覧環境の向上等 新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに，「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の提供やサービスの改善等に努める。
（３）教育・普及活動	
①教育活動の充実等	①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2)ボランティア活動の支援 3)大学との連携事業等の実施 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 5)博物館支援者増加への取組
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開 3)広報活動の充実
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	
①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究

	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2)特別展等の開催に伴う調査研究 3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究
②その他有形文化財に関連する調査研究	②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究
③国内外の博物館等との学術交流等	③国内外の博物館等との学術交流等 （４館共通） 1)学術交流協定を締結している博物館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2)海外の博物館・美術館等の研究者との交流を促進する。 3)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣 （オンラインを含む。）する。 4)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等を開催若しくはそれらへ職員を派遣する。
④調査研究成果の公表	④調査研究成果の公表
（５）国内外の博物館活動への寄与	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
②国内外の博物館等への援助・助言等	②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	
①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進	①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 1)各施設と連携して、高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K 映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 2)地域の美術館・博物館等への企画コンテンツの貸出を行う。 3)学校や地域の美術館・博物館との連携により、高精細複製品等を活用したアウトリーチプログラムを実施する。
②国立博物館の収蔵品の貸与の促進を行う。	②国立博物館の収蔵品の貸与の促進 1)4 館と連携して、国立博物館の収蔵品を対象とした「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を継続して行う。
③文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信を行う。	③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」 について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。

	2)各施設と連携して、４館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4 言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像 を公開する「ｅ国宝国立文化財機構所蔵国宝・重要文化財」のデータの更新、解説文の見直しを継続して行う。 3)各施設の協力のもと、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。 4)文化財活用センターのウエブサイト、SNS 等を活用し、文化財活用センターの活動の周知ならびに、文化財全般にかかる情報の発信を行う。
④文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。	④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 1)博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応して助言を行い、必要に応じて、改善のための調査や技術支援を行うとともに、環境管理に関する調査研究を行う。 2)文化財保存管理に携わる学芸員や行政担当者等を対象とした、保存環境管理に関する研修会や講習会等を開催する。 3)文化財保護法第 53 条に基づいて、所有者以外による文化財公開を行う施設に対する保存環境調査を実施し、必要に応じて、改善のための指導を行う。 4)国立博物館収蔵品貸与促進事業の実施館の環境調査を実施し、必要な指導・助言を行う。
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	
①文化財の調査手法に関する研究開発	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた 普及・啓発手法の開発 6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究

	3)文化財の材質・構造・保存状態に関する研究 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 6)文化財の修復技術に関する調査研究 7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
（３）文化遺産保護に関する国際協働	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究 ・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	
①文化財情報基盤の整備・充実	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。
②調査研究成果の発信	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。
③展示公開施設の充実	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	
①文化財に関する研修の実施	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
②文化財に関する協力・助言等	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行

	った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
④連携大学院教育の推進	④連携大学院教育の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
（６）文化財防災に関する取組	
①地域防災体制の構築	①地域防災体制の構築 地方公共団体、美術館、博物館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。
②災害時ガイドライン等の整備	②災害時ガイドライン等の整備 災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。
③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発	③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。
④文化財防災を促進するための普及啓発	④文化財防災を促進するための普及啓発 文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用	⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する 。
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．業務改善の取組	
（１）組織体制の見直し （２）人件費管理等の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減	（１）組織体制の見直し （２）人件費管理の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少
２．業務の電子化	
３．予算執行の効率化	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．自己収入拡大への取組	

	（1）コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な展覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 （2）機構全体において、展示事業等収入額について年度計画予算額を上回ることを目指す。 （3）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （4）保有資産の有効利用の推進
2．固定的経費の節減	
3．決算情報・セグメント情報の充実等	
4．保有資産の処分	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画	
Ⅴ　短期借入金の限度額	
Ⅵ　不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画	
Ⅶ　重要な財産の処分等に関する計画	
Ⅷ　剰余金の使途	
Ⅸ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1．内部統制	
	内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。
2．その他	
3．施設設備に関する計画	
4．人事に関する計画	
5．中期目標期間を超える債務負担	
6．積立金の使途	

詳細につきましては，中期計画及び当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

第 5 期中期計画

https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/03chukikeikaku_2021-2025.pdf

令和 3 年度年度計画

https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/04nendokeikaku_2021.pdf

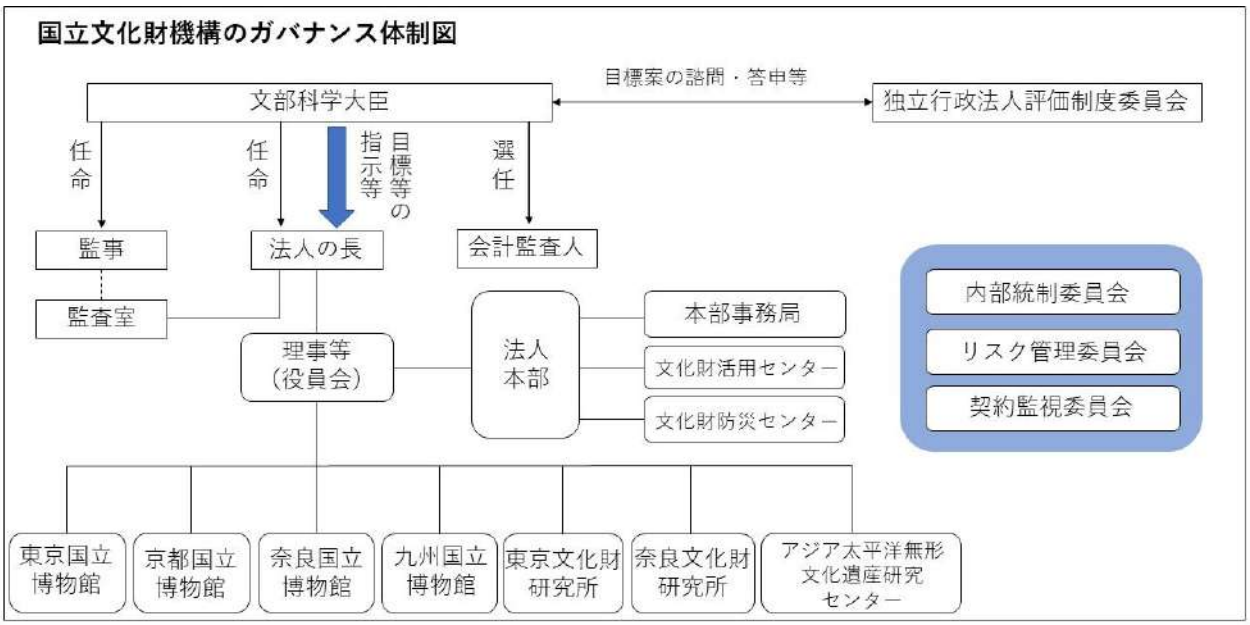
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉

(1)ガバナンスの状況

国立文化財機構は、機構が達成すべき業務運営に関する中期目標に基づき法令等を遵守しつつ有効かつ効率的に業務を行うために内部統制の基本方針を定めており、以下のとおり機構の業務の適正を確保するための内部統制に係る体制を整備しております。

1　業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備	（1）内部統制の推進体制の整備 ・内部統制委員会の設置 （2）倫理行動指針・倫理規程の遵守 （3）中期計画及び年度計画の作成 （4）年度計画に基づく業務の適切な管理 （5）職務権限等に関する規程等の制定 ・組織に関する規程、文書決裁に関する規程等の制定 （6）運営委員会等の設置 ・外部有識者からなる運営委員会の設置 ・業務実績の法人による自己点検評価に関する評価を行う外部評価委員会の設置 （7）役員会の設置 （8）契約監視委員会の設置 （9）最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 (10) 監査室の設置 (11) 人的資源の管理
2　法令等の遵守体制の整備	（1）コンプライアンス違反等への対応の措置 （2）内部通報・外部通報に関する仕組の確保 （3）反社会的勢力への対応 （4）法令遵守等に関する役職員等への周知 ・コンプライアンスに関する研修の実施 （5）違反行為等に対する処分
3　損失危機管理の体制の整備	（1）リスク管理に関する規程の制定 （2）業務リスクへの対応 ・リスク管理委員会におけるリスク管理の実施
4　情報保存管理の体制の整備	（1）情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 （2）個人情報保護に関する規程の制定 （3）文書管理に関する規程の制定
5　資産の管理及び処分の体制の整備	（1）固定資産に関する規程の制定
6　財務報告等の信頼性確保の体制の整備	（1）財務諸表等の作成が、関係法令、関係諸規程に基づき適正に行われるための体制の整備

なお、国立文化財機構のガバナンス体制図は下記のとおりです。



内部統制システムの整備に関する事項の詳細については、業務方法書等をご参照ください。

業務方法書

https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2015/11/01gyomuhohosho.pdf

(2)役員等の状況

①役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役 職	氏 名	任 期	担 当	経 歴	
理事長 (常勤)	島谷 弘幸	自 令和3年 4月1日 至 令和8年 3月31日		昭和59年04月 平成06年07月 平成13年04月 平成15年04月 平成19年04月 平成20年04月 平成23年04月 平成27年04月 平成29年10月 令和03年04月	東京国立博物館 東京国立博物館学芸部美術課書跡室長 (独)東京国立博物館学芸部資料課長 (独)東京国立博物館文化財部展示課長 (独)東京国立博物館文化財部長 (独)東京国立博物館学芸研究部長 (独)東京国立博物館副館長((兼) (独)国立文化財機構本部調整役) (独)九州国立博物館館長 (独)国立文化財機構理事((兼)九州国立博物館長) (独)国立文化財機構理事長((兼)九州国立博物館長)
理 事 (常勤)	齊藤 孝正	自 令和3年 10月1日 至 令和7年 9月30日	文化財の収集、保管、公開、調査研究担当	昭和56年11月 平成02年06月 平成03年07月 平成12年04月 平成13年01月 平成25年04月 平成26年04月 平成30年07月 平成31年01月 令和03年10月	名古屋大学助手(文学部) 文化庁文化財保護部美術工芸課 文化庁文化財保護部文化財調査官(工芸部門) 文化庁文化財保護部主任文化財調査官(工芸部門) 文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官(工芸部門) (独)東京国立博物館上席研究員(学芸企画部付) 文化庁文化財部文化財鑑査官 (独)本部文化財活用ｾﾝﾀｰ総括ﾏﾈｰｼﾞｬｰ(兼)保存担当課長 (独)東京文化財研究所長 (独)国立文化財機構理事((兼)東京文化財研究所長)
理 事 (常勤)	永山 裕二	自 令和3年 4月1日 至 令和7年 3月31日	総務、財務、施設担当	昭和62年04月 平成18年07月 平成19年07月 平成21年07月 平成24年08月 平成26年07月 平成27年04月 平成27年09月 平成29年01月 平成30年07月 令和02年07月	文部省 文部科学省高等教育局専門教育課長 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 文化庁長官官房著作権課長 文部科学省初等中等教育局教科書課長 文部科学省高等教育局私学部私学行政課長 文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ・青少年企画課長 文部科学省大臣官房付（併）内閣官房知的財産戦略推進事務局参事官 文化庁長官官房審議官 農林水産省大臣官房審議官（消費・安全局担当） (独)国立文化財機構理事

理　事 (非常勤)	林田 スマ	自 令和 3 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 3 月 31 日	教育普及、 生涯学習、 男女共同 参画担当	昭和43年04月 昭和55年05月 平成08年04月 平成21年04月 平成29年04月	RKB毎日放送 フリーアナウンサー 財団法人大野城市都市施設管理公社女性センター所長 （現　男女平等推進センター） 公益財団法人大野城まどかぴあ 館長　現在に至る (独)国立文化財機構理事
監　事 (非常勤)	久留島典子	自 平成 27 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 度財務諸表 承認日		昭和56年04月 平成04年04月 平成11年04月 平成14年04月 平成25年04月 平成27年04月 平成27年04月 令和03年04月	東京大学史料編纂所助手 東京大学史料編纂所助教授 東京大学史料編纂所教授 東京大学総長特任補佐 国立大学法人東京大学史料編纂所長 国立大学法人東京大学副学長 国立大学法人東京大学附属図書館長 (独)国立文化財機構監事 神奈川大学国際日本学部教授　現在に至る
監　事 (非常勤)	稲垣 正人	自 令和 3 年 9 月 1 日 至 令和 7 年 度財務諸表 承認日		昭和57年10月 昭和64年01月 平成09年09月 平成17年07月 平成19年08月 令和元年 07 月 令和02年09月 令和03年09月	新光監査法人　入所（後の中央青山監査法人） 海外経済協力基金（現：国際協力機構）出向 中央青山監査法人 社員（パートナー） 中央青山監査法人 公共セクター部長 新日本監査法人 シニアパートナー （現：EY 新日本有限責任監査法人） 稲垣公認会計士事務所開業登録 国立大学法人総合研究大学院大学監事 現在に至る (独)国立文化財機構監事

②会計監査人の氏名又は名称

EY 新日本有限責任監査法人

(3)職員の状況

常勤職員は令和 3 年度末現在 398 人（前期末比 5 人増）、平均年齢は 45 歳（前期末比 1 歳増）です。このうち、国等からの出向者は 18 人、令和 4 年 3 月 31 日退職者は△9 人です。

(4)重要な施設等の整備等の状況

①当事業年度に完成した主要な施設等

該当なし

②当事業年度継続中の主要な施設等の新設・拡充

該当なし

③当事業年度に処分した主要な施設等

該当なし

(5)純資産の状況

①資本金の額及び出資者ごとの出資額（前事業年度末からのそれぞれの増減を含む）

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

②目的積立金の申請状況、取崩内容等

当期未処分利益 304 百万円については、246 百万円について目的積立金として申請する予定です。前中期目標期間繰越積立金取崩額 55 百万円は、受託研究費購入資産に係る減価償却相当分や棚卸資産分の取崩です。

(6)財源の状況

①財源の内訳（運営費交付金、施設費、補助金、自己収入など）

令和 3 年度の法人単位の収入決算額は 11,691 百万円であり、その内訳は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区　分	金　額	構成比率
運営費交付金	9,052	77.5%
施設整備費補助金	152	1.3%
文化芸術振興費補助金等	14	0.1%
展示事業等収入	1,042	8.9%
受託収入	680	5.8%
その他寄附金	751	6.4%
合計	11,691	100%

②自己収入に関する説明（自己収入の概要、収入先等に関する簡潔な説明など）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供する外、年複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 5 億 27 百万円の入場料収入を得ています。この外に展示事業等附帯収入として 2 億 91 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート収入 1 億 2 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 41 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 76 百万円などです。また財産利用収入として 2 億 17 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 34 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 61 百万円、映像二次使用やロケーション撮影等に伴う土地建物映像使用料 39 百万円などです。

(7)社会及び環境への配慮等の状況

①独立行政法人国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応

機構では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の規定に基づき、また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、同法第 7 条に規定する行政機関等における障害を理由とする差別の禁止事項に関し、機構の役員及び職員が適切に対応するために必要な事項を定めております。

詳細につきましては、国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2016/05/taio_yoryo20160401_1.pdf

②女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画

機構では、働き方の多様化を促進することにより、職員が仕事と子育てを両立することができ、女性の潜在的能力を活用することによって、職員全員が働きやすい環境をつくり、各人がその能力を十分に発揮する強い組織とするため、行動計画を策定しております。

詳細につきましては、国立文化財機構における女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/jisedai-kodokeikaku2021-2026.pdf

③環境物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第7条第1項の規定に基づき、環境物品等の調達の推進を図るための方針を定め、同条第3項の規定に基づき公表しております。

詳細につきましては、環境物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/2021kankyo_hoshin.pdf

④障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律第6条の規定に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する基本方針に即して、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を定めております。

詳細につきましては、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/2021shogai_hoshin.pdf

⑤独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針

機構では、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律第5条の規定に基づき、中小企業者に関する国等の契約の基本方針に即して、中小企業者に関する契約の方針を定めております。

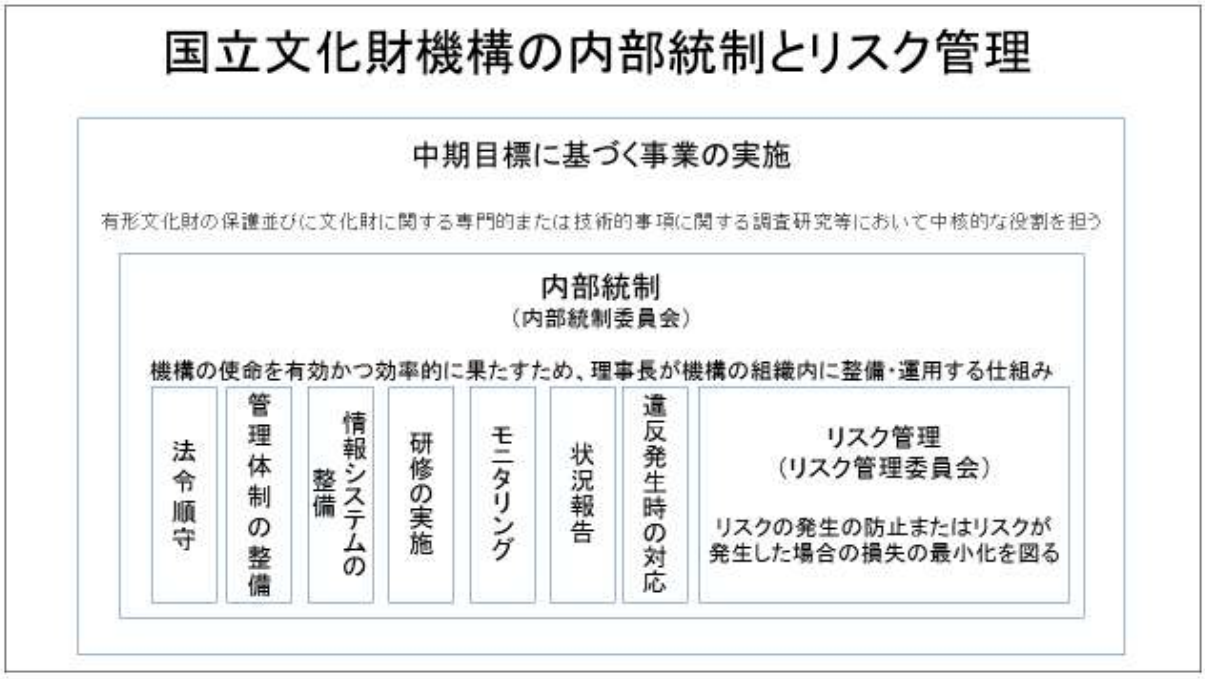
詳細につきましては、独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/2021kankouju.pdf

８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策

(1)リスク管理の状況

①リスク管理に関する規程の整備

平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、リスク管理に関して、業務実施の障害となる要因を事前にリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクへの適切な対応をとるべく、独立行政法人国立文化財機構リスク管理規程を平成 28 年 3 月 25 日に制定し、平成 28 年 4 月 1 日から施行しております。同リスク管理規程は、機構のリスク管理体制を整備し、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図り、もって機構の業務の円滑な運営に資することを目的としております。内部統制とリスク管理の関係は、下記図をご参照ください。



②リスク管理にかかる組織体制

機構におけるリスク管理にかかる組織体制は、リスク管理を担当するリスク管理担当理事を指名し、機構におけるリスク管理に関する取組みを総括整理しております。また、リスク管理の取組みを推進するため、機構にリスク管理総括部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

リスク管理総括部門には、総括リスク管理責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設にはリスク管理責任者を置き、各施設の長を充てております。総括リスク管理責任者及びリスク管理責任者は、所属する各施設のリスク管理の状況の把握に努め、また、所属する各施設の職員のうちからリスク管理補助者を指定し、各施設におけるリスク管理の整備及び運用を担当させております。

③リスク管理委員会の設置

機構では、リスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会は、リスク管理を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設のリスク管理責任者が

指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。なお、リスク管理委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

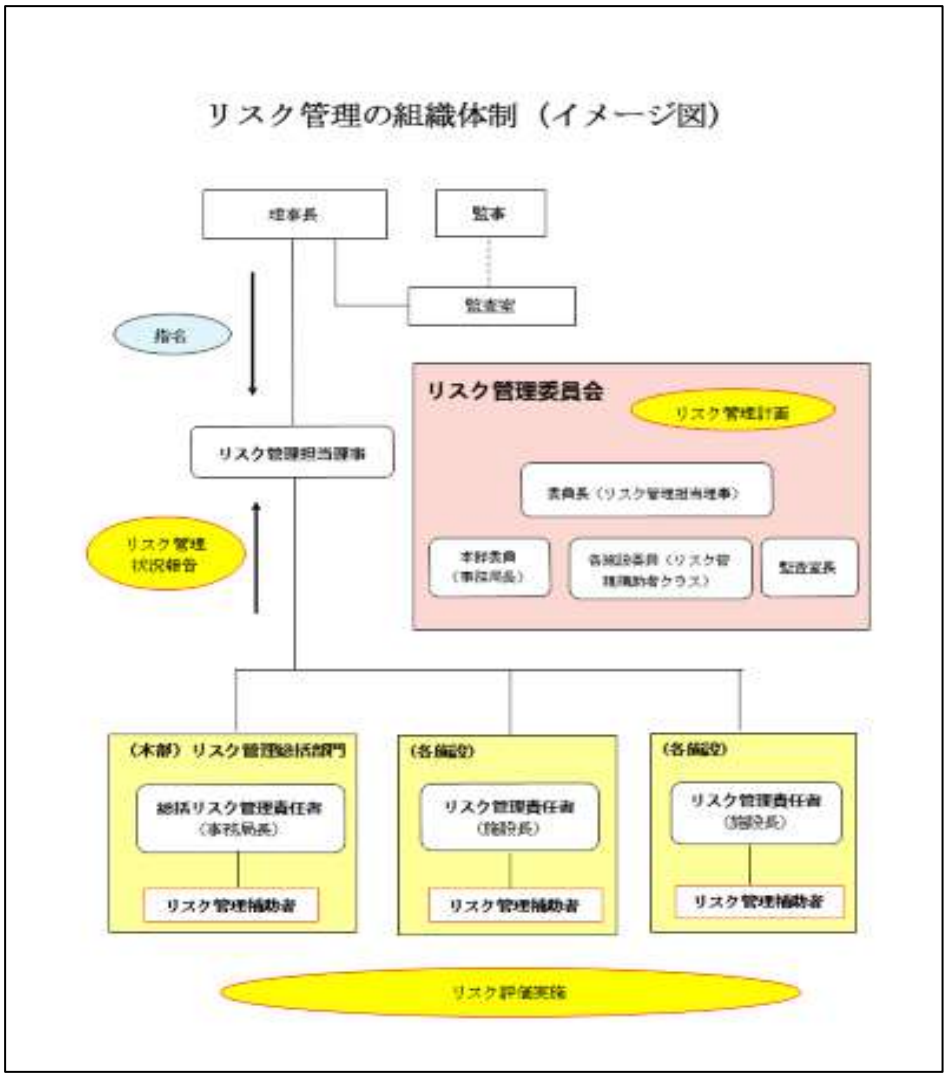
・機構全体で対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策の取りまとめ及び当該対応策の推進状況の点検に関する事項
・重大な危機の再発防止に関する事項
・その他委員会が必要と認めた事項

リスク管理委員会では、機構全体で対応すべきリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類の上、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

各施設の管理責任者等は、同リスク管理計画に基づき、各施設における当該リスクの管理を行い、また、常時、リスクへの対応に関しモニタリングし、定期的にリスク管理委員会へリスク管理計画の実施状況について報告しております。

なお、平成 29 年度から令和 3 年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成 29 年度：2 回
平成 30 年度：3 回
令和 元 年度：3 回
令和 2 年度：2 回
令和 3 年度：2 回



(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況

機構では、機構に関連するリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類して、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

このうち、法人設立の目的から、文化財の毀損の発生に関するリスクが最もリスクレベルの高いものであると評価しております。

具体的には、文化財の展示・撤収作業中、輸送、撮影・調査中における文化財の毀損の発生が想定され、人的要因（習熟していない職員の作業等）、物的要因（文化財の脆弱性等）及び設備要因（温湿度等の環境変化等）などの発生要因を把握し、常日頃から適切かつ迅速な対応がとれるよう努めております。

(3)新型コロナウイルス感染症拡大への対応

①コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開について

各博物館等において「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染拡大防止策の導入や事前予約制の推奨、柔軟な開館時間の設定などによる混雑対策を実施しました。

令和３年度においても、東京国立博物館及び京都国立博物館、奈良文化財研究所では、緊急事態宣言の発令及び政府や自治体の要請を受けて、臨時閉館や展覧会の一時中止がありましたが、機構全体で計 27 回の特別展覧会を実施し、入館者数は博物館と研究所を合わせて 1,483,715 人（常設展示 432,362 人、特別展示 1,051,353 人）となりました。

また、「新しい生活様式」に対応するため、引き続き、先端技術を用いた展示の導入や、教育普及活動、情報発信、国際交流活動の手段としてオンライン等の活用を推進し、博物館活動を継続し、遠方に向けて情報発信を行い国内外に向けて、渡航制限解除後等における来館志向の維持拡大を図ります。

②財源確保について

令和３年度においても感染症防止対策及びオンライン等を活用した事業を継続しました。「新しい生活様式」の中で多くの方に来ていただけるよう、展覧環境の整備に努め、自己収入の確保を図ります。また、入場料収入だけではない、多様な財源を確保するため、保有施設の外部貸出や競争的研究費の獲得とともに、ファンドレイジング事業を推進し、支援者の拡大と寄附金の獲得等を図ります。

９．内部統制の運用に関する情報

①内部統制に関する規程の整備

平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、機構に対する社会的信頼を確保し、機構の使命と社会的責任を果たすことを目的として、独立行政法人国立文化財機構内部統制規程を平成 28 年 3 月 25 日に制定し、平成 28 年 4 月 1 日から施行しております。内部統制とリスク管理の関係は、「８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策」の「(1) リスク管理の状況」の「①リスク管理に関する規程の整備」をご参照ください。

②内部統制にかかる組織体制

国立文化財機構における内部統制にかかる組織体制は、内部統制の推進を担当する内部統制担当理事を指名し、機構における内部統制に関する取組みを総括整理しております。また、内部統制の取組みを推進するため、機構に内部統制推進部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

内部統制推進部門には、総括内部統制推進責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設には内部統制推進責任者を置き、各施設の長を充てております。総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、所属する本部・各施設において、職員が内部統制を遵守するよう監督するとともに、内部統制の整備及び運用の状況の把握に努め、また、所属する本部・各施設の職員のうちから内部統制推進管理者を指定し、本部・各施設における内部統制の整備及び運用管理を担当させております。

③内部統制委員会の設置

機構では内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会は、内部統制の推進を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設の内部統制推進責任者が指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。内部統制委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

・機構における内部統制の整備及び運用に係る基本方針に関すること
・内部統制におけるモニタリング体制に関すること
・その他内部等統制の整備の推進に関する事項

内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、必要な改善策を検討しております。

④管理体制の整備

総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、本部・各施設における業務執行に係る意思決定プロセス、経費支出の承認プロセスに係るチェックシステムの構築に努めております。また、調査研究業務に関する不正防止のため、調査研究資金の管理状況の把握及び管理体制の整備に努めております。内部統制の推進に必要な知識及び技能を習得させ、又は向上させるために必要な研修を行っております。

このほか、内部統制体制の円滑な運営を図るため、内部統制に関する情報の伝達が確実に行われるよう情報システムの整備に努めております。情報システムを活用した効率的な業務運営のために、積極的に事務処理の効率化及び高度化を推進しております。

なお、平成 29 年度から令和 3 年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

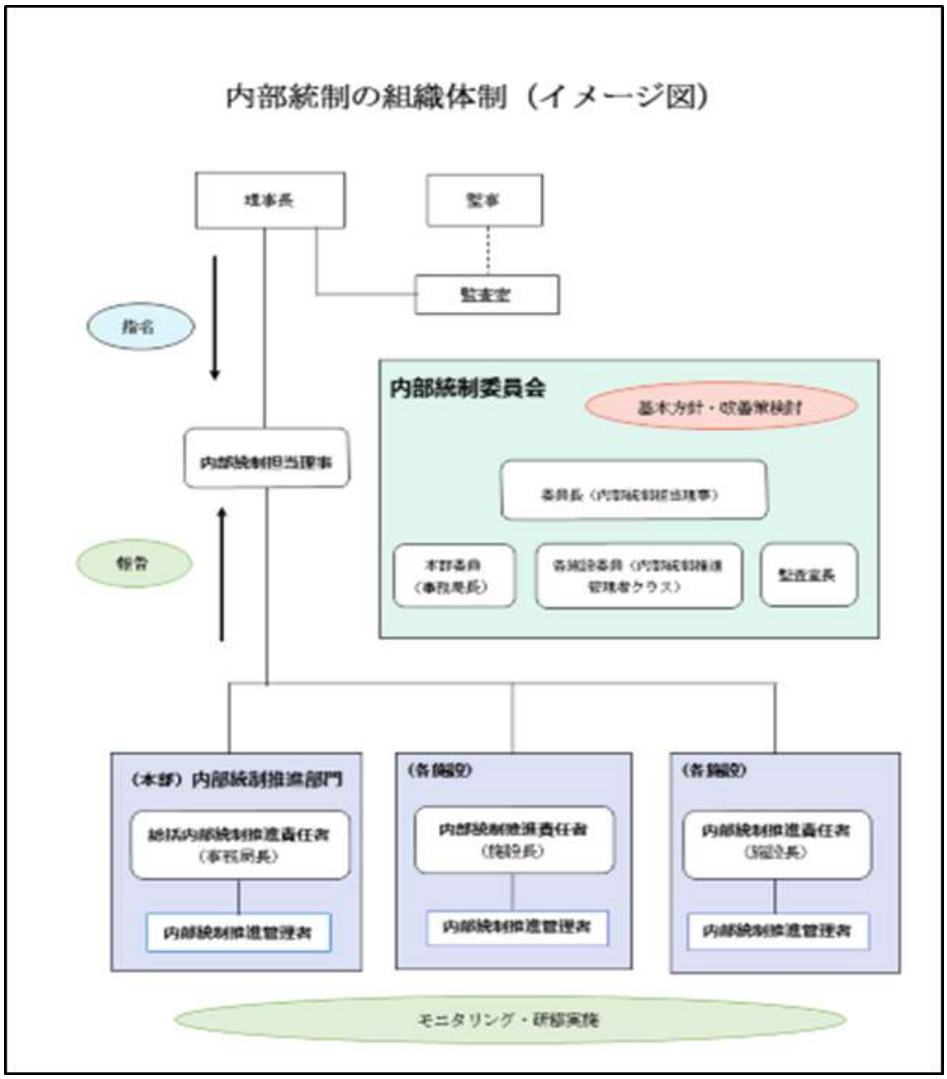
平成 29 年度：2 回

平成 30 年度：3 回

令和 元 年度：4 回

令和 2 年度：2 回

令和 3 年度：2 回



１０．業績の適正な評価の前提情報

事業の種類及び事業の内容

事業の種類	設置施設	事業の内容 （中期目標における一定の事業等のまとまり）
国立博物館等	東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業 【収益化単位の業務】 収集保管業務、展覧業務、教育普及業務、博物館研究業務、博物館支援業務、文化財活用業務
文化財研究所等	東京文化財研究所 奈良文化財研究所 アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業 【収益化単位の業務】 基礎研究業務、応用研究業務、国際遺産保護業務、情報公開業務、研修協力業務、文化財防災業務

１１．業務の成果と使用した資源との対比

(1)自己評価

評価項目		評定 (注)	行政コスト
全体の評定		B	
（大項目名 1）	国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	
（中項目名 1）	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	
（小項目 1-1）	有形文化財の収集・保管、次代への継承	B	872 百万円
（小項目 1-2）	展覧事業	B	2,839 百万円
（小項目 1-3）	教育・普及活動	B	222 百万円
（小項目 1-4）	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	723 百万円
（小項目 1-5）	国内外の博物館活動への寄与	A	90 百万円
（小項目 1-6）	文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	B	363 百万円
（中項目名 2）	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A	
（小項目 2-1）	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	1,006 百万円
（小項目 2-2）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	A	339 百万円

（小項目 2-3）	文化遺産保護に関する国際協働	A	168 百万円
（小項目 2-4）	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	A	457 百万円
（小項目 2-5）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	139 百万円
（小項目 2-6）	文化財防災に関する取組	B	177 百万円
（大項目名 2）	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	業務改善の取組	B	
（中項目名 2）	業務の電子化	B	
（中項目名 3）	予算執行の効率化	B	
（大項目名 3）	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	自己収入拡大への取組	B	
（中項目名 2）	固定的経費の節減	B	
（中項目名 3）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（大項目名 4）	予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	B	
（中項目 1）	1.予算、2.収支計画及、3.資金計画	B	
（大項目名 5）	その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	内部統制	B	
（中項目名 2）	その他	B	
（中項目名 3）	施設設備に関する計画	B	
（中項目名 4）	人事に関する計画	B	

（注1）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

詳細につきましては、自己点検評価報告書をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/data/hyoka/

(2)当中期目標期間における主務大臣による総合評定の状況

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
評定（注）	―	―	―	―	―

（注）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

１２．予算と決算との対比

要約した決算報告書

（単位：百万円）

区　　分	予　算	決　算	差額理由
《収入》			
運営費交付金	9,052	9,052	
施設整備費補助金	－	152	繰越予算
文化芸術振興費補助金等	－	14	文化庁補助金交付
展示事業等収入	1,032	1,042	
受託収入	796	680	当初見込に対する契約の減少
その他寄附金等	799	751	
合　　計	11,679	11,691	
《支出》			
運営事業費	10,084	9,300	
・人件費	3,809	3,743	
・業務経費	6,275	5,557	施設修繕・展覧業務等に係る経費減少
施設整備費	－	152	繰越予算
文化芸術振興費補助金等	－	13	文化庁補助金交付
受託事業費	796	720	
その他寄附金等	799	1,099	寄附金等財源による事業拡充
合　　計	11,679	11,284	

詳細につきましては、決算報告書をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/data/kihon/

１３．財務諸表

(1)要約した財務諸表

①貸借対照表

法人の財政状態を明らかにする書類です。

令和４年３月31日　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	3,327	運営費交付金債務	406
未収金	619	未払金	1,432
その他	372	その他	1,963
流動資産合計	4,318	流動負債合計	3,801
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	2,964
建物	46,943	その他の固定負債	2,299
収蔵品	126,479	固定負債合計	5,263
土地	44,411	負債合計	9,064
工具器具備品	2,494	純資産の部	
建設仮勘定	5	資本金	104,714
その他	1,565	資本剰余金	113,875
無形固定資産	83	利益剰余金	925
投資その他の資産	2,280	純資産合計	219,514
固定資産合計	224,260		
資産合計	228,578	負債純資産合計	228,578

②行政コスト計算書

法人の業績評価におけるアウトプットとの対比情報として、要したコスト（=インプット）を示す書類です。

令和３年４月１日～令和４年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ　損益計算書上の費用	10,425
Ⅱ　その他行政コスト	3,057
Ⅲ　行政コスト	13,482

③損益計算書

法人の運営状況を明らかにする書類です。

令和３年４月１日～令和４年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	10,422
業務費	
人件費	3,923
業務経費	4,143
減価償却費	491
一般管理費	
人件費	1,093
一般管理経費	664
減価償却費	108
その他	0
経常収益(B)	10,669
運営費交付金収益	7,245
受託収入	680
入場料収入	527
展示事業等附帯収入	291
財産利用収入	217
寄附金収益	386
施設費収益	83
その他補助金収益	13
資産見返負債戻入	597
その他	630
臨時損失(C)	3
臨時利益(D)	5
当期純利益(E)　(B－A＋D－C)	249
前中期目標期間繰越積立金取崩額(F)	55
業務拡充積立金取崩金(G)	0
当期総利益(E＋F＋G)	304

④純資産変動計算書

行政コスト計算書にも損益計算書にも反映されない出資等（拠出金、資源）や剰余金の変動を示す書類です。

令和３年４月１日～令和４年３月31日　　（単位：百万円）

	Ⅰ資本金	Ⅱ資本剰余金	Ⅲ利益剰余金	純資産合計
当期首残高	104,714	115,380	869	220,963
当期変動額	0	-1,505	56	-1,449
当期末残高	104,714	113,875	925	219,514

⑤キャッシュ・フロー計算書

資金（現預金）の増減理由を示している書類です。

令和３年４月１日～令和４年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,515
人件費支出	-4,856
運営費交付金収入	9,052
その他補助金による収入	107
自己収入等	2,738
その他の支出	-5,534
その他収入	8
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-1,583
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-12
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	-80
Ⅴ資金期首残高(E)	3,407
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	3,327

詳細につきましては、財務諸表をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/data/kihon/

(2)要約した財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）
未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など
その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など
有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの
建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など
無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など
その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用
運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額
未払金　　：退職給付、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの
その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など
資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額
その他（固定負債）　：リース長期未払金など
資本金　　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　　：剰余金の累計額

②行政コスト計算書

損益計算書上の費用　：損益計算書における一切の費用
その他行政コスト　　：行政コストに含まれるものであって、独立行政法人の会計上の財産的基礎が減少する取引に相当するものであるが、独立行政法人の拠出者への返還により生じる会計上の財産的基礎が減少する取引には相当しないもの

③損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益　：運営費交付金のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却等により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

④純資産変動計算書

資本金、資本剰余金、利益剰余金：①貸借対照表と同様

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

１４．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報

主要な財務データの簡潔な説明（資産、負債、行政コスト、経常費用、経常収益、当期総利益、キャッシュ・フローなど）

(1)各財務諸表の概要

①貸借対照表

令和 3 年度末現在の資産合計は、2,285 億 78 百万円と前年度比 19 億 13 百万円（0.8%）の減少となりました。これは収蔵品が購入及び寄贈等により 14 億 84 百万円増加した反面、有形固定資産の減価償却が 36 億 18 百万円進み、施設整備費における未収計上の減少等に伴い、未収金が 2 億 50 百万円減少したことが主な要因です。

令和 3 年度末現在の負債合計は、90 億 64 百万円と前年度比 4 億 65 百万円(4.9%)の減少となりました。これは執行額の減少により未払金が 5 億 22 百万円減少、寄附金財源での執行額増加により預り寄附金が 3 億 49 百万円減少、債務繰越の実施によ

り運営費交付金債務が 4 億 6 百万円増加したことが主な要因です。

令和 3 年度末現在の純資産合計は、④純資産変動計算書で説明します。

②行政コスト計算書

令和 3 年度の行政コストは、134 億 82 百万円となりました。損益計算書上の費用が 104 億 25 百万円、その他行政コストが 30 億 57 百万円です。その他行政コストは、主に減価償却相当額 30 億 57 百万円です。

③損益計算書

令和 3 年度の経常費用は、104 億 22 百万円と前年度比 1 億 13 百万円（1.1%）の減少となりました。これは新型コロナウイルス感染症防止対策や PCB 廃棄物処理に係る支出の減少等により展覧業務費が 1 億 41 百万円減少、工事の減少等により一般管理経費が 1 億 67 百万円減少、業務職員数の増加や退職手当の増加により業務人件費が 1 億 58 百万円増加したことが主な要因です。

また、令和 3 年度の経常収益は、106 億 69 百万円と前年度比 1 億 75 百万円(1.7%)の増加となりました。これは展覧会増加により入場料収入が 2 億 20 百万円増加したことが主な要因です。

以上による経常利益 2 億 46 百万円に、臨時損失 3 百万円と臨時利益 5 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 55 百万円を加え、令和 3 年度当期総利益は前年度比 2 億 91 百万円（2373.7%）増加の 3 億 4 百万円となりました。

④純資産変動計算書

令和 3 年度末現在の純資産合計は、2,195 億 14 百万円と前年度比 14 億 48 百万円（0.7%）の減少となりました。これは資本剰余金が 15 億 5 百万円減少したことが主な要因で、資本剰余金の減少は、主に資産増加に伴う増加 15 億 52 百万円と減価償却による減少 30 億 57 百万円の差し引きによるものです。

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 15 億 15 百万円と前年度比 5 億 18 百万円（51.9%）増加しました。これは展示事業等収入が展覧会増加による入場料の増加により 3 億 17 百万円増加、業務支出が 4 億 46 百万円減少したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 15 億 83 百万円と前年度比 4 億 4 百万円（20.3%）減少しました。これは有形固定資産の取得による支出が 4 億 91 百万円減少したほか、施設費による収入が 1 億 18 百万円減少したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 12 百万円と前年度とほぼ同額です。当該区分は、リース債務の支払による支出のみです。

１５．法人の基本情報

(1)沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

平成 30 年 7 月　文化財活用センターを設置

令和 2 年 10 月　文化財防災センターを設置

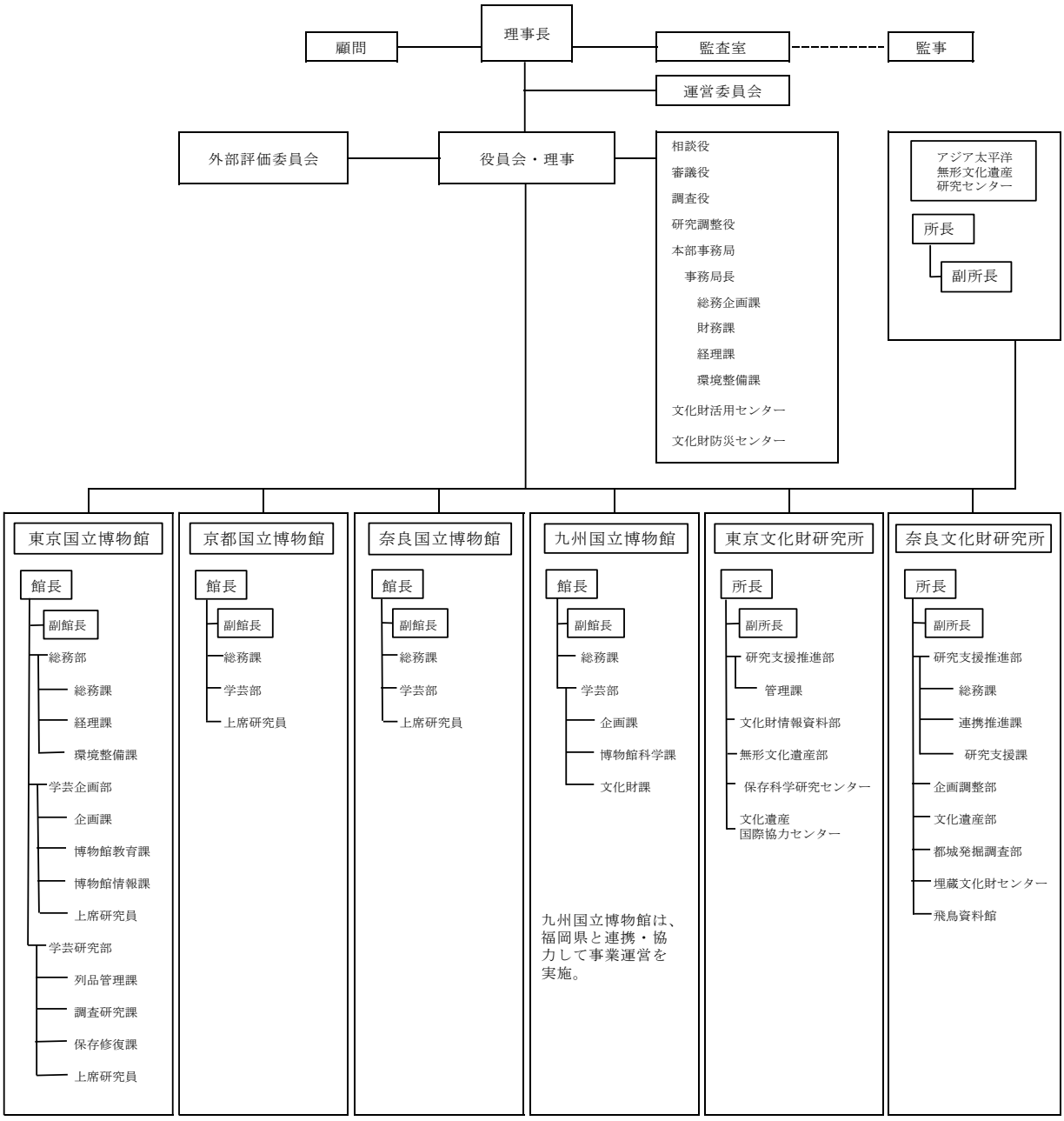
(2)設立に係る根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

(3)主務大臣

文部科学大臣（文化庁企画調整課）

(4)組織図（令和 4 年 3 月 31 日現在）



(5)事務所の所在地

事務所名	所在地
（本部）	
本部事務局	東京都台東区上野公園 13－9
本部文化財活用センター	東京都台東区上野公園 13－9
本部文化財防災センター	奈良県奈良市二条町 2－9－1
（支部）	
東京国立博物館	東京都台東区上野公園 13－9
京都国立博物館	京都府京都市東山区茶屋町 527
奈良国立博物館	奈良県奈良市登大路町 50
九州国立博物館	福岡県太宰府市石坂 4－7－2
東京文化財研究所	東京都台東区上野公園 13－43
奈良文化財研究所	奈良県奈良市二条町 2－9－1
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁（堺市博物館内）

(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況

当事業年度は該当ありません。

(7)主要な財務データの経年比較

（単位：百万円）

区　　分	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
資産	232,458	229,941	232,417	230,491	228,578
負債	11,689	10,054	10,734	9,528	9,064
利益剰余金	1,002	1,063	928	869	925
純資産	220,769	219,887	221,683	220,963	219,514
行政コスト	―	―	18,261	13,807	13,482
経常費用	10,112	11,223	12,307	10,536	10,422
経常収益	10,321	11,284	12,340	10,494	10,669
当期総利益	210	62	84	12	304
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,575	2,765	996	996	1,515
投資活動によるキャッシュ･フロー	-926	-2,485	-1,187	-1,986	-1,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	-31	-14	-13	-13	-12
資金期末残高	4,348	4,614	4,410	3,407	3,327

(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画

【予算】

（単位：百万円）

収　入	金　額	支　出	金　額
運営費交付金	8,918	管理経費	1,983
施設整備費補助金	0	人件費	956
展示事業等収入	1,329	一般管理費	1,027
受託収入	797	業務経費	8,264
その他寄附金等	788	人件費	2,916
		事業費	5,348
		施設整備費	0
		受託事業費	797
		その他寄附金等	788
合　計	11,832	合　計	11,832

【収支計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
費用の部	10,991
経常費用	10,991
管理経費	1,984
業務経費	8,344
減価償却費	662
財務費用	1
臨時損失	0
収益の部	10,991
運営費交付金収益	7,705
展示事業等の収入	1,329
受託収入	797
その他寄附金等	498
資産見返負債戻入	662
財務収益	0
臨時利益	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

【資金計画】

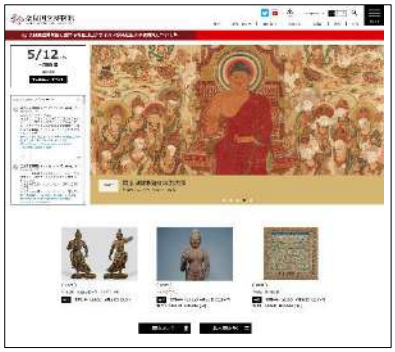
（単位：百万円）

区　分	金　額
資金支出	11,832
業務活動による支出	10,328
投資活動による支出	1,484
財務活動による支出	20
資金収入	11,832

業務活動による収入	11,832
運営費交付金による収入	8,918
展示事業等による収入	1,329
受託収入	797
その他寄附金等	788
投資活動による収入	0
施設整備費による収入	0
財務活動による収入	0

詳細につきましては，中期計画及び当事業年度に係る年度計画をご参照ください。
第５期中期計画
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/03chukikeikaku_2021-2025.pdf
令和３年度年度計画
https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/04nendokeikaku_2021.pdf

１６．参考情報
(1)その他公表資料等との関係の説明
関連する報告書等

国立文化財機構ＨＰ https://www.nich.go.jp/	東京国立博物館ＨＰ https://www.tnm.jp/	京都国立博物館ＨＰ https://www.kyohaku.go.jp/jp/
		
奈良国立博物館ＨＰ https://www.narahaku.go.jp/	九州国立博物館ＨＰ https://www.kyuhaku.jp/	東京文化財研究所ＨＰ https://www.tobunken.go.jp/

奈良文化財研究所ＨＰ https://www.nabunken.go.jp/	アジア太平洋無形文化遺産研究センターＨＰ https://www.irci.jp/jp/	文化財活用センターＨＰ https://cpcp.nich.go.jp/
文化財防災センターＨＰ https://ch-drm.nich.go.jp/	国立文化財機構　概要 https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/	国立文化財機構　年報 https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/

国立文化財機構ロゴマークについて

国立文化財機構発足から 10 年の節目となった平成 29 年度に、ロゴマークを作成しました。コンセプトは「結び」、形は結びヒモとＤＮＡのらせんの形をかけ合わせたデザインです。「結びヒモ」は「人と文化のつながり（文化財）」を、「ＤＮＡ」は「昔と今と未来のつながり（伝承）」をイメージしています。

文化の遺伝子を深く理解し、世界中の人々へ魅力的に伝承する国立文化財機構の姿勢（こころ）を表現しています。

独立行政法人国立文化財機構の

令和３年度における業務の実績に関する評価

令和４年

文 部 科 学 大 臣

独立行政法人国立文化財機構　年度評価　目次

１－１－１	評価の概要	・・・ｐ１
１－１－２	総合評定	・・・ｐ２
１－１－３	項目別評定総括表	・・・ｐ４
１－１－４－１	項目別評価調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）	・・・ｐ５
	項目別評価調書 No. Ⅰ―１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	・・・ｐ５
	項目別評価調書 No. Ⅰ―２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	・・・ｐ38
１－１－４－２	項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）	・・・ｐ60
	項目別評価調書 No. Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項	・・・ｐ60
	項目別評価調書 No. Ⅲ　財務内容の改善に関する事項	・・・ｐ65
	項目別評価調書 No. Ⅳ　その他の事項	・・・ｐ71

１－１－１　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象事業年度	年度評価	令和３年度
	中期目標期間	令和３年度～令和７年度（第５期）

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣		文部科学大臣		
	法人所管部局	文化庁	担当課、責任者	企画調整課、寺本恒昌
	評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、奥野真

３．評価の実施に関する事項
令和４年７月各種事業を担当している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。 令和４年７月 14 日独立行政法人国立文化財機構の評価等に関する有識者会合（対面、オンライン）で事業内容等について、意見を聴取した。 令和４年７月監事に対する意見聴取を書面にて行った。 令和４年７月 27 日令和３年度の業務の実績に関する自己評価書等について，有識者会合委員に対し書面にて意見聴取を行った。

４．その他評価に関する重要事項
特になし

様式１－１－２　中期目標管理法人　年度評価　総合評定

１．全体の評定						
評定 （S、A、B、C、D）	B	（参考）本中期目標期間における過年度の総合評定の状況				
		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
		B				
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。					

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，一部の施設では休館やプログラムの休止などを行っており，各種事業や自己収入への影響について考慮することが必要である。

３．項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信】 展覧事業における来館者アンケート満足度調査の手法や分析方法など、館ごとで実施している事業のノウハウの共有を進め、より有効に博物館運営に反映していただきたい。（ｐ８参照） 【文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施】 調査研究成果や、文化財防災センター等の新しい取組について、関係者だけでなく一般の人々に広く伝えられるよう、文化財情報基盤の整備や展示事業、情報発信にさらに工夫を行っていただきたい。（ｐ41 参照） 【その他業務運営に関する事項】 既存の制度の適切な実施及び各施設での先進的な取組の共有などで、リスクを発見しやすい環境、職員の働きやすい環境の整備をさらに進めていただきたい。（ｐ71 参照）
その他改善事項	特になし
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

4．その他事項	
監事等からの意見	奈良文化財研究所における不適切な会計処理や虚偽表示については、ガバナンス上の問題として重く受け止め、奈良文化財研究所において、刊行物の契約方法や納品時の検収方法の見直しなどの再発防止策を講じるとともに、法人職員に対しても研修等の機会を通じてコンプライス意識の向上を図ることとしている。
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。（**「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準（以降「評価基準」とする）」**p13）

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。

Ｃ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

様式１－１－３　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	項目別調書No.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項							
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B					Ⅰ-1	
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A					Ⅰ-2	

中期目標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	項目別調書No.	備考
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項							
１．業務改善の取組	B					Ⅱ	
２．業務の電子化							
３．予算執行の効率化							
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項							
１．自己収入拡大への取組	B					Ⅲ	
２．固定的経費の節減							
３．決算情報・セグメント情報の充実等							
４．保有資産の処分							
Ⅳ　その他業務運営に関する事項							
１．内部統制	B					Ⅳ	
２．その他（自己評価、情報セキュリティ対策）							
３．施設整備に関する計画							
４．人事に関する計画							

※１　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。
※２　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。
※３　重点化の対象とした項目については、各標語の横に「重」を付す。
※４　「項目別調書 No.」欄には、本評価書の項目別評定調書の項目別調書 No. を記載。
※５　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされており、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。

Ａ：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 120%以上、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされている場合）。

Ｂ：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 100%以上）。

Ｃ：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%以上 100%未満）。

Ｄ：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定し難い場合には、以下の要領で上記の評定に当てはめることも可能とする。

Ｓ：－
Ａ：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。
Ｂ：目標の水準を満たしている（「Ａ」に該当する事項を除く。）。
Ｃ：目標の水準を満たしていない（「Ｄ」に該当する事項を除く。）。
Ｄ：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―１	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
業務に関連する政策・施策	１２　文化芸術の振興 １２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和４年度行政事業レビュー番号 0422

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
所蔵品件数(件)	(東博)	実績値	―	119,942	120,073				
	(京博)	実績値	―	8,150	8,279				
	(奈良博)	実績値	―	1,929	1,930				
	(九博)	実績値	―	1,412	1,489				
	(4館計)	実績値	―	131,433	131,771				
文化財購入費(百万円)	(東博)	実績値	―	200	570				
	(京博)	実績値	―	42	300				
	(奈良博)	実績値	―	284	0				
	(九博)	実績値	―	584	231				
	(4館計)	実績値	―	1,110	1,101				
寄贈品件数(件)	(東博)	実績値	―	52	81				
	(京博)	実績値	―	11	117				
	(奈良博)	実績値	―	8	0				
	(九博)	実績値	―	84	56				
	(4館計)	実績値	―	155	254				
寄託品件数(件)	(東博)	実績値	―	2,651	2,651				
	(京博)	実績値	―	6,547	6,562				
	(奈良博)	実績値	―	1,988	1,956				
	(九博)	実績値	―	1,309	1,344				
	(4館計)	実績値	―	12,495	12,513				
修理件数（本格修理）(件)	(東博)	実績値	―	44	53				
	(京博)	実績値	―	12	9				
	(奈良博)	実績値	―	7	3				
	(九博)	実績値	―	20	17				
	(4館計)	実績値	―	83	82				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
予算額（千円）	8,409,306				
決算額（千円）	7,988,353				
経常費用（千円）	6,756,725				
経常利益（千円）	205,937				
行政サービス実施コスト（千円）	―				
行政コスト（千円）	9,319,186				
従事人員数（人）	98				

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
修理のデータベース化件数(件)	(東博)	実績値	―	13	16				
	(京博)	実績値	―	137	124				
	(奈良博)	実績値	―	70	55				
	(3館計)	実績値	―	220	195				
平常展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	85	85.8	87.9				
	(京博)	実績値	81	78.5	82.1				
	(奈良博)	実績値	92	94.2	92.1				
	(九博)	実績値	76	-	81.0				
特別展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	86	85.5	91.0				
	(京博)	実績値	82	73.9	80.5				
	(奈良博)	実績値	89	91.1	93.3				
	(九博)	実績値	86	89.2	89.2				
博物館年間来館者数(人)	(東博)	実績値	―	375,575	836,720				
	(京博)	実績値	―	170,494	132,793				
	(奈良博)	実績値	―	122,452	253,196				
	(九博)	実績値	―	131,662	213,153				
	(4館計)	実績値	―	800,183	1,435,862				
平常展来館者数(人)	(東博)	実績値	―	166,639	211,052				
	(京博)	実績値	―	28,873	41,291				
	(奈良博)	実績値	―	43,262	52,178				
	(九博)	実績値	―	81,230	104,898				
	(4館計)	実績値	―	320,004	409,419				
特別展来館者数(人)	(東博)	実績値	―	208,936	625,668				
	(京博)	実績値	―	141,621	91,502				
	(奈良博)	実績値	―	79,190	201,018				
	(九博)	実績値	―	50,432	108,255				
	(4館計)	実績値	―	480,179	1,026,443				
観覧環境に関する来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	69	65.4	66.0				
	(京博)	実績値	64	74.5	67.9				
	(奈良博)	実績値	74	71.4	68.9				
	(九博)	実績値	68	-	81.1				
講演会等のアンケート満足度(%)	(東博)	実績値	88	-	84.85				
	(京博)	実績値	82	83.4	86.0				
	(奈良博)	実績値	89	90.4	92.0				
	(九博)	実績値	86	92.3	92.2				
講演会回数(回)	(東博)	実績値	―	19	39				
	(京博)	実績値	―	23	31				
	(奈良博)	実績値	―	12	27				
	(九博)	実績値	―	13	50				
	(4館計)	実績値	―	67	147				
ウェブサイトアクセス件数(件)	(本部)	実績値	298,703	302,279	409,102				
	(東博)	実績値	7,277,091	7,021,923	11,382,143				
	(京博)	実績値	4,386,804	3,480,100	3,514,043				
	(奈良博)	実績値	1,331,550	1,082,864	1,236,917				
	(九博)	実績値	1,670,014	824,819	977,605				
有形文化財の収集・保管・	(ぶんかつ)	実績値	―	2	2				
	(東博)	実績値	―	25	27				

展示等に係る調査研究件数(件)	(京博)	実績値	―	12	13					
	(奈良博)	実績値	―	15	15					
	(九博)	実績値	―	18	12					
	(4館計)	実績値	―	72	69					
文化財の貸与件数(件)	(東博)	実績値	―	806	990					
	(京博)	実績値	―	286	314					
	(奈良博)	実績値	―	107	252					
	(九博)	実績値	―	36	132					
	(4館計)	実績値	―	1,235	1,688					
国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況(件)	(東博)	実績値	―	78	98					
	(京博)	実績値	―	137	129					
	(奈良博)	実績値	―	50	68					
	(九博)	実績値	―	81	77					
	(4館計)	実績値	―	346	372					
コンテンツの開発及びモデル事業の推進状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	－	18					
国立博物館収蔵品貸与促進事業に関する取組状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	116	89					
ウェブサイトアクセス件数(件)	「e国宝」	実績値	516,808	215,337	650,197					
	「ColBase」	実績値	61,026	140,553	142,970					
文化財保存等の相談・助言・支援に関する取組状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	60	81					

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和3年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	以下の詳細からB評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 　中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 　自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** 展覧事業における来館者アンケート満足度調査の手法や分析方法など、館ごとで実施している事業のノウハウの共有を進め、より有効に博物館運営に反映していただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・所蔵品の購入、寄贈、寄託の実績は増加しており、自己評価は適切だと考える。 ・教育・普及活動等について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の制約の中、様々なイベントが行われていたと評価する。 ・昨年度からの経験を踏まえ、対面とオンライン型の両方のメリットを活かした事業展開を期待する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響下であっても、博物館活動に反映できる調査研究を着々と続けており、大いに評価できる取組であると思う。
（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 【指標】 ・有形文化財の収集に関する取組状況（収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） ・有形文化財の修理に関する取組状況（修理件数，修理のデータベース化件数） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館が購入する価値の高い有形文化財は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，中期目標の期間において，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	①有形文化財の収集等 **＜主要な業務実績＞** 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・所蔵品件数 131,771 件 3 年度新収品 338 件（うち購入 41 件、寄贈 254 件、編入 43 件） ※2 年度新収品 242 件 ・文化財購入費　1,101 百万円 ※2 年度 1,110 百万円（9 百万円減） ・寄託品件数 12,513 件 3 年度新規寄託 172 件、返却 154 件。 ※2 年度　12,495 件（18 件増） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集し、所蔵品件数は 2 年度 4 館合計 131,433 件のところ、3 年度は 131,771 件に増加した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 寄附金の活用や積立金により購入件数・質ともに高水準の実績を上げることができている。寄託品件数は、2 年度は 12,495 件のところ、3 年度は 12,513 件であった。寄託者との信頼関係の構築に尽力し、着実に新規寄託を受け入れている。	

○購入
・購入件数は 41 件（2 年度購入件数 69 件）であった。
・購入文化財のうち、「金剛力士立像」（東博）は、等身を超える大きさであり、東博を代表する仏像として展示、教育普及など様々な活用が期待できる。このほか、重要美術品「住吉真景図巻　岡田半江筆」（京博）、「吉野・龍山図屏風　英一蝶筆」（京博）、「水辺村童図　安山雪洲筆」（九博）など。

・彫刻購入品の「金剛力士立像」は、等身を超える大きさであり、天井が高く、広い当館の展示室での展示効果はきわめて大きい。修理記録映像も撮影しており、当館を代表する仏像として、展示、教育普及など様々な活用が期待できる。（東博）
・重要美術品「住吉真景図巻　岡田半江筆」、「吉野・龍田図屏風　英一蝶筆」、重要美術品「北野本地絵巻断簡」、「褐釉撫四方茶入　野々村仁清作」といった、京都に関わりが深く、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入することができた。（京博）
・3 年度も九博がテーマとして掲げる文化交流を視覚的に示すことができる作品を収集した。染織分野において、これまで九博で収蔵していなかった江戸時代の小袖を収集した。希少であるとともに展示効果も高い作品である。（九博）

○寄贈
・寄贈品である染織分野の「有職雛飾り」は皇室や宮家・財閥などに多くの雛飾りを納めた近現代を代表する人形の老舗の技術が最も優秀であった時期の作品であり、由来の明らかな点、保存状態も良好な点など当館での活用が大いに期待できる優品である。（東博）
・計 117 件の寄贈を受けた。後世において京都文化を伝えるのに重要な作品群を寄贈していただいた。（京博）
・3 年度は新たな寄贈を受けることができなかったが、作品の調査を引き続き行った。（奈良博）
・56 件の新規寄贈があった。書跡、陶磁の分野で、将来的に当館を代表する作品となりうるものを収蔵することができた。考古分野では、日本の出土品ばかりでなく、オホーツク文化や朝鮮半島など幅広い地域の作品を受贈した。（九博）

寄贈については、計 254 件もの受入があり、各館の所蔵品を補う受け入れができた。いずれも質量ともに充実しており、各館のコレクション及び展示・研究の核となるものである。

○寄託
・浅草寺からの寄託品である彫刻作品群は、平安時代から江戸、明治時代に至る様々な時代、様々な像種の作品でこれまで公開されることが少なかったことから、展示効果が大きく、活用が大いに期待される。（東博）
・新規寄託品件数 95 件を受け入れることができた（京博）
・彫刻部門で寄託品として受け入れた「木像普賢菩薩坐像」、「木造不動明王二童子像」の 2 件は、古写真類の調査により、かつて吉野山櫻本坊に伝来し、明治時代の神仏分離により吉野を離れたものであることが判明した。奈良ゆかりの作品であり、また文化財保護の歴史の観点からも高い展示効果が期待される。また妙法院所蔵「木像不動明王立像」も、なら仏像館での高い展示効果が期待される。（奈良博）
・書跡部門で寄託品として受け入れた「大恵度経宗要」は、鎌倉時代の著名な東大寺学僧、宗性の書写した仏教典籍として貴重である。宗性の自筆写本・関連資料は「東大寺少将筆聖教並抄六本」として東大寺に所蔵され、重要文化財に指定されているが、巷間に出たものも少なからず存在し、本品もその一例である。（奈良博）
・彫刻分野では、個人所蔵のパキスタン・ガンダーラ地方の石彫 19 件を受託した。古代アジアの仏教美術の展開を示す上で好適な作品であり、館蔵品の不足を補うものとして重要である。（九博）

寄託については、重要美術品「木造普賢菩薩坐像」（奈良博）など 172 件を新規に受け入れた。

寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係により、順調に寄贈寄託を受けることができた。博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。

＜課題と対応＞
今後も文化財の情報収取に努め、調査、研究を進めることにより、展示、研究に寄与する作品の購入等を行っていく。

・有形文化財は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。
・有形文化財に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画どおりに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，中期目標の期間において，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。
〈想定される外部要因〉
・有形文化財の修理等には，一定のまとまった予算措置が必要であり，その状況によって計画を変更せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。

②有形文化財の管理・保存・修理等
＜主要な業務実績＞
○有形文化財の管理
・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を実施した。
・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。
・所蔵品等に関し、新規のデジタル撮影、データ整備を推進した。（4 館）

・「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム protoDB）で更新されたデータを「ColBase」に自動的に反映する機能を継続して運用した。また protoDB に新たに「作品種別」の入力を追加するとともに、全ての機能についてユーザーログインを必須として、情報セキュリティの向上を図った。（東博）
・2 年度から引き続き収蔵品等（陶磁、金工、刀剣、漆工、考古、民族）の移転作業を継続し、3 年度分として計 10,119 件の移転が完了した。また、移転に伴い変更となった収蔵品等の所在情報について継続して確認し、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。（東博）
・中期計画の初年度として、収蔵品管理システムにおける課題及び改善点をまとめ、他施設のシステムを参考とするため情報収集をした。収集した情報をもとに、仕様書を策定し、システムリニューアルに取り掛かった。（京博）
・収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。（奈良博）
・収蔵庫内の保管スペースを確保するため、文化財保管用の棚を増設した。また、収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの位置調整及び機器の点検を実施した。当館は所蔵品以外にも借用品（約 1,400 件）、寄託品（約 1,300 件）など数多くの作品を管理している。元年度からの 3 年間計画となる収蔵品の実査（棚卸し）を継続し、全工程を完了した。（九博）

＜評定と根拠＞
・東京国立博物館では、収蔵庫の設備の充実のための作業、収蔵品等の確認作業を実施した。古写真資料等の編入はなかったが、館史資料に相当する資料が見つかり、それらを整理して、今後の活用に向けた道筋を作ることができた。本館で保管している収蔵品等の文化財管理棟への移動作業については、順調に進めることができた。

・京都国立博物館では、作品に応じた適切な保管に資するため、保管用資材を充実させ、保存環境の整備を進めるとともに、寄託品の所在確認を実施した。寄託者に安心して寄託していただける関係継続に尽力した。また、作品画像の充実化に努め、蓄積の基盤となるシステムのリニューアルに取りかかることができた。

・奈良国立博物館では、収蔵品情報の更新に積極的に取り組んでおり、収蔵品のデジタル写真撮影、既存フィルムのデジタル化とも着実に実施し、収蔵品の管理に必要なデータ整備という中期計画に向けて順調に推移している。

・九州国立博物館では、来館者による展示品の撮影可否情報を収蔵品データベースに明示し、確認できるようにしたことにより、撮影可否を確認する事務作業から展示室での表記まで、情報の共有をシームレスに行うことができた。特に、件数が多く入れ替えの頻度が高い借用品において、ヒューマンエラーの防止に大きく寄与した。

＜課題と対応＞
引き続き文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善、デジタルデータの蓄積等を進めていく。

○有形文化財の保存
・収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図った。また、収蔵品の保存カルテを作成した。（4 館）
・収蔵庫等 44 ヵ所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した収蔵庫 1 か所、修理室 5 か所に対して除塵防黴清掃を

＜評定と根拠＞
・東京国立博物館では、館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境に関する調査と、脆弱な文化財の輸送に関する調査研究を実施した。また、感染症拡大防止対策について修理施設の換気と環境維持の両立に関するデータをとりまとめた。

実施した。また、収蔵品を中心に保存カルテを 247 件作成した。（東博）
・5 か所の収蔵庫、修理室に対して各 7 種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。（東博）
・収蔵品の保存カルテを 191 件作成した。（京博）
・平成知新館の地震対策として、建物基礎部と床免震部に振動計 9 台を設置し、建物と床免震装置の振動調査を実施した。床免震装置が作動する震度 4 以上の揺れは無いが、得られたデータの解析から、一部の床免震部で展示替えに伴う可能性のある微動が検出されたため、より詳細な解析のためのデータ収集を継続している。（京博）
・無線式温湿度センサーで展示室や展示ケースについては 24 時間のモニタリングを実施した。取得蓄積した温湿度データから、展覧会ごとに情報を整理し、展示室内の環境管理、改善に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーでデータを収集し、環境の把握を行った。月に 1 度、デジタル温湿度計を用いてモニタリングと温湿度データの回収を行い、館内環境ワーキンググループでデータを共有して空調の調整に役立てた。（奈良博）
・展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを展示・収蔵環境の保全に活用できるようにした。また、粘着トラップを館内全域に設置し、毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握した。これにより、文化財害虫被害に早期に対応することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。（九博）

・京都国立博物館では、適切な展示・保管環境の保持の取組とともに、地震等への対策として、平成知新館の振動調査を開始し、床免震部と建物基礎部に分けてデータ収集を図ることができた。建造物が震度 2 以上の揺れを観測した場合、振動を記録する条件設定をしたが、3 年度での計測は幸いにもなかった。開館時における振動頻度や、来館者由来と考えられる振動等についても検討するため、設定条件の変更も検討していきたい。展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリング・空気質調査・昆虫類生息調査等の継続的な実施とデータ蓄積を行い、データ解析を基にして、他部署との連携を図りながら適切な展示・保管環境維持に迅速な対応ができた。

・奈良国立博物館では、継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行い、調査で得られた結果を蓄積するだけでなく、分かり易いデータ解析結果の表現を模索しつつ円滑な監視体制の整備を行い、保存環境の維持や向上を進めた。なら仏像館についてもデータロガーの形式を新しくして、館全体での展示保存環境の保持と改善を図った。

・九州国立博物館では、IPM の徹底を図るため、館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータを連続的・継続的に蓄積した。また、取得したデータに基づいて環境の改善に取り組むことができ、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。

＜課題と対応＞
引き続き収蔵庫、展示会場の保存環境に関わるデータ収集を継続し、調査分析をすることにより、適切な保存・展示環境を保持していく。

○有形文化財の修理
4 館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行った。

・修理件数（本格修理）　82 件
・修理のデータベース化件数　195 件

詳細はアウトプット情報を参照。
・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。(4 館)

・保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために 219 件の応急修理に着手し、53 件の本格修理を実施した。また、修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 627 件の作品に関して修理の検討を行い、中長期的修理計画策定を進め、4 件の国宝・重要文化財の本格

＜評定と根拠＞
当機構では、緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の機器の活用を 4 館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、運営費が限られる中、寄附金や助成金を活用しており、3 年度合計 82 件となった。
また、修理のデータベース化についても、収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバの更新等各種整備を継続して実施することができ、修理のデータベース化件数は 3 年度合計 195 件となった。
文化財保存修理所等については、京博、奈良博及び九博では各工房と協議会を開催するなど運営や課題の共有を図った。奈良博では、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とするため特集展示を実施した。

修理を実施した。（東博）
・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12 世紀）は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施・完了した。重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・絣絲、元～明時代・14 世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施・完了した。重要文化財「小袖白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18 世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄附金により修理を実施した（2 年 1 月着工、工期 24 か月）。重要文化財「月次風俗図屏風」（紙本着色、室町時代・16 世紀）は本格修理費により修理を実施・完了した。（東博）

・館蔵品中、緊急性の高い、絵画 4 件、彫刻 1 件、書跡 1 件、金工 3 件の本格修理及び応急修理を行った。特に懸案であった「重要文化財　紙本墨画雪裡三友図」の本格修理に着手することができた。「重要文化財　芦雁図伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の 4 か年計画の 2 年目の修理を継続して行った。（京博）
・非破壊的な材料調査では、各工房の調査依頼を受け入れ、絵画資料の材料調査を主に実施した。X 線を使用した顔料調査では、絹本の作品において、表・裏彩色ともに調査する事例が増加するとともに、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。また、これらのデータを修理及び復元事業に活用することができた。継続的に絵画資料の染料・顔料材料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を図った。（京博）

・『絹本著色十二天像』の修理について、3 年度は表補絹、表打ちを行うことで画面を保護した後に、旧肌裏紙の除去、旧補紙、旧補絹の除去を行い、一部については電子線劣化絹を用いて欠失分を補った。（奈良博）
・2 年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第 4 号を刊行した。彫刻の材質調査や銘文集成などを掲載して、修理実績や内容を広く伝えることができた。（奈良博）
・4 年 3 月 1 日から 4 年 3 月 27 日まで、当館西新館第 1 室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。これまでに文化財保存修理所各工房などで修理が完了した 10 件の当館収蔵品・寄託品と修理解説パネルを使ってマスコミ媒体と広く連携して、文化財修理活動を広く一般に理解してもらう機会とした。（奈良博）

・館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、優先順位の高い文化財 17 件について本格修理を実施した。また、損傷が軽微な文化財 6 件について応急修理を実施した。重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財 10 件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用して紙質調査を行い、補修紙作成に役立てるとともに、作品の新たな学術情報として記録した。（九博）

・東京国立博物館では、緊急性の高い応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、3 年度は新型コロナウイルスの感染拡大による自己収入減の影響により新規の本格修理を外注することができなかった。一方で、機構内（館内）で実施することができる正倉院裂 186 点の修理計画を立て、そのうち 25 点の本格修理に着手することができた。

・京都国立博物館では、文化財保存修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、内部構造や使用材料等の調査を行った。年度計画にある彩色材料等の分析事例の集積とともに、文化財の技術の解明にも有効なデータを得ることができた。
また、2 年度に続き新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催という形になったが予定どおり開催し、委員からの意見を運営の参考とした。
修理者協議会は感染症対策を実施の上、予定どおり開催し、特に新型コロナウイルスの影響下における環境について意見交換を行うことができた。

・奈良国立博物館では、継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、予定どおり進行した。文化財保存修理所運営委員会を 4 年 3 月 11 日に対面とリモートを併用したハイブリット形式で行い、所内 3 工房代表者とは 9 月 22 日と 4 年 3 月 3 日に協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び作業環境、保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財防災センターと連携して文化財被災時への助言について、修理技術者と意見交換を行った。

・九州国立博物館では、本格修理は以前より大型化する傾向にあり、2 年度以前に比べると件数は減少傾向にあるが、年度計画を念頭に、作品の状態に合わせて本格修理や応急修理を適切に行うことができた。また、新型コロナウイルス対策の指針を順守しながら、文化財保存修復施設を積極的に活用した。これにより、文化財の保存修理を適切に行うこ

	・当館文化財保存修復施設にて館経費による本格修理 14 件及び所有者等負担による修理 37 件、合計 51 件の修理事業を実施した。その他、館外で館経費による 3 件の修理事業を実施した。文化財保存修復施設で本格修理した文化財 51 件中 48 件、9 割強が九州山口地区所在文化財となっており、九州山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積している。修理文化財の中には、熊本県の球磨川水害による被災文化財が含まれている。（九博）	とができ、九州山口地区における文化財修理の拠点として、着実に成果を上げることができた。 **＜課題と対応＞** 文化財を活用するには修理事業が極めて重要である。今後も伝統的な修理技術に加え科学的な保存技術の成果を取り入れながら、事前調査、応急修理、本格修理と各段階で計画的に修理を実施していく。	
（２）展覧事業 【指標】 ・平常展及び特別展の来館者アンケート満足度（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） 【関連指標】 ・平常展及び特別展の来館者数 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度については５段階評価で上位２位以上を選択した割合とする。 ・平常展は，国立博物館が収蔵等する有形文化財の特徴に基づく展示を行うこととし，特別展の企画は，国立博物館が継続的に行っている調査研究の成果や，諸外国との国際文化交流の計画に関係しており，定性的又は定量的な指標を示すことが困難であるため，中期目標の期間において，来館者数に関する目標は，モニタリングすることとする。 〈想定される外部要因〉 ・展覧会については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。また，新型コロナウイルス感染症等による影響など，これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	**＜主要な業務実績＞** ・博物館の年間総来館者数 3 年度合計 1,435,862 人 ※2 年度 800,183 人（約 79%増） 内訳はアウトプット情報を参照 ①平常展 ・平常展の来館者アンケート満足度 東京国立博物館　87.9%（目標値 85%） 京都国立博物館　82.1%（目標値 81%） 奈良国立博物館　92.1%（目標値 92%） 九州国立博物館　81.0%（目標値 76%） ・平常展来館者数　409,419 人 ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（4 館） ・満足度調査等を実施し、集計結果をもとに環境改善に努めた。 ・ほぼ計画どおりの平常展を展開し、来館者からは概ね好評であった。東京都の要請による臨時休館（4 月 25 日～5 月 31 日）の影響を受けた特集展示は会期を延長するなど、臨機応変に対応することができた。（東博） ・日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館 4 室「茶の美術」と 9 室「能と歌舞」にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を引き続き上映した。また、文化財活用センターと共同で、本館特別 3 室に日本美術に親しむための体験型展示「日本美術のとびら」を 6 月より開室した。また本館 14 室にデジタルサイネージを設置し、特集展示のタイトルや内容を掲示できるようにした。（東博） ・新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では、新春恒例の干支にちなんだ展示として、日本や東アジアの様々な虎をモチーフとした作品を展示した。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。（京博） ・なら仏像館における名品展では、常時 90 件以上の仏像	**＜評定と根拠＞** 当機構博物館の 3 年度の年間総来館者数は、合計 1,435,862 人で、2 年度合計 800,183 人より約 79%増加した。各館においては、新型コロナウイルス感染拡大による臨時閉館や外出制限などの影響があった中で、質の高い展示等を数多く実施し、来館者満足度は概ね高く、また多言語化を引き続き行うことにより、外国人来館者を含む来館者のニーズに応えた対応をしている。 （平常展） 各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行った。 ・平常展来館者のアンケート満足度については、目標値を上回っており、各館ともに細やかなサービスや改善を実施することにより、高い水準を維持し、着実に成果をあげた。 ・平常展の展示替については、全体的な計画の元で適切に行った。また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し、平常展の充実に努めた。 ・平常展来館者数については、4 館合計で 2 年度 320,004 人のところ、3 年度は 409,419 人と増加したものの、各館ともまだ新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている状況である。 そうした中で東京国立博物館では計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができたこと、これまでにないテーマの特別企画を実施して若い世代の集客につなげることができたことは大きな成果であった。またトーハク新時代プランに基づく映像コンテンツの設置も引き続き実行できており、来館者の日本文化と展示への理解促進に努めた。 京都国立博物館では、新春特集展示「寅づくし」において、当館公式キャラクターのトラりんの元となった「竹虎図」を展示し、積極的な広報につなげた。 奈良国立博物館では、なら仏像館において例年とほぼ同じ件数の展示替を行ったほか、新知見の積極的な公表に努めるなど、来館を促す取組みを行った。 九州国立博物館では、計画に従って多彩な特集展示	

	を公開した。特別公開として、当館の文化財保存修理所における修理が完了した奈良県野迫川村の高福寺所蔵の薬師如来坐像と、石川県白山市尾添区所蔵の阿弥陀如来立像を公開した。また、新たに個人から寄託を受けた吉野山伝来の仏像を調査の成果と共に公開した。併せて、主要な作品に子供向けの解説パネルを設置した。（奈良博） ・特集展示「没後 350 年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」では、江戸時代前期に 6 年ほど日本に滞在し、黄檗宗の仏像の造像などで活躍した中国人仏師・范道生の足跡に光を当てた。作品の魅力を最大限に引き出した会場入り口の造作など、演出にも力を入れた。図録も刊行した。（九博） ・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝 3 点（「刀掛」、「寄掛」、「掛硯箱」）を展示した。あわせて、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も合わせて紹介した。（九博） ②特別展 ・特別展来館者アンケート満足度 東京国立博物館　91.0%（目標値 86%） 京都国立博物館　80.5%（目標値 82%） 奈良国立博物館　93.3%（目標値 89%） 九州国立博物館　89.2%（目標値 86%） ・特別展来館者数　1,026,443 人 ・特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」は国宝「鳥獣戯画」の全四巻全場面を会期中場面替えなしで公開するとともに、断簡、模本も交え、今日確認される「鳥獣戯画のすべて」を一堂に会した史上初の画期的な展観となった。あわせて「明恵上人坐像」は 28 年ぶりの寺外公開となり、借用に際しては CT による調査などを実施することができた。絵巻作品の画期的な鑑賞方法として「鳥獣戯画」甲巻の前に「動く歩道」を設置した。作品件数 41 件（うち国宝 7 件、重要文化財 14 件）来館者数 129,349 人、満足度　94.1%（東博） ・特別展「ポンペイ」では、ナポリ国立考古学博物館の館蔵品を中心とした床モザイク、壁画、彫像、工芸品の傑作から、豪華な食器、調理具といった日用品にいたるまで、様々な名品を厳選し展示した。密集を避けるために広い空間をとる必要があったが、その空間に遺跡の再現展示に用いる工夫も行うことができ、コロナ禍における展覧会の在り方としても大変意義のある試みができた。作品件数 155 件、来館者数　197,700 人、満足度 90.3%（東博） ・2 年度夏に文化庁主催のもと、京都市京セラ美術館において計画されていながら新型コロナウイルス蔓延のため中止となった同名の展覧会を、急遽、当館で大幅に再	を行ったほか、年齢層の違いや障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる展示の構築に努めた。 **＜課題と対応＞** 3 年度は、収蔵品等とその研究成果を公開する意欲的な特集を計画的に実施するなど、着実に事業を実施した。また、各館とも多言語解説や映像展示、子供向けにはワークシートを作成するなどわかりやすい展示を推進している。引き続き、感染拡大防止策を講じながら、魅力的な展示の公開の充実を図る。 **＜評定と根拠＞** （特別展） ・東京国立博物館の特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期途中で展覧会の一時中止などもあったが、来館者数は目標値を超えた。特に新型コロナウイルス感染拡大防止及び混雑対策として鳥獣戯画甲巻を鑑賞するために「動く歩道」という画期的な鑑賞方法を導入した。そのために大きな混乱はなく、来館者の満足度も非常に高かった。 ・京都国立博物館では他館で 2 年度に予定されていた展覧会の中止を受け、新たに仕立て直した「京の国宝」展を急遽開催し、中期計画では「年 1～2 回程	

	構成し実施した展覧会。京都ゆかりの多数の国宝指定品、及び文化財保護に関する様々な歴史資料をあわせて展示し、文化財の持つ不滅の魅力とその保護のために欠かせない様々な営みについて紹介した。多数の文化財を擁し、その保護が喫緊の課題であった京都という土地柄と我が国の文化財指定のあゆみにおける京都の働き、京都文化を今に伝える国宝指定品の数々、京都にゆかり深い皇室所蔵の文化財の名品及び皇室と文化財保護の関わり、今日の文化財保護において必要な調査研究、災害や防犯対策、保存修理や模造事業について総合的に紹介した。作品件数 120 件（うち国宝 72 件、重要文化財 8 件、重要美術品 1 件）来館者数 37,065 人、満足度 88.5%（京博） ・特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」は、奈良国立博物館の館蔵品の中から選りすぐった彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の優品 246 件によって、日本仏教美術 1,400 年の歴史をたどる展覧会である。全 10 章で構成され、古代から近世に至る日本仏教美術の流れを概観。第 10 章では時代やジャンルも広範囲に及ぶ奈良博コレクションの魅力を紹介した。展示を部門別に分けるのではなく、仏教美術の歴史の流れに沿うようにジャンルの垣根を取り払って各作品を配置した。更に各章のテーマの中で作品相互の有機的な関係が観覧者に対して視覚的に分かりやすく伝わるよう、展示台・壁紙・題箋・パネル・バナー等の配色を各章ごとに統一する工夫を凝らした。作品件数 246 件（うち国宝 13 件、重要文化財 100 件）来館者数 34,659 人、満足度 96.8%（奈良博） ・特別展「第 73 回正倉院展」では、正倉院宝物約 9,000 件の中から 55 件が出陳された。3 年度も、楽器・調度品・仏具・染織品・文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる構成となったが、二十数年ぶりの出陳となる正倉院の代表的な楽器や、まとまった点数の筆など、展示の目玉となる宝物も多数出陳された。正倉院宝物の内容をわかりやすくたどれるようテーマ別に宝物を展示し、作品解説のみならず、研究成果を紹介するパネルも充実させて、見て楽しい、学ぶ場としての会場づくりを意識した。来館者数 73,968 人、満足度 92.0%（奈良博） ・特別展「皇室の名宝」は、令和ゆかりの地である太宰府において、宮内庁三の丸尚蔵館が収蔵する名宝を展覧した。本展では、元寇襲来の事績を描いた「蒙古襲来絵詞」をはじめ、近代国家としての日本の歩みを支えた、九州出身の偉人ゆかりの書画、天皇御即位や御成婚をはじめとする御慶事に際して九州各地から献上された品々を通して、皇室と九州の深いつながりを紹介した。なお本展は、九州の地で皇室コレクションを本格的に紹介する初めての展覧会となった。また、宮内庁三の丸尚蔵館の協力を得て、対馬伝来の仏像についての科学調査を行い、共同で研究を行うことで作品研究を深め	度」を目標値として設定している特別展を 3 回開催したことは特筆すべき成果であると自負している。 ・奈良国立博物館の特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」は、館蔵品のみで日本仏教美術の歴史を概観するという重厚な内容だったが、公式キャラクターを活用したジュニアガイド・題箋パネル・音声ガイドの展開、全作品撮影可とする等の取り組みを通じて広い客層から非常に高い満足度を得た。 ・九州国立博物館での特別展「皇室の名宝」では、新たに指定された国宝 4 件を紹介すると共に、九州初公開の名品も多く、御物・聖徳太子二王子像、御物・法華義疏を特別に公開する機会を得て、展覧会への関心は高く、来館者の満足度も高かった。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、臨時閉館となったことや、作品の調査や輸送に困難が生じたことなどにより、特別企画が 1 件中止となった。今後も質の高い企画を維持しつつ、入館方法、会場	

	た。来館者数 43,197 人、満足度 91.7%（九博） ③観覧環境の向上 ・観覧環境に関する来館者アンケート満足度 東京国立博物館　66.0%（目標値 69%） 京都国立博物館　67.9%（目標値 64%） 奈良国立博物館　68.9%（目標値 74%） 九州国立博物館　81.1%（目標値 68%） ・施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。(4 館) ・日本博物館協会ガイドラインに従い、新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、館内の消毒や換気の実施、従業員の健康管理及び手指消毒並びにマスク着用などの基本的な対策を徹底した。(4 館) ・多言語による案内パンフレットの配布を行った。(4 館) ・平常展の題箋及び解説等について、4 言語(日、英、中、韓)にて情報提供を行った。(4 館) ・文化財活用センターと共同で、本館特別 3 室に日本美術に親しむための高精細複製品や非接触体験展示を楽しめる「日本美術のとびら」を 6 月より開室した。また、親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化リターンズ」として、レプリカやデジタルコンテンツを活用した体験型展示を行った。恒常的に同コンテンツを含む日本文化体験が行える参加型展示室を整備し、「日本文化のひろば」として、4 年 1 月に開室した。(東博) ・日英中韓の 4 言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase との連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新されている。インタラクティヴコンテンツの提供及び展示室内に設置したビーコンとシステムの連動などにより、解説をスムーズに提供し、作品への理解促進を図った。Google Analytics のデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積も継続した。総合文化展関連の季節のイベントに合わせアプリ内のデジタルスタンプラリーを活用する、展示室で配布するワークシートに QR コードを掲載しアプリダウンロードへ誘導するなど、活用促進を図った。(東博) ・特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」や特別展「ポンペイ」等において、臨時開館や夜間開館を行うなど、開館時間を柔軟に設定した。(東博) ・今まで春と秋の期間限定開放であった庭園について、大規模リニューアルを実施し、3 年度より庭園全体の通年開放を始めた。(東博) ・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」の題箋にユニバーサルデザインフォントを採用し、特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」でも	構成を含め来館者が快適に観覧できる展覧会となるよう検討を続ける。 **＜評定と根拠＞** ・東京国立博物館では、トーハク新時代プランに基づく、館内のデジタルサイネージや誘導サイン、展示解説の整備や新たな展示室の開室など、計画どおりに事業を実施できた。 レストランに対する満足度は、2 年度同様に低い結果となったが、2 月中旬からは、東洋館のレストランのメニューをコロナ禍前と同等の品数に増やし、3 月中旬以降の週末を中心にレストラン前のスペースでカフェの営業を開始するなど改善を行った。ミュージアムショップについては新商品の積極的な開発などもあり、高い満足度となった。また、館内スタッフの対応についても 2 年度を超える満足度とすることができた。 ・京都国立博物館では、年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化等を行い、特別展の題箋フォントのユニバーサルデザイン化を実施したことで、より	

	引き続きユニバーサルデザインフォントを使用した。（京博） ・スマートフォンアプリを活用した体験学習型コンテンツ開発の一環として、Wi-Fi 環境についての情報発信を行うため、「Wi-Fi マーク」を付与した屋外展示物の解説パネルへのリニューアルを実施した。（京博） ・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、2 年度に引き続き開館時間を 30 分前倒しする早朝開館を実施した。また新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では金・土曜日の開館時間を 20 時までとする夜間開館を実施した。（京博） ・収蔵品及び「トラりん」をモチーフに、京都の伝統工芸や、SDGs の観点から地産地消・脱プラ・福祉・フェアトレード系素材を使うことなどを考慮しつつ、オリジナルグッズの開発に向け検討を行った。（京博） ・特別展「聖徳太子と法隆寺」、特別展「奈良博三昧」、「第 73 回正倉院展」、及び特別展「国宝 聖林寺十一面観音」では、有料の音声ガイドスクリプトを準備し、耳の不自由な来館者にも音声ガイドと同じ内容を楽しんでもらえるよう工夫した。なお、すべての展覧会で貸出実績があった。（奈良博） ・総合案内カウンターに外国語（英語、中国語）対応ができるスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実に（奈良博） ・館内の茶室「八窓庵」及び日本庭園について、バリアフリー化を含めた改修のための資金を募るため、クラウドファンディングを行い、554 名から 10,625,380 円の寄附を得た。それにより、庭園を快適な環境で公開するための改修準備を進めることができた。（奈良博） ・レストランでは特別展にちなんだ限定メニューを提供し、利用者へのサービス向上に努めた。（奈良博） ・特集展示「古代ガラスの世界」におけるパネル類及び題箋、特集展示「手わざ」における題箋について UD フォントを使用し視認性を高めた。また、小企画「ならべてわかる本物のひみつ」においてもパネル類及び題箋に UD フォントを用いたほか、点字解説及びチラシを作製した。（九博） ・特集展示「范道生」及び特集展示「古代ガラスの世界」において、ボックス状の解説台を設置し、解説や年表など、副次的な情報の掲出に努めた。また、特集展示「手わざ」において、映像やプロジェクションマッピングを使用して情報を提供し、理解の促進に努めた。（九博） ・文化交流展（平常展）において 4 言語（日、英、中、韓）の音声ガイドによる情報提供を行った。文化交流展では、4 年 4 月より既存音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含めて誰でも利用できる新ガイドシステムを導入する計画である。3 年度はこの新ガイドシステム実用化に向け、新システムの構築と解説原稿の作製を進めた。（九博） ・2 年度に引き続き、レストランとカフェの休店が続いて	多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。また、早朝開館や夜間開館の実施、事前予約優先制の導入により、柔軟な開館時間の設定や混雑時対応を実施することができた。 ・奈良国立博物館では、音声ガイドスクリプトの提供及び題箋、看板等の多言語化や、SNS を活用した PR を実施することで、あらゆる立場の来館者に博物館を楽しんでもらえるよう努めた。また、茶室及び日本庭園の改修を実施するため、当館として初めてクラウドファンディングを導入し、外部資金を獲得したことは、高く評価できる点である。 ・九州国立博物館では、題箋に UD フォントを用いたり、点字つきチラシを配布したりする等の館内における UD 化の取り組みを継続できている。さらには、音声ガイドに代わる新ガイドシステム実用化に向けた具体的な検討も進んでいる。また、レストランの営業再開に向け、耐用年数が経過している設備等の改修に必要な予算措置をするとともに、休店中の来館者へのサービス向上のため、4 年度からのキッチンカー導入手続きを行った。 **＜課題と対応＞** ・今後も高齢者・障がい者・外国人・乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行うための整備を推進していく。	

	いるが、3 年度はレストランの営業再開に向け、設備の改修に必要な予算措置をした。また、レストランの営業再開までの間、来館者サービスの向上を目的とし、キッチンカーの導入準備を行った。キッチンカーは 4 年度より導入予定である。（九博）		
（3）教育・普及活動等 【指標】 ・講演会等のアンケート（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） ・ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の開催回数 〈目標水準の考え方〉 ・講演会等は，平常展及び特別展の内容に応じて企画するが，「新しい生活様式」にも配慮した講演会等の開催が必要であることから，中期目標の期間において，開催回数に関する目標は，モニタリングすることとする。	**＜主要な業務実績＞** ・講演会の満足度アンケート満足度 東京国立博物館　84.85%（目標値 88%） 京都国立博物館　86.00%（目標値 82%） 奈良国立博物館　92.00%（目標値 89%） 九州国立博物館　92.20%（目標値 86%） ・講演会開催回数 東京国立博物館　39 回 京都国立博物館　31 回 奈良国立博物館　27 回 九州国立博物館　50 回 ・ウェブサイトのアクセス件数 機構本部　409,102 件（目標値　298,703 件） 東京国立博物館　11,382,143 件（目標値 7,277,091 件） 京都国立博物館　3,514,043 件（目標値 4,386,804 件） 奈良国立博物館　1,236,917 件（目標値 1,331,550 件） 九州国立博物館　977,605 件（目標値 1,670,014 件） ・特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ガイドツアー、体験型プログラムなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。（4 館） ・保存修理事業者等を対象とした研修会を実施した（オンライン含む）（4 館） ・友の会・パスポート会員等の加入を促進した。（4 館） 内訳はアウトプット情報を参照 ①教育活動の充実等 ○学習機会の提供 ・新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートーク等、YouTube を利用したオンラインによる動画配信を実施した。また、4 月には大講堂での連続講演会を実施し、7 月以降は大講堂にて対面での月例講演会を再開した。東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートークは、Microsoft Teams を利用したオンラインによるスライドトークの形式で実施した。いずれもオンラインによる応募方法、座席数や座席間の距離、換気や除菌対策等、新型コロナウイルスの感染予防と拡大を十分に考慮して実施した。 ・本館地下みどりのライオンでは配信用の動画撮影、zoom ワークショップ実施等オンライン発信事業を行った。また、恒常的に日本文化体験が行える参加型展示を本館特別 4 室に整備し、「日本文化のひろば」として 4 年 1 月に通年開室を開始した。（東博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを各館で提供した。 各館積極的なオンライン化の試みを実施しており、遠隔地の視聴者へ対象者を広げ、将来につながる機会を作ることができている。 企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。 ・東京国立博物館では、新型コロナウイルス感染拡大のため対面プログラムが中止となったが、オンラインプログラムや動画配信など新たな試みを行った。体験型展示も感染対策を万全にする、あるいは関連企画をオンライン配信にするなどして順調に開催できた。また、実施予定であったプログラムをオンライン配信動画に変更することで、コンテンツ内容や実施方法などを研究する機会ともなり、より広い範囲の利用者に届けることができた。 ボランティア活動は、新型コロナウイルスの影響により休止しているガイドツアー再開に向け、段階的に準備し、野外でのガイドツアーの一部は来館者向けツアーの再開、一部は練習を重ね、再開が見込まれるところまで到達できた。 一方でガイド休止中のグループは、ウェブ新聞などの新たな試みを実施した。また、オンラインによる機器利用等の研修を、2 年度に引き続き実施した。 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業	

		・対面によるスクールプログラムは引き続き休止し、事前視聴動画の提供、ガイドアプリ「学校版トーハクなび」タブレット端末の貸出、zoomによるオンラインプログラムを行った。（東博） ・訪日外国人をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」として実施した。外国人来館者などに人気の高い4つのジャンルをテーマに設定し、「浮世絵」では版画の摺り工程の展示やスタンプによる重ね摺りの体験、「よろい」では模古的に作った甲冑の展示や、それを利用した着付け体験・着付けデモ・ハンズオン、「きもの」では着物の様々な模様をモチーフとして制作したオリジナルぬり絵の体験、「漆工芸」では国宝八橋蒔絵硯箱を主題とし、デジタル技術を駆使したコンテンツ構築により、オリジナルの文様をデジタル空間でデザインし画面上にアーカイブして鑑賞し、ペーパークラフトにダウンロードするなどインタラクティブな体験の機会を提供した。会場では点字によるリーフレットの配布、触察ボードの設置、多言語での解説などを実施し、多様な来館者への配慮を行った。（東博） ・外で行うボランティアガイドツアーのグループは、再開の準備を段階的に実施した。2グループが来館者向けツアーを再開、2グループがボランティア対象の練習を重ね、4年度の再開を予定している。また、展示室内のガイドツアーがコロナ禍のために休止中のグループは、トーハクウェブサイト上「みどりのライオンオンライン」でダウンロードできるウェブ新聞の作成と公開のほか、対面やオンラインを使用した勉強会を実施した。（東博） ・東京藝術大学大学院インターンシップを3名受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常対面で行うガイダンス・検討会・リハーサル及びギャラリートークを、すべてオンラインで実施した。（東博） ・会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を行った。（東博） ・みずほプレミアムクラブ会員やJTBステージ会員向けにオンラインイベントを企画・生配信し、認知度向上に努めた。（東博）	を行う予定であったが、2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、活動が大幅に制限された。しかし、その中でもオンラインやリアルとオンラインを併用するなど、「新しい生活様式」に対応した連携事業のあり方を模索して実施できた。 こうした新しい手法も加味しつつ、感染収束後を見据えた事業展開を図る。 会員制度は、特別展の内容が大きく左右し、特別展鑑賞をメインの特典としたメンバーズプレミアムパスを廃止したことや、新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし、企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めることができた。また、改正を行った会員制度について新たにリーフレット等を作成し、新制度の普及に努めた。	
		・「記念講演会」（14回・1,106人）、「土曜講座」（12回・583人）、「夏期講座（日本人と自然Ⅲ）」（1回・73人）、「社会科教員のための向上講座」（1回・34人）を実施した。（京博） ・「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開の一環として、「今日から君も狛犬博士」「おひなさまのヒミツ」（YouTube京博チャンネル）の動画（日英中韓計8本）をウェブサイトにて公開した。また、教育プログラムの展開の一環として、ウェブサイト「京博ものがたり」（日英中韓）を公開した。（京博）	・京都国立博物館では、新型コロナウイルスの影響により、2年度から引き続き講演会等は定員を例年の半数に減らして実施しており、参加者は減少している。 対話や接触を伴うワークショップやミュージアム・カートも中止しているが、それらに代わり、印刷物を充実させ、動画の作成・公開を行うことで、来館者だけでなく、オンラインでの利用者にも学習機会を提供することができ、アンケート満足度も86%となった。 文化財ソムリエについては、学校からの要望に基づ	

		・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（20名）に対して、当館研究員がスクーリング18回を実施した。（京博） ・キャンパスメンバーズへの入会の新規勧誘を行うと同時に、加入大学等（32校）との連携を継続して行った。加入校の学生による部活動のファッションショーの撮影利用、加入校の教職員によるコンサートの施設利用等に対して、加入特典の割引価格で施設を貸し出した。（京博） ・清風会の新しい加入者を増やす取り組みとしてキャンパスメンバーズ向けにチラシを作成し、加入の呼びかけを行った。（京博） ・2年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。（京博）	き、感染症対策を徹底したうえで活動を行った。 キャンパスメンバーズについては、加入校の学生・教職員に対する特典の提供等を行い、大学等との連携を継続して実施した。 清風会との間では緊密な連携をとりつつ新規会員を募集するための新しい広報の取り組みも行っており、コロナ禍にもかかわらず総会員数が増加した。	
		・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計805人の参加があり、アンケート結果で平均満足度90%を得た。公開講座は5つの特別展及び1つの特別陳列の会期中に13回実施。計1,060人の参加があり、平均満足度93%を得た。（奈良博） ・YouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の模様を公開し、計9,421回の視聴があった。（奈良博） ・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして、親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、756回の再生回数があった。（奈良博） ・3年度は、「ならはくボランティア」として計147人のボランティアを登録し、春より活動を開始した。ボランティア全員がオンライン上で連絡交換できる体制を整えた。ウェブ会議アプリを利用する、あるいは動画配信形式にて研修を実施するほか、クラウドシステムを活用して連絡をとるなど、円滑的なコミュニケーション手段を構築することができた。（奈良博） ・4年1月～2月にかけて、大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、学校オンライン中継授業を実施した。なら仏像館と各小学校をオンラインで繋ぎ、ボランティアや教育室職員がなら仏像館の展示作品を案内した。（奈良博） ・各展覧会（聖徳太子と法隆寺、奈良博三昧、藤田美術館展、聖林寺展）において、キャンパスメンバーズ校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を実施し、それぞれ53名、51名、28名、59名の参加があった。（奈良博）	・奈良国立博物館では、新型コロナウイルス対策として定員を半分以下とする措置の継続により、参加者数は平均70名という水準で推移した。 しかし、検温・消毒等の徹底や、講座の事前ウェブ申込システムの運用により、各回とも大きなトラブルもなく安全に実施することができ、アンケートにみる満足度は極めて高かった。 さらにYouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の動画を公開し、計9,421回という多く聴講の機会を提供できた。 ボランティア活動では、3年度より147人のボランティアを登録し、活動を開始することができた。また、オンライン形式による連絡・学習方法を構築し、各種連絡や研修を円滑に実施できたことから、ボランティアの資質向上を図るという目的は達成できたといえる。更に、大分県内の小中学校や、奈良市立小学校などの学校を対象としたオンライン中継授業をボランティアの活動として計16回実施するなど、ボランティア活動をより充実させることができた。 2年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。 また、キャンパスメンバーズ校の学生及び教職員を対象にした特別鑑賞会を実施し、参加者の高い満足度が伺えた。	
		・2年度に引き続き、持ち帰りキット「おうちdeあじっぱ」を追加制作した。（追加：5種類、合計20種類） また、「きゅーはくの絵本」読み聞かせ動画を3本制作しインターネットで視聴できるようにした。 ・新型コロナウイルスの影響で外出を控える人が多いことから、自宅にいながら博物館体験できるウェブコン	・九州国立博物館では、講座・講演会のアンケート調査は4年2月からの実施となったが、アンケートが実施できた講演会の平均満足度は92.2%と好評であった。 2年度の経験を生かして持ち帰りキットや学校貸出キットを提供した。また、移動博物館車「きゅーはく号」を活用することにより、幅広い層に向けて体	

		テンツ「おうち de きゅーはく」を 2 コンテンツ新規制作し、総計 17 コンテンツを公開した。 ・自宅で楽しめるコンテンツ第 2 弾として、映像や画像などの視覚情報ではなく、声や音で当館の魅力を伝えるラジオ形式のウェブコンテンツ「ラジオ de きゅーはく」をウェブサイトに掲載。普段あまり紹介されることがない博物館の様々な仕事や人、博物館周りの環境などを紹介した。在宅時間が増える中、「ながら聴き」する人をターゲットとした。リスナーからお便りを募集し、番組内で質問に答えるなど、双方向のコンテンツとした。（掲載数：12 コンテンツ）（九博） ・学校貸出キット「きゅうばっく」は 49 件・55 パックを貸し出し、4,036 人の児童生徒が体験した。（九博） ・視覚障がい者向け文化交流展示室案内を福祉団体や特別支援学級、個人来館者に配布した。また、2 年度に実施した手話通訳付きオンラインバックヤードツアーの参加者の紹介で、静岡県聴覚障害者協会青年部と共催で手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを行った。青年部事務局も参加者もともに当事者であったため、直接当事者の意見を取り入れることができ、当館にとっても大変有意義な経験となった。4 年度も手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを実施する予定である。（九博） ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12 月までボランティア活動を休止としていたが、感染状況が落ち着き、活動再開へ向けた準備も整ったことで 4 年 1 月より段階的に活動を再開した。また再開するにあたり、「ボランティア活動説明会」を開催し、今後の運営方針や活動方法について説明した。（九博） ・大手百貨店と連携してコラボレーション商品を作成し、博物館の認知度向上に努めた。（九博）	験型コンテンツを提供することができた。リモート授業や 11 月から再開した学校教育活動支援事業では、児童生徒に博物館の魅力を紹介することができた。 約 1 年半に及んだ活動休止を経て再開したボランティア活動であったが、まずは活動内容の確認や新しい活動様式の周知から始まった。ボランティア活動が、来館者やボランティアにとって安心できるものとなるよう、今後も活動内容及びその環境を整備していく。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、3 年度も講演会、各種プログラムなど対面での実施は制限された一方で、各館オンラインでの配信を積極的に実施し、来館できない新たな層の開拓につながった。今後も、オンラインや対面などを併用し、効果的な学習機会の提供を実施する。	
	・国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵する有形文化財に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 **＜主要な業務実績＞** ・年間スケジュールリーフレットの制作・配布（東博は WEB 公開）を行った。（4 館） ・ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数（アウトプット情報を参照）の向上を図った。（アクセス件数：17,110,708 件）（4 館） ・YouTube や SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行った。（4 館） ・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った（約 56,000 枚追加）。 ・「e 国宝」においてデータ整備中であった 12 件について公開した。併せて、既存多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。（東博） ・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,695 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。また、画像検索システムに画像データ 14,881 件を登録し、既存データ 2,218 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。（東博） ・東京国立博物館ニュース（年 4 回発行）を制作し、総合文化展広報に努めた。また、主な事業についてはプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。なお、周知に当たってはウェブサイト、公式 SNS を重点的に活用し、最新の情報を速やかに周知した。（東博） ・4 年度には創立 150 年を迎えることから、11 月 15 日に周年事業を紹介する報道発表会を行った。併せて創立 150 周年記念特設サイト及びイメージ動画を作成・公開し、事業の周知に努めた。（東博） ・公式キャラクター「トーハクくん」、「ユリノキちゃん」をモチーフとした LINE スタンプを 4 月 1 日から販売した。また、1089 ブログでも公式キャラクターによる展覧会紹介ブログを掲載し、親しみやすい博物館を訴求した。（東博） ・デジタル画像を館蔵品データベースへ 4,961 枚追加することができ、情報量充実に資することができた。また、館蔵品データベースについては、スマホ・タブレット等 PC 以外の閲覧環境対応や多言語対応等を目的として、リニューアルを予定している。3 年度においては、仕様書の策定を行った。（京博） ・当館公式ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、改善点と課題をまとめ、仕様書を策定、リニューアルに取り掛かった。（京博） ・京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2021 にトラりんを出張させて、展覧会や当館の PR 活動を行った。また、ソーシャルディスタンスを確保した安全な距離で、トラりんを最大週 3 回、1 日 3 回館内に登場させて親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。（京博） ・近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。（京博） ・YouTube チャンネル、公式キャラクター「トラりん」ツイッター・フェイスブックを利用して継続した情報発信を行った。（京博） ・仏教美術情報の公開・普及を図るため、撮影やデジタル化などで収集した画像データを、データベース等で積極的に公開した。収蔵品データベースで新たに公開した収蔵品件数は、20 件である。2 年前から試験運用と改修を続けていた中国語版、韓国語版の収蔵品データベ	**＜評定と根拠＞** 当機構では、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。 4 館ウェブサイトアクセス件数合計は、2 年度は 12,409,706 件のところ、3 年度は合計 17,110,708 件に上った。 広報については、各館ともキャラクター（東博、京博、奈良博）や文化大使（奈良博）などを用い、多様なメディアを通して積極的に行うとともに、YouTube やツイッター等を利用し、効果的に広報した。（4 館） 収蔵品等に関する資料等のデジタル化も中期計画初年度として順調に進んでいる。 ・東京国立博物館では、新型コロナウイルス対策に万全を期して来館利用者の安全に配慮するとともに、対非来館サービスの一つとして図書館間の文献複写サービスは従来の外部大学図書館以外にも広く対応し、館内外における利便性の維持・向上ができた。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。さらに収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。また、広報活動については、ウェブサイト、SNS を中心に自主媒体を十分に活用し、マスメディアや来館者等へ積極的な情報発信を行った。また、ウェブサイトについては創立 150 年記念特設サイトの開設や、アクセスシビリティ対応を行うなど、時宜的なニーズに対応しアクセス件数の向上を図った。 ・京都国立博物館では、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を効果的に行うことができた。特別展においては主催者メディアと協力して多様な広報を実施した。また、公式キャラクターを活用した発信力の高い広報活動、日頃から協力関係を築いている各種団体との連携による多方面にわたる広報活動を展開することができた。 ・奈良国立博物館では、情報発信の基盤となるウェブサイトのリニューアルと新しい体制での運用を滞りなく行うことができ、リニューアル後も改修を重ね、ウェブアクセシビリティ配慮などの視認性の向上に努めた。当館登録側も発生源入力等ソフトを導入しウェブサイトが発信しやすく、また見やすい	

		ースを 12 月に公開した。画像データベースでの新規公開件数は、3,778 件である。（奈良博） ・YouTube に「ならはくチャンネル」を開設し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。 ・広報活動拡充の一環として、4 月 1 日付けでウェブサイトの全面的なリニューアルを行った。併せてウェブサイトの英語・中国語・韓国語版を公開し、多言語による情報発信を充実させた。リニューアルしたウェブサイトはレスポンシブルデザイン（スマートフォン対応）とし、閲覧者の利便性を向上させた。また、CMS を導入したことにより各部署での更新作業が容易になった。新型コロナウイルス感染症拡大による開館時間変更や臨時的な来館者対応が多いなか、各部署において迅速な情報発信が可能な体制を構築することができた。（奈良博） ・「ざんまいず」を奈良博公式キャラクターとして正式に採用し、広報物で使用することで奈良博の知名度向上に繋げた。また「ざんまいず」の LINE スタンプを販売し、自己収入の拡大に繋げた。（奈良博） ・タカラッシュが運営する『ハンターズヴィレッジトレーニングクエスト』を実施し、敷地内でリアルなぞときゲームが体験できるコンテンツを通年で提供した。（奈良博） ・なら仏像館西側敷地内に撮影スポットタイルを地面に設置し、来館者が撮影したなら仏像館を SNS で発信してもらえるように工夫し、撮影の楽しさと知名度向上に繋げた。（奈良博）	体制となったことにより、より的確な情報提供ができるようになったため当館の広報力が飛躍的向上したことは評価に値する。また、民間企業、地方公共団体及び公共交通機関とタイアップして幅広く広報活動を行うことができた。	
		・新規に図書 523 点、雑誌 855 点、図録・報告書 2,743 点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。文化財情報システムの一部として運用する画像管理システムに 2,689 点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。（九博） ・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約 1,700 点の画像を新規に追加した。申請により利用できる画像の一覧をウェブサイトに公開することで、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。（九博） ・「九博だより」を毎月、「季刊情報誌アジアージェ」を年 4 回発行し、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設等に送付するとともに、ウェブサイトへの掲載や電子配信による情報発信を行った。（九博） ・太宰府観光協会と連携して告知フラッグを設置したほか、デジタルスタンプラリーを実施し、天満宮周辺の周遊を促した。また、当館プロモーションムービーを作成し、各種公共交通機関への掲出を行った。 ・福岡空港・JR 九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続するとともに、公式 Twitter において展示品の写真や動画を紹介し、文化交流展示室の魅力を発信した。（九博）	・九州国立博物館では、マスコミや企業及び地域近隣団体と連携し、広報活動に努めた結果、メルマガ登録数の増加及び開封率は高い状態を保っており、Twitter のフォロワー数も順調に増加している。また、広報誌等の発行や SNS を活用した広報活動を実施したほか、関係機関と連携した周遊イベント等で館の PR に取り組むことができた。 **＜課題と対応＞** 今後も引き続きウェブサイト、SNS 等の自主媒体を活用し、マスメディアや来館者等へ積極的な情報発信を行っていく。	

	博）		
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 【指標】 ・有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館における有形文化財に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。あらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，調査研究件数に関する目標は，モニタリングすることとする。	**＜主要な業務実績＞** ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 ・4 館及び文化財活用センターの有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究テーマ件数　69 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・各博物館とも、有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究を実施することができた。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。	
	・特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究（東博） 3 年度に行った特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」を充実した内容にするための調査研究。刀鍛冶の守護神として信仰を集めた岐阜県関市の春日神社に伝来する能狂言面と古楽面計 61 面（重要文化財）は、その多くが室町から安土桃山時代の作と見られる貴重な作品群であるが、科学的調査は行われていなかった。美術史的手法に加え、X 線 CT 撮影、蛍光 X 線による顔料成分調査、デジタルマイクロスコープ等による非破壊の樹種調査等を実施し、構造、顔料、材に関する客観的なデータの蓄積と分析を行った。その成果を広く、わかりやすく発信するため、展示手法・展示構成の検討を行った。	・近世以降、型を写すようになった能狂言面の、定型化前の様相を示す作品群としてその重要性が認知されていた春日神社の能狂言面、古楽面であったが、X 線 CT 撮影などを用いた調査は行われていなかった。 本研究では、美術史的な調査方法に加え、科学的調査を実施するというこれまでにない手法で行い、能楽及び彫刻の歴史を紐解くうえで有用なデータを収集することができた。こうしたデータの蓄積を今後も重ねていくことで、日本の代表的な芸能とそれにまつわる造形を総合的に考えることにつながる。今後も館蔵品を中心に調査を重ね、得られたデータを多角的に分析検討していきたい。 また、特集展示においては、オンライン配信動画やリーフレット、会場で上映したスライドショーなど、広く一般にわかりやすく伝える工夫も行った。（東博）	
	・京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究（京博） 名品ギャラリーで、当館考古分野列品を中心に通史展示を展示・公開した。また、近年保存処理・安定台作製を進めてきた鉄製帯金式甲冑と文化庁所蔵品・新規寄託品などを展示した。 列品等の活用準備として、修理後撮影（個別・集合）の成果は名品ギャラリー及び 4 年度の特別公開刊行物に活用し公開した。一方、列品整理・修理の成果を安全に維持・管理し、また収蔵庫内における列品等の収納スペースの確保を図るために文化財用保存用木箱の作製と燻蒸	・考古展示室での展示公開は、7 月～9 月の特別展『京の国宝』のために短縮展示であったが、修理成果品をはじめ、新出の装飾須恵器や文化庁蔵徳島県出土流水文銅鐸を加え、ほぼ計画どおりに実施できた。調査研究を進めてきた西宮山古墳の出土品については、特集展示で調査成果を展示公開できた。比叡山延暦寺国宝殿での考古遺物の追加調査は 4 年 4 月から特別展「最澄と天台宗のすべて」において、展示予定である。（京博）	

	を行い、列品等収納の安全性とスペースの改善を図った。 兵庫県たつの市西宮山古墳出土遺物について、未報告資料（金属器・埴輪）の実測作成と撮影を行い、資料化を進めた。成果の一部は、4年度の特集展示に反映する予定である。 金・銀製品等の重要資料について、科学的分析を加えることで、列品の調査・研究を推進した。特別展「最澄と天台宗のすべて」（4年4月～5月）の追加調査を実施し、延暦寺（比叡山山内）出土資料の調査と撮影等の資料化を行った。	
	・仏教工芸・上代工芸の総合的調査（奈良博） (1)館蔵品の調査 7～9月の特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」の開催にあたり、出陳候補となった館蔵品をまとまった件数調査した。（4月28日）この成果については、同展の展覧会図録や公開講座（7月31日）に反映した。 (2)展覧会に際して借用した作品の調査 4～6月の特別展『聖徳太子と法隆寺』の開催にあたり、出陳された玉虫厨子（国宝　奈良・法隆寺蔵）の撮影を含めた詳細調査を実施した。（6月9日） (3)他の機関、社寺が所蔵する作品の調査 春日大社が主体となって進める金鶴及び銀樹枝（国宝　奈良・春日大社蔵）の複製制作に関連して、同社と共同で実見調査及びX線CT調査を実施した。（9月17日、10月30日） 東京国立博物館の法隆寺献納宝物特別調査の一環として、竜首水瓶（国宝　東京国立博物館蔵〔法隆寺献納宝物〕）の蛍光X線調査・X線CT調査を同館などと共同で実施した。（12月6日） (4)展覧会の出陳候補となる作品の調査 4年度開催予定の特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」への出陳候補となっている金銅龍唐草文舎利容器扇蓋（京都国立博物館蔵）の撮影を含めた詳細調査を実施した。（12月17日） (5)共同研究 共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鋳銅三具足の制作技法に関する研究」（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共同研究）に関わる調査において、2年度までの調査を踏まえて試作した複製品と原品を対象とし、制作技法の検証を行った。（5月18日、11月1日）	・館蔵品については、近年新たに購入したものを含め、これまで基礎情報が十分公表されてこなかった作品を多数調査・展示し、図録掲載や公開講座を通じて広く発信することができた。 借用作品の調査では、日本古代の仏教美術を代表する玉虫厨子を詳細に実見調査する機会を得、これまで様々に議論されてきた制作時期などの問題を検証する有用なデータを得ることができ、今後他作例との比較研究を充実させることで一層の進展が期待される。 また、複製制作にかかる調査においては、光学機器を併用することで作品の品質構造・技法などの詳しい分析を実施し、データの蓄積を図るとともに、試作による検証を通じて、実制作の観点から作品へのアプローチを促進させることができた。こうした成果は、複製を用いた展示の方向性を考える上でも有意義であると考える。（奈良博）
	・水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究（九博） (1)『水中遺跡ハンドブック』の作成業務 『水中遺跡ハンドブック』の内容検討のため、文化庁が設置する「水中遺跡調査検討委員会」の下部に協力者による作業部会（協力者会議）を30年度に設置し、3年度は当該会議を4回開催した。また、原稿作成作業のため、作業部会委員、事務局等による編集会議をオンラインを併用し4回開催した。当館は、読み手にとってわかりやすい『水中遺跡ハンドブック』となるように、使用する資料・写真等の収集や、イラスト制作に係る調整、文章校正補助等を担当した。委員・協力者のご尽力もあって、今後の水中遺跡調査のてびきとなる充実した内容の図書を予定どおり刊行できた。 (2)国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究 新型コロナウイルスの感染拡大により、2年度中に実施が困難であった一部事業を3年度に繰越し、『水中遺跡ハンドブック』の内容充実のため、7月に編集会議メンバーによる計4回（和歌山県串本町、神奈川県三浦半島、千葉県館山市、広島県福山市）の現地調査を実施した。各地の水中遺跡に関連する施設や遺跡等を調査し、保存・活用に関する地元自治体等の取り組み等の情報収集や写真の撮影等を行い、『水中遺跡ハンドブック』の編集を継続的に支援した。	・3年度は水中遺跡の現地調査を実施し、関連情報の収集を行うことができた。また『水中遺跡ハンドブック』作成を継続的に支援するため、関係者・機関との会議開催や情報共有を行い、原稿素材の調達にも協力した。当該ハンドブックは、水中遺跡の保存及び活用を推進する上で、今後欠くことのできない指針となるものであり、その刊行が果たす学術的意義は非常に大きい。前述したような諸業務を計画的かつ円滑に推進していった結果、当該ハンドブックを3年度中に刊行することができたことは特筆すべき点である。（九博）
	・マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究（東博） (1)調査概要 当館及びマレーシア・イスラーム美術館が所蔵するイスラーム美術の作品を調査した。 (2)展示事業 7月6日～4年2月20日の期間に、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」（於東洋館12室・13室）を開催した。来場者数は12.5万人に達した。 日英2言語併記の図録を編集し、刊行した。 鑑賞者の理解を促すため、日英2言語併記のイスラーム教に関する映像を投影したほか、日英中韓4言語による章解説や年表を掲示し、作品目録、主な作品解説（いずれも日英中韓4言語）を配布した。 (3)教育普及 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ワークショップから講演会へとイベントの内容を改め、12月8日に記念講演会（於平成館大講堂）を開催した。 新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、講師が来日できなかったため記念講演の動画（日英2言語）を製作し、発信した。	・イスラーム文化に対する従来の日本の理解は必ずしも欧米に比べ進んでいると言い難かったが、この展覧会を機に、イスラーム文化に対する理解を促進できた。また展示の内容も、時代や地域、ジャンルにとらわれることなく、イスラーム文化の受容と展開を相対的に見せることができた。（東博）
	・特別展「京の国宝」に関する調査研究（京博） 国宝指定を受けた京都ゆかりの文化財を多数展示しつつ、日本の文化財指定のあゆみと文化財に関する各種事業の意義、文化財と社会との関わりを広く紹介するという展覧会内容をふまえ、日本の文化財史に関する資料や文献調査を実施し、それらの成果を展覧会図録や講座などで発表した。調査先は文化庁、東京国立博物館、奈良国立博物館、公益財団法人美術院や京都府下の社寺などで、所蔵者と連携しながら新資料の捜索や研究を実施し	・文化庁と協働して文化財の指定や研究、修理、模造といった文化財保護に必要な様々の事柄を総合的に展示に反映することができたのは時宜にかなうもので、重要な社会貢献をすることができた。文化財指定のあり方をはじめ、古い品々を取り巻く社会情勢が極めて大きく変化している今日、我が国の文化財保護の背景となった様々の歴史事象や変遷をたどり、再確認していくことは文化財保護の将来設計をする上で欠かすことができない。

た。特に主催者の一員である文化庁と連携し、博物館とは異なる文化財保護行政の視点や知見を出来る限り汲み取り、展示内容に生かすよう努めた。 文化財保護のあゆみは、当館を含む我が国の国立博物館の成り立ちや意義に深く関わる極めて重要なテーマであり、館史などをよりよく知る上でもその研究は欠かすことができない。本調査研究を通じて、日本の近代史や博物館史において重要な多くの知見が得られたほか、いわゆる「国宝展」にあって、ものの鑑賞と表裏一体にある保存、保護の営みを提示するこれまでにない機会ともなり、展示の方法論や手法等についても従来にない多くの知見が得られた。	文化庁と博物館が協働して文化財保護に不可欠な各種事業を幅広く、通史的に考察することで得られた成果や知見は多く、展示を通じて文化財保護史にとって新たな観点を提示することができた。(京博)
・特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクション」に関する調査研究（奈良博） (1)調査の概要 ・過去の図録で未紹介の作品や新収蔵品、構造が未解明の重要作品を中心に最新の光学機器を用いた調査を実施し、そこで得られた銘文、納入品、材質などに関する新知見を展示パネルや図録上で公表した。 ・館蔵品収集に関する文書・古写真資料の調査を実施し、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門別にその経緯や特色について分析を行った。その成果は展覧会図録の各論及び会期中に実施した合計6回の公開講座で公表した。 (2)図録・題箋原稿の執筆及び多言語への翻訳 ・出陳全作品全点に関する基礎情報及び作品解説の日本語原稿を作成し、記述の正確さと読みやすさを担保するため、各部門の研究員による原稿の読み合わせを行いながら修正を重ねたうえで、図録・題箋・パネルに反映した。このうち題箋原稿全点を英語・中国語・韓国語に翻訳し、図録・題箋パネルに反映した。 (3)ジュニアガイド・親子向けパネルを活用した教育普及 ・仏教美術をより幅広い客層に親しんでもらうため、イラストと平易な解説文によるジュニアガイド・親子向け題箋パネルを作成し、展示会場内で配付・設置した。その作成に際し、解説で取り上げるべき内容について展覧会担当者と教育普及担当研究員が何度も協議を重ね、記述の正確性を担保するために各部門研究員が監修を行った。	・仏教美術に対する社会一般の関心が高まるなか、日本仏教美術の歴史の流れを平易に紹介するという国立博物館で初の試みであり、部門の垣根を越えて10章のテーマに即しながら作品を展示したことで、作品相互の重要な関係性を立体的に示すことができた。さらに光学調査や文献・古写真調査によって、作品の構造や伝来過程が明らかとなるなど、学会に裨益する重要な成果を公表できた。(奈良博)
・開館15周年記念特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー」に関連する調査研究（九博） 特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー」（会期：10月9日～12月5日）開催に向けて、作品の調査研究を行うとともに、図録に使用するため新規撮影も実施した。当初展覧会は2年7月21日～9月13日で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によっておよそ15か月延期となった。 (1)出陳交渉及び調査	・会期について、新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、当初の計画どおりに進めることができた。出陳作品について調査を行い、研究を深めるとともに、輸送のための状態確認及び計画立案を行い、リスクを事前に排除することができた。 近年の「持続可能な開発目標（SDGs）」の世界的な広がりとともに、自然環境に対する人々の関心が高まっている。本展の日本人と自然という趣旨は時宜を

当初2年度夏季に開催予定であったため、基本的には2年度までに出陳交渉及び調査は終えていたが、未調査であった龍谷大学図書館や大阪歴史博物館での調査などを実施した。 (2)新規撮影 京都・東福寺、京都・泉屋博古館、大阪・今宮戎神社（大阪歴史博物館寄託）等の所蔵品について現地での撮影を行ったほか、先行して借用し、当館において撮影をした。 (3)成果の公開 調査の成果は、展覧会図録、会場パネルに反映した。図録では詳細な作品解説のほか、森弘子氏の特別寄稿やコラムや各論も数多く収載し、展覧会では紹介しきれなかったテーマを深く掘り下げた。	得たものであり、現代社会への問いかけとなる有意義な展覧会となった。(九博)
・レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究（文化財活用センター） 多くの人に文化財に親しむ機会を提供することを目的として、先端技術による文化財のレプリカやデジタルコンテンツの開発に係る調査研究、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとにコンテンツの開発と体験型展示等を実施し、それらの実施事業を通して、効果の測定並びに人々のニーズの調査を行った。 (1)キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との連携による共同研究 プロジェクトを継続して実施し、コンテンツを開発した。また2年度に制作した複数のコンテンツが、国際コンクールで受賞するなど、国内外で高い評価を得た。 (2)レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ、企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている国内の博物館・美術館の視察・インタビューを行った。 (3)機構内各施設や地域のミュージアムと連携し、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発と体験型展示、教育プログラムの実施を行い、アンケートによる体験者への調査を行った。 (4)「2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行した。 ※3年度は新型コロナウイルスの影響により国外調査が実施できなかった。	・レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究では、企業等との共同研究プロジェクトにより開発したコンテンツが、デザイン・映像・技術部門で国内の各種賞を受賞するなど、文化財活用の新しい可能性を拓く活動として高い評価を得ることができた。 また、文化財に親しむ機会を拡大することを目指して、先進事例の調査、各施設や企業等と連携した調査・研究を行った。そこで得た知見をもとに、コロナ禍でも可能な文化財体験、地域の活性化の核となる文化財体験を開発・提供することによって、研究成果を一般にも発信することができた。 地域の博物館との連携をより深め、先進事例の調査、コンテンツ開発、一般への公開・検証を合わせて行うことにより、文化財活用の新たな道を拓くための有意義なPDCAサイクルを構築していく。(文化財活用センター)
・ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（東博） 来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英中韓4言語による鑑賞支援アプリ「トーハクなび」を運用し、ユーザー動向解析によりより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、あわせて児童生徒のための鑑賞支援アプリ「学校版　トーハクなび」のリニューアル版を運用した。 ○当館公式ウェブサイト(https://www.tnm.jp/)と国立博物館所蔵品統合検索システム	・新しいシステムの開発により、長年課題であった、言語による解説数やデバイスの不均衡が改善され、頻繁な展示替えに対応しうる作品解説の提供が実現できている。また折に触れてシステムの改善点を検討することにより、ユーザーがより使いやすいアプリとなるようアップデートできた。 アプリ「トーハクなび」ユーザーの動向についてのデータを集積することができ、またアプリの特性を活かし、インタラクティブコンテンツや、ビーコン

ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)と連携し最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みについて、システムや表現など細部の調整を行った。
○来館者の操作が最小限にかつスムーズに行えるよう展示室内に設置したビーコンの位置の見直しや増設を行い、展示室内で特に注目すべき作品への理解の促進を図った。
○毎年春に行っている「博物館にお花見を」に際し、「トーハクなび」デジタルスタンプラリー機能に対応させるべく、桜に関連した美術工芸作品（5件）の解説テキスト作成、音声データ収録（ともに日英中韓）を行い「トーハクなび」ガイド提供作品として新規登録、運用した。また、既存の解説についてもネイティブスタッフや担当研究員と議論しながら精査を行い、質の向上に努めた。
○27年4月より継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積し、観覧者動向を分析した。
○ICTを利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。
○「トーハクキッズデー」に際し、特定の作品にQRコードを設置し、オンラインで提供する「おうちでギャラリートーク」にアクセスする取り組みを行った。

②その他有形文化財に関連する調査研究
・博物館の環境保存に関する調査研究（東博）
2年6月から10月にかけて実施した当館内の修理室施設内の換気状況調査について、運用中のデータを詳細に解析し、検証を行った。
法隆寺金堂壁画を奈良国立博物館から輸送するにあたり、経路選定、振動計測、作業工程の最適化について総合的に検証した。
屏風構造を持つ文化財に着目し、木製骨組み下地が加振された際に示す応答特性についての実験結果を検証した。
文化財の形状の3次元データを活用して、展示中に生じた地震による挙動のシミュレーションを実施した。また、支持具による耐震効果を数値的に評価する手法について検証した。

・データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究（京博）
収蔵品管理システムや図書管理システムなど、当館が持つ情報を蓄積、管理するためのシステムや公式ウェブサイト・館蔵品データベースなど、情報発信の方法等について検討する「情報システム検討委員会」を開催し、博物館情報に関する研究を推進した。
画像利用申請や貸与許可書等、帳票類の押印廃止に対応するため、収蔵品管理システムの改修を行った。
収蔵品管理システム及び公式ウェブサイトのリニューアルに向け、現システムの課題と新システムに必要な機能

による作品検索など新たな鑑賞体験を提供することができた。
今後は、3年度開発したアプリとシステムをプラットフォームとし、より利便性の高い機能の搭載や、作品解説の充実を検討したい。（東博）

＜課題と対応＞
3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、東博の特別調査5件が中止となった他、それ以外の調査研究活動についても様々な影響が出たが、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ着実に実施した。引き続き調査研究活動を博物館活動の根幹をなす事業として維持・推進する。

＜評定と根拠＞
・収蔵環境に関する調査研究では、換気と環境維持の両立という困難な課題に対して、館内で蓄積したデータを精緻に解析し、一定の解を得た。輸送環境に関する調査研究では、脆弱な文化財を輸送する際の走行経路選定手法及び振動の評価手法について新たな観点からの調査研究を進めた。また、文化財の加振実験とモデル化によるシミュレーションとのコリレーションについての検証をした。その結果、振動応答特性が未知の文化財に対する梱包設計手法を確立する可能性を見出せた。展示環境に関する調査研究では、防災に関する研究を実施し、3次元データとシミュレーションを駆使した新たな技術開発に着手した。その結果、展示物の耐震対策について、現状と改善後の予測を簡易に比較するための手法を構築するための基礎ができた。（東博）

・館内で運用しているシステムについて、稼働年数や運用状況、保守の状況を確認及び整理した。整理した内容を基に、各システムの運用計画を見直し、急ぎ対応が必要なシステムのリニューアルに取り掛かることができた。（京博）

について検討を重ねた。システム開発の委託先を決定し、リニューアルに伴う作業を進めた。
蔵書管理システムのリニューアルに向け、館内で検討を進め、仕様書を策定した。
館内で運用中のシステムについて、リプレイスすべきタイミングを整理した。

・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究（奈良博）
展示室と展示ケースに設置した無線式温湿度データロガーで15分間隔の温湿度計測を実施した。取得蓄積した温湿度データから、ケースの特性、展示室別の特性を捉え、空調機器運転方法を展覧会ごとに情報を整理し展示室内の環境管理に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いてのモニタリングを毎月行い、館内環境ワーキンググループでデータ共有して空調の調整に役立てた。
正倉院展終了後に、展示ケース内の敷板、卦算などから塵埃を採取、電子顕微鏡にて観察し、塵埃の状況からケースの気密性に対する評価を行った。
2年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2か月に1回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することでIPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所を重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。
展示室内、ケース内の有機酸、アルデヒド類の濃度は文化庁の定める公開承認施設の基準を満たす濃度であった。

・博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究（九博）
シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター（HCC）との意見交換会について、科研費「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」の事業も兼ねて行った。コロナ禍によりリモートで開催した。それぞれの立場で意見交換を行ったが、国の歴史や博物館の性格により、保存修理の理念や方法が異なることが認識できた。
元年度～2年度の賛助会費で修理した作品4件について、作品に加えて修理工程パネルや修理道具を文化交流展示「賛助会費による修理成果展」という形で展示した。

③国内外の博物館等との学術交流
＜主要な業務実績＞
・当館と韓国国立中央博物館共同主催でオンラインセミナーを開催した。テーマは、「パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題」（9月9日）、「ウィズ

・継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また、調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有だけでなく、議論や検証が行い易い解析方法を模索し、館全体での展示保存環境の保持と改善を図った。分かり易いデータ解析を進め円滑な監視体制を整え保存環境の維持や向上を進めた。なら仏像館についても温湿度無線データロガーを新たに設置し、館内環境維持のため継続して調査を行うことができた。（奈良博）

・修理に関連する作品及び修理工程パネルを展示室にて展示することで、保存修理事業を周知することができた。
例年保存修理事業を広く周知するためバックヤードツアーを行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3年度も中止したが、前述のパネル展示を行うことで、それに代わる普及事業としての役割を担うことができた。（九博）

＜評定と根拠＞
・3年度で8度目となるミュージアム日本美術専門家連携・交流事業もオンラインにて開催し、12ヵ国47人の参加があった。

	コロナ時代、日韓の博物館における国際交流の挑戦」（11 月 25 日）とし、日韓博物館の国際交流事業の現状共有、協力事業のアイディア交換、担当者同士のネットワーキングを図った。（東博） ・当館主催の日中韓国立博物館長会議はオンラインにて開催し、ウィズ/ポスト・コロナ時代における 3 館の協力と情報共有について確認した（7 月 14 日）。（東博） ・日中韓国立博物館長の合意事項に基づき、博物館の文化マーケティング戦略について情報共有のオンラインフォーラムを主催した（12 月 8 日）。（東博） ・ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として国際シンポジウム及び日本美術専門家会議を開催した（4 年 1 月 29 日、2 月 10 日）。（東博）	また、外国人来館者はほとんどいない状態が続いている中、SNS による多言語の情報発信は、博物館の展示活動や作品解説の提供など、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、これからの発展性が期待される。（東博）
	・国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」をセインズベリー日本藝術研究所と協力して 4 年 3 月 19 日にオンラインにて開催し、欧州・北米・中国・日本の研究者が事例報告及び研究発表を行った。日英中の同時通訳を通して、1,013 名の参加を得た（事後の視聴も含む）。（京博） ・ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次会議「文化財防災ネットワークの構築:連携に関する事例研究」11 月 4 日～7 日（東京及び岩手　ハイブリッド開催）を主催した。会議に 5 名の当館職員が参加し、1 名が発表した。11 月 4 日（東京開催）では 145 人、11 月 6 日（岩手開催）では 180 人の参加があった。（京博）	・ウェブ会議などオンラインツールの効果的な活用により、活発な意見交換の場を設けることができた。特に国際シンポジウム開催に向けたセインズベリー日本藝術研究所との連携は、今後の両館の持続的かつ発展的な交流を見据えた有意義な取り組みであった。また国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」は、コロナ禍が理由でのオンラインによる国際シンポジウムの開催であったが、当初の計画を大きく上回る 1,000 人を超える参加者があり、敦煌写本研究の現状を広く国内外に示すことができた。このことは敦煌写本研究の今後の進展に大きく寄与するものである。（京博）
	・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所が 6 年に開催する予定の展覧会「Nara to Norwich」展への助言をはじめ、国際的な展示協力、ネットワーク構築を図った。（奈良博） ・駐日ドイツ連邦共和国大使、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事、ヨルダン・ハシェミット王国大使館大使をはじめ、各国大使との意見交換を行った。（奈良博） ・渋谷区立松濤美術館の展覧会「SHIBUYA で仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」（学術協力：奈良国立博物館）の英文図録につき、翻訳、編集を行った。（奈良博）	・海外の機関に対して可能な限りの助言・支援を行い、オンラインの国際シンポジウム等にも可能な限り参加し、情報収集や意見交換を行った。（奈良博）
	・2 年度に学術文化交流に関する協定を締結した上海博物館で、旧正月に開催される企画展示にコロナ禍でありながら 2 件の文化財を貸与し、交流を強化した。 ・「アジアの文化財の製作技法・修理技法に関わる調査」の一環として、大英博物館の修復施設（平山スタジオ）で実施されているアジアの絵画の修理についてオンラインによる聴き取り調査を実施した（6 月 4 日）。同様に、シンガポール国立ヘリテージコンサーベーションセンター（HCC）で行われているアジアの文化財の保存修復に関する取り組みについて、オンラインセミナーを実施した（7 月 2 日）。また当館で実施している文化財の管	・オンラインを活用し、国際会議（Pest Odyssey 2021 Next Generation）にて、当館での IPM の取り組みを積極的に発表するなど国外との学術交流を推進した。（九博） **＜課題と対応＞** 2 年度と同様、新型コロナウイルスの影響が続いているため、海外の博物館の定期的に行ってきた学術交流や、研究者の招聘及び研究員の海外派遣は各館とも実施ができなかったが、代替となる取組みとし

	理、保存、修復事業について、先方に紹介するオンラインセミナーを行った（11 月 1 日）。 ・9 月 20 日～22 日にロンドンで開催されたオンラインの国際会議（Pest Odyssey 2021 Next Generation）にて、当館での IPM の取り組み及び文化財害虫の生態に関する発表を口頭、ポスター発表にて行った。（九博）	て、ウェブ会議などオンラインツールを活用し、様々な交流を積極的に推進し、博物館同士のネットワークを維持した。
	④調査研究成果の公表 **＜主要な業務実績＞** ・博物館における調査研究成果発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。(4 館)	**＜評定と根拠＞** ・刊行物については、定期刊行物、報告書、図録とも予定していたものを全て刊行することができた。「東京国立博物館研究情報アーカイブス」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開し、特集印刷物リーフレットの PDF ファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた。（東博）
	・『東京国立博物館文化財修理報告 22』、『東京国立博物館紀要 57 号』、『博物館でアジアの旅　空想動物園』、研究誌『MUSEUM』691 号～696 号（6 冊）を刊行した。（東博） ・「東京国立博物館研究情報アーカイブス」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。（東博） ・特集印刷物リーフレット等 6 件の PDF ファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。（東博）	
	・『文化財修理報告書』19、『学叢』43、『社寺調査報告』30（金剛寺）、『社寺調査報告』31（観心寺）を刊行した。（京博）	・『学叢』については、最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。 また、2 年度末に新型コロナウイルスの蔓延を受け、刊行できなかった金剛寺の『社寺調査報告』30 と、追加調査を行い刊行した観心寺の『社寺調査報告』31 は非常に充実した内容を掲載することができた。（京博）
	・奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』第 24 号を刊行した。掲載内容は、論文 2 本、作品研究 1 本、研究ノート 2 本、調査報告 2 本、修理報告 1 本、事業報告 2 本の計 10 本であった。奈良国立博物館リポジトリに掲載した。また、『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第 4 号を刊行した。（奈良博）	・当館研究員のみならず外部研究者の寄稿も掲載され、年度計画のとおり刊行できたといえる。 また、修理報告書も修理を担当した各修理工房、京都大学生存圏による樹種同定調査の協力を得て、例年どおりに刊行することができた（奈良博）
	・研究紀要『東風西声』第 17 号（部数 900 部）、『23-24 年度　九州国立博物館 文化財修理報告』（発行部数 750 部）を編集、刊行した。23 年度から 24 年度までの当館文化財保存修復施設で行った修理と、当館経費による修理の報告書をまとめた。（九博）	・『東風西声』第 17 号では 11 本の論文を掲載した。『23-24 年度　九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館文化財保存修復施設で行った修理、及び当館経費による館外での修理の記録をまとめたもので、第 4 号では、23 年度から 24 年度までを対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。報告書は、現状では紙媒体での公開にとどまっているが、将来的にはインターネット上

		での公開も検討している。4 年度以降も、順次刊行する計画である。（九博） **＜課題と対応＞** 3 年度も新型コロナウイルスの影響により、東博の特別調査 5 件が中止となったほか、それ以外の調査研究活動についても様々な影響が出たが、新型コロナウイルス対策をしつつ着実に実施した。引き続き調査研究活動を博物館活動の根幹をなす事業として維持・推進する。
（５）国内外の博物館活動への寄与 【指標】 ・有形文化財の貸与に関する取組状況（有形文化財の貸与件数） ・国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，さらに国宝・重要文化財については，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，貸与件数をモニタリングし評価する。 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 **＜主要な業務実績＞** 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,688 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・国外内の博物館等 113 機関に 990 件の作品を貸与した。（東博） ・文化財活用センターと共同で国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等 5 機関に 85 件の作品を貸与した。（東博） ・海外の博物館等 5 機関に 21 件の作品を貸与した。（東博） ・国内の 81 機関（機関は延べ件数）に対し、計 314 件の収蔵品を貸与した。（館蔵品の貸与件数：191 件、寄託品の貸与件数：123 件）（京博） ・3 年度に国立博物館収蔵品貸与促進事業で貸与した収蔵品は 2 件だった。（京博） ・3 年度は新たに愛媛県歴史文化博物館、徳島県立博物館、柏原市立歴史資料館の計 3 館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。（京博） ・館蔵品と寄託品を合わせて 22 の機関に計 252 件の貸出を行った。また、国立博物館収蔵品貸与促進事業を行い、奈良県立美術館へ文化財を貸与した。（奈良博） ・国内 19 機関、海外 1 機関に計 132 件の収蔵品を貸与した（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）。うち、館蔵品の貸与件数 109 件（うち国宝 1 件、重要文化財 3 件）、寄託品の貸与件数 23 件（東京国立博物館からの長期管理換品を含む）（九博） ・国立博物館収蔵品貸与促進事業で貸与した収蔵品は 1 件だった。（九博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、貸与先からの要請に博物館 4 館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数は、昨年度は合計 1,235 件のところ 1,688 件であった。 貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 ・国内外の博物館等 113 機関に 990 件の作品を貸与した。新型コロナウイルスの影響により 2 年度は機関数、貸与件数はともに減少したが、3 年度は例年どおりの件数に回復した。また、海外の博物館への貸与も実施することができ、国内外の展覧会の開催に貢献した。 貸与促進事業は、5 機関に 85 件の収蔵品貸与を行った。また、来館者、メディアからは多くの反響があり、収蔵品の貸与と公開が各地域の創生・振興に寄与した。（東博） ・年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。 また、3 年度は 3 博物館との間で考古資料の相互貸借事業を実施し、出土した作品をその地域にある博物館で展示することができた。（京博） ・貸与件数は、過去 4 年の実績と比較すると最も多くなった。中でも国宝・重要文化財が合計 84 件貸し出されるなど、各地の展覧会の開催に大きく寄与した。 また、収蔵品貸与促進事業により、奈良の地にゆかりある館蔵品を貸し出し、地域の展覧会事業へ貢献することができた。（奈良博） ・2 年度に展覧会を中止した出品要請機関から出品依頼があったことに加え、当館の染織コレクションを大々的に紹介・展示する展覧会が開催されたこと、さらに、文化財活用センターが実施する貸与促進事業での貸与も行ったことを受け、収蔵品の貸与

		件数は 2 年度と比較して大幅に増加した。また、福岡県内の博物館・資料館への長期貸与を行い、福岡や九州の文化財の魅力の地域発信に寄与することができた。新型コロナウイルスの影響もあったが、海外の博物館への貸与も実施することができ、当館の収蔵品が世界に紹介されることにつながった。 国内外の各博物館・美術館の展覧会の充実化に十二分に貢献できた。（九博） **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、中期計画に基づき、国外内の博物館等の出品要請に応じて、貸与を実施した。 4 年度以降も文化財活用センターとの連携を深めるとともに、有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に寄与できるよう、協力依頼に積極的に応じる予定である。
	②国内外の博物館等への援助・助言等 **＜主要な業務実績＞** 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　372 件 内訳はアウトプット指標に掲載 ・当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。（4 館） ・公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、98 件の援助・助言を行った。また、3 年度より新たに保管文化財に対する特殊な機材を用いた計測、非破壊による材質・成分等の調査、その他、特別観覧に該当しない撮影による調査等の外部からの調査協力依頼に対し、調査協力をする事業を開始した。（東博） ・新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。環境調査を実施した新規貸与館は、14 館。（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　3 件）（東博） ・行政、公私立博物館等の各種委員等への就任などを含め、博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を 129 件実施した。また、ウェブ会議システムを活用し、国際研修として UNESCO チェア ITC-DRMCH に協力し、京都国立博物館の展示・収蔵環境、減災対策などの安全対策への取り組みについて情報発信を行った。また知恩院と展示・保管環境に関する調査・研究について連携研究を開始した。文化財資料の保管環境に関する助言として、3 年度は立像 3 躰につ	**＜評定と根拠＞** ・東京国立博物館では、3 年度は緊急事態宣言発出に伴う移動自粛や借用辞退が頻発したため、2 年度に比べると件数は減少した。しかし、そのような中でも例年同様に、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等についての援助や助言、新規貸与館への環境調査を行うことができた。 新たに、従来の枠組みでは対応することができなかった博物館・美術館、大学、その他研究機関の要請に応じて、保管文化財の調査協力を行った。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、全国の美術館・博物館から問い合わせがあり、当館の対策について説明するとともに助言を行った。 ・京都国立博物館では、国内の様々な機関の要請に対し、職員が各々の専門性に応じて、129 件の援助・助言・指導及び協力を行った。 文化財防災に関してウェブ会議システムを用いたリモート形式による、多国籍の研究者へ向けた発信ができた。研究者からは財政負担が大きくない軽微なシステムや機器について積極的な意見が多かっ

		いて転倒防止対策に関する研究を実施し、社寺等への助言を行った。（京博） ・以下の展覧会に特別協力もしくは学術協力として援助・助言を行う等、計 68 件の援助・助言を実施した。 九州国立博物館、新潟県立近代美術館、北海道立近代美術館、サントリー美術館　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」 信貴山朝護孫子寺等主催　「信貴山秘宝展」 岐阜市歴史博物館　特別展「波濤を越えて―鑑真和尚と美濃の僧・栄叡」 松濤美術館　「SHIBUYA で仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」（奈良博） ・77 件の援助・助言を行った。また、2 年度に続きオンライン IPM 相談会を、3 年度についても実施した。また、館内職員向け IPM 研修は、新型コロナウイルス予防対策を講じつつ人数を減らして 2 度に分けて実施した。（九博）	た。各国の状況によるが、多様な防災システムに関する情報発信が必要といえる。 ・奈良国立博物館では、国内の様々な館の要請に対して、新型コロナウイルス感染拡大以前の水準に近い件数応じることができた。特に 3 年度は、当館の専門性を充分に生かし、各地の展覧会への援助・助言を活発に行った。 ・九州国立博物館では、新型コロナウイルスの影響により中止した講座があったものの、3 年度も全国の博物館、美術館、文書館等からの要請に応じて指導、助言を行った。 **＜課題と対応＞** 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で国外館への助言等はわずかであったが、援助・助言等の件数としては 2 年度からは増加させることができた。今後も引き続き国内外の博物館等からの要請に応じ、援助・助言等の協力を実施する。	
（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 【指標】 ・コンテンツの開発及びモデル事業の推進状況（レプリカや，VR・AR，8K 映像など企画コンテンツの開発数） ・国立博物館収蔵品貸与促進事業に関する取組状況（事業実施件数及び有形文化財の貸与件数） ・文化財保存等の相談・助言・支援に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） ・データベース（ColBase，e 国宝）のアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉	**＜主要な業務実績＞** ①文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進 ・レプリカや，VR・AR，8K 映像など企画コンテンツの開発数 18 件 ・各施設、企業等と連携して高精細複製品を制作した。VR、8K など先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進め、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出した。（文化財活用センター） ・トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別 3 室に、体験型展示「日本美術のとびら」を開設した。（文化財活用センター） ・体験型展示コンテンツ「なりきり美術館」を大分及び山口の美術館に展開したほか、文化庁「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」の委託を受けて新潟、愛知、宮崎県内の美術館・博物館にコンテンツを制作し、公開した。（文化財活用センター） ・新型コロナウイルスの影響により一部中止があったが、「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、高精細複製品の貸与を行ったほか、首都圏を中心に、全	**＜評定と根拠＞** ・文化財活用センターでは、企業と連携した高精細複製の制作や、先端技術を使った企画コンテンツ事業の開発により文化財の新たな活用方法を提案することができた。さらに、地域の美術館・博物館への企画コンテンツの提供により、文化財に触れる機会を拡大することができた。アンケートによる評価等も概ね好調であった。	

・企業等との連携を図りつつ，先端技術を駆使し，文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発するためには，内容に応じてその都度検討することとなる。また，国立博物館収蔵品貸与促進事業においては，あらかじめ事業募集を行った上，貸与品は貸与先で開催される展覧会のテーマに沿って，国立博物館における展示に支障のない範囲で作品選定を行う必要がある。文化財保存等の相談・助言・支援においては，文化財保存の観点から博物館活動の活性化に協力するために，国内外の博物館等における展示・収蔵環境に関する相談を随時受け付け，内容に応じてその都度検討することとなる。いずれもあらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，企画コンテンツの開発，国立博物館収蔵品貸与促進事業及び文化財保存等の相談・助言・支援に関する目標は，モニタリングすることとする。 ・ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）では，各国立博物館の所蔵品を横断的に検索でき，また，e 国宝（文化財高精細画像公開システム）では，所蔵する国宝・重要文化財の高精細画像を多言語による解説とともに公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，データベースの充実に取り組むとともに，データベースへのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	国の小中高等学校、博物館 12 件に教育プログラムを提供し、1,366 人の児童生徒・来館者が参加した。また、青森県学校教育センターとの連携で、鑑賞教育にかかる教員研修を行った。（文化財活用センター） ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進 ・国立博物館収蔵品貸与促進事業に関する取組状況 事業実施件数 5 件、有形文化財の貸与件数 89 件 ・国立博物館と共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生、観光振興並びに次世代への文化財継承に寄与することを目指して国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国立博物館は、国内の博物館等 5 機関に 89 件（大規模貸与：2 機関 46 件、小規模貸与：3 機関 43 件）の文化財を貸与し、文化財活用センターは、開催館までの往復作品輸送費、保険料、出張旅費、及び大規模貸与の対象の展覧会のうち佐賀県立美術館の広報費の一部を支出した。（文化財活用センター） ・本事業申請要項に掲出する「貸与可能作品リスト」の充実を図るため、文化財活用センターの保存修理費により、東京国立博物館収蔵品 5 件の本格修理を行い、うち 4 件についての修理が完了した（残り 1 件は 4 年度に完了予定）。（文化財活用センター） ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 ・データベースのアクセス件数 ColBase　142,970 件、e 国宝　650,197 件 ・各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した（追加画像数 27,620 枚）。データの自動収集機能を運用し、継続的にデータのアップデートを進めた。（文化財活用センター） ・各施設と連携して、4 館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4 言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「e 国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新、解説文の見直しを継続して行った（追加作品 14 件、解説文更新 12 件）。（文化財活用センター） ・国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」に継続的にデータを提供した。（文化財活用センター） ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 ・文化財保存等の相談・助言・支援の取組状況　81 件 ・文化財保護法第 53 条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している 42 施設を対象として、保存環境調査（53 条調査）を行った。（文化財活用センター） ・公開承認施設の申請を予定している 10 施設に対して保存環境調査を行った。現在までに 2 施設の調査を完	・文化財活用センターでは、これまで国立博物館から作品を借りた実績がない、いわゆる「新規貸与館」2 館（やないづ町立斎藤清美術館並びに那覇市立壺屋焼物博物館）に対し、本事業を通じて収蔵品を貸し出すことがかなった。 また、佐賀県立美術館、奈良県立美術館、桑名市博物館においても、国立博物館収蔵品を核として、各地域出身の画家や彫工に焦点をあてた展覧会が開催された。 貸与先をこれまで以上に拡充し、各地域ゆかりの国立博物館収蔵品を展示する、本事業の趣旨にかなった展覧会が実施された。 ・アクセス件数について、e 国宝・ColBase とも目標値を上回っており、特に ColBase は目標値を大きく上回っている。また e 国宝、ColBase のいずれもデータ、システムともに継続的に改善、充実を図ることができている。 ・新型コロナウイルス感染防止対策の充実に伴い、全国の博物館活動が再び活発化したことから、53 条調査等の対応件数も、コロナ禍以前の水準に戻りつつあり、多数の案件対応を行った。また、保存環境管理に関する研修会や講習会も実施が叶い、人材育成に資することができた。	

		了し、環境調査報告書を提出した（文化財活用センター） ・4年度貸与促進事業に応募した13施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。また、貸与が内定した施設のうち2施設の保存環境調査に着手した。（文化財活用センター） ・3年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース）」を1月17日～21日まで開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（受講者21名）。（文化財活用センター） ・「第3回保存環境調査・管理に関する講習会―空気清浄化のための化学物質吸着剤―」を1月31日に、東京文化財研究所との共催により実施した（受講者 対面8名、リモート20名）（文化財活用センター） ・新型コロナウイルスに適用される消毒薬剤の文化財材質への影響に関する、基礎的な調査研究を行った。（文化財活用センター）	**＜課題と対応＞** いまだ新型コロナウイルスは予断を許さず、事業にも制約が生じているが、研修会や講習会については、参加者の受け入れを増やす方策を講じていきたい。	

4．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）様式

1．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ－２	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
業務に関連する政策・施策	１２　文化芸術の振興 １２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第５号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号 0422

2．主要な経年データ

①　主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	3	3				
	（奈文研）	実績値	―	7	5				
	（共同研究等）	実績値	―	10	8				
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	―	1	2				
	（奈文研）	実績値	―	4	2				
	（共同研究等）	実績値	―	5	4				
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	8	7				
	（奈文研）	実績値	―	0	0				
	（共同研究等）	実績値	―	8	7				
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	―	15	3				
	（奈文研）	実績値	―	0	0				
	（共同研究等）	実績値	―	15	3				
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0				
	（奈文研）	実績値	―	47	63				
	（共同研究等）	実績値	―	47	63				
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0				
	（奈文研）	実績値	―	9	10				
	（共同研究等）	実績値	―	9	10				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
予算額（千円）	3,269,574				
決算額（千円）	3,295,261				
経常費用（千円）	3,256,223				
経常利益（千円）	24,616				
行政サービス実施コスト（千円）	―				
行政コスト（千円）	3,750,135				
従事人員数	90				

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究										
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進										
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	5	5				
	（奈文研）	実績値	－	8	34				
	（計画センター）	実績値	－	13	39				
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	1	1				
	（奈文研）	実績値	－	0	0				
	（計画センター）	実績値	－	1	1				
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究										
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	14	19				
	（奈文研）	実績値	－	6	31				
	（計画センター）	実績値	－	20	50				
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	10	2				
	（奈文研）	実績値	－	0	0				
	（計画センター）	実績値	－	10	2				
（３）文化遺産保護に関する国際協働										
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進										
文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（件）	（東文研）	実績値	－	1	2				
	（奈文研）	実績値	－	1	1				
	（計画センター）	実績値	－	2	3				
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究										
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（件）	（IRCI）	実績値	－	5	5				
（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用										
データベースのアクセス件数（件）	（東文研）	実績値	2,679,886	4,078,322	2,929,768				
	（奈文研）	実績値	11,612,614	14,183,774	9,419,564				
データベースのデータ件数（件）	（東文研）	実績値	－	1,715,186	1,718,006				
	（奈文研）	実績値	－	1,385,920	2,071,434				
公開施設来館者に対する満足度アンケート（%）	（平城宮跡）	実績値	90	90	90				
	（飛鳥）	実績値	85	87	83.7				
公開施設来館者における特別展・企画展の開催数（件）	（平城宮跡）	実績値	2～3	5	5				
	（飛鳥）	実績値	2～3	3	4				
公開施設の来館者数（件）	（奈文研）	実績値	－	57,994	47,853				
学術リポジトリ公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	3,726	3,845				
	（奈文研）	実績値	－	6,962	7,454				
	（計画センター）	実績値	－	10,688	11,299				
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等										
研修成果の活用状況（%）	（東文研）	実績値	80	94	100				

	（奈文研）	実績値	80	100	100				
専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	－	180	214				
	（奈文研）	実績値	－	230	267				
	（協働センター）	実績値	－	119	172				
	（計画学研室）	実績値	－	529	653				
（６）文化財防災に関する取組									
防災・減災のための連携・協力体制構築への取組状況（件）	（防災）	実績値	－	9	68				
文化財防災に関する研修への取組状況（件）	（論文等数）	実績値	－	16	11				
	（刊行物等数）	実績値	－	5	2				
文化財防災に関する普及啓発への取組状況（件）	（防災）	実績値	－	3	6				

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価			
中期目標、中期計画、年度計画			
主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
２．　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和３年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は、下記のとおり	**＜自己評価書参照箇所＞** 以下の詳細からＡと評価した。	評定　Ａ **＜評定に至った理由＞** 　以下に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。 ・学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標ではあるが、令和２年度は計 141 件のところ、令和３年度は計 211 件と前年度から大幅に数が増加しており、着実な研究の積み重ねと積極的な発信が見られた。 ・研究成果の面では、国内外の有形・無形文化遺産の保護に広く資する内容となっており、ナショナルセンターとしての役割を十分に果たしている。 ・東京文化財研究所では新型コロナウイルス感染症拡大の影響の大きい無形文化財について、映像記録を用いた実践事例を集め、関係者間で共有するなど、適時性の高い取り組みを行った。 ・奈良文化財研究所では、石碑に触れずに摩耗した文字などを光で読み取る「ひかり拓本」技術を開発、活用するなど、非常に独創的な調査研究手法が取り入れられている点も評価できる。なお、「ひかり拓本」は令和３年度に特許を取得した。 ・調査研究成果の公開・活用の点では、奈良文化財研究所が全国の文化財に関する約 61 万件のデータをインターネットの地図上で閲覧できる文化財総覧 WebGIS を公開し、本研究所のデータベースのデータ件数が昨年度の 1,385,920 件から 2,071,434 件まで大幅に増加し、機能強化が一層進められた。 ・令和２年 10 月に発足した文化財防災センターは、令和３年度にその活動を本格化させた。地域防災体制の構築や防災技術の研究を着実に進めるとともに、ICOM 日本委員会等と協力して主催者として ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）の年次大会を開催するなど、国際社会において文化財防災に関する中心的機関として役割を果たしたことは評価できる。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** 調査研究成果や、文化財防災センター等の新しい取組について、一部の関係者だけでなく一般の人々に広く伝えられるよう、文化財情報基盤の整備や展示事業、情報発信にさらに工夫を行っていただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・「ひかり拓本」など独自の研究手法の開発や既存手法の活用により、文化財の調査・保存修復に貢献した。 ・文化遺産保護に関する国際共同について、渡航禁止の制約の中、オンラインツールによるコミュニケーションでカバーされた点を評価する。 ・文化財防災に関する取組について、先導役として活動を継続し

			ていることを高く評価したい。また迅速に対応できるよう、プロジェクトとして体制を整備し、現場の解決に向けて対処していることも評価したい。
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究			
①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 〈評価軸〉 ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。 ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 27 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に大きく寄与した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、2 年度は合計 65 件のところ、3 年度は 78 件となった。報告書等の刊行数も同様にモニタリング数値として見ているが、2 年度は合計 29 件のところ、3 年度は 17 件となった（モニタリング指標）。	
	・近・現代美術に関する調査研究と資料集成（東文研） 　30 年に寄贈を受けた美術評論家三木多聞資料のうち、1960 年代の展覧会資料を貼付したスクラップブックを整理・デジタル化し、当研究所ウェブサイトで公開した。	・三木多聞や鷹見明彦といった美術評論家の遺した資料を整理し、ウェブ上で公開した。本事業は、所外の研究者の便に供するとともに、資料の紛失を防ぎ、活用・保存の両面において大きく利するものであった。（東文研）	
	・近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（奈文研） 　仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 98 函～第 109 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、御経蔵第 90 函～105 函の聖教について、書誌事項を検討し、目録を公刊した。当麻寺所蔵の経典の調査を実施し、東 29 函～西 16 函の調書作成を行った。また、当麻寺の堂舎に記された中世～近世の銘文について、赤外線撮影・ひかり拓本測量等の技術を用いて釈読調査を行い、その成果の一部を公表した。	・仁和寺調査では、現在研究が盛んな中世仏教聖教の目録を公表しており、適時性が高い。当麻寺の銘文調査では、通常見落としがちな参詣者の落書きに注目しており、独創性がある。目録の公表は更なる研究を喚起するものであり、発展性がある。調査対象に応じて、紙の調書を取らずに直接パソコンに入力するなどの工夫をし、効率化を図っている。（奈文研）	

	②　無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 〔評価軸〕 ・無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。 〔主な定量的指標〕 特になし 〔関連する評価指標・モニタリング指標〕 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	・重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等（東文研） 無形文化財に関する調査研究として、芸能分野では古典芸能、関連文化財保存技術（三味線、笙、大鼓の革製作技術等）、原材料生産技術（ヨシ）の調査研究を実施し、同時に伝統芸能におけるコロナ禍の影響調査も実施した。 工芸分野では、文化財保存技術（伊勢型紙製作技術）に関する調査研究を実施した。 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成においては、宮薗節（宮薗千穐氏ほかによる古典1曲、新曲1曲）、平家（菊央雄司氏ほかによる復元曲1曲）の実演記録を作成した。 また文化財保存技術映像記録として、琵琶製作技術記録（短編・長編）の作成や、大鼓の革製作技術記録（短編・長編）の映像作成と公開（短編・公開用）を行った。	・コロナ禍と伝統芸能、関連文化財保存技術、原材料生産技術など、緊急性が高く社会的関心を集めるテーマでフォーラムや公開講座を開催し、即時性に鑑みて当該報告書刊行に先んじた記録映像公開を行った点を高く評価した。 森林学、民俗技術、原材料生産等、新たな関連分野との連携による調査・研究を実施した点を、独自性の獲得として高く評価した。 コロナの制約下、対策を講じつつ、継続して実演記録、文化財保存技術の記録映像の作成を行っている点を評価した。（東文研）	
		・重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等（東文研） 風俗慣習調査では、年中行事の調査研究（静岡県静岡市等）を実施した。 民俗芸能調査では、民俗芸能の公開に拘わる調査研究（長野県飯田市・宮城県女川町等）を実施した。 民俗技術調査では民具製作、食文化に拘わる技術等の調査研究を実施した。 無形文化遺産アーカイブスの開発と公開の一環として、被災地における無形文化遺産調査：東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査（宮城県女川町・福島県浪江町等）を実施した。 また、記録保存・活用に拘わる研究として斎藤たま民俗調査カード集成の情報整理や福島県浪江町苅宿地区記録文書アーカイブ構築、「無形文化遺産総合データベース」における情報収集・整理。映像・画像等の収集とデジタル化も行った。 そして無形民俗文化財研究協議会第16回協議会を「映像記録の力 ―危機を乗り越えるために―」をテーマに12月17日に開催し、後日その記録映像をオンラインで配信した（1月15日～2月15日）。	・従来の過疎化・少子高齢化による継承危機や東日本大震災をはじめとする自然災害に拘わる無形文化遺産の調査・研究に加え、2年度より続くコロナ禍における影響についても情報収集を継続し、社会的ニーズに応えている点でも極めて適時性が高い。コロナ禍における対策の一つとして映像記録を用いた実践事例を集め、関係者間で共有する試みをいち早く行ったことが挙げられる。ポストコロナにおける保護体制強化に向けた情報収集を独自に進めている点は、極めて独創的であるといえる。対面調査を基本とする民俗調査においてオンライン調査を試み、コロナ禍での可能性を検証した点が評価できる。また、無形文化遺産のデータベース・アーカイブスの開発と公開、映像・画像等の収集を継続的に実施している。（東文研）	
	③　記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 〔評価軸〕 ・記念物の保存・活用に寄与しているか。 ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。 ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	・我が国の記念物に関する調査研究（庭園）（奈文研） 28年度より実施の「庭園の歴史に関する研究（近世）」では所内外の庭園史、建築史、美術史、歴史の各分野の研究者が執筆した22本の論文が所収した研究論集、『近世庭園の研究』を刊行した。 25年度より継続の奈良市教育委員会との連携研究「奈良市における庭園の悉皆的調査」について、調査報告書を刊行した。 京都産業大学との共催で、同大学ギャラリー企画展「京都の庭を守ったひとたち―森蘊と法金剛院―」及び平城宮跡資料館企画展「奈良を測る―森蘊の庭園研究と作庭―展」を開催、共同の図録『森蘊の世界―奈良・平安の庭を求めて―』を出版した。 森蘊旧蔵資料の整理では、30年度に作成しウェブサイトで公開した目録をもとに、資料等の利用価値を高めるため、資料内容や来歴を確認する整理作業を進めた。また、これらについて各団体等からの資料提供依頼に対して、優先してデジタル化を進めた。	・文化財庭園の保存活用計画の策定や整備工事等が各地で実施される中で、近世庭園史の発展に資する学術を刊行できた。また、京都の名勝法金剛院庭園の修復整備50周年を迎え、文化財庭園修復の草分け的存在、森蘊の業績を紹介することができた。初公開となる森蘊旧蔵資料を利用し企画展を開催、図録を出版することができた。研究論集『近世庭園の研究』を刊行することができ、近世庭園の特徴等を明らかにし、今後の研究の発展に寄与するものと考えられる。また、奈良市における庭園の悉皆的調査でも報告書を刊行することができ、名勝指定等保存活用に資する情報をまとめることができた。（奈文研）	

	・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。 〔主な定量的指標〕 特になし 〔関連する評価指標・モニタリング指標〕 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	・平城宮跡東院地区の発掘調査（第633次）（奈文研） 平城宮東院地区北部の様相解明のための学術調査を行った。 主な検出遺構は、掘立柱建物5棟、掘立柱塀5条、溝7条、土坑9基、石組1条、方形区画遺構、足場等で、主な出土遺物は、土師器、須恵器、瓦、磚、柱根、石器、鉄釘等であった。 大型掘立柱建物や、それに伴う東西塀、南北棟建物、礫敷、石列のほか、方形区画遺構や土坑といった地上式竈関連遺構群等を検出した。大型掘立柱建物は桁行9間、梁行4間の総柱建物であることから、天皇や皇太子の宮殿の中心建物とみられ、東院地区北部に東院地区の中枢施設が存在したことが判明した。また、地上式竈関連遺構群は、大型掘立柱建物やその関連遺構群に先行するもので、奈良時代中頃以前に東院地区北方に厨が所在した可能性を改めて確認した。東院地区の中枢施設の一端が明らかになるなど、重要な調査成果を得た。	・30年度の第595次調査による課題を解決する調査を適時に実施することができた。大型掘立柱建物の上部構造を明らかにするため柱穴の断面調査に尽力した。東院地区北方の土地利用の実態についてその一端を把握し、新たな課題を得た。迅速な調査を心がけ調査期間及び費用の削減に努めた。（奈文研）	
		・古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行（奈文研） 第21回シンポジウム「鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ　―鬼瓦―」を開催した。直前に新型コロナウイルスの感染が拡大したため、ウェブを利用したオンライン配信のみのシンポジウムとした。 研究発表は岩戸晶子「奈良の鬼瓦」ほか、口頭発表9本・誌上発表5本の計14本である。多くの発表により、全国の鬼瓦の出土状況、時代による変遷、地域間の系譜関係等が明らかとなった。また、発表と合わせて全国各地から出土した鬼瓦資料の集成を行った。シンポジウムに際しては、発表要旨集及び鬼瓦集成表を編集・刊行し、参加者等に配布した。また、第20回シンポジウム報告書『古代瓦研究XI 鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ　鴟尾』を刊行し、研究成果の公開を行った。	・全国で初めて古代の鬼瓦を対象としたシンポジウムを開催し、その製作技法や全国での分布及び編年、系譜関係について多くの新知見を得ることができた。今後、全国での新資料の認識を深めるとともに、東アジアにおける鬼瓦の起源や朝鮮半島、日本への伝播に関する研究にも大いに寄与することができた。また、発表要旨集は印刷製本すると同時にPDFデータ作成、鬼瓦集成表については予算削減のためPDFデータのみ作成し参加者に配布することで、成果物の迅速な配布と経費節約に努めた。2年度に開催した鴟尾のシンポジウムと連続して議題とすることにより、棟の端に据える特殊な屋根瓦を一体的に捉え、その機能と構造に関してより深い理解を得ることができた。（奈文研）	
		・水中文化遺産に関する調査研究（奈文研） 文化庁の「水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業」（第2期）を受託し、水中遺跡保護の具体的手法を全国に周知するためのてびき書である「水中遺跡ハンドブック」の作成に向けた検討	・海底遺跡出土遺物の劣化メカニズムを明らかにするための課題に取り組み、文化庁が重点的に取り組む「水中遺跡ハンドブック」の編集及び分担執筆を行った。これまでの調査・研究成果を受託事業にも活かすことにより、水中遺跡保護の推進に効率的に寄与	

		を進めてきた。4年3月31日刊行の本書において、これまでの調査・研究成果を活かし、「第5章　水中遺跡と出土遺物の保存と管理」を執筆することにより、水中遺跡保護の推進に大きく寄与した。 鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船の保存状態モニタリングの一環として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度の計測、及び同環境に設置した木材と炭素鋼供試体を回収し、それらの劣化量から腐食速度を評価した。検討の結果、引き続き溶存酸素が枯渇した環境が形成され、供試体の劣化も極めて緩慢であったことから、元軍船の劣化進行を抑制する環境が形成されていることを確認した。 博物館の展示環境下において、腐食の進行が確認された海揚がりの銅製遺物について、2年度に引き続き腐食生成物の同定を試みるとともに、腐食が進行した遺物の再処理方法について検討した。 ・学術雑誌等への論文掲載数78件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数17件 内訳はアウトプット情報を参照	することができた。松浦市及び國學院大学と連携することにより、鷹島海底遺跡の元軍船の保存に効率よく取り組むことができた。また、研究員が自ら定期的に潜水し、海底における埋蔵環境の計測と試験片を用いた海底暴露試験を実施することにより、元軍船の状態を継続的にモニタリングすることができた。（奈文研） **＜課題と対応＞** ―	
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ① 文化財の調査手法に関する研究開発 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 以下19件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研） 　デジタル画像の形成方法の研究開発では、他のプロジェクトと連携、あるいは外部からの依頼により、黒田記念館の黒田清輝作品のうち油彩画や首里城火災による被災文化財など多数の文化財の光学的調査、記録作成を実施した。調査にあたっては、近赤外光や蛍光を含む可視光全域を記録可能なカメラとレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。ガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査を継続して実施し、沖縄県立博物館・美術館の共同研究の一環として、仲座久雄氏旧蔵ガラス乾板の関連調査、伊藤延男氏旧蔵ガラス乾板の調査とデジタル化を行うとともに、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。 　研究成果の公開では、報告書『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』、『宮内庁三の丸尚蔵館 所蔵国宝 絹本著色 春日権現験記巻十一・巻十二　光学調査報告書』を刊行した。プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し、光学調査の成果発信として東京国立博物館所蔵平安仏画ウェブコンテンツを公開した。また、上記プロジェクトと連携し、9月21日に文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」を東京文化財研究所で開催し、59人が参加した。 ・文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するための ICT を用いた普及・啓発手法の開発（奈文研） 　XR を利用した発掘調査支援や成果公開などへの実装を目的として、5G ネットワークと VR ゴーグルなどを導入した遺跡の発掘調査現場と遠隔地を双方向に結ぶリアルタイム共有を試行し、調査手法の向上と知見の拡大及び成果公開に資する可能性があることを確認した。 発掘調査等の成果を主に小中学生向けに分かりやすく伝えるため、近年プログラミング教育や SDGs 教育に導入されているサンドボックスゲーム「Minecraft」の応用を試行した。具体的には遺跡の発掘調査時に三次元計測によって取得した実物の三次元データなどをボクセルデータ化し、Minecraft の世界に取り入れ、想像ではなく科学的調査・知見に裏付けられた、実在する文化財を体験できる仕組みの構築を進めている。 ・物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究（奈文研） 1）当研究所都城発掘調査部、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市埋蔵文化財センター等の発掘調査現場で検出された地震と火山噴火の災害痕跡を調査するため、様々な粒径構成堆積物に対応した試料採取方法の開発に取り組んだ。その中でアクリルケースを用いた地質切取試料法と、トマック NS-10 を用いた地層転写法について採取方法を工夫し、粒度組成や堆積構造調査の精度を上げる実験を試みている。また堆積物の粒度組成、色相解析を現場で効率よくデータ化する手法の開発に向け、MR 技術の導入をし、光学技術によるデータ取得システムの開発を進めている。さらに「ひかり拓本」技術を用いた災害碑データの集成作業を行った。 2）高出力 X 線 CT や低出力 X 線撮像システムによる X 線透過率解析技術や、「ひかり拓本」技術の開発を進め、調査対象物の形質や物質組成データの抽出方法の開発を行った。特に「ひかり拓本」については、3年度に特許を取得した。 3）GIS 型の横断検索データベースの構築を進め、埋蔵文化財から取得される被災履歴地域の視覚化、史料に記載される災害情報の実体化を進め、防災・減災研究の基盤構築に努めた。	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した本研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、2年度は合計60件のところ、3年度は89件となった（モニタリング指標）。報告書等の刊行数は2年度合計11件のところ、3年度は3件となった（モニタリング指標）。 ・独自に開発・選択した技術・機材を活用した可視光の全域による記録を伴う光学調査を実施できた。スキャナではなくカメラを用いたガラス乾板のデジタル化により一層鮮明で情報量の多い画像が取得可能で、乾板に記録された色のより正確な再現が期待され、高く評価できる。春日権現験記絵光学調査報告書を継続して刊行し、また所外からの依頼及び他プロジェクトとの連携も行い光学的調査を継続的に実施した。また、プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し実施したセミナーは、文化財保護法改正により未指定を含む文化財の把握や記録作成を求められる文化財担当職員の要請に応えた内容とすることができた。（東文研） ・ICT の応用によるプログラミング教育・地域学習・ポストコロナ社会を見据えたリモート参画に対応した研究に取り組み、文化財の調査成果の公開に寄与する研究を進めている。5G 高速通信や XR 及びゲーミフィケーションなど新たな技術等の導入を進め、研究成果の一層の発信を支える研究を行った。今後全国の自治体など調査機関や学校で活用できる技術の基礎研究を行うことで、我が国の文化財普及・啓発手法の発展に大きく寄与できる。省力化や自動化の研究など、効率的な仕組みを支援する技術を確立しつつある。以上より、従来からの研究資産を継承し発展させる研究を推進できた。（奈文研） ・災害発生頻度の増加と防災・減災への取り組みが社会全体で提唱されるなか、地質学的構造検証と歴史学的情報検証の両面から過去の被災履歴の解明に取り組み、災害発生や被災メカニズム解明に向けた研究基盤構築を進めている。これまでに考古学、地質学、歴史学が連動して災害履歴の解明や、防災・減災研究の基盤構築のための手法開発を行ったことはなく、独創性としては極めて高い。データの取得方法やデータの客観性の担保など、今後の技術的な発展性が高く、さらにそれらの技術を通して抽出される防災・減災研究推進に向けた情報提供の重要性は言を俟たない。史・試料調査法や解析法技術の蓄積が始まっており、今後それらの醸成が大きく期待される。（奈文研） **＜課題と対応＞** ―	

② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
〔評価軸〕
・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか
〔主な定量的指標〕
特になし
〔関連する評価指標・モニタリング指標〕
・具体的な研究成果（評価指標）
・論文等数（モニタリング指標）
・報告書等の刊行数（モニタリング指標）

＜主要な業務実績＞
主な研究成果は以下のとおり。

・文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策（東文研）
木造の文化財建造物で竹材の加害痕跡にある虫糞を用いて、PCR 法を応用した分子生物学的手法によって加害種を特定する技術を確立し、その成果を論文として発表した。
DNA を識別子とした文化財害虫の検出システム（DNA バーコーディング）構築に向けて、新たに文化財害虫の収集を進め、形態学的、分子生物学的解析を経て国際機関へのデータ登録を進めた。
湿度制御温風処理の技術開発に関して、専門家研究集会に参加し（12 月）、国内 3 例目の実証実験に向けた準備を進めた。また、これまでに開発した殺虫処理効果判定法の供試虫の変更に向けて人工飼育法確立の検討を進めた。
博物館・美術館等での環境カビ測定法の標準化と基準値策定に向けた基礎研究として、アデノシン三リン酸（ATP）測定法を活用した調査を行い、収集したデータの統計学的解析を進めた。
国内の鍾乳洞や古墳環境において行った微生物叢解析のデータ解析を進め、微生物劣化に関わる群集の特定や生態学的な役割や物質循環に関する基礎研究を進めた。

・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研）
可搬型分析装置を用いたその場分析では、可搬型蛍光 X 線分析装置による材料調査として、平等院鳳凰堂の鉄製金具に施された装飾について新知見を見出すとともに、平安期から江戸期の絵画や経典に使われている顔料についてデータの蓄積を図った。また、可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた分析方法・分析条件の最適化を行い、既知の試料を用いた標準データの取得を行った。
現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析、及び化学物質の発生源の調査を実施した。また、真鍮製品表面の腐食生成物の分析、及び保存対策に関する考察を行った。
それらについての論文 2 件、学会発表 2 件の研究成果発表を行った。

・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研）
3 年度は「文化財修復のための技術と材料に関する調査研究」と「伝統材料・技法に関する複合的調査研究」の 2 項目に分けて事業を推進した。
文化財修復のための技術と材料に関する調査研究の研修事業としては、「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」を 9 月 29 日より 3 日間で開催した。これは文化財修復に関する科学の研修としては、国内初めての試みであり、大学の教授職や修復技術分野での責任者等の応募も多く、開催後のアンケートも好評で継続を期待するものであった。また、実際の研究としては酵素を使用して過去に使用したデンプンの除去の検討やフノリ精製方法の検討と評価、補絹に用いる劣化絹の新規作成方法の実験開始など、様々な研究のスタートアップを行った。
伝統材料・技法に関する複合的調査研究としては、文化庁の行う美術工芸品修理に用いる用具・材料の調査に協力し、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、科学的な評価と安全な保存方法の検討を行っている。3 年度は、ノリウツギについて、その保存に用いられる薬剤が環境被害が懸念されるものであるため、代替手法の検討実験を開始した。また、生産が途絶えた刃物などについて形状記録を取るため 3D スキャナーを購入し、現場との調査方法の検討を行い、4 年度以降のデータベース作成の基礎資料とした。

・高松塚古墳、キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力（奈文研）
高松塚古墳壁画に用いられた色材について検討するため、西壁石 2 及び北壁石にて可視分光分析を行った。壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用について検討を進めた。高松塚古墳の目地漆喰を対象に平衡含水率測定、X 線 CT 撮像を行い水分移動性状の推定を行った。また、2 年度に引き続き石材輸送実験を行い、南壁石を除く 15 石について輸送時の振動、加速度測定を終えた。
キトラ古墳壁画を安定に保存する温熱環境を検討するため、東文研材料調査班が作成した模擬漆喰について水分移動性状及び機械特性の評価を行った。キトラ古墳壁画に使用された色料を推定するため、南壁及び北壁について壁画の分光分析を実施した。

＜評定と根拠＞
当機構が設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。
また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に大きく寄与した。

・環境低負荷型の殺虫処理が求められる社会情勢の中で、今後需要の拡大が期待される文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理法の社会実装に向けた応用研究を進めている。分子生物学的手法を応用して文化財保存の分野で重要な課題であった文化財建造物の害虫を虫糞から特定する技術を確立した研究成果は独創的である。竹材害虫の虫糞から分子生物学的手法によって加害種を推定する手法の確立に成功し、今後の展開が期待される。博物館・美術館等での環境カビ測定法の標準化と基準値策定に向けた基礎研究において、他機関と連携協力体制を作り効率よく継続した研究を遂行することができた。（東文研）

・鉛の腐食と同様に相談を受けることの多い真鍮の腐食に関する分析調査に、中期計画の初年度に着手することができ、科学的に新たな知見が得られた。また、現代アート作品に用いられている鉛が腐食する化学物質の発生源を特定するための手法を独自に創出し、類例の少ない調査を実施した。従来文化財への適用例が非常に少ない可搬型ハイパースペクトルカメラを既知の試料を用いた標準データの取得を行い、同装置の実用化に向けて大きく進めることができた。分析調査の効率を上げるために、蛍光 X 線分析及びハイパースペクトルカメラを固定する治具の改良を行い、現地調査に適用した。また、日本絵画等に関する材料調査結果を蓄積し、報告書の刊行を行った。（東文研）

・途絶の危機にある伝統材料や用具についての記録や調査は喫緊の課題である。伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点が他組織では行われていない上に、文化財修復に関する科学的な技術の開発という独自の視点を持つ。得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や伝統材料・技法の記録保全や提言が見込まれる。2 年度までの研究成果を元に本計画を遂行し、今後、これらの成果を文化財修復の現場や美術史研究へ還元できる見通しを立てることが可能となった。（東文研）

・高松塚古墳では、新たに開発した X 線回折分析装置を用いて壁画を安全に分析するため、調査の際に装置を固定する治具を開発し、壁画へ適用可能なものとした。また、空調による壁画の保存環境におけるリスク評価を行い、将来建設される新施設の保存環境について検討した。将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討を行うために、石室石材及び漆喰についての水分移動物性に関する基礎データを収集することができた。
キトラ古墳では、漆喰の水分移動性状や機械特性などの基礎物性値を求め、空調に依存した展示、収蔵環境下でのリスク評価及び過度に空調に依存しない収蔵環境の可能性について検討した。漆喰の水分移動性状に関する基礎データを収集しており、これらの結果から壁画を一層安定した状態で保存する環境

	た。キトラ古墳壁画に対する防塵を目的とした蓋の設置の可否について検討するため、蓋のモックアップを用いた蓋内外の温湿度計測を実施した。 ・学術雑誌等への論文掲載数　89 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　3 件 内訳はアウトプット情報を参照	条件を構築することが期待される。これは上記のとおり、過度に空調に依存しない展示、収蔵環境の可能性を検討するもので、省エネ、持続性の観点からも発展性が期待される。（奈文研） **＜課題と対応＞** **―**	
（３）文化遺産保護に関する国際協働			
①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 〈評価軸〉 ・文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担っているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）	**＜主要な業務実績＞** 11 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数　3 件 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」（東文研） 　各種情報収集の成果を国内に還元するために毎年行っている世界遺産研究協議会については、2 年度からの 2 か年連続テーマとして設定した「文化財の『整備』を対外的にどのように説明するか」という内容につき、事例報告、討論に分けてオンラインで配信を行うとともに、報告書を刊行した。 　また、カナダの主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その概要に関する説明（カナダ政府の元担当者に依頼）と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［26］カナダ』として刊行した。 ・「アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業」（奈文研） 　3 年度は、2 年度から引き続きカンボジア・アンコール遺跡群・西トップ遺跡の調査修復事業において中央祠堂の再構築作業を行った。中央祠堂躯体部の再構築を進めており、10 月以降は遺跡周辺の再調査により新たな装飾石材が発見され、破風飾りの再構築を行った。3 年度もコロナ禍のため日本から現地へ渡航することが困難であったが、現地のカンボジア人スタッフが修復事業を着実に進捗させ、中央祠堂の再構築が最終段階に入った。日本・カンボジア間でオンラインでの技術的・事務的なミーティ	**＜評定と根拠＞** 当機構では、文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開し、文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に大きく寄与したといえる。 諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数は、2 年度は合計 1 件のところ、3 年度は 3 件となった。 ・我が国の世界遺産保全・推薦に際して常に課題となっている「整備」をどう説明するかというテーマを取り上げ、これについて議論することを通じて文化遺産の保存・活用の最新の国際動向を把握し、詳細かつ時宜に適う提供ができた。 　文化財保護法令シリーズにおいては、多様性を重視していることや連邦制に基づくシステムなどに特徴を有するカナダを取り上げ、26 冊目を刊行することができた。法令の翻訳のみならずその背景に関する詳細な説明を付し、また世界遺産の保全について議論を展開するなど、国際情報の国内外への発信に発展を得た。（東文研） ・アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復として国際的な評価を受けている。新たな学術的な成果を得ていると同時に、カンボジア人研究者や修復に携わる作業員の人材養成の面においても今後の更なる発展が見込まれる。平成 5 年度からカンボジアと共同研究を進めているが、西トップ遺跡における調査修復に関しても前中期計画からの修復を継続できている。今中期計画においてはテラス遺構と周辺の整備を行う予定である。（奈文研）	

	ングを経れば、カンボジア人自身の手で文化財の修復を進めることが可能となっている。なお、例年、年 2 回開催される国際調整委員会のうち、6 月はキャンセルされ、4 年 3 月には現地カンボジア調査員による発表を行った。	**＜課題と対応＞** 3 年度も新型コロナウイルスの影響により、渡航が困難になったがオンラインでのミーティング等を活用し、協働事業を継続した。	
②　アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 〈評価軸〉 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）	**＜主要な業務実績＞** アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究（IRCI） アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関し、以下の調査研究事業を通じて、無形文化遺産保護及びそのための研究促進に貢献した。 (1)無形文化遺産保護パートナーシップ事業（文化庁受託事業） 　①アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する第 3 回 IRCI 研究者フォーラム 　②アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 　③無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントについての研究 (2)無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育とまちづくり　（ユネスコ未来共創プラットフォーム事業） (3)新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響についての調査研究（文化財保存活用基金） ・現地機関・研究者と連携した質問票調査の実施（対象国：フィジー、イラン、インド、韓国、キルギス、パプアニューギニア、モンゴル、インドネシア、バングラデシュ）（回答数 140 件（3 月 31 日時点）） ・オンラインによる無形文化遺産実践者・コミュニティに向けた質問票調査の実施（4 年 1 月～2 月）（回答数 35 件） (4)情報公開等 　①『IRCI 概要 2021』日・英版作成 　② IRCI 10 周年アンケート調査 ・国際協力事業実施件数：5 件、国際会議等開催件数：5 件、国際会議出席件数 8 件、刊行物 5 冊	**＜評定と根拠＞** 研究者フォーラム（(1)①）、アンケート調査（(4)②）では、IRCI 開設 10 周年を捉え研究の進展・課題を整理し次期中長期計画にも反映できた。また災害リスクマネジメント（(1)③）、新型コロナウイルス（(3)）に関する事業は、緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できる。無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究（(2)）は国際的枠組である SDGs への貢献を目指すものである。これらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きい。また持続的研究情報収集（(1)②）でも課題を整理できた。 **＜課題と対応＞** 年度半ば頃まで採択の可否がわからない競争的資金に依存しており、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてある。	
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	**＜主要な業務実績＞** 10 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。		
①文化財情報基盤の整備・充実 【指標】 ・文化財に関するデータベースのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】		**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用を行った。文化財に関するデータベースのアクセス件数は 12,349,332 件で、前中期目標の期間の平均値 14,292,500 件に比べ減少した（86.4%）。関連指標で	

・データベースのデータ件数 〈目標水準の考え方〉 ・文化財に関するデータベースのアクセス件数については，研究の進展等にも資すると考えられることから，データベースの充実に取り組むとともに，文化財に関するデータベースへのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上を指標とする。	・文化財情報基盤の整備・充実（東文研） 「総合検索」として横断検索が可能なウェブデータベースを中心に、既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システム Oracle による所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。さらに、ソーシャルメディアによる情報発信を適宜実施した。 ・文化財に関するデータベースの充実（奈文研） 従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データを入力・更新した。また公開データベースを更新した。 全国遺跡報告総覧の登録データ件数（括弧内は2年度件数） PDF 数　31,089 件(27,761)、書誌登録数　113,050 件(88,067) 遺跡抄録件数　139,393 件(135,663) 全国の博物館等の文化財関係機関が作成している紀要論文等の情報を集約した「文化財論文ナビ」・「文化財総覧 WebGIS」を公開した。それぞれの既存の文化財報告書・文化財イベント・文化財動画・文化財論文と類似度を自動算出しており、関連コンテンツを自動提示できるようになった。文化財総覧 WebGIS は、全国 61 万件の文化財データを検索できる。 ・文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究（奈文研） 災害が多発する日本において、データの安定的な長期保管は課題である。また災害時でも可用性を高めるためには、ストレージのクラウド化が有効である。当研究所では、3 年度にクラウドストレージを導入し、文化財データの長期保管の実践に向けた基盤構築に着手した。 研究報告第 34 冊『文化財と著作権』他を刊行した。文化財の利活用において、特にデジタル化の際には著作権について、課題整理が難しい場合が多い。原因は現場担当者では著作権への対応がわからないためである。そのため、問題となりうる著作権について専門家と課題整理を行い、整理した結果を取りまとめたものとなっている。当研究所研究員、弁護士、大学の法学部教授と作成し、リーガルチェックを経ているため、今後の実践的なガイドとして有用である。 ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（東文研）	あるデータベースのデータ件数は、2 年度は 3,101,106 件の所、3 年度は 3,789,440 件であった。 ・ウェブデータベースは WordPress により職員が開発した多様なデータベースの速やかな公開が可能なもので、ウェブコンテンツは最大で長辺 96,000 ピクセルの超高精細画像を自由に拡大表示可能で、蛍光 X 線分析データの特徴と分析箇所のマクロ画像を連携して表示し、また全分析データの画面上でのソート、検索を可能とするなど独創性が高い。また、横断検索可能で、データベースの相互連携も図られ、一層の発展が期待できる。（東文研） ・最新のデータを提供して充実を図っており、国民から活発に利用され、文化財情報のインフラとして機能している。7 月に文化財総覧 WebGIS を公開した。全国の文化財に関するデータ 約 61 万件 をインターネット地図で閲覧できるようになり、公開時は多数のメディアで取り上げられた。既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。全国の自治体や博物館など既に 1,335 機関が本事業に参加している。またデータ基盤の統合によって経済性・保守性を向上させるとともに、大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年に渡って実現しており、データベースへのアクセス件数の定量的評価の観点においては目標値を下回ってしまったものの、上記のとおり、内容豊かなデータベースとして著しく発展している。（奈文研） ・災害が多発する昨今の状況に鑑みて至急必要な実践研究である。全国的な課題に取り組む当研究所ならではの研究であり、代表的な研究成果は全国に適用できる。文化財データの長期保管や法律面の課題は、日本全国あるいは世界共通の課題となっており、実践を深めていくことで、国内外に大きな影響を与えることができる。また、文化財情報係図書担当と連携し、4 年度以降も継続して事業を継続するための基礎を確立できた。（奈文研） ・オープンアクセス資料をさらに増加したほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」（1,400 件）を作成、ウェブ公開をした。 また、当研究所が所蔵する蕪村筆「寒山拾得図」の調査写真を活用し、最先端の画像形成技術を応用して独創的な共同研究を進めた。 当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業をコロナ禍の中、継続でき、質的な向上を達成できた。また、アーカイブ WG とも連動して、専門性・独自性の高い研究アーカイブの構築と活用を戦略的に推進した。（東文研）

	当研究所が所蔵する昭和 30 年代の文化財調査写真を利用し、現代の画像技術を応用して、現在損傷を受けてしまっている、与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」の復原を、所蔵者の妙法寺（香川県丸亀市）と共同研究として開始した。調査撮影を行い、その成果の一部を口頭にて発表した。 文化財防災への活用も見据えて、文化財の情報収集、データベース入力、売立目録デジタルアーカイブの改良を行い、文化財アーカイブ機能を更新したほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」を作成、公開した。	**＜課題と対応＞** ―
②調査研究成果の発信 【関連指標】 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数		**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり調査研究成果の発信を行ってきた。学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数について、2 年度は 10,688 件のところ、3 年度は 11,299 件であった。
	・文化財に関する調査研究の成果について、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信した。（東文研、奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。（東文研、奈文研） ・なぶんけんチャンネルを開設以来、年に十数本の動画を公開し、すでに 91 本の動画を公開するに至った。（奈文研）	・3 年度も各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。（東文研、奈文研） ・第 126 回公開講演会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催方法をなぶんけんチャンネルによる配信に変更し、コロナ禍における新たな研究成果の発信に取り組むことができた。（奈文研）
③展示公開施設の充実 【指標】 ・公開施設来館者に対する満足度アンケート（特別展・企画展）（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） 【関連指標】 ・公開施設における特別展・企画展の開催件数（年２～３回程度） ・公開施設の来館者数 〈目標水準の考え方〉 ・奈良文化財研究所の平城宮跡資料館・飛鳥資料館は，発掘調査等の研究成果を適時に展示することが重要であり，特別展・企画展については，定期的又は定量的な指標を示すことが困難であるため，来館者に対する満足度アンケートの満足	・平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開において、以下の展覧会を開催した。（奈文研） ○平城宮跡資料館 ・春特別企画展第一部「平城宮跡保存運動のさきがけー大極殿標木建設式 120 周年ー」 （4 月 29 日～6 月 27 日。うち 5 月 2 日～6 月 20 日は臨時休館。）（9 日間、688 人）。 ・夏企画展「奈良を測るー森羅の庭園研究と作庭ー」（8 月 7 日～9 月 12 日）（32 日間・1,157 人） 上記のほか、計 4 展の特別展を開催した。	**＜評定と根拠＞** 3 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、平城宮跡資料館及び飛鳥資料館は 5 月 2 日から 6 月 20 日、藤原宮跡資料室は 5 月 1 日から 6 月 20 日まで臨時休館としたが、それぞれ計画どおりの特別展、企画展を開催できた（平城宮跡資料館と飛鳥資料館で計 8 回）。特別展、企画展の満足度アンケートの満足度は、目標水準値が 85%のところ、平城宮跡資料館の満足度が 90%、飛鳥資料館の満足度が 83.7%となった。入館者数は、平城宮跡資料館で 25,264 人、飛鳥資料館で 17,363 人、藤原宮跡資料室で 5,226 人であった。 ・平城宮跡資料館にて平城宮跡の保存のきっかけともなった大極殿標木建設式 120 周年にあわせ、初期の平城宮跡の保存運動を紹介した。これは 4 年度の平城宮跡史跡指定 100 周年関連企画のプロローグでもある。また、展示に関する動画を 4 本作成し、動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて配信し、今後の展示活動への動画の活用について礎を構築することができた。

度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持することを目標とする。	○飛鳥資料館 ・秋特別展「屋根を彩る草花ー飛鳥の軒瓦とその文様」(10 月 15 日～12 月 19 日)(57 日間・7,353 人)。上記のほか、計 4 展の特別展を開催した。 ○藤原宮跡資料室 ・常設展示に加え、ロビーにて「藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第 205 次)」、「石神遺跡 SD1347・1476 出土土器(石神遺跡第 8・9 次)」(10 月 1 日～3 月 31 日)を実施。	飛鳥資料館の「屋根を彩る草花ー飛鳥の軒瓦とその文様」は、飛鳥時代を特徴づける瓦のさまざまな文様とそのルーツ・変遷に迫る内容であり、飛鳥資料館ならではの企画であった。会場の造作も好評であった。(奈文研) **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館、入館者数の減少などは続いているが、特別展、企画展の満足度は高い水準を維持している。4 年度も感染対策を徹底し、ウェブサイトによる動画配信を含め展示の充実を図っていく。	
(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ①文化財に関する研修の実施 【指標】 ・研修成果の活用状況(アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上) (目標水準の考え方) ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は,我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては,各研修の目的,項目及び課程等の研修体系を策定するとともに,アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し,適宜研修プログラム等に反映する。	**＜主要な業務実績＞** 22 件のテーマを設定し、研修及び協力等を実施した。 研修等に関して主な実績は以下のとおり。 ・第 1 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7 月 5～9 日、受講者 16 人)。これまでは文化財活用センターと東京文化財研究所とで共同で開催してきたが、3 年度から基礎的な内容は文化財活用センターが博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)として実施し、上級コースはより実践的な内容の研修として保存科学研究センター等が行った。研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、参加者から有益と評価された。(東文研) ・文化財担当者研修は、新型コロナウイルス対策として、規模を縮小(定員 10 名)とした上で研修を行った。遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 13 課程の研修を実施し、延べ 139 人が受講した。研修受講に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。(奈文研)	**＜評定と根拠＞** 当機構では下記のとおり研修及び協力等を行った。アンケートによる研修成果の活用実績は、目標値 80%のところ、100%となり目標値を大幅に上回った。 ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、新型コロナウイルス対策のため、講義、実習方法を検討したうえで開催した。これまで実施してきた研修から上級コースの必要性を明らかにした上で、当研究所の特徴を生かした保存・活用についての多様な講義を実施し、研修の効果を確認することができた。上級コースとして新たな研修を当研究所における最新の調査研究に基づく講義や博物館の防災といった時勢を踏まえた講義も実施した点を評価した。また外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができた。地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存の意識を高めることができた。(東文研) ・「文化財担当者研修」は、史跡等保存活用計画策定課程、遺跡 GIS 課程など、公共性、緊急性が高い研修を行った。いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。また、最新の知見・技術の紹介を講義に盛り込み、全国的な水準向上に対応した。また、遺跡 GIS 課程などにおいては、オンラインによる講義を積極的に実施した。講義・実験室の密をさけるため、対面での講義の定員数を 10 名以下に限定したが、かえってかなり深く掘り下げた講義が実施でき、研修成果の活用状況も 100%となり目標を達成した。(奈文研) **＜課題と対応＞** ―	
②文化財に関する協力・助言等 【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言	協力・助言については、以下の内容で 653 件実施した。	専門的・技術的な援助・助言件数については、内容に応じて都度検討することになるので、モニタリング数値として見ているが、2 年度は東文研、奈文研、文	

の取組状況(行政,公私立博物館等の各種委員等への就任件数,依頼事項への対応件数等) (目標水準の考え方) 行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め,博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については,内容に応じて都度検討することとなる。したがって,あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため,援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	(東京文化財研究所) ・文化財の収集、保管に関する指導助言　28 件 ・無形文化遺産に関する助言　41 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言　36 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言　49 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言　20 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言　40 件 (奈良文化財研究所) ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言　213 件 ・地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言　43 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言　6 件 ・地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援協力　5 件	化財活用センターでそれぞれ 180 件、230 件、119 件だったところ、3 年度は 214 件、267 件、172 件となった。 ・「文化財の虫菌害に関する調査・助言」では、主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。対応件数は合計で 36 件あり、電話、電子メール、WEB 会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い現地の問題解決に努めた。相談内容は、虫菌害の同定相談から殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、屋外の木造建造物の甲虫害、遺構や古墳などでのカビ発生、藻類の発生など生物種を問わず多岐にわたる相談があった。特に木造建造物の甲虫害については相談件数が多く、一年を通して対応が必要な案件もあった。現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を 5 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。(東文研)	
	(文化財活用センター) ・文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力　172 件	・「文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力」では、近年顕在化している空気環境の問題と改善に関する相談件数が多く、個別事情に応じた対応に努めた。環境改善への協力において、複数の手段を講じ、比較することにより、より良い方法の探求を行った。効率性においては、必要に応じて、電話やメールでのやり取りと、現地調査を使い分け、個々の事情や緊急性に勘案した対応に努めた。また、提示した改善方法での経過追跡やアフターケアに努め、必要に応じて、機材や資材の貸与も行った。(文活)	
	・28 年熊本地震による熊本県下の被災装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に委員として職員を派遣した。 ・江田船山古墳、塚坊主古墳など熊本県内の被災古墳について石室内部にセンサーを設置し、温湿度データを収集し、データの解析を行った。 ・塚坊主古墳の地形及び物理探査を行い、墳丘内部の状況と地震の影響を把握した。(奈文研)	・熊本地震により被災した装飾古墳の復旧支援を実施しており、現在危機的な状況にある被災古墳についての対応を適時的確に実施した。被災装飾古墳への復旧支援として、地形計測・物理探査手法による地表及び地中の状況の把握、石室内部の環境モニタリングといった調査を実践しており、これを複合的に行うことで被災古墳全体の情報を把握している。また、地震や水害等の災害に対しての対応の先行事例を蓄積することにより、今後の文化財の防災・減災に資する情報を収集できている。新たな手法の活用や、継続的なモニタリングを遠隔地より集約できる試みを通じて、より多数のデータを低コストで利用可能になっており、効率性も上がっている。また、各調査の長期・短期にわたる目標と計画を策定し、地方公共団体の担当者を含めて事業を遂行している。(奈文研)	
	・蓄積されている調査研究の成果を活かし、以下のとおり他機関等との共同研究及び受託研究を実施	2 年度も地方公共団体等の要請に基づき、研究所の培ってきた調査研究の成果を活かし、的確に受託研究	

		した。 ・受託研究６件、共同研究３件（東文研） ・受託研究 39 件（奈文研）	を遂行することができた。（東文研）（奈文研） 　また、「令和３年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業」（委託者：文化庁）においては、水中遺跡の発掘調査に係る具体的な調査の手法や技術をまとめた調査マニュアル『水中遺跡ハンドブック』を作成し、全国の地方公共団体等に配布することで、水中遺跡の発掘調査技術の普及啓発に大きく寄与することができた。（奈文研） **＜課題と対応＞** ３年度も、新型コロナウイルスの影響で、現地での協力・助言は制限されているが、オンラインシステムを活用する等、様々な対象に対して協力を行った。今後も各地方自治体や団体との信頼関係の構築のため、引き続き活動を推進する。	
	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	**＜主要な業務実績＞** 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等以下のように協力した。（奈文研） ・南門復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。また、会議に先立つ勉強会で講師を務めた。 ・定期的に工事進捗状況等を写真撮影（計 17 回）、写真データの整理に協力した。また、第一次大極殿院南門の復原工事に伴い、各機関で記録撮影された写真データの一括整理作業に協力した。 ・第一次大極殿院南門の解説資料の作成に協力した。 文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力において、下記のとおり実施した。（奈文研） ・キトラ古墳壁画の第 19 回～第 22 回公開の実施に際し、広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応）、解説映像、解説音声の作成に協力した。 ・史跡パンフレットのスペイン語版を新規作成し多言語対応を充実させた。 ・キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベントの運営とそれに関わる広報物作成等に協力した。 ・四神の館の開館５周年イベントに協力し講演等４回を実施した。 ・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画の十二支」を企画し、展示と解説シートを作成に協力した。 ・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力を行った。（奈文研） ・国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応してきた。具体的には２年度に引き続き第一次大極殿院南門復原建物工事に対して学術的根拠をもった資料提示と研究成果を提供した。また、29 年度から開始した南門復原工事に対して、一貫して多方面からの研究協力を継続して実施してきた。また、工事の過程を継続的に撮影し、工事記録の作成を行った。（奈文研） ・国営公園の５周年イベントへの協力は当初予定されていなかったが公園側との協議により柔軟に対応し活性化に協力できた。また、年末年始に東アジアの古代十二支について展示するなど、古墳壁画の展示らしい独自性を出した。壁画公開やプラネタリウムイベント等への協力を継続できており、コロナ禍でも客数の減少が抑えられるなど、固定客層の形成と安定的な集客が実現できている。（奈文研）	

		理センターほかと月１回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い広報等についても協力した。 ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における、会場提供等及び情報共有のための会議開催の協力を行った。（奈文研） ・MPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（計 12 回開催） ・周辺自治会等への協力として、自治会主催の歴史教室への講師派遣の協力を行った。	・NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月１回実施する等、継続して連携協力関係を維持している。 また、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、当研究所の研究成果を広く情報発信することができた。（奈文研） **＜課題と対応＞** ３年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、公開施設の臨時休館や大人数でのイベント等、協力する活動に制限が設けられたが、そのような状況での協力活動はできた。４年度以降も引き続き各団体と連携を取りながら事業への協力を推進する。	
	④連携大学院との連携教育等の推進	**＜主要な業務実績＞** ・東京藝術大学との間での連携大学院教育を行った。緊急事態宣言中はオンライン講義を行い、解除後には対面講義を中心に教育を進めた。また、副査という形で博士論文の審査にも積極的に加わった。（東文研） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、奈良女子大学大学院人間文化研究科及び奈良大学文学部文化財学科の大学院生へ講義、演習、実習を通しての研究指導を行った。（奈文研）	**＜評定と根拠＞** ・コロナ禍での感染状況に応じて、対面授業とオンライン授業とを有効に組み合わせてハイブリッドで講義を行うことで、社会情勢に応じて最適な教育を行うことができた。また３年度は初めて、他専攻の博士審査に副査として加わっており、これまで以上に教育効果の発展性が期待される。（東文研） ・本務において得た最新の研究成果などを基に、研究指導を行い、連携大学院及び大学における講義や研究指導を通じて次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献することができた。（奈文研） **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じてオンラインによる講義や指導も積極的に導入した。今後も対面やオンラインを活用し、各大学との連携を深めることで人材の育成に寄与する。	
	（６）文化財防災に関する取組 【指標】 ・防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会合等への会議等参加数） ・文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数，報告書等の刊行数） ・文化財防災に関する普及啓発への取組状況（シンポジウム等の	**＜主要な業務実績＞** 文化財防災センターでは、文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築、文化財防災のための技術開発、専門的な知見から必要となる支援、文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図った。 ・道府県内各種会合等への会議等参加数　68 件 ・文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数，報告書等の刊行数）　11 件 ・文化財防災に関する普及啓発への取組状況（シンポジウム等の開催件数）６件	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり文化財等の防災・救援等への寄与に取り組んだ。	

	開催件数） （目標水準の考え方） ・文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築に関しては，都道府県内連携体制の構築・促進，地域ブロック内における地域間連携の促進を図るためには，都道府県内の各種会合等に参加する必要がある。また，文化財防災のための技術開発に関しては，各種の施設・設備の安全対策，被災文化財の応急処置・修復処置，被災文化財の保管環境等に関する調査研究を推進する必要があるが，いずれもあらかじめ目標値を設定することになじまないため，都道府県内各種会合等への会議等参加数及び文化財防災のための技術開発に関する論文等数，報告書等の刊行数をモニタリングし総合的に評価する。 ・文化財防災に関する普及啓発への取組においては，専門的人材の育成を図るためのシンポジウム，講演会，研修及びワークショップ等を開催し，調査研究の成果公表等を進めるとともに，課題の共有化等を図る必要があるが，あらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，普及啓発への取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	①地域防災体制の構築 ・機構内の各施設で地域を分担して実施する地域ブロックでのヒアリングについて、地域連携に関わる基本的な事項を整理し、ヒアリング項目の標準化を進めた。これをもとに各施設は都道府県ヒアリングを行い、文化財防災や体制構築といった都道府県の状況や課題をセンター内で共有した。 ・都道府県が策定する文化財保存活用大綱について、北海道・東北地方、中国・四国地方、九州地方で策定済みの大綱から、地域防災計画に必要な項目との関連性も踏まえて、要点に関する記述を抽出した。抽出した内容を元に大綱の「防災・災害発生時の対応」に必要と考える項目を検討し、この項目に沿って各道府県大綱の「防災・災害発生時の対応」の記述を整理することとした。 ・下記のとおり被災文化財に関する対応を行った。 2年7月球磨川豪雨による被災図面資料・民俗資料のレスキュー及び対応協議（熊本県、八代市）、28年熊本地震により被災した今城大塚古墳に係る復旧対策協議（熊本県、御船町）、3年7月梅雨前線に伴う大雨に係る山陰地域の状況調査（鳥取県、島根県）、静岡県熱海市の土石流被災地のレスキューの可能性について協議（静岡県、熱海市、東海史料ネット）、奈良県崇道天皇社の焼損についての現地調査（奈良県、文化庁、奈良文化財研究所、奈良市消防局）等、計10件について実施した。 ②防災時ガイドライン等の整備 ・国内の関係機関間のネットワーク構築を推進することを目的として、関係機関による文化遺産防災ネットワーク推進会議を2回開催した。 ・日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会と、歴史的建造物の災害発生時の調査体制に係る協力協定書を締結した。 ・5人の外部有識者を招き、無形文化遺産の防災に係る有識者会議を3回開催した。無形文化遺産の防災に関する検討課題を抽出し、各課題の解決策について議論を深めながら、今後の課題に関する具体的内容について議論を行った。 ・浮遊カビに対する安全対策ガイドライン・マニュアル策定検討会を計5回実施し、「浮遊カビからの人体の防護に関するマニュアル」及び「室内労働環境の浮遊カビの測定・評価と浮遊カビ等からの防護に関する管理基準（ガイドライン）」を策定した。これらのマニュアル等は文化財防災センターウェブサイトにて公開した。 ③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 ・国立研究開発法人防災科学技術研究所などと連携し、博物館・美術館の展示空間を再現した振動台実験を実施した。	・文化財防災センター発足後の新体制の下、文化財等関係団体との面談・情報収集に努め、従来の関係の継続を図った。また、2年度に多くの都道府県において文化財保存活用大綱が策定されたことから、その整理を行い、防災に関する記述の傾向を見出した。さらに、3年度は被害の大きな自然災害は少ない年ではあったが、地方自治体と密に連携を図り、9県の文化財被害に係る協力を行った。 ・文化財ドクター事業では、日本建築学会ほか3団体と協力協定書を締結し、災害発生時における文化財防災体制の一層の強化を図った。さらには、無形文化遺産、史跡名勝に関する課題についても新たに検討を行い、一定の知見と今後の方向性を定めることができた。 ・博物館等の安全対策については、当初計画を全て予定どおり実施することができた。特に防火研究について、奈良市消防局と連携し、檜皮葺きの実験を実施し、具体的な燃焼の様子に関する観察と分析	

		・全文化財類型を対象に、どのような文化財のリスクがあるのか把握し課題を抽出するために、プロジェクトチームも含めた研究会（通称「文化財リスク研究会」）を立ち上げ、3回開催した ・災害時の特殊な環境から文化財を守るための管理方法の提案に資する調査研究として、首里城火災時の特殊な湿熱環境が美術工芸品に与えた影響の解明を目的とした調査研究を開始した。3年度は美ら島財団に対する聞き取り調査及び発災時の環境データ、建築図面等から発災時の状況の整理を行った。 ・近隣火災の飛び火により檜皮葺き屋根が一部焼損した崇道天皇社本殿において発災時の対応の聞き取り調査と焼損状態の記録、模擬燃焼実験を奈良市消防局、奈良県と共同で行い、燃焼性の高い材料を対する初期対応に関する知見を得た。 ④文化財防災を促進するための普及啓発 ・研修会「なぜ災害発生後に文化財を救うのか―文化財レスキューと心理社会的支援―」を山形県の文化財担当職員、学芸員等を対象に対面形式とオンラインで開催した。対面で12人、オンラインで18人参加した。 ・ICCROM（文化財保存及び修復の研究のための国際センター）主催の文化財の防火対策に関するワークショップにて日本の文化財の被災事例に関する講義を行った。 ・ICOM日本委員会等の団体とともに主催者として、ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次大会を開催した。11月4日の東京での年次大会には145人、11月6日の岩手県陸前高田市での「東日本大震災10周年シンポジウム」には180人の参加があった。 ・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所、文化庁との共催で国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題ー災害時応急対応事例と課題ー」を開催した。参加者7か国10人のほか、オブザーバーは2日間で10か国114人が参加した。 ・文化財防災ネットワーク推進事業ウェブサイトの内容を引き継ぎ、新たに文化財防災センターウェブサイトを公開した。 ⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 ・文化財のリスクの所在に関して情報収集を行い、今後の文化財防災に必要な事項を見いだす作業を行った。その成果については、文化財防災プロジェクトチームを中心とした文化財リスク研究会にて報告をした。 ・全国文化財等データベース及び無形文化遺産データベースのバックデータの整理、並びに文化財防災センター全体のデータベースの役割・機能を	から、植物性屋根の燃焼に新知見を得られるとともに、消火作業の段取りに関する新たな知見が得られるなど、これまでの取り組みではでき得なかった共同研究の体制を構築することができた。 ・文化財防災センターとして、事業実施の年度計画を立案し今後の体制づくりを行った。実施事業は、コロナ禍の状況ということもあり、対面式の事業が規模の縮小を余儀なくされたが、オンライン方式を併用し、実績を上げられた。また、文化財防災センターのウェブサイトの立ち上げや、各所講演会、研修会で事業説明等を行い、センターの活動を周知することができた。 ・文化財防災に関係する情報の収集と活用では、リスク研究会を立ち上げたことにより収集情報の共有化を図ることができた。また、文化財防災センターが持つ災害時に活用するためのデータベースに関する全体像を定めるとともに、データの入手・成形に関して統一的な方針を定めることができた。これまでの取り組みでは、歴史災害痕跡に関するデータベースの限定公開を行った。	

		踏まえ既存データベースの役割とデータベースを支える体制を検討した。 ・文化財建造物修理資料データベースの構築に向け、調査・検討を行い、3年度は和歌山県文化財センター所蔵の図面等及び滋賀県所蔵ガラス乾板のデジタル化を実施した。また、同デジタル化データについてのメタ情報の入力及びプロパティへの埋め込み作業を実施した。 ・IRCI によるアジア太平洋州における無形文化遺産の防災事業「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究」に参画し、同地域の無形文化遺産に関するリスクについて知見を深めた。	**＜課題と対応＞** ・災害発生時に協力可能な事項について都道府県に対して周知するとともに、即応した動きができるセンター側の体制を一層強化する必要がある。 ・文化財/文化遺産の防災に特化した組織は海外でもあまり事例がなく、関心が高まっていることから海外からの協力要請に応えるための体制作りと、積極的な海外への発信を継続的に行っていく必要がある。	

4．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和４年度行政事業レビュー番号 0422

２．主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中5%以上効率化	889,241	710,657					
業務経費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中5%以上効率化	5,422,139	4,845,965					

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとし、法人の事業全体を通じて，体制の整備を図ることとする。	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和３年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。 **＜主要な業務実績＞** ・国際業務の推進体制の整備の一環として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会と関連した日本博の事業等を円滑に進めるため、機構職員２名を派遣しており、日本博関連の企画等を博物館と連携して実施を行った。 ・情報セキュリティの確保・維持のため、４月に本部情報担当部門への職員の配置及び４年１月以降、各施設の情報分野で採用配置することで、情報担当部門の拡充を行った。 ・文化財防災センターの設置に伴い、４月に職員を採用、配置換等で職員を配置し、組織体制の整備を行った。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細からＢ評価とした。 **＜評定と根拠＞** 国際業務の推進体制の整備の一環として、日本博の事業等を円滑に進めるため、機構職員２名を派遣し、日本博関連の企画等を博物館と連携して事業の推進を図った。またコロナ禍の影響により ICT 整備等の促進が急務な中、本部及び各施設情報担当の人員体制等を図ることで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。文化財防災センターの職員を採用等することで、文化財防災体制を整えた。 **＜課題と対応＞** 今後も ICT 環境の整備や情報セキュリティ等への対応は求められるため、それに対応できる体制整備の充実化が課題となる。引き続き、組織の機能向上のための体制整備を進めていく。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である。 ・業務の電子化に更に取り組んでいただきたい。 ・コロナ禍にあって効率的な予算執行に取り組んだと評価する。短期的視野に陥りすぎることなく、長期的視野をもってメリハリある活動に取り組むことを期待する。

	（２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	**＜主要な業務実績＞** ・人事給与統合システムを利用して、機構全体で統一的な処理を行っている。そのシステム内で人件費のシミュレーション等も行うことで、人件費に関する計画や円滑な企画・立案等をすることができ、適正な人件費管理を行った。 ・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、法人ウェブサイト上にも掲載している。 ・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠し、国と異なる諸手当はない。ラスパイレス指数は、3年度において事務・技術職員が95.0、研究職員が99.3となっており、その水準維持に努めた	**＜評定と根拠＞** 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分に考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表した。 **＜課題と対応＞** ―	
	（３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。	**＜主要な業務実績＞** ①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成27年5月25日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が3年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第1回契約監視委員会（11月29日開催） 第2回契約監視委員会（4年6月13日開催） ②東京国立博物館（レストラン2か所、移動式野外飲食店、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（カフェ、レストラン、ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ、レストラン）については企画競争を実施済み。3年度においては、契約期間終了に伴い東京国立博物館にてレストラン2か所、移動式野外飲食店、自動販売機の企画競争、奈良国立博物館にて自動販売機の企画競争を実施した。今後も、契約期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・11月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（47人が参加） ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 一般競争入札件数 年度 / 2年度 / 3年度 / 増減 件数 / 164件 / 133件 / ▲ 31件	**＜評定と根拠＞** 計画どおり、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施した。 **＜課題と対応＞** ―	
	（４）共同調達等の取組の推進 周辺機関との共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、 トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー 九州地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、ガソリン	**＜主要な業務実績＞** ・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。（再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館、国立西洋美術館）。 ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー）。 ・奈良国立博物館及び奈良文化財研究所では、　トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。 ・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙、トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。	**＜評定と根拠＞** 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進することができた。 **＜課題と対応＞** ―	

	（５）一般管理費等の削減 運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５％以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅥ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。	**＜主要な業務実績＞** ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ・機構共通の業務システムである、グループウェア、メールシステム、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 ・Microsoft365を機構として導入し（九博を除く）、Officeアプリ・端末認証・メールシステム・オンライン会議等のサービスを展開した（4年3月）。これにより、各施設で購入しているOfficeアプリの費用圧縮、ライセンス管理の軽減に向け前進した。 ・展覧受付・警備業務の人員の見直しにより、業務経費の支出の節減を行った。 3年度実績 / 2年度実績 / 削減率 一般管理費　711百万円 / 889百万円 / △20.1% 業務経費　4,846百万円 / 5,422百万円 / △10.6% ②計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している（東京国立博物館では新型コロナウイルスの影響により託児サービス休止中のため、3年度は託児業務の民間委託は未実施）。 ・東京国立博物館では、引き続き茶室・大講堂等の施設貸出業務について民間委託を実施している。 ③使用資源の減少 ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） 電気使用量（前年度比1.74%）、ガス使用量（前年比1.46%）、水道使用量（前年比12.29%）、一般廃棄物（前年比▲1.65%） ※日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、水道使用量については、以下の外的要因により増加した。 東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館において、２年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館を行い、入館者数が減少したことに伴い使用量が例年と比べ大幅に減少となっている。したがって、開館日数及び来館者数が２年度より増加した３年度は、水道使用量等が増加した。（東京国立博物館２年度比13.20%増、京都国立博物館２年度比12.92%増、奈良国立博物館２年度比19.18%増、九州国立博物館２年度比7.34%増）	**＜評定と根拠＞** 一般管理費及び業務経費について、ともに5%以上の効率化を達成できた。 情報システムについては、機構共通事務システム・機構広域ネットワークの運用を継続し、事務の効率化に寄与した。Microsoft365については、テレワークやオンライン会議等を考慮した環境構築とともに、各施設で導入しているOfficeアプリの共通化について、年度計画では検討としていたところ、年度内の導入に至った。 各施設において計画どおり外部委託を実施している。また、使用資源の節減に努めており、廃棄物排出量を削減できた。水道使用量の増加は外的要因によるところが大きい。 **＜課題と対応＞** ―	
	２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＣＴを活用した業務の合理化・効率化を図る。	**＜主要な業務実績＞** ・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。 ・1月より、機構本部ウェブサイト内に機構内各施設の展覧会情報を一覧できるページを公開し、来館者の利便性向上を図った。 ・機構本部ウェブサイトのリニューアルに向け、準備を進めた。	**＜評定と根拠＞** 機構ウェブサイトによる一般への情報提供を継続した。 各サービス間で連携可能なコミュニケーションツールであるMicrosoft365の導入により、オンライン会議やテレワークを実施す	

		・新たなコミュニケーションツールとしてMicrosoft365のサービスであるTeamsを機構として導入した。在宅勤務者を含めたオンライン会議の安全な実施が可能となる等、生産性向上に寄与した。(4年2月～3月) ・機構統合メールシステムをMicrosoft365上のサービスへ移行（4年3月）するとともに、オンライン会議サービスやオンラインストレージサービスについてもMicrosoft365上のサービスで展開し、各サービス間の連携を図った。 ・本部及び東博職員向けの在宅勤務用の貸出端末について、クラウド対応の強化によって在宅勤務で可能な業務や対応システムの拡充、操作性向上による業務の効率化を図った。 ・予算配分を行い、各施設の貸出端末の整備、拡充を図った。	ることができ、業務の効率化を図ることができた。 **＜課題と対応＞** 4年度以降も引き続き、ICTを活用した業務の合理化・効率化として、Microsoft365を活用したサービスを中心に検討継続する。	
	３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされていることを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	**＜主要な業務実績＞** ・「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、計画どおり取組を実施している。 **＜課題と対応＞** ―	

4．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則 ④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則 ⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則 ⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則 ⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項 ⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項 ⑨契約情報公表に必要な事項に関する取扱 ⑩独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項 ⑪独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項 ⑫標準型プロポーザル方式の実施要項 ⑬公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項 ⑭調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑮研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑯広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑰情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑱独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて ⑲令和元年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画 【審査体制】 ①内部のチェック体制 各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。

東京国立博物館における１千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定
（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和４年度行政事業レビュー番号 0422

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	―	828,947	1,042,086					受託研究・受託事業を除く
寄付金等額（千円）	－	実績値	787,529	739,710	750,596					

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．自己収入拡大への取組 （１） コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な展覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・（指標）その他寄附金等収入額（前中期目標期間の累積実績額以上） ・（関連指標） 展示事業等収入額	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和３年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり **＜主要な業務実績＞** ・東京国立博物館及び文化財活用センターでは、トーハク新時代プランに基づき、本館特別３室に非接触の先端技術によるデジタルコンテンツと高精細複製品を組み合わせた体験型展示「日本美術のとびら」を６月 22 日から公開した。 ・東京国立博物館表慶館において、先端技術による日本美術の高精細複製と乃木坂 46 のパフォーマンス映像を重ね合わせたインスタレーション展示「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」を開催した。本展は、若年層をメインターゲットとし、これまで日本美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となり、新たな来館者の誘客につながった。 ・各施設において、YouTube 等の SNS を活用して講演会や展覧会の紹介動画を配信するなど、「新しい生活様式」のなかでも博物館を楽しめるような取組みを引き続き行った。 ・東京国立博物館では、英語・中国語・韓国語による Twitter、Instagram 等の SNS のアカウントを開設し、来館が特に困難な海外在住者へ向けて情報を発信することで、来館意欲の維持拡大に努めた。 ・文化財活用センターが東京国立博物館と共同で元年度から行ってきたファンドレイジング事業「＜冬木小柚＞修理プロジェクト」は、目標金額の 1,500 万円を上回る 16,451,470 円の寄附を獲得した。文化財活用センターと東京国立博物館では、さらに同館創立 150 周年事業の一環で同館を代表する名品「見返り美人図（菱川師宣筆）」及び「埴輪踊る人々」の修理費を募るファンドレイジング事業を立ち上げ、実施内容の企画・検討を行った。 ・新たに奈良国立博物館では、茶室八窓庵及び庭園改修にかかるクラウドファンディング事業を 10 月～12 月に実施し、10,625,830 円の寄附を得た。 ・文化財活用センターでは、2 月に「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」と題したオンライン・シンポジウムを開催し、好事例の横展開を図った。（参加者 478 人）	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細より、B 評価とした。 年度計画に沿って、デジタル技術を活用したコンテンツ開発や情報発信など、「新しい生活様式」に対応しながら博物館を楽しめる工夫や、若年層を中心とした幅広い年代に向けた展覧事業の実施など、魅力的な展覧環境の構築に努めた。また、ファンドレイジング事業を積極的に推進するなど多角的な収入の確保に努めた。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である。 ・ファンドレイジング事業、ウェブ決済による寄附、保有資産の有効活用など、自己収入を増やす取組が効果を上げている。

収入額	イジング」と題したオンライン・シンポジウムを開催し、好事例の横展開を図った。（参加者 478 人）		
（２）機構全体において、展示事業等収入額について 年度計画予算額を上回ることを目指す。	・展示事業等収入額 3 年度の展示事業等収入については、1,042,086 千円となり、年度計画予算額を上回った。 年度計画予算額　　3 年度 展示事業等収入　1,032,072 千円　　1,042,086 千円 ※受託研究・受託事業を除く。		
（３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。	・外部資金の獲得 寄附金等収入額　750,596 千円 目標値　　787,529 千円 （機構共通） ・各博物館において、賛助会等への加入者増加のための広報等を積極的に実施した。 ・奈良国立博物館において、茶室八窓庵及び庭園改修にかかるクラウドファンディング事業を 10 月～12 月に実施し、10,625,830 円の寄附を得た。 ・ウェブ決済による寄附等を可能とする国立文化財機構寄附ポータルサイトを文化財活用センターが中心となって引き続き運用し、機構全体で 3 年度計 4,049,000 円の寄附を得た。 （文化財活用センター） ・東京国立博物館と共同で、2 年 1 月に開始した「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様」の修理費等を募る「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」は、7 月頭までに目標金額の 1,500 万円を上回る寄附を集め、プロジェクト開始当初は 4 年 6 月　までとしていた寄附募集期間を繰り上げて、12 月末をもって終了した。（3 年度計 3,759,040 円、プロジェクト累計 16,451,470 円）	・外部資金の獲得については、新型コロナウイルスの影響を受け企業からの寄附が伸び悩んでおり、前中期目標期間の実績の年度平均である目標値は下回ったものの、2 年度実績を上回る寄附を得ることができた。 また、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を継続して行い、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動では目標金額を上回る寄附を得るなどの成果をあげた。	
（４）保有資産の有効利用の推進	【実物資産の保有状況】 令和 4 年 4 月 1 日現在 東京国立博物館 　土地 120,270 ㎡、建物(延面積)78,471 ㎡ 京都国立博物館 　土地 53,182 ㎡、建物(延面積)30,872 ㎡ 奈良国立博物館 　土地 78,760 ㎡、建物(延面積)19,133 ㎡ 九州国立博物館 　土地 159,844 ㎡（うち九博 10,798 ㎡） 　建物（延面積）30,675 ㎡（うち九博 9,300 ㎡） 　※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有している。また、建物のうち、15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 　土地 4,181 ㎡、建物（延面積）10,516 ㎡ 奈良文化財研究所 　土地 46,487 ㎡、建物（延面積）41,418 ㎡		

		（東京国立博物館） ①新型コロナウイルスの感染予防及び拡大に十分配慮しつつ、4月に連続講座を大講堂で実施した。また、これまでオンライン配信としていた月例講演会についても、7月より大講堂で再開した。 ②3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参集型のユニークベニュー利用、講堂・茶室利用が大幅に減少したが、ロケ地利用に関しては話題となった大型のTVドラマの案件を多く受け入れることができた。また婚礼の前撮り撮影についてはコロナ禍により大幅に増えた2年度よりも更に件数を増やすことができた。また、館内休憩スペースにも当館がロケ地として利用されたTVドラマ等のポスターを貼り、来館者に向けて当館の多様な活動について周知を行った。なお、当館での婚礼の前撮り撮影については、SNS上で話題になったことも影響し、マスコミからも注目を集めた。新聞紙面でも大きく紹介され、当館の施設の有効利用について一般の方にも周知することができた。 ③入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、新型コロナウイルスの流行下のため実施しなかった。	（東京国立博物館） ・3年度も2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響は受けたが、ロケ地利用に関しては婚礼前撮り件数の増加の効果もあり、2年度の最高件数をさらに更新した。収入の面だけでなく、当館がロケ地利用で使われることによる広報効果もあるため、引き続き利用促進を図るよう取り組んでいく。 施設の有効利用については、SNS等で大きく注目を集めたことも影響し、多くの方々に利用してもらうことができた。	
		（京都国立博物館） ①展覧会に関する講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を様々な年齢層に向けて開催した。 ・「キャンパスメンバーズ講演会」計2回　平成知新館講堂 　参加人数：118人 ②施設の貸出についてウェブサイトでの周知を行うとともに、外部サイトにてロケーション撮影案内を行った。また、会場下見の対応や当日利用時の丁寧なサービスを心掛けることにより利用者の満足度向上に努めた。 ・映像（ドラマ、CM等）・商品カタログ・雑誌取材等の撮影（平成知新館、庭園、茶室）、茶会の開催（茶室）、コンサートの開催（講堂）にて各施設の貸出を実施した。 ・ロケーション撮影については、「ロケなび！」等の外部サイトに誘致するための特設ページを掲載した。 ③国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、名品ギャラリーの無料観覧を行った。また、多言語（英、中、韓、やさしい日本語）によるギャラリーツアーを実施し、留学生へのより深い日本文化への理解と満足度の向上に努めた。 ・「京都・らくご博物館」計2回　場所：平成知新館講堂　参加者数：232人 ・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：45人 ・「特別展「畠山記念館の名品」に合わせた寄贈品を活用した「秋の茶室展示」　場所：茶室　参加者数：1,621人 ・「芸舞妓　春の舞」　場所：平成知新館講堂　参加人数：195人 ・「雅楽演奏会」　場所：平成知新館講堂　参加人数：197人 ・「春の人形劇公演」　場所：平成知新館講堂　参加人数：190人	（京都国立博物館） ・ロケーション撮影について外部サイトに施設案内を紹介できるページを用意し新しい利用者に向けて情報発信を行った。また、ドラマや雑誌の撮影利用に対して下見の段階から関係者に対して丁寧な施設案内等を行うことによって実際の撮影利用につなげることができた。 特別展「畠山記念館の名品」の関連イベントとして「秋の茶室展示」を行い、実際の茶会の様子を茶室空間に展示することによって来館者に展覧会に関する知識を深めてもらうこともできた。茶室内における展示に関しては、寄贈品を活用し、保有資産の有効活用ができたといえる。	
		（奈良国立博物館） ①賛助会員の会議、奈良シニア大学の講座及び法華寺の講演等を実施した。 ・特別鑑賞会(16回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等 ②会場提供 ・講堂：「奈良シニア大学講義」、「奈良県講演会」、「奈良県調停協会奈良	（奈良国立博物館） それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、留学生の日に「英語落語 in 奈良博」を開催し、全内容英語のみで実施した。奈良住みます芸人が展覧会の解説を行う「奈良仏像けんきゅー部」を展覧会毎に開	

		支部文化研修」 ・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、アパレル撮影、バーチャル視察動画撮影等 ・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、テレビ番組撮影、ブライダル撮影、着物レンタル等 ・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「春日若宮おん祭」、「日本クラシックカー＆エキサイティングカーラリー2021 奈良開催地」、テレビ番組撮影、雑誌撮影、ブライダル撮影等 ③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、留学生の関連イベントとして「英語落語 in 奈良博」を11月23日に実施し、141人の参加があった。 ・講堂：「奈良仏像けんきゅー部」、「英語落語 in 奈良博」、「お水取り講話と現地解説の会」 ・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」 ・展示室：「仏像供養（年4回）」、「ニコニコ美術館」 ・庭園・茶室：「珠光茶会」、「音楽コンサート」 ・敷地内：「スタンプラリー」、「リアル謎解きクエスト」	催し、仏教とお笑いの融合を可能とした。また、クラシックカーラリーの会場や大学の講義会場として施設を利用したり、地方自治体と連携したイベントを実施することで、博物館の認知度の向上及び自己収入を拡大に努めることができた。	
		（九州国立博物館） ①特別展及び特集展等に関する講演会・講座等を開催した。 ・特別展「皇室の名宝−皇室と九州をむすぶ美−」記念講演会「美を伝えゆく−《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理を通して」(8月8日開催　参加者：140人) ※上記を含む特別展関連講演会　計13回開催 ・特集展示「没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」きゅーはく☆とっておき講座　「范道生の作品とその生涯−日中交流史の視点から」(9月19日開催　参加者：61人) ※上記を含む特集展示関連講演会　計8回 ②茶室を外部団体へ貸し出した。 ・茶室　8回 ・研修室AB　1回(放送大学授業のため) ・和室　1回(休憩場所として利用のため) ③エントランスやミュージアムホールにおいて、著名人を招聘した講演会や演奏家によるコンサートを実施し、入館者の拡大及び施設の有効利用を図った。 ・さかなクンと一緒に昔の海を探検だ(7月25日　参加者数：288人) ・九州国立博物館に集まる怪しいやつら展（8月11日～17日※8月14・15日は大雨の影響により臨時休館) ・日本のからくり人形展（9月28日～10月6日） ・グラスハープ☆ファンタジーコンサート（11月28日　参加者数:235人/2回） ・旅するデニム展−世界の子供服をデニムで表現−（4年1月18日～2月6日） ・きゅーはくニューイヤーコンサート（4年1月3日　参加者数：334人/2回） ・九州次世代展 2022　九州のユネスコ無形文化遺産を受け継ぐ者たち」（4年3月8日～21日）	（九州国立博物館） 2年度に引き続き、茶室の貸し出しを行った。また、書道や絵画、からくり人形、ユネスコ無形文化遺産に登録された5つの祭りの祭具等をエントランスに展示した。また、数々の講演会や「九州国立博物館に集まる怪しい奴ら展」等のイベントをミュージアムホール等で実施するなど、施設の有効利用を推進した。	
		（東京文化財研究所） ①研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを3年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオー	（東京文化財研究所） 3年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは制限することとなったが、内部での利用頻度が高かったので、利用	

		プンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施した。 ②当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の無償貸付を実施した。 （奈良文化財研究所） ・施設名　3年度 平城宮跡資料館講堂　30件（内　有償貸与　2件） 平城宮跡資料館小講堂　34件（内　有償貸与　6件） 飛鳥資料館講堂　0件（内　有償貸与　0件） その他（収蔵庫等）　9件（内　有償貸与　5件） 合計　73件（内　有償貸与 13件）	件数は増加した。なお、外部機関への有償貸付は新型コロナウイルスの対応により、実施できなかった。 （奈良文化財研究所） コロナ禍により多人数を集めるイベント等が中止となったため利用件数は新型コロナウイルス感染拡大以前（224件、内有償貸与19件）に比べ減少したが、2年度と同水準の利用件数を確保することができた。新型コロナウイルスを理由にした中止がなければ、感染拡大以前と同程度のイベントや集会、学会は行われていたと考えられる。利用者数の上限設定や利用者へのコロナウイルス感染症対策の徹底など、感染症拡大予防に努めることができた。 **＜課題と対応＞** 3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場利用の申し出があっても参加人数によっては断らざるを得ず、利用状況は新型コロナウイルス感染拡大前に比べ減少しているが、ロケ地利用、ユニークベニュー利用など、外部貸し出しについては、自己収入の確保だけでなく、広報効果も高いため、新型コロナウイルス感染症対策の徹底をした上で、積極的に受け入れを推進していく。	
	2．固定的経費の節減	Ⅱ1．（5）一般管理費等の削減に関する事項に取組んだ。		
	3．決算情報・セグメント情報の充実等	**＜主要な業務実績＞** 2年度に引き続き、2年度決算（3年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（令和2年3月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では計画どおり取組を実施した。 **＜課題と対応＞** ―	

4．その他参考情報

目的積立等の状況

（単位：百万円、％）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
前期中(長)期目標期間繰越積立金	622				
目的積立金	246				
積立金	58				

うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0				
運営費交付金債務	406				
当期の運営費交付金交付額(a)	9,052				
うち年度末残高(b)	406				
当期運営費交付金残存率(b÷a)	4.5%				

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	その他の事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和４年度行政事業レビュー番号 0422,0423

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅳ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和３年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	**＜評定と根拠＞** 以下詳細によりＢ評価とした。 **＜課題と対応＞** ―	評定　B **＜評定に至った理由＞** 　中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 　なお、奈良文化財研究所において不適切な会計処理が行われていたコンプライアンス違反事案に関しては、ガバナンス上の問題であったと考えられるが、問題の発覚後、法人内で同様の違反がないか監査を行い、再発防止策を講じていることが確認されたことから、評価はＢとする。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** 既存の制度の適切な実施及び各施設での先進的な取組の共有などで、リスクを発見しやすい環境、職員の働きやすい環境の整備をさらに進めていただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・適切な自己評価だと考える。 ・内部統制委員会、リスク管理委員会が適切に運営されている。事業についてその重要性に鑑み「失敗の共有」文化の醸成に期待したい。 ・ES（従業員満足度）の調査の実施について検討いただきたい。

	１．内部統制	**＜主要な業務実績＞** （内部統制委員会、リスク管理委員会の開催） ・内部統制委員会を２回開催した。(7 月 27 日、4 年 3 月 14 日） ・リスク管理委員会を２回開催した。(7 月 27 日、4 年 3 月 14 日） ・2 年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。 （内部監査及び監事監査等のモニタリング） ・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 会計監査　　10 月 11 日～12 月 3 日（全施設） ※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、監査室で確認。 給与簿監査　　10 月 18 日～11 月 12 日（本部事務局・東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター） ※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、本部人事担当で確認。 法人文書管理監査　　4 年 1 月～（全施設・書面監査） 4 年 2 月～3 月（京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター）※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。 情報システム監査・情報セキュリティ監査 12 月 16 日～24 日（1）ペネトレーション監査（2 年度監査の再診断として実施：九州国立博物館） 4 年 1 月 6 日～3 月 31 日（2）マネジメント監査（本部事務局） ・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。 2 月　全施設（書面監査） 2～3 月　本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所 ※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。 ・ソフトウェア等監査　　各施設で定期的に実施し、会計監査の際確認を行った。 ・監事監査を以下の日程で行った。 定期監査（業務・会計）　6 月 24 日 臨時監査（業務・会計）　2 月 3 日～25 日　全施設（実地監査） （研修の実施） ・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。	**＜評定と根拠＞** 内部統制委員会及びリスク管理委員会を各 2 回開催した。内部統制状況の報告・モニタリングを実施し、業務の見直しを図った。リスク管理委員会においては、リスク管理計画に基づいたリスク評価を行った。また、監事監査においてコンプライアンス違反事案に関して全施設で調査研究刊行物の実地監査を行うとともに役職員を対象に調査を実施した。内部監査等及び各種研修においても開催方法を工夫し、積極的に実施した。 **＜課題と対応＞** 内部監査については、新型コロナウイルス感染拡大により実地・対面での実施が制限されたものの、書面監査やウェブ会議システムも利用しつつ監査を実施することができた。	
	２．その他（１）自己評価	**＜主要な業務実績＞** ・2 年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。 ・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会／博物館部会／総合：新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、全て書面審議にて開催）に提出し、外部有識者による評価が行われた。 ・外部有識者の意見等を踏まえ「令和 2 年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。	**＜評定と根拠＞** 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、外部評価委員会は書面審議としたが、運営委員会においては、新しい生活様式に則り、対面とウェブ会議のハイブリット形式にて開催した。外部有識者からの意見を踏まえた客観的な自己評価を実施することができ、その結果を事業等の改善に反映させることができた。	

		・運営委員会(10 月 5 日)は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、東京及び京都会場への参集とウェブ会議を併用したハイブリット形式で開催した。当機構の管理運営の重要事項について、理事長へ助言がなされた。	**＜課題と対応＞** **―**	
	（2）情報セキュリティ対策	・「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群（令和３年度版）」を踏まえて情報セキュリティ関係規程等を改正（9 月 30 日改正、10 月 1 日施行）するとともに、「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備を進めた。 ・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検を e-learning にて実施した。(12 月 17 日～4 年 1 月 31 日) ・情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。 ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12 月 10 日) ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT 連絡会にて情報共有、検討を行った。 ・セキュリティレベルの向上・平準化、管理の効率化を目的として 2 年度末に構築した機構広域ネットワークについて、本運用を開始した。(4 月) ・NICH-CERT メンバー向け訓練を実施した。(4 年 1 月 26 日)	**＜評定と根拠＞** 計画どおり、政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき、必要な情報セキュリティ対策を実施した。また、出口対策としてのセキュリティレベル向上及び平準化として、機構広域ネットワークの本運用を開始できた。 **＜課題と対応＞** **―**	
	３．施設設備に関する計画	**＜主要な業務実績＞** （京都国立博物館） ・京都国立博物館本館（重要文化財）耐震改修に向け、本館中庭機械室を解体し、跡地の埋蔵文化財発掘調査を実施するため下記3件の工事と2件の調査等業務を行った。 1)本館機械室解体他建築工事 2)本館機械室解体及び空調等改修電気設備工事 3)本館機械室解体及び空調等改修機械設備工事 4)埋蔵文化財発掘調査 5)本館免震改修他基本計画（改訂版）策定並びに設計・工事監理業者選定支援等業務 （４館共通） ・総合的・計画的な防火対策を重点的に進める計画を策定するため、各施設の防災設備等について現地調査の実施、整備・取組内容の検討を進め、国立文化財機構防火対策5か年計画（博物館編）を策定した。	**＜評定と根拠＞** 年度計画に掲げる事業（防火対策 5 か年計画・京都国立博物館本館中庭機械室解体及び埋蔵文化財発掘調査）について、計画どおりに実施できた。今後は、防火対策 5 か年計画に沿って消防設備等の整備を推進することと京都国立博物館本館耐震改修工事に向け、基本計画の策定を進める。 **＜課題と対応＞** **―**	
	４．人事に関する計画 （1）中長期的な人事計画の策定を検討する。	**＜主要な業務実績＞** ・事務系職員の人事については、10 月から 11 月にかけて各施設の副館長等にヒアリングを行い、他の交流機関とも順次、4 年度以降の人事交流等について、打合せを行った。	**＜評定と根拠＞** 事務系職員の人事については、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を検討した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通じて採用の実施や理事長の決定による人事異	

	その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。	・研究職の採用については、理事長、理事、施設の長、研究調整役で構成される研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用分野（専門性）、時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。 ・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。	動など、組織として包括的な人事計画に向けて取り組みを検討した。	
	（2）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の導入について、検討を継続する。	・評価制度の導入については、引き続き検討を行う。	評価制度については、引き続き検討する。	
	（3）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。	常勤の研究職員に準じたアソシエイトフェロー制度、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材の確保のための専門職制度、60 歳を超える優秀な人材を採用できる任期付職員、再雇用制度を整えて、能力や適性に応じた人事を引き続き行った。	採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。	
	（4）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。	女性活躍の推進も含めたワークライフバランスのため、育児や介護とも両立した就業環境とするために、国の育児・介護休業法改正に伴う休暇等の整備を行った。3 年度より始まる 5 か年計画の一般事業主行動計画を策定し、機構のウェブサイトで公表した。 また、研修の実施状況については下記のとおりである。 研修名称 / 日程 / 受講対象者 / 受講者数 ＜階層別＞ 新任職員研修（オンライン研修） / 7月19日～8月31日 / 2,3年度の新任職員等 / 142名 ＜分野別・能力開発＞ 研究倫理教育研修(e-ラーニング等) / 4月12日他(各施設で実施) / 研究者番号を持つ研究員、事務担当者等 / 319名 施設系職員研修 / 6月9日 / 機構内の施設系職員 / 17名 会計職員研修 / 11月18日、29日 / 各施設の会計担当 / 47名	女性の活躍を推進ということも含めたワークライフバランスのため、育児や介護とも両立した就業環境とするために、国の育児・介護休業法改正に伴う休暇等の整備を行った。 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、これまで集合型の対面で実施していた研修も、リモートやオンライン等の研修に切り替えた形で実施でき、コロナ禍において職員間のコミュニケーション等も図れた。働き方改革関連では、年 5 日間の確実な年休取得を達成するために取得促進等の取組を実施した。 **＜課題と対応＞** 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行うことができた。また、オンラインや動画等を用いて、「新しい生活様式」へ対応した研修を行った。今後は、リモートやオンライン等で対面でのコミュニケーション等がなかなか取りづらい状況がある中で、いかに就業環境等を高めていけるかが課題である。	

				者、その他希望者も参加可		
			コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）	7月13日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	490名
			情報セキュリティ研修（e-ラーニング等）	12月17日～4年1月31日	常勤職員、ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ、有期雇用職員他	785名
			ハラスメント防止に関する研修（e-ラーニング等）	12月17日～4年1月31日	常勤職員、ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ、有期雇用職員他	776名
	（5）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた人事交流等の実施を企画・立案する。	職員のキャリアパスの形成のため、文化庁をはじめとした関係機関との人事交流を行った。				
	（6）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。	労基法改正（平成31年4月施行）に伴う年5日間の年次有給休暇の取得義務付けについて、確実な取得を図るべく、役員会等で周知のうえ、各施設へ取得促進に向けた取組みを実施した。				

4．その他参考情報
特になし

（別添）中期目標、中期計画、年度計画

項目別調書No.	中期目標	中期計画	年度計画
No．Ⅰ－1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 国立博物館は，それぞれの設置の経緯を踏まえ，既に多くの所蔵品及び寄託品（以下「収蔵品」という。）を収集・保管している。多くの文化財は，経年の自然劣化と材質の脆弱性等によるコンディションの変化にさらされており，収蔵品の収蔵施設と展示施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，温湿度，照度，防虫，防カビ等の環境を最適の状態にすることが求められている。 また，有形文化財の収集等については，国立博物館における調査研究の成果に基づき，体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため，計画的に行うこととする。 有形文化財の管理・保存・修理等については，収蔵品等の管理に必要なデータの整備を進めるとともに，その状態に応じて適切な保存・展示環境を整え，必要な修理等を計画的に施すこととする。	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 3)有形文化財の修理 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 （東京国立博物館） ア　日本を中心として広くアジア諸地域の文化財の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から、東京国立博物館150周年を見据えて、展示効果が特に高い文化財を重点的に購入する。 （京都国立博物館） ア　京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 （奈良国立博物館） ア　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 （九州国立博物館） ア　日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 （4館共通） ア　展示に必要な文化財の継続寄託及び新規寄託の受け入れに努めるとともに、寄贈を受け入れる。併せて、文化庁とも連携を図り、登録美術品や特定美術品などの制度活用も、所蔵者へ積極的に働きかける。 ②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 所蔵品及び寄託品（以下「収蔵品」という。）等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 （4館共通） ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 ウ　収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 （東京国立博物館） ア　収蔵品及び一時預品の情報管理を継続して行う。 イ　古写真・ガラス原板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。 ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実及び業務の効率化を図る。 エ　「収蔵品データ管理システム」の更新及び収蔵品データの整備を進め、列品にかかる統計業務の効率化と情報の利活用向上を図る。 オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。 カ　ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。

			キ　本館で保管している収蔵品等について、文化財管理棟への移動を継続して実施する。また、移動にともない変更となった収蔵品等の所在情報について、継続して確認し、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新する。 （京都国立博物館） ア　収蔵品等写真のデジタル化を実施する。 イ　文化財情報システムのリニューアルに着手し、新システムにおける列品管理、画像管理の業務効率化を進める。展示業務機能の改善によって、展示リストのウェブサイト公開について半自動化を計るとともに、題箋情報の蓄積によりデータベース拡充を進める。 （奈良国立博物館） ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 イ　画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。 （九州国立博物館） ア　収蔵品等についての情報整備と管理を継続して行う。 イ　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース、修理履歴データベース）を一元的管理する業務システムの改善を引き続き実施する。 2)有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ　所蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 ウ　収蔵・展示施設に関する環境について、全館的視野に立った調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 （東京国立博物館） ア　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。 イ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 ウ　文化財の輸送環境に関する調査研究を行う。 （京都国立博物館） ア　平成知新館の地震対策に関わる振動調査を行う。 イ　本館（明治古都館）の改修計画に役立てるため、環境データの収集・解析などを行う。 ウ　東収蔵庫、北収蔵庫、資料棟、文化財修理所も含めた、包括的な保管管理体制の構築を目指す。 （奈良国立博物館） ア　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 （九州国立博物館） ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。 3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 （４館共通） ア　文化財の応急修理に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい収蔵品等を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。 イ　保存修復関係資料のデータベース化を図る。

			（東京国立博物館） ア　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。 （京都国立博物館） ア　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 （奈良国立博物館） ア　本格修理は、特に「絹本著色十二天像」等の修理に取り組む。 イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 （九州国立博物館） ア　本格修理は、特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （東京国立博物館） ア　Ｘ線ＣＴスキャナ、蛍光Ｘ線分析や分光分析、Ｘ線透過撮影など各種光学的調査を駆使して研究の進展を図りつつ文化財の状態を正確に把握して修理や保存、活用の指針の策定に資する。 （京都国立博物館） ア　文化財のＸ線ＣＴ撮影、Ｘ線透過撮影などを行い、適切な修理指針の検討に役立てる。 イ　蛍光Ｘ線分析、分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意なものとし、修理指針の検討に役立てる。 （奈良国立博物館） ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ　Ｘ線ＣＴ撮影、Ｘ線透過撮影や蛍光Ｘ線分析装置等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （九州国立博物館） ア　修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてＸ線ＣＴスキャナ、Ｘ線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。 4)文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 イ　文化財保存修理所等を計画的に運用して、文化財の積極的な保存修理に活用する。
	（２）展覧事業 有形文化財の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22%に相当する国宝・重要文化財を収蔵しており，これらを公開することは，文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は収蔵品について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら，「新しい生活様式」にも配慮した展覧事業において計画的に展示することが使命である。 収蔵品の状態に留意しつつ，適切な数量を平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう工夫を施す。さらに収蔵品以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展（外国	（２）展覧事業 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び 2025 年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）等に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、「新しい生活様式」にも配慮しながら展覧事業について常に点検・評価を	（２）展覧事業 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また、日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。 ①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 1)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 2)平常展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響など、これらの事情を考慮し、モニタリングする。 （東京国立博物館） 1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画等、各種展示の更なる充実を図る。

	における展覧事業も含む）は，新たな知見を拓き，文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。また，観覧環境の向上等を図るべく，来館者に配慮した運営を行う。	行い、改善を図る。 ①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的ものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 ②特別展等 1）特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 （東京国立博物館） 年３～４回程度 （京都国立博物館） 年１～２回程度 （奈良国立博物館） 年２～３回程度 （九州国立博物館） 年２～３回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。 2）海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。 ③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者と「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1）快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 2）来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージア	2）特集 テーマ性をもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。 ・鳥獣戯画スピンオフ「動物表現の古今東西」（3 月 23 日～6 月 6 日） ・親と子のギャラリー「動物のうごき」（4 月 27 日～5 月 30 日） ・「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」（6 月 8 日～7 月 19 日） ・「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」（7 月 20 日～9 月 26 日） ・「浅草寺のみほとけ」（9 月 28 日～12 月 19 日） ・「日本で親しまれた中国南方の陶磁（仮）」（12 月 21～2 月 20 日） ・「江戸時代舶来の中国書画（仮）」（9 月 7 日～10 月 17 日） ・「瓦から読みとく寺院の歴史　―東大寺大仏殿・正倉院の瓦から―」（10 月 19 日～12 月 12 日） ・「新収品」（10 月 12 日～11 月 21 日） ・「平安時代の名筆―高木聖鶴氏寄贈品より―」（10 月 19 日～12 月 12 日） ・「中国書画精華－仏教文化の粋－（仮）」（10 月 13 日～12 月 5）日 ・「博物館に初もうで（寅）」（4 年 1 月 2 日～1 月 31 日） ・「趙孟頫とその時代（仮）」（4 年 1 月 2 日～2 月 27 日） ・「修理完了記念　国宝・医心方のすべて」（4 年 2 月 8 日～3 月 21 日） ・「おひなさまと日本の人形」（4 年 2 月 22 日～3 月 21 日） ・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（3 月 23 日～4 月 17 日） 3）文化庁関係企画 「令和 3 年 新指定 国宝・重要文化財」（11 月 30 日～12 月 12 日）にて、令和 2 年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。 4）トーハク新時代プランに基づき、展示室に映像コンテンツを引き続き設置し、日本文化と展示への理解促進を図る。また、文化財活用センターを中心にして、本館特別 3 室に、高精細複製品や映像を使った、日本美術に親しむための体験型展示を設ける。 （京都国立博物館） 1）特別展示館である本館（明治古都館）改修に伴い、平常展示館である平成知新館において特別展と名品ギャラリー（平常展）を開催する。そのための適切な平常展展示計画を策定、実施する。 2）平成知新館において、趣向をこらした特別企画、特集展示を実施し、平常展の充実を図る。 特別企画 ・「オリンピュア×ニッポン・ビジュツ」（6 月 5 日～7 月 4 日） 特集展示 ・「寅づくし－干支を愛でる－」（4 年 1 月 2 日～2 月 13 日） ・「後期古墳の実像－播磨の首長墓・西宮山古墳－」（4 年 1 月 2 日～2 月 13 日） ・「新収品展」（4 年 1 月 2 日～2 月 6 日） ・「雛まつりと人形」（4 年 2 月 19 日～3 月 21 日） （奈良国立博物館） 1）下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館　絵画、書跡、工芸、考古 ・なら仏像館　彫刻 ・青銅器館　中国古代青銅器 2）分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「お水取り」（4 年 2 月 5 日～3 月 27 日）等 （九州国立博物館） 1）特集展示等によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・「新収品展」（4 月 13 日～5 月 23 日）

		ムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。	・特集展示「岡山市立オリエント美術館所蔵品展（仮）」（7 月 6 日～10 月 3 日） ・特集展示「没後３５０年記念　明国からやってきた奇才仏師　范道生」（7 月 17 日～10 月 10 日） ・特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展　手わざ―琉球王国の文化―」（10 月 19 日～12 月 12 日） ・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（4 年 1 月 1 日～1 月 30 日） 2）新時代プラン「楽しかぁ！！九博プラン」に基づき、高精度のレプリカを活用したハンズオン展示の充実を図る。 ②特別展等 1）特別展 （４館共通） ア　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 イ　特別展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響など、これらの事情を考慮し、モニタリングする。 （東京国立博物館） ア　特別展「鳥獣戯画のすべて」（4 月 13 日～5 月 30 日）（43 日間） 京都・高山寺所蔵の「鳥獣戯画」甲乙丙丁の 4 巻の全場面を、会期を通じて一挙公開するとともに、かつて 4 巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々を集めて展示する。（目標来館者数 8 万人） イ　特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（6 月 22 日～9 月 12 日）（72 日間） かつて大神神社の神宮寺にあった国宝 十一面観音菩薩立像（聖林寺蔵）、国宝 地蔵菩薩立像（法隆寺蔵）などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展示する。（目標来館者数 6 万人） ウ　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」（仮称）（7 月 6 日～令和 4 年 2 月 20 日）（192 日間） 当館の東洋館の展示で不足しているイスラーム美術をマレーシア・イスラーム美術館のコレクションを借用して展示する。（目標来館者数 10 万人） エ　特別展「聖徳太子と法隆寺」（7 月 13 日～9 月 5 日）（49 日間） 本年は聖徳太子の 1400 年遠忌にあたる。これを記念して法隆寺に伝来した宝物を柱として、太子への篤い信仰が生み出した作品を一堂に集め展観する。（目標来館者数 8 万人） オ　特別企画「東アジアのうるしの世界」（7 月 13 日～9 月 20 日）（62 日間） 中国国家博物館、韓国国立中央博物館と当館館長の日中韓館長会議は 2 年に一度、持ち回りで開催し、合わせて展覧会を行なってきた。本年は当館で開催する。日本、中国、韓国の漆工芸の作品を展示する。（目標来館者数 5 万人） カ　特別企画「スポーツ NIPPON」（7 月 13 日～9 月 20 日）（62 日間） 東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、日本のスポーツの源流である武術、相撲、蹴鞠等にかかわる作品と秩父宮スポーツ博物館所蔵の近代スポーツ、オリンピック関連の品々を展示する。（目標来館者数 5 万人） キ　特別展「春夏秋冬」（仮称）（9 月 4 日～11 月 28 日）（74 日間） 日本の四季を歌った歌詞と美術作品を取り合わせて展示する。映像とパネル、複製で構成する。（目標来館者数 5 万人） ク　特別展「最澄と天台宗のすべて」（10 月 12 日～11 月 21 日）（36 日間） 本年は天台宗を創めた最澄の 1200 年遠忌である。これを記念して天台宗の総本山である比叡山延暦寺をはじめ、全国各地の天台宗諸寺院等が所蔵する国宝、重要文化財含む貴重な寺宝を一挙に展示する。（目標来館者数 6 万人） ケ　特別企画「手わざ―琉球王国の文化」（令和 4 年 1 月 15 日～3 月 6 日）（44 日間） 模造復元品の展示を通して琉球王国のものづくりの様相を紹介し、手わざの素晴らしさとともに琉球・沖縄の美意識を紹介する。さらに模造復元を通して得られた最新の

知見を紹介し、琉球王国文化の新たな一面を明らかにすることを目指す。（目標来館者数３万人）
コ　特別展「ポンペイ」（仮称）（令和４年１月 18 日～３月 13 日）（48 日間）
ナポリ国立考古学博物館が所蔵するローマ時代のモザイク画や美術品、遺物展示のほか、会場にポンペイ遺跡を再現し、当時の様子をCG 映像等でも紹介するなど、学術的な裏付けと共にわかりやすく楽しめる展示とする。（目標来館者数８万人）
サ　特別展「体感！日本の芸能」（令和４年１月～３月）
日本の芸能に関する体験型展示。衣装、道具、仮面、楽器などを展示し、仮設の舞台で役者等によるデモンストレーション、指導の下、体験を行う。（目標来館者数３万人）
シ　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」（令和４年３月～）
2022 年は空也上人が歿してから 1050 年になる。これを記念して空也上人が開いた六波羅蜜寺に伝わった仏像を展示する。（目標来館者数２万人）
○目標来館者数の合計 69 万人（海外展、他館開催を除く。）
（京都国立博物館）
ア　凝然国師没後 700 年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（３月 27 日～５月 16 日）（50 日間）
日本仏教の恩人というべき鑑真の遺徳を唐招提寺の寺宝によって偲ぶとともに、律のおしえが日本でたどった歩みを紹介する。（目標来館者数５万人）
イ　特別展「京の国宝ー守り伝える日本のたからー」（７月 24 日～９月 12 日）（50 日間）
京都ゆかりの文化財のうち、精華ともいうべき美術工芸品の国宝を中心に展観し、京都が日本の文化財保護に果たしてきた重要な意義を紹介する。（目標来館者数８万人
ウ　特別展「畠山記念館の名品ー能楽から茶の湯、そして琳派ー」（10 月９日～12 月５日）（57 日間）
畠山記念館の休館の時期、「與衆愛玩」という即翁の理想を分かち合うために、関西の地において初めて開催される名品展。即翁の審美眼と美意識に触れ、彼が愛した茶の湯をはじめとした日本文化を紹介する（目標来館者数５万人）
○目標来館者数の合計 18 万人
（奈良国立博物館）
ア　聖徳太子 1400 年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」（４月 27 日～６月 20 日）（49 日間）
法隆寺の宝物を柱として、聖徳太子への篤い信仰が生み出した作品を一堂に公開する。（目標来館者数 10 万人）
イ　特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクション」（７月 17 日～９月 12 日）（51 日間）
日本を代表する仏教美術の名品の数々を紹介する。（目標来館者数５万人）
ウ　特別展「第７３回 正倉院展」（予定）（10 月～11 月）
正倉院宝庫に伝わる宝物約 70 件を展示。（目標来館者数６万人）
エ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（４年２月５日～３月 27 日）（47 日間）
聖林寺十一面観音菩薩立像を中心に、三輪山信仰が育んだ文化を紹介する。（目標来館者数４万人）
○目標来館者数の合計 25 万人
（九州国立博物館）
ア　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（４月 20 日～６月 13 日）（49 日間）
これまでに製作された数百点におよぶ再現模造作品のなかから、選りすぐりの逸品を一堂に集めて公開する。（目標来館者数３万人）
イ　特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」（７月 20 日～８月 29 日）（49 日間）
宮内庁三の丸尚蔵館の貴重なコレクションのうち、時代を超えて皇室が守り伝えてきた数々の名品に加え、特に九州ゆかりの作品や皇室に献上され賞玩された品々、さ

らに皇室による美術工芸の保護と文化の奨励について紹介する。（目標来館者数５万人）
ウ　特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景」（10 月９日～12 月５日）（50 日間）
日本神話の海幸山幸をキーワードに全国各地の考古資料、美術工芸品、歴史資料により、日本人と自然のかかわりを概観する。（目標来館者数４万人）
エ　特別展「最澄と天台宗のすべて」（４年２月８日～３月 21 日）（37 日間）
最澄 1200 年遠忌の節目を期に、天台宗の総本山である比叡山延暦寺をはじめ、全国各地の天台宗諸寺院等が所蔵する国宝、重要文化財含む貴重な寺宝を一挙に紹介する。（目標来館者数４万人）
○目標来館者数の合計 16 万人
③観覧環境の向上等
新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに，「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の提供やサービスの改善等に努める。
1)快適な観覧環境の提供
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋及び解説等について、４言語（日、英、中、韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を引き続き整備する。
イ　トーハク新時代プランに基づき、より快適な観覧環境を構築するため、展示ケース・照明・内装など展示室等を引き続き整備する。
ウ　トーハク新時代プランに基づきリニューアルした多言語対応型の鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」を引き続き運用し、活用促進を図る。
エ　講座・講演会の会場におけるヒアリングループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」（７言語（８種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館２階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、４言語（日、英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　トーハク新時代プランに基づき、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組む。
ク　トーハク新時代プランに基づき、引き続きレプリカ・ＶＲ・8K映像等を活用した新感覚の展示を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（７言語（８種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を継続して配布する。
イ　デジタルサイネージやＳＮＳを活用し、効果的な情報発信を図る。
ウ　スマートフォンアプリを活用し、屋外展示、敷地内遺構（方広寺大仏殿）、建物等を多言語でガイドする体験学習型コンテンツを開発する。
エ　令和２年 12 月より開始した音声ガイドジュニア版を引き続き作成し、内容充実に努める。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　統一した誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　混雑が予想される特別展では、新たに誘導サインを作成したり救護スペースを設置したりするなど、より快適な観覧環境を確保する。
エ　デザインを一新し、館内案内リーフレット（７言語：日、英、中、韓、仏、独、西）

	（３）教育普及活動等 国立博物館が行う講演会等のイベントや各種図録の出版等の教育普及活動は，展覧事業の効果を高めるとともに，有形文化財の収集や修理等を含め，国立博物館の多様な業務を広く普及する上で不可欠であり，その重要性は高まっている。 「新しい生活様式」にも配慮しつつ，講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上や幅広い層を対象とした多様な学習機会の提供，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組を推進する。 また，展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報を行うとともに，ウェブサイトにおいて収蔵する有形文化財に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充を推進し，アクセスの増加を図る。	（３）教育・普及活動 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう，「新しい生活様式」にも配慮しながら教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び大阪・関西万博等に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。 ①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等のアンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 1)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育	を継続して制作する。 オ　多言語による案内について充実を図る。 （九州国立博物館） ア　快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。 イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かりやすい情報発信に努める。 ウ　館内案内リーフレット（7 言語（8 種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 エ　音声ガイド（４言語：日、英、中、韓）の内容充実に努める。 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 （４館共通） ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。 ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 （京都国立博物館・奈良国立博物館） ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 （東京国立博物館） ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。 （奈良国立博物館） ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。 （九州国立博物館） ア　アンケート等の意見を参考にミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努める。 イ　ミュージアムショップにおいてオリジナルグッズの提供に努める。 （３）教育・普及活動 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また、日本博事業において多くの来館者への教育普及事業に取り組む。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに、「新しい生活様式」にも配慮した教育普及事業を実施する。 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 （４館共通） ア　講演会等のアンケートについては、満足度が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 （東京国立博物館） ア　文化財についてわかりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。状況に応じてオンラインによる配信も活用する。 イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージア

		関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 2)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。 3)大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。 5)博物館支援者増加への取組 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信を推進するとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 1)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。 3)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。	ムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。また、本館地下みどりのライオンにオンライン発信ステーションを整備し運営を行う。 (ア)ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集「親と子のギャラリー　動物のうごき」(4 月 27 日～5 月 30 日) ・「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化リターンズ」(7 月 20 日～9 月 5 日) (イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(時期調整中)、「博物館でアジアの旅」(時期調整中)、「博物館に初もうで」(時期調整中)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。 (ウ)体験型プログラムの実施 ・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。 ・本館 19 室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティ等の体験型プログラムを実施する。 ・トーハク新時代プランに基づき、日本文化に関連した体験型アクティビティを恒常的に実施するためのスペースとして本館特別３室を整備しプログラムを実施する。 ウ　学校との連携事業を推進する。状況に応じてオンラインによる配信も活用する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。 ・教員を対象とした研修等を継続して実施する。 エ　トーハク新時代プランに基づき、外国人を対象とするガイドツアーを行う。 オ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。 カ　トーハク新時代プランに基づき、見せる修理所の開設及びバックヤードツアーの導入を行う。 （京都国立博物館） ア　歴史や文化について分かりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。 イ　京都文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）等を発行する。 ・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 ・「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開に向けた検討を行う。 （奈良国立博物館） ア　講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 ・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。 イ　小中学校との連携 ・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。 エ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。 （九州国立博物館）

ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
オ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうばっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車「きゅーはく号」の活用により、きゅーはくきゃらばん（移動博物館事業）の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学生を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
・夜間開館時にファミリー向けの教育普及事業を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。
ケ 手話通訳付きミュージアムトークを開催したり、点字ガイドブックを作成するなど、障がいをもつ方にも展示を楽しんでもらえるような環境を整える。
2)ボランティア活動の支援
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）の活動内容の検討を行う。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ　「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。
（奈良国立博物館）
ア　新体制でボランティア活動をスタートさせ、ボランティア活動の充実化を図る。
イ　オンライン形式を取り入れた活動を実施する。
ウ　オンライン形式でボランティアを対象とした研修を実施し、ボランティアの資質向上を図る。
（九州国立博物館）
ア　ボランティア各部会の活動の充実を図る。
イ　令和元年度新規募集した第６期ボランティアの活動をスタートさせる。
ウ　ボランティアの企画立案によるワークショップ等のプログラムの充実を図る。
エ　学校教育活動支援事業の学習プログラムの一部をボランティアにより実施する。
3)大学との連携事業等の実施
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）

ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館学講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。
（京都国立博物館）
ア　連携協力協定に基づき京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業について、実施及び方法を検討する。
5)博物館支援者増加への取組
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
（４館共通）
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会・シンポジウム等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の更なる獲得を図る。
イ　支援団体等との連携によりイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
ウ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら、引き続き検討する。

（京都国立博物館）
ア　所蔵品の画像及び解説等の情報を掲載した「館蔵品データベース」の公開を継続しつつ、リニューアルに着手する。
イ　機構内外の事例を参考にしながら、オンラインでの画像利用申請機能追加に着手する。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報や解説並びに展示予定の情報を掲載した収蔵品データベースを継続して公開する。
イ　対馬宗家文書データベースのリニューアルを検討する。
2)資料の収集と公開
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実に努め、内外の利用に供する。
3)広報活動の充実
3)-1 広報計画の策定と情報提供
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布（WEB 公開を含む。）を行う。
（東京国立博物館）
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　特別企画・特集等を軸とした総合文化展の広報の企画・運営、広報・宣伝制作物の制作・配布等を行う。
イ　公式キャラクターを活用するなど、一般の人により親しまれる広報活動を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使による、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　応援大使による広報活動を引き続き行う。
ウ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
エ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
オ　民間企業と協同し、商品開発やコラボイベントによる広報活動を推進する。
3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。
（京都国立博物館）
ア　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
イ　京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携協力により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布等広報協力を依頼する。
（九州国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。
3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトでは、動画コンテンツを含むコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）やメールマガジンを活用した情報発信を継続して行う。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布し、PDF 版をウェブサイトに掲載する。（年４回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター等）、ブログ、メールマガジンによる情報発信を継続して行う。

	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 収蔵品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。 ②その他有形文化財に関連する調査研究 文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。 ③国内外の博物館等との学術交流等 2019 年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。　　また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。 ④調査研究成果の公表 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。	オ　ウェブサイトをリニューアルし、モバイル対応・多言語ページの拡充等により、利用性及び情報発信力を高める。 （奈良国立博物館） ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回） イ　ウェブサイトのほか、SNS（ツイッター、YouTube）による情報発信を行う。 ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。 エ　外国語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。 （九州国立博物館） ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 イ　４言語（日、英、中、韓）によるウェブサイトでの情報提供を行う。 ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。（年４回） エ　SNS（ツイッター）やメールマガジンによる情報発信を継続して行う。 オ　展示やイベントを紹介する動画を制作し、ウェブサイト等での情報発信を行う。 （４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等において、その成果を発信する。 （４館共通） ア　科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 （東京国立博物館） ア　特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 42 次）、「書跡」第 18 回、「工芸」第 13 回「彫刻」第 11 回、「絵画」第６回、「考古」第１回） イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究 ウ　収蔵品等の有形文化財に関する調査研究 エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究 オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究 カ　東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究 キ　「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」ほか特集に関連する調査研究 ク　館蔵の埴輪等資料に関する調査研究 （京都国立博物館） ア　近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究 イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究 ウ　旧家伝来の工芸品に関する調査研究 エ　京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究 オ　特集展示・特別企画に関連する調査研究 （奈良国立博物館） ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究 イ　古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究 ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査 エ　墳墓出土品の調査研究 オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究 カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究 （九州国立博物館） ア　Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究 イ　近世キリスト教に関する研究 ウ　「国宝・初音の調度」ほか特集展示・特別公開等に関連する調査研究 エ　水中遺跡の保存活用に関する調査研究 2)特別展等の開催に伴う調査研究

			国内外の博物館等と連携しながら、特別展等の開催に向けた各種調査研究を実施する。 （東京国立博物館） ア　特別展「聖徳太子と法隆寺」ほか特別展等に関する調査研究 （京都国立博物館） ア　特別展「畠山記念館の名品」ほか特別展に関する調査研究 （奈良国立博物館） ア　特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクション」ほか特別展に関する調査 （九州国立博物館） ア　開館 15 周年記念特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景」ほか特別展に関する調査研究 3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 （文化財活用センター） ア　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究 （東京国立博物館） ア　博物館環境デザインに関する調査研究 イ　博物館教育に関する調査研究 ウ　凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究 エ　ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究 オ　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究 カ　博物館広報・国際交流活動に関する調査研究 （京都国立博物館） ア　博物館教育及びボランティア活動に関する調査研究 （奈良国立博物館） ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究 （九州国立博物館） ア　特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究 イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 （東京国立博物館） ア　博物館の環境保存に関する調査研究 （京都国立博物館） ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究 イ　文化財の製作技法・材料等に関する調査研究 ウ　社寺等における保存環境に関する調査研究 （奈良国立博物館） ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究 イ　文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究 ウ　保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究 （九州国立博物館） ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究 イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究 ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究 エ　展示収蔵環境の空気質に関する調査研究 2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 （東京国立博物館） ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究

	（５）国内外の博物館活動への寄与 国立博物館は，多くの有形文化財を収蔵しており，従来，国内外の博物館等における展覧事業への出品要請等に対応するとともに，展覧事業の企画等への援助・助言等を行っている。 これらの業務を通じて，国内外の博物館活動へ寄与することは重要であり，国内外からの博物館等からの収蔵品貸与等の依頼に対し，収蔵品の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じる。 また，国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じる。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。	イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究 （京都国立博物館） ア　データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等 （４館共通） 1)学術交流協定を締結している博物館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2)海外の博物館・美術館等の研究者との交流を促進する。 3)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣（オンラインを含む。）する。 4)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等を開催若しくはそれらへ職員を派遣する。 （東京国立博物館） 2)アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）、日中韓国立博物館館長会議等の国際会議へ参加する。 3)北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業等の、日本美術を通じた密接な国際交流を推進する。 （九州国立博物館） 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招へいし、専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。 ④調査研究成果の公表 （東京国立博物館、京都国立博物館） 1)文化財修理報告書を刊行する。 （東京国立博物館） 1)「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2)紀要等を刊行する。 3)研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年６回） 4)刊行物リポジトリの導入の準備作業を開始するする。 （京都国立博物館） 1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 2)社寺調査報告書等を刊行する。 （奈良国立博物館） 1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （九州国立博物館） 1)研究紀要『東風西声』を刊行する。 2)博物館科学に関する印刷物を刊行する。 （５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2）文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。 （東京国立博物館） 1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与を促進する。 2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。 3)地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与する。 （京都国立博物館） 1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （九州国立博物館） 1）福岡県内の博物館・資料館の平常展示のため、九州ゆかりの文化財を引き続き長期

	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 文化財活用センターは，文化財が持つ新たな魅力や価値を引き出し，文化財を通した豊かな体験と学びを提供することで，文化財の次世代への確実な継承のみならず，地方創生，観光振興につながる新たな活用のあり方を目指す。そのため，文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進，国立博物館収蔵品貸与促進事業の促進，文化財機構の文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信及び文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K 映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進を行う。 国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。 ③文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信を行う。 ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、e 国宝（文化財高精細画像公開システム）の内容の充実を図る。 ④文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。 「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。	貸与する。 2）国内外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 （東京国立博物館） 1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行う。 （京都国立博物館） 1）畠山記念館の建て替え工事に伴い、同館の所蔵品を預かるとともに、共同でこれらの調査研究を行う。 （九州国立博物館） 1)地域の自治体等と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2)公私立博物館・美術館等職員等のための IPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。 （６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 （文化財活用センター） ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 1)各施設と連携して、高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K 映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 2)地域の美術館・博物館等への企画コンテンツの貸出を行う。 イ　トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別３室に、高精細複製品や映像を使った、日本美術に親しむための体験型展示を設ける。 ア　なりきり美術館を山口県・山口情報芸術センターで開催する。 3)学校や地域の美術館・博物館との連携により、高精細複製品等を活用したアウトリーチプログラムを実施する。 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進 1)４館と連携して、国立博物館の収蔵品を対象とした「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を継続して行う。 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。 2)各施設と連携して、４館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「ｅ国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータの更新、解説文の見直しを継続して行う。 3)各施設の協力のもと、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。 4)文化財活用センターのウエブサイト、SNS 等を活用し、文化財活用センターの活動の周知ならびに、文化財全般にかかる情報の発信を行う。 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 1)博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応して助言を行い、必要に応じて、改善のための調査や技術支援を行うとともに、環境管理に関する調査研究を行う。 2)文化財保存管理に携わる学芸員や行政担当者等を対象とした、保存環境管理に関する研修会や講習会等を開催する。 3)文化財保護法 53 条に基づいて、所有者以外による文化財公開を行う施設に対する保

			存環境調査を実施し、必要に応じて、改善のための指導を行う。 4)国立博物館収蔵品貸与促進事業の実施館の環境調査を実施し、必要な指導・助言を行う。
No. Ⅰ―2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 有形文化財及び伝統的建造物群に関する調査研究においては，文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，各時代の絵画・彫刻，古代建築，近畿地方を中心とする寺社の歴史資料・書跡資料，重要伝統的建造物群保存地区の候補となりうる伝統的建造物群に関する研究に重点的に取り組むものとする。 無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究においては，無形の文化財の現状把握と記録に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，重要無形文化財を中心とする古典芸能，伝統工芸技術及びそれに関わる文化財保存技術，重要無形民俗文化財を中心とする民俗芸能，風俗慣習，民俗技術に関する研究に重点的に取り組むものとする。 記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究においては，文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，古代日本の都城遺跡（平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡）の発掘調査，史跡・名勝の保存と活用の在り方，重要文化的景観及びその候補となりうる文化的景観の保存・活用実態，水中文化遺産及び古代宮衙遺跡等に関する研究に重点的に取り組むものとする。	（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 有形文化財、 伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の研究に資するため、古材調査を中心とする古代建築調査を行う。また、近世・近代の建造物等の調査研究及び保存活用計画の策定への協力を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。 1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究 重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、	（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所等と共同研究を行う。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 イ　近世以前の日本をはじめとする東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進める。また年記資料をはじめとする基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外との研究交流を推進する。 ウ　日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。 エ　美術作品を中心とする有形文化財についての歴史的位置づけ及びそれに基づくより深い理解を得ることを目的として、種々の美術工芸品を主な対象として、その表現・技術・材料等について、自然科学や人文学における様々な隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施し、その成果公開を行う。さらに、新たな独創的研究視点や手法の検討・開発にも取り組む。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 古材調査等を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存活用を行っている各自治体等への協力を行う。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、当麻寺・仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 無形文化財等の伝承実態及びそれらに関わる文化財保存技術に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、伝承が困難なため現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。 調査研究等に際しては関連する他分野の研究者、伝承者・保存団体、技術保持者・保持団体等との連携を図り、当該調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査

		調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。 2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究 無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 国内の水中文化遺産保護等に関する調査を行う。	を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。さらに平城宮跡等で活用に関する実践的研究を行う。 イ　庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築に関する研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用、及び文化的景観における生活・生業に関する情報収集、調査研究を行う。また、得られた成果を公表し、全国の文化財保護行政担当者、研究者と共有する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の保存並びに活用に関する調査研究を行う。
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の調査手法に関する研究開発においては，文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法及び色彩復元に関する調査研究を行う。 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構・遺物の計測や記録内容情報抽出に

	査研究においては，文化財の保存に関する研究の進展を図ることとし，生物被害の機序解明と対策，文化財の保存環境と維持管理，文化財の材質・構造等の科学的分析，屋外文化財の保存修復計画，文化財の修復方法と材料の研究，被災文化財や近代文化遺産の修復技術，考古遺物の保存処理法，環境制御による遺構の保存法，高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策に関する研究に重点的に取り組むものとする。	1)視覚情報からのデジタル情報の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び劣化状態、材料、制作技法等の情報の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等の手法について研究開発を進める。 2)埋蔵文化財の調査手法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測・分析等の調査手法に関する研究開発を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定を推進するとともに、分析に必要不可欠となる各地の年輪データを収集・整理し、その地域性に関する研究等を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代の調査に関する研究開発を進める。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、基礎研究として、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。 5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発 AR・VR 技術やゲーム、データベース等の手段を用いた文化財の調査・研究成果の公開・普及を促進するための基礎研究を進める。 6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 遺構、遺物、石造物、地質などの遺跡調査において確認される情報を統合した災害史の基礎研究を行い、防災・減災に資する情報活用、普及啓発に向けた調査研究を行う。 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 1)生物被害の機序解明と対策に関する調査研究 生物被害の機序解明を通して、虫菌害対策のシステム化を行う。文化財建造物や古墳など生物制御が困難な場所では、環境と調和した新しい対策法の検討を進める。博物館等施設内の生物被害モニタリングの改良と標準化によって予防保存をより向上させる。また、被災文化財の生物被害を低減するための初期対応方法を研究する。 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究	ついての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけてのＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代調査や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。 5) 文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発 文化財の調査・研究成果の公開を主眼としてＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含め、一般に向け た成果の活用について検討を行う。特に、小中学校のプログラミング教育必修化や新型コロナウイルスによる新しい生活様式に対応した形での文化財情報の活用を検討する。 6) 物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 都城発掘調査部や地方公共団体等が実施する発掘調査によって得られる地層データについて、その取得、分析、公開などの手法を研究し、災害史の基礎資料として発掘調査データを活用することを検討する。また、これらの記録手法として三次元計測や画像解析の研究を進める。 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究 文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた生物劣化の機構解明を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について研究を行う。 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 博物館美術館等の文化財保管施設における環境変動要因、特に空気質等に関する調査を実施し、最適な環境条件を設定するための検討を行う。また、被災文化財の一時保管場所を念頭に置いて、文化財防災センターと協力して様々な施設における環境調査を実施し、安定した保存環境を設定するための方策について検討する。 3)文化財の材質・構造・保存状態に関する研究 各種の可搬型及び据置型分析装置を用いた文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている鉛や青銅の腐食に関する調査研究及びその対策に関する検討を行う。 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 屋外に存在する人文資料や自然史資料を対象に、その劣化状況を適切に評価し、価値を回復して人々に有効に伝えるための適切な保存修復方法を検討する。 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復にこれまで使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法に関する科学的調査を実施し、その物性評価を行う。関連する伝統材料・製作技法についても科学的調査と情報集積を開始する。また、修理技術者に必要な科学に関して、今までの成果を元にアウトリーチ活動の検討を進める。 6)文化財の修復技術に関する調査研究 災害によって被災した文化財資料の応急処置または保存修復処置に係る技術や方法に関する調査研究を行う。近代以降に使われるようになった新しい保存修復技術や方法に関する調査研究を行う。様々な技術や方法を、保存修復処置を行う現場に効果的に

		様々な条件下における建物の特徴と環境との関係を明らかにしつつ、文化財保存に最適な環境を作り出し、維持管理する方法を検討する。被災文化財の一時保管場所を想定した保存環境について、環境整備に必要な温湿度・空気質等の状況を把握し、より良い環境づくりのための調査研究を行う。 3)文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 各種の可搬型分析装置を用いた文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている金属の腐食に関する調査研究及び対策の検討を行う。 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 屋外に存在する多様な文化財について、その価値を有効に人々に伝えるための適切な保存修復計画の構築に資する研究を行う。 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。 6)文化財の修復技術に関する調査研究 被災文化財の保存修復技術、及び近代以降に使われるようになった新しい材料や技法に関する保存修復技術の調査研究を行う。様々な保存修復技術を現場に効果的に適用するための研究を行う。 7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 金属製遺物やガラス製遺物などの無機質遺物を中心に、材質に関する定量分析法の問題点を抽出するとともに、確度の高い分析法の確立を目指した調査研究を行う。 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。	適用するための研究を行う。 7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化する新たな手法の確立と実用化に向け、実践的な基礎研究を行う。 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構の劣化要因として塩害及び乾湿繰り返しに着目し、これらの劣化因子が遺構を破壊するメカニズムに関する基礎研究を実施する。また遺構の周辺環境がこれらの劣化の進行におよぼす影響を検討することで、それらの進行を抑制する環境制御法、及び脱塩などの処置法などについても検討する。 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 イメージング技術を活用した考古遺物等の非破壊調査を進め、古代の材料・技法に関する調査研究を行う。光学的手法を用いて各種色料（顔料、染料、ガラス着色剤など）の基礎データを収集するとともに、劣化による変化を明らかにするための実験を行う。また、蛍光Ｘ線分析等の機器分析の標準化にむけての実験及び基礎データの収集を行う。 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。 ウ　遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うため、大分県や熊本県に所在の装飾古墳及び宮崎県に所在の横穴墓において温熱環境調査及び石材などの劣化状態調査を行い、適切な石室内の熱水分環境について検討を行う。

	（３）文化遺産保護に関する国際協働 文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年２月 21 日外務省・文部科学省告示第１号）（以下「基本方針」という。）」等に従い，文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進を行う。 また，アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い，文化遺産国際協力を推進する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」（抜粋） 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 ４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ④ また，平成 23 年 10 月には，日本国政府とＵＮＥＳＣＯ（国際連合教育科学文化機関（以下「ユネスコ」という。）との協定に基づき，ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターとして，独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センターが設置された。当該センターにおいては，我が国の無形文化遺産に関する国際協力の拠点として，東京文化財研究所等の関係機関と連携しつつ，アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することが望まれる。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN 諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力 諸外国が所蔵している日本古美術品等の保存修復に協力し、さらにその成果を英文報告書等で公開することにより日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア) アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマー、カザフスタン等における文化遺産について研究及び協力事業を実施する。 (イ)上記事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。 ア　政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）ほか国内外の諸機関等と連携し、紙文化遺産等に関する国際研修や国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産担当者と共有するとともに、協力ネットワークを構築する。 イ　ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力 在外日本古美術品の保存修復に協力し、さらに成果を報告書等で公開することにより、日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究 ・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
	（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開する。	（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 文化財に関連する情報・資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。

	調査研究の成果を刊行物，講演会等を通じて広く公表するとともに，平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開する。なお可能な限り，調査研究に関する論文等について，学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開を推進する。	する。 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。 ③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、「新しい生活様式」を踏まえつつ、解説ボランティアを育成し、その活動を支援する。	1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。 2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管及び公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。 3)調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』（年３冊） ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』 ・『奈良文化財研究所紀要』 ・『奈良文化財研究所概要』 ・『奈文研ニュース』 ・『埋蔵文化財ニュース』 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー） ・公開講演会 ・現地説明会 3)ウェブサイトの充実 ・東文研総合検索索 ・学術情報リポジトリ ・なぶんけんブログ等（コラム作寶棲等） ③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展 （平城宮跡資料館） ・特別企画展第１部「平城宮跡保存運動のさきがけ―大極殿標木建設式 120 周年―」/第２部「大地鳴動―大地の知らせる危機と私たちの生活」（４月 29 日～５月 30 日） ・特別展「森繊と奈良」展（仮称）（８月７日～９月 12 日）予定 ・特別展「地下の正倉院展」（10 月９日～11 月７日）予定 ・企画展「発掘された平城 2020・2021」（４年１月 29 日～３月 27 日）予定 （飛鳥資料館） ・ミニ展示「収蔵品セレクション」（仮）（４月 23 日～５月 16 日） ・企画展「第 12 回写真コンテスト作品展「飛鳥の木」（仮）」（７月２日～８月 29 日） ・特別展「掘り出された仏教　飛鳥地寶（仮）」（９月 17 日～11 月 28 日） ・企画展「飛鳥の考古学 2021」（４年１月 21 日～３月 13 日） 2）定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。

	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 　地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画に基づき実施する。 　また，文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，専門的・技術的見地から適切な協力等を行う。	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 　我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 　また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 　①文化財に関する研修の実施 　文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者等に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 　なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。 　②文化財に関する協力・助言等 　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 　③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業への協力 　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 　④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ①文化財に関する研修の実施 1）文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2）研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1）文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2）蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3）地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1）文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力 2）ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力 ④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1）東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・奈良大学：「文化財修景学」
	（６）文化財防災に関する取組 文化財防災センターは，文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築，専門的な知見から必要となる支援を行うとともに，文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図る。	（６）文化財防災に関する取組 　文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築、文化財防災のための技術開発、専門的な知見から必要となる支援を行うとともに、文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図るため、次の取り組みを行う。 　①地域防災体制の構築 　都道府県文化財所管部局を中心とした地域内連携体制、及び近隣都道府県の災害時相互支援体制の構築・促進等を図る。 　②災害時ガイドライン等の整備 　多様な文化財に関する分野別の防災ガイドライン等の整備を図る。	（６）文化財防災に関する取組 （文化財防災センター） ①地域防災体制の構築 地方公共団体、美術館、博物館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。 1）地方公共団体、美術館、博物館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体との協議、情報交換会を開催する。 2）都道府県が策定する文化財保存活用大綱、市町村が策定する文化財保存活用地域計画及び都道府県並びに市町村が策定する地域防災計画を収集し、地域文化財の防災体制に関する調査研究を行う。 　②災害時ガイドライン等の整備 災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。

		③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 　各種の文化財収蔵施設や設備の安全対策に関する調査研究、被災文化財の応急処置・修復処置に関する事例の収集と技術開発、被災文化財の保管環境や災害時対応の手順等に関する研究を行う。 　④文化財防災を促進するための普及啓発 　ＨＰ等の活用による各種の広報活動を行う。シンポジウム・講演会を開催するとともに、地方公共団体職員や博物館・美術館学芸員等を対象とする研修を行って、文化財防災に関する普及啓発を行う。また、国際機関・外国機関等との連携を通じ文化財防災に関する国際貢献に資する。 　⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 各種文化財データベースの構築を行い、防災に活用するためのシステムの整備・開発を行う。	1）各分野の文化財の防災に関する課題を整理する。 2）各分野の文化財の災害時における救援活動に必要となるガイドライン等の検討を行う。 　③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。 1）博物館、美術館及び社寺等における文化財等の災害に対する安全対策の調査研究を行う。 2）保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境、被災現場の作業環境等に関する調査研究を行う。 　④文化財防災を促進するための普及啓発 文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。 1）シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。 2）文化財防災に関する取組についてウェブサイトでの公開とパンフレット等の作成を行い、国内外への情報発信に努める。 　⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する。 1）文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報を収集し、整理して共有化を図る。 2）多様な文化財の防災に資するデータベース構築のためのデータ収集を進めるとともに、文化財防災への活用方法の調査研究を行う。 3）歴史災害痕跡に関するデータ収集を行い、データベース等の運用及び活用を進める。 4）地域文化財の防災に資するための文化遺産リスト作成に関する調査研究を行う。 5）諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。
No. II 業務運営の効率化に関する事項	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 　組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとし，法人の事業全体を通じて，体制の整備を図ることとする。 （２）人件費管理の適正化 　給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。 （３）契約・調達方法の適正化 　契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。 （４）共同調達等の取組の推進 　消耗品や役務について，上野地区を始め近隣の関係機関と連携して共同調達に取り組む。 　なお，具体的な対象品目等は，年度計画等に定めた上で進めるものとする。 （５）一般管理費等の削減	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。機構の事業全体を通じて、体制の整備を図る。 （２）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 　「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について近隣の関係機関等との共同調達等の取組を推進する。 （５）一般管理費等の削減 運営費交付金を充当して行う事業については、一般	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。 　・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の設置について、検討を継続する。 　・本部に設置した文化財防災センターの組織体制を整備する。 （２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 周辺機関との共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 　上野地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、 トイレ洗浄機器等賃貸借 　京都地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー 　九州地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、ガソリン （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

	運営費交付金を充当して行う事業については，一般管理費及び業務経費の合計について，中期目標期間の最終年度において，令和２年度比5%以上の効率化を図る。ただし，文化財購入費等及び特殊要因経費，新たに追加される業務はその対象としない。また，人件費については（２）及びⅥ４．に基づき取り組むこととし，本項の対象としない。 ２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，業務・システムの最適化等を図ることとし，ICT を活用した業務の合理化・効率化を図る。 ３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされていることを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５%以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ＩＣＴの活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。 ２．業務の電子化 機構に関する情報の提供、業務・システムの統合・融合化を含む最適化等を図ることとし、ＩＣＴを活用した業務の合理化・効率化を図る。 ３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	情報システムについては、機構共通事務システム・ネットワークの運用を継続し、業務の効率化及び情報の共有化を図る。機構各施設で導入しているアプリケーション等の共通化を検討し、管理事務の効率化を図る。 ②計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 （京都国立博物館） ・警備業務及び設備保全業務の一部並びに清掃業務 ・会場運営業務 ・代表電話対応及び受付業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等 ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。 ２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行う。新たなコミュニケーションツールの導入を検討し、ＩＣＴを活用しての生産性向上を図る。 ３．予算執行の効率化 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。
No. Ⅲ 財務内容の改善に関する事項	１．自己収入拡大への取組 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において，引き続き展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，保有財産の有効利用の推進，競争的資金や寄附金の獲得など多様な財源確保に努め，運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。	１．自己収入拡大への取組 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。 これらの取組により、寄附金等収入については、第５期中期目標期間の累積額が前中期目標期間の累積実績額以上を目指す。 また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。さらに、競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化	１．自己収入拡大への取組 （１）コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な展覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 （２）機構全体において、展示事業等収入額について年度計画予算額を上回ることを目指す。 （３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （機構共通） ・文化財活用センターが中心になって運用する国立文化財機構寄附ポータルサイト等を通して、寄附促進のための情報提供等を行う。 （文化財活用センター） ・前年度から開始した東京国立博物館と共同した所蔵品の修理に対する寄附金募集活動を引き続き実施する。 （４）保有資産の有効利用の推進 （博物館４施設） ①講座・講演会等を開催する。

		を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。	②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。 （文化財研究所２施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。
	２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに，効率的な施設運営を行うこと等により，固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 ４．保有資産の処分 保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 ４．保有資産の処分 保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。	２．固定的経費の節減 固定的経費の節減のため、Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。
No. Ⅳ その他の事項	１．内部統制 理事長のリーダーシップの下で，文化財機構の全ての役職員が，法令等を遵守し，日常の業務において役職員の使命感の向上等に資するよう適切な運営を行う。法人の使命等の周知，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定の運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制を強化する。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備，役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により，情報セキュリティ対策の強化を図る。	１．内部統制 理事長のリーダーシップの下で、法人の使命等の周知、コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。	１．内部統制 内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。 ２．その他 （１）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。

	３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ，計画的な整備を推進する。 施設設備の点検・診断の結果に基づき，必要な対策を適切な時期に，着実かつ効率的に実施するとともに，施設等の全体を把握し，長期的な視点をもって，更新・長寿命化などを計画的に行う。 東京国立博物館の本館及び表慶館，京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館は，有形文化財の収蔵・展示施設であると同時に，建物自体が重要文化財であることを考慮し，関係機関と連携の上，適切な保存を図りながら活用を図る。	３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。 国立博物館の施設設備の整備においては、令和２年度策定のメンテナンスサイクル（個別施設計画）に基づき、既存施設の維持管理及び長寿命化改修を進める。重要文化財（建造物）や国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する建物の防火設備の整備や防火対策について検討し、具体的な防火対策プランを作成し計画的に進める。 （東京国立博物館） 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、改修等計画を推進する。 （京都国立博物館） 京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。 （奈良国立博物館） 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。 （九州国立博物館） 防犯設備や展示照明等、開館から 15 年が経過し老朽化がみられる施設・設備について、展示環境の維持改善を目的とした改修等計画を推進する。	３．施設設備に関する計画 施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。 総合的・計画的な防火対策を重点的に進める計画を策定するため、各施設の防災設備等について現地調査の実施、整備・取組内容の検討を進める。 京都国立博物館本館（重要文化財）耐震改修に向け、本館中庭機械室を解体し、跡地の埋蔵文化財発掘調査を実施する。また耐震改修工事基本計画の策定を進める。
	４．人事に関する計画 適切な人事管理，人事交流等を実施することにより，効率的かつ効果的な業務運営を行い，人事計画等を策定し，デジタル分野など新たな業務にも対応した人材の確保・育成を図る。	４．人事に関する計画 （１）方針 適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。 国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。 職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 １４，２７８百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。 ５．中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。 ６．積立金の使途 前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。	４．人事に関する計画 （１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。 （２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の導入について、検討を継続する。 （３）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。 （４）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。 （５）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた人事交流等の実施を企画・立案する。 （６）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和３年度－

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 外部評価委員会評価報告

総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

3. 外部評価委員会委員名簿

外部評価委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

令和3年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価に対する外部評価委員会評価結果

中期目標大項目	中項目	小項目	自己点検評価	部会評価		総会評価		業務のまとまり
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	(1)有形文化財の収集・保管、次世代への継承	B	B		B		博物館
				小松	B	名児耶	B	
				浜田	B	小笠原	B	
				大久保	A	坂本	B	
				榊原	B	小松	B	
				出川	B	寺崎	B	
		(2)展覧事業	B	B		B		
				小松	B	名児耶	B	
				浜田	B	小笠原	B	
				大久保	B	坂本	B	
				榊原	B	小松	B	
				出川	A	寺崎	B	
		(3)教育・普及活動	B	B		B		
				小松	B	名児耶	B	
				浜田	B	小笠原	B	
				大久保	B	坂本	B	
				榊原	B	小松	B	
				出川	B	寺崎	B	
		(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	B		B		
				小松	B	名児耶	B	
				浜田	B	小笠原	B	
				大久保	B	坂本	B	
				榊原	B	小松	B	
				出川	B	寺崎	B	
		(5)国内外の博物館活動への寄与	A	A		A		
				小松	A	名児耶	A	
				浜田	A	小笠原	A	
				大久保	A	坂本	A	
				榊原	A	小松	B	
				出川	A	寺崎	A	
		(6)文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	B	B		B		
				小松	B	名児耶	B	
				浜田	B	小笠原	B	
				大久保	B	坂本	B	
				榊原	B	小松	B	
				出川	B	寺崎	B	
	2．文化財及び海外の文化遺産保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	B		B		研究所・センター
				寺崎	B	名児耶	B	
				寺田	B	小笠原	B	
				栗本	B	坂本	B	
				児島	A	小松	B	
				藤井	B	寺崎	B	
		(2)科学技術を応用した研究開発の進展に向けた基盤的な研究	A	A		A		
				寺崎	A	名児耶	A	
				寺田	A	小笠原	A	
				栗本	A	坂本	A	
				児島	A	小松	A	
				藤井	A	寺崎	A	
		(3)文化遺産保護に関する国際協働	A	A		A		
				寺崎	B	名児耶	A	
				寺田	A	小笠原	A	
				栗本	A	坂本	A	
				児島	A	小松	A	
				藤井	A	寺崎	A	
		(4)文化財に関する情報資料の収集・整備に関する調査研究成果の公開・活用	A	A		A		
				寺崎	A	名児耶	A	
				寺田	A	小笠原	A	
				栗本	A	坂本	A	
				児島	A	小松	A	
				藤井	A	寺崎	A	
		(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	B		B		
				寺崎	B	名児耶	B	
				寺田	B	小笠原	B	
				栗本	B	坂本	B	
				児島	B	小松	B	
				藤井	B	寺崎	B	
		(6)文化財防災に関する取組	B	B		B		
				寺崎	B	名児耶	B	
				寺田	B	小笠原	B	
				栗本	B	坂本	B	
				児島	A	小松	B	
				藤井	B	寺崎	B	
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項			B	—	—	B		法人共通
						名児耶	B	
						小笠原	B	
						坂本	B	
						小松	B	
						寺崎	B	
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項			B	—	—	B		
						名児耶	B	
						小笠原	B	
						坂本	B	
						小松	B	
						寺崎	B	
Ⅳ．予算、収支計画及び資金計画			B	—	—	B		
						名児耶	B	
						小笠原	B	
						坂本	B	
						小松	B	
						寺崎	B	
Ⅴ．その他事項			B	—	—	B		
						名児耶	B	
						小笠原	B	
						坂本	B	
						小松	B	
						寺崎	B	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和３年度－

総会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（総会）
まとめ

機構全体評価へのコメント	
名児耶委員長	3年前以前とは異なる状況下で新しい中期計画の初年度として工夫をしながらのぞんでいると思われる。今後は、この数年で取り組んだオンライン等を適切に利用して様々な取り組むことを望みます。
小笠原委員	新型コロナ感染症による行動規制のあるなか、オンライン会議やテレワーク等の活用により、一定水準の業務の質と量を確保したご尽力とご努力を評価したい。
坂本委員	コロナ禍で外部評価委員会総会に参加できるのが3年ぶり。この間の博物館及び研究所のみなさまのご苦労をくわしく拝聴することができ、頭が下がる思いがしました。 困難はいまだ継続中ですが、新しい業務の形や仕組みを取り入れ、コロナ禍転じてイノベーションにつなげるよう努めていただけるよう期待します。
小松委員 （博物館部会長） ※以降同じ	観客数の減少、光熱費など諸経費の値上がりなどもあって、機構の諸施設においては、今後、さらに厳しい状況が続いていくと思われる。来年度以降も、運営の効率化を図りながら、従来おこなってきた事業や活動の質を落とさないよう、さまざまな方策を尽くしていくことが必要であると考える。
寺崎委員 （研究所・センター部会長） ※以降同じ	昨年度・今年度と、コロナ禍の影響を受けて、従来からの人員不足・予算不足がより顕在化したように思われる。そうした中で、各機関ともに様々な工夫と必死の努力を続けられていることに敬意を表したい。 今年度全体として、所期の目標を十分に達成していると考える。

〔博物館業務〕

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	依然として続く困難な状況下において、コンスタントに寄贈を受け、収集が実施されており、さらに修理や設備の環境調査整備の充実への活動等が評価できる。今後もこの状態を維持していけることを希望する。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	理事長裁量による文化財購入費の分配は意欲的な取り組みと受け止めています。均等割りだけでは達成できない成果をあげられるよう今後も努めてください。 金剛力士立像は今後、活躍する機会が多くなりそうで楽しみです。
小松委員	B	展示施設の重要な使命である作品収集、保管、修理などが順調におこなわれている。引き続き注力されることを期待したい。
寺崎委員	B	四館ともに、計画的かつ着実に運営されていると認められる。

（2）展覧事業

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	特別展は、各館とも健闘しているといえる。「鳥獣戯画」の展示における、鑑賞方法の新しい工夫など、来館者への対応が見られ、進んでいる点は評価できる。ただ特別展は共催が多いが、常設展の充実化のように、収蔵品の多くも生かした独自の特別展も期待したい。

小笠原委員	B	総合的にはBであることを追認するが、展覧事業によっては、S評価、A評価が相当の事業もある。今後は、来客数や満足度を時系列に整理したり、アンケートそのものをスマホの活用等で回収率を図り、エビデンス力を強化していただきたい。
坂本委員	B	特別展の来館者数が少しずつ戻ってきている傾向は嬉しいですが、近年力を入れてこられた平常展の集客が一気に落ち込んだのは残念でした。 ウィズコロナ、アフターコロナ時代の展覧会の在り方は、ビジネススキームも含めて変化していきそうです。時代状況に対応できるよう検討を重ねていただきたいと思います。
小松委員	B	コロナ禍のもと、各施設ともできるかぎりの対策を尽くして展覧事業を実施している。コロナ禍が終熄した後も、来館者のニーズを的確に捉えてさらなる展覧事業の促進を図ってもらいたい。
寺崎委員	B	今年度もコロナ禍の影響を強く受けた1年となった。ちょうどコロナの流行がはじまった2020年4月から、各館の平常展入館料が、約1.5倍となったが、その影響がどうなのかも気になるところである。 特別展の評価にあたっては、来館者数とアンケート満足度を主な指標としているように読み取れるが、展示内容や方法など、館の取り組みについての自己評価をもっと打ち出しても良いのではなかろうか（京博の記述に、その傾向が見受けられるが…）。

（3）教育・普及活動

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	コロナ禍により、対面の集団での活動は制約されたが、かえってオンラインなどの新しい手法での参加者が増えた点は、評価できる。こうした手法を対面が可能になった後も、さらに改善、発展していくことも期待したい。
小笠原委員	B	オンラインによる同活動などの工夫、尽力は評価に値する。
坂本委員	B	－
小松委員	B	各施設ともさまざまな事業を積極的に実施している。九博のみが博物館実習を受け入れているようだが、博物館実習の受け入れは、将来の展示施設研究員を育てていく上で重要な事業であり、他施設でも実施を検討していただきたい。
寺崎委員	B	困難な状況下にあって、オンラインの活用などにより成果をあげていると評価される。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	各館の独自性も見られ、オンラインでの国際シンポジウムに多くの参加者があったことなど事業達成への努力が感じられた。こうした活動の維持を希望する。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	SNSによる発信をいつも注目して拝見しています。若い世代に訴求することで、博物館の役割が広がることを願います。
小松委員	B	調査・研究は展示施設のさまざまな事業の根幹である。外部資金の獲得も含めて、さらなる努力を傾注していただきたい。
寺崎委員	B	各館ともに調査研究を活発に行い、その成果が報告書・紀要等によく反映されていると考える。

（５）国内外の博物館活動への寄与		
自己点検評価　A		委員会評価　A
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	資料の貸与等の活動のほか、遠隔地とのオンラインなど、新しい手法での様々な活動が評価できる。こうした手法を、対面による活動と併用してより有益な活用できることがさらなる充実につながると思われる。
小笠原委員	A	－
坂本委員	A	苦しい時期だからこそ連携の意義は高まります。文化財活用センターの設立目的に則り、ネットワークを強化する機会と受け止めて、さらなる活動強化につなげていけるよう努めてください。
小松委員	B	各施設とも充実した施策をおこなっているようだが、それぞれの施設によって評価にばらつきがあるためＢ評価とした。
寺崎委員	A	－

（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	文化財を理解し、重要性を広く認識されるための活動は、急速には進まないと思うが、少しずつ成果を上げていると評価できる。さらなる今後の努力を希望する。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	－
小松委員	B	文化財活用センターの設置は、従来にない新しい発想であり、機構全体にわたる施策の方向性を探っていく上で有意義であると考える。今後、国内外のニーズを的確に捉えて、業務の促進を図ってもらいたい。
寺崎委員	B	文化財活用センターによる各種デジタル情報の充実と発信は、今後ますます重要になるものと期待される。

〔研究所・センター業務〕		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	各施設が、調査研究、資料のデータベース化等、着実に成果を上げていると判断できる。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	－
小松委員	B	－
寺崎委員	B	コロナ禍の中で、特に無形文化財への影響が大きく、危機感が伝わる記述が多かった。そうした状況下でも、各機関の努力によって所期の目的を達成したと判断される。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
自己点検評価　A		委員会評価　A
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	様々に、文化財の調査手法の開発に成果を上げていると思われ、確実な活動を評価できる。

小笠原委員	A	－
坂本委員	A	調査試料を得る手法やデータ化する仕組みなど新しい技術を生かした研究が着実に進んでおり、A評価に値すると考えます。 とくに「ひかり拓本」は初めて知りましたが、過去の災害データを収集することは防災に直結する取り組みであり、すでに特許も取得されておられるとのこと。さらなる成果を期待します。
小松委員	A	日進月歩である科学技術を応用して、積極的な研究はおこなわれているようである。この方面がさらに充実していくよう期待したい。
寺崎委員	A	科学技術を応用した文化財研究は、国際的にも注目されているところであるが、今年度は特に「災害」に関わり、過去の災害の分析、今後の防災に役立てる取り組みなど、大きな進展があった。

（3）文化遺産保護に関する国際協働

自己点検評価　A　　委員会評価　A

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	コロナ禍により、対面の集団での活動は制約されたが、国際会議がオンラインで開催され、積極的に参加するなど、工夫がなされ着実な成果を上げている。
小笠原委員	A	今後も東アジア文化圏における戦略的な活動の取り組みなども積極的に内外に発信して、同活動を深めていただきたい。
坂本委員	A	海外渡航が規制されている状況下で、オンラインを巧みに活用することで対面形式よりも波及効果があった等の報告があり、新しい可能性を感じることができました。
小松委員	A	さまざまな事業がおこなわれ、順調に成果を上げている。コロナ禍が終熄した後も、リモートなどによる連携をさらに密接にしていう必要があると思う。
寺崎委員	A	開設 10 周年を迎えた IRCI の活動として、無形文化遺産と災害リスクマネジメント、コロナ感染症による影響などの調査は、時宜を得たものと言えよう。

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

自己点検評価　A　　委員会評価　A

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	データベースの充実化は着実と思われるが、成果の公開にあたる活動ではオンラインもうまく活用していると思われる。
小笠原委員	A	－
坂本委員	A	与謝蕪村筆の「寒山捨得図襖絵」は昭和 30 年代の写真と比較するとかなりの損傷があることが一目瞭然。生き生きとした表情が現代に蘇ることを楽しみにしております。
小松委員	A	両施設とも順調に整備が進んでいるようにみえる。重要な事業であり、継続的、積極的な実施を期待したい。
寺崎委員	A	データベースの充実と、オンラインの活用等によって、研究成果の公開・活用が幅広く行われたと評価できる。

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	昨年度に較べ、研修受講者数も増えており、また文化財に関する協力・助言等も増えており、コロナ禍でも健闘していると思われる。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	現場のニーズにあわせて新型コロナウイルス対策の消毒に関して、援助や助言を行うなど、求められる役割を適時適切に実施しておられると考えます。

小松委員	B	近年、地方の展示施設では、財政面、人材面などの施策が不十分なため、満足な活動ができていない状況が多く見受けられる。そのような地方の施設について、文化財機構がさまざまな協力をおこなっていくことは有意義であり、引き続き努力を傾注されたい。
寺崎委員	B	文化財に関する研修および協力・助言は、件数・人数ともにコロナ禍前のレベルに回復しつつあり、心強い。

（6）文化財防災に関する取組		
自己点検評価　B	委員会評価　B	
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	文化財防災に関する地域防災体制の構築ほか定番の取組について、一定の成果をあげている。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	文化財ドクター事業はおもしろい試みです。日本建築学会等と協定書を締結するなど、体制づくりも整っており、事業のさらなる強化と広がりをお願いします。
小松委員	B	－
寺崎委員	B	文化財防災センターの設置により、国内外の様々な機関・団体との連携・指導・協力が、今後ますます重要になると思われ、その活動に期待したい。

〔法人共通業務〕

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B	委員会評価　B	
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	コロナ禍の不安定な状況の中で、一般管理費の効率化への成果が認められ、通常の結果であると思われる。
小笠原委員	B	全体はＢであるが、DX 環境構築の一環としての在宅勤務やオンライン会議の整備は評価できる。今後はこれらのより一層の効率的な運用とその他の DX（脱ハンコやペーパレス化等々）にも取り組んでいただきたい。
坂本委員	B	使用資源の削減等に努力しておられることは理解しました。一方で、世界的に脱炭素への動きが加速しています。機構は大型の施設を擁しており、将来的に ESG の観点を取り込んでいく必要があるかもしれませんので、ご留意ください。
小松委員	B	－
寺崎委員	B	－

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B	委員会評価　B	
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	自己収入が、昨年度と較べやや回復し、外部資金の獲得もほぼ回復、健闘していると思われる。展示事業収入もやや復活、いずれにしても収入の減収に対して業務経費も相当の減収で、健全に目標達成に努力していると思われる。
小笠原委員	B	積極的なファンドレイジングを評価する。今後は海外の博物館をベンチマークしてより求心力のある活動にしていただきたいと思料する。寄付ポータルサイトもよりユーザーインターフェースを考えていただければと思う。
坂本委員	B	クラウドファンディングが好調であったとの報告がありましたが、大変意欲的な活動であると評価します。従来の外部資金獲得手法に加えて、注目を集めそうな企画があればこうしたプロジェクトを立ち上げてください。

小松委員	B	寄付金等の外部資金獲得は、今後さらに重要になっていくと思われる。寄付を募る際に、その事業の重要性をいかにアピールしていくかが課題になるのではないか。 また施設の目的外使用も積極的におこなっていくべきである。
寺崎委員	B	－

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	概ね、事業に必要な予算の編成と思われる。
小笠原委員	B	－
坂本委員	B	－
小松委員	B	－
寺崎委員	B	－

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶委員長	B	内部統制委員会、リスク管理委員会の開催、情報セキュリティー研修、防火対策の設備の計画、人材の育成ほか着実な計画をたてのぞんでいると思われる。
小笠原委員	B	運営は健全、健康的に行われていると推察するが、有給休暇の消化状況や残業時間管理などは、少し補足説明いただけると助かる。
坂本委員	B	－
小松委員	B	－
寺崎委員	B	－

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
名児耶 委員長	新しい中期計画の初年度として工夫をしながら各事業にのぞんでいると思われる。今後は、この数年で取り組んだオンライン等の適切な利用を考え、文化財の展示を通して享受できるための様々な取り組みを希望する。
小笠原委員	自己点検評価についての当日のご説明はコンパクトで非常にわかりやすいもので、内容の理解に大変役に立った。それだけ、同機構の活動内容が明瞭であることの証左と理解する。
坂本委員	博物館観覧者の満足度アンケートの結果は、一般的に来館者が多いと低く、来館者が少ないと高い、というコメントがありました。展覧会の成果を数値で評価することは難しいと改めて感じました。しかしながら、何らかの目標を掲げてその結果を検証するシステムは不可欠であり、どのような仕組みがベターなのか、今後とも追求していただけますようお願いいたします。
小松委員	－
寺崎委員	３年ぶりに対面の会議で、部会および総会の説明を受けることができ、その点では良かったのであるが、膨大な活動の一端をうかがうのみで、会議時間が十分ではないように感じた。たとえば、事前に送付される資料に、当日口頭で説明予定の項目を（★印などで）明示するといった工夫があれば、少し効率的な質疑ができるのではなかろうか。 やがてはコロナも終息に向かうことであろうが、その時には、このたびの経験がプラスに働けば…、と願うばかりである。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和３年度－

博物館部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（博物館部会）まとめ

自己点検評価　B　　部会評価　B

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	展示施設が必要とする作品にはたいへん高額なものがある。近年、高額な作品を急遽購入する必要に迫られた場合に備えて、文化財機構に設けられた基金を活用して購入費用にあてるというシステムがあるようだが、これはたいへんに合理的かつ効果的な方策であると考える。また、今回については、大量の陶磁器コレクションの寄贈や、市場に出ないような希少な作品の寄贈などのケースも見受けられる。収蔵品を充実させる上で、受贈はたいへんに重要であり、各施設とも引き続き努力されるよう希望したい。
浜田 副部会長	B	コロナ禍ながら、堅実に業務が推進され、館員の努力が感じられる。引き続き、資料収集のための予算確保とともに、収蔵スペースと収蔵環境の確保にも努めていただきたい。
大久保 委員	A	東博、京博など、美術史的に貴重で展示効果の高い作品を購入しており、九博は館の活動に対する理解を得て数多くの寄贈を受け入れるなど、日ごろの調査研究に基づく活発な収集活動が高く評価でき、目標を上回る成果を上げている。
榊原委員	B	購入、寄託資料が着実に増えているのは評価すべきで、継続こそが望ましい。長年に及ぶ調査の結果、購入や寄託に至った作品もあるようで（英一蝶「吉野・龍田図屏風」）、今後とも期待したい。
出川委員	B	国立文化財機構の主要業務の一つである有形文化財の収集・保管について、着実に進められています。

（２）展覧事業		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	データを見ると、ここ２年ほどの観客数の減少は著しく、コロナ禍が終熄しても、もとどおりの集客が期待できるかどうかは疑わしい。各施設とも、いわゆる平常陳列の充実をはかるなど、さまざまな努力をしているように見受けられるが、今後は、特別展に依存しない展観事業の方向性を、さらに探っていく必要があるのではないか。
浜田 副部会長	B	新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、各館とも臨時休館や入館制限をせざるを得ず、入館者数や収益等に大きな影響をもたらしたが、入館制限が、観覧者にとっては、いつも混んでいる特別展をゆっくりと観覧できる機会となり、満足度の向上につながったことは皮肉なことかもしれない。奈良博でのクラウドファンデングの導入は、今後の新たな資金獲得への可能性を示した。
大久保 委員	B	個々の展覧事業に対する評価で、主に観客アンケートの満足度や入館者数といった定量的指標が用いられているが、マスコミの反応（新聞や雑誌などの展覧会記事やテレビ番組への取り上げ方）等も考慮すべきかと思われる。
榊原委員	B	大規模で網羅的な展覧会が重要なのは言うまでもないが、ここではあえて「明国からやってきた奇才仏師 范道生」展を挙げておく。規模も小さくいわゆる特集展示に当たるが、内容が濃く、今後ともこうした展示が企画されることを願うからである。本年度はどういう加減か国立四館に係る巡回展が目につく。どうしてなのか、偶然の結果なのか資料の展示期間のことも含め気にかかる。また「春夏秋冬」展が古美術の魅力を感じてもらえる機会になったとは到底思われない。企画そのものに違和感をもつ意見もあることを知って貰うためにも記しておく。

出川委員	A	各館で開催された特別展についてはそれぞれ展示に工夫が凝らされ、出品作品の魅力を最大限引き出すとともに、研究成果を反映した論文が所収された展覧会図録など高く評価されます。特別展は数年以上の準備期間を経て実施されるので、その間のご努力も高く評価したい。また地域性のみられる来館者満足度や入場制限下での入館者数も評価の指標となっていますが、展示空間の素晴らしさや展覧会の重要性、意義、などを積極的に勘案しておきたいと思います。

（３）教育・普及活動

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	近年、わが国の展示施設においても漸く教育・普及事業の重要性が認識されるようになってきた。とくに高校生以下の若年層について、さまざまな形でアプローチしていくことは、未来の顧客層を開拓していく上でとくに重要と思われる。この点について、各施設とも努力を重ねているようだが、今後の課題としては、九博の「あじっぱ」にみられるような大規模かつ常設の若年層向け施設の整備が急がれるように思う。
浜田 副部会長	B	オンラインを活用した新たな教育事業への取り組みが、新たな利用者の開拓につながるなどの成果を上げ、コロナ後もこうした取り組みが継続されることを期待したい。一方で、ボランティア活動休止の状況が続き、関係者のコミュニケーションやスキルの低下が懸念される。
大久保 委員	B	コロナ禍においてオンラインなどを用いて積極的に展示室の外にも教育・普及活動を広げていることが評価でき、コロナ収束後もさらなる内容の充実や視聴者層の拡充を期待する。
榊原委員	B	コロナ感染症の影響で、そもそも教育普及活動が困難な状況下、各館それぞれ工夫をこらしてきたことを評価する。
出川委員	B	コロナ禍によって一挙に進んだオンライン手段を活用した教育・普及活動などに成果が見られ、所期の目標が達成されています。

（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	調査・研究は展示施設に課せられた重要な使命の一つであることはいうまでもない。各施設とも積極的に取り組んでいるように見受けられるが、京博で以前から実施されている社寺の収蔵品を対象とした継続的な調査のような試みが各館でおこなわれてもいいのではないか。また、科学研究費補助金を始めとする外部研究経費の獲得についても、さらなる努力を重ねていく必要があるように思われる。
浜田 副部会長	B	コロナ禍においても、工夫しながら、堅実に業務が推進され、館員の努力が感じられる。
大久保 委員	B	科研費や学術研究助成基金などの外部資金も利用しつつ、活発な調査研究活動が行われている。また保存に関する科学的調査成果が修理に有効に活用されている。
榊原委員	B	限られた時間の中で、展覧会開催に向けての資料調査研究のみならず、文化財保存などに係わる調査研究をも取上げている点、大いに評価する。こうした問題についての調査は、地方の小規模館が取り組むのは不可能で、国立四博物館の研究に負うところが大きいからである。
出川委員	B	科研費等の外部資金の獲得件数も研究体制を反映していて高く評価すべきものであり、また研究成果を十分に挙げられていると思います。それらが特別展「京の国宝」展をはじめとする図録の論考や研究紀要などに反映され、目標が十分に達成されています。

（５）国内外の博物館活動への寄与

自己点検評価　A　　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	A	さまざまな制約がある現状のなかで、各施設とも最大限の努力を傾注しているように見受けられる。とくに、インターネットやSNSを活用した連携、働きかけについては、ここ2年ほどで格段の進歩がみられるように思う。このような傾向は、わが国のみにとどまらず、世界的なものとなっており、今後ともさらなる努力を払っていく必要があると思われる。
浜田 副部会長	A	海外との交流は依然困難な1年であったが、オンラインの活用や、制限はあるものの国内での資料貸借や対面による研修・指導が徐々に再開されていることは喜ばしいことである。
大久保 委員	A	資料貸与にとどまらず、オンラインのさらなる活用を通して、今後も国内外の博物館への支援・協力を期待する。
榊原委員	A	毎年同じことを要望する。地方への出前展の活性化を希望したい。地方在住の者が美術史上の優品を直接眼にする機会はあるようで実は余りない。作品は実際に自らの眼で見るにこしたことはないはずで、地方の人間がそんな機会を得たいと願うのは当然だろう。国立博物館をあげてそれに応えてほしい。
出川委員	A	文化財機構の所蔵品が各地に幅広く貸与されて公開され、目標を上回る成果を挙げられています。

（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	文化財機構に属する4つの博物館は、伝統ある国の施設であり、収蔵作品の面でも、あるいは人的資源の面でも相対的に恵まれているように思う。その点を考えれば、地方自治体の展示施設、あるいは公益財団法人の展示施設などで企画されるさまざまな試みについて協力していくことは必要なことと思われる。とくに文化財活用センターの事業は、これまで機構に属する各博物館が独自におこなってきた取り組みを集約して、機構全体の方向性を示そうとするものであり、大いに意義があると考える。指導的な立場にある独法4館の存在意義を高める方策がさらに進展するよう期待したい。
浜田 副部会長	B	人気アイドルグループとのコラボレーションによる展示は、若者の取り込みに有効であったと思われる。VR等を活用した非接触型体験展示は、コロナ禍において注目すべき取り組みと考える。ファンドレイジングの導入は、今後の新たな資金獲得への可能性を示した。
大久保 委員	B	作品貸与などを通じた 4 館の国内他館の展覧活動に対する支援は当然のことながら、文化財活用センター主導による 4 館連携の活動の進展を期待したい。
榊原委員	B	地方館への大規模貸与、小規模貸与が行われていることは評価したいが、さらに（５）でも述べたような大規模出前展への取組みを期待する。
出川委員	B	文化財活用センターによる貸与促進事業や文化財のデジタルコンテンツの充実によって文化財に親しめる層が増大したことなども評価できます。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
小松 部会長	コロナ禍という未曾有の状況下にあって、各施設ともさまざまな方策をとって最大限努力している点を評価したい。とくに（５）と（６）の項目については、これまでおこなわれてきた取り組みに加えて、いくつもの新機軸が打ち出されている点が注目される。展示施設を取り巻く状況は、これからも楽観を許さないが、各施設とも引き続き積極的な姿勢でそれぞれの事業に邁進されるよう期待したい。
浜田 副部会長	前年度に引き続き、令和3年度もコロナ禍に明け暮れ、国立博物館に限らず、多くの博物館で休館や開館制限が強いられる1年となった。コロナ禍も2年目となり、感染対策を取りながらの事業再開の様子をうかがい知ることが出来る。コロナ禍の副産物と言えるかもしれないが、オンラインを活用した新たな取り組みは、コロナ後の博物館活動につながるものとなろう。博物館は、国民生活に欠くことのできない施設であることを再認識し、コロナ後の運営に全力が尽くされることを期待したい。

大久保 委員	コロナ禍のもとという博物館活動において困難な時期にもかかわらず、さまざまな手法を用いて展示や教育・普及活動の質的低下を防ぐだけでなく、新たな展開の可能性をも模索していることがうかがえ、国内の他の博物館の活動に対するモデルとしての役割を果たしている。
榊原委員	新型コロナウイルス感染症の広がりによってなお行動に多くの制限がかかる中、展覧会開催と、それを支える日常的な調査、研究活動を果たされたことに敬意を表したい。
出川委員	コロナ禍を乗り越えて、国立文化財機構が掲げている達成すべき目標については、十分に達成されています。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和３年度－

研究所・センター部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

自己点検評価　A　　部会評価　A

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	今年度も無形文化財に対するコロナ禍の影響の大きさを示す記述が多かった。関係機関の尽力に敬意を表したい。 平城宮東院中枢部の調査、藤原宮大極殿院の調査など、古代都城を考える上で重要な発掘が行われた。引き続き成果に期待したい。
寺田 副部会長	B	4 月 26 日開催の評価委員会でも申し上げたように、無形民俗文化の保存に向けての映像記録やアーカイヴズの活用は、喫緊の課題であり社会的ニーズも極めて高い。「2122E」の評定理由に挙げられている「新たな方向性」に大きな期待を寄せる所以である。これまでの成果と蓄積をもとに、今後より広く国内外の関係者の参加を募って、蓄積の共有と議論の深化を期待したい。東文研には、そのようなイニシアティヴを発揮するスタッフと組織的なサポートが整備されていると判断する。
栗本委員	B	有形文化財、無形文化財、文化的景観などを対象に、非常に幅広い内容の調査研究を着実に進められ、総体として所定の目標を達成しているものと評価しました。 調査研究では映像記録やデータベース化などが多用されているようですが、国内のみならず海外から容易に利活用できるような汎用フォーマットでのデータ蓄積とその継続を期待します。
児島委員	A	「2111E」では、近年、資料調査だけでなくそれをもととするデータベースの構築とその公開が大きな使命となっている。昨年度は売立目録のデータベース公開に続き今年度も「久米桂一郎日記」の翻刻、鷹見明彦資料、三木多聞資料等の整理、これらのウェッブ公開をおこなっており、着実な成果を上げている。 「2122E」 無形文化財の記録、アーカイブ化は時間との戦いであり、また災害後には一層緊急を要する。コロナ下での新しい方法論を模索中ということであるが、今後それを公開、共有することで現地の団体などが調査を担い、より細やかに網をかけていくようなことが可能になるとよいだろう。 「2132F」 平城京の東院の発掘調査は大きな発見につながる期待がある。 細目の自己評価によれば「B」が多数であるが、新しい取り組みや発見があり「A」とした。
藤井委員	B	「2131Fア」、10 頁……遺跡整備に関して。奈良文化財研究所は、平城宮跡の復元建物について、修理の記録を作成し、公表し、それを蓄積して欲しい。 全国で、復元建物の修理は大きな問題となりつつあって、やがて負の課題になる 可能性も大きいから。奈良文化財研究所は、その修理の方法について、ガイドラインなどを作成して、全国をリードして欲しい。

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

自己点検評価　A　　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	A	発掘資料・文献資料などから過去の災害の痕跡を調査する取り組み（奈文研）や、文化財修復材料と伝統技法の調査（東文研）などが特に注目される。
寺田 副部会長	A	－
栗本委員	A	この項目では、目標を上回る成果が得られているものと評価しました。

児島委員	A	「2211E」かねて光学的調査の成果を冊子で出版をしてきたが、やはりウェブでの公開は必要であり、大幅に利便性を高める。東京国立博物館所蔵国宝平安仏画のウェブ公開に続いて今後もこうした公開を増やせるよう探っていただきたい。 「2216F」 歴史資料等の分析を防災、減災に役立てる研究は、予測不可能な天災に対する対策として有効である。成果をできるだけ多くの自治体などに知ってもらうことが重要である。
藤井委員	A	「2211F」、28頁……ガラス乾板処理については、多くの研究組織が実施しており、いろいろな方法が開発されてきたと思われる。写真情報の電子化あるいは延命化の試みであるので、他の組織とも技術交流を実施して、その成果を広く社会に公表して欲しい。方法が分からなくて、放置されているガラス乾板も少なくないだろうから。 「2213F」、30頁……年輪年代学研究について。木造の製品、建築の部材の年代が判るので、これらの作られた年代を知る大変有効な技術である。この技術が広く使えるような仕組みを作って欲しい。

（3）文化遺産保護に関する国際協働

自己点検評価　A　　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	限られた人員と予算の中で、IRCI の活動は高く評価されるが、小項目全体の評価となると、コロナ禍による海外渡航の困難といった影響が大きく、残念ながら「B」評価が妥当であろう。
寺田 副部会長	A	国際協働を目的とするこの分野はコロナ禍の影響を特に受けやすいと考えられるが、各プロジェクトともオンラインの活用など創意工夫を凝らして、難しい状況に対応し、概ね計画通りの成果をあげたことは高く評価できる。また、「2311Fｱ」では、従来の対面方式よりも成果をあげた例が報告されており、苦境を好機と捉えることの有効性も確認できた。
栗本委員	A	この項目では、目標を上回る成果が得られているものと評価しました。
児島委員	A	－
藤井委員	A	「2311Eｱ」、47頁……国際シンポジウムに開催について。内容は史跡整備、特に復元建物の意味、有効性について論じたものである。国内で広く実施されて来た復元建物について、外国人からの直接的な意見を交えて、討論するものだった。極めて重要な論点であり、貴重な内容である。この事業は「S」判定が妥当だと思う。この議論を広く公表する努力をお願いしたい。文章化して公表することも考えて欲しい。

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

自己点検評価　A　　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	A	各種のデータベースとアーカイブの充実ぶりがうかがわれ、それらがよく活用されているものと判断される。
寺田 副部会長	A	他の分野と同様に、オンライン配信などを活用して事業を順調に遂行したことは評価される。特に、成果の公開・活用については、ハイブリッド形式の講演会やウェブ配信などによって、従来アクセスが困難であったオーディエンスを開拓しつつあることは喜ばしい。コロナ禍への対応として蓄積されたノウハウが、コロナ後の活動にも生かされることを期待したい。
栗本委員	A	この項目では、目標を上回る成果が得られているものと評価しました。
児島委員	A	レクチャーがオンラインで開かれることで参加の機会が広がる。今後もオンライン、ハイブリッドでの開催、内容によってはアーカイブ配信も検討して続けてもらいたい。特に飛鳥文化資料館の発行物は毎回デザインが大変優れており、手に取りたくなるものであることも評価したい。
藤井委員	A	－

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	この分野も、コロナ禍の影響を受けた１年であったが、各機関ともに対応策を考えながら、所期の目的は達したものと考える。
寺田 副部会長	B	－
栗本委員	B	地方公共団体への専門知識や経験を活かした助言や協力、専門職の研修、大学での教育・人材育成などを通して所定の目標を達成しているものと評価しました。 準備頂いた評価資料から、地方公共団体との関係が非常に密であることが伺え、国立文化財機構の特色の一つと感じました。
児島委員	B	新型コロナウィルスに関する助言をおこなっており、またその情報を発信しており、適切な対応である。
藤井委員	B	－

（６）文化財防災に関する取組		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	文化財防災センターが設置され、本格的な活動の初年度となった。災害の多発する国内外の文化財防災のために、今後、期待されることが益々多くなるものと思われる。
寺田 副部会長	B	－
栗本委員	B	評価委員会において、記載のプロジェクトチームメンバー以外に被災の状況や必要性に応じて専門性を有したスタッフが加わる体制になっていることや、被災地の状況に応じた支援のあり方が考慮されていることが説明されました。こうしたことから優れた運営が行われているものと評価しました。
児島委員	A	「2620」文化財防災センター文化財ドクター事業の推進で日本建築学会等との連携、『文化財の放射線対策ガイドブック』の刊行など、川崎市市民ミュージアムのレスキュー以後も注目すべき活動を展開している。また「2630」個別の事例に対して科学的に調査をおこない、博物館などの安全対策にすぐに反映できる研究をおこなっている点において評価できる。今後益々重要になる活動であると考え、「A」評価とした。
藤井委員	B	－

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
寺崎 部会長	２年間、書面のみの審査（評価）が続いたが、今回ようやく対面の会議で各機関の説明を受けることが出来たことは、喜ばしい。 令和 3 年度もコロナ禍の影響は大きく様々な分野に及んだが、各機関の工夫と努力によって、成果をあげていることが十分にうかがえた。 今後コロナ禍が下火になったとしても、オンラインの活用やインターネット動画を使った普及活動などは減ることはないであろう。一方で、報告書・紀要といった刊行物の形で成果を後世に残すことも、益々重要になるように思われる。 なお、今年度の評価には直結しないが、奈文研の報告書（「飛鳥池遺跡発掘調査報告」）が、2005 年に刊行済みとしていたものが長らく未完のままで、ようやく 2021 年末に刊行されたということが報じられた。コンプライアンス違反であり、今後このようなことのないよう十分に留意されたい。

寺田 副部会長	コロナ禍により活動制限を強いられる中で、多くのプロジェクトが創意工夫を重ね、当初の目標を達成したことは高く評価できる。 自己点検評価報告書は概ね明確に書かれているが、補足説明など若干の工夫があればより評価がしやすくなる箇所も散見された。例えば、「2113F」の年度実績と成果には、特定の資料の調書作成や写真撮影が実施されたとあるが、それがどのような意味を持つのか、なぜ特定の資料が選ばれたのか、全体計画での中での位置付けや達成度はどの程度か、などについて知りたい。「2121E」は緊急性の高いプロジェクトであり活動は高く評価されるが、当該年度の成果が、全体の（または長期的な）計画の中で、どのように位置付けられ、どの程度達成されたのかに関する記述が欲しい。「2123E」では、韓国国立無形遺産院との研究員の派遣・受け入れが中止されたとあるが、同院に対して日本の状況について情報発信を行ったことを大きな成果としている。どのように発信が行われたのか。「7140E」の 中期計画記載事項には「競争的資金や寄付金の獲得等財源の多様化を図り」とあるが、どの程度達成されたのか。
栗本委員	評価委員会では年度計画評価が「A」のものについて説明頂き、私の認識の間違いを含めて理解を深めることができました。年度計画評価「B」の事項についてもお訊ねしたいことがありましたが、限られた時間の会議では討議に至りませんでした。資料作成は、負担の大きい作業と思いますが、もう少し早く送付頂けると読み込みができ、時間を有効に使えたと感じました。 限られた人員が多方面で業務を担い年度計画以上の成果をあげていることを認識しました。一方、部署によっては業務が集中している（災害発生時の対応、分析業務など…）とも思われ、担当職員のパフォーマンスを下げることになってないのか気になりました。持続的に仕事を進める体制、組織づくりがどのようになされているのか知りたかったのですが、時間の関係で質問には至りませんでした。次年度において回答頂けるようでしたらお願いいたします。
児島委員	最近のコロナ禍と画廊経営者の高齢化から、1980 年代～90 年代に活動した現代美術画廊の閉廊が相次いでいる。この時代の現代美術を支えた画廊のドキュメントの保存は今後この時代の美術を研究するために重要である。鷹見氏のアーカイブが関係者に周知されることで、当事者や周囲の方々の意識が高まり、ドキュメントが保存されていく機会になれば、その意義と効果は大きい。また昭和 30 年代の写真が文化財の修理に活用されたように、『日本美術年鑑』を含め、こうした同時代の記録作業は長年にわたり継続することが重要であり、未来において意義が生じる。民間ではできないことであり、今後も引き継ぐ責任があるだろう。
藤井委員	奈良文化財研究所が開発した遺跡の電子探査技術について。各地の遺跡で、電子探査技術は、発掘調査の事前に遺跡の状態を知る方法として重宝されている。この技術を広く普及できるような方策を考えて欲しい。 文化財研究所は、いままで多様な技術開発を実施してきたが、それが広く有効であることが確認できた時は、社会的に広く普及できるような方策を考えて欲しい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
委員	大久保　純　一	（国立歴史民俗博物館教授）
委員	小笠原　　直	（監査法人アヴァンティア法人代表 CEO　代表社員 公認会計士）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	栗　本　康　司	（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	坂　本　弘　子	（朝日新聞社常勤監査役）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問）
委員	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
委員	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　井　恵　介	（東京大学名誉教授）

※令和４年６月１０日現在

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館部会

部会長	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
副部会長	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	大久保　純　一	（国立歴史民俗博物館教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター部会

部会長	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
副部会長	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	栗　本　康　司	（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	藤　井　恵　介	（東京大学名誉教授）

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
3.　4.　9	第１回役員会（Web 開催）
3.　4. 21	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会、書面審議、～5 月 12 日）
3.　4. 28	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会・書面審議、～5 月 18 日）
3.　4. 28	第１回情報システム・セキュリティ委員会（Web 開催）
3.　5. 21	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会・書面審議、～6 月 7 日）
3.　6. 21	監査法人の監査結果（令和２年度）通知
3.　6. 24	令和２年度定期監事監査（東京国立博物館）
3.　6. 25	第２回役員会（Web 開催）
3.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の令和２年度自己評価書の提出
3.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の第 14 期事業年度財務諸表の提出
3.　7. 19	令和２年度独立行政法人国立文化財機構新任職員研修会（オンライン）（～8 月 31 日）
3.　7. 20	第３回役員会（Web 開催）
3.　7. 27	第１回内部統制委員会（Web 開催）
3.　7. 27	第１回リスク管理委員会（Web 開催）
3.　9.　1	第２回情報システム・セキュリティ委員会（掲示板開催）（～9 月 15 日）
3.　9. 15	第４回役員会（Web 開催）
3. 10.　5	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（サテライト開催）
3. 11. 12	第５回役員会（東京国立博物館）
3. 12. 10	第６回役員会（京都国立博物館）
4.　1. 28	第７回役員会（Web 開催）
4.　3. 22	第８回役員会（東京国立博物館）

（文化財活用センター）

年　月　日	記　　事
3.　4. 24	国立博物館収蔵品貸与促進事業「斎藤清とハニワ！」（～6 月 6 日、やないづ町立斎藤清美術館）
3.　5. 20	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（～5 月 21 日、三重県立四日市高等学校、オンライン開催）
3.　5. 31	第 1 回文化財活用センター連絡調整委員会（オンライン開催）
3.　6.　1	「土偶ハンズオンレプリカを使用した文化財資料の新たな活用」（～7 月 4 日、十日町市博物館、文化庁受託事業）
3.　6.　9	ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（京都府立西城陽高等学校、講師派遣なし）
3.　6. 22	体験型展示「日本美術のとびら」開室（東京国立博物館本館特別 3 室）
3.　7.　2	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風を作ってみよう！」（足立区立西保木間小学校）
3.　7. 10	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風を作ってみよう！」（平安女学院中学・高等学校、講師派遣なし）
3.　7. 13	体験型展示「8K で文化財 国宝『聖徳太子絵伝』」（～9 月 5 日、東京国立博物館法隆寺宝物館資料室）
3.　7. 16	体験型展示「びじゅチューン！×山口ゆめ回廊博覧会　なりきり美術館」（～8 月 22 日、NHK 山口放送局、山口情報芸術センター[YCAM]）
3.　8. 23	令和 4 年度国立博物館貸与促進事業実施対象館選定委員会
3.　9.　4	体験型展示「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」（～11 月 28 日、東京国立博物館表慶館）
3.　9.　7	国立博物館収蔵品貸与促進事業「白馬、翔びたつ―黒田清輝と岡田三郎助―」（～10 月 17 日、佐賀県立美術館）
3.　9. 23	国立博物館収蔵品貸与促進事業「生誕 200 周年記念　森川杜園展」（～11 月 14 日、奈良県立美術館）
3. 10.　8	ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（福井市立郷土歴史博物館、講師派遣なし）
3. 10.　9	「8K 映像と茶碗型ハンズオンコントローラーによる新しい鑑賞体験」（～12 月 12 日、愛知県陶磁美術館、文化庁受託事業）
3. 10. 19	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（京都府立福知山高等学校・附属中学校、講師派遣なし）
3. 10. 26	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて楽しむ風神雷神／夏秋草図屏風、遮光器土偶たち」（青森県総合学校教育センター、教員研修）
3. 10. 30	「床の間で鑑賞する国宝掛軸の高精細複製」（～12 月 5 日、都城市立美術館、文化庁受託事業）
3. 11.　2	国立博物館収蔵品貸与促進事業「うちなー赤瓦ものがたり」（～12 月 26 日、那覇市立壺屋焼物博物館）
3. 11. 15	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風を作ってみよう！」（東京都立つ

ばさ総合高等学校）

3. 11. 16　体験型展示「8K で文化財 『みほとけ調査』」（～12 月 5 日、東京国立博物館法隆寺宝物館資料室）

3. 11. 20　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（板橋区立向原小学校）

3. 12. 1　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（世田谷区立玉川中学校）

3. 12. 4　「高精細複製品と照明演出による新たな鑑賞体験」（～4 年 1 月 30 日、名古屋市博物館、文化庁受託事業）

3. 12. 11　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（葛飾区立川端小学校）

4. 1. 13　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（聖ヨゼフ学園小学校）

3. 12. 31　ファンドレイジング事業「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」寄附受入終了

4. 1. 21　令和 3 年度　博物館美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）（～1 月 25 日）

4. 1. 22　国立博物館収蔵品貸与促進事業「やまと絵のしらべ―帆山花乃舎と復古大和絵」（～2 月 27 日、桑名市博物館）

4. 1. 25　第 3 回保存環境調査・管理に関する講習会－空気清浄化のための化学物質吸着剤－（対面／オンラインのハイブリッド開催）

4. 2. 1　e 国宝（国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財 デジタル高精細画像）において画像相互運用の国際的な枠組み「IIIF」に対応した機能を公開

4. 2. 10　2021 年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」（オンライン開催）

4. 2. 28　ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）において作品種別による検索機能を公開

4. 3. 2　第 2 回文化財活用センター連絡調整委員会（オンライン開催）

4. 3. 15　「8K 映像と茶碗型ハンズオンコントローラーによる新しい鑑賞体験」（～5 年 3 月 31 日予定、愛知県陶磁美術館、文化庁受託事業）

（文化財防災センター）

年	月	日	記事
3.	4.	19	第1回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
3.	5.	17	第2回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	6.	21	第3回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	6.	28	第1回文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会（オンライン）
3.	7.	14	第1回文化遺産防災ネットワーク推進会議（オンライン）
3.	7.	14	第1回文化財防災センター事業報告会（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	7.	14	第1回文化遺産の防災に関する有識者会議（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	7.	19	第4回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	8.	16	第5回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	9.	27	第6回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	10.	25	第7回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	10	.26	水損紙資料の応急処置ワークショップ（奈良文化財研究所）
3.	11.	4	ICOM-DRMC(国際博物館会議博物館防災国際委員会)年次大会（東京国立博物館、陸前高田市コミュニティホール）（11月4日、11月6日）
3.	11.	13	研修会「なぜ災害発生後に文化財を救うのか―文化財レスキューと心理社会的支援―」（東北芸術工科大学）
3.	11.	15	第8回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	11.	29	第2回文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会（オンライン）
3.	12.	3	第2回文化遺産防災ネットワーク推進会議（オンライン）
3.	12.	8	第2回文化財防災センター事業報告会（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	12.	8	第2回文化遺産の防災に関する有識者会議（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	12.	14	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題―災害時応急対応事例と課題―」（オンライン）（～12月15日）
3.	12.	20	第9回文化庁・文化財防災センター協議会（オンライン）
4.	1.	24	第10回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
4.	1.	26	第68回文化財防火デー トークイベント（YouTube）（1月26日～）
4.	2.	21	第11回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
4.	3.	9	令和3年度文化財防災センター講演会「文化財防災体制の構築とその未来～文化財防災センター設置から1年を経て」（YouTube）（3月9日～）
4.	3.	28	第12回文化庁・文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
3.　4.　1	リニューアルした本館北側庭園の全面開放を開始（令和2年11月24日より工事のため閉鎖し、令和3年3月16日より一部開放を実施していた。）
3.　4. 12	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」特別内覧会（当初の会期は4月13日～5月30日。4月25日～5月31日の臨時休館を受け、会期を6月20日まで延長した。）
3.　4. 12	上川陽子法務大臣　特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」視察
3.　4. 25	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～5月31日）
3.　5. 16	国際博物館の日記念イベント「上野の山で動物めぐり～動物の『うごき』と『しせい』～」（オンライン開催）
3.　6. 21	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」特別内覧会（会期　6月22日～9月12日）
3.　6. 22	体験型展示「日本美術のとびら」開室（本館特別3室）
3.　7.　5	マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」特別内覧会（会期　7月6日～4年2月20日）
3.　7. 12	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」特別内覧会（会期　7月13日～9月5日）
3.　7. 12	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」特別内覧会（会期　7月13日～9月20日）
3.　7. 13	体験型展示「8Kで文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」（～9月5日）
3.　7. 20	親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化　リターンズ」（～9月5日）
3.　7. 20	トーハクキッズデー（～8月1日、オンラインと対面の両形式で開催）
3.　9.　3	「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」特別内覧会（会期　9月4日～11月28日）
3.　9. 14	博物館でアジアの旅　空想動物園（～10月17日）
3.　9. 20	敬老の日　総合文化展無料観覧日
3. 10. 11	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」特別内覧会（会期　10月12日～11月21日）
3. 10. 21	第9回柳瀬荘アート教育プロジェクト（～11月28日）
3. 11.　3	文化の日　総合文化展無料観覧日
3. 11.　3	創エネ・あかりパーク2021に伴うスペシャルライトアップ（～11月7日）
3. 11.　4	ICOM-DRMC年次大会（～11月7日）
3. 11. 16	体験型展示「8Kで文化財『みほとけ調査』」（～12月5日）
3. 12.　7	東京国立博物館評議員会（オンラインと対面の両形式で開催）
3. 12. 17	Daiwa Sakura Aid Concert in Tokyo National Museum 2021（～12月19日）
4.　1.　2	博物館に初もうで（～1月30日）
4.　1.　6	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」特別内覧会（会期　1月7日～3月13日）
4.　1. 12	体験型展示「日本文化のひろば」開室（本館特別4室）
4.　1. 13	特別展「ポンペイ」特別内覧会（会期　1月14日～4月3日）
4.　1. 29	国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン　実践と展望」（オンライン開催）

4.　2. 28　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」特別内覧会（会期　3月1日～5月8日）

4.　3. 15　博物館でお花見を（～4月10日）

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
3.	3.	27	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（～5 月 16 日）
3.	4.	3	記念講演会「律とは何か」
3.	4.	10	記念講演会「日本の戒律運動と日本人」
3.	4.	12	京都府まん延防止等重点措置区域への指定（～4 月 24 日）
3.	4.	17	記念講演会「俊芿と宋代戒律の日本への影響」
3.	4.	21	キャンパスメンバーズ限定講演会
3.	4.	25	京都府における緊急事態措置のため、全館休館（～5 月 11 日）
3.	4.	27	文化財保存修理所運営委員会　書面審議（～5 月 12 日）
3.	5.	12	京都府における緊急事態措置の延長（～5 月 31 日）
3.	5.	15	記念講演会「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」
3.	5.	18	庭園無料開放（～6 月 4 日）
3.	5.	21	京都らくご博物館【春】～新緑寄席～Vol.59
3.	6.	1	京都府における緊急事態措置の延長（～6 月 20 日）
3.	6.	5	特別企画　オリンピュア×ニッポン・ビジュツ（～7 月 4 日）
			土曜講座「おうちで学び楽しむ文化財と博物館」
3.	6.	12	土曜講座「弥生・古墳時代の生産遺跡―日本原始古代の産業と辰砂・鉄―」
3.	6.	19	土曜講座「神々に捧げる自己ベスト」
3.	6.	21	京都府まん延防止等重点措置区域への指定（～7 月 11 日）
3.	6.	26	土曜講座「東アジアをめぐる『金琵郎』の旅」
3.	7.	2	夏期講座「日本人と自然Ⅲ」（～7 月 3 日）
3.	7.	4	記者体験 in 京都国立博物館
3.	7.	6	庭園開館（～7 月 22 日）
3.	7.	12	京都府まん延防止等重点措置区域への指定の延長（～8 月 1 日）
3.	7.	16	京都らくご博物館【夏】～納涼寄席～Vol.60
3.	7.	23	特別展「京の国宝」記者発表、内覧会
3.	7.	24	特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」（～9 月 12 日）
			記念講演会「彫刻修理の歴史と現状」
3.	7.	31	記念講演会「国宝・重要文化財の指定―書跡・典籍、古文書を中心に―」
3.	8.	2	京都府まん延防止等重点措置区域への指定の延長（～8 月 16 日）
3.	8.	7	記念講演会「京の国宝 ―日本の文化財保護のあゆみと京都―」
3.	8.	17	京都府まん延防止等重点措置区域への指定の延長（～8 月 19 日）
3.	8.	18	社会科・美術科教員のための向上講座
3.	8.	20	京都府における緊急事態措置（～9 月 12 日）
3.	8.	21	記念講演会「京の国宝 ―流転する工芸―」
3.	8.	28	記念講演会「京の国宝 ―絵画の美と評価の歴史―」
3.	9.	4	記念講演会「今日の文化財保存技術 ―装潢修理、特に紙を中心に―」
3.	9.	12	京都府における緊急事態措置の延長（～9 月 30 日）
3.	9.	14	庭園開館（～10 月 7 日）

3. 10. 1　京都府における緊急事態措置の解除
3. 10. 8　特別展「畠山記念館の名品」記者発表、内覧会
3. 10. 9　特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」（～12 月 5 日）
　　記念講演会「共に楽しむ茶の美術館―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―」
3. 10. 12　産業医による衛生講習会「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」
3. 10. 14　キャンパスメンバーズ限定講演会
3. 10. 23　記念講演会「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束―加賀藩前田家伝来品をめぐって―」
3. 11. 1　都倉文化庁長官　特別展「畠山記念館の名品」及び保存修理所視察
3. 11. 3　秋の茶室展示（～11 月 7 日）
3. 11. 4　ICOM-DRMC 日本大会 2021 の開催（～11 月 7 日）
3. 11. 6　記念講演会「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」
3. 11. 20　記念講演会「與衆愛玩―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―」
3. 12. 7　庭園開館（～12 月 26 日）
3. 12. 27　全館休館（～1 月 1 日）
4. 1. 7　夜間開館開始（～2 月 12 日までの毎金曜・土曜　20:00 まで開館）
4. 1. 9　雅楽演奏会
4. 1. 10　芸舞妓春の舞
4. 1. 15　土曜講座「虎―現実と空想のはざまに―」
4. 1. 22　留学生の日
4. 1. 27　京都府まん延防止等重点措置区域への指定（～2 月 20 日）
4. 1. 29　土曜講座「西宮山古墳の発掘調査と出土品の意義」
4. 2. 4　京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～Vol.61
4. 2. 5　土曜講座「清時代の花鳥画と沈南蘋」
4. 2. 12　土曜講座「仏像の来た道―インド・中国そして日本へ―」
4. 2. 19　土曜講座「本法寺所蔵「古文書貼交屏風」について」
4. 2. 21　京都府まん延防止等重点措置区域への指定の延長（～3 月 6 日）
　　障害のある方のための特別鑑賞会
4. 2. 26　ミュージアムズ・フォー連携土曜講座「キモノと流行―江戸時代初期のモード」
4. 2. 27　春の人形劇公演
4. 3. 5　土曜講座「桃の文化史―西王母・孫悟空・桃太郎―」
4. 3. 7　京都府まん延防止等重点措置区域への指定の延長（～3 月 21 日）
4. 3. 12　土曜講座「しあわせの貝合わせ」
4. 3. 19　国際シンポジウム 「敦煌写本研究の現在」（オンライン）
4. 3. 23　庭園開館（～4 月 10 日）

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
3.　4.　5	春季仏像供養
3.　4. 18	サンデートーク「災害から文化財を守る―文化財防災センターの取り組み―」
3.　4. 26	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」特別内覧会（会期：3 年 4 月 27 日～6 月 20 日）
3.　4. 28	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」賛助会特別鑑賞会
3.　4. 30	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
3.　5.　1	記念講演会「聖徳太子―史実から信仰へ」
3.　5.　4	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」イベント「聖徳太子ジャンボすごろく」（～3 年 5 月 5 日まで）
3.　5.　7	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」キャンパスメンバーズ特別内覧会
3.　5. 16	サンデートーク「平安貴族の信仰生活―仏教を中心に―」
3.　5. 18	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
3.　5. 22	公開講座「法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る」
3.　6.　8	唐招提寺の蓮展示（～3 年 9 月 12 日まで）
3.　6. 19	公開講座「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」
3.　6. 20	サンデートーク「ならはくの教育普及活動」
3.　7. 11	サンデートーク「古代寺院の出土品が語るもの」
3.　7. 16	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」特別内覧会（会期：3 年 7 月 17 日～9 月 12 日）
3.　7. 20	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」賛助会特別鑑賞会
3.　7. 21	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
3.　7. 23	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」イベント　親子親子ワークショップ「切り絵でアート　ならはくの仏像」
3.　7. 24	公開講座「観仏画三昧－奈良博仏教絵画コレクションをあじわう－」
3.　7. 26	夏季仏像供養
3.　7. 16	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
3.　7. 29	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」で観仏三昧【ニコニコ美術館】
3.　7. 31	公開講座「仏教工芸の魅力－奈良博のコレクションから－」
3.　8.　7	公開講座「奈良博の仏像コレクション－種類と時代－」
3.　8.　8	サンデートーク「保存修理指導室のお仕事―博物館科学の役割―」
3.　8. 28	公開講座「古写経と古代文字史料」
3.　9.　4	公開講座「ちょっと良いかも、奈良博の考古」
3.　9. 11	公開講座「仏教美術の殿堂－奈良博コレクション形成史－」
3.　9. 12	サンデートーク「あこがれの天平絵画」
3.　9. 14	秋季仏像供養
3. 10.　3	サンデートーク「絵はがきと仏像研究」

3. 10. 29　「第７３回正倉院展」特別内覧会（会期：3年10月30日～11月15日）
3. 10. 30　公開講座「正倉院の染織品にみる文様染め技法」
3. 10. 30　正倉院展短歌コンクール受賞作品展示（～3年11月15日まで）
2. 10. 30　正倉院展　法華寺御流のいけばな展示（～3年11月15日まで）
3. 11.　5　「第７３回正倉院展」賛助会特別鑑賞会
3. 11.　5　「第７３回正倉院展」奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会
3. 11.　6　公開講座「正倉院の筆」
3. 11. 13　公開講座「正倉院のガラス器について-白瑠璃高坏を中心として-」
3. 11. 20　名品展無料観覧日（関西文化の日）（～3年11月21日まで）
3. 11. 21　サンデートーク「奈良博の壺」
3. 11. 23　留学生の日
3. 11. 23　英語落語 English Rakugo
3. 12.　9　特別展「名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―」特別内覧会（会期：3年12月10日～令和4年1月23日）
3. 12. 10　奈良国立博物館　特別展「名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―」を巡ろう【ニコニコ美術館】
3. 12. 11　公開講座「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」
3. 12. 16　文化財保存修理所特別公開
3. 12. 17　名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
3. 12. 19　サンデートーク「閻魔王と地獄の美術」
4.　1.　7　特別展「名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―」賛助会特別鑑賞会
4.　1. 12　特別展「名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
4.　1. 16　サンデートーク「辟邪絵をめぐって」
4.　1. 17　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム
4.　1. 21　冬季仏像供養
4.　1. 24　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム
4.　2.　3　名品展無料観覧日（節分の日）
4.　2.　4　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」特別内覧会（会期：4年2月5日～3月27日）※特別陳列「お水取り」同時開催、特集展示「新たに修理された文化財」（会期：4年3月1日～27日）
4.　2.　7　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム
4.　2.　9　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
4.　2. 10　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」賛助会・キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
4.　2. 13　奈良国立博物館　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」を巡ろう【ニコニコ美術館】
4.　2. 19　公開講座「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」
4.　2. 20　サンデートーク「ほとけの装いにみる工芸」

4. 2. 21　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム
4. 2. 28　奈良国立博物館・特別陳列「お水取り」を巡ろう【ニコニコ美術館】※再配信
4. 2. 28　ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム
4. 3. 5　公開講座「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」
4. 3. 19　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」イベント　親子ワークショップ「散華でポン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」
4. 3. 20　サンデートーク「“サスティナブル”な文化財保存」
4. 3. 26　お水取り「講話」と「現地解説」の会

(九州国立博物館)

年	月	日	記　　事
3.	4.	6	綴プロジェクト高精細複製品の展示（～5 月 16 日）
3.	4.	19	特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」内覧会
3.	4.	20	特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」開催(～6 月 13 日)
3.	5.	1	リレー講座「近代の正倉院と宝物の模造」
3.	5.	4	きゅーはく夢広場(～5 月 5 日)
3.	5.	9	カード織りワークショップ
3.	5.	15	リレー講座「2 つの『模造螺鈿紫檀五絃琵琶』」(オンライン開催)
3.	5.	18	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
3.	7.	6	特集展示「古代ガラスの世界－岡山市立オリエント美術館蔵品展－」(～10 月 3 日)
3.	7.	13	ならべてわかる本物のひみつ 2021～実物とレプリカ～(～9 月 5 日)
3.	7.	16	きゅーはくカフェコンサート
3.	7.	17	特集展示「没後 350 年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」(～10 月 10 日)
3.	7.	19	特別展「皇室の名宝－皇室と九州をむすぶ美－」内覧会
3.	7.	20	特別展「皇室の名宝－皇室と九州をむすぶ美－」開催(～8 月 29 日)
3.	7.	24	特別展記念対談「やきもの王国・九州と近代の皇室」
3.	7.	25	特別展関連イベント「さかなクンと一緒にむかしの海を探検だ！」
3.	7.	31	きゅーはく☆とっておき講座「古代ガラスの世界」
3.	7.	31	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」（・8 月 5 日）
3.	8.	1	リレー講座「九州と帝室技芸員」「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」
3.	8.	5	飾り山笠「十一番山笠 天神一丁目」展示(～4 年 3 月)
3.	8.	7	全国高等学校歴史学フォーラム 2021
3.	8.	8	記念講演会「美を伝えゆく－《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理をとおして」
3.	8.	11	九州国立博物館に集まる怪しいやつら展(～8 月 17 日)
3.	8.	16	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸紡ぎ」（・8 月 21 日）
3.	8.	29	きゅーはく☆とっておき講座「オリエントのガラス－色彩の魅力からシルクロードの交易まで－」
3.	9.	14	第 72 回太宰府天満宮七夕揮ごう大会　優秀作品展示（～9 月 26 日）
3.	9.	19	きゅーはく☆とっておき講座「范道生の作品とその生涯－日中交流史の視点から－」
3.	9.	20	文化交流展無料観覧日(敬老の日)
3.	9.	28	日本のからくり人形展(～10 月 6 日)
3.	10.	8	特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」内覧会
3.	10.	9	特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」開催（～12 月 5 日）
3.	10.	9	特別記念講演会「海山への祈り－九州の祭りの風景－」
3.	10.	12	歴史と文化とアートの街「太宰府」の創造に向けたまちづくり運動～ARTiVERS(アーティバース)～(～10 月 17 日)
3.	10.	15	第 1 回評議員会(書面会議)

3. 10. 18　第29回日米文化教育交流会議（カルコン）日米合同会議（オンライン開催）
3. 10. 19　特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展 手わざ－琉球王国の文化－」（～12月12日）
3. 10. 20　3年度IPMオンライン相談会（～10月22日）
3. 10. 26　3年度筑紫地区文化財写真展　ようこそ！古代日本の『西の都』へ（～11月7日）
3. 10. 30　リレー講座「第一回きゅーはくオータムスクール」
3. 10. 31　特集展示関連イベント　ワークショップ「琉球古刺繍をやってみよう」
3. 11. 3　文化の日特別記念講演「近代洋画と九州、そして福岡」
3. 11. 3　文化交流展無料観覧日(留学生の日）※留学生のみ
3. 11. 3　3年度留学生イベント「古代の彩り　日本の装飾古墳」
3. 11. 6　東九州神楽人の祭典(・11月7日)
3. 11. 13　リレー講座「第二回きゅーはくオータムスクール」
3. 11. 14　きゅーはく☆とっておき講座「手わざ－琉球王国の文化－」
3. 11. 16　宮地嶽第54回光の道全国競書大会作品展示(～11月28日)
3. 11. 21　文化交流展無料観覧日(家族の日）　※中学生以下のお子様の同伴者2名まで
3. 11. 28　グラスハープ☆ファンタジーコンサート
3. 12. 4　ファイアンスを作ってみよう
3. 12. 10　クリスマスカフェコンサート
3. 12. 11　ワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」
3. 12. 14　第37回筑紫地区中学校美術展(～12月19日)
3. 12. 18　第93回　親子で茶道体験
3. 12. 19　トレジャーハンターみっちーのきゅーはくディスカバリー「海を渡ったお宝と歴史」
4. 1. 1　新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」(～1月30日)
4. 1. 3　きゅーはくニューイヤーコンサート2022
4. 1. 5　新春は九博で博物館浴しよう－学芸員体験と科学的データの測定－
4. 1. 8　きゅーはく☆とっておき講座「初音の調度」
4. 1. 12　第5回MOA美術館児童作品展in九州国立博物館(～1月16日)
4. 1. 18　旅するデニム展－世界の子ども服をデニムで表現－(～2月6日)
4. 1. 22　第24回 日中青少年書画巡回展(～1月30日)
4. 2. 7　特別展「最澄と天台宗のすべて」内覧会
4. 2. 8　特別展「最澄と天台宗のすべて」開催（～3月21日）
4. 2. 11　「九州・沖縄夢のお菓子まつり」シュガーロードのお菓子販売会(～2月13日)
4. 2. 12　リレー講座「国宝講座～これであなたも立派な国宝～第1回」
4. 2. 15　ワンヘルスパネル展(～2月20日)
4. 2. 22　九州女子大学　第52回卒業書作展(～2月27日)
4. 2. 23　ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸取り」（・2月27日)
4. 2. 26　記念講演会「最澄と九州天台」
4. 3. 1　第2回評議員会(書面会議)
4. 3. 5　手話通訳付きオンラインバックヤードツアー

4. 3. 5　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・船載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄－大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代－」
4. 3. 5　日本遺産・やばけい遊覧パネル展示(～3 月 6 日)
4. 3. 6　記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」
4. 3. 8　九州次世代展 2022 九州のユネスコ無形文化遺産を引き継ぐ者たち(～3 月 21 日)
4. 3. 11　特別展関連イベント　伝教大師　1200 年大遠忌記念　天台宗九州の青年僧による声明公演
4. 3. 12　リレー講座「国宝講座～これであなたも立派な国宝～第 2 回」
4. 3. 19　博物館でヨガ体験！きゅーはくヨガレッスン
4. 3. 26　九州国立博物館を愛する会イベント「きゅーはく雲海桜」
4. 3. 27　「TAKE IT EASY」in 九州国立博物館桜満開スペシャル

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
3. 7. 3	研究会「型紙と型染」（無形文化遺産〈伝統技術〉の伝承に関する研究Ⅳ）（泉屋博古館講堂）
3. 7. 5	令和3年度　博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7月9日）
3. 8. 9	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」（オンライン）
3. 8. 30	令和3年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（報告）（オンライン配信：8月30日～10月1日）
3. 9. 8	国際研修「紙の保存と修復」のオンライン化可能性検討のための実験（～9月15日）（オンライン）
3. 9. 21	文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」
3. 9. 29	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修
3. 11. 5	第55回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」
3. 11. 28	文化遺産国際協力コンソーシアム令和3年度シンポジウム「海と文化遺産－海が繋ぐヒトとモノー」（オンライン）
3. 12. 3	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム3「伝統芸能と新型コロナウイルス―Good Practiceとは何か―」
3. 12. 17	第16回無形民俗文化財研究協議会
4. 1. 14	令和3年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（討議）（オンライン配信：1月14日～2月28日）
4. 1. 31	第3回保存環境調査・管理に関する講習会―空気清浄化のための化学物質吸着剤―
4. 2. 11	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 『文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性』（オンライン）
4. 2. 20	研究会「考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産」（オンライン）

（奈良文化財研究所）

年	月	日	記　　事
3.	4.	23	飛鳥資料館　ミニ展示「新収蔵品紹介－「呉」と書かれた瓦」（～5 月 1 日）
			※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5 月 2 日～6 月 20 日は臨時休館
3.	4.	29	平城宮跡資料館　春特別企画展「平城宮跡保存運動のさきがけ－大極殿標木建設式 120 周年－」「大地鳴動－大地の知らせる危機と私たちの生活－」（～6 月 27 日）
			※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 月 2 日～6 月 20 日は臨時休館
3.	5.	22	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 33 回）（～5 月 28 日）
3.	5.	22	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 19 回）（～6 月 20 日）
3.	5.	31	文化財担当者専門研修「古文書歴史資料調査基礎課程」（～6 月 4 日）
3.	6.	14	文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」（～6 月 18 日）
3.	6.	21	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6 月 25 日）
3.	6.	25	第１２６回公開講演会
			※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、YouTube で配信（～6 月 28 日）
3.	7.	5	文化財担当者専門研修「近現代建築保存活用課程」（～7 月 9 日）
3.	7.	13	文化財担当者専門研修「木質文化財の科学的調査課程」（～7 月 16 日）
3.	7.	16	飛鳥資料館　夏企画展「第 12 回写真コンテスト作品展 「飛鳥の木」」（～9 月 12 日）
3.	7.	24	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 34 回）（～7 月 30 日）
3.	7.	24	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 20 回）（～8 月 22 日）
3.	8.	7	平城宮跡資料館　夏企画展「奈良を測る－森蘊の庭園研究と作庭－」（～9 月 12 日）
3.	8.	18	「奈良の都の木簡に会いに行こう！2021」（日本学術振興会　ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ＫＡＫＥＮＨＩ）採択事業）（～8 月 20 日）
3.	9.	27	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」（～10 月 1 日）
3.	10.	1	藤原宮跡資料室　ロビー展示「藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第 205 次)」「石神遺跡 SD1347・1476 出土土器(石神遺跡第 8・9 次)」（～3 月 31 日）
3.	10.	2	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 208 次)現地見学会
3.	10.	9	平城宮跡資料館　秋特別展「地下の正倉院展－木簡を科学するⅡ－」（～11 月 7 日）
3.	10.	9	興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第 640 次)現地見学会
3.	10.	11	文化財担当者専門研修「保存科学木製遺物課程」（～10 月 19 日）
3.	10.	15	飛鳥資料館　秋特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」（～12 月 19 日）
3.	10.	16	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 35 回）（～10 月 22 日）
3.	10.	16	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 21 回）（～11 月 14 日）
3.	10.	23	第１３回東京講演会　※実地での開催に加え、特設サイトを儲けリアルタイムで配信
3.	11.	13	第１２７回公開講演会
3.	11.	15	文化財担当者専門研修「遺跡 GIS 課程」（～11 月 19 日）
3.	11.	22	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 3 日）
3.	12.	13	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」（～12 月 17 日）
3.	12.	17	第 25 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷２」（～12 月 18 日）
3.	12.	20	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」（～12 月 24 日）
4.	1.	18	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」（～1 月 24 日）

4. 1. 21　飛鳥資料館　冬企画展「飛鳥の考古学 2021」（～3 月 13 日）
4. 1. 22　国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 36 回）（～1 月 28 日）
4. 1. 22　国宝キトラ古墳壁画の公開（第 22 回）（～2 月 20 日）
4. 1. 27　文化財担当者専門研修「文化財三次元計測課程」（～1 月 28 日）
4. 2. 5　第 21 回古代瓦研究会シンポジウム（～2 月 6 日）
4. 2. 11　平城宮跡資料館　冬企画展「発掘された平城 2020・2021」（～3 月 27 日）

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　　事
3.　4.　26	第10回中国C2センター運営理事会への参加（オンライン）
3.　5.　27	ICHCAP Launching Ceremony for ichLinksへの参加（オンライン）
3.　8.　31	UNESCO Webinar on the 2005 Conventionへの参加（オンライン）
3.　9.　8	Introductory Meeting with UNESCO Beijing Officeへの参加（オンライン）
3. 10.　25	Indira Gandhi National Centre of the Arts Webinar“Mapping Culture, safeguarding Heritage”への参加（オンライン）
3. 10.　29	第3回IRCI研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題－持続可能な未来に向けて－」を開催（オンライン）
3. 10.　30	「堺の無形文化遺産を考える」への参加（堺市）
3. 11.　5	2021年韓国C2センター運営理事会への参加（オンライン）
3. 11.　17	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第10回運営理事会を開催（オンライン）
3. 11.　29	第9回C2センター会合への参加（オンライン）
3. 12.　13	第16回無形文化遺産条約政府間委員会への参加（～12月18日、オンライン）
3. 12.　22	国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献～より良い学びと持続的可能なまちづくりに向けて～」を開催（オンライン）
4.　1.　11	UNESCO Regional Consultation on Cultural Policies for the Asia-Pacific regionへの参加（～1月12日、オンライン）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（令和 4 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	委員長
田　辺　　征　夫	公益財団法人元興寺文化財研究所所長	副委員長
池　坊　　専　好	華道池坊次期家元	
伊　藤　　嘉　章	愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長	
上　原　　眞　人	京都大学名誉教授	
梅　本　　和　義	独立行政法人国際交流基金理事長	
逢　坂　　惠理子	独立行政法人国立美術館理事長	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	
木　下　　直　之	静岡県立美術館長	
佐　藤　　禎　一	元ユネスコ代表部特命全権大使	
檀　　ふ　み	俳優	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	
西　村　　泰　彦	宮内庁長官	
古　瀬　　奈津子	お茶の水女子大学名誉教授	
鉾　井　　修　一	京都大学名誉教授	
和　田　　浩　一	観光庁長官	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（令和 4 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
青　柳　正　規	学校法人多摩美術大学理事長	会長
浦　井　正　明	寛永寺貫主	副会長
石　澤　良　昭	上智大学 アジア人材養成研究センター所長	
ロバート・キャンベル	早稲田大学特命教授	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
齊　藤　裕　司	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
澤　　和　樹	東京藝術大学長	
篠　田　謙　一	独立行政法人国立科学博物館長	
田　中　正　之	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
服　部　征　夫	台東区長	
早　川　　徹	日本空港ビルデング株式会社企画管理本部総務グループ広報・ブランド戦略室長	
平　井　邦　明	台東区立忍岡中学校長	
藤　田　裕　司	東京都教育委員会教育長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
吉　田　寿　美	東京都立上野高等学校統括校長	
林　原　行　雄	昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（令和４年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
金　田　　章　裕	京都府立京都学・歴彩館長	会長
福　永　　治	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	副会長
井　上　　洋　一	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
後　藤　　典　生	高台寺　常任教師	
榊　田　　隆　之	京都信用金庫　理事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ッ橋総本店　専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団　理事長	
千　　宗　守	武者小路千家　官休庵　家元	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル　前顧問	
中　本　　晃	株式会社島津製作所代表取締役会長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
吉　田　　憲　司	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館長	
吉　田　　良比呂	京都市副市長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫　常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（令和４年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
浅　野　　秀　剛	公益財団法人大和文化館長 あべのハルカス美術館長	
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行特別顧問	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
川　井　　徳　子	ノブレスグループ代表	
千　田　　嘉　博	奈良大学文学部文化財学科教授	
多　川　　俊　映	興福寺寺務老院	
田　淵　　裕　久	近鉄グループホールディングス株式会社監査役	
筒　井　　寛　昭	東大寺長老・東大寺総合文化センター総長	
東　野　　治　之	奈良大学名誉教授・大阪大学名誉教授	
中　野　　聖　子	ホテル尾花代表取締役社長	
西　川　　明　彦	宮内庁正倉院事務所長	
は　な	モデル・ナレーター・エッセイスト・タレント	
古　谷　　正　覚	聖徳宗管長・法隆寺住職	
松　本　　伸　之	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
本　中　　眞	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
吉　田　　晴　行	奈良県文化・教育・くらし創造部長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（令和４年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	作家	
綾　部　　純　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン ガバナー	
今泉　　今右衛門	陶芸作家	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
楠　田　　大　蔵	太宰府市長	
倉　富　　純　男	西日本鉄道株式会社代表取締役会長	
柴　田　　建　哉	株式会社西日本新聞社 代表取締役社長	
傍　田　　賢　治	ＮＨＫ福岡放送局長	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（令和４年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
河　合　　正　朝	慶應義塾大学名誉教授	委員長
名児耶　　明	元公益財団法人五島美術館副館長	副委員長
小笠原　　直	監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員　公認会計士	
坂　本　　弘　子	朝日新聞社常勤監査役	
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館特任館長	
出　川　哲　朗	大阪市立東洋陶磁美術館館長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
寺　崎　　保　広	奈良大学名誉教授	
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館名誉教授	
柳　林　　修	読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー（元読売新聞編集委員）	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（令和 4 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
名児耶　　明	元公益財団法人五島美術館副館長	部会長
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	副部会長
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館特任館長	
出　川　哲　朗	大阪市立東洋陶磁美術館館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所・センター調査研究等部会委員名簿

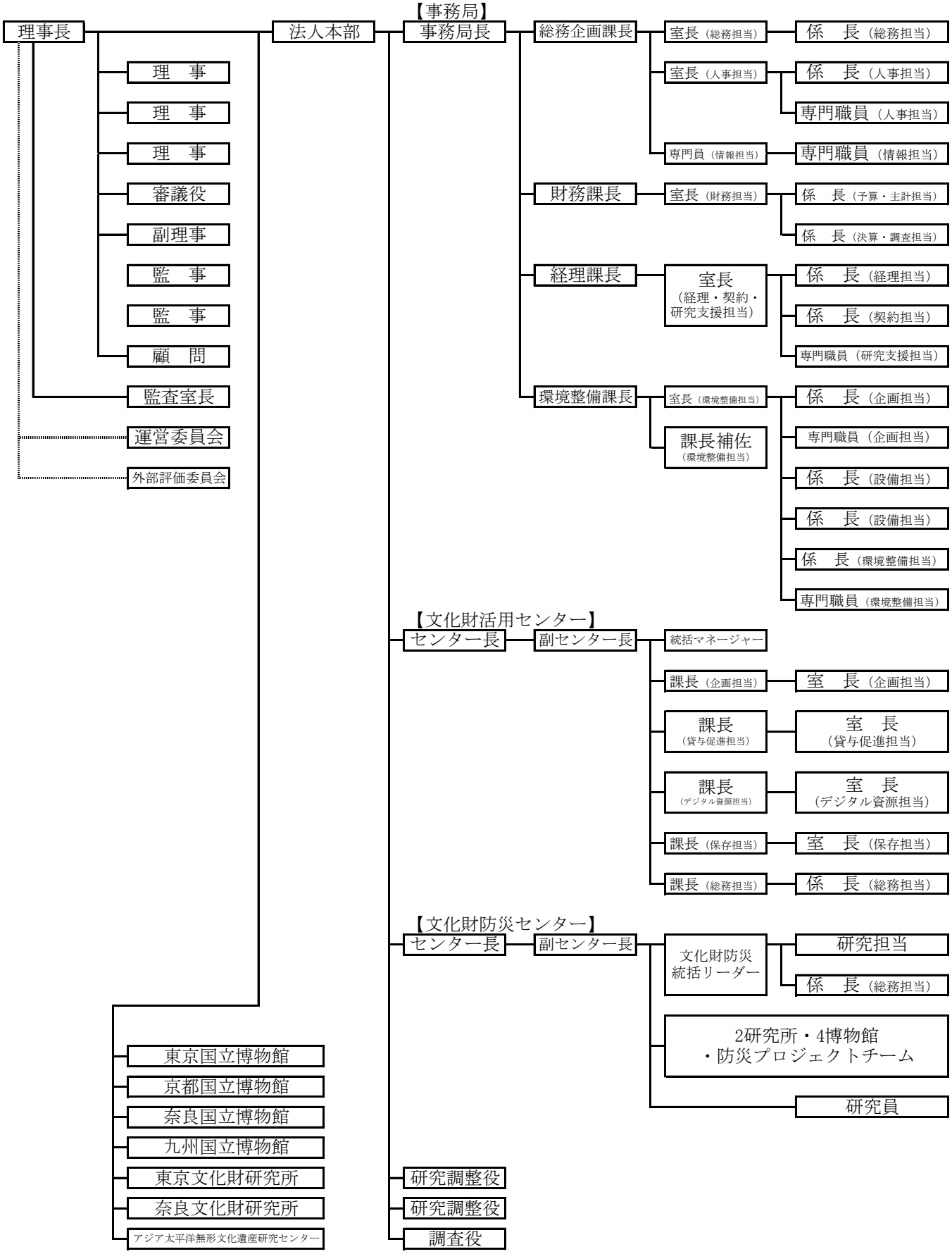
（令和 4 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
寺　崎　　保　広	奈良大学名誉教授	部会長
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館名誉教授	副部会長
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
柳　林　　修	読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー（元読売新聞編集委員）	

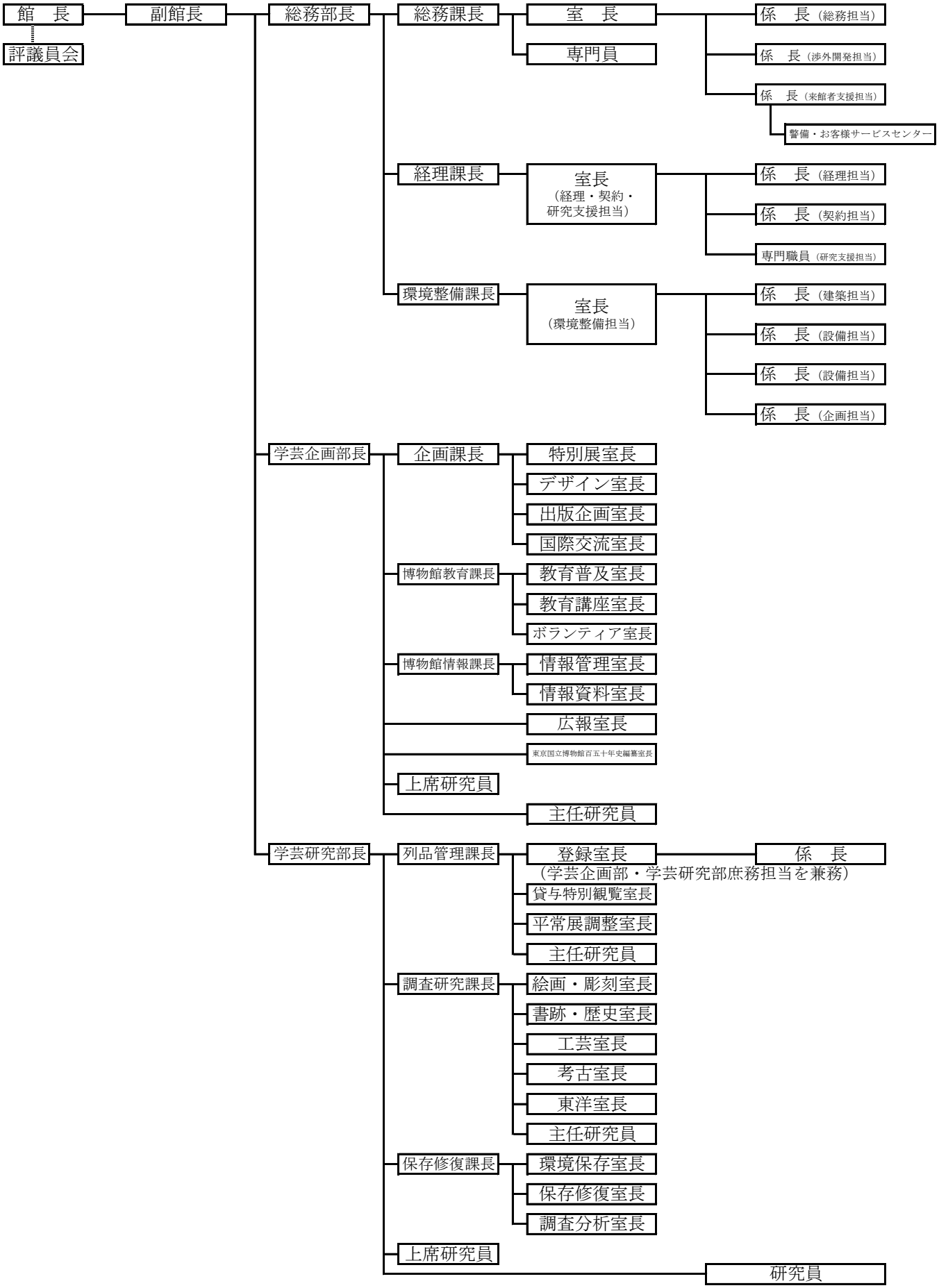
独立行政法人国立文化財機構　組織図

令和4年3月31日現在

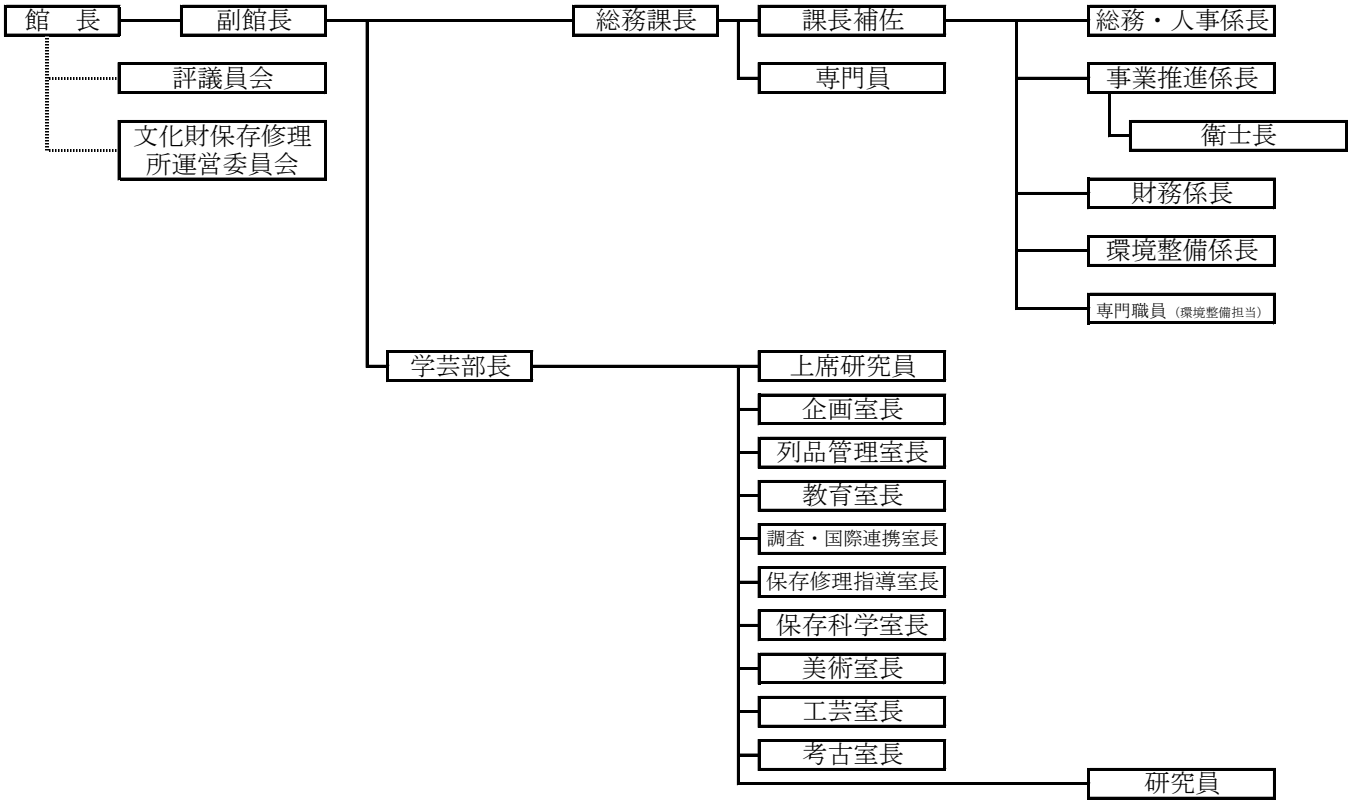
【機構図】



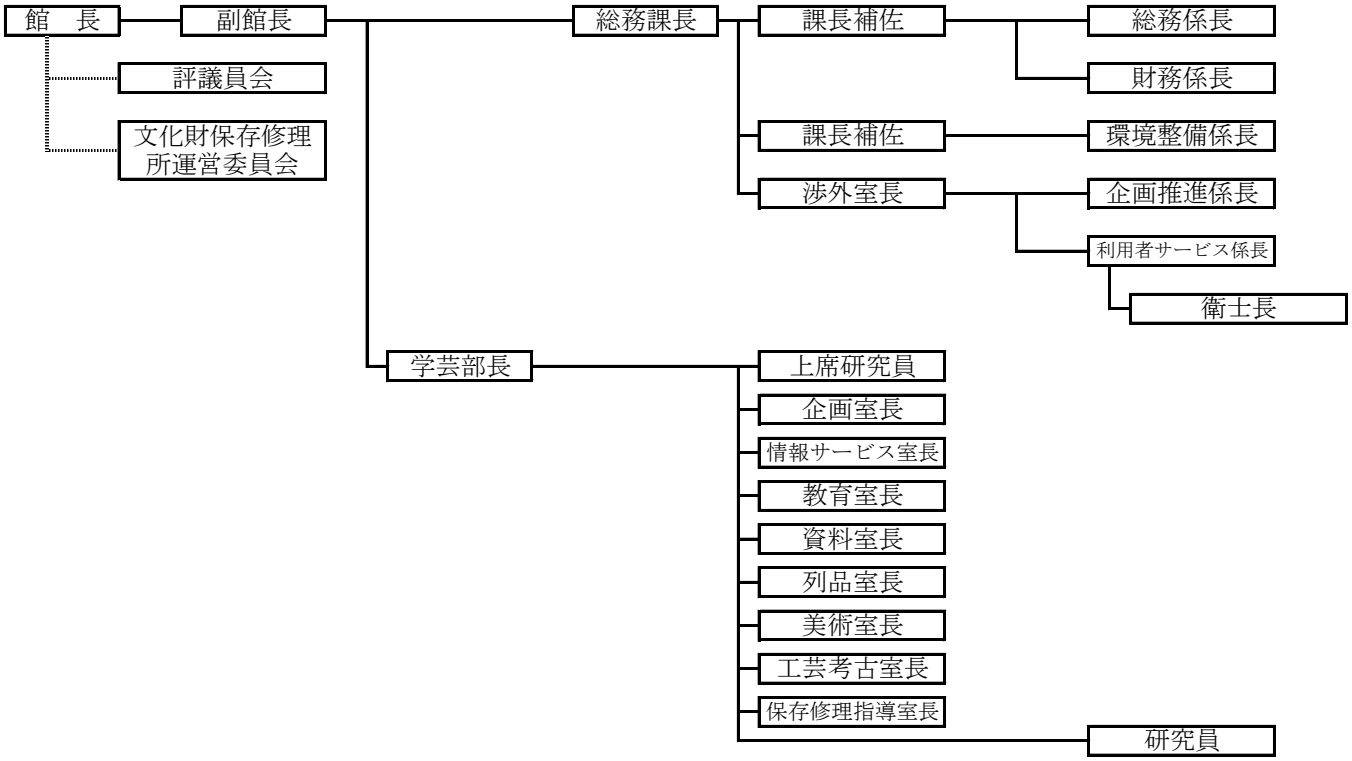
【東京国立博物館】


館　長
評議員会
副館長
総務部長
総務課長
室　長
専門員
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（来館者支援担当）
警備・お客様サービスセンター
経理課長
室長
（経理・契約・
研究支援担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（研究支援担当）
環境整備課長
室長
（環境整備担当）
係　長（建築担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
係　長（企画担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
東京国立博物館百五十年史編纂室長
上席研究員
主任研究員
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
係　長
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
主任研究員
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

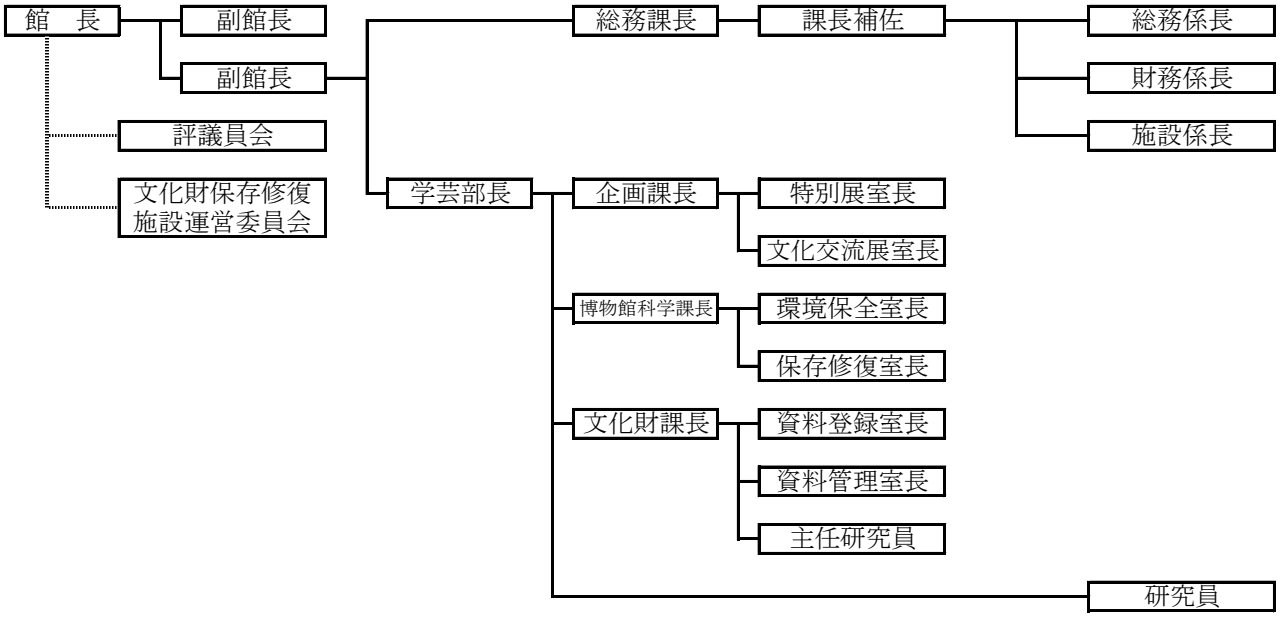
【京都国立博物館】



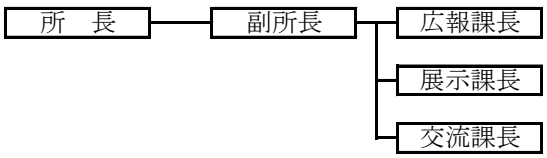
【奈良国立博物館】



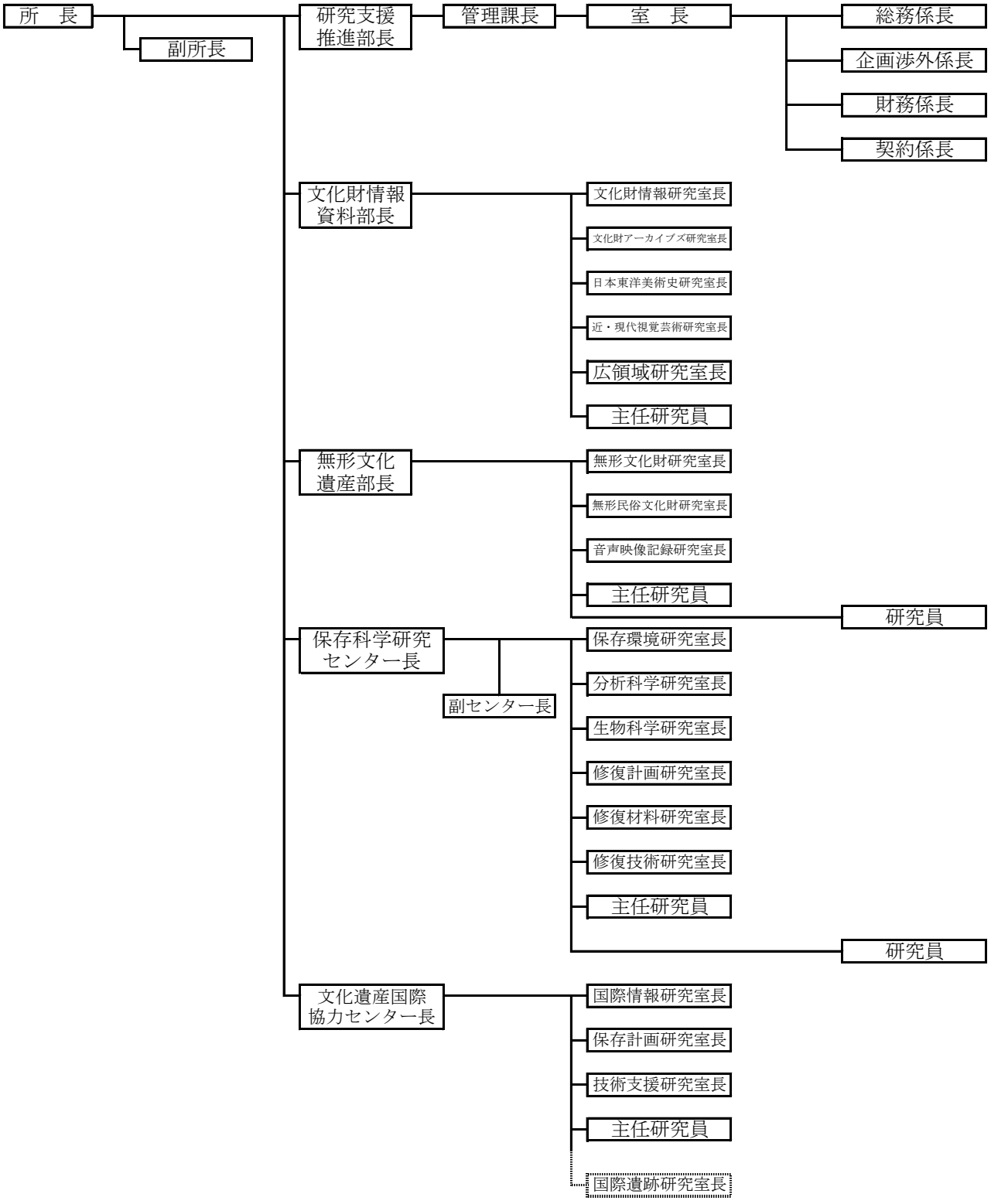
【九州国立博物館】



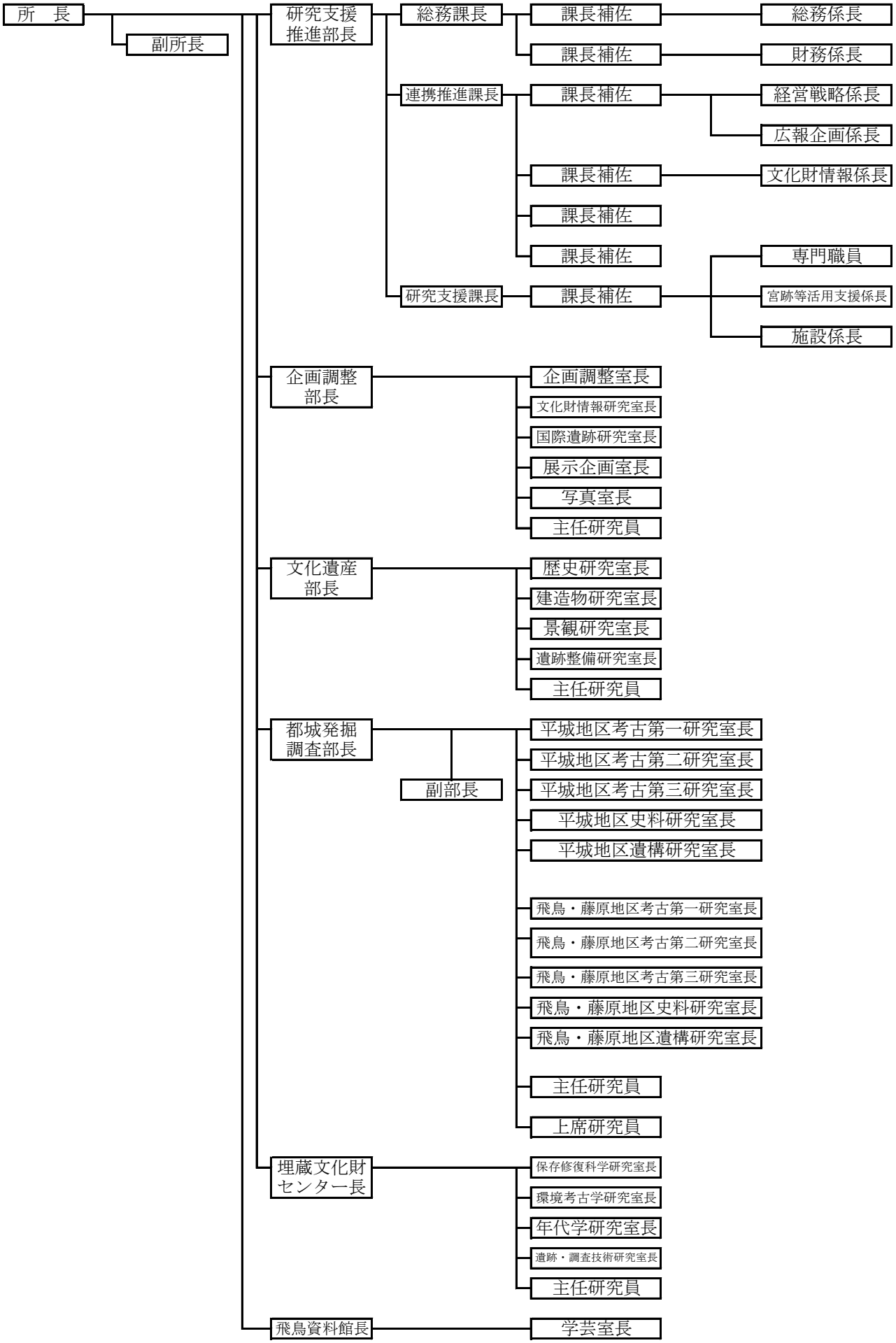
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



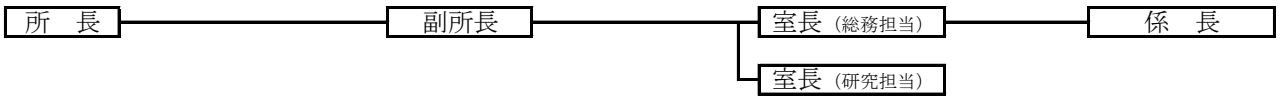
【東京文化財研究所】


所　長
副所長
研究支援推進部長
管理課長
室　長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
文化財情報資料部長
文化財情報研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
日本東洋美術史研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声映像記録研究室長
主任研究員
研究員
保存科学研究センター長
副センター長
保存環境研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復計画研究室長
修復材料研究室長
修復技術研究室長
主任研究員
研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
技術支援研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】


所　長
副所長
研究支援推進部長
総務課長
課長補佐
総務係長
課長補佐
財務係長
連携推進課長
課長補佐
経営戦略係長
広報企画係長
課長補佐
文化財情報係長
課長補佐
課長補佐
専門職員
研究支援課長
課長補佐
宮跡等活用支援係長
施設係長
企画調整部長
企画調整室長
文化財情報研究室長
国際遺跡研究室長
展示企画室長
写真室長
主任研究員
文化遺産部長
歴史研究室長
建造物研究室長
景観研究室長
遺跡整備研究室長
主任研究員
都城発掘調査部長
副部長
平城地区考古第一研究室長
平城地区考古第二研究室長
平城地区考古第三研究室長
平城地区史料研究室長
平城地区遺構研究室長
飛鳥・藤原地区考古第一研究室長
飛鳥・藤原地区考古第二研究室長
飛鳥・藤原地区考古第三研究室長
飛鳥・藤原地区史料研究室長
飛鳥・藤原地区遺構研究室長
主任研究員
上席研究員
埋蔵文化財センター長
保存修復科学研究室長
環境考古学研究室長
年代学研究室長
遺跡・調査技術研究室長
主任研究員
飛鳥資料館長
学芸室長

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



令和３年度　自己点検評価報告書　統計表

令和３年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-① 有形文化財の収集等

1-(1)-①-1 収蔵品一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1-(1)-①-2 (参考)収蔵品・寄託品件数合計(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1-(1)-①-3 令和 3 年度新収品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1-(1)-①-4 令和 3 年度新収品一覧

【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

1-(1)-①-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）・・・・・・・・・・・ 35

1-(1)-①-6 寄託品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-①-7 寄託品増減表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-①-8 登録美術品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-②有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

1-(1)-②-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数

（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

1-(1)-②-4 本格修理件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

1-(1)-②-5 修理概況

【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展・② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移(入館料別)（過去５か年）　(p.156 ◎共通資料 a-①)

1-(2)-①・②-2 来館者数推移(展覧会別)（過去５か年）　(p.157 ◎共通資料 a-②)

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展　(p.159 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数　(p.159 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数　(p.159 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート　(p.247 ◎共通資料 e)

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート　(p.247 ◎共通資料 e)

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート　(p.247 ◎共通資料 e)

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート　(p.247 ◎共通資料 e)

1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

1-(3) 教育・普及活動

1-(3)-① 教育普及活動の充実等
1-(3)-①-1 学習機会の提供(過去５か年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
1-(3)-①-6 留学生の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
1-(3)-①-7 ボランティア受入実績 (p.171 ◎共通資料 b)
1-(3)-①-8 友の会・パスポート等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
1-(3)-①-9 賛助会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
1-(3)-①-10 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数） (p.37 1-(1)-③-2)
1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
1-(3)-②-3 特別観覧件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
1-(3)-②-5 広報実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
1-(3)-②-6 広報刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 (p.246 ◎共通資料 d)
1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧 (p.183 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.189 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧 (p.207 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.235 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-①-5 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-② その他の有形文化財に関連する調査研究
1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧 (p.183 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.189 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧 (p.207 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.235 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-②-5 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等
1-(4)-③-1 研究交流実績一覧 (p.174 ◎共通資料 c-①)
1-(4)-④ 調査研究成果の公表
1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展 (p.159 ◎共通資料 a-③)
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績 (p.55 1-(3)-①-2)
1-(5) 国内外の博物館活動への寄与
1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
1-(5)-①-3 海外への列品貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等
1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
1-(6)文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組
1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進・・・・・・・・・・・・・・ 140
1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 (p.246 ◎共通資料 d)
1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 141

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 (p.183 ◎共通資料 c-②)
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.189 ◎共通資料 c-③)
2-(1)-3 論文等発表実績一覧 (p.207 ◎共通資料 c-⑤)
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.235 ◎共通資料 c-⑦)
2-(1)-6 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 (p.183 ◎共通資料 c-②)
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.189 ◎共通資料 c-③)
2-(2)-3 論文等発表実績一覧 (p.207 ◎共通資料 c-⑤)
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.235 ◎共通資料 c-⑦)
2-(2)-6 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）・・ 144
2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況(刊行物件数) (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 (p.174 ◎共通資料 c-①)
2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 (p.183 ◎共通資料 c-②)
2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 (p.189 ◎共通資料 c-③)
2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 (p.205 ◎共通資料 c-④)
2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 (p.207 ◎共通資料 c-⑤)
2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 (p.246 ◎共通資料 d)
2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
2-(4)-② 調査研究成果の発信
2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(4)-②-2 講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧 (p.205 ◎共通資料 c-④)
2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数 (p.246 ◎共通資料 d)
2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数・・・・・・・ 147
2-(4)-③ 展示公開施設の充実
2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別)(過去５か年) (p.156 ◎共通資料 a-①)
2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) (p.157 ◎共通資料 a-②)
2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展 (p.159 ◎共通資料 a-③)
2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等
2-(5)-②-1 専門的・技術的な協力・助言の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
2-(5)-③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (p.171 ◎共通資料 b)
2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与
2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (p.174・182 ◎共通資料 c-①1)・3))
2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (p.205 ◎共通資料 c-④)
2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (p.246 ◎共通資料 d)
2-(6) 文化財防災に関する取組
2-(6)-① 地域防災体制の構築 (p.231 ◎共通資料 c-⑥)
2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況 (p.207・231 共通資料 c-⑤,⑥)
2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発
2-(6)-④-1 文化財防災に関するシンポジウムの開催件数 (p.205 共通資料 c-④)
2-(6)-④-2 文化財防災に関する講演会・研修会等の開催件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1.業務改善の取組
1-(5) 一般管理費等の削減
1-(5)-① 施設の有効利用件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
◎共通資料
a 展示
a-①来館者数推移(入館料別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
a-②来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
a-③平常展・特別展・海外展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
b ボランティア受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
c 調査研究
c-① 研究交流実績一覧
1) 海外研究者招聘・受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
2) 他機関の共同研究への参画実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175

3）研究者海外派遣実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
c-② 調査研究テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
c-③ 学会、研究会等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189
c-④ シンポジウム開催実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
c-⑤ 論文等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
c-⑥ 調査研究刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
c-⑧ 客員研究員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 242
d ウェブサイトアクセス件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246
e 令和 3 年度平常展・特別展アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-①　有形文化財の収集等

1-(1)-①-1　所蔵品一覧表

（単位：件）　　令和4年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		131,771	135	1,006	120,073	89	648	8,279	29	200	1,930	13	114	1,489	4	44
絵画		13,882	35	219	11,199	21	105	2,234	9	60	307	4	44	142	1	10
書跡		3,608	37	175	1,927	14	60	1,376	17	78	152	5	29	153	1	8
彫刻		1,460	1	49	1,113	0	24	152	0	3	153	1	16	42	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		17,436	3	61	16,426	1	17	606	2	31	169	0	11	235	0	2
刀剣		3,503	21	57	3,466	19	57				16	0	0	21	2	0
陶磁		4,522	0	22	2,968	0	13	1,361	0	3	81	0	0	112	0	6
漆工		4,780	6	32	3,961	4	20	534	0	3	107	2	5	178	0	4
染織		4,917	2	29	3,795	0	20	971	1	8	94	1	1	57	0	0
考古		30,468	5	76	28,625	5	55	699	0	11	745	0	8	399	0	2
民族資料		1,380	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	15	0	0
歴史資料		6,675	0	12	6,249	0	5	297	0	2	0	0	0	129	0	5
和書		17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		2,283	0	2	2,283	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	718	4	31	718	4	31									
	書跡	1,729	10	13	1,729	10	13									
	彫刻	814	0	20	814	0	20									
	金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
	陶磁	3,089	0	11	3,089	0	11									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	612	0	1	612	0	1									
	考古	5,981	0	2	5,981	0	2									
	民族	3,559	0	0	3,559	0	0									
法隆寺献納宝物		326	11	184	326	11	184									
黒田記念館収蔵品		818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)		0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

令和4年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,400枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰寄贈文書	一式
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
岡嶋家寄贈　大極殿標木建設等資料	1箱
溝辺家寄贈　大極殿標木	2本(4片)
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,420箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,429箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,933箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城京跡左京三条二坊出土木簡（重要文化財）	1,809点
［都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,087点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	41,801箱
土器　　整理箱	17,062箱
土製品	15,165点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	20,029点
石器・石製品	14,707点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
藤原宮跡木簡複製品	4点一括
飛鳥池遺跡木簡複製品	5点一括
二面石（橘寺　模刻）	1点
呉文字ヘラ書き丸瓦	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　原寸鋳造	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　拡大樹脂製（４倍）	1点
国宝「高松塚古墳壁画」コロタイプ印刷複製品	一式
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品(所蔵品・寄託品)件数合計(過去5か年)

(単位:件)　令和4年3月31日現在

		平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品合計	国立博物館 計	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207	144,284	334	2,209
	東京国立博物館	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910	122,724	143	910
	京都国立博物館	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818	14,841	119	819
	奈良国立博物館	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423	3,886	66	423
	九州国立博物館	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56	2,833	6	57
所蔵品	国立博物館 計	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006	131,771	135	1,006
	東京国立博物館	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648	120,073	89	648
	京都国立博物館	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200	8,279	29	200
	奈良国立博物館	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114	1,930	13	114
	九州国立博物館	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44	1,489	4	44
寄託品	国立博物館 計	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201	12,513	199	1,203
	東京国立博物館	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262	2,651	54	262
	京都国立博物館	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618	6,562	90	619
	奈良国立博物館	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309	1,956	53	309
	九州国立博物館	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12	1,344	2	13

1-(1)-①-3 令和3年度新収品一覧表

（単位：件）　令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	338			131			129			1			77		
計	41	254	43	8	81	42	12	117	0	0	0	1	21	56	0
絵画	6	104	1	1	4	0	3	100	0	0	0	1	2	0	0
書跡	2	11	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0
彫刻	1	3	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	9	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	7	0
刀剣	0	0	2	0	0	2			0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	13	4	0	0	4	1	11	0	0	0	0	0	2	0
漆工	1	6	5	0	5	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0
染織	8	2	22	0	1	22	6	0	0	0	0	0	2	1	0
考古	11	41	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	11	38	0
民族資料	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
歴史資料	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	5	4	0	5	4	0									
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0									
東洋 彫刻	1	0	0	1	0	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	30	2	0	30	2									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	0	2	0	0	2									
東洋 考古	0	27	0	0	27	0									
東洋 民族	0	0	4	0	0	4									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	754			2,005			980			242			338		
小計	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18	41	254	43
絵画	18	17	5	8	22	0	31	9	0	7	8	0	6	104	1
書跡	8	47	2	3	50	0	2	8	0	3	59	0	2	11	0
彫刻	5	2	0	2	3	0	1	0	0	1	18	0	1	3	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	253	8	3	21	0	3	12	0	6	1	0	3	9	0
刀剣	0	0	10	1	0	0	0	1	0	2	9	0	0	0	2
陶磁	10	123	5	15	44	0	1	11	0	4	2	0	1	13	4
漆工	2	12	93	4	23	0	1	8	0	5	1	0	1	6	5
染織	1	7	47	30	21	0	3	7	0	7	5	0	8	2	22
考古	11	18	2	81	120	2	34	10	0	30	31	0	11	41	1
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0
歴史資料	4	2	0	6	1	0	3	50	0	3	1	0	2	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料							0	0	767	0	0	16	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	1	0	0	15	0	3	1	0	0	0	0	5	4	0
東洋 書跡	0	2	0	0	18	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0
東洋 金工	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30	2
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
東洋 考古	0	11	0	0	3	0	0	4	0	0	3	0	0	27	0
東洋 民族	0	21	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-①-4 令和3年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計131件)

（１）購入（8件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	泰西騎士像（たいせいきしぞう）	品　質	紙本着色
作者等		員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦85.1cm 横38.5cm
作品概要	建物の壁面を背景に長槍を構えた甲冑姿の武人一人を表わす、初期洋風画の作例である。一紙に一人の西洋風騎士像を描く例は、泰西王侯図屏風（重要文化財、6曲1双、長崎歴史文化博物館蔵）や泰西王侯図屏風（6曲1隻、ボストン美術館蔵）のような押絵貼屏風形式の類例があるほか、掛軸装の作品が数点現存し、本作もその一群に属す。長槍を持つ騎士の姿はボストン本の一図とも良く似ており、17世紀初めに日本に輸入された銅版画を手本とした規範的な図様であったと考えられる。 人体のプロポーションや立体感などの表現はやや稚拙だが、毛髪や衣、瞳にハイライトを入れるなど丁寧に描写される。後世の補彩も入っているが、下書き線とみられる墨線も見えるなど制作過程を含む成立当初の表現は損なわれていない。初期洋風画は現存例が少なく、貴重な遺例といえる。なお、西村貞『日本初期洋風画の研究』(全國書房、昭和21年）によれば、本図は泰西騎士像（A-10449）と対幅であった。		

＜彫刻＞（1件）

2　名称	金剛力士立像（こんごうりきしりゅうぞう）	品　質	木造、彩色
作者等		員　数	2軀
時　代	平安～鎌倉時代・12～13世紀	寸法等	阿形 像高276.3cm ； 吽形 像高274.0cm
作品概要	寺院の仁王門に置かれていた金剛力士像。阿形像は頭部と体部のバランスが取れているが、吽形像は頭部が大きく肥満した体形で作風に差がある。しかし、腕に天衣が絡みつく表現は共通し、一対で造られたものと見て良い。 両像とも頭部と体幹部をヒノキの一材から木取りし、割矧いで造っている。内刳りは深く、腕や足裏も刳っている。吽形像の体幹部は辺材があり、その年輪年代測定から1173年頃の伐採と判明した。平安時代末期ないし鎌倉時代初期の作と見られる。滋賀県栗東市にあった蓮台寺に伝来、昭和9年の室戸台風で仁王門が倒壊し、この仁王像も大きく損傷した。昭和43年美術院国宝修理所の所有となった。		

＜東洋絵画＞（5件）

3　名称	千仏図（せんぶつず）	品　質	木製彩色
作者等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸法等	高15.7cm 幅73.0cm 奥行7.8cm
作品概要	千仏図の断片。如来が横一列に描かれている。如来はそれぞれ頭と身体の背後にいずれも光背を表す。両手は腹の前で印を結び、両足は蓮の上で結跏趺坐する。板の背面に絵は描かれていない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の梁あるいは長押の一部に描かれていたと考えられる。		

4　名称	千仏図（せんぶつず）	品　質	土壁彩色
作者等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸法等	高23.2cm 幅17.5cm
作品概要	千仏を描いた壁画の断片。壁画断片の左右両側に太く線が引かれており、その中はひし形に区画され、さらにその中に如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の背後に光背を表す。両手は腹の前で印を結ぶ。蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあって露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁画断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁画に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。		

5　名称	千仏図（せんぶつず）	品　質	土壁彩色
作者等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸法等	高33.5cm 幅14.0cm
作品概要	千仏を描いた壁画の断片。壁画断片の左右両側に太く線が引かれており、その中はひし形に区画され、さらにその中に如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の背後に光背を表す。両手は腹の前で印を結ぶ。蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあって露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁画断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁画に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。		

6　名称	千仏図（せんぶつず）	品　質	土壁彩色
作者等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸法等	高40.0cm 幅25.0cm
作品概要	千仏を描いた壁画の断片。壁画断片の左右両側に太く線が引かれており、その内側では如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の背後に光背を表す。両手は衣中にあって、印相を露わにしない。蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあって露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁画断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁画に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。		

7　名称	如来坐像（にょらいざぞう）	品　質	土壁彩色
作者等		員　数	1面
時　代	6～7世紀	寸法等	高32.0cm 幅26.0cm
作品概要	如来坐像を描いた壁画の断片。頭と身体の背後にそれぞれ光背を表す。両手は腹の前で印を結ぶ。蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあって露わにしない。如来の衣は赤く、その着衣の型式は通肩である。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		

＜東洋彫刻＞（1件）

8　名称	女神像（じょしんぞう）	品　　質	ストゥッコ、彩色
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	5～7世紀	寸 法 等	高23.0cm 幅17.0cm 奥行8.0cm
作品概要	頭部に宝冠を戴く。黒く塗られた頭髪は、中央から左右両側へ分ける。首にはネックレスをつける。半袖の薄い衣を着る。袖口のフリルには赤い彩色が、衣には茶色い彩色がうっすらと残る。両腕の上腕より先、腹部の下を欠損する。本作品の背面には尊像の後ろ姿が表現されていないことから、寺院の仏龕に貼り付けられていたと考えられる。		

（２）寄贈（81件）

＜絵画＞(4件)

1　名称	鳥獣戯画（模本）（ちょうじゅうぎが　（もほん））	品　　質	紙本墨画
作 者 等	前田貫業（1838～?）模	員　　数	1巻
時　　代	明治19年(1886)	寸 法 等	縦31.6cm　横1,081.0cm
作品概要	巻子装（ただし未表装。木軸に本紙を仮巻きした状態）。 現在、4巻から成る国宝「鳥獣戯画」（京都・高山寺蔵）甲巻の写しである。原本の紙継箇所には墨線を引き、高山寺印も印形を表わす。図様も原本をおおむね忠実に写すが、一部欠落がある。全巻を通じて数種の異なる料紙が用いられており、中盤は上下に料紙を継いでいるなど、複雑な状況である。 奥書に「明治十九年三月摹　前田貫業」とあり、模写年代、模写者が判明する。鳥獣戯画は明治14年前後に博物局で修理が施され、明治20年には東寺宝蔵に預けられており、本作はこの間に写されたものである。模写者の前田貫業は博物局（博物館）による古画の模写事業を担っており、本作は博物局に預けられていた期間に写された可能性も考えられる。		

2　名称	芥子図（けしず）	品　　質	紙本着色
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦109.0cm 横42.4cm
作品概要	掛幅装。画面中央の芥子を中心に菫など春から初夏にかけての草花を描く。葉脈には金泥が使われ、墨に藍を混ぜたと思われる色味や、たらしこみを多用する画面は、俵屋宗達の画風を受け継ぐ俵屋工房の画家による作品であることを示している。芥子は俵屋工房が描く草花図にも多く描かれる人気の画題である。本作に押された「宗雪印」（朱白文方印）の使用例には、「相説」や「法橋相説」の款記を伴う作品が現存していることから、本作も、墨や中間色を多用し瀟洒な草花図を得意とした喜多川相説を筆者として推定することができる。 日本画家である中村岳陵の旧蔵品。		

3　名称	松寿老・竹鶴・梅亀図（まつじゅろう たけつる うめかめず	品　　質	絹本着色
作 者 等	狩野〈晴川院〉養信（1796～1846）筆	員　　数	3幅
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦128.7cm 横56.4cm
作品概要	掛幅装。三幅対。中幅には松の下で鹿とともに座す寿老人、右幅には竹に鶴の親子、左幅には梅と水際に遊ぶ亀を描く。署名から、養信が法印を与えられた天保5年（1834）以降の作品とわかる。江戸狩野派が重要なレパートリーの一つとして手がけてきた吉祥画題を、良質で鮮やかな絵具で描き上げた優品である。		

4　名称	臨済義玄像（りんざいぎげんぞう）	品　　質	絹本着色
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・18世紀～19世紀	寸 法 等	縦101.7cm 横53.4cm
作品概要	筵の上に結跏趺坐し、右の拳を握りしめた臨済義玄の肖像である。臨済義玄は臨済宗を開いた唐時代末の禅僧である。本品は真珠庵や養徳院に伝わる室町時代の作例と同じ図様であり、臨済像として流布した姿を描く。憤怒の表情は中世の作例よりも穏やかなものとなっているが、描写は的確で、とりわけ髪の毛や髭は描線を使い分け、巧みに質感を描き出す。鮮やかな赤色や衣文線に沿うように施された金泥、整然とした絹目から、江戸時代後期の作例とみなされる。水墨を主体とした室町時代の作例に対し、本図は着色の臨済像として重要である。さらに、江戸時代の儒学者・荻生徂徠の家系に伝来した点も注目される。		

＜書跡＞(7件)

5　名称	道済集巻十九断簡（紙撚切）(みちなりしゅう　まきじゅう くだんかん　（こよりぎれ）)	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原佐理（944～998）筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦22.2cm 横15.2cm
作品概要	掛軸装、牙軸。金銀の揉箔を散らした料紙に『道済集』巻十九より和歌を二首半書写している。もとは綴葉装の冊子本のため、本作はその一頁分にあたると考えられる。右肩上がりのリズミカルな筆遣いで、ときに七文字分を連綿にしており巧妙である。転折がねじれているように見えるところから、「紙撚切」と呼ばれる古筆切である。平安時代に『道済集』を書写した唯一の遺品としても貴重である。歌集の作者、藤原道済について詳しいことはわかっていない。		

6　名称	色紙華厳経断簡（泉福寺経）（しきしけごんきょうだんかん（せんぷくじきょう））	品　　質	彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦24.7cm 横50.8cm
作品概要	掛軸装、牙軸。藍の繊維を漉き込んだ料紙に金の揉箔が撒かれており、金泥で界線が引かれている。そこに六十巻本『大方広仏華厳経』の「如來光明覚品第五」から28行分書写された部分。当館が所蔵する一巻（B-2482）の巻頭に「泉福寺常住」という朱文長方印があることから「泉福寺経」と呼ばれる。伝来途中で火災に遭ってどれも上下に焼け跡が残っているが、本作はその中でも焼けた部分が少ない。		

7　名称	書状（しょじょう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	小堀遠州（1579～1647）筆	員　　数	1巻
時　　代	元和元年(1615)	寸 法 等	本紙 縦15.3cm 縦77.0cm
作品概要	巻子装。荻生徂徠あるいは子孫が本書状を入手した経緯は明らかではないが、小堀遠州本来の役割であった幕府の作事について、小堀家家臣(おそらく家老格)権左衛門に指示を与えた書状である。元和元年(1615)8月5日徳川家康(上様)が近江国水口に到来するとの記述から、本書状はこの年の7月28日と作成と思われる。		

8 名称	風流使者之詩（ふりゅうししゃのし）	品　質	紙本墨書
作 者 等	柳沢吉保（1658～1714）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙 縦63.2cm 横28.8cm
作品概要	掛軸装。牙軸。柳沢吉保が自作の詩を、親交のあった荻生徂徠に贈ったものである。吉保は宝永元年（1705年）に甲府藩主となり、宝永7年（1706年）荻生徂徠に甲斐国を見聞し、紀行文『風流使者記』『峡中紀行』としてまとめさせた。この書はこの時の紀行文から取った詩文である。		

9 名称	鳳陽院記（ほうよういんき）	品　質	紙本墨書
作 者 等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	本紙 縦136.3cm 横56.3cm
作品概要	掛軸装。木製印可軸。鳳陽院は万福寺の塔頭の一つ。本書はこの塔頭の由来について荻生徂徠が記した草稿である。文中の独湛性瑩(1628～1706)は明の僧侶。承応3年(1654)隠元隆琦にしたがって来日。遠江国・宝林寺、上野国・国瑞寺をひらき、天和2年(1682)山城国・万福寺の住持となった人である。漢詩・漢文に通じ、明の社会制度にも詳しかった徂徠と禅宗(黄檗宗)との関係が伺える作品である。		

10 名称	文語（ぶんご）	品　質	紙本墨書
作 者 等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員　数	1幅
時　代	宝永7年(1710)9月14日	寸 法 等	本紙 縦131.0cm 横54.2cm
作品概要	掛軸装。木軸。この文章は京都・伏見の人貫隆父(かんりゅうほ)の著作である「桃源藁」と題する詩文集に寄せた長文の序で、徂徠の著作を集めた『徂徠集』にも収録されている。		

11 名称	荻生徂徠自筆稿本（おぎゅうそらいじひつこうほん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員　数	5冊
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	冊子装 縦23.0cm 横17.8cm
作品概要	冊子装。明朝綴じ。荻生徂徠が漢詩・漢文の研究のため、荀子を読み進めた「徂徠山人外集」巻一～四と、様々な中国の故事や出来事について記した「徂徠山人雑集」巻六、計五冊からなる草稿本である。「徂徠山房」の版心を有する木版罫紙を使用している点でも貴重。 内箱貼紙にある「光緒壬辰」は1892年。「黄超曾」は神戸、横浜で清国領事を勤め、公使の命で日本各地を遊歴し、各地の日本文人を通して広い範囲にわたる交流を行った。在日中の詩作は『東瀛詩草』と題する1冊の詩集に纏められた。荻生徂徠の遺稿について題を寄せるにふさわしい人である。		

＜漆工＞(5件)

12 名称	山水蒔絵硯箱（さんすいまきえすずりばこ）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1合
時　代	室町時代・15～16世紀	寸 法 等	高6.0cm 縦25.9cm 横24.4cm
作品概要	被蓋造の硯箱。身・蓋とも口縁に錫縁を廻らせ、蓋は削面をとる。身の中央に下水板を置き、金銅製円形水滴と硯を嵌め、左右に懸子を配する。加飾は総体漆塗で、平目地に研出蒔絵で土坡を描き、薄肉高蒔絵で近景の岩山、右上に望む遠山を表す。さらに付描による千鳥を加え、金具で橋をわたす。		

13 名称	梅琴蒔絵文台（うめことまきえぶんだい）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1基
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高10.5cm 縦32.9cm 横56.5cm
作品概要	総体漆塗の天板に研出蒔絵で加飾し、剞形のある四脚をもつ文台。各脚は金銅製覆輪を有し、天板側面四隅及び各側面中央、また筆返し両端にも金銅製魚々子地梅花文飾金具を打つ。蒔絵意匠は主要モチーフである洲浜上の梅樹が画面左方に寄せられ、右方に小洲浜上の岩、中央に琴と舞い散る梅花が描かれる。		

14 名称	御所車蒔絵硯箱（ごしょぐるまときえすずりばこ）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1合
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高4.4cm 縦23.4cm 横21.2cm
作品概要	四隅及び蓋甲面に面取りを施す被蓋造の硯箱。蓋表全面を研出蒔絵の石畳模様で満たし、そこへ高上げした牛車のみを描く。蓋裏及び身は梨子地とする。身の中央に下水板を置き、硯と象嵌七宝を施した鳥甲形水滴を具える。		

15 名称	竹雀蒔絵文庫（たけすずめまきえぶんこ）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1合
時　代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸 法 等	高8.0cm 縦37.8cm 横35.6cm
作品概要	蓋に削面をとる方形の印籠蓋造で、前後の側面に蓋と身を繋ぐ鉄製金具を付す。総体漆塗とし、底部を除く全面に金薄肉高蒔絵に青金による付描を併用し、三本の竹とそこへ飛来する雀を描く。身内面は漆塗無文、蓋裏には十羽の雀が飛び回る様が同様に薄肉高蒔絵で表される。文様配置は一方の短側面を起点として蓋表及び両長側面へと連続し、また四側面が横方向に連続する。		

16 名称	燕子花蒔絵箱（かきつばたまきえはこ）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1合
時　代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	高14.5cm 縦42.3cm 横17.6cm
作品概要	印籠蓋造の長方箱。底面を除く全面に平蒔絵を主体に燕子花を描く。随所に針描と絵梨子地を交え、また一部の花は螺鈿で表されていたと見られる。螺鈿は下地ではなく漆地に貼り付けているため、器面から突出させていたが、現状では全て脱落している。文様配置は一方の短側面を起点として蓋表及び両長側面、もう一方の短側面へと連続するもので、光琳蒔絵をはじめ江戸時代中期の漆工意匠に類例を見ることができる。		

＜染織＞(1件)

17　名称	有職雛飾り（ゆうそくひなかざり）	品　質	人形：絹・木・胡粉ほか 道具：木製、黒漆塗・蒔絵ほか
作 者 等	5世　大木平蔵作	員　数	1式
時　代	昭和5年（1930）	寸 法 等	男雛本体 高39.5cm ； 女雛本体 高27.0cm
作品概要	昭和5年（1930）、髙島屋創業者一族である飯田賢雄の長女、京子の初節句に伴って誂えられた雛飾りの一式。京都を代表する人形師であり、皇室はもとより各宮家をはじめ、財閥などに雛飾りを納めた丸屋大木平蔵製の作品である。有職故実を踏まえた装束の出来栄えなどは見事であり、昭和初期の高い製作技術を伝えるものとして貴重。昭和5年は5世大木平蔵（1885～1941）の時代であり、人形の頭は12世面庄が手掛けている。		

＜考古＞(3件)

18　名称	鞆形埴輪残欠（ともがたはにわざんけつ）	品　質	土製
作 者 等	伝群馬県高崎市八幡原町出土	員　数	1個
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	現存高23.1cm 幅(長軸)16.3cm 幅(短軸)11.6cm
作品概要	鞆と呼ばれる武具を象った器財埴輪。鞆とは巴形をした袋状の革製品で、矢を射る際に弓をもつ手首に装着し、弓の弦が手首にあたることを防ぐために用いるもの。他の武具を象った器財埴輪と同様に、亡き王の武威を象徴するため、もしくは亡き王が葬られた古墳を守るために作られたと考えられている。 本例は円筒状の台部に鞆部が載る形をなし、部位界に突帯を一条巡らせる。円筒部は輪積みで、鞆部は手捏ねで形作られる。鞆部は直弧文が崩れた幾何学文を線刻で描く。		

19　名称	前漢鏡残片（ぜんかんきょうざんぺん）	品　質	青銅製
作 者 等	福岡県春日市岡本町　須玖岡本遺跡Ｄ地点出土	員　数	3個
時　代	弥生時代(中期)・前2～前1世紀 〔中国製・前2～前1世紀〕	寸 法 等	最大長6.65cm
作品概要	須玖岡本遺跡D地点出土鏡は大きさから直径15～18cmを中型鏡とし、それより大きい大型鏡と小さい小型鏡に分けて把握されている。出土鏡の構成は、直径23cm前後の大型鏡が3面、中型鏡14ないし15面、小型鏡9面となり、これに直径不明の2面を合わせて29面からなる。 枝番1は大型鏡に相当する。面径が約23cmに及ぶ大型方格式草葉文鏡で、中山靖王劉勝(前113没)の墓である満城漢墓1号墓出土の大型方格式草葉文鏡よりも大きく、中国では王侯が所有する鏡に匹敵する。枝番号2・3は中型鏡に相当する。銘文が主な文様となる銘帯鏡で、銘文中の文字をとって「精白鏡」や「昭明鏡」などとも呼ばれるが、枝番2・3は「精白鏡」に相当すると考えられる。前者は前2世紀、後者は前1世紀前葉から中葉に位置づけられている。		

20　名称	武器形青銅器残片（ぶきがたせいどうきざんぺん）	品　質	青銅製
作 者 等		員　数	2個
時　代	弥生時代(中期)・前2～前1世紀	寸 法 等	最大長6.7cm
作品概要	弥生時代の武器形青銅器の残片である。当該期の青銅製武器は、当初実用的な武器であったが、次第に非実用的な祭器へと変化するため、武器形青銅器の総称が用いられる。本例は、分厚く鋭利な刃部をもつといった実用的性格を残す中細形銅剣ないし銅矛に該当する。 残片は2点で、銅剣または銅矛の身部（刃部）破片と銅矛の袋部（着柄部）の破片である。銅剣は短い柄を着装し、銅矛は中空の袋部に長柄を着装し用いる。また、これらの武器形青銅器は、しばしば首長の墓に棺内副葬されることから、武威を表す重要な器物であったことがうかがえる。		

＜東洋絵画＞(4件)

21　名称	桃李園図軸（とうりえんずじく）	品　質	絹本着色
作 者 等	仇英（生没年不詳）款	員　数	1幅
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦123.0cm 横66.7cm
作品概要	掛軸装、牙軸。 李白（701～762）「春夜宴桃李園序」を題材に、春の夜、満開の桃の下で、酒を楽しみながら詩作にふける高士たちを描く。同主題の仇英作品として、「金谷園・桃李園図軸」（京都・知恩院蔵、2幅、重要文化財）が知られる。本品の図像の大略は知恩院本と一致する。知恩院本の図像に倣った「桃李園図」は複数現存しており、本品もその一つ。本図の仇英の落款は偽款で、実際には17世紀に蘇州の偽画工房で作られたいわゆる蘇州片と考えられる。明時代、17世紀の著名な収蔵家、項元汴の鑑蔵印を有するが、いずれも偽印。		

22　名称	児女嬉戯図軸（じじょきぎずじく）	品　質	絹本着色
作 者 等		員　数	1幅
時　代	明時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦89.1cm 横46.8cm
作品概要	掛軸装。牙軸。 桃の咲く春の庭園を舞台に、取っ組み合いのけんかをする童子たちを描く。四季4幅対の1幅である可能性もある。無款だが、宋代絵画を学んだ明代宮廷画家の様式に属す。細部描写の精度から明時代末期、17世紀頃の作と考えられる。		

23　名称	猿猴図軸（えんこうずじく）	品　質	絹本着色
作 者 等		員　数	1幅
時　代	朝鮮時代・16～17世紀	寸 法 等	本紙 縦42.3cm 横64.6cm
作品概要	掛幅装、牙軸。図像の上下左右が不自然に切れ詰められていることから、大画面の一部であったと推測される。 松の下の岩に座る親子の猿を描く。子どもの猿は腕を下に伸ばしており、猿猴捉月の主題を表わしていた可能性がある。画中の「敬緘」は作者印とは読みがたく、筆者不詳。岩石・樹木の描法と、比較的粗い画絹をかんがみ、明代宮廷絵画様式を学んだ16～17世紀朝鮮画家による作品と考える。		

24　名称	青緑山水図軸（せいりょくさんすいずじく）	品　質	絹本着色
作 者 等		員　数	1幅
時　代	明時代・16～17世紀	寸 法 等	本紙 縦115.0cm 横52.6cm
作品概要	掛軸装、牙軸。 山中の渓流を渡る騎馬の高士たちを描く。無落款（右下切除の跡あり）だが、元時代の趙孟頫（1254～1322）や盛懋を意識した濃彩の青緑山水描写、楼閣や人物の描法から、倣古山水の流行した明時代後期、16～17世紀の江南地方の画家によるものと推測される。明時代後期の倣古山水の一例として重要である。		

＜東洋陶磁＞(30件)

25　名称	中近東陶器（ちゅうきんとうとうき）	品　　質	
作 者 等		員　　数	30口
時　　代	9世紀～20世紀前半	寸 法 等	
作品概要	「イスラーム陶器」と呼ばれる施釉陶器のコレクションで、イラン北西部とエジプトで製作された器が中心をなす。中近東の中世から現代にかけての陶器の特徴（胎土の調整、器形、装飾技法など）が概観できる資料群となっている。中でも、ラスター彩陶器として知られる一群は保存状態が極めてよく、美術品としての価値も高い。		

＜東洋考古＞(27件)

26　名称	バローチスタンの彩文土器（ばろーちすたんのさいもんどき	品　　質	土器
作 者 等	パキスタン、バローチスタン出土	員　　数	24口
時　　代	前4000年～前2000年頃	寸 法 等	
作品概要	パキスタン西部のバローチスタン地方で出土した先史時代の彩文土器。鉢、杯、壺といった器種がみられ、特徴的な幾何学文のほかに、動物（ヤギ、ライオン、ヒョウ、コブウシ）、魚、樹木などの具象文が描かれる。 バローチスタン地方に広がる高原や谷筋は、イラン高原とインダス平原とを結ぶ交通路となっており、同地域で出土した彩文土器は、東西の文化的接触を示す資料となっている。		

27　名称	白色化粧土鉢（はくしょくけしょうどばち）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	後期青銅器時代・前1500～前1200年頃	寸 法 等	長さ7.0cm ； 把手 器高14.0cm
作品概要	本資料は、キプロスの後期青銅器時代を代表する工芸品である「ホワイト・スリップ・ウェア」と呼ばれるグループの土器に属するもので、白色化粧土と黒色の彩文が特徴である。回転台を用いずに手びねりで成形された鉢で、鳥の叉骨のような把手がとりつく。		

28　名称	彩文水差（さいもんみずさし）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中期青銅器時代・前2000～前1600年頃	寸 法 等	器高15.5cm 幅10.6cm
作品概要	キプロスの中期青銅器時代に特徴的な器形の水差で、三角形のモチーフが連なる文様が描かれている。底部には小さな足が三本取りつけられている。		

29　名称	彩文水差（さいもんみずさし）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鉄器時代・前10～前9世紀	寸 法 等	器高16.1cm 幅11.1cm
作品概要	やや小ぶりの水差で、胴部を水平方向にめぐる圏線、同心円などが描かれている。肩部と口縁部をつなぐ把手が設けられ、口縁部を左右からつまむようにして注口を作り出している。古代より交易の拠点として繁栄したキプロスでは、ワインやオイルなどの商品の容器となる特徴的な彩文土器が製作された。		

（３）編入（42件）

＜刀剣＞(2件)、＜陶磁＞(1件)、＜東洋陶磁＞(2件)、＜漆工＞(5件)、＜染織＞(22件)、＜東洋染織＞(2件)、＜東洋民族＞(4件)

1　名称	馬面　ほか（ばめん　ほか）	員　　数	38件
作品概要	過去に列品として登録されていたが、種々の事由により台帳から削除された作品のうち、2年度から3年度にかけて行った収蔵品移動に伴う列品情報調査の結果、存在が確認された作品38件。		

＜陶磁＞(3件)

2　名称	青磁輪花杯（せいじりんかはい）	品　　質	青磁
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高2.8cm　口径6.6cm 高台径2.5cm
作品概要	硬質灰色の胎。薄づくり、六輪花形の小さな杯。畳付を除いて総体に青磁釉を掛ける。口縁には金を塗り、覆輪風に表す。重要文化財「青磁輪花茶碗　銘 馬蝗絆」と同寸同形。見込みと底部高台回りに、TG-2354「馬蝗絆」の罅を真似て刻線を入れ、鎹を金彩で再現している。高台内に「道八」銘を刻む。曲直瀬道三、織田有楽所持と伝わる「鎹」（マスプロ美術館）に付属する「馬蝗絆」写しの箱書きの記述内容から、本作品は「馬蝗絆」を所蔵した京角倉家十代当主玄寧（一方堂　1800～73）のもとで、親交のあった京焼陶工の二代高橋道八が焼いたもののの一つと推測される。		

3　名称	青磁輪花茶碗（せいじりんかちゃわん）	品　　質	青磁
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高5.9cm　口径15.0cm 高台径5.3cm
作品概要	灰茶色の胎に、草緑色を帯びた釉が底部畳付きを除いて総体に掛かる。TG-2354「青磁輪花茶碗　銘 馬蝗絆」を写した六輪花形の碗で、内外の罅は刻線で表し、6つの鉄製の鎹を打つ。素地はやや厚く、見込みに浅く茶溜りを設ける。轆轤挽きの痕が外側に粗く残る。釉にはムラがあり、高台内には釉が掛からずに茶色く焼けた胎がのぞいている。高台内に「御物写」と文字が刻まれている。他の2点に同じく、京焼の陶工、二代高橋道八（仁阿弥道八　1783～1855）の作と考えられる。		

4　名称	青磁輪花茶碗（せいじりんかちゃわん）	品　　質	青磁
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高6.5cm　口径15.3cm 高台径5.2cm
作品概要	灰茶色の胎に、失透気味の薄い草緑色の青磁釉が底部畳付きを除いて総体に掛かる。TG-2354「青磁輪花茶碗　銘 馬蝗絆」を写した六輪花形の碗で、罅は刻線で表し、6つの鉄製の鎹を打つ。素地はやや厚く、見込み中央にくっきりと茶溜りを設ける。釉の表面には貫入と呼ばれる罅に加え、氷裂と呼ばれる細かい罅が覆うようにみられる。他の2点に同じく、京焼の陶工、二代高橋道八（仁阿弥道八1783～1855）の作と考えられる。		

＜考古＞(1件)

5　名称	武人埴輪模型（ぶじんはにわもけい）	品　　質	土製
作 者 等	吉田白嶺（1872～1942）作	員　　数	3個
時　　代	大正元年（1912）	寸 法 等	右手に矛 総高91.0cm 底径25.8cm ； 左手に弓 総高90.5cm 底径25.8cm ； 右手に弓 総高90.0cm 底径25.2cm
作品概要	本作は明治天皇の崩御に伴って伏見桃山陵に奉安された埴輪「神将」の同型品である。埴輪「神将」は、宮内省から帝室博物館歴史部(三宅米吉・高橋健自・関保之助・和田千吉)が委嘱を受け、服装などについては関、埴輪配列などについては高橋・和田が監修し、制作は当館から依頼を受けた吉田白嶺によって弓を持つ埴輪「神将」2体、矛を採る埴輪「神将」2体の合計4体作られたものである。群馬県太田市世良田町出土の武人埴輪を基本とし、太刀は三重県伊勢市神宮徴古館や滋賀県長浜市都久夫須麻神社、兜の鍬形は長野市清水寺や奈良市興福寺旧蔵品、甲冑のうち冠板は山梨県甲州市菅田天神社、栴檀板や鳩尾板は愛媛県今治市大山祇神社、着物や沓は将軍塚絵巻や信貴山縁起絵巻を参考にして作られている。 胎土は常滑・今戸産で、成形は型作り。型で分割して作られた頭・胴・脚・腕・円筒部を継ぎ、これに太刀・弓・矢など付属品を貼り付けて全形を整えている。		

【京都国立博物館】(計129件)

（１）購入（12件）

＜絵画＞（3件）

1　名称	重要美術品　北野本地絵巻断簡 （きたのほんじえまきだんかん）	品　　質	（1巻）紙本墨書 （1幅）紙本白描
作 者 等		員　　数	1巻・1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	（1巻）縦28.3cm　横42.2cm　総長（見返・軸付含む）91.4cm （1幅）縦28.4cm　横100.7cm
作品概要	北野天神縁起絵巻の断簡。もと三巻本の巻下にあたると考えられる一巻（詞・絵各十段）が伝来し、重要美術品に指定されていたが、戦後に分割され、現在では海外を含む各所で所蔵されている。そのうち、本作品は冒頭に位置していた詞書（巻子装）と、絵（掛軸装）にあたる。詞書の内容は、天慶五年（九四二）賤女の綾子に天神が右近馬場に社を造るよう告げたいわゆる「綾子託宣」と、天慶九年（九四六）に近江国の神官・神良種の子である太郎丸に天神が右近馬場に松を植え法華三昧堂を建立するよう命じた「太郎丸託宣」。詞書の冒頭に「北野本地」という内題が記されており、作品名はこれによる。絵は「太郎丸託宣」の部分で、画面右に僧侶と俗人男性が太郎丸から託宣を受ける場面を配し、中央に松の群生する右近馬場の埒（柵）を描く。なお、分割前は錯簡によって「綾子託宣」の絵がこの後に続いて配置されていた。絵は白描で、二紙分の横長の画面にたいへん伸びやかな墨線で広々とした景観を表し、人物や花・葉など細部も的確な画技をみせる。こうした白描の高い完成度や、片仮名書きの詞書の書風から、十三世紀後半～末期の作と考えられる。 北野天満宮のある京都に位置する当館だが、北野天神縁起の所蔵品はない。鎌倉時代の北野天神縁起絵巻の重要作例として調査研究への活用のほか、社寺縁起や白描の特集展示に役立つことが期待される。また、前述したとおり他の断簡は海外に流出しているものもあり、同様の事態を防ぐ意味でも早期に購入すべき作品だと考える。なお、現状一巻と一幅は別々の二重箱に納められているが、巻子の内箱や表装は分割前のものを引き継いでいるとみられ、その点でも重要である。上田堪庵旧蔵。掛幅の箱書は安田靫彦による。巻子の箱書によれば伝藤原為家筆。		

2　名称	重要美術品　住吉真景図巻（すみよししんけいずかん）	品　　質	紙本著色
作 者 等	岡田半江筆	員　　数	2巻
時　　代	江戸時代　天保12年（1841）	寸 法 等	上巻 24.0×782.7cm、下巻 24.0×720.5cm
作品概要	岡田半江（1782～1846）は、江戸時代後期に大坂で活動した南画家。上野理一旧蔵品として早くから知られる本作は、住吉社の境内とそこに生えるクスノキなどの樹木を、巻子二巻にわたり描き連ねた作品である。巻頭に見える参道の賑わいに続き、太鼓橋を経て第三本宮・第一本宮、さらに正印殿・神宮寺・大海神社などの建物が描かれ、神域を彩る新緑の木々がリズミカルな筆のタッチとみずみずしい色彩によって表現されている。父に学びながらも、米山人とは異なる繊細な筆遣いと清澄な色彩感覚が特徴で、印象派を思わせるような光や大気の表現が魅力的な作品である。半江晩年の代表的作品であり、江戸時代の真景図としても屈指の名品と言える。 同年の作に重文「春靄起鴉図」（遠山記念館蔵）がある。本作はこれと双璧をなす半江の代表作であり、江戸時代後期の南画の魅力と重要性を雄弁に物語る作品である。京都に所在する博物館として、大坂を含む関西の南画に目配りすることは重要な責務だが、当館にはこの分野の作品がほとんど収蔵されていない。その欠を埋めることは勿論、当館館蔵品を代表する一点となることは疑いなく、今後の展示活用も大いに見込まれる。		

3　名称	吉野・龍田図屏風（よしの・たったずびょうぶ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	英一蝶筆	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	各148.4×352.2cm
作品概要	英一蝶（1652～1724）は、江戸時代中期に江戸で活躍した狩野派画家。本作は、古来歌枕として名高い奈良の吉野と龍田を、春秋に描き分けた屏風である。それぞれ、金峯山寺蔵王堂と龍田大社を中心としながら周辺の名所旧跡を数多く描き込み、さらに参詣に訪れた人々や周辺住民の日常生活をも含み込んだ豊かな絵画世界が展開されている。吉野と龍田は名所絵としてさかんに描かれてきたが、その多くは桜と吉野川・紅葉と龍田川のみをモチーフとする象徴的な風景表現であり、このような豊富な風俗表現を伴う作品は珍しい。 『徳川実紀』には、元禄7年（1694）、桂昌院が本願寺門跡らに「多賀蝶湖筆吉野龍田図屏風」などを贈ったという記事があるが、本作はここに記される屏風に該当する可能性がある。これだけの力作でありながら署名はなく、印章が捺されるのみであるという落款の形式や、この時代としては大きな紙の使用も、特別な制作事情をうかがわせる。現存する一蝶作品のなかでも群を抜いて質の高い作品であり、将来的な展覧会での活用も大いに見込まれる。		

＜金工＞（1件）

4　名称	太刀　銘（菊紋）和泉守来金道／遥奉　鈞命享保庚戌年於京師二柄ヲ打一柄ハ献シ一柄ハ則是也 （たち　めい（きくもん）いずみのかみらいかねみち／ようほう　きんめいきょうほうかのえいぬのとしけいしにおいてふたえをうちひとえはけんじひとえはすなわちこれなり）	品　　質	鉄製　鍛造
作 者 等	和泉守来金道	員　　数	1口
時　　代	江戸時代　享保十五年（1730）	寸 法 等	刃長 76.0cm　反り0.9cm
作品概要	近世の山城鍛冶を代表する三品派・和泉守来金道（五代）の手による太刀。本品は、江戸幕府八代将軍・徳川吉宗（1684～1751）の命により製作された献上刀の影打（予備）である。現在では献上分は失われており本品のみが現存することから、和泉守来金道の業績を証明する上でも非常に重要である。刀身は健全で反りが浅く、刃長は長めだが全体のバランスに優れ、優美な刀姿を呈する。刃文はやや箱がかった互の目が主体で、匂口は締まって冴えがある。総じて江戸時代の三品派の典型的な作行を示しており、五代目・和泉守来金道の代表作と言って過言ではない。		

＜陶磁＞（1件）

5　名称	褐釉撫四方茶入　野々村仁清作 （かつゆうなでよほうちゃいれ　ののむらにんせいさく）	品　　質	施釉陶器
作 者 等	野々村仁清作	員　　数	1口
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	高9.7cm　口径3.2cm　胴径4.4cm　底径3.0cm
作品概要	野々村仁清は、巧みな轆轤の技術を活かし、茶入、茶壺、水指、茶碗、香炉、香合など、茶道具を中心とした洒落た作品を数多く作り出した京焼の陶工である。仁清は、錆絵、染付を施したものや鮮やかな色彩の上絵付けを施した色絵陶器なども知られており、茶壺をはじめとして、蒔絵の技法や狩野派や土佐派の画風取り入れ、金銀彩を用いた優美な作風で知られている。 本作は轆轤で円筒形に挽いた後、胴部の四方を押さえて成形し、各面を面取りして仕上げた茶入である。室町時代後期から江戸前期頃までの茶会記を記した『松屋会記』の慶安元年（正保5年・1648）3月25日条、金森宗和の茶会で用いられた茶入について次のような記載がある。「宗和切形トテ、トウ四方也、シマノ袋[茶弁當ニ入レル為ト云ヘリ、仁和寺やきと也、]」とあり、「宗和切形」つまり宗和の見本に基づいて御室焼の「トウ四方」茶入が作られたことがわかる。本作のような四方茶入などから、「トウ四方」は胴四方のことと考えられ、宗和が茶会で用いた茶入が本作のような形状のものと推測される。 宗和は、仁清が知遇を受けて様々と指導を受けていた人物で、その優美な茶風は公家たちにも好まれていたのであり、本作の独創的な器形は江戸時代前期の好みや茶風を知る上でも極めて重要な作品といえる。京焼における技法を考える上でも重要な作品であり、当館の館蔵品としてふさわしい逸品である。 当館は京都の地に所在しており、御室焼を含めた京焼の研究を進め、そうした成果を展示等にも活かしていくことが必要である。そうした点からも本作は欠かすことのできない作品であり、京焼の基準的な作品ともいえる本作を所蔵し、展示、研究に広く活用していきたい。		

＜漆工＞（1件）

6　名称	木彫交椅（きぼりこうき）	品　　質	木彫　ニス塗り　ベルベット
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	17世紀	寸 法 等	幅36.5cm　奥行45.2cm　高73.8cm
作品概要	1640年前後のオランダで作られた折りたたみ式の椅子。当時のオランダで高級輸入品であったインドや東南アジアの黒檀で作られた家具を模し、樫材を彫刻してニスを塗っている。座面にはイタリア様式の紅色のベルベットを張る。背もたれには挽物製の壺形のパーツを囲むアーチの連続文の上に、前面では頭蓋骨を両脇から挟む二名の天使、背面では三輪の菊のような花をつけた枝、脚部には海獣や唐草などを彫り出し、地となる部分には魚々子地のようなドットを彫っている。天使やメメント・モーリを示す頭蓋骨などは、キリスト教に関連するデザインである。17世紀初頭の教会には常設のベンチがなく、裕福な人々は使用人にこうした椅子を持たせて参集したといい、そのようすを描写した水彩画も残されている。本品がオランダのディーラーの倉庫にあるあいだに実見した上で意見をくれたオランダ家具史研究の第一人者（Reinier Baarsen氏）によれば、このやや拙い彫刻は、アジアの彫刻を模して17世紀のオランダで作られた木彫家具のグループに属するらしく、なかでも頭蓋骨の表現は珍しいとのことである。 当館は、この形の交椅に黒漆を塗り日本製の蒔絵と螺鈿で装飾した特注の輸出漆器を所蔵している。1630年代から40年代にかけて、バタヴィアで暮らしたオランダ東インド会社の上級の商人たちは、平戸や出島の商館を通じて、日本製の高度な蒔絵で器物を装飾する特別注文の術を心得ていた。大型の櫃や小型の裁縫道具入れ、御虎子までもが金銀の美しい草花や楼閣山水図で彩られた。本品のような挽物の連続文で飾った「スペイン風」椅子は17世紀前半のオランダで大流行したものだが、蒔絵で飾られた例は当館の所蔵品のみである。その折りたたみ式の椅子を展示するにあたり、同型のヨーロッパ製の椅子と隣あわせで並べることで、西洋人の好みに合わせて注文通りの器物を日本で蒔絵し、納品したことが、一目瞭然となる。そのような展示効果の向上が期待されるうえ、価格も安いため、この機会を逃さず入手したいと考えている。		

＜染織＞（6件）

7　名称	白平絹地銀胴箔に草花描絵団扇形散らし文様摺箔 （しろへいけんじぎんどうはくにそうかかきえだんせんがたちらしもんようすりはく）	品　　質	絹（平絹地・箔・描絵）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代　19世紀	寸 法 等	丈144.0cm　裄67.0cm
作品概要	摺箔とは、能装束のうち、女役が内着として着用する装束である。そのため、壺折と呼ばれる特殊な着装法をのぞき、着装時には襟回りから僅かにのぞく程度となる。表着ではないため過度に装飾されることは少なく、型紙を用いて糊を置き、金箔または銀箔を貼り付けた繰り返し文様とする作例が一般的である。しかしながらこの摺箔は、団扇形を残して地に銀を摺り詰め、七十以上にも及ぶ団扇形の中に墨絵と彩色絵を取り交ぜて四季折々の草花や蔬菜を描いた団扇絵散らしの趣向をとる。団扇絵の中には似通った図様も見受けられるが、周到に布置されているため、それとは気付かない。摺箔には類例のない極めて凝った一領である。 このような摺箔を誂えることができるのは審美眼が高く財力をもった家と察せられるが、それを証するように、附属する独特の畳紙と貼紙から、本作は加賀藩前田家に伝来したことが判明する。前田家伝来能装束は、野村美術館や大倉記念館など各所に分蔵されており、製作年代や着用にふさわしい演目など様々な文字情報を記す畳紙が附属することで重要視されている。この摺箔にも「姥捨其外老女もの着付／求塚の坪折　隅田川着付など」との墨書があり、老女役の着付などに着装されたことがうかがわれる。		

8　名称	紅絹縮地伊達紋繍小袖 （べにきぬちぢみじだてもんぬいこそで）	品　　質	絹（絹縮地・刺繍）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	丈155.0cm（総丈160.0cm）　裄62.0cm（総裄63.0cm）
作品概要	伊達紋とは、家紋とは異なり、花鳥や器物など好みのモティーフで構成された洒落紋のことである。大ぶりな桜の伊達紋を刺繍した「斜格子菊青海波文様振袖」（京都丸紅株式会社蔵　享保15年＜1730＞寄進銘）が最初期の作例として知られ、このほかの作例も、「格子に幟旗文様小袖」（松坂屋コレクション）など、いずれも18世紀の製作にかかると考えられる。さらに18世紀には、『袖鏡』（明和六年＜1769＞刊）のように伊達紋ばかりを集めた雛形が発刊されており、伊達紋を入れた小袖は18世紀に流行したと考えて良いだろう。本作は、縦方向にしぼが現れる絹縮と呼ばれる生地を紅染めにし、五つ紋の位置に御簾と梅を組み合わせた伊達紋を、的確な繍技で表現した一領で、裏地は紅平絹である。 なお、本作は染織品を扱う古美術商として活躍し、自らも蒐集研究をしたことで名高い野村正治郎の旧蔵品で、野村が覚書を記した畳紙が附属する。その記述によれば、本作は昭和六年六月に日本橋三越で開催された西鶴記念展覧会の出品作である。		

9　名称	白繻子地文字入花折枝文様繻帯 （しろしゅすじもじいりはなおりえだもんようぬいおび）	品　　質	絹（繻子地・刺繍）
作 者 等		員　　数	1筋
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	長335.0cm　幅16.5cm（総幅36.5cm）
作品概要	現在は仕立てを解かれた状態となっているが、本来は芯を入れて二つ折りにし、周囲を縫い閉じた帯であった。白繻子地に金糸と紫絹糸を交互に置いて、右から「音　羽　山　遅　桜　春　夏　相　坂　関」の文字が繍い取られる。これらの文字から、この帯は「音羽山卯花かきにおそ桜　春と夏とやあふ坂の関」（『広本拾玉集』）の一首に取材しており、文字の下に繍い取られる花折枝は、文字では示されない卯の花と推測できる。 結び締めることで劣化が進む帯は、着物に比して現存作例が極めて少ない。現存遺品からも肖像画からも、桃山時代から江戸時代にかけて帯幅は次第に広がる傾向が指摘できるが、この帯は仕立て幅16.5cmと古様を示しており、18世紀の作例の可能性が高い。		

10　名称	紺縮緬地海老文様友禅染掛袱紗 （こんちりめんじえびもんようゆうぜんぞめかけふくさ）	品　　質	絹（縮緬地・友禅染）
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸時代　19世紀	寸 法 等	縦59.0cm（総縦60.0cm）　横57.0cm（総横58.0cm）
作品概要	京都の旧家に調査に訪れると、婚礼衣裳や祝着とともに、掛袱紗を目にすることが多い。現代ではほぼ使用の機会を失ってしまったが、かつては慶弔いずれにおいても、進物は広蓋に納め袱紗を掛けて届けるのが作法であった。このように儀礼の場に用いる掛袱紗は、格式が求められる品であったため、格の高い技法である綴織や刺繍の作例が多い。しかし、江戸時代後期になると、吉祥文様をあらわした友禅染の品も相当数製作されるようになった。本作も、正月の縁起物である伊勢海老を上下二段に配している。裏地は紅平絹で、四隅のうちの二筋が残る紅と紺の絹糸房も当初のものであろう。		

11　名称	淡黄綸子地文字入松竹梅文箱文様繍掛袱紗 （うすきりんずじもじいりしょうちくばいふばこもんようぬいかけふくさ）	品　　質	絹（綸子地・刺繍）
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	縦63.5cm　横61.0cm
作品概要	夫婦和合を寿ぐ能曲「高砂」の二文字が繍い取られていることから、婚礼の進物に添えた掛袱紗だろう。花菱亀甲と宝尽文様を織り出した淡黄色の綸子地を用い、全体に松竹梅の折枝を、中央に登龍門文様の文箱を配し、「高」「砂」の二文字とともに、すべて刺繍で表現する。紅平絹の裏地は後補。刺繍掛袱紗としては、徳川綱吉が側室の瑞春院（お伝の方　1658～1738）に贈った進物に添えたという三十一枚（重要文化財　興福院蔵）が著名だが、これはその伝統を受け継ぐものの、文様が小ぶりで充填密度が低いことから、やや時代の下る18世紀半ばの作例と考えられよう。富裕な町方においても刺繍掛袱紗は用いられたが、その図様は鶴亀・貝桶・猩々など類型的である。本作のように、文箱に大ぶりの文字を入れる品は珍しく、高位の人物の特注品とみなされる。		

12　名称	紫絽地花鳥虫籠文様繍振袖 （むらさきろじかちょうむしかごもんようぬいふりそで）	品　　質	絹（絽地・刺繍）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	丈134.0cm　裄52.5cm　袖丈76.0cm
作品概要	京都国立博物館では、田村伎都子氏からの166点もの寄贈品を中心に、子どものきものが収蔵品の核のひとつとなっている。このたび購入した振袖は、田村伎都子コレクションでは作例の少ない公家女子の衣裳である。 中裁の単衣振袖で、鮮やかな紫縮緬地を背景に、上半身には夾竹桃に雀を、下半身には秋草に虫籠をすべて刺繍であらわしている。このような刺繍のみで文様を表現する小袖は、公家では御繍御召と呼ばれ、儀礼に着用する品とされる。生地の紫、刺繍糸の赤といった鮮やかな色彩は化学染料によるもので、明治時代には上流階級に好んで用いられた。 「花笠文様振袖」（I甲716）「破亀甲鶴梅折枝文様振袖」（I甲757）「縞に菊折枝文様振袖」（I甲758）と同じ伝来で、明治天皇の内親王所用と伝える。明治時代から戦前にかけて、旧華族制度の中で着用された公家小袖は、洋装の浸透と時を同じくしていることもあって洋装との使い分けなど詳細は明らかになっていない。宮廷文化に関わる作品は、京都に所在する当館の要であり、研究や展示のためにもぜひ収蔵品に加えるべき作例であると考え購入した。		

（２）寄贈（117件）

＜絵画＞（100件）

1　名称	吉野川操筏図（よしのがわそうばつず）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	赤松雲嶺筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和8年（1933）	寸 法 等	211.0×111.0cm
作品概要	赤松雲嶺（1892～1958）は大阪市生まれ。小山雲泉・姫島竹外に師事。大正4年文展で「渓山清趣」が初入選、以後帝展・新文展・日展などで活躍。また12年日本南画院同人となり、画塾墨雲社を主宰した。1933年の第12回日本南画院展出品作。		

2　名称	道成寺（どうじょうじ）	品　　質	絹本着色
作 者 等	織田観潮筆	員　　数	6曲1双
時　　代	明治～昭和時代　20世紀	寸 法 等	各171.5×345.0cm
作品概要	織田観潮（1889～1961）は東京生まれ。尾竹国観に師事し、帝展・文展等に出品。歴史画、特に物語の世界を得意とした。本作は、道成寺に伝わる安珍・清姫伝説を主題とする。		

3　名称	夕顔（ゆうがお）	品　　質	絹本著色
作 者 等	浅見松江筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正時代　20世紀	寸 法 等	各177.7×375.6cm
作品概要	浅見松江（1886～1969）は東京生まれ。上村松園・寺崎広業・松岡映丘に師事。大和絵調の歴史・人物画を得意とし、現代女性像も多く描いた。帝展に入選多数。文展でも活躍した。本作は、『源氏物語』第4帖「夕顔」、源氏が夕顔の花を手折らせた際、邸内にいた童女が扇にのせて差し上げるよう随身に差し出している様子を描く。室内には、夕顔らの姿が見える。有職故実に通じた松岡映丘に学んだ松江らしい装束の描写などに見所がある。目黒雅叙園旧蔵。		

4　名称	女歌舞伎（おんなかぶき）	品　　質	絹本著色
作 者 等	浅見松江筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和2年（1927）	寸 法 等	115.5×150.6cm
作品概要	1927年の第8回帝展出品作。出雲の阿国によって創始されたかぶき踊りを模倣した女歌舞伎を描く。かぶき者の姿や衣装の表現には、当館所蔵の「阿国歌舞伎図屏風」や狩野長信筆「花下遊楽図屏風」（東京国立博物館蔵）などのいわゆる初期風俗画を参照した様子がうかがえ、特に館蔵品との関連性が認められる点でも意義深い作品と言える。		

5　名称	細川ガラシャ（ほそかわがらしゃ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	浅見松江筆	員　　数	1面
時　　代	昭和5年（1930）	寸 法 等	215.0×114.0cm
作品概要	1930年の第11回帝展出品作。目黒雅叙園旧蔵。明智光秀の娘で細川忠興に嫁いだ玉（玉子）、洗礼名ガラシャを描く。ガラシャがキリシタンであったことは現在では周知の事実だが、そのことが日本で広く認知され、ガラシャがキリシタンの姿で描かれるようになったのは丁度この頃からのことだったとされる。その意味では、教会らしき場所で祈りを捧げる姿でガラシャを描く本作は、近代における歴史上の人物イメージの生成過程という観点からも重要な作品であると言える。		

6　名称	琴（こと）	品　　質	絹本著色
作 者 等	浅見松江筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和7年（1932）	寸 法 等	165.5×166.8cm
作品概要	1932年の第13回帝展出品作。琴の稽古をする妹を見守る姉を描く。着物の柄、色彩が見事である。		

7　名称	龍宮玉の井（りゅうぐうたまのい）	品　　質	絹本著色
作 者 等	生田花朝筆	員　　数	1面
時　　代	大正13年（1924）	寸 法 等	145.0×53.0cm
作品概要	生田花朝（1889～1978）は大阪生まれ。菅楯彦・北野恒富らに師事、大和絵・風俗人物画などを学ぶ。『古事記』『日本書紀』に見える山幸彦の伝説に取材した作品。海幸彦から借りた釣り針を亡くした山幸彦は、海神の宮門前の井戸（玉の井）に水を汲みに来た海神の娘豊玉姫と出会う。本作はその時の豊玉姫の姿を描いたもの。花朝のやまと絵研究、美人画研究の成果を示す作品として重要である。1924年の第3回白耀社展出品作。		

8　名称	踊子（おどりこ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	井口華秋筆	員　　数	2曲1双
時　　代	大正15年（1926）	寸 法 等	各164.5×183.4cm
作品概要	井口華秋（1880～1930）は京都生まれ。竹内栖鳳に学び、西山翠嶂・西村五雲とならんで栖鳳塾の三羽烏とうたわれた。1926年の第6回日本自由画壇展出品作。トンボと蝶の羽をつけた踊り子の姿は当時よく見られたものらしく、同時代の高畠華宵の作品にもよく似た踊り子の姿が描かれている。ハリウッドで映画出演を果たした女優砂田駒子がモデルとされる。着物美人が主流だった当時の日本画としては異色のモダンガールを描いた作品で、当時から46歳の中堅画家による「若返りの勇気」という皮肉とも賞賛とも取れる評を得た話題作であった。		

9　名称	春秋（しゅんじゅう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	菊池華秋筆	員　　数	6曲1双
時　　代	昭和7、8年（1932、33）頃	寸 法 等	各200.5×416.0cm
作品概要	菊池華秋（1889～1946）は山形県生まれ。初め黒木華郷、のちに川合玉堂に師事。文展・帝展で入選を重ねる。池田輝方と親交があった。大正時代末から昭和戦前期は、近世初期風俗画に対して大きな注目が集まった時期だったが、本作もそうした画壇の潮流を背景に、春秋の花を愛でる江戸時代風の女性の姿を描いている。目黒雅叙園旧蔵。		

10　名称	花見（はなみ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	池田輝方筆	員　　数	6曲1隻
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	162.0×368.0cm
作品概要	池田輝方（1883～1921）は東京の生まれ。水野年方・川合玉堂に学び、美人画・風俗画を得意とした。花見を楽しむ女性の一行を描く。旧福富太郎コレクションで、『日本屏風絵集成　第17巻』（講談社）所収。		

11　名称	伝説当麻曼荼羅之図（でんせつたいままんだたのず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	池田龍甫筆	員　　数	1幅
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	240.5×167.5cm
作品概要	池田龍甫（1885～1974）は盛岡の生まれ。上京して寺崎広業に師事。東京美術学校在学中に文展初入選を果たし、以後文展・帝展に出品を重ねる。戦後は岩手で後進の育成に尽力した。1930年の第11回帝展出品作。蓮の糸を用いて当麻曼荼羅を一晩で織り上げたという中将姫伝説を主題とする。		

12　名称	孔雀（くじゃく）	品　　質	絹本著色
作 者 等	池田洛中筆	員　　数	2曲1双
時　　代	昭和12年（1937）	寸 法 等	各167.7×179.2cm
作品概要	池田洛中（1903～82）は京都の生まれ。京都市立絵画専門学校で学んだのち、堂本印象・川端龍子に学ぶ。風景・花鳥画を得意とし、1936年龍子の青龍社社人に推挙、青龍社解散後は個展を中心に活動した。1937年の第2回京都市美術展覧会出品作。		

13　名称	女と三味線（おんなとしゃみせん）	品　　質	紙本著色
作 者 等	磯田長秋筆	員　　数	1面
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	159.2×74.5cm
作品概要	磯田長秋（1880～1947）は東京生まれ。小堀鞆音に師事。明治31年、安田靫彦らと紫紅会(のちの紅児会)を結成。大正4年文展で「住の江」が3等賞。帝展委員。歴史人物画を得意とした。		

14　名称	一途（いちず）	品　　質	紙本著色
作 者 等	北澤映月筆	員　　数	1面
時　　代	昭和54年（1979）	寸 法 等	117.9×97.6cm
作品概要	北澤映月（1907～90）は京都の生まれ。上村松園、土田麦僊に師事。院展を中心に活躍し、昭和16年日本美術院同人となる（女性としては小倉遊亀に続く二人目の同人）。歴史上の女性を多く描き、45年「ねねと茶々」が内閣総理大臣賞を受賞した。1979年の第64回院展出品作。道成寺の安珍・清姫伝説を思わせる女性の姿を描いている。		

15　名称	葉鶏頭（はげいとう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	伝木谷千種筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	168.3×168.0cm
作品概要	木谷千種（1895～1947）は大阪の生まれ。はじめ南画、のち北野恒富、菊池契月に美人画を学び、美人画の女流中堅作家として活躍。画面一杯に鶏頭を描く本作は、美人画を多く手掛けた千種としては珍しい画題であり、印章は千種所用のものと思われるが印付が悪く筆者の確定は保留としたい。		

16　名称	寛永美人之図（かんえいびじんのず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	北野恒富筆	員　　数	1幅
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	128.6×42.3cm
作品概要	北野恒富（1880～1947）は金沢の生まれ。稲野年恒に師事。明治43年文展で「すだく虫」が初入選。大正3年からは院展に出品。同6年日本美術院同人。また大正美術会、大阪美術会を結成。大阪を拠点に独特の美人画を描いた。		

17　名称	美人（読書）（びじん　どくしょ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	伊東成錦筆	員　　数	1幅
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	128.6×42.3cm
作品概要	伊東成錦（1897～？）は、大阪で活躍した島成園に師事した画家。		

18　名称	猛鷲（もうしゅう）	品　　質	紙本著色
作 者 等	木島櫻谷筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（20世紀）	寸 法 等	188.2×46.5cm
作品概要	木島櫻谷（1877～1938）は京都の生まれ。今尾景年に学ぶ。文展で明治40年の第1回から第6回まで連続受賞。大正4年京都市立絵画専門学校(現京都市立芸大)教授をつとめた。背景の木々の描写は、同時代に京都画壇の人気を二分したと言われる竹内栖鳳の作風にも通じる筆触を生かしたもので、対照的に鷲の描写は緻密で櫻谷の写生の成果がうかがわれる。		

19　名称	春の庭（はるのにわ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	井上五朗筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和9年（1934）	寸 法 等	183.0×187.0cm
作品概要	井上五朗（1905～？）は、京都市立絵画専門学校で学ぶ。帝展を中心に出品し京都で活動。京都市展出品作か。		

20　名称	常磐御前之図 （ときわごぜんのず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	上島鳳山筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	116.5×50.7cm
作品概要	上島鳳山（1875～1920）は岡山の生まれ。はじめ円山派の流れを汲む木村貫山に学び、ついで西山完瑛・渡辺祥益に師事。義朝の側室だった常盤が、平治の乱で義朝が謀叛人となり殺害されたのち、三人の子を連れて都を逃れ大和国へ落ちていく姿を描く。円山派の技法を身に付けた鳳山らしい佳品。		

21　名称	建礼門院得度図 （けんれいもんいんとくどず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	植中直斎筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和17年（1942）頃か	寸 法 等	113.3×116.5cm
作品概要	植中直斎（1885～1977）は奈良の生まれ。はじめ大阪で深田直城に、のちに上京して橋本雅邦に師事。また田中智学に日蓮宗の教義を学ぶ。大正2年、山元春挙に入門。文展、帝展などで活躍。仏教画や歴史風俗画を得意とした。昭和5年（1930）の第11回帝展に同画題作（「建礼門院」）を出品しており、本作はその後に制作された別バージョンと見られる。壇ノ浦の戦いで平家が敗れたのち、吉田山近くの坊に入り、長楽寺の僧印西を導師として落飾する建礼門院の姿を描く。		

22　名称	蝶の女達 （ちょうのおんなたち）	品　　質	油彩、キャンバス
作 者 等	斎藤真一筆	員　　数	1面
時　　代	昭和55年（1980）	寸 法 等	97.0×145.5cm
作品概要	斎藤真一（1922～94）は岡山の生まれ。東京美術学校で学んだのち、静岡・岡山で美術教師をしながら制作を行い、36歳でパリに留学。藤田嗣治と親交を深める。瞽女、さらには明治期の遊郭に関心を寄せ、『明治吉原細見記』『絵草子吉原炎上』などを執筆、これらは五社英雄監督の映画「吉原炎上」（1987年）の原作となった。本作は明治の吉原で働く女性たちを描いたもので、暗いトーンの中に9人の女性像が浮かび上がる。斎藤が得意としたモチーフである。1985年に西武美術館ほかで開催された斎藤真一の回顧展（「斎藤真一 明治吉原細見記」展）への出品歴がある。		

23　名称	若衆 （わかしゅう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	北野恒冨筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和55年（1980）	寸 法 等	129.1×36.2cm
作品概要	1918年の現代名家新作画幅展出品作。		

24　名称	夕涼み （ゆうすずみ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	岡田壺中筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	大正11年（1922）頃か	寸 法 等	183.0×187.0cm
作品概要	岡田壺中は、1914年、松本楓湖の門下生で今村紫紅を慕う日本画家たちによって東京で発足した赤曜会のメンバー。同会には、速水御舟、小茂田青樹らも所属。		

25　名称	舞踊図 （ぶようず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	小方華圃筆	員　　数	1幅
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	167.4×95.6cm
作品概要	小方華圃（1880？～1925）は大阪生まれ。はじめ円山派の高谷篁圃に入門、のちに京都で竹内栖鳳に師事する。文展・帝展で入選したほか、大阪美術展覧会などでも活躍。現在知られる華圃作品の中では完成度の高い大作として貴重。		

26　名称	鬼曳宝鈴図下絵 （おにひきほうれいずしたえ）	品　　質	墨･ペン･鉛筆、紙
作 者 等	狩野芳崖筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	23.8×33.5cm
作品概要	本作は、ボストン美術館所蔵の「鬼曳宝鈴図」の図案製作に際して描かれた1点と見られる。これは、ビゲローの依頼による銀の胸飾の図案で、海野勝珉の甥美盛の回想から、この図案に基づく胸飾りの製作は勝珉に依頼されたことがわかる。胸飾りそのものは所在不明となっているが、図案はボストン美術館に残っている。芳崖の弟子で四天王に数えられる高屋肖哲による模本（金沢美術工芸大学美術工芸研究所蔵）も確認されている。		

27　名称	扇取 （おうぎとり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	亀永吾郎筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	大正15年（1926）	寸 法 等	186.0×200.0cm
作品概要	亀永五郎（1890～1955？）は、山口の生まれ。鏑木清方の弟子。1926年の第7回帝展出品作で、目黒雅叙園旧蔵品。扇を取り合う遊戯を楽しむ桃山時代風の人物を描く大作。		

28　名称	星夜舟遊 （せいやしゅうゆう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	平井楳仙筆	員　　数	1幅
時　　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	124.5×40.9cm
作品概要	平井楳仙（1889～1969）は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の楳推会で制作した。		

29　名称	古城 （こじょう）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	平井楳仙筆	員　　数	6曲1双
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	各165.8×370.2cm
作品概要	平井楳仙（1889～1969）は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の楳推会で制作した。		

30　名称	夜ざくら （よざくら）	品　　質	紙本著色
作 者 等	柴田晩葉筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和8年（1933）	寸 法 等	104.0×85.5cm
作品概要	柴田晩葉（1885～1942）は大津の生まれ。文展・帝展で入賞を重ねるが、終戦を待たずに逝去し、戦後の日展で活躍することなくその名声は長らく忘れられていた。その正当な評価は今後に委ねられている作家の一人である。1933年の第34回早苗会出品作。大津市の桜の名所として知られる長等公園を描いたものという。		

31　名称	波涛之図 （はとうのず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	平井楳仙筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（20世紀）か	寸 法 等	102.2×35.8cm
作品概要	平井楳仙（1889～1969）は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の楳推会で制作した。		

32　名称	朝霧 （あさぎり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	不二木阿古筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和15年（1940）	寸 法 等	167.5×179.0cm
作品概要	不二木阿古（1896～1943）は兵庫県の生まれ。はじめ島御風に師事、のち北野恒富門に入り10余年の後、堂本印象門に転じた。旧帝展文展に数度入選。昭和12年に「将棋親旧」を出品し特選を得、16年無鑑査となり、印象塾東丘社に重きをなした。1940年の紀元二千六百年奉祝展出品作。朝霧の中、花などを担いで売りに出る大原女の姿を描いている。		

33　名称	小倉山 （おぐらやま）	品　　質	絹本著色
作 者 等	吉田秋光筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正10年（1921）	寸 法 等	各166.8×372.4cm
作品概要	吉田秋光（1887～1946）は金沢の生まれ。東京美術学校を卒業後、松岡映丘に師事し大和絵を学ぶ。大正6年文展に「伊勢物語」が初入選、8年以後は帝展にも出品。古典に取材した作品を発表する。11年「秋のけはひ」が帝展特選となり、13年「伊豆の春」を無鑑査出品。昭和2年帝展委員、4年、8年と審査員をつとめ、帝展、新文展に出品を続けた。一方、革新日本画会に出品。13年幹事として日本画院結成に参加、同会会員となる。また10年には映丘を盟主として結成された国画院に参加、同人として活動した。1921年の第3回帝展出品作。藤原定家の小倉山荘を描いている。戦前に絵葉書となった著名作。		

34　名称	伊勢物語 （いせものがたり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	吉田秋光筆	員　　数	2曲1双
時　　代	大正6年（1917）	寸 法 等	各179.8×218.0cm
作品概要	1917年の第11回文展出品作。主題は、『伊勢物語』23段「筒井筒」のいわゆる河内越えの場面と見られる。嘯月美術館旧蔵。		

35　名称	平宗盛 （たいらのむねもり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	堀井香坡筆	員　　数	1面
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	149.0×110.5cm
作品概要	堀井香坡（1897～1990）は京都の生まれ。菊池契月に師事。大正4年文展で「ねがひ」が初入選。以後、文展・帝展を発表の場とする。昭和3年「百万」、4年「夕凪」が帝展で特選。美人画を多く描いた。2014年に初公開されるまでまくりの状態で伝わった作品で、何らかの事情で未発表となったと見られる。描かれるのは平宗盛と思われる人物で、手には平家納経を持つ。桜の花びらは、『平家物語』に登場する熊野の一場面、すなわち宗盛の愛妾だった熊野が病床の母に会うため帰郷を願い出るも許されず、清水寺での花見の供を命じられ悲痛な面持ちで舞を披露する場面を思わせる。		

36　名称	対王丸 （たいおうまる）	品　　質	絹本著色
作 者 等	堀井香坡筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	148.0×136.0cm
作品概要	対王丸は、説教節の代表作「山椒大夫」に登場する厨子王のこと。躑躅の入った籠が脇に置かれることから、対王丸が山椒大夫のもとを脱出する場面かと思われる。箱書から、昭和8年（1933）から同18年にかけてソウルにある李王家の宮殿のひとつ德寿宮で開催された日本美術展に出品された作品とわかる。この展覧会は、当時の官展を代表する作家を中心に、日本内地の美術館や機関から借用した作品展示したもので、大日本帝国による植民地支配の一環として行われたものだった。この展覧会には、速水御舟筆「炎舞」（山種美術館蔵など現在でもよく知られる作品が多く出品された。本作も、画家の代表作のひとつに数えられるだけではなく、こうした植民地支配の歴史ともかかわる作品として貴重である。		

37　名称	元政庵の秋 （げんせいあんのあき）	品　　質	絹本著色
作 者 等	木下青陽筆	員　　数	1面
時　　代	昭和3年（1928）	寸 法 等	130.2×137.0cm
作品概要	木下青陽（1901～66）は滋賀の生まれ。竹内栖鳳門下の西山翠嶂に師事。1928年の第9回帝展出品作。元政庵は、江戸時代初期の日蓮僧元政上人が建立した深草の瑞光寺のこと。現在も、本作に描かれるのと変わらないたたずまいを見ることができる。		

38　名称	月下美人 （げっかびじん）	品　　質	絹本著色
作 者 等	松田富喬筆	員　　数	1幅
時　　代	大正8年（1919）頃	寸 法 等	174.0×70.5cm
作品概要	松田富喬（生没年不詳）は愛知県の生まれ。北野恒富に画を学ぶ。「主婦之友」の表紙や、月桂冠の広告などを手がけたポスター画家として知られるが、恒富に師事した大正時代にはこうした絵画作品も制作していた。黒い着物を着た女性の姿が、背後から月光を浴びて妖艶に浮かび上がる。富喬の肉筆美人画としては珍しい大作としても貴重。		

39　名称	つれづれ	品　　質	絹本著色
作 者 等	小方華圃筆	員　　数	1幅
時　　代	大正7年（1918）	寸 法 等	157.6×56.3cm
作品概要	小方華圃（1876/80～1925）は大阪の生まれ。はじめ高谷篁圃、のち竹内栖鳳に師事。文展・帝展で入選したほか、大阪美術展覧会などでも活躍。本作は1918年の巽画会展出品作。		

40　名称	双鷺図 （そうろず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三浦打魚筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	129.5×41.8cm
作品概要	三浦打魚は昭和時代に活躍した画家。		

41　名称	秋の夜長物語 （あきのよながものがたり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	楽本一洋筆	員　　数	1幅
時　　代	大正8年（1919）	寸 法 等	157.0×50.9cm
作品概要	楽本一洋（1893～1952）は京都の生まれ。山元春挙に師事し、その画塾早苗会に入る。本作は1919年の第1回帝展出品作。秋の夜長物語は、南北朝時代の男色稚児物語。比叡山の僧桂海と、三井寺の稚児梅若との悲恋、それをめぐって起きた三井寺と比叡山の争いを主題とする。本作は、両寺の争いののち瀬田川に入水することになる梅若の姿を描いている。背後に観音が描かれるのは、梅若が実は石山寺の観音の化身であったという筋書きを反映したものと考えられる。もとは3幅対として制作・出品されたもので、京都国立近代美術館に所蔵される左右幅には三井寺と延暦寺の争い、雲居寺に籠る桂海を描いている。		

42　名称	楚蓮香 （それんこう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	佐藤光華筆	員　　数	1幅
時　　代	大正7年（1918）	寸 法 等	215.0×93.6cm
作品概要	佐藤光華（1897～1944）は京都の生まれ。大正5年(1916)、京都市立美術工芸学校絵画科卒業。大正8年(1919)同絵画専門学校卒業。菊池契月に師事した。1918年の第12回文展出品作。唐時代、長安一の美女と言われた楚蓮香を描く。戦前に絵葉書となっている。		

43　名称	ゆめ	品　　質	絹本著色
作 者 等	佐藤光華筆	員　　数	1幅
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	183.8×85.6cm
作品概要	佐藤光華（1897～1944）は京都の生まれ。大正5年(1916)、京都市立美術工芸学校絵画科卒業。大正8年(1919)同絵画専門学校卒業。菊池契月に師事した。		

44　名称	天女図 （てんにょず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三浦北峡筆	員　　数	1幅
時　　代	明治38年（1905）頃	寸 法 等	145.8×84.0cm
作品概要	三浦北峡は寺崎広業門下の画家。		

45　名称	蛍狩 （ほたるがり）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三木翠山筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	155.0×50.5cm
作品概要	三木翠山（1887～1957）は兵庫県の生まれ。明治36年上京し竹内栖鳳に師事。第7回文展に「朝顔」が初入選となり、引続き毎年入選をつづけ、帝展でも入選5回、昭和7年第13回帝展以来無鑑査待遇となった。美人、風俗画を得意とする。滞米中美人画の個展を開き、メトロポロタン美術館から終生名誉会員の称を贈られた。		

46　名称	舞姿 （まいすがた）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三谷十糸子筆	員　　数	1面
時　　代	昭和2年（1927）	寸 法 等	92.4×68.5cm
作品概要	三谷十糸子（1904～92）は兵庫県の生まれ。西山翠嶂に師事。昭和3年帝展で初入選。同39年日展で「若人の朝」が文部大臣賞、同44年「高原の朝」で芸術院賞を受賞。少女を題材とした作品が多い。女子美大学長もつとめた。1927年江月会出品作。		

47　名称	鸚鵡 （おうむ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	水上泰生筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	166.0×74.5cm
作品概要	水上泰生（1877～1951）は福岡県の生まれ。寺崎広業に師事。大正3年「琉球の花」、同4年「樺太の夏」が文展三等賞となる。同5年上京。昭和2年帝展委員。写実的な花鳥画を得意とした。		

48　名称	稚児文殊 （ちごもんじゅ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	佐々木尚文筆	員　　数	3曲1隻
時　　代	昭和3年（1928）	寸 法 等	240.0×145.0cm
作品概要	佐々木尚文（1890～1970）は岐阜県の生まれ。岐阜市伊奈波の誓願寺に寄寓、住職雄山端倫の紹介により川合玉堂に入門。書生として玉堂宅に住み込み、玉堂の長流画塾に学ぶ。1915年第9回文展に初入選以来文展・帝展で活躍。第11回帝展では特選となり、翌1931年には帝展推薦を受けた。1945年長野市に疎開、以後同地に在住した。1928年の第9回帝展出品作。		

49　名称	富嶽夜景 （ふがくやけい）	品　　質	絹本著色
作 者 等	邨田丹陵筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（20世紀）	寸 法 等	69.5×98.2cm
作品概要	邨田丹陵（1872～1940）は東京の生まれ。土佐派の画家川辺御楯に画を学ぶ。寺崎広業らとともに日本青年絵画協会を結成、以後同協会展やパリ万博、日本美術協会展などで受賞を重ねた。金刀比羅宮の表書院には、円山応挙の障壁画と並んで、丹陵が明治35年（1902）に本作とほぼ同図様の富士山図を床貼付絵として描いている。金刀比羅宮から制作を依頼されるにいたった経緯は明らかでないが、丹陵はこれに先立つ1895年の内国勧業博覧会に「富士巻狩図」を出品しており、富士山を得意画題としていたという認識があった可能性も考えられている。本作は、金刀比羅宮の障壁画に近い時期の制作であったと思われ、土佐派を学びつつも、特に陰影表現に西洋画の手法を取り入れた丹陵の様式をよく示す優品。		

50　名称	美人図 （びじんず）	品　　質	紙本著色
作 者 等	矢澤弦月筆	員　　数	1面
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	113.0×59.5cm
作品概要	矢澤弦月（1886～1952）長野県の生まれ。久保田米僊、寺崎広業に師事。東京美術学校卒業後、松屋百貨店意匠部に務めながら作画、大正2年第7回文展褒章で画壇に出た。以後官展系作家として帝展、日展審査員4回、昭和25年日展参事となり、川崎小虎、蔦谷竜岬らと「霜天会」を創立した。文部省在外研究調査員として欧州留学、また美校、東京女子高師各講師、日本美術学校教授などを歴任。		

51　名称	湖上展望 （こじょうてんぼう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	山口玲煕筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和7年（1932）	寸 法 等	207.0×198.0cm
作品概要	山口玲煕（1894～1979）は京都の生まれ。山口華楊の兄。菊池芳文・菊池契月に師事。大正元年「今朝の秋」で文展初入選、以後も官展を中心に活躍、おもに花鳥を描いた。昭和39年京都小御所の襖絵を制作。1932年の第13回帝展出品作。		

52　名称	春秋 （しゅんじゅう）	品　　質	絹本著色
作 者 等	山下竹斉筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	各166.1×369.0cm
作品概要	山下竹斉（1885～1973）は京都の生まれ。山元春挙に師事。明治44年文展に「漁歌」が初入選、大正5年には「桃の里」が特選。昭和2年帝展委員となる。春挙ゆずりの風景画を得意とした。		

53　名称	烏 （からす）	品　　質	紙本著色
作 者 等	菊池芳文・菊池契月筆	員　　数	6曲1双
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	各165.5×372.6cm
作品概要	菊地芳文（1862～1918）は大坂の生まれ。四条派の幸野楳嶺に学び、花鳥画を得意とした。内国絵画共進会などで受賞を重ね、京都画壇で活躍。文展審査員、京都絵画専門学校教授、帝室技芸員。菊池契月（1879～1955）は京都の生まれ。菊池芳文の養子。文展で7回受賞。四条派に大和絵の技法も加えた歴史画・人物画で知られる。昭和7年京都市立絵画専門学校長。芸術院会員。銀地に水墨で烏を描いた作品で、芳文・契月の合作。契月は月のみを描いたかと思われる。		

54　名称	旧都の月 （きゅうとのつき）	品　　質	絹本著色
作 者 等	乾南陽筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正7年（1918）	寸 法 等	各174.0×360.0cm
作品概要	乾南陽（1870～1940）は高知の生まれ。東京美術学校を卒業、橋本雅邦・山名貫義・下村観山に師事、一時教職にあつた。文展、帝展に数回出品したほか、聖徳記念絵画館の「五箇条御誓文之図」を制作。1918年の第12回文展出品作品。『平家物語』に取材する。福原遷都ののち、廃れ行く京都を訪れた左大臣徳大寺実定が、旧都にとどまる姉の藤原多子のもとを訪ねる場面を描く。荒れ果てた庭の様子、琵琶を奏でる多子など、物語の内容を忠実に踏まえた描写となっている。「旧都の都」との題は、実定が平安京の月を見たいと思い旧都へ赴いたことを踏まえたもの。		

55　名称	あんこ椿 （あんこつばき）	品　　質	紙本著色
作 者 等	横尾芳月筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	177.0×174.0cm
作品概要	横尾芳月（1897～1990）は福岡市の生まれ。上京し池田輝方、蔦谷龍岬の門下を経て伊東深水に入門する。大正15年帝展に初入選、以後官展で入選を重ねる。また、筑前美術会、県美術協会の創設に参加、郷土の日本画界にも功労があった。戦後も日展を中心に70歳頃まで出品を続けたが、その後は個展や在住の千葉県展などを舞台に活躍した。美人画に始まり、一時、斬新な人物像や京都の庭園などのテーマにも取り組んだが、後年再び美人画に回帰した。		

56　名称	夏立つ頃 （なつたつころ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	吉田秋光筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正7年（1918）	寸 法 等	各176.5×362.8cm
作品概要	1918年の第12回文展出品作。目黒雅叙園旧蔵品で、『日本屏風絵集成　第17巻』所載。松岡映丘に師事した秋光らしいやまと絵表現により、平安風俗を描く画家の代表作。		

57 名称	老槲五喜 （ろうかいごき）	品　質	紙本著色
作 者 等	菅井雲樵筆	員　数	2曲1双
時　代	昭和16年（1941）	寸 法 等	各170.5×163.0cm
作品概要	菅井雲樵（1889～1975）は兵庫県の生まれ。幼少の頃から画家をめざし、森脇雲溪、岸浪柳溪に師事し、花鳥山水を得意とする。日本美術協会に所属1941年の第113回日本美術協会展出品作。柏の木と鵲を描くことで、長寿と喜びとを寓意する吉祥画題である。		

58 名称	鷹 （たか）	品　質	紙本著色
作 者 等	杉山哲郎筆	員　数	2曲1双
時　代	昭和36年（1961）	寸 法 等	各163.0×170.5cm
作品概要	杉山哲郎（1905～70）は白士会会員。		

59 名称	雪景 （せっけい）	品　質	絹本著色
作 者 等	白井烟嵐筆	員　数	1幅
時　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	158.0×50.5cm
作品概要	白井烟嵐（1894～1976）は愛知県の生まれ。大正6(1917)年、南画家松林桂月に師事。同9年第2回帝展に「幽栖」が初入選した。以後も帝展に出品をつづけ、戦後は日展に出品。		

60 名称	秋冬山水 （しゅうとうさんすい）	品　質	絹本金地著色
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	6曲1双
時　代	大正5年（1916）	寸 法 等	各168.5×378.0cm
作品概要	鈴木松年（1848～1918）は京都の生まれ。鈴木派の祖鈴木百年の長男で、弟に鈴木百翠、鈴木万年がいる。上村松園の最初の師としても知られる。大正5年の作で、目黒雅叙園旧蔵品。「今蕭白」と称される豪放な作風とは異なり、穏健かつ端正な山水図。当館は松年が明治時代に描いた「群仙図屏風」も所蔵しており、画家の幅広い主題・画風を示すことができる点でも重要。		

61 名称	淑女 （しゅくじょ）	品　質	絹本著色
作 者 等	立石春美筆	員　数	2曲1隻
時　代	昭和6年（1931）	寸 法 等	189.5×206.0cm
作品概要	立石春美（1908～94）は佐賀の生まれ。伊東深水に師事。昭和6年帝展で「淑女」が初入選する。戦後は日展で活躍、同21年「年寄」、同26年「山荘の朝」が特選となる。1931年の第12回帝展出品作。23歳の春美が初入選した記念すべき作品。羽子板模様の着物に島田髷を結う姉と、松竹梅に鶴の着物姿の妹が並び、居住まいを正した姿である。丹念に描かれた絨毯や、リボンをつけた妹の髪型などが昭和初期のモダンな風俗を伝える。「最後の美人画家」と称された春美の出世作であり代表作。		

62 名称	苗取る朝 （いねとるあさ）	品　質	紙本著色
作 者 等	田中針水筆	員　数	4曲1隻
時　代	昭和23年（1948）	寸 法 等	177.7×236.6cm
作品概要	田中針水（1902～79）は小樽の生まれ。小樽中学卒業後上京し、川合玉堂に師事。弟子たちのほとんどは風景を描いたが、針水は入門後間もなく事故で足を失ったため、写生に同行することが出来ず、やむなく人物を描いたという。帝展・日展を中心に活躍。1948年の第4回日展出品作。		

63 名称	送春 （そうしゅん）	品　質	絹本著色
作 者 等	谷角日沙春筆	員　数	1幅
時　代	昭和6年（1931）	寸 法 等	184.0×106.7cm
作品概要	谷角日沙春（1893～1971）は兵庫の生まれ。菊池契月の塾に学んだ。第12回文展に「智恵頂ける児」が初入選、以後主に官展に出品した。 1931年の第12回帝展出品作。兵庫髷に結った江戸初期風の遊女が、花見の席で三味線と撥を手にする姿を描く。毛氈の赤と、小袖の白緑の対比が鮮やかに映える。歌麿風の面貌描写も含め、浮世絵をかなり意識していると思われる。		

64 名称	雪松 （ゆきまつ）	品　質	紙本墨画金泥
作 者 等	都路華香筆	員　数	6曲1双
時　代	明治時代（20世紀）	寸 法 等	各126.8×262.6cm
作品概要	都路華香（1870～1930）は京都の生まれ。幸野楳嶺に師事。第1回より文展に出品し、大正5年「埴輪」が特選。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校の校長などをつとめた。竹内栖鳳らとともに楳嶺門下の四天王に数えられ、門下に冨田渓仙らがいる。本作は、円山応挙筆「雪松図」（三井記念美術館蔵）にならった作品。明治時代前期に三井家所蔵品として紹介され、明治時代後期には山本春挙らも同種の作品を制作している。		

65 名称	鹿 （しか）	品　質	紙本著色
作 者 等	都路華香筆	員　数	6曲1双
時　代	明治36年（1903）頃	寸 法 等	各153.0×358.2cm
作品概要	「都路華香展」（2006年）出品作。動物表現とともに、波の描写にも独特の様式を見せる。		

66　名称	波千鳥 （なみちどり）	品　　質	絹本墨画
作 者 等	都路華香筆	員　　数	6曲1双
時　　代	明治44年（1911）頃	寸 法 等	各122.2×260.6cm
作品概要	シアトル美術館に類似作品が所蔵されており、そちらは2006年の京近美展に出品されている。華香が30～40歳代にかけて大きなテーマとして扱った波の表現が見どころ。		

67　名称	如意輪観音図 （にょいりんかんのんず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	都路華香筆	員　　数	1幅
時　　代	大正6年（1917）頃	寸 法 等	123.9×41.7cm
作品概要	おおらかな趣が漂う、大正期の様式的特徴を示す作。		

68　名称	閑雲野鶴 （かんうんやかく）	品　　質	絹本著色
作 者 等	都路華香筆	員　　数	6曲1双
時　　代	大正3年（1914）	寸 法 等	各166.6×369.0cm
作品概要	1914年の第8回文展出品作。1932年に恩賜京都博物館で開催された都路華香遺作展にも出品されている。その時点では、京都の呉服商内貴清兵衛が所蔵しており、『日出新聞』の記事から、祇園祭の宵山に行われる屏風祭において名物屏風のひとつとなっていたことが知られる。古典的な画題によりながら壮大な気宇を示した作として名高い、画家の代表作のひとつである。1932年出版の『華香墨蹤』にひときわ大きく取り上げられていることからも、それが確かめられる。当館には、華香が1901年の第7回新古美術品展覧会に出品した「李太白」が収蔵されており、これらの作品が加わることで華香の作品群が一層の厚みを増すこととなる。		

69　名称	行春 （ゆくはる）	品　　質	絹本著色
作 者 等	蔦谷龍岬筆	員　　数	1幅
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	141.0×50.4cm
作品概要	蔦谷龍岬（1886～1933）は弘前の生まれ。生家はこの地方の草分けといわれた造花店で、藩政期「猪股」という京都から来たお抱え細工師。明治35年父の造花の弟子の一戸や橘平蔵をたよって上京、寺崎広業に師事した。明治39年東京美術学校日本画科選科入学。明治43年同校卒業。大正4年第9回文展初入選。第10回文展は落選するが、第11回文展に入選、翌年12回展で「御堂の朝」で特選となり、無鑑査をはさんで第2回、3回帝展で連続特選となり委員に推挙され、帝展で審査員をつとめた。昭和５年東奥美術社創立会長。昭和8年、目黒雅叙園の壁画を制作した。		

70　名称	舞妓林泉下絵 （ぶぎりんせんしたえ）	品　　質	朱、紙
作 者 等	土田麦僊筆	員　　数	1面
時　　代	大正13年（1924）頃	寸 法 等	53.0×30.7cm
作品概要	土田麦僊（1887～1936）は佐渡の生まれ。はじめ鈴木松年、竹内栖鳳に学び、国画創作協会創立に参加、新日本画開拓運動を起こす。西洋近代絵画の様式と大和絵伝統様式の総合に新境地を求めた。帝国美術院会員。麦僊の代表作「舞妓林泉（ぶぎりんせん）」（東京国立近代美術館蔵）の下絵。同種の下絵が複数残っている。		

71　名称	追撃 （ついげき）	品　　質	絹本著色
作 者 等	寺田芦秋筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和12年（1937）	寸 法 等	175.5×183.0cm
作品概要	寺田芦秋は院展を中心に活動した画家。1937年の第2回京都美術展覧会出品作。		

72　名称	雪中鷲 （せっちゅうわし）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	都路華香筆	員　　数	1面
時　　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	65.5×67.0cm
作品概要	都路華香（1870～1930）は京都の生まれ。幸野楳嶺に師事。第1回より文展に出品し、大正5年「埴輪」が特選。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校の校長などをつとめた。竹内栖鳳らとともに楳嶺門下の四天王に数えられ、門下に冨田渓仙らがいる。		

73　名称	鸚鵡小町 （おうむこまち）	品　　質	絹本著色
作 者 等	中村大三郎筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和15年（1940）	寸 法 等	176.0×181.0cm
作品概要	中村大三郎（1898～1947）は京都の生まれ。西山翠嶂に学び、美人画を多く描いた。本作は、1940年の紀元二千六百年奉祝展出品作。『日本美人画全集』（集英社）所載。謡曲「鸚鵡小町」は、絶世の美女とうたわれた小野小町が齢百を迎えるころ、天皇から賜った歌を一字だけ変えてそのまま返歌としたので鸚鵡小町と呼ばれたという内容。老いの刻まれた小町の顔がたたえる幽玄な気品、静寂な高貴さの表現に優れ、大三郎の代表作のひとつに数えられる。長らく行方不明であったが、2014年の展覧会で久し振りに公開された。		

74　名称	春雪 （しゅんせつ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	中村大三郎筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	54.0×39.5cm
作品概要	『日本美人画全集』（集英社）所載。		

75　名称	うらなひ	品　　質	絹本著色
作 者 等	中村大三郎筆	員　　数	1幅
時　　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	169.7×64.5cm
作品概要	唐輪髷を結った遊女が花札占いに興じる様子を描く。大正期に特有の退廃的な気分をたたえた艶麗な美人画である。清廉な女性像を多く描いた大三郎としては異色の作として貴重。		

76　名称	長生宝宴 （ちょうせいほうえん）	品　　質	絹本著色
作 者 等	中村大三郎筆	員　　数	1幅
時　　代	大正13年（1924）	寸 法 等	48.0×57.0cm
作品概要	長生宝宴は、朝鮮古代の舞踊。1924年に高島屋で開催された第2回の大三郎個展に出品。		

77　名称	舞妓 （まいこ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	中村大三郎筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	127.8×35.6cm
作品概要	中村大三郎（1898～1947）は京都の生まれ。西山翠嶂に学び、美人画を多く描いた。		

78　名称	補綴 （ほてつ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	織田観潮筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和13年（1938）	寸 法 等	176.0×182.0cm
作品概要	織田観潮（1889～1961）は東京生まれ。尾竹国観に師事し、帝展・文展等に出品。歴史画、特に物語の世界を得意とした。本作は、1938年の第2回新文展出品作。題の補綴は破れなどの繕いをすることを言う。『万葉集』所載の椋椅部弟女「草枕旅の丸寝の紐絶えば我が手と付けろこれの針持し」に基づき、上代の防人の姿を描いたと作者自身が記している。		

79　名称	狐 （きつね）	品　　質	絹本著色
作 者 等	永峰秀湖筆	員　　数	1幅
時　　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	155.4×84.5cm
作品概要	永峰秀湖（1859/57～1895）は会津の生まれ。松本楓湖に師事。内国絵画共進会などに出品するも夭折。		

80　名称	桜雲 （さくらぐも）	品　　質	絹本著色
作 者 等	林文塘筆	員　　数	1幅
時　　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	62.5×71.0cm
作品概要	林文塘（1882～1966）は京都の生まれ。前川文嶺・山元春挙に学び、山水画を得意とする。文展入選後、井口華秋・池田桂仙らと反帝展の自由な制作をめざして日本自由画壇を結成した。八瀬の景観を描いた作。		

81　名称	新涼 （しんりょう）	品　　質	紙本著色
作 者 等	林文塘筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和2年（1927）	寸 法 等	77.0×89.0cm
作品概要	1927年の第7回自由画壇展出品作。		

82　名称	秋圃 （しゅうほ）	品　　質	絹本金地著色
作 者 等	林文塘筆	員　　数	2曲1双
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	各168.4×182.0cm
作品概要	近代における「琳派」観形成期の作であり、その様相をよく示している。		

83　名称	むすめ	品　　質	絹本著色
作 者 等	原田千里筆	員　　数	1面
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	27.1×24.3cm
作品概要	原田千里は、大正・昭和期の大阪画壇を代表する女性画家木谷千種の弟子。		

84　名称	燕舞 （えんぶ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	樋口富麻呂筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	大正12年（1923）	寸 法 等	174.7×166.4cm
作品概要	樋口富麻呂（1898～1981）は大阪生まれ。北野恒富に師事し、17歳の時第9回文展に「つやさん」が初入選。その後帝展・院展に出品を重ねる。京都市立絵画専門学校に入学し、同時に西山翠嶂に師事、青甲社同人となる。庶民的な風俗を好んで描く一方、仏教美術にも関心を抱き、インド・バリ島への取材旅行を行っている。晩年は人物や仏教に題材を求めた作品を多く手がけ、大西良慶・清水寺貫主をテーマに描いた個展「百寿説法展」(高島屋)などを開いている。		

85　名称	京劇（昭君出塞） （きょうげき　しょうくんしゅっさい）	品　　質	絹本著色
作 者 等	玉舎春輝筆	員　　数	1面
時　　代	大正14年（1925）	寸 法 等	80.0×90.0cm
作品概要	玉舎春輝（1880～1947）は岐阜の生まれ。春挙・栖鳳門下を中心に設立された日本自由画壇の中心メンバーとして活躍した。本作は、1925年の第3回自由画壇展出品作。中国の古典舞踊に取材し、中国前漢の元帝の宮女で匈奴との和親のため呼韓邪単于に嫁し、その地で没した王昭君を描く。		

86　名称	童子 （どうじ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	中村道太郎筆	員　　数	2曲1双
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	168.2×184.4cm
作品概要	中村道太郎は大三郎の弟。		

87　名称	美人春秋（春の野） （びじんしゅんじゅう　はるのの）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三木翠山筆	員　　数	2曲1双
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	各162.4×182.4cm
作品概要	三木翠山（1887～1957）は兵庫県の生まれ。明治36年上京し竹内栖鳳に師事。第7回文展に「朝顔」が初入選となり、引続き毎年入選をつづけ、帝展でも入選5回、昭和7年第13回帝展以来無鑑査待遇となった。美人、風俗画を得意とする。		

88　名称	布袋 （ほてい）	品　　質	紙本墨画金泥
作 者 等	西山翠嶂筆	員　　数	1幅
時　　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	76.3×89.5cm
作品概要	西山翠嶂（1879～1958）は京都の生まれ。竹内栖鳳に師事。昭和8年母校京都市立美術工芸学校の校長、12年芸術院会員。青甲社を主宰し、堂本印象・上村松篁らを育てた。32年文化勲章。		

89　名称	西王母 （せいおうぼ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	北上聖牛筆	員　　数	1幅
時　　代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	165.5×87.0cm
作品概要	北上聖牛（1891～1970）は北海道の生まれ。京都で竹内栖鳳に師事した。		

90　名称	舞姫 （まいひめ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	高谷篁圃筆	員　　数	1幅
時　　代	大正5年（1916）	寸 法 等	154.5×80.3cm
作品概要	高谷篁圃（1870～？）は京都の生まれ。四条派の流れを汲み、花鳥画を得意とした。		

91　名称	かごめかごめ	品　　質	絹本著色
作 者 等	吉田秋光筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	162.3×162.0cm
作品概要	吉田秋光（1887～1946）は金沢の生まれ。東京美術学校を卒業後、松岡映丘に師事し大和絵を学ぶ。		

92　名称	国民合唱歌 （こくみんがっしょうか）	品　　質	紙本著色
作 者 等	戸島光基筆	員　　数	1面
時　　代	昭和18年（1943）	寸 法 等	193.5×102.0cm
作品概要	戸島光基（1909～1963)は、京都の日本画家。東福寺の塔頭龍吟庵を拠点に制作した。父は漆画家の戸島光阿弥。1933年の第14回帝展をはじめとして、新文展・日展に出品を重ねた。本作は、1943年の第6回新文展出品作。日本放送協会（NHK）が大衆歌謡の向上のためにラジオで普及をはかった新作歌曲である国民歌謡に引き続き、1941～45年まで放送された国民合唱を主題とする。こうした音楽の放送は、この時期戦争遂行手段として動員されたものであり、本作のように一見時代風俗を描いただけに見えるような作品も、広義の戦争画に含み得る。		

93　名称	遊楽図屏風 （ゆうらくずびょうぶ）	品　　質	紙本金地著色
作 者 等		員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	各74.1×244.6cm
作品概要	野外での酒宴と輪舞の様子を対として描いた屏風。桃山時代～江戸時代初期のいわゆる近世初期風俗画盛期の躍動感や華やかさには欠けるが、抑制の効いた丹念な描写に見どころがあり、17世紀半ばから後半頃の制作と考えられる。		

94　名称	春 （はる）	品　　質	絹本著色
作 者 等	村野深秋筆	員　　数	1幅
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	174.0×81.8cm
作品概要	村野深秋は秋田の生まれ。伊東深水に師事。1930年の第11回帝展で初入選した。		

95　名称	江口 （えぐち）	品　　質	絹本著色
作 者 等	大塚春嶺筆	員　　数	1幅
時　　代	大正2年（1913）	寸 法 等	120.0×50.5cm
作品概要	大塚春嶺（1861～1944）は京都（園部）の生まれ。深田直城、谷口香嶠に師事、大阪に住した。内国勧業博覧会や日本美術協会展で活躍したほか、歴史風俗画展覧会でも銅牌を受賞。晩年は園部小麦山の麓に居住した。故郷の京都府南丹市園部町の生身天満宮には、杉戸絵や「琴棋書画図屏風」「三十六歌仙」などの作品が所蔵されている。江口は、謡曲「江口」で西行法師と歌問答をしたとされる遊女妙のこと。普賢菩薩の生まれ変わりとされ、本作でも象の背に乗る姿で描かれる。		

96　名称	夕涼み （ゆうすずみ）	品　　質	絹本著色
作 者 等	橋本成花筆	員　　数	1幅
時　　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	170.3×85.6cm
作品概要	橋本成花（1888～？）は、近代の大坂画壇を代表する女性画家島成園の弟子。遺作のほとんど知られていない成花の作として貴重。芝居小屋や茶屋でにぎわった道頓堀の相合橋からの景観と見られる。		

97　名称	凡影ススキ（秋景図） （ぼんえいすすき　しゅうけいず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	杢本武雄筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	134.6×181.8cm
作品概要	杢本武雄（1902～96）は京都の生まれ。兄は杢本一洋。菊池契月に師事し、帝展・新文展で活躍した。		

98　名称	五人ばやし （ごにんばやし）	品　　質	絹本著色
作 者 等	三宅凰白筆	員　　数	3曲1隻
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	117.0×238.2cm
作品概要	三宅凰白（1893～1957）は京都の生まれ。日本画家三宅呉暁の次男。山元春挙に師事。昭和5年「花旦」が帝展特選。春挙の没後は画塾早苗会の幹事となり、のち耕人社を結成した。母校京都市立絵画専門学校の助教授をつとめた。本作は、能楽の囃子方を人形化した五人囃子を描く。		

99　名称	虎渓三笑図屏風 （こけいさんしょうずびょうぶ）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	伝海北友松筆	員　　数	6曲1隻
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	106.2×335.8cm
作品概要	友松の印は後捺と見られるが、友松の画風を受け継いだ画家による作であり、画中に大きく描かれた賛は三藐院流の書風を示している。このような画風・書風及び屏風にじかに書を大きく揮毫するという形式から、17世紀前半の制作と考えられ、友松の画風が江戸時代に継承されたことを示す作品として貴重である。		

100　名称	烏帽子折絵断簡（えぼしおりえだんかん）	品　　質	紙本著色
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町～江戸時代　16～17世紀	寸 法 等	縦31.0cm　横20.7cm
作品概要	中世の語り物芸能・幸若舞の演目のひとつ『烏帽子折』を描いた絵の断簡。幸若舞は江戸時代に入り舞台芸能としては衰えるが、演目のテキスト集『舞の本』や絵巻・絵本の存在によってその盛んな受容が知られる。『舞の本』は36番の演目を収録するものが一般的だったが、個別でも入手でき、『烏帽子折』は『大織冠』や『堀河夜討』などと並んで人気があったという。『烏帽子折』は源義経が元服して奥州に向かう道中の話であるが、義経が所有する笛の由来を語る挿話の中で用明天皇が宇佐八幡で流鏑馬をおこなうと八幡神が現れたという場面があり、本断簡はそれに該当するものである。現存中で最古級の烏帽子折物語絵巻貼付屏風（手錢記念館蔵）に時代的に近いことが推定され、幸若舞絵巻・絵本の成立期の作例として重要。		

＜彫刻＞（3件）

1　名称	銅造薬師如来坐像（どうぞうやくしにょらいざぞう）	品　　質	銅造鍍金
作 者 等	不明	員　　数	1躯
時　　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	総高18.4cm　像高（坐高）10.4cm
作品概要	徳川家康側室のお亀の方念持仏と伝える金銅製の薬師如来坐像		

2　名称	木造日光・月光菩薩立像 （もくぞうにっこう・がっこうぼさつりゅうぞう）	品　　質	木造漆箔彩色
作 者 等	不明	員　　数	2躯
時　　代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	像高33.0cm（日光）／33.2cm（月光）
作品概要	上記薬師如来像の脇侍として江戸時代に造り加えられた日光・月光菩薩像		

3　名称	木造十二神将立像（もくぞうじゅうにしんしょうりゅうぞう）	品　　質	木造彩色
作 者 等	不明	員　　数	12躯
時　　代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	像高24.7-26.9cm
作品概要	上記薬師如来の守護神として江戸時代に造り加えられた十二神将立像		

＜金工＞（2件）

1　名称	口籠（くちかご）	品　　質	鉄製　真鍮製　鍛造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代　17～18世紀	寸 法 等	
作品概要	馬の口を覆う口籠。摂食量を制限したり、寝ワラを食べたりするのを防ぐために使用する。竹製の物が多く、本品のように金属製の物は極めて珍しい。『集古十種』に載録されている金属製口籠の類品、ないしはそのものと考えられる。日本の武具・馬具の歴史を考える上で非常に重要な作品である。		

2　名称	銅蠟型鋳物（どうろうがたいもの）	品　　質	銅製　鋳造
作 者 等	長谷川易重　他	員　　数	19点
時　　代	明治～昭和時代　19～20世紀	寸 法 等	
作品概要	本品は、天正年間頃から続く京都鋳物師・長谷川家の手による置物等鋳造製品群。なかでも1915年に米国サンフランシスコにて開催されたパナマ運河世界博覧会に出品された蝦蟇仙人の置物は同博覧会で銅賞を受賞しており、国際的にも高い評価を受けている。写実性の高いこれらの作品は、近代における京都鋳物師の鋳造技術の高さを証明する物である。		

＜陶磁＞（11件）

1　名称	染付結文香合（そめつけゆいもんこうごう）を含む11件	品　　質	磁器
作 者 等	永樂保全	員　　数	11件
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	
作品概要	江戸時代後期の京焼の陶工、永樂保全作の十件の作品である。奥田頴川やその弟子である欽古堂亀祐、青木木米、仁阿弥道八など、同時代には多くの名工と呼ばれる工人たちか活躍をしていたが、茶陶を中心として、他の工人たちとはやや異なる作風を確立していっている。京都や紀州のお庭焼などとともに、近江の大津で湖南焼開窯や摂津高槻でのお庭焼開窯など、京都を離れた地域でも積極的に陶作を行っている。 保全の作風は交趾(法花)、青磁、古染付、祥瑞、赤絵、金襴手、仁清写、高麗写、など、日本のみならず、当時賞翫されていた中国、朝鮮、東南アジアなどあらゆる陶技に及んでおり、これを写すだけではなく、それら作り上げたやきものを使用する人たちの好みや自身の工夫を取り入れ、単なる模倣をこえた意匠や釉薬などを作り上げ、時代の好みを反映した新しい茶陶を作り上げたものといえる。今回、寄贈いただいた十件の作品は、こうした保全の特徴をよく表したものであり、かつ京焼の流れを考える上でも重要な作品といえる。		

＜漆工＞（1件）

4　名称	竹製内漆箔花器（たけせいうちしっぱくかき）	品　　質	竹製　漆塗　金箔
作 者 等	不明	員　　数	1口
時　　代	江戸時代	寸 法 等	最大径19.0cm　高9.3cm
作品概要	極太の竹の節を利用した容器。外周の七箇所のひび割れを銀製鎹で留め、内部には赤茶色の漆を塗ったうえに金箔を押すが、金箔の磨耗が著しい。寄贈者の長谷川氏は代々檀王法林寺の檀家であり、本品は当寺ゆかりの袋中和尚が琉球から持ち帰った品々の一部という。その信憑性は定かではないが、竹の太さから、南方で育生した竹を利用している可能性は高いといえる。金工品の一括とともに寄贈を受けた品。		

【奈良国立博物館】　（計1件）

（１）編入（1件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	東大寺大仏蓮弁線刻図模本　宮原柳僊筆 （とうだいじだいぶつれんべんせんこくずもほん　みやはらりゅうせんひつ）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	宮原柳僊	員　　数	1幅
時　　代	昭和34（1959）頃	寸 法 等	本紙：縦208.5cm 横348.8cm　表具：縦228.8cm　横367.2cm 軸端：左右各4.5cm
作品概要	横長の大画面に東大寺の大仏蓮弁（国宝）に線刻される蓮華蔵世界図を墨線で原寸大に描く。本図は昭和34年（1959）以前、当館が画家の宮原柳僊に製作を依頼したもので、宮原が蓮弁の拓本をもとに、欠損部を補いながら模写したものである。全28弁の蓮弁線刻図には少しずつ差異があり、本図は残りのよい13号に加え、複数の蓮弁の図用を参考にして描かれたと推定される。実物と相違する点もあるが、蓮華蔵世界図を明快に紹介するものとして意義深い作品であり、これまでも当館や他館での展示に供されてきた。		

【九州国立博物館】（計77件）

（１）購入（21件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	紫陽花文鳥図（あじさいぶんちょうず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	司馬江漢筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　文化5年(1808)	寸 法 等	本紙：縦100.0cm　横29.7cm、総寸：縦192.2cm　横42.7cm、軸長47.7cm
作品概要	紫陽花と二羽の文鳥を描く。花鳥は彩色、岩は水墨で表わし、異なる絵画技法の両立が試みられる。とりわけ紫陽花や虻には明暗をつけて立体感を表現する点が注目される。「七十一翁」の落款から司馬江漢（1747～1818）が9年の年齢加算を始めた文化5年（1808）（実年齢は62歳）の制作とわかる。 筆者の司馬江漢は、西洋絵画の技術を取り入れた作例を多く残しているが、本図は花鳥に油彩を用いるのみで、構図はむしろ江漢が宋紫石などから学習した沈南蘋風の花鳥画に近く、洋風画スタイルの作例としてはやや珍しい特徴を示す。江漢は晩年油彩を行わなくなり、西洋主題であっても墨画、淡彩が中心になっていくため、本図は希少な晩年期の油彩画として注目に値する。		

2　名称	水辺村童図（すいへんそんどうず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	安田雷洲筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　天保11年(1840)	寸 法 等	本紙：縦95.4cm　横34.8cm、表装：縦162.5cm　横39.9cm、軸長44.9cm
作品概要	前景に竹籠を背負う男性、赤児を負ぶった子どもと犬、川を挟んだ遠景には透視図法（線遠近法）を取り入れた村落と山並みを表わす。雲のかかった空を画面上半分に広々と表わし、画面右の高く枝を張った樹木に一羽の鳥が留まる。その表現には刻線（ハッチング、クロスハッチング）を模した平行線や交差する線が見られるなど、西洋銅版画学習の痕跡が顕著である。落款「天保十一年庚子九月　雷洲安田尚義製」「Willem Van Leiden」により、安田雷洲（？-1859）の円熟期の作例、かつ細緻な描き込みから画家の代表作と位置付けられるものである。		

＜書跡＞（2件）

3　名称	装飾法華経薬王品断簡（そうしょくほけきょうやくおうほんだんかん）	品　　質	彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	平安時代　12世紀	寸 法 等	本紙：縦24.7cm　横49.0cm、表具：縦114.0cm　横63.0cm、軸長67.8cm
作品概要	『法華経』薬王菩薩本事品第二十三を書写した装飾経の断簡。料紙には金銀の砂子、野毛、切箔、特大の裂箔を蒔き、界線に金の截金を置く。天地には遠山と蓮池が彩色され、多彩な装飾技法に平安時代12世紀の特徴が見られる。本品は紙継を跨がない25行分の断簡であり、諸家に分蔵される断簡の書写形態から、もとは『法華経』全二十八品を1巻ずつ書写した一品経形式の経巻であったことが判明する。一品経は貴族社会における法華講会の大規模化に伴って盛行し、わが国における法華経信仰の展開を知る上で重要な書写形態である。さらに絵画的・工芸的な観賞性に富む料紙を用いた装飾一品経は極めて貴重であり、「善美」と言い表わされる平安時代の信仰と美意識が凝縮された作例といえる。		

4　名称	思渓版大明度経　巻第五（しけいばんだいみょうどきょうまきだいご）	品　　質	紙本墨刷
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	中国・南宋時代 12-13世紀刊	寸 法 等	縦29.1cm　横11.5cm　全長921.5cm
作品概要	日宋貿易の代表的な輸入品である宋版大蔵経（木版印刷）で、渡来後、鎌倉幕府御家人によって鹿島神宮（茨城県）に施入された大蔵経のうちの一帖。 奥書から、笠間郷（茨城県笠間市）を本拠とした鎌倉幕府御家人の笠間時朝が、建長7年（1255）に常陸国一之宮の鹿島神宮に納めた大蔵経、いわゆる「笠間経」の零巻であることが知られる。同経典群は江戸末期には散逸しており、寺院や故実家、収集家等の手を経た数帖が伝世する。宋版大蔵経の中では、比較的多く日本へ舶載され、現存する思渓版大蔵経（北宋末）の一部だが、中世前期に渡来し、奉納者や施入先が明らかな渡来経典として希少である。		

＜金工＞（2件）

5　名称	三鈷鈴（さんこれい）	品　　質	銅鋳造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	高22.4cm
作品概要	銅鋳造、鍍金。鈷・把部と鈴身部を一鋳とする三鈷鈴。中鈷は、わずかに匙面をとりつつ下方に抉りを入れた四面錐形をなす。脇鈷は中央には鋭く鎬をたて、稜角に添って樋を刻み、脇鈷と脇鈷の間にまで延長する。把の鬼目は出の大きな二重睒で4ヶ所に鋳出し、鬼目の上下に配した蓮弁帯は、蕊（しべ）と連珠を伴い、把上部は二条の紐帯で約す。一方、把下部の蓮弁帯は途中で紐帯に約され、下半は鈴身上に間弁付重圏八葉蓮華となってひろがる。弁先には藥をやや粗く刻み、魚々子鏨で藥頭をあらわす。また肩下と裾元にそれぞれ三条の隆帯をめぐらせた鈴身は撫で肩で、下端にむかい穏やかに外反する。張りのある脇鈷、出の大きな鬼目、薄造りで穏やかな裾広がりの鈴身、青味を帯びた鍍金など、古様をよくあらわした平安時代を代表する三鈷鈴である。		

6　名称	重要美術品　六器（ろっき）	品　　質	銅鋳造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	高4.0cm　径8.1cm
作品概要	銅鋳造、鍍金。高台のついた小碗に台皿を備えた六器。碗は口造りが薄く丈が低くゆったりとした形姿をとっており、高台から上方に向かい間弁付の素弁八葉蓮華を鋳出す。連弁には中央に鎬を立てつつ三条の弁脈を刻む。蓮華の花先には刻んだ藥（しべ）が胴を巡り、更にその上に隆帯を二条めぐらす。高台裏には轆轤（ろくろ）の挽き目が明瞭に残る。碗を載せる台皿は素文で、碗と同様に轆轤で薄く挽き上げ、極めて薄い高台を取り付ける。薄造りで碗の口が外反し、丈低く安定感のあるところに特徴があり、平安時代にまで遡る蓮弁飾六器の代表的作例であるばかりでなく、伝世の六器のなかでも最古級の作のひとつとみられる。高野山安養院伝来。		

＜染織＞（2件）

7　名称	橙縮緬地檜垣に桜文様小袖（だいだいちりめんじひがきにさくらもんようこそで）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代 17世紀末-18世紀初	寸 法 等	丈：149.0cm　裄：61.0cm　袖丈：42.0cm　袖幅：30.0cm 前幅（上前）：23.0cm　衽幅：15.5cm　衽下がり：31.5cm 衿肩あき：9.0cm　衿幅：6.5cm　衿下：70.5cm　後幅：30.0cm　身幅：60.0cm
作品概要	農民歌舞伎の衣裳という伝承のもと山形の鶴岡に伝わった小袖。縮緬地に桧垣と桜の立木文様を型染めで表現している。このような立木文様の小袖は江戸期を通して製作されたが、器物文様と組み合わされること、腰の上下で文様が連続しないこと、摺匹田（型鹿子）を用いていること、地組織が縮緬であること、左脇にわずかな空間を残した文様配置であること、以上の5点から、元禄期（1688-1704）から正徳期（1711-1716）にかけて製作された小袖（もとは振袖）であると考えられる。当初の地色は淡い黄と思われるが、現在は顔料（鉛丹）にて橙に塗られる。また中綿は除去され、背部分に木綿の裏地が当てられている。舞台衣装への転用を目的として改変されたと思われる。		

8　名称	紫紋縮緬地松藤笹に流水文様繍小袖（むらさきもんちりめんじまつふじささにりゅうすいもんようぬいこそで）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	丈：161.0cm　裄：61.5cm　袖丈：44.5cm　袖幅：33.0cm 前幅（上前）：24.0cm　衽幅：18.0cm　衽下がり：22.5cm 衿肩あき：9.2cm　衿幅：11.0cm　衿下：87.0cm　後幅：57.0cm　身幅：28.5cm　肩から内揚げまでの距離：51.5cm（前身頃）/47.0cm（後身頃）
作品概要	江戸後期の武家女性の小袖。紫の紋縮緬地に王朝文様や文芸意匠などのいわゆる御所解文様を素繍で表現している。刺繍で王朝文様や文芸意匠を表す小袖は江戸後期に盛んに製作されたが、綸子地や紗綾地が多く、本品のように紋縮緬を用いる例は珍しい。また袖が丸く、身八つ口がない形状は古様を示す。類例の中でも古い例であると考えられる。5つ紋には絓繍いによる抱き杏葉紋が入る。杏葉には縦筋が表現されており、鍋島本家の家紋と共通する。汀に立つ松に蔓を絡ませ咲き乱れる藤花の図様からは、能「藤」が想起される。		

＜考古＞（11件）

9　名称	台形土器（だいがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	不明（中部高地～関東）	員　　数	1基
時　　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	最大径16.0cm　高7.7cm
作品概要	円筒形の脚に鍔状に張り出した円盤形の天板が付く器台形の土器である。脚部には、沈線で縁取りされた円形の透かし5個が水平方向に展開する。天板中央には黒色漆が付着している。台形土器は、東日本の縄文時代中期を中心に出土し、特に中部高地から関東にかけて集中している。本品のように脚が付くもの以外に、脚が付かない円盤形のものもある。台形土器は、土器製作用台座や供献具等と考えられている。土器製作用台座とすれば縄文時代の土器製作技術を知ることができる資料、供献具とすれば後期・晩期に発達する台付鉢形土器の出現に関わる資料と言える。		

10　名称	浅鉢形土器（あさばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径13.0cm　高4.2cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。外面には塗布された黒色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

11　名称	壺形土器（つぼがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	不明（東北～北海道南西部）	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径11.0cm　口径5.5cm　高12.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器。外面には塗布された赤色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

12　名称	台付鉢形土器（だいつきはちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市川内町宿野部不備無出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径20.6cm　高8.1cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。外面には塗布された赤色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

13　名称	土偶（どぐう）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県平川市石郷出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	長11.0cm　幅11.5cm　厚5.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて分布する亀ヶ岡文化の土偶である。亀ヶ岡文化の土偶は肥大化した眼部表現を持つ遮光器土偶がよく知られているが、小さな目や人間らしい顔つきを持つ本品は遮光器土偶が型式変化により眼部が縮小化した時期のものである。仮面を身に着けたような扁平な顔面、髪結いと髪飾り風の表現を持つ頭部、首飾りのような刺突文のある隆帯を廻らせた頸部、動物の毛皮風の衣装を想像させる刺突文を有する体部など、縄文時代の装いの様子を具体的に知ることができる資料である。		

14　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径25.8cm　高13.8cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部と底部を若干欠失するものの、大型の注口土器で、底部全面に施された雲形文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		

15　名称	壺形土器（つぼがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径14.2cm　高12.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部を欠失するものの、精緻な表面研磨、胴部の雲形文、全面の赤彩が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		
16　名称	台付鉢形土器（だいつきはちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径13.6cm　高10.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胴部を一部欠失するものの、均整のとれた器形、薄作り器壁、台部の透し、精緻な入組文と羊歯状文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		

17　名称	壺（つぼ）	品　　質	土製
作 者 等	東瀬戸内から畿内地域	員　　数	1口
時　　代	弥生時代　前3世紀	寸 法 等	口径12.5cm　底径8.0cm　胴部最大径21.0cm　器高22.0cm
作品概要	弥生時代前期に西日本地域で広くみられる弥生土器の形式である遠賀川式土器の壺である。平底で小形の底部から、外反しながら立ち上がりつつ広がり、胴中位で内湾して頸部は強くすぼまり、口縁部直下で強く外湾して口縁端部に至る。頸部には断面台形の貼付突帯を1条付す。北部九州の遠賀川式壺にみられる口縁部外面の段が突帯に変化したものである。口縁部には2個1対の穿孔を対面の位置に1対ずつ施し、本来は蓋を伴ったことが知られる。これらはいずれも東瀬戸内～畿内地域における定着期の遠賀川式土器にみられる特徴であり、水稲農耕を伴う弥生文化が北部九州より拡散・定着していく過程で、これとともに広がっていく遠賀川式土器が在地化していった過程をよく示す。		

18　名称	獅噛環頭柄頭・柄頭筒金具（しがみかんとうつかがしら・つかがしらつつかなぐ）	品　　質	青銅鋳造（茎のみ鉄鍛造）、鍍金
作 者 等	伝奈良県奈良市（旧大和国添上郡佐保村）出土	員　　数	1組
時　　代	古墳時代後期 6世紀	寸 法 等	柄頭：縦4.2cm　横5.4cm　最大厚1.5cm　柄頭筒金具：長5.6cm径3.2×1.6cm
作品概要	もとは装飾大刀の柄の先端部分に装着した環頭柄頭と、環頭柄頭に接して柄を取り囲んだ柄頭筒金具であり、現状では遊離している。柄頭の外環は横長の楕円形を呈し、そのなかに獣面（鬼面）形の中心飾を配する。柄頭の下縁に大刀の茎の破断面が見える。 柄頭筒金具は厚さ1ミリ未満の薄板を楕円形に巻いて鍛接した造りをもつ。文様はない。柄頭筒金具のなかには基部で折れた鉄製の茎が残存する。茎は長方形板状を呈する。下縁は弓なりに弧を描く。末端附近の中央を目釘孔が貫通している。		

19　名称	ミニチュア土器（みにちゅあどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝印旛沼北岸地域出土	員　　数	30個
時　　代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高7.5cmほか
作品概要	実用に耐えないほど小形で、フリーハンドで大まかに成形し、成形した痕跡を器の内外表面に多く残したまま焼成する土器群がしばしば、弥生時代から古代にかけて生産される。これを「ミニチュア土器」と呼ぶ。本資料群は古墳時代後期の土師器のミニチュア土器30点である。平底でやや大形の椀形が3点（いずれも底部に広葉樹の葉のプリントを残す）、丸底でやや大形の椀形が3点、平底で中形の椀形が2点、丸底で中～小形の椀形が18点、小形の高坏形が3点、鎌形が1点である。いずれも手づくねで製作され外面に成型時の痕跡をよく残す。出土地は千葉県印旛沼北岸と伝えられ、形状の特徴からも矛盾はない。		

＜歴史資料＞（2件）

20　名称	豊臣秀吉定書　対馬国宛及び禁制　南海嶋宛（とよとみひでよしさだめがき　つしまのくにあておよびきんぜい　なんかいとうあて）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	(1)安土桃山時代　文禄2年(1593) (2)安土桃山時代　慶長3年(1598)	寸 法 等	表紙：縦45.3cm　横28.9cm　軸長：49.5cm　本紙：（第1紙）縦45.3cm　横60.2cm　（第2紙）縦45.3cm　横59.0cm
作品概要	(1)文禄2 年(1593)正月付、対馬国宛の「定」、(2)慶長3 年(1598)3 月17 日付、南海嶋宛の「禁制」、計2通の豊臣秀吉朱印状が継がれて1巻に成巻されたもの。いずれも「文禄・慶長の役」に関連するものである。 (1)は5箇条からなる「定」で、軍規を遵守することを求めるものである。秀吉は天正20年6月に朝鮮半島への渡海を延期し、7月に大政所死去のため名護屋から大坂に戻った。再び名護屋に戻ったのが11月で、翌文禄2年3月の渡海に向けて兵粮と船舶の確保を奉行衆に命じている。(1)は秀吉が渡海の準備を進めるなかで、改めて朝鮮での軍勢の規律を求めたもので、朝鮮への兵站線上にある対馬に発給されたものと位置付けられる。 (2)は3箇条からなる「禁制」で、(1)と同じく軍規を守ることを命じたものである。宛所の南海島は、朝鮮半島の南岸の島で、倭城（日本型城塞）があった。南海島の倭城は、越冬の駐留拠点とするために、慶長2年10月中旬頃から半島南岸の各地に築かれた城塞の一つであり、宗義智が守っていた。城塞普請は突貫工事で進められ、用材と労働力の確保が急がれた。(2)は、城塞普請のための用材を確保できるよう、また労働力となる人々が逃散しないよう、軍規を守らせるために発給されたものと考えられる。 本品は、海軍軍人、貴族院議員、日本画家であった下條正雄（号：桂谷、1842-1920）の旧蔵品である。桂谷が入手する以前の経緯は不明であるが、明治に入ってから対馬宗家が売却したものだと推測される。当館所蔵の重要文化財「対馬宗家関係資料」の文書箱のうち、箱3（P18）の蓋上書には、「入 一朝鮮御陣之時秀吉公ゟ対馬国乱妨禁制之御朱印朝鮮国南海嶋禁制之御朱印一巻」とある。「入」という字が付けられたものは、明治11年(1878)に対馬から東京へ送られたものである。当館の「対馬宗家関係資料」にはこの巻子は含まれておらず、行方不明である。近代に入って流出した「宗家文書」は、巻子装から掛幅装に改装される場合が多いが、本品は巻子装の状態が維持されたまま、現在まで伝わったという点で大変貴重である。		

21　名称	凌煙閣功臣図（りょうえんかくこうしんず）	品　　質	紙本墨刷
作 者 等	市河寛斎序　沈南蘋跋　谷文晁写・識語　原画：劉源　版元：温古堂（江戸）	員　　数	1冊
時　　代	江戸時代 文化元年(1804)	寸 法 等	縦29.7cm　横20.3cm
作品概要	凌煙閣功臣図は、貞観17年（643）に唐太宗が閻立本に命じて宮中の凌煙閣に描かせた功臣24人の肖像壁画に由来する。本書は、康熙8年（1669）に蘇州で出版された劉源画『凌煙閣図』（紅葉山文庫旧蔵本・内閣文庫所蔵ほか）を、文化元年（1804）に谷文晁（1763～1840）が復刻した和刻本である。劉源本と比較すると、人物賛や観音大士、関羽像が省略され、功臣の順番も異なる。また、劉源本の蕭震、佟彭季、沈白、袁ホウ〔金＋方〕4人の序文が市河寛斎の序文に差し替えられ、沈南蘋の跋文と文晁自身の識語が加えられている。南蘋の跋については日本における偽作とする説がある一方で、陳洪綬の功臣像画冊（個人蔵）にある南蘋の跋との関係が指摘されている。		

（１）寄贈（56件）

＜書跡＞（4件）

1　名称	ゆきて見ぬ（ゆきてみぬ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	小山やす子筆	員　数	1面
時　代	平成14年(2002)「現代の書　新春展」出品	寸 法 等	額：縦121.2cm　横180.7cm
作品概要	小山やす子(ｺﾔﾏﾔｽｺ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞（平成8年〈1996〉）、毎日書道展文部科学大臣賞（平成14年〈2002〉）、第44回毎日芸術賞（平成15年〈2003〉）、恩賜賞・日本芸術院賞（平成21年〈2009〉）を受賞し、また旭日小綬章（平成15年〈2003〉）、紺綬褒章（平成25年〈2013〉）を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書の分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」（成田山書道美術館所蔵）は、小山自身そして平成を代表する仮名作品の一つである。 小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあって、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのではない、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さと、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。 本品は平成14年(2002)に毎日書道会の「現代の書 新春展」に出品したもので、『貫之集』所収の和歌3首を書写したもの。書き始めは行頭低く、字を小粒にするが、中程に至ると行頭を高くし、字を大きく変化させる。この運筆のリズム感、墨の渇潤、転折により、古典の情感を表現しようとした作品であると位置付けられる。		

2　名称	吹き過くる（ふきすぐる）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	小山やす子筆	員　数	1面
時　代	平成25年(2013)「毎日書道展」出品	寸 法 等	額：縦78.8cm　横180.8cm
作品概要	小山やす子(ｺﾔﾏﾔｽｺ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞（平成8年〈1996〉）、毎日書道展文部科学大臣賞（平成14年〈2002〉）、第44回毎日芸術賞（平成15年〈2003〉）、恩賜賞・日本芸術院賞（平成21年〈2009〉）を受賞し、また旭日小綬章（平成15年〈2003〉）、紺綬褒章（平成25年〈2013〉）を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書の分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」（成田山書道美術館所蔵）は、小山自身そして平成を代表する仮名作品の一つである。 小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあって、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのではない、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さと、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。 本品は平成25年(2013)に「毎日書道展」に出品したもので、西行の『山家集』所収の和歌5首を書写したもの。趣向を凝らした華やかな料紙を用い、非常に鑑賞効果が高い作品である。字の連綿、書と本紙の下絵・装飾のそれぞれの配置、本紙料紙と金銀箔を撒いた染紙との重ね方、料紙の貼り込み位置に小山のバランス感覚が見て取れる。小山が大字作品から小字作品へ移行し、自らの美意識を徹底的に追求した晩年の作品であると位置付けられる。		

3　名称	人はいさ（ひとはいさ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	小山やす子筆	員　数	1面
時　代	平成27年(2015)「日展」出品	寸 法 等	額：縦78.8cm　横212.0cm
作品概要	小山やす子(ｺﾔﾏﾔｽｺ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞（平成8年〈1996〉）、毎日書道展文部科学大臣賞（平成14年〈2002〉）、第44回毎日芸術賞（平成15年〈2003〉）、恩賜賞・日本芸術院賞（平成21年〈2009〉）を受賞し、また旭日小綬章（平成15年〈2003〉）、紺綬褒章（平成25年〈2013〉）を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書の分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」（成田山書道美術館所蔵）は、小山自身そして平成を代表する仮名作品の一つである。 小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあって、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのではない、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さと、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。 本品は平成27年(2015)に「日展」に出品したもので、『古今和歌集』所収の和歌4首（紀貫之の和歌3首、読み人知らずの和歌1首）を書写したもの。小気味良いリズムで筆を運び、みずみずしい書が展開される。唐草文の裂の縁取りと雲龍紙の台紙は、視線が文字に向かう効果を生み、作品が散漫かつ単調になることを防ぐだけでなく、書に清らかさと爽やかさを添えている。小山が大字作品から小字作品へ移行し、自らの美意識を徹底的に追求した晩年の作品と位置付けられる。		

4　名称	国学本蘭亭序（こくがくぼんらんていじょ）	品　質	紙本墨拓
作 者 等		員　数	1帖
時　代	（原跡）中国　東晋時代　永和9年(353) （拓本）中国　明-清時代　16世紀末-19世紀初	寸 法 等	縦29.2cm　横16.4cm　全長293.2cm
作品概要	「国学本」（または「国子監本」）と呼ばれる蘭亭序。明時代・万暦年間（1573-1620）に刻石が出土し、後に宮廷の国学（国子監）に移されたことから、この名で呼ばれる。国学本蘭亭序は、欧陽詢の臨書を刻したといわれる定武蘭亭序の系統とされる。 本品は旧蔵者の羅文俊（1789-1850）、その前の所蔵者、及び羅振玉（1866-1940）各々の題簽、計3枚の題簽を冒頭に貼り付ける。また翁方綱（1733-1818）、李宗瀚（1769-1831）、郭尚光（1785-1832）、周爾墉（1792-1859）の跋文を有す。清末民初の名だたる考証学・金石学者、収集家が本品を目にし、本品についての評価を与えている。		

＜金工＞（7件）

5　名称	水注（すいちゅう）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1口
時　代	高麗時代 12-13世紀	寸 法 等	総高24.5cm、蓋径10.0cm、底径9.5cm
作品概要	朝顔形に開いた太い頸部、肩衝形をなす胴部の肩に細長い注口が付き、蓋に蓮蕾形をした摘みをあしらった丸底の水注。蓋の鍔縁部分と把手には列点唐草を打ち、把手の胴部接合部には尖り花と花枝をそれぞれ線刻する。また、蓋の見込み部分には先の尖った九弁花をめぐらす。高麗時代の銅製蓋付き水瓶として典型的な作であり、丸底の肩衝形に鼓胴を立てたような形の本体と低い高台を備えた本品の形式は、わが国で鎌倉時代以降に盛行し唐物茶でも用いられたいわゆる信貴形水瓶の祖型と考えられる。		

6　名称	水瓶（すいびょう）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1口
時　代	高麗時代 12-13世紀	寸 法 等	総高32.5cm、口径9.3cm、底径9.6cm
作品概要	口が上開きで細長い頸部と下膨れの胴、やや裾開きの高台からなる銅製の花瓶。頸部と肩部、胴下半に隆帯が一条ずつめぐる。胴部から頸部にかけて、土中していた際についたと思われる籠目跡が残る。中国・北宋時代から金時代に通称「玉壺春」と呼ばれる類例の長頸瓶があり、わが国でも元徳2年（1330）の針書銘が残る大阪・観心寺所蔵品を基準作として、東京・浅草寺や愛知・岩屋寺所蔵品などに頸と腰に複弁蓮華飾りを施した同様の古例がみられ、一般に徳利形花瓶とも称される。同時代の中国・日本の長頸瓶と比較検討し、その影響関係を窺う上で重要な資料である。		

7　名称	浄瓶（じょうへい）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1口
時　代	高麗時代 12-14世紀	寸 法 等	総高37.0cm、底径8.9cm
作品概要	頂部に尖台と呼ばれる細長い飲み口を設け、胴部の肩に添水口を付けた水瓶。尖台は8面体に面取りし、先端にかけてわずかに細くすぼまる。蓋付きの添水口は短く括れて袋状をなす。浄瓶と呼ばれる水瓶の一種で、インドをはじめ南海各地で使われていたものが仏教伝来とともに東アジアにも伝えられた。特に朝鮮半島においては仏教文化が大きく花開いた高麗時代に盛んに用いられた。宣和5年（1123）に北宋の徐兢が徽宗の使者として訪れた高麗での見聞をまとめた『宣和奉使高麗図経』には、「浄瓶」が水を貯え「貴人、国官、道観、仏寺、民舎」で用いられているとの記載があり、高麗社会に広く受け入れられていたことが分かる。		

8　名称	水浄（すいびょう）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1口
時　代	高麗-朝鮮時代 13-15世紀	寸 法 等	総高23.7cm、口径9.1cm、底径9.3cm
作品概要	口縁部が高く立ち上がり、頸部が細く寸胴形をした特異な形状の水瓶。縁まわりに隆帯2条をもうけるほか、口縁下端に1条、頸部に2条、胴部の肩に2条、中央に3条の沈線をそれぞれめぐらす。高台は非常に高くわずかに末広がりで、底部には轆轤挽きした痕跡が明瞭に残る。高麗時代や朝鮮時代の金属器にはその器形を青磁等に写したものがしばしばあるが、本品のような器形については陶磁類に写しが見当たらず、金属器特有の器形と言いうるものである。		

9　名称	亀文象嵌銅筒（かめもんぞうがんどうづつ）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1基
時　代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	径12.0cm、高10.0cm
作品概要	銅板を円筒状に丸め、上下の端部を折り返してつくった筒型の銅器。胴部は太い隆帯で3段にわけられ、真鍮象嵌で上段には雲気文、中段には青海波に吉祥をあらわす正面向きの亀を前後1匹ずつ、下段には青海波をそれぞれあらわす。下段には、等間隔で円形の透かしを6つ設ける。朝鮮半島では古くから金属象嵌が盛んに行われており、特に朝鮮時代には真鍮象嵌が広く用いられ、器物にとどまらず様々な生活用具を飾った。本品の場合、胴全体のみならず口縁の折り返し先にまで真鍮象嵌で埋め尽くされており、朝鮮王朝時代に好まれた真鍮象嵌のあり方を知る上で貴重な資料である。		

10　名称	爵（しゃく）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1口
時　代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	高19.2cm、長16.8cm、最大幅10.2cm
作品概要	爵をかたどった祭器。3本の長く扁平な脚を伴う円筒型の胴部には、中央に沈線が2条めぐり、上辺に湾曲した流とよばれる注口と尾がほぼ同じ長さで作り出される。爵は、古代中国を代表する青銅器の一種で、特に殷時代から周時代にかけて盛行した。酒を入れて火のそばに置いて温め、注ぎ口から杯などに注いだ盛酒器と考えられる。秦・漢時代以降、青銅製の祭器・礼器の製作は途絶えたものの、周時代を理想とする儒教の儀式、特に孔子や儒教の先哲たちを祀る儀式である釈奠の際の祭器として重視された。朝鮮半島では高麗時代には中国からさまざまな文化がもたらされるなかで儒教も取り入れられ、特に朝鮮時代に入ってからは社会にひろく浸透した。本品も、当時行われた儒教の祭儀において用いられた朝鮮半島製の倣古銅器のひとつである。		

11　名称	双耳香炉（そうじこうろ）	品　質	銅
作 者 等		員　数	1合
時　代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	蓋径8.9cm、蓋高4.2cm、胴高22.0cm
作品概要	小ぶりな蓋付き据え香炉。蓋は扁平な頂部に切子形の摘みをつけ、周囲に八卦文を透かす。甑口の縁を伴う胴部はやや扁平な球形で、左右からは耳が甑口を貫通してやや外反しながら立つ。左右とも耳の内外に「香」の1字を刻む。胴中央に隆帯を1条めぐらす。脚台は別造りで円錐形をなす。朝鮮時代に製作されたもので、古代青銅器に範をとった一種の倣古銅器でありつつも、脚部が円錐形をなす点が特徴的である。室内調度品もしくは儒教の祭儀の際に他の様々な銅器とともに用いられたと考えられる。		

＜陶磁＞（2件）

12　名称	色絵花盆図大皿（いろえかぼんずおおざら）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	1枚
時　代	江戸時代 18世紀前半	寸 法 等	高10.4cm　口径60.0cm　底径30.3cm
作品概要	18世紀前半にヨーロッパ輸出向けに作られた古伊万里・金襴手様式の大皿である。金襴手様式は、柿右衛門様式の後に成立した色絵磁器の様式で、1690年代頃に誕生した。「金襴手」の名のとおり、金彩（または黄色）を主として、呉須と赤・緑・紫色の上絵具で文様を施す。国内向けと欧州輸出向けの二つのタイプがあり、後者は、18世紀になると本作品のように、緑・紫色は使用されず、呉須に赤・金色の三色が基本となる。 見込に描かれた花盆図は輸出向け金襴手様式磁器に最も数多く描かれた文様で、同時期の清朝磁器にもよく描かれた。本作品は、花盆図の中でも特殊で、花盆の壺や文様帯などヨーロッパの陶器や染織品に見られるデザインを意識的に採用している。特に人物文を描いた壺は非常に珍しく、注文主からの絵図などによる指示がないと描けなかった文様である。また、金襴手様式では、1690年代～1720年代頃までの早い時期を除いて、高台内に文様を描かないが、本作品には牡丹文が描かれている。さらに、口径が60cmを超えており、この点も18世紀の金襴手様式磁器では希少である。以上のことから、本作品は、ヨーロッパから依頼された特注品であったと考えられる。国内にある金襴手様式磁器のなかでも非常に珍しく、貴重な作品であるといえよう。		

13　名称	青瓷彫文壺（せいじちょうもんつぼ）	品　　質	青磁
作 者 等	中島　宏	員　　数	1口
時　　代	平成18年(2006)	寸 法 等	高38.5cm 口径38.5cm
作品概要	本作品は、重要無形文化財保持者（人間国宝）の中島宏氏の作品である。中島作品の特徴の一つである「彫文」を施している。これは、中島が青磁の勉強のために訪れた中国で青銅器に出会い、その造形の力強さに感動し、自らの手でやきものに表現したいと取り入れたものである。青銅器を彷彿とさせる堂々たる姿の壺を成形し、肩に一番幅広の帯を置き、そこを起点として上下に狭まるように配した帯の段々と、逆に広がるよう規則的に施した彫文が、壺全体にリズミカルな印象を与え、それが特徴のある立体感を生み出している。さらに帯と各文のキワの釉溜まりや、釉薬の厚みで入り方の異なる貫入が独特の表情をあらわす。 すべての技法が計算し尽くして施されながらも、品格は損なわれず、青磁釉の青色は深淵さと同時に、清々しさ感じさせる。まさに人間国宝が極めた高度な技術と思想のすべてを体現した作品といえよう。		

＜染織＞（1件）

14　名称	白綸子地染繍小袖裂（しろりんずじそめぬいこそでぎれ）	品　　質	絹（綸子）
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	縦100.0cm 横70.0cm
作品概要	小袖の背面腰より下を切り取った小袖裂。総鹿子に近い広範囲の鹿子絞りであること、紅色と藍色による地色であること、小袖の左腰部分（本裂紅地部分）は意匠表現が見られないこと、絞り染めと刺繍以外の加飾が見られないこと、地組織が綸子であること、以上の5点から、当初は江戸前期の小袖であったことが推測される。共裂と思われる裂が、国立歴史民族博物館所蔵の「小袖裂貼装屏風」に見られる。この屏風には19枚の小袖裂が貼り込まれるが、このうち13種は野村正治郎（1879-1943）旧蔵の小袖屏風の裂に共通することから、小袖屏風を作成した際に発生した端裂が流出し、貼り混ぜ屏風に仕立てられたものと推測されている。このため本小袖裂も野村コレクションに関係する資料である可能性が考えらる。		

＜考古＞（38件）

15　名称	大分県竹田市採集石器・石製品（おおいたけんたけたしさいしゅうせっき・せきせいひん）	品　　質	石製
作 者 等		員　　数	326個
時　　代	縄文時代～古墳時代 前10～6世紀、現代　20世紀	寸 法 等	長2.6cm　幅1.9cm　厚0.4cm ほか
作品概要	石鏃221個、石斧15個、扁平打製石斧15個、石匙２個、石槍１個、石刀１個、十字形石器１個、刀子形石製品１個、石鏃未製品１個、二次加工剥片20個、剥片46個、黒曜石原石２個からなる計326個の石器・石製品コレクション。縄文時代のものが中心で、石鏃等の剥片石器の石材には在地産チャートのほか遠隔地産の大分県姫島産黒曜石、西北九州産黒曜石が使用されており、この地域の典型的な石材組成を示す。扁平打製石斧、十字形石器、内反りの石刀については、縄文時代後晩期の九州に特徴的なものである。		

16　名称	石匙（いしさじ）	品　　質	石製
作 者 等	青森県出土	員　　数	13個
時　　代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長13.0cm　幅2.3cm　厚0.9cm　ほか
作品概要	つまみ部に紐を巻き付け、吊り下げて携帯する万能ナイフと考えられる石器で、縄文時代を代表する石器である。(1)～(3)は尖頭部を持つもの、(4)～(8)は縦型のもの、(9)～(13)は横型のものである。横型のものの中には、つまみ部にアスファルトが顕著に付着するものが多い。		

17　名称	箆状石器（へらじょうせっき）	品　　質	石製
作 者 等	青森県出土	員　　数	10個
時　　代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長5.9cm　幅2.8cm　厚1.2cm　ほか
作品概要	皮なめしに用いられたと考えられる石器で、縄文時代の東北から北海道に特徴的なものである。当該地域は寒冷地のため、皮革製品への需要が高かったと考えられる。この石器の分布から縄文文化の地域性を知ることができる。		

18　名称	石錐（いしきり）	品　　質	石製
作 者 等	青森県出土	員　　数	30個
時　　代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長6.7cm　幅2.6cm　厚0.7cm　ほか
作品概要	穴をあけるための道具で、縄文時代に特徴的な石器である。木器や皮革製品などの有機質の穿孔に用いられたものと思われる。柄部にはアスファルトによる固定痕が残るものがある。		

19　名称	石鏃（せきぞく）	品　　質	石製
作 者 等	青森県出土	員　　数	45個
時　　代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長5.3cm　幅1.4cm　厚0.8cm　ほか
作品概要	矢の先端に取り付けて使用する石器で、矢は弓で射って使用する。石鏃には有茎のものと無茎のものがある。茎部付近にはアスファルトが顕著に付着するものがある。弓矢は縄文時代を代表する狩猟具で、温暖化にともない狩猟対象が素早く動く小型動物に移行する過程で発明されたといわれる。東北出土の石鏃には本品にようにアスファルトによる固定痕が残るものが多い。アスファルトは石匙、骨角製漁労具、石錘の固定、また割れた土偶の補修などにも使用されることがある。		

20　名称	石斧（いしおの）	品　　質	石製
作 者 等	(1)(3)～(6)青森県東半　(2)青森県下北郡東通村浦野沢石持	員　　数	6個
時　　代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦12.2cm　横3.8cm　厚1.3cm　(2)縦9.6cm　横2.2cm　厚1.1cm　(3)縦7.3cm　横2.6cm　厚1.1cm　(4)縦5.7cm　横2.8cm　厚1.2cm　(5)縦3.7cm　横2.2cm　厚0.8cm　(6)縦2.5cm　横1.4cm　厚0.4cm
作品概要	磨製石斧。(1)～(3)は側面に石斧製作時の擦切痕を残し、特に(1)の長軸中央には途中で止めた擦切痕を残す。(4)～(6)は定角式。磨製石斧は縄文時代を特徴付ける石器で、竪穴住居の建築部材、丸木舟、各種木製の器等の製作のため、樹木の伐採加工に使用された。また、擦切技法による石斧製作技術は、新石器時代の中国北方や朝鮮半島、縄文時代～続縄文時代の北海道から東北北部、縄文時代後期の九州に分布しており、大陸との広域交流の可能性を考える上で重要である。		

21　名称	玦状耳飾（けつじょうみみかざり）	品　　質	石製
作 者 等	(1)青森県三戸郡五戸町大窪出土　(2)青森県下北郡東通村浦野沢石持出土	員　　数	2個
時　　代	縄文時代 6,000年前-5,000年前	寸 法 等	(1)縦5.0cm　横4.5cm　厚0.7cm　(2)縦3.0cm　横2.7cm　厚0.3cm
作品概要	扁平な三角形の耳飾で、三角形の頂点部分に穿孔を施し、穿孔から中央対面にまで長い切り込みを加えた石製耳飾。現状では、穿孔部で割れ、半分を欠失している。割れ口に沿って補修孔が見られる。玦状耳飾はC字状を呈し、縄文時代早期から中期の日本列島全域で出土する。中国の同形の耳飾が「玦」と呼ばれることからこの名がある。同形の耳飾は、東アジア一帯で出土し、中国から各地へ伝わったと考えられている。日本のものは縄文時代早期に環状のC字形のものがあり、前期には扁平化し平面形が縦円状や三角形状となり、孔が小型化、切り込みが長くなる。中期に入り横長化や縦長化が進行する。		

22　名称	編物圧痕付土器片（あみものあっこんつきどきへん）	品　　質	土製
作 者 等	(1)(2)青森県むつ市田名部最花出土　(3)青森県むつ市田名部品ノ木出土　(4)～(6)青森県東半出土	員　　数	6個
時　　代	縄文時代 6,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦12.3cm　横6.0cm　高4.0cm　(2)最大径8.9cm　高2.5cm　(3)最大径11.0cm　高1.9cm　(4)最大径16.8cm　高3.0cm　(5)縦10.0cm　横8.7cm　高3.2cm　(6)縦11.2cm　横8.0cm　高2.2cm
作品概要	編物圧痕を有する平底土器の底部破片である。編み方は、(1)～(3)は1本超え1本潜り1本送り、(4)と(6)は三方向の条材が交差する三方編み、(5)は経条緯条2本1組の2本超え2本潜り1本送り。底面に残る編物圧痕は、土器製作時の台座として使用された編物と考えられ、編物製台座を用いた土器製作技法を知ることができる。また、編物は、通常の遺跡では腐朽して遺存しないため、縄文時代の編物文化をも知ることができる。		

23　名称	嘴状石器（くちばしじょうせっき）	品　　質	石製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内高森山出土	員　　数	4個
時　　代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	(1)縦4.1cm　横2.5cm　厚0.6cm　(2)縦3.9cm　横2.7cm　厚0.8cm　(3)縦2.0cm　横2.7cm　厚0.3cm　(4)縦2.0cm　横2.6cm　厚0.5cm
作品概要	長軸が湾曲した石鏃に類似する石器である。有茎のものと無茎のものがある。縄文時代中期～後期の東北に見られる石器で、魚の解体などの漁労に関わる加工具や祭祀に関わる道具とも言われる。		

24　名称	石製垂飾（せきせいすいしょく）	品　　質	石製
作 者 等	(1)(2)(3)(5)青森県東半出土　(4)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　　数	5個
時　　代	縄文時代 5,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦4.9cm　横2.2cm　厚0.8cm　(2)縦3.3cm　横2.3cm　厚1.8cm　(3)縦6.0cm　横3.8cm　厚1.0cm　(4)縦5.0cm　横2.9cm　厚3.9cm　(5)縦4.1cm　横1.9cm　厚1.3cm
作品概要	東北北部の石製装身具である。(3)はサメの歯製垂飾を模したもの、(4)は勾玉形の自然石に穿孔を加えたもの、(5)は列点文を加え装飾性を高めたものである。		

25　名称	土製垂飾（どせいすいしょく）	品　　質	土製
作 者 等	(1)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土　(2)青森県東半出土	員　　数	2個
時　　代	縄文時代 4,500年前-3,500年前	寸 法 等	(1)縦5.5cm　横4.5cm　厚1.5cm　(2)縦2.6cm　横1.5cm　厚0.7cm
作品概要	列点文による装飾と器体長軸方向の穿孔を特徴とする東北北部の縄文時代中期～後期の土製垂飾と考えられる。器体長軸方向への穿孔は、この時期に盛行する翡翠製大珠に見られる特徴でもある。		

26　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径12.0cm　高11.8cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北北部から北海道南西部にかけて分布する十腰内Ⅰ式土器である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、注口土器、壺、台付鉢などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。特に注口土器や台付鉢は祭祀に用いられたと考えられており、これら多種多様な土器出現の背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

27　名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県八戸市南郷区島守下荒谷出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径6.5cm　高3.7cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。本品は、円錐形の傘部に、1条の沈線がめぐる円柱形の短い柄が付く。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

28　名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部字品ノ木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径5.6cm　高5.5cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。本品は、中高皿形の傘部に付け根の広がった円柱形の柄を持ち、やや異形を呈する。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

29　名称	円盤形土製品（えんばんがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	10個
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	(1)最大径5.3cm　厚0.6cm　(2)最大径4.1cm　厚1.0cm　(3)最大径4.0cm　厚0.5cm　(4)最大径3.1cm　厚0.6cm　(5)縦4.8cm　横4.8cm　厚0.7cm　(6)縦3.4cm　横3.6cm　厚0.8cm　(7)縦3.2cm　横3.6cm　厚0.8cm　(8)縦6.2cm　横3.1cm　厚1.0cm　(9)縦5.5cm　横3.3cm　厚0.8cm　(10)縦5.0cm　横2.7cm　厚0.9cm
作品概要	土器片を円盤形に再加工したもの。表裏面に土器の内外面の文様や調整痕が残る。(1)～(4)は典型的な円盤形のもので、他に(5)～(7)の三角形のものや(8)～(10)の長方形のものがある。用途は、土器製作時の器表面の調整具や祭祀具などと言われる。		

30　名称	分銅形土製品（ふんどうがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦3.3cm　横2.0cm　高4.8cm
作品概要	上端に穿孔のある台形の土製品。無文、中実。横断面は楕円形で、底部はやや膨らむ。		

31　名称	台付鉢形土製品（だいつきはちがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径5.2cm　高3.0cm
作品概要	台付鉢形土器のミニチュア製品。台付鉢形土器は縄文時代後期、晩期に発達した儀礼用の器で、盛り付けに使用されたと考えられる土器である。		

32　名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	2個
時　　代	縄文時代 4,000-3,000年前	寸 法 等	(1)直径8.0cm　高4.2cm　(2)直径5.9cm　高3.5cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。(1)は扁平で肉厚な傘部に、基部がやや広がる円柱形の柄が付く。(2)は皿形の傘部に、基部がやや広がる円柱形の柄が付く。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

33　名称	漆付着土器（うるしふちゃくどき）	品　　質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	直径8.5cm　高5.1cm
作品概要	割れた土器底部を漆塗用の容器として再利用したもの。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で漆工関係資料が出土することは非常に少ない。中でも本品のように漆工品生産に関わる資料はたいへん少ない。		

34　名称	弭形角器（ゆはずがたかっき）	品　　質	骨角製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦1.7cm　横1.3cm　高1.4cm
作品概要	鹿角を素材に、円柱形に切断して海綿質部分に穿孔を加えて製作されたもの。浮袋の口とも言われる。		

35　名称	腕輪形土製品（うでわがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦6.3cm　横2.8cm　厚1.2cm
作品概要	両端に穿孔が施された弧状の土製品である。貝製や猪牙製の半環状の腕輪を模したものと考えられる。		

36　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代 3,000年前	寸 法 等	最大径15.0cm　高17.0cm
作品概要	縄文時代後期、晩期の東北に分布する注口土器と考えられる。注口土器はこの時期に特徴的な土器で、その形態から、酒や水などの液体を用いた儀礼に使用されたものと考えられている。中には本例のように注口部を男性器に見立てたと言われる注口部直下に二袋状突起を取り付けたものがある。縄文時代には、女性を表現した土偶や男性を表現した石棒など、子孫繁栄に関わると言われる祭祀具が見られるが、本品はその多様性を示すものである。		

37　名称	有孔円盤形土製品（ゆうこうえんばんがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	5個
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)最大径5.8cm　厚0.5cm　(2)最大径5.1cm　厚0.6cm　(3)最大径5.0cm　厚0.4cm　(4)最大径4.6cm　厚0.6cm　(5)最大径3.4cm　厚0.5cm
作品概要	土器片を素材に、打ち欠き、穿孔、研磨により円盤形に仕上げた土製品で、紡錘車や装身具等と言われている。		

38　名称	ボタン状石製品（ぼたんじょうせきせいひん）	品　　質	石製
作 者 等	(1)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土　(2)～(6)青森県東半出土	員　　数	6個
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦5.3cm　横3.0cm　厚1.0cm　(2)縦4.9cm　横3.7cm　厚0.7cm　(3)縦4.5cm　横2.2cm　厚1.3cm　(4)縦3.9cm　横3.4cm　厚1.1cm　(5)縦3.3cm　横2.4cm　厚1.2cm　(6)縦2.8cm　横2.5cm　厚2.1cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。中央付近に2個1対の孔があり、ボタンの用途が推定されている。刻みや列点文により装飾性を高めたものもある。		

39　名称	小玉（こだま）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市大畑町出土	員　　数	50個
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	直径0.8cm　厚0.5cmほか
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて出土する亀ヶ岡文化の装身具である。扁平で球形のものに沈線で文様を施したものや分銅型のものがある。全面に赤漆が塗布されているが、漆は劣化し粉状化した赤色顔料が残るのみである。		

40　名称	牙製垂飾形土製品（げせいすいしょくがたどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市大畑町出土	員　　数	5個
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦6.6cm　横1.1cm　厚1.3cm　(2)縦2.7cm　横0.8cm　厚0.8cm　(3)縦2.2cm　横1.1cm　厚0.6cm　(4)縦2.0cm　横0.7cm　厚0.9cm　(5)縦1.4cm　横0.7cm　厚0.5cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。球形、円盤形、分銅形を呈し、沈線で装飾されたものがある。いずれもベンガラ漆により赤彩されているが、経年劣化により漆塗膜の光沢は見られない。		

41　名称	石製垂飾（せきせいすいしょく）	品　　質	石製
作 者 等	青森県むつ市大畑町出土	員　　数	7個
時　　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦2.3cm　横1.2cm　厚0.4cm　(2)縦2.1cm　横1.6cm　厚0.3cm　(3)縦1.6cm　横1.3cm　厚0.3cm　(4)縦2.0cm　横0.9cm　厚0.3cm　(5)縦1.1cm　横0.8cm　厚0.3cm　(6)縦1.3cm　横0.9cm　厚0.4cm　(7)縦1.1cm　横0.9cm　厚0.2cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。金属光沢を有する板状の鉄鉱石（褐鉄鉱）を素材とし、完成品（1～3）、穿孔途中の未完成品（4、5）、未加工の素材（6、7）で構成される。		

42　名称	長頸壺（ちょうけいこ）	品　　質	土製
作 者 等	朝鮮半島	員　　数	1口
時　　代	三国時代（新羅）　5世紀中葉	寸 法 等	高19.4cm　口径13.5-14.0cm　胴径18.0cm
作品概要	朝鮮三国時代の新羅において典型的な長頸壺。古墳に副葬されることが多い。 頸部の中央に突帯1条を作り出して上下に区画し、それぞれの区画に櫛描波状文をめぐらしている。 本来は脚部があったが、折り取られ、丸底になじむように基部まで研磨されている。脚部には少なくとも3方向の透窓が設けられていたとみられる。 新羅の台付長頸壺の脚部は、製作中の乾燥や焼成の過程で歪み、座りが悪いことが多い。本作では、脚部が歪んでいるか、あるいは破損していたために、近現代において商品として流通する際、脚部を除去したと考えられる。		

43　名称	鉢形土器（はちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道	員　　数	1口
時　　代	オホーツク文化 8-9世紀	寸 法 等	最大径8.3cm　高6.4cm
作品概要	オホーツク海沿岸部であるサハリン南部、北海道東北の沿岸部、千島列島に分布するオホーツク文化後期の土器と考えられる。オホーツク文化とは、5世紀～9世紀に上記地域に広がっていた文化で、海洋漁労と海獣狩猟を生業の中心としていた文化である。大陸や本州と交易し、金属器やガラス製品を入手していたと考えられている。日本列島中央部においては、旧石器時代に始まり、縄文時代、弥生時代、古墳時代へと続く教科書で学ぶ時代が展開したが、南北端においては、独自の文化が開花した。北端の北海道以北では、寒冷な気候条件などのために水田稲作が行われず、縄文時代以降、続縄文時代、オホーツク文化、擦文文化、トビニタイ文化、アイヌ文化といった狩猟採集漁労を生業とする文化が続いた。		

44　名称	小壺（こつぼ）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	タイ　後期新石器-鉄器時代 前1千年紀	寸 法 等	口径4.4cm　胴部最大径6.3cm　器高6.5cm
作品概要	小さな胴部から口頸部が直立する褐色の小型壺で、粗雑な成形からミニチュア土器の可能性がある。東南アジアで精製と粗製の土器の分化見られるのは、後期新石器時代以降である。しかし、タイの土器編年は精製土器を中心として編まれており、本品のような粗製土器については不明な点が多い。本品は新石器時代のような丸底ではなく、鉄器時代の平底を意識した小平底である。そこで、後期新石器時代から鉄器時代に移行する時期、紀元前1千年紀のうちに年代を押さえられる。東北タイでは、バーンチェン遺跡で知られる装飾土器文化が知られているが、本品はそのような精製土器と共にタイの先史土器文化を構成した粗製土器の例として学術的に貴重である。		

45　名称	壺（つぼ）	品　　質	土製
作 者 等	タイ　ナコーンラーチャシーマー県バーンプラサート遺跡出	員　　数	1口
時　　代	タイ　鉄器時代 前3世紀-後2世紀	寸 法 等	口径11.8cm　胴部最大径11.8cm　器高12.0cm
作品概要	算盤玉形の胴部にラッパ状の口縁部が付く赤褐色の壺である。底部は小さな上げ底で、赤色顔料をスリップに溶き全面に塗布する。出土地のバーンプラサート遺跡は、新石器時代から鉄器時代にかけて形成された遺跡で、紀元前3世紀に営まれた墓地遺構から出土した「バーンプラサート式土器」が鉄器時代の土器型式になっている。東北タイでは、装飾性の高いバーンチェン式土器に後続する型式で、ナコンラーチャシーマー県やブリラム県を中心に分布し、本品の特徴とも合致する。このような土器文化は、通婚圏または交易圏の広がりを示すものと理解され、本品は、鉄器時代における東北タイの土器文化の広がりを示す資料として、学術的に貴重である。		

46　名称	鈁（ほう）	品　　質	青銅
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	前漢時代 紀元前2世紀-前1世紀	寸 法 等	総高15.3cm、幅9.3×9.0cm
作品概要	平面の断面がほぼ正方形を呈する壺のことを鈁という。蓋は中央が正方形に縁取られ、そのなかに橋梁状の小さな鈕と四葉文を配する。その四方のなだらかな各斜面は台形に区画され、なかに巻雲文を施す。身は腹部上方に獣面形の座金具「鋪首」を飾るほか、とくに文様や装飾は見られない。しかし、鋪首を除く器身には工具で丹念に研磨された筋状の痕跡が随所に留まる。表面をできるだけ平滑に仕上げようとする前漢時代の青銅器製作の特徴をよく示している。 鈁は総高30センチを超えるものが一般的であるが、本作のように20センチ未満の小型の例も知られている。なかでも内蒙古自治区鄂爾多斯市東勝区漫賴古城で出土した鈁は、蓋の文様も大きさも本作と近似している。あるいは同じ工房の手による可能性も考えられる。		

47 名称	提梁壺（ていりょうこ）	品　質	青銅
作 者 等	中国	員　数	1合
時　代	前漢-後漢時代 前2世紀-後1世紀	寸 法 等	総高40.5cm、胴径17.3cm
作品概要	身と蓋からなる青銅製の壺であり、吊り手をともなう。肩部には獣面形の座金具「鋪首」を一対そなえる。鋪首には円環が留められ、円環からは「8」字形の金具を鎖のように連続させてつなぐ。この鎖の先端は双頭の龍をかたどった平板な持ち手につながる。途中、蓋の左右に固定された円環のなかにも鎖を通すことで、吊り手をもって壺を持ち上げてもぐらつかないようにしている。こうして容器の左右で鎖と連接され、固定された吊り手のことを「提梁」という。 提梁壺は中国の戦国時代から漢時代にかけて盛んに作られた。本作は胴部内面の一定の高さから下をきらきら光る結晶物の混じった錆が覆う。何らかの液体が入っていて、その成分が結晶化したのかも知れない。		

48 名称	緑釉温酒樽（りょくゆうおんしゅそん）	品　質	緑釉土器
作 者 等	中国	員　数	1合
時　代	前漢-後漢時代　前1世紀-後1世紀	寸 法 等	総高18.4cm、径19.7cm
作品概要	円筒形の器身に3本の足と蓋をともなう容器は温酒樽という。前漢時代中期から後漢時代前期にかけて高級な酒器として王朝全域で流行した。とくに王侯貴族は温酒樽を耳杯、勺などと組み合わせて、酒宴に好んで使用したことが知られている。本作のような低火度焼成でできた緑釉陶の温酒樽は、液体が染み出すので実用品ではなく、墓に副葬することだけを目的として作られた模型「明器」であることが知られる。 明器とはいえ、本作は獣面形の座金具「鋪首」や獣蹄形の三足といった細部に至るまで青銅製温酒樽の形態を忠実に模している。一方で、回転する轆轤から円筒形の底部を糸で切り離したり、鳳凰などの文様とともに蓋全体の形を一気に型から起こすなど、漢時代の土器によくある大量生産を図った製作技法の痕跡も見て取れる。		

49 名称	広口壺（ひろくちつぼ）	品　質	土製
作 者 等	朝鮮半島	員　数	1口
時　代	三国時代（加耶） 6世紀	寸 法 等	高16.3cm、口径13.5cm、胴径13.0cm
作品概要	朝鮮三国時代の加耶諸国のうち、韓国慶尚北道高霊を中心に最強を誇った大加耶の典型的な広口壺。古墳に副葬されることが多い。 口頸部は太く長く、器高の半ば以上を占める。頸部を沈線2条で頸部を3段に区画し、各区画に時計回り方向で11歯具による櫛描波状文をめぐらす。 焼成は良好で、固く焼き締まっている。胴部下位は内面に火ぶくれが生じている。灰青色に発色し、胴部下位は暗灰色、底部外面は黄灰色に発色する。口頸部内面に濃緑色の自然釉がかかり、型の外面にも薄く自然釉がかかる。		

50 名称	塼仏（せんぶつ）	品　質	土製
作 者 等	タイ	員　数	1個
時　代	タイ　10-15世紀	寸 法 等	縦2.2cm、横1.7cm
作品概要	塼仏は土を型押しして成型したもの。インドにおいて当初は釈尊の聖地巡礼に資するものであったが、やがて広く仏教文化圏に伝わり、多様な形で普及した。本塼仏はタイのもので、塼仏の形、大きさ、また像が単独で表わされることなどから、シュリーヴィジャヤ、ハリプンチャイ、スコータイなど比較的早い時期の塼仏と考えられる。摩滅により尊格は明らかではないが、像の輪郭から右膝を立て、右腕を膝にのせ、左手を床に置き重心のせるようにも見え、その場合は財宝神(Jamphala)の可能性もある。		

51 名称	碗（わん）	品　質	陶器
作 者 等		員　数	1口
時　代	カンボジア　アンコール時代 12-13世紀	寸 法 等	口径8.7cm　底径3.3cm　器高4.9cm
作品概要	黒褐釉をかけたクメール陶器の小型碗である。底部は露胎の平底であり、回転糸切り痕が確認される。風化が著しく、釉が薄い部分は剥げて胎土が露出する。クメール陶器とは9世紀から15世紀までの間、カンボジアを中心としてタイからマレー半島中部に版図を広げ繁栄したクメール王国で焼かれた施釉陶器である。9世紀末に登場した当初は乳白色から明緑色の灰釉であった。しかし、12世紀に黒褐釉をかけた器種が主体となり、13世紀になると黒褐釉の光沢が無くなり厚さにもムラが生じる。本品はクメール陶器では類例の少ない回転糸切りの採用が特異である。東南アジア固有の陶磁文化を生み出したクメール陶器の実例として、学術的に貴重な資料である。		

52 名称	奉献仏（ほうけんぶつ）	品　質	錫
作 者 等	スコータイ出土	員　数	1個
時　代	タイ　スコータイ/アユタヤー時代 14-15世紀	寸 法 等	縦6.1cm、横3.3cm
作品概要	型押しした小型の仏像をタイ語では「プラピム(Phra phim)」、特に小さいものは「クルアンラーン(Khruang rang)」という。奉献仏は仏塔の建立時などに、仏教の繁栄と永続を願って在家信者により仏塔の中心に様々な奉献物とともに納められるものである。本像に近い形状の奉献仏が、1424年建立と伝わるアユタヤーの中心寺院、ワット・ラーチャブーラナ仏塔地下に設けられた「クル(Kru)」といわれる空間から大量に出土していることから、遅くとも15世紀には使用されていたタイプの奉献仏であることがわかる。		

＜民族資料＞（4件）

53 名称	銅鼓（どうこ）	品　質	青銅
作 者 等	ラオス北部かタイ北部か中国雲南省	員　数	1口
時　代	18-19世紀	寸 法 等	高48.5cm、面径62.0cm、底径50.0cm
作品概要	青銅製の太鼓で、底部を設けず、筒状の器体上に平坦な鼓面がつく。鼓面では中央の光芒文を囲むように同心円状の文様帯が区画され、そのなかに変形羽人文・円圏文などさまざまな文様を飾る。これらの文様は蝋でできた銅鼓の原型にローラーのような道具を回転押捺させながら施したものである。鼓面縁辺の4箇所には3段重ねのカエル像を反時計回りに配する。側面の胴部にも多彩な文様のほかに、平面が「X」字形を呈する一対の把手や、ゾウとタニシのような生き物の小像を縦方向に並べた突帯などが見られる。 中国南部から東南アジアにかけて広く分布する銅鼓は、約2500年前に出現し、今でも一部の山岳地帯で使用されている。この銅鼓は18～19世紀にラオスやミャンマーなどで盛んに作られた型式の典型的な例である。		

54　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員　　数	1口
時　　代	1999年	寸 法 等	全長48.5cm、身長38.7cm
作品概要	インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。 本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。 剣身は蛇行し、屈曲は11回。鋒は丸い。 鋒側を天、柄側を地とするナーガの頭部が突き出すように彫り出されている。胴体は刻線による区画で表され、基部まで伸びて鐔に沿うように折れ、さらに剣身中央の蛇行する刻線2条の間を尾に見立てて鋒まで続く。ナーガの頭と体は真鍮で金彩した後に、刻線で鱗を表現する。上下の顎には、各2本の紐状の真鍮線によって髭を立体的に表す。 柄は木製で黒色。磨かれて光沢がある。 木製金属装の鞘を伴う。		

55　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員　　数	1口
時　　代	1999年	寸 法 等	全長47.1cm、身長38.0cm
作品概要	インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。 本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。 剣身に屈曲はなく直線的に伸びる。鋒は尖る。 剣身の両面中央に鎬が通る。剣身の両面に、鎬をまたいで左右に強く折り返るような刃文がみられる。 柄は木製で茶褐色。磨かれて光沢がある。 木製金属装の鞘を伴う。		

56　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員　　数	1口
時　　代	1999年	寸 法 等	全長46.4cm、身長37.2cm
作品概要	インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。 本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。 剣身は蛇行し、屈曲は5回。全体に細身の印象を受ける。鋒は鋭い。 断面形は薄い凸レンズ状で、明確な鎬は存在しない。剣身と平行に、木目状の刃文がみられる。 柄は木製で茶褐色。磨かれて光沢がある。 木製金属装の鞘を伴う。		

1-(1)-①-5　有形文化財に関する取組状況（文化財購入費）

令和4年3月31日

	令和3年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,101,070	41	621,070	39	480,000	2	0	0
東京国立博物館※	570,000	8	215,000	8	355,000	(1)	0	0
京都国立博物館	299,953	12	189,953	11	110,000	1	0	0
奈良国立博物館	0	0	0	0	0	0	0	0
九州国立博物館	231,117	21	216,117	20	15,000	1	0	0

※東京国立博物館購入1件分は、運営費交付金と寄附金の両方を財源としているため、実際の文化財購入件数は8件となる。

1-(1)-①-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,513	199	1,203	2,651	54	262	6,562	90	619	1,956	53	309	1,344	2	13
絵画	3,757	56	420	394	12	62	2,314	29	249	555	15	106	494	0	3
書跡	1,666	70	276	389	10	36	870	43	200	364	16	37	43	1	3
彫刻	867	9	191	150	2	41	261	1	63	428	6	85	28	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	991	15	86	126	5	17	571	3	37	200	7	30	94	0	2
刀剣	273	8	57	240	8	48				16	0	9	17	0	0
陶磁	1,443	1	7	108	0	2	1,021	1	4	8	0	0	306	0	1
漆工	746	15	57	76	6	14	529	4	16	117	5	26	24	0	1
染織	693	7	37	68	2	4	535	3	30	49	2	3	41	0	0
考古	957	13	35	161	4	13	421	6	10	217	2	11	158	1	1
民族資料	115	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	158	2	14	158	2	14									
東洋 書跡	51	2	8	51	2	8									
東洋 彫刻	12	0	0	12	0	0									
東洋 金工	2	0	1	2	0	1									
東洋 陶磁	169	1	1	169	1	1									
東洋 漆工	28	0	1	28	0	1									
東洋 染織	9	0	0	9	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和4年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	2年度	3年度			2年度	3年度			2年度	3年度			2年度	3年度			2年度	3年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,495	172	154	12,513	2,651	30	30	2,651	6,547	95	80	6,562	1,988	7	39	1,956	1,309	40	5	1,344
絵画	3,766	33	42	3,757	396	2	4	394	2,317	30	33	2,314	558	0	3	555	495	1	2	494
書跡	1,678	12	24	1,666	394	0	5	389	876	8	14	870	365	4	5	364	43	0	0	43
彫刻	842	37	12	867	140	13	3	150	262	1	2	261	432	3	7	428	8	20	0	28
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	997	22	28	991	128	0	2	126	565	21	15	571	211	0	11	200	93	1	0	94
刀剣	260	13	0	273	227	13	0	240					16	0	0	16	17	0	0	17
陶磁	1,450	1	8	1,443	114	0	6	108	1,022	1	2	1,021	8	0	0	8	306	0	0	306
漆工	738	26	18	746	82	0	6	76	510	26	7	529	120	0	3	117	26	0	2	24
染織	675	21	3	693	68	0	0	68	531	7	3	535	49	0	0	49	27	14	0	41
考古	968	3	14	957	161	0	0	161	424	1	4	421	227	0	10	217	156	2	0	158
民族資料	114	1	0	115	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	1	0	110
歴史資料	68	1	1	68	2	0	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	1	1	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	162	0	4	158	162	0	4	158												
東洋 書跡	51	0	0	51	51	0	0	51												
東洋 彫刻	11	1	0	12	11	1	0	12												
東洋 金工	2	0	0	2	2	0	0	2												
東洋 陶磁	168	1	0	169	168	1	0	169												
東洋 漆工	28	0	0	28	28	0	0	28												
東洋 染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
東洋 考古	487	0	0	487	487	0	0	487												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-①-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	31	0	3	29	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	6	0	3	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-②　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	20～29℃	27～81%
	収蔵庫	09：30～17：00	20～29℃	36～70%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	22～29℃	32～68%
	収蔵庫	09：30～17：00	20～24℃	48～59%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	21～29℃	38～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	19～31℃	40～65%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	45～60%
	収蔵庫	24時間運転	21～24℃	50～62%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	15～25℃	44～74%
	収蔵庫	24時間運転	20～22℃	48～60%
管理棟	収蔵庫	24時間運転	21～25℃	46～60%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～60%
	収蔵庫	8：40～17：20	19～24℃	55～60%（金工収蔵庫のみ45～55%
北収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-②-2 収蔵品に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和4年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	50件	画像	6,338件	画像	3,059件	（完了）
和古書・漢籍	10,152件			文字	4,269件	
洋古書	63件					

1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　令和4年3月31日現在

合計			
計		本格修理調査時	応急修理時
		28	219
絵画		1	81
書跡		0	10
彫刻		0	3
建築		0	0
金工		0	0
刀剣		0	1
陶磁		0	6
漆工		0	0
染織		25	28
考古		2	3
歴史資料		0	14
民族資料		0	0
和書		0	9
写真資料		0	28
東洋	絵画	0	10
	書跡	0	3
	彫刻	0	0
	金工	0	0
	陶磁	0	8
	漆工	0	0
	染織	0	6
	考古	0	9
	民族	0	0
法隆寺献納宝物		0	0
その他（黒田含）		0	0

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	191	132	83
絵画	61	47	4
書跡	13	26	4
彫刻	7	9	0
建築	0	0	0
金工	38	17	1
刀剣		2	2
陶磁	44	0	0
漆工	5	7	0
染織	0	4	0
考古	17	14	6
民族資料	0	0	2
歴史資料	6	0	4
和書	0	0	0
写真資料	0	6	0
その他	0	0	60

1-(1)-②-4 本格修理件数

令和4年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		82	53	9	3	17
絵　画		12	4	4	2	2
書　跡		7	2	1	0	4
彫　刻		2	0	1	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		4	0	3	0	1
刀　剣		2	0		0	2
陶　磁		0	0	0	0	0
漆　工		0	0	0	0	0
染　織		27	27	0	0	0
考　古		11	8	0	0	3
民族資料		2	0	0	0	2
歴史資料		3	0	0	0	3
和　書		1	1	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	2	2			
	書　跡	2	2			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	0	0			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	5	5			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-②-5 修理概況

【東京国立博物館】（計 53件）

＜絵画＞（4件）

1 列品番号	A-1	品　質	絹本着色
名　称	普賢菩薩像	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	縦159.1 横74.5
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。 (3年度は⑤の途中から実施)		

2 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画	員　数	60面
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦36.5　横63.8
年代世紀	18～19世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①本紙を取り外す。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 ④新規裏打ちを行う。 ⑤中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。 (3年度は③以降を実施)		

3 列品番号	A-11090	品　質	紙本着色
名　称	月次風俗図屏風	員　数	8曲1隻
時　代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2 横301.0; 本紙　第1扇 41.8 × 61.4, 第2扇 42.2 × 61.0, 第3扇 40.3 × 61.1, 第4扇 42.0 × 61.3, 第5扇 42.1 × 61.9, 第6扇 40.3 × 61.8, 第7扇 39.9 × 61.5, 第8扇 40.1 × 61.7
年代世紀	16世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行う。 ⑤新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した襲木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。 (3年度は④の途中から実施)		

4 列品番号	A-12347	品　質	絹本着色
名　称	扇面散図	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	本紙：縦51.5 横71.4
年代世紀	19世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補絹部分に補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首を新調して、掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。 (3年度は③の途中から実施)		

＜書跡＞（2件）

5 列品番号	B-3171	品　質	紙本墨書
名　称	山城切（秋興）	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.8×横28.0
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 (3年度は②の途中から実施)		

6 列品番号	B-3172	品　質	紙本墨書
名　称	山城切（春興）	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.7×横30.0
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 (3年度は②の途中から実施)		

＜染織＞（27件）

7 列品番号	I-335	品　質	絹製　錦、綾、羅、刺繍
名　称	羅道場幡	員　数	1流
時　代	奈良時代	寸 法 等	幡頭 幅41.3 ； 幡身 幅27.8 ； 総 丈246.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラス板を外す。 ②紙の台を上から当てたうえで表裏を反転させる。 ③幡頭・幡身・幡足に分離する。また幡足も各条に分離する ④幡頭・幡身・幡足をそれぞれ加湿の上で成形。 ⑤幡頭は内側に両面刺繍があるため、周囲を補強。劣化の激しい幡身・幡足には和紙で裏打ちを施す。 ⑥幡の形状にそって和紙を裁断し、本来の形状に組み立てる。 ⑦内部にクッション材を仕込み、幡の形状にそって窪みをつけた台に設置。 ⑧上面からアクリル板を落とし込み、低加圧式ウィンドウマット装とする。		

8 列品番号	I-337-6	品　質	絹製、纐纈・平絹
名　称	緑地目結文纐纈平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦21.9 横28.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-6とI-337-7の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

9 列品番号	I-337-7	品　質	絹製、纐纈・平絹
名　称	緑地目結文纐纈平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦20.4 横28.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-6とI-337-7の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

10 列品番号	I-337-48	品　質	絹製、繧繝・平絹
名　称	茶地霞襷鳥文繧繝平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦13 横15.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④中性紙のウィンドウマット装にする。		

11 列品番号	I-337-49	品　質	絹製、繧繝・平絹
名　称	緑地霞襷鳥文繧繝平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦18.5 横9.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

12 列品番号	I-337-50	品　質	絹製、繧繝・平絹
名　称	紫地海賦文繧繝平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦9.7 横4.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④中性紙のウィンドウマット装にする。		

13 列品番号	I-337-54	品　質	絹製、繧繝・平絹
名　称	緑地草花文繧繝平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦29.2 横23.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

14 列品番号	I-337-57	品　質	絹製、繧繝・平絹
名　称	淡青地草花文臈纈平絹腰裖残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦23.4 横14.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

15 列品番号	I-337-89	品　質	絹製、夾纈・平絹
名　称	淡茶地集花文夾纈平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦27.0 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

16 列品番号	I-337-90	品　質	絹製、夾纈・平絹
名　称	淡茶地集花文夾纈平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦26.6 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

17 列品番号	I-337-109	品　質	絹製、夾纈・羅
名　称	茶地花葉文夾纈羅	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦40.0 横25.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

18 列品番号	I-337-134	品　質	絹製、綾
名　称	紫地飛仙文綾天蓋垂飾残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦33.7 横27.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

19 列品番号	I-337-135	品　質	絹製、綾
名　称	紫地雲鳳文綾天蓋垂飾残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦39.8 横26.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

20 列品番号	I-337-136	品　質	絹製、綾
名　称	黄地花唐草文綾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	16.1 横24.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

21 列品番号	I-337-137	品　質	絹製、綾
名　称	紫地花唐草文綾幡足残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦24.4 横15.9
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④中性紙のウィンドウマット装にする。		

22 列品番号	I-337-171	品　質	絹製、錦
名　称	紫地唐花文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦25.2 横27.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②糸目を揃える。 ③和紙で裏打ちを行う。 ④中性紙のウィンドウマット装にする。		

23 列品番号	I-337-173	品　質	絹製、錦
名　称	黄地唐花文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦17.8 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。③縁の処理を行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

24 列品番号	I-337-176	品　質	絹製、錦
名　称	長斑花鳥文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦16.0 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③縁の処理を行う。 ④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

25 列品番号	I-337-196	品　質	絹製、錦
名　称	黄地連珠入亀甲繋花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦12.3 横11.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-196とI-337-197の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

26 列品番号	I-337-197	品　質	絹製、錦
名　称	黄地花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦13.0 横11.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-196とI-337-197の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

27 列品番号	I-337-198	品　質	絹製、錦
名　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦13.1 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-198とI-337-199の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

28 列品番号	I-337-199	品　質	絹製、錦
名　称	白茶地花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦13.5 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-198とI-337-199の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

29 列品番号	I-337-200	品　質	絹製、錦
名　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦12.4 横11.6
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-200とI-337-201の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

30 列品番号	I-337-201	品　質	絹製、錦
名　称	緑地唐花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦12.9 横12.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-200とI-337-201の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

31 列品番号	I-337-233	品　質	絹製、錦
名　称	淡縹地唐花文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸法等	縦34.8 横9.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-233とI-337-234の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

32　列品番号	I-337-234	品　　質	絹製、平絹・纐纈
名　　称	黄緑地目結文纐纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横8.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。 ②クリーニングの上、形を整える。 ③I-337-233とI-337-234の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

33　列品番号	I-721	品　　質	絹
名　　称	小袖白綾地秋草模様	員　　数	1領
時　　代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2 裄65.1
年代世紀	18世紀	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	①解体する。②補強、補修を行う。③旧修理を除去する。④表地に補修裂を綴じ付ける。⑤裏地を新調する。⑥仕立て　左右の袖を入れ替える（現状変更） ⑦収納 （2年度は①の途中まで、3年度は③まで）		

＜考古＞(8件)

34　列品番号	J-8897	品　　質	鉄製、金銅製
名　　称	方頭大刀	員　　数	1口
時　　代	奈良時代	寸 法 等	刀身（残存長） 45.5 ； 刀身（残存幅） 3.5 ； 柄（残存長） 12.5 ； 柄（残存幅） 3.5
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②脱塩処理をする。 ③樹脂含浸による補強をする。 ④接合する。 ⑤補強個所の補彩を施す。 ⑥安定台（展示台）を作成する。 (3年度は③以降実施)		

35　列品番号	J-8898	品　　質	鉄製
名　　称	鉄板	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦（残存） 31 ； 横（残存） 16 ； 厚（最大） 3
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②脱塩処理をする。 ③樹脂含浸による補強をする。 ④接合する。 ⑤補強個所の補彩を施す。 ⑥安定台（展示台）を作成する。 (3年度は③以降実施)		

36　列品番号	J-21576	品　　質	土製
名　　称	埴輪 帽子を被る男子	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高72.8cm
年代世紀	6世紀	施工会社	株式会社東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③頭部と胴部の接合を中心に強化し、整形する。 ④欠失部を補填し、復元する（ただし左腕と鞘尻の形状については類例がないため復元しない）。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は②以降実施)		

37　列品番号	J-22780	品　　質	土製
名　　称	深鉢形土器	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高30 口径20
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、石膏などを除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部分を補填、復元する。 ⑤補填箇所に補彩する。 (3年度は②の途中から実施)		

38　列品番号	J-23174	品　　質	土製
名　　称	壺形土器	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高40 口径33
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、石膏などを除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部分を補填、復元する。 ⑤補填箇所に補彩する。 (3年度は②以降実施)		

39　列品番号	J-23765	品　　質	土製
名　　称	甕形土器	員　　数	1個
時　　代	擦文時代	寸 法 等	器高14.3 底径6.7
年代世紀	8世紀	施工会社	株式会社東都文化財保存研究所
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し接合する。 ④欠失部分を補填し復元する。 ⑤補填箇所に補彩する。 (3年度は③以降実施)		

40 列品番号	J-38859-16	品　　質	土師器
名　　称	S字状口縁甕	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高9.3～26.0 口径10.2～17.0
年代世紀	3～4世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。ただし、表面の煤焦げは用途を証明する部位のため取り去らない。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。この際、制作時本来の形状である脚台も復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。ただし、脚台は後補であることが明瞭な仕上げにする。 (3年度は①の途中から実施)		

41　列品番号	J-7822	品　　質	土師器
名　　称	埴輪 馬	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高78.9 長77.2
年代世紀	6世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。 （2年度は①の途中まで、3年度は④まで）		

＜和書＞(1件)

42　列品番号	QB-30	品　　質	紙本墨摺
名　　称	大三川志	員　　数	109冊
時　　代	江戸時代	寸 法 等	各冊とも、縦26.4×横18.1
年代世紀	18世紀	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
補足事項	リーフキャスティング（漉き嵌め）法による修理とする。 ①修理前調査を行なう。 ②解体する。 ③リーフキャスティング前処置（本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生麩糊で固定）をする。 ④リーフキャスティング（本紙に適した楮・三椏の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく） ⑤断裁作業（周囲を本紙保護に適した余白を残して裁断する） ⑥表紙を補修する。 ⑦元の冊子装に製本する。 （2年度は①まで、3～4年度は②～⑦を行う）		

＜東洋絵画＞(2件)

43　列品番号	TA-40	品　　質	絹本墨画淡彩
名　　称	第二十三天聖尊者図軸	員　　数	1幅
時　　代	高麗時代	寸 法 等	縦60.2 横41.6
年代世紀	13世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③表打ちをして養生をしたのち、旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補絹部分に補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首、端喰は再使用して、掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、桐製保存箱、布貼覆帙を新調する。 （3年度は③の途中から実施）		

44　列品番号	TA-694	品　　質	紙本墨画淡彩
名　　称	五馬図巻	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	縦27.8 長さ256.5
年代世紀	11世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打ち紙を除去し、現状の補紙は検討の上処置する。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して巻子装に仕立てる。 ⑥桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。 (3年度は⑤以降実施)		

〈東洋書跡〉(2件)

45　列品番号	TB-1215	品　　質	紙本墨書
名　　称	草書尺牘巻	員　　数	1巻
時　　代	明時代	寸 法 等	本紙 縦19.0×横91.0
年代世紀	14世紀	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②墨、印章の剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙上下部に足し紙、欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥旧表装裂は再使用し、覆輪、軸木、八双、紐、爪は新調し、中国式の巻子装に仕立てる。 ⑦保存箱は再使用し、タトウは布貼覆帙を新調する。 （3年度は③の途中から実施）		

46　列品番号	TB-1458	品　　質	紙本墨書
名　　称	行書三帖巻	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	(1)叔晦帖：縦24.5 横29.6 (2)李太師帖：縦26.0 横34.5 (3)張李明帖：縦25.8 横31.3
年代世紀	11～12世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤見返し、紐、コハゼ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて巻子装に仕立てる。 ⑥桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調して収納する。 (3年度は⑤以降実施)		

〈東洋漆工〉(1件)

47　列品番号	TH-388	品　　質	木製漆塗
名　　称	雲龍螺鈿机	員　　数	1基
時　　代	朝鮮時代	寸 法 等	幅75.8 奥行34.3 高27.7
年代世紀	19世紀	施工会社	東京藝術大学
補足事項	①外れている破損部を、元の位置に接着する。欠失している部材を補う。 ②剥離した漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。 ③亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填し、強化する。 ④全体を養生しクリーニングを行う。 （3年度は③以降実施）		

〈東洋染織〉(1件)

48　列品番号	TI-421	品　　質	絹製、羅・繻絲
名　　称	九条袈裟紫地唐草文様印金／草花文様繻絲	員　　数	1肩
時　　代	元～明時代	寸 法 等	長231.5 幅：右端 101.5 中央89.8 左端92.0
年代世紀	14世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①解体する。 ②表面に付着した汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。 ④補修絹を加工し、欠損部に補絹を行う。 ⑤裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける ⑥芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、表地を仕立てる。 ⑦紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。 ⑧表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。 ⑨中性紙製収納箱を作製し、袈裟を収める。 (3年度は⑤以降実施)		

〈東洋考古〉(5件)

49　列品番号	TJ-2976	品　　質	土製
名　　称	灰陶短頸壺	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高18.7　口径9.8
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は②以降実施)		

50　列品番号	TJ-2979	品　　質	土製
名　　称	灰陶竈	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高18.5　径23.6／器身：高17.7　径19
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体し、石膏を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は①の途中から実施)		

51　列品番号	TJ-2981	品　　質	土製
名　　称	灰陶盒	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高12　長21.8／器身：高17.5
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体し、石膏を除去する。 ②クリーニングする（魚骨が遺存する土は除去しない）。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は①の途中から実施)		

52　列品番号	TJ-3006	品　　質	土製
名　　称	灰陶蓋	員　　数	1口
時　　代	後漢時代	寸 法 等	径11 高6.1
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は②の途中から実施)		

53　列品番号	TJ-5824	品　　質	土製
名　　称	灰陶竈	員　　数	1基
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高12.5cm,長幅22.7cm,短幅12.7cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 (3年度は②の途中から実施)		

【京都国立博物館】（計9件）

＜絵画＞（4件）

1　名　　称	遠浦帰帆図（えんぽきはんず）	員　　数	1幅
時　　代	中国･南宋時代（13世紀）、伝牧谿	寸 法 等	縦32.5cm×横112.3cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	① 修理前の本紙の状態を写真撮影し、調査を行う。 ② 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して、旧裏打紙を除去する。 ③ 浄化水で本紙表面の汚れを除去する。 ④ 膠水溶液で墨及び印の朱の剥落止めを行う。 ⑤ 旧肌裏紙、旧補修紙を除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補修紙にて補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 ⑧ 本紙に美栖紙にて増裏打を行う。 ⑨ 折れ伏せを入れる。 ⑩ 表装裂地などはこれまでの伝来を示すものとして、できる限り再使用する。 ⑪ 本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻す。 ⑫ 美栖紙にて中裏打を行う。 ⑬ 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りして充分に乾燥させる。 ⑭ 桐製太巻添軸、旧箱を合わせて収納する二重箱をそれぞれ新調し、包裂に包む。 ⑮ 2か年修理で、総工費629万2,588円（見積額）の予定。		
指　　定	重要文化財		

2　名　　称	阿弥陀八大菩薩図（あみだはちだいぼさつず）	員　　数	1幅
時　　代	朝鮮王朝時代（16世紀）	寸 法 等	縦148.2cm　横159.4cm
品　　質	絹本著色	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	①写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ②解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ③本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ④本紙の汚れを除去する。 ⑤絵具層の剥落止を行う。 ⑥本紙の肌裏紙を除去する。 ⑦本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。 ⑧各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑨補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。 ⑩掛幅装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。 ⑪桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

3 名　称	山水図（さんすいず）	員　数	1幅
時　代	室町時代（15世紀）、拙宗	寸 法 等	縦98.2cm　×　横33.2cm
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	① 本紙の状態を調査、記録して損傷状況を精査する。 ② 掛軸装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 本紙表面に数次の剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 増裏を施した上、折伏せを入れる。 ⑨ 新たに選定した表装裂を、三段表具として付け回す。 ⑩ 中裏、総裏を施す。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した軸木、八双、金具類、掛緒、巻緒などを取り付ける。軸首のみは元のものを再使用する。 ⑬ 新調した包裂に包み、同じく新調した桐太巻及び屋郎箱に納める。軸木などをふくむ旧表装は旧箱におさめ、全体を中性紙の保存箱で保管する。 ⑭ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		
指　定	重要文化財		

4 名　称	雪裡三友図（せつりさんゆうず）	員　数	1幅
時　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	縦131.5cm　横37.3cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ②掛軸装をし、本紙と表装裂地及び一部の裏打紙を取り外す。 ③あらかじめ危険個所の剥落止めを行った上で、本紙の汚れを除去する。 ④改めて剥落止めを行う。 ⑤適切な方法で、本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙の欠損部分に補修紙を入れる。 ⑦各種の裏打を新たに施し、折れ伏せを入れて補強する。 ⑧補修紙に補彩を施す。 ⑨掛軸装に仕立てる。 ⑩必要に応じて桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、収納する。 ⑪修理後の記録をとり、報告書を作成し、納品する。		
指　定	重要文化財		

＜書跡＞（1件）

5 名　称	説一切有部品類足論巻第十五（孝謙天皇願経） （せついっさいうぶぼんるいそくろんかんだい15）	員　数	1巻
時　代	奈良時代　神護景雲二年（768）	寸 法 等	縦27.4cm　横485.6cm
品　質	紙本墨書	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①本紙のを詳細に調査し、写真撮影等を行い、修理前の状況を記録する。 ②現状の巻子装より本紙を取り外す。 ③柔らかい筆などを用いたドライクリーニングを行い、本紙の負担がかからないように埃や汚れを取り除く。 ④最小限の加湿を与え、旧肌裏紙の除去を行う。 ⑤デジタル撮影した料紙データを元に、DIIPS方式にて虫損箇所の補修紙を準備する。 ⑥作製した補修紙を用いて、虫損による欠失箇所を補填する。 ⑦本紙の色調に合わせて染色した薄美濃紙と新糊を用いて、肌裏打ちを行う。 ⑧折れが発生している箇所や今後、折れの発生する恐れのある箇所に楮紙と新糊を用いて、折れ伏せを施す。 ⑨本紙を元の順番に継ぎ直す。 ⑩楮紙と新糊・布海苔抽出接着剤の混合糊を用いて、総裏打ちを行う。 ⑪仮張りを行い、十分に乾燥させる。 ⑫新調した表紙、八双、紐を用いて表紙を作製する。 ⑬巻頭に新調した表紙、巻末に新調した軸巻紙、軸首は元のものを修理し再使用し、新調した軸木等を取り付け、巻子装に仕立てる。 ⑭桐太巻添軸1本を新調し太く巻き、羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱1箱に納める。 ⑮写真撮影等を行い、修理後の記録をする。 ⑯修理報告書を作成し、修理を完了する。		

＜彫刻＞（1件）

6 名　称	木造神像のうち　伝宇賀御魂神立像 （でんうがみたましんりゅうぞう）	員　数	1躯
時　代	江戸時代　17～18世紀	寸 法 等	像高100.6cm
品　質	木造彩色	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	①付着する塵埃を払い、汚れをできるだけ除去する。 ②表面の後補彩色は、下層の当初彩色に留意して除去する。 ③当初彩色層の浮き上がりは、膠・樹脂等で剥落止めを行う。また後補彩色の除去後に木地が露出する箇所は、周囲に合わせて古色による補彩を行う。 ④矧ぎ目が離れる箇所は一旦取り離して劣化した膠等を除去し、目違いを修整して組み付ける。また矧ぎ目が離れずに緩みや隙間がみられる箇所は、隙間に膠や薄板を差し入れ、矧ぎ目を木屎漆で整形し補修する。 ⑤後補の顎鬚は取り離し、形状の修整を行い取り付ける。後補の鼻先は木屎漆で修整する。 ⑥脱落する両手先は、新たな膠で接着し復位する。 ⑦割損脱落する左手第一指は、膠と漆で接着し復位する。欠失する第五指先は桧材で補足する。 ⑧狐の尾の蟻枘が緩い箇所は薄板を貼って調整し、安定をはかる。 ⑨台座は漆仕上げの方座を新補し、安定を図る。		

＜金工＞（3件）

7 名　称	三足香炉（さんそくこうろ）	員　数	1口
時　代	江戸時代　元和八年(1622)	寸 法 等	高さ17.0　口径24.8　底径20.0
品　質	鉄鋳造	施工会社	公益財団法人元興寺文化財研究所
補足事項	①純水による器体全体のクリーニングを行う。 ②炉内の剥離個所については極力残す方向性でクリーニングを行うが、処置によりやむを得ず崩壊した箇所については樹脂による再接着はせず、破片を保管する。 ③防錆処理を行う。 ④錆化の進行度合いによって、樹脂塗布ないし樹脂含浸を行う。 ⑤処置中の適切な段階で、三次元計測及び乾式・湿式拓本による外周部陽鋳銘の記録調査を行う。 ⑥処置中の適切な段階で、X線写真撮影を行う。 ⑦報告書を作成する。		

8 名　称	刀　銘藤原鎮清（かたな　めいふじわらしげきよ）	員　数	1口
時　代	藤原鎮清　室町時代・16世紀	寸 法 等	全長108.2cm　刃長81.7cm
品　質	鉄鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を純銀で新規製作する。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。 ⑧報告書を作成する。		

9 名　称	刀（かたな）	員　数	1口
時　代	河内守国助（二代）　江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長69.6cm　刃長54.3cm
品　質	鉄鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を清掃し、調整を行う。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。旧白鞘には鞘書が存在するため、これを保管する。 ⑧報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】（計3件）

＜絵画＞（2件）

1 名　称	絹本著色聖徳太子絵伝	員　数	2幅
時　代	南北朝時代	寸 法 等	
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。		

2 名　称	絹本著色十二天像	員　数	12幅
時　代	鎌倉～南北朝時代	寸 法 等	
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。		

＜彫刻＞（1件）

3 名　称	木造二十八部衆立像（毘沙門天・毘楼博叉天）	員　数	2軀
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	
品　質	木彫	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	クリーニング、再接着、形状整形、補修、剝落止め、補足安定化、部材取り付け。		

【九州国立博物館】（計17件）

＜絵画＞（2件）

1 名　称	釈迦三尊図（しゃかさんぞんず）	員　数	3幅
時　代	中国・元時代　13-14世紀	寸 法 等	各 縦135.5cm　横77.2cm
品　質	絹本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装を解体する。 3.汚れを除去する。 4.料絹欠失箇所に電子線劣化絹にて補絹を行う。 5.布海苔抽出液で養生を施し、肌裏紙を除去する。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.中縁裂は可能であれば再使用し、総縁裂と風袋裂を新調して、仏表装の形に付け廻しする。 9.中裏打ち、総裏打ちを行う。 10.補絹箇所に補彩を施す。 11.吊鐶は再使用し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、3幅入り桐製印籠箱を新調する。 （2～3年度　2か年継続事業、3年度は12まで実施）		

2 名　称	大坪流馬術印可状及び馬術図	員　数	4巻、7枚
時　代	印可状：江戸時代　元和3年(1617) 馬術図：江戸時代　17世紀	寸 法 等	印可状：縦18.2cm　横108.2cm 馬術図：縦30.4cm　横39.1cm
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装を解体する。 2.膠水溶液にて墨、絵具層の剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.印可状は本紙のフラットニングを行い、本紙裏面から損傷箇所の補修を行う。馬術図は旧肌裏紙等を除去する。 5.折れ伏せを施す。 6.印可状は再度、本紙のフラットニングを行い、馬術図は新たに裏打を行う。 7.馬術図は補修箇所に補彩を施し、印可状は巻子装に仕立てる。 8.桐製印籠箱を新調する。		

＜書跡＞（4件）

3 名　称	高麗再雕版大方等無想経	員　数	6帖
時　代	韓国・高麗時代　13世紀	寸 法 等	縦29.2cm 全長：巻1 350.9cm，巻2 568.7cm，巻3 長568.7cm，巻4 532.4cm，巻5 459.8cm，巻6 453.8cm
品　質	紙本墨刷	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装を解体する。 2.汚れを除去する。 3.旧補修紙等を除去する。 4.本紙欠失箇所の補修を行う。 5.亀裂箇所に補強を施す。 6.本紙欠落箇所に補修を施す。 7.表紙と裏表紙を作成し、折本装に仕立てる。 8.裂貼箱帙を新調する。		

4 名　称	伊勢集断簡(石山切)	員　数	1幅
時　代	平安時代　12世紀	寸 法 等	縦19.9cm　横15.6cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装の解体を行う。 3.汚れを除去する。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.損傷箇所の補修を行う。 6.新たに裏打ちを行い、折れ伏せを施す。 7.表装裂地は再使用し、掛幅装に仕立てる。 8.桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調する。		

5 名　称	醍醐天皇宸翰 模本	員　数	1巻
時　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦32.4cm　横196.3cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.再度剥落止めを行う。 5.旧裏打紙を除去する。 6.本紙欠失箇所に補修を施す。 7.新たに裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施し、総裏打ちを行う。 9.表紙と見返しは補修を施し再使用して巻子装に仕立てる。 10.桐製太巻添軸、桐製印籠中箱、漆塗桐製台差紐付外箱を新調する。		

6 名　称	大乗密厳経上巻（色定法師一筆一切経）	員　数	1巻
時　代	鎌倉時代・建久5年(1194)	寸 法 等	縦24.6cm 全長806.7cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 5.本紙欠失箇所の補修を行う。 6.折れ伏せを施す。 7.新たに裏打ちを施し、本紙を継ぎ合わせる。 8.表紙と軸巻紙を新調し、本紙に継ぎ合わせる。 9.軸首を再使用して巻子装に仕立てる。 10.桐製太巻添軸、桐製印籠中箱、黒漆塗桐製台差外箱を新調する。		

＜金工＞（1件）

7 名　称	霰地真形釜欠風炉	員　数	1口
時　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	総高25.2cm　羽径39.6cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
補足事項	1.内外面の赤錆を除去する。 2.内面の隙間に入った灰を除去する。 3.ひび割れ部分に漆を浸透させ、剥離を防止する。 4.金漆を充填し補強する。 5.全体の補修が完了後、錆止め処置と色調合わせを行う。		

＜刀剣＞（2件）

8 名　称	短刀　銘吉光	員　数	1口
時　代	室町時代前期　14-15世紀	寸 法 等	総長24.9cm　刃長16.9cm　反なし　元幅1.9cm　元重1.0cm
品　質	鉄・鍛造	施工会社	刀剣研師　小宮　光敏
補足事項	1.茎の手入れをする。 2.棟の錆を取る。 3.彫り物の掃除をする。 4.平地を手入れし、うすいシミを除去する。 5.棟を磨く。 6.拵えの目釘を新調する。 7.色上げし直した鎺を装着し、白鞘に納める。		

9 名　称	刀　朱銘長義	員　数	1口
時　代	南北朝時代　14世紀	寸 法 等	全長87.4cm 刃長66.8cm 反1.5cm 元幅3.0cm 先幅2.0cm 元重0.7cm 先重0.4cm
品　質	鎬造	施工会社	刀剣研師　小宮　光敏
補足事項	1.茎の黒色部分を手入れする。 2.改正砥で錆と刃こぼれを取り、姿を直す。 3.樋を磨く。 4.名倉砥、内曇砥を用いて研磨を行う。 5.刃艶砥、地艶砥で整える。 6.刃取りを行う。 7.差込み拭いをかける。 8.鉾子をナルメる。 9.チリ、棟を磨く。 10.金を着せなおした鎺を装着し、白鞘に納める。		

＜考古＞（3件）

10 名　称	福岡県指定　ガラス璧(三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員　数	2点
時　代	弥生時代　前1～後1世紀	寸 法 等	1：復原径12.3cm　2：復原径12.0cm
品　質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板、艶消し黒色アクリル塗装）を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。		

11 名　称	福岡県指定　金銅四葉座飾金具 (三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員　数	2点
時　代	弥生時代　前1～後1世紀	寸 法 等	各最大径7.8cm
品　質	金銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板、艶消し黒色アクリル塗装）を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。		

12 名　称	福岡県指定　連弧文「清白」鏡 (三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員　数	1面
時　代	弥生時代　前1～後1世紀	寸 法 等	復原径16.4cm、鈕径2.2cm
品　質	青銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板に、艶消し黒色アクリル塗装）を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。		

＜民族資料＞（2件）

13 名　称	浮彫十二支像（善徳女王陵）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0cm 横74.0cm
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.旧肌裏紙の除去を行う。 5.本紙周囲に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.表装裂地を新調し、丸表装の形に仕立てる。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。3年度は工程9までを施工）		

14 名　称	浮彫十二支像（金庚信墓）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0cm 横74.0cm
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.再度、剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙の除去を行う。 6.本紙周囲に補修を行う。 7.新たに裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施す。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。3年度は工程9までを施工）		

＜歴史資料＞（3件）

15 名　称	広開土王碑拓本	員　数	4面
時　代	（採拓）昭和9年頃(1934年) （原碑）朝鮮・三国時代　414年	寸 法 等	第1面：縦539.3cm　横148.0cm，第2面：縦528.0cm　横122.0cm，第3面：縦532.0cm　横178.0cm，第4面：縦530.0cm　横120.0cm
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止め、強化を行う。 2.汚れを除去する。 3.本紙欠失箇所及び四方周囲に補修を行う。 4.新たに裏打ちを行う。 5.折れ伏せを施す。 6.美栖紙にて古糊を用い、増裏を打つ。 7.表装裂地を新調し、袋表装の形に付け廻しする。 8.中裏打ち、総裏打ちを行う。 9.軸首・上下軸木・啄木・吊鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。 10.中性ボード製保存箱を作製する。 （30年～3年 4か年継続事業。3年度は第4面を施工）		

16 名　称	重要文化財　対馬宗家関係資料20箱 巻4～6巻	員　数	3巻
時　代	江戸時代 18世紀	寸 法 等	巻4：縦23.4cm 全長2,372.0cm 巻5：縦23.4cm 全長3,848.3cm 巻6：縦23.3cm 全長2,222.5cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧肌裏紙及び旧補修を除去する。 5.本紙の欠失箇所に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.補修した表紙裂地と見返しを貼り合わせ、総裏打ちを行う。 9.表紙を本紙に継ぎ合わせる。 10.軸首、軸木、八双、紐を再使用して巻子装に仕立てる。 11.桐製太巻添軸を新調する。		

17 名　称	重要文化財　安南国臣文理侯書	員　数	1幅
時　代	ベトナム・後黎朝　弘定11年(1610)	寸 法 等	縦29.5cm　横43.6cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装を解体する。 3.汚れの除去を行う。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.損傷箇所の補修を行う。 6.本紙のフラットニングを行い、マット装に仕立てる。 7.安南国副都堂福義侯阮粛書(P14982)の保存箱に重ねて納める。		

1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和4年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		195	16	124 (5,577)	55 (1,145)
絵　画		77	2	56 (2,314)	19 (410)
書　跡		41	2	32 (1,254)	7 (220)
彫　刻		40	0	21 (1,432)	19 (325)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		1	1	0 (2)	0 (4)
刀　剣		0	0	0 (0)	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		8	0	0 (40)	8 (125)
染　織		3	0	1 (198)	2 (25)
考　古		4	4	0 (18)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (6)	0 (2)
歴史資料		9	0	9 (242)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
写真資料		0	0	0 (0)	0 (0)
その他		5	0	5 (55)	0 (2)
東洋	絵　画	1	1		
	書　跡	2	2		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	1	1		
	漆　工	0	0		
	染　織	0	0		
	考　古	1	1		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		2	2		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和4年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 （本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1）	9か所 （平成知新館5、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	9か所 （本体建物6、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	3台	23台
車椅子	27台 （正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1）	14台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管5）	14台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーチェア 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
3年度整備事項	平成館2階男子トイレの小便器を低リップの壁掛け式小便器に更新した。	屋外トイレの洗浄スイッチを視覚障害者が使用しやすい大型の押ボタン式に交換した。また敷地内雨水側溝の溝蓋（ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ）が、現状目が粗く杖利用者が躓く恐れがあることから、目が細かいもの（隙間1cm以下）のものに交換した。	東西新館内点字ブロック未整備場所について整備を行った。 またイラストやピクトグラムなどを取り入れ、外国人来館者や障がい者にもわかりやすい内容になるよう、館内看板などの作成・更新を行った。また、館内看板などの4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和4年3月31日現在

東京国立博物館	
3年度計（台）：	147,981台
・特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」（日）	44,477台
・特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（日）	13,225台
・聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」（日）	19,980件
・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」（日）	18,303件
・特別展「ポンペイ」	43,250件
・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	8,746件
（参考） 3年度ダウンロード件数	
・「トーハクなび」（リニューアル版）	
Android版	1,517件
iOS版	31,519件
	貸出終了
アプリ端末貸出（日英）	
	貸出終了
音声ガイド貸出（中韓）	
「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	公開終了

京都国立博物館	
3年度計（台）：	13,656台
・凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（日、英）	2,495台
うち日本語版	2,475台
うち英語版	20台
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」（日、英）	4,662台
うち日本語版	4,640台
うち英語版	22台
・特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」（日、英）	4,691台
うち日本語版	4,672台
うち英語版	19台
名品ギャラリー（平常展）	1,808台
うち日本語版・一般向け	1,650台
うち日本語版・ジュニア版	81台
うち英語版・一般向け	37台
うち英語版・ジュニア版	0台
うち中国語版・一般向け	33台
うち中国語版・ジュニア版	3台
うち韓国語版・一般向け	4台
うち韓国語版・ジュニア版	0台

奈良国立博物館	
3年度計（台）：	39,340台
・聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」	9,529台
うち日本語版	9,529台
うち英語版	ー
うち中国語版	ー
うち韓国語版	ー
・特別展「奈良博三昧」	3,980台
うち日本語版	3,980台
うち英語版	ー
うち中国語版	ー
うち韓国語版	ー
・「第73回正倉院展」	18,765台
うち日本語版	18,765台
うち英語版	ー
うち中国語版	ー
うち韓国語版	ー
・特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	4,368台
うち日本語版	4,368台
うち英語版	ー
うち中国語版	ー
うち韓国語版	ー
・なら仏像館名品展	2,698台
うち日本語版	2,638台
うち英語版	35台
うち中国語版	22台
うち韓国語版	3台

※特別展「名画の殿堂　藤田美術館展」は音声ガイドなし

九州国立博物館	
3年度計（台）：	26,119台
・特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」	2,255台
うち日本語版	2,252台
うち英語版	2台
うち中国語版	1台
うち韓国語版	0台
・特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」	7,518台
うち日本語版	7,518台
うち英語版	-
うち中国語版	-
うち韓国語版	-
・特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」	-
うち日本語版	-
うち英語版	-
うち中国語版	-
うち韓国語版	-
・特別展「最澄と天台宗のすべて」	5,157台
うち日本語版	5,157台
うち英語版	-
うち中国語版	-
うち韓国語版	-
・文化交流展示 (4月27日より貸出再開)	11,189台
うち日本語版	10,547台
うち英語版	298台
うち中国語版	296台
うち韓国語版	48台

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和4年3月31日現在

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	125回	93回	97回	19回	39回
講演会等　参加者数	21,692人	12,206人	11,691人	52,032人	34,403人
①講演会	26回	23回	20回	10回	14回
	6,999人	6,249人	6,051人	29,875人	10,199人
アンケート結果	88.09%	86.16%	84.89%	－	84.85%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	10回	8回	12回
	2,716人	2,822人	2,630人	24,923人	8,777人
アンケート結果	89.57%	89.57%	84.75%	－	86.74%
・記念講演会	7回	7回	7回	0回	1回
	2,589人	2,189人	2,591人	0人	135人
アンケート結果	84.45%	85.24%	84.19%	－	67.80%
・シンポジウム	3回	1回	2回	2回	1回
	920人	250人	575人	4,952人	1,287人
アンケート結果	83%	－	－	－	－
・テーマ別講演会	0回	3回	1回	0回	0回
	0人	988人	255人	0人	0人
アンケート結果	－	84.20%	93.46%	－	－
・その他講演会	4回	0回	0回	0回	0回
	774人	0人	0人	0人	人
アンケート結果	－	－	－	－	－
②列品解説（ギャラリートーク等）	96回	64回	71回	9回	23回
	14,026人	5,108人	4,791人	22,157人	23,701人
③連続講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	0回	1回
	551人	728人	645人	0人	276人
アンケート結果	89.00%	88.50%	92.93%	－	94.50%
④公開講座	2回	5回	5回	0回	1回
	116人	121人	204人	0人	227人
アンケート結果	96.49%	100.00%	100.00%	－	－
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	32回	37回	28回	23回	31回
講演会等　参加者数	4,014人	4,357人	3,285人	1,435人	3,164人
①土曜講座	22回	19回	13回	7回	12回
	2,433人	1,969人	1211人	572人	583人
アンケート結果	83%	80%	85%	84%	82%
②記念講演会	4回	12回	9回	12回	14回
	800人	1,884人	1,465人	1227人	1,106人
アンケート結果	86%	80%	81%	83%	81%
③夏期講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	212人	198人	201人	60人	73人
アンケート結果	90%	90%	78%	94%	96%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	0回	1回
	49人	39人	50人	0人	34人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	3回	3回	3回
	520人	267人	358人	248人	1,368人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	26回	27回	25回	12回	27回
講演会等　参加者数	3,437人	3,569人	3,261人	847人	1,865人
①特別展等講座	13回	14回	13回	5回	15回
	2,141人	1,853人	1,838人	353人	1,060人
アンケート結果	91%	88%	92%	91%	93%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	0回	0回
	525人	478人	386人	－	－
アンケート結果	91%	95%	94%	－	－
③サンデートーク	12回	12回	11回	7回	12回
	771人	1，238人	1,037人	494人	805人
アンケート結果	87%	88%	92%	90%	90%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	84回	80回	69回	13回	50回
講演会等　参加者数	6,024人	4,491人	4,862人	308人	2,229人
①特別展記念講演会	2回	2回	6回	0回	3回
	359人	150人	1,336人	0人	385人
アンケート結果	－	－	－	－	92.9%
②講演及びシンポジウム	26回	16回	16回	0回	20回
	3,521人	2,166人	2,033人	0人	1,395人
アンケート結果			－	－	91.7%
③ミュージアムトーク	56回	62回	47回	13回	27回
	2,144人	2,175人	1,493人	308人	449人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	53校	56校	60校	61校	59校
京都国立博物館	29校	32校	32校	33校	32校
奈良国立博物館	27校	28校	27校	28校	26校
九州国立博物館	25校	23校	23校	21校	22校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**39回**	**回数計**	**31回**	**回数計**	**27回**	**回数計**	**50回**
	参加者計	**34,403人**	**参加者計**	**3,164人**	**参加者計**	**1,865人**	**参加者計**	**2,229人**
	講演会	14回 10,199人	土曜講座	12回 583人	特別展等講座	15回 1,060人	特別展記念講演会	3回 385人
	列品解説（ギャラリートーク等）	23回 23,701人	記念講演会	14回 1,106人	夏季講座	0回 0人	講演及びシンポジウム	20回 1,395人
	連続講座（2日間）	1回 276人	夏期講座（2日間）	1回 73人	サンデートーク	12回 805人	ミュージアムトーク	27回 449人
	公開講座	1回 227人	社会科教員のための向上講座	1回 34人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 1,368人				
	その他展示に関連するイベント	2回 28組	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	16回 61,460人	その他展示に関連するイベント	9回 278人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1） 講演会　　14回　　10,199人

①月例講演会

12回　　8,777人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～3は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会として実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	6月1日	「トーハクなび」のつくり方とつかい方	博物館教育課教育普及室研究員　中村麻友美	2,563人	アンケート実施せず
2	6月28日	仏具の庭は花盛り	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	2,570人	アンケート実施せず
3	8月2日	『上野の山で動物めぐり』の裏側をめぐる	企画課デザイン室主任研究員　神辺知加	2,436人	アンケート実施せず
※4～12は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で再開・実施した。定員は通常の半数以下の180名。					
4	7月10日	トーハクのデジタル文化資源	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之	133人	93.40%
5	8月21日	中国・宋時代の水墨画と日本	学芸研究部長　救仁郷秀明	136人	84.90%
6	9月20日	アジアの空想動物を語る	上席研究員　勝木 言一郎 調査研究課東洋室長　市元 塁 企画課特別展室長　猪熊 兼樹 列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚 拓造	126人	87.30%
7	10月23日	瓦が語る東大寺の歴史	調査研究課考古室研究員　山本 亮	145人	87.30%
8	11月6日	博物館の国際交流活動	企画課国際交流室長　楊 鋭	92人	76.60%
9	12月4日	名物刀剣といわゆる『享保名物帳』	列品管理課登録室主任研究員　酒井 元樹	133人	82.70%
10	1月15日	比較陶磁史覚書	博物館情報課長　今井敦	150人	86.30%
11	2月5日	没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—	副館長　富田淳 台東区立書道博物館主任研究員　鍋島稲子 企画課出版企画室研究員　植松瑞希 調査研究課東洋室研究員　六人部克典	136人	95.90%
12	3月19日	博物館が楽しくなるデジタル体験	文化財活用センター副センター長　小林牧	157人	86.30%

②記念講演会

1回　　135人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で実施した。定員は通常の半数以下の180名。					
1	12月8日	アラビア書道の神髄	アラビア書道家・日本アラビア書道協会会長　本田・ファド・孝一	135人	67.80%

③シンポジウム

1回　　1,287人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン国際シンポジウムとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	4年1月29日	国際シンポジウム　「ミュージアムとオンライン　実践と展望」	発表　シアトル美術館　シャオチン・ウー ハンブルク美術工芸博物館　ウィブケ・シュラーペ メトロポリタン美術館　アーロン・リオ 東京国立博物館　猪熊 兼樹	1,287人	実施せず

④テーマ別講演会

0回　　0人

	実施日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合

⑤その他講演会

0回　　0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　23回　　23,701人

①ギャラリートーク

12回　　23,567人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
※1～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
1	6月10日	「博物館で動物めぐり」	列品管理課平常展調整室長　皿井舞 企画課特別展室主任研究員　三笠景子 調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織 調査研究課考古室研究員　山本亮	2,636人
2	6月23日	名物裂　レンズを通して裂を味わう	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	3,491人
3	7月19日	仏画に描かれた動物たち	列品管理課長　沖松健次郎	2,825人
4	8月25日	特別企画『スポーツ NIPPON』の見どころ	列品管理課登録室・貸与特別観覧室長　佐藤寛介 文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　青木祐一 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　木村一貴 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　新名佐知子	1,634人
5	10月12日	岐阜県関市春日神社伝来の能面	学芸企画部長　浅見龍介 博物館教育課教育普及室研究員　川岸瀬里	2,083人
6	10月25日	東洋彫刻の動物とヨガ	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史 ヨガインストラクター　渡辺美保	2,024人
7	11月29日	文人陶工奥田頴川	博物館情報課長　今井敦	1,238人
8	12月10日	浅草寺のみほとけの魅力	文化財活用センター企画担当研究員　西木政統	1,709人
9	1月12日	西晋時代の副葬品	調査研究課東洋室長　市元塁	1,815人
10	1月28日	博物館に初もうで　今年はトーハク150周年！めでタイガー！！	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり 調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一	1,372人
11	3月8日	埴輪物語－群馬県伊勢崎市赤堀村104号古墳－	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	1,655人
12	3月22日	掛軸の修理と補修紙の作製について	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 大山龍顕	1,085人

②特別展関連ギャラリートーク

0回　　0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

11回　　134人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハーサル・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。					
1	4年1月14日、1月25日、1月27日、2月2日	4回	「『御所車蒔絵硯箱』にみる精緻な技巧と意匠の調和について」	光武春香	47人
2	4年1月19日、1月20日、1月24日	3回	「唐津焼と茶道－《彫唐津茶碗 銘 巌》－」	金昭延	42人
3	4年2月8日、2月10日、2月16日、2月18日	4回	「『南京赤絵周茂叔愛蓮図火入』にみる日中交流について」	高家融	45人

3) 連続講座　　2日間（計1回）　　1回　　276人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	″良い″の割合
※1は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で実施した。定員は両日とも通常の半数以下の160名。				
1	8月14日～15日	鳥獣戯画研究の最前線 第1講「鳥獣戯画の伝わった寺―高山寺と明恵上人をめぐる美術―」 (1)明恵上人と高山寺の文化財 講師：大槻信（京都大学大学院文学研究科教授） (2)明恵上人坐像の作者は誰か？―高山寺の彫刻と慶派仏師をめぐって― 講師：皿井舞（東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室長） 第2講「鳥獣戯画研究のこれまでとこれから」 (3)鳥獣戯画八〇〇年の生命誌―伝来と研究史をたどる― 講師：土屋貴裕（東京国立博物館学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長） (4)鳥獣戯画「平成の修理」の成果と展望 講師：朝賀浩（宮内庁長官官房参事官） (5)欧米がみた鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって― 講師：鬼頭智美（東京国立博物館上席研究員） 第3講「何が、どのように描かれているのか？―図様と表現の特質―」 (6)平安絵巻としての鳥獣戯画―ストーリー展開の妙味― 講師：井並林太郎（京都国立博物館企画室研究員） (7)白描画としての鳥獣戯画―線描の妙技― 講師：古川攝一（東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員） (8)「鳥獣戯画」乙巻にみる宋画的要素 講師：猪熊兼樹（東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長） 第4講「誰が描いたのか？―絵師をめぐる議論―」 (9)宮廷絵師説の可能性―「伴大納言絵巻」との近さを視野に入れて― 講師：五月女晴恵（北九州市立大学文学部教授） (10)絵仏師説の可能性―鳥羽僧正覚猷説と当時の寺院の社会性の観点から― 講師：大原嘉豊（京都国立博物館保存修理指導室長） 第5講「何のために描かれたのか？―主題と制作背景を探る―」 (11)正倉院宝物と鳥獣戯画 講師：増記隆介（東京大学大学院人文社会系研究科准教授） (12)鳥獣戯画の主題解釈は可能か？ 講師：三戸信恵（山種美術館特任研究員） 第6講　パネルディスカッション「徹底討論！　鳥獣戯画研究を究める」	276名	94.50%

4) 公開講座　　1回　　227人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※2は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、リアルとオンラインを活用したハイブリッド方式の講演会を実施した。				
1	実施せず	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	9月8日	教育連携事業「博物館セミナー」	227人	平成館大講堂、ラウンジ

5) その他展示に関連する事業　　2回　　28組

	実施日	内容	会場	参加者数
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン配信に変更して実施した				
1	5月18日	国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐり――動物の『うごき』と『しせい』	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	28組
※2は新型コロナウイルスの影響を勘案し、電子データのみ公開あるいはオンライン配信に変更して実施予定				
2	1月2日～	博物館で初もうで「2022寅」カレンダー・ワークシート配布	―	―

【京都国立博物館】

1) 土曜講座　　12回　　583人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	6月5日	おうちで学び楽しむ文化財と博物館	列品管理室研究員　近藤無滴	32人
2	6月12日	弥生・古墳時代の生産遺跡 ―日本原始古代の産業と辰砂・鉄―	研究員　古谷毅	55人
3	6月19日	神々に捧げる自己ベスト	教育室長　永島明子	42人
4	6月26日	東アジアをめぐる「金琺瑯」の旅	考古室長（兼学芸部長）　尾野善裕	51人
5	1月15日	虎―現実と空想のはざまに―	教育室主任研究員　水谷亜希	60人
6	1月29日	西宮山古墳の発掘調査と出土品の意義	研究員　古谷毅	44人
7	2月5日	清時代の花鳥画と沈南蘋	調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	46人
8	2月12日	仏像の来た道―インド・中国そして日本へ―	館長　松本伸之	80人
9	2月19日	本法寺所蔵「古文書貼交屏風」について	美術室長（兼列品管理室長）　羽田聡	23人
10	2月26日	キモノと流行 ―江戸時代初期のモード―	工芸室長（兼企画室長）　山川曉	45人
11	3月5日	桃の文化史―西王母・孫悟空・桃太郎―	特任研究員　宮川禎一	54人
12	3月12日	しあわせの貝合わせ	教育室長　永島明子	51人

2) 記念講演会　14回　1,106人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月3日	律とは何か	調査・国際連携室研究員　上杉智英	83人
2	4月10日	日本の戒律運動と日本人	保存修理指導室長　大原嘉豊	70人
3	4月17日	俊芿と宋代戒律の日本への影響	泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員　西谷功	71人
4	5月8日	鑑真和上とゆかりのみ仏たち	上席研究員　淺湫毅	100人
5	7月24日	彫刻修理の歴史と現状	文化庁文化財第一課主任文化財調査官　奥健夫	81人
6	7月31日	国宝・重要文化財の指定 ―書跡・典籍、古文書を中心に―	文化庁文化財第一課主任文化財調査官　藤田励夫	66人
7	8月7日	京の国宝 ―日本の文化財保護のあゆみと京都―	研究員　森道彦	67人
8	8月21日	京の国宝 ―流転する工芸―	主任研究員　末兼俊彦	66人
9	8月28日	京の国宝 ―絵画の美と評価の歴史―	企画室研究員　井並林太郎	71人
10	9月4日	今日の文化財保存技術 ―装潢修理、特に紙を中心に―	文化庁文化財第一課文化財調査官　地主智彦	61人
11	10月9日	共に楽しむ茶の美術館 ―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―	畠山記念館学芸課長　水田至摩子	100人
12	10月23日	近代の紳士能と大名家旧蔵能装束 ―加賀藩前田家伝来品をめぐって―	工芸室長（兼企画室長）　山川曉	87人
13	11月6日	近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	87人
14	11月20日	與衆愛玩 ―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	96人

3) 夏期講座　1回　73人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月2日	第1講 伝統工芸と自然素材 ―染織品復元・修理の知見から―	工芸室長（兼企画室長）　山川曉	73人
		第2講 描かれた名所と自然 ―歌絵から名所風俗図まで―	京都工芸繊維大学 特定教授/美術工芸資料館長　並木誠士	
		第3講 日本の自然と金属 ―自ずから然らないもの―	美術室主任研究員　末兼俊彦	
	7月3日	第1講 中国の自然観と山水画	京都大学文学部文学研究科教授　宇佐美文理	
		第2講 古墳時代の社会と自然―山と海の信仰―	研究員　古谷毅	
		第3講 植物を写す―絵画と写真と拓本と―	愛知県美術館主任学芸員　副田一穂	

4) 社会科教員のための向上講座　1回　34人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月18日	講義「特別展＜京の国宝＞鑑賞ポイント」	美術室研究員　森道彦	34人

5) ギャラリーツアー・シンポジウム等 3回　1,368人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	11月4日～7日	ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）年次会議「文化財防災ネットワークの構築:連携に関する事例研究」	副館長　栗原祐司	325人
2	1月22日	多言語担当者によるギャラリーツアー （留学生の日関連イベントとして）	調査・国際連携室主任専門職員　リンネ/マリサ 企画室AF　ボレンガッセール・ダニエル 企画室AF　王珏人 企画室AF　趙ウニル	30人
3	3月19日	国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」	調査・国際連携室研究員　上杉智英	1,013人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　15回　　1,060人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月1日	「聖徳太子―史実から信仰へ」	奈良大学・大阪大学名誉教授　東野治之	77人
2	5月22日	「法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る」	学芸部研究員　三本周作	81人
3	6月19日	「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」	学芸部主任研究員　山口隆介	78人
4	7月24日	「観仏画三昧－奈良博仏教絵画コレクションをあじわう－」	学芸部教育室長　谷口耕生	68人
5	7月31日	「仏教工芸の魅力－奈良博のコレクションから－」	学芸部研究員　三本周作	68人
6	8月7日	「奈良博の仏像コレクション－種類と時代－」	学芸部美術室長　岩井共二	67人
7	8月28日	「古写経と古代文字史料」	学芸部資料室長　野尻忠	63人
8	9月4日	「ちょっと良いかも、奈良博の考古」	学芸部長　吉澤悟	78人
9	9月11日	「仏教美術の殿堂－奈良博コレクション形成史－」	学芸部情報サービス室長　宮崎幹子	75人
10	10月30日	「正倉院の染織品にみる文様染め技法」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室員　片岡真純	78人
11	11月6日	「正倉院の筆」	宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長）杉本一樹	67人
12	11月13日	「正倉院のガラス器について-白瑠璃高坏を中心として-」	学芸部長　吉澤悟	72人
13	12月11日	「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」	東京大学東洋文化研究所教授　板倉聖哲	59人
14	2月19日	「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」	東大寺長老　北河原公敬	65人
15	3月5日	「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」	学芸部美術室長　岩井共二	64人

2)　夏季講座　※新型コロナウイルスの影響により中止

3)　サンデートーク　　12回　　805人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月18日	「災害から文化財を守る―文化財防災センターの取り組み―」	学芸部研究員　佐藤稜介	59人
2	5月16日	「平安貴族の信仰生活―仏教を中心に―」	学芸部列品室長　斎木涼子	57人
3	6月20日	「ならはくの教育普及活動」	学芸部研究員　翁みほり	71人
4	7月11日	「古代寺院の出土品が語るもの」	学芸部企画室長　中川あや	79人
5	8月8日	「保存修理指導室のお仕事―博物館科学の役割―」	学芸部研究員　安藤真理子	64人
6	9月12日	「あこがれの天平絵画」	学芸部研究員　萩谷みどり	72人
7	10月3日	「絵はがきと仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	65人
8	11月21日	「奈良博の壺」	学芸部長　吉澤悟	67人
9	12月19日	「閻魔王と地獄の美術」	学芸部研究員　内藤航	75人
10	1月16日	「辟邪絵をめぐって」	学芸部教育室長　谷口耕生	69人
11	2月20日	「ほとけの装いにみる工芸」	学芸部研究員　三本周作	65人
12	3月20日	「“サスティナブル”な文化財保存」	学芸部保存修理指導室長　荒木臣紀	62人

4)　その他展示に関連するイベント　　16回　　61,460人

	実施日	内容	会場	参加者
1	5月4日～5日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント　聖徳太子ジャンボすごろく	地下回廊	43人
2	5月30日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　聖徳太子と法隆寺編」	講堂	60人
3	7月16日～3月31日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」関連ワークショップ　「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう　作り方動画」	Youtube	756人
4	7月23日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」関連ワーク不ョップ「切り絵でアート　ならはくの仏像」	地下回廊	47人
5	7月29日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	37,434人
6	7月31日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	86人
7	8月21日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　奈良博三昧編」	講堂	47人
8	11月4日	第73回正倉院展　研究員レクチャー付き！特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	176人
9	11月7日	第73回正倉院展関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　第73回正倉院展編」	講堂	85人
10	12月16日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	78人
11	1月8日	「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　藤田美術館展編」	講堂	36人
12	2月11日	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞会	講堂	66人
13	3月12日	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　十一面観音菩薩編」	講堂	73人
14	3月13日	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,411人
15	3月19日	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」関連ワークショップ「散華でポン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	24人
16	3月26日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	38人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　3回　　385人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	8月8日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」記念講演会 「美を伝えゆく-《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理をとおして」	宮内庁三の丸尚蔵館・首席研究官　太田彩	140人
2	10月9日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」特別記念講演会 「海山への祈り-九州の祭りの風景-」	福岡県文化財保護審議会委員　森弘子	109人
3	4年2月26日	特別展「最澄と天台宗のすべて」記念講演会 「最澄と九州天台」	天台宗宗務総長　阿部昌宏	136人

2)講演及びシンポジウム等　　20回　　1,395人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月1日	特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」リレー講座 「近代の正倉院と宝物の模造」	学芸部文化財課アソシエイトフェロー　樋笠逸人	30人
2	5月15日	特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」リレー講座 「2つの「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」」	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	オンライン開催
3	7月24日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」記念対談 「やきもの王国・九州と近代の皇室」	沈壽官窯十五代・陶芸家　沈壽官 宮内庁三の丸尚蔵館・主任研究官　岡本隆志	124人
4	7月25日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」関連イベント 「さかなクンと一緒にむかしの海を探検だ！」	さかなクン	288人
5	7月31日	きゅーはく☆とっておき講座 古代ガラスの世界	展示課主任研究員　齋部麻矢	41人
6	8月1日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」リレー講座 「九州と帝室技芸員」 「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」	学芸部企画課主任研究員　望月規史 学芸部文化財課課長　原田あゆみ	57人
7	8月7日	全国高等学校歴史学フォーラム2021 「現代における庚申信仰のあり方と課題～古墳、城から転用された祭場に着目して～」 「福島県相馬市の官軍墓地～戊辰戦争の記憶～」 「現代人から見る弥生絵画～人物画をデータ化する～」 「皇女和宮と口紅と将軍家茂」 「江戸時代の疫病と考古資料～イトシマを舞台として～」 「中世壱岐の深江田原平野の衰退原因に関する一考察」 「甲斐武田氏の津久井信仰と街道からみる深大寺城再興の目的」 「栃木県北部における烽跡の推定」 「歴史上における関門海峡の地理的重要性について」 「九州最古!?あの夏目漱石も愛した!筑前国二日市温泉」	群馬県立高崎北高等学校 JRC部歴史研究班 福島県立相馬高等学校 郷土部 奈良県立橿原高等学校　考古学研究部 埼玉県立熊谷西高等学校 福岡県立糸島高等学校　歴史部 長崎県立壱岐高等学校　東アジア歴史・中国語コース 法政大学第二高等学校　社会科学・歴史研究部 栃木県立矢坂東高等学校リベラルアーツ同好会 福岡県立八幡高等学校 九州産業大学付属九州産業高等学校　史跡探索研究部	26人 （参加校関係者数）
8	8月29日	きゅーはく☆とっておき講座 オリエントのガラス－色彩の魅力からシルクロードの交易まで－	岡山市オリエント美術館主管学芸員 四角隆二	71人
9	9月19日	きゅーはく☆とっておき講座 范道生の作品とその生涯－日中交流史の視点から－	展示課長　楠井隆志	61人
10	10月30日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」リレー講座 第一回きゅーはくオータムスクール	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子 交流課主任研究員　今井涼子 学芸部企画課研究員　大澤信	44人
11	11月13日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」リレー講座 第二回きゅーはくオータムスクール	学芸部文化財課研究員　松浦晃佑 学芸部文化財課アソシエイトフェロー　樋笠逸人 学芸部企画課主任研究員　望月規史	47人
12	11月14日	きゅーはく☆とっておき講座 手わざ－琉球王国の文化－	学芸部企画課研究員　桑原有寿子	48人
13	11月20日	展示解説「8分野の手わざ解説」	沖縄県立博物館・美術館学芸員　篠原あかね	25人
14	11月21日	製作者による報告会「手わざの秘密を探る」	久下有貴、岡田靖、杉浦誠、前田貴子、宇良英明	33人
15	12月12日	講演会「琉球の染織と模造復元について」	那覇市歴史博物館主任学芸員　山田葉子	67人
16	4年1月8日	きゅーはく☆とっておき講座 国宝　初音の調度について	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	59人
17	4年2月12日	特別展リレー講座　国宝講座～これであなたも立派な国宝～第1回	学芸部企画課特別展研究員　大澤信	60人
18	4年3月5日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄―大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代―」	福岡大学人文学部　桃崎祐輔 九州歴史資料館　小嶋篤 明治大学日本古代学研究所　石黒ひさ子 千葉大学大学院理学研究院　沼子千弥 福岡大学理学部　市川慎太郎・佐藤かのん・脇田久伸・栗崎敏 別府大学文学部　上野淳也 福岡大学人文学部　古澤義久 九州国立博物館　岡寺良	120人
19	4年3月6日	記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」	英彦山神宮宮司　髙千穂秀敏 英彦山神宮禰宜　髙千穂有昭 学芸部企画課特別展室研究員　大澤信	130人
20	4年3月12日	特別展リレー講座　国宝講座～これであなたも立派な国宝～第2回	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子 学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　瓜生翠	64人

3) ミュージアムトーク　　27回 参加者総数　　449人

・担当研究員数　　延べ 20人　　※うち夜間開催分は 0人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月13日	雪舟、中国に行く	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	8人
2	4月27日	はじめまして！きゅーはくデビューの「新収品」	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	17人
3	5月11日	遣唐使の船	展示課主任研究員　一瀬智	14人
4	5月25日	唐物の名前あれこれ	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	22人
5	6月1日	韓流の美～九博への不時着～	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信	12人
6	6月15日	輸入織物へのあこがれ	学芸部企画課文化交流展室研究員　桑原有寿子	14人
7	6月29日	装飾古墳の円文は鏡か太陽か	学芸部長　河野一隆	14人
8	7月13日	古代ガラスの世界	学芸部文化財課アソシエイトフェロー　折山桂子	21人
9	7月27日	文化財の保存環境	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー和泉田絢子	18人
10	8月3日	きゅーはくの収蔵品修理	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー瓜生翠	25人
11	8月17日	鉄砲の伝来と普及	学芸部企画課主任研究員　望月規史	17人
12	8月31日	中国人仏師・范道生作品の魅力	展示課長　楠井隆志	20人
13	9月14日	古代ガラスの世界	学芸部文化財課アソシエイトフェロー　折山桂子	8人
14	9月28日	アジアに広がる仮面の世界	交流課主任研究員　今井涼子	10人
15	10月12日	イスラーム陶器－描かれたいきもの－	展示課主任研究員　齋部麻矢	18人
16	10月26日	密教法具－空海が伝えた破邪のしるし－	学芸部企画課主任研究員　望月規史	17人
17	11月2日	きらきら輝く金属器－シルクロードの恵み－	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	26人
18	11月16日	太宰府を守れ!!－大野城と鞠智城－	展示課主任研究員　岡寺良	18人
19	11月30日	お経のかたち－文字と包みと入れものの世界－	学芸部文化財課アソシエイトフェロー樋笠逸人	22人
20	12月14日	「出土人骨は語る－骨考古学のススメ－」	展示課主任研究員　小澤佳憲	12人
21	4年1月12日	徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度	学外部企画課特別展室長　川畑憲子	15人
22	4年1月25日	九博書跡コレクション―高木聖雨氏寄贈品から―	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	12人
23	4年2月1日	欧州を魅了した伊万里焼―「磁器の間」へのオマージュ―	学芸部企画課主任研究員　酒井田千明	11人
24	4年2月15日	アジアを変えた鉄―大陸から来た鉄素材―	展示課主任研究員　岡寺　良	13人
25	4年3月1日	いにしえのひびき～弥生時代の楽器たち～	展示課主任研究員　小澤佳憲	23人
26	4年3月15日	大航海時代の美術	学芸部博物館科学課主任研究員　文化財防災センター　鷲頭 桂	26人
27	4年3月29日	古代豊の港－草野津と国埼津－	展示課主任研究員　岡寺　良	16人

4) その他展示に関連するイベント

9回　　278人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	5月9日	カード織りワークショップ	研修室	14人	
2	7月31日、8月5日	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	zoom開催	16人	
3	8月16日、8月21日	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸紡ぎ」	zoom開催	14人	
4	10月31日	特集展示「手わざ - 琉球王国の文化 -」関連イベント ワークショップ『琉球古刺繍をやってみよう』	研修室	10人	
5	12月4日	ファイアンスを作ってみよう	研修室	19人	
6	12月11日	ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～	研修室	12人	
7	4年2月23日、2月27日	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸取り」	研修室	19人	
8	4年3月11日	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連イベント 伝教大師 1200年大遠忌記念　天台宗九州の青年僧による声明公演	ミュージアムホール	124人	出演：天台宗仏教青年会(九州東教区・九州西教区)
9	4年3月19日	博物館でヨガ体験！きゅーはくヨガレッスン	ミュージアムホール	50人	主催：株式会社CROSSFM

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**134回**	**回数計**	**19回**	**回数計**	**498回**	**回数計**	**391回**
	参加者計	**20,091人**	**参加者計**	**19,483人**	**参加者計**	**36,946人**	**参加者計**	**5,710人**
	体験型プログラム等	95回 18,598人	体験型プログラム等	2回 18,643人	体験型プログラム等	461回 35,529人	体験型プログラム等	318回 653人
	学校との連携事業	39回 1,493人	学校との連携事業	17回 840人	学校との連携事業	37回 1,417人	学校との連携事業	73回 5,057人
	児童生徒を対象とした刊行物	2件 10,000部	児童生徒を対象とした刊行物	5件 159,200部	児童生徒を対象とした刊行物	5件 76,680部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 1,500部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 84台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1ー定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　95回　　18,598人

①ハンズオン展示等

0回　　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1・2は、新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催場所を閉室した。						
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	0回	0人	
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	0回	0人	

②ワークショップ

40回　　1,525人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月15日～5月16日	ファミリーオンラインワークショップ「屏風をつくる」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	zoomにてオンライン開催
2	7月20日～8月1日	みんなでつくる貼り交ぜ屏風	—	12回	379人	キッズデー関連イベントとして実施（回数は、開催期間中の開館日数）
3	7月20日～8月1日	おうちでギャラリートーク	—	12回	658人	キッズデー関連イベントとして動画を公開（回数は、開催期間中の開館日数。参加者数は、3月31日時点の4本の動画の合計再生数）
4	8月1日	学校版トーハクなび貸出	—	1回	35人	キッズデー関連イベントとして実施
5	8月1日	子ども和楽器コンサート	—	3回	243人	キッズデー関連イベントとして実施
6	8月14日～8月15日	ファミリーオンラインワークショップ「なりきり光琳」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	70人	zoomにてオンライン開催
7	2月26日～2月27日	ファミリーオンラインワークショップ「ひいな遊び―立雛をつくろう」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	64人	zoomにてオンライン開催

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示

43回　　15,737人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
2	7月20日～9月5日	「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化 リターンズ」	本館特別4室	43回	15,737人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

12回　1,336人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月20日～8月1日	トーハクキッズデーオンライン	―	12回	1,336人	新型コロナウイルスの影響でオンラインと対面のハイブリッド開催となった（回数は、開催期間中の開館日数。人数は、8月1日リアルイベント開催日の未就学児から高校生までの入館のみをカウント）

2)学校との連携事業　39回　1,493人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

39回　1,493人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	―	38回	1,491人	
2	2月2日	盲学校のためのスクールプログラム	本館ボランティア室 事務室Teams	1回	2人	

②出前授業等　― 回　― 人

③職場体験

0回　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
新型コロナウイルスの影響で、対面プログラムを中止した。オンラインに変更したが、申込なし。						

④教員を対象とした研修　0回　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
※新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催を中止した。						

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　2件　10,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」ワークシート	10,000部	
2	博物館に初もうで　カレンダー	―	新型コロナウイルスの影響により、PDF版のみ公開。

②音声ガイド　― 件　― 台

③その他メディア　― 件　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　2回　18,643人

①ハンズオン展示等

― 回　― 人

②ワークショップ

―回　―人

③その他の体験型プログラム

― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示

1回　18,586人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4年1月2日～2月13日	新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」	京都国立博物館　平成知新館	1回	18,586人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　57人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月4日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	57人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き、特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会 美術部会

2)学校との連携事業　　17回　　840人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

4回　　53人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月14日、11月5日	京都府立嵯峨野高等学校　2年生	京都国立博物館、京都府立嵯峨野高等学校	2回	17人	「京の文化財」をテーマとした探求活動に係るフィールドワークの受け入れ、活動への助言
2	11月10日	滋賀県立守山高等学校　2年生	京都国立博物館	1回	1人	「日本文化を残し、伝える意味」について、オンラインビデオ通話を用いたインタビュー対応
3	4年2月3日	京都女子中学校	京都国立博物館	1回	35人	「博物館の仕事」「名品ギャラリー展示」について、質問対応

②出前授業等

7回　　425人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月14日	文化財に親しむ授業 京都市立八瀬小学校　6年生	京都市立八瀬小学校	1回	16人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	10月4日	文化財に親しむ授業 京都市立御室小学校　6年生	京都市立御室小学校	1回	56人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	10月25日	文化財に親しむ授業 京都市立大宅小学校　6年生	京都市立大宅小学校	1回	111人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月27日	文化財に親しむ授業 京都市立西大路小学校　5、6年生	京都市立西大路小学校	1回	31人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	12月14日	文化財に親しむ授業 京都市立宇多野小学校　6年生	京都市立宇多野小学校	1回	87人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	12月21日	文化財に親しむ授業 京都市立向島藤の木小学校　6年生	京都市立向島藤の木小学校	1回	29人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月15日	文化財に親しむ授業 京都市立常盤野小学校　6年生	京都市立常盤野小学校	1回	95人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　　― 回　　― 人

④教員を対象とした研修

1回　　34人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月18日	社会科教員のための向上講座（（小・総）社会科授業実践力向上講座、（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	34人	講義「特別展＜京の国宝＞鑑賞ポイント」森道彦（研究員） 主催：京都市教育委員会、京都国立博物館、京都市小学校社会科教育研究会、京都市立中学校教育研究会社会科部会、京都市立高等学校社会科研究会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

5回　　328人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月28日	京都市立嵐山東小学校　6年生 鑑賞の授業	京都市立嵐山東小学校	1回	50人	複製（雪舟筆「天橋立図」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	12月2日	京都市立烏丸中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立烏丸中学校	1回	58人	複製(尾形光琳筆「八橋図屏風」)を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	12月13日	京都市立四条中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立四条中学校	1回	103人	複製（雪舟筆「天橋立図」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
4	12月16日	京都市立四条中学校　1年生 鑑賞の授業	京都市立四条中学校	1回	110人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
5	4年3月19日	「子育てミュージアム」南相馬市博物館	南相馬市博物館	1回	7人	「地域を創生するミュージアム活用実行委員会（事務局　南相馬市博物館）」が主催する座談会に、研究員がゲストとしてオンライン参加した。

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

5件　159,200部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」	（日）105,500部 （英）5,000部 （中）700部 （韓）700部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。 京都市教育委員会を通じて、京都市立の中学校・高等学校の全生徒に配付。
2	特別展「畠山展記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」関連鑑賞ガイド「即翁さんの宝物」	（日）22,600部 （英）1,700部 （中）500部 （韓）300部	10月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
3	博物館Dictionary No.32,173,216,224～226	12,000部	6月、4年1月、2月発行。観覧者（子ども～大人）対象。No.32,173,216は過去に発行した号を増刷。 ウェブサイトにも掲載。
4	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	5,000部	4年1月増刷。観覧者（子ども～大人）対象。
5	新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」ワークシート　さがしてみよう！こんなトラ	（日・英）5,000部 （中・韓）200部	4年1月発行。観覧車（6歳以上～）対象。

②音声ガイド　1件　84台

	名　称	台数	備　考
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）	84台	各言語につき、作品解説など38本作成。利用台数84台。

③その他メディア　6件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	―	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんツイッター	―	公式キャラクター「トラりん」のツイッターを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	―	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	―	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
5	今日から君も狛犬博士 （YouTube京博チャンネル）	―	獅子と狛犬について分かりやすく紹介。日英中韓の4言語で作成。 6月公開。再生数2,972回（4年3月15日時点）
6	おひなさまのヒミツ （YouTube京博チャンネル）	―	雛人形と雛祭りについて分かりやすく紹介。日英中韓の4言語で作成。 4年3月公開。再生数817回（4年3月15日時点）

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　461回　35,529人

①ハンズオン展示等　― 回　― 回

②ワークショップ

5回　827人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	7月16日～3月31日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」関連ワークショップ　「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう作り方動画」	YouTube	1回	756人	YouTube配信
2	7月23日	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」関連ワーク不ョップ「切り絵でアート　ならはくの仏像」	地下回廊	2回	47人	
3	3月19日	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」関連ワークショップ「散華でポン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	2回	24人	

③その他の体験型プログラム　― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示　439回　34,702人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月4日～5日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント　聖徳太子ジャンボすごろく	地下回廊	1回	43人	
2	7月17日～9月12日	特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」のこども向け解説パネルとこども向け題箋の設置	東新館・西新館	58回	34,659人	特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」の開催期間中、特別展会場内に、こども向けの解説パネル10点とこども向け題箋28点を設置した。
3	9月23日～	地下回廊の仏像模型コーナーのこども向け題箋の設置	地下回廊	190回	-人	地下回廊にある仏像模型コーナーに、こども向け題箋2点を新たに設置した。
4	9月23日～	なら仏像館のこども向け題箋の設置	なら仏像館	190回	-人	なら仏像館にこども向け題箋10点を新たに設置した。

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　17回　― 人

1	10月30日～11月15日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	―	2020度受賞作品を展示

2)学校との連携事業　　37回　　1,417人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

37回　　1,417人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
奈良市世界遺産学習の受け入れ						
1	9月24日	奈良市立東市小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	35人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
2	10月7日	奈良市立明治小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	51人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
3	10月7日	奈良市立柳生小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	8人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
4	10月7日	奈良市立興東小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	12人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
5	10月12日	奈良市立都跡小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	90人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
6	10月14日	奈良市立右京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	32人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
7	10月22日	奈良市立田原小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	11人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
8	11月19日	奈良市立帯解小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	28人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
9	11月19日	奈良市立神功小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	46人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
10	11月26日	奈良市立伏見南小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	69人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
11	11月30日	奈良市立月ヶ瀬小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	10人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
12	12月3日	奈良市立朱雀小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	53人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
13	12月7日	奈良市立富雄第三小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	74人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
14	12月10日	奈良市立左京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	55人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
15	1月13日	奈良市立富雄北小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	97人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
16	1月21日	奈良市立大宮小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	103人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
17	2月24日	奈良市立登美ヶ丘小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	66人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
学校団体を対象にしたオンライン中継プログラムの実施						
18	1月17日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	別府市立東山小学校・なら仏像館	1回	8人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
19	1月24日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立判田中学校・なら仏像館	4回	134人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
20	2月7日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分大学教育学部附属中学校・なら仏像館	4回	160人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
21	2月28日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立大分西中学校・なら仏像館	4回	144人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
22	2月28日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム	奈良市立大安寺小学校・なら仏像館	2回	49人	奈良市教育委員会との連携事業
23	2月28日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム	奈良市立済美南小学校・なら仏像館	1回	33人	奈良市教育委員会との連携事業
学校団体による研究員インタビュー						
24	10月5日	研究員インタビュー対応 渋谷教育学園渋谷中学校3年生	会議室	1回	6人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。
25	10月6日	研究員インタビュー対応 渋谷教育学園渋谷中学校3年生	なら仏像館	2回	10人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。
26	12月10日	研究員インタビュー対応 鹿児島県立松陽高等学校美術科2年生	なら仏像館	1回	33人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。

②出前授業等　　— 回　　— 人

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修　　— 回　　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

— 回　　— 人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　5件　　76,680部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「聖徳太子と法隆寺」のジュニアガイド「聖徳太子と法隆寺」	35,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場や法隆寺にて配布。また奈良県内小学校5・6年生に配布した。なた、PDFデータを特別展特設ウェブサイトや当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
2	特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」のジュニアガイド「なぞとき！ざんまいずの探検-あおじしの主を探して-」	20,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
3	特別展「奈良博三昧-至高の仏教美術コレクション-」のジュニアガイド「なぞとき！ざんまいずの探検-あおじしの主を探して-」の解答・解説シート	20,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。
4	なら仏像館クイズ＆ミッションシート	840部	奈良市世界遺産学習の現地学習の際に配布する教材。
5	なら仏像館クイズ＆ミッションシートの解答・解説シート	840部	奈良市世界遺産学習の現地学習の際に配布する教材。

②音声ガイド　　0件　　0台

③その他メディア　　2件

	名　称	制作件数	備　考
1	動画「ならはく世界遺産学習」	1件	世界遺産学習の事前学習教材として、当館の案内動画を制作し、YouTube上で公開した。
2	世界遺産学習の事前学習シート「仏像ちょこっとクイズ」	1件	PDFにし、世界遺産学習で来館する各学校に提供した。

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　318回　　653人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等　　306回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	306回	—	展示日数

②ワークショップ　　7回　　104人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月9日	カード織りワークショップ	研修室	2	14人	
2	7月31日、8月5日	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	zoom開催	2	16人	
3	8月16日、8月21日	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸紡ぎ」	zoom開催	2	14人	
4	10月31日	特集展示「手わざ - 琉球王国の文化 -」関連イベント ワークショップ『琉球古刺繍をやってみよう』	研修室	1	10人	
5	12月4日	ファイアンスを作ってみよう	研修室	2	19人	
6	12月11日	ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～	研修室	1	12人	
7	4年2月23日、2月27日	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸取り」	研修室	2	19人	

③その他の体験型プログラム　　5回　　549人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月28日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	太宰府市立太宰府南小学校	1回	76人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	11月7日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	JR博多シティ屋上つばめの杜広場	1回	200人	
3	11月28日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験、レプリカ触察体験）	九州歴史資料館	1回	150人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
4	4年3月22日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	うきは市立山春小学校	1回	23人	移動博物館車「きゅーはく号」運行

5	4年3月24日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	久留米市立篠山小学校学童保育所	1回	100人	移動博物館車「きゅーはく号」運行

④児童生徒を対象とした展示　　0回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　0回　　0人

2)学校との連携事業　　73回　　5,057人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

20回　　826人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月2日	小郡市立立石小学校	研修室/文化交流展示（自由観覧）	1回	23人	
2	11月4日	豊前市立合岩小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	48人	
3	11月5日	八女市立立花中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	36人	
4	11月19日	行橋市立今元中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	54人	
5	11月24日	みやこ町立諫山小学校	研修室/和室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	18人	
6	11月26日	八女市立矢部清流学園	研修室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）	1回	15人	
7	11月30日	古賀市立舞の里小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	50人	
8	12月1日	飯塚市立飯塚第二中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	69人	
9	12月2日	行橋市立椿市小学校	研修室/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	27人	
10	12月3日	大牟田市立宮原中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	100人	
11	12月7日	大任町立大任中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	46人	
12	12月14日	田川市立後藤寺中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）	1回	52人	
13	12月15日	柳川市立有明小学校・皿垣小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	19人	
14	12月17日	うきは市立山春小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	36人	
15	4年1月12日	大川市立大川小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード	1回	44人	
16	4年1月18日	鞍手町立古月小学校	第4会議室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	4人	
17	4年3月4日	広川町広川中学校	研修室/文化交流展示室（自由観覧）	1回	19人	
18	4年3月8日	筑紫野市立天拝中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室（自由観覧）/バックヤード（外回り）/あじっぱ	1回	110人	
19	4年3月9日	大刀洗町立大刀洗小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	23人	
20	4年3月11日	大川市立田口小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室（自由観覧）/あじっぱ	1回	33人	

②出前授業等

3回　　169人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月27日	歴史授業「大陸に学んだ国づくり」	東京都練馬区大泉北小学校6年生	1回	100人	文化交流展示室よりリモート授業
2	11月8日	歴史授業「古代人の暮らし」	大分県姫島村立姫島小学校	1回	4人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業
3	4年3月7日	文化交流展示室よりリモート授業	久留米市櫛原中学校	1回	65人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業

③職場体験

0回　　0人

④教員を対象とした研修

0回　　0人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

50回　　4,062人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	49回	4,036人	計55パック
2	8月7日	全国高等学校歴史学フォーラム2021	研修室 ミュージアムホール	1回	26人	

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

1件 1,500部

	名　　称	冊数	備　　考
1	きゅーはくきゃらばん利用ガイド	1,500部	福岡県内の全小・中学校に配布

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和4年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0 人	インターンシップ	2 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人
	大学との連携講座	1 件 227 人	大学との連携講座	1 件 14 人	大学との連携講座	2 件 4 人	大学との連携講座	1 件 20 人
	見学対応	2 回 11 人	見学対応	1 回 42 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人
	その他	0 回 0 人	その他	20 回 138 人	その他	4 回 119 人	その他	6 回 157 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　227 人

期　　間	9月8日		
回　　数	1回		
開催場所	平成館大講堂、平成館エントランスホール		
参加者数	227 人	学校数	16 大学／　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を中止し、「博物館セミナー」を実施した。		

3)　見学対応　　2 回　　11 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	11 人	学校数	1 大学／　1 専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、事前視聴動画を提供し、当日は自由見学とした。		

4)　その他　　0 回　　0 人

期　　間	月　日		
回　　数	0 回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を中止した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　2 人

受入期間	10月11日～21日		
受入部署			
参加者数	2 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。12月18日にオンラインにて2名による報告会を行った。（出席者35名）		

2) 大学等との連携講座　　1 件　　14 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	14 人
担当研究員数	5 人

3) 見学対応　　1 回　　42 人

期　　間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	42 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	・特別展「畠山記念館の名宝」見学に伴う博物館の概要説明、質問対応など		

4) その他　　20 回　　138 人

期　　間	5月19日、5月26日、6月2日、6月23日、6月30日、7月7日、9月1日、9月8日、9月22日、9月29日、10月13日、10月20日、11月10日、11月17日、12月1日、12月8日
回　　数	18 回
開催場所	京都国立博物館
参加者数	20 人　　学校数　　9 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。

期　　間	4月21日、10月14日		
回　　数	2 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	118 人	学校数	32 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」、特別展「畠山記念館の名品」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　2 件　　4 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	4 人　（前期2人、後期2人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	0 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他　　4 回　　119 人

期　　間	5月7日、7月21日、1月12日、2月10日		
回　　数	4 回		
開催場所	奈良国立博物館		
参加者数	119 人	学校数	17 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「聖徳太子と法隆寺」、特別展「奈良博三昧」、「名画の殿堂　藤田美術館展」、特別展「国宝　聖林寺十一面観音」にかかる講演会を実施した。		

【九州国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

2)　大学等との連携講座　　1 件　　20 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	12月2日、3日
開催場所	九州国立博物館研修室
受入人数	20人
担当研究員数	8人

3)　見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4)　その他　　6 回　　157 人

期　　間	8月18日、19日、20日、22日、23日（5日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	17 人	学校数	14 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	6月28日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	－人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート（動画撮影・非公開）		

期　　間	7月16日、12月10日		
回　　数	4回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	140 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和4年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
59校	32校（※）	26校（※）	22校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①　加入校数（59校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,937人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,077人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	8,596人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,104人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,684人	20年4月1日	
6	東京大学	35,018人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,356人	20年4月1日	
8	大正大学	5,422人	20年4月1日	
9	東海大学	31,399人	20年4月1日	
10	青山学院大学・青山学院女子短期大学	21,634人	20年4月1日	
11	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	107人	20年4月1日	
12	多摩美術大学	5,470人	20年4月1日	
13	立教大学	23,210人	20年4月1日	
14	東京都立大学	9,777人	20年4月1日	
15	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,934人	20年4月1日	
16	東京造形大学	1,971人	20年4月1日	
17	法政大学	38,614人	20年4月1日	
18	筑波大学	20,264人	20年4月1日	
19	昭和女子大学	6,952人	20年4月1日	
20	実践女子大学・実践女子短期大学	4,966人	20年5月1日	
21	東洋大学	33,869人	20年6月1日	
22	東洋美術学校	1,229人	20年6月1日	
23	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,807人	20年6月1日	
24	文教大学	9,250人	20年7月1日	
25	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,138人	20年10月1日	
26	国際基督教大学	3,428人	21年4月1日	
27	学習院女子大学	1,888人	21年11月1日	
28	獨協大学	9,276人	22年4月1日	
29	学習院大学	10,662人	22年4月1日	
30	東京工業大学	12,480人	22年7月1日	
31	日本女子大学	8,364人	23年4月1日	
32	二松学舎大学	3,361人	23年5月1日	
33	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,674人	23年6月1日	
34	神奈川大学	19,422人	24年6月1日	
35	日本工業大学	4,712人	24年7月1日	
36	東京女子大学	4,434人	24年8月1日	
37	中央大学（文学部・文学研究科）	4,297人	25年6月1日	
38	麗澤大学	3,126人	25年6月1日	
39	慶応義塾大学	44,809人	25年8月1日	
40	共立女子大学・共立女子短期大学	6,163人	26年4月1日	
41	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,265人	26年4月1日	
42	日本文化大學	990人	27年4月1日	
43	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,461人	27年5月1日	
44	十文字学園女子大学	4,185人	27年6月1日	
45	早稲田大学	52,392人	27年6月1日	
46	横浜国立大学	10,304人	28年4月1日	
47	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	11,719人	28年4月1日	
48	聖心女子大学	2,774人	28年5月1日	
49	津田塾大学	3,833人	29年8月1日	
50	清泉女子大学	2,139人	29年10月1日	
51	立正大学（文学部）	2,257人	30年4月1日	
52	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	6,767人	30年4月1日	
53	明治大学（文学部・文学研究科）	3,811人	30年5月1日	
54	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,447人	31年4月1日	
55	明星大学	8,934人	31年4月1日	
56	宝塚大学	1,089人	元年5月29日	
57	東京理科大学	20,767人	2年4月1日	
58	駒澤大学	16,448人	2年8月1日	
59	中央学院大学	3,388人	3年4月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。
※職員（事務・技術）は含まず。

【京都国立博物館】

① 加入校数（32校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	13,024人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,682人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,681人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	1,117人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	6,832人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,452人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,977人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,555人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	953人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,203人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,119人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,742人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,386人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	13,852人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社	38,525人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	4,045人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,003人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都市立芸術大学	1,071人	20年8月1日	京博のみ	
21	国立大学法人　大阪大学	24,238人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
22	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	6,346 人	21 年 8 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	学校法人　関西大学	33,069人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
24	京都府立大学	2,145人	23年7月1日	京博のみ	
25	学校法人　京都産業大学	15,950人	24年8月1日	京博のみ	
26	学校法人　立命館	36,691人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
27	学校法人　二本松学院	3,071人	29年4月1日	京博のみ	
28	四天王寺大学 人文社会学部	1,833人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
29	学校法人　関西学院	27,325人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
30	大手前大学	2,984人	30年6月1日	京博のみ	
31	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
32	滋賀大学	3,812人	2年4月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数（26校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,274人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,682人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,117人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,452人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	5,977人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,555人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,203人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,119人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	佛教大学	13,852人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
11	奈良大学	4,045人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
12	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
13	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,525人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
15	就実大学　人文科学部	1,003人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
16	天理大学	3,230人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
17	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,283人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
18	京都外国語大学、京都外国語短期大学	6,346人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
19	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,069人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
20	奈良工業高等専門学校	1,115人	23年7月1日	奈良博のみ	
21	立命館大学	36,691人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
22	京都女子大学	6,832人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
23	四天王寺大学　人文・社会学部	1,833人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
24	学校法人　関西学院	27,325人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
25	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	京博との 2 館併用	
26	奈良県立大学	657人	2年6月1日	奈良博のみ	

【九州国立博物館】

① 加入校数（22校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,850人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	2,826人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,254人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,407人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,624人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	490人	21年4月1日	
17	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,421人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	
22	福岡女子大学	1,096人	24年4月1日	30年一時退会、3年4月再入会

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 新型コロナウイルスの影響により中止		
京都国立博物館 1月22日(土) 9：30～17：00	○来館者数　569人《389人》 留学生　　45人《68人》 ・名品ギャラリー（平常展示）観覧料無料 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント ・多言語スタッフによるギャラリーツアー	・留学生アンケート回答者数31人 （回収率69%） ・来館頻度：来たことがある19% ・「留学生の日」参加：初めて84% ・認知経路：ポスター・チラシを見て29%、HPを見て13%、チラシをもらって0%、友人・教師42%　他0% ・展示内容：とても良かった77%、良かった23%、普通以下0% ・出身国：米国 3%、中国26%、香港 3%、台湾3%、韓国32%、タイ 6%、フランス 1%、エルサルバドル 3%、ベトナム 10%、イラク3%、インドネシア6%
奈良国立博物館 11月23日(火・祝) 9：30～17:00	○来館者数　　530人《196人》 （なら仏像館389人＋英語落語141人） 留学生　　31人《0人》 （なら仏像館17人＋英語落語14人） ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「英語落語 in 奈良博」を実施	・留学生アンケート回答者数14人
九州国立博物館 11月3日(水・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,284人《814人》 留学生　　21人《8人》 令和3年度留学生イベント 「古代の彩り - 日本の装飾古墳 - 」 参加者20人 ※同伴者のカウントはなし ※特別展「海幸山幸」観覧者は含まない ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧	・留学生アンケート回答者数 21 人（回収率100%） ・出身国：中国14人、アメリカ2人、カナダ人1人、オーストラリア人1名、アイルランド人1人、ベトナム人1人、ブラジル人1人 ・来館回数：1回9人、2回5人、3回3人、4回1人、5回以上3人 ・認知経路（複数回答）：ポスター・チラシ7人、学校（教師）から3人、友人から8人、ホームページ1人、フェイスブック1人、観光ガイドブック2人、留学生イベントをきっかけに知った4人、その他1人 ・留学生イベントの流れやスタッフの対応： とてもよかった19人、よかった1人 ※アンケートは、留学生イベント参加者と交流展来館者から回収。

＊来館者数、参加者数等：《　　》内は令和2年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　令和4年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	6,972 人	7,000 円
九州国立博物館	46 人	7,500 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　令和4年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (3,800 円)	一般 (3,500 円)	学生 (2,500 円)
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	2,353 人	−	2,353 人	−
九州国立博物館	1,653 人	1,582 人	−	71 人

国立博物館メンバーズパス（4館共通/29年4月1日より新設） 令和4年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (2,500 円)	学生 (1,200 円)
東京国立博物館	2,363 人	2,225 人	138 人
京都国立博物館	249 人	239 人	10 人
奈良国立博物館	59 人	33 人	26 人
九州国立博物館	17 人	16 人	1 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券3枚贈呈、ミュージアムシアター無料観覧券1枚贈呈、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券6枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の配布
③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
④当館レストランでの飲食料金の割引
⑤近隣他館の入館料金割引または無料
⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施

・4月30日（金）　聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」
　特別鑑賞会　参加人数　71人
・7月27日（火）　特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」
　特別鑑賞会　参加人数　81人
・11月5日（金）　特別展「第73回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数　82人
・1月13日（木）　「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」
　特別鑑賞会　参加人数　69人
・2月9日（水）　特別展「国宝　聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」
　特別鑑賞会　参加人数　84人

【九州国立博物館】
①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和4年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人 清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	546件	473件	7件	121件	50件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ/ﾌﾟﾗﾁﾅ会員（個人）:7人 特別会員（団体）:20団体 特別/ｺﾞｰﾙﾄﾞ会員（個人）:40人 維持会員（団体）:40団体 維持/シルバー会員（個人）:439人	賛助会員（団体）:31団体 特別会員（団体）:24団体 特別会員（個人）:37人 普通会員（団体）:21団体 普通会員（個人）:360人	団体会員:6 件 個人会員:1 件	特別支援会員:1団体 特別会員:5団体 一般会員（団体）:18団体 一般会員（個人）:97人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:1人 特別会員（個人）:6人 維持会員（個人）:23人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:1団体 維持会員（団体）:18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】
①当館総合文化展、特別展（シルバー会員以外）の無料観覧
②各特別展開会式・内覧会へのご招待
③賛助会感謝デーへのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】
①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】
①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式（内覧会）へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑦当館レストランでの飲食料金の割引
⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月28日（水）　聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」
　特別鑑賞会　参加人数　53人
・7月20日（火）　特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」
　特別鑑賞会　参加人数　38人
・11月5日（金）　特別展「第73回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数　65人
・1月7日（金）　「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」
　特別鑑賞会　参加人数　33人
・2月10日（木）　特別展「国宝　聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」
　特別鑑賞会　参加人数　36人

【九州国立博物館】

①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待（3年度は新型コロナウイルスの影響により特別鑑賞会中止。代わりに日時指定のない招待券を送付）
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和4年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　0件
2) 館主催・協力イベント　13件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	6月26日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	63	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
2	8月1日	イベント	キッズデー　子ども和楽器コンサート	平成館大講堂	243	主催：東京国立博物館
3	9月12日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	92	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
4	10月21日～11月28日	イベント	柳瀬荘アートプロジェクト	柳瀬荘	－	主催：日本大学芸術学部、東京国立博物館
5	10月28日	音楽会	Music Program TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	250	主催：東京文化会館他 共催：東京国立博物館他
6	11月3日～11月7日	イベント	創エネ･あかりパーク2021に伴うライトアップ	本館前庭	－	主催：「創エネ・あかりパーク2021」実行委員会 協力：東京国立博物館
7	12月5日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	110	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
8	12月17日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert 花＊花	平成館ラウンジ	108	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
9	12月18日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert K	平成館ラウンジ	185	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
10	12月19日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert ジュスカ・グランペール	平成館ラウンジ	336	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
11	4年3月23日	音楽会	東京・春・音楽祭2022	法隆寺宝物館	59	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
12	4年3月30日	音楽会	東京・春・音楽祭2022	平成館ラウンジ	140	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
13	4年3月31日	音楽会	東京・春・音楽祭2022	法隆寺宝物館	62	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

1) 会場提供　　40件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	3月26日～5月16日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	4/日	
2	3月26日～5月16日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	5/日	
3	4月12日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室３	246	
4	4月16日	研修会	修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室・会議室１	23	
5	4月21日	茶席	茶会	茶室	7	
6	5月14日	研修会	修理技術者資格制度　登録審査	研修室･会議室１･会議室２	19	
7	5月31日	研修会	会場運営従事者研修	講堂	55	
8	6月6日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	90	
9	6月18日	会議	会議会場	講堂・接客室１	100	
10	7月3日	会議	会議会場	会議室１・事務棟２階応接室	8	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
11	7月12日	会議	会議会場	講堂、グランドロビー	40	
12	7月12日	研修会	会場運営従事者研修	研修室・会議室１	40	
13	7月14日	研修会	修理技術者資格制度　第１回試験準備委員会	会議室１・会議室２	11	
14	7月15日	会議	会議会場	事務棟２階応接室	2	
15	7月16日	研修会	修理技術者資格制度　上級・中級講習会	研修室	7	
16	7月23日～9月12日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	15	
17	7月23日～9月12日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	25	
18	7月26日	鑑賞会	休館日鑑賞会	展示室、接客室１	100	
19	8月16日	鑑賞会	休館日鑑賞会	展示室、接客室１	1,050	
20	10月3日	茶席	茶会	茶室	13	
21	10月8日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第１次試験	研修室・会議室１・会議室２	17	
22	10月8日～12月5日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	4/日	
23	10月8日～12月5日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	5/日	
24	10月24日	研修会	茶室勉強会	茶室	16	
25	10月30日	茶席	茶道教室	茶室	3	
26	11月25日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第２次試験	研修室・会議室１・会議室２	17	
27	11月26日、27日	研修会	修理技術者資格制度　初級講習会	会議室１・研修室	16	
28	12月4日、5日	茶席	茶会	茶室	21	
29	12月11日	茶席	茶道教室	茶室	3	
30	12月18日	茶席	茶会	茶室	13	
31	12月19日	茶席	茶会	茶室	9	
32	4年1月9日	茶席	茶会	茶室	10	
33	4年1月21日	会議	会議会場	講堂	40	
34	4年1月22日	茶席	茶道教室	茶室	3	
35	4年1月24日	会議	表彰式	講堂	100	
36	4年2月13日	コンサート	コンサート	講堂	70	
37	4年2月19日	茶席	茶道教室	茶室	3	
38	4年3月14日、15日	イベント	落語会	講堂・接客室３	100	
39	4年3月19日	茶席	茶道教室	茶室	3	
40	4年3月25日、26日	イベント	シンポジウム	講堂、グランドロビー・接客室１・接客室２・接客室３	100	

2) 館主催・協力イベント　20件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月3日	講演会	記念講演会「律とは何か」	講堂	83	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連イベント
2	4月10日	講演会	日本の戒律運動と日本人	講堂	70	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連イベント
3	4月17日	講演会	俊芿と宋代戒律の日本への影響	講堂	71	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連イベント
4	4月25日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	30	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
5	5月8日	講演会	鑑真和上とゆかりのみ仏たち	講堂	100	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連イベント
6	7月4日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂	57	京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会 美術部会との共催
7	7月24日	講演会	彫刻修理の歴史と現状	講堂	81	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
8	7月31日	講演会	国宝・重要文化財の指定 ―書跡・典籍、古文書を中心に―	講堂	66	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
9	8月7日	講演会	京の国宝 ―日本の文化財保護のあゆみと京都―	講堂	67	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
10	8月18日	講座	社会科教員のための向上講座	講堂	34	京都市教育委員会、京都市小学校・中学校・高等学校の社会科・美術科の研究部会との共催
11	8月21日	講演会	京の国宝―流転する工芸―	講堂	66	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
12	8月28日	講演会	京の国宝―絵画の美と評価の歴史―	講堂	71	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
13	9月1日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	44	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
14	9月4日	講演会	今日の文化財保存技術 ―装潢修理、特に紙を中心に―	講堂	61	特別展　「京の国宝―守り伝える日本のたから―」関連イベント
15	10月9日	講演会	共に楽しむ茶の美術館 ―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―	講堂	100	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」関連イベント
16	10月23日	講演会	近代の紳士能と大名家旧蔵能装束 ―加賀藩前田家伝来品をめぐって―	講堂	87	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」関連イベント
17	11月6日	講演会	近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁	講堂	87	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」関連イベント
18	11月20日	講演会	與衆愛玩 ―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―	講堂	96	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」関連イベント
19	11月28日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	88	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
20	4年2月20日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	94	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　106 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 3 日	撮影	着物レンタルモデル撮影	庭園・茶室	12	Wakana style + 峪口治恵
2	4 月 17 日	講座・セミナー	奈良八重桜の会設立２０周年記念総会	会議室	30	奈良八重桜の会　上田トクヱ
3	4 月 18 日	撮影	奈良八重桜の会　撮影	庭園・茶室	2	奈良八重桜の会　上田トクヱ
4	4 月 22 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
5	4 月 22 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
6	4 月 26 日～6 月 21 日	キャンペーン	特別展　展覧会関連ブース出展	地下回廊	－	奈良県文化資源活用課
7	4 月 27 日、30 日、5 月 3 日、4 日、	イベント	着物レンタル	庭園・茶室	63	Wakana style + 峪口治恵
8	5 月 5 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
9	5 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	ファーストステージ奈良本店
10	5 月 10 日	講座・セミナー	休館日内覧会	講堂・展示室	746	読売新聞社
11	5 月 13 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
12	5 月 13 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
13	5 月 16 日	撮影	「あさいち」内コーナー「みんなでシェア旅（奈良県）」	敷地内	6	NHK 奈良放送局　宮川慎也
14	5 月 20 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
15	5 月 21 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	（株）トライアングル
16	5 月 27 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
17	6 月 3 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
18	6 月 4 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	ファーストステージ奈良本店
19	6 月 10 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
20	6 月 16 日	講座・セミナー	奈良県講演会	講堂	180	奈良県
21	6 月 17 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
22	6 月 17 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
23	6 月 18 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
24	6 月 19 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	ローバイモード
25	6 月 23 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
26	6 月 24 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
27	6 月 24 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
28	6 月 30 日	撮影	おとな旅あるき旅の番組撮影	敷地内・展示室	10	テレビ大阪　番組制作センター　林
29	7 月 1 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
30	7 月 8 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
31	7 月 8 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
32	7 月 15 日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
33	7 月 15 日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
34	7月16日～9月13日	イベント	記念写真サービス	地下回廊	3,294	小路谷写真　桂
35	7月20日	撮影	アパレルブランド撮影	仏美センター	11	loop&loop kaze no sumika 大津真雪
36	7月20日	撮影	「わたしは、奈良派」撮影	仏美センター	2	コムニコ　杉浦茉衣子
37	7月22日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
38	7月17日､18日､21日、22日、23	イベント	着物レンタル	庭園・茶室	34	Wakana style + 峪口治恵
39	7月29日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
40	7月29日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
41	8月2日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
42	8月5日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
43	8月5日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
44	8月15日	撮影	メンズアパレル商品　撮影のため	仏美センター	5	中川政七商店　佐々木香里
45	8月19日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
46	8月19日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
47	8月26日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
48	8月26日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
49	8月26日	撮影	ETV 特集「美術院」	敷地内	3	NHK 京都放送局放送部ディレクター　河原愛子
50	9月2日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
51	9月2日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
52	9月6日	鑑賞会	バーチャル鑑賞ツアー	展示室	－	JTB
53	9月6日	撮影	ウェディングフォト	仏美センター・庭園・茶室・敷地内	5	スタジオゼロ　氷見雄輔
54	9月9日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
55	9月9日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
56	9月13日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
57	9月13日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	名新社　湊（菊水楼関連）
58	9月13日	会議	正倉院展　呈茶席担当者会議	会議室	20	結の会　片桐弘枝
59	9月16日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
60	9月21日	撮影	奈良市交通対策動画	敷地内	1	ＪＲ東海エージェンシー
61	9月23日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	スタジオゼロ　氷見雄輔
62	9月29日	撮影	「奈良観光ガイドブック」取材	敷地内・仏像館	1	マガジン　ハウスコロカル編集部　坂本愛
63	9月30日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学　矢澤実穂
64	9月30日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学　矢澤実穂
65	10月1日	祭事	秋祭り	敷地内	60	氷室神社
66	10月7日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学　矢澤実穂
67	10月12日	撮影	雑誌撮影	敷地内	6	ふみ舎　糸瀬ふみ
68	10月14日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学　矢澤実穂

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
69	10月14日､15日、21日	講座･セミナー	庭園・茶室鑑賞のため	庭園・茶室	20	淡交カルチャー　八重樫郁
70	10月30日～11月15日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	―	(財)仏教美術協会
71	10月30日～11月15日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	―	㈲日本クリーンシステムズ
72	10月30日～11月15日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	校倉な会
73	10月30日～11月15日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	なら和み館
74	10月30日～11月15日	キャンペーン	正倉院展記念撮影	地下回廊	―	小路谷写真　桂
75	11月1日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ　氷見雄輔
76	11月1日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB奈良店
77	11月11日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	穴田有佐（個人）
78	11月13日	会議	正倉院展出陳品解説	会議室	20	法華寺　樋口教香
79	11月21日	茶会	茶会	茶室	10	千葉桂司
80	11月22日～11月23日	撮影	「戦後レジーム研究」シリーズの撮影	庭園・茶室	6	ダイレクト出版
81	11月25日	講座･セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学　矢澤実穂
82	11月27日	講座･セミナー	奈良県調停協会奈良支部文化研修	講堂	54	奈良県調停協会　須和隆彦
83	11月27日	見学	建物見学	仏美センター	30	クラブツーリズム　川後田
84	11月28日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	（株）トライアングル
85	11月29日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	（株）トライアングル
86	11月30日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB奈良店
87	12月3日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	（株）トライアングル
88	12月5日	イベント	日本クラシックカー＆エキサイティングカーラリー２０２１奈良	敷地内	100	(株)ツーアンドフォー
89	12月6日	撮影	バーチャル視察動画の撮影のため	敷地内・仏美センター・なら仏像館内	8	奈良県観光局MICE推進室
90	12月10日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB奈良店
91	12月14日	撮影	バスターミナル上映会での映像撮影	庭園・茶室	3	奈良県奈良公園室
92	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	―	春日大社
93	12月18日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ　氷見雄輔
94	12月20日	撮影	Webメディア「Narakko！」掲載のため	敷地内、仏美センター	1	読売奈良ライフ　塩田
95	12月29日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ　氷見雄輔
96	1月9日	撮影	ウェディングフォト	庭園・茶室	4	スタジオゼロ　氷見雄輔
97	1月13日	講座･セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学　矢澤実穂
98	1月27日	講座･セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学　矢澤実穂
99	2月8日	撮影	ウェディングフォト	敷地内、会議室	8	Wakana style + 森山治恵
100	2月21日	講座･セミナー	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」よみうり文化センター休館日内覧会	講堂	132	読売新聞社
101	2月24日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB奈良店
102	2月26日	講座･セミナー	歴史、設計者等の講義受講のため	講堂・仏美センター	36	奈良まちづくりセンター上嶋晴久

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
103	3月11日	講座･セミナー	特別展「国宝 十一面観音菩薩」講演会	講堂	59	清風会　理事長　武藤治太
104	3月21日	講座･セミナー	奈良きたまち近現代建築を歩くの見学のため	講堂・仏美センター	9	きたまちコンセント　大戸旬人
105	3月28日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	（株）トライアングル
106	3月31日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	（株）トライアングル

2）館主催・協力イベント　　46件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月5日	法要	春季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
2	4月26日、5月22日、6月22日	法要	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」法要	西新館2階	80	
3	4月27日～6月20日	イベント	ＪＲ西日本×特別展「聖徳太子と法隆寺」スタンプラリー	新館エントランス	―	
4	4月28日	鑑賞会	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」賛助会員特別鑑賞会	講堂	53	
5	4月30日	鑑賞会	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	71	
6	5月4日、5日	イベント	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント　聖徳太子ジャンボすごろく	地下回廊	43	
7	5月7日	イベント	奈良博文化大使就任式	西新館	20	
8	5月7日	鑑賞会	キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	48	
9	5月30日	イベント	奈良仏像けんきゅー部　聖徳太子と法隆寺編	講堂	60	よしもとエリアアクション
10	7/16～	イベント	特別展「奈良博三昧」関連　オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう　作り方動画	You Tube	756	
11	7月20日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」賛助会員特別鑑賞会	講堂	38	
12	7月21日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	51	
13	7月23日	イベント	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」関連ワークぢョップ　切り絵でアート　ならはくの仏像	地下回廊	47	
14	7月26日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	10	関係者のみ
15	7月27日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	81	
16	7月29日	イベント	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	37,434	
17	7月31日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクションー」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	86	
18	8月21日	イベント	奈良仏像けんきゅー部　奈良博三昧編	講堂	47	よしもとエリアアクション
19	10月4日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	30	関係者のみ
20	10月9日	イベント	音燈華　DAIWA SAKURA AID コンサート2021	庭園	93	主催：大和ハウス工業株式会社
21	10月27日～12月26日	イベント	庭園と茶室の再生クラウドファンディング	庭園・茶室	554	
22	10月30日～11月15日	展示	第73回正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	―	
23	10月30日～11月15日	イベント	第73回正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	敷地内	―	
24	10月30日～11月15日	展示	第73回正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
25	11月1日～11月15日	展示	庭園開放	庭園・茶室	7,454	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
26	11 月 4 日	鑑賞会	第 73 回正倉院展　研究員レクチャー付き！特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	176	
27	11 月 5 日	鑑賞会	第 73 回正倉院展　プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	82	
28	11 月 5 日	鑑賞会	第 73 回正倉院展　賛助会員特別鑑賞会	講堂	65	
29	11 月 7 日	イベント	奈良仏像けんきゅー部　第 73 回正倉院展編	講堂	85	よしもとエリアアクション
30	11 月 20 日～11 月 21 日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	3,156	
31	11 月 23 日	イベント	留学生の日関連イベント　英語落語 in 奈良博	講堂	141	
32	11 月 23 日	特別観覧	留学生の日	展示室	31	
33	11 月 27 日～12 月 2 日	イベント	入館者へ鹿袋プレゼント	なら仏像館	600	
34	12 月 10 日	イベント	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,167	
35	12 月 16 日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	78	
36	1 月 7 日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」賛助会員特別鑑賞会	講堂	33	
37	1 月 8 日	イベント	奈良仏像けんきゅー部　藤田美術館展編	講堂	36	よしもとエリアアクション
38	1 月 12 日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	28	
39	1 月 13 日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	69	
40	2 月 9 日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	84	
41	2 月 10 日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」賛助会員とキャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	59	
42	2 月 11 日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞会	講堂	66	
43	2 月 13 日	イベント	「聖林寺十一面観音菩薩」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,411	
44	3 月 12 日	イベント	奈良仏像けんきゅー部　聖林寺展編	講堂	73	よしもとエリアアクション
45	3 月 19 日	イベント	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」関連ワークショップ「散華でポン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	24	
46	3 月 26 日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	38	

【九州国立博物館】

1）会場提供　0 件（イベント、講演会等）

2）館主催・協力イベント　44 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 6 日～5 月 16 日	展示	綴プロジェクト高精細複製品の展示	文化交流展示室 11 室	－	主催：特定非営利活動法人 京都文化協会
2	5 月 4 日、5 日	イベント	きゅーはく夢広場 「おいでよ！GW のきゅーはく」 「答えてみよう！きゅーはく文化財クイズ！」	エントランス、文化交流展示室	220	主催：九州国立博物館
3	5 月 9 日	イベント	カード織りワークショップ	研修室	14	主催：九州国立博物館
4	7 月 16 日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館
5	7 月 31 日、8 月 5 日	イベント	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	Zoom によるオンライン開催	16	主催：九州国立博物館
6	8 月 5 日～4 年 3 月	展示	飾り山笠「十一番山笠 天神一丁目」展示	エントランス	－	主管：博多祇園山笠振興会

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
7	8月7日	フォーラム	全国高等学校歴史学フォーラム 2021	ミュージアムホール、エントランス	－	参加校関係者出席人数：26人
8	8月11日～17日	展示	九州国立博物館に集まる怪しいやつら展	ミュージアムホール	－	主催：九州国立博物館
9	8月16日、21日	イベント	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸紡ぎ」	Zoom によるオンライン開催	14	主催：九州国立博物館
10	9月14日～26日	展示	第72回太宰府天満宮七夕揮ごう大会優秀作品展示	エントランス	－	主催：公益財団法人 太宰府顕彰会
11	9月28日～10月6日	イベント	日本のからくり人形展	エントランス	－	主催：九州国立博物館
12	10月12日～17日	展示	歴史と文化とアートの街「太宰府」の創造に向けたまちづくり運動～ARTiVERS(アーティバース)～	エントランス	－	主催:一般社団法人つくし青年会議所
13	10月18日	会議	第29回日米文化教育交流会議（カルコン）日米合同会議	オンラインにて開催	－	主催:国際交流基金カルコン事務局
14	10月20日～22日	相談会	3年度 IPM オンライン相談会	オンラインにて開催	19	参加施設：10施設
15	10月26日～11月7日	展示	3年度筑紫地区文化財写真展ようこそ！古代日本の『西の都』へ	エントランス	－	主催:筑紫地区社会教育振興協議会
16	10月31日	イベント	特集展示「手わざ － 琉球王国の文化 －」関連イベントワークショップ『琉球古刺繍をやってみよう』	研修室	10	主催：九州国立博物館
17	11月3日	講演会	文化の日特別記念講演「近代洋画と九州、そして福岡」高山百合（福岡県立美術館学芸員）佐々木奈美子（久留米市美術館学芸員）	ミュージアムホール	57	主催：福岡県立美術館
18	11月3日	イベント	3 年度留学生イベント古代の彩り 日本の装飾古墳	研修室	21	主催：九州国立博物館
19	11月6、7日	イベント	東九州神楽人の祭典	ミュージアムホール	160	主催:神楽の里づくり推進協議会､京築連帯アメニティ都市圏推進会議、大分県
20	11月16日～28日	展示	宮地嶽第54回光の道全国競書大会作品展示	エントランス	－	主催:宮地嶽光の道全国競書大会実行委員会
21	11月28日	イベント	グラスハープ☆ファンタジーコンサート	ミュージアムホール	235	主催：九州国立博物館
22	12月4日	イベント	ファイアンスを作ってみよう	研修室	19	主催：九州国立博物館
23	12月10日	イベント	クリスマスカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
24	12月11日	イベント	ワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	研修室	12	主催：九州国立博物館
25	12月14日～19日	展示	第37回筑紫地区中学校美術展	エントランス	－	主催:筑紫地区中学校美術教育研究会事務局
26	12月18日	イベント	第93回親子で茶道体験（4回）	茶室	22	主催：九州国立博物館
27	12月19日	イベント	トレジャーハンターみっちーのきゅーはくディスカバリー「海を渡ったお宝と歴史」	ミュージアムホール	88	主催：九州国立博物館
28	4年1月3日	イベント	きゅーはくニューイヤーコンサート 2022	ミュージアムホール	334	主催：九州国立博物館
29	4年1月5日	イベント	新春は九博で博物館浴しよう一学芸員体験と科学的データの測定―	研修室、展示室	17	主催：九州産業大学、九州産業大学美術館
30	4年1月12日～16日	展示	第5回 MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	－	主催：MOA 美術館、「MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
31	4年1月18日～2月6日	展示	旅するデニム展-世界の子ども服をデニムで表現-	ミュージアムホール	－	協力:香蘭ファッションデザイン専門学校
32	4年1月22日～30日	展示	第24回 日中青少年書画巡回展	エントランス	－	主催：九州日中文化協会
33	4年2月11日～13日	イベント	「九州・沖縄夢のお菓子まつり」シュガーロードのお菓子販売会	エントランス	－	主催：太宰府への誘客・周遊イベント実行委員会
34	4年2月15日～20日	展示	ワンヘルスパネル展	エントランス	－	主催:福岡県保健医療介護部保険医療介護総務課
35	4年2月22日～27日	展示	九州女子大学　第52回卒業書作展	エントランス	－	主催:九州女子大学人間科学部人間基礎学専攻
36	4年2月23日、2月27日	イベント	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK　糸取り」	研修室	19	主催：九州国立博物館
37	4年3月5日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツアー	Zoom によるオンライン開催	21組	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
38	4年3月5日	シンポジウム	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄―大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代―」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館・福岡県 共催：福岡大学考古学研究室
39	4年3月5日～6日	展示	日本遺産・やばけい遊覧パネル展示	エントランス	中止	主催：中津市・玖珠町
40	4年3月8日～21日	展示	九州次世代展 2022 九州のユネスコ無形文化遺産を引き継ぐ者たち	エントランス	-	主催：九州国立博物館
41	4年3月11日	講演会	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連イベント 伝教大師 1200年大遠忌記念 天台宗九州の青年僧による声明公演	ミュージアムホール	124	出演：天台宗仏教青年会(九州東教区・九州西教区)
42	4年3月19日	イベント	博物館でヨガ体験！きゅーはくヨガレッスン	ミュージアムホール	50	主催：株式会社 CROSSFM
43	4年3月26日	イベント	九州国立博物館を愛する会イベント「きゅーはく雲海桜」	ミュージアムホール、散策路ほか	―	主催:九州国立博物館を愛する会
44	4年3月27日	イベント	「TAKE IT EASY」in九州国立博物館桜満開スペシャル	ミュージアムホールほか	―	主催：株式会社 CROSSFM

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和4年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		3年度新規	総数	3年度新規	総数	3年度新規	総数	3年度新規	総数
写真原板(フィルム)		50件	323,991件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		14,881件	134,712件	7,025件	(*)57,597件	3,432件	62,529件	2,146件	32,678件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,831冊	220,287冊	868冊	155,071冊	1,500冊	94,878冊	4,016冊	202,797冊
	漢書	356冊	41,574冊	94冊	22,406冊	22冊	5,368冊	0冊	0冊
	洋書	147冊	15,071冊	20冊	4,830冊	18冊	2,089冊	105冊	3,038冊
	計	4,334冊	276,932冊	982冊	182,307冊	1,540冊	102,335冊	4,121冊	205,835冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

(*)令和3年度以前のデジタル撮影にて新たに追加されたデータ(1,361件)を加えた。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
開館日数	229日	229日	204日	177日	122日
利用者数	4,971人	4,616人	4,080人	1,219人	1,103人
閉架図書（閲覧）	4,905件	5,314件	4,649件	4,151件	3,112件
マイクロフィルム（閲覧）	502件	456件	398件	507件	189件
レファレンスサービス	4,861件	5,113件	5,152件	1,954件	1,934件
コピーサービス	30,066枚	33,832枚	27,286枚	23,331枚	19,540枚

※新型コロナウイルス感染症対策のため、緊急事態宣言発出に伴い元年度は2月7日～3月31日、2年度は4月1日～6月1日、3年度は4月25日～5月31日に臨時休館した。

また、同じく感染症対策のため、2年度6月2日から予約制・人数制限の下で再開、2月15日からは開館日を週3日に減らして開館し、3年度も週3日開館を継続した。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和4年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	248	11	237	88	2	86	67	9	58	59	0	59	34	0	34
写真撮影	85	4	81	2	0	2	26	4	22	24	0	24	33	0	33
映画撮影	4	2	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0		0	1	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	7	0	7	1	0	1	1	0	1	5	0	5	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	152	5	147	83	0	83	40	5	35	29	0	29	0	0	0

点数

令和4年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	1,330	45	1,285	527	7	520	212	38	174	462	0	462	129	0	129
写真撮影	445	18	427	16	0	16	78	18	60	223	0	223	128	0	128
映画撮影	9	7	2	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	0	1	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	8	0	8	1	0	1	2	0	2	5	0	5	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	868	20	848	503	0	503	132	20	112	233	0	233	0	0	0

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和4年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,175	805	370				744	579	165	310	171	139	9	1	8
		カラー													112	54	58
	プリントでの提供	モノクロ	47	37	10				44	35	9	3	2	1			
		カラー	3	1	2				0	0	0	3	1	2			
画像再利用			111	78	33							111	78	33	0	0	0

点数

令和4年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,092	1,869	3,223				3,090	1,428	1,662	1,504	329	1,175	45	4	41
		カラー													453	108	345
	プリントでの提供	モノクロ	177	88	89				153	77	76	24	11	13			
		カラー	34	5	29				0	0	0	34	5	29			
画像再利用			250	160	90							250	160	90	0	0	0

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・〈冬木小袖〉修理プロジェクト　新たな返礼品「江戸の手しごと・伝統工芸品」が登場

会期	4月27日（火）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計7回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」十日町市博物館「形をうつす」

会期	6月1日（火）～7月4日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、考古愛好者、歴史愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・日本美術のとびら

会期	6月22日（火）　～
ターゲット	ファミリー層、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト、トーハクウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	FASHION PRESS、goo ニュース、LINEニュースほか、計78媒体
その他	—

・〈冬木小袖〉修理プロジェクト　1,500万円の目標達成

会期	7月5日（月）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回、Youtubeでの動画配信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	読売新聞オンライン、朝日新聞デジタルマガジン＆ 、@nifty ビジネス ほか53媒体
その他	—

・びじゅチューン！× 山口ゆめ回廊博覧会　なりきり美術館

会期	7月16日（金） ～ 8月22日（日）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター館内掲示
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計8回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	山口宇部経済新聞
その他	―

・春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46

会期	9月4日（土） ～ 11月28日（日）
ターゲット	若年層、美術愛好者若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	文化財修理プロジェクトの一環として実施、「日本博」主催・共催型プロジェクト、ソニーミュージックエンターテインメントとの共催事業
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布
交通広告	東京メトロ上野駅内
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	9,10,11月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計10回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	SNS（Twitter／Instagram）広告出稿、Twitter解説生配信、共催社にてオフィシャルECサイト制作、乃木坂46公式SNSチャンネルからの発信、広報用配信用映像の制作（「日本博」主催・共催型プロジェクト）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東スポ（9月4日）
テレビ、ラジオ	アートシーン、カウントダウンTV(7月5日放送)
雑誌	―
インターネットメディア	Yahooニュース、マイナビニュース、インターネットミュージアム、読売新聞オンラインほか計114媒体
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」愛知県陶磁美術館　特集展示「喫茶の碗の物語－中国陶磁への憧れ、そして…」

会期	10月9日（土）～12月12日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	中日新聞、東奥日報
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」都城市立美術館「日本美術の源流ー雪舟・狩野派から近代美術ー」

会期	10月30日（土）～12月5日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・8Kで文化財「みほとけ調査」

会期	11月16日（火） ～ 12月5日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	シャープ株式会社との共同研究
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト、トーハクウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	フジテレビ「めざましテレビ」（11月17日放送）、NHKおはよう日本
雑誌	―
インターネットメディア	わつなぎ、和楽WEB、マイナビニュース、読売新聞オンライン、PRTIMESほか計84媒体
その他	―

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」名古屋市博物館「大雅と蕪村―文人画の大成者」

会期	12月4日（土）～4年1月30日（日）
ターゲット	一般の美術・古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	日本旅行「愛知県のお出かけイベント情報」
その他	―

・3年度国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	4月24日（土）～4年2月27日（日）（全国5施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計40回、ぶんかつブログでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・3年度貸与促進事業　佐賀県立美術館　特別展「白馬、翔びたつ―黒田清輝と岡田三郎助―」

会期	9月7日(火)～10月17日(日)
ターゲット	古美術愛好者、近代美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体、一般の美術愛好者向け雑誌媒体
特記事項	（※）は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	西鉄高速バスターミナル　デジタルサイネージ（9月13日～10月13日）（※）
新聞・雑誌広告	「るるぶFREE福岡」Vol.52夏秋号（※）、「ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック」2021-2022（※）、「美術手帖」2021年10月号（※）、「美術の窓」10月号（※）
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計9回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館　アートシーン
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・2021年度公開シンポジウム「 ミュージアムをめぐるファンドレイジング」

会期	4年2月10日(木)
ターゲット	ミュージアム関係者、外部資金獲得に関わる企業・団体関係者、関係省庁、一般の寄附者
重点項目	一般媒体、インターネット媒体
特記事項	公益財団法人日本博物館協会共催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ機構内施設配布、「博物館研究」のチラシ同封
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介
その他	日本博物館協会ウェブサイトでの紹介、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊誌「美術の窓」
インターネットメディア	―
その他	―

・令和5(2023)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館募集開始

会期	4年4月1日（金）～6月30日（木）
ターゲット	全国の博物館・美術館、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業募集開始の周知を目的とする広報

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ及び申請要項の送付169件(公開承認施設、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	excite.ニュース、LINEニュース ほか計59件
その他	―

・令和4(2022)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館が決定

会期	4年4月1日（金）～12月4日（日）（全国6施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、ノアドット ほか計34媒体
その他	―

【東京国立博物館】
(1) 総合文化展（平常展）

・「博物館でお花見を」

会期	3年3月16日(火)～4月11日(日) （25日間）
ターゲット	外出傾向にある、SNSを多用している日本の20代前半～30代前半。一般の美術愛好家、訪日・在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、広報ビジュアルデータを制作しデジタルメディアの広報をメインとしたため、館内掲示用のポスターのみ作成。
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）、JR新橋駅（北改札）、JR東京駅（八重洲一番街） ※動画広告を内製し放映
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信。「博物館でお花見を」対象作品のうち、絵巻作品のギャラリートーク動画を内製しYouTubeにて配信。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、yhooo広告（モバイル）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、聖教新聞、新美術新聞ほか
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、オズモール、ファッションプレス、わつなぎ、ウォーカープラス、ananweb　ほか
その他	

・マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画 「イスラーム王朝とムスリムの世界」

会期	7月6日（火）～4年2月20日（日）(192日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物はごく少部数の制作とし、管内及び上野近隣施設等での掲出・配布を実施した。
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅・東京駅丸の内地下通路2期）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	ツイッター・フェイスブック・インスタグラムでの広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、神奈川新聞、聖教新聞、東洋経済日報社
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	『美術の窓』『外交』『週刊金曜日』
インターネットメディア	ウェブ版美術手帖、ファッションプレス、Walkerplus、モモモサーバー、月刊うえのWEB版8・9月合併号、「OBIKAKE」、Are You Happy、The Chain Museum、web太陽
その他	マレーシア文化通信『WAU(ワウ)』、時事通信、「TOKYO METRO NEWS 2021年9月号」、さくらタイムズ、JTBトラベル＆ライフ

・東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」

会期	7月13日（火）～9月20日（月・祝）（62日間）
ターゲット	外出傾向にある、SNSを多用している日本の20代前半～30代前半。館内の他の展示を見に来た来館者を誘導。
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…50部、A4…2万部　※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、都政新聞、新美術新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	株式会社生活の友社「美術の窓」（8月号）、㈱ベースボール・マガジン社「相撲」（9月号）ほか
インターネットメディア	読売新聞社「読売新聞オンライン」・「美術展ナビ」、ファッションプレス「ＦＡＳＨＩＯＮ　ＰＲＥＳＳ」、美術出版社「Ｗｅｂ版『美術手帖』」、インターネットミュージアム「インターネットミュージアム」　ほか
その他	―

・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」

会期	7月20日（火）～9月5日（日）（43日間）
ターゲット	小学生などの子どもとその親、若年層、外国人
重点項目	お子さんのいる家族向け媒体、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、OBIKAKE、インターネットミュージアム、kodomoe、月刊うえのWEB版 ほか
その他	―

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月14日（火）～10月17日（日）（30日間）
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	SNS広告、アットプレスによるリリース発信

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	読売新聞オンライン、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、月刊うえのWEB版 ほか
その他	―

・「博物館に初もうで」

会期	4年1月2日（日） ～ 1月30日（日）（25日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）、在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	アットプレスによるリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、新美術新聞、しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	―
雑誌	冬ぴあ、修美
インターネットメディア	ぶんかる、ファッションプレス、withPETS、朝日新聞デジタルマガジン&、美術手帖オンライン、Sfumart、月刊うえのWEB版ほか
その他	―

・特別企画　沖縄県立博物館・美術館　琉球王国文化遺産集積・再興事業　巡回展「手わざ　－琉球王国の文化－」

会期	4年1月15日（土）～3月13日（日）（50日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、沖縄文化愛好家
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…30部、A4…1万部（当館分）　※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）※予定
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE（TDK VOICES FROM NIHONMONO）
雑誌	遠州流茶道月刊誌月刊茶道誌「遠州」（株式会社大有・3月号）
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、「美術展ナビ」（読売新聞社）、「ファッションプレス」、WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、「月刊うえの」、「スフマート」ほか
その他	―

(2) 特別展、共催展等

・【会期変更】特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」

会期	4月13日（火）～6月20日（日）（31日間）※4月25日(日)～5月31日(月)臨時休館
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,700件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR-NSW27駅28面、私鉄5社フレコミボード43駅、東急線・みなとみらい線 横浜駅「メガセット」、京王新宿アドゲート、　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞折込チラシ
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	SNS広告実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、共同通信、新聞情報社、宗教新聞社ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ 「ぶらぶら美術・博物館」、NHK「日曜美術館」
雑誌	美術の窓(生活の友社、4月号)、別冊太陽(平凡社、特集号)、時空旅人別冊(三栄、特集号)、とんぼの本(新潮社、特集ムック)、ノジュール(JTBパブリッシング、3月号)、日経おとなのOFF(日経トレンディ、2021年1月号増刊)、AERA(朝日新聞出版、4月26日号)ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、いこレポ、タイムアウト東京、東京アートビート、カーサブルータスズ　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2年2月13日（平成館大講堂）
人数等	95名出席
④報道内覧会	
実施日	4月12日（月）
人数等	281名出席

・【会期変更】特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」

会期	6月22日（火）～9月12日（日）（73日間）
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会期変更
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、東京メトロ（プラチナボード）15駅20面、 JR東日本窓上チャンネル、私鉄5線窓上チャンネル、京王線沿線ポスター駅貼り（B1・B2）＆中吊り（B3）、ローチケ店頭ポスター掲出　ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（全国版）全5段カラー（7月6日）、日経新聞朝刊（全国版）全5段カラー（7月18日、7月25日）、朝日新聞朝刊（東京版）全5段カラー（7月6日）ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事6回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(読売新聞社、聖林寺)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・有楽町ビッグカメラ屋外ビジョンスポット放映 ・SNS広告配信（Twitter、Facebook）　ほか

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、共同通信、陸奥新報　ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良放送局　「県外初めて東京へ」（5月13日放送）、近鉄ケーブルテレビネットワーク（5月18日放送）、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」（7月11日放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（8月17日放送）、BS TBS「和の學校」（9月6日放送）（再放送あり）
雑誌	日経おとなのOFF別冊「2021年絶対見逃せない美術展」（2年12月9日発売）、馬ライフ（5月12日）、歴史人（6月5日発売）、美の履歴書（6月29日）、シティライフ（7月26日）、大神神社　みわさん（8月20日）、しんぶん赤旗（8月22日）、目の眼（7月号）、週刊文春（8月号）、和楽（8･9月号）ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、朝日マリオン・コム、うえの、シグネチャー、じゃらん、上野がすき、週刊新潮、サライ　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2年2月27日（平成館大講堂）
人数等	26媒体　37名出席
④報道内覧会	
実施日	6月21日
人数等	120媒体　178名出席

・聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

会期	7月13日（火）～9月5日（日）（49日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,400件（美術館・博物館等）
交通広告	JR駅貼り44駅（7月中）、東武－日比谷線・半蔵門線ドア横（7月中）、メトロコンコースビジョン304面(7月中旬)、私鉄駅貼り89駅（8月中）、メトロ駅貼り17駅（8月中）
新聞・雑誌広告	読売新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本教育新聞、東京新聞、朝日新聞、東洋経済日報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌	BM（美術の杜出版社・4月発売）、サライ（小学館・5月号）、和楽（小学館・6・7月号）、時空旅人（三栄・6月号）、芸術新潮（新潮社・7月号)ほか
インターネットメディア	OIL MAGAZINE、M3PRESS、Living東京Web、婦人画報デジタル、美術展ナビ、東京アートファン、インターネットミュージアムほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月25日(木)　※奈良国立博物館にて実施。あわせて会場からオンライン生中継も実施
人数等	会場：約30人　オンライン生中継視聴者：約50人
④報道内覧会	
実施日	7月12日(月)
人数等	127人

・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

会期	10月12日（火）～11月21日（日）（36日間）
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、東京メトロUボードゴールド17駅20面、JR東日本窓上チャンネル、私鉄5線窓上チャンネル、京王線沿線ポスター駅貼り（B1・B2）＆中吊り（B3）、ローチケ店頭ポスター掲出　ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（全国版）一面社告（9月28日）、日経新聞朝刊（全国版）全5段カラー（10月17日）、朝日新聞朝刊（東京版）全5段カラー（10月19日）ほか
テレビ広告	日本テレビ「ワーズハウスへようこそ」スポット放映、BS日テレ「深層NEWS」スポット放映
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(読売新聞社、天台宗)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・ローチケ渋谷街頭ビジョンスポット放映、有楽町ビッグカメラ屋外ビジョンスポット放映 ・SNS広告配信（Twitter、Facebook） ・Yahooディスプレイネットワーク（YDN）でのスポット放映
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、比叡山時報ほか
テレビ、ラジオ	NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」（11月7日放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（11月9日放送）、KBS京都「比叡の光」（9月19日、9月26日放送）ほか
雑誌	日経おとなのOFF別冊「2021年絶対見逃せない美術展」（2年12月9日発売）、「芸術新潮」（3月25日発売）、「東京人」（10月号）、「婦人公論」（10月12日発売）、「Discover Japan」（9月6日発売）、「サライ」（10月号）、「時空旅人」（11月号・9月24日発売）、「美術の窓」（10月号・9月18日発売）ほか
インターネットメディア	ドワンゴ「ニコニコ美術館」（10月26日配信）、インターネットミュージアム、美術展ナビ、ウェッジ「ほんのひととき」、伝教大師最澄1200年魅力交流委員会コミュニケーションサイト「いろり」ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月15日（木）（平成館大講堂）　※後日、録画映像を期間限定でオンライン配信
人数等	会場出席者：26媒体44名、オンライン配信視聴申込：21媒体27名
④報道内覧会	
実施日	10月11日(月)
人数等	132媒体182名

・ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」

会期	4年1月7日(金)～3月13日(日)（57日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約250件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	東京メトロ駅構内B1ポスター貼り（上野駅2021年12月～1月、日比谷駅2月11～24日ほか）、上野駅構内デジタルサイネージ、有楽町ビックビジョン街頭サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞朝刊紡ぐ面特集、読売新聞朝刊一面社告、伝統芸能専門誌「KENSYO」5段カラー広告ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、毎日新聞ほか
テレビ、ラジオ	TOKYO MX「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」、TOKYO FM「Blue Ocean」、ニッポン放送　「辛坊治郎ズーム そこまで言うか！」
雑誌	生活の友社「美術の窓2021年12月号、」集英社「eclat 2月号」、（株）ディスカバージャパン「Discover Japan3月号」、「タウン誌深川12/25発行号」
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、ウォーカープラス、たいとう文化マルシェほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―

④報道内覧会	
実施日	4年1月6日(木)
人数等	54媒体78名参加

・特別展「ポンペイ」

会期	4年1月14日（金）～4月3日（日）（70日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	8,071件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JRボード17駅20面（1/15～4週間）、上野駅1面（1/10～3/31）、メトロボード15駅20面（2/1～4週間）、京王線B1ポスター100枚×4週間×2期間、JRデジタルサイネージ18駅229面（1/31～2/6）
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社
テレビ、ラジオ	NHKBSプレミアム「古代ローマ・ポンペイ遺跡が日本にやってきた！」、東京MXTV「わたしの芸術劇場」ほか
雑誌	新潮社「芸術新潮2021年12月号」、生活の友社「美術の窓2021年12月号」、ぴあ「美術展ぴあ2022」、日経BPマーケティング「日経おとなのOFF別冊 2022年絶対見逃せない美術展」、時空旅人「大人が観たい美術展2022」、フォーシーズンズプレス「美プレミアム2022年3月号」、晋遊舎「美術展完全ガイド2022」など
インターネットメディア	Walkerplus、美術手帖オンライン、オソイトコ、大人のカルチャーガイド、ナショナルジオグラフィック日本版サイトなど
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月18日(月)　※朝日新聞社読者ホールにて、オンライン生中継配信のみ実施
人数等	視聴者：約50人
④報道内覧会	
実施日	4年1月13日(木)
人数等	139媒体188名参加

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」

会期	6月5日（土）～7月4日（日）（26日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、オリンピックで来日した旅行者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）
その他	―

・新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」

会期	4年1月2日（日）～2月13日（日）（37日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,561件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口サイネージ、京都市地下街サイネージ、京都市営地下鉄ホームドア広告、駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、朝日小学生新聞、毎日小学生新聞、京都新聞　ほか計6件
テレビ、ラジオ	BS朝日「京都ぶらり歴史探訪」、KBS京都「きらきん！」、KBS京都ラジオ
雑誌	月刊茶の間（宇治田原製茶場）、おふたいむ（ひでみ企画）　ほか計28件
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART　ほか計11件
その他	―

・特集展示「新収品展」

会期	4年1月2日（日）～2月6日（日）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、若冲ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	神戸新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	クロワッサン（マガジンハウス）、きょうの歳時記・美術館「アートの旅」
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART　ほか計2件
その他	―

・特集展示「後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―」

会期	4年1月2日（日）～2月13日（日）（37日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	きょうの歳時記・美術館「アートの旅」
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART　ほか計2件
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	4年2月19日（土）～3月21日（月・祝）（27日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	サライ、和布と手作り　ほか2件
インターネットメディア	アートアジェンダ、京都で遊ぼうART、沿線おでかけ情報（阪急電鉄）
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」

会期	3月27日（土）～5月16日（日）（44日間うち14日は緊急事態宣言のため休館）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車主要駅)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	日本経済新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞　ほか計112件
テレビ、ラジオ	おはようニッポン（NHK）　ほか10件
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、芸術新潮（新潮社）　ほか計73件
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、Lmaga.jp（エルマガジン社）　ほか計39件
その他	テーマのある旅（クラブツーリズム名古屋）　ほか計2件
③報道発表会	
実施日	2年12月18日（金）
人数等	34媒体、39人出席
④報道内覧会	
実施日	3月26日（金）
人数等	63媒体、77人出席

・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」

会期	7月24日（土）～9月12日（日）（44日間）
ターゲット	国宝ファン、日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビ　スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッター、展覧会公式ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞　ほか計140件
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）　ほか計3件
雑誌	芸術新潮（新潮社）、和樂（小学館）　ほか計97件
インターネットメディア	ニコニコ美術館（ドワンゴ）、美術手帖Web版（BTCompany）、Yahoo！ニュース　ほか計121件
その他	―
③報道発表会	
実施日	3月17日（水）
人数等	23媒体、24人出席（場所：文化庁）
③報道発表会	
実施日	4月20日（火）
人数等	17媒体、23人出席
④報道内覧会	
実施日	7月23日（金・祝）
人数等	55媒体、76人出席

・特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」

会期	10月9日（土）～12月5日（日）（50日間）
ターゲット	日本美術ファン、古美術ファン、琳派ファン、茶道を嗜む人
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか阪急、京阪京橋駅)
新聞・雑誌広告	日本経済新聞
テレビ広告	NHK　スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッター、展覧会公式ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、京都新聞　ほか計59件
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）、京都コトはじめ（NHK）、パッピーカーライフ（ラジオ大阪）　ほか計4件
雑誌	美術の窓（生活の友社）、茶道雑誌（河原書店）　ほか計68件
インターネットメディア	ニコニコ美術館（ドワンゴ）、じゃらんアプリ版（リクルート）　ほか計38件
その他	花めぐり・美術の旅（クラブツーリズム）　ほか計4件
③報道発表会	
実施日	6月7日（金）
人数等	22媒体、26人出席
④報道内覧会	
実施日	10月8日（金）
人数等	47媒体、63人出席

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	3年2月23日（火・祝）～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、Youtubeで紹介
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	『浄土宗新聞』6月号
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	―
インターネットメディア	『ライトアッププロムナードならホームページ』、『ウォーカープラス』、『じゃらんnet』、『るるぶ&more』、『奈良県観光公式サイト　なら旅ネット』、『奈良市観光協会サイト』、『関西文化.com』、『JAFなび』、『えらべる倶楽部』、『ベネフィット・ステーション』、『イオンカード』等
その他	―

・名品展　特別公開「金峯山寺仁王門　金剛力士立像」

会期	3年2月23日（火・祝）～
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,730件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	話題1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	『奈良ぶら』
雑誌	―
インターネットメディア	『フジトラベルサービス』
その他	広報紙『あんしんlife』（一般社団法人あんしん財団）

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	4年3月1日（火）～3月27日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	―

・特別陳列「お水取り」

会期	4年2月5日（土）～3月27日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近鉄、JR、デジタルサイネージ（近鉄奈良駅） 約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	ポスター（近鉄、JR）、チラシ（近鉄、JR）、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、近鉄奈良駅、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ウェブサイト、YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	『京都観光コンシェルジュ』
インターネットメディア	『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	JALカード会員誌『AGORA』、『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）

(2)特別展、共催展等

聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」

会期	4月27日(火)～6月20日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,880件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	読売新聞、近鉄（車内吊、駅置）、JR（車内吊、駅貼、駅置、ドア貼、デジタルサイネージ）、大阪メトロ（駅貼、車内ドア貼り、デジタルサイネージ、駅ホーム貼）、阪急（車内吊、駅貼）、京阪（デジタルサイネージ）
新聞・雑誌広告	読売新聞、読売テレビCM、NHKTVスポット
テレビ広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	公式サイト、『小西通り商店街アナウンス』、三条通りショッピングモールのぼり広告、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『ぶらぶら美術館・博物館』12/22放送、『法隆寺1400年の祈り「救世観音と百済観音」』3/27放送、『NHK「日曜美術館」』、『ラジオ大阪「ハッピーカーライフ」』、『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『和樂』1・2月号、3・4月号、『ノジュール』3月号、『時空旅人』4月号、『美術の窓』1月号、『芸術新潮』3月号、『月刊美術』5月号　ほか
インターネットメディア	『お出かけガイド』、『奈良ぶら』、『キタコレアート』、『アプリ版ぴあ』、『じゃらんネット』、『サライjp』、『美術展ナビ』、『神戸観光コンシェルジュ』、『OBIKAKE』　『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『旅だより』日経カルチャー、『四季の華』クラブツーリズム　ほか

③報道発表会	
実施日	2月25日
人数等	22媒体、34人出席（場所：当館講堂） オンライン配信もあり、オンライン参加者数は不明。
④報道内覧会	
実施日	4月26日
人数等	57媒体、77人出席

特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」

会期	7月17日（土）～9月12日（月）（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,870件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	読売新聞、近鉄（ポスター、チラシ）、JR（ポスター、チラシ）、大阪メトロ（ポスター）、大阪梅田ツインボード、J・ADビジョンWEST京阪神セットmini
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	公式サイト、公式ツイッター、『小西通り商店街アナウンス』、東向き商店街（巨大ペナント広告）、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞（7/17）、朝日新聞大阪本社版夕刊（7/13）、産経新聞、奈良新聞（7/13）、中外日報（7/9）ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』5/20、『おとな旅あるき旅』7/17、『西国三十三所 Trip around33』7/18　『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』ほか
雑誌	『関西夏ウォーカー2021』、『歴史人』7月号、『月刊大和路ならら』8月号、『旅の手帖』8月号、『和樂』8・9月号　ほか
インターネットメディア	『ウェブ版美術手帖』、『アートアジェンダ』、『美術展ナビ』、『神戸観光コンシェルジュ』、『Yahoo！ニュース』、『奈良ぶら』　『奈良県みんなでたのしむ大芸術祭』、『関西文化.com』、『ニコニコ美術館』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『スケッチ・花』クラブツーリズム　ほか
③報道発表会	
実施日	5月20日
人数等	10媒体、11名出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月16日
人数等	30媒体、43人出席

特別展「第73回正倉院展」

会期	10月30日（土）～11月15日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,870件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	東京メトロ（デジタルサイネージ）、JR（東京駅デジタルサイネージ、名古屋駅デジタルサイネージ）、大阪メトロ（ポスター）、近畿日本鉄道（駅貼り）、奈良交通（バス車内吊）
新聞・雑誌広告	読売新聞、The Japan News、読売KODOMO新聞、読売中高生新聞、スポーツ報知
テレビ広告	読売テレビCM
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、読売新聞、報知新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』8/28放送 、『JNNニュース』、『BS-TBS 和の学校』『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』　ほか
雑誌	『ひととき』11月号、『女性自身』10月26日号、『目の眼』11月号、『月刊奈良』11月号、『ならめがね』、『月刊大和路ならら』11月号　ほか
インターネットメディア	『美術展ナビ』、『アートアジェンダ』、『JR東海ツアーズHP』、『ACT4』、『キタコレアート』、『WEB美術手帖』、『ARTことはじめ』、『日刊webタウン情報ぱーぷる』、『奈良ぶら』　『ニコニコ美術館』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』ほか
その他	『日本の旅』（三越伊勢丹ニッコウトラベル）
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（8/27（金））
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	10月29日
人数等	25媒体、76人出席

特別展「名画の殿堂　藤田美術館展　―傳三郎のまなざし―」

会期	12月10日（金）～4年1月23日（日）（35日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、絵画ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,860件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	大阪メトロ（ポスター）、JR（ポスター）
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回、紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞（11/22）、朝日新聞夕刊（12/7）　ほか
テレビ、ラジオ	『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『芸術新潮』、『美術の窓』12月号、『ノジュール』1月号、『目の眼』1月号、『月刊美術』1月号、『週刊文春』　ほか
インターネットメディア	『奈良ぶら』、『Exhibitions』ウェブ版美術手帖、『東京アートニュース』『ニコニコ美術館』、『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行　ほか
その他	近鉄・阪神電車吊り下げ広告、『沿線案内フラッシュアップ』12月号　阪神電車　ほか
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（11/19（金））
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	12月9日
人数等	14媒体、18人出席

特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」

会期	4年2月5日(土)～3月27日(日)（47日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社 約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ、JR、奈良交通）、チラシ（近鉄、JR）、デジタルサイネージ（近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビCM
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター,YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・ＥＶ前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『和樂』2.3月号、『美術展完全ガイド2022』
インターネットメディア	『ニコニコ美術館』、『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『大宮通りジャーナル』、
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（11/17（金））
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	4年2月4日
人数等	38媒体、56人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・新収品展

会期	4月13日（火）～5月23日（日）（37日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、刀剣・仏像ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	読売新聞、毎日新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国
インターネットメディア	―
その他	―

・古代ガラスの世界-岡山市立オリエント美術館所蔵品展-

会期	7月6日（火）～10月3日（日）（79日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、工芸品に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	28件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、サライ、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、WEB版美術手帖　ほか
その他	―

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～

会期	7月13日（火）～9月5日（日）（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民、視覚に障がいのある人等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞
その他	―

・没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生

会期	7月17日（土）～10月10日（日）（75日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	28件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業 ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、WEB版美術手帖　ほか
その他	―

・琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展 手わざ -琉球王国の文化-

会期	10月19日（火）～12月12日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、沖縄ファン、文化財保護に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	36件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、奈良新聞、産経新聞、聖教新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡「はっけんTV」、NHK「はっけんラジオ」、TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、東経リビング、陶業時報、FREE、99VIEW　ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、婦人画報公式WEBサイト、アイエム　ほか
その他	―

・新春特別公開　徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	4年1月1日（土・祝）～1月30日（日）（26日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	45件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、WEBプレスリリース実施

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、美術の窓、美術館ぴあ
インターネットメディア	読売新聞
その他	―

(2)特別展、共催展等

・御大典記念　特別展　よみがえる正倉院宝物ー再現模造にみる天平の技ー

会期	4月20日（火）～6月13日（日）（49日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、新美術新聞、地元新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡、RKB、ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「ふくサテ」、RKBラジオ
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、美術の窓、しっとこ九博、ミニコミまいんず、旅の手帖、そめとおり、クルメスタイル　ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、OBIKAKE、Walkerプラス、JR西日本、じゃらんネット、Fukuoka Now、ファンファン福岡、ふくおかサポートねっと、九州サイト、ウェブ版「美術手帖」　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3年2月16日（火）
人数等	10媒体17名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月19日（月）
人数等	11媒体20名（場所：特別展示室）

・皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-

会期	7月20日（火）～8月29日（日）（35日間）　※8月14日～15日は大雨のため臨時休館
ターゲット	皇室ファン、日本美術ファン、伊藤若冲ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日本経済新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「ふくサテ」、ケーブルステーション福岡、
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業、ESPRESSO、広報ちくしの、和楽、ながさきプレス、アートコレクターズ、クリム、刀剣画報、ふくおかニュース、ミニコミまいんず、陶業時報　ほか
インターネットメディア	ARTNE、シニアコム、九州サイト、ふくおかサポートねっと、インターネットミュージアム、婦人画報、クロスロード福岡、アートアジェンダ、OBITAKE、Fukuoka Now、JR西日本、じゃらんネット、Fashion Press、ウェブ版「美術手帖」、あるくあるけるMAP&NEWS、今見られる全国のおすすめ展覧会　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月28日（水）
人数等	10媒体17名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月19日（月）
人数等	11媒体25名（場所：特別展示室）

・海幸山幸- 祈りと恵みの風景 -

会期	10月9日（土）～12月5日（日）（50日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、屏風ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,250件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、宮崎日日新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHK「はっけんTV」、「日曜美術館アートシーン」、TVQ九州放送「ふくサテ」、「週刊よかタイムス」、「太宰府・九博散歩道」、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、あんしんLife、美術の窓、東経リビング、美術屋・百兵衛、歴史人、ミニコミまいんず、クラブオフ　アライアンス、くるめすたいる、六大新報、エクラ、muto、広報ちくしの　ほか
インターネットメディア	JAFナビ、Walkerプラス、九州観光推進機構、シニアコム、Fashion Press、アートアジェンダ、筑紫野市ホームページ、クロスロード福岡、あるくあるけるMAP&NEWS、今見られる全国のおすすめ展覧会、JR西日本、じゃらんネット ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	8月27日（金）
人数等	7媒体13名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月8日（金）
人数等	14媒体22名（場所：特別展示室）

・伝教大師1200年大遠忌記念　最澄と天台宗のすべて

会期	4年2月8日（火）～3月21日（月・祝）（37日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、西日本新聞、愛媛新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府　九博　散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、美術の窓、和布と手作り、FREE、時空旅人、シティ情報ふくおか、espresso、広報ちくしの、リビングひろしま、Off Time、ながさきプレス、99VIEW　ほか
インターネットメディア	シニアコム、インターネットミュージアム、筑紫野市ホームページ、JAFナビ、Fashion Press、クロスロード福岡、九州サイト、ふくおかサポートねっと、るるぶ&more.　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月19日（火）
人数等	8媒体11名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4年2月7日（月）
人数等	16媒体30名（場所：特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（265日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月20日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・令和3年度 春期特別企画展
第一部「平城宮跡保存運動のさきがけ －大極殿標木建設式120周年－」
第二部「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」

会期	4月29日（木・祝）～6月27日（日）（9日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月27日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	142件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月28日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・令和3年度夏期企画展
「奈良を測る ―森蘊(もりおさむ)の庭園研究と作庭―」

会期	8月7日（土）～9月12日（日）（32日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	448件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、日経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	8月6日
人数等	1媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・令和3年度秋期特別展
「地下の正倉院展　―木簡を科学するⅡ―」

会期	10月9日（土）～11月7日（日）（26日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	553件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ、NHK
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月8日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・令和3年度冬期期企画展
「発掘された平城 2020・2021」

会期	2月11日（金）～3月27日（日）（39日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	125件(博物館・教育委員会・大学・ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ、NHK
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月10日
人数等	5媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（308日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルスの影響で5月1日～6月20日まで臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	KBC(韓国)番組取材への協力
雑誌	
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	―

・速報展

①飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点

②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点

③石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）石神遺跡出土土器19点

④藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）大極殿院出土軒丸瓦4点・軒平瓦7点・面戸瓦7点

⑤石神遺跡南北溝SD1347･1476出土土器（石神遺跡第8・9次）石神遺跡出土土器66点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（102日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため5月2日～6月20日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦－」

会期	4月23日（金）～5月1日（土）（8日間）臨時休館のため5月16日までの開催を期間短縮
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	檜隈寺周辺から出土した「呉」と書かれた瓦を通じて、はるか昔の国際色豊かな飛鳥を紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第12回 写真コンテスト作品展「飛鳥の木」」

会期	7月16日（金）～9月12日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	遺跡や集落、古寺の境内などにたたずむ飛鳥の「木」の写真を通して、飛鳥の人々の営みや歴史、文化の奥深さを発信した。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,046件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」

会期	10月15日（金）～12月19日（日）（57日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	日本にもたらされた軒瓦文様の変化とその後の展開を、飛鳥を中心に紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,424件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事6回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	10月14日
人数等	5媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展　「飛鳥の考古学2021」

会期	4年1月21日（金）～3月13日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,387件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介　ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	2月20日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊行物名	発行部数	配布先
文化財活用センター事業報告書2020年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁等に配布
2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300部	・文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2023年度　国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集　チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2022年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集　パンフレット	3,000部	・首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」チラシ	5,000部	・全国のミュージアム（「博物館研究」への同封）、関係各施設に配布
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者、関係施設等に配布
文化財防災センターパンフレット2022年版	4,000部	・国内の関係機関等に配布 ・奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号	75,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
	9・10・11月号	75,000部	
	12月・4年1・2月号	75,000部	
	4年3・4・5月号	75,000部	
東京国立博物館「案内と地図」 4年3月改訂	日本語	44,000部	館内で来館者に無償配布
	英語	14,000部	
	中国語（簡体字）	5,000部	
	中国語（繁体字）	2,500部	
	韓国語	3,000部	
	フランス語	2,500部	
	スペイン語	2,000部	
	ドイツ語	2,000部	

【京都国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
京都国立博物館だより	210号（4・5・6月）	15,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	211号（7・8・9月）	18,000部	
	212号（10・11・12月）	10,000部	
	213号（4年1・2・3月）	10,000部	
Kyoto National Museum Letter Vol.149～152	Vol.149（4・5・6月）	3,000部	館内で来館者に無償配布
	Vol.150（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.151（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.152（4年1・2・3月）	3,000部	
2022年度年間スケジュール		15,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 20,000部 冬号 20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等 約5,500件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	20,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	前年度残部を使用し新規印刷はなし	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 16,000部 中国語版（簡体字） 1,000部 中国語版（繁体字） 500部 韓国語版 1,000部 英語版 2,000部 ドイツ語版 800部 フランス語版 800部 スペイン語版 800部 合計 22,900部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
文化交流展示室案内マップ	日本語版 2,610部 合計 2,610部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
九州国立博物館概要	日本語版 1,800部 中国語版 200部 韓国語版 200部 英語版 300部 合計 2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(60)号 50,000部 夏(61)号 50,000部 秋(62)号 50,000部 冬(63)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号16,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 2021年間スケジュール	10,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動（きゅーはくきゃらばん）で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品貸与件数

令和4年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		236	230	6	113	108	5	81	81	0	22	22	0	20	19	1
合　計		1,688	1,665	23	990	969	21	314	314	0	252	252	0	132	130	2
絵画		405	411	0	198	198	0	105	111	0	81	81	0	21	21	0
書跡		74	78	0	15	15	0	21	25	0	36	36	0	2	2	0
彫刻		163	159	6	130	124	6	9	11	0	24	24	0	0	0	0
建築		9	9	0	3	3	0	0	0	0	5	5	0	1	1	0
金工		96	150	0	47	47	0	24	78	0	25	25	0	0	0	0
刀剣		30	30	0	19	19	0				10	10	0	1	1	0
陶磁		63	73	8	30	24	6	30	48	0	0	0	0	3	1	2
漆工		143	125	2	75	73	2	25	9	0	42	42	0	1	1	0
染織		142	97	0	41	41	0	45	0	0	13	13	0	43	43	0
考古		231	239	0	156	156	0	16	24	0	14	14	0	45	45	0
民族資料		60	60	0	52	52	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0
歴史資料		24	21	0	4	4	0	11	8	0	2	2	0	7	7	0
和書		9	9	0	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	23	23	0	23	23	0									
	書跡	13	13	0	13	13	0									
	彫刻	6	4	2	6	4	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	45	43	2	45	43	2									
	漆工	4	1	3	4	1	3									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	55	55	0	55	55	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		47	47	0	47	47	0									
黒田記念館収蔵品		18	18	0	18	18	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
貸与先件数		242	321	246	204	236
合　計		1,544	1,858	1,488	1,235	1,688
絵画		454	586	416	278	405
書跡		133	83	46	67	74
彫刻		185	192	205	124	163
建築		13	13	13	16	9
金工		88	83	90	89	96
刀剣		48	97	35	26	30
陶磁		98	77	91	58	63
漆工		114	58	66	135	143
染織		54	89	66	105	142
考古		211	214	243	164	231
民族資料		2	36	0	0	60
歴史資料		27	26	39	33	24
和書		39	30	21	8	9
写真資料		0	0	28	0	0
東洋	絵画	32	20	20	30	23
	書跡	7	28	5	8	13
	彫刻	6	12	1	19	6
	金工	0	48	4	0	0
	陶磁	20	44	29	5	45
	漆工	3	2	2	2	4
	染織	0	3	0	0	0
	考古	7	94	28	22	55
	民族	0	10	0	0	0
法隆寺献納宝物		1	11	0	43	47
黒田記念館収蔵品		2	2	40	3	18

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品貸与先別件数

○所蔵品

令和4年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	204	1,433	113	952	51	191	20	181	20	109
国内	198	1,410	108	931	51	191	20	181	19	107
国・国立	37	237	15	152	17	49	3	24	2	12
地方・公立	123	947	71	602	24	115	13	137	15	93
私立団体	38	226	22	177	10	27	4	20	2	2
海外	6	23	5	21	0	0	0	0	1	2

○寄託品

令和4年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	71	255	21	38	30	123	12	71	8	23
国内	71	255	21	38	30	123	12	71	8	23
国・国立	12	86	4	7	4	37	3	37	1	5
地方・公立	35	97	12	26	12	33	5	21	6	17
私立団体	24	72	5	5	14	53	4	13	1	1
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和4年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　5件　　海外貸与文化財21件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成 14 年 1 月 1 日～4 年 12 月 31 日	2 件 東洋彫刻 2
2	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」	浙江省博物館 武林館区（中華人民共和国浙江省）	元年 6 月 17 日～4 年 3 月 18 日	8 件 陶磁 6, 東洋陶磁 2
3	特別展「朝鮮時代の僧侶職人」	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	12 月 7 日～4 年 3 月 12 日	1 件 彫刻 1
4	特別展「漆：アジアを塗る」	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	12 月 20 日～4 年 3 月 31 日	5 件 漆工 2、東洋漆工 3
5	常設展示「日本 仏教彫刻の世界」（長期貸与）	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	4 年 3 月 13 日～5 年 10 月 29 日	5 件 彫刻 5

【京都国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 2件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「虎笑寅年――中日虎年迎春展」	上海博物館	12 月 1 日～4 年 3 月 31 日	陶磁 2 件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	愛媛県歴史文化博物館	5 月 16 日～4 年 3 月 31 日	2（ 6 点）	15
2	徳島県立博物館	5 月 18 日～4 年 3 月 31 日	1（ 1 点）	38
3	柏原市立歴史資料館	5 月 19 日～4 年 3 月 31 日	1（ 7 点）	21

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【東京国立博物館】98件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	NPO文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家に向けた講習	12月13日	学芸研究部保存修復課保存修復室　研究員　野中昭美
2	SOMPO美術館	ボランティアの組織と運営について	12月16日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
3	一般社団法人　国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員（試験内容の準備、試験監督、面接、合否検討）	4月～11月	学芸研究部列品管理課長　沖松健次郎
4	一般社団法人 照明学会	第19回(2021)照明デザイン賞 審査委員	3年度	学芸企画部上席研究員　木下史青
5	一般社団法人　日本甲冑武具研究保存会	理事	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介
6	永青文庫	冬季展に向けた東洋考古文化財に関する助言	5月19日～20日、7月20日、7月27日、9月3日、10月22日	学芸研究部調査研究課東洋室長　市元塁
7	大倉集古館	次年度企画展に向けた東洋考古文化財に関する助言	9月16日、11月12日、12月1日	学芸研究部調査研究課東洋室長　市元塁
8	大阪府岸和田市立図書館	図書館資料のデジタル化について	10月15日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
9	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介
10	尾道市教育委員会	尾道市史執筆委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介
11	鎌倉国宝館	鎌倉国宝館協議会委員	3年11月15日～5年11月14日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
12	韓国国立中央博物館	購入候補日本陶磁器の評価	10月12日	学芸企画部博物館情報課長　今井敦
13	韓国国立中央博物館	東京国立博物館の国際交流活動	11月25日	学芸企画部企画課国際交流室長　楊鋭
14	北山堂基金	国際協力の推進：東京国立博物館の中国美術および日本美術の交流	4月23日	学芸企画部企画課国際交流室長　楊鋭
15	京都市京セラ美術館	IEO(国際展覧会オーガナイザー会議）の組織とアジア間の国際交流について	10月26日	学芸企画部上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美
16	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	7月1日～7月2日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
17	公益財団法人遠山記念館	文化財買取評価員	10月21日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室主任研究員　金井裕子
18	国立アイヌ民族博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	7月13日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
19	国立国会図書館	ジャパンサーチ戦略方針2021-2025に関する意見交換会	12月15日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
20	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月～4年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
21	五條市	五條市史編集委員会専門部会員（美術工芸部会）	11月～5年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
22	山東博物館・徳州学院	東洋考古関連学術書籍の日本語版作成に係る指導助言	9月24日～11月15日	学芸研究部調査研究課東洋室長　市元塁
23	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	「神宮の杜芸術祝祭」の次行に関する監修・助言	3年度	学芸企画部上席研究員　木下史青
24	千葉市	千葉市美術品等収集審査会委員	3年1月7日～5年1月6日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
25	筑波大学	筑波大学附属図書館所蔵狩野山雪筆「歴聖大儒像」の修復状況についての協議	12月14日	学芸研究部列品管理課長　沖松健次郎
26	東京藝術大学大学院	染織品保存修復に関する特別講義	10月8日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　佐藤萌

27	東京藝術大学大学院	文化財修理実務に関する特別講義	11月29日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
28	東京藝術大学大学美術館	解説執筆（1点）	8月31日～9月26日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員　福島修
29	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
30	遠野市立博物館	火災、消火のため放水を浴びた地域文化財の応急処置に関して	5月9日～5月10日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
31	長崎歴史文化博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての連絡調整	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
32	日本学術会議	連携会員	2年10月1日～7年9月30日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
33	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	2年6月～4年10月	学芸企画部上席研究員　木下史青
34	文化庁	文化財買取評価	12月14日	学芸企画部特別展室長　猪熊兼樹
35	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会第六専門調査会）	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
36	文化庁	文化財買取評価員	11月11日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
37	文化庁	買取協議委員	12月10日	学芸研究部列品管理課長　沖松健次郎
38	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月8日～4年3月31日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
39	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月12日～4年3月31日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
40	文化庁	「博物館等の国際交流の促進事業」選定委員会委員	10月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
41	文化庁	美術品補償制度部会専門調査会　委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美
42	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
43	町田市立博物館	運営委員	～5年6月30日	学芸企画部博物館情報課長　今井敦
44	ミツカンミュージアム	ガイドアプリ「トーハクなび」の制作・運営について	11月19日	学芸企画部博物館教育課教育普及室長　藤田千織 研究員　中村麻友美
45	薬師寺	薬師寺大講堂ご本尊白鳳繍仏復興委員会委員	30年7月～	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
46	大和文華館	祈りと救いの仏教美術展・特別講演「大和文華館仏教美術コレクション再考　―十五鬼神図巻と日吉曼荼羅―」	9月19日	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一
47	米沢市上杉博物館	資料収集に係る資料評価	9月18日	学芸企画部博物館情報課長　今井敦
48	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
49	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
50	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	2年6月1日～7年5月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
51	韓国国立中央博物館	教育普及シンポジウムにおけるグループディスカッションファシリテーター（ボランティア運営）	9月9日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
52	京都国立近代美術館	視覚障碍者対応について	11月5日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
53	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	元年6月13日～3年6月12日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
54	国宝奈良県藤ノ木古墳出土品保存修理事業協力者会議	「国宝奈良県藤ノ木古墳出土品」の保存修理事業について協力者会議協力者として助言を行う。	4月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
55	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ民族博物館の調査研究、展示、教育等の各種業務にかかる博物館運営会議の構成員(外部有識者)として助言する。	7月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也

56	国立アイヌ民族博物館	体験型展示の運営、盲学校を含む学校対応、展示室内での教育普及活動について	12月3日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり 教育普及室長　藤田千織
57	国立アイヌ民族博物館	体験型展示と盲学校対応の運営・ボランティア研修について	12月3日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
58	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
59	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
60	宗教法人 浅草寺	宝蔵門のライトアップ改修に係る仕様等に関する対応・助言	3年度	学芸企画部上席研究員　木下史青
61	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部上席研究員　勝木言一郎
62	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	元年12月1日～5年11月30日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
63	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会委員	9月1日～5年8月31日	学芸研究部特任研究員　田沢裕賀
64	日本科学未来館	コロナ禍のボランティア活動と運営について	11月18日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
65	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
66	立命館大学ゲーム研究センター	文化庁メディア芸術連携推進事業におけるゲームアーカイブ所蔵間連携に関わる調査事業への協力	9月17日	学芸研究部調査研究課東洋室長　市元塁
67	文化庁文化財第一課	文化審議会文化財分科会 第四専門調査会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館教育課長伊藤信二
68	栃木県教育委員会	栃木県文化財保護審議会委員	7月19日～6年7月18日	学芸企画部博物館教育課長伊藤信二
69	日本工芸会	日本伝統工芸展第一次監査委員	8月4日	学芸企画部博物館教育課長伊藤信二
70	日立市郷土博物館	アプリ「学校版トーハクなび」の貸出状況、およびコロナ禍前後での学校団体への対応の変化、オンラインプログラムについて	4年1月14日	学芸企画部博物館教育課教育普及室長 藤田千織、研究員 中村麻友美
71	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
72	名古屋市	金シャチ横丁博物館構想　有識者	4年3月22日～5年3月31日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
73	東久留米市	文化財保護委員	8月～令和5年8月	学芸研究部調査研究課考古室研究員 飯田茂雄
74	公益社団法人日本工芸会	第68回日本伝統工芸展 鑑審査会 鑑査委員	8月2日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
75	公益財団法人国際茶道文化協会	第77期《茶の湯の美》「漆の世界」	11月26日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
76	文化庁	文化財買取協議員	12月14日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
77	永青文庫	作品調査援助	4年1月31日、2月18日～19日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
78	文京区一行院	徳本上人像の安置･照明方法に関する指導･助言	4年1月	学芸企画部上席研究員 木下史青
79	荒川区地域文化スポーツ部(荒川ふるさと文化館)	真言宗養福寺 二天王の安置方法に関する監修･助言	4年2月	学芸企画部上席研究員 木下史青
80	国立科学博物館	コロナ禍のボランティア活動と運営について	4年2月15日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
81	文化庁	文化庁文化財部調査員(非常勤)	4月16日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
82	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	6月1日～11月30日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
83	文化庁	文化審議会専門委員(非常勤)	4月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
84	文化庁	無形文化財工芸技術資料評価員	6月16日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉

85	関市文化財保護センター	関市春日神社能装束調査員	7月21日～23日、10月12日～14日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
86	文化庁	工芸技術記録映画製作監修委員会委員	9月14日～4年3月 31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
87	新潟県立歴史博物館	展示指導	8月10日、8月30日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
88	山梨県立博物館	展示指導	11月2日、11月24日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
89	文化庁	文化審議会無形文化遺産部会作業部会構成員	12月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
90	茨城県立歴史館	展示指導	4年2月15日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
91	半蔵門ミュージアム	所蔵品の調査	4年1月12日	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
92	神奈川県立金沢文庫	特別展「春日神霊の旅」に関連する連続講座における講演	4年3月6日	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
93	公益財団法人日本博物館協会	令和3年度美術品梱包輸送技法取得士認定制度に関する委員会委員	4月～4年3月	副館長　富田淳
94	岐阜県美術館	第7回ぎふ美術展書部門審査	7月26日	副館長　富田淳
95	島根県教育委員会	世界遺産室客員研究員	5月6日～6年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
96	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング･グループ(材料調査班)専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
97	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
98	宮内庁正倉院事務所	模造事前調査「御軾」調査員	10月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長　鳥越俊行

【京都国立博物館】129件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良女子大学	経営協議会委員	4月～4年3月	館長　松本伸之
2	京都国立近代美術館	評議員	4月～4年3月	館長　松本伸之
3	古典の日推進委員会	特別委員	4月～4年3月	館長　松本伸之
4	奈良国立博物館	評議員	4月～4年3月	館長　松本伸之
5	日本イタリア会館	顧問	6月～4年3月	館長　松本伸之
6	日本工芸会	顧問	6月～4年3月	館長　松本伸之
7	アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	4月～6月	副館長　栗原祐司
8	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	4月～11月	副館長　栗原祐司
9	田川市世界遺産活用活性化推進委員会事務局	田川市世界遺産活用活性化推進委員会委員	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
10	国際基督教大学	非常勤講師	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
11	南九州市	南九州市世界の記憶推進会議アドバイザー	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
12	古典の日文化基金賞顕彰委員会	古典の日文化基金賞候補者情報調査委員会委員	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
13	大阪市	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
14	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
15	徳島県	「坂東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」調査検討委員会委員	4月～11月	副館長　栗原祐司
16	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事就任	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
17	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
18	國學院大學	非常勤講師	4月～4年3月	副館長　栗原祐司
19	日本博物館協会	理事	6月～4年3月	副館長　栗原祐司
20	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	12月～4年3月	副館長　栗原祐司
21	大阪市経済戦略局	地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会出席	8月2日	副館長　栗原祐司
22	独立行政法人国際協力機構	エジプト国「大エジプト博物館開館支援合同保存修復プロジェクト」にかかる国内支援委員会委員	4年1月～4年3月	副館長　栗原祐司
23	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
24	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
25	岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
26	野崎家塩業歴史館	評議員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
27	公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕

28	公益財団法人樂美術館	公益財団法人樂美術館作品購入委員会委員	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
29	大阪市教育委員会	大阪市文化財保護審議会委員	7月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
30	西尾市教育委員会	西尾市史特別執筆員	6月～4年3月	学芸部長　尾野善裕
31	公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所	市内遺跡調査出土遺物の指導	6月21日	学芸部長　尾野善裕
32	大分市教育委員会	調査指導	7月27日、28日	学芸部長　尾野善裕
33	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～4年3月	学芸部長　尾野善裕 学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部教育室長　永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
34	奈良文化財研究所	令和3年度文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」講師	6月15-16日（尾野） 6月16日（降幡）	学芸部長　尾野善裕 学芸部保存科学室長　降幡順子
35	公益財団法人仏教美術上野記念財団	研究委員会委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
36	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉
37	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
38	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～4年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
39	智山専修学院	特別講義講師	6月9日	学芸部上席研究員　淺湫毅
40	大阪市教育委員会文化財保護課	大阪市指定文化財の保存と活用に関する意見	12月24日	学芸部上席研究員　淺湫毅
41	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部企画室長　山川曉
42	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部企画室長　山川曉
43	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～4年3月	学芸部企画室長　山川曉
44	三重県伊勢市高向区	御頭神事用具類製作指導委員会委員	4月26日～4年3月	学芸部企画室長　山川曉
45	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	10月～4年3月	学芸部企画室長　山川曉
46	京都芸術大学	非常勤講師	12月18日	学芸部企画室長　山川曉
47	装道礼法きもの学院大阪校	講師	4年1月22日	学芸部企画室長　山川曉
48	三重県伊勢市高向区	重無民　御頭神事　民俗文化財伝承・活用等事業	4月26日	学芸部企画室長　山川曉
49	清風会	鑑賞会講師	6月14日	学芸部企画室長　山川曉
50	装道礼法きもの学院大阪校	講師	1月22日	学芸部企画室長　山川曉
51	近畿大学	非常勤講師	4月～4年3月	学芸部美術室長　羽田聡
52	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～4年3月	学芸部美術室長　羽田聡
53	一般社団法人国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～4年3月	学芸部美術室長　羽田聡
54	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会委員	11月～4年3月	学芸部美術室長　羽田聡
55	一般社団法人国宝修理装潢師連盟	第1回試験準備委員会への出席	7月14日	学芸部美術室長　羽田聡
56	宇治市源氏物語ミュージアム	宇治市源氏物語ミュージアム連続講座講師	7月16日	学芸部美術室長　羽田聡
57	津市教育委員会	津八幡宮所蔵三十六歌仙扁額の文化財調査	4年1月27日	学芸部美術室長　羽田聡
58	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員	4月～4年1月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
59	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（美術史班）専門委員	4月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
60	佛教大学（通信教育課程）	非常勤講師	4月～3年9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
61	智山専修学院	特別講義講師	6月23日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
62	宗教法人総持寺	総持寺十王図修理委員会委員	4月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
63	宗教法人護国院	紀三井寺地蔵菩薩立像修理委員会委員	10月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
64	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県立琵琶湖文化館における壁画価格評価	9月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
65	越前市教育委員会	歴史講座「帆山寺の仏教絵画の見どころ」講師	11月23日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
66	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県立琵琶湖文化館別館壁画現地説明会「杉本哲郎氏作「舎利供養」の価値と保存」	4年2月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
67	東京国立博物館	科研にかかる研究発表及び討議会への出席	4月23-24日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部企画室研究員　井並林太郎
68	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～7月	学芸部保存科学室長　降幡順子
69	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
70	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（材料調査班）専門委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
71	同志社女子大学	嘱託講師	4月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
72	長浜曳山文化協会	月宮殿見送幕修理委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
73	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	8月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子

74	浄土宗総本山知恩院	浄土宗総本山「知恩院文化財保存委員」	4月～4年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
75	国立大学法人神戸大学	非常勤講師	8月21日、22日、28日、29日	学芸部保存科学室長　降幡順子
76	長浜曳山文化協会	民俗文化財伝承・活用等事業修理委員会への出席	5月14日	学芸部保存科学室長　降幡順子
77	敦賀市教育委員会	柴田氏庭園書院釘隠等金属製品の分析調査	6月2日	学芸部保存科学室長　降幡順子
78	総合研究大学院大学文化科学研究科	総研大大学院講演会講師	6月12日	学芸部保存科学室長　降幡順子
79	立命館大学歴史都市防災研究所	Lecture: Disaster Risk Management System in Kyoto National Museum 講師	9月13日及びオンデマンドビデオ撮影日	学芸部保存科学室長　降幡順子
80	文化庁	文化財（美術工芸品）調査の協力	12月7日	学芸部保存科学室長　降幡順子
81	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合への出席	6月13日	学芸部保存科学室長　降幡順子 学芸部列品管理室主任　岡田愛
82	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部教育室長　永島明子
83	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	講演講師及び原稿執筆	9月11日	学芸部教育室長　永島明子
85	KYOTO STEAM-世界文化交流祭-実行委員会	OKAZAKI MARKET＋「幸福を呼ぶ新しいいきものの園」ミニレクチャー講師	12月25日、26日	学芸部教育室長　永島明子
86	文化庁	文化財の買取評価員	12月14日	学芸部教育室長　永島明子
84	公益財団法人国際茶道文化協会	講師	4年2月18日	学芸部教育室長　永島明子
87	京都芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室主任研究員　福士雄也
88	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	4月～4年3月	学芸部美術室主任研究員　福士雄也
89	京都橘大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部美術室主任研究員　福士雄也
90	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議委員会委員	4月～4年3月	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
91	株式会社大阪よみうり文化センター	講演講師	4月～4年3月	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
92	サントリー美術館	特別協力　開館60周年記念展「刀剣　もののふの心」	9月～11月	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
93	京都府京都文化博物館	講演会講師	4月17日	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
94	京都乙訓ふるさと歴史研究会	講師	5月16日	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
95	京都府京都文化博物館	陳列・撤収作業・図録、展示パネルへの寄稿	4月4日ほか	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
96	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査	12月5日、6日	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
97	大阪成蹊大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部教育室主任研究員　水谷亜希
98	京都工芸繊維大学	非常勤講師	12月～4年3月	学芸部教育室主任研究員　水谷亜希
99	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立人と自然の博物館協議会委員	10月～4年3月	学芸部教育室主任研究員　水谷亜希
100	一般財団法人秋水美術館	学芸アドバイザー	4月～4年3月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
101	福井市愛宕坂茶道美術館	特別協力　特別展「眼福　美麗なる中国陶磁～京都国立博物館　松井ｺﾚｸｼｮﾝより～」	4年2月～5月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
102	株式会社大阪よみうり文化センター	講演会講師	5月23日、7月25日、9月26日、11月28日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
103	大阪読売サービス株式会社	講演講師	4年1月23日、3月27日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
104	公益財団法人遠山記念館	講演会講師	4月17日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
105	文化庁企画調整課	登録美術品評価会議への出席	5月21日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
106	中日新聞社文化センター局栄中日文化センター	講師	4年2月25日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
107	佛教大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部美術室研究員　上杉智英
108	鳥取市教育委員会	大雲院資料調査委員会委員	5月～4年3月	学芸部美術室研究員　上杉智英
109	大阪府教育庁文化財保護課	天野山金剛寺所蔵一切経調査	9月～4年3月31日	学芸部美術室研究員　上杉智英
110	亀岡市教育委員会	亀岡市文化資料館第37回特別展に係る資料調査	8月27日	学芸部美術室研究員　森道彦
111	京都大学大学院	非常勤講師	10月～4年3月	特任研究員　宮川禎一
112	九州国立博物館	寄贈候補の銅鼓に関する指導助言	10月15日	特任研究員　宮川禎一
113	京都大学	日本文化研修「京都国立博物館見学」講師	4年1月19日	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
114	國學院大學	研究会「死生観の歴史学」での研究発表	4年2月13日	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
115	國學院大學	客員教授	4月～4年3月	研究員　古谷毅
116	聖心女子大学	非常勤講師	4月～4年3月	研究員　古谷毅
117	國學院大學	非常勤講師	4月～4年3月	研究員　古谷毅

118	京都市立芸術大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ マリサ
119	一般社団法人記録映画保存センター	文化庁工芸技術記録映画「竹工芸－飯塚小玕齋のわざ－」英語版監修業務	6月1日～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ マリサ
120	国土交通省観光庁観光資源課	観光庁地域観光資源の多言語解説整備支援事業「令和3年度分かりやすい多言語解説整備推進委員会」の本会及び部会委員	11月～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ マリサ
121	京都女子大学	オンデマンド講義	10月28日	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ マリサ
122	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブワーキング・グループ専門委員	4月～4年3月	学芸部列品管理室主任　岡田愛
123	文化庁	令和3年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会講演講師	12月16日	学芸部列品管理室主任　岡田愛
124	文化庁	博物館等の文化施設インバウンド強化事業審査委員会委員	4月～4年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル
125	姫路市立美術館	文化観光拠点計画認定記念特別展「日本の心象　刀剣、風韻、そして海景」展記念イベント及び専門情報翻訳	6月4日～9月30日	学芸部企画室アソシエイトフェロー　ボレンガッセール・ダニエル
126	奈良大学	科学研究費研究補助業務	9月～4年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　青木麻佑花
127	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館企画競争審査委員会	11月2日	総務課長　阿部勝
128	東京工業高等専門学校	Microsoft Teamsを用いてのWeb講演	4年3月3日	総務課環境整備係　豊原直樹
129	慶應義塾大学	ゲスト・スピーカー	4年1月	総務課事業推進係　近藤雅士

【奈良国立博物館】68件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月1日～4年1月29日	館長　井上洋一
2	文部科学省日本ユネスコ国内委員会	ユネスコ国内委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
3	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
4	國學院大學	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
5	成城大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
6	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
7	京都国立博物館	評議員会評議員	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
8	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
9	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月15日～4年3月31日	館長　井上洋一
10	東京藝術大学	東京藝術大学埋蔵文化財発掘調査団参与	4月26日～4年3月31日	館長　井上洋一
11	公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館	理事	5月～4年3月31日	館長　井上洋一
12	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」委員	5月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
13	公益社団法人日本工芸会	顧問	5月20日～4年3月31日	館長　井上洋一
14	奈良県	奈良県文化振興戦略懇話会委員	5月24日～4年3月31日	館長　井上洋一
15	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	評議員	6月～4年3月31日	館長　井上洋一
16	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	財団の運営に係る競技及び定例理事会への出席	6月13日～6月14日	館長　井上洋一
17	一般財団法人仏教美術協会	評議員	6月16日～4年3月31日	館長　井上洋一
18	公益財団法人松伯美術館	理事	6月30日～4年3月31日	館長　井上洋一
19	公益財団法人大和文華館	理事	6月30日～4年3月31日	館長　井上洋一
20	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	7月14日～4年3月31日	館長　井上洋一
21	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	8月1日～4年3月31日	館長　井上洋一
22	京都国立博物館	文化財保存修理所運営員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部長　吉澤悟
23	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部長　吉澤悟
24	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	6月1日～4年3月31日	学芸部長　吉澤悟
25	公益財団法人大和文華館	評議員	6月30日～4年3月31日	学芸部長　吉澤悟
26	大阪大学	大阪大学大学院文学研究科非常勤講師	4月1日～9月30日	企画室長　中川あや
27	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	企画室長　中川あや
28	九州国立博物館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	4月14日～4月16日、6月15日～6月17日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作

29	新潟県立近代美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	6月29日～7月1日、8月31日～9月1日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作
30	北海道立近代美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	9月9日～9月13日、11月7日～11月8日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作
31	サントリー美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」展示・撤収作業指導	4年1月20日～1月24日、4年3月28日～3月30日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作
32	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
33	京都府立大学	非常勤講師	9月27日～4年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
34	公益社団法人日本建築家協会	講師	4年2月26日	情報サービス室長　宮崎幹子
35	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～4年3月31日	教育室長　谷口耕生
36	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～4年3月31日	教育室長　谷口耕生
37	大阪大学	大阪大学大学院文学研究科非常勤講師	4月1日～9月30日	教育室長　谷口耕生
38	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	教育室長　谷口耕生
39	東北大学	東北大学大学院文学研究科非常勤講師	10月1日～4年2月28日	教育室長　谷口耕生
40	愛知県立芸術大学	令和3年度大学院美術研究科博士後期課程博士学位論文予備審査（論文）外部審査委員	11月11日	教育室長　谷口耕生
41	文化庁	買取評価員	12月10日	教育室長　谷口耕生
42	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～4年3月31日	資料室長　野尻忠
43	文化庁	仁和寺所蔵文化財調査	8月3日、8月5日～8月6日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
44	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会	11月1日～4年3月31日	資料室長　野尻忠
45	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～4年3月31日	美術室長　岩井共二
46	岐阜市歴史博物館	特別展「波濤を越えて―鑑真和尚と美濃の僧・栄叡―」開催にかかる指導助言	6月10日～12月3日	美術室長　岩井共二、資料室長　野尻忠、特任研究員　内藤栄
47	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4年1月1日～3月31日	美術室長　岩井共二
48	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	会員	8月1日～4年3月31日	保存修理指導室長　荒木臣紀
49	学習院大学	非常勤講師	9月13日～4年3月31日	保存修理指導室長　荒木臣紀
50	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	講師	11月4日、11月9日	保存修理指導室長　荒木臣紀
51	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	主任研究員　山口隆介
52	高野山大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	主任研究員　山口隆介
53	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月1日～7月31日	特任研究員　岩田茂樹
54	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月1日～4年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
55	神戸市文化スポーツ局文化財課	神戸市文化財保存活用計画協議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
56	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
57	河合町教育委員会	文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
58	文化庁	教王護国寺所有重要文化財木造四天王立像［（焼損）/（所在食堂）］四軀復元模造事業における企画選定のための書面審査	4年2月～3月31日	特任研究員　岩田茂樹
59	大和文華館	評議員	4月1日～6月30日	特任研究員　内藤栄
60	高野山大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
61	春日大社	国宝　若宮御料古神宝類復元制作の監修	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
62	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
63	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
64	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
65	松濤美術館	展覧会開催にかかる援助助言	4月1日～4年3月31日	特任研究員　内藤栄
66	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査のため	12月6日	特任研究員　内藤栄
67	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	係員　西川夏永
68	奈良女子大学	講師	12月15日	アソシエイトフェロー　萩谷みどり

【九州国立博物館】77件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	三重県文化会館事業課	令和3年度みえ文化芸術祭・第71回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月31日	館長　島谷弘幸
2	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
3	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
4	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
5	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
6	文化庁	文化審議会正委員（文化財分科会）	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
7	公益社団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
8	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
9	文化庁	「日本博」企画委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
10	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
11	文部科学省	日本ユネスコ国内委員　コミュニケーション小委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
12	文化庁	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に係る計画認定委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
13	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光推進事業に係る協力者会議委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
14	独立行政法人日本芸術文化振興会	独立行政法人日本芸術文化振興会・日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
15	文化庁	文化庁「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員（文化資源活用推進事業及び国際的文化フェスティバル展開推進事業（長期開催型））	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
16	徳島県立文学書道館	徳島県立文学書道館書道資料収集委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
17	独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立美術館運営委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
18	一般社団法人公園財団	研究顧問	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
19	公営財団法人福岡文化財団	評議員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
20	公営財団法人福岡文化財団	評議員選定委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
21	ICOM日本委員会	理事	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
22	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
23	光村図書出版	高校教科用図書「書道」編集委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
24	公益社団法人日展	日展諮問委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
25	学校法人九州学園	理事・評議員	4月1日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
26	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	副館長　小泉惠英
27	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～4年3月31日	副館長　小泉惠英
28	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
29	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
30	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
31	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	運営会議委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
32	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
33	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
34	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
35	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	令和3年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
36	大分県立歴史博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
37	福岡市美術館	美術資料収集審査員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
38	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
39	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
40	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子
41	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子

42	同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター	研究員	4月1日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
43	アート・ドキュメンテーション学会	幹事	4月1日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
44	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長　木川りか
45	考古学研究会	テクニカル・サポーター	4月1日～4月24日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
46	公益財団法人日本工芸会西部支部	第55回西部伝統工芸展審査委員	4月7日～4月8日	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子
47	宮崎県教育委員会	指導助言	5月1日～4年3月30日	学芸部長　河野一隆
48	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長　木川りか
49	同上	同上	同上	学芸部文化財課長　原田あゆみ
50	同上	同上	同上	文化防災センター(併)学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　鷲頭桂
51	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基
52	九州国立博物館を愛する会	講師	5月11日	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子
53	文化庁	登録美術品評価会議　協力者	5月12日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
54	福岡県豊前神楽保存連合会	豊前神楽民俗文化財伝承・活用等に係る委員	5月28日～4年3月31日	学芸部企画課文化交流展室研究員　桑原有寿子
55	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第45回福岡県伝統的工芸展　企画・運営業務に係る受託事業者選定委員会	5月25日	学芸部長　河野一隆
56	公益社団法人福岡県建築士会	講師	6月5日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長　木川りか
57	公益財団法人日本博物館協会	公益財団法人日本博物館協会評議員	6月23日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
58	福岡県	古代日本の「西の都」文化観光推進協議会委員	6月25日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
59	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	8月6日～4年3月31日	館長　島谷弘幸
60	考古学研究会	常任委員会委員	8月7日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
61	考古学研究会	第68回総会・研究集会実行委員	8月7日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
62	九州日中文化協会	第24回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月1日～11月1日	館長　島谷弘幸
63	文化庁	「国有文化財等(美術工芸品)保存修理事業協力者会議」協力者	9月30日～4年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
64	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑
65	ふくおか歴史資源活用協議会	講師	10月20日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
66	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲刀剣類登録審査会における技術的支援	10月7日～4年2月3日	学芸部企画課特別展室主任研究員　望月規史
67	公益財団法人文化財虫菌害研究所	講師	10月15日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長　木川りか
68	福岡市美術館	美術資料収集審査員	10月27日～4年3月31日	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男
69	公益財団法人香雪美術館	講師	10月30日	文化防災センター(併)学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　鷲頭桂
70	一般社団法人あおい文化交流研究所	講師	11月27日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
71	高浜町教育委員会	指導助言	12月18日～12月19日	学芸部長　河野一隆
72	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　第44回大会実行委員	4年1月11日～3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長　木川りか
73	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第45回福岡県伝統的工芸品展審査委員	4年1月14日	学芸部長　河野一隆
74	佐賀県立名護屋城博物館	「亀井家資料」調査に係る指導・助言	2月8日	学芸部企画課文化交流展室研究員　桑原有寿子
75	学校法人武蔵野大学仏教文化研究所	講師	4年2月19日	副館長　小泉惠英
76	秋田市立千秋美術館	展覧会に係る助言等	4月1日～7月1日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
77	秋田市立千秋美術館	展覧会に係る助言等	4月1日～7月1日	学芸部企画課文化交流展室研究員　桑原有寿子

1-(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につながる新たな取組
1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進
（レプリカや，VR・AR、8K映像など企画コンテンツの開発数）

【本部文化財活用センター】コンテンツ開発及び展開数　24件（うちコンテンツ開発数　18件）　令和4年3月31日現在

	事業名称	内　容	期　間	担　当　者
1	コンテンツ開発	「国宝　檜図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子
2	コンテンツ開発	「国宝　洛中洛外図屏風（舟木本）」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
3	コンテンツ開発	「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏　摺り工程見本」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
4	コンテンツ開発	「重要文化財　蘆屋楓流水鶏図真形釜」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、九州国立博物館 学芸部企画課特別展室　研究員　望月規史
5	コンテンツ開発	「阿弥陀如来立像（裸形）」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 教育室長　谷口 耕生
6	コンテンツ開発	「国宝　楼閣山水図屏風」の高精細複製品制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
7	コンテンツ開発	「重要文化財　山野行楽図屏風」の高精細複製品制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
8	コンテンツ開発	「国宝　秋冬山水図」の高精細複製品制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
9	コンテンツ開発	「重要文化財　遮光器土偶」のハンズオンレプリカ制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
10	コンテンツ開発	「重要文化財　遮光器土偶」のハンズオンレプリカ(前後分割）制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
11	コンテンツ開発	「重要文化財　みみずく土偶」のハンズオンレプリカ制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
12	コンテンツ開発	「土偶（ヤマネコ）」ハンズオンレプリカ制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
13	コンテンツ開発	「重要文化財　みみずく土偶」の複製品（土製）制作（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
14	コンテンツ開発	床の間と映像の演出による鑑賞体験コンテンツの制作(使用複製：「国宝　秋冬山水図」、都城市立美術館で公開）(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
15	コンテンツ開発	畳と照明の演出による高精細複製の鑑賞体験コンテンツの制作(使用複製：「国宝　楼閣山水図屏風」、「重要文化財　山野行楽図屏風」、名古屋市博物館で公開）(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
16	コンテンツ開発	茶碗型ハンズオンコントローラーと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ制作（愛知県陶磁美術館で公開）(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター副センター長 小林牧、企画担当専門職 松沼穂積
17	コンテンツ開発	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら」開設。（日本文化紹介映像、非接触体験展示「日本美術のデジタル年表」、高精細複製品(「重要文化財　夏秋草図屏風・風神雷神図屏風」ほか）を東京国立博物館で公開）	6月22日～4年3月31日（今後も継続）	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作、企画担当 研究員 小島有紀子
18	コンテンツ展開	乃木坂46と日本美術のコラボレーションによる映像インスタレーション「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」（使用複製：「国宝　花下遊楽図屏風」、「焔」、「重要文化財　夏秋草図屏風・風神雷神図屏風」、「重要文化財　秋草図屏風」、「見返り美人図」、「重要文化財　四季花鳥図屏風」、「重要文化財　振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様」。東京国立博物館で公開）	9月4日～11月28日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋美奈子、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
19	コンテンツ開発	懐中電灯型デバイスと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほとけ調査」の実証実験。（東京国立博物館で公開）（シャープ株式会社との共同研究）	11月16日～12月5日	企画担当室長 髙橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 松沼穂積
20	コンテンツ展開	コンテンツ巡回「びじゅチューン！× 山口ゆめ回廊博覧会 なりきり美術館」（NHK山口放送局・山口情報芸術センター）	7月16日～8月22日	文化財活用センター副センター長 小林牧、企画担当専門職 松沼穂積

21	コンテンツ展開	文化財に親しむためのコンテンツ「8Kで文化財　国宝「聖徳太子絵伝」」の日英コンテンツを東京国立博物館で再公開	7月13～9月5日	文化財活用センター企画担当 専門職 高木結美
22	コンテンツ展開	東京国立博物館・NHKの共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクトのマネジメント（8K文化財コンテンツ（「国宝　救世観音」、「重要文化財　樫鳥糸肩赤威胴丸」、「重要文化財　能面　伝山姥」ほか）の制作と放映	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子
23	コンテンツ展開	複製品・デジタルコンテンツの貸与（8件）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子
24	コンテンツ展開	「ぶんかつアウトリーチプログラム」として複製品を活用した教育プログラムの提供（12件）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当専門職 松沼穂積、企画担当研究員 高橋真作、企画担当研究員 西木政統

1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業

【本部文化財活用センター】　5件

令和4年3月31日現在

	貸与先名	展覧会名称	期間	収蔵館・貸与件数（件）
1	やないづ町立斎藤清美術館	斎藤清とハニワ！	4月24日～6月6日	東京国立博物館：6件 九州国立博物館：1件
2	佐賀県立美術館	白馬、翔びたつ　－黒田清輝と岡田三郎助－	9月7日～10月17日	東京国立博物館：22件
3	奈良県立美術館	生誕200周年記念　森川杜園展	9月23日～11月14日	東京国立博物館：23件 奈良国立博物館：1件
4	那覇市立壺屋焼物博物館	うちなー赤瓦ものがたり	11月2日～12月26日	東京国立博物館：18件
5	桑名市博物館	やまと絵のしらべ　－帆山花乃舎と復古大和絵－	4年1月22日～2月27日	東京国立博物館：16件 九州国立博物館：2件

1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【本部文化財活用センター】　81件

令和4年3月31日現在

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡活用検討委員会　委員	4月～4年9月	文化財活用センター副センター長　小林牧
2	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月～4年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
3	文化庁	「博物館等の国際交流の促進事業」選定委員会委員	5月～4年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
4	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」技術審査専門員	4月	文化財活用センター副センター長　小林牧
5	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」ワーキング会議委員	4月～4年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
6	文化庁	令和3年度ミュージアムマネジメント研修　協力者	12月17日	文化財活用センター副センター長　小林牧
7	東京都建設局	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業技術審査委員会委員	4月～5年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
8	愛知県陶磁美術館	運営委員会委員	8月～5年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
9	茨城県立歴史館	協議会委員	7月～5年6月	文化財活用センター企画担当研究員　髙橋真作
10	墨田区	文化財保護審議会臨時委員	9月～4年1月	文化財活用センター企画担当研究員　髙橋真作
11	学校法人学習院大学　学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月20日	文化財活用センター企画担当室長　髙橋美奈子
12	山種美術館	ミュージアムマネジメント・学芸／広報戦略に関する研修講師	5月9日、5月23日	文化財活用センター企画担当室長　髙橋美奈子
13	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
14	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
15	奈良県	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	6月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
16	文化庁	文化審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
17	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～4年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会実行委員会委員	1月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　吉田直人
20	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～4年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
21	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
22	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会実行委員会委員	1月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

23	東京文化財研究所	第61号保存科学誌編集委員	12月～4年3月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
24	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会プログラム作成委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
25	静岡県富士山世界遺産センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
26	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
27	京都府立丹後郷土資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
28	長野県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
29	國學院大學博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
30	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
31	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
32	高岡の森弘前藩歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
33	京都市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
34	田辺市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
35	小林古径記念美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
36	高知県立坂本龍馬記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
37	都城市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
38	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
39	太田市立新田荘歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
40	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
41	安芸高田市歴史民俗資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
42	しもだて美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
43	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
44	竹田市歴史文化館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
45	静岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
46	茨城県近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
47	國學院大學博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
48	大山崎町歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
49	あつぎ郷土博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
50	高松市歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
51	横須賀美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
52	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
53	板橋区立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
54	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～1月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
55	福岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
56	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
57	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
58	早稲田大学會津八一記念博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
59	岐阜県美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
60	岐阜関ケ原古戦場記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
61	秋水美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
62	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
63	比叡山国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
64	埼玉県立嵐山史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
65	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
66	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人

67	大阪歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
68	野洲市歴史民俗博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
69	彦根城博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
70	大和文華館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
71	八代市立博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	12月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
72	斎宮歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
73	徳川美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、研究員　間渕創
74	岩宿博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、研究員　間渕創
75	滋賀県立美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月～12月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
76	石川県立美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
77	石川県立美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
78	姫路城管理事務所	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
79	山梨県立博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	1月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
80	沖縄県立博物館・美術館	4年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
81	刈谷市歴史博物館	4年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	10月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	国際研修におけるIT技術導入のための実証実験	9月8日～10日、13日	所内有志職員	4	1	-	
2	合同調査会「ブータン中部・東部地域の伝統的民家の成立背景と建築的特徴」（オンライン）	3月7日	ブータン・内務文化省文化局職員及び協力事業に参加する日本側専門家	1	1	90.6	参加者アンケート評価4項目の平均値
3	オンライン国際研修「3次元写真計測（基礎）Ⅱ」	3月15日	パキスタン・ネパール・カンボジア・スリランカの文化遺産保存専門家	1	1	-	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021（集団研修）「考古遺跡の調査記録と保存活用」	9月1日～9月30日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	ー	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021（個別テーマ研修）「文化財建造物の写真撮影技法」	10月8日～11月21日	インドネシアの専門家	14	1	ー	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（ミャンマー）	11月10日～11月12日	ミャンマーの専門家	3	1	ー	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】2件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構（APSARA）・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	
2	伝統民家を含むブータンの歴史的建造物の共同調査研究に関する覚書	ブータン王国内務文化省文化局・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	

【奈良文化財研究所】 1件

	名称	機関名	備考
1	学術交流及び協力に関する覚書	奈良文化財研究所、国際中央アジア研究所（ウズベキスタン共和国）	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件　　令和4年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム　無形文化遺産研究の進展と課題- 持続可能な未来に向けて-（オンライン）	10月29日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
2	第10回IRCI運営理事会　（オンライン）	11月17日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
3	国際専門家会合 無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究ー教育とまちづくり（オンライン）	12月21日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者	1日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
4	国際シンポジウム 「無形文化遺産の貢献　～ より良い学びと持続可能なまちづくりに向けて～」（オンライン）	12月22日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者 及び一般	1日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region The Fourth Working Group Meeting in FY2021　（オンライン）	4年1月21日	マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、キルギスの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和4年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		69日			209日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		570人			217人		
		令和2年度末	3年度追加	3年度末	令和2年度末	令和3年度追加	令和3年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	125,316件	1,085件	126,401件	385,361件	7,459件	392,820件
	雑誌	168,062件	2,465件	170,527件	105,687件	3,381件	109,068件
	その他（図録・報告書等）	47,695件	849件	48,544件	204,303件	4,206件	208,509件 *
	計	337,374件	4,399件	345,472件	491,048件	10,840件	501,888件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和4年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	36件	32件
データベースのデータ件数（件）	1,718,006件	1,299,503件
データベース等へのアクセス件数（件）	2,929,768件	9,419,564件
（ホームページへのアクセス件数（件））	3,865,899件	1,047,737件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　2件　34人　令和4年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第55回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」	11月5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	34人	
2	第16回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	（4年1月15日～2月15日オンラインにて公開）	オンライン	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	―	

【奈良文化財研究所】　5件　2,145人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第126回公開講演会	6月25日12：00～6月28日12：00	インターネットなぶんけんチャンネル（YouTube）	奈良文化財研究所	演題「古代の人形を読み解く」「都市ヨークにおける初期中世装飾石彫の製作」について２名による講演を開催した。	―	
2	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第208次)現地見学会	10月2日	橿原市醍醐町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第208次)現地見学会を開催した。	619人	
3	興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第640次）現地見学会	10月9日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第640次）現地見学会を開催した。	949人	
4	第13回東京講演会	10月23日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	テーマ「特別史跡山田寺跡－史跡指定100年－」について、６名による講演会を開催した。	来場者数135名 オンライン参加者数358名	
5	第127回公開講演会	11月13日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	演題「神々の住まいの内装－石清水八幡宮本殿の室礼（しつらい）について」、「どうして古墳の副葬品は現代まで残るのか？－模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討」について２名による講演を開催した。	84人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和4年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,845件	7,454件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　　1件　　受講者 16人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月5～9日	5	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	16人	100%	100%	

【奈良文化財研究所】　　13件　　受講者 139人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「古文書歴史資料調査基礎課程」	5月31日～6月4日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修。	10人	100%	100%	
2	文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」	6月14日～18日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査報告書の作成に向けて、遺跡から出土する土器・陶磁器に関する専門的知識を習得すると共に、製作技法や時期・産地を推定できる鑑識眼を養う。	10人	100%	100%	
3	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」	6月21日～25日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	8人	100%	100%	
4	文化財担当者専門研修「近現代建築保存活用課程」	7月5日～9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	近現代建築の価値の理解、その保存方法及び活用方法について、理念、制度、修理、耐震対策、管理、活用等の面から講義をおこない、近現代建築の保存に取り組む自治体担当者としての必要な知識の習得を目指す研修。	10人	100%	100%	
5	文化財担当者専門研修「木質文化財の科学的調査課程」	7月13日～16日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	木質文化財を調査する際に必要となる木材科学，年代学，保存科学などの科学的な知識を習得し，担当現場に生かすことを目指す。	4人	100%	100%	
6	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」	9月27日～10月1日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査現場や調査成果の活用に役立つ、実践的な知識と技術の習得、多分野協業に求められる視点について実習を交えながら学ぶ。 具体的には直営で必要となる地質調査や探査・計測、遺存体を含めた土壌の調査法を学び、対してどのような分析を、どのような形で委託すべきか、その際に必要な知識や判断基準は何か、加えて委託分析に向けた試料採取法について学ぶ。	10人	100%	100%	

7	文化財担当者専門研修「保存科学（木製遺物）課程」	10月11日～19日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	出土木製遺物の保存に必要となる基礎的な知識と技術の習得を目的とした課程。木製遺物の保存処理法を中心に、発掘現場における応急処置から取り上げ後の一時保管、保存処理後の展示・保管環境にいたるまで、一連の流れに沿った講義と実習をおこなう。研修を通して、受講生自身が木製遺物の保存処理を実践できるようになること、また処理を外注する場合にも適切な仕様を策定できるようになることを目標とする。	10人	100%	100%	
8	文化財担当者専門研修「遺跡GIS課程」	11月15日～19日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	GISの利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。	30人	100%	100%	対面9人 オンライン21人（Zoom）
9	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」	11月22日～12月3日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について、必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得する研修。	8人	100%	100%	
10	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」	12月13日～17日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	10人	100%	100%	
11	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」	12月20日～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成をおこなう実践的な技術を習得する研修。	10人	100%	100%	
12	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」	1月18日～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡等の保存活用計画書の策定演習を通して、計画書の事務局案作成を行う。ただし、目次建てのうち、「現状と課題」までは研修の事前課題として提出することを前提とする。	9人	100%	100%	対面8人 オンライン1人(Zoom)
13	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測課程」	1月27日～28日	2	地方公共団体の文化財担当職員※	「文化財を測る」ための実践的技術を実習を通して学ぶ。具体的にはSfM/MVSによる三次元計測から実測下図作成までの作業を学ぶハンズオンや三次元レーザースキャナーを利用した計測などを行う。	10人	100%	100%	対面5人 オンライン5人(Zoom)

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和4年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
653件	214件	267件	172件

【東京文化財研究所】　214件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	28件
2	無形文化遺産に関する助言	41件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	36件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	49件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	40件

【奈良文化財研究所】　267件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	213件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	6件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	43件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	5件

【本部文化財活用センター】　172件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	172件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(6) 文化財防災に関する取組

2-(6)-① 地域防災体制の構築

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会議等参加数）

【本部文化財防災センター】68件

令和4年3月31日現在

	期間	内容	期間	担当者	備考
1	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
2	ICOM-DRMC日本大会2021実行委員会	ICOM-DRMC日本大会2021実行委員	8月1日～4年3月31日	文化財防災センター長　髙妻洋成、同副センター長　建石徹	
3	東北工業大学	非常勤講師	4月1日～9月24日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
4	東松島市教育委員会	東松島市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
5	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
6	東京大学大気海洋研究所	客員准教授	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
7	東北大学東北アジア研究センター	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
8	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
9	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
10	八戸市教育委員会	八戸地方えんぶり調査委員会委員	4月15日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
11	亀山市教育委員会	亀山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
12	吹田市教育委員会	旧西尾家住宅修理専門会議委員	5月1日～5年6月30日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
13	赤磐市教育委員会	第二次山陽遺跡整備委員会委員	5月1日～5年4月30日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
14	泉大津市教育委員会 和泉市教育委員会	史跡池上曽根遺跡再整備計画策定委員	5月1日～4年3月31日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
15	宮崎県	宮崎県文化財保存活用大綱の策定にかかる防災関連の指導・助言	5月1日～4年3月30日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂、文化財防災PT 九博学芸部長　河野一隆、同PT　九博学芸部文化財課長 原田あゆみ、同PT　九博学芸部博物館科学課長 木川りか、同PT　九博学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基	
16	枚方市	特別史跡百済寺跡再整備検討委員	7月1日～5年6月30日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
17	大阪市教育委員会	難波宮跡整備計画検討委員会議委員	11月24日～5年11月23日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
18	厚生労働省健康局	歴史的建造物の保存等検討会構成員	4年2月28日～3月31日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
19	埼玉県教育局文化資源課	埼玉県立博物館等施設における資料防災マニュアル策定にかかる指導	6月1日～4年3月31日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
20	川崎市市民文化局（川崎市市民ミュージアム）	令和元年東日本台風（台風第19号）による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	4月1日～4年3月31日	奈文研客員研究員　浜田拓志	
21	西山美術館	シンポジウム「人・文化財・歴史そして芸術～震災を振り返り、今を見つめ直す」講師	4月20日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	

22	山形県観光スポーツ部文化振興・文化財活用課	大綱策定に向けた文化財防災に関するワーキンググループへのオブザーバー出席	5月21日、10月15日	東文研保存科学研究センター研究員　芳賀文恵、文化財防災センター研究員　後藤知美	
23	文化庁	「全国博物館長会議（第28回）」講師	6月1日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
24	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会福島大会公開シンポジウム講師	6月1日～8月31日（配信期間）	文化財防災センター長　髙妻洋成、文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
25	福岡県建築士会	ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習会講師	6月5日、10月2日	文化財防災PT　九博学芸部博物館科学課長　木川りか	
26	奈良大学	博物館実習講演会講師	6月19日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
27	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び保管環境等の指導	6月22日	文化財防災センター研究員　水谷悦子	
28	西南学院大学	博物館資料保存論　非常勤講師	7月2日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
29	福岡県建築士会	ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習会出席	7月3日、9月4日、11月27日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
30	東京文化財研究所	「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」講師	7月9日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
31	公益財団法人富山県建築士会	文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会講師	7月10日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
32	京都文化財防災対策連絡会（京都府内12機関）	京都文化財防災対策連絡会出席	7月12日、11月25日（書面）、4年3月4日（書面）	文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	
33	奈良県文化・教育・暮らし創造部	文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議講師	8月6日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
34	野洲市永原御殿跡調査整備委員会	野洲市永原御殿跡調査整備委員会における指導・助言	8月23日、12月13日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
35	文化庁	記念物担当者会議講師	8月25日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
36	嘉島町教育委員会	史跡井寺古墳南側墳丘斜面崩落防止措置工事に関する指導・助言	10月13日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
37	文化庁	文化財建造物修理関係者等連絡協議会	10月18日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
38	博物館と市民による持続可能なふるさと再生プロジェクト実行委員会	シンポジウム「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝」講師	11月6日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
39	文化庁	文化財行政講座講師	11月10日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
40	九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会	ワーキング会議出席	11月17日	文化財防災PT　九博学芸部長　河野一隆	
41	西山美術館	シンポジウム「愛知県で考える美術・文化を残すために今すべき事」講師	11月24日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
42	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル検証に係る埼玉県立嵐山史跡の博物館の視察	11月30日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
43	東北大学学術資源研究公開センター	歴史文化資料保全コーディネーター講座テキストブック執筆	12月7日（依頼日）	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
44	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題―災害時応急対応事例と課題―」講師	12月14日、15日	文化財防災センター長　髙妻洋成	

45	文化庁	ミュージアム・マネジメント研修講師	12月16日	文化財防災センター副センター長　建石徹	
46	群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会（運営：群馬歴史資料継承ネットワーク）	ぐんま史料ネット地域文化遺産フォーラム2021「群馬の文化財防災を考える」講師	12月19日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　黄川田翔	
47	神奈川県立歴史博物館	緊急搬出訓練に関する指導・助言	12月21日	文化財防災センター長　髙妻洋成、同副センター長　建石徹	
48	国立国会図書館	第32回保存フォーラム講師	12月21日～4年1月17日（配信期間）	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
49	岡山県文化財等救済ネットワーク研修会	「岡山県文化財等救済ネットワーク研修会」における講演	4年1月19日（オンライン）	文化財防災センター長　髙妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保	
50	文化財活用センター	博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)講師	4年1月21日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
51	千葉県教育委員会	令和3年度千葉県文化財管理指導講習会 講師	4年1月27日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
52	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル検証に係る県立さきたま史跡の博物館の災害対策に関する指導・助言	4年1月28日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
53	栗駒山麓ジオパーク推進協議会	栗駒山麓ジオパークガイド養成講座講師	4年2月5日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
54	京都市文化財保護課	京都市文化財保存活用地域計画策定記念講演会「京都文化遺産の保存と活用を考える」講師	4年2月23日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
55	東北大学学術資源研究公開センター	歴史文化資料保全コーディネーター講座講師	4年3月7日、9日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
56	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び保管環境等に係る指導・助言	4年3月9日	文化財防災センター副センター長　建石徹　同研究員　水谷悦子、文化財防災PT 東文研　保存環境研究室長　秋山純子	
57	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル検証に係る県立近代美術館の災害対策に関する指導・助言	4年3月16日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
58	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル検証に係る県立歴史と民俗の博物館の災害対策に関する指導・助言	4年3月24日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
59	熊本県御船町	今城大塚古墳復旧対策に関する指導・助言(28年熊本地震)	4月22日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
60	熊本県八代市	水損資料調査(2年7月球磨川豪雨)	4月21日	文化財防災センター長　髙妻洋成	
		被災文化財救援活動(2年7月球磨川豪雨)	5月18日～21日	文化財防災センター長　髙妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同研究員　上椙研究員、同主任研究員　鷲頭桂	
		被災文化財に関する指導・助言(2年7月球磨川豪雨)	9月21日、22日	文化財防災センター長　髙妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
61	鳥取県	文化財被災状況調査(3年7月梅雨前線に伴う大雨)	7月16日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同主任研究員　前川歩、同研究員　中島志保	
62	島根県	文化財被災状況調査(3年7月梅雨前線に伴う大雨)	7月17日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同主任研究員　前川歩、同研究員　中島志保	

63	静岡県熱海市	被災文化財救援活動に関する指導・助言(熱海市土石流)	8月5日	文化財防災センター長　髙妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同主任研究員　前川歩、同研究員　中島志保、同研究員　上椙研究員、同研究員　後藤知美、同AF　中屋菜緒、同総務担当係長　甲斐優介、奈文研客員研究員　浜田拓志	
64	奈良県	焼損建造物の現地調査 (火災)	10月21日	文化財防災センター主任研究員　前川歩	
65	広島県三次市	郷土人形館「よりみちぼっこ」の水害等による環境変化に伴うカビ等への対処に関する指導・助言 (3年8月大雨)	11月2日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同研究員　上椙英之	
66	三重県鳥羽市	文化財被災状況調査(火災)	11月3日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同AF　小峰幸夫、文化財防災PT　奈良博学芸部保存修理指導室長 荒木臣紀	
		被災文化財に関する指導・助言(火災)	12月9日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同AF　小峰幸夫、文化財防災PT　奈良博学芸部保存修理指導室長 荒木臣紀、同PT 奈良博学芸部研究員　内藤航	
67	宮城県富谷市	被災文化財に関する指導・助言(3年2月13日の福島県沖を震源とする地震)	11月12日	文化財防災センター研究員 後藤知美	
68	長野県大桑村	被災文化財に関する指導・助言(3年8月大雨)	12月24日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	

2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数、報告書等の刊行数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤,⑥

2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発

2-(6)-④-1 文化財防災に関する普及啓発への取り組み状況（シンポジウム等の開催件数）

【文化財防災センター】6件　　令和4年3月31日現在

	開催日	事業名称	開催場所	参加者数	備考
1	10月26日	研修「水損紙資料の応急処置ワークショップ」	奈良文化財研究所	6人	
2	11月4日、6日	ICOM-DRMC(国際博物館会議 博物館防災国際委員会)年次大会-東日本大震災から10年。今、博物館と文化財の防災を考える-	11/4　東京国立博物館 11/6　陸前高田市コミュニティホール （対面及びオンラインでの開催）	11/4　145人 11/6　180人	主催：ICOM-DRMC、ICOM 日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
3	11月13日	研修「なぜ災害発生後に文化財を救うのかー文化財レスキューと心理社会的支援ー」	東北芸術工科大学 （対面及びオンラインでの開催	30人	
4	12月14日、15日	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題―災害時応急対応事例と課題―」	オンライン配信	7か国10人（オブザーバーは2日間で10か国114人）	共催：文化庁、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所、文化財防災センター
5	4年1月26日	文化財防火デートークイベント	オンライン配信		
6	4年3月9日	令和3年度文化財防災センター講演会「文化財防災体制の構築とその未来～文化財防災センター設置から1年を経て」	オンライン配信	125人 ※公開から12日間の再生回数	

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和4年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,133	1,852	726	144	254	728	281	208	73
	うち有償	1,000	987	722	128	126	11	13	0	13
	うち無償	1,133	865	4	16	128	717	268	208	60
茶室	総件数	70	70	22	12	27	9			
	うち有償	65	65	22	12	23	8			
	うち無償	5	5	0	0	4	1			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	689	417	79	22	79	237	272	208	64
	うち有償	151	143	75	11	55	2	8	0	8
	うち無償	538	274	4	11	24	235	264	208	56
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	619	610	37	10	96	467	9	0	9
	うち有償	81	76	37	7	32	0	5	0	5
	うち無償	538	534	0	3	64	467	4	0	4
撮影利用	総件数	755	755	588	100	52	15	0	0	0
	うち有償	703	703	588	98	16	1	0	0	0
	うち無償	52	52	0	2	36	14	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	69,724	69,461	62,618	4,582	1,937	324	263	0	263
茶室	2,264	2,264	1,609	227	391	37			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	6,253	6,156	3,546	1,822	507	281	97	0	97
その他（左記以外の建物、敷地）	20,706	20,540	19,327	575	638	0	166	0	166
撮影利用	40,501	40,501	38,136	1,958	401	6	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和4年3月31日現在

年度				29	30	元	2	3
国立文化財機構	総来館者数			4,875,133	3,977,125	4,358,044	858,177	1,483,715
	平常展	計		1,736,421	1,706,401	1,753,198	344,392	432,362
		有料	一般	778,185	747,422	713,037	132,915	148,848
			大学生	76,093	73,196	66,176	14,005	19,183
			小・中・高生	159	0	0	0	0
			友の会	185,553	192,482	189,313	53,579	59,980
		無料	一般(黒田含む)	107,824	116,321	78,584	33,306	36,650
			小・中・高・大生	206,900	204,691	193,984	24,623	43,070
		招待者等		381,707	372,289	512,104	85,964	124,631
	特別展	計		3,138,712	2,270,724	2,604,846	513,785	1,051,353
		有料	一般	2,049,172	1,510,156	1,721,359	362,251	744,781
			高・大生	105,410	112,381	91,077	25,289	69,675
			小・中生	29,312	22,558	26,793	2,715	7,641
			友の会	56,008	22,245	20,405	4,834	13,341
		無料	小・中生・一般	98,848	91,328	94,201	32,499	37,937
		招待者等		799,962	512,056	651,011	86,197	177,978
東京国立博物館	総来館者数			2,569,585	2,142,960	2,588,632	375,575	836,720
	平常展	計		1,030,180	989,508	1,030,652	166,639	211,052
		有料	一般	525,037	478,770	435,389	65,236	79,707
			大学生	48,052	43,486	37,542	7,137	10,788
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	160,739	172,646	170,236	46,389	50,122
		無料	高校生	32,714	27,701	21,911	3,183	5,627
			小・中生	70,686	66,933	62,703	8,519	10,336
		招待者等		143,888	145,696	258,794	22,290	35,990
		黒田記念館(無料)		49,064	54,276	44,077	13,885	18,482
	特別展	計		1,539,405	1,153,452	1,557,980	208,936	625,668
		有料	一般	995,261	764,691	1,038,356	158,484	471,946
			高・大生	41,210	54,270	51,783	11,591	45,712
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	11,684	1,988	1,642	760	949
		無料	小・中生	20,051	37,968	37,024	5,244	18,264
		招待者等		471,199	294,535	429,175	32,857	88,797
京都国立博物館	総来館者数			941,931	477,884	376,061	170,494	132,793
	平常展	計		136,862	146,314	158,664	18,941	35,440
		有料	一般	80,789	87,013	95,014	8,525	17,911
			大学生	12,016	13,028	12,370	779	1,965
			友の会	9,341	7,058	6,552	1,562	2,268
		無料	小・中・高生	13,069	14,608	14,943	862	2,548
		招待者等		21,647	24,607	29,785	7,213	10,748
	庭園開放	計		15,676	11,168	13,908	9,932	5,851
		有料	一般	8,082	6,114	7,688	5,383	2,468
			大学生	—	—	—	572	357
			友の会	505	196	256	505	73
		無料	大学生	436	362	689	—	—
			小・中・高生	2,777	1,638	1,815	588	624
		招待者等		3,876	2,858	3,460	2,884	2,329
	特別展	計		789,393	320,402	203,489	141,621	91,502
		有料	一般	579,728	227,508	130,145	105,811	59,367
			高・大生	31,654	29,472	10,227	7,327	7,530
			友の会	13,192	3,166	3,291	1,175	372
		無料	小・中生	17,566	10,023	6,240	1,547	2,517
		招待者等		147,253	50,233	53,586	25,761	21,716
奈良国立博物館	総来館者数			549,211	527,786	612,755	122,452	253,196
	平常展	計		135,776	140,829	160,869	43,262	52,178
		有料	一般	60,294	63,675	75,109	17,695	18,185
			大学生	6,518	6,534	7,981	1,251	1,213
			小・中・高生	159	0	0	0	0
			友の会	4,250	3,196	3,414	3,062	4,258
		無料	小・中・高生	28,257	28,492	34,407	5,876	11,722
		招待者等		36,298	38,932	39,958	15,378	16,800
	特別展	計		413,435	386,957	451,886	79,190	201,018
		有料	一般	298,133	284,723	342,015	57,939	143,001
			高・大生	17,109	15,684	14,385	4,199	11,537
			小・中生	11,792	13,443	11,045	1,497	4,718
			友の会	16,058	3,901	2,970	1,278	6,245
		無料	小・中生	420	269	0	595	762
		招待者等		69,923	68,937	81,471	13,682	34,755
九州国立博物館	総来館者数			668,269	700,391	674,277	131,662	213,153
	平常展	計		350,848	349,114	348,563	81,230	104,898
		有料	一般	101,029	109,272	97,786	33,727	28,407
			大学生	9,253	9,950	8,068	4,181	4,761
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	10,718	9,386	8,855	2,061	3,259
		無料	高校生	22,730	28,868	24,056	1,441	5,416
			小・中生	34,789	34,730	32,905	3,537	6,187
		招待者等		172,329	156,908	176,893	36,283	56,868
	特別展	計		317,421	351,277	325,714	50,432	108,255
		有料	一般	168,511	226,615	205,067	35,721	66,458
			高・大生	14,820	12,369	14,180	1,883	4,596
			小・中生	17,520	9,115	15,748	1,218	2,923
			友の会	15,074	13,190	12,502	1,621	5,775
		招待者等		101,496	89,988	78,217	9,989	28,503
平城宮跡資料館	総来館者数			104,279	90,558	71,408	37,913	25,264
	平常展	無料	一般	50,598	53,775	26,562	15,004	12,942
	特別展	無料	一般	53,681	36,783	44,846	22,909	12,322
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,162	8,270	7,945	4,417	5,226
	平常展	無料	一般	8,162	8,270	7,945	4,417	5,226
飛鳥資料館	総来館者数			33,696	29,276	26,966	15,664	17,363
	平常展	計		8,319	7,423	6,035	4,967	4,775
		有料	一般	2,954	2,578	2,051	2,349	2,170
			大学生	254	198	215	85	99
		無料	小・中・高生	1,442	1,359	555	617	610
		招待者等		3,669	3,288	3,214	1,916	1,896
	特別展	計		25,377	21,853	20,931	10,697	12,588
		有料	一般	7,539	6,619	5,776	4,296	4,009
			大学生	617	586	502	289	300
		無料	小・中・高生	7,130	6,285	6,091	2,204	4,072
		招待者等		10,091	8,363	8,562	3,908	4,207

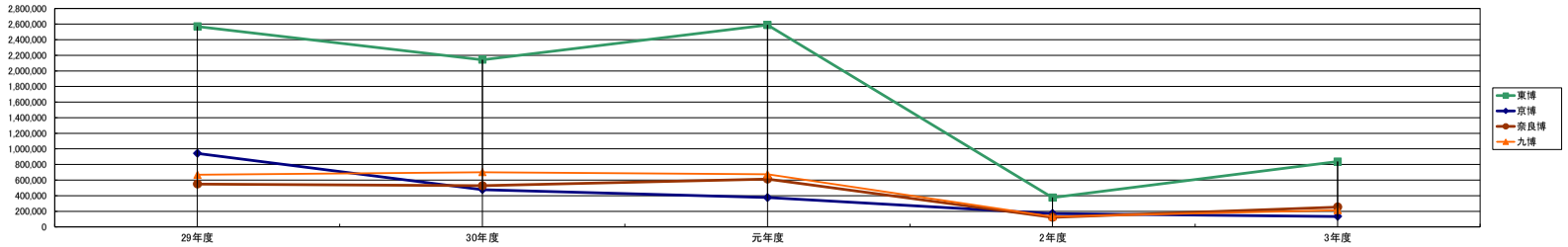
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成29～令和3年度）

国立文化財機構　合計

	29年度		30年度		元年度		2年度		3年度	
合計	総　　計	4,875,139	総　　計	3,977,125	総　　計	4,358,044	総　　計	656,177	総　　計	1,483,715
	平常展のみの来館者	1,736,421	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198	平常展のみの来館者	344,392	平常展のみの来館者	432,392
	特別（共催）展計	3,138,712	特別（共催）展計	2,270,724	特別（共催）展計	2,604,846	特別（共催）展計	513,755	特別（共催）展計	1,051,353

1）国立博物館

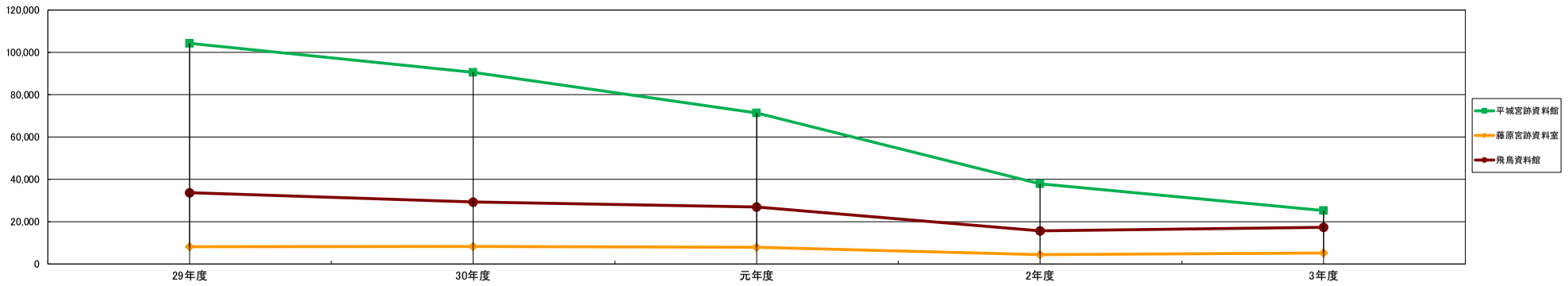


	29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
計	総　　計	4,728,996	総　　計	3,849,021	総　　計	4,251,725	総　　計	800,183	総　　計	1,435,862
	平常展のみの来館者	1,669,342	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,656	平常展のみの来館者	320,004	平常展のみの来館者	409,419
	特別（共催）展計	3,059,654	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069	特別（共催）展計	480,179	特別（共催）展計	1,026,443
東博	総計(黒田記念館含む)	2,569,585	総計(黒田記念館含む)	2,142,960	総計(黒田記念館含む)	2,588,632	総計(黒田記念館含む)	375,575	総計(黒田記念館含む)	836,720
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	1,030,180	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	989,508	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	1,030,652	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	166,639	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	211,052
	特別（共催）展計	1,539,405	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980	特別（共催）展計	208,936	特別（共催）展計	625,668
	特別展「茶の湯」	245,795	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流－日本美を伝える－」	74,424	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	129,349
	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	116,100	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺-空海と仏像曼荼羅」	430,511	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	59,125
	「フランス人間国宝展」	70,192	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593	特別展「きもの　KIMONO」	91,830	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	※1(22,735)
	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	中止
	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	延期	マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」	※1(125,463)
	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	182,837	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	延期	聖徳太子１４００年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」	69,640
			顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	延期	「春夏秋冬ノフォーシーズンズ　乃木坂46」	58,461
			特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　－日本美を伝える－	48,340	特別展「人、神、自然―アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	13,851	伝教大師１２００年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」	63,977
			特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※4(204,801)	特別展「桃山―天下人の100年」	82,808	特別展「ポンペイ」	184,119
					日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてもの―自然素材を伝統技術に活かす知恵」	20,447	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	15,405
					特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	199 （報道内覧会のみ）	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止	特別企画「手わざ―琉球王国の文化」	※1(27,440)
					ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	延期	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	45,592
京博	総　　計	941,931	総　　計	477,884	総　　計	376,061	総　　計	170,494	総　　計	132,793
	平常展のみの来館者	136,862	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664	平常展のみの来館者	18,941	平常展のみの来館者	35,440
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,908	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	9,932	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	5,851
	平常展のみ+庭園のみ計	152,538	平常展のみ+庭園のみ	157,482	平常展のみ+庭園のみ	172,572	平常展のみ+庭園のみ	28,873	平常展のみ+庭園のみ	41,291
	特別（共催）展計	789,393	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489	特別（共催）展計	141,621	特別（共催）展計	91,502
	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678	西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（※今夏に延期）	52,164	凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	14,655
	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	御即位記念　特別展「皇室の名宝」	85,315	特別展「京（さやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」	37,065
							凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	4,142	特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」	39,782
奈良博	総　　計	549,211	総　　計	527,786	総　　計	612,755	総　　計	122,452	総　　計	253,196
	平常展のみの来館者	135,776	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869	平常展のみの来館者	43,262	平常展のみの来館者	52,178
	特別（共催）展計	413,435	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886	特別（共催）展計	79,190	特別（共催）展計	201,018
	特別展「快慶」	123,842	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（※今夏に延期）	42,846	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	44,233
	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133	仏教美術名品展	延期	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」	34,659
	特別展 第69回正倉院展	217,053	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675	特別展 第72回正倉院展	36,344	特別展 第73回正倉院展	73,968
							特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	特別展「名画の殿堂　藤田美術館展」	13,773
									特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	34,385
九博	総　　計	668,269	総　　計	700,391	総　　計	674,277	総　　計	131,662	総　　計	213,153
	平常展のみの来館者	350,848	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563	平常展のみの来館者	81,230	平常展のみの来館者	104,898
	特別（共催）展計	317,421	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714	特別（共催）展計	50,432	特別（共催）展計	108,255
	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」	中止	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	18,157
	特別展「世界遺産　ラスコー展」	118,555	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代」	86,399	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	延期	特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」	43,197
	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155	開館15周年記念特別展「加耶」	中止	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	17,383
	特別展「王羲之と日本の書」	55,139	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636	特別展「奈良・中宮寺の国宝」	50,432	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	29,518

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。
※4　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数値。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成29～令和3年度）

2）研究成果公開施設



	29年度		30年度		元年度		2年度		3年度	
計	**総　合　計**	**146,137**	**総　合　計**	**128,104**	**総　合　計**	**106,319**	**総　合　計**	**57,994**	**総　合　計**	**47,853**
	平常展のみの来館者	**67,079**	**平常展のみの来館者**	**69,468**	**平常展のみの来館者**	**40,542**	**平常展のみの来館者**	**24,388**	**平常展のみの来館者**	**22,943**
	特別（共催）展計	**79,058**	**特別（共催）展計**	**58,636**	**特別（共催）展計**	**65,777**	**特別（共催）展計**	**33,606**	**特別（共催）展計**	**24,910**
平城宮跡資料館	総　計	104,279	総　計	90,558	総　計	71,408	総　計	37,913	総　計	25,264
	平常展のみの来館者	50,598	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562	平常展のみの来館者	15,004	平常展のみの来館者	12,942
	特別（共催）展計	53,681	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846	特別（共催）展計	22,909	特別（共催）展計	12,322
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －
	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん ―平城宮の考古学―」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ミニ展示「古代のいのり―疫病退散！」	2,846	春期特別企画展「平城宮跡保存運動のさきがけ －大極殿模木建設式一二〇周年－」／「大地鳴動 －大地の知らせる危機と私たちの生活－」	688
	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城2019」「古代のいのり―疫病退散！」	3,968	夏期企画展「奈良を測る　―森蘊の庭園研究と作庭―」	1,157
	夏のこども展示　「ナント！　すてきな！？　平城生活♪」	10,882	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257	秋季特別展「地下の正倉院展」	14,670	秋季特別展「地下の正倉院展」	6,310
	秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425	企画展「発掘された平城2020・2021」	4,167
	平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の成」	5,220			平城宮跡資料館「発掘された平常2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復元整備工事記念特別展「鬼神乱舞-護る・祓う・鬼瓦の世界-」	※2 31,530		
藤原宮跡資料室	総　計	8,162	総　計	8,270	総　計	7,945	総　計	4,417	総　計	5,226
	平常展のみの来館者	8,162	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417	平常展のみの来館者	5,226
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	33,696	総　計	29,276	総　計	26,966	総　計	15,664	総　計	17,363
	平常展のみの来館者	8,319	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967	平常展のみの来館者	4,775
	特別（共催）展計	25,377	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931	特別（共催）展計	10,697	特別（共催）展計	12,588
	春期特別展「藤原京を掘る―藤原京一等地の調査―」	9,613	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化財研究所 合同企画 夏期特別展「日本人と古代仏教―仏教徒文字文化の考古学」	中止	ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦－」	535
	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070	特別展「飛鳥の石造文化と石工」	3,212	夏期企画展　飛鳥資料館第12回写真コンテスト「飛鳥の木」	2,112
	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」	6,506	秋期企画展　飛鳥資料館第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」	5,114	秋期特別展「「屋根を彩る草花　－飛鳥の軒瓦とその文様」	7,353
	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,371	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	2,588

※1　平常展の一部として実施
※2　平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、合計の数値には含まない。（参考値として記載。）

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　278 日間（9 月 21 日の「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂 46」のみの開館日を含む）（平常展のみの開館日数　35 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　9,212件（うち国宝472件、重要文化財884件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,253件（うち国宝291件、重要文化財417件）
(2)東洋館　2,428件（うち国宝18件、重要文化財88件）
(3)法隆寺宝物館　334件（うち国宝 8件、重要文化財172件）
(4)平成館考古展示室　2,094件（うち国宝 155件、重要文化財207件）
(5)黒田記念館　103件（うち国宝　0件、重要文化財0件）
④展示替件数　5,837 件　・　展示替回数　延べ 395 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　一般1,000円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全26件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）
※東京都からの要請により、4月25日～5月31日まで臨時休館。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
東洋館 8室	宮廷から地方へ―明時代の絵画と書跡	3月2日 ～ 4月11日	41件（重文5件）
＜主な作品＞ ●四季花鳥図軸、●探花図巻、●山水図軸、●寒江独釣図軸、●漁夫図軸			
明時代（1368～1644）の宮廷画壇は、特に15世紀から16世紀はじめにかけて繁栄を誇り、宮廷画家たちは、宋時代をはじめとする古画をよく学び、花鳥、走獣、人物、山水など多彩な主題を描いた。本特集展示では、宮廷絵画とそこから発展した浙派、狂態邪学派の名品を、江南文人書跡とともに紹介した。			
本館 特別 1・特別 2・14 室	鳥獣戯画展スピンオフ	3 月 23 日 ～ 6 月 20 日	47 件（重文 2 件）
＜主な作品＞ 藍釉兎、兎形香油壺、鳥獣戯画　甲巻（模本）、獣形帽額縮図			
本特集は、特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」（平成館、4 月 13 日～5 月 30 日）の関連企画として、本館特別 1・2 室及び 14 室で開催したもの。鳥獣戯画の主要なモチーフである動物に注目し、3 つの展示室でそれぞれ、1）古今東西において、動物たちがどのような存在としてあらわしてきたのかを探る展示、2）「鳥獣戯画」成立の背景を探るさまざまな作品を紹介する展示、3）可笑（おか）しみに富んだ「鳥獣戯画」が、その後与えた影響に関する展示を行った。			
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3 月 23 日 ～ 4 月 18 日	9 件
＜主な作品＞ 四季花鳥図巻、玄奘三蔵像、五彩人物文長方合子、突線鈕 3 式銅鐸			
本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。博物館が担う文化財修理の役割を広くご理解いただけるよう、作品とともに修理過程で得られた情報もパネルにして公開した。			
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　動物のうごき	5 月 11 日 ～ 6 月 27 日	42 件
＜主な作品＞ 自在鷹置物、三彩狸置物、葡萄棚に栗鼠図鐔、セクメト女神倚像、道化十二支の見立、桃太郎			
特集「親と子のギャラリー」は東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画を受けて企画された特集陳列であり、今回が 14 回目である。動物の「うごき」に注目し、「だいはくりょくのうごき」と「ひとをまねたうごき」の 2 部構成で展示した。また、新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館と協議の上、5 月 16 日に 3 館園関連イベントをオンラインで動画配信した。			
本館 14 室	那智―出土品にみる霊地の遺宝	6 月 8 日 ～ 7 月 18 日	65 件
＜主な作品＞ 菩薩半跏像、経筒、錫杖頭、銭弘俶八万四千塔、線刻薬師如来鏡像			
那智を含む紀伊山地は、幾重にも山々が連なる自然豊かな悠久の地として、仏教伝来以降、真言密教や山岳信仰、修験道の霊場として栄えた。また、平安時代以降、末法思想が世の中に広まるにつれ、那智には数多くの経塚が造営されている。本特集展示は、那智の遺宝ともいえる古代から中世の仏教関連遺物を紹介し、当時の人々の願いや思いに迫った。			
本館 特別 1 室	平安時代の名筆―高木聖鶴氏旧蔵品より―	7月20日 ～ 9月26日	23件
＜主な作品＞ 和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）、伊勢集断簡（石山切）、後撰和歌集巻九断簡（白河切）			
仮名の書家で文化功労者、文化勲章受章者であった高木聖鶴氏（1923～2017）は、学書のために平安時代の古筆切を中心に収集したことで知られる。本特集展示では、それらの高木聖鶴氏旧蔵コレクションより、優品の多い平安時代の名筆をまとめて紹介した。			

本館 14 室	岐阜県関市・春日神社の能狂言面	7 月 20 日 ～ 9 月 26 日	61 件(重文 61 件)
＜主な作品＞ ●能面　尉（笑尉）、●能面　男（若男）、●能面　霊男（怪士）			
岐阜県関市の春日神社は関鍛冶七流と呼ばれた刀鍛冶の守護神として信仰を集めた。同社には、能狂言面と古楽面あわせて 61 面が伝来し、その多くが室町から安土桃山時代の作と見られる貴重な作品群で、平成 22 年に重要文化財に指定されている。この特集展示ではその全貌を紹介したもの。			
本館 特別 1 室	瓦が語る東大寺の歴史	8 月 31 日 ～ 11 月 7 日	35 件
＜主な作品＞ 複弁蓮華文軒丸瓦、梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦、「七」字銘蓮華文軒丸瓦、平瓦（桶巻作り）			
本尊の盧遮那仏が「奈良の大仏」として親しまれ、多くの人々が訪れる東大寺は、正式には金光明四天王護国之寺といい、全国60か所に及ぶ国分寺の中心となる「総国分寺」として聖武天皇により建立された。東大寺には多くの栄華と苦難、再建の物語があり、本特集展示では、折々を見届けてきた瓦からその歴史を辿った。			
東洋館 8室	江戸時代にもたらされた中国書画	9月7日 ～ 10月17日	66件
＜主な作品＞ 草書千字文巻、白衣観音図、鹿鶴図屏風、雪梅群兎図、楷書紺紙金字妙沙経			
中国大陸の文化を伝える人や文物は、貿易の管理・統制が比較的厳しく行われた江戸時代にあっても、長崎などを通じて日本に流入していた。この中で、新しい明・清時代の書壇・画壇の動向がもたらされたこと、中国本土では必ずしも注目されてこなかった類の作品が、日本で大切に保存されてきたことが重要である。本特集展示では、このような、江戸時代にもたらされた中国書画を紹介した。			
本館 14 室	浅草寺のみほとけ	9 月 28 日 ～ 12 月 19 日	13 件
＜主な作品＞ 僧形坐像、不動明王立像、大威徳明王騎牛像、四天王立像			
浅草寺は、浅草観音として親しまれる観音霊場であるとともに、1950 年に聖観音宗として単立寺院になるまで、慈覚大師円仁の中興にかかる天台宗の古刹としても知られます。本特集展示では、寄託の仏像 13 件 17 体を一堂に展示。近年実施された寺宝の悉皆調査で新たに見出された作品を含め、これまで公開の機会が少なかった浅草寺の仏像を広く紹介した。			
平成館 企画展示室	令和 2 年度新収品	10 月 5 日 ～ 10 月 31 日	14 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ ●法然上人絵伝、針切、グリンシン（肩衣）ワヤン人形文様経緯絣、色絵枝垂桜図皿			
令和 2 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開した。新収品を通じ、東京国立博物館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介する機会となった。			
東洋館 8 室	中国書画精華―仏教文化の粋―	10 月 19 日 ～ 12 月 5 日	62 件（国宝 14 件、重文 19 件）
＜主な作品＞ ◎寒山拾得図軸、◎瀟湘臥遊図巻、◎出山釈迦図軸、◎印可状（流れ圜悟）、◎禅院額字「旃檀林」			
毎年秋の恒例の中国書画の名品展「中国書画精華」。今年は仏教文化の中で生み出された書跡・絵画をテーマに、当館所蔵・寄託の中国書画の中から、南北朝時代の古写経や造像記、宋・元時代の羅漢図や禅宗絵画、墨跡などの優品を紹介した。			
本館 14 室	日本人に愛された華南のやきもの	12 月 21 日 ～4 年 2 月 20 日	29 件
＜主な作品＞ 華南三彩五耳壺、灰被天目、青呉州人物図水指、青磁鉄絵牡丹文鉢			
「華南」では、宋から明・清時代の長きにわたり陶磁器が生産され、海外へ輸出された。その製品は、日本では茶の湯や懐石、煎茶の道具として親しまれた。本特集展示は日本における陶磁器研究史をたどりながら、華南のやきものの魅力と、日本人の美意識に与えた影響を紹介した。			
本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　今年はトーハク 150 周年！めでタイガー！！	4 年 1 月 2 日 ～ 1 月 30 日	54 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ 白釉鉄絵虎形枕、龍虎図屏風、●朝鮮国王国書別幅、博物館写生図（虎皮）、漆絵画帖			
寅年にちなんだ「虎」をテーマとした特集展示。古代より虎は瑞獣として、とりわけ西方をつかさどる守護神とみなされてきた。また、その獰猛さから畏怖の対象として、仏教美術にも取り入れられる一方、勇猛さや豪傑の象徴としても数々の作品に表されてきた。本展示では、「神獣・仏教にかかわる虎」「龍虎図」「日本の勇猛な虎」「アジアの多彩な虎」「博物学におけるネコ科の虎」のテーマに沿って、各々の虎の表現に着目しながら、それにまつわる文化を紹介した。			
東洋館 8 室	没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―	4 年 1 月 2 日～2 月 27 日	102 件(国宝 3 件、重文 9 件)
＜主な作品＞ 独孤本定武蘭亭序並蘭亭十三跋、行草書十詩五札巻、●枯木図軸、●雪汀遊禽図軸			
趙孟頫は、詩文書画に優れた元時代随一の芸術家。書画においては、王羲之を主とする晋唐の書法と唐宋の画法を規範とする復古主義を唱導し、当代のみならず明清時代の諸家にも大きな影響を与えた。令和 4 年が趙孟頫の没後 700 年にあたることから、あらためて趙孟頫に焦点をあて、関連する中国書画と文房具を、「趙孟頫前夜」「趙孟頫と元時代の書」「元時代の絵画」「明清時代における受容」に分けて展示し、趙孟頫の功績を紹介した。			

本館 特別1・2室	全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界	4年2月8日 ～ 3月21日	46件(国宝38件)
＜主な作品＞ ◎医心方　巻第一治病大体部			
本特集は、2年9月に足掛け5年をかけた修理が終了した国宝「医心方」の全巻を紹介したもの。「医心方」の祖本は、永観2年(984)針博士・丹波康頼が撰述・編纂し宮廷に献上された。この祖本は失われているが、当館所蔵の「医心方」は平安時代12世紀の写本27巻を中心に、全巻が完存する最古の写本として国宝に指定(1984 年)されている。その内容はすでに滅失した中国、朝鮮の古医書を多く収録し、古代東洋医学の知識の宝庫といえる。			
本館 14室	おひなさまと日本の人形	4年2月22日～3月21日	49件
＜主な作品＞ 古今雛、立雛（次郎左衛門頭）、御所人形、牙首雛、紫宸殿（雛用御殿）			
3月3日の桃の節供、雛祭にちなんで恒例となった特集展示。今回は三谷家伝来の牙首雛や山本家伝来の古今雛といった江戸の地における雛飾りの名品とともに、東博が所蔵する御所人形の代表作を一堂に会した展示を行った。人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を紹介した。			
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	4年3月23日～4月17日	12件（重文2件）
＜主な作品＞ 雛雀図、縫箔 白地草花肩裾模様、鋏、密教法具、儀式風俗資料その他			
本特集展示は、近年に修理を終えた絵画、考古、染織、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げ、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を分かりやすく紹介したもの。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く発信する機会となった。			

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「鳥獣戯画のすべて」**
会　　期	4月13日(火)～6月20日(日)※4月25日(日)～5月31日(月)は臨時休館
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、高山寺、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
協　　賛	鹿島建設、損保ジャパン、凸版印刷、三井物産
作品件数	41件（うち、国宝7件、重要文化財14件）
来館者数	129,349人(目標80,000人、達成率162%)
入場料金	一般 2,000円、大学生 1,200円、高校生 900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	94.1%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	国宝「鳥獣戯画」の全貌を紹介する展覧会。国宝4巻の全場面を一挙公開するとともに、かつて国宝4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結した。また、「鳥獣戯画」が伝わった高山寺中興の祖・明恵上人を紹介すべく重要文化財「明恵上人坐像」なども展覧した。
講演会等	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」を4月23日、24日に開催した。

展覧会名	**特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」**
会　　期	6月22日(火)～9月12日(日)(72日間)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	あいおいニッセイ同和損害保険
作品件数	29件（うち、国宝2件、重要文化財1件）
来館者数	59,125人(目標60,000人、達成率99%)
入場料金	一般1,500円(1,400円)、大学生800円(700円)、高校生500円(400円)、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	85.3%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	奈良県桜井市に所在する聖林寺の十一面観音菩薩像（国宝）は天平彫刻の名品で、日本を代表する仏像の一つである。法隆寺の地蔵菩薩像、正暦寺の日光菩薩像、月光菩薩像とともに、江戸時代までは同市の大神神社にあった。大神神社は本殿を持たず、三輪山を拝む自然信仰をいまに伝えるが、奈良時代には仏教の影響を受けて神社に付属する寺（大神寺、後に大御輪寺に改称）や仏像が作られた。本展では、大御輪寺にあった仏像や、大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展覧した。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	**マレーシア・イスラーム美術館精選　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」**
会　　期	7月6日(火)～4年2月20日(日)(192日間)
会　　場	東京国立博物館　東洋館12・13室
主　　催	東京国立博物館、マレーシア・イスラーム美術館
協　　賛	住友商事株式会社、J-POWER(電源開発株式会社)、三井住友銀行
作品件数	204件
来館者数	125,463人(目標100,000人、達成率125.5%)

入場料金	一般：1,000円、大学生：500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	ー
担当研究員数	3人
展覧会の内容	時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会を、マレーシア・イスラーム美術館の全面的な協力を得て開催した。構成は、総論としてのムスリム世界の歴史と文化、各論としての14のイスラーム王朝のほか、「モスクの美術」「イスラーム書道芸術」「現代絵画」をテーマとする展示からなる。主な展示作品としてはアカンサス文柱頭、エナメル彩騎馬鷹狩人物文鉢、ミフラーブ・パネル、宝飾ネックレスなどが挙げられる。
講演会等	12月8日に平成館大講堂にて記念講演会を開催した。また、マレーシア・イスラーム美術館の学芸部長による記念講演の動画を製作、発信するとともに、展覧会会場でも上映した。

展覧会名	**特別展「聖徳太子と法隆寺」**
会　　期	7月13日(火)～9月5日(日)(49日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	内田洋行、NISSHA、あいおいニッセイ同和損害保険
作品件数	178件（うち、国宝24件、重要文化財82件）
来館者数	69,640人（目標80,000人、達成率：87%）
入場料金	一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
アンケート結果　満足度	90.6%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	聖徳太子の1400年遠忌を記念した特別展。企画構成としては歴史的な聖徳太子の実像にはじまり、その後日本仏教の根幹として発達した聖徳太子信仰の広がりを法隆寺所蔵の作品を中心とした207件により展観した。特に法隆寺の歴史や場、儀式といった文脈のなかで作品がどのように伝わり使用されてきたのか展示を通じて表現することに留意した。主な展示作品としては、御物「法華義疏」、法隆寺金堂東の間本尊「国宝　薬師如来坐像」、法隆寺聖霊院本尊「国宝　聖徳太子および侍者像」が挙げられる。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	**東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」**
会　　期	7月13日(火)～9月20日(月)(62日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館企画展示室
主　　催	東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
協　　力	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
後　　援	公益財団法人日本オリンピック委員会
作品件数	50件（うち、重要文化財3件）
来館者数	22,735人(目標50,000人、達成率45%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	ー
担当研究員数	2人
展覧会の内容	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を記念して、日本スポーツの歴史と文化を紹介する展覧会である。内容は2章構成で、計50件を展示した。第1章では東京国立博物館が所蔵する美術工芸品から江戸時代以前の日本スポーツの源流を紹介し、第2章では秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵する近現代スポーツ資料から明治時代以降の日本スポーツの発展を紹介した。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	**春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46**
会　　期	9月4日(土)～11月28日(日)(74日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント、文化庁、日本芸術文化振興会
制作協力	NHKプロモーション、中山マネジメント
作品件数	7件(複製7点、映像インスタレーション7点)
来館者数	58,461人(目標50,000人、達成率117%)
入場料金	一般・大学生　1,800円、高校生　1,000円
アンケート結果　満足度	95.3%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	本展では、春夏秋冬の花があらわされた7点の日本美術（複製）とともに現代のポップカルチャーをあわせて紹介した。7つの作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46である。メンバー一人一人が花に見立てられ、彼女たちのパフォーマンスが、映像インスタレーションによって、日本の人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら示されていく展示とした。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	10月12日(火)～11月21日(日)(36日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、 読売新聞社、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、 三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
特別協力	園城寺（三井寺）、西教寺、四天王寺、浅草寺、 日吉大社
協　　力	NISSHA
作品件数	82件（うち、国宝17件、重要文化財46件）、復元展示2件
来館者数	63,977人(目標60,000人、達成率107%)
入場料金	一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
アンケート結果　満足度	90.7%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	本展は、「最澄と天台宗の始まり―祖師ゆかりの名宝」、「教えのつらなり―最澄の弟子たち」、「信仰の高まり―天台美術の精華」、「教学の深まり―天台思想が生んだ多様な文化」、「現代へのつながり―江戸時代の天台宗」、「全国への広まり―各地に伝わる天台の至宝」という構成で、天台宗の開宗から江戸時代に至るまでの日本天台宗の歴史を時系列に追った辿ったのち、各地に伝わる天台美術を展示して天台宗の広がりを紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	特別企画　沖縄県立博物館・美術館　琉球王国文化遺産集積・再興事業　巡回展「手わざ　ー琉球王国の文化ー」
会　　期	4年1月15日(土)～3月6日(日)(44日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別企画室
主　　催	東京国立博物館、沖縄県立美術館・博物館
作品件数	50件
来館者数	27,440名 （目標30,000人、達成率：91.5%）
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	3人
展覧会の内容	「手わざ」とは、作品を製作する手仕事の高度な技術を意味する。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた琉球王国文化遺産集積・再興事業では、明治以降の近代化や先の戦争で失われた文化財とその製作技術の復元に努めてきた。この事業で完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野と多岐にわたり、携わった専門家、技術者は県内外100人以上にものぼる。本展では、琉球王国に伝わる卓越した技術でつくられた、模造復元品を紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会　　期	4年1月18日(火)～4月3日(日)(70日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、ナポリ国立考古学博物館、 朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協賛	住友金属鉱山
協　　賛	大和ハウス工業、凸版印刷、竹中工務店
後　　援	イタリア大使館
作品件数	155件
来館者数	197,700人 （目標80,000人、達成率：247.1%）
入場料金	一般　2,100円、大学生1,300円、高校生900円
アンケート結果　満足度	90.3%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	本展は、ポンペイ遺跡の膨大な遺物を収蔵するナポリ国立考古学博物館が、その名品をかつてない規模で出品する「ポンペイ展の決定版」であり、床モザイク、壁画、彫像、工芸品の傑作から、豪華な食器、調理具といった日用品にいたる様々な発掘品を展示した。2000年前に繁栄した都市と市民の豊かな生活を体感できる、発掘資料の実物ならではの魅力がつまった展覧会となった。
講演会等	なし

展覧会名	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の芸能ー歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界ー」
会　　期	4年1月7日（金）～3月13日（日）(48日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、 三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協　　賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、 三菱商事
特別協力	宮内庁式部職楽部
協　　力	日本俳優協会、文楽協会、人形浄瑠璃文楽座、能楽協会、国立劇場おきなわ運営財団、沖縄美ら島財団、国立映画アーカイブ
作品件数	141件
来館者数	15,405名（目標30,000人、達成率：51.4%）
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 600円
アンケート結果　満足度	90.9%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介する。各展示室では、来館者が実際に舞台に上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を展示する。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　341日(名品ギャラリー開館日数： 105日、特別展（鑑真）開館日数：44日（4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館）、特別展（京）開館日数：44日、特別展（畠山）開館日数：50日、庭園のみ開館日数：98日)
②展示総件数　753件
③展示替件数　749件
④入場料金　一般700円、大学生350円　※庭園のみ開館時は一般300円
⑤特集展示等　全5件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別企画	オリュンピア×ニッポン・ビジュツ	6月5日～7月4日	113件(国宝17件、重要文化財26件、重要美術品1件)
特集展示	新収品展	4年1月2日～2月6日	43件(重要文化財2件)
新春特集展示	寅づくし―干支を愛でる―	4年1月2日～2月13日	36件(重要文化財5件、重要美術品1件)
特集展示	後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―	4年1月2日～2月13日	67件
特集展示	雛まつりと人形	4年2月19日～3月21日	63件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会　　期	3月27日(土)～5月16日(日)（44日間、4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
特別協力	華厳宗大本山 東大寺、真言宗泉涌寺派総本山 御寺 泉涌寺、真言律宗総本山 西大寺
協　　賛	岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産
作品件数	160件（うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件）
来館者数	18,797人（目標来館者数50,000人、達成率：37.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	73.4%
講演会等	・記念講演会（5回） 3月27日「鑑真和上の教え」講師：西山明彦師（律宗管長、唐招提寺八十八世長老） 4月 3日「律とは何か」講師：上杉智英（京都国立博物館 研究員） 4月10日「日本の戒律運動と日本人」講師：大原嘉豊（京都国立博物館 保存修理指導室長） 4月17日「俊芿と宋代戒律の日本への影響」講師：西谷功氏（泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員） 5月 8日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」講師：淺湫毅（京都国立博物館 上席研究員）

展覧会名	特別展「京の国宝-守り伝える日本のたから-」
会　　期	7月24日(土)～9月12日(日)（44日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社
特別協力	キャノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
作品件数	120件（うち国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件）
来館者数	37,065人（目標来館者数80,000人、達成率：46.3%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	88.5%
講演会等	・記念講演会（6回） 7月24日「彫刻修理の歴史と現状」奥 健夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 7月31日「国宝・重要文化財の指定―書跡・典籍、古文書を中心に―」藤田 励夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 8月 7日「京の国宝―日本の文化財保護のあゆみと京都―」森 道彦（京都国立博物館 研究員） 8月21日「京の国宝―流転する工芸―」末兼 俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 8月28日「京の国宝―絵画の美と評価の歴史―」井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 9月 4日「今日の文化財保存技術―装潢修理、特に紙を中心に―」地主 智彦（文化庁文化財第一課 文化財調査官）

展覧会名	特別展「畠山記念館の名品ー能楽から茶の湯、そして琳派ー」
会　　期	10月9日(土)～12月5日(日)（50日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、公益財団法人荏原畠山記念文化財団 畠山記念館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
特別協力	―
協　　賛	大成建設
作品件数	228件（うち国宝6件、重要文化財31件、重要美術品7件）
来館者数	39,782人（目標来館者数50,000人、達成率：79.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	76.1%
講演会等	・記念講演会（4回） 10月9日「共に楽しむ茶の美術館―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―」水田 至摩子（畠山記念館学芸課長） 10月23日「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束―加賀藩前田家伝来品をめぐって―」山川 暁（京都国立博物館 工芸室長／企画室長） 11月6日「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」福士 雄也（京都国立博物館 主任研究員） 11月20日「與衆愛玩―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―」降矢 哲男（京都国立博物館 主任研究員）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：317日(名品展のみの開館日数：118日)
②展示総件数：260件
③展示替件数：44件
④入場料金：一般　700円　大学生　350円
⑤特別陳列等：全66件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）126件
　珠玉の仏教美術（西新館）0件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）10件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	お水取り	3年2月5日～3月27日	66件（重要文化財19件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」
会　　期	4月27日(火)～6月20日(日)（49日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿、文化庁
後　　援	ー
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	内田洋行、NISSHA、非破壊検査、奈良県、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	174件（うち国宝36件、重文75件）
来館者数	44,233人(目標来館者数 100,000人・達成率 44.2%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,400円、小・中学生300円
アンケート結果　満足度	95.0%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	本展覧会では法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、飛鳥時代以来の貴重な文化財を展観し、太子その人と太子信仰の世界を紹介した。
講演会等	○記念講演会 1回　参加者数 77人 5月1日(土)「聖徳太子―史実から信仰へ」東野治之（奈良大学・大阪大学名誉教授）/ 参加者数　77人 ○公開講座 2回　参加者数合計 159人 5月22日(土)「法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る」三本周作（学芸部研究員）/ 参加者数　81人 6月19日(土)「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」山口隆介（学芸部主任研究員）/ 参加者数　78人

展覧会名	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」
会　　期	7月17日(土)～9月12日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	ー
特別協賛	ー
協　　賛	岩谷産業、大和ハウス工業、非破壊検査

協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	246件（うち国宝13件、重文100件）
来館者数	34,659人(目標来館者数 50,000人・達成率 69.3%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	96.8%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	当館館蔵品の中から選りすぐった作品によって、日本仏教美術1400年の歴史をたどり、奈良博の仏教美術コレクションの魅力を紹介した。
講演会等	○公開講座 6回　参加者数合計 416人 7月24日(土)「観仏画三昧―奈良博仏教絵画コレクションをあじわう―」谷口耕生（学芸部教育室長）/ 参加者数 68人 7月31日(土)「仏教工芸の魅力―奈良博のコレクションから―」三本周作（学芸部研究員）/ 参加者数 68人 8月7日(土)「奈良博の仏像コレクション―種類と時代―」岩井共二（学芸部美術室長）/ 参加者数 67人 8月28日(土)「古写経と古代文字史料」野尻忠（学芸部資料室長）/ 参加者数 63人 9月4日(土)「ちょっと良いかも、奈良博の考古」吉澤悟（学芸部長）/ 参加者数 78人 9月11日(土)「仏教美術の殿堂―奈良博コレクション形成史―」宮崎幹子（学芸部情報サービス室長）/ 参加者数 75人

展覧会名	**第73回正倉院展**
会　　期	10月30日（土）～11月15日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、Osaka Metro、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	55件
来館者数	73,968人(目標来館者数60,000人・達成率 123.3%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	92.0%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物55件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計 217人 10月30日(土)「正倉院の染織品にみる文様染め技法」片岡真純（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）/参加者数 78人 11月6日(土)「正倉院の筆」杉本一樹（宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長））/ 参加者数 67人 11月13日(土)「正倉院のガラス器について―白瑠璃高坏を中心として―」吉澤悟（学芸部長）/ 参加者数 72人

展覧会名	**特別展「名画の殿堂　藤田美術館展　―傳三郎のまなざし―」**
会　　期	12月10日(金)～4年1月23日(日)（35日間）
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	―
特別協力	藤田美術館
特別協賛	―
協　　賛	大成建設、ライブアートブックス
協　　力	Osaka Metro、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	74件（うち国宝2件、重文5件）
来館者数	13,733人
入場料金	一般1,200円、高校・大学生1,000円
アンケート結果　満足度	87.5%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	藤田美術館の所蔵品の中から絵画作品を中心に構成し、コレクションの礎を築いた藤田傳三郎がどのような意識をもって美術品蒐集を行ったかに注目しつつ、各時代の名品を展観した。あわせて、藤田美術館と当館が共同で行った絵画作品の調査の成果についても紹介した。
講演会等	○公開講座 1回　参加者数合計 59人 12月11日(土)「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）/参加者数 59人

展覧会名	**特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」**
会　　期	4年2月5日(土)～3月27日(日)（47日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
後　　援	―
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	31件（うち国宝4件、重文1件）
来館者数	34,385人(目標来館者数 40,000人・達成率 85.9%)
入場料金	一般1,400円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	95.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	かつて大御輪寺（大神寺）にあった聖林寺の十一面観音菩薩立像、法隆寺の地蔵菩薩立像、正暦寺の菩薩立像などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展観した。
講演会等	○公開講座 1回　参加者数合計 64人 4年3月5日(土)「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」岩井共二（学芸部美術室長）/ 参加者数 64人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数 306 日(うち平常展のみ開館日数 112 日)＊大雨の影響により臨時休館(8 月 14・15 日)、台風のため臨時休館(9 月 17 日 13 時以降)
②展示総件数：2,183 件(うち国宝 68 件、重要文化財 227 件)
③展示替件数：1,986件
④入場料金：一般 700 円、大学生 350 円
⑤特集展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	特集展示「古代ガラスの世界-岡山市立オリエント美術館蔵品展-」				
開催期間	7 月 6 日(火)～ 10 月 3 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 8 室、第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	168 件
内容	岡山市立オリエント美術館の大規模改修に伴い、現在九博がお預かりしている所蔵作品の中から「古代ガラス」にまつわる作品を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～				
開催期間	7 月 13 日(火)～ 9 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 7 室	陳列件数（うち指定品件数）	12 件（うち重文 1 件）
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	特集展示「没後 350 年記念　明国からやって来た奇才仏師　范道生」				
開催期間	7 月 17 日(土)～ 10 月 10 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	20 件
内容	没後 350 年を記念して、范道生にまつわる作品を公開した。				
展示名称	特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展　手わざ-琉球王国の文化-」				
開催期間	10 月 19 日（火）～ 12 月 12 日（日）	開催場所	文化交流展示室 第 9 室、第 10 室、第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	74 件
内容	失われた琉球王国の文化遺産の原品と模造復元品を展示し、その製作工程も併せて紹介した。				
展示名称	特別公開「海の神殿・沖ノ島の美」				
開催期間	11 月 2 日(火)～ 12 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 2 テーマ	陳列件数（うち指定品件数）	21 件（うち国宝 20 件）
内容	世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を核とした文化観光推進地域計画の一環として、金製指輪をはじめとする沖ノ島祭祀遺物を公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	4 年 1 月 1 日(土)～ 30 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	27 件（うち国宝 3 件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、刀掛、寄り掛り、掛硯箱の 3 件と、大揃いの南部家婚礼調度も併せて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**御大典記念　特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」**
会　　期	4 月 20 日(火)～6 月 13 日(日)（49 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	宮内庁正倉院事務所、九州国立博物館・福岡県、朝日新聞社、西日本新聞社、NHK 福岡放送局
作品件数	86 件（うち国宝 0 件、重要文化財 0 件）
来館者数	18,157 人(目標来館者数 30,000 人・達成率 60.5%)
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
アンケート結果　満足度	88.7%
講演会等	・リレー講座 第1回「近代の正倉院と宝物の模造」樋笠逸人（学芸部文化財課アソシエイトフェロー）/参加者数30人 第2回「2つの「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」」川畑憲子（学芸部企画課特別展室長）/オンライン開催

展覧会名	**特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」**
会　　期	7 月 20 日(火)～8 月 29 日(日)（35 日間）　※8 月 14～15 日は大雨の影響により、臨時休館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宮内庁、西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社
作品件数	68 件（うち国宝 4 件、重要文化財　0 件）
来館者数	43,197 人(目標来館者数 50,000 人・達成率 86.4%)

入場料金	一般 2,000 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円
アンケート結果　満足度	91.7%
講演会等	・記念講演会 「美を伝えゆく-《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理をとおして」太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館首席研究官）/参加者数140人 ・記念対談 「やきもの王国・九州と近代の皇室」沈壽官（沈壽官窯十五代・陶芸家）・岡本隆志（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官）/参加者数124人 ・リレー講座/参加者数57人 「九州と帝室技芸員」望月規史（学芸部企画課主任研究員） 「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」原田あゆみ（学芸部文化財課長）

展覧会名	特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」
会　　期	10 月 9 日(土)～12 月 5 日(日)（50 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ 九州放送
作品件数	96 件（うち国宝 11 件、重要文化財 24 件）
来館者数	17,383 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 43.4%)
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
アンケート結果　満足度	83.9%
講演会等	・特別記念講演会 「海山への祈り-九州の祭りの風景-」森弘子（福岡県文化財保護審議会委員）/参加者数109人 ・リレー講座 きゅーはくオータムスクール第1回　森實久美子（学芸部文化財課資料登録室長）・今井涼子（交流課主任研究員）・大澤信（学芸部企画課研究員）/参加者数44人 きゅーはくオータムスクール第2回　松浦晃佑（学芸部文化財課研究員）・樋笠逸人（学芸部文化財課アソシエイトフェロー）・望月規史（学芸部企画課主任研究員）/参加者数47人

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4 年 2 月 8 日(火)～3 月 21 日(日)（37 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、西日本新聞社、文化庁
作品件数	114 件（うち国宝 23 件、重要文化財 69 件）
来館者数	29,518 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 74.8%)
入場料金	一般 1,900 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円
アンケート結果　満足度	92.6%
講演会等	・記念講演会 「最澄と九州天台」阿部昌宏（天台宗宗務総長）/参加者数136人 ・記念座談会 「英彦山と神仏習合の歴史と未来」髙千穂秀敏（英彦山神宮宮司）、髙千穂有昭（英彦山神宮禰宜）・大澤信（学芸部企画課特別展室研究員）/参加者数130人 ・リレー講座 国宝講座～これであなたも立派な国宝～第1回　大澤信（学芸部企画課特別展室研究員）/参加者数60人 国宝講座～これであなたも立派な国宝～第2回　森實久美子（学芸部文化財課資料登録室長）・瓜生翠（学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー）/参加者数64人

【奈良文化財研究所】

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：265日（平常展のみの開館日数：153日）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月20日の間、臨時休館とした。
②展示総件数：561件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：12,942人

(2)特別展、企画展等：3件

展覧会名	春期特別企画展 第一部「平城宮跡保存運動のさきがけ －大極殿模木建設式120周年－」 第二部「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」		
会　　期	4月29日（木・祝）～6月27日（日）(9日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	第1部約35件（0件） 第2部　　2件（0件）
来館者数	688人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	夏期企画展「奈良を測る ―森蘊(もりおさむ)の庭園研究と作庭―」		
会　　期	8月7日（土）～9月12日（日）(32日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約30件（0件）
来館者数	1,157人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　―木簡を科学するⅡ―」		
会　　期	10月9日（土）～11月7日（日）（26日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約50件（重要文化財3件、国宝3件）
来館者数	6,310人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	冬期企画展「発掘された平城 -2020・2021-」		
会　　期	2月11日（祝・金）～3月27日（日）（45日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約100件（0件）
来館者数	4,167人	入場料金	無料
講演会等	なし		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：308日　（新型コロナウイルスの影響で5月1日～6月20日まで臨時休館。）
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：5件
⑥平常展来館者数　：5,226人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）	4月1日～ 9月30日	飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）	4月1日～ 9月30日	大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点
石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）	4月1日～ 9月30日	石神遺跡出土土器19点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）	10月1日～3月31日	大極殿院出土軒丸瓦4点・軒平瓦7点・面戸瓦7点
石神遺跡南北溝SD1347･1476出土土器（石神遺跡第8・9次）	10月1日～3月31日	石神遺跡出土土器66点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：263日（平常展のみの開館日数：102日）
②展示総件数：143件
③展示替回数：0回
④入場料金：一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
⑤平常展のみの来館者数：4,775人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦」	会　場	飛鳥資料館　閲覧室
会　　期	4月23日（金）～5月1日（土）（8日間）	陳列件数（うち指定品数）	1点（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	535人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	－		

展覧会名	夏期企画展「第12回写真コンテスト作品展「飛鳥の木」		
会　　期	7月16日（金）～9月12日（日）（51日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	160点（0件）
来館者数	2,112人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	－		

展覧会名	秋期特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様－」		
会　　期	10月15日（金）～12月19日（日）（57日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	57点（0件）
来館者数	7,353人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	－		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
会　　期	4年1月21日（金）～3月13日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	129点（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	2,588人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	―		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和4年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
725人	158人	40人	147人	251人	129人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計158人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （155人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 新型コロナウイルスのへの影響を勘案し、緊急事態宣言発令中は館内での活動をすべて休止、それ以外の期間は、活動内容を限定したうえで実施。 【教育普及事業の補助】 ・オンラインスクールプログラムの事前トライアルへ参加（2回） ・オンラインワークショップの事前トライアルへの参加（5回） ・講演会のサポート（7回） ・ボランティア執筆の投稿冊子を発行（1回） ・オンライン機器利用研修会（12回） ・本館特別4室「日本文化のひろば」対応 ・来館者対応 【保存修復事業の補助（令和3年度は休止）】 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（9冊） ・たんけんマップの作成・オンライン化（3回） ・自主企画グループのウェブ新聞作成（7回） 【職場体験実施活動補助】 対面での受け入れを中止したかわりに、オンライン等での職場インタビューを実施準備 申込0のため、実施無し。 職場体験紹介動画の作成（1回） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（29人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(9冊) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（1回） ・バリアフリー班への情報発信等による研修（通年） 【ボランティアデー開催】 ボランティア内部の研修の一環として開催 ・たてもの散歩ツアー（2回） ・樹木ツアー（2回） ・お茶会（2回） ・オンラインによる、自主企画グループ16グループの紹介（1回） ・オンラインギャラリートーク（1回） ・ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」の発行（1回） 2)来館者参加型ガイドツアー ガイドツアーの再開に向けて、段階的に準備。ボランティア対象のガイドツアー、来館者参加型ガイドツアーの試行を野外のガイドグループが実施。また、各自主企画グループの勉強会を実施した。 【ボランティア対象ガイドツアー】25回181人 ・たてもの散歩ツアー（8回、61人）、 ・樹木ツアー（7回、58人） ・庭園茶室ツアー（2回、11人） ・お茶会（6回、38人） ・アートスタジオ（2回、13人） 【来館者参加型ツアー（試行）】10回143人 たてもの散歩ツアー（5回、90人） 樹木ツアー（5回、53人） ・自主企画グループ勉強会（72回）
東京藝術大学大学院インターンシップ （3人）	新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハーサル・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。 「『御所車蒔絵硯箱』にみる精緻な技巧と意匠の調和について」 （4回47人） 「唐津焼と茶道－《彫唐津茶碗 銘 巌》－」 （3回42人） 「『南京赤絵周茂叔愛蓮図火入』にみる日中交流について」 （4回45人） ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数と

種別 （登録人数）	概　要
	して計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)① 3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計42回
- ・基本活動関連研修　31回（ボランティアデー1回を含む）
- ・バリアフリー班研修　10回
- ・新規ボランティア研修　1回

【京都国立博物館】　計40人

種　別 （登録人数）	概　要
京博ナビゲーター（0人）	新型コロナウイルスの影響により活動を中止している。
調査・研究支援ボランティア(14人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(20人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（18回）を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業　7回・425人 ・記者体験in京都国立博物館　1回・57人
京都・らくご博物館学生ボランティア(6人)	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計147人

種　別 （登録人数）	概　要
ならはくボランティア（147人）	【オンライン活動説明会の実施】 ・3年度登録ならはくボランティアの活動開始にあたってのオンライン活動説明会の実施（2回）　※ウェブ会議アプリを利用しての実施 【なら仏像館展示作品や当館の庭園・茶室案内の各自学習】 なら仏像館の展示作品や当館の庭園・茶室の案内の際に使用するツアーテキストを教育室で新たに作成し、ボランティア全員に配布した。そのツアーテキストをもとに、ボランティアが各自練習を実施した。 【奈良市世界遺産学習における案内の練習】 奈良市世界遺産学習の事前学習案内用のテキストを教育室で新たに作成し、ボランティアに配布した。そのテキストをもとに、ボランティアが各自練習を実施した。 【学校オンライン中継授業の実施】 ・大分県連携事業 アバターロボット（遠隔操作ロボット）を活用した小学校オンライン中継授業の実施（1回） ・大分県連携事業 アバターロボット（遠隔操作ロボット）を活用した中学校オンライン中継授業の実施（12回）　※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、ボランティアの代わりに教育室職員が授業の実施を担当した。 ・奈良市世界遺産学習 小学校オンライン中継授業の実施（3回）※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、ボランティアの代わりに教育室職員が授業の実施を担当した。 【学校オンライン中継授業実施準備のための練習】 ・オンライン形式による練習の実施（3回） ・なら仏像館での展示案内の練習の実施（9回） ・仏像衣装の着付け練習会の実施（3回） ・なら仏像館での展示案内のリハーサルの実施（1回）

【ボランティアに対する研修の実施】計27回
- ・展示作品案内等の活動に関する研修（Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施）計19回
- ・特別展の研修（Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施）計8回

【九州国立博物館】　計251人

種　別 （登録人数）	概　要
展示解説ボランティア(56人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(30人)	体験型展示室「あじっぱ」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(30人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(47人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(27人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(8人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。

種　別　（登録人数）	概　　要
イベント・サポートボランティア（8人）	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成（年4回）。
学生ボランティア(6人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。
フィールドボランティア（15人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（24人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。

【奈良文化財研究所】　計129人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（129人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
　平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　0回
　解説ボランティア向け現地説明会　0回
　解説ボランティア勉強会　0回
　※新型コロナウイルスの影響により、対面での研修会等は中止せざるを得なかったが、代替策として展示解説資料等を各ボランティアに送付し各人の独習による形で研修を実施した。

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1） 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和4年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="6">国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1人</td><td>1人</td><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">1人</td></tr>
<tr><td>アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="2">本部文化財活用センター</td><td colspan="2">本部文化財防災センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td></tr>
</table>

【本部文化財活用センター】　0人

【本部文化財防災センター】　0人

【東京国立博物館】　0人

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　0人

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】0人

【奈良文化財研究所】1人

※部分について…ＥＵ一般データ保護規則により氏名・役職は非公開とする（対象ＥＥＡ加盟国）

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	※	英国	日本学術振興会外国人特別研究員	日本学術振興会外国人特別研究員として	3月28日～6年3月27日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和4年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>73 人</td><td>27人</td><td>15人</td><td>15人</td><td>16人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">158人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>84 人</td><td colspan="2">29人</td><td colspan="2">55人</td></tr>
<tr><td colspan="5">アジア太平洋無形文化遺産研究センター
1 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　27人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究	教授　岡田 裕成	調査研究課工芸室研究員　福島修
2	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡穣	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
3	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	主任研究員　畑靖紀	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一
4	九州国立博物館	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	学芸部長　河野一隆	調査研究課考古室研究員　山本亮
5	京都大学人文科学研究所	共同研究（課題公募班〔一般Ａ班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究	ヴュルツブルク大学教授　外村中	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
6	慶應義塾大学	挑戦的研究(萌芽)「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	特任講師　鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
7	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島的再検証	客員研究員　森岡秀人	調査研究課考古室研究員　山本亮
8	国立歴史民俗博物館	秦漢時期の文字使用をめぐる学際的研究	東京学芸大学 次世代教育研究センター准教授　下田誠	東京国立博物館客員研究員　谷豊信
9	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	館長　西谷大	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
10	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	教授　松井敏也	保存修復課環境保存室長　和田浩
11	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教　水野裕史	上席研究員　勝木言一郎
12	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
13	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	助教　宮永美知代	上席研究員　木下史青
14	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	教授　高山 博	企画課出版企画室アソシエイトフェロー　村松綾
15	東京大学史料編纂所	基盤研究（A）「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	教授　山家浩樹	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
16	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	教授　保谷徹	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
17	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
18	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	広領域研究室長　小林公治	企画課特別展室長　猪熊兼樹
19	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	広領域研究室長　小林公治	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
20	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	教授　近本謙介	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
21	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	保存修復課環境保存室長　和田浩
22	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	列品管理課長　沖松健次郎
23	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	考古第一研究室長　廣瀬覚	調査研究課考古室研究員　山本亮
24	南山大学	芸術との対話を経た公共圏の形成過程に関する実証研究	講師　佐々木陽子	博物館教育課教育講座室　山本桃子
25	早稲田大学	特別テーマ研究「新型コロナウイルス感染症の影響下における日本演劇界の調査研究」	助教　後藤隆基	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
26	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	博物館教育課長　伊藤信二
27	立教大学	王国から行政州へ ―鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究	教授　長谷川修一	列品管理課平常展室主任研究員　小野塚拓造

【京都国立博物館】延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸企画部主任研究員　土屋貴裕	学芸部企画室研究員　井並林太郎
2	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長　神野恵	学芸部長　尾野善裕
3	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	人文学研究科准教授　梶原義実	学芸部長　尾野善裕
4	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長　清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
5	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究一漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授　落合俊典	学芸部美術室研究員　上杉智英
6	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部室長　小林公治	学芸部工芸室主任研究員　末兼俊彦
7	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員　牧野和夫	学芸部美術室研究員　上杉智英
8	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授　七海雅人	学芸部美術室研究員　上杉智英
9	国文学研究資料館	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	研究部教授　海野圭介	学芸部美術室研究員　上杉智英
10	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長　犬塚将英	学芸部保存科学室長　降幡順子
11	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究所教授　稲本泰生	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊
12	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究所教授　稲本泰生	学芸部企画室研究員　井並林太郎
13	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長　水野敏典	研究員　古谷毅
14	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸研究部研究員　高橋真作	学芸部美術室研究員　森道彦
15	山形大学	壬辰戦争期、豊臣秀吉＝日本国王冊封のために贈られた明朝箚付・冠服類の総合的研究	人文社会科学部教授　新宮学	学芸部企画室長　山川曉

【奈良国立博物館】延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究－	教授　井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	特任研究員　岩田茂樹
4	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	企画室主任研究員　山口隆介
5	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究－金に等しい価値があったころ－	名誉教授　西山要一	資料室長　野尻忠
6	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築-物質文化史の視点から-	室長　小林公治	保存修理指導室　アソシエイトフェロー　安藤真理子
7	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	学芸部長　吉澤　悟
8	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究－非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に－	学芸員　富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
9	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	教授　稲本　泰生	教育室長　谷口　耕生
10	多摩美術大学	在米の仏像と仏具およびアーカイブ調査―寺宝流出と古美術商、収集家の関係とその実態	教授　木下　京子	企画室主任研究員　山口隆介
11	同上	同上	同上	工芸考古室研究員　三本周作
12	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本　伸之	列品室長　斎木　涼子
13	東京国立博物館	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	上席研究員　勝木言一郎	保存修理指導室長　荒木臣紀
14	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鋳造技術の比較研究	客員研究員　高浜　秀	保存修理指導室長　荒木臣紀
15	文化財活用センター	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	研究員　高橋　真作	保存修理指導室長　荒木臣紀

【九州国立博物館】　延べ　16人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室主任研究員　望月規史
2	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
3	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	副館長　小泉惠英
4	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理よび環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
5	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
6	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
7	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
8	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長　原田あゆみ
9	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明－「国産化という産業革命」の視点から－	副所長　岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
10	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	学芸部情報サービス室長 宮崎幹子	学芸部文化財課資料管理室アソシエイトフェロー　樋笠逸人
11	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基礎的研究	文学研究科教授 岡田裕成	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　鷲頭桂
12	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
12	同上	同上	同上	学芸部企画課文化交流転室アソシエイトフェロー　杉田真菜
14	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	芸術系助教　水野裕史	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　鷲頭桂
15	東京国立博物館	高精細Ｘ線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	客員研究員　谷豊信	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男
16	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究－作品伝来情報の検討から－	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員　鷲頭桂

【東京文化財研究所】延べ　29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢大学	中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	古代文明・文化資源学研究センター　特任教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター　主任研究員　安倍　雅史
2	筑波大学	アンコール遺跡群における石材烈火の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鎰」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山　要一	副所長　早川　泰弘
4	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員　伊藤　嘉章	保存科学研究センター　室長　早川　典子
5	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　圀府寺　司	文化財情報資料部　主任研究員　安永　拓世
6	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　室長　石村　智
7	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　センター長　建石　徹
8	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
9	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部・平常展調整室　室長　皿井　舞	副所長　早川　泰弘
10	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部・平常展調整室　室長　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野　誠治
11	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
12	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸企画部企画課　主任研究員　土屋　貴裕	文化財情報資料部　研究員　安永　拓世
13	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　室長　早川　典子
14	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員　宇高　健太郎
15	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　室長　二神　葉子
16	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　間舎　裕生
17	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員　今石　みぎわ
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター　保存環境研究室付　吉田　直人
19	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　研究員　前川　佳文
20	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　主任研究員　橘川　英規
21	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　客員研究員　三上　豊
22	沖縄国際大学	葬墓制資料に基づく近世琉球社会史の学際的研究	総合文化学部　准教授　宮城　弘樹	文化遺産国際協力センター　主任研究員　前川　佳文
23	奈良県立橿原考古学研究所	文化遺産を構成する煉瓦の微生物による劣化機構に関する研究	企画学芸部資料課　主任研究員　河﨑　衣美	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
24	東京外国語大学	「コロナ状況」下で育まれる芸能―危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	アジア・アフリカ言語文化研究所　准教授　吉田 ゆか子	無形文化遺産部　室長　前原　恵美
25	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	文明動態学研究所　教授　松本　直子	無形文化遺産部　室長　石村　智

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
26	東京藝術大学	絹本著色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター　専門研究員 京都　絵美	保存科学研究センター　室長　早川典子
27	東京国立博物館	高精細Ｘ線ＣＴスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	学芸研究部　客員研究員　谷豊信	保存科学研究センター　室長　犬塚将英
28	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院)　教授　吉田　誠	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
29	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の脆弱な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	研究基盤国際センター　准教授 近藤　康久	無形文化遺産部　室長　石村　智

【奈良文化財研究所】延べ　55人

○科学研究費補助金　延べ　43人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明	教授　田島　公	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
2	岡山大学	王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究	教授　清家　章	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室アソシエイトフェロー 木村理
3	帝京大学	シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民世界の共存－	教授　山内　和也	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員 山藤正敏
4	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授　村上　恭通	都城発掘調査部平城地区主任研究員 丹羽崇史
5	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授　山田　太造	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
6	京都大学	古代・中世東西回廊－東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	名誉教授　柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
7	東京都立大学	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 山崎健
8	東京大学	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海用進出のはじまりを探る総合的研究	教授　海部　陽介	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
9	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授　菊地　大樹	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 上椙英之
10	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	教授　落合　俊典	都城発掘調査部平城地区史料研究室客員研究員 杉本一樹
11	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
12	東北大学	石材構築文化財の保全のための３次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授　藤澤　敦	埋蔵文化財センター長 金田明大
13	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―	教授　末柄　豊	都城発掘調査部平城地区主任研究員 桑田訓也
14	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
15	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹
16	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 山崎健
17	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室長 森川実
18	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
19	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究	教授　網　伸也	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
20	筑波大学	クメール王朝の都市構造と社会基盤の解明－高精度地形情報を利用した実査より	准教授　下田　一太	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
21	鹿児島大学	「ボカシの文化」にメスを入れる	教授　高宮　広土	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
22	立命館大学	実世界大規模構造物の形状理解のための，３次元計測ビッグデータの超高精細可視化	教授　田中　覚	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志
23	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授　植月　学	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
24	沖縄国際大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	准教授　新里　貴之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
25	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授　海野　聡	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー 李暉
26	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志
27	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	准教授　木村　淳	副所長 高妻洋成
28	金沢大学	高句麗・渤海を東部ユーラシア史に位置づけるための基礎的研究	教授　古畑　徹	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 中村亜希子
29	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授　小澤　毅	都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長 今井晃樹
30	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授　小澤　毅	飛鳥資料館主任研究員 石田由紀子
31	京都橘大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授　中久保　辰夫	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹
32	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治
33	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長　犬塚　将英	副所長 高妻洋成
34	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授　野村　俊一	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 鈴木智大
35	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦１～３世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授　石川　日出志	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 田村朋美
36	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦１～３世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授　石川　日出志	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員 谷澤亜里
37	早稲田大学	出土陶磁器と交易関連文書に基づく前近代日本＝カンボジア間交易・交流史の復元研究	教授　田畑　幸嗣	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
38	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代における甲冑製作および生産組織の実態解明	主査　吉村　和昭	企画調整部文化財情報研究室客員研究員 小林謙一
39	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授　中村　慎一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
40	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授　中尾　央	埋蔵文化財センター長 金田明大
41	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築	教授　西秋　良宏	企画調整部長 加藤真二
42	筑波大学	災害に伴う地域の超長期的な変動の比較研究：東日本大震災被災地を事例に	准教授　木村　周平	埋蔵文化財センター上席研究員 小谷竜介
43	京都大学大学院	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授　小椋　大輔	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 脇谷草一郎

○学術研究助成基金助成金　延べ　12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授　今津　節生	副所長 高妻洋成
3	東京大学	日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明	准教授　福田　正宏	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
4	奈良県立橿原考古学研究所	旧石器時代サヌカイトの流通に関する体系的研究：東部瀬戸内地域を中心に	特別研究員　光石　鳴巳	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
5	京都府立大学	山口県域の銅生産・銅銭鋳造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	特任准教授　竹内　亮	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室長 山本崇
6	金沢大学	ロシア沿海地方における渤海（６９８～９２６年）遺跡出土遺物編年の基礎的研究	客員教授　小嶋　芳孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 中村亜希子
7	京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	室長　降幡　順子	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡
8	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授　中園　聡	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 平川ひろみ
9	身延山大学	旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究	講師　保坂　康夫	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
10	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱＆水分移動・応力・歪連成解析	准教授　安福　勝	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 脇谷草一郎
11	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理　佐久間　大輔	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也
12	埼玉大学	深層学習を用いた画像診断による玉類の産地同定の簡易化研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 田村朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	人工的環境の構築と時空間認知の発達	助教　鶴見　英成	研究担当室長　野嶋洋子

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
5人	1人	1人	0人	0人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	4人	4人		0人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0人	0人		0人	

【本部文化財活用センター】延べ　0人

【本部文化財防災センター】延べ　0人

【東京国立博物館】延べ　1人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は2人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	今井敦	中国	4年2月9日～3月10日	浙江省博物館「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展出陳文化財の点検・梱包・輸送	先方負担	浙江省博物館

○科学研究費助成事業：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小野塚　拓造	アメリカ	11月16日～11月22日	ASOR大会での発表、シカゴ大学オリエント学研究での視察・打合せ	科学研究費	

【京都国立博物館】延べ　0人

【奈良国立博物館】延べ　0人

【九州国立博物館】延べ　0人

【東京文化財研究所】延べ　4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	間舎　裕生	ネパール	12月3日～12月19日	国際協力機構の依頼による、考古学発掘調査及び測量調査手法に関する、ネパール文化観光航空省考古局職員への技術移転、及びハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院基壇部の現状調査	先方負担	
2	淺田　なつみ	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における建築調査及びICCへの出席	運営費交付金	
3	間舎　裕生	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
4	友田　正彦	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における建築調査及びICCへの出席	運営費交付金	

【奈良文化財研究所】延べ　0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　0人

c-② 調査研究テーマ一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
145 件	67 件	27 件	13 件	15 件	12 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	75 件	22 件		53 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件		1 件		

【本部文化財活用センター】　2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長　小林牧

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当課長　吉田直人

【東京国立博物館】　27件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　24件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	a. 特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	学芸研究部	博物館教育課長　伊藤信二
2	e. 特別調査「絵画」第6回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
3	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室長　市元塁
4	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎
5	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎
6	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
7	特集「那智の遺宝―出土品にみる霊地の威容―」に関連する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　伊藤信二
8	特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究	学芸研究部	学芸企画部長　浅井龍介
9	特集「平安時代の名筆―高木聖鶴氏旧蔵品より―」に関連する調査研究	学芸研究部	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
10	特集「瓦が語る東大寺の歴史」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室研究員　山本亮
11	特集「浅草寺のみほとけ」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統
12	特集「江戸時代にもたらされた中国書画」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室研究員　植松瑞希
13	特集「没後700年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　六人部克典
14	特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　冨坂賢
15	館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　品川欣也
16	特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究	学芸企画部	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
17	特別企画「東アジアのうるしの世界」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
18	特別展「国宝　聖林寺十一面観音　-三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課長　丸山士郎
19	マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究	学芸企画部	上席研究員　勝木言一郎
20	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
21	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
22	凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　今井敦
23	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
24	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	学芸企画部	上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　冨坂賢
2	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課　村田良二
3	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】　13件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　9件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
3	旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
5	特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
6	特別展「京の国宝」に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員　森道彦
7	特別展「畠山記念館の名品」に関する調査研究	学芸部	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
8	特別展「最澄と天台宗のすべて」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
9	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員　水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
3	社寺等における保存環境に関する調査研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
4	データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　羽田聡

【奈良国立博物館】 15件

○有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究　12件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	特任研究員　内藤栄 研究員　三本周作
4	墳墓出土品の調査研究	学芸部	学芸部長（兼工芸考古室長）　吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」に関する調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
8	特別展「第73回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	研究員　三本周作
9	特別展「名画の殿堂　藤田美術館展　―傳三郎のまなざし―」に関する調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
10	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
11	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」に関する調査研究	学芸部	企画室長　中川あや
12	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
2	文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
3	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀

【九州国立博物館】12件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　8件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	研究員　松浦晃佑
3	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」に関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜木子
4	水中遺跡保護体制の設備充実に関する調査研究	学芸部	学芸部長　河野一隆
5	開館15周年記念特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　森實久美子
6	特別展「北斎」に関連する調査研究	学芸部文化財課	主任研究員　畑靖紀
7	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜希子
8	文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究	展示課 学芸部企画課 交流課	主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子 主任研究員　今井涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員　渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	無形文化遺産部	無形文化財研究室長　前原恵美
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長　久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	音声映像記録研究室長　石村智

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	文化財の保存環境にかかる調査研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	多様な文化財の修復技術に関する調査	保存科学研究センター	修復技術研究室長　建石徹
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　建石徹

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西　和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　金井健
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子
2	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子

【奈良文化財研究所】　53件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　大林　潤
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　18件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮跡東院地区の発掘調査（第633次）	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
4	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査（第638・639次）	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
5	平城宮・京の発掘調査（第642・646次）	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
6	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
7	日高山瓦窯の地下探査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
8	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
9	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査研究	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
10	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
12	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
13	韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴
15	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
16	古代官衙、集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
17	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
18	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　11件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健
4	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	埋蔵文化財センター	主任研究員　村田泰輔

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
3	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
4	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
6	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
3	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○文化財情報基盤の整備・充実　　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
2	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
3	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	企画調整部展示企画室長　加藤　真二、岩戸晶子 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
3	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　本中眞
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長　本中眞
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　岩戸晶子
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○連携大学院との連携教育等の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	奈良文化財研究所	所長　本中眞

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部文化財防災センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
49 件	6 件	39 件	2 件	2 件

【東京文化財研究所】　6件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
4	エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　39件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	高野山地区建造物調査業務	文化遺産部
2	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部(平城)
3	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
4	平城京跡左京三条四坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
5	平城京跡右京三条一坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
6	史跡法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
7	史跡　法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
8	令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
9	令和3年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
10	木造金剛力士立像2躯の製作年代調査	埋蔵文化財センター
11	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	埋蔵文化財センター
12	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
13	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
14	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
15	令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務(カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業)	企画調整部 都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター
16	平成31年度(2019年度)二国間交流事業共同研究　物質文化に見る前期青銅器時代1期南西カナンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部(飛鳥・藤原)
17	松江市内社寺建築詳細調査	文化遺産部 都城発掘調査部(平城)
18	松江市社寺建築悉皆調査業務	文化遺産部
19	生駒市内歴史的建造物悉皆調査業務	文化遺産部
20	和束の茶業景観における文化的景観全覧図作成業務	文化遺産部
21	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部(平城) 企画調整部
22	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
23	山口市周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原)
24	甘樫丘地区発掘調査	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部
25	宝塚1号墳出土埴輪再整理に係る遺物写真撮影・保存科学研究	企画調整部
26	「中世・近世石づくりのまち」調査研究	埋蔵文化財センター
27	令和3年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	埋蔵文化財センター
28	岡山県浅口市城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査	埋蔵文化財センター
29	須玖岡本遺跡地中レーダー探査	埋蔵文化財センター

30	令和3年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
31	自然災害伝承碑に係る試料写真撮影・表面光学処理	埋蔵文化財センター
32	塚坊主古墳地中レーダー探査及び電気探査	埋蔵文化財センター
33	櫨岡古墳群から出土したガラス玉の分析業務	埋蔵文化財センター
34	ベンショ塚古墳出土眉庇付冑のＸ線CT撮影委託	埋蔵文化財センター
35	河内寺廃寺跡出土遺物整理業務に伴う瓦に付着した白色物質の材質調査	埋蔵文化財センター
36	X線CTを用いた陵東遺跡出土埴輪中の堆積物の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
37	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
38	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
39	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部

【本部文化財防災センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター
2	令和3年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和3年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	令和3年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育と地域振興」	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
332件	166件	63件	40件	46件	17件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	140件	57件		83件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	2件	11件		13件	

【本部文化財活用センター】　11件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「ファンドレイジングを通じた文化財への親しみの創出」	文化財活用センター総務担当　ファンドレイジング専門職員　古山珠美	2月10日	ぶんかつ3周年記念2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」
2	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「デジタル技術による文化財の活用」	文化財活用センター　副センター長　小林　牧	12月15日	故宮博物院、テンセントテクノロジー有限公司　第2回「文化＋科学技術国際フォーラム」
3	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「オンラインによるアウトリーチプログラムの実践」	文化財活用センター　企画担当研究員　小島有紀子	1月29日	東京国立博物館　第8回ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業　国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン　実践と展望」
4	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	建長寺蔵「観音図」（三十二幅）と十五世紀鎌倉地方画壇	文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	10月22日	基盤研究(B)「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」研究会

○その他有形文化財に関連する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	公開承認施設における保存環境の把握と対策	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人	6月3日	文化庁　公開承認施設会議
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館における空気環境問題とその対策－特に展示ケースについて－	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人	11月2日	滋賀県博物館協議会　令和3年度第1回情報交換会
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等におけるATP拭き取り検査－カビ集落の活性評価と機器の特徴について－	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創 東京文化財研究所保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤　嘉則	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
4	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存科学　環境制御（保存環境管理）	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	9月7日	国文学研究資料館令和３年度アーカイブズ・カレッジ長期コース
5	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	IPMから見た博物館等の施設管理	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	12月１日	文化財虫菌害研究所第10回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会
6	その他有形文化財に関連する調査研究	「ColBase」におけるデータの公開について	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二	12月12日	第11回文化財写真技術研究会
7	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存環境管理－展示照明－	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人	3月3日	宮内庁正倉院事務所　宝物修理・保存技術指導

【本部文化財防災センター】　13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	文化財防災体制の構築に向けて	文化財防災センター長　髙妻洋成	6月1日-8月31日（オンライン公開）	文化財保存修復学会公開シンポジウム「東日本大震災の文化財レスキューを振り返る」
2	同上	文化財防災センターの発足	文化財防災センター長　髙妻洋成	6月1日	令和3年度全国博物館長会議
3	同上	文化財防災センターについて	文化財防災センター長　髙妻洋成	6月4日	国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会
4	同上	三次元動作解析システムによる強震動を受けた展示物および支持具の地震時挙動評価	文化財防災センター研究員　黄川田翔	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	一次元振動台を用いた美術工芸品の転倒防止対策の評価	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月10日	日本建築学会2021年度大会（東海）
6	同上	地震対策の評価を目的とした美術工芸品の振動台試験について	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	日本における文化財防災体制について	文化財防災センター長　髙妻洋成	11月4日	ICOM-DRMC年次大会
8	同上	東日本大震災による宮城県の博物館被害	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	11月6日	ICOM-DRMC年次大会東日本大震災10周年シンポジウム
9	同上	Activities and Issues of Cultural Heritage Disaster Risk Management in Japan （日本における文化財防災の取り組みと課題）	文化財防災センター長　髙妻洋成	12月14日－15日	ACCU国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」－災害時応急対応事例と課題―
10	同上	文化財防災センターの取り組み	文化財防災センター長　髙妻洋成	12月21日	神奈川県立歴史博物館令和3年度緊急搬出訓練
11	同上	文化財防災センターとネットワークを通じた多様な文化財の救済	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	12月21日	日本学術会議文化財分科会
12	同上	文化財防災の最近の動向	文化財防災センター長　髙妻洋成	4年1月19日	岡山県文化財等救済ネットワーク研修会
13	同上	文化財を未来に継承するために－文化財防災センターの取り組み－	文化財防災センター長　髙妻洋成	4年3月30日	日本博物館協会公開シンポジウム「これからの博物館防災を考える」

【東京国立博物館】　63件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　52件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	東京国立博物館の埴輪―群馬県域を中心に―	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	4月11日	群馬県立歴史博物館講演会
2	同上	弥生時代における土製鋳型外枠の基礎的研究	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池望	8月21日～9月5日（オンライン）	アジア鋳造技術史学会高岡大会
3	同上	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復 ―旧調査記録を元にした欠失箇所の復元―	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、調査分析室専門職　宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	同上	アフガニスタンから将来した「ストゥッコ像」の技法材料研究	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、環境保存室長　和田浩、調査分析室専門職　宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
6	同上	文化財保存と機器による調査：隠れた線・形の発見	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	8月28日	第27回　美術解剖学会　大会
7	同上	「木挽町狩野家伝来『公用扣』の紹介」	博物館教育課ボランティア室主任研究員　金井裕子	10月26日	江戸狩野研究会
8	同上	嚴島神社蔵「平家納経」　平清盛とその魅力	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	5月22日	慶応義塾大学教養研究センター新入生歓迎行事 連続講演企画 平家納経の世界―昇華する祈り―
9	同上	樂長入の創意について	博物館情報課長　今井敦	10月23日	茶の湯文化学会東京例会
10	同上	唐物模倣の論理	博物館情報課長　今井敦	12月4日	日本中世土器研究会
11	同上	周溝墓の発展と前方後円墳の成立過程	調査研究課考古室研究員　山本亮	11月18日	かながわ考古学同好会
12	同上	遼東公孫氏は考古学的に可視化できるのか	調査研究課東洋室長　市元塁	11月20日	東アジアの古代文化を考える会
13	同上	漁童吹笛図　鄭顕仙筆　橋本コレクション、華山僊掌圖　謝時臣筆　橋本コレクション	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	12月3日	関西中国書画コレクション研究会
14	同上	明・清時代旅行文化における実体験と絵画の関係	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	11月4日	EAAシンポジウム「コロナ禍における藝術の理論と実践」
15	同上	「神宝より見える、見えない日本の神々の姿」	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	9月25日	共同研究（課題公募班〔一般Ａ班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究（令和3年度第2回研究会）
16	同上	16世紀バーゼルの金工コレクション形成にみる交流と流通 -ニュルンベルク由来鋳造作品を中心に-	企画課出版企画室アソシエイトフェロー　村松綾	6月19日	西洋中世学会第13回大会　自由論題報告5
17	同上	重要文化財 文殊菩薩騎獅像 (京都･大智寺)のX線CT調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	9月18日～ 9月19日	日本文化財科学会
18	同上	大和･額安寺出土忍性骨蔵器の科学調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	9月18日～ 9月19日	日本文化財科学会
19	同上	五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	9月18日～ 9月19日	日本文化財科学会
20	同上	鉱石から貨幣になるまで	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	10月13日	日本銀行貨幣博物館勉強会
21	同上	鳥獣戯画八〇〇年の生命誌―伝来と研究史をたどる―	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	4月23日	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」
22	同上	存在しない名物漆器	調査研究課工芸室研究員　福島修	5月2日	茶湯文化学会
23	同上	「ドクロ茶室」考 ―X線CTスキャナーを用いた造形について	上席研究員　木下史青	8月28日	美術解剖学会
24	同上	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復-旧調査記録を元にした欠失箇所の復元-	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、調査分析室専門職　宮田将寛	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
25	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した 東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、環境保存室長　和田浩、調査分析室専門職　宮田将寛	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
26	同上	津波被災した木製彩色資料「算額」の展示活用を目的とした保存修復－3D技術を用いた欠損箇所の復元－	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
27	同上	海水被害を受けた木質文化財中の残留塩化物の測定基準となる検量線の作成	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
28	同上	コロナ禍における東京国立博物館博物館教育課のプログラム運営	博物館教育課長　伊藤信二	9月9日	令和3年日韓学術交流事業　パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題
29	同上	弥生時代青銅器生産研究における諸問題 -土製鋳型の採用とその意義-	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池望	4年2月23日	国立歴史民俗博物館共同研究公開セミナー 近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会
30	同上	聖徳太子信仰と太子伝の生成―造形作品の検討から―	調査研究課主任研究員　三田覚之	4年3月21日	美術史学会（西支部大会）聖徳太子1400年御遠忌記念シンポジウム「聖徳太子太子伝とその視覚化」
31	同上	「風俗画と浮世絵－誰が描いたかということ－」	特任研究員　田沢裕賀	6月20日	国際浮世絵学会　第23回春季大会
32	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第5次発掘調査報告	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄	5月23日	日本考古学協会第87回総会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
33	同上	大和地域における集落構造と遺構の変化	調査研究課考古室研究員 山本亮	4年3月5日	古代学研究会拡大例会・シンポジウム「弥生後期社会の実像ー集落構造と地域社会」
34	同上	須恵器マルチヘッド・マルチタスク3D-2D-CNNモデル	調査研究課考古室研究員 山本亮	4年3月26日～ 3月27日	日本情報考古学会第46大会ー般講演
35	同上	ヤポンセ・ロック―ヨーロッパに渡った「日本着物」―	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	4月24日	国際服飾学会
36	同上	Fashioning Identities としての「きもの」―特別展「きものKIMONO」展と東京国立博物館での「きもの」の展示―	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	6月26日	服飾美学会
37	同上	「きもの」の歴史と文化	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	11月17日	農林水産省
38	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	瓦が語る東大寺の歴史	調査研究課考古室研究員 山本亮	10月23日	東京国立博物館月例講演会
39	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	中国絵画史研究における画絹への関心	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	12月17日	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟オンライン研修会「絹と装潢文化財」
40	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	「アジアの空想動物を語る」	上席研究員　勝木言一郎、調査研究課東洋室長　市元塁、企画課特別展室長　猪熊兼樹、列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	9月20日	東京国立博物館月例講演会
41	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	鉄器時代 IIB 期の北イスラエルの物質文化：外来的要素とその背景	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	10月31日	日本オリエント学会第63回大会
42	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	Anaharath, Amarna Letters (EA237-239), and Tel Rekhesh	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	11月20日	2021 Annual Meeting, American Society of Overseas Reseaerch
43	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	Tel Rekhesh and Its Connectivity through the Iron Age: A Preliminary Perspective	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	11月25日	JSPS-ISF Colloquium, *Between Tel Rekhesh and Horvat Tevet: New Insights on Connectivity in the Eastern Jezeel Valley during the Late Bronze and Early Iron Ages*
44	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	バビロニア時代？―テル・レヘシュの鉄器時代末期の年代について	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	12月18日	第28回イスラエル考古学研究会（科研課題報告会）
45	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	X線技術を応用した封泥研究序説	客員研究員　谷豊信	11月7日	封泥研究会
46	同上	後期鉄器時代城塞とローマ時代ユダヤ人村落の調査―イスラエル国テル・レヘシュ第二期調（2013～2017）―	列品管理課平常展室主任研究員　小野塚拓造	4年3月12日～ 3月13日	日本西アジア考古学会主催『第29回（2021年度）西アジア発掘調査報告会』
47	同上	楽浪土城の新たな研究にむけて　遺構の分析を中心に	客員研究員　谷豊信	11月26日	科学研究費基盤(A)「南縁・東縁地域における郡県都市の変容からみた“漢帝国の遺産”の東アジア史的意義」第2回研究会
48	同上	秦封泥の考古学的分類にむけた中間報告ー東京国立博物館収蔵品を中心にー	客員研究員　谷豊信	4年3月14日	国立歴史民俗博物館共同研究「秦漢時期の文字使用をめぐる学際研究」第3回研究会
49	同上	コロナ禍における体験型展示の運営/オンラインワークショップの現状と課題	博物館教育課教育普及室長 藤田千織	9月9日	令和3年日韓学術交流事業　パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題
50	同上	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、環境保存室長　和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
51	博物館教育に関する調査研究	理工系大学博物館の資源を活用したSTEAM教育としての文理芸融合型オブジェクト介在型学習	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー　山本桃子	8月21日	日本科学教育学会
52	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	欧米がみた鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって―	上席研究員（兼）広報室長 鬼頭智美	4月23日	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	屏風の展示用支持具の耐震効果についての検証	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月13日	日本展示学会第40回大会
2	同上	地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月14日	日本文化財科学会第38回大会
3	同上	法隆寺金堂壁画における壁画の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討-	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月14日	日本文化財科学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	同上	屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月1日	日本包装学会第30回年次大会研究発表会
5	同上	3Dモデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
6	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課環保存修復室研究員　野中昭美、環境保存室長　和田浩、調査分析室専門職　宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
7	同上	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、環境保存室長　和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
8	同上	屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	9月7日	日本機械学会2021年度年次大会
9	同上	文化財の振動対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	10月6日	日本機械学会令和3年度第1回耐震問題研究会
10	同上	屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	12月2日	第59回全日本包装技術研究大会
11	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	教科書編修趣意書を介した学習内容とデジタルコンテンツ接続可能性の検討	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之	6月20日	2021年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会

【京都国立博物館】40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　24件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	雛人形にみる衣裳	企画室長　山川　暁	1月22日	装道きもの学院　大阪校
2	同上	叡尊の活動と関連作品	美術室長　羽田聡	7月16日	宇治市源氏物語ミュージアム
3	同上	孤篷庵の障壁画	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	7月16日	孤篷庵　DNP文化プログラム
4	同上	佐竹本三十六歌仙絵を味わう―歌と肖像の情緒―	企画室研究員　井並林太郎	4月17日	50周年記念連続講座「遠山記念館の重要文化財」（遠山記念館　※オンライン開催）
5	同上	平安絵巻としての鳥獣戯画―ストーリー展開の妙味―	同上	4月23日	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」（東京国立博物館）
6	同上	日本美術の基礎　絵画（古代）	同上	5月23日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
7	同上	日本美術の基礎　絵画（中世前期）	同上	7月25日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
8	同上	日本美術の基礎　絵画（中世後期）	同上	9月26日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
9	同上	国宝「病草紙」－平安絵巻の問題作－	同上	10月2日	2021年度京カレッジ京都力養成コース京都学講座「“ファクターX”をさかのぼる―京都と疫病―」（キャンパスプラザ京都）
10	同上	日本美術の基礎　絵画（近世）	同上	11月28日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
11	同上	古美術（文化財）の修理とは？―絵画について―	同上	4年1月23日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
12	同上	「鳥獣戯画」の謎に迫る	同上	4年2月25日	中日文化センター「日本が誇る「国宝・四大絵巻」の世界」
13	同上	丹波、亀岡と狩野派の画家たち	列品管理室研究員　森道彦	4年2月13日	亀岡市文化資料館
14	同上	「徳化李氏凡将閣珍蔵」本の再検討	調査・国際連携室研究員 上杉智英	4年3月19日	京都国立博物館国際シンポジウム「敦煌写本研究の現在」
15	同上	「“揚州八怪”の作品をめぐる諸問題」	調査・国際連携室研究員 森橋なつみ	10月17日	関西中国書画コレクション研究会設立10周年記念　国際シンポジウム「中国書画コレクションの時空」（オンライン開催）
16	特別展　「畠山記念館の名品」に関する調査研究	與衆愛玩　―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	10月22日	高槻市生涯学習センター
17	同上	與衆愛玩　―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―	同上	10月26日	千里公民館
18	同上	與衆愛玩　―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―	同上	10月29日	宇治市生涯学習センター

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」に関する調査研究」	オリュンピア×ニッポン美術―多神教の神々の国と祭典競技―	企画室長　山川　暁	6月14日	一般社団法人　清風会総会
20	同上	オリュンピア×ニッポン・ビジュツの彫刻作品	上席研究員　淺湫毅	6月18日	京都市内博物館施設連絡協議会
21	教育活動に関する調査研究	近代京都の漆芸	教育室長　永島明子	9月11日	京都工芸繊維大学美術工芸資料館展覧会 「美術の教育／教育の美術」関連リレー講座「京都の近代化遺産－あらたな京都の発見－」（オンライン）⑤
22	同上	京都国立博物館におけるボランティア活動について	教育室主任研究員　水谷亜希	4年2月27日	兵庫県立美術館ミュージアム・ボランティアコーディネーター養成セミナー
23	収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	日本の原始古代の考古学 -日本列島における先史・原史・古代文化の展開-	研究員　古谷 毅	4年1月19日	京都大学国際高等教育院 日本語・日本文化研修プログラム 日本文化研修「博物館見学」講座
24	博物館の国際交流に関する調査研究	博物館・美術館での仕事	調査・国際連携室主任専門職　リンネ　マリサ	10月28日	京都女子大学

○その他有形文化財に関連する調査研究　16件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	鉛釉陶器のはじまり-7・8世紀の出土遺物の化学的特徴から-	保存科学室長　降幡順子	6月13日	総研大大学院講演会『自然科学からみる歴史資料』
2	同上	密教法具の科学的調査-金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に-	同上	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
3	国内外の博物館等への援助・助言等	The Kyoto National Museum’s Facilities and Disaster Risk Countermeasures for Movable Cultural Properties	同上	9月13日	UNESCOチェアITC-DRMCH
4	その他有形文化財に関連する調査研究	猿投窯系須恵器編年の再編と下り松瓦窯の操業年代	学芸部長　尾野善裕	4年3月13日	公開シンポジウム「伊保谷からみた豊田市の古代」
5	同上	運慶の東国下向について	上席研究員　淺湫毅	12月4日	早稲田大学美術史学会秋季例会
6	同上	蒔絵の美	教育室長　永島明子	4年2月18日	国際茶道文化協会　青山グリーンアカデミー　第77期　茶の湯の美―漆の世界（オンライン講座）第4回
7	同上	美術のなかのミラクルないきものたち	同上	12月25日	KYOTO STEAM－世界文化交流祭－実行委員会（京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課）OKAZAKI MARKET+ 参加型プログラム「幸福を呼ぶ新しいいきものの園」ロームシアター京都 プロムナード
8	同上	会読:梁武帝「斷酒肉文」(13) （大正五二・三〇〇中二六行「問涅槃云」～三〇一上五行「法寵無復答」）	企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル	5月21日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観:唐道宣撰『広弘明集』を読む」(班長：船山徹、2020 年 4 月～2024 年 3 月)
9	同上	会読:梁武帝「斷酒肉文」(20) （大正五二・三〇二十七行「佛告文殊師利」～三〇三上十三行「令知此意」）	同上	10月29日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観:唐道宣撰『広弘明集』を読む」(班長：船山徹、2020 年 4 月～2024 年 3 月)
10	同上	会読:梁武帝「斷酒肉文」(22) (大正五二・三〇三中十五行「又敕捨云」～三〇三下六行「廣弘明集卷第二十六」）	同上	12月3日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観:唐道宣撰『広弘明集』を読む」(班長：船山徹、2020 年 4 月～2024 年 3 月)
11	同上	蓮華王院の千体仏堂　二つの視点	企画室アソシエイトフェロー　ボレンガッセールダニエル	5月15日	第65回国際東方学者会議
12	同上	エンターテイメントから始まる、もっと自由な刀の楽しみ方	同上	7月11日	姫路市立美術館パネルディスカッション
13	同上	日本原史(古墳時代)～古代における死生観	研究員　古谷 毅	4年2月13日	令和3年度 國學院大學文学部共同研究 公開研究会
14	文化財と国際交流に関する調査研究	海外から京都東山へ	調査・国際連携室主任専門職　リンネ　マリサ	7月30日	京都東ロータリークラブ 卓話

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	同上	Comparing Fragments in the Costen Textile Traces Collection and the Hikone Sarasa Collection: Japanese Tastes in Indian Printed and Painted Cotton Textiles（日本女子大学名誉教授小笠原小枝の逐次通訳）	同上	11月18日	米国ジョージ・ワシントン大学付属テキスタイル・ミュージアム国際シンポジウム「Cotsen Textile Traces Global Roundtable: From India to the World」
16	同上	Contemporary Asian Textiles: In Conversation with Designers and an Artist（長板中形作家松原伸生の逐次通訳）	同上	4年2月22日	米国ネルソン・アトキンス美術館「Weaving Splendor: Treasures of Asian Textiles」 展　特別国際パネルディスカッション

【奈良国立博物館】　46件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　36件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	行基墓誌断片を考える	学芸部長　吉澤悟	10月16日	奈良芸術短期大学歴史公開講座
2	同上	奈良博の壺	学芸部長　吉澤悟	11月21日	奈良国立博物館サンデートーク
3	同上	仏教美術って何？	学芸部長　吉澤悟	12月15日	しなやかエンジニア教育プログラム
4	同上	“サスティナブル”な文化財保存	保存修理指導室長　荒木臣紀	4年3月20日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	斑鳩に残る飛鳥時代の面影を辿る	美術室長　岩井共二	10月30日	第176回奈良学講座
6	同上	金峯山寺仁王門　金剛力士立像―吉野から奈良に来臨した巨大仁王像―	美術室長　岩井共二	12月12日	近鉄文化サロン阿倍野
7	同上	平安貴族の信仰生活―仏教を中心に―	列品室長　斎木涼子	5月16日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』―真言僧の仏教史観と天皇―	列品室長　斎木涼子	9月5日	日本史研究会古代支部会（大会共同研究報告援助報告会）（オンライン開催）
9	同上	聖徳太子と法隆寺の美術	教育室長　谷口耕生	12月5日	奈良学セミナー
10	同上	壁邪絵をめぐって	教育室長　谷口耕生	4年1月16日	同上
11	同上	古代寺院の出土品が語るもの	企画室長　中川あや	7月11日	同上
12	同上	地獄絵の世界～奈良国立博物館所蔵品を中心に	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	8月8日	同上
13	同上	絵はがきと仏像研究	企画室主任研究員　山口隆介	10月3日	同上
14	同上	浄土寺の仏像と重源上人	企画室主任研究員　山口隆介	10月9日	小野市立コミュニティセンターおの「知られざる浄土寺の至宝～来迎会衣装など初公開資料を中心に～」
15	同上	閻魔王と地獄の美術	教育室研究員　内藤航	12月22日	同上
16	同上	ほとけの装いにみる工芸	工芸考古室研究員　三本周作	4年2月20日	同上
17	同上	あこがれの天平絵画	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	9月12日	同上
18	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	絵画のなかの聖徳太子	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	5月15日	朝日カルチャーセンター名古屋
19	同上	法隆寺の仏像と聖徳太子信仰	企画室主任研究員　山口隆介	6月19日	「聖徳太子1400年遠忌記念特別展聖徳太子と法隆寺」公開講座
20	同上	法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る―	工芸考古室研究員　三本周作	5月22日	同上
21	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」に関する調査研究	ちょっと良いかも、奈良博の考古	学芸部長　吉澤悟	9月4日	「特別展　奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」公開講座
22	同上	奈良博の仏像コレクション―種類と時代―	美術室長　岩井共二	8月7日	同上
23	同上	観仏画三昧―奈良博仏教絵画コレクションをあじわう―	教育室長　谷口耕生	7月24日	同上
24	同上	古写経と古代文字史料	資料室長　野尻忠	8月28日	同上
25	同上	仏教美術の殿堂―奈良博コレクション形成史―	情報サービス室長　宮崎幹子	9月11日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
26	同上	仏教工芸の魅力―奈良博のコレクションから―	工芸考古室研究員　三本周作	7月31日	同上
27	特別展「第73回正倉院展」に関する調査研究	正倉院のガラス器について―白瑠璃高坏を中心として―	学芸部長　吉澤悟	11月13日	「第73回　正倉院展」公開講座
28	同上	「第73回　正倉院展」解説	工芸考古室研究員　三本周作	11月5日	賛助会員特別鑑賞会
29	同上	「73回　正倉院展」研究員による宝物の解説　パート1～5	工芸考古室研究員　三本周作	11月5日～30日	ならはくチャンネル
30	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	特任研究員　内藤栄	9月3日	京都アスニー
31	同上	今年の正倉院展のみどころ	特任研究員　内藤栄	9月20日	読売新聞東京本社
32	同上	正倉院所蔵の韓半島遺物	特任研究員　内藤栄	11月2日	奈良韓国教育院
33	同上	せいぶ正倉院講座	特任研究員　内藤栄	11月5日	奈良市西部公民館
34	同上	「第73回　正倉院展」研究員レクチャー付き鑑賞券講演会	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂
35	同上	奈良仏像けんきゅー部（ゲスト出演）	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月7日	同上
36	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究	聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって	美術室長　岩井共二	4年3月5日	同上

○その他有形文化財に関連する調査研究　10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関する調査研究	文化遺産と社会	館長　井上洋一	4年1月27日	奈良シニア大学
2	同上	五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析	学芸部長　吉澤悟、他3名	9月18日	文化財科学会
3	同上	博物館学芸員として働く	企画室長　中川あや	10月23日	大阪府立茨木高校（卒業生講座）
4	同上	仏教美術写真と文化財データベース―奈良国立博物館における蓄積と公開を中心に―	情報サービス室長　宮崎幹子	6月5日	第23回　洛北史学会大会（オンライン）
5	同上	奈良国立博物館の近現代建築	情報サービス室長　宮崎幹子	4年2月26日	日本建築家協会 文化財修復塾
6	同上	奈良国立博物館の建築と景観	情報サービス室長　宮崎幹子	4年3月21日	文化創造アルカ
7	同上	奈良と教育	工芸考古室研究員　三本周作	7月6日	奈良教育大学・奈良女子大学
8	同上	展示公開と保存	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	12月15日	奈良女子大学（ゲストスピーカー）
9	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	収蔵品のコンディションチェック	保存修理指導室長　荒木臣紀	12月1日～31日	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構（配信）
10	同上	保存修理指導室のお仕事―博物館科学の役割―	保存修理指導室アソシエイトフェロー　安藤真理子	8月8日	奈良国立博物館サンデートーク

【九州国立博物館】　17件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱のX線CT調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　當山綾乃	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会〈紙上開催〉
2	同上	国宝「初音の調度」のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造・技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、徳川美術館　吉川美穂、学芸部博物館科学課研究補佐員田中麻美、同課長　木川りか	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
3	同上	コロナ禍におけるオンライン・プログラム	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	12月14日	令和3年度四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部研修会（オンライン開催）

○その他有形文化財に関連する調査研究　14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	柳橋水車図をめぐる旅	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	10月30日	中之島香雪美術館　特別展「柳橋水車図の世界」記念講演会（中之島会館）
2	同上	Conservation of Paintings and Calligraphy at Kyushu National Museum （九州国立博物館における書画の修理）	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	11月1日	Online session “Research on procedures of making and restoration of traditional Asian cultural artifacts”, Kyushu National Museum and Heritage Conservation Centre of Singapore（オンライン）
3	同上	湿度制御した加熱処理による桐箱からの有機酸放散量低減化に関する検討	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香、同課長　木川りか	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会〈紙上開催〉
4	同上	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫のDNAバーコーディングによる同定法の検討	東京文化財研究所 小峰幸夫、篠崎（矢花）聡子、佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　齋藤明子、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会〈紙上開催〉
5	同上	木版印刷経典に付着した毛織物の観察	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生翠	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
6	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開時と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討	京都大学大学院工学芸研究科　小椋大輔、和田拓也、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、文化財保存活用センター　吉田直人、東京文化財研究所　秋山純子、佐藤嘉則、京都大学大学院農学研究科京都大学大学院工学芸研究科　藤井義久、鉾井修一、伊庭千恵美、文化庁文化財部　森井順之	9月18日-19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
7	同上	IPM of Kyushu National Museum: Developing strategies and cooperation.	学芸部博物館科学課長　木川りか、同研究員　渡辺祐基、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香	9月20日-22日	Pest Odyssey 2021, The Next Generation,（オンライン開催）
8	同上	Seasonal changes in the distribution of head capsule size of a silverfish species	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同課長　木川りか、Canadian Conservation Institute　T. Strang	9月20日～22日	Pest Odyssey 2021, The Next Generation,（オンライン開催）
9	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長 木川りか	6月5日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、福岡八重洲ビル
10	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長 木川りか	10月2日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、鹿児島大学
11	同上	博物館の環境管理	学芸部博物館科学課長 木川りか	12月2日	放送大学、九州国立博物館
12	同上	X線CTによるオオナガシバンムシの蛹化および羽化の観察	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤原裕子、藤井義久	4年3月15日～17日	第72回日本木材学会大会（オンライン開催）
13	同上	今帰仁阿応理屋恵ノロが使用した勾玉の材質調査	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会〈紙上開催〉
14	同上	重要文化財沖縄県斎場御嶽出土品の材質と構造の調査	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）

【東京文化財研究所】　57件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　22件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	Building Bridges: Working Together to Disseminate Japanese Art Literature	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	5月13日	北米美術図書館協会第49回年次大会
2	日本東洋美術史の資料学的研究	「辟邪絵」の主題についての復元的考察	神奈川県立金沢文庫　梅沢恵	4月27日	文化財情報資料部研究会
3	同上	新出の住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」（ライプツィヒ民族学博物館蔵）について	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	5月25日	文化財情報資料部研究会
4	同上	皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味―転換期の時代思潮の表象	日本東洋美術史研究室長　小林達朗	11月5日	第55回オープンレクチャー
5	同上	カナダ・モントリオール美術館所蔵の熊野曼荼羅図について（仮）	文化財アーカイブズ研究室研究員　米沢玲	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
6	同上	中世六道絵における阿修羅図像の成立	早稲田大学文学学術院教授　山本聡美	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
7	同上	六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵	名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター　共同研究員　阿部美香	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
8	日本の近・現代美術に関する調査研究・情報整備・資料収集	岸田劉生による「手」という図像―静物画を中心に―	近・現代視覚芸術研究室研究員　吉田暁子	4年2月24日	文化財情報資料部研究会
9	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	近現代日本における「南蛮漆器」の出現と変容―その言説をめぐって―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	7月16日	文化財情報資料部研究会
10	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	多変角測色計による貝類切片の分光分析	広領域研究室長　小林公治	9月18・19日	日本文化財科学会第38回大会
11	同上	螺鈿の位相―輸出用器物としての南蛮漆器―	広領域研究室長　小林公治	4年2月13日	九州大学国際シンポジウム「第一次グローバル時代の「モノと文化」」
12	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」―画像資料を活用した復原的研究―	主任研究員　安永拓世	11月5日	第55回オープンレクチャー
13	同上	田中一松資料にみるコレクション形成の足跡-個人コレクターとの親交	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子	4年1月8日	オンライン・シンポジウム「日本美術の記録と評価―美術史家の調査ノート」
14	文化財情報基盤の整備・充実	文化財の記録作成の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	9月21日	文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理
15	同上	世界遺産条約の履行に関する最近の国内外の動向	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	11月30日	文化財情報資料部研究会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	Geoarchaeological information and cultural heritage disaster risk management: Cases in Japan	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	12月7日	Culture, Heritage and Climate Change（ICSM CHC）
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	映像による記録作成とアーカイブ化にかかる実践的課題	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	6月12日	国立歴史民俗博物館共同研究「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究」第一回研究会
3	同上	民俗芸能のカタとカタチ	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	5月9日	儀礼文化学会
4	同上	民俗芸能の体系的把握を目的とした芸態研究の可能性	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	11月14日	民俗芸能学会
5	同上	Diversity in intangible cultural heritage as seen through lion dances	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	9月10日	Unesco Mongolian National Commission / ichcap
6	同上	A diversity-focused approach to musical instruments	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	9月10日	Unesco Mongolian National Commission / ichcap
7	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	コロナ禍における研究機関の取り組み（鼎談）	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美・早稲田大学教授　児玉竜一・武蔵野大学教授　三浦裕子	7月11日	楽劇学会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　32件

○文化財の調査手法に関する調査研究　0件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　32件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	博物館におけるATP拭き取り検査-カビ集落の活性評価と機器の特徴について-	文化財活用センター研究員・間渕創、生物科学研究室長・佐藤嘉則	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
2	同上	文化財を加害したシバンムシ科甲虫のDNAバーコーディングによる同定法の検討	文化財防災センターAF・小峰幸夫、研究補佐員・矢花聡子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
3	同上	低酸素濃度殺虫法に用いる脱酸素剤からの有機酸発生	研究補佐員・岡部迪子、分析科学研究室長・犬塚将英、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
4	同上	空調設備のない収蔵施設の保存環境改善-岐阜県関市春日神社の事例研究-	研究補佐員・小野寺裕子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢	奈良文化財研究所AF・松野美由樹、分析科学研究室長・犬塚将英、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
6	同上	微生物による文化財の劣化と対策　～古墳・洞窟壁画の微生物劣化～	生物科学研究室長・佐藤嘉則	9月9日	日本防菌防黴学会 第48回年次大会
7	同上	歴史的建築物における甲虫類駆除のための湿度制御温風処理	客員研究員・北原博幸、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	10月31日	日本建築学会第50回熱シンポジウム
8	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	国宝高松塚古墳壁画仮設修理作業室におけるカビ環境管理指針の検討	研究補佐員・岡部迪子、生物科学研究室長　佐藤嘉則他	9月9日	日本防菌防黴学会 第48回年次大会
9	文化財の保存環境にかかる調査研究	特定波長域を遮光した光照射下における黄色系染料の変退色挙動	保存環境研究室長・秋山純子他2名	9月18日	日本文化財科学会
10	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	日本絵画における白色顔料の変遷	副所長・早川泰弘	11月12日-13日	中国伝統色彩学術年会
11	同上	鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例	分析科学研究室長・犬塚将英他3名	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
12	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	常陸太田市・直牒洞の光環境と緑色生物	修復計画研究室長・朽津信明、分析科学研究室長・犬塚将英	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
13	同上	過去の写真・三次元データを用いた薬師堂石仏の崩落の検証	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
14	同上	新宮市・九重の土砂災害慰霊碑の三次元印刷	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香、藤 隆宏、後 誠介、柳沼 由可子、西山賢一	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
15	同上	天草市・アンモナイト館における化石の現地保存とその評価	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香、廣瀬浩司	10月14-15日	日本応用地質学会2021年度研究発表会
16	高松塚キトラ	Application of Cell Lytic Enzymes to Remove Biofilm from the Surface of East Asian Paintings	修復材料研究室長・早川典子ほか	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
17	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	植物由来染織文化財の種同定における非破壊赤外分光分析利用の可能性 ―葛・芭蕉を中心に―	修復材料研究室長・早川典子ほか	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
18	同上	Characteristics of lacquer coating films extracted from *Gluta usitata* before and after UV irradiation	研究員・倉島玲央	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
19	同上	タンパク質を混合した漆塗膜の表面状態と機械的強度の関係	研究員・倉島玲央	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
20	同上	多変角測色計による貝類切片の分光分析	研究員・倉島玲央	9月18日-19日	日本文化財科学会第38回大会
21	文化財修復材料と伝統技法に関する研究	Application of pyrolysis-comprehensive two-dimensional gas chromatography to the study of paper-based artefacts	客員研究員・稲葉政満他	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
22	同上	Degradation behaviour of Japanese painting paper in naturally aged hanging scrolls	客員研究員・稲葉政満他	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
23	同上	日本画掛軸から生成される揮発性有機化合物を用いた紙の自然劣化と加速劣化との比較	客員研究員・稲葉政満他	8月11日	文化財保存修復第43回学会
24	同上	和紙の緑青焼けと裏打ち層の効果	客員研究員・稲葉政満他	2月24日	マテリアルライフ学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
25	同上	近現代資料に関する保存科学のノウハウ	客員研究員・川野辺渉	11月30日	第2回スポーツ関係資料の保存アーカイブ課題共有ワークショップ
26	同上	伝統的煤及び膠を用いた近似墨液インク並びに機械的料紙加工等を含む文化財リマスターシステムの開発	客員研究員・宇高健太郎，他 外部4名	8月11日	文化財保存修復第43回学会
27	同上	膠の概要と関連資料等について	客員研究員・宇高健太郎	11月27日	膠2021オンライン公開研究会
28	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	産業遺産における活用　-文化財の活用に関するアンケート調査結果-	アソシエイトフェロー・中村舞　他	11月27日	産業遺産学会
29	同上	空調機が稼働していない収蔵庫における木質材料の吸放湿挙動ー タイプの異なる部屋の比較 ー	研究員・芳賀文絵　他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
30	同上	宮城県における被災資料の保管環境管理について	研究員・芳賀文絵　他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
31	同上	宮城県における被災資料の保全活動について	研究員・芳賀文絵　他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
32	同上	The History of Japan’s System for the Protection of Cultural Properties and Fire, Disaster and Crime Prevention Measures for Museums, Temples and Shrines	修復技術研究室長・建石徹　他	11月16日	ICCROM, "PREVENT:Building Capacities for Mitigating Fire Risk at Heritage Places"

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	建築遺産における写真の役割	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　金井健	10月14日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所国別研修（インドネシア）
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査の歴史	アソシエイトフェロー 間舎裕生	4年2月20日	研究会　考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	ミャンマー・バガン遺跡における複合文化財として捉えた煉瓦造寺院の保存修復	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	9月1日	日本文化財科学会科学会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　0件

○文化財情報基盤の整備・充実　0件

○調査研究成果の発信　0件

【奈良文化財研究所】　83件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　19件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	当麻寺の中近世銘文の調査―曼荼羅堂・金堂につき―	文化遺産部・歴史研究室長 吉川聡他	12月4日	第43回木簡学会総会・研究集会

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	京都中川の北山林業景観における民家の庭の地域性	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	5月23日	2021年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム
2	同上	文化的景観からとらえる京都らしさ	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	7月26日	京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab,＜京都思考＞研究会
3	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	近代日本における史跡の保護と整備	文化遺産部長・内田和伸	8月27日	『第4回日韓文化財研究フォーラム』：日帝植民統治期の文化財の整備と復元 韓国　在外文化財財団
4	同上	日本統治下の朝鮮における史跡の保存と整備	文化遺産部長・内田和伸	8月27日	『第4回日韓文化財研究フォーラム』：日帝植民統治期の文化財の整備と復元 韓国　在外文化財財団
5	同上	史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺の史蹟指定	文化遺産部長・内田和伸	10月23日	『特別史跡山田寺　史跡指定ー00年』奈文研第13回東京講演会奈良文化財研究所　pp.4-7
6	同上	平城宮を訪れた新羅使について	文化遺産部長・内田和伸	4月7日	奈良韓国教育院＜古代の韓日関係を学ぶ奈良古代遺跡踏査プログラム
7	同上	移築移設された遺跡由来の遺構遺物の保存活用	文化遺産部長・内田和伸	4年3月15日	令和３年度遺跡整備・活用研究集会　移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	東近江市五箇荘金堂の庭園　－外村市郎兵衛家住宅庭園を中心に	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	11月6日	日本庭園学会　関西支部大会
9	同上	近代庭園に用いた遺跡由来の石造物について	文化遺産部長・内田和伸	10月30日	大乗院庭園文化講座
10	同上	『築山庭造伝」を読む	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	4年3月20日	大乗院庭園文化館　文化サロン
11	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	文献史料から見た古代集落	都城発掘調査部平城地区史料研究室研究員・垣中健志	12月18日	古代官衙・集落研究集会
12	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	奈良の鬼瓦	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子	4年2月5日	古代瓦研究会
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	飛鳥の鴟尾	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武	5月15日	第3回令和あすか塾
14	同上	山田寺の歴史と発掘調査	都城発掘調査部副部長・清野孝之	10月9日	奈良文化財研究所第13回東京公演会　特別史跡山田寺跡史跡指定100年
15	同上	出土遺物からみた山田寺―瓦磚類を中心に―	都城発掘調査部考古第三研究室長・林正憲	10月9日	奈良文化財研究所第13回東京公演会　特別史跡山田寺跡史跡指定100年
16	同上	考古学からみる大官大寺の実像	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室研究員・山藤正敏	11月20日	第4回令和あすか塾
17	同上	藤原宮大極殿院の構造と造営過程に関する再検討	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・廣瀬覚	12月25日	都城制研究会
18	水中文化遺産に関する調査研究	海底遺跡における沈没船の現地保存に関する研究 ―鷹島海底遺跡における元軍船の埋め戻し法の検討とその評価	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室研究員・松田和貴、副所長・髙妻洋成　他2名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　49件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	群馬県金井遺跡群における鹿角利用	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	7月4日	日本動物考古学会第8回大会
2	同上	遺跡出土マグロ属の体長推定と体長組成	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・松崎哲也	7月4日	日本動物考古学会第8回大会
3	同上	遺跡の花粉分析データからみた奈良県北部の植生変遷	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・上中央子	8月29日	日本第四紀学会2021年大会公開シンポジウム
4	同上	考古学者の道具箱	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	10月9日	近江貝塚研究会第355回例会
5	同上	西大寺食堂院跡出土の動物遺体	環境考古学研究室長　山崎健	4年3月4日	西大寺食堂院跡の古代食再現シンポジウム
6	年輪年代学研究	中部産ヒノキ属の2000年年輪幅標準年輪曲線構築	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治　他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	ヒノキ科樹種年輪幅標準曲線ネットワークの気候応答	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治　他7名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
8	同上	平城宮・京跡出土曲物の年輪年代測定－木簡の年紀との対応関係－	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治、都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子、副所長・高妻洋成	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
9	同上	高精度文化財資料撮像装置の開発	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治　他2名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
10	同上	年輪年代学の歴史・考古学分野への応用－平城京跡における事例を中心に－	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治	12月18日	2021年度樹木年輪研究会オンラインシンポジウム
11	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	縄文原体から社会を読む	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江	5月16日	季刊考古学155号刊行記念 土器研究が拓く新たな縄文社会
12	同上	文化財の三次元計測方法による収集データの比較	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	5月23日	日本考古学協会第87回総会研究発表
13	同上	土器作りの認知・身体技法と社会変化	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ、埋蔵文化財センター長・金田明大　他1名	7月18日	出ユーラシアの統合的人類史学第5回全体会議　2021年7月18日 新学術領域研究（研究領域提案型）2019年度～2023年度「出ユーラシアの統合的人類史学―文明創出メカニズムの解明―」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
14	同上	遺跡発掘調査記録のDXの試行	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室研究員･山口欧志	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
15	同上	三次元計測データで比較する同紋瓦と同笵瓦－東大寺式軒丸瓦の検討－	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･中村亜希子、都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長･今井晃樹、同飛鳥藤原地区考古第三研究室長・林正憲、同飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
16	同上	MRを利用した発掘調査支援システムの試行	埋蔵文化財センター長･金田明大、同主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、同遺跡・調査技術研究室研究員･上椙英之	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
17	同上	文化財のデジタル記録とその活用:ボロブドゥールの三次元計測を中心に	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室研究員・山口欧志	7月8日	文化遺産国際協力コンソーシアム第39回東南アジア・南アジア分科会
18	同上	弥生土器における回転台問題とその論理	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･平川ひろみ　他1名	5月	日本考古学協会第87回総会
19	同上	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究―概要―	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･平川ひろみ	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
20	同上	地域の「見慣れた」石造物の清掃・調査・3D計測―三島村黒島大里地区の仁王像と住民―	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･平川ひろみ　他4名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
21	同上	土器作りにおける身体を介した「心とモノ」の連関研究に向けて	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･平川ひろみ　他3名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
22	同上	「悉皆的3D発掘」および「ペーパーレス発掘」の試みと検討―鹿児島県三島村黒島大里遺跡の調査の事例から―	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室客員研究員･平川ひろみ　他3名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
23	同上	史跡整備の最新動向について:文化財のデジタル記録とその活用	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室研究員･山口欧志	4年2月10日	長野県令和3年度史跡整備市町村協議会研修会
24	同上	福井城石垣の三次元記録	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室研究員･山口欧志	4年2月20日	日本遺産調査研究講演会「石から深める、一乗谷と福井城」
25	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発	MRを利用した発掘調査支援システムの試行	埋蔵文化財センター長･金田明大、同主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、同遺跡・調査技術研究室研究員･上椙英之	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
26	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	美術工芸品等動産文化財の調査とレスキュー	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷　竜介	7月10日	ヘリテージマネージャーのための文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会
27	同上	フィールドから生まれる学芸業務	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷　竜介	6月19日	奈良大学「博物館実習講演会」
28	同上	東日本大震災から10年の道程～民俗芸能の再開と再定位～	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷　竜介	7月11日	第29回楽劇学会体系
29	同上	川崎市市民ミュージアムの浸水被害と被災収蔵品レスキュー活動―支援団体と支援内容を中心にして	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員･浜田　拓志	6月4日	令和3年度 国宝･重要文化財（美術工芸品）防災･防犯対策研修会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔，ほか3名	6月27日	日本建築学会近畿支部
2	同上	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔，ほか3名	9月7日	日本建築学会
3	同上	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
4	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長･脇谷草一郎他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	蛍光X線分析による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・中田愛乃、同保存修復科学研究室客員研究員・辻本与志一他7名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
6	同上	虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹　他5名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	どうして古墳の副葬品は現在まで残るのか？ ー模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進	11月13日	第127回奈良文化財研究所公開講演会
8	同上	文化財の調査・保存・活用に関する取り組みについて	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・中田愛乃	12月4日	東京都市大学 キャリアデザイン
9	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵時の鉄製文化財の腐食を支配する土中溶存酸素の挙動に関する検討 ―マイクロ酸素センサを用いた溶存酸素拡散層の実測	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	5月19日	材料と環境2021
10	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その２）	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室研究員・松田和貴	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
11	同上	木簡の劣化を抑制する保存処理と保存環境調整	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎	12月4日	木簡学会第43回研究集会
12	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	目梨泊遺跡出土のガラス玉について	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	6月5日	目梨泊遺跡 （北海道 ・ 枝幸町）出土 ：金銅装直刀の技法材料およびその歴史的背景に関する研究会（２）
13	同上	元素分析および同位体比分析から見た古代ガラスの産地と交易	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	6月25日	プラズマ分光分析研究会第112回講演会
14	同上	ガラス製品の同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	6月26日	ウズベキスタン・ブハラオアシス遺跡出土ガラス製品に関する調査研究会
15	同上	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・大賀克彦	9月14日	The 22nd Congress of the Association International pour l'Histoire du Verre & ICOM Glass Meeting
16	同上	福岡県平原１号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他6名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
17	同上	元素分析による田能遺跡出土管玉の分類的検討	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
18	同上	アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する考古科学研究―化学組成と鉛同位体比分析―	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他1名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
19	同上	海を越えたガラスビーズ　ー東西交易とガラスの道	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	11月28日	令和3年度　文化遺産国際協力コンソーシアム　シンポジウム「海と文化遺産ー海が繋ぐヒトとモノー」
20	同上	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他3名	12月14日	The SEAMEO SPAFA International Conference2021 on Southeast Asian Archaeology and Fine Arts (SPAFACON2021)

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進	ポスト･アンコール期カンボジア王都の調査	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似	5月22日	クメール王朝都市科研勉強会
2	同上	ポスト・アンコール期王都の調査	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似	6月12日	ポスト・アンコール研究会
3	同上	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	企画調整部国際遺跡研究室専門職･佐藤由似、都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	12月14日	SPAFACON21
4	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	アメリカ北西海岸民族誌にみる編組製品と土器の相互補完性	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・西原和代	10月31日	日本植生史学会第36回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	カザフスタン先史時代のキビ利用に関する新たな考古植物学的証拠	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希	10月31日	日本植生史学会第36回大会
6	同上	サイエンスとロマンのはざま ：アルコール発酵を考古学する	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢	10月1日	日本ソムリエ協会奈良支部講演会
7	同上	East-West Interaction of Cereals in Eurasia: The 'Globalisation of Food' in Prehistory	企画調整部国際遺跡研究室長庄田慎矢	4年3月19日	ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The 4rd meeting

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　8件

○文化財情報基盤の整備・充実　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧－When Where Whatで検索できるシステムを目指してー	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	5月23日	日本考古学協会第87回総会研究発表 セッション4 オープンサイエンス時代の考古学・埋蔵文化財情報　日本考古学協会
2	同上	「全国遺跡報告総覧」と文化財論文ナビ	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	7月18日	文化財論文ナビ×博物館・図書館連携で拡げるオープンな文化財情報　考古形態測定学研究会
3	同上	地域の文化財を調べる・Wikipediaに引用する	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	9月4日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロンonline#17 考古形態測定学研究会
4	同上	全国遺跡報告総覧:日本考古学の最大規模のデータベース	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一、同文化財情報研究室アソシエイトフェロー・ヤナセ・ペーテル	9月6日	The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2021) The Japanese Association for Digital Humanities
5	同上	文化財×Wikipedia―地域における考古学・文化財情報発信の方法として―	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・野口淳、企画調整部文化財情報研究室研究員高田祐一　他5名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会 日本情報考古学会
6	同上	コメント -文化財・利活用の観点から-	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	12月3日	公開研究集会「新たな画像公開方法とデジタル連携」　東京大学史料編纂所画像史料解析センター・前近代日本史情報国際センター
7	同上	60万を超える地物の属性検索・描画に対応した文化財総覧WebGISの開発	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一　他1名	12月4日	FOSS4G Japan 2021 Online コアデイ　OSGeo日本支部
8	同上	地域学習や文化財防災に役立つ文化財総覧WebGIS	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一　他1名	12月8日	第13回地理院地図パートナーネットワーク会議　国土地理院

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	Research by IRCI and suggestions for cultural mapping	研究担当室長　野嶋洋子	10月25日	Indira Gandhi National Centre for the Arts "Mapping Culture, Safeguarding Heritage"
2	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	無形文化遺産教育とまちづくり	所長　岩本渉	4年2月6日	日本ESD学会第4回大会

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
11件	6件	2件	2件	0件	2件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財活用センター	本部文化財防災センター	
	2件		1件	1件	

【本部文化財活用センター】　1件

○ぶんかつ3周年記念　2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」
- 開 催 日　4年2月10日
- 開催場所　東京国立博物館　本館地下教育スペース（オンラインでのライブ配信及びYouTubeでのアーカイブ配信を実施）
- 主　　催　文化財活用センター
- 共　　催　日本博物館協会
- 参加者数　478人
- 事業内容　非営利セクターであるミュージアムが外部から支援を得て館の活動を継続・発展していくことの意味について考えるとともに、多様なファンドレイジング活動に取り組むミュージアムの担当者と活動に込めた想いや現状を共有し、目指すべき姿を探った。

【本部文化財防災センター】　1件

○ICOM-DRMC(国際博物館会議 博物館防災国際委員会)年次大会-東日本大震災から10年。今、博物館と文化財の防災を考える-
- 開 催 日　11月4日、11月6日
- 開催場所　11/4東京国立博物館　平成館大講堂（オンラインでも参加可能なハイブリッド方式）、11/6陸前高田市コミュニティホール
- 主　　催　ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
- 参加人数　11/4 145人、11/6 180人
- 事業内容　「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。

【東京国立博物館】　2件

○ICOM-DRMC年次大会（基調講演・研究発表）
- 開 催 日　11月4日
- 開催場所　東京国立博物館　平成館大講堂（オンラインでも参加可能なハイブリッド方式）
- 主　　催　ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
- 参加人数　145人（現地参加　60人、オンライン参加　85人）
- 事業内容　「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。

○国際シンポジウム　ミュージアムとオンライン 実践と展望
- 開 催 日　4年1月29日
- 開催場所　東京国立博物館　平成館大講堂（オンラインでのライブ配信及びYouTubeでのアーカイブ配信を実施）
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　613人（参加者数はライブ配信視聴者及びYouTubeでのアーカイブ配信再生回数）
- 事業内容　国内外のミュージアム関係者とともに、新型コロナウイルスの感染拡大の中で各国のミュージアムが挑戦し、実践した「オンライン事業」の事例を紹介するとともに、その将来像を展望した。

【京都国立博物館】　2件

○ICOM-DRMC年次大会
- 開 催 日　11月4日～7日
- 開催場所　東京国立博物館、陸前高田市コミュニティホール
- 主　　催　ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
- 参加人数　325人（11月4日（東京開催）145人、11月6日（岩手開催）180人）
- 事業内容　「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。
「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝～東日本大震災後10年目における博物館活動の再生と創造」をテーマとして、事例発表とパネルディスカッションを実施した。また、岩手県立博物館や東日本大震災津波伝承館、陸前高田市立博物館などを見学した。

○国際シンポジウム　敦煌写経研究の現在
- 開 催 日　4年3月19日
- 開催場所　オンライン（Zoomウェビナーの利用）／京都国立博物館
- 主　　催　京都国立博物館
- 参加人数　1,013人（事後の視聴も含む）
- 事業内容　シルクロード研究の重要な一端である「敦煌写経」をテーマとして、国内外の研究者を交えて発表・討論等を行い、今後の展望や課題を検討するとともに、研究者の国際的な情報交換やネットワークづくりの機会とした。

【奈良国立博物館】　0件

【九州国立博物館】　2件

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2021
- 開 催 日　8月7日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　26人(参加校関係者数)
- 事業内容　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッションにて発表。
「現代における庚申信仰のあり方と課題」群馬県立高崎北高等学校(JRC部歴史研究班)、「福島県相馬市の官軍墓地」福島県立相馬高等学

校(郷土部)、「現代人から見る弥生絵画」奈良県立橿原高等学校(考古学研究部)、「皇女和宮と口紅と将軍家茂」埼玉県立熊谷西高等学校、「江戸時代の疫病と考古資料」福岡県立糸島高等学校(歴史部)、「中世壱岐の深江田原平野の衰退原因に関する一考察」長崎県立壱岐高等学校(東アジア歴史・中国語コース)、「甲斐武田氏の津久井信仰と街道からみる深大寺城再興の目的」法政大学第二高等学校(社会科学・歴史研究部)、「栃木県北部における烽跡の推定」栃木県立矢坂東高等学校(リベラルアーツ同好会)、「歴史上における関門海峡の地理的重要性について」福岡県立八幡高等学校、「九州最古!?あの夏目漱石も愛した!筑前国二日市温泉」九州産業大学付属九州産業高等学校(史跡探索研究部)

○公開シンポジウム　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄 ― 大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代 ―」

開 催 日　4年3月5日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館・福岡県、福岡大学考古学研究室
参加者数　120人
事業内容　「宋元代沈没船に積載された大量の鉄素材」や「琉球諸島・日本列島で出土した棒状鉄製品」を手がかりに、東アジアの鉄流通の実態を探るというテーマに基づき、シンポジウムを開催した。

【東京文化財研究所】　1件

○国際シンポジウム「東南アジアの木造建築遺産の保存修理」

開 催 日　11月21日
開催場所　オンライン／東京文化財研究所
主　　催　東京文化財研究所
参加者数　56人
事業内容　東南アジア地域における木造建築保存の方法論の特徴や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム　無形文化遺産研究の進展と課題- 持続可能な未来に向けて-

開 催 日　10月29日
開催場所　オンライン
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)、文化庁
参加者数　95人
事業内容　IRCIと協力関係にあったアジア太平洋地域の無形文化遺産の専門家を招き、無形文化遺産保護に関する研究について報告を行い、現在の無形文化遺産研究の動向、今後の課題について、議論を行った。またIRCIの開設以来10年の事業を振り返り、今後のIRCIの無形文化遺産研究に関する研究活動の方向性を議論した。

○国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献～より良い学びと持続的可能なまちづくりに向けて～」

開 催 日　12月22日
開催場所　オンライン
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数　44人
事業内容　無形文化遺産、教育、コミュニティとの関連性と無文化遺産のSDG4およびSDG11達成に果たす役割に関して、バングラデシュ、インドネシア、キルギス及び日本各地の事例研究を共有した。また事業成果を一般に共有するとともに、日本の教育関係・若者に無形文化遺産保護とSDGsについて学び、海外の研究者や専門家と交流する機会を提供した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 4 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
511 件	280 件	139 件	71 件	48 件	22 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	211 件	35 件		176 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0 件	9 件		11 件	

【本部文化財活用センター】 9件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 4 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	回顧と展望（中世美術）	『史学雑誌』130 編 5 号	史学会	5月20日	有
2	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	美術工芸にみる日本スポーツの源流（作品解説ほか）	特別企画「スポーツ NIPPON」リーフレット	東京国立博物館	7月13日	無
3	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	観音懺法と観音変相図	特集『江戸時代にもたらされた中国書画』小冊子	東京国立博物館	9月7日	無
4	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	巻九・巻十上・巻十六 校訂	『校訂 原本 古画備考』（全五巻）	思文閣出版	2月22日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 5件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	文化財活用センターデジタル資源担当課長 村田良二	ColBase—国立文化財機構所蔵品統合検索システムについて	博物館研究 Vol.56 No.9	日本博物館協会	8月25日	無
2	同上	文化財活用センターデジタル資源担当課長 村田良二	「ColBase」におけるデータの公開について	文化財写真研究 Vol.11	文化財写真技術研究会	11月11日	無
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター保存担当課長 吉田直人	4 年目を迎えた文化財活用センター保存担当の活動と課題	文化財の虫菌害 第 82 号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	12月26日	無
4	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員 間渕創	博物館・美術館におけるカビのモニタリングとリスク低減の実践	博物館研究 643 号	日本博物館協会	12月25日	無
5	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員 間渕創、同保存担当課長 吉田直人	代替消毒法に用いられる製品からの揮発性物質が文化財へ与える影響についての調査事例	保存科学第 61 号	東京文化財研究所	4年3月	有

【本部文化財防災センター】11件

○文化財防災に関する調査研究 11 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	民俗芸能の被災と再開	文化財の虫菌害 No.81 令和 3 年 6 月号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	6月30日	無
2	同上	文化財防災センター研究員 黄川田翔	国内外の博物館・美術館における災害対策の現状と比較	文化財の虫菌害 No.81 令和 3 年 6 月号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	6月30日	無
3	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財レスキューの現状と今後の展望	考古学研究第 68 巻（3 号）	考古学研究会	12月30日	無
4	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業から文化財防災ネットワーク推進事業を経て文化財防災センター設立まで	第 7 回全国史料ネット研究交流集会報告書	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	4年2月1日	無
5	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、日高真吾	レスキューに関わった側として・宮城県 システマチックな文化財レスキューを超えて	第 7 回全国史料ネット研究交流集会報告書	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	4年2月1日	無
6	同上	文化財防災センター研究員 水谷悦子、文化財防災 PT 東文研保存科学研究センター室長 秋山純子、東文研研究員 芳賀文絵他	プレハブ式高気密高断熱収蔵庫における アセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気量による低減	保存科学 61 号	東京文化財研究所	4年3月31日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財を災害からまもる―文化財防災スパイラルによる文化財の継承―	ベース設計資料 No. 190	建設工業調査会	4年3月20日	無
8	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、日高真吾	郷土芸能の持つ力	地域文化から考える復興の姿	国立民族学博物館日高研究室	4年3月14日	無
9	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、日高真吾	様々な資料の保全④:有形民俗文化財	歴史文化資料保全コーディネイター講座テキストブック	歴異文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大拠点	4年3月25日	無
10	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、日高真吾	様々な資料の保全⑤:無形民俗文化財	歴史文化資料保全コーディネイター講座テキストブック	歴異文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大拠点	4年3月25日	無
11	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、瀧川浩樹、李善姫、福田雄	東日本大震災の影響に関する無形民俗文化財アンケート調査報告	無形文化遺産研究報告第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	無

【東京国立博物館】139件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　125件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	津波被災した木製彩色資料「算額」の展示活用を目的とした保存修復－3D 技術を用いた欠損箇所の復元－	文化財保存修復学会　第43回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
2	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	海水被害を受けた木質文化財中の残留塩化物の測定基準となる検量線の作成	文化財保存修復学会　第43回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
3	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、調査分析室専門職　宮田将寛	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復-旧調査記録を元にした欠失箇所の復元-	文化財保存修復学会　第43回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
4	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美、環境保存室長　和田浩、調査分析室専門職　宮田将寛	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した 東京国立博物館の活動に関する総括	文化財保存修復学会　第43回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
5	同上	企画課出版企画室アソシエイトフェロー　村松綾	近世初期の都市バーゼルにおける市民と金工	比較都市史研究 40	比較都市史研究会	12月	有
6	同上	企画課出版企画室アソシエイトフェロー　村松綾	第7章　中世後期スイスの緩やかな政治的結合体－立役者、盟約者団代表者会議が果たした役割	高山博・亀長洋子編 中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較	東京大学出版会	4年3月	無
7	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	高階秀爾氏を囲む座談会「文人性と文人画 近代日本への継承と海外での受容～アンドレ・マルローが注いだ眼差しを発端に」	『浦上玉堂関係叢書　浦上玉堂親子の藝術 別冊』	浦上家史編纂委員会	5月	無
8	同上	調査研究課長　松嶋雅人	犬のいない甲巻―ふたたび問う、鳥獣戯画がマンガを生んだのか？	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
9	同上	調査研究課長　松嶋雅人	日本美術の花と乃木坂46	「春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46」図録	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント	9月4日	無
10	同上	調査研究課長　松嶋雅人	長谷川等伯筆「波濤図」をめぐる諸問題	国華	国華社	9月17日	無
11	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	美を紡ぐ　国宝「普賢菩薩像」	月間経団連 2021 年 12 月号	日本経済団体連合会	12月1日	無
12	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	法隆寺金堂壁画と百済観音	仏教文化第 60 号	東京大学仏教青年会	4年3月31日	無
13	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	中世律宗絵画試論	東京国立博物館紀要第 57 号	東京国立博物館	4年3月31日	無
14	同上	博物館教育課ボランティア室主任研究員　金井裕子	「美を紡ぐ　『大原御幸図屏風』」	「月刊　経団連」2021 年 4 月号	日本経済団体連合会	4月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	埼玉県皆野町稲荷塚古墳の研究－単鳳環頭大刀を中心に－	MUSEUM 693 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
16	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	論文展望 日本列島における古墳時代の鉄柄斧	季刊考古学 175 号	雄山閣	11 月 1 日	無
17	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	－	作って学ぼう！日本の歴史ペーパークラフト 古代編	あかね書房	7 月 12 日	無
18	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	今から始める古墳入門	週刊アサヒ芸能 3806 号	徳間書店	9 月 9 日	無
19	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池望	巴形銅器の系譜と展開	古代学研究第 229 号	古代学研究会	7 月 26 日	有
20	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池望	有鉤銅釧生産の展開	考古学研究第 68 巻第 3 号	考古学研究会	12 月	有
21	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池望	青銅器の流通と高地性集落	季刊考古学第 157 号	㈱雄山閣	11 月 1 日	無
22	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	「鳥獣戯画」制作年代の再検討	『ユリイカ』53 巻 4 号	青土社	4 月 1 日	無
23	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」　ハイクラス鑑賞法	『茶道雑誌』85 巻 4 号	河原書店	4 月 1 日	無
24	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	「国宝　鳥獣戯画のすべて」展全 5 巻全場面を一堂に　モノクロームの美を堪能	公明新聞	－	4 月 8 日	無
25	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	一歩踏み込んで見る　鳥獣戯画のすべて	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
26	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画の真像－平安絵巻としての丙巻人物戯画－	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
27	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画甲巻の「すべて」－断簡・模本によるかつての姿の復原－	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
28	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	嶋殿へ―明恵上人と紀州苅藻島、鷹島―	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
29	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	和歌山浄教寺と明恵上人ゆかりの文化財	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
30	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画八〇〇年の生命誌	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
31	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	華厳宗祖師絵伝と明恵上人をめぐる人びと	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無
32	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画年表稿　附、甲巻系断簡の伝来について	『MUSEUM』691 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
33	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	「鳥獣戯画」の全貌を知る、史上空前の展覧会	『美術の窓』451 号	生活の友社	4 月 20 日	無
34	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	5 つのテーマで読み解く鳥獣戯画の魅力　③筆者像	『時空旅人別冊　鳥獣戯画の世界』	三栄	5 月 22 日	無
35	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画　抗いがたいその魅力	『七緒』67 号	プレジデント社	9 月 7 日	無
36	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	魔仏一如―中世の天狗の実像―	特別展「最澄と天台宗のすべて」図録	読売新聞社	10 月 12 日	無
37	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	似絵における「写実」の再検討―水無瀬神宮の「後鳥羽天皇像」を手がかりに―	『美術フォーラム 21』44 号	醍醐書房	12 月 10 日	無
38	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	趙孟頫の絵画	没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―	台東区立書道博物館	4 年 1 月 4 日	無
39	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	管道昇と墨竹	没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―	台東区立書道博物館	4 年 1 月 4 日	無
40	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	明・清時代における趙孟頫山水画理解	没後 700 年 趙孟頫とその時代―復古と伝承―	台東区立書道博物館	4 年 1 月 4 日	無
41	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	洞天福地への旅	コレクションとアーカイヴ	勉誠出版	4 年 1 月	無
42	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	「沈銓らしさ」の形成と継承	特集　江戸時代にもたらされた中国書画	東京国立博物館	9 月 7 日	無
43	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	清・銭杜筆　四囲山色一層楼図巻	国華 1510 号	国華社	8 月	無
44	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	「平家納経」込められた祈り	墨 270 号	芸術新聞社	6 月 1 日	無
45	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経を考える 4 厳王品	ビオ・シティ 87 号	ブックエンド	7 月 6 日	無
46	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	女性と写経 1 光明皇后御願五月十一日経	ビオ・シティ 88 号	ブックエンド	10 月 7 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
47	同上	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	「伊万里焼吸坂手についての一考察　―東京国立博物館所蔵の作例を中心に」	『東京国立博物館紀要』第57号	東京国立博物館	4年3月31日	無
48	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	乙巻の馬はどこから来たのか－東アジアの馬比べ	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
49	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	酒井抱一が見た鳥獣戯画－MIHO MUSEUM断簡と抱一筆「鳥獣戯画写」	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
50	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	白描画としての鳥獣戯画－線描の妙技	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
51	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	高山寺経蔵と白描図像－鳥獣戯画の移入をめぐって	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
52	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	鳥獣戯画の筆致	『時空旅人別冊 鳥獣戯画の世界』	三栄	5月22日	無
53	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	天台僧の入唐求法－天台山と五台山	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
54	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	智証大師円珍と園城寺（三井寺）	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
55	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	法華経の功徳と荘厳	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
56	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて	『美術の窓』457号	生活の友社	10月20日	無
57	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	作品解説「金剛界八十一尊曼荼羅」「不動明王像（青不動）」「阿弥陀聖衆来迎図」	別冊太陽『伝教大師1200年大遠忌記念 最澄と天台宗のこころ』	平凡社	4年1月10日	無
58	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	大和文華館所蔵「日吉山王宮曼荼羅図」について	『大和文華』140号	大和文華館	4年2月28日	有
59	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	山城地域からみた前期前方後方墳の性格	季刊考古学別冊34	雄山閣	5月31日	無
60	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	たつの市龍子三ツ塚1号墳の土器とその配置再論	東生第9・10号	東日本古墳確立期土器検討会	10月20日	無
61	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	五塚原古墳前方部東南隅角の基底石列について	五塚原古墳の研究	向日市埋蔵文化財センター	11月26日	無
62	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	五塚原古墳出土土器と乙訓地域（再掲）	五塚原古墳の研究	向日市埋蔵文化財センター	11月26日	無
63	同上	保存修復課保存修復室研究員　佐藤萌、	服飾文化財に用いられたプラスチックの同定と収蔵方法の改善	Fashion Talks...第13号	京都服飾文化研究財団	10月29日	無
64	同上	調査研究課考古室長　品川欣也	触れることのできる国宝の作成	月刊文化財	第一法規株式会社	4月25日	無
65	同上	調査研究課考古室長　品川欣也	みんなの縄文	令和3年度青森県私立幼稚園教員研修大会講演会	一般社団法人青森県私立幼稚園連合会	8月10日	無
66	同上	調査研究課東洋室長　市元塁	副葬容器からみた北周政権の主流派と復古	『滋賀県立大学考古学研究室論集』Ⅰ	滋賀県立大学考古学研究室	6月30日	無
67	同上	調査研究課東洋室長　市元塁	龍のはじまり／饕餮／鳳凰／四神	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	9月14日	無
68	同上	調査研究課東洋室長　市元塁	北魏北辺地帯の六鈴付垂飾	『MUSEUM』694号	東京国立博物館	10月15日	有
69	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	元人冠冕耀丹青	典蔵・古美術353	典蔵	4年2月1日	無
70	同上	上席研究員　勝木言一郎	人面を持つ鳥／有翼人物	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	9月14日	無
71	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池　望	梅ケ畑遺跡出土銅鐸	リーフレット京都（389）	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	6月	無
72	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　菊池　望	弥生時代青銅器生産研究における諸問題 -土製鋳型の採用とその意義-	国立歴史民俗博物館共同研究公開セミナー要旨集 近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会	国立歴史民俗博物館	4年2月23日	無
73	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	女性と写経2 吉備由利願経	ビオ・シティ89号	ブックエンド	4年1月17日	無
74	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	後鳥羽天皇宸翰 熊野懐紙「深山紅葉、海辺冬月」	陽明文庫講座 図録3	東京大学資料編纂所・公益財団法人陽明文庫	4年2月5日	無
75	同上	博物館情報課長　今井敦	三の丸尚蔵館所蔵の中国陶磁について	三の丸尚蔵館年報・紀要第27号	宮内庁	4年3月25日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
76	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	聖徳太子の美術	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
77	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	法隆寺金堂諸仏に関する新知見	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
78	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	二つの厨子	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
79	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	聖徳太子信仰の宝物	時空旅人　７月号	株式会社三栄	7 月	無
80	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展　聖徳太子と法隆寺	雑誌　うえの　第 745 号	上野のれん会	7 月	無
81	同上	調査研究課主任研究員　三田覚之	法隆寺金堂薬師如来像台座画の想定復元について	MUSEUM　第 693 号	東京国立博物館	8 月	有
82	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	赤彩台付壺形土器	國華第一五〇八號	國華社	6 月 20 日	無
83	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	近畿地方南部地域における弥生中期から後期への移行過程の検討	国立歴史民俗博物館研究報告第 231 集	国立歴史民俗博物館	4 年 2 月 25 日	有
84	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	ヤポンセ・ロック―ヨーロッパに渡った「日本着物」―	国際服飾学会誌 No.59	国際服飾学会	7 月 31 日	無
85	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	Japanese rok: Japanese Kimono traded in Europe	国際服飾学会誌 No.59	国際服飾学会	7 月 31 日	無
86	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	EDO　MODE　No.1－8	富山新聞、福井新聞など	共同通信社	8 月 1 日～4 年 1 月 31 日	無
87	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	「きもの KIMONO―Fashioning Identities―」展	Fashion Talks…　第 13 号	公益財団法人京都服飾文化財団	10 月 29 日	無
88	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	きものと染めの歴史	染織 1 染を知る（はじめて学ぶ芸術の教科書）	京都芸術大学東北芸術工科大学 出版局藝術学舎	4 年 3 月 10 日	無
89	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	関市春日神社の能装束	春日神社文化財詳細調査報告書	関市文化財保護センター	4 年 3 月 27 日	無
90	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	報告 3　Fashioning Identities としての「きもの」―特別展「きもの　KIMONO」展と東京国立博物館での「きもの」の展示―	服飾美学　№63	服飾美学会	4 年 3 月 31 日	無
91	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	染織ディーラーとしての山中商会―アメリカにおける活動を中心に―	調査研究報告　基盤研究（A）（一般）（平成 27 年度～平成 31 年度）「日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究」	東京国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
92	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	『小山林堂書画文房図録』―市河米庵の眼差し	特集　江戸時代にもたらされた中国書画	東京国立博物館	9 月 7 日	無
93	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	空想動物と神仙世界	博物館でアジアの旅 空想動物園	東京国立博物館	9 月 14 日	無
94	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	元時代の文人書法	没後 700 年　趙孟頫とその時代―復古と伝承―	公益財団法人台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
95	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	趙孟頫書法の受容―文徴明と董其昌の褒貶―	没後 700 年　趙孟頫とその時代―復古と伝承―	公益財団法人台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
96	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	コラム　インド神話の動物	博物館でアジアの旅　空想動物園	東京国立博物館	9 月 14 日	無
97	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	文殊五尊像の形成と展開	哲学　第 148 集	三田哲学会	10 月 23 日	無
98	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	4 年 1 月 2 日	無
99	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説	特集「今年はトーハク 150 周年!めでタイガー!!」リーフレット	東京国立博物館	9 月 14 日	無
100	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	「博物館に初もうで　今年はトーハク 150 周年！めでタイガー！！」	『うえの』第 751 号、36～37 頁	上野のれん会	4 年 1 月 1 日	無
101	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	三ツ塚古墳群出土漆塗り革袋の X 線 CT 調査	橿原考古学研究所紀要 考古學論攷　第４５冊	奈良県立橿原考古学研究所	4 年 3 月 18 日	無
102	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	第三章第一節　蛍光Ｘ線分析調査	関市春日神社文化財詳細調査報告書	関市	4 年 3 月 28 日	無
103	同上	副館長　富田淳	蘭亭十三跋について	趙孟頫とその時代－復古と伝承－	公益財団法人台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
104	同上	副館長　富田淳	趙孟頫と中峰明本一両巨匠の邂逅時期について－	趙孟頫とその時代－復古と伝承－	公益財団法人台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
105	同上	副館長　富田淳	趙孟頫蘭亭十三跋の焼残時期について	東風西声第 17 号	九州国立博物館	4 年 3 月	無
106	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	近畿地方中部における二重口縁壺の系列と変遷―集落域および周溝墓・小型古墳出土の中小型資料を中心に―	考古學雜誌	日本考古學會	4 年 3 月 30 日	有
107	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	調査研究課東洋室長　市元塁	蘆家屯 3 号磚墓―館蔵遼東出土資料の研究（1）―	『MUSEUM』691 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
108	同上	学芸研究部長　救仁郷秀明	惟肖得巌賛李白観瀑図試論―馬遠派観瀑図の受容	コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	勉誠出版	12 月 28 日	無
109	同上	特任研究員　田沢裕賀	アーカイヴとしての狩野派模本	コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	勉誠出版	12 月 28 日	無
110	同上	特任研究員　田沢裕賀	書籍紹介　岩崎均史編『日本書誌学体系 110　大小図輯』	『浮世絵芸術』183	国際浮世絵学会	4 年 1 月 20 日	無
111	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	客員研究員　谷豊信	藤田亮策「楽浪封泥攷」の図版をめぐって	『考古学雑誌』第 104 巻第 1 号	日本考古学会	12 月 1 日	有
112	同上	列品管理課平常展室主任研究員　小野塚拓造	そこにいた人たち―「ファウヌスの家」のモザイク装飾をめぐる雑感	特別展「ポンペイ」図録	朝日新聞社 NHK NHK プロモーション	4 年 1 月	無
113	同上	列品管理課平常展室主任研究員　小野塚拓造	後期鉄器時代城塞とローマ時代ユダヤ人村落の調査―イスラエル国テル・レヘシュ第二期調査（2013～2017）―	第 29 回西アジア発掘調査報告会報告集―令和 3 年度 考古学が語る古代オリエント	日本西アジア考古学会	4 年 3 月	無
114	特別展「国宝　聖林寺十一面観音 -三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ	うえの　通巻 744 号	上野のれん会	6 月 1 日	無
115	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	十一面観音―あらゆる方向を見渡す仏―	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
116	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	聖林寺十一面観音菩薩立像　明治十九年の調査	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
117	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	大御輪寺伝来の玄賓庵不動明王坐像	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
118	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	乾漆造り―漆が生み出すかたち―	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
119	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史	中世の大神神社の神宮寺と密教	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
120	特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	法隆寺伝来の聖徳太子絵伝	特別展「聖徳太子と法隆寺」図録	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
121	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	聖徳太子と天台宗	特別展「最澄と天台宗のすべて」図録	読売新聞社	10 月 12 日	無
122	博物館環境デザインに関する調査研究	上席研究員　木下史青	近代建築の中で日本工芸を照らす灯り ―特別展 工藝 2020 の照明デザイン	「博物館展示新趨勢」専書出版計畫　New Trends in Museum Exhibitions	國立科學工藝博物館 National Science and Technology Museum	6 月	有
123	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー　山本桃子	多文化共生を実現するためのミュージアムの役割 -フィンランドの文化事業と学芸員インタビューから-	『早稲田教育評論』36 巻	早稲田大学教育総合研究所	4 年 3 月 31 日	有
124	同上	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー　山本桃子	オブジェクト介在型学習による分野横断型学習と科学技術コミュニケーション―学術・文化コモンズとしての大学博物館の機能に着目して―	『科学技術コミュニケーション』30 巻	北海道大学 CoSTEP 内科学技術コミュニケーション編集委員会	4 年 3 月	有
125	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	上席研究員（兼）広報室長 鬼頭智美	欧米が見た鳥獣戯画	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　14件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課環境保存室長　和田浩	3 次元データを利用した文化財の地震対策	教職課程センター紀要 第 6 号	大東文化大学	12月1日	無
2	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究	第 59 回全日本包装技術研究大会予稿集	日本包装技術協会	12月2日	無
3	同上	保存修復課環保存修復室研究員　野中昭美、環境保存室長　和田浩、調査分析室専門職　宮田将寛	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	文化財保存修復学会第 43 回大会発表集	文化財保存修復学会	7月3日	無
4	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課環境保存室長　和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会第 43 回大会発表集	文化財保存修復学会	7月3日	無
5	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風の展示用支持具の耐震効果についての検証	日本展示学会第 40 回大会研究発表梗概集	日本展示学会	6月13日	無
6	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究	日本機械学会 2021 年度年次大会要旨集	日本機械学会	9月7日	無
7	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究	日本包装学会第 30 回年次大会研究発表会	日本包装学会	7月1日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション	日本文化財科学会第 38 回大会究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
9	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	3D モデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究	文化財保存修復学会第 43 回大会発表集	文化財保存修復学会	7月3日	無
10	同上	保存修復課環境保存室長　和田浩	法隆寺金堂壁画における壁画の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討-	日本文化財科学会第 38 回大会究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
11	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課環境保存室長　和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会第 43 回大会発表集	文化財保存修復学会	7月3日	無
12	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課環境保存室長　和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会誌 65 号	文化財保存修復学会	4年3月31日	有
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー　酒井晶	Digitizing disparity in the museum. The object-based research in the Tokyo National Museum	University Heritage（https://universityheritage.eu/）	University Heritage	8月	無
14	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤　楽子	海を渡った作品のその後とニール号沈没の影響――関連資料紹介とともに	ペーター・パンツァー、沓澤宣賢、宮田奈奈編『1873 年ウィーン万国博覧会 ――日墺からみた明治日本の姿』	思文閣出版	4 年 3 月 25 日	無

【京都国立博物館】71件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　46件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展 「京の国宝」に関する調査研究	列品管理室研究員　森道彦	「最初の国宝」	『なにわ』793 号	大阪府警察	6月29日	無
2	同上	同上	総説　国宝一三〇年	『特別展　京の国宝―守り伝える日本の宝―』図録	文化庁、京都国立博物館、読売新聞社	7月24日	無
3	同上	同上	明治初期の京都と宝物写真（コラム）	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	夢の京都博物館（コラム）	同上	同上	同上	無
5	特別展 「畠山記念館の名品」に関する調査研究	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	與衆愛玩―畠山即翁の想いと数寄者の交友―	『特別展　畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―』	日本経済新聞社・NHK 京都放送局・NHK エンタープライズ近畿、京都国立博物館	10月	無
6	同上	同上	数寄者との交流	同上	同上	同上	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	同上	同上	「重要文化財　井戸茶碗　銘細川」	『なにわ』796 号	大阪府警察	10月	無
8	同上	同上	「與衆愛玩 畠山即翁蒐集の名物道具と数寄者と交友」	『茶道雑誌』85－10	河原書店	10月	無
9	同上	企画室長　山川暁	加賀前田家の能装束	同上	同上	同上	無
10	同上	教育室長　永島明子	未詳の蒔絵師「不尽」の在銘作品	同上	同上	同上	無
11	同上	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁	同上	同上	同上	無
12	同上	同上	「四季花木図屏風　渡辺始興筆」	『なにわ』797 号	大阪府警察	11月	無
13	特別展 「最澄と天台のすべて」に関する調査研究	保存修理指導室長　大原嘉豊	天台宗と京都―平安京が生んだ教線の拡大と絆	『最澄と天台のすべて』図録	東京国立博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	10月12日	無
14	同上	同上	コラム　天台にみる神仏習合―日吉山王信仰	同上	同上	同上	無
15	同上	同上	コラム　天台真盛宗―真盛と坂本・西教寺	同上	同上	同上	無
16	同上	教育室長　永島明子	コラム　勅封唐櫃	同上	同上	同上	無
17	特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」に関する調査研究」	同上	作品解説等	『なにわ』792 号	大阪府警察	5月28日	無
18	特集展示「後期古墳の実像 ―播磨の首長墓・西宮山古墳―」に関する調査研究	研究員　古谷 毅	時代概説、用語概説、コラム、作品解説等	『西宮山古墳 -西播磨の首長墓-』	京都国立博物館	12月24日	無
19	同上	同上	作品解説等	『なにわ』800 号	大阪府警察本部	4年1月28日	無
20	特別公開「四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産 -辰砂と鉄-」に関する調査研究	同上	展示概説、コラム	『四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産 -辰砂と鉄-』（展示解説リーフレット）	京都国立博物館	4年1月	無
21	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	企画室長　山川　暁	「御所人形　宝車引き」	『なにわ』801 号	大阪府警察	4年2月	無
22	同上	同上	「染織品に見る大航海時代―龍光院所蔵品から―」（講演録）	『秀明美術』23	秀明文化財団	4年3月	無
23	同上	同上	《展覧会評》「きもの　KIMONO -Fashioning Identities-」展	『服飾美学』68	服飾美学会	4年3月	無
24	同上	教育室主任研究員　水谷亜希	「竹虎図　尾形光琳筆」	『なにわ』800 号	大阪府警察	4年1月	無
25	同上	同上	「寅づくし―干支を愛でる」	文化庁広報誌「ぶんかる　」（文化財のトビラ）4 年 1 月号	文化庁	4年1月	無
26	同上	同上	「虎と日本美術」	『公明新聞』	-	4年1月	無
27	同上	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	「伊藤若冲《果蔬涅槃図》のレトリック」	『美術フォーラム 21』44 号	醍醐書房	12月	有
28	同上	同上	作品解説等	『トラりんと学ぶ　日本の美術④　異国への憧れ』	淡交社	5月	無
29	同上	同上	「画題を知る　雛祭・曲水宴・西王母」	『絵の掛物』3 月号	淡交社	3月	無
30	同上	同上	「画題を知る　桜・井手の玉川・勿来関」	『絵の掛物』4 月号	淡交社	4月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
31	同上	同上	「画題を知る　菖蒲・東下り、八橋・薬玉」	『絵の掛物』5 月号	淡交社	5月	無
32	同上	同上	「画題を知る　夏越の祓・小野道風・蟻通」	『絵の掛物』6 月号	淡交社	6月	無
33	同上	同上	「画題を知る　七夕・祇園祭・太公望」	『絵の掛物』7 月号	淡交社	7月	無
34	同上	同上	「画題を知る　蓮・放生会・駒牽」	『絵の掛物』8 月号	淡交社	8月	無
35	同上	同上	「画題を知る　重陽・猿猴捉月・木賊兎」	『絵の掛物』9 月号	淡交社	9月	無
36	同上	同上	「画題を知る　豆名月・宇津山・臥猪」	『絵の掛物』10 月号	淡交社	10月	無
37	同上	同上	「画題を知る　楓林停車・御火焚・新嘗祭、五節」	『絵の掛物』11 月号	淡交社	11月	無
38	同上	同上	「画題を知る　忠臣蔵・香炉峰・追儺、大祓」	『絵の掛物』12 月号	淡交社	12月	無
39	同上	同上	「画題を知る　忠臣蔵・香炉峰・追儺、大祓」	『絵の掛物』12 月号	淡交社	12月	無
40	同上	企画室研究員　井並林太郎	「絵巻としての鳥獣戯画―場面展開の妙味―」	『特別展　国宝　鳥獣戯画のすべて』	東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
41	同上	調査・国際連携室研究員　上杉智英	「日本における法蔵『起信論疏』の流伝（韓国語）」	『刊経都監本 法蔵 大乗起信論疏 校勘本 研究』	京福大學校出版部	5月	無
42	同上	企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル	国宝　世説新書巻第六残巻	『なにわ』795 号	大阪府警察	8月30日	無
43	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	企画室長　山川曉、企画室研究員　井並林太郎、列品管理室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男、調査・国際連携室研究員　上杉智英、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也	絵画・書跡・陶磁・金工・漆工・染織・歴史資料に関する調査報告	『社寺調査報告　30　金剛寺』	京都国立博物館	7月	無
44	博物館教育に関する調査研究	教育室長　永島明子	近代漆芸と教育に関する論考「京都の漆器産業が辿った近代」	『開館 40 周年記念企画展 第 2 弾　美術の教育／教育の美術』	京都工芸繊維大学　美術工芸資料館	10月	無
45	同上	教育室主任研究員　水谷亜希	「コロナ禍で再認識した「さわる」「話す」の重要性」	『美術による学び』第 2 巻第 8 号	日本・美術による学び学会	4月	有
46	同上	同上	「〈作る・見る・語る〉が交錯する場所」	『美術を作る・見る・語る―美術と社会のつながりを考える―』	京都歴史文化施設クラスター実行委員会・京都市学校歴史博物館	5月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　25件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1.	その他有形文化財に関連する調査研究	館長　松本伸之	UNE CEUVRE MONUMENTALE DE TOSHIHIRO HMANO・LA VIE ILLUSTRÉE DU PRINCE SHŌTOKU	『TOSHIHIRO HAMANO ESPRIT ET FORM DU JAPON』	フランス・ナント歴史博物館	7 月	無
2.	同上	学芸部長　尾野善裕	飛鳥時代の土器編年再考補論	『學叢』第 43 号	京都国立博物館	6 月 10 日	無
3.	同上	同上（共著：奈良文化財研究所　森川実）	大官大寺金堂下層の土器	『奈良文化財研究所紀要 2021』	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
4.	同上	同上	猿投窯系須恵器編年の再編と下り松瓦窯の操業年代―須恵器から見た西三河の鋸歯文縁複弁蓮華文軒丸瓦―	伊保廃寺発掘調査報告書	名古屋大学大学院人間環境学研究科考古学研究室	4 年 3 月	無
5.	同上	上席研究員　淺湫毅	男神立像（伝摩多羅神）　静岡市・鉄舟寺	『神像彫刻重要資料集成 第一巻［東日本編］』	国書刊行会	10 月	無
6.	同上	企画室長　山川曉	自然とともにあることを	『日本伝統工芸会近畿支部会報』33	日本伝統工芸会近畿支部	8 月	無
7.	同上	工芸室主任研究員　末兼俊彦	武士と辟邪と刀剣	『サントリー美術館　開館 60 周年記念展　刀剣もののふの心』	サントリー美術館・読売新聞社	9 月 15 日	無
8.	同上	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	作品解説	『西新井大師こよみ』令和 4 年版	西新井大師総持寺	12 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
9.	同上	列品管理室研究員　森道彦	丹波、亀岡と狩野派の画人たち	『第 37 回特別展　亀岡の名宝』	亀岡市文化資料館	4 年 2 月	無
10.	同上	同上（共編：奥平俊六・門脇むつみ）	作品解説等	『公益財団法人渡辺美術館所蔵品調査報告書(第八回)　中近世絵画（三）』	公益財団法人渡辺美術館	4 年 3 月	無
11.	同上	調査・国際連携室研究員　上杉智英	書評　前島信也『『敬西房信瑞の研究―鎌倉浄土教典籍論―』	『いとくら』第 11 号	国際仏教学大学院大学日本古写経研究所	4 年 3 月	無
12.	同上	前企画室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	京都・誓願寺毘沙門天立像についての一考察	『學叢』第 43 号	京都国立博物館	6 月 10 日	無
13.	同上	研究員　古谷 毅	「流水文細頸壺形土器（大阪府柏原市船橋遺跡）京都国立博物館、弥生時代中期」	『国華』第 1501 号(特輯弥生土器：１２６編４冊)	國華社	6 月	無
14.	同上	同上	「古墳時代の社会と自然 -山と海の信仰-」	『2021 年 京都国立博物館 第 88 回夏期講座-日本人と自然Ⅲ-』（要旨集）	京都国立博物館	7 月 2 日	無
15.	同上	同上	「金属器・埴輪研究の特質と展望（Ⅰ）」「参考引用文献索引・凡例」	『古墳文化基礎論集	古墳文化基礎論集刊行会	12 月 15 日	無
16.	博物館の国際交流に関する調査研究	企画室長　山川曉	ICOM 京都大会がもたらした遺産	『桜蔭会京都支部だより』75	桜蔭会京都支部	10 月	無
17.	文化財多言語化に関する調査研究	主任専門職　リンネマリサ	コラム「多言語併記と書体―デザイン効果を増すために」	『地域の魅力が世界に響く　How to 多言語―解説文整備 文化財・自然・観光資源―』	観光庁	4 年 2 月	無
18.	同上	同上	英語版監修	『文化庁工芸技術記録映画「竹工芸ー飯塚小玕齋のわざー」』	文化庁	4 月	無
19.	文化財と国際交流に関する調査研究	同上	「京都・野村正治郎古美術商の芳名帳から見た大正期における外国人染織コレクター」	『調査研究報告 基盤研究（A）（一般）（平成 27 年度～平成 31 年度）日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究』	東京国立博物館	4 年 3 月	無
20.	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	前調査・国際連携室長　呉孟晋（共著：岡岩太郎）	修理報告　国宝絹本著色宮女図（伝桓野王図）	『學叢』第 43 号	京都国立博物館	6 月	無
21.	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	保存科学室長　降幡順子	放射光高エネルギー蛍光 X 線分析法を用いた平安時代前期の緑釉陶器の胎土分析	『SPring-8/SACLA 利用研究成果集 9』第 3 号	高輝度光科学研究センター	5 月	有
22.	同上	同上	埋蔵環境中の鉄イオンによる奈良三彩胎土への影響に関する研究	『SPring-8/SACLA 利用研究成果集 9』第 4 号	同上	6 月	有
23.	同上	同上	密教法具の科学的調査-金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に-	『日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集』	日本文化財科学会	9 月	無
24.	同上	同上	書評と紹介・高松塚古墳の材料科学	『日本歴史第 886 号』	吉川弘文館	4 年 3 月	無
25.	同上	同上	鉛釉陶器のはじまり-7・8 世紀の出土遺物の化学的特徴から-	『歴史研究の最前線』vol.23,February2022	総合研究大学院大学・国立歴史民俗博物館	4 年 3 月	無

【奈良国立博物館】48件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　40件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	館長　井上洋一	静かなる仏教美術の聖地――奈良国立博物館	『絲綢之路』97	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	10 月	無
2	同上	列品室長　斎木涼子	『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』―真言宗における歴史書成立の背景―	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
3	同上	教育室長　谷口耕生	『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観	『玄奘三蔵―新たなる玄奘像をもとめて』	勉誠出版	12 月 28 日	無
4	同上	教育室長　谷口耕生	東大寺戒壇院扉図研究	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
5	同上	企画室長　中川あや	正倉院宝物模造の世界	『土車』第 141 号	公益財団法人古代学協会	6 月	無
6	同上	企画室主任研究員　山口隆介	「男神立像（伊豆山神社）」「伊豆山権現立像（同）」「伊豆山権現立像（同）」「伊豆山権現立像（同）」「男神立像、女神立像(同)」	『神像彫刻重要資料集成』第 1 巻　東日本編	国書刊行会	10 月	無
7	同上	特任研究員　岩田茂樹	奥出雲・岩屋寺伝来の毘沙門天立像―新出の保安五年在銘平安彫刻―	『MUSEUM』第 692 号	東京国立博物館	6 月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	特任研究員　岩田茂樹 （翻訳：メアリールイン）	"A Newly Restored Image of Eleven-Headed Avalokiteśvara in the Collection of the Museum of Oriental Art, Venice,"	Matter and Image: Studies and Conservation at the Museum of Oriental Art in Venice, ed. Quaderni of the Direzione regionale Musei Veneto 5.	Polo Museale del Veneto	10月	無
9	同上	特任研究員　内藤栄	日本の女神（コラム）	『アジアの女神たち』展覧会図録	龍谷ミュージアム	9月	無
10	同上	特任研究員　内藤栄	四天王寺の舎利信仰（コラム）	聖徳太子千四百年御聖忌記念出版『聖徳太子と四天王寺』	和州総本山四天王寺	11月	無
11	同上	特任研究員　岩田茂樹	作品研究　山口・極楽寺の観音（伝滝見観音）菩薩遊戯坐像	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
12	聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	作品解説	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺』展覧会図録	読売新聞社	4月	無
13	同上	情報サービス室長　宮崎幹子	法隆寺金堂壁画の近現代―写真ガラス原板を中心に―	同上	同上	同上	無
14	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	聖徳太子を描く絵画と法隆寺	同上	同上	同上	無
15	同上	企画室主任研究員　山口隆介	各論　聖徳太子像の造像と救世観音	同上	同上	同上	無
16	同上	企画室主任研究員　山口隆介	法起寺如来立像のＸ線ＣＴスキャン調査を踏まえた再評価（コラム）	同上	同上	同上	無
17	同上	企画室主任研究員　山口隆介	グラビア解説　聖徳太子坐像（伝七歳像）	『聖徳』聖徳太子一千四百年御聖諱法要特別号	法隆寺	4月	無
18	同上	教育室研究員　内藤航	五重塔塔本塑像の世界	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺』展覧会図録	読売新聞社	同上	無
19	同上	教育室研究員　内藤航	グラビア解説　道詮律師坐像	『聖徳』	聖徳宗教学部	7月	無
20	同上	教育室アソシエイトフェロー　翁みほり	聖徳太子と法隆寺	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺』ジュニアガイド	NHK 大阪放送局	4月	無
21	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、企画室長　中川あや、教育室長　谷口耕生、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	作品解説	『特別展　奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―』展覧会図録	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	学芸部長　吉澤悟	奈良国立博物館の考古部門について	同上	同上	同上	無
23	同上	学芸部長　吉澤悟	経塚について（コラム）	同上	同上	同上	無
24	同上	美術室長　岩井共二	奈良博の仏像コレクション―種類と時代―	同上	同上	同上	無
25	同上	教育室長　谷口耕生	奈良博の仏画コレクション	同上	同上	同上	無
26	同上	資料室長　野尻忠	奈良国立博物館所蔵の奈良時代の寺院荘園図について（コラム）	同上	同上	同上	無
27	同上	資料室長　野尻忠	古写経と古代文字史料―奈良博の書跡コレクション―	同上	同上	同上	無
28	同上	情報サービス室長　宮崎幹子	各論　奈良国立博物館と「コレクション」―草創期を中心に―	同上	同上	同上	無
29	同上	企画室主任研究員　山口隆介	興福寺旧蔵の仏像（コラム）	同上	同上	同上	無
30	同上	工芸考古室研究員　三本周作	館蔵の工芸品	同上	同上	同上	無
31	同上	特任研究員　内藤栄	密教法具の旅（コラム）	同上	同上	同上	無
32	同上	教育室アソシエイトフェロー　翁みほり	なぞとき！ざんまいずの探検―あおじしの主を探して―	『特別展　奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―』ジュニアガイド	NHK 奈良放送局	同上	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	教育室アソシエイトフェロー　翁みほり	事業報告　特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」におけるこどもを主対象とした展示理解促進の取り組みについて	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
34	特別展「第 73 回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	作品解説	『第 73 回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月	無
35	同上	学芸部長　吉澤悟	概説　正倉院展と正倉院宝物について	同上	同上	同上	無
36	同上	特任研究員　内藤栄	香印の制作と燃焼の実験（宝物寸描）	同上	同上	同上	無
37	特別展「名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―」に関する調査研究	美術室長　岩井共二、教育室長　谷口耕生、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、教育室研究員　内藤航、美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	作品解説	『名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―』展覧会図録	奈良国立博物館	12 月	無
38	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	本展開催の経緯	『名画の殿堂　藤田美術館展―傳三郎のまなざし―』展覧会図録	同上	同上	無
39	同上	企画室主任研究員　山口隆介	各論　藤田美術館所蔵（奈良・隔夜寺旧蔵）の空也上人立像に関する覚書	同上	同上	同上	無
40	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	教育室アソシエイトフェロー　翁みほり	事業報告　大分県との連携事業遠隔操作ロボット「newme」を活用した学校向けオンライン中継プログラムについて	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	館長　井上洋一	戦渦に巻き込まれたシリア、アフガニスタンの文化財―文化財を預かる博物館の使命	『博物館研究』639 号	日本博物館協会	8 月	無
2	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	訃報　山野勝次先生	『都市有害生物管理』第 11 巻　第 2 号	都市有害生物管理学会	12 月	無
3	同上	特任研究員　内藤栄	館蔵　国宝・刺繍釈迦如来説法図の修理について	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
4	同上	特任研究員　内藤栄、他 2 名	天寿国繍帳の染料調査報告	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
5	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　安藤真理子、他 1 名	調査報告　奈良国立博物館所蔵両界曼荼羅（厨子入）について－X 線 CT 調査の所見とともに－	『鹿園雑集』第 24 号	奈良国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
6	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	保存修理指導室長　荒木　臣紀（共著：金宇大、河野正訓）	埼玉県皆野町稲荷塚古墳出土品の研究―単鳳環頭大刀を中心に―	『MUSEUM』第 693 号	東京国立博物館	8 月	有
7	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫、他 3 名	竹材から得たフラスを用いて加害種を特定する分子生物化学的手法の確立	保存科学　第 61 号	東京文化財研究所	4 月 3 月 31 日	有
8	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫、他 1 名	竹材の害虫についての報告	第 14 回東京文化財研究所無形遺産部 公開学術講座「竹と日本の伝統的な管楽器」報告書	東京文化財研究所	4 年 3 月	無

【九州国立博物館】　22件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	コラム「長崎の黄檗寺院を彩った陳賢の仏画」および作品解説	『特集　江戸時代にもたらされた中国書画』（展覧会図録）	東京国立博物館	9月7日	無
2	同上	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　金城聡子	黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告とX線CT調査報告	『浦添市美術館紀要』17号	浦添市教育委員会　教育部　浦添市美術館	4年3月	無
3	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子、同研究補佐員　山室翔子、井上祥子	コロナ禍におけるオンライン・プログラム	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
4	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　レイチェル・ラム	同形異音語のある中国語固有名詞の英文表記にかかる一考察(2)	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
5	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　崔英花	多言語解説パネルの可読性向上に関する試論-九州国立博物館の多言語対応を中心に-	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
6	特別展「海幸山幸 - 祈りと恵みの風景 - 」	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	作品解説	『海幸山幸 - 祈りと恵みの風景 - 』（展覧会図録）	西日本新聞社、TVQ九州放送	10月9日	無
7	特別展「最澄と天台宗のすべて」	学芸部博物館科学課　アソシエイトフェロー　瓜生翠	作品解説	『特別展　最澄と天台宗のすべて』（展覧会図録）	読売新聞社	10月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　15件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「柳橋水車図の成立をめぐる再考察」	『香雪美術館研究紀要』	香雪美術館	4年3月31日	無
2	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	漢代銅盂の研究―とくに陽鋳の銘文と文様をめぐって―	『中国考古学』21号	日本中国考古学会	12月27日	有
3	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「博物館現場におけるカビ発生予防と発生時の対策」	『博物館研究』56	（公財）日本博物館協会	11月25日	無
4	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「文化財の保存・活用と木質系材質にかかわる諸問題」	『木材保存』48巻1号	（公財）日本木材保存協会	4年1月	無
5	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか、同研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、東京文化財研究所　秋山純子、（一財）九州環境管理協会　大城戸博文、柿本大典、岡部海都	「ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と青色LEDライト、音声、植栽剪定などによる衝突対策の試み」	『環動昆』32巻4号	日本環境動物昆虫学会	3年12月	有
6	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、京都大学生存圏研究所　藤本いずみ、環境機器株式会社　伊藤誠人、京都大学大学院農学研究科　簗瀬佳之、藤井義久	Sex identification of adult bamboo powderpost beetles, *Dinoderus minutus*, based on X-ray computed tomographic observations	『環動昆』32巻4号	日本環境動物昆虫学会	3年12月	有
7	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか、同研究員　渡辺祐基、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香	IPM of Kyushu National Museum: Developing strategies and cooperation.	Integrated Pest Management for Collections, Proceedings of 2021: A Pest Odyssey, The Next Generation	Archetype and Icon	4年2月	有
8	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同課長 木川りか、Canadian Conservation Institute T. Strang	Seasonal changes in the distribution of head capsule size of a silverfish species	Integrated Pest Management for Collections, Proceedings of 2021: A Pest Odyssey, The Next Generation	Archetype and Icon	4年2月	有
9	同上	学芸部企画課長　白井克也	新羅の長頸壺	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
10	文化財の材質・構造等に関する研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（2）香道具	紀要『東風西声』17 号	九州国立博物館	4年3月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「上の原遺跡群第５次調査で出土した赤色顔料について」	『上の原遺跡群　第５次発掘調査報告書』	福岡県田川市教育委員会	4年3月	無
12	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「新井遺跡から出土した赤色顔料について」	『新井遺跡発掘調査報告書』	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	4年3月	無
13	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「福岡県三雲南小路遺跡出土彩画鏡の顔料について」	紀要『東風西声』17 号	九州国立博物館	4年3月	無
14	同上	展示課主任研究員　小澤佳憲	九州国立博物館所蔵の広形銅矛2例	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
15	同上	学芸部長　河野一隆、新潟県立歴史博物館　宮尾亨、東京国立博物館　山本亮	文化財画像の主成分分析と機械学習を活用した人文情報学の実践	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無

【東京文化財研究所】35件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　10件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部主任研究員・安永拓世	与謝蕪村筆「十宜図」(川端康成記念会蔵）の史的位置	『美術研究』434 号	東京文化財研究所	8月	無
2	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純	書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流　二・三	『美術研究』434・435 号	東京文化財研究所	8月 4年1月	無
3	同上	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純	近代日本画の“新古典主義”再考	『近代画説』30 号	明治美術学会	12月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報資料研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第16回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	有
2	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部無形文化財研究室研究員　鎌田紗弓	明治前期東京の歌舞伎囃子方：出演動向および共演関係の解明に向けて	無形文化遺産研究報告　第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	有
3	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	近代における石鎚黒茶の生産と利用	石鎚黒茶製造技術調査事業報告書	愛媛県西条市	4年3月31日	無
4	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能の体系的把握を目的とした芸態研究の可能性	民俗芸能研究　第71号	民俗芸能学会	4年3月31日	有
5	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	生活文化という無形文化遺産	無形文化遺産研究報告　第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	有
6	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美・無形文化遺産部研究補佐員　橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告5	無形文化遺産研究報告　第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	有
7	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	常磐津節《将門》の音楽分析―〈オトシ〉と〈ナガシ〉の機能をめぐって―	桐朋学園大学研究紀要2021年第47集	桐朋学園大学	10月15日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　24件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十一・巻十二）〈巻十一〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	4年3月31日	無
2	同上	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十一・巻十二）〈巻十二〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	4年3月31日	無
3	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	ものの記憶　―記録を遺し伝える―	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』	東京文化財研究所	6月30日	無
4	同上	文化財情報資料部客員研究員　山梨絵美子	油彩画を残し伝える写真をめぐって	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』	東京文化財研究所	6月30日	無
5	同上	文化財情報資料部客員研究員　田中潤	村上藩主内藤家歴代盗取肖像画にみる公家装束	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』	東京文化財研究所	6月30日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	生物科学研究室長・佐藤嘉則	博物館・美術館収蔵物のカビ対策システム化の現状と課題	博物館研究	日本博物館協会	11月25日	無
2	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財の加害生物種特定に向けた新たな試み	木材保存誌	日本木材保存協会	4年3月25日	無
3	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	微生物による文化財の劣化と対策～古墳・洞窟壁画の微生物劣化～	日本防菌防黴学会誌	日本防菌防黴学会	4年3月31日	無
4	同上	研究補佐員・篠崎聡子、AF・島田潤、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	竹材から得たフラスを用いて加害種を特定する分子生物学的手法の確立	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
5	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	研究補佐員・岡部迪子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設における微生物環境管理指針の検討	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
6	文化財の保存環境にかかる調査研究	研究員補佐員・相馬静乃他2名	特定波長域を遮光した光照射下における黄色系染料の色差と露光量の関係	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
7	同上	研究員・水谷悦子他3名	プレハブ式高気密高断熱収蔵庫におけるアセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気量による低減効果	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
8	同上	研究員・水谷悦子　他3名	Evaluation of change in pore network structure caused by halite crystallisation	PROCEEDINGS OF SWBSS 2021	TU Delft Open	9月22日	有
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	副所長・早川泰弘	琉球の美術工芸品	ぶんせき	日本分析化学会	7月1日	無
10	同上	研究補佐員・紀芝蓮、分析科学研究室長・犬塚将英	文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価	保存科学	東京文化財研究所	3月1日	有
11	同上	分析科学研究室長・犬塚将英	赤外線を利用した文化財の調査	フォトニクスニュース	応用物理学会	11月1日	無
12	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	修復計画研究室長・朽津信明	文化財としての自然史資料の現地保存	保存科学61号	東京文化財研究所	4年3月17日	有
13	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	修復材料研究室長・早川典子	文化財修復に使用されるフノリの精製効果に関する評価	保存科学第61号	東京文化財研究所	4年3月17日	有
14	同上	アソシエイトフェロー・鳥海秀実	絵画修復における欠損部分の補完と補彩に関する考察	文化財保存修復学会誌　第65号	文化財保存修復学会	4年3月	有
15	同上	客員研究員・稲葉政満他	Comparison of Degradation Behaviour of the Painting Paper in Japanese Scrolls for Moist Heat and Sealed Tube Ageing Methods	Studies in Conservation	The International Institute forConservation of Historic and ArtisticWorks	8月	有
16	同上	客員研究員・稲葉政満他	Effect of Lining Papers on the Permanence of Painting Papers in Japanese Scroll Paintings during Moist Heat Ageing	Studies in Conservation	The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	8月	有
17	同上	客員研究員・稲葉政満他	Changes in the Degree of Degradation with Position of Painting Papers in Japanese Hanging Scrolls by Accelerated Ageing Using Open and Sealed Tube Methods	Studies in Conservation	The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	8月	有
18	同上	客員研究員・本多貴之	向方南遺跡における漆分析	杉並区埋蔵文化財報告書 東京都杉並区向方南遺跡E地点	野村不動産株式会社，株式会社CEL	7月	無
19	同上	客員研究員・山本記子	装潢文化財の修理と継承	「月刊文化財」No.693	第一法規	6月	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　1件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	Organic Matter and Pigments in the Wall Paintings of Me-Taw-Ya Temple in Bagan Valley, Myanmar	MDPI Applied Sciences	MDPI	12月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　0件

○調査研究成果の発信　0件

【奈良文化財研究所】176件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　68件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長・吉川聡　他	当麻寺巻柱とその銘文の調査	奈文研論叢 3	奈良文化財研究所	4年3月18日	無
2	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部建造物研究室室長・大林潤	地方大名造営の東照宮建築ー松江神社建造物調査よりー	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
3	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員・福嶋啓人	斑鳩地域の慶長期神社建築ー斑鳩神社・菅神社を事例にー	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
4	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区主任研究員・鈴木智大	19 世紀の高野山における工匠組織	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
5	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・前川歩	犬伏家住宅にみる近代性	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　63 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部景観研究室長・中島義晴	獣害に関するアンケートの実施と集計結果	第 45 回全国遺跡環境整備会議	第 45 回全国遺跡環境整備会議実行委員会	4年3月	無
2	同上	文化遺産部主任研究員・惠谷浩子	智頭町芦津地区における水系と水利施設の特徴	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
3	同上	文化遺産部　主任研究員惠谷浩子	山城地域における前方後円墳と地域の暮らし	遺跡学研究 18	日本遺跡学会	12月13日	無
4	同上	文化遺産部　主任研究員惠谷浩子	KOFUNSCAPE03 古墳と遊び場	遺跡学研究 18	日本遺跡学会	12月13日	無
5	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	近代日本における史跡の保護と整備	『第4回日韓文化財研究フォーラム』: 日帝植民統治期の文化財の整備と復元 令和 3年8月27日	韓国　国外所在文化財財団	8月27日	無
6	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	日本統治下の朝鮮における史跡の保存と整備	『第4回日韓文化財研究フォーラム』: 日帝植民統治期の文化財の整備と復元 令和 3年8月27日	韓国　国外所在文化財財団	8月27日	無
7	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺の史蹟指定	『特別史跡山田寺　史跡指定一 00 年』奈文研第 13 回東京講演会奈良文化財研究所 pp. 4-7	奈良文化財研究所	10月23日	無
8	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	平城宮第一次大極殿院南門前の射礼について	奈文研ウェブサイト　ブログ　作寶楼	奈良文化財研究所	4年1月4日	無
9	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	遺跡現地の活用の推進 2―平城宮跡の活用に関する実践的研究	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
10	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	特記すべき石造物について	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
11	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	町家の庭園	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
12	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	奈良の近代数寄者の建築の古材趣味	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
13	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	奈良市内庭園の特質	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	外村市郎兵衛家の庭園・外村与左衛門家の庭園	東近江市近代和風建築等総合調査　近江商人本宅建造物調査報告書 1	東近江市	9 月 17 日	無
15	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	旧森川家住宅の庭園	旧森川家住宅調査報告書	竹原市	4 年 2 月 28 日	無
16	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	伯耆地方の民家の庭園	近世庭園の研究―安土桃山・江戸時代―	奈良文化財研究所	4 年 3 月 31 日	無
17	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子　他	平城宮・京跡出土曲物の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
18	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長・国武貞克　他	平城宮出土檜扇に関する研究	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
19	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・丹羽崇史　他	古代都城における生産遺跡出土砥石の基礎的研究　平城京の鋳銅遺跡出土品を対象として	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
20	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹　他	箱形土製品赤色付着物の科学分析 平城第 601 次調査出土	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
21	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹　他	西大寺食堂院出土須恵器甕と内面の痕跡　第 404 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
22	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	西大寺食堂院SE950出土の動物依存体　第 404 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
23	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子	平城宮出土の竹尺　第 440 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
24	同上	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子	3 次元モデルを活用した平城宮出土唐花文鬼瓦の復元	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
25	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員・目黒新悟　他	東大寺所蔵建築部材の年輪年代測定と転害門の改造時期　東大寺東塔復原研究 4	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
26	同上	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー・山本光良	東大寺西七重塔模型設計図について	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
27	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー・李暉	古代建築木口金具の鋳造に用いた原型の検討　第一次大極殿院の復原研究 31	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
28	中国との共同研究	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子　他	日本民藝館所蔵の建築明器の屋根	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
29	平城宮・京の発掘調査	都城発掘調査部平城地区考古第二研究室研究員・大澤正吾	平城宮東方官衙地区の調査　第 621 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
30	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・前川歩	薬師寺東塔の調査　第 622 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
31	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子　他	西大寺小塔院の調査　第 624･627 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
32	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・森先一貴　他	興福寺境内の調査　第 625 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
33	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	平城京右京三条一坊八坪の調査　第 629 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
34	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹	法華寺庭園の調査　第 623 次・立会 第 2020-24 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
35	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	平城京左京一条二坊九坪の調査 立会第 2020-21 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
36	同上	都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長・今井晃樹	昭和 38 年一乗院調査出土の軒瓦 第 17-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
37	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部主任研究員　和田一之輔他	薬師寺西塔跡出土品の再整理－昭和9年の日本古文化研究所による発掘調査を中心に	奈文研論叢第 3 号	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有
38	飛鳥地域等の調査	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	奥山廃寺（奥山久米寺）の調査―第 204-7 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
39	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	藤原京左京三条三坊の調査一第 204-6 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
40	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	藤原京左京八条三坊の調査一第 202 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
41	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子	本薬師寺の調査出土の瓦一第 197-8 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
42	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大・若杉智宏ほか	藤原宮大極殿院の調査-第 205 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
43	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	藤原宮東方官衙南地区の調査－第 204-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
44	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原考古第二研究室長　森川実	藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の調査―204-2 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
45	飛鳥地域等の調査	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長　山本崇ほか	大官大寺南方の調査―第 203･206 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
46	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎（現・総社市）	日高山 1 号墳出土の木心鉄板張輪鐙	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
47	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎（現・総社市）	飛鳥・藤原地域出土の弓	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
48	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部研究員山藤正敏	石神遺跡 SD1347・SD1476 出土の土器群―石神遺跡第８・９次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
49	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	第 9 講 東漢氏と西文氏	古代史講義【氏族篇】　ちくま新書 1579	筑摩書房	6 月	無
50	同上	都城発掘調査部副部長・清野孝之	山田寺の歴史と発掘調査	奈良文化財研究所第 13 回東京公演会　特別史跡山田寺跡史跡指定 100 年	奈良文化財研究所	10 月	無
51	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室長・林正憲	出土遺物からみた山田寺―瓦磚類を中心に-	奈良文化財研究所第 13 回東京公演会　特別史跡山田寺跡史跡指定 100 年	奈良文化財研究所	10 月	無
52	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇他 1 名	総論 7 世紀の木簡	考古学ジャーナル 759	ニューサイエンス社	10 月	無
53	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	7 世紀木簡の樹種―研究現状の整理のために	考古学ジャーナル 759	ニューサイエンス社	10 月	無
54	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	概 説　大和の墨書・刻書土器	埋蔵文化財ニュース第 186 号	奈良文化財研究所	11 月	無
55	藤原宮大極殿院の調査	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次）	奈文研ニュース№82	奈良文化財研究所	9 月	無
56	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次）	奈文研ニュース№83	奈良文化財研究所	12 月	無
57	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部藤原地区アソシエイトフェロー道上祥武	古代集落の諸類型　集落研究の現状と方向性	古代集落の構造と変遷 1	奈良文化財研究所	12 月 27 日	無
58	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	奈良・飛鳥寺旧境内	木簡研究 43	木簡学会	12 月	無
59	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武　他	奈良県の鴟尾	古代瓦研究XI	奈良文化財研究所	4 年 2 月 4 日	無
60	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長　山本崇	大官大寺南方	飛鳥の考古学 2021	奈良文化財研究所	4 年 1 月	無
61	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長　山本崇	墨書土器を歩く～奈良県出土墨書刻書土器・文字瓦集成上下の刊行	奈文研ニュース№84	奈良文化財研究所	4 年 3 月	無
62	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室長・森川実	古代食器の計測とその誤差にかんする実験的研究	奈文研論叢 3 号	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有
63	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室研究員・山藤正敏	大官大寺南方の調査（飛鳥藤原第 206 次）	奈文研ニュース№81	奈良文化財研究所	6 月	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　65 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　34 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	都城と馬	馬と古代社会	八木書店	5 月 25 日	無
2	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	古代の蠅害考	古代の食を再現する	吉川弘文館	6 月 10 日	無
3	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	金井下新田遺跡から出土した動物遺存体	金井下新田遺跡≪古墳時代以降編≫分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7 月 20 日	無
4	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・上中央子	藤原宮下層運河 SD1901A 埋積土から検出された花粉化石群集にみられる植生変遷	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
5	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	西大寺食堂院 SE950 出土の動物遺存体	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
6	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	日本における家ネズミの考古学的記録	BIOSTORY36	誠文堂新光社	12 月 1 日	無
7	年輪年代学研究	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員・目黒新悟、埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治	東大寺所蔵建築部材の年輪年代測定と転害門の改造時期－東大寺東塔復元研究４－	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
8	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治、都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子、副所長・高妻洋成他 1 名	平城宮・京跡出土曲物の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
9	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他 3 名	東北地方南部太平洋側地域における現生スギ標準年輪曲線	文化財科学　83 号	日本文化財科学会	9 月	無
10	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他 2 名	甲斐善光寺木造源頼朝・実朝坐像の解体修理に伴う年代測定	奈文研論叢 3	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有
11	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他 1 名	平城京右京八条二坊十四坪および轟遺跡から出土した曲物円板の年輪年代測定	大和郡山市文化財調査年報令和 2 年度	大和郡山市	4 年 3 月	無
12	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他 2 名	上砥山遺跡出土木製品の年輪年代測定からみた出土遺構の数値年代	滋賀県文化財保護協会紀要 35	滋賀県文化財保護協会	4 年 3 月	無
13	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江	縄文原体	季刊考古学　155 号	雄山閣	4 月	無
14	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	文化財の三次元計測方法による収集データの比較	日本考古学協会第 87 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5 月	無
15	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子	渤海国の瓦塼の変遷と系譜－紋様塼を読み解く－	中国考古学論叢－古代東アジア社会への多角的アプローチー	同成社	5 月	無
16	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔	金井下新田遺跡出土馬頭の X 線 CT 撮像、X 線 CT による非破壊構造解析の有効性ー臼玉資料群の事例ー	金井下新田遺跡≪古墳時代以降編≫分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7 月 20 日	無
17	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹、埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、埋蔵文化財センター長・金田明大　他 1 名	西大寺食堂院出土須恵器甕と内面の痕跡－第 404 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
18	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	遺跡発掘調査記録の DX の試行	日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月	有
19	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子、同遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江、企画調整部写真室専門職員・中村一郎　他 1 名	山内清男のカメラ ～撮影現像関係資料の紹介～	文化財写真研究 vol.11	文化財写真技術研究会	11 月	無
20	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ　他 1 名	弥生土器における回転台問題とその論理	日本考古学協会第 87 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5 月 12 日	有
21	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ　他 1 名	遺跡発掘調査におけるパブリックアーケオロジーの実践―鹿児島県三島村黒島における地域住民と考古学―	日本情報考古学会講演論文集 Vol. 24	日本情報考古学会	9 月 25 日	無
22	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ　他 2 名	3D を終始多用した発掘調査―鹿児島県三島村黒島の調査から―	日本情報考古学会講演論文集 Vol. 24	日本情報考古学会	9 月 25 日	無
23	同上	埋蔵文化財センター長・金田明大	「起きてから縄をなう」ままでいいのか一東日本大震災復興調査での技術利用とその課題ー	考古学研究　第 68 巻第 3 号	考古学研究会	12 月 30 日	無
24	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔	歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性	考古学研究　第 68 巻第 3 号	考古学研究会	12 月 30 日	無
25	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子　他 3 名	「瓦様」と瓦笵ー東大寺式軒丸瓦における同紋瓦・同笵瓦の再検討ー	奈文研論叢 第 3 号	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有
26	同上	埋蔵文化財センター客員研究員中川朋美、埋蔵文化財センター長・金田明大　他 2 名	SfM とレーザー計測による古人骨計測の比較	奈文研論叢 第 3 号	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
27	同上	埋蔵文化財センター客員研究員野下浩司、埋蔵文化財センター長・金田明大　他３名	遠賀川式土器の形態に関する数理的考察ー田村遺跡、矢野遺跡、綾羅木郷遺跡を中心にー	奈文研論叢 第３号	奈良文化財研究所	４年３月18日	有
28	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子　他２名	変形忍冬唐草文軒平瓦 6647C の再検討	奈文研論叢 第３号	奈良文化財研究所	４年３月18日	有
29	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・上椙英之	歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性	奈文研論叢 第３号	奈良文化財研究所	４年３月18日	有
30	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・上椙英之　他４名	当麻寺巻柱とその銘文の調査	奈文研論叢 第３号	奈良文化財研究所	４年３月18日	有
31	同上	埋蔵文化財センター長・金田明大	第Ⅴ章　関連諸分野からの検討　Ⅰ東塔の探査	薬師寺東塔発掘調査報告	薬師寺	４年３月	無
32	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔	第Ⅴ章　関連諸分野からの検討　Ⅱ東塔基壇および基壇外周の地質調査と放射性炭素年代測定の成果	薬師寺東塔発掘調査報告	薬師寺	４年３月	無
33	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発	埋蔵文化財センター長・金田明大、同主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、同遺跡・調査技術研究室研究員・上椙英之	MR を利用した発掘調査支援システムの試行	日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	９月	無
34	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷竜介	民俗芸能の被災と再開	文化財の虫菌害　81 号	文化財虫菌害研究所	６月	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　31 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　他３名	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究 ―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	６月 27 日	無
2	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　他３名	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究 ―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）	日本建築学会	９月７日	無
3	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　他３名	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究 ―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	９月 18 日	無
4	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎	鷲ノ山石製刳抜式石棺の劣化要因に関する調査報告	高松市内所在刳抜式石棺調査報告書Ⅱ	高松市教育委員会	４年３月	無
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　他２名	【連載】模擬古墳ー遺構・遺物の保存と活用を考えるための実験的取り組みー④座談会ー現状・課題・展望ー	考古学研究　第 68 巻第１号	考古学研究会	６月	無
6	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹	虎塚古墳の壁画剝落片に形成された独特な微生物叢	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	９月 19 日	無
7	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎　他３名	壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	９月 19 日	無
8	同上	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・中田愛乃、同保存修復科学研究室客員研究員・辻本与志一　他７名	蛍光 X 線分析による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	９月 19 日	無
9	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進	どうして古墳の副葬品は現在まで残るのか？ ー模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討	奈良文化財研究所第 127 回公開講演会	奈良文化財研究所	11 月 13 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
10	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	埋蔵時の鉄製文化財の腐食を支配する土中溶存酸素の挙動に関する検討 ―マイクロ酸素センサを用いた溶存酸素拡散層の実測	材料と環境 2021　講演集	腐食防食学会	4 月 30 日	無
11	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	海底遺跡における沈没船の現地保存に関する研究 ―鷹島海底遺跡における元軍船の埋め戻し法の検討とその評価	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 18 日	無
12	同上	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室研究員・松田和貴	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その２）	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 18 日	無
13	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進 他１名	大久保間歩で発見されたドッグスパイクへのトレハロース法の適用とその評価―その１　ドッグスパイクの状態調査	石見銀山遺跡科学調査報告書５	島根県教育委員会・大田市教育委員会	4 年 3 月	無
14	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進 他１名	大久保間歩で発見されたドッグスパイクへのトレハロース法の適用とその評価―その２　トレハロースによるドッグスパイクの保存処理	石見銀山遺跡科学調査報告書５	島根県教育委員会・大田市教育委員会	4 年 3 月	無
15	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	金井下新田遺跡出土のガラス玉類の自然科学的調査	金井下新田遺跡≪古墳時代以降編≫分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7 月 20 日	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・大賀克彦	府中市熊野神社古墳出土玉類の考古科学的検討	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
17	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他１名	Research and Restoration of Western Prasat Top	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他３名	酢醸造壺の白色付着物に関する科学的検討	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・大賀克彦	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	Proceedings of the 22nd Congress of the Association International pour l'Histoire du Verre & ICOM Glass Meeting	Association International pour l'Histoire du Verre	9 月 14 日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他６名	福岡県平原１号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 18 日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他３名	元素分析による田能遺跡出土管玉の分類的検討	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 18 日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他１名	アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する考古科学研究―化学組成と鉛同位体比分析―	日本文化財科学会第 38 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 18 日	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他３名	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	Papers from the SEAMEO SPAFA International Conference on SOUTHEAST ASIAN ARCHAEOLOGY AND FINE ARTS 13 - 17 December 2021	SOUTHEAST ASIAN MINISTERS OF EDUCATION ORGANIZATION REGIONAL CENTRE FOR ARCHAEOLOGY AND FINE ARTS	12 月 13 日	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他４名	SCIENTIFIC ANALYSIS ON THE GLASS BEADS FROM THE XIONGNU BURIAL OF ZAMIIN UTUG	NOMADIC HERITAGE STUDIES, Tomus XXII-II, Fasciculus 1- 22	National Museum of Mongolia	11 月	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　他４名	Scientific and archaeological approach for the Glass beads trade of Xiongnu and Xianbei	Studia Archaeologica, Tomus XL, Fasc 6, 2021	Institute of Archaeology, Mongolian Academy of Sciences	12 月	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	ベンショ塚古墳出土ガラス製玉類の自然科学的調査	ベンショ塚古墳発掘調査報告書	奈良市教育委員会	4 年 2 月 10 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
27	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　ほか２名	猪ノ鼻（1）遺跡出土玉類等の自然科学的分析	研究紀要第 27 号	青森県埋蔵文化財調査センター	4 年 3 月 16 日	無
28	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	岡山県城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査	『城殿山遺跡　和田谷遺跡　マキサヤ遺跡』（『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 256』）	岡山県古代吉備文化財センター	4 年 3 月 18 日	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美　ほか１名	アイヌ文化期の遺跡出土ガラス玉の特徴と流通経路	北海道考古学　第 58 輯	北海道考古学会	4 年 3 月 31 日	有
30	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	出雲国分寺跡出土ガラス玉の分析	史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書（第 19 次～第 22 次発掘調査）	松江市教育委員会	4 年 3 月	無
31	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	海を越えたガラスビーズ―東西交易とガラスの道	令和３年度　文化遺産国際協力コンソーシアム　シンポジウム「海と文化遺産 ―海が繋ぐヒトとモノ―」	文化遺産国際協力コンソーシアム	11 月 28 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　13 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　13 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産保護に関する国際協働	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希	オンラインツールを用いた海外技術移転：カザフスタンでの事例	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
2	同上	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似、都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	Research and Restoration of Western Prasat Top	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
3	同上	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似　他	Angkorian Khmer stoneware: production and provenance	Journal of Archaeological Science	Elsevier	11 月 16 日	有
4	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希　他 1 名	キビの起源と拡散をめぐる考古生化学的探求	雑穀研究	雑穀研究会	10 月 31 日	有
5	同上	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希、企画調整部国際遺跡研究室室長・庄田慎矢	酢醸造壺の白色付着物に関する科学的検討	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
6	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希　他 5 名	Dry or Wet? Evaluating the Initial Rice Cultivation Environment on the Korean Peninsula	Agronomy	MDPI	5 月 8 日	有
7	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢	Seeking Prehistoric Fermented Food in Japan and Korea	Current Anthropology	The University of Chicago Press	9 月 28 日	有
8	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢　他	土器残存脂質分析による貝塚文化北限地域における動植物資源利用の復元	文化財科学	日本文化財科学会	9 月 15 日	有
9	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	土器調理対象物への二つのアプローチ―付着塊状試料の窒素・炭素安定同位体比と残存脂質分析からわかることの違い―	中国考古学論叢―古代東アジア社会への多角的アプローチー	同成社	5 月 31 日	無
10	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	A Bayesian approach for fitting and comparing demographic growth models of radiocarbon dates: A case study on the Jomon-Yayoi transition in Kyushu (Japan)	PLOS ONE	Public Library of Science	5 月 19 日	有
11	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	The wind that shakes the barley: the role of East Asian cuisines on barley grain size	World Archaeology	Taylor & Francis, Ltd.	4 年 2 月 1 日	有
12	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室室長　庄田慎矢　他	元素分析による土器供給体制への予察	日中共同研究成果報告書『中国江南の考古学』	中国文明起源プロジェクト	4 年 3 月 31 日	無
13	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー村上夏希 企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	須恵器の残存脂質分析に向けて―胎土の性状から見た検討―	奈文研論叢 3	奈良文化財研究所	4 年 3 月 18 日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　30件

○調査研究成果の発信　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	調査研究成果の発信	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修喆	異言語間翻訳を超越する――科学技術社会論の視点から見る文化財多言語化	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
2	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修喆	文化財を「翻訳」する（二）――飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文のブラッシュアップ	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
3	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 扈 素妍	韓国における文化財用語醇化に関する断想―「질그릇（ジルグルッ）」の迷走を通じて―	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
4	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	平城宮跡の文化財多言語展開―文化庁文化財多言語解説整備事業の報告を中心に―	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
5	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー Yanase Peter	発掘調査報告書から多言語対応収蔵品データベースへ	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
6	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー Yanase Peter	2021 年度日英対訳集	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
7	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修喆	文化財関連用語日中対訳集	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
8	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 扈 素妍	文化財関連用語日韓対訳集	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無
9	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	多言語に関するガイドラインリスト（関係法令・ガイドライン等）	奈良文化財研究所研究報告第 32 冊『文化財多言語化研究報告 2』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 15 日	無

○文化財情報基盤の整備・充実　21件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一、同文化財情報研究室アソシエイトフェロー・Peter Yanase	The Production, Preservation and Dissemination of Archaeological Data in Japan	Internet Archaeology (58)	ヨーク大学考古学部	6 月 1 日	有
2	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他 1 名	紀要論文等の書誌情報流通における課題と「文化財論文ナビ」の取組	カレントアウェアネス (348) 2-5	国立国会図書館	12 月 1 日	無
3	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	日本全国の文化財を地図で閲覧できる「文化財総覧 WebGIS」の公開	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	9 月 1 日	無
4	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	機械学習による石器図面画像の自動抽出と分類	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
5	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・Peter Yanase、企画調整部文化財情報研究室客員研究員・Shaun I.Mackey	"A Japanese-English Glossary of Terminology Related to the Central	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
6	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・吳修喆	Government During the Nara Period(A bridged)"	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
7	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・扈素妍	「文化財」を翻訳するー中国語における「文物」「文化遺産」などとの比較を中心にー	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7 月 26 日	無
8	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	「文化財総覧 WebGIS」の公開 ―地図から多様な文化財を探す―	遺跡学研究　18 号	日本遺跡学会	12 月 13 日	無
9	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	文化財をめぐる著作権の問題に対応していくために	奈良文化財研究所研究報告第 34 冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 31 日	無
10	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他 1 名	文化財コンテンツと著作権に関する Q&A	奈良文化財研究所研究報告第 34 冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 31 日	無
11	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他 4 名	文化財関係刊行物のデジタル公開の意見交換会開催記録	奈良文化財研究所研究報告第 34 冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
12	同上	客員研究員　野口淳	考古学・埋蔵文化財情報のオープン化‥	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
13	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧 － When Where Whatで検索できるシステムを目指して－	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
14	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	インターネットで地域の文化財を調べる方法‥	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
15	同上	客員研究員　野口淳他２名	文化財× Wikipedia、枠組みと実践	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
16	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	文化財総覧WebGIS：データと機能	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
17	同上	客員研究員　野口淳	考古学・埋蔵文化財GIS データの標準化、ファイルフォーマット、オープン化	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
18	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	考古学・文化財デジタルデータのためのGuides to Good Practice作成の経緯と意義	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
19	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	石丁場のデジタル調査方法　－フォトグラメトリ・ドローン・RTK-GNSS・LiDAR－	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
20	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	2021 年度数字で見る全国遺跡報告総覧	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
21	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー　藤田友香里	平城宮跡資料館における文化財動画の活用	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和4年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300	文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和2年度文化財防災センター年次報告書	400	連携協力機関、関係者・協力者等（奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）
2	文化財の放射線対策ガイドブック 2021	700	連携協力機関、関係者・協力者等（奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」691～696号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等
2	「東京国立博物館紀要」57号	500	美術館・博物館・大学・研究所等
3	「東京国立博物館文化財修理報告」22	500	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会図録等　17件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展『国宝　鳥獣戯画のすべて』	—	—
2		特別展『国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ』	—	—
3		特別展『聖徳太子1400年遠忌記念　聖徳太子と法隆寺』	—	—
4		特別展『マレーシア・イスラーム美術館精選　イスラーム王朝とムスリムの世界』	—	—
5		特別企画 『東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念　スポーツ NIPPON』	—	—
6		特別展『伝教大師1200年大遠忌記念　最澄と天台宗のすべて』	—	—
7		特別展『ポンペイ』	—	—
8		特別展『空也上人と六波羅蜜寺』	—	—
9	特集展示そのほか	「親と子のギャラリー　動物のうごき」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
10		『博物館でアジアの旅　空想動物園』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
11		『江戸にもたらされた中国書画』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
12		「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」パンフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
13		「瓦が語る東大寺の歴史」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
14		「浅草寺のみほとけ」パンフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
15		「博物館に初もうで 虎 今年はトーハク150周年！めでタイガー‼」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
16		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
17		『修理完了記念　国宝・医心方のすべて』	1,000	関係機関・協力先等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第43号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書19	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告30　金剛寺	500	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
4	社寺調査報告31　観心寺	570	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	凝然国師没後七百年 特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ	—	美術館・博物館・大学等
2	特別展　京の国宝―守り伝える日本のたから―	—	同上
3	特別展　畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―	—	同上
4	特別企画　オリュンピア×ニッポン・ビジュツ	2,000	同上
5	特集展示　後期古墳の実像 ―播磨の首長墓・西宮山古墳―	1,000	同上
6	特別公開　四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産―辰砂と鉄―　リーフレット	8,000	来館者無料配布、ウェブ公開
7	特集展示　雛まつりと人形　リーフレット	5,000	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第24号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第4号	650	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録　　6件

	刊 行 物 名		発行部数	配　布　先
1	特別展	『聖徳太子1400年遠忌記念 特別展 聖徳太子と法隆寺』	1,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展	『特別展 奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―』	1,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別展	『第73回正倉院展』	1,920	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別展	『The 73rd Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	990	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別展	『特別展 名画の殿堂 藤田美術館展 ―傳三郎のまなざし―』	1,770	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	特別展	『特別展 国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ』	1,450	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	九州国立博物館 研究紀要『東風西声』第17号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館 文化財修復報告 第4号（平成23年度～平成24年度）	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等　6件

	刊 行 物 名		発行部数	配　布　先
1	特別展	御大典記念　特別展『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―』	900	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	特別展	特別展『皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	特別展	特別展『海幸山幸―祈りと恵みの風景―』	1,200	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	特別展	伝教大師1200年大遠忌記念特別展『最澄と天台宗のすべて』	1,100	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	特集展示等	特集展示『没後350年記念　明国からやって来た奇才仏師范道生』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	その他	点字・触知図・音声コード付き 文化交流展示室案内	1,000	特別対応時に配布

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　5件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す―』	700	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	Lacquered Door Panels of Wat Rajpradit - Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand	600	大学・研究機関・博物館・美術館・図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	刊 行 物 名	発行部数	配　布　先
1	第14回公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス　フォーラム3「伝統芸能と新型コロナウイルス―Good Practiceとは何か―」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『日本の芸能を支える技Ⅷ　能装束　佐々木能衣装』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　3 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『春日権現験記巻十一・巻十二　光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京国立博物館所蔵平安仏画　光学調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	『Conservation and Restoration of Concrete Structures』	200部	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3)文化遺産保護に関する国際協働　18 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　18件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和３年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（第二部）	450	官公庁、自治体、国際機関等
2	各国の文化財保護法令シリーズ［26］カナダ	100	官公庁、図書館等
3	アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和３年度成果報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
4	大陸部東南アジアの木造建築を考える	100	大学、研究機関、関係団体等
5	考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産　研究会記録	20	外部評価委員会
6	世界遺産ミャンマー・バガン遺跡　華麗なる壁画の世界	1,000	大学、研究機関、事業関係者等
7	スタッコ装飾及び塑像に関する研究　令和3年度報告書	50	外部評価委員会及び研究機関、関係団体等
8	平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業　親鸞聖人絵伝　No.2015-4　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
9	国際研修におけるIT技術導入のための実証実験（デジタル版のみ）	－	※ウェブ公開
10	令和3年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業　報告書	40	文化庁
11	Understanding Our Heritage / Pema Visits a Rammed Earth House	14,000	ブータン内務文化省、教育省
12	ブータンの伝統的民家　西部中央編―ティンプー、プナカ、パロ、ハー―	100	大学、研究機関、関係団体等
13	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～　報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
14	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～　報告書（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
15	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
16	文化遺産国際協力コンソーシアム国際協力調査　海域交流ネットワークと文化遺産　令和３年度　調査報告書（日本語版）	250	大学・研究機関・図書館等
17	文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産とSDGs報告書（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
18	令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　海と文化遺産ー海が繋ぐヒトとモノ　報告書（日本語版）	250	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　13 件

・調査研究成果の発信　13件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2020年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2021年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』74号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』75号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』76号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『東文研ニュース』77号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
7	『令和元年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』434号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『美術研究』435号	400	大学・研究機関、図書館等
10	『美術研究』436号	400	大学・研究機関、図書館等
11	『無形文化遺産研究報告』第16号	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『第16回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
13	『保存科学』61号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　12件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『仁和寺史料　目録編〔稿〕』5	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『綿業会館家具調度品調査報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『近世庭園の研究―安土桃山・江戸時代―』奈良文化財研究所学報第 101 冊	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『奈良市の庭園総合調査報告書』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『薬師寺東塔発掘調査報告』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『古代集落の構造と変遷 2（古代集落を考える 2）第 25 回古代官衙・集落研究集会研究報告資料』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『研究報告第 30 冊　第 24 回古代官衙・集落研究会報告書『古代集落の構造と変遷 1』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

6	『第21回古代瓦研究会シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ　－鬼瓦－』　発表要旨集	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『古代瓦研究Ⅺ　鴟尾の展開』	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『学報第99冊　鞏義黄冶窯発掘調査報告』付論・付表編	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	藤原宮大極殿院の調査　飛鳥藤原第208次調査　現地見学会資料	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『学報第71冊　飛鳥池遺跡発掘調査報告』本文編Ⅰ、Ⅱ	各750	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　0件

(3)文化遺産保護に関する国際協働　2件

・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復中間報告11』	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『Survey and Restoration of Western Prasat Top Interim Report 11』	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　16件

・文化財情報基盤の整備・充実　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所研究報告第34冊『文化財と著作権』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	奈良文化財研究所研究報告第31冊『考古学・文化財デジタルデータのGuides to Good Practice』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・調査研究成果の発信　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所紀要2021	2,600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所概要2021	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『奈文研ニュース』No.81～No.84	各2,200	大学・研究機関
4	『埋蔵文化財ニュース』No.186	1,900	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	英文スタイル・マニュアル：基礎編 Style Manual for English Texts: General Conventions	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告２』	650	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	奈文研論叢　第3号	2,500部	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・展示公開施設の充実　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	飛鳥資料館図録第74冊『屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	飛鳥資料館カタログ第38冊『飛鳥の考古学2021』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	平城宮跡資料館　令和三年度　春期特別企画展『平城宮跡保存運動のさきがけ』配付資料	－	展示観覧者・一般
4	『森蘊の世界－奈良・平安の庭を求めて－』（『奈良を測る－森蘊の庭園研究と作庭－』展図録	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『地下の正倉院展－木簡を科学するⅡ－』	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等配布
6	『発掘された平城－2020･2021－』	4,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　0件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2021(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2021(英語版)』	800 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	Proceedings of The IRCI Researchers Forum on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region Progress and Challenges in the Research for the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage - Towards a Sustainable Future -	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	Research on ICH's Contribution to SDGs - Education and Community Development Project Report FY2020-2021	データ版で公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region Project Report FY2019-2021	300 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和4年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	170	69	45	8	5	11	100	30	70	1
科学研究費補助金のみ	58	23	14	3	1	5	35	10	25	0
学術研究助成基金助成金のみ	112	46	31	5	4	6	65	20	45	1
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　14件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究(A)【令和2年度繰越】	1,194
2	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	研究員	基盤研究(A)【令和2年度繰越】	4,000
3	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,385
4	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究(B)	2,600
5	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,300
6	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)	2,860
7	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究(B)	3,120
8	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,262
9	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究(B)	3,250
10	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	2,990
11	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,940
12	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	33
13	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	7,150
14	3Dマルチ入力・マルチ出力土器分類DLモデルの開発研究	山本　亮	学芸研究部調査研究課考古室研究員	学術変革領域研究(A)	2,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　31件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	0	4,420〈平成30～4年度〉
2	金属製幡の基礎的研究－特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	650	2,860〈元～4年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	390	2,210〈元～4年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較－	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	780	4,160〈元～4年度〉
5	白描図像の分析から帰納する仏画研究―玄証本を起点に―	古川　攝一	学芸研究部列品管理課平常調整室研究員	基盤研究(C)	1,040	4,290〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤　楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	780	4,420〈2～6年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋　真作	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	基盤研究(C)	780	4,420 〈2～6年度〉
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築	松嶋　雅人	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	1,040	4,160 〈2～5年度〉
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,690	4,160 〈2～4年度〉
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭　智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,300	4,290 〈2～4年度〉
11	中国と日本の書画における表装文化の総合的研究	鍋島　稲子	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 〈3～5年度〉
12	明治初期宝物調査資料の収集整理による書の鑑賞・受容の歴史に関する研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,430	3,900 〈3～5年度〉
13	高精細スキャナー画像を活用した日本刀の研究	佐藤　寛介	学芸研究部列品管理課登録室長	基盤研究(C)	1,300	2,600 〈3～7年度〉
14	X線断層写真(CT)を用いた乾漆技法の研究	丸山　士郎	学芸企画部企画課長	基盤研究(C)	1,560	4,160 〈3～7年度〉
15	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	勝木　言一郎	学芸研究部上席研究員	基盤研究(C)	1,560	4,160 〈3～5年度〉
16	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	谷　豊信	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 〈3～5年度〉
17	パレスチナ沿岸地域に展開した古代の覇権主義勢力と在地社会に関する考古学的研究	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究(C)	1,170	4,030 〈3～5年度〉
18	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	780	3,250 〈平成29～4年度〉
19	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸研究部列品管理課登録室主任研究員	若手研究(B)	0	4,160 〈平成29～3年度〉
20	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	0	4,030 〈平成30～4年度〉
21	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	0	2,080 〈平成30～4年度〉
22	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	650	3,900 〈平成30～5年度〉
23	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	1,040	2,080 〈元～4年度〉
24	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	520	3,900 〈元～4年度〉
25	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木　政統	学芸研究部貸与特別観覧室研究員	若手研究	650	4,290 〈2～5年度〉
26	中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究－W.ヤムニッツァーを中心に	村松　綾	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,290 〈2～5年度〉
27	瀟湘八景の受容研究　絵画・建築・庭園	武　瀟瀟	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	3,250 〈3～6年度〉
28	フィンランドを事例とした多文化共生のためのミュージアムの教育機能	山本　桃子	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	910	4,290 〈元～4年度〉
29	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田　政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	0	1,430 〈元～3年度〉
30	18・19世紀における朝廷と古義堂との交流に関する基礎的研究	金　炯辰	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	910	910 〈3年度〉
31	地中海世界の大転換期（前12世紀～前10世紀）と「フェニキア人」の出現	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	国際共同研究強化(A)	0	15,210 〈2～4年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究 (A)	4,810
2	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷　毅	研究員	基盤研究 (B)	3,770
3	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	羽田　聡	学芸部美術室長	基盤研究 (B)	7,280

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究（B）	520	3,900〈平成28～3年度〉
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究（B）	0	3,770〈平成28～4年度〉
3	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遣例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	0	3,900（平成28～4年度）
4	中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって―宋代以後の遺民画家の作例を中心に	森橋　なつみ	学芸部連携協力室研究員	若手研究（B）	0	4,030（平成28～4年度）
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	1,040	4,290（令和2～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究（B）	3,120

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部長	基盤研究（C）	0	2,990〈平成29～3年度〉（補助事業期間延長）
2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部列品室長	若手研究（B）	0	1,560〈平成29～3年度〉（補助事業期間延長）
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	0	4,030〈平成30～3年度〉
4	戦国期の権門寺院における宗教秩序の復元的研究	佐藤　稜介	文化財防災センター　アソシエイトフェロー	若手研究	520	1,170〈2～3年度〉（代表者退職に伴い3年度で終了）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤　嘉章	客員研究員	基盤研究（A）	5,850
2	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	畑　靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究（B）	1,820
3	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉　惠英	副館長	基盤研究（B）	5,980
4	博物館等の展示収蔵環境の有機酸等VOCs低減に向けた現場システムの構築	木川　りか	学芸部博物館科学課長	基盤研究（B）	7,670
5	王墓と装飾墓の比較考古学	河野　一隆	学芸部長	研究成果公開促進費（学術図書）	2,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺　祐基	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	若手研究	1,040	4,160〈元～3年度〉
2	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原　有寿子	学芸部企画課特別展室研究員	若手研究	260	4,160〈2～5年度〉
3	中国製鎗金器の基盤的研究-東アジアにおける漆器の相互的影響-	川畑　憲子	学芸部企画課特別展室長	基盤研究（C）	1,170	4,030〈3～7年度〉

4	近世大名家伝来コレクションの基礎的研究-松浦家コレクションの分析を通じて-	松浦　晃佑	学芸部文化財課資料登録室研究員	基盤研究（C）	650	2,860 〈3～7年度〉
5	九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究	志賀　智史	学芸部博物館課保存修復室長	基盤研究（C）	1,040	2,860 〈3～5年度〉
6	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸部長	国際共同研究強化(B)	130	18,330 〈元～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(A)	7,930
2	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(B)	0
3	日本美術の記録と評価についての研究－美術作品調書の保存活用	江村　知子	文化財情報資料部　文化財アーカイブズ研究室長	基盤研究(B)	1,560
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター　修復材料研究室長	基盤研究(B)	2,210
5	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)	3,250
6	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター　分析科学研究室長	基盤研究(B)	3,250
7	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の開発	稲葉　政満	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(B)	5,200
8	イラン東部へのウルク文化の拡大に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター主任研究員	新学術領域研究(研究領域提案型)	2,600
9	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田　裕道	無形文化遺産部　無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	400
10	旅館おかみの誕生	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究成果公開促進費（学術図書）	1,300

2）学術研究助成基金助成金のみ　20件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	0	4,290 （30～3年度）
2	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永　拓世	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420 （30～3年度）
3	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420 （30～3年度）
4	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	1,170	4,290 （元～3年度）
5	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山　純子	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	910	4,290 （元～5年度）
6	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石　みぎわ	無形文化遺産部　主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,290 （2～4年度）
7	従属栄養性微生物の硫黄酸化と腐食性ガスの生成について	片山　葉子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,430	4,420 （2～4年度）
8	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	淺田　なつみ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	基盤研究(C)	390	1,950 （3～5年度）
9	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井　健	文化遺産国際協力センター室長	基盤研究(C)	1,040	3,510 （3～6年度）
10	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160 （30～3年度）
11	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	0	1,560 （元～3年度）
12	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	260	4,160 （元～3年度）
13	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,040	4,160 （元～4年度）
14	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪　彩絢	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究	1,170	3,770 （2～4年度）
15	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	若手研究	1,560	4,160 （2～4年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
16	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片渕　奈美香	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,380（3～5年度）
17	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井　健	文化遺産国際協力センター室長	研究活動スタート支援	0	2,470（元～3年度）
18	近代の河川工事絵馬にみる河川管理のあり方と地域社会の接点：利根川中流域を中心に	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）
19	被災文化財保全のための一時保管と処置方法の最適化に向けた研究	芳賀　文絵	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860（3～4年度）
20	カジリムシ目昆虫における外部寄生性の進化に伴う形態変化の解明	島田　潤	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　25件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部平城地区史料研究室長	基盤研究（S）	27,040
2	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡辺　晃宏	都城発掘調査部平城地区史料研究室客員研究員	基盤研究（A）	9,880
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎　和久	都城発掘調査部長	基盤研究（A）	8,580
4	東北アジアの農耕化過程における食と調理の変化への考古生化学的アプローチ	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	基盤研究（A）	9,100
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室客員研究員	基盤研究（B）	3,120
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室客員研究員	基盤研究（B）	4,030
8	国家形成前段階における親族構造の地域的変異に関する研究ー九州南部を中心にー	岩永　省三	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室客員研究員	基盤研究（B）	2,860
9	中央アジア 天山ーパミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長	基盤研究（B）	2,990
10	３次元データによる瓦の同笵認識技術の基礎的研究	林　正憲	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長	基盤研究（B）	6,630
11	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上椙　英之	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員	基盤研究（B）	2,080
12	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤　真二	企画調整部長	基盤研究（B）	4,680
13	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究（B）	1,300
14	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬　覚	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室長	基盤研究（B）	2,340
15	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野　恵	都城発掘調査部平城地区考古第二研究室長	基盤研究（B）	3,380
16	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築	丹羽　崇史	都城発掘調査部平城地区主任研究員	基盤研究（B）	2,990
17	古建築用語の相互訳及び英訳を通した系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木　智大	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員	基盤研究（B）	2,990
18	日本列島における現生人類移住初期の環境適応史研究	森先　一貴	都城発掘調査部平城地区主任研究員	基盤研究（B）	3,900
19	古代官衙における空間構造の変遷と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部平城地区主任研究員	基盤研究（B）	2,600
20	古代における年輪年代学的木材産地推定を可能にする標準年輪曲線ネットワークの整備	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究（B）	4,160
21	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	学術変革領域研究（A）計画研究	17,160
22	3D石器形態系統分類学による日本列島およびサフル大陸における人類進出の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）公募研究	1,170
23	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中　央子	埋蔵文化財センター特別研究員（PD）	特別研究員奨励費	780

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
24	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費（データベース）	1,800
25	奈良の都の木簡に会いに行こう！２０２１	馬場　基	都城発掘調査部平城地区史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	490

2）学術研究助成基金助成金のみ　45件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	都城発掘調査部平城地区主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,550 〈平成29～3年度〉
2	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室長	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～3年度〉
3	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター長	挑戦的研究（開拓）	3,900	25,610 〈平成29～3年度〉
4	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部平城地区考古第二研究室研究員	若手研究（B）	－	4,160 〈平成29～3年度〉
5	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	若手研究（B）	－	4,030 〈平成29～3年度〉
6	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	飛鳥資料館主任研究員	基盤研究（C）	520	4,550 〈平成30～3年度〉
7	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター年代学研究室客員研究員	基盤研究（C）	－	4,420 〈平成30～3年度〉
8	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（C）	910	3,250 〈平成30～3年度〉
9	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員	若手研究	780	4,160 〈平成30～3年度〉
10	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	－	3,770 〈平成30～3年度〉
11	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川　歩	都城発掘調査部平城地区主任研究員	若手研究	780	4,030 〈平成30～3年度〉
12	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長	国際共同研究強化（B）	3,640	18,200 〈平成30～4年度〉
13	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター主任研究員	挑戦的研究（開拓）	3,770	22,880 〈平成30～5年度〉
14	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フォグリー文アルバレルロとカトリック修道院	松本　啓子	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室客員研究員	基盤研究（C）	780	3,640 〈元～4年度〉
15	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（C）	910	3,250 〈元～3年度〉
16	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	文化遺産部建造物研究室長	基盤研究（C）	910	3,510 〈元～3年度〉
17	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	910	4,420 〈元～5年度〉
18	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室客員研究員	若手研究	780	2,860 〈元～4年度〉
19	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究	520	2,600 〈元～4年度〉
20	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷　浩子	文化遺産部主任研究員	若手研究	1,690	3,900 〈元～3年度〉
21	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員	基盤研究（C）	1,560	4,420 〈2～4年度〉
22	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か？－ガラス交易路解明に向けての基礎研究－	田村　朋美	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員	基盤研究（C）	1,430	4,290 〈2～4年度〉
23	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永　玲	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員	若手研究	520	1,560 〈2～4年度〉
24	玉類の流通からみた弥生・古墳時代併行期の日韓交渉	谷澤　亜里	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員	若手研究	1,300	4,290 〈2～4年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
25	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上　祥武	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー	若手研究	780	4,290 〈2～5年度〉
26	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永　悦枝	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員	若手研究	390	2,210 〈2～5年度〉
27	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金　旻貞	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員	若手研究	1,560	3,900 〈2～4年度〉
28	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	520	4,160 〈2～4年度〉
29	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬　智子	企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	4,030 〈2～4年度〉
30	越後大工・小黒杢右衛門一族の作風―近世在方大工の作家論的研究	目黒　新悟	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員	若手研究	1,430	4,160 〈2～5年度〉
31	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋　知奈津	文化遺産部主任研究員	若手研究	650	2,340 〈2～5年度〉
32	埴輪生産からみた古墳時代労働力編成システムに関する考古学的研究	木村　理	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	650	1,950 〈2～3年度〉
33	古墳に埋葬された鉄製文化財の腐食は予測可能か？－数値解析による現地保存評価の確立	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	基盤研究（C）	2,210	4,030 〈3～5年度〉
34	古代における食文化の実態解明に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究（C）	780	4,160 〈3～7年度〉
35	埴輪ハケメの年輪年代学：年輪年代学的同一材推定を応用した埴輪同工品の認定	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	挑戦的研究（萌芽）	1,950	6,370 〈3～5年度〉
36	後期旧石器時代開始期の日本列島における新人到来研究の革新	国武　貞克	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長	挑戦的研究（萌芽）	2,600	6,500 〈3～5年度〉
37	新しい遺跡を発見する：機械学習による自動地形判読手法の開発	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,860	5,850 〈3～4年度〉
38	日本に伝存する漢字文義謎資料のデータベース化による文化史的研究	呉　修喆	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	4,420 〈3～5年度〉
39	大破した寺院聖教の保存・活用にむけた調査方法に関する研究	橘　悠太	文化遺産部歴史研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	3,250 〈3～5年度〉
40	中国古代簡牘における規範字体算定の基礎的研究	畑野　吉則	都城発掘調査部平城地区史料研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	2,470 〈3～4年度〉
41	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究	平川　ひろみ	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	若手研究	1,430	4,680 〈3～5年度〉
42	残材と周辺植生に基づく古墳時代集落における木材調達とその利用に関する研究	浦　蓉子	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員	若手研究	780	3,900 〈3～6年度〉
43	人工知能（ＡＩ）による深層学習を活用した縄文原体の素材同定	髙野　紗奈江	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	研究活動スタート支援	910	2,080 〈3～4年度〉
44	近代における日本人産婆の越境実態の検証―渡韓産婆の事例を通じて―	扈　素妍	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,040	1,820 〈3～4年度〉
45	平安京・大和国における瓦生産・流通構造―９～12世紀を中心に―	田中　龍一	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,340 〈3～4年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握：バヌアツ北部事例研究	野嶋　洋子	研究担当室長	基盤研究（C）	0	4,160 〈平成30～3年度〉 （補助事業期間延長）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
160人	48 人	34人	3人	7人	4人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	107 人	42人		65人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財防災センター		
	0 人		5 人		

【本部文化財防災センター】5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	天野　真志（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任准教授）	地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備
2	岡田　健（奈良大学文学部教授）	災害時ガイドライン等の整備
3	日髙　真吾（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
4	松下　正和（国立大学法人神戸大学地域連携推進室特命准教授）	地域防災体制の構築、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
5	鶴岡　典慶（京都女子大学家政学部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

【東京国立博物館】　34人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・学芸部長）	絵画に関する研究
2	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野　治之（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長）	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	切手に関する調査研究
5	水上　嘉代子（元公益財団法人遠山記念館学芸員）	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
6	小笠原　小枝（日本女子大学家政学部名誉教授）	インド更紗に関する研究
7	金子　浩昌（日本考古学協会員）	原始・古代骨角製品に関する研究
8	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
9	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
10	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
11	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
12	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
13	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	考古資料（原史・有史、構内出土品）に関する調査研究
14	澤田　むつ代（名誉館員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
15	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財の保存環境に関する調査研究
16	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
17	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
18	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
19	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
20	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
21	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
22	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
23	田澤　恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
24	赤沼　多佳	茶陶の調査
25	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
26	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
27	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科助教）	漢代土器の調査研究
28	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究
29	村上　佳代(文化学園服飾博物館学芸員)	アジア遊牧民染織コレクションに関する調査研究
30	阿部　善也(東京電機大学工学研究科助教)	古代オリエントのガラス工芸史に関する調査研究
31	谷　豊信（元東京国立博物館学芸研究部長）	館蔵及び構内出土品の調査研究
32	中川原　育子(名古屋大学人文学研究科助教)	大谷探検隊収集品の価値の再評価に向けての基礎的調査研究
33	丸山　猶計(大東文化大学文学部書道学科准教授)	特別展「本阿弥光悦の大宇宙」ワーキング書跡担当
34	堀内　秀樹(東京大学埋蔵文化財調査室准教授)	館蔵陶片の調査研究

【京都国立博物館】　3人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　7人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
3	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究
6	澤田　むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査及び研究
7	藤田　譲（大阪大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理

【九州国立博物館】　4人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究
2	山下善也（元九州国立博物館文化財課主任研究員）	日本美術、特に近世絵画に関する調査研究
3	赤司善彦（大野城心のふるさと館館長）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
4	佐々木蘭貞(福岡市埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　42人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学非常勤講師）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	山梨絵美子(千葉市美術館長）	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
4	田中　淳（大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、及び当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
10	川瀬由照（早稲田大学教授）	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
11	星野厚子（東京大学文学館技術支援職員）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
12	永井美和子	無形文化財の記録作成
13	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
14	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	俵木　悟（成城大学文芸学部教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
16	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）	音声映像記録に関する調査研究
17	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
18	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
19	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
20	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
21	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任准教授）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
22	神野知恵（国立民族学博物館機関研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
23	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会常勤職員）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
24	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
25	川野邊渉	文化財修復材料と伝統技術に関する研究
26	酒井清文（園田学園女子大学　非常勤講師）	文化財の伝統的修復に関する調査研究
27	伊庭千恵美（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
28	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
29	稲葉政満（東京藝術大学名誉教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
30	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
31	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
32	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
33	貴田啓子（東京藝術大学准教授）	日本における絵画の劣化要因に関する研究
34	岡田　健（奈良大学教授）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
35	片山葉子（東京農工大学名誉教授）	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
36	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
37	古田嶋智子（国立アイヌ民族博物館ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
38	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠並びに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
39	簡　佑丞（佛光大学専任助理教授）	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
40	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
41	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
42	山田大樹(株式会社都市環境研究所研究員）	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】　65人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	林　　良彦	受託調査等の調査・研究業務
2	髙野　紗奈江（京都大学大学院文学研究科非常勤講師）	山内清男縄文原体関係資料の整理と調査
3	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
4	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部客員教授）	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
5	小林　謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
6	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
7	杉山　　洋（龍谷大学文学部歴史学科教授）	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言
8	森本　　晋（（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	文化財保護に関する国際協力についての助言
9	綾村　　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
10	山田　　徹（同志社大学文学部准教授）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
11	小野　健吉	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
12	Emmanuel MARES（京都産業大学文化学部文化学科准教授）	森蘊旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に関する助言
13	岩永　省三	古代都城制および都城出土遺物の調査・研究
14	中野　祥子	平城宮・京及び関連遺跡出土漆工具に関する研究協力、及び助言
15	難波　洋三	都城及び寺院出土の金属器等の調査・研究
16	青木　　敬（國學院大學文学部教授）	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
17	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点から助言を行う。
18	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術センター協力研究員）	文字画像データベース構築における研究協力及び助言
19	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における正倉院文書関連研究などに対する指導・助言
20	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授 大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
21	方　　国花（韓国慶北大学人文学術院HK研究教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
22	渡邉　晃宏（奈良大学文学部教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
23	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「３－６世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
24	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
25	松村　恵司	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器・金属器整理、研究に関する指導、助言
26	巽　　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
27	松本　啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
28	竹内　　亮（奈良県立万葉文化館主任研究員）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
29	藤間　温子	削屑の整理と保存処理に関する専門的知識の供与、墨書木製品等の調査研究
30	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
31	大賀　克彦(奈良女子大学大和･紀伊半島学研究所特任講師)	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
32	荻山　琴美（大分県立歴史博物館学芸員）	彩色文化財や埋蔵文化財の科学調査・分析等
33	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
34	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
35	金　　旻貞（株式会社修美　社員）	彩色文化財の材料調査業務
36	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
37	澤田　正昭(東北芸術工科大学文化財修復研究センター客員研究員)	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
38	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
39	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
40	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存整理室長）	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
41	福永　　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長）	文化財の非破壊診断調査
42	三村　　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
43	村上　　隆(京都美術工芸大学工芸学部美術工芸学科特任教授)	考古遺物の保存科学
44	吉田　万智（（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所）	文化財の展示・保存環境に関する研究
45	柳　　成煜（日本学術振興会特別研究員）	彩色文化財の材料調査業務
46	上中　央子（日本学術振興会特別研究員）	微化石の調査研究、花粉分析
47	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
48	菊地　大樹（国立大学法人総合研究大学院大学特別研究員）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
49	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
50	橋孝　博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
51	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
52	丸山　真史（東海大学海洋学部海洋文明学科准教授）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
53	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の木材組織学的研究
54	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
55	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
56	小澤　　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
57	岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	迅速かつ安定的な遺跡探査のための機器システムの構築及び迅速な探査手法と取得データ解析・解釈法の研究
58	狭川　真一（大阪大谷大学文学部歴史文化学科教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
59	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
60	西口　和彦	遺跡探査の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
61	西山　昭仁	「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその他地質考古学的解析」事業への協力
62	野口　　淳	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究
63	平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
64	中川　朋美（南山大学人類学研究所）	科学研究費新領域「出ユーラシアの統合的人類史学」に関する三次元計測、形態測定学、人骨の計測およびその分析
65	野下　浩司（九州大学理学研究院　助教）	科学研究費新領域「出ユーラシアの統合的人類史学」に関する三次元計測、形態測定学、人骨の計測およびその分析

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和4年3月31日現在

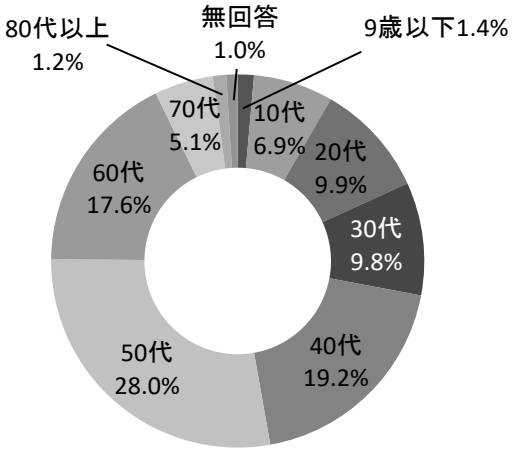
	H29	H30	R1	R2	R3
国立文化財機構	272,228	336,016	362,356	302,279	409,102
文化財活用センター	―	29,320	42,733	124,300	114,951
e国宝	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296	650,197
国立文化財機構所蔵品統合検索システム（ColBase）	26,914	54,338	76,875	140,553	142,970
文化財防災センター※	75,375	93,817	182,485	219,544	52,561
東京国立博物館	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143
京都国立博物館	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043
奈良国立博物館	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864	1,236,917
九州国立博物館	1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819	977,605
東京文化財研究所	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252	3,865,899
奈良文化財研究所	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198	10,467,301
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	9,469	10,779	13,261	13,284	15,472

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。
※2年度までは、文化財防災ネットワークのウェブサイトアクセス件数である。（3年度のウェブサイトリニューアルによる）

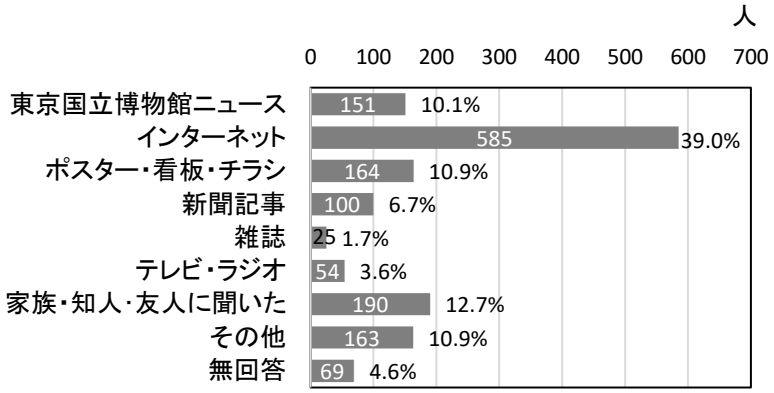
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木） 開館日数：277日間
アンケート実施日：8月21日、11月3日、令和4年1月8日（計3回）
回答者数： 1,215人
アンケート実施日総合文化展来館者数： 6,562人
アンケート回収率：18.5%

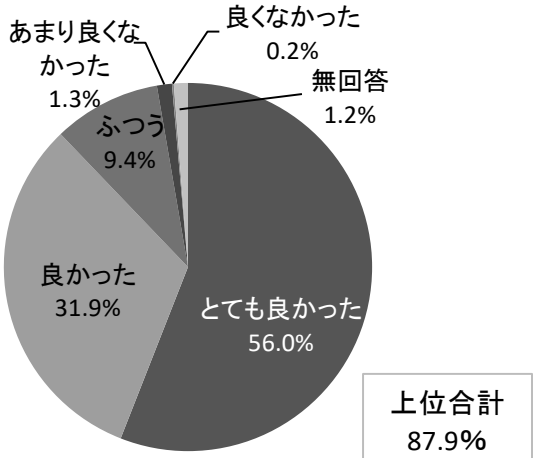
①アンケート回答年齢層



②認知経路 （複数回答）

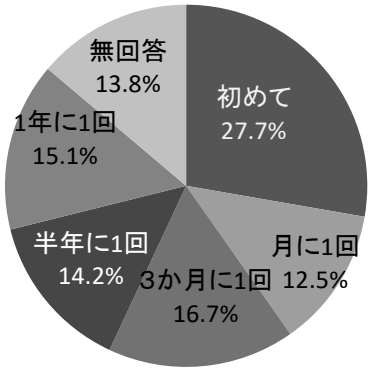


③展示に関する満足度

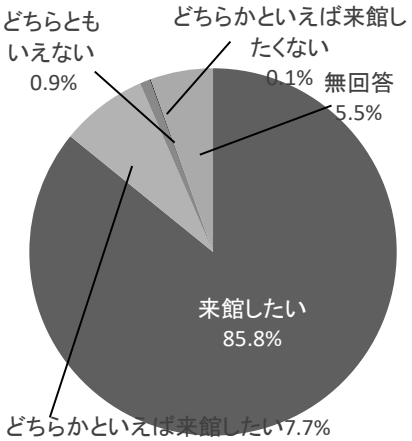


上位合計 87.9%

④来館頻度

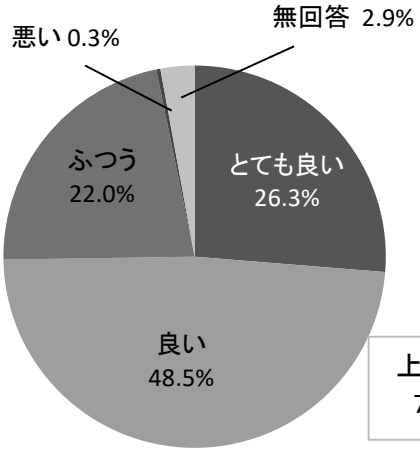


⑤再来館希望率



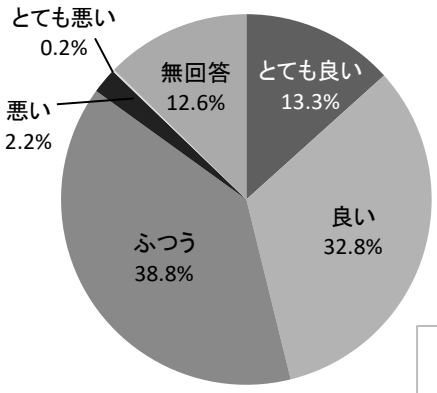
上位合計 93.5%

⑥ミュージアムショップに対する満足度



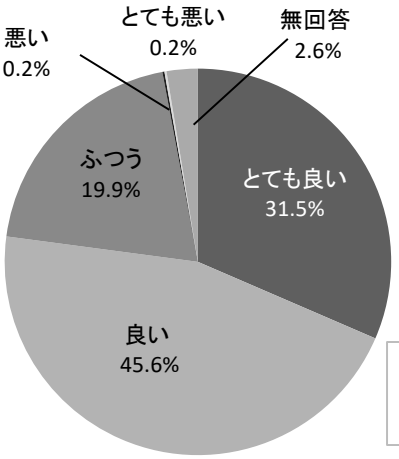
上位合計 74.8%

⑦レストランに対する満足度



上位合計
46.1%

⑧館内スタッフの対応について



上位合計
77.1%

主な意見・感想

・見入ってしまうようなすばらしい展示物がたくさんあってとてもよかった。
・コロナ予約制のため、静でゆっくり見られたのがよかった。
・刀剣の種類をふやしてほしい。
・ラインの外にたつと説明が小さくて見づらい。
・高齢者のために説明の文字を大きくしてほしい。
・もっとSNS等で頻繁に展示替えの告知をして欲しい。
・見どころを教えてほしい。

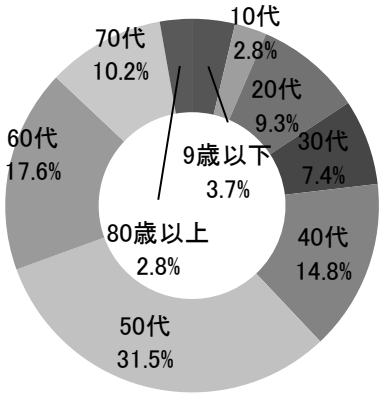
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

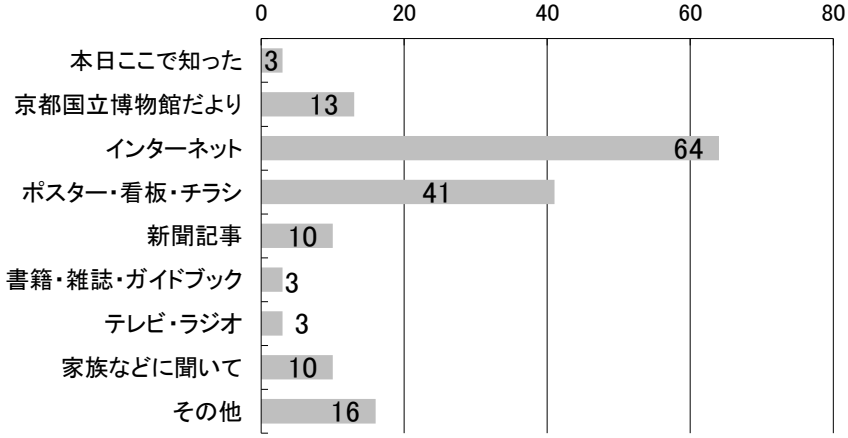
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和3年6月5日（土）～令和 3年7月4日（日）　開館日数：22日間
　　令和4年1月2日（日）～令和4年3月21日（月・祝）　開館日数：68日間
回答者数：121人
来館者数：35,440人（平常展開催期間のみ）

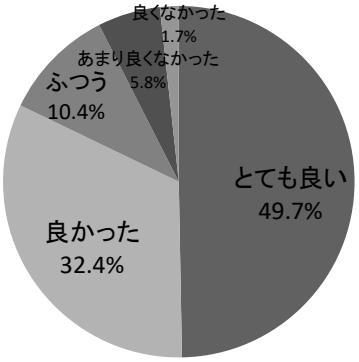
①アンケート回答年齢層



②認知経路　（複数回答）

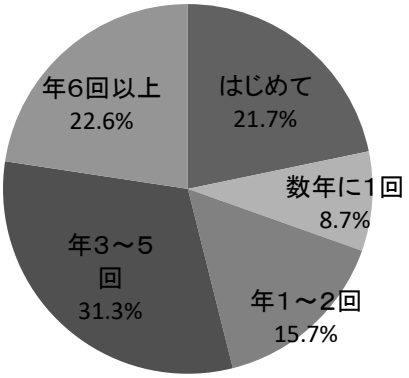


③展示に関する満足度



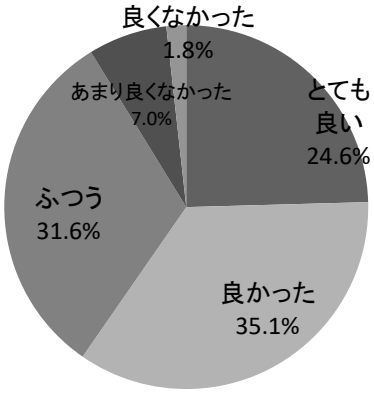
上位合計
82.1%

④来館頻度



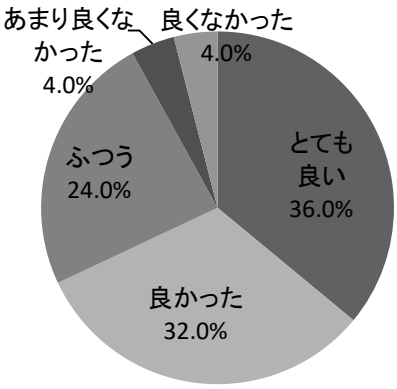
上位合計
53.9%

⑤ミュージアムショップに対する満足度



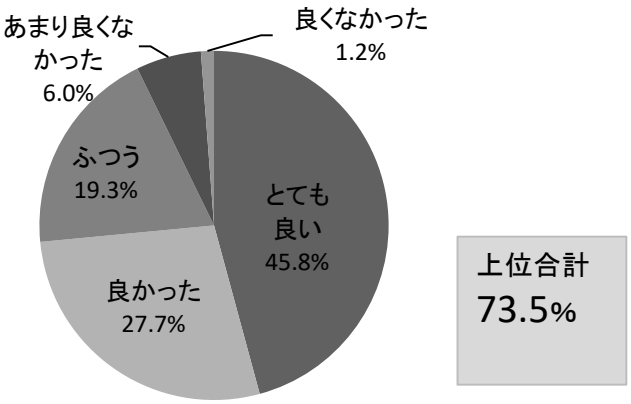
上位合計
59.7%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
68.0%

⑦館内スタッフの対応について



主な意見・感想

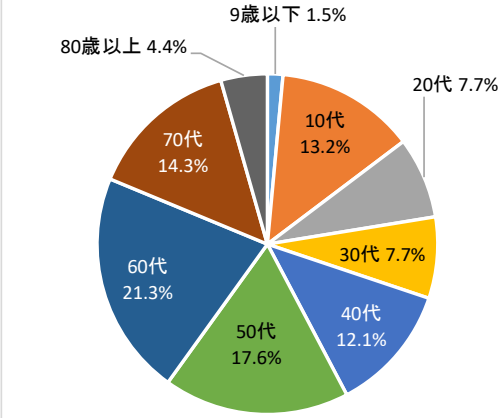
・館蔵品のみ撮影できるようにすべき
・図録の厚さがちょうど良かった
・職員の苦労に頭が下がる
・照明が作品の特徴を捉えていた
・「新収品展」はどの作品も興味深かった
・「オリュンピア」は楽しかった

奈良国立博物館

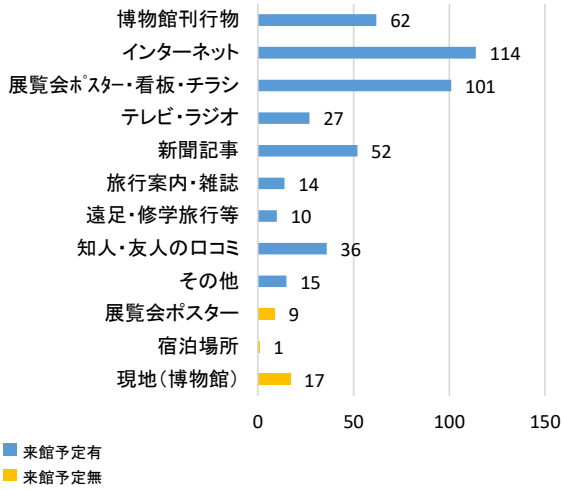
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)　開館日数：318日間
（ 回答者数：315人　入館者数：106,985人　アンケート回収率：0.29% ）
（日本語:307人／英語:8人）

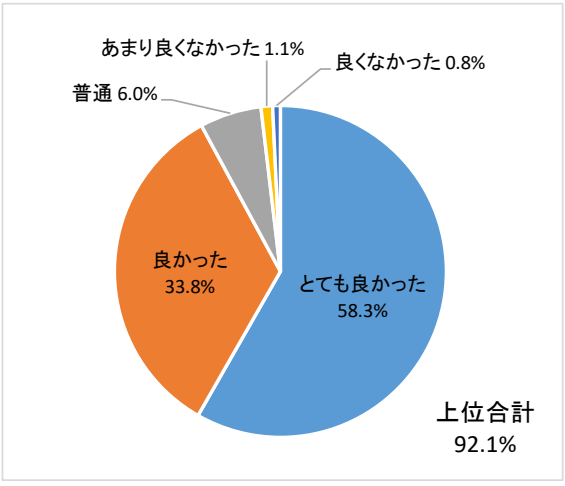
①年齢層



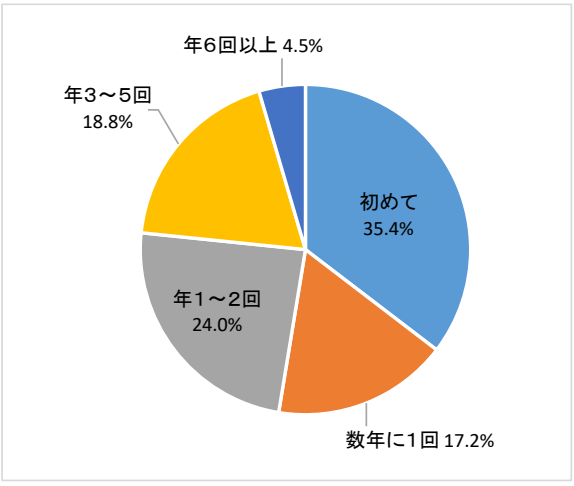
②認知経路（複数回答）



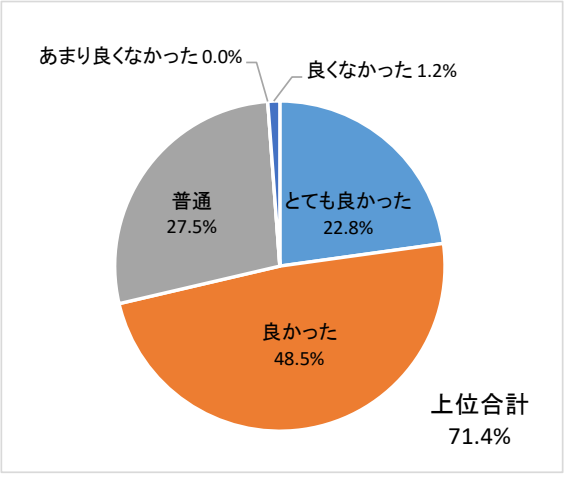
③展示に関する満足度



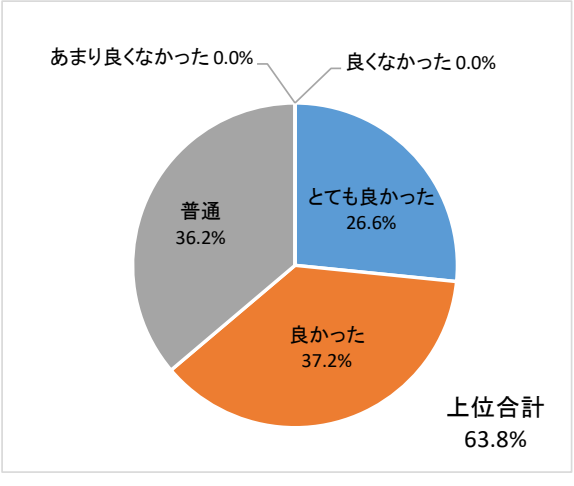
④来館頻度



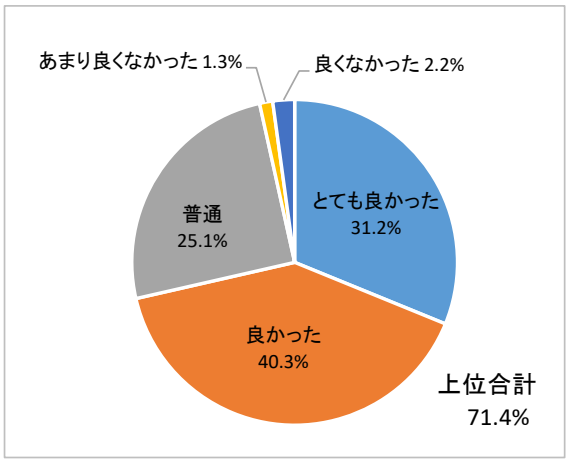
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



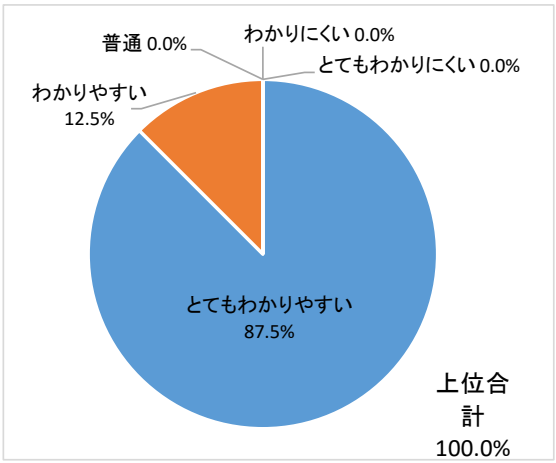
⑦スタッフ対応に関する満足度



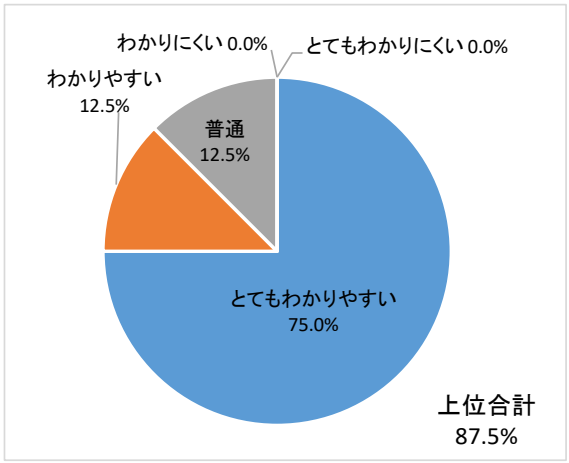
⑧主な意見・感想
・とてもきれいな館内で見やすかったです。写真がとれるところもあり良かったと思います。
・ここでしか観ることができないものが沢山あり、楽しかった。
・一つ一つの作品に説明があり分かりやすかった。
・仏像について体系的に鑑賞できて、面白かったです。
・お水取り展の礼堂模型を復活させて欲しい。
・展示室にも椅子がほしい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数:8人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

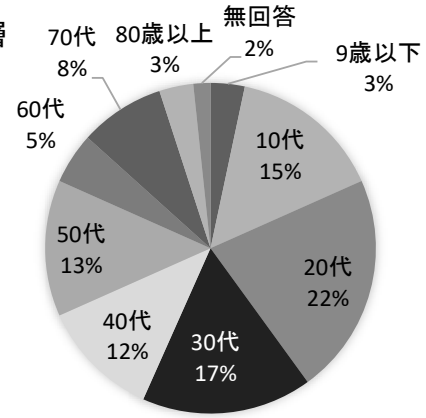


主な意見・感想
・よかったです。
・いくつか写真の許可がほしかったです。後で見たいと思いました。

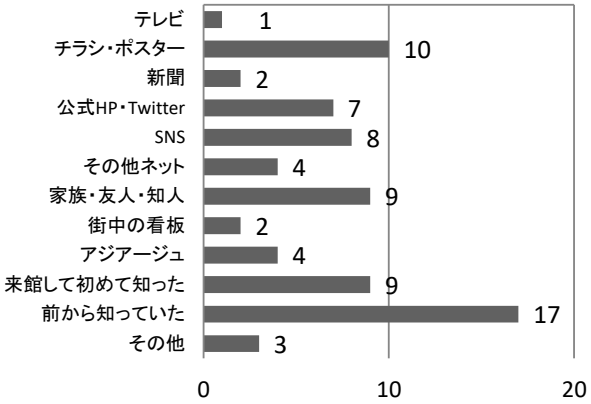
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：令和4年1月1日(土)～令和4年3月31日(木)　開館日数:77日間
回答者数：60人　来館者数：28,368人　アンケート回収率：0.2%

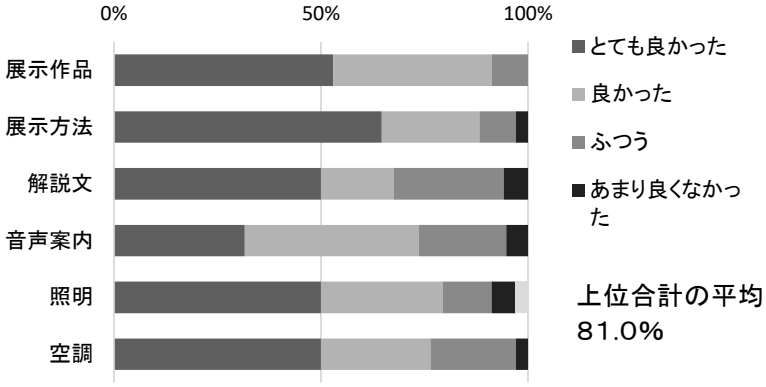
①年齢層



②認知経路（複数回答）

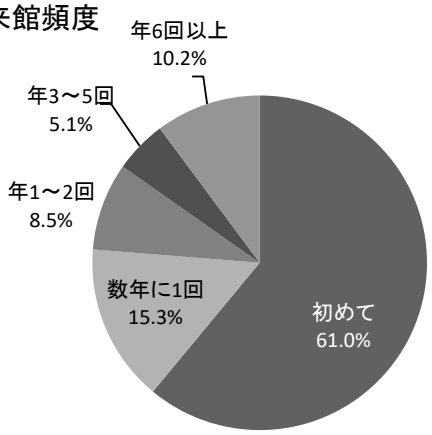


③展示に関する満足度

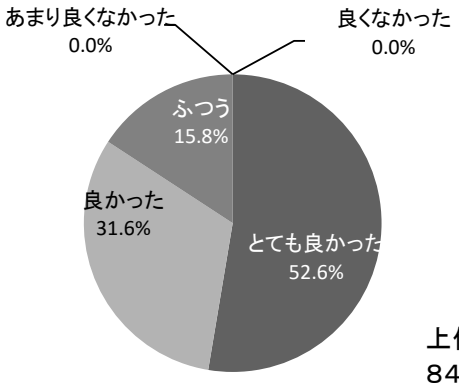


上位合計の平均
81.0%

④来館頻度

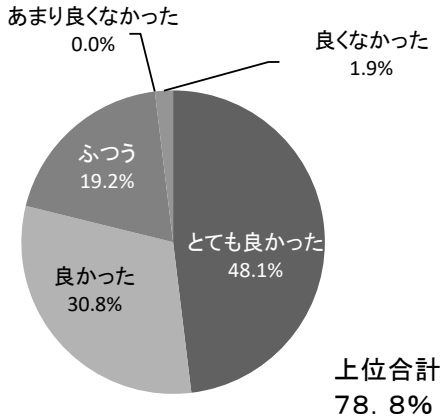


⑤ミュージアムショップに対する満足度



上位合計
84．2%

⑥館内スタッフの対応について



上位合計
78．8%

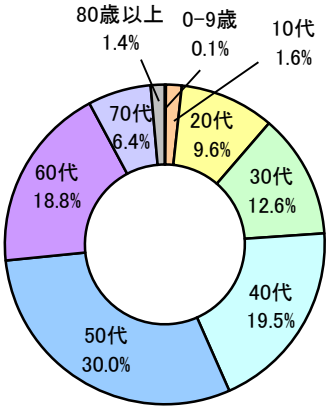
主な意見・感想
心から落ち着きました。親に観に来させてあげたい
特別展の他、『アジアを変えた鉄』をSNSで知りついでに観に来た。興味深かった。
照明が暗くて説明文が読みにくい。
時代順にしてある程度のルートを設定すべき。

特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」

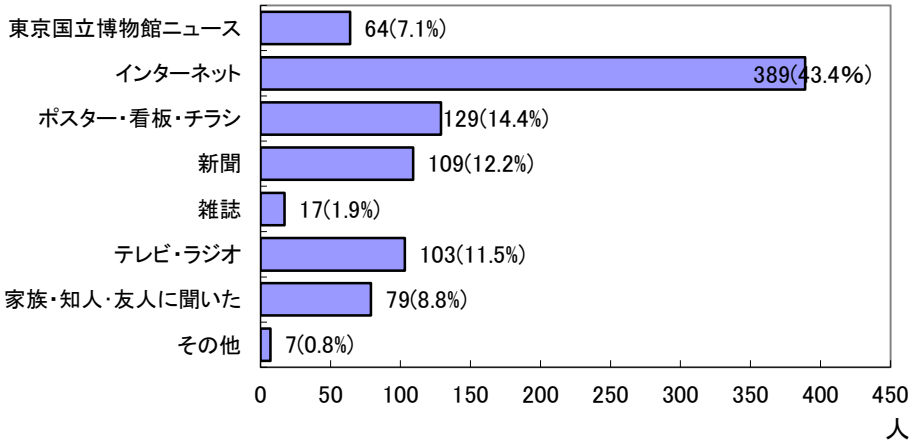
アンケート集計結果

開催期間：令和３年４月１３日（火）～令和３年６月２０日（日）（３１日間）
総入館者数 ： １２９，３４９人
回答者数：７０３人

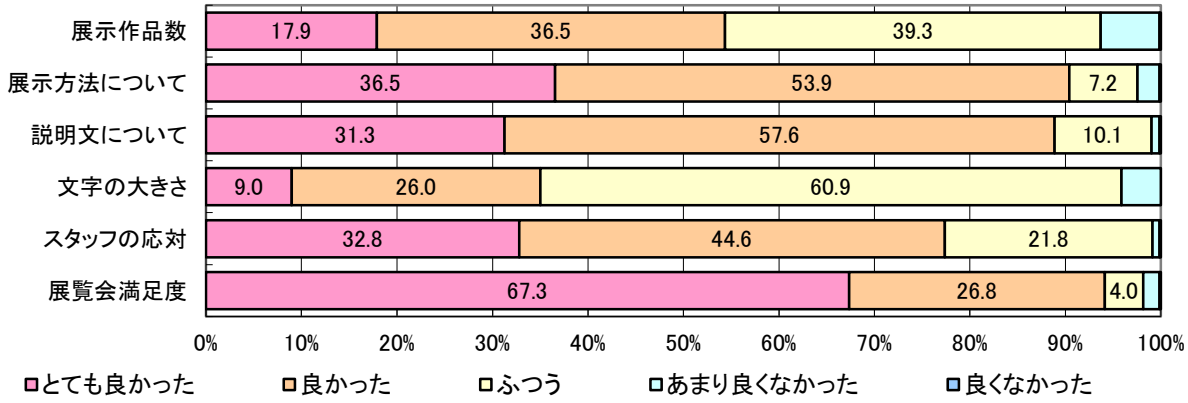
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・動く歩道によってスムーズに鑑賞することができた。
・会期延長によって観覧することができて、良かった。
・４巻の全場面が一堂に観覧できて良かった。
・展示室内の装飾（垂れ幕、プロジェクションマッピング等）が凝っていて、良かった。
・グッズ売り場が混雑・密になっていた。
・乙、丙、丁巻にも動く歩道を導入してほしかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	6.2	0.1
展示方法	2.3	0.1
説明文	0.9	0.1
文字サイズ	4.1	0.0
スタッフの応対	0.7	0.1
展覧会の満足度	1.7	0.1

（%）

本展は、国宝「鳥獣戯画」の甲・乙・丙・丁全4巻の全場面を、会期を通じて一挙公開しました。加えて、かつて4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結し、＜鳥獣戯画のすべて＞をご堪能いただける、またとない機会となりました。さらに、「鳥獣戯画」が伝わる京都の高山寺を再興された明恵上人の魅力を、重要文化財「明恵上人坐像」をはじめとする高山寺選りすぐりの名宝などを通して迫りました。本展会期中には緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館を行いましたが、会期の延長が実現し、非常に多くのお客様に、ご来館いただくことができました。また、臨時休館からの再開後には、館内消毒の徹底をはじめお客様のご協力もあり、無事に閉幕することができました。

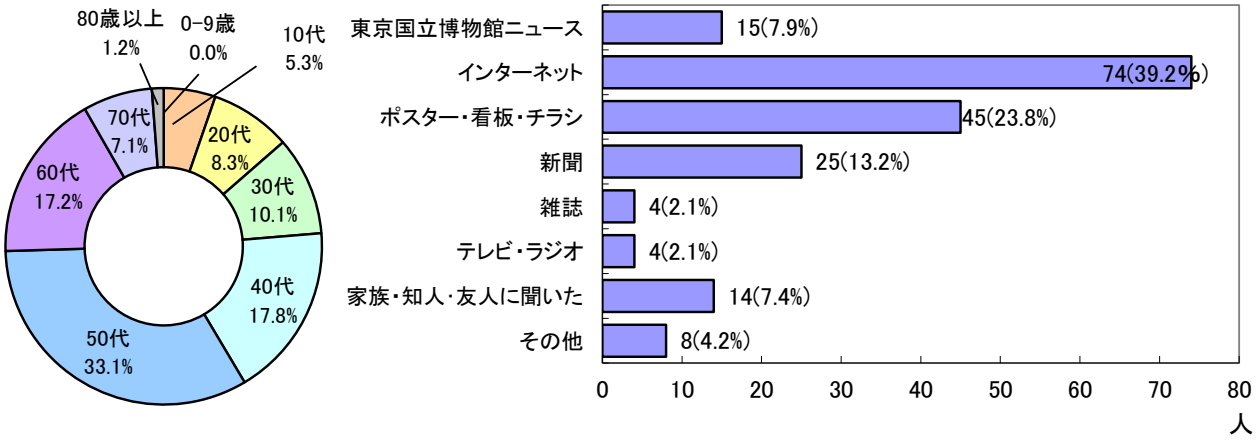
本展覧会を観覧しアンケートに答えた94.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。高評価をいただいた要因の一つは、2015年に開催した鳥獣戯画展の課題を踏まえ、新たに導入した動く歩道により、混雑が緩和されたこと、手元で巻物を動かしながら見る感覚を体験いただけたことと考えられます。その一方で、コロナ禍を受けて、グッズ売り場の配置・混雑対策へのご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

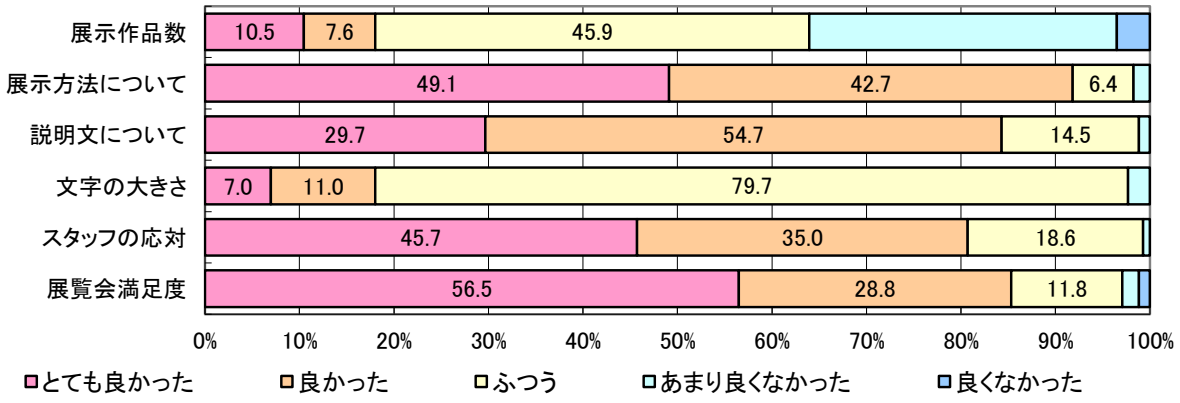
特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
アンケート集計結果

開催期間：令和３年６月２２日（火）～令和３年９月１２日（日）（７３日間）
総入館者数：５９，１２５人
回答者数：１７２人

①アンケート回答年齢層　　②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・国宝 十一面観音菩薩立像に感動した。
・時間ごとの入場で密にならず、落ち着いて観覧できた。
・音声ガイドが分かりやすかった。
・同時期に開催していた特別展「聖徳太子と法隆寺」とのセット券が欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	32.6	3.5
展示方法	1.8	0.0
説明文	1.2	0.0
文字サイズ	2.3	0.0
スタッフの応対	0.7	0.0
展覧会の満足度	1.8	1.2

（%）

本展では、かつて大神寺にあった国宝「十一面観音菩薩立像」（聖林寺蔵）、国宝「地蔵菩薩立像」（法隆寺蔵）などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展示しました。国宝「十一面観音菩薩立像」が奈良県外に出ることは初めてであり、多くの来館者に、この比類なき美しさを間近で、ご覧いただく機会となりました。

本展は、昨年6月に開催を予定していましたが、緊急事態宣言を受けて、本年に開催が延期となりました。会期中に、緊急事態宣言が発令され、通常とは異なる状況下にありましたが、事前予約制、入館者数の制限、館内消毒の徹底をはじめ、展示室内での会話を控えていただくなど、来館者のご理解とご協力により、無事に閉幕することができました。

本展を観覧しアンケートに答えた85.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。また、同時期に開催していた特別展とのセット券を求める意見も寄せられるなど、コロナ禍における新たな博物館運営への助言をいただきました。

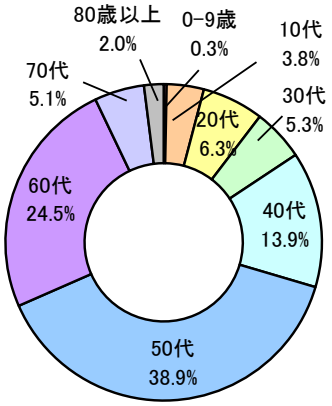
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

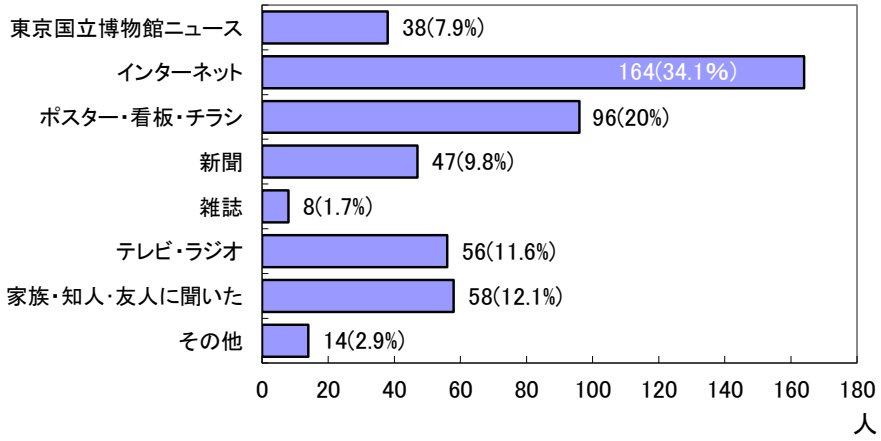
アンケート集計結果

開催期間：令和３年７月１３日（火）～令和３年９月５日（日）（４８日間）
総入館者数 ： ６９，６４０人
回答者数：３９６人

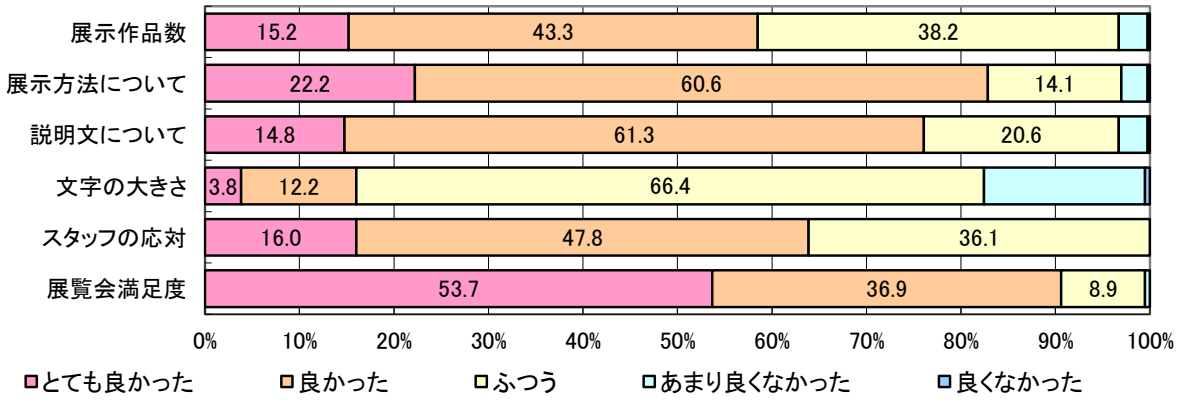
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・貴重な作品をたくさん見ることができ、見ごたえがあった。
・コロナの影響で現地に行けないので、東京で法隆寺の寺宝を見ることができてうれしかった。
・事前予約制で混雑なく、観覧することができた。
・国宝 救世観音・百済観音の8K文化財の映像がとても美しく、細部まで見ることができてよかった。
・漢字にルビをふってほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.0	0.3
展示方法	2.8	0.3
説明文	3.1	0.3
文字サイズ	17.0	0.5
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	0.5	0.0

（%）

本展は、聖徳太子の1400年遠忌にあたり、これを記念して開催されたもので、法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、また飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて、太子その人と太子信仰の世界に迫るものとなりました。1400年という遙かなる時をこえて、今を生きる私たちが聖徳太子に心を寄せることでその理想に思いを馳せ、歩むべき未来について考える絶好の機会となりました。

本展会期中に、緊急事態宣言が発令されましたが、事前予約制による混雑回避をはじめ、館内消毒の徹底、展示室内で会話をお控えいただくなど来館者のご理解とご協力もあり、無事に閉幕することができました。

本展を観覧しアンケートに答えた90.6%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。コロナ禍で、県境をまたいだ移動が制限される中で、奈良県の現地に行かずに、東京で法隆寺の寺宝等を観覧できたことが、さらに満足度を高めることになったと考えられます。

また、インターネットによる事前予約への手続きの難しさや、解説パネルの漢字にルビが欲しいといったご意見もいただきました。

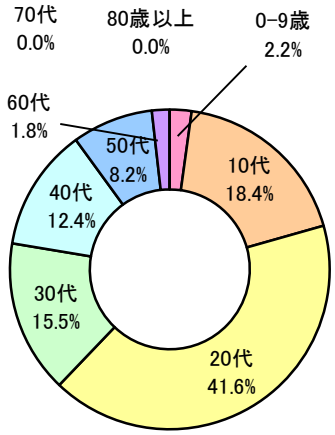
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46

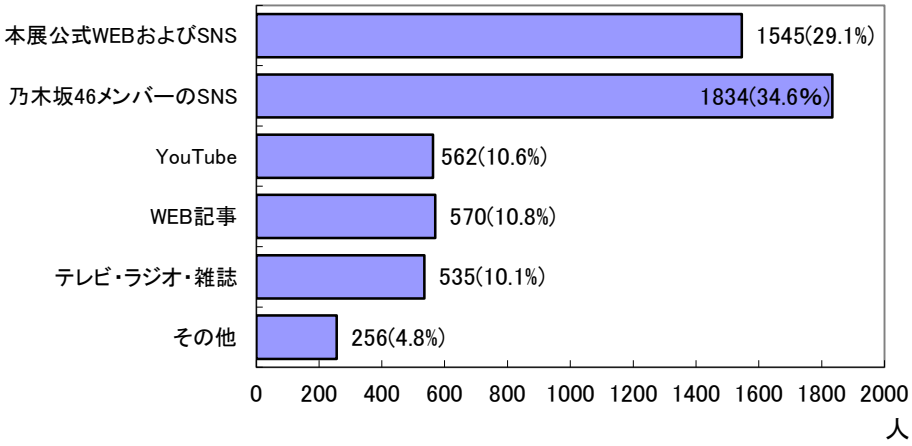
アンケート集計結果

開催期間：令和３年９月４日（土）～令和３年１１月２８日（日）（７５日間）
総入館者数 ： ５８，４６１人
回答者数：２，９６２人

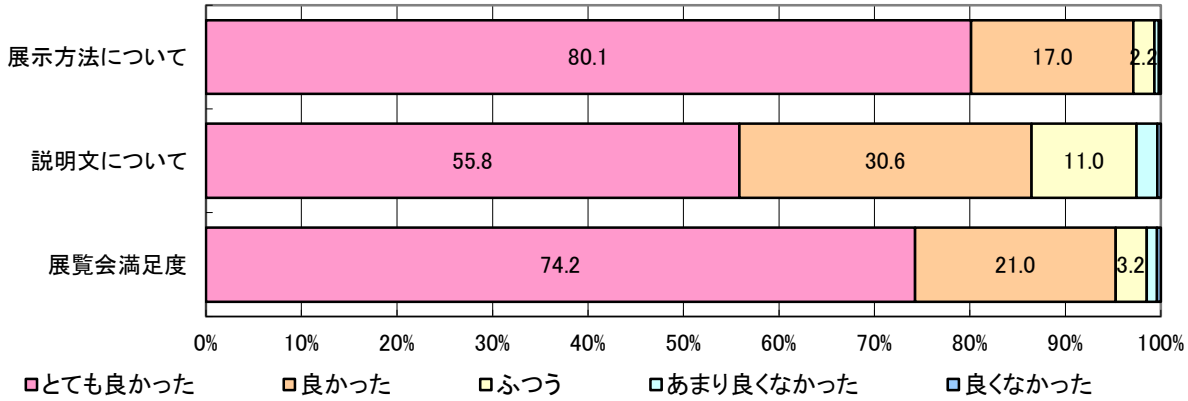
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・展示内容がとてもよく、乃木坂46と日本美術の融合が素晴らしく心を惹かれた。
・日本美術作品に触れる良い機会になった。
・取っ付きにくいと感じていた、屏風や振袖、水墨画のイメージが今日をきっかけに変わった。
・普段来ない美術館が身近に感じた。
・人数を制限していたので、安心して見られると同時に、展示も見やすかった。
・入口に作品紹介、その後映像があると移動がスムーズで、より理解も深まったと思う。
・グッズ売り場の待機列が密で換気悪いのがよくなかった。レジが少ない。オンラインでも販売してほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示方法	0.5	0.2
説明文	2.2	0.4
展覧会の満足度	1.1	0.4

（%）

※今回はアンケート実施者が異なるため、アンケート集計内容が一部異なる

本展は、春夏秋冬の花があらわされた7点の日本美術（高精細複製作品）を現代のポップカルチャーとあわせて紹介するものとなりました。7つの日本美術作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46です。一人一人が花に見立てられ、各々のメンバーが表現するパフォーマンスの映像インスタレーションによって、日本の人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら見ていただきました。彼女たちが日々、表現している歌詞や世界観が、日本美術に重ねられていくことで、乃木坂46と日本の文化と、そして私たちが生きる日常／自然とが、地続きの存在であることを実感していただく機会となりました。

本展を観覧しアンケートに答えた95.3%の方から「とても良かった」「良かった」と大変好意的な意見が寄せられました。乃木坂メンバーそれぞれにあった映像がとても美しく、美術作品や建物の雰囲気とも合っていて感動した、という意見が多く、ふだん接することがなかった日本美術への関心、美術館博物館への関心を想起する機会になったという意見も多くみられました。一方、ショップの待ち列やお客様同士の会話への注意など、コロナ対策を徹底してほしいというという意見も寄せられました。

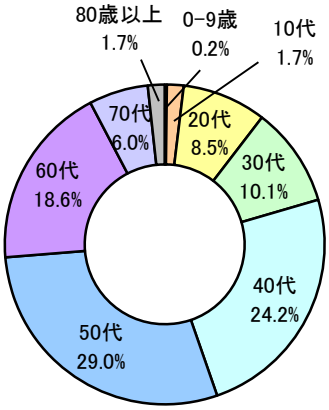
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

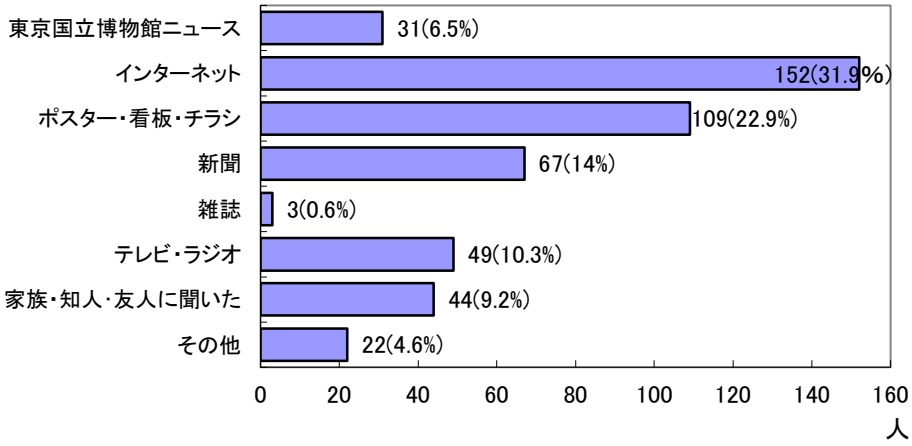
アンケート集計結果

開催期間：令和３年１０月１２日（火）～１１月２１日（日）（３６日）
総入館者数 ： ６３，９７７人
回答者数：４１８人

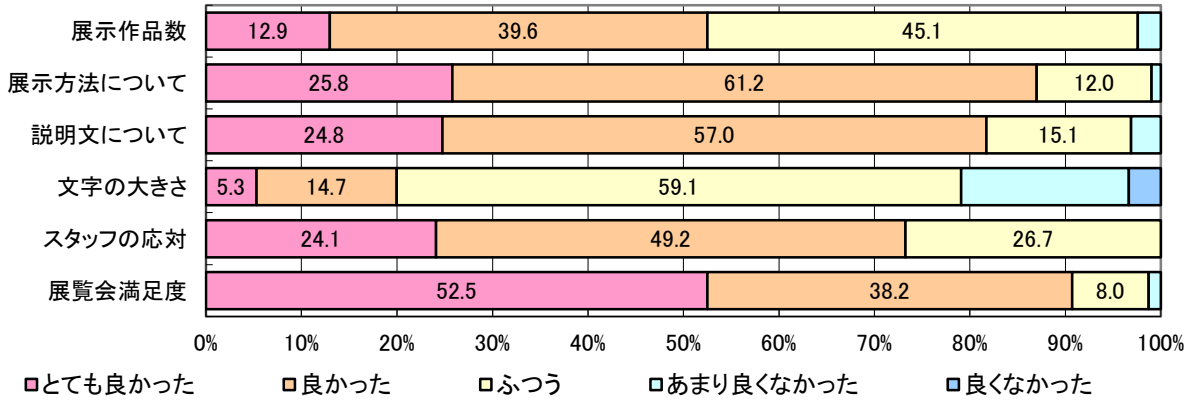
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・普段見ることのできない秘仏をたくさん見ることができてよかった。
・国宝や重要文化財が多数あり、見ごたえのある展示だった。
・歴史の流れ・結びつきの分かる展示構成だった。
・事前予約制で混雑なく、観覧することができた。
・展示室内の椅子を増やしてほしい。
・展示パネルの文字を大きくしてほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.4	0.0
展示方法	1.0	0.0
説明文	3.1	0.0
文字サイズ	17.5	3.4
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.3	0.0

（%）

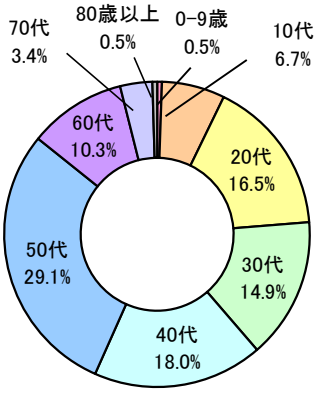
2021年は、伝教大師最澄の1200年の大遠忌にあたる年でした。本展では、延暦寺における日本天台宗の開宗から、東叡山寛永寺を創建して太平の世を支えた江戸時代に至るまでの天台宗の歴史をご紹介しました。また、日本各地で守り伝えられてきた貴重な宝物や、『法華経』の説く万民救済の精神をあらわす文化財を、地域的な特色を示しながらご覧いただくことができ、秘仏をはじめ、天台の名宝が集う貴重な機会となりました。

本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.7%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き事前予約制を導入したことで、混雑なくご観覧いただけたこと、そして秘仏、国宝や重要文化財をはじめとした作品構成が多くの来館者にご満足いただけた要因だと考えられます。一方で、展示室内の休憩スペースの増加や、解説パネルの文字を大きくすることへのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

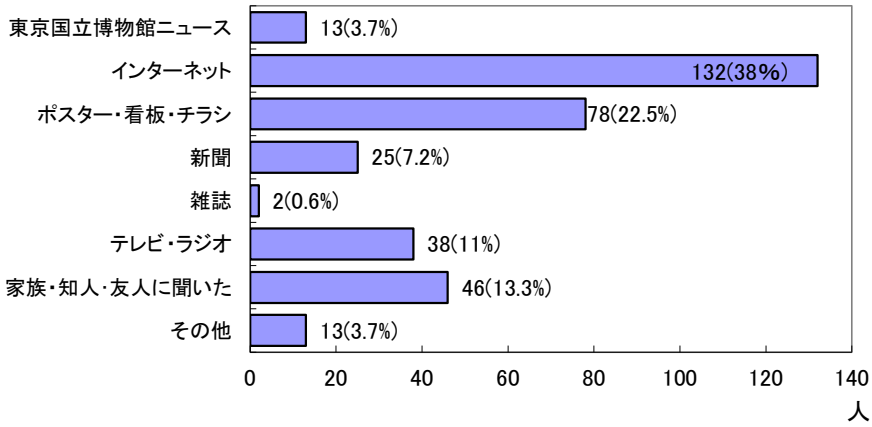
特別展「ポンペイ」
アンケート集計結果

開催期間：令和４年１月１４日（金）～４月３日（日）（７０日）
総入館者数：１９７，７００人
回答者数：３９０人

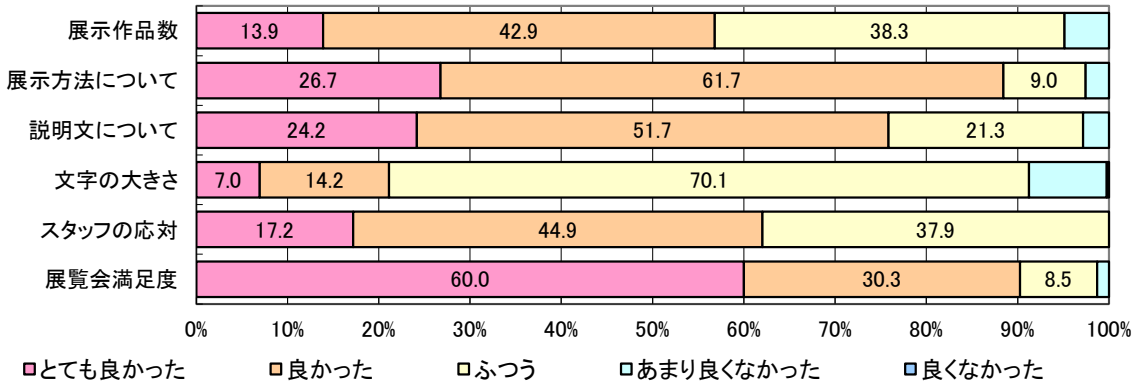
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・遺跡の再現が非常に魅力的でよかった。
・写真撮影可能な点がよかった。
・展示を通してポンペイの発達した文化に触れることができ、実際にポンペイを訪れたいと思った。
・見ごたえがあり楽しかった。
・作品だけでなく展示空間を含めて楽しむことができた。
・写真撮影可のため立ち止まる人が多かった。
・導線がわかりにくい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	4.9	0.0
展示方法	2.6	0.0
説明文	2.8	0.0
文字サイズ	8.5	0.3
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.3	0.0

（%）

ポンペイは紀元後79年、イタリアのナポリ近郊のヴェスヴィオ山の大規模な噴火により火山噴出物に飲み込まれたローマ帝国の都市で、発掘は18世紀に始まり、現在まで続いています。本展覧会では、壁画、彫像、工芸品の傑作から、食器、調理具といった日用品にいたる発掘品を展示することで2000年前の都市社会と豊かな市民生活をよみがえらせました。

本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。「遺跡の再現が非常に魅力的でよかった」、「作品だけでなく展示空間を含めて楽しむことができた」というご好評の声を多数いただくきました。また展覧会を通して「ポンペイを実際に訪れたい」というご意見も多数お寄せいただきました。

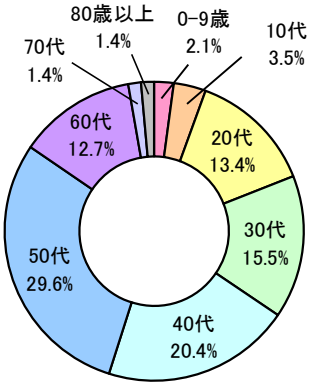
また、展示室内の写真撮影に対しては好意的なご意見をいただく一方で、撮影音を抑えてほしい等のご意見も寄せられました。

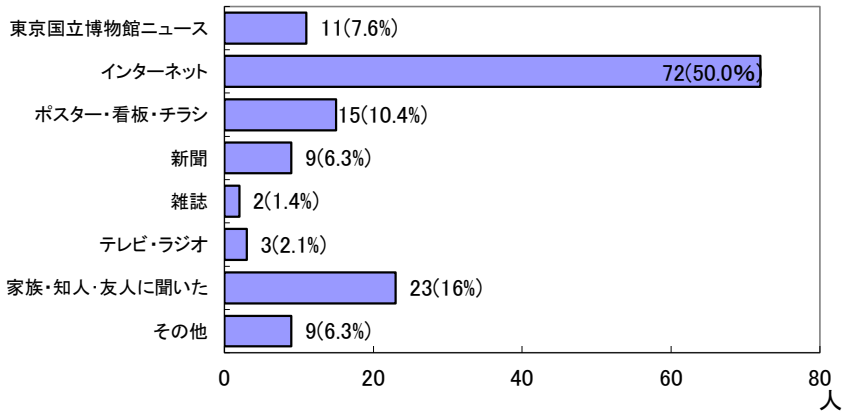
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

アンケート集計結果

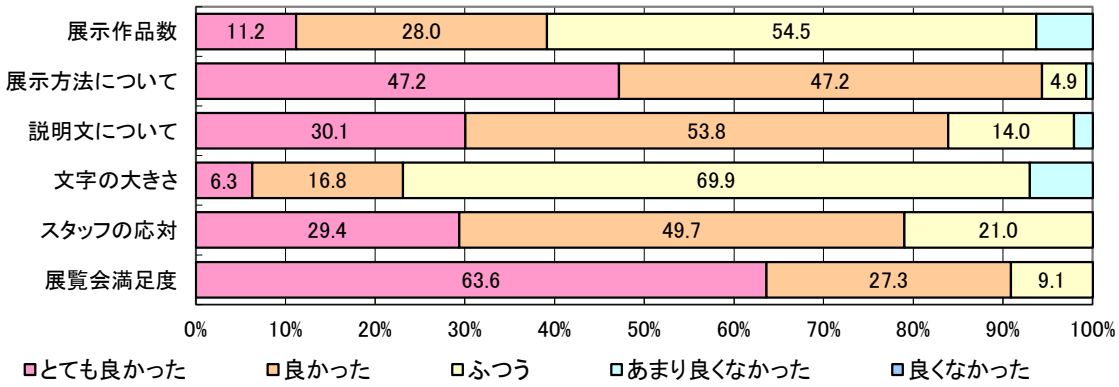
開催期間：令和４年１月７日（金）～３月１３日（日）（５７日）
総入館者数：１５，４０５人
回答者数：１４３人

①アンケート回答年齢層　　②認知経路（複数回答）





③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・日本の伝統芸能に対する理解が深まった。
・歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊と５つの伝統芸能を比較することができたのが興味深かった。
・馴染みのない伝統芸能に接する良い機会となった。
・色鮮やかな衣装にうっとりした。
・外国の方に見てもらいたい展示だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	6.3	0.0
展示方法	0.7	0.0
説明文	2.1	0.0
文字サイズ	7.0	0.0
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	0.0	0.0

（%）

本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介しました。また各展示室では、来館者が実際に舞台に上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を展示しました。

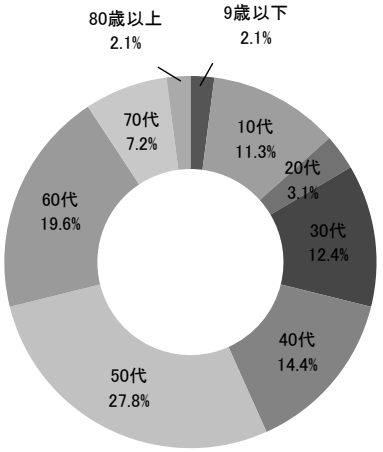
本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.9%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。コロナ禍により日本の伝統芸能の文化を、多くの外国の方々にご覧いただけなかったことは非常に残念ではありましたが、再現舞台を使用した体験や普段では見ることのできない実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を間近でご覧いただけたことが多くのお客様にご満足いただけた要因だと考えます。

一方で、展示室内の休憩スペースの増加や、事前予約の難しさへのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

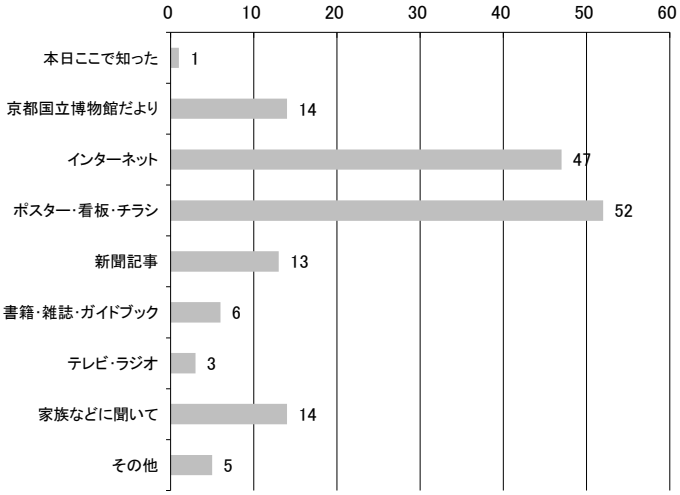
特別展覧会「鑑真和上と戒律のあゆみ」
アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 3月 27日（土）～ 5月16日（日）（51日間）
回答者数： 112人（総来館者数 18,797人 アンケート回収 0.6%）

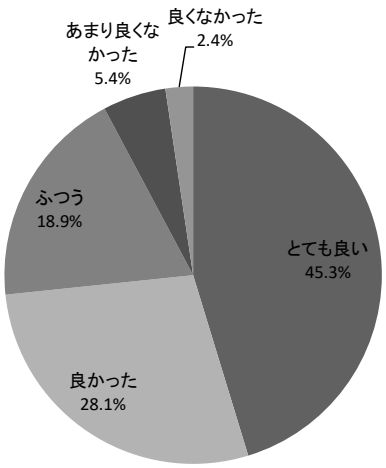
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
73.4%

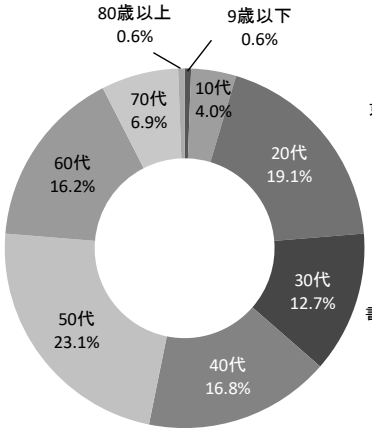
④主な意見・感想

・「鑑真和上坐像」は生きているようだった
・「弘法大師坐像」に感動した
・手を合わせたい気持ちになる
・戒律を伝え、守った僧を尊敬する
・仏教の知識があればもっと楽しめたと感じた

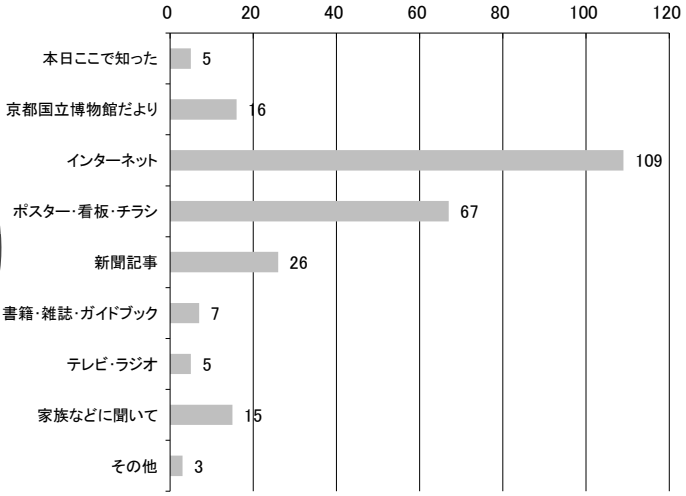
特別展覧会「京の国宝」
アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 7月 24日（土）～ 9月 12日（日）（51日間）
回答者数：272人（総来館者数 37,065人　アンケート回収率 0.7%）

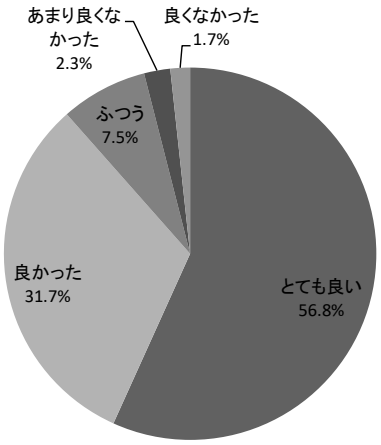
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



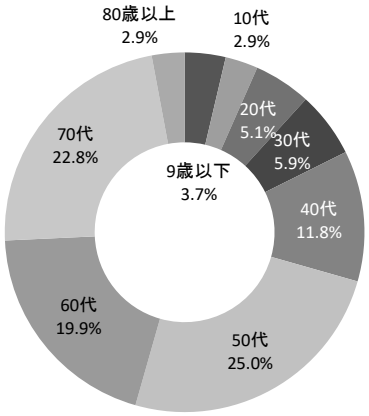
アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
88.5%

④主な意見・感想
・国宝がどのように守られてきたか展示の流れが分かりやすかった
・文化財の制度や活動も紹介され以前の国宝展よりも意義深く感じる
・京博に来ると清々しい気持ちになりリフレッシュできる
・コロナ禍に開館してくれてありがたい
・「風神雷神図屏風」を平常展でももっと展示してほしい

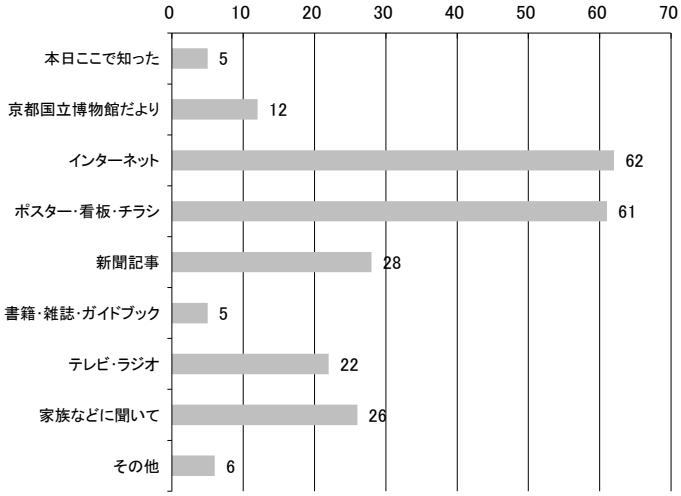
特別展覧会「畠山記念館の名品」
アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 10月 9日（土）～ 12月 5日（日）（58日間）
回答者数：272人（総来館者数 39,782人　アンケート回収率 0.7%）

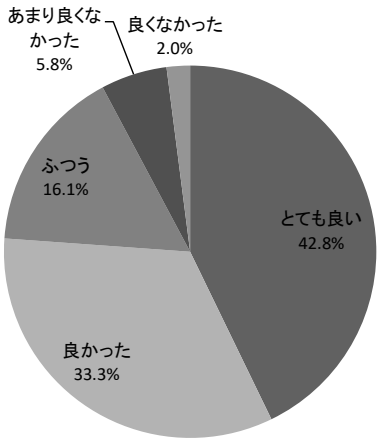
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
76.1%

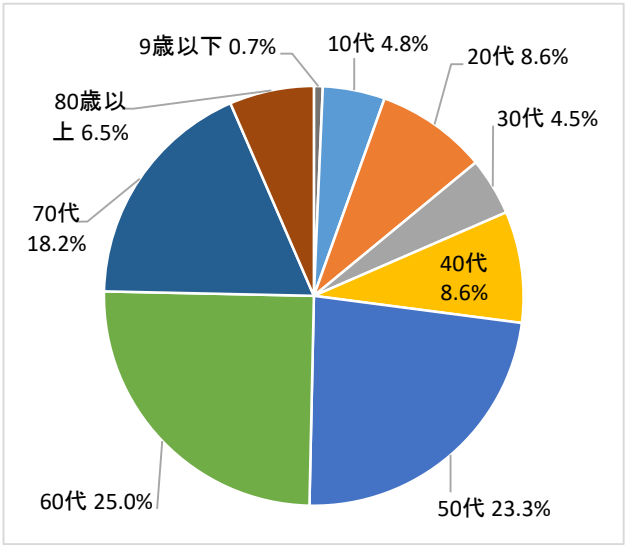
④主な意見・感想
・遠方でなかなか行けない畠山記念館の作品を見ることができた
・素晴らしい展示品ばかりで正に名品展だった
・茶道のことも分からなくても凄さが分かる展示だった
・道具を実際に使うことを想像することができた
・能装束の能舞台風の背景に学芸員のこだわりを感じた

聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」

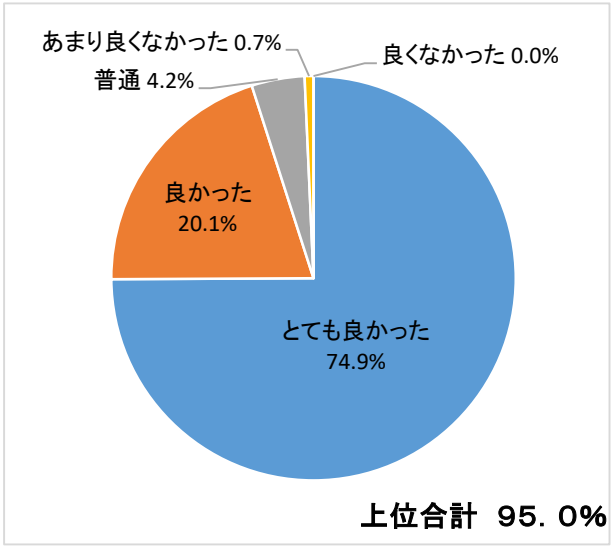
アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月27日（火）～令和3年6月20日（日）（49日間）
回答者数：355人　入場者数：44,233人　回収率：0.80%

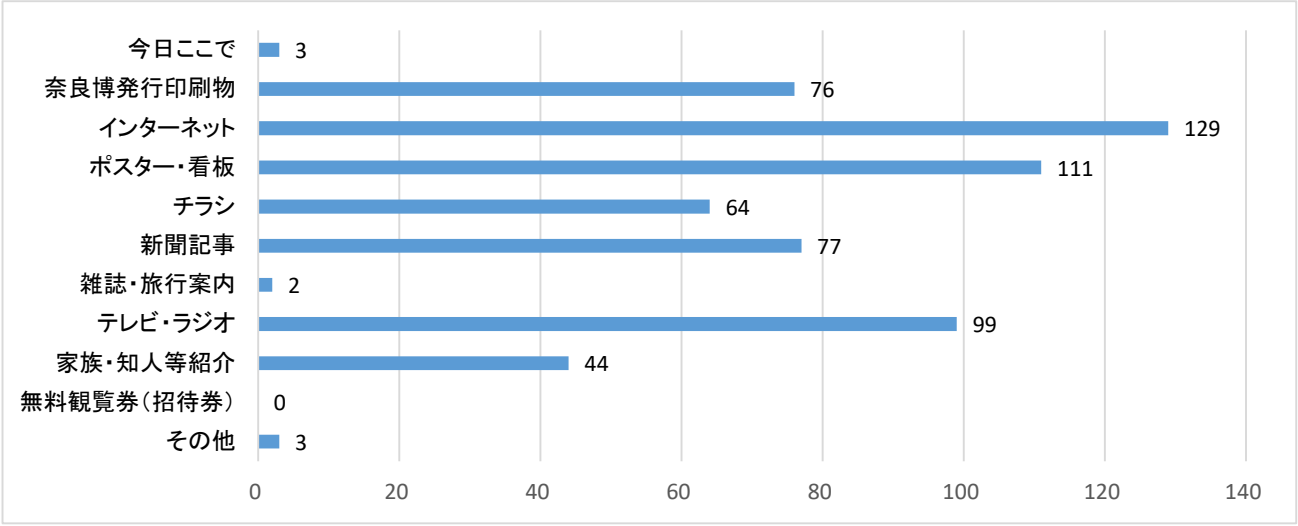
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

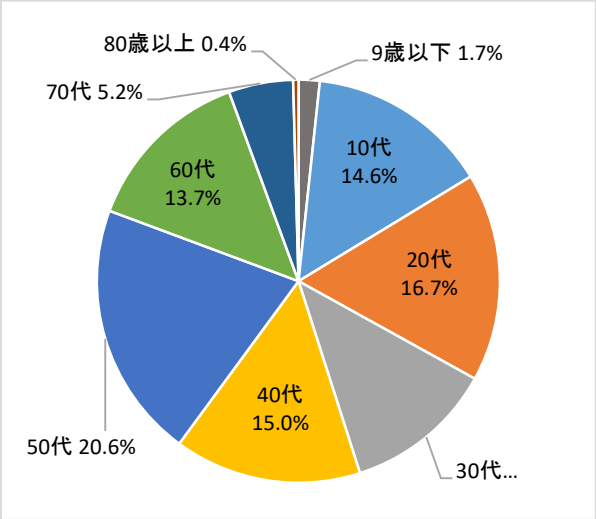
・玉虫厨子が見ごたえがあり、良かったです。
・初めて見るものも多く、また法隆寺内で遠くて暗くて見えにくいものがはっきりと見られて大変良かった。
・太子の仏教にかける思い、太子信仰を深く味わえた。
・国宝が多く展示されており、楽しめました。
・文字（説明）が小さく読みづらかった。
・番号順・表記を判りやすくお願い致します。
・高齢者にとっては、休けいする場所や椅子があると助かります。

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」

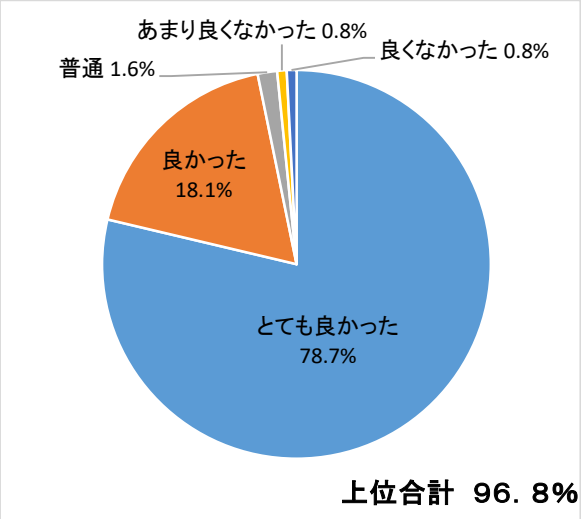
アンケート集計結果

開催期間：令和3年7月17日（土）～令和3年9月12日（日）（51日間）
回答者数：253人　入場者数：34,659人　回収率：0.73%

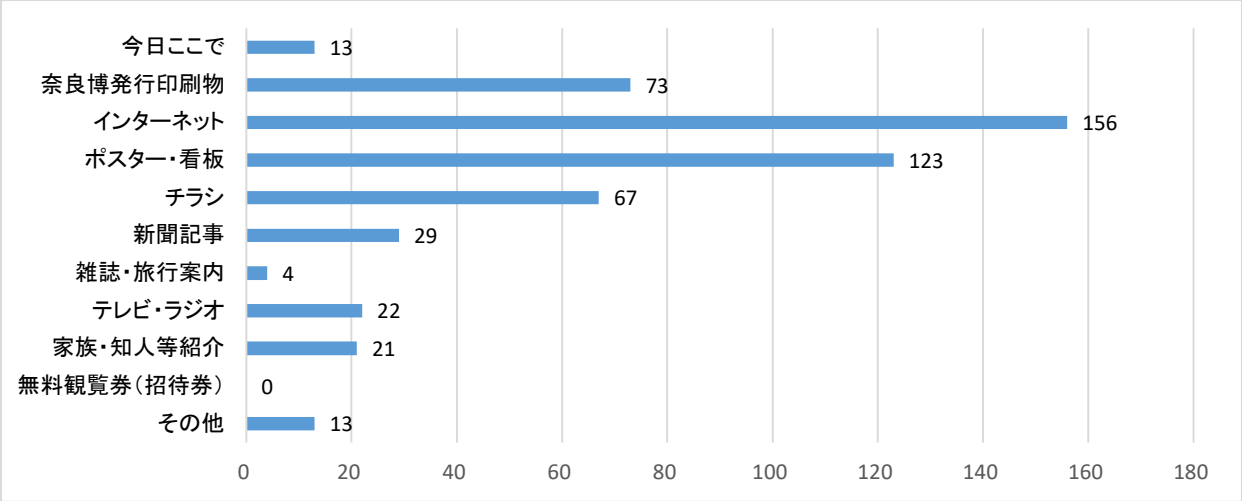
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

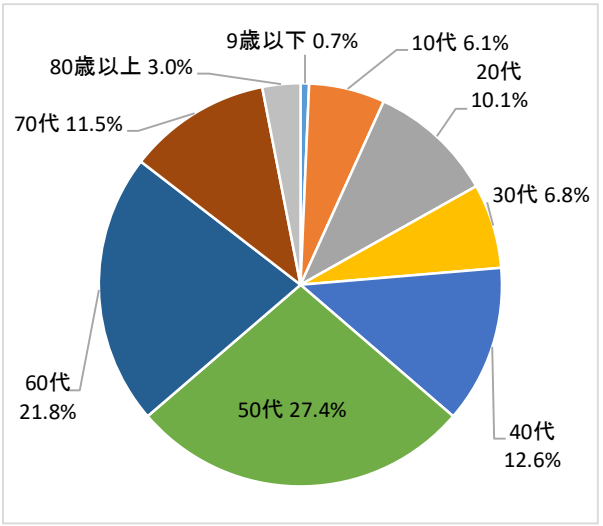
・奈良博のコレクション（体系）はすばらしいと思った。博物館は定期的に収蔵品のまとまった公開をしてほしい。
・ガイド目当てに来てしまいましたが、穏やかに見られて、聞けてとてもよかったです。
・オリジナルキャラクターもかわいらしく、展示品も興味深く、楽しい時間でした。ありがとうございます。
・子供（小学校低学年）が、読むことができる展示ボードの設置がとても良かった。
・やはり写真撮影ができたことは非常に良い。自身の記録、勉強に役立つ。今後も是非お願いしたい。
・シャッター音がうるさいので、写真NGのほうが良かった。
・明るくて、ケースに反射していて見えにくいところがあった。

第73回正倉院展

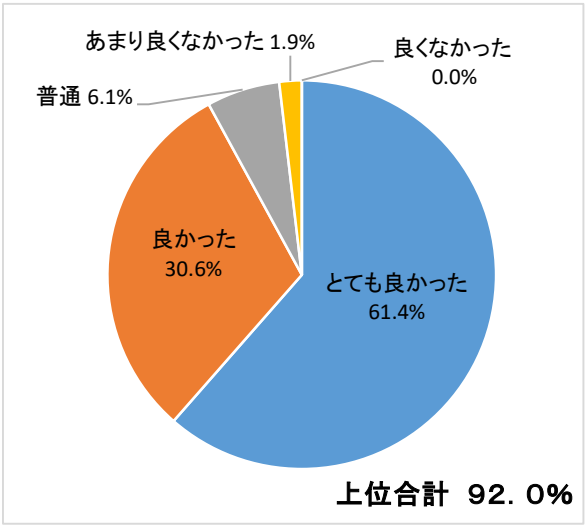
アンケート集計結果

開催期間：令和3年10月30日（土）～11月15日（月）（17日間）
回答者数：482人　入場者数：73,968人　回収率：0.65%
（日本語：478人／英語：4人）

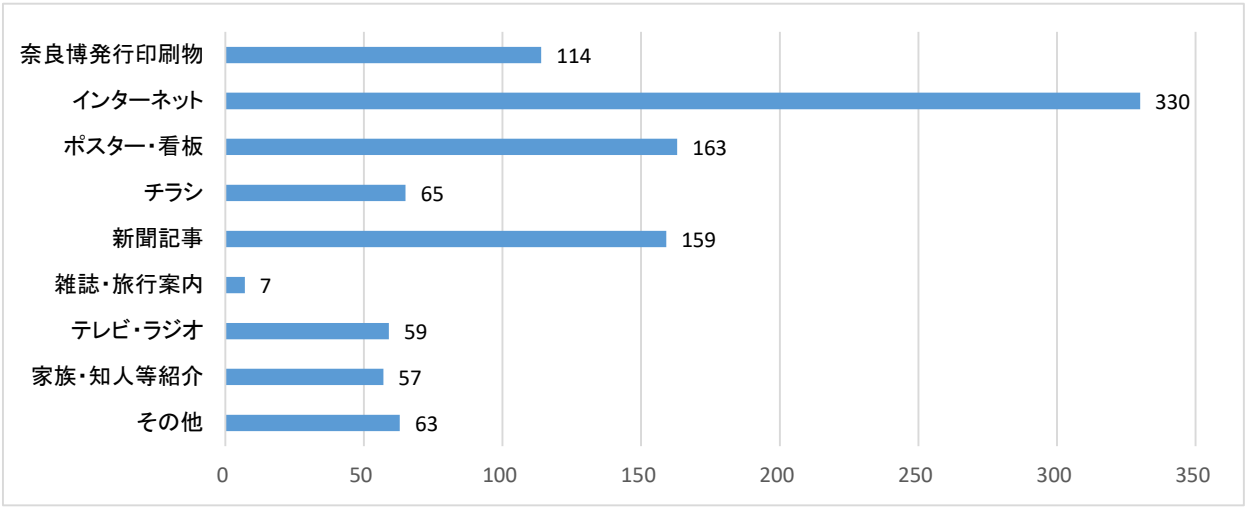
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

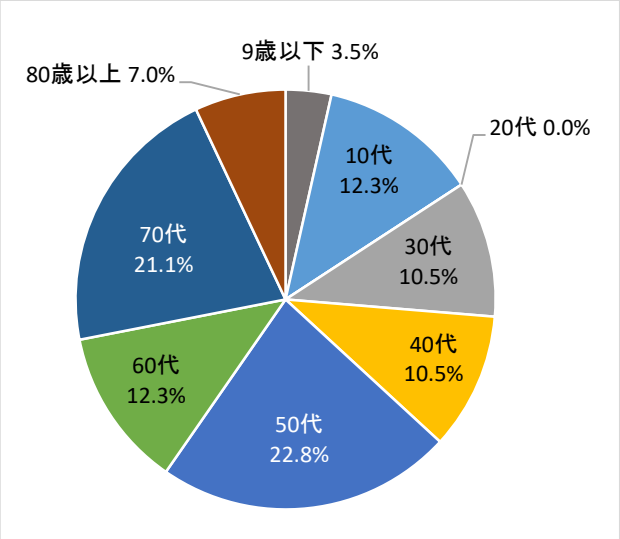
・毎年来るのを楽しみにしています。今後も続けていってもらいたいです。
・来年以降も、前売チケット制にしてほしいです。
・教科書にのっているような品々を見ることが出来、歴史を感じられた。
・展示が高い為、上部が見にくい。
・展示物が少なかった気がしました。
・もっと明るさが欲しい。

特別展「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」

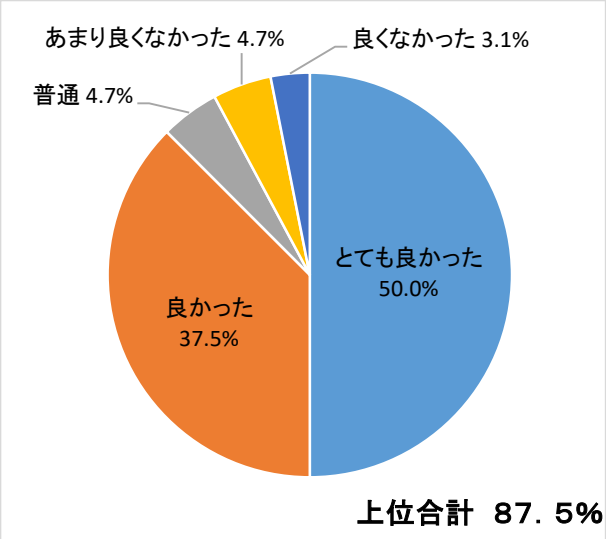
アンケート集計結果

開催期間：令和3年12月10日（金）～令和4年1月23日（日）（35日間）
回答者数：66人　入場者数：13,773人　回収率：0.48%

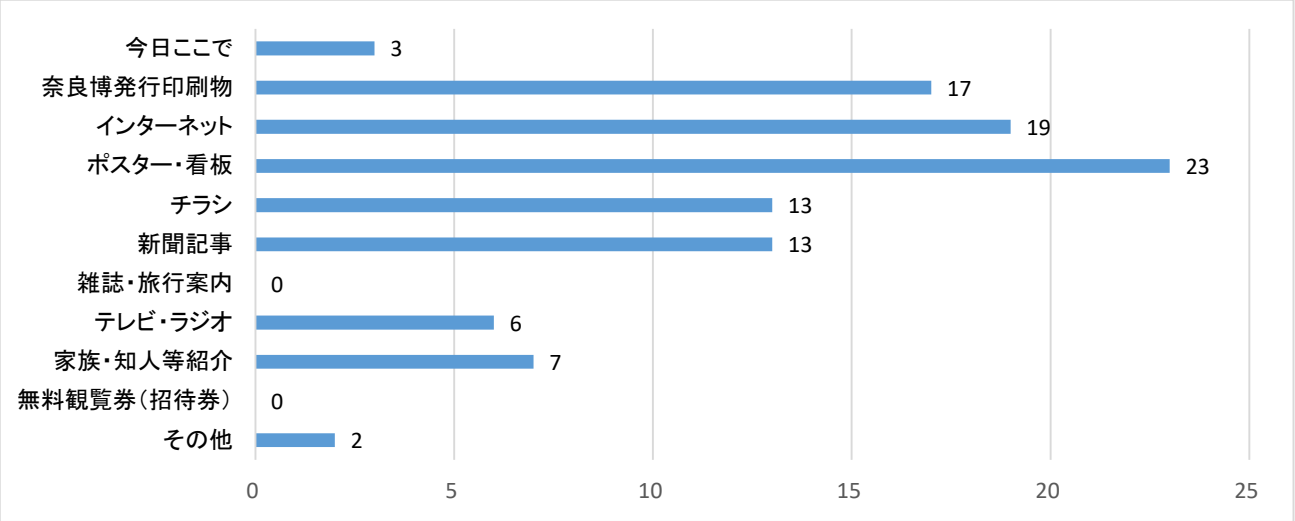
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

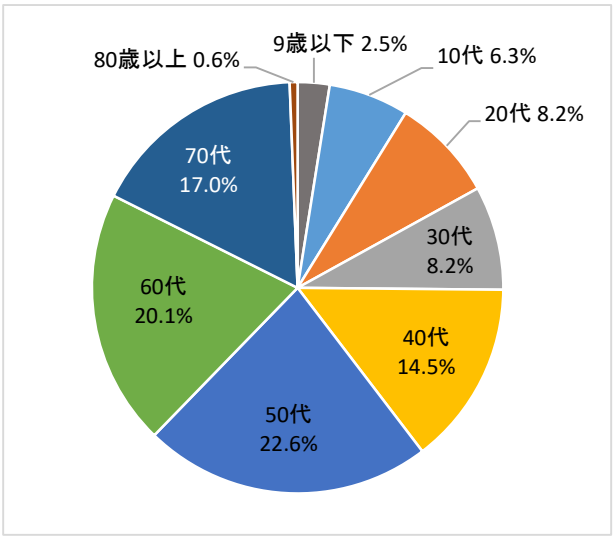
・藤田美術館の役割と日本の歴史上の動きが良く示されていた。
・なかなか他では観られない作品が一挙に観られる点。時代を追う構成もよかった。
・竹内栖鳳の作品の獅子図がケースに入っていたとはいえ、近くで観れてとても良かった。
・展示内容が少ない。
・解説にもっと力を入れてほしい。
・作品の保存でうす暗いので少し目が疲れた。

特別展「国宝　聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」

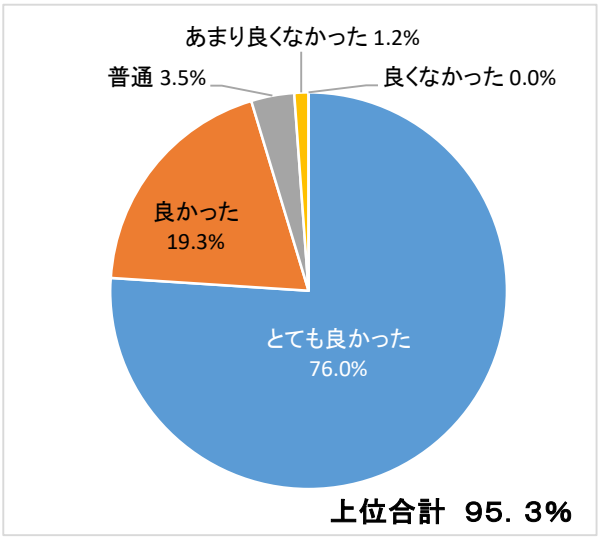
アンケート集計結果

開催期間：令和4年2月5日（土）～令和4年3月27日（日）（47日間）
回答者数：174人　入場者数：34,385人　回収率：0.51%

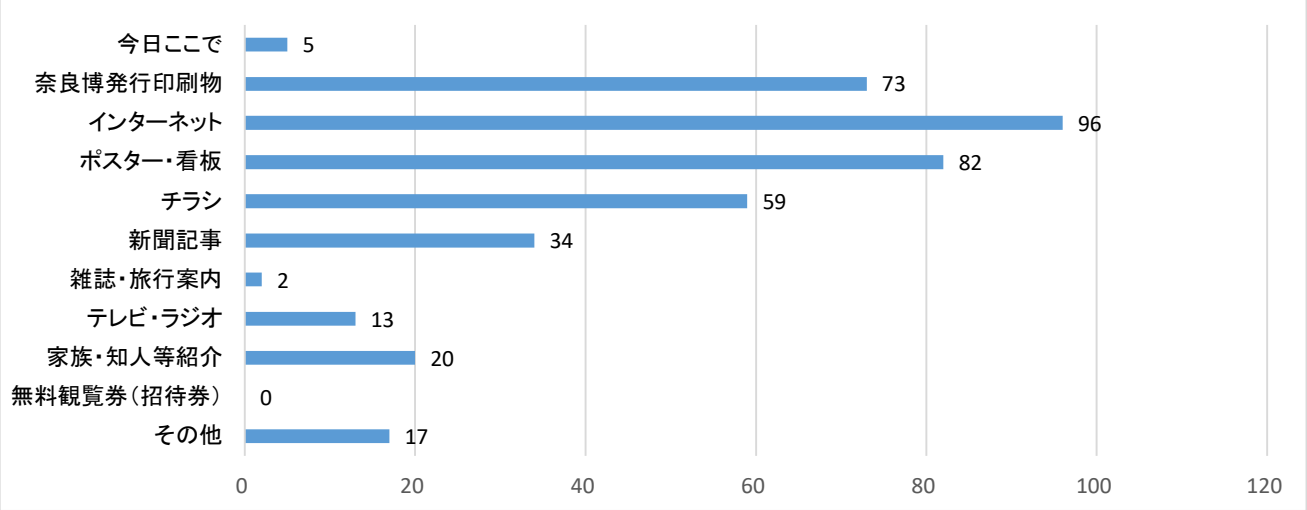
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



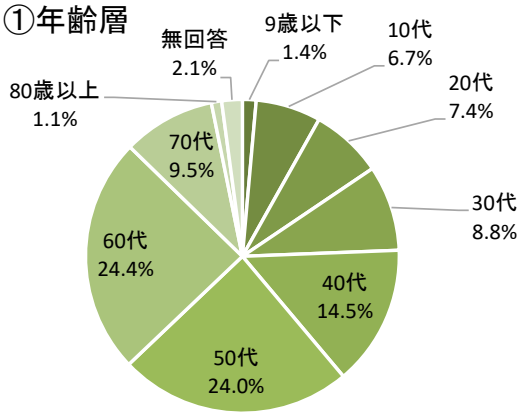
④主な意見・感想

・とても見やすい展示だったし、十一面観音がとても美しかった。
・聖林寺展に訪れましたが、感動しました。まさかのガラス無しでの360°拝観はとても良かったです。
・十一面観音も良かったですが、日光・月光菩薩が興味深かったです。
・展示数が手頃で一展示物に時間を注げたことは良かったと思う。
・ビデオ上映がよくわかりよかった。
・暗くて案内文が読みにくかった。文だけ照明を明るくあてるか、文字を大きくして欲しい。
・大御輪寺について理解するには図録が必要かと。キャプション説明だけではムリ。

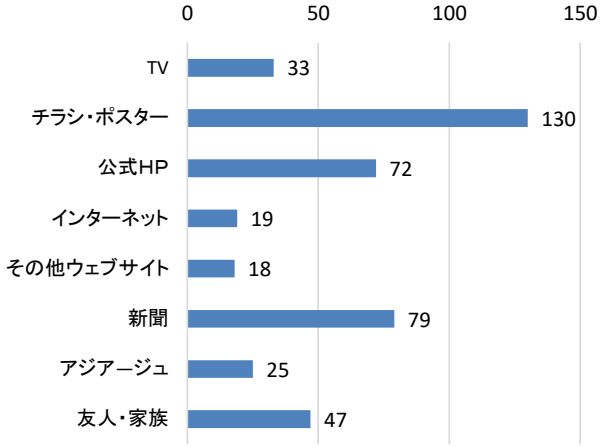
特別展「よみがえる正倉院宝物」
アンケート集計結果

開催期間：3年4月20日(火)～6月13日(日)（49日間）
総回答者数：283人（総来館者数：18,157人　アンケート回収率：1.56%）

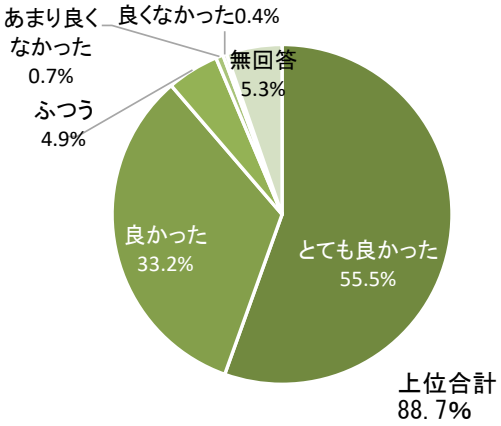
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



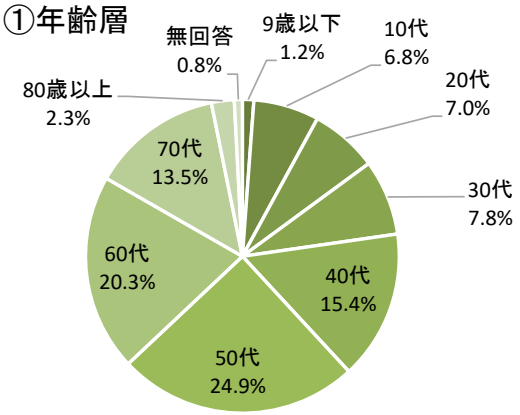
④主な意見・感想

・復元再生の必要を強く感じることができました。時代を超えて文化財保護に就いている方々に感謝します。
・他の博物館でも見たのだが、展示の仕方などに違いがある。様々楽しみながら見ることが出来た。
・再現に関わった工人たちのインタビューがとても良かった。それを見る前と後で視点を変えて見ることができて二度楽しめました。
・再現模造の横にどのくらいの状態からの復元であるか、現物の写真等もっとあれば良かったと思う。

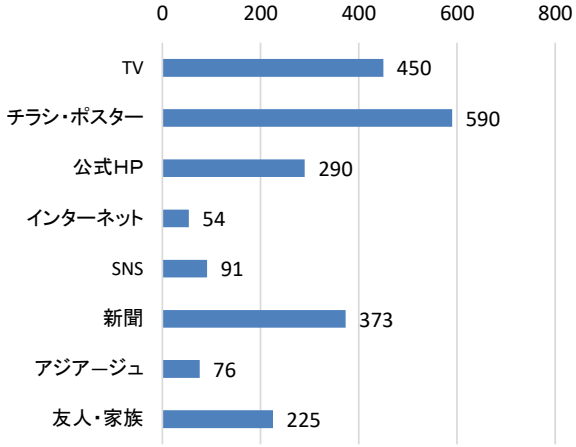
特別展「皇室の名宝」
アンケート集計結果

開催期間：3年7月20日(火)～8月29(日)（35日間）
総回答者数：1,448人（総来館者数：43,197人　アンケート回収率：3.35%）

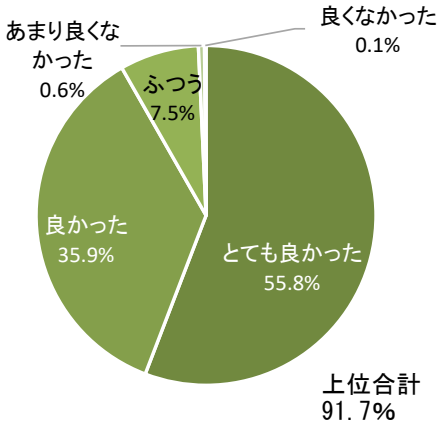
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



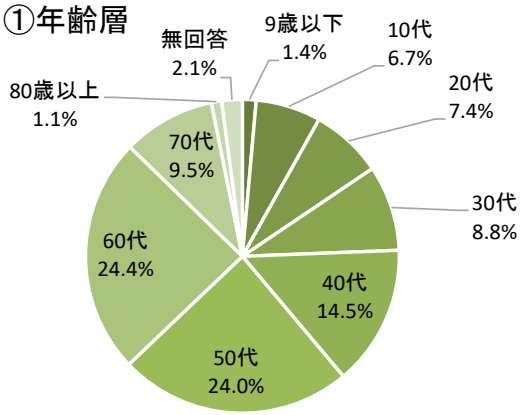
④主な意見・感想

・展示作品も多すぎず、少なすぎず丁度良い作品数で集中力が途切れることなく見られました。
・聖徳太子の肖像や蒙古襲来絵巻のような教科書で見慣れた作品の本物を見るという体験を出来てよかった。
・毎回、特別展を楽しみにしています。今回は、若冲や上村松園が入れ替わり展示のため、前、後期2回来ました。
・伊藤若冲は、本やTVなどでよく見ます。ですから、本物を見てみたいと思っていました。今日見ることができ本当に良かったです。
・皇室だからこその名品ぞろいでため息が出た。皇室の存在意義がこういった名宝を後世に残すためでもあることが学べた。
・各作品の材料や素材、技法の紹介もして欲しかった。像など木なのか、金属なのかなど興味があります。

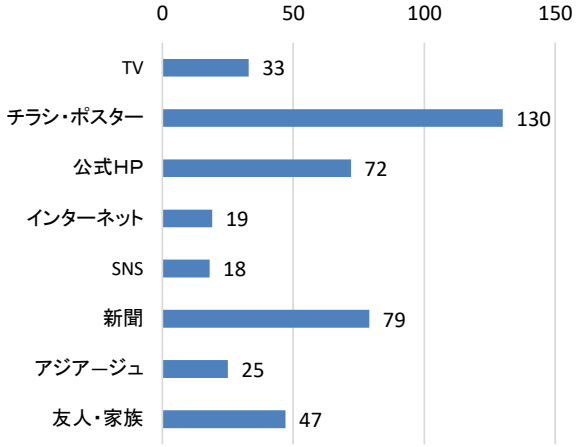
特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」
アンケート集計結果

開催期間：3年10月9日(土)～12月5(日)（50日間）
総回答者数：620人（総来館者数：17,383人　アンケート回収率：3.57%）

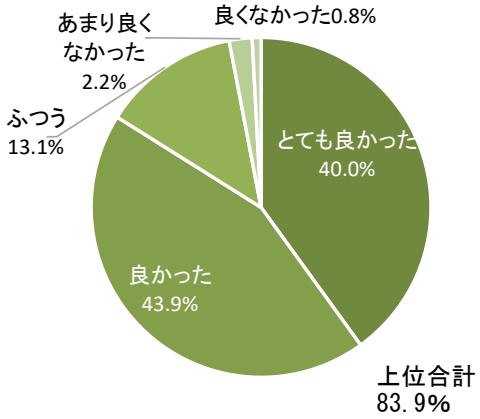
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



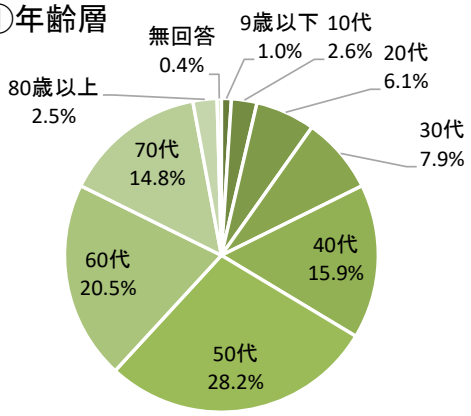
④主な意見・感想

・異常気象、天災、コロナ禍に不安が感じられる日々、歴史をたどることで、冷静にならねばと思えました。
・縄文時代の品(特にイノシシ、貝)が印象に残った。縄文時代に高度な技術を要する品が作られていたのは日本人として嬉しい。
・期待以上だった。海の神と山の神の信仰と歴史と宝物。昔の人々の思いが感じられ素晴らしい展示でした。
・今回の展示物で「ここが一番の見どころ」を感じない。もっと興味をそそる作品をそろえてほしい。
・チラシに大きく日月山水図屏風があり楽しみに来たのに展示期間外で見ることができなかった。

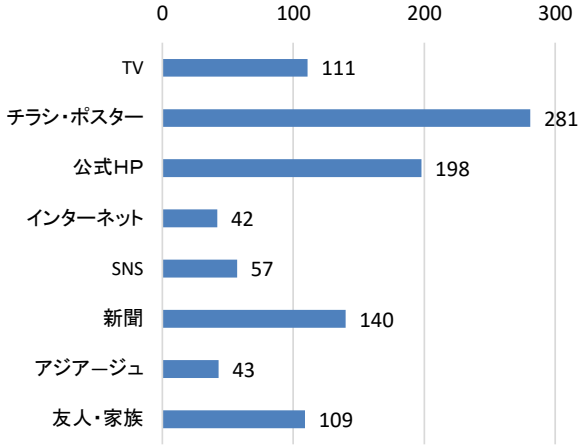
特別展「最澄と天台宗のすべて」
アンケート集計結果

開催期間：4年2月8日(火)～3月21(日)（37日間）
総回答者数：684人（総来館者数：29,518人　アンケート回収率：2.32%）

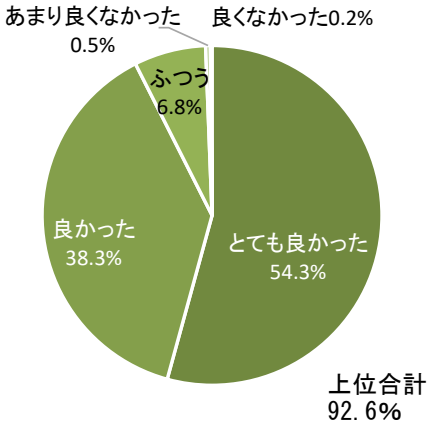
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

仏像が好きなので見に来ました。どれも良かったです。
最澄様が素晴らしい方だということが良く分かりました。重要文化財、最澄の彫像・坐像がとても良かった。
天台宗から仏教の歴史が良く理解でき、より興味が深まりました。
展示スタッフの方が実際に修行ルートを歩かれてみたパネル展示が大変興味深かったです。
解説文に何を書くか、チョイスするのは、なかなか難しいなと思った。
道に迷った。道順を分かりやすくしてほしい。

令和３年度　独立行政法人国立文化財機構年報
令和５年３月８日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園13番９号
電話　(03)3822-1196
Fax　(03)3822-1113
印刷　株式会社長谷工システムズ
©2023. National Institutes for Cultural Heritage, printed in Japan